

2013 Syllabus

科目名 **Writing & Vocabulary Building I <Zb>**

担当者 栗田 梨津子

テーマ

アカデミック・ライティングおよびプレゼンテーション入門

獲得目標

英語でのライティングおよびプレゼンテーションの基本技能を習得し、自分の考えを論理的に英語で表現できるようになること。

授業の内容

プレゼンテーションのための英文を作成する中で、レポートまたは論文作成の基本となるパラグラフの書き方や形式上のルール、読み手または聞き手を意識した効果的な伝え方について学んでいきます。

内 容

- 第1回 授業概要の説明 プレゼンテーション①(Giving a self-introduction)の説明
 - 第2回 英文原稿の作り方について (Brainstorming/Organizing)
 - 第3回 英文原稿の作成
 - 第4回 プレゼンテーションの仕方について (Presentation tips)
 - 第5回 プレゼンテーション①個人発表
 - 第6回 プレゼンテーション②(A memorable experience)の説明 英文原稿の作り方について(Brainstorming/Organizing)
 - 第7回 英文原稿の作成
 - 第8回 プレゼンテーションの仕方について (Presentation tips)
 - 第9回 プレゼンテーション②個人発表
 - 第10回 プレゼンテーション③(Show me how/Movie magic)の説明 英文原稿の作り方について(Brainstorming/Organizing)
 - 第11回 英文原稿の作成
 - 第12回 英文原稿の作成 プレゼンテーションの仕方について(Power Point)
 - 第13回 プレゼンテーションの仕方について (Presentation tips)
 - 第14回 プレゼンテーション③グループ発表
 - 第15回 プレゼンテーション③グループ発表 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

Present Yourself 1: Experiences

著者: Steven Gershon

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

a101010712

授業中課題として、英文エッセイ(400 words)を提出してもらいます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語圏文化研究 I b(英語学) <Z>

担当者 久保田 美佳

テーマ

What is English language? What are its characteristics?

獲得目標

①To learn the basics of English linguistics ②To deepen understanding of the history, grammar, and social significance of the English language.

授業の内容

English is said to be the native language of 350 million people, an official language of 400 million people, and a second language (of various proficiency levels) of 1 billion people. The class is designed to study the English language from a variety of perspectives in order to answer the questions, "What is English language?" and "What are its characteristics?" This class is mostly conducted in English.

内 容

- 第1回 English linguistics: Overview English as a global language
 - 第2回 History of English (Old English)
 - 第3回 History of English (Old English ~ Middle English)
 - 第4回 History of English (Middle English ~ Modern English)
 - 第5回 American English and Other English Varieties.
 - 第6回 Pidgin English and Creole English
 - 第7回 Future of English, English in Asia
 - 第8回 English Phonetics
 - 第9回 English Vocabulary
 - 第10回 English Grammar①
 - 第11回 English Grammar②
 - 第12回 Social Dialects of English (Class-based Dialects, Black English, etc.)
 - 第13回 Polite and Humble Forms of English
 - 第14回 English and Culture
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

Students are required to read the designated sections of the textbook BEFORE coming to each class. (i.e. Students are expected to do some reading outside the class.) Also, since the lectures are mostly given in English, students are advised to study the r

教科書

Twenty-Six Short Essays on English

著者: 清水克正、Naoyuki Akaso, William Herlofsy

出版社: 英宝社

出版年: 2013

ISBN: 4-269-41018-9

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

参加度 (0)

小テスト (80)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語圏文化研究 I c(英米文学論 I) <Z>

担当者 杉山 泰

テーマ

イギリス小説に描かれた「余った女たち」(Odd Women)の生きる道 — 結婚かガヴァネス(女家庭教師)か

獲得目標

イギリス小説は18世紀に始まる。デフォーの『ロビンソン・クルーソー』(1719年)、スウィフトの『ガリバー旅行記』(1726年)、リチャードソンの『パミラ』(1840年)で、確立されていく。植民地時代はまさしく「男の時代」で植民地に向かう船長もプラント・ハンターも牧師もすべて男性であった。そのために国内には50万人もの女たちが「余り」、何としても結婚しようとする女たちの闘いすらあった。一方で、自立していくためにピアノを習い、governessの道を歩んでいく女性もいた。スポーツを楽しみ、自転車に乗り、水着を着て泳ぐ開放的な女性も現われた。小説に表われたヴィクトリア時代の女性にスポットを当てながら、毎回、原文購読も楽しんでいきたい。

授業の内容

「パミラ」という女性が両親に書いた手紙から始まり、オースティンが描き出す結婚願望の強い女性主人公の会話、さらにはニュージーランド映画で有名になった『ピアノ・レッスン』のシナリオなどを読みながら、さまざまな女性が語る英語を学んでみたい。最後に、ようやく日本でも完訳されたD・H・ロレンスの『チャタレー夫人の恋人』の心の内を描き出す「描出話法」の英語を読みながら、イギリス小説の原点ともいえるべき「手紙」がなぜ「小説」につながるのかを、村上春樹の『ノルウェイの森』などのいわゆる手紙文学(武者小路実篤の『愛と死』など)の伝統などを論じながら、明らかにしてみたい。

内 容

- 第1回 イギリス文学「チェックリスト」の完成。イギリス文学(文化)の知識度は?
- 第2回 イギリスのGive Wayの精神とは? 道を譲る精神=Queuingの精神
- 第3回 イギリス小説の台頭=私という1人称による語り=手紙(日記)文学
- 第4回 Richardson, Pamela(1740)の手紙小説の講読。副題にVirtue Rewardedとあり、「美德が報われる」けげな女性Pamelaの父母に宛てた手紙を読んでいく。
- 第5回 Henry Fielding, Shamela(1741)の講読。Pamelaという純粋な女性は実はひどいあばずれ女で子持ち、Shamelaが本名。若旦那をだまして妻となったというパロディ小説。
- 第6回 世界万博(1851年)と「余った女たち」—なぜ女性は余ったのか?
- 第7回 Jane Campion, The Piano(1993)映画鑑賞
- 第8回 The Pianoの脚本講読。スコットランドから子連れでなぜニュージーランドに出かけたのか?
- 第9回 女たちの自立の道=結婚。Jane Austen, Pride and Prejudice(1811)講読。
- 第10回 女たちの自立の道=governess Charlotte Bronte, Jane Eyre(1847)講読。
- 第11回 女たちの自立の道=離婚と女性解放 D.H. Lawrence, The Rainbow(1915)映画鑑賞。
- 第12回 女たちの自立の道=離婚と再婚 D.H. Lawrence, Lady Chatterley's Lover(1928)映画鑑賞。
- 第13回 女たちの自立の道=性の解放 Lady Chatterley's Lover講読。描出話法の訳し方。
- 第14回 イギリス、アメリカにおける女性差別=Cambridge U.とHarvard U.の女性差別。
- 第15回 イギリス小説に描かれた女性たち=結婚、離婚、女性解放

授業以外での学習方法

大学でもイギリス映画が観賞できるし、映画館でも上映しているので、暇を見つけて、E.M. Forster, A Room with a View(1908)やJane Austen, Sense and sensibility(1811)、さらにはKazuo Ishiguro, The Remains of the Day(1989)などできるだけ映画鑑賞をすること。

教科書

適時プリントして配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ヴィクトリア朝の性と結婚

著者: 度会好一

出版社: 中公新書

出版年: 1997年

ISBN:

ガヴァネス

著者： 川本静子
出版社： 中公新書
出版年： 1994年

ISBN:

ヴィクトリア女王

著者： 君塚直隆
出版社： 中公新書
出版年： 2007年

ISBN:

知っておきたいイギリス英語

著者： 大石五雄
出版社： 平凡社新書
出版年： 2003年

ISBN:

イギリスの不思議と謎

著者： 金谷展雄
出版社： 集英社新書
出版年： 2012年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

毎回提出物があるので、遅れてもその提出物を出さないと評価はつかないのでかならず提出すること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (日) <A>

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語を掘り下げる

獲得目標

1) 日本語を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2) データ収集, データ分析, レジユメの作成, 口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3) 他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の内容

日本語はもっとも身近な言語だが、そこには私たちが知らない〈謎〉がひそんでいる。動詞の意味分析を通して、その〈謎〉を発見し、自らの力で解明する方法をマスターする。

内 容

- 第1回 導入：日本語をなぜ考えるのか？
 - 第2回 内省による言語現象の分析
 - 第3回 実例による言語現象の分析
 - 第4回 1回目の報告の準備
 - 第5回 受講生による報告(1)
 - 第6回 受講生による報告(2)
 - 第7回 受講生による報告(3)
 - 第8回 受講生による報告(4)
 - 第9回 2回目の報告の準備(1)
 - 第10回 2回目の報告の準備(2)
 - 第11回 受講生による報告(1)
 - 第12回 受講生による報告(2)
 - 第13回 受講生による報告(3)
 - 第14回 受講生による報告(4)
 - 第15回 受講生による報告(5)
-

授業以外での学習方法

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手にとってみてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (日)

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日本近代文学の研究方法を学ぶ

獲得目標

図書館利用法、レポートの書き方、レジュメの作り方、文学作品の読解法など、日本近代文学を研究していくにあたって必要とされる知識やスキルを身につける

授業の内容

前半は担当教員による説明とグループワーク、後半は受講生により発表を行う。必要に応じて学外授業を実施する

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 登場人物を分析してみる—芥川龍之介『地獄変』(1)
- 第3回 ストーリーを分析してみる—芥川龍之介『地獄変』(2)
- 第4回 結末を分析してみる—芥川龍之介『地獄変』(3)
- 第5回 レジュメの作り方、図書館利用法
- 第6回 先行論文の活用法
- 第7回 受講生による発表(1) 夏目漱石『こころ』
- 第8回 受講生による発表(2) 森鷗外『高瀬舟』
- 第9回 受講生による発表(3) 芥川龍之介『羅生門』
- 第10回 受講生による発表(4) 宮沢賢治『注文の多い料理店』
- 第11回 受講生による発表(5) 中島敦『山月記』
- 第12回 受講生による発表(6) 谷崎潤一郎『春琴抄』
- 第13回 受講生による発表(7) 太宰治『人間失格』
- 第14回 受講生による発表(8) 三島由紀夫『潮騒』
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業で取り扱う作品は必ず読んでくること。課題は必ず提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **研究入門ゼミ I (日) <C>**

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語のことばと心

獲得目標

古典文学をきちんと読むことで味わうことのできる楽しさと意義を実感することを目的とする。古典を読むことが、現代人にとって、各人の人生を考えるきっかけとなるものであることを授業を通じて確認してもらいたい。

授業の内容

前半は、源氏物語を読むための必要な知識や方法の確認を行いつつ作品を鑑賞し、後半は、演習形式で読みの実践を重ねていく。

内 容

- 第1回 前半の授業展開のねらいと進め方のガイダンス
- 第2回 源氏物語という作品について
- 第3回 源氏物語が描く人生
- 第4回 源氏物語を読む方法
- 第5回 源氏物語を読む その1(光源氏の恋 理想と現実)
- 第6回 源氏物語を読む その2(光源氏の人生 栄耀も苦悩も豊かな人生)
- 第7回 源氏物語を読む その3(源氏物語の女君 その賢明さ)
- 第8回 後半の演習形式の授業についてのガイダンス
- 第9回 源氏物語の読みの演習 その1(桐壺の巻)
- 第10回 源氏物語の読みの演習 その2(若紫の巻)
- 第11回 源氏物語の読みの演習 その3(葵の巻)
- 第12回 源氏物語の読みの演習 その4(賢木の巻)
- 第13回 源氏物語の読みの演習 その5(須磨の巻)
- 第14回 源氏物語の読みの演習 その6(明石の巻)
- 第15回 授業のまとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全14冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984~1985

ISBN:

その他各種源氏物語注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

源氏物語カルチャー講座

著者: 福嶋昭治

出版社: 扶桑社

出版年: 2008

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (日) <D>

担当者 新谷 泰一

テーマ

書の基本の総合的学習

獲得目標

書を理解し、書を学んでいくためのさまざまな方法や問題など、基本的な知識、技法の修得をめざす。

授業の内容

書の基本に関する講義と実習。

内 容

- 第1回 ミーティングと基本的知識調査。
 - 第2回 基本的知識調査内容の解説。書学習のための心構え。
 - 第3回 書とは何か。書の性格と特徴。
 - 第4回 書とは何か。書の性格と特徴。
 - 第5回 書の今日的意味。これからの書
 - 第6回 書の線、造形、墨色について
 - 第7回 書の線、造形、墨色について
 - 第8回 姿勢、執筆の研究。
 - 第9回 用筆、運筆の研究。
 - 第10回 用筆、運筆の研究。
 - 第11回 臨書と鑑賞。
 - 第12回 臨書と鑑賞。
 - 第13回 臨書と創作。
 - 第14回 書の創作。
 - 第15回 まとめ。※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。
-

授業以外での学習方法

多くの書に接し鑑賞する機会を持つこと。特に古典の臨書をしっかりとすること、書の参考書を多く読むこと。

教科書

授業で資料配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業で紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a10201a114

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

レポート、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法 I <a>

担当者 尾西 正成

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける

獲得目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。中国初唐の時代に、欧陽詢・虞世南・※遂良の三大家によって、美しく整った所の楷書が完成する。三大家の書はそれぞれが、個性豊かなものである。一書は人なり—と云う言葉があるが、書人とその書かれた文字に触れながら、書之美、書の奥深さ、書の個性を味わいながら進めて行きたい。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス・文房四宝〔筆・墨・硯・紙〕
- 第2回 楷書の成立と変遷
- 第3回 孔子廟堂碑の基本点画
- 第4回 孔子廟堂碑の基本点画①
- 第5回 孔子廟堂碑 半紙臨書②
- 第6回 孔子廟堂碑 半紙臨書③
- 第7回 孔子廟堂碑 半切臨書①
- 第8回 孔子廟堂碑 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
- 第9回 関中本千字文 基本点画
- 第10回 関中本千字文 半紙臨書①
- 第11回 関中本千字文 半紙臨書②
- 第12回 関中本千字文 半紙臨書③
- 第13回 関中本千字文 半切臨書①
- 第14回 関中本千字文 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
- 第15回 倣書作品の制作 *条幅臨書作品の互評会を行う

授業以外での学習方法

条幅形式での臨書や倣書作品の課題を設ける。また美術館などで開催される書展を鑑賞、又そのレポート提出。夏期休暇時には課題あり

教科書

中国法書選32孔子廟堂碑

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

中国法書選28関中本千字文

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法 I

担当者 尾西 正成

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける

獲得目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。中国初唐の時代に、欧陽詢・虞世南・※遂良の三大家によって、美しく整った所の楷書が完成する。三大家の書はそれぞれが、個性豊かなものである。一書は人なり—と云う言葉があるが、書人とその書かれた文字に触れながら、書之美、書の奥深さ、書の個性を味わいながら進めて行きたい。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス・文房四宝〔筆・墨・硯・紙〕
- 第2回 楷書の成立と変遷
- 第3回 孔子廟堂碑の基本点画
- 第4回 孔子廟堂碑の基本点画①
- 第5回 孔子廟堂碑 半紙臨書②
- 第6回 孔子廟堂碑 半紙臨書③
- 第7回 孔子廟堂碑 半切臨書①
- 第8回 孔子廟堂碑 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
- 第9回 関中本千字文 基本点画
- 第10回 関中本千字文 半紙臨書①
- 第11回 関中本千字文 半紙臨書②
- 第12回 関中本千字文 半紙臨書③
- 第13回 関中本千字文 半切臨書①
- 第14回 関中本千字文 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
- 第15回 倣書作品の制作 *条幅臨書作品の互評会を行う

授業以外での学習方法

条幅形式での臨書や倣書作品の課題を設ける。また美術館などで開催される書展を鑑賞、又そのレポート提出。夏期休暇時には課題あり

教科書

中国法書選32孔子廟堂碑

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

中国法書選28関中本千字文

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法Ⅲ <a>

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

獲得目標

基本的なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 高野切について
 - 第2回 高野切第三種の書について
 - 第3回 高野切第三種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
 - 第4回 高野切第三種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
 - 第5回 高野切第三種の臨書③<用字・造形・連綿法等>
 - 第6回 高野切第三種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
 - 第7回 高野切第三種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
 - 第8回 高野切第三種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
 - 第9回 高野切第三種の背臨
 - 第10回 高野切第三種の集字
 - 第11回 高野切第三種の倣書
 - 第12回 高野切第一種の書について
 - 第13回 高野切第一種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
 - 第14回 高野切第一種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
 - 第15回 高野切第一種の臨書③<用字・造形・連綿法等>
-

授業以外での学習方法

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅ですべて復習と予習を重ねること。

教科書

日本名筆選「高野切第三種」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選「高野切第一種」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む 授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法Ⅲ

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

獲得目標

基本的なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 高野切について
 - 第2回 高野切第三種の書について
 - 第3回 高野切第三種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
 - 第4回 高野切第三種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
 - 第5回 高野切第三種の臨書③<用字・造形・連綿法等>
 - 第6回 高野切第三種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
 - 第7回 高野切第三種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
 - 第8回 高野切第三種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
 - 第9回 高野切第三種の背臨
 - 第10回 高野切第三種の集字
 - 第11回 高野切第三種の倣書
 - 第12回 高野切第一種の書について
 - 第13回 高野切第一種の臨書①<用字・造形・連綿法等>
 - 第14回 高野切第一種の臨書②<用字・造形・連綿法等>
 - 第15回 高野切第一種の臨書③<用字・造形・連綿法等>
-

授業以外での学習方法

豊かな表現力に養成には徹底した習熟が大切。自宅ですべて復習と予習を重ねること。

教科書

日本名筆選「高野切第三種」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選「高野切第一種」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語学概説 I

担当者 安達 太郎

テーマ

現代日本語の諸相

獲得目標

音声・音韻, 文字・表記・語彙, 文法, 意味・機能といった観点から, 私たちが使っている現代の日本語がどんな特徴を持つ言語なのかを理解する。

授業の内容

現代日本語のさまざまな側面を詳しく見ていくことによって, 日本人にとって日本語がいかに未知の存在であるかを明らかにしていく。

内 容

- 第1回 導入:日本語はどんなことばか
 - 第2回 世界の言語と日本語:言語類型論から日本語を見る
 - 第3回 日本語の音声・音韻(1)〈現実の音〉と〈理解された音〉
 - 第4回 日本語の音声・音韻(2) 音の単位とアクセント
 - 第5回 日本語の文字・表記(1) ひらがな・カタカナ・漢字
 - 第6回 日本語の文字・表記(2) 仮名づかいと送りがな
 - 第7回 日本語の語彙(1) 語のとらえ方
 - 第8回 日本語の語彙(2) 語の分類
 - 第9回 日本語の語彙(3) 品詞
 - 第10回 日本語の文法(1) 文法とは何か
 - 第11回 日本語の文法(2) 文法としての活用
 - 第12回 日本語の文法(3) 文の“内”と“外”
 - 第13回 日本語の意味・機能(1) 意味をつかまえる
 - 第14回 日本語の意味・機能(2) 機能をつかまえる
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

参考書としてあげた新書を読んでください。日本語への理解や興味を深めてくれます。

教科書

参考書

国語審議会

著者: 安田敏朗

出版社: 講談社現代新書

出版年: 2007年

ISBN:

オノマトペがあるから日本語は楽しい

著者: 小野正弘

出版社: 平凡社新書

出版年: 2009年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本文学史 I

担当者 林 久美子

テーマ

日本の古典文学と芸能について学ぶ

獲得目標

日本語による文化の豊かさを享受できるように、古典文学に対する幅広い教養を身につける。

授業の内容

記紀から読本まで、日本文学の歴史と特質をおおむね時間軸に沿って学ぶ。(具体的な内容は、変更の可能性がある)

内 容

- 第1回 上代文学1『古事記』
 - 第2回 上代文学2『万葉集』
 - 第3回 中古文学1『竹取物語』
 - 第4回 中古文学2『源氏物語』とその影響
 - 第5回 中世文学1『新古今和歌集』
 - 第6回 中世文学2『平家物語』
 - 第7回 中世文学3『方丈記』と『徒然草』
 - 第8回 近世文学1 松尾芭蕉と井原西鶴
 - 第9回 近世文学2 近松門左衛門
 - 第10回 近世文学3 上田秋成
 - 第11回 古典と女性作家
 - 第12回 写本と版本
 - 第13回 地域文学 琉球と東北
 - 第14回 芸能
 - 第15回 観光と文学
-

授業以外での学習方法

毎回、用意された設問に対する答えを用意してくること。

教科書

新編これからの日本文学

著者： 丸山顕徳、西端幸雄ほか

出版社： 金壽堂出版

出版年： 2007

ISBN： 978-4-903762

参考書

岩波講座日本文学史

著者： 久保田淳、藤井貞和ほか

出版社： 岩波書店

出版年： 1995～1997

ISBN：

日本文芸史

著者： 古橋信孝、藤井貞和ほか

出版社： 河出書房新社

出版年： 1986～2005

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

「授業中課題」とは、各回に出された設問に対する解答や提出物です。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本文学史Ⅱ

担当者 辻本 千鶴

テーマ

近代文学史 自然主義と反自然主義

獲得目標

明治時代の文学について理解と知識を深める。明治40年代以降、文壇的主流を方向づけた自然主義文学の代表的な作品について学ぶ。また、反自然主義的な作風を貫いた余裕派・耽美派の作品も鑑賞する。それらの作品鑑賞を通して、文学作品における「私」について、現代にも通じる問題意識を養うことを目標とする。

授業の内容

明治時代の名作小説を取り上げ、作者と作品内容、文学史的背景について講義を行う。受講者各人が作品への知識を得るにとどまらず、鑑賞・批評的に読む機会を設けたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近代文学の黎明 「小説神髓」と「浮雲」1
- 第3回 近代文学の黎明 「小説神髓」と「浮雲」2
- 第4回 自然主義文学 島崎藤村「破戒」1
- 第5回 自然主義文学 島崎藤村「破戒」2
- 第6回 自然主義文学 田山花袋「蒲団」1
- 第7回 自然主義文学 田山花袋「蒲団」2
- 第8回 自然主義文学 田山花袋「蒲団」3
- 第9回 余裕派の文学 夏目漱石「三四郎」1
- 第10回 余裕派の文学 夏目漱石「三四郎」2
- 第11回 余裕派の文学 夏目漱石「三四郎」3
- 第12回 余裕派の文学 夏目漱石「草枕」
- 第13回 耽美派の文学 谷崎潤一郎「刺青」1
- 第14回 耽美派の文学 谷崎潤一郎「刺青」2
- 第15回 まとめ 大正文学への流れ 芥川龍之介・志賀直哉

授業以外での学習方法

講義で扱う作品は全文通読を必須とする。他にも言及する作品を積極的に通読すること。

教科書

明治文藝名作散歩

著者：

出版社：白地社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（60）

授業中課題（20）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（）

a10201d450

試験はレポート形式とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **中学書写 I**

担当者 尾西 正成

テーマ

中学校学習指導要領における「書写」の学習。

獲得目標

漢字の楷書や行書と、それらに調和した仮名の書き方を理解し、実技の習得を目的とする。特に中学校の教科書「中学書写」を用いることにより楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。文部科学省による中学校学習指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許(国語)に役立てる。

授業の内容

内 容

- 第1回 書写と書道について
- 第2回 小中学校教育における現状を知る
- 第3回 平仮名の学習
- 第4回 片仮名の学習
- 第5回 仮名と漢字との調和について
- 第6回 楷書の学習(中学書写1年テキストを使って)①
- 第7回 楷書の学習(中学書写1年テキストを使って)②
- 第8回 楷書の学習(中学書写1年テキストを使って)③
- 第9回 行書の学習(中学書写2.3年テキストを使って)①
- 第10回 行書の学習(中学書写2.3年テキストを使って)②
- 第11回 行書の学習(中学書写2.3年テキストを使って)③
- 第12回 中学教育における古典の位置と意義
- 第13回 用具用材の工夫による学習①
- 第14回 用具用材の工夫による学習②
- 第15回 書写と書道の関わりと問題点について

授業以外での学習方法

展覧会などの鑑賞をし、レポートの提出。中国・日本の書の古典の臨書を夏期休暇時の課題とする。

教科書

中学書写一年

著者： 井上輝夫他

出版社： 光村図書

出版年：

ISBN：

中学書写二三年

著者： 井上輝夫他

出版社： 光村図書

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（60）

授業中発表等（20）

参加度（20）

課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 漢文学 I

担当者 蒲 豊彦

テーマ
漢文学概説

獲得目標

中国古典文学史の基本事項を、自分で整理できること。授業は毎回テーマが決まっており、1回ごとに完結する。したがって毎回の授業の内容はスムーズにはつながらない。しかし、1年を通して中国古典文学についてのおおまかなイメージを得られるようにしたい。

授業の内容

「漢文学」を概説しつつ、一方で、通常の漢文学では扱わない劇や通俗小説(西遊記のようなもの)も取り上げる。具体的には、漢文学 I と II で古代から近代初頭までの中国古典文学のおもなジャンルと作品を、時代を追って網羅的に紹介する。そのほか、朝鮮半島、ベトナム、日本の漢文学も扱う予定。

内 容

- 第1回 授業の内容紹介
 - 第2回 神話と画像解読
 - 第3回 中国最古の詩集
 - 第4回 宗教と歌謡
 - 第5回 歴史書の成立
 - 第6回 日本の神話、詩集、歴史書
 - 第7回 漢字とその意味
 - 第8回 儒教と経学
 - 第9回 ベトナムの漢文学
 - 第10回 五言詩の発生
 - 第11回 詩の発達と詩人
 - 第12回 隠逸思想の系譜
 - 第13回 日本の古典文学と中国 I
 - 第14回 日本の古典文学と中国 II
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業で取り上げる文学作品はいずれも、その翻訳が本学図書館に入っているため、たとえ1ページでもよいので、見ておいてほしい。参考文献と詳しい授業内容については、<http://yuri.kt.tachibana-u.ac.jp/~kaba/> を見ること。

教科書

参考書

成績評価

- | | |
|------------|------------|
| 試験 (80) | 小テスト (0) |
| 授業中課題 (10) | 授業中発表等 (0) |
| 参加度 (10) | |

参考URL

漢文学のページ

<http://yuri.kt.tachibana-u.ac.jp/~kaba/>

授業に関するさまざまな情報

2013 Syllabus

科目名 篆刻 I

担当者 小早川 修治

テーマ

篆刻の歴史と印式・印例の理解

獲得目標

篆刻理論の修得

授業の内容

篆刻の歴史を通覧し、その後、印の種類・印式などを順を追って解説、篆刻に対する理解を深めるとともに、印のあり方を実作を通して習得する。

内 容

- 第1回 篆刻の歴史の解説
 - 第2回 篆刻の種類と解説
 - 第3回 篆刻の種類と解説
 - 第4回 印式の解説
 - 第5回 篆刻の手順の解説、印材の調整
 - 第6回 白文＝字印の布字
 - 第7回 " 刻と鈐印
 - 第8回 朱文＝字印の布字
 - 第9回 " 刻と鈐印
 - 第10回 白文＝字印の布字
 - 第11回 " 刻と鈐印
 - 第12回 朱文＝字印の布字
 - 第13回 " 刻と鈐印
 - 第14回 白文＝字印の布字
 - 第15回 " 刻と鈐印
-

授業以外での学習方法

篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。日頃から展覧会、博物館等に出向き鑑賞眼を高め、篆書を書くことが篆刻の上達に資することは言を待たない。

教科書

書道テキスト 第10巻 篆刻

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (日) <a>**

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学(中・近世)へのアプローチ

獲得目標

代表的な作品を通して日本文化について考える。古典文学の幅広さと魅力を知る。自分で作品を読む態度を養う。プレゼンテーションの方法を身につける。

授業の内容

前半は様々なジャンルの作品の中からひとつを取り上げてその魅力を解説し、後半は課題に沿って、読みを深めて発表します。

内 容

- 第1回 授業のねらいと進め方についての説明
 - 第2回 中・近世の昔話;御伽草子
 - 第3回 軍記の白眉;『平家物語』
 - 第4回 浄瑠璃の起源;『浄瑠璃御前物語』
 - 第5回 晴明伝説の決定版;『安倍晴明物語』
 - 第6回 浮世の短編小説;『好色五人女』
 - 第7回 怪談劇の代表;『東海道四谷怪談』
 - 第8回 後半の進め方についての説明
 - 第9回 御伽草子の読み方をさぐる
 - 第10回 『平家物語』〃
 - 第11回 『浄瑠璃御前物語』〃
 - 第12回 『安倍晴明物語』〃
 - 第13回 『好色五人女』〃
 - 第14回 『東海道四谷怪談』〃
 - 第15回 古典文学の魅力と可能性について話し合う
-

授業以外での学習方法

本文をきちんと読み、時間をかけてレジュメを作成する。

教科書

参考書

角川ソフィア文庫(各作品)

著者:

出版社: 角川書店

出版年:

ISBN:

(新)日本古典文学大系(各作品)

著者:

出版社: 岩波書店

出版年:

ISBN:

(新編)日本古典文学全集(各作品)

著者:

出版社: 小学館

出版年:

ISBN:

新潮日本古典集成(各作品)

著者:

出版社: 新潮社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (60)

参加度 (40)

参加度には出席だけでなく、受講態度も含まれます

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (日) **

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語を掘り下げる

獲得目標

1) 日本語を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2) データ収集, データ分析, レジユメの作成, 口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3) 他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の内容

日本語はもっとも身近な言語だが、そこには私たちが知らない〈謎〉がひそんでいる。動詞の意味分析を通して、その〈謎〉を発見し、自らの力で解明する方法をマスターする。

内 容

- 第1回 導入：日本語をなぜ考えるのか？
 - 第2回 内省による言語現象の分析
 - 第3回 実例による言語現象の分析
 - 第4回 1回目の報告の準備
 - 第5回 受講生による報告(1)
 - 第6回 受講生による報告(2)
 - 第7回 受講生による報告(3)
 - 第8回 受講生による報告(4)
 - 第9回 2回目の報告の準備(1)
 - 第10回 2回目の報告の準備(2)
 - 第11回 受講生による報告(1)
 - 第12回 受講生による報告(2)
 - 第13回 受講生による報告(3)
 - 第14回 受講生による報告(4)
 - 第15回 受講生による報告(5)
-

授業以外での学習方法

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手にとってみてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (日) <c>**

担当者 辻本 千鶴

テーマ

日本文学研究の基礎

獲得目標

大学で日本文学を研究するための基礎的な知識と方法を習得する。演習形式の発表までのノウハウを身につける。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 「名文鑑賞」レポート作成要項
 - 第3回 研究入門講義 作品論 夏目漱石「ころ」を例に
 - 第4回 研究入門講義 テーマの設定、作品分析の方法、参考文献の集め方
 - 第5回 研究入門講義 レジュメの作り方 芥川龍之介「地獄変」を例に 1
 - 第6回 研究入門講義 レジュメの作り方 芥川龍之介「地獄変」を例に 2
 - 第7回 研究入門講義 近代文学研究と卒業論文
 - 第8回 学生発表 樋口一葉「十三夜」・「大つごもり」
 - 第9回 学生発表 泉鏡花「外科室」・「夜行巡査」
 - 第10回 学生発表 森鷗外「雁」
 - 第11回 学生発表 夏目漱石「それから」・「行人」
 - 第12回 学生発表 芥川龍之介「戯作三昧」・「秋」
 - 第13回 学生発表 谷崎潤一郎「春琴抄」
 - 第14回 学生発表 太宰治「魚服記」・「駈込み訴え」
 - 第15回 学生発表 横光利一「機械」・川端康成「雪国」
-

授業以外での学習方法

日本文学の作品を積極的に多読すること。

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

名文

著者: 中村明

出版社: ちくま学芸文庫

出版年: 1993年

ISBN:

本の読み方 スロー・リーディングの実践

著者： 平野啓一郎

出版社： PHP新書

出版年： 2006年

ISBN:

小説の読み方 感想が語れる着眼点

著者： 平野啓一郎

出版社： PHP新書

出版年： 2009年

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

期末試験はレポート形式。発表のまとめのレポートと、「名文鑑賞」レポートのふたつを課題とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 漢字古典研究 I <a>

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字古典の鑑賞と書法説明(文字発生から魏・晋・隋・唐代まで)

獲得目標

多くの古典に触れ知識とすると同時に、さまざまな書法の習得をめざす。この授業は、さまざまな漢字古典に触れ、鑑賞力と表現力を一層確かなものにするべく設けられ、中国における文字発生から唐代までの書体の変遷と完成を自分の眼と手で確かめることとしたい。多くの古典を手がけることによって、異なる書風の、書法の習得に努めると共に、その時代や書者の書の理想を追求、幅広い書表現のあり方を考えることとする。授業は1時間数古典をこなし、臨書作業と鑑賞ノートの作成を行い、臨書を通して得た技法の説明と自らの手応えを記してファイルすることとする。また必要に応じて学外授業も行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス 中国書道史の基礎知識
- 第2回 甲骨文字 漢字の起源
- 第3回 鍾鼎文(金文)
- 第4回 石鼓文
- 第5回 刻石の書
- 第6回 漢代の隷書①
- 第7回 漢代の隷書②
- 第8回 木簡・平復帖・残紙・李柏尺牘
- 第9回 王羲之の書①
- 第10回 王羲之の書②
- 第11回 北魏の書(造像記を中心として)
- 第12回 隋代の書①
- 第13回 隋代の書②
- 第14回 初唐の三大家
- 第15回 鑑賞ノート(作品貼付)提出

授業以外での学習方法

各時代の古典の選択や分量など、個々に任される。相当量は家庭での学習になると思われるので、綿密な計画を立てて、授業に臨んでもらいたい。

教科書

改訂書道の古典1～3

著者： 大東文化大学書道文化センター編

出版社： 二玄社

出版年： 1984

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a10202a310

鑑賞ノート、授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 漢字古典研究 I

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字古典の鑑賞と書法説明(文字発生から魏・晋・隋・唐代まで)

獲得目標

多くの古典に触れ知識とすると同時に、さまざまな書法の習得をめざす。この授業は、さまざまな漢字古典に触れ、鑑賞力と表現力を一層確かなものにするべく設けられ、中国における文字発生から唐代までの書体の変遷と完成を自分の眼と手で確かめることとしたい。多くの古典を手がけることによって、異なる書風の、書法の習得に努めると共に、その時代や書者の書の理想を追求、幅広い書表現のあり方を考えることとする。授業は1時間数古典をこなし、臨書作業と鑑賞ノートの作成を行い、臨書を通して得た技法の説明と自らの手応えを記してファイルすることとする。また必要に応じて学外授業も行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス 中国書道史の基礎知識
- 第2回 甲骨文字 漢字の起源
- 第3回 鍾鼎文(金文)
- 第4回 石鼓文
- 第5回 刻石の書
- 第6回 漢代の隷書①
- 第7回 漢代の隷書②
- 第8回 木簡・平復帖・残紙・李柏尺牘
- 第9回 王羲之の書①
- 第10回 王羲之の書②
- 第11回 北魏の書(造像記を中心として)
- 第12回 隋代の書①
- 第13回 隋代の書②
- 第14回 初唐の三大家
- 第15回 鑑賞ノート(作品貼付)提出

授業以外での学習方法

各時代の古典の選択や分量など、個々に任される。相当量は家庭での学習になると思われるので、綿密な計画を立てて、授業に臨んでもらいたい。

教科書

改訂書道の古典1～3

著者： 大東文化大学書道文化センター編

出版社： 二玄社

出版年： 1984

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a10202a312

鑑賞ノート、授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 かな古典研究 I <a>

担当者 橋本 二三

テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

獲得目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 万葉仮名の作品について①
 - 第2回 万葉仮名の作品について②
 - 第3回 万葉仮名の作品について③
 - 第4回 万葉仮名の作品について④
 - 第5回 草仮名の作品について
 - 第6回 草仮名の典型「秋萩帖」
 - 第7回 草仮名の作品について
 - 第8回 女手の完成期の作品「高野切」①
 - 第9回 女手の完成期の作品「高野切」②
 - 第10回 高野切系統の作品について①
 - 第11回 高野切系統の作品について②
 - 第12回 高野切系統の作品について③
 - 第13回 平安三色紙の作品「継色紙」
 - 第14回 平安三色紙の作品「寸松庵色紙」
 - 第15回 平安三色紙の作品「升色紙」
-

授業以外での学習方法

授業中では学習時間が足りないなので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

教科書

「改訂書道の古典Ⅲ」

著者： 大東文化大学書道センター編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a10202a510

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **かな古典研究 I **

担当者 橋本 二三

テーマ

奈良時代から女手が完成する時代までの書美について理解を深める。

獲得目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 万葉仮名の作品について①
 - 第2回 万葉仮名の作品について②
 - 第3回 万葉仮名の作品について③
 - 第4回 万葉仮名の作品について④
 - 第5回 草仮名の作品について
 - 第6回 草仮名の典型「秋萩帖」
 - 第7回 草仮名の作品について
 - 第8回 女手の完成期の作品「高野切」①
 - 第9回 女手の完成期の作品「高野切」②
 - 第10回 高野切系統の作品について①
 - 第11回 高野切系統の作品について②
 - 第12回 高野切系統の作品について③
 - 第13回 平安三色紙の作品「継色紙」
 - 第14回 平安三色紙の作品「寸松庵色紙」
 - 第15回 平安三色紙の作品「升色紙」
-

授業以外での学習方法

授業中では学習時間が足りないなので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

教科書

「改訂書道の古典Ⅲ」

著者： 大東文化大学書道センター編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a10202a512

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読a(日本語文法研究 I)

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語文法の発想

獲得目標

1)日本語がどのようなしくみを持つ言語であるのか理解する。2)自分たちが日常的に使っている日本語でさえ、私たちにとって未知な存在であることを理解する。3)2)を通じて、自分の立場を絶対化せず、相対的に考えるという視点を学ぶ。

授業の内容

日本語を母語とする者にとって、日本語はあらためて考える余地がないほど当たり前の存在に見える。この授業では、日本語のしくみについて私たちが驚くほど「知らない」ことを明らかにすることを通じて日本語文法の発想を理解させる。

内 容

- 第1回 文法とは何か？
 - 第2回 日本語の「内側」と「外側」
 - 第3回 名詞につく助詞
 - 第4回 格と文型
 - 第5回 主格・主語・主題
 - 第6回 格助詞の意味のゆらぎ
 - 第7回 場所表現と場所的表現
 - 第8回 動詞の意志性と関わる言語現象
 - 第9回 受身のタイプと意味的性質
 - 第10回 使役の意味の広がり
 - 第11回 方向性の拡張
 - 第12回 恩恵の拡張
 - 第13回 動きのとらえ方
 - 第14回 時間の表し方
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

1)授業で配布する資料をよく読んでください。2)『日本語学』や『月刊言語』といった雑誌のバックナンバーを手にとって、興味があるテーマを扱った論文を読んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読c(社会言語学 I)

担当者 鳥谷 善史

テーマ

ことばの変化と社会の相関(日本の諸方言を中心に)

獲得目標

ことばが変化する要因としては、ことばそのものに内在する法則とことば以外の刺激によるものがある。社会言語学は、ことばの変化といった側面において、両者の要因を総合的に考察しつつも、特に後者のことば以外の社会的要因との相関を調査をとおして実証的に研究する。ここでは、これまでの研究の潮流を確認し、今後の展開や可能性について検討したい。

授業の内容

日本語の変化の中でもとりわけ、文法及び音声・音韻の変化について詳細に確認する。

内 容

- 第1回 社会言語学とは
- 第2回 日本の社会言語学とその研究分野
- 第3回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)1(現象の分析)
- 第4回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)2(通時的側面)
- 第5回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)3(共時的側面)
- 第6回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)4(方言からみる変化の実態)
- 第7回 文法の変化(ら抜き言葉を中心に)5(属性からみる変化の実態)
- 第8回 ら抜き言葉のまとめ(小テスト:レポート)
- 第9回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)1(音声学概説)
- 第10回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)2(音声学概説)
- 第11回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)3(現象の分析)
- 第12回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)4(共時的側面・通時的側面)
- 第13回 音声音韻の変化(ガ行鼻濁音を中心に)5(変化の実態)
- 第14回 音声音韻の変化のまとめ(小テスト:レポート)
- 第15回 社会言語学のまとめ

授業以外での学習方法

授業中に紹介した参考文献を読み、より考察を深めること。

教科書

日本語ウォッチング

著者: 井上史雄

出版社: 岩波新書

出版年: 1998

ISBN: 4-00-430540-3

参考書

社会言語学

著者: 真田信治・渋谷勝己他

出版社: 桜楓社

出版年: 1992

ISBN:

関西方言の社会言語学

著者： 徳川宗賢・真田信治編

出版社： 世界思想社

出版年： 1995

ISBN：

応用社会言語学を学ぶ人のために

著者： ダニエル・ロング他

出版社： 世界思想社

出版年： 2001

ISBN：

関西・ことばの動態

著者： 真田信治

出版社： 大阪大学出版会

出版年： 2001

ISBN：

社会言語学の調査と研究の技法

著者： 中井精一編

出版社： おうふう

出版年： 2005

ISBN：

社会言語学の展望

著者： 真田信治編

出版社： くろしお出版

出版年： 2006

ISBN：

改訂版社会言語学図集

著者： 真田信治他編

出版社： 秋山出版

出版年： 2010

ISBN：

方言学

著者： 真田信治編著

出版社： 朝倉書店

出版年： 2011

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（40）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（40）

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）参加度は、積極的な受講に対して評価するものである。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読⑥(平安文学研究 I)

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語を読むー光源氏の栄華ー

獲得目標

平安時代文学の代表作であり、日本の古典文学の最高峰の一つとされている源氏物語を読む。源氏物語は、書かれてから千年以上経過した現代でも、多くの読者を獲得している。千年に渡って読み続けられてきた源氏物語の時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。

授業の内容

源氏物語の物語展開の流れを追いつつ、各所を取り上げ、原文を丁寧に読み解くことを通じて、そこに込められた登場人物や作者の思いを探る。

内 容

- 第1回 源氏物語という作品
- 第2回 光源氏の恋ー桐壺の巻ー
- 第3回 雨夜の品定めー帚木・空蟬の巻ー
- 第4回 夕顔物語ー夕顔の巻ー
- 第5回 若紫との出会い・藤壺との密通ー若紫の巻ー
- 第6回 青海波の舞ー紅葉賀の巻ー
- 第7回 朧月夜の恋ー花宴の巻ー
- 第8回 車の所争いー葵の巻ー
- 第9回 六条御息所との別れー賢木の巻ー
- 第10回 橘の花散る里ー花散里の巻ー
- 第11回 須磨の秋ー須磨の巻ー
- 第12回 明石の君との出会いー明石の巻ー
- 第13回 復活する光源氏ー濤標の巻ー
- 第14回 明石の君の嵯峨野ー松風の巻ー
- 第15回 光源氏の青春の終焉ー薄雲の巻ー

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全12冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者： 池田亀鑑

出版社： 中央公論社

出版年： 1984～1985

ISBN：

その他源氏物語注釈書

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

源氏物語カルチャー講座

著者： 福嶋昭治

出版社： 扶桑社

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（40）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（20）

参加度（20）

試験はレポート試験とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読g(古典文学研究 I)

担当者 林 久美子

テーマ

『南総里見八犬伝』を読む

獲得目標

江戸時代の大ベストセラーであった馬琴読本の面白さを知る。

授業の内容

少しずつ読み進めながら、受講者に「私の読み方＝発見(八犬)伝」を披露していただきます。

内 容

- 第1回 八犬伝の享受について
 - 第2回 八房と伏姫
 - 第3回 信乃と額蔵
 - 第4回 芳流閣
 - 第5回 犬士見八と小文吾
 - 第6回 玉の由来
 - 第7回 五犬士集結
 - 第8回 一角と妖怪
 - 第9回 莊介、小文吾
 - 第10回 毛野の仇討ち
 - 第11回 犬江親兵衛の活躍
 - 第12回 八犬士集結
 - 第13回 連合軍結成
 - 第14回 国府台、洲崎の戦い
 - 第15回 大団円
-

授業以外での学習方法

教科書は全巻が収録されているわけではないので、興味をもった所は現代語訳の本文を読んでください。ネットサイトも充実しています。(下記参照)

教科書

ビギナーズ・クラシックス『南総里見八犬伝』

著者： 石川博編

出版社： 角川学芸出版

出版年： 2007

ISBN： 9.78404E+11

参考書

岩波文庫『南総里見八犬伝』1～10

著者： 小池藤五郎校訂

出版社： 岩波書店

出版年： 1990

ISBN：

新潮日本古典集成別巻『南総里見八犬伝』1～12

著者： 濱田啓介校訂

出版社： 新潮社

出版年： 2003-2004

ISBN：

ちくま学芸文庫『完本 八犬伝の世界

著者： 高田 衛

出版社： 筑摩書房

出版年： 2005

ISBN： 448008940

復興する八犬伝

著者： 諏訪春雄、高田 衛

出版社： 勉誠出版

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（）

授業中発表等（60）

参加度（40）

受講者数によっては、発表に代わってレポートの提出を求める場合があります。

参考URL

白龍亭

<http://www.mars.dti.ne.jp/~opaku/>

伏姫屋敷

<http://homepage2.nifty.com/fusehime/>

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読Ⅰ(近代文学研究Ⅰ)

担当者 権藤 愛順

テーマ

明治40年代の小品文学を読む

獲得目標

短篇小説よりも短い小品という小さな文学作品を読むことを通して、明治末年の文学表現の多様性を知る。小説の世界がいかに人間の無意識や、夢、あるいはその他のジャンルと関わりがあるのかを知る。

授業の内容

明治40年代、短篇小説よりももっと短い小品という文学ジャンルが流行していました。小品の中には、現代のホラーの源流と呼べそうなものや、人間の心に存在する無意識の世界に迫ったものなど、興味深い作品がたくさん存在します。授業では、これらの作品を読むことを通して、文学の世界の多様性や、絵画など他のジャンルとの関わりなどを知っていきます。

内 容

- 第1回 夏目漱石『夢十夜』―「第一夜」
 - 第2回 夏目漱石『夢十夜』―「第三夜」
 - 第3回 夏目漱石『夢十夜』―「第四夜」
 - 第4回 夏目漱石「モナリサ」
 - 第5回 永井荷風「夜半の舞踏」(『ふらんす物語』)
 - 第6回 北原白秋「感覚の小函」
 - 第7回 木下杢太郎「硝子問屋」
 - 第8回 水野葉舟「足音」
 - 第9回 小川未明「抜髪」
 - 第10回 小川未明「田舎の理髪店」
-

授業以外での学習方法

授業までに、作品を読んでから出席すること。

教科書

明治大正小品選

著者： 木股知史

出版社： おうふう

出版年： 2006

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

レポートによる

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読k(現代文学研究 I) <a>

担当者 辻本 千鶴

テーマ

戦後の現代文学のなかから名作小説を読む。

獲得目標

戦後の文学を年代順に読み、社会・人間・文学、三者の相互関係を考察する。その作業を通じて、作品への鑑賞眼や現代文学への問題意識を養成することを目標とする。

授業の内容

下記の作品を取り上げ、批評・研究の対象としてのアプローチを試みる。主として講義形式で進めるが、受講生は中間発表(あるいは中間レポート)を担当して授業の進行に参加する。

内 容

- 第1回 梅崎春生「桜島」
 - 第2回 大岡昇平「野火」1
 - 第3回 大岡昇平「野火」2
 - 第4回 小島信夫「アメリカン・スクール」
 - 第5回 遠藤周作「白い人・黄色い人」1
 - 第6回 遠藤周作「白い人・黄色い人」2
 - 第7回 幸田文「流れる」
 - 第8回 安部公房「砂の女」1
 - 第9回 安部公房「砂の女」2
 - 第10回 吉行淳之介「驟雨」
 - 第11回 福永武彦「忘却の河」
 - 第12回 野坂昭如「アメリカひじき」
 - 第13回 開高健「輝ける闇」
 - 第14回 古井由吉「杏子」
 - 第15回 富岡多恵子「冥途の家族」・宮本輝「螢川」
-

授業以外での学習方法

授業で扱う作品を通読すること。同じ作家の他の作品も自主的積極的に読むこと。

教科書

(プリント配布)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a10202e110

試験はレポート形式とする。なおレポート課題と別の作品について、中間発表(あるいは中間レポート提出)を義務づける。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読k(現代文学研究 I)

担当者 林 久美子

テーマ

京極夏彦『西巻説百物語』を読む

獲得目標

・人間の執着や業が、現代の怪談文学ではどのように描かれているかを読み取る。・先行作品の怪異譚やイメージがどのように利用されているか、創作方法をさぐる。

授業の内容

巷説シリーズの最終作で、江戸時代後期の大坂が舞台の作品である。月の魔性や人形の妖気、豆狸や野狐などがあやなす短編を順に読み進める。各編について、1回目は音読(関西弁を訂正しながら)、2回目はグループで討論した事柄を発表する。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 「桂男」を読む
 - 第3回 同上
 - 第4回 「遺言幽霊 水乞幽霊」を読む
 - 第5回 同上
 - 第6回 「鍛冶が嬢」を読む
 - 第7回 同上
 - 第8回 「夜の楽屋」を読む
 - 第9回 同上
 - 第10回 「溝出」を読む
 - 第11回 同上
 - 第12回 「豆狸」を読む
 - 第13回 同上
 - 第14回 「野狐」を読む
 - 第15回 同上
-

授業以外での学習方法

あらかじめテキストに目を通し、わからない言葉は調べておく

教科書

西巻説百物語

著者： 京極夏彦

出版社： 中央公論新社

出版年： 2012

ISBN: 412501213X

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

a10202e112

授業中発表は、テーマや創作方法についてのグループ発表、参加度は、これに対する他の受講生の質問や意見を示すものです(出席も参加度を含めます)。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読m(メディア・表現研究Ⅰ)

担当者 禧美 智章

テーマ

アニメーションの読解

獲得目標

アニメーションの技法や話法を理解するための知識、アニメーション・リテラシーの修得をめざす。オタク的知識の蓄積を目指す授業ではないので、注意してほしい。※日本語日本文学講読n(メディア・表現研究Ⅱ)も受講することが望ましい。

授業の内容

様々なアニメーションを鑑賞しながら、映像表現・アニメーションの読解法を解説する。なお、授業内容は進行等に変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス、アニメーションとは何か
- 第2回 アニメーションの種類
- 第3回 アニメーションの制作過程〈1〉プリプロダクション
- 第4回 アニメーションの制作過程〈2〉ポストプロダクション
- 第5回 絵コンテの読み方
- 第6回 アニメーターのおかれた現状
- 第7回 キャラクター〈1〉記号論
- 第8回 キャラクター〈2〉データベース消費
- 第9回 (進度調整)
- 第10回 動き〈1〉フルアニメーションとリミテッドアニメ
- 第11回 動き〈2〉映像の原則
- 第12回 音響
- 第13回 ストーリーと脚本〈1〉原作と映像
- 第14回 ストーリーと脚本〈2〉文学とアニメーション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

教科書

授業時にプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

アニメーション学入門(平凡社新書)

著者: 津堅信之

出版社: 平凡社

出版年: 2005

ISBN: 978-4582852912

映像の原則 改訂版

著者: 富野由悠季

出版社: キネマ旬報社

出版年: 2011

ISBN: 978-4873767369

アニメーションの事典

著者: 横田正夫、池田宏、小出正志

出版社: 朝倉書店

出版年: 2012

ISBN: 978-4254680218

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

毎回コミュニケーションペーパーを回収し、授業理解度・参加度を評価する。また、授業期間中、レポートの提出を求める(80%)。講義内での発言、授業に関する優れた質問・提言があった場合は評価に加える(20%)。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書論・鑑賞 I

担当者 下野 健児

テーマ

『書譜』(唐、孫過庭)を読む(一)

獲得目標

『書譜』真跡本をテキストにし、書法史と関連づけながら本文の内容を理解するとともに、簡単な草書体を習得することも目的とする。『書譜』真跡本は、草書学習における必須の古典とされているが、中国書論史上においても重要な古典である。講義では本文をいくつかの章に分け、読解をすすめる。また、草書で書かれた本文を楷書に置き換える作業を行なうことによって、簡単な草書体の習得をめざす(小テストあり)。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

授業の内容

授業では、『書譜』本文を順次講読していく。本文を現代語に置き換えながら、孫過庭の書法に関する考えを理解するとともに、それらを現代の書道に関連付けて考察する。

内 容

- 第1回 ガイダンス—『書譜』について(解題、参考書など)
- 第2回 本文読解1
- 第3回 本文読解2
- 第4回 本文読解3
- 第5回 本文読解4
- 第6回 本文読解5
- 第7回 本文読解6
- 第8回 本文読解7
- 第9回 本文読解8
- 第10回 本文読解9
- 第11回 本文読解10
- 第12回 本文読解11
- 第13回 本文読解12
- 第14回 本文読解13
- 第15回 前期のまとめ。レポート提出。

授業以外での学習方法

中国書道史上の名品を図版などで鑑賞しておくこと。できれば、博物館・美術館などにでかけて、作品(真跡)鑑賞する機会を多く作ることが望ましい。

教科書

中国法書選38 書譜

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1988

ISBN: 4-544-00538-8

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 中国書道史

担当者 中村 史朗

テーマ

中国書道史-漢字の生成から北宋期までを中心に-

獲得目標

中国における書体の生成を視覚的に確認し、その動的なありようを理解する。また唐代の代表的名品や著名な能書を知りその表現上の特色を知る。さらに北宋期を中心に王羲之書法の受容のあり方を考察する。具体的な事象を挙げその内容を解説できるような力を身につける。

授業の内容

中国における漢字各体の生成を概観したのち、王羲之とその時代、書法の特質、後代への影響について考える。続いて隋唐における各体の典型の確立や代表的能書、北宋期の能書や作品について考察する。

内 容

- 第1回 五体の生成① 篆書・隸書の時代。
- 第2回 五体の生成② 楷書の成立、漢字学の展開。
- 第3回 五体の生成③ 行書・草書の展開。
- 第4回 王羲之の書法① 王羲之とその時代。
- 第5回 王羲之の書法② 尺牘の書法。
- 第6回 王羲之の書法③ 蘭亭序と集王聖教序。
- 第7回 王羲之の書法④ 王羲之書法の展開。
- 第8回 初唐の書法① 太宗とその時代。
- 第9回 初唐の書法② 欧陽詢と虞世南。
- 第10回 初唐の書法③ チョ遂良の書と書学。
- 第11回 唐代の新書風 狂草を中心に。
- 第12回 顔真卿の書法 人物と書。
- 第13回 北宋の書① 士大夫の書。
- 第14回 北宋の書② 蘇軾と黄庭堅。
- 第15回 北宋の書③ 米ふつの学書と作品

授業以外での学習方法

中国書道史に関する資料をよく参照し、代表的能書や名品に関する知識を主体的に身につける。また図版資料によって、古典の書風や書法を視覚的に分析・理解できるよう努めること。

教科書

中国書道史年表

著者： 玉村霽山

出版社： 二玄社

出版年： 1998

ISBN： 4-544-01241-4

参考書

書の文化史 上、中、下

著者： 西林昭一

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

書道全集

著者:

出版社: 平凡社

出版年:

ISBN:

書道芸術

著者:

出版社: 中央公論社

出版年:

ISBN:

中国法書ガイド 1~60

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (25)

小テスト (25)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

レポート試験、授業での取り組み、出席率など総合的に判断し評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <a>

担当者 福嶋 昭治

テーマ

卒業論文のテーマの探求と確立

獲得目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成のために、研究方法を習得し、自らのテーマを発見し、卒業論文を完成を目指す。

授業の内容

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進める。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。

内 容

- 第1回 授業の進め方についてのガイダンス
 - 第2回 卒業論文の取り上げたい作品・テーマについての発表
 - 第3回 同上
 - 第4回 同上
 - 第5回 同上
 - 第6回 同上
 - 第7回 参考文献・資料・論文の検索・収集の方法と実際
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 卒業論文の構造と執筆方針の確定
 - 第11回 同上
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 授業のまとめと夏季休暇中の課題確認
-

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a102030110

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本語日本文学演習 I **

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

獲得目標

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

授業の内容

4回生との合同授業のため、調整しながら進める。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 卒論で取り上げたい作品について発表する
 - 第3回 同上
 - 第4回 同上
 - 第5回 同上
 - 第6回 同上
 - 第7回 文献を収集し、論文を読む
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 作品の構造や成立、テーマに迫るための発表
 - 第11回 同上
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 前期の総括と夏休みの課題について
-

授業以外での学習方法

作品を熟読する。図書館に足しげく通う。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <c>

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日本現代文学の研究

獲得目標

①日本現代文学における代表的な作品の研究 ②論文の執筆方法など卒業研究にむけたスキルの獲得

授業の内容

研究入門で習得した知識やスキルを踏まえ、受講生による発表を中心として授業を行う。必要に応じて学外授業や外部講師による講演を実施する

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 受講生による発表(1)川端康成『雪国』
 - 第3回 受講生による発表(2)江戸川乱歩『屋根裏の散歩者』
 - 第4回 受講生による発表(3)宮沢賢治『銀河鉄道の夜』
 - 第5回 受講生による発表(4)谷崎潤一郎『痴人の愛』
 - 第6回 受講生による発表(5)太宰治『斜陽』
 - 第7回 受講生による発表(6)坂口安吾『桜の森の満開の下』
 - 第8回 受講生による発表(7)三島由紀夫『憂国』
 - 第9回 受講生による発表(8)司馬遼太郎『龍馬がゆく』
 - 第10回 受講生による発表(9)遠藤周作『沈黙』
 - 第11回 受講生による発表(10)村上龍『限りなく透明に近いブルー』
 - 第12回 受講生による発表(11)村上春樹『ノルウェイの森』
 - 第13回 受講生による発表(12)吉本ばなな『キッチン』
 - 第14回 受講生による発表(13)山田詠美『風葬の教室』
 - 第15回 受講生による発表(14)梨木香歩『西の魔女が死んだ』
-

授業以外での学習方法

授業で取り扱う作品は必ず読んでくること。課題は必ず提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <d>

担当者 辻本 千鶴

テーマ

近現代文学研究(演習)

獲得目標

作品を読む力・論文を書く力を養成することを目標とする。同時に卒論の対象とする作家・作品・テーマを絞り込んでいけるよう、準備を進める。

授業の内容

演習形式。受講者各人が選んだ作家・作品での研究発表を中心に進める。発表一巡後は、近現代文学を素材に、グループでの作品分析ワーク・ショップを行う。

内 容

- 第1回 講義 作家論と作品論／卒業論文への取り組み方
 - 第2回 ワーク・ショップ 織田作之助「道なき道」1
 - 第3回 ワーク・ショップ 織田作之助「道なき道」2
 - 第4回 学生発表 1
 - 第5回 学生発表 2
 - 第6回 学生発表 3
 - 第7回 学生発表 4
 - 第8回 学生発表 5
 - 第9回 学生発表 6
 - 第10回 学生発表 7
 - 第11回 発表予備日
 - 第12回 ワーク・ショップ
 - 第13回 ワーク・ショップ
 - 第14回 ワーク・ショップ
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

自分の担当日でなくとも、発表作品を事前に通読してから授業に出席すること。

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

期末試験はレポート形式とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習 I <e>

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文に向けてのテーマの探求

獲得目標

1)興味・関心をしっかり吟味することによってみずからの力でテーマを設定する。2)先行研究を読みこむことによって、論文を書くという作業の持つ意味を理解する。3)自分の思いや考えを他の人に伝えるために必要な事項を修得する。

授業の内容

受講生が持つさまざまなことばに関する「引っかけり」を、卒業論文に向けての「テーマ」として確定していく。

内 容

- 第1回 導入:卒論に向けての第一歩
 - 第2回 論文とはどんなものか(1)
 - 第3回 論文とはどんなものか(2)
 - 第4回 テーマの候補についての報告(1)
 - 第5回 テーマの候補についての報告(2)
 - 第6回 仮テーマの決定と参考文献探索(1)
 - 第7回 仮テーマの決定と参考文献探索(2)
 - 第8回 仮テーマの決定と参考文献探索(3)
 - 第9回 仮テーマの決定と参考文献探索(4)
 - 第10回 先行研究紹介(1)
 - 第11回 先行研究紹介(2)
 - 第12回 先行研究紹介(3)
 - 第13回 先行研究紹介(4)
 - 第14回 先行研究紹介(5)
 - 第15回 先行研究紹介(6)
-

授業以外での学習方法

直接関係がある、ないにかかわらず、学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **書法 V <a>**

担当者 新谷 泰一

テーマ

行・草書の書法の研究

獲得目標

行・草書の基本と応用を古典から学び、自在で幅広い表現力の修得をめざす。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の内容

内 容

- 第1回 行草書の表現
 - 第2回 王羲之とその書法
 - 第3回 集字聖教序の書法
 - 第4回 集字聖教序の臨書(半紙)
 - 第5回 集字聖教序の臨書(半紙)
 - 第6回 集字聖教序の臨書(半切)
 - 第7回 集字聖教序の臨書(半切)
 - 第8回 臨書作品の相互批評・まとめ
 - 第9回 米?の書法
 - 第10回 蜀素帖の書法
 - 第11回 蜀素帖の臨書(半紙)
 - 第12回 蜀素帖の臨書(半切)
 - 第13回 ? 溪詩卷他の臨書(半紙)
 - 第14回 ? 溪詩卷他の臨書(半切)
 - 第15回 米?臨書作品の互評 まとめ ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

家庭での十分な書き込みと、授業で学習する古典以外の古典の練習をしっかりとすること。

教科書

中国法書選16集字聖教序

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

中国法書選48米?集

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **書法Ⅴ**

担当者 新谷 泰一

テーマ

基本的な行・草書法の習得により、書作の幅を広げる。

獲得目標

自在で幅広い字形の表現力と筆を扱う技術の習得をめざす

授業の内容

内 容

- 第1回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第2回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第3回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第4回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第5回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第6回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第7回 王羲之「集字聖教序」の臨書。半紙及び画仙紙使用。
- 第8回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第9回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第10回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第11回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第12回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第13回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第14回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用
- 第15回 米ふつ「蜀素帖」他の臨書。半紙及び画仙紙使用

授業以外での学習方法

滑らかで自由な運筆が出来るようになるには、十分な書き込みが必要である。教室のみでなく、家庭での豊富な練習が向上に繋がる。授業で学習する以外の古典への挑戦も望まれる。

教科書

東晋、王羲之「集字聖教序」 法書ガイド

著者:

出版社: 二玄舎

出版年: ISBN:

東晋、王羲之「集字聖教序」 法書ガイド

著者:

出版社: 二玄舎

出版年: ISBN:

宋、米ふつ「米ふつ集」 中国法書選

著者:

出版社: 二玄舎

出版年:

ISBN:

宋、米ふつ「米ふつ集」 法書ガイド

著者:

出版社: 二玄舎

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法Ⅶ〈a〉

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

獲得目標

多様なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 関戸本古今和歌集について
 - 第2回 関戸本古今和歌集の技法について
 - 第3回 関戸本古今和歌集の臨書①(用字・造形・連綿手法等)
 - 第4回 関戸本古今和歌集の臨書②(用字・造形・連綿手法等)
 - 第5回 関戸本古今和歌集の臨書③(用字・造形・連綿手法等)
 - 第6回 関戸本古今和歌集の臨書④(用字・造形・連綿手法等)
 - 第7回 関戸本古今和歌集の臨書①(さまざまな線運動と墨法)
 - 第8回 関戸本古今和歌集の臨書②(さまざまな線運動と墨法)
 - 第9回 関戸本古今和歌集の臨書③(さまざまな線運動と墨法)
 - 第10回 関戸本古今和歌集の倣書①
 - 第11回 関戸本古今和歌集の倣書②
 - 第12回 関戸本古今和歌集の倣書③
 - 第13回 創作への展開①
 - 第14回 創作への展開②
 - 第15回 創作への展開③
-

授業以外での学習方法

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

教科書

日本名筆選19「関戸本古今和歌集」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選13「継色紙」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

授業中課題（80）

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む。

小テスト（0）

授業中発表等（0）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法Ⅶ

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

獲得目標

多様なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 関戸本古今和歌集について
 - 第2回 関戸本古今和歌集の技法について
 - 第3回 関戸本古今和歌集の臨書①(用字・造形・連綿手法等)
 - 第4回 関戸本古今和歌集の臨書②(用字・造形・連綿手法等)
 - 第5回 関戸本古今和歌集の臨書③(用字・造形・連綿手法等)
 - 第6回 関戸本古今和歌集の臨書④(用字・造形・連綿手法等)
 - 第7回 関戸本古今和歌集の臨書①(さまざまな線運動と墨法)
 - 第8回 関戸本古今和歌集の臨書②(さまざまな線運動と墨法)
 - 第9回 関戸本古今和歌集の臨書③(さまざまな線運動と墨法)
 - 第10回 関戸本古今和歌集の倣書①
 - 第11回 関戸本古今和歌集の倣書②
 - 第12回 関戸本古今和歌集の倣書③
 - 第13回 創作への展開①
 - 第14回 創作への展開②
 - 第15回 創作への展開③
-

授業以外での学習方法

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

教科書

日本名筆選19「関戸本古今和歌集」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選13「継色紙」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

授業中課題（80）

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む。

小テスト（0）

授業中発表等（0）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講a(日本語史 I)

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語の通時的変化や変異を概観する。

獲得目標

日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、古代語に区分される、上代・中古及び中世前半(鎌倉時代・南北朝時代)の状況について確認したい。それぞれの時代の文献や基本的な学説を理解し、どのような手順で、国語の歴史を構築し論考しているかといった方法論を学びたい。

授業の内容

日本語史の総説と音韻史及び文字史、文法史について概説する。

内 容

- 第1回 日本語史について(ガイダンス)
 - 第2回 総説1(日本語の範囲・記述対象)
 - 第3回 総説2(時代区分・資料)
 - 第4回 総説3(言語変化のメカニズム)
 - 第5回 音韻史1(上代を中心に1)
 - 第6回 音韻史2(上代を中心に2)
 - 第7回 音韻史3(上代以降の状況)
 - 第8回 文字史1(漢字の伝来)
 - 第9回 文字史2(万葉仮名)
 - 第10回 文字史3(平仮名の成立とその広がり)
 - 第11回 文字史4(片仮名の成立とその使用)
 - 第12回 文法史(所謂学校文法の確認と上代の活用について)
 - 第13回 文法史(中世から現代の変化① 活用形の変化を中心に)
 - 第14回 文法史(中世から現代の状況② 活用形の変化を中心に)
 - 第15回 全体のまとめと小テスト(レポート)
-

授業以外での学習方法

参考文献を各自で調べ授業で述べた内容をより深く考察すること。

教科書

日本語史概説

著者: 沖森卓也

出版社: 朝倉書店

出版年: 2010

ISBN: -51780

参考書

概説日本語の歴史

著者: 佐藤武義

出版社: 朝倉書店

出版年: 1995

ISBN: -51282

日本語史要説

著者： 渡辺実

出版社： 岩波書店

出版年： 1997

ISBN： 4-00-026011-1

日本語の歴史

著者： 山口明穂他

出版社： 東京大学出版会

出版年： 1997

ISBN： -82023

はじめて読む日本語の歴史

著者： 沖森卓也

出版社： ベレ出版

出版年： 2010

ISBN： -86329

日本語の歴史』全8巻

著者： 亀井孝他編

出版社： 平凡社

出版年： 1963-66

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（40）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（40）

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）参加度は、積極的な受講に対して評価するものである。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講c(現代日本語研究 I)

担当者 福田 雅子

テーマ

編集入門・・・DTP(机上出版)への第一歩

獲得目標

編集は出版界をはじめ多くのマスメディアで必要とされる技術です。編集のプロを目指す人はもちろんですが、ビジネスの世界でも企画書・プレゼンテーション・社内報・PR誌・その他多くの社内文書と編集はさまざまな分野で必要とされています。ビジネスDTPの現場においても役立つ、検定試験「ビジネスDTP検定Ⅲ種」の合格レベルの知識とスキルの修得を目指します。

授業の内容

本講義は「ワード」による編集入門です。Windowsの世界で最もよく使用されるワープロソフト「Word」は、単に文章入力だけのソフトではありません。レイアウトとデザインによって商業印刷並のすぐれた印刷物を作ることが出来ます。年賀状からチラシ・パンフレット・企画書とその用途は幅広く、基本的な編集感覚を一步一步身につけていきます。DTP作業と平行して、編集の世界についての入門的な講義も進めます。

内 容

- 第1回 編集とはなにか、DTPの世界
- 第2回 DTPソフトの基本
- 第3回 レイアウトの準備
- 第4回 文字入力
- 第5回 画像の読み込み
- 第6回 用紙と色
- 第7回 デザインのコツ
- 第8回 出力形態と画像データ
- 第9回 色使い・フォントの知識
- 第10回 案内状やパンフレットの作成・・・編集の実践
- 第11回 案内状やパンフレットの作成・・・編集の実践
- 第12回 案内状やパンフレットの作成・・・編集の実践
- 第13回 案内状やパンフレットの作成・・・編集の実践
- 第14回 検定を目指す、問題点・課題
- 第15回 検定を目指す、問題点・課題

授業以外での学習方法

教科書

Microsoft(R) Word レイアウトデザイン ガイドブック

著者:

出版社: ワークスコーポレーション

出版年: 2005

ISBN: 4-948759-79-1

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講⑥(京都と文学)

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語の舞台としての京都

獲得目標

京都は、平安時代文学の多くが作り出された場所であり、その風土は、多大の影響を作品に与えている。具体的な場所のそれぞれが、どのように作品と関わり合っているか、そして、その関わりが、以後の歴史で、いかに伝統的な風土観となって継承されているかを探りたい。さらに、京都の今と将来を考える見識を得ることも授業の目標とする

授業の内容

平安時代文学の代表作品である源氏物語を取り上げ、原文を丁寧に読み解きながら、舞台となった各所の意味を考える。京都にある大学の授業として、現地見学の案内もきめ細かく行いたい。現地研修も授業時間以外に自由参加の形で行う。

内 容

- 第1回 平安京という都
 - 第2回 大内裏と内裏
 - 第3回 源氏物語と内裏
 - 第4回 光源氏の邸宅～二条の院と六条院
 - 第5回 嵯峨野
 - 第6回 比叡山
 - 第7回 宇治
 - 第8回 大原野
 - 第9回 西山
 - 第10回 小野
 - 第11回 北山
 - 第12回 逢坂の関と伊勢路
 - 第13回 須磨・明石
 - 第14回 紫式部の越前行
 - 第15回 紫式部ゆかりの地
-

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語の舞台を訪ねて

著者: 加納重文

出版社: 宮帯出版

出版年: 2011

ISBN:

源氏物語の平安京

著者： 加納重文

出版社： 青簡舎

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験（50）

授業中課題（ ）

参加度（30）

試験はレポート試験とする。

小テスト（ ）

授業中発表等（20）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講g(歌舞伎・浄瑠璃研究Ⅰ)

担当者 林 久美子

テーマ

歌舞伎について学ぶ

獲得目標

京都を代表する文化のひとつであり、世界遺産でもある歌舞伎の特色を知る。

授業の内容

以下を予定していますが、みなさんの質問とリクエストに応じて進めます。

内 容

- 第1回 歌舞伎とは
- 第2回 出雲の阿国と南座のこと
- 第3回 女形とは
- 第4回 市川団十郎と江戸歌舞伎
- 第5回 歌舞伎十八番
- 第6回 坂田藤十郎と近松門左衛門
- 第7回 『廓文章』
- 第8回 三大名作
- 第9回 任侠劇『夏祭浪花鑑』
- 第10回 鶴屋南北の怪談劇
- 第11回 黙阿弥の白浪物
- 第12回 現代の歌舞伎
- 第13回 受講生による作品紹介①
- 第14回 受講生による作品紹介②
- 第15回 これまでのまとめ

授業以外での学習方法

4月16日まで特別舞台体験(有料)がありますので、興味のある人は情報を見て南座に足を運んでください。また、メディアセンター所蔵のビデオやテレビ、シネマ歌舞伎などでも鑑賞してください。活字になった脚本も図書館に多数あります。

教科書

歌舞伎の中の日本

著者： 松井今朝子

出版社： 日本放送出版協会

出版年： 2008

ISBN: 9.78414E+11

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

授業中課題には、レポートと提出物が含まれます。発表者はレポートを免除されることがあります。

参考URL

日本芸術文化振興会

<http://www.ntjjac.go.jp/bunraku.html>

文化デジタルライブラリー

<http://www2.ntjjac.go.jp/dglib/>

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講ⅰ(近代文学研究Ⅲ)

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

森見登美彦の諸作品の分析

獲得目標

森見登美彦の「太陽の塔」「夜は短し歩けよ乙女」「美女と竹林」に見られる近代小説の手法を理解する。そのうえで、2000年代の小説である3作品の新しさを指摘することを目指す。

授業の内容

講義形式で行うが、適宜受講生諸君に質問を投げかけ、回答を求める。毎回授業の終わりに、授業内容に即したコメントを作成し提出してもらう。コメントに対する回答は次の授業の冒頭に行く(全てのコメントには答えられない)。授業内容に関する映像(DVD)の鑑賞等も時折行いたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の概要・作家森見登美彦についての概説)
 第2回 「太陽の塔」① 振り返る〈語り〉の分析―「手記」小説の末裔―
 第3回 「太陽の塔」② 詳細な住空間の描写の分析―醜悪且つ豊穡な「四畳半」―
 第4回 「太陽の塔」③ 屈折した女性嫌悪の分析―モテない男たちの絆―
 第5回 「太陽の塔」④ 制度としての恋愛の分析―モテない男たちの苦悩―
 第6回 「夜は短し歩けよ乙女」① 交錯する〈語り〉の分析―男の視点と女の視点―
 第7回 「夜は短し歩けよ乙女」② 〈異化〉される都市の分析―迷宮化する夜の京都―
 第8回 「夜は短し歩けよ乙女」③ 古臭く奇妙な学生たちの分析―「詭弁論部」と樋口氏―
 第9回 「夜は短し歩けよ乙女」④ 書物へのこだわりの分析―下鴨納涼古本まつり―
 第10回 「夜は短し歩けよ乙女」⑤ 小説の中の演劇の分析―「偏屈王」のゲリラ上演―
 第11回 「夜は短し歩けよ乙女」⑥ 理想の女性像の分析―「黒髪の乙女」とは何か―
 第12回 「美女と竹林」① 登場人物としての作家の分析―主人公「森見登美彦」の執筆活動―
 第13回 「美女と竹林」② 〈身体〉の再発見と「妄想」の分析―竹林伐採がもたらしたもの―
 第14回 まとめとレポートの指導

授業以外での学習方法

主たる分析対象の3作品を熟読する。また、授業中に紹介するものを中心とした近代日本の小説作品を読む。授業中に紹介する参考書類を読む。

教科書

文庫版『太陽の塔』

著者： 森見登美彦

出版社： 新潮社

出版年： 2006年

ISBN:

文庫版『夜は短し歩けよ乙女』

著者： 森見登美彦

出版社： 角川書店

出版年： 2008年

ISBN:

文庫版『美女と竹林

著者： 森見登美彦

出版社： 光文社

出版年： 2010年

ISBN:

参考書

成績評価

試験（50）

小テスト（ ）

授業中課題（30）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

「授業中課題」とは、毎回所定の用紙に書いて提出する（分析的な）コメントを指す。コメントの内容により評価は変わる。「参加度」（出席）の確認は提出されたコメント用紙によって行うので、注意すること。「試験」とは、期末レポート（授業内容を踏まえた内容）を指す。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講k(現代文学研究Ⅲ)

担当者 野村 幸一郎

テーマ

ハイクとタンカ—現代日本の短詩型文学

獲得目標

正岡子規、高浜虚子から俵万智、黛まどか、坪内念典まで、明治から現代までを代表する俳人、歌人の作品を取り上げ、日本語の豊かさ、日本文化の奥行き、美意識を学ぶ。

授業の内容

ワークショップ型で授業を進める。グループに分かれ、紹介された短歌や俳句についてディスカッションを行う。また、毎週、俳句の創作を求める予定である。教科書は使用しない。随時プリントを配布する。必要に応じて学外授業を実施する

内 容

- 第1回 ガイダンス—言語にとって美とは何か?
- 第2回 「恋」をテーマにしたタンカ
- 第3回 「人生」をテーマにしたハイク・タンカ(1)
- 第4回 「人生」をテーマにしたタンカ(2) 石川啄木を読む
- 第5回 「人生」をテーマにしたタンカ(3) 石川啄木を読む
- 第6回 本学客員教授、俳人、黛まどか氏による特別講義(日程変更の可能性あり)
- 第7回 「日常」をテーマにしたハイク
- 第8回 「日常」をテーマにしたタンカ
- 第9回 「自然」をテーマにしたハイク・タンカ
- 第10回 「心象風景」をテーマにしたハイク・タンカ
- 第11回 「老」「病」「死」をテーマにしたハイク・タンカ(1)
- 第12回 「老」「病」「死」をテーマにしたハイク・タンカ(2) 正岡子規を読む
- 第13回 「老」「病」「死」をテーマにしたハイク・タンカ(3) 正岡子規を読む
- 第14回 「家族」をテーマにしたハイク・タンカ
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

毎週課題を出すのでかならず提出すること

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講m(メディア・表現研究Ⅲ)

担当者 古澤 夕起子

テーマ

日本の近代におけるメディアの成り立ちについて学ぶ

獲得目標

・現在につながる近代のメディアの成り立ちについて理解する。・メディアに振り回されることのない主体の育成をめざす。

授業の内容

明治維新から後に生まれたメディアの中から、「こども向け雑誌」「音楽」「食卓」といったものを取り上げて考察する。授業は講義形式で行ない、随時CDやDVDを視聴する。毎時提出してもらった感想文をフィードバックさせることで、双方向の授業を心がけたい。

内 容

- 第1回 開国・・・日本を発信する「ちりめん本」というメディア
- 第2回 翻訳事始・・・西洋を受信する「こどもの本」はどのように翻訳されたか
- 第3回 雑誌①・・・こどものメディア「少年雑誌」「少年世界」など
- 第4回 雑誌②・・・こどものメディア「少女雑誌」「少女の友」など
- 第5回 雑誌③・・・こどものメディア「児童雑誌」「赤い鳥」など
- 第6回 音楽①・・・唱歌誕生 教室で教える音楽はメディアとしてどんな働きをしたか
- 第7回 音楽②・・・童謡運動 「赤い鳥」から、金子みすゞなどの童謡作家まで
- 第8回 音楽③・・・少女歌手の登場 ラジオやレコードもフル稼働
- 第9回 食卓①・・・メディアとしての教科書 しつけの場所
- 第10回 食卓②・・・横並びの食卓「家族ゲーム」1983
- 第11回 食卓③・・・固定された「幸福な食卓」2003
- 第12回 食卓④・・・食ドライブ『家族の勝手でしょ!』
- 第13回 食卓⑤・・・メディアはどのように食卓を演出してきたか
- 第14回 音楽④・・・ブルーハーツの時代1985-1995 僕らは泣くために生まれてきたわけじゃない
- 第15回 まとめ・・・100年前から変わらないもの メディアの本質

授業以外での学習方法

メディア漬けになっている毎日の暮らしを見直しましょう

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a102034350

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (60)

「授業中課題」は最終授業時に提出するレポートを指す。レポートの内容や長さについては授業で説明する。「参加度」は毎時提出の感想文を指す。未提出の時は出席とは認めない。8回以上欠席の時は評価の対象外とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講o(アナウンス技術研究 I)

担当者 飛鳥井 雅和

テーマ

自分自身を母国語である「日本語」で、過不足なく口頭表現出来る人を目指す。

獲得目標

口下手・話し下手の克服と、あらゆる業界・場面で自分自身を自らの口で表現できる能力「自己表現力」の獲得と、その能力のアップを目指す。放送界48年の現役アナウンサー・飛鳥井が直接指導します。 * 定員制のため、取り敢えずの登録は遠慮して下さい。確実に出席出来る人のみに限定します。

授業の内容

内 容

- 第1回 この授業の狙い
- 第2回 自分の声・話し方を知ろう
- 第3回 //
- 第4回 VOICE CHARTを見て
- 第5回 正しい発声～その理論と実際～
- 第6回 //
- 第7回 正しい発音～その理論と実際～
- 第8回 //
- 第9回 正しい話の組み立て方～その理論と実際～
- 第10回 //
- 第11回 スピーチの実際
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

ラジオ・テレビ、新聞等のNEWSを注視して下さい。

教科書

参考書

必要に応じてプリントを配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 (25)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書論特講a

担当者 下野 健児

テーマ

書論選読(一)

獲得目標

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。漢文、古文になれるとともに、本文内容を理解することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考える力を養うことが目的となる。講義では、受講者の積極的な質問、発言を期待する。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

授業の内容

授業は、毎回、代表的な書論の一節をとりあげ、その内容を考察していく。また、そこで取り上げられた問題を今日の書道の在り方と比較することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考えていきたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス(「書論とは何か」、参考書・工具書の紹介)
 - 第2回 書論選読1
 - 第3回 書論選読2
 - 第4回 書論選読3
 - 第5回 書論選読4
 - 第6回 書論選読5
 - 第7回 書論選読6
 - 第8回 書論選読7
 - 第9回 書論選読8
 - 第10回 書論選読9
 - 第11回 書論選読10
 - 第12回 書論選読11
 - 第13回 書論選読12
 - 第14回 書論選読13
 - 第15回 前期のまとめ。レポート提出。
-

授業以外での学習方法

書に関する書物(できれば他の芸術に関しても)をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館、美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会をふやしてほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 現代書研究 I

担当者 中村 史朗

テーマ

今日における書のありかたを総合的に考察する。現代社会において、個の表現としての書はどのような方向を求めているのか、また書が社会性を持つとはどのようなことなのか、実作、鑑賞などを手がかりに検討したい。

獲得目標

近百年の日本において「漢字仮名交じりの書」「少字数書」「前衛書」など、従来の歴史の中には見られない新傾向の書が生まれた。これらが運動のかたちで大きな展開を見せるようになった背景はどのようなものなのかを知り、あわせて各々の基礎的な表現技法を実作を通じて修得する。また新傾向の書と比較しながら、伝統的な漢字や仮名の書が、現代においてどのように変質したかについても理解を深める。

授業の内容

近百年の日本の書を概観し、新傾向の書の成立の背景・根拠をさぐる。また「漢字仮名交じりの書」「少字数書」などの基礎的技法に習熟する。講義、発表、実習など形式を変えながら進行する。

内 容

- 第1回 近百年の書。現代書の諸相(1)。会場で書が鑑賞されることについて。
- 第2回 現代書の諸相(2)。戦後の新傾向の書を中心に。
- 第3回 現代の書と古典。その価値と技法の展開をめぐって。
- 第4回 現代書の制作。意図と技法、用具・用材。
- 第5回 漢字仮名交じりの書(1) 概観
- 第6回 漢字仮名交じりの書(2) 言葉と書、言文一致表記と書の表現との関係を考える。
- 第7回 漢字仮名交じりの書(3) 古典の書風を応用して-1-
- 第8回 漢字仮名交じりの書(4) 古典の書風を応用して-2-
- 第9回 漢字仮名交じりの書(5) 素材と技法の関係を考える。
- 第10回 少字数書(1) 少字数を書くことの意味。
- 第11回 少字数書(2) 大字表現の意味
- 第12回 少字数書(3) 特有の技法、用具・用材を生かして。
- 第13回 現代の書—多様な表現—(1)。さまざまな素材を用いて。
- 第14回 現代の書—多様な表現—(2)。新しい発表のかたち。
- 第15回 まとめ これからの書のありかた

授業以外での学習方法

作品制作を中心とするが、書き上げたものを相互に批評したり、指導の場における評価のあり方などを検討する機会を設ける。授業以外にも積極的に作品を試作するとともに、展示会場に足を運び作品を鑑賞したり、関係書籍に掲載されている作品を参照することによって、自身の表現の方向性を探ってほしい。

教科書

参考書

漢字仮名交じりの書の名品

著者： 田宮文平・中野遵

出版社： 天来書院

出版年： 2010

ISBN:

現代文体の書(書学大系・研究編10)

著者： 青木香流

出版社： 同朋舎

出版年： 1984

ISBN:

少字数の書(書学大系・研究編11)

著者: 浅見錦龍、新井光風 他

出版社: 同朋舎

出版年: 1984

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

作品、レポート、授業に対する取り組み、出席率など総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <a>

担当者 福嶋 昭治

テーマ

卒業論文のテーマの探求と確立

獲得目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成のために、研究方法を習得し、自らのテーマを発見し、卒業論文を完成を目指す。

授業の内容

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進める。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。

内 容

- 第1回 授業の進め方についてのガイダンス
 - 第2回 卒業論文の取り上げたい作品・テーマについての発表
 - 第3回 同上
 - 第4回 同上
 - 第5回 同上
 - 第6回 同上
 - 第7回 参考文献・資料・論文の検索・収集の方法と実際
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 卒業論文の構造と執筆方針の確定
 - 第11回 同上
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 授業のまとめと夏季休暇中の課題確認
-

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a102040110

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

獲得目標

古典文学の研究方法を学び、自分に合った作品とテーマを選ぶ

授業の内容

卒論作成に向けて進める。演習Ⅰと合同。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 卒論で取り上げたい作品について発表する
 - 第3回 同上
 - 第4回 同上
 - 第5回 同上
 - 第6回 同上
 - 第7回 文献を収集し、論文を読む
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 作品の構造や成立、テーマに迫るための発表
 - 第11回 同上
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 前期の総括と夏休みの課題について
-

授業以外での学習方法

- 1, 作品を熟読する。2, 問題意識を持つ。3, 図書館に足しげく通う。4, 表現力を磨く。
-

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <c>

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日本現代文学の研究

獲得目標

卒業研究の作成に向けての研究

授業の内容

受講生による発表を中心として授業を行う。必要に応じて学外授業や外部講師による講演を実施する

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 受講生による発表と質疑応答
 - 第3回 受講生による発表と質疑応答
 - 第4回 受講生による発表と質疑応答
 - 第5回 受講生による発表と質疑応答
 - 第6回 受講生による発表と質疑応答
 - 第7回 受講生による発表と質疑応答
 - 第8回 受講生による発表と質疑応答
 - 第9回 受講生による発表と質疑応答
 - 第10回 受講生による発表と質疑応答
 - 第11回 受講生による発表と質疑応答
 - 第12回 受講生による発表と質疑応答
 - 第13回 受講生による発表と質疑応答
 - 第14回 受講生による発表と質疑応答
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業で取り扱う作品は必ず読んでくること。課題は必ず提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <d>

担当者 辻本 千鶴

テーマ

卒業論文作成

獲得目標

卒業論文作成に向けて議論を積み重ね、着実に成果を上げていくことを目標とする。

授業の内容

演習形式。受講生が選んだ作家・作品についての研究発表を中心に進める。

内 容

- 第1回 講義 卒業論文への取り組み・参考文献紹介
 - 第2回 講義 近現代文学研究概説
 - 第3回 受講生による発表(1)
 - 第4回 受講生による発表(2)
 - 第5回 受講生による発表(3)
 - 第6回 受講生による発表(4)
 - 第7回 受講生による発表(5)
 - 第8回 受講生による発表(6)
 - 第9回 受講生による発表(7)
 - 第10回 受講生による発表(8)
 - 第11回 受講生による発表(9)
 - 第12回 発表予備日
 - 第13回 ワーク・ショップ
 - 第14回 ワーク・ショップ
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

自分の担当でなくとも、発表作品を通読してから出席すること。

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅲ <e>

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文作成

獲得目標

1)議論をとおして自らの考えを磨き上げていく。2)自分のテーマだけでなく、他の学生のテーマについても強い関心を持って議論に参加する。

授業の内容

卒業論文作成に向けて報告と議論を繰り返して、着実に成果を上げていく。

内 容

- 第1回 導入
 - 第2回 受講生による第1回報告(1)
 - 第3回 受講生による第1回報告(2)
 - 第4回 受講生による第1回報告(3)
 - 第5回 受講生による第1回報告(4)
 - 第6回 受講生による第2回報告(1)
 - 第7回 受講生による第2回報告(2)
 - 第8回 受講生による第2回報告(3)
 - 第9回 受講生による第2回報告(4)
 - 第10回 受講生による第3回報告(1)
 - 第11回 受講生による第3回報告(2)
 - 第12回 受講生による第3回報告(3)
 - 第13回 受講生による第3回報告(4)
 - 第14回 まとめ1
 - 第15回 まとめ2
-

授業以外での学習方法

直接関係がある、ないにかかわらず、学术论文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 作品研究 I <a>

担当者 新谷 泰一

テーマ

漢字作品の創作研究

獲得目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。

授業の内容

臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。

内 容

- 第1回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第2回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第3回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第4回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第5回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第6回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第7回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第8回 倣書作品制作の準備(詩文の決定)
- 第9回 倣書作品制作の準備(形式、用具・用材の工夫)
- 第10回 倣書作品制作の準備(集字など)
- 第11回 倣書作品の制作
- 第12回 倣書作品の制作
- 第13回 倣書作品の制作
- 第14回 倣書作品の制作 (卒業制作の準備)
- 第15回 倣書作品の制作 (卒業制作の準備)

授業以外での学習方法

作品は授業時外に十分書き込み授業に持ち寄ること、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

教科書

参考書

各自の取り組む古典の法帖、字書など。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a102040410

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 作品研究 I

担当者 新谷 泰一

テーマ

漢字作品の創作研究

獲得目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。

授業の内容

臨書作品、倣書作品の制作から、古典をもとにしての創作作品の制作。各自の持ちよった作品の互評を中心に展開する。

内 容

- 第1回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第2回 古典臨書作品の制作(半切)
- 第3回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第4回 古典臨書作品の制作(連落)
- 第5回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第6回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第7回 古典臨書作品の制作(2×8)
- 第8回 倣書作品制作の準備(詩文の決定)
- 第9回 倣書作品制作の準備(形式、用具・用材の工夫)
- 第10回 倣書作品制作の準備(集字など)
- 第11回 倣書作品の制作
- 第12回 倣書作品の制作
- 第13回 倣書作品の制作
- 第14回 倣書作品の制作 (卒業制作の準備)
- 第15回 倣書作品の制作 (卒業制作の準備)

授業以外での学習方法

作品は授業時外に十分書き込み授業に持ち寄ること、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

教科書

参考書

各自の取り組む古典の法帖、字書など。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a102040412

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 作品研究Ⅲ <a>

担当者 橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

獲得目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の内容

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

内 容

- 第1回 倣書の方法について
 - 第2回 各自選択の古筆による集字ノートの点検
 - 第3回 小字作品の制作と鑑賞 (1) 1首
 - 第4回 小字作品の制作と鑑賞 (2) 2首
 - 第5回 小字作品の制作と鑑賞 (3) 4首
 - 第6回 小字作品の制作と鑑賞 (4) 8首
 - 第7回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)
 - 第8回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)
 - 第9回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)
 - 第10回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)
 - 第11回 中・大字作品の制作と鑑賞 (1)
 - 第12回 中・大字作品の制作と鑑賞 (2)
 - 第13回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)
 - 第14回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)
 - 第15回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)
-

授業以外での学習方法

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 作品研究Ⅲ

担当者 横山 弘平

テーマ

古典に基づく創作

獲得目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。内容 各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

授業の内容

内 容

- 第1回 倣書の方法について
- 第2回 各自選択の古筆による集字ノートの点検
- 第3回 小字作品の制作と鑑賞 (1) 1首
- 第4回 小字作品の制作と鑑賞 (2) 2首
- 第5回 小字作品の制作と鑑賞 (3) 4首
- 第6回 小字作品の制作と鑑賞 (4) 8首
- 第7回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(1)
- 第8回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(2)
- 第9回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(3)
- 第10回 小字の額型式作品の制作と鑑賞(4)
- 第11回 中・大字作品の制作と鑑賞 (1)
- 第12回 中・大字作品の制作と鑑賞 (2)
- 第13回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(1)
- 第14回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(2)
- 第15回 各自の主体的作品制作(帖巻又は大字大作)(3)

授業以外での学習方法

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **歴史学総合講義 <Z>**

担当者 松浦 京子・増淵 徹

テーマ

獲得目標

歴史教科書を読み直す。高校の日本史と世界史の教科書を再検討することによって、専門的な歴史学と高校までに学んできた歴史授業との本質的な違いを認識し、それを通じて、学問としての歴史学の面白さや奥深さを学ぶ。

授業の内容

日本史・世界史両分野の複数教員のリレー形式で、各担当者が1～2のテーマを設定して解説する形式で進める。

内 容

- 第1回 歴史教科書におけるイスラム(1)
 - 第2回 歴史教科書におけるイスラム(2)
 - 第3回 歴史教科書における中国史
 - 第4回 歴史教科書におけるイギリス史(1)
 - 第5回 歴史教科書におけるイギリス史(2)
 - 第6回 歴史教科書におけるドイツ史(1)
 - 第7回 歴史教科書におけるドイツ史(2)
 - 第8回 歴史教科書における日本古代史(1)
 - 第9回 歴史教科書における日本古代史(2)
 - 第10回 歴史教科書における日本中世史(1)
 - 第11回 歴史教科書における日本中世史(2)
 - 第12回 歴史教科書における日本近世史(1)
 - 第13回 歴史教科書における日本近世史(2)
 - 第14回 歴史教科書における日本近現代史(1)
 - 第15回 歴史教科書における日本近現代史(2)
-

授業以外での学習方法

参考文献は適宜紹介するので、その精読を期待する

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (歴) <A>

担当者 増淵 徹

テーマ

京都の歴史を材料に、歴史の学び方を身につける

獲得目標

素材としての史料を読むことにはじまり、レポートの作成・報告・修正・完成に至るまでの一連の作業手順を理解し、それを自力で展開できる基礎能力をつけることが第一の目標である。レポートの作成に際しては担当部分の現地の見学・図化・観察を必須の条件としており、空間の歴史性への関心をもつことと、それを観察する力の向上が第二の目標になる。

授業の内容

1780(安永9)年刊の『都名所図会』から材料を各参加者に割り当て、そこに描写された名所について調べ、その結果を報告し、質疑応答を行う形式で進行させる。また、早い段階に実際の調べ方を学ぶために学外授業を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 テキストの解説、授業展開の説明とレポート作成手順の解説
 - 第2回 図書館の実際の利用方法の解説、史料の読みと理解の実際(1)
 - 第3回 史料の読みと理解の実際(2)
 - 第4回 現地観察の方法(学外授業)
 - 第5回 個別発表と質疑(1)
 - 第6回 個別発表と質疑(2)
 - 第7回 個別発表と質疑(3)
 - 第8回 個別発表と質疑(4)
 - 第9回 個別発表と質疑(5)
 - 第10回 個別発表と質疑(6)
 - 第11回 個別発表と質疑(7)
 - 第12回 個別発表と質疑(8)
 - 第13回 個別発表と質疑(9)
 - 第14回 個別発表と質疑(10)
 - 第15回 完成レポート作成の指導
-

授業以外での学習方法

積極的に京都内外の歴史遺産を見学すること。とにかく活字を通して知識を豊富にすること。

教科書

都名所図会(該当部分コピー配布)

著者:

出版社: 京都叢書・版本

出版年:

ISBN:

参考書

京都の歴史

著者:

出版社: 学芸書林

出版年:

ISBN:

京の鴨川と橋

著者： 門脇禎二・朝尾直弘編

出版社： 思文閣出版

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（50）

参加度（30）

完成レポートの未提出者には単位修得を認めない。

小テスト（0）

授業中発表等（20）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (歴)

担当者 酒井 一臣

テーマ

歴史学入門 歴史を学ぶ楽しさ

獲得目標

この授業では、歴史学を志す学生に、歴史学とはどのような学問か、どのような方法で学べるのか、どのような意義があるのか、などを学んでもらうことを目的とします。

授業の内容

基礎学習のための講義・グループ発表・個人発表の順に授業を進めます。なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

内 容

- 第1回 歴史学へようこそ 歴史を学ぶ意義(授業参加者のグループ分け、ゼミリーダー決定)
 - 第2回 歴史学へようこそ 歴史学のテーマ(テーマの決め方、方法論)
 - 第3回 歴史学へようこそ 歴史学の学び方(本を探す)
 - 第4回 基礎文献を読む1(教員指定文献の輪読)
 - 第5回 基礎文献を読む2(教員指定文献の輪読)
 - 第6回 グループ発表会1
 - 第7回 グループ発表会2
 - 第8回 個人テーマ発表準備(教員が指定した範囲で個人テーマを決め、学習計画を立てます)
 - 第9回 個人テーマ発表準備(レジュメ作成法)
 - 第10回 個人テーマ発表会1
 - 第11回 個人テーマ発表会2
 - 第12回 個人テーマ発表会3
 - 第13回 個人テーマ発表会4
 - 第14回 個人テーマ発表会5
 - 第15回 個人テーマ発表会6
-

授業以外での学習方法

歴史学は未来を見通す学問です。現代の諸問題にも目を向けましょう。新聞を読む習慣が大切です。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

a10301a112

ゼミは、自分で調べ、人の調査に意見を述べ、自分の思考力をきたえることが目的です。無言は大敵です。ただ出席することを「参加」とはみなしません。高校までの教わることを中心とする学習から、自分でテーマを見つけて学習する姿勢が重要です。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (歴) <C>

担当者 尾下 成敏

テーマ

歴史学入門

獲得目標

歴史学の入門書を読み込む、あるいは歴史研究の基礎となる文献史料を読んで考察する、という一連の過程を行ってもらう。そのことによって、歴史学の研究手法についての理解を深めてもらいたい。

授業の内容

授業の前半では、イエズス会の宣教師ルイス・フロイスの著書「日欧文化比較」を読み、初歩的な考察を行ってもらう。後半では、江戸時代の人物に関する文献を読み、内容を要約した上で人物史を扱う際の問題点などを述べてもらう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス等
 - 第2回 ガイダンス等
 - 第3回 「日欧文化比較」の講読
 - 第4回 「日欧文化比較」の講読
 - 第5回 「日欧文化比較」の講読
 - 第6回 「日欧文化比較」の講読
 - 第7回 「日欧文化比較」の講読
 - 第8回 「日欧文化比較」の講読
 - 第9回 歴史学の入門書の講読
 - 第10回 歴史学の入門書の講読
 - 第11回 歴史学の入門書の講読
 - 第12回 歴史学の入門書の講読
 - 第13回 歴史学の入門書の講読
 - 第14回 歴史学の入門書の講読
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

講義中に指示する。

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (35)

授業中発表等 (35)

参加度 (30)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (歴) <D>

担当者 小野 浩

テーマ

世界史の文献史料の調査と発表

獲得目標

歴史研究における一次史料(根本史料)とは何なのかを、理解してもらうことが目標である。

授業の内容

歴史を研究するにあたってまず何よりも大切なのは史料である。史料に根拠を置かない議論は無意味だとさえ言えるかも知れない。概説書や研究論文を読むことはもちろん大切であるが、それだけでは本当の意味で歴史を勉強したことにはならない。この授業では一次史料とそれ以外のものとの違いを知ってもらうため、出席者各人に世界史のある時代ある地域を研究する際に不可欠な史料を1つ採り上げ報告させる。またその報告にもとづいた質疑応答も行う。発表者は必ずレジュメを用意し全員に配布する。時間は質疑応答を含め1人30分程度とし、1回の授業で2～3人が報告する。自分がどこに関心をもったのか、どの点に疑問を感じたのか、といった発表者自身の考えが前面に出た発表が望まれる。ただ単に事典、本の関係部分を抜き書きしたような報告は避けること。またいたずらに詳しいだけの報告は、その分野の知識をあまり持たない出席者にとりわかりにくいものとなるので、この点にも留意が必要である。毎回各発表に対する意見、感想を提出させる。最終回までに全員が発表を担当するよう、担当順番を設定して授業を進める。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 導論 一次史料とは何か? その1 歴史研究における史料の意味
- 第2回 導論 一次史料とは何か? その2 文献史料についての説明
- 第3回 過去の発表レジュメの具体的紹介
- 第4回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その1
- 第5回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その2
- 第6回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その3
- 第7回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その4
- 第8回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その5
- 第9回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その6
- 第10回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その7
- 第11回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その8
- 第12回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その9
- 第13回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その10
- 第14回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その11
- 第15回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その12 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (歴) <E>

担当者 松浦 京子

テーマ

世界史上の人物について研究する

獲得目標

歴史学科学学生として、学習研究していくうえで必須のスキルとメソッドの獲得をめざす

授業の内容

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、「自ら人物を選び、調べ、その上でその人物についてどのような視点(関心)から報告するかを考え、内容を整理し、発表する」練習を行なう。また、ゼミ生は、報告担当以外の場合、積極的に質疑に参加する訓練を行う。これらをゼミ生が実践できるようになるために、最初の5回を使って、教員がそのためのスキルとメソッドについて講義を行う。また、学生の発表報告に際しては、1週前の時点でレジュメの概要をもとに個別指導を行なう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 本演習のねらいについての解説: 卒論研究・執筆ための第一歩であり、今後の演習に必須のスキルとメソッドの習得
- 第2回 テーマ設定と問題提起についての説明: どのような歴史上の人物を選ぶべきか、人物をとおしてどのような歴史的問いかけができるのか 課題指示: 指定論文に関してテーマ、問題提起、内容、結論の要約
- 第3回 文献検索、収集のやり方についての解説: 図書館の検索システムを利用して実際に検索してみる(2、3回目は順不同)
- 第4回 問題設定に対する回答を得るための分析・整理: 第2回の課題を用いて、また模擬報告用レジュメを用いて、回答を得るための内容整理について考察検討し、レジュメ作成上の留意点を解説する
- 第5回 読み上げ原稿について、と模擬報告: 読み上げ原稿(400字詰め原稿用紙7~8枚程度)についての説明とレジュメを用いての模擬報告
- 第6回 これより、学生番号順に学生の発表報告①(報告時間は20分程度を目安とすると発表後の質疑応答、教員からのコメント)
- 第7回 学生発表報告②、質疑応答と教員からのコメント
- 第8回 学生発表報告③、質疑応答と教員からのコメント
- 第9回 学生発表報告④、質疑応答と教員からのコメント
- 第10回 学生発表報告⑤、質疑応答と教員からのコメント
- 第11回 学生発表報告⑥、質疑応答と教員からのコメント
- 第12回 学生発表報告⑦、質疑応答と教員からのコメント
- 第13回 学生発表報告⑧、質疑応答と教員からのコメント
- 第14回 学生発表報告⑨、質疑応答と教員からのコメント
- 第15回 学生発表報告⑩、質疑応答と教員からのコメント

授業以外での学習方法

発表に向けて文献収集、文献精読のうえでの報告内容の決定、レジュメならびに読み上げ原稿の作成。その過程で、教員と面談の上アドバイスを受けること。

教科書

参考書

適宜、指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40）

授業中発表等（30）

参加度（30）

授業中の課題には、発表報告後に、発表の際の読み上げ原稿を、教員からのコメントとゼミ生仲間からの指摘を参考にして書き改めて提出するレポートも含まれる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (歴) <F>

担当者 南 直人

テーマ

歴史学研究のための基礎的能力の育成

獲得目標

歴史学科で学ぶ意味について自分で考えとともに、世界史上の重要なトピックについて自分の力で調査し分析し発表する能力を修得する

授業の内容

以下の授業計画に沿っておこなう(なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある)

内 容

- 第1回 大学で学ぶことの意味を考える
 - 第2回 卒業後の進路、将来の人生設計を考える
 - 第3回 歴史学の意義、その社会的役割について考える
 - 第4回 歴史学とは何か、その方法論(1)
 - 第5回 歴史学とは何か、その方法論(2)
 - 第6回 歴史学とは何か、その方法論(3)
 - 第7回 研究発表・レジュメ作成のガイダンス
 - 第8回 個人別発表(1)
 - 第9回 個人別発表(2)
 - 第10回 個人別発表(3)
 - 第11回 個人別発表(4)
 - 第12回 個人別発表(5)
 - 第13回 個人別発表(6)
 - 第14回 個人別発表(7)
 - 第15回 まとめ・総括
-

授業以外での学習方法

発表者は必ずレジュメを準備し、さらに発表用の原稿を準備すること。また授業中に紹介する歴史に関する文献を各自読んでもらいたい。

教科書

歴史学ってなんだ？

著者： 小田中直樹

出版社： PHP新書

出版年： 2004

ISBN：

参考書

歴史を冒険するために

著者： 中谷功治

出版社： 関西学院大学出版会

出版年： 2008

ISBN：

わかる歴史 面白い歴史 役に立つ歴史

著者： 桃木至朗

出版社： 大阪大学出版会

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ 10 ）

参加度（ 40 ）

小テスト（ ）

授業中発表等（ 50 ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **歴史学入門講義**

担当者 松浦 京子・増淵 徹

テーマ

獲得目標

歴史教科書を読み直す。高校の日本史と世界史の教科書を再検討することによって、専門的な歴史学と高校までに学んできた歴史授業との本質的な違いを認識し、それを通じて、学問としての歴史学の面白さや奥深さを学ぶ。

授業の内容

日本史・世界史両分野の複数教員のリレー形式で、各担当者が1～2のテーマを設定して解説する形式で進める。

内 容

- 第1回 歴史教科書におけるイスラム(1)
 - 第2回 歴史教科書におけるイスラム(2)
 - 第3回 歴史教科書における中国史
 - 第4回 歴史教科書におけるイギリス史(1)
 - 第5回 歴史教科書におけるイギリス史(2)
 - 第6回 歴史教科書におけるドイツ史(1)
 - 第7回 歴史教科書におけるドイツ史(2)
 - 第8回 歴史教科書における日本古代史(1)
 - 第9回 歴史教科書における日本古代史(2)
 - 第10回 歴史教科書における日本中世史(1)
 - 第11回 歴史教科書における日本中世史(2)
 - 第12回 歴史教科書における日本近世史(1)
 - 第13回 歴史教科書における日本近世史(2)
 - 第14回 歴史教科書における日本近現代史(1)
 - 第15回 歴史教科書における日本近現代史(2)
-

授業以外での学習方法

参考文献は適宜紹介するので、その精読を期待する

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史概説 I

担当者 淵原 智幸

テーマ

日本の古代・中世史

獲得目標

高校レベルの日本史知識を復習しつつ、さらに掘り下げた内容を学んでいくことで、中世以前の日本史について、より深く、かつ多面的な理解を獲得する。

授業の内容

原始時代から戦国時代まで、日本史の流れを概観しつつ、各時代ごとに政治・社会・文化など様々な分野のトピックを取り上げていく。また、近年の研究動向についても、できるだけ言及し、高校レベルの(ないしは通俗的な)歴史イメージを相対化する視点を提供していく。

内 容

- 第1回 日本史のはじまり
 - 第2回 邪馬台国から倭王権へ
 - 第3回 古墳時代の政治・外交・文化
 - 第4回 聖徳太子、大化の改新、壬申の乱
 - 第5回 律令体制の成立と平城遷都
 - 第6回 奈良時代の政変と平安遷都
 - 第7回 摂関政治と承平・天慶の乱
 - 第8回 平安中後期の地方支配と武士
 - 第9回 院政と平氏政権
 - 第10回 鎌倉幕府の成立と承久の乱
 - 第11回 執権政治と蒙古襲来
 - 第12回 鎌倉幕府の滅亡と建武の新政
 - 第13回 南北朝動乱と足利義満の政治
 - 第14回 室町中期の政治と応仁の乱
 - 第15回 戦国時代
-

授業以外での学習方法

高校で日本史を選択しなかった者は、各自で高校日本史の教科書・参考書などを入手し、読んでおくことが望ましい。

教科書

毎回プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

より深く学びたい者には、下記の概説書を薦めておく。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

『日本の歴史』シリーズ

著者:

出版社: 講談社(学術文庫)

出版年:

ISBN:

『日本の時代史』シリーズ

著者:

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 東洋史概説 I

担当者 井上 徳子

テーマ

東洋史の流れを概説する。

獲得目標

古代から近代までの歴史の流れと各時代の特徴を把握することを目標とする。

授業の内容

前近代の中国史を中心に、それぞれの時代に特徴的な事象を各回取り上げ、掘り下げながら、その時代の特徴を考える。授業では一次史料を紹介しつつ、政治史に偏らず、社会経済・文化も取り上げる予定である。ただし、以下の講義計画はあくまで予定であり、扱う対象などに変更が生じることがあることを承知されたい。また、時々、受講生にあらかじめ課題を与え、翌週の授業までにテキスト・参考書などを利用して各自解答を作成してくることを求めることがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 原人・新石器時代
 - 第3回 殷
 - 第4回 周
 - 第5回 春秋・戦国時代
 - 第6回 秦
 - 第7回 漢
 - 第8回 三国時代
 - 第9回 魏晋南北朝
 - 第10回 隋唐
 - 第11回 宋
 - 第12回 モンゴル時代
 - 第13回 明
 - 第14回 清
 - 第15回 19世紀の中国
-

授業以外での学習方法

高等学校の世界史Bの学習を前提とした授業である。世界史Bの教科書レベルの内容を知って授業に臨むこと。また概説書などを積極的に読み、知識の一層の習得に努めて欲しい。

教科書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

中国の歴史 上 古代—中世

著者: 愛宕元+富谷至編

出版社: 昭和堂

出版年: 2005年

ISBN: 4-8122-0428-3

中国の歴史 下 近世—近現代

著者： 愛宕元＋森田憲司編

出版社： 昭和堂

出版年： 2005年

ISBN： 4-8122-0429-1

その他は授業中に指示する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（60）

授業中課題（20）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 西洋史概説 I

担当者 佐藤 専次

テーマ

ヨーロッパ世界の形成と発展

獲得目標

統一したヨーロッパ世界がどのように形成されたかを理解する。

授業の内容

古代末期の3世紀から中世世界が崩壊していく14,15世紀までのヨーロッパ史を扱う。地中海に基礎を置く古代ローマ帝国が崩壊しアルプス以北を中心とした西欧世界がいかに形成されるのか、そしてその世界がどのように展開していくのかを概観する。

内 容

- 第1回 ヨーロッパの地理・言語・宗教
 - 第2回 後期帝政とローマ帝国の崩壊
 - 第3回 ケルト人とゲルマン人
 - 第4回 ゲルマンの民族移動と部族王国
 - 第5回 イスラームの地中海進出
 - 第6回 東ローマ帝国の変容
 - 第7回 フランク王国とメロヴィング朝
 - 第8回 カール大帝とカロリング帝国
 - 第9回 第2次民族移動とイングランド王国の形成
 - 第10回 産業技術の革新・農業生産力の向上・人口の増大
 - 第11回 グレゴリウス改革と叙任権闘争
 - 第12回 十字軍と西欧世界の拡大
 - 第13回 12世紀ルネサンスと大学の誕生
 - 第14回 都市の発達
 - 第15回 黒死病と「危機」の時代
-

授業以外での学習方法

講義では、高等学校の世界史の教科書程度の知識は必要になる。下記の教科書を読むのが望ましい。

教科書

教養のための西洋史入門

著者： 中井義明・他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 考古学概説 I

担当者 五十川 伸矢

テーマ

考古学研究が明らかにした時代観・技術史

獲得目標

あな(遺構)・もの(遺物)で構成されている遺跡を、どのように解釈するかという方法と考古学研究が明らかにしてきた過去の社会像、土器・金属器・瓦などの出土遺物の精緻な研究成果を理解する。

授業の内容

時代順に、考古学的な成果によって推定される時代変遷を解説するとともに、研究の進んでいる土器・金属・瓦の研究成果を説明する。

内 容

- 第1回 考古学研究の方法とその特徴
- 第2回 狩猟採集の社会——縄文時代
- 第3回 狩猟採集から農耕へ——弥生時代
- 第4回 金属生産の開始——銅鐸の変遷と祭祀
- 第5回 大墓の時代——古墳時代
- 第6回 学外授業 物集女車塚古墳見学
- 第7回 歴史時代の考古学
- 第8回 土器の語る世界①——古代・中世の土器概説
- 第9回 土器の語る世界②——輸入陶磁器
- 第10回 学外授業 考古学関連博物館展覧の参観
- 第11回 金属生産の歴史①——青銅鑄物
- 第12回 金属生産の歴史②——鑄鉄鑄物
- 第13回 古代瓦の美——飛鳥・白鳳・天平の甕
- 第14回 古代の平瓦作り——失われた伝統技術
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている資料を観察して歴史的な意義について学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学A I (中世) <Za>

担当者 米澤 洋子

テーマ

古文書の様式を学ぶ

獲得目標

古代・中世における古文書の各様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を修得する。

授業の内容

最初は講義形式で古文書学の概要を説明し、各様式の古文書を受講者に割り当て読んでもらう。この講義はくずし字の解説が主ではないので注意。

内 容

- 第1回 インTRODakシヨン ー講義の進め方ー
- 第2回 概論(1) 古文書とは？古文書学とは？
- 第3回 概論(2) 古文書の伝来
- 第4回 概論(3) 古文書学用語の基礎知識
- 第5回 概論(4) 古文書の分類方法
- 第6回 概論(5) 律令制と文書行政
- 第7回 古文書の様式 I 公式様文書(1)
- 第8回 古文書の様式 I 公式様文書(2)
- 第9回 古文書の様式 I 公式様文書(3)
- 第10回 古文書の様式 I 公式様文書(4)
- 第11回 古文書の様式 II 公家様文書(1)
- 第12回 古文書の様式 II 公家様文書(2)
- 第13回 古文書の様式 II 公家様文書(3)
- 第14回 古文書の様式 II 公家様文書(4)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

講義の限られた時間内で扱える古文書は少ないので、各自で古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書に挙げた書籍を読んだり、図録に掲載された古文書の写真などに目を通す。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版局

出版年： 1997

ISBN:

概説古文書学 古代・中世編

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983

ISBN:

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976

ISBN:

成績評価

試験（ ）

小テスト（ 50 ）

授業中課題（ 20 ）

授業中発表等（ 20 ）

参加度（ 10 ）

单元ごとに確認の小テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価の対象とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学A I (中世) <Zb>

担当者 米澤 洋子

テーマ

古文書の様式を学ぶ

獲得目標

古代・中世における古文書の各様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を修得する。

授業の内容

最初は講義形式で古文書学の概要を説明し、各様式の古文書を受講者に担当を割り当て読んでもらう。この講義はくずし字の解読が主ではないので注意。

内 容

- 第1回 インTRODakシヨン ー講義の進め方ー
- 第2回 概論(1) 古文書とは？古文書学とは？
- 第3回 概論(2) 古文書の伝来
- 第4回 概論(3) 古文書学用語の基礎知識
- 第5回 概論(4) 古文書の分類方法
- 第6回 概論(5) 律令制と文書行政
- 第7回 古文書の様式 I 公式様文書(1)
- 第8回 古文書の様式 I 公式様文書(2)
- 第9回 古文書の様式 I 公式様文書(3)
- 第10回 古文書の様式 I 公式様文書(4)
- 第11回 古文書の様式 II 公家様文書(1)
- 第12回 古文書の様式 II 公家様文書(2)
- 第13回 古文書の様式 II 公家様文書(3)
- 第14回 古文書の様式 II 公家様文書(4)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

講義の限られた時間内で扱える古文書は少ないので、各自で古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書に挙げた書籍を読んだり、図録に掲載された古文書の写真などに目を通す。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版局

出版年： 1997

ISBN:

概説古文書学 古代・中世編

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983

ISBN:

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976

ISBN:

成績評価

試験（ ）

小テスト（ 50 ）

授業中課題（ 20 ）

授業中発表等（ 20 ）

参加度（ 10 ）

单元ごとの確認の小テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価の対象とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史特講g(近現代史) <Z>

担当者 酒井 一臣

テーマ

日本近現代史理解のためのポイント(戦中・戦後編)

獲得目標

現代史理解には、社会科学の知識が欠かせません。太平洋戦争から現代までの日本史で議論的になっていることを論じます。この授業では、政治学や国際関係論との接点にも注意を向けてもらい、現代史を理解するための基礎的知識獲得を目的とします。

授業の内容

概念整理を中心に重要な事例を取り上げます。通史的な内容は、授業中に紹介する参考文献などで学習してください。高校のときに使用していた日本史の教科書がある人は、現代史のところを読んでおいてください。

内 容

- 第1回 「大東亜」戦争 アジアの盟主
 - 第2回 敗戦 連続か断絶か
 - 第3回 戦後史の可能性 政治学と歴史学
 - 第4回 日本国憲法 歴史的な位置づけ
 - 第5回 吉田茂 ワンマンか名宰相か
 - 第6回 55年体制(1) 冷戦史の文脈
 - 第7回 安保体制 岸信介の決断
 - 第8回 エコノミックアニマル 高度経済成長
 - 第9回 アジア外交(1) 二つの中国・二つの朝鮮
 - 第10回 アジア外交(2) 軍服をスーツに替えて
 - 第11回 新自由主義の登場 戦後政治の総決算
 - 第12回 バブル経済 歴史の教訓
 - 第13回 日本型社会主義 第三の道はあるのか
 - 第14回 55年体制(2) 歴史は終わらない
 - 第15回 現代史の方法 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読んでください。

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本外交史入門(仮題)

著者: 酒井一臣

出版社: 昭和堂

出版年: 2013年4月刊行予定

ISBN:

成績評価

a103025910

試験 (0)
授業中課題 (20)
参加度 (10)

小テスト (70)
授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史特講i(ヨーロッパ・アメリカ史 I) <Z>

担当者 爲政 雅代

テーマ

旅して学ぶドイツの近現代史

獲得目標

近現代ドイツの歴史についてテーマに即して概観し、ドイツが抱える特質について理解する。

授業の内容

近現代ドイツの歴史を概説的に説明した上で、関連するドイツ各地の歴史遺産を紹介し、ドイツを旅するような感覚で歴史を学ぶ授業を展開する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 ドイツ統一
 - 第3回 世界帝国への道
 - 第4回 ワイマール民主主義
 - 第5回 ナチスの台頭
 - 第6回 ヒトラーへの抵抗運動
 - 第7回 ホロコースト
 - 第8回 復興から経済大国へ
 - 第9回 ヨーロッパ統合とドイツ
 - 第10回 1968年の学生運動
 - 第11回 環境保護と原発
 - 第12回 ドイツ再統一
 - 第13回 心の壁とオスタルギー
 - 第14回 移民国家ドイツ
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

参考文献を各自で適宜、読み進めること。(参考文献リストは初回授業で配布する。)

教科書

参考書

成績評価

試験 (90)

授業中課題 (10)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史特講k(ヨーロッパ・アメリカ史Ⅲ) <Z>

担当者 松浦 京子

テーマ

イギリスの社会と生活文化1

獲得目標

ヨーロッパ大陸の西端に位置する島国であるイギリスは、大陸からの影響を受けつつ独自の社会構造や生活文化を形成し、中世の辺境国家から出発して近世、近代には列強国家となった。このような歩みをとげたイギリスの、特に社会の変容に着目しつつ、その歴史の独自性と西洋的普遍性を理解する。

授業の内容

中世には強力な王権の下に軍事封建制社会を生み出し、近世以降は、いち早く中央集権国家となる一方で、新大陸へ進出し重商主義帝国を形成したイギリスの歩みをたどる。

内 容

- 第1回 イギリスという国 ー諸民族の到来と中世イングランド国家の誕生
- 第2回 軍事封建制と騎士、そして荘園 ー土地保有の諸相
- 第3回 封建社会の変容 ー身分制議会と農奴解放
- 第4回 封建体制の解体 ー百年戦争とバラ戦争
- 第5回 王権と議会① ーイングランド宗教改革
- 第6回 王権と議会② ー内乱と革命
- 第7回 近世の社会構造 ー支配するジェントルマン
- 第8回 インターミッション ー中間まとめ
- 第9回 商業革命 ー重商主義帝国の形成
- 第10回 帝国の社会史① ー植民地へ行く人々(自由移民、兵士)
- 第11回 帝国の社会史② ー植民地へ行く人々(年奉公人、流刑者)
- 第12回 ライフ・サイクル・サーヴァント制 ー若年者移民の背景
- 第13回 農業革命 ー資本主義的農場経営と農村からの労働力解放
- 第14回 旧救貧法 ー農場労働者の生活扶助
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

中世・近世イギリス史に関する研究文献を出来るだけ幅広く熟読すること

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミ I <a>

担当者 増淵 徹

テーマ

古代の法から社会像を考える

獲得目標

『類聚三代格』をテキストに、太政官符などの古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的方法論の修得を第一の目標とする。

授業の内容

参加者各自に官符などを割り当て、その読み下し、訳、考察等をレポートとして提出し、それを教員が補足・解説する形式で進める。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めねばならない。この点を補完する手段として、史料訓読の課題を課す。なお、学外授業のほか、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 授業解説、テキストの解説(1)
- 第2回 テキストの解説(2)、図書館の活用方法やレポートの作成方法の解説
- 第3回 史料の読み方と理解の実際(1)
- 第4回 史料の読み方と理解の実際(2)
- 第5回 個別発表(1)
- 第6回 個別発表(2)
- 第7回 個別発表(3)
- 第8回 個別発表(4)
- 第9回 個別発表(5)
- 第10回 個別発表(6)
- 第11回 古代史関係の歴史遺産見学(学外授業)
- 第12回 個別発表(7)
- 第13回 個別発表(8)
- 第14回 個別発表(9)
- 第15回 歴史研究の方法論と史料分析(まとめ)

授業以外での学習方法

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。

教科書

類聚三代格(該当部分コピー配布)

著者: 黒板勝美編(国史大系)

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

参考書

日本の時代史4 律令国家と天平文化

著者: 佐藤 信 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

日本の時代史5 平安京

著者: 吉川真司 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

日本の時代史6 摂関政治と王朝文化

著者: 加藤友康 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

日本歴史大系2 律令国家の展開

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

日本歴史大系3 貴族政治と武士

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本史基礎ゼミ I **

担当者 山田 徹

テーマ

百練抄を読む

獲得目標

日本中世史料を読解する能力を養う。

授業の内容

テキストは、朝廷の記録書である百練抄を使用する。最初の数回は、和様漢文の基礎を理解するため、簡単な記事を集中的に読む。慣れてきたら、治承・寿永の内乱に関する記事を中心に、講読していくこととする。

内 容

- 第1回 授業解説
 - 第2回 百練抄の講読(1)
 - 第3回 百練抄の講読(2)
 - 第4回 百練抄の講読(3)
 - 第5回 百練抄の講読(4)
 - 第6回 百練抄の講読(5)
 - 第7回 百練抄の講読(6)
 - 第8回 百練抄の講読(7)
 - 第9回 百練抄の講読(8)
 - 第10回 百練抄の講読(9)
 - 第11回 百練抄の講読(10)
 - 第12回 百練抄の講読(11)
 - 第13回 百練抄の講読(12)
 - 第14回 百練抄の講読(13)
 - 第15回 百練抄の講読(14) ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

史料について、予習と復習をおこなうこと。昨年大河ドラマもあって、この時代に関する多くの本が売られています。最新の研究成果が示された本を、ぜひ手に取ってみてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (60)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミ I <c>

担当者 尾下 成敏

テーマ

江戸時代の文献史料を読む

獲得目標

江戸時代の漢文史料に慣れ、この時代について理解を深める。

授業の内容

江戸時代の京都町奉行所に関する史料(御触頭書)や幕府・藩に関する史料(譜代大名松平忠利の日記)を読み進めることにする。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳・事項解説の作成と報告。また、③史料を読んで気になった点を報告する。

内 容

- 第1回 ガイダンス・テキストに関する概説
- 第2回 テキストに関する概説
- 第3回 御触頭書の講読(第3回から第5回までの間に小テストを1回実施)
- 第4回 御触頭書の講読
- 第5回 松平忠利の日記の講読
- 第6回 松平忠利の日記の講読(第6回から第15回までの間に小テストを1回実施)
- 第7回 松平忠利の日記の講読
- 第8回 松平忠利の日記の講読
- 第9回 松平忠利の日記の講読
- 第10回 松平忠利の日記の講読
- 第11回 松平忠利の日記の講読
- 第12回 松平忠利の日記の講読
- 第13回 松平忠利の日記の講読
- 第14回 松平忠利の日記の講読
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料に慣れ親しんで欲しい。

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（ ）

小テスト（20）

授業中課題（25）

授業中発表等（25）

参加度（30）

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミ I <d>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

幕末・明治の各種史料を読む

獲得目標

日本近代史の史料を確実に読める能力を養う

授業の内容

下記のテーマに関する史料を通読し、幕末・明治の時代状況もあわせて知るようになる。

内 容

- 第1回 史料解読の方法
 - 第2回 幕末という時代についての説明
 - 第3回 幕末の京都についての説明
 - 第4回 「池田屋事件」
 - 第5回 「禁門の変」
 - 第6回 「安政の大獄」
 - 第7回 「薩長盟約」
 - 第8回 「大政奉還」
 - 第9回 「王政復古の号令」
 - 第10回 「鳥羽・伏見の戦い」
 - 第11回 大政奉還から鳥羽・伏見の戦いまでの説明
 - 第12回 「大坂遷都の建白書」
 - 第13回 「琵琶湖疏水」
 - 第14回 同上
 - 第15回 明治の京都についてのまとめ
-

授業以外での学習方法

京都には幕末・明治の史蹟が数多くある。京都を散策して欲しい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミ I <a>

担当者 松浦 京子

テーマ

西洋史上の著名な史料(英文)を読む

獲得目標

英文史料を精読しその史料から何を読み取れるかを考え、史料解読の方法を理解することをめざす

授業の内容

Weidenfeld and Nicolson社刊のIllustrated History of Europeに掲載されている抜粋史料を年代順に読んでいく。ヘロドトスの『歴史』、アリストテレスの『アテナイの国制』からはじまって、タキトゥスの『ゲルマニア』や『年代記』、各種中世年代記、教皇文書、議会文書、思想家の著作、旅行記、『エンサイクロペディア』、王令・布告、新聞、日記、書簡、条約など、歴史研究において重要な史料を読み、その内容から何が読み取れるかを考える。各史料の翻訳とその意味内容の解説と関連する歴史事象についての報告を受講生各自が分担し行なう。翻訳に関しては、発表報告の最低でも2週間前には全訳文を教員に提出し添削をうけなければならない。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 テキストの解説と分担の決定
- 第2回 史料輪読①
- 第3回 教員による模擬史料購読、解説①
- 第4回 ゼミ生報告①と質疑応答
- 第5回 ゼミ生報告②と質疑応答
- 第6回 ゼミ生報告③と質疑応答
- 第7回 ゼミ生報告④と質疑応答
- 第8回 ゼミ生報告⑤と質疑応答
- 第9回 教員による模擬史料購読、解説②
- 第10回 ゼミ生報告⑥と質疑応答
- 第11回 ゼミ生報告⑦と質疑応答
- 第12回 ゼミ生報告⑧と質疑応答
- 第13回 ゼミ生報告⑨と質疑応答
- 第14回 ゼミ生報告⑩と質疑応答
- 第15回 これまでの総括と課題提出

授業以外での学習方法

各自担当部分の翻訳と関連文献の精読。史料上の専門用語(歴史用語)に関する下調べ。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミ I

担当者 王 衛明

テーマ

中国古代史に関する基本研究法の実践

獲得目標

中国史を研究するために、その前提となる漢文史料の読解や研究論文の読み込みの技術及び文献の調査方法を身につける。
Ⅰ 中国史の基本知識をもつため、基本的な論文・資料を読む。Ⅱ 古代中国の政治、思想、文化、文物制度の基本知識を身につける。Ⅲ それぞれが関心を持つテーマについてどのような文献探索が必要なのか、を指導する。

授業の内容

内 容

- 第1回 中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅰ
- 第2回 中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅱ
- 第3回 中国史研究の基本史料となる『二十四史』使用の意味Ⅲ
- 第4回 中国史研究の基本論文・資料を読むⅠ—資料から何を読みとるかを考える
- 第5回 中国史研究の基本論文・資料を読むⅡ—資料から何を読みとるかを考える
- 第6回 中国史研究の基本論文・資料を読むⅢ—資料から何を読みとるかを考える
- 第7回 必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する
- 第8回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
- 第9回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
- 第10回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
- 第11回 必要に応じて、史料に出ている京都・奈良の文化史蹟を見学する
- 第12回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
- 第13回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
- 第14回 それぞれが関心を持つテーマについて報告した上、漢文資料を講読する
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 現代史基礎ゼミ I <a>

担当者 南 直人

テーマ

現代史(ヨーロッパ・アメリカ)の専門研究への入門

獲得目標

専門的な現代史(ヨーロッパ・アメリカ)研究のために必要な基礎的知識・技法の修得をめざす。

授業の内容

西洋史学(近現代)の概説的／専門的知識、専門研究のスタイル、近年における種々の専門的研究テーマについて学習する。そのために、概説書から適宜テーマを選定し、各人がそれぞれ指定されたテーマについて発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外講師の講演会をそれぞれ1回程度おこなうこともある。

内 容

- 第1回 歴史学の意義について考える、進路／就職についても考える
 - 第2回 現代史(西洋史)研究へのイントロダクション
 - 第3回 西洋近世史概説(1)
 - 第4回 西洋近世史概説(2)
 - 第5回 西洋近世史概説(3)
 - 第6回 西洋近代史概説(1)
 - 第7回 西洋近代史概説(2)
 - 第8回 西洋近代史概説(3)
 - 第9回 西洋近代史概説(4)
 - 第10回 西洋現代史概説(1)
 - 第11回 西洋現代史概説(1)
 - 第12回 西洋現代史概説(2)
 - 第13回 西洋現代史概説(3)
 - 第14回 西洋現代史概説(4)
 - 第15回 まとめ・発表
-

授業以外での学習方法

教科書

大学で学ぶ西洋史[近現代]

著者: 小山哲他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011年

ISBN:

参考書

ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2001年

ISBN:

近代ヨーロッパ史

著者： 福井憲彦

出版社： 放送大学教育振興会

出版年： 2005年

ISBN:

ヨーロッパの歴史

著者： 江川温等

出版社： 放送大学教育振興会

出版年： 2005年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学A I (古代・中世) <a>

担当者 米澤 洋子

テーマ

古文書の様式を学ぶ

獲得目標

古代・中世における古文書の各様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を修得する。

授業の内容

最初は講義形式で古文書学の概要を説明し、各様式の古文書を受講者に割り当て読んでもらう。この講義はくずし字の解説が主ではないので注意。

内 容

- 第1回 インTRODakシヨン ー講義の進め方ー
- 第2回 概論(1) 古文書とは？古文書学とは？
- 第3回 概論(2) 古文書の伝来
- 第4回 概論(3) 古文書学用語の基礎知識
- 第5回 概論(4) 古文書の分類方法
- 第6回 概論(5) 律令制と文書行政
- 第7回 古文書の様式 I 公式様文書(1)
- 第8回 古文書の様式 I 公式様文書(2)
- 第9回 古文書の様式 I 公式様文書(3)
- 第10回 古文書の様式 I 公式様文書(4)
- 第11回 古文書の様式 II 公家様文書(1)
- 第12回 古文書の様式 II 公家様文書(2)
- 第13回 古文書の様式 II 公家様文書(3)
- 第14回 古文書の様式 II 公家様文書(4)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

講義の限られた時間内で扱える古文書は少ないので、各自で古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書に挙げた書籍を読んだり、図録に掲載された古文書の写真などに目を通す。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版局

出版年： 1997

ISBN:

概説古文書学 古代・中世編

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983

ISBN:

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976

ISBN:

成績評価

試験（ ）

小テスト（ 50 ）

授業中課題（ 20 ）

授業中発表等（ 20 ）

参加度（ 10 ）

单元ごとに確認の小テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価の対象とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学A I (古代・中世)

担当者 米澤 洋子

テーマ

古文書の様式を学ぶ

獲得目標

古代・中世における古文書の各様式について理解し、古文書を使って歴史研究をするための基礎的な知識と方法を修得する。

授業の内容

最初は講義形式で古文書学の概要を説明し、各様式の古文書を受講者に担当を割り当て読んでもらう。この講義はくずし字の解読が主ではないので注意。

内 容

- 第1回 インTRODakション ―講義の進め方―
- 第2回 概論(1) 古文書とは？古文書学とは？
- 第3回 概論(2) 古文書の伝来
- 第4回 概論(3) 古文書学用語の基礎知識
- 第5回 概論(4) 古文書の分類方法
- 第6回 概論(5) 律令制と文書行政
- 第7回 古文書の様式 I 公式様文書(1)
- 第8回 古文書の様式 I 公式様文書(2)
- 第9回 古文書の様式 I 公式様文書(3)
- 第10回 古文書の様式 I 公式様文書(4)
- 第11回 古文書の様式 II 公家様文書(1)
- 第12回 古文書の様式 II 公家様文書(2)
- 第13回 古文書の様式 II 公家様文書(3)
- 第14回 古文書の様式 II 公家様文書(4)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

講義の限られた時間内で扱える古文書は少ないので、各自で古文書に触れる機会を作る。具体的には参考書に挙げた書籍を読んだり、図録に掲載された古文書の写真などに目を通す。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者： 佐藤進一

出版社： 法政大学出版局

出版年： 1997

ISBN:

概説古文書学 古代・中世編

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1983

ISBN:

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

单元ごとの確認の小テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価の対象とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学B I (近世) <a>

担当者 牧 知宏

テーマ

日本近世の古文書

獲得目標

日本近世の古文書・くずし字を読み解くための基礎的能力を身につけることを目的とします。

授業の内容

授業では、事前に配付した古文書のコピーを読み進めていきます。日本近世の古文書やくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、主に近世京都に関する古文書を取りあげ、その字体や文章について学習します。

内 容

- 第1回 ガイダンス 近世の古文書とは
 - 第2回 古文書・くずし字の基礎知識
 - 第3回 初級の古文書を読む1
 - 第4回 初級の古文書を読む2
 - 第5回 近世京都の古文書(洛中の文書)を読む1
 - 第6回 近世京都の古文書(洛中の文書)を読む2
 - 第7回 近世京都の古文書(洛中の文書)を読む3
 - 第8回 近世京都の古文書(洛中の文書)を読む4
 - 第9回 近世京都の古文書(洛中の文書)を読む5
 - 第10回 近世京都の古文書(洛外の文書)を読む1
 - 第11回 近世京都の古文書(洛外の文書)を読む2
 - 第12回 近世京都の古文書(洛外の文書)を読む3
 - 第13回 近世京都の古文書(洛外の文書)を読む4
 - 第14回 近世京都の古文書(洛外の文書)を読む5
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を行うことが大切です。とくに古文書を声を出しながら何度も読むこと、読めなかった字をなぞって書くことが重要です。

教科書

なし、適宜配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

逐次紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a10302d310

試験 (40)

小テスト (15)

授業中課題 ()

授業中発表等 (20)

参加度 (25)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなるのはもちろん、成績評価にも結びつきます。この点をよく心得ておいてください。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学B I (近世)

担当者 佐竹 朋子

テーマ

日本近世の古文書

獲得目標

日本近世の古文書(くずし字)を解読することを目的とします。

授業の内容

日本近世の古文書やくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、近世の様々なタイプの古文書を取りあげ、その字体や文章について学習します。授業は、事前に配付した古文書のコピーを読んできていきます。

内 容

- 第1回 古文書とくずし字(1)
- 第2回 古文書とくずし字(2)
- 第3回 古文書とくずし字(3)
- 第4回 変体仮名を読む(1)
- 第5回 変体仮名を読む(2)
- 第6回 変体仮名を読む(3)
- 第7回 武家に関する古文書(1)
- 第8回 武家に関する古文書(2)
- 第9回 武家に関する古文書(3)
- 第10回 武家に関する古文書(4)
- 第11回 町に関する古文書(1)
- 第12回 町に関する古文書(2)
- 第13回 村に関する古文書(1)
- 第14回 村に関する古文書(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を積み重ねることが何よりも大切です。予習では、配布された古文書のコピーについて翻刻をおこない、書き下しを作成して下さい。復習では、授業で学んだ古文書を、声に出して何度も読み下して下さい。また、博物館や資(史)料館などを訪れて、古文書の原物や写真を見ましょう。地元や京都における近世の歴史に関心を持ちましょう。

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者： 児玉幸多編

出版社： 東京堂出版

出版年： 1993

ISBN:

くずし字解読辞典

著者： 児玉幸多編

出版社： 東京堂出版

出版年： 1993

ISBN:

成績評価

試験（50）

授業中課題（ ）

参加度（40）

小テスト（10）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学C I (近世)

担当者 尾下 成敏

テーマ

上級・中級の古文書(1)

獲得目標

古文書の読解能力を高める。

授業の内容

本学所蔵文書の原本、ないしは原本の写真などをテキストに授業を進める。まずは課題史料を学務第一課で受け取り(4月2日～4月6日)、そのレポートを第一回目の授業で必ず提出すること。提出しない者の受講は一切みとめない。また難解なくずし字を読むことがあるので、古文書学B I・B II (いずれも近世)の2科目を履修していることが、受講にさいしての必要条件となる。なお、この授業は、将来大学院進学をめざす学生や、くずし字を学ぶことが好きな学生のために開講されている。また夏季休暇中に、自由参加という形で、本学所蔵文書の整理や写真撮影を行うことがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 古文書の解読
- 第3回 古文書の解読
- 第4回 古文書の解読
- 第5回 古文書の解読
- 第6回 古文書の解読
- 第7回 古文書の解読
- 第8回 古文書の解読
- 第9回 古文書の解読
- 第10回 古文書の解読
- 第11回 古文書の解読
- 第12回 古文書の解読
- 第13回 古文書の解読
- 第14回 古文書の解読
- 第15回 本学所蔵文書の熟覧

授業以外での学習方法

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を行うことが大切である、とくに古文書を声を出しながら何度も読むこと、読めなかった字を何度も書くことは大事であろう。

教科書

受講生のほうで用意する必要はない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

a10302d710

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史特講a(古代史)

担当者 増淵 徹

テーマ

日記を読む

獲得目標

平安期の貴族社会に関する知識を増やし、諸種の史料から総合的に歴史像を再構成する資質を養う。

授業の内容

10世紀末～11世紀前期は『小右記』『御堂閔白記』『権記』等の貴族日記が遺存する、史料的には恵まれた時期である。これらの日記の記述を主材料に、具体的な記事の分析を通して貴族社会の構造を考えていく内容とする。

内 容

- 第1回 日記概論①
- 第2回 日記概論②
- 第3回 日記の記事から①-女性の暴力-
- 第4回 日記の記事から②-下女の口論と集団乱闘-
- 第5回 日記の記事から③-事件処理と検非違使-
- 第6回 日記の記事から④-「因縁」「所縁」の世界-
- 第7回 日記の記事から⑤-因幡国愁訴事件とその背景①-
- 第8回 日記の記事から⑥-因幡国愁訴事件とその背景②-
- 第9回 日記の記事から⑦-主人と家司・家人①-
- 第10回 日記の記事から⑧-主人と家司・家人②-
- 第11回 看取られる死・見捨てられる生①
- 第12回 看取られる死・見捨てられる生②
- 第13回 日記の行方①-師輔日記の伝来-
- 第14回 日記の行方②-院政と日記の集約-
- 第15回 まとめ-日記再論- ※この授業では、学外授業を実施することがあります。

授業以外での学習方法

テキストとしては大日本古記録等の該当部分を配布するので、自身での読み取りが必要である。

教科書

参考書

日本の歴史5 王朝の貴族

著者： 土田直鎮

出版社： 中公文庫

出版年：

ISBN：

日本古代史6 摂関政治

著者： 古瀬奈津子

出版社： 岩波新書

出版年：

ISBN：

日記の家

著者： 松園 齊

出版社： 吉川弘文館

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本史特講d(中世史)**

担当者 田端 泰子

テーマ

社会経済史の視点で構築する日本中世社会

獲得目標

中世の社会体制を規定する荘園制の成立とその変質、それによる人々のくらしの変化、考え方の変化を知る。

授業の内容

社会経済史として社会がどう変化したかを基本に、そこに生きた人々の生活や思想にまで踏み込んで考える。

内 容

- 第1回 古代社会の中に生まれた荘園
 - 第2回 荘園公領制とは
 - 第3回 鎌倉幕府の成立と荘園の変化
 - 第4回 鎌倉期の村落
 - 第5回 「御百姓申状」の成立と南北朝内乱
 - 第6回 室町幕府の政策と荘園領有形態の変化
 - 第7回 守護、国人、土豪
 - 第8回 京の都の応仁・文明の乱
 - 第9回 室町・戦国期の農民闘争
 - 第10回 戦国期京都の様相
 - 第11回 西国の大名・毛利氏の領国形成
 - 第12回 東国の大名・今川、武田、後北条氏と東国社会
 - 第13回 織田信長の時代
 - 第14回 豊臣秀吉政権の諸課題
 - 第15回 荘園公領制の終焉と新しい動き
-

授業以外での学習方法

村落史、荘園史、政治史に関する著作に広く目を通しておくこと。

教科書

毎回レジュメ プリントを渡す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

中世村落の構造と領主制

著者: 田端泰子

出版社: 法政大学出版局

出版年: 1986

ISBN:

日本中世の社会と女性

著者： 田端泰子

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1988

ISBN:

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史特講e(近世史)

担当者 藤田 恒春

テーマ

豊臣秀吉とその時代

獲得目標

16世紀後期の日本社会を考える

授業の内容

16世紀後期の約30年間は、日本社会が中世から近世へと移り変わる時代であった。庶民の立場から天下人と称されるまでになった豊臣秀吉を通してこの時代を見ていく。

内 容

- 第1回 NHK大河ドラマについて考える
 - 第2回 大航海時代の日本、その1
 - 第3回 大航海時代の日本、その2
 - 第4回 鉄炮伝来と戦国時代の終焉
 - 第5回 織田信長の台頭
 - 第6回 室町幕府の滅亡
 - 第7回 安土城築城
 - 第8回 本願寺との対決
 - 第9回 本能寺の変
 - 第10回 秀吉の台頭
 - 第11回 大坂城築城
 - 第12回 関白任官
 - 第13回 宣教師がみた秀吉
 - 第14回 秀吉書状にみえる秀吉像
 - 第15回 前期のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

日本近世の歴史1 天下人の時代

著者： 藤井譲治

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011年

ISBN:

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本女性史特講 I

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

獲得目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態などの面から会得する。

授業の内容

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

内 容

- 第1回 原始・古代の女性労働
 - 第2回 都城の変遷と女性の生活
 - 第3回 律令制下の女性の地位
 - 第4回 平安京の成立
 - 第5回 女房としての紫式部
 - 第6回 平安女性の財産相続権
 - 第7回 平氏政権下の女性
 - 第8回 院政期の女院と女房
 - 第9回 武士の登場・武士の女性
 - 第10回 鎌倉幕府法にみる娘、妻、母、後家
 - 第11回 平安時代の出産、鎌倉時代の出産
 - 第12回 北条政子の生涯とその役割
 - 第13回 南北朝期、女性の地位変化
 - 第14回 日野重子と日野富子
 - 第15回 古代・中世の女性の地位をめぐって
-

授業以外での学習方法

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい。

教科書

参考書

日本女性史

著者： 脇田・林・永原編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1987

ISBN：

乳母の力

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2005

ISBN：

日本中世女性史論

著者： 田端泰子著

出版社： 塙書房

出版年： 1994

ISBN：

北政所おね

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN：

細川ガラシャ

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN：

日本中世の村落・女性・社会

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011

ISBN：

成績評価

試験（80）

小テスト（20）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 近現代史特講a(日本)

担当者 酒井 一臣

テーマ

日本近現代史理解のためのポイント(戦中・戦後編)

獲得目標

現代史理解には、社会科学の知識が欠かせません。太平洋戦争から現代までの日本史で議論的になっていることを論じます。この授業では、政治学や国際関係論との接点にも注意を向けてもらい、現代史を理解するための基礎的知識獲得を目的とします。

授業の内容

概念整理を中心に重要な事例を取り上げます。通史的な内容は、授業中に紹介する参考文献などで学習してください。高校のときに使用していた日本史の教科書がある人は、現代史のところを読んでおいてください。

内 容

- 第1回 「大東亜」戦争 アジアの盟主
- 第2回 敗戦 連続か断絶か
- 第3回 戦後史の可能性 政治学と歴史学
- 第4回 日本国憲法 歴史的な位置づけ
- 第5回 吉田茂 ワンマンか名宰相か
- 第6回 55年体制(1) 冷戦史の文脈
- 第7回 安保体制 岸信介の決断
- 第8回 エコノミックアニマル 高度経済成長
- 第9回 アジア外交(1) 二つの中国・二つの朝鮮
- 第10回 アジア外交(2) 軍服をスーツに替えて
- 第11回 新自由主義の登場 戦後政治の総決算
- 第12回 バブル経済 歴史の教訓
- 第13回 日本型社会主義 第三の道はあるのか
- 第14回 55年体制(2) 歴史は終わらない
- 第15回 現代史の方法 全体のまとめ

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読んでください。

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本外交史入門(仮題)

著者: 酒井一臣

出版社: 昭和堂

出版年: 2013年4月刊行予定

ISBN:

成績評価

a10302e710

試験 (0)
授業中課題 (20)
参加度 (10)

小テスト (70)
授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 近現代史特講c(世界)

担当者 爲政 雅代

テーマ

旅して学ぶドイツの近現代史

獲得目標

近現代ドイツの歴史についてテーマに即して概観し、ドイツが抱える特質について理解する。

授業の内容

近現代ドイツの歴史を概説的に説明した上で、関連するドイツ各地の歴史遺産を紹介し、ドイツを旅するような感覚で歴史を学ぶ授業を展開する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 ドイツ統一
 - 第3回 世界帝国への道
 - 第4回 ワイマール民主主義
 - 第5回 ナチスの台頭
 - 第6回 ヒトラーへの抵抗運動
 - 第7回 ホロコースト
 - 第8回 復興から経済大国へ
 - 第9回 ヨーロッパ統合とドイツ
 - 第10回 1968年の学生運動
 - 第11回 環境保護と反原発
 - 第12回 ドイツ再統一
 - 第13回 心の壁とオスタルギー
 - 第14回 移民国家ドイツ
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

参考文献を各自で適宜、読み進めること。(参考文献リストは初回授業で配布する。)

教科書

参考書

成績評価

試験 (90)

授業中課題 (10)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史特講c(東アジア史Ⅲ)

担当者 王 衛明

テーマ

中国古代史の基本問題として、その成立と展開の特質を探る。

獲得目標

この授業では、中国における都市文明の起源から唐代までの歴史と、文化の形成から展開の諸問題を取り扱う。中国文明の成立は、中国周辺の異民族にも大きな影響を与えた。古代中国の高度にすぐれた文化がこれらの地域に広く浸透し、文化的政治的な成長と中国化を促した。やがて中国を中心にして漢字文化を共有し、相互に密接な関係を有する東アジア世界が形成される。その文明の形成に大きな役割を果たした幾つかの事例を素材に、文献史学、更に近年進出の資料を美術史、考古学の立場から、中国古代史構造の基本問題とその考え方を探る。

授業の内容

内 容

- 第1回 中国文明を理解するためのキーワード総解説
- 第2回 夏文明の問題—考古と文献実証の間
- 第3回 夏文明と殷商文明—青銅器の発展の諸問題
- 第4回 春秋戦国時代の出土文献と文字出土資料
- 第5回 秦代中国統一の諸問題Ⅰ—万里長城の建設の意義
- 第6回 秦代中国統一の諸問題Ⅱ—皇帝陵墓の出現と陪葬俑
- 第7回 漢代の儒家思想とその文化Ⅰ
- 第8回 漢代の文物制度Ⅱ—蔵書と目録学の出現
- 第9回 漢代の思想と文化Ⅲ—考古資料からみる漢代の信仰
- 第10回 魏晋南北朝時代の諸問題Ⅰ—仏教の伝来と発展
- 第11回 魏晋南北朝時代の諸問題Ⅱ—漢訳仏教經典と寺院の成立及び伽藍配置の問題
- 第12回 魏晋南北朝時代の諸問題Ⅲ—漢字発展の諸問題
- 第13回 隋唐時代の文化Ⅰ—初唐・盛唐期の仏教文化
- 第14回 隋唐時代の文化Ⅱ—考古学資料からみる唐代の国際関係
- 第15回 内容総括

授業以外での学習方法

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史特講e(中央・西アジア史 I)

担当者 小野 浩

テーマ

ユーラシアにおけるテュルク・モンゴルの歴史

獲得目標

ユーラシア大陸に興起したテュルク・モンゴル系遊牧民国家の足跡を紹介し、彼らの世界史上に果たした役割を考察する。

授業の内容

遊牧民は、定住民が主役の座を占める現代世界においては社会の隅に追いやられたような扱いを受け、高校の教科書などでもごく軽く扱われるにとどまり、その歴史的役割に対して正当な位置づけがなされていない。だが、大陸東方からざっと見渡しても、匈奴・鮮卑・柔然・突厥・ウイグル・契丹・カルルク・ハザル・ガズナ朝・カラハン朝・セルジューク朝・大モンゴル帝国とその後継勢力・ティムール朝・ムガル朝・サファヴィー朝・オスマン朝といった具合にテュルク・モンゴル系の人びとが築いた国家の版図はユーラシアの大部分を占めている。この授業ではかれらの歴史を通史的ではなくトピックごとにとりあげ、ときには関連論文の紹介もしつつ、世界市場に果たしたテュルク・モンゴル国家の役割を考察する。各回の予定は以下の通りだが、必ずこの通りに講義が進むとは限らない。

内 容

- 第1回 ユーラシアの歴史とは――ヨーロッパ中心史観からの脱皮 その1
- 第2回 ユーラシアの歴史とは――ヨーロッパ中心史観からの脱皮 その2
- 第3回 テュルク・モンゴル諸族の分布
- 第4回 匈奴の国家組織
- 第5回 突厥――世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民 その1
- 第6回 突厥――世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民 その2
- 第7回 突厥――世界史上初めて自らの記録を残した遊牧民 その4
- 第8回 ウイグルと唐
- 第9回 ウイグルとソグド人
- 第10回 西ウイグル王国と仏教
- 第11回 モンゴルの興起――チンギス・칸の征服活動
- 第12回 大モンゴル帝国――モンゴルが東西を結ぶ その1
- 第13回 大モンゴル帝国――モンゴルが東西を結ぶ その2
- 第14回 ティムールとティムール朝の文化
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

関連図書は授業中に適宜指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史特講g(中央・西アジア史Ⅲ)

担当者 宮本 純二

テーマ

古代エジプト王朝史 I

獲得目標

エジプト古代王朝史の前半の流れを知り、理解を深める

授業の内容

古代エジプト文明の特色は、約三千年の長きにわたりオリエント世界で重要な役割を担った点に最もよく見出せる。授業では、その文明を生み出す前提となった風土をはじめとし、国家統一へと向かう先王朝時代、国家の基礎が形成される初期王朝時代、壮大なピラミッドの造営事業を成し遂げた古王国時代、そして、文化の爛熟期である中王国時代にいたる王朝史を辿る(それに続く王朝史後半は後期の世界史特講hで扱う)。またそれと並行して、古代エジプト史を理解する上で必要となる基礎事項を随時、解説する。なお、古代エジプト史に関しては、文字史料と共に、考古遺物や遺跡が重要な意味を持つため、できる限りビデオ等の映像教材を用いて具体例を示しつつ授業を進める予定である。

内 容

- 第1回 講座解説(映像資料観賞を含む)
- 第2回 自然環境と地理的背景: ナイルの恵み
- 第3回 先王朝時代: 農耕の始まり
- 第4回 先王朝時代: 農耕社会の成長
- 第5回 国家統一へ: ナルメル王のパレットを読む
- 第6回 初期王朝時代: 国家基盤の形成
- 第7回 古王国時代: ピラミッドの出現/王権の確立
- 第8回 古王国時代: ピラミッドの変遷
- 第9回 古王国時代: ギザの三大ピラミッド
- 第10回 古王国時代: ピラミッド建造の背景
- 第11回 古王国時代: 繁栄の終焉
- 第12回 第一中間期: 統一の崩壊/社会の変革
- 第13回 中王国時代: 文化の熟成/古典の形成
- 第14回 総括(映像資料観賞)
- 第15回 総括(映像資料観賞/レポート提出を含む)

授業以外での学習方法

古代エジプト人たちの残した遺跡や遺物、また記録が王朝史を解明する原点であることは言うまでもない。最近では、それらの文化遺産の多くが書物だけでなくとどまらず、様々な形で紹介されているので、それらも積極的に利用することが望ましい。『古代エジプト文明と遺跡(全17巻)』: 早稲田大学・古代エジプト調査室製作のビデオ(本学AVセンター収蔵)など。

教科書

随時、コピーで配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

古代エジプト入門(補助テキスト、購入が望ましい)

著者: 内田杉彦

出版社: 岩波ジュニア新書

出版年: 2007

ISBN:

参考書

世界の歴史1・人類の起源と古代オリエント

著者： 尾形禎亮他

出版社： 中央公論社

出版年： 1998

ISBN:

エジプト王国三千年

著者： 吉成薫

出版社： 講談社選書メチエ

出版年： 2000

ISBN:

ファラオ歴代誌

著者： ピーター・クレイトン

出版社： 創元社

出版年： 1999

ISBN:

古代オリエント辞典

著者： 日本オリエント学会編

出版社： 岩波書店

出版年： 2004

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (85)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史特講i(ヨーロッパ・アメリカ史 I)

担当者 松浦 京子

テーマ

イギリスの社会と生活文化1

獲得目標

ヨーロッパ大陸の西端に位置する島国であるイギリスは、大陸からの影響を受けつつ独自の社会構造や生活文化を形成し、中世の辺境国家から出発して近世、近代には列強国家となった。このような歩みをとげたイギリスの、特に社会の変容に着目しつつ、その歴史の独自性と西洋的普遍性を理解する。

授業の内容

中世には強力な王権の下に軍事封建制社会を生み出し、近世以降は、いち早く中央集権国家となる一方で、新大陸へ進出し重商主義帝国を形成したイギリスの歩みをたどる。

内 容

- 第1回 イギリスという国 ―諸民族の到来と中世イングランド国家の誕生
- 第2回 軍事封建制と騎士、そして荘園 ―土地保有の諸相
- 第3回 封建社会の変容 ―身分制議会と農奴解放
- 第4回 封建体制の解体 ―百年戦争とバラ戦争
- 第5回 王権と議会① ―イングランド宗教改革
- 第6回 王権と議会② ―内乱と革命
- 第7回 近世の社会構造 ―支配するジェントルマン
- 第8回 インターミッション ―中間まとめ
- 第9回 商業革命 ―重商主義帝国の形成
- 第10回 帝国の社会史① ―植民地へ行く人々(自由移民、兵士)
- 第11回 帝国の社会史② ―植民地へ行く人々(年奉公人、流刑者)
- 第12回 ライフ・サイクル・サーヴァント制 ―若年者移民の背景
- 第13回 農業革命 ―資本主義的農場経営と農村からの労働力解放
- 第14回 旧救貧法 ―農場労働者の生活扶助
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

中世・近世イギリス史に関する研究文献を出来るだけ幅広く熟読すること

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化史・文化交流史 I

担当者 酒井 一臣

テーマ

文化交流史の諸問題 総論編

獲得目標

グローバル化の進む現代世界はどのように形成されたのか。日本はどのような影響を受けてきたのか。この授業では、現代文化の形成を、世界の一体化という視点から、様々な側面から考察します。理解促進のため、映画もみませう。

授業の内容

国際交流や文化史を学ぶために必要な基礎的概念を学習します。

内 容

- 第1回 日本文化はあるのか
 - 第2回 文明と野蛮(1) 明治日本の挑戦
 - 第3回 文明と野蛮(2) 黄禍論と白禍論
 - 第4回 文明と野蛮(3) 「王様と私」
 - 第5回 中間のまとめ(レポート課題)
 - 第6回 人種問題(1) なぜ人種差別が生まれたのか
 - 第7回 人種問題(2) アメリカの人種問題
 - 第8回 人種問題(3) 「フライド・グリーン・トマト」
 - 第9回 中間のまとめ(レポート課題)
 - 第10回 多文化主義(1) オーストラリアの多文化主義
 - 第11回 多文化主義(2) 日本で多文化主義は可能か
 - 第12回 移動する人びと(1) 大量移民の時代
 - 第13回 移動する人びと(2) 文化摩擦
 - 第14回 移動する人びと(3) グローバル世界
 - 第15回 全体の考察とまとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読んでください。

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

白人とは何か

著者: 藤川隆男編

出版社: 刀水書房

出版年: 2005年

ISBN: 978-4887083462

成績評価

a10302g310

試験 (0)
授業中課題 (40)
参加度 (10)

小テスト (50)
授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地誌

担当者 中西 和子

テーマ

『地誌』を読もう。書かれた地域と筆者の居住地域について知ろう。

獲得目標

日本を含め世界の古典的な「地誌(書)」を取り上げ、「人類はなぜ地誌を書くのか」「地域を描写する」ということの基本について考える。後半は京都の地誌を中心に取り上げ、地域の文化・社会を読み取る力をつける。

授業の内容

基本的に配布プリントを資料にして授業を進めるが、一部パワーポイントも使用。

内 容

- 第1回 イントロダクション：“地誌書を読む”ってどういうことなんだろう？—海賊王(?)の夢！『東方見聞録』と“ワークワーグ”
- 第2回 自国地誌と外国地誌—『日本書紀』・『風土記』と『魏志倭人伝』、さてどっちが正しい日本の姿？
- 第3回 外国人からみた日本：イザベラ・バードの見た日本
- 第4回 日本人のみた外国1：河口慧海とチベット社会と日本の社会
- 第5回 地誌が書かれるのはどんな時？—『風土記』から『日本地誌提要』と『皇国地誌』まで
- 第6回 地誌が読まれるのはどんな時？—明治のベストセラー・『輿地誌略』
- 第7回 日本人のみた外国2：小田 実『何でも見てやろう』と沢木耕太郎『深夜特急』
- 第8回 ガイドブックと戦争—ミシュランは地誌？
- 第9回 あなたの一番読みたい「地誌」は？
- 第10回 京都の地誌1：京都の産業って何でしょう？京都を代表する企業ってどこ？
- 第11回 京都の地誌2：どこからどこまでが京都？
- 第12回 京都の地誌3：近郊の成立—“京都”と周辺&“京野菜”について考える
- 第13回 京都の地誌4：大学と映画館—“いちご白書をもう一度”を、もう一度
- 第14回 京都の地誌5：山科ってどんなところ？その1
- 第15回 京都の地誌6：山科ってどんなところ？その2

授業以外での学習方法

授業中に紹介する本を読み、事前に次回テーマに関して下調べをしておくこと。また、山科という地域について意識を向ける習慣をつけるように希望します。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 (10%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a10302g610

授業中の質疑応答に積極的に答えて下さい。また、試験に関しては、従来説など既往の研究をまとめるだけではなく、自分の意見を明確にして論じて下さい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 人文地理学

担当者 谷口 知司

テーマ

人文地理学とはどんな学問なのか。何に関心を持ち、どのような方法でアプローチするのか。

獲得目標

地域、環境、空間といった地理学のキーコンセプトを具体的な素材をとおして学び、地理学を学ぶと何がわかるのか、どんなことの役に立つのかということを知る。

授業の内容

教科書を中心として授業を進めるが、適宜資料等を配布する。

内 容

- 第1回 生活と社会の地理①
 - 第2回 生活と社会の地理②
 - 第3回 生活と社会の地理③
 - 第4回 生活と社会の地理④
 - 第5回 生産と流通の地理①
 - 第6回 生産と流通の地理②
 - 第7回 生産と流通の地理③
 - 第8回 生産と流通の地理④
 - 第9回 想像と表象の地理①
 - 第10回 想像と表象の地理②
 - 第11回 想像と表象の地理③
 - 第12回 想像と表象の地理④
 - 第13回 過去に問いかける地理①
 - 第14回 過去に問いかける地理②
 - 第15回 過去に問いかける地理③およびまとめ
-

授業以外での学習方法

復習を中心に教科書、配布プリントなどを参考に積極的に取り組んでください。

教科書

人文地理学

著者： 竹中克行他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

a10302g710

小テストならびに課題提出は随時行うが、そのすべてが評価の対象となる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 外書研究a

担当者 井上 徳子

テーマ

中国語の文献の講読

獲得目標

中国語テキストの読解力を養成することである。それとともに、中国史についての知識・認識を深めることを目標とする。

授業の内容

古代から中世にかけての中国の歴史を扱った中国語テキストを講読する。初回は井上が講義を行うが、第2回目以降は、テキスト本文を受講者が順番に日本語訳し、井上が必要に応じて訂正・補足を行う、というかたちで授業を進める。原則として毎回全員が訳読を分担する。その際、中国音による発音は課さない。これは、決して発音を軽視するわけではなく、限られた時間を最大限、この授業の主眼である読解力の養成や内容の理解に充当するためである。また、テキストを読み進めるなかで、当該時期における中国の政治・制度、周辺地域の動向などを含めた関連資料を随時配布する。正確な中国文の翻訳を土台として、歴史・歴史学についての知識、認識を深めるためである。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 中国語文献の講読
 - 第3回 中国語文献の講読
 - 第4回 中国語文献の講読
 - 第5回 中国語文献の講読
 - 第6回 中国語文献の講読
 - 第7回 中国語文献の講読
 - 第8回 中国語文献の講読
 - 第9回 中国語文献の講読
 - 第10回 中国語文献の講読
 - 第11回 中国語文献の講読
 - 第12回 中国語文献の講読
 - 第13回 中国語文献の講読
 - 第14回 中国語文献の講読
 - 第15回 中国語文献の講読
-

授業以外での学習方法

受講者は、テキストについて必ず予習してくる。また、授業で扱われている時代や人物などに関する文章を積極的に読み、知識の習得に心がけてもらいたい。

教科書

プリントして配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業にて随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

a10302g810

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 外書研究c

担当者 小野 浩

テーマ

アジア史関連英語文献選読

獲得目標

アジア史に関する英語文献をテキストにして、常に文法に留意しつつ精読する姿勢を習得する。単語を辞書で引いてそれを適当に組み合わせて意味の通るように日本語化する、といった態度を排し、まずなによりも文法的に読解することを目指す。したがってスピードにはこだわらず、まずはやさしい英文をゆっくりと読み進めることから始める。読む分量は少しずつであっても、毎週読み進めて行けば少なくとも《英語アレルギー》の度合いはいくぶんなりとも減少して行くはずである。

授業の内容

テキストは、アジアの歴史に関連するものを適宜選び、コピーして配布する。最初は日本語訳のある英文を扱い、なぜこう訳せるのか確認しつつ授業を進める。テキストごとに書誌的知識と歴史背景を解説する。出席者全員で輪読していくので、毎回充分な予習が必須となる。なお、テキストとして下記テキスト欄に挙げたものはあくまで一例である。

内 容

- 第1回 この授業の方針説明
- 第2回 テキストの解説
- 第3回 全員による輪読および内容の解説 その1
- 第4回 全員による輪読および内容の解説 その2
- 第5回 全員による輪読および内容の解説 その3
- 第6回 全員による輪読および内容の解説 その4
- 第7回 全員による輪読および内容の解説 その5
- 第8回 全員による輪読および内容の解説 その6
- 第9回 全員による輪読および内容の解説 その7
- 第10回 全員による輪読および内容の解説 その8
- 第11回 全員による輪読および内容の解説 その9
- 第12回 全員による輪読および内容の解説 その10
- 第13回 全員による輪読および内容の解説 その11
- 第14回 全員による輪読および内容の解説 その12
- 第15回 全員による輪読および内容の解説 その13

授業以外での学習方法

授業までに必ず文献の予習をしておくこと。

教科書

Islamic Central Asia—An Anthology of Historical Sources

著者: Scott C. Levy & Ron Cela (eds.)

出版社: Indiana University Press

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 外書研究e

担当者 鷺田 睦朗

テーマ
ローマ史

獲得目標

ローマ史を扱った英語文献を読んで、ローマ史についての知識を深めること。英語文献の読解能力の涵養。

授業の内容

英語研究文献の読解、映像・画像資料を通じてのローマ史の理解

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 ローマ史概観
 - 第3回 文献読解(1)
 - 第4回 文献読解(2)
 - 第5回 文献読解(3)
 - 第6回 文献読解(4)
 - 第7回 文献読解(5)
 - 第8回 文献読解(6)
 - 第9回 文献読解(7)
 - 第10回 文献読解(8)
 - 第11回 文献読解(9)
 - 第12回 文献読解(10)
 - 第13回 文献読解(11)
 - 第14回 文献読解(12)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

文献の読解、メールを通じてのスクーリング。詳しくは初回に説明します。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (80)

a10302h210

授業中に行う担当箇所の発表を中心に、総合的に成績を評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習 I <a>

担当者 増淵 徹

テーマ

日本古代史研究 I

獲得目標

古代史を研究する上で基本的な史料の読解や研究方法を修得し、次年度の卒業研究に必要な能力の向上を目的とする。講読(古代史)とは異なる史料(主に『日本紀略』)を扱い、徹底的に史料を読むなかで、史料から課題を析出し時代像を構成していくための基礎的な力量の向上を図ることに主眼を置く。

授業の内容

参加者各自に史料を割り当て、その読解レポートの報告を軸に授業を進める。参考文献は其中で適宜紹介する。なお、古代の遺跡や研究機関への見学(1回)、歴史学に関する講演会等(1回)を行う。

内 容

- 第1回 授業の進め方の解説。テキストの解説
 - 第2回 図書館の活用及び論文検索の方法の解説。レポートの作成方法の解説。
 - 第3回 史料の読解演習
 - 第4回 文化遺産見学(学外授業)
 - 第5回 個別発表(1)
 - 第6回 個別発表(2)
 - 第7回 個別発表(3)
 - 第8回 個別発表(4)
 - 第9回 個別発表(5)
 - 第10回 個別発表(6)
 - 第11回 個別発表(7)
 - 第12回 個別発表(8)
 - 第13回 個別発表(9)
 - 第14回 個別発表(10)
 - 第15回 後期演習への取り組みに関する指導
-

授業以外での学習方法

古代史に関する知識の量的拡充が何より重要であり、そのために可能な限りの多読を勧める。活字に親しもうとする意欲に欠くところのある学生は望まない。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習 I

担当者 細川 涼一

テーマ

中世政治史・思想史・芸能史・民衆生活史の史料・論文を読む

獲得目標

中世史研究の状況を知るとともに、論文読解の方法を身につけ、自分自身の研究作成にむけた目標を設定していくことにしたい。

授業の内容

日本中世史関係の論文から、ゼミ参加者の興味のある論文を読むとともに、適宜ゼミ参加者の研究発表を行っていく。前期には、「東寺百合文書」から都市京都の民衆、東寺領荘園の農民の生活がうかがえる史料を読むと同時に、関連論文の講読を行っていく。なお歴史学に関する講演会等を1回行う。

内 容

- 第1回 「東寺百合文書」の講読(1)「東寺百合文書」とは
- 第2回 「東寺百合文書」の講読(2)東寺南大門前茶屋史料
- 第3回 「東寺百合文書」の講読(3)中世の茶屋をめぐる論文講読
- 第4回 「東寺百合文書」の講読(4)中世の茶屋をめぐる論文講読
- 第5回 「東寺百合文書」の講読(5)東寺と手猿楽史料
- 第6回 「東寺百合文書」の講読(6)東寺と手猿楽史料
- 第7回 「東寺百合文書」の講読(7)中世の猿楽能をめぐる論文講読
- 第8回 「東寺百合文書」の講読(8)中世の猿楽能をめぐる論文講読
- 第9回 「東寺百合文書」の講読(9)備中国新見荘のたまがき書状
- 第10回 「東寺百合文書」の講読(10)備中国新見荘のたまがき書状
- 第11回 「東寺百合文書」の講読(11)備中国新見荘の農民をめぐる論文講読
- 第12回 「東寺百合文書」の講読(12)備中国新見荘の農民をめぐる論文講読
- 第13回 「東寺百合文書」の講読(13)備中国新見荘の農民をめぐる論文講読
- 第14回 「東寺百合文書」の講読(14)山城国上下久世荘百姓等の起請文
- 第15回 「東寺百合文書」の講読(15)山城国上下久世荘百姓等の起請文

授業以外での学習方法

事前に配られた史料・論文を読んでおくこと。史料・論文はプリントで配布する。

教科書

プリントで配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (35)

授業中課題 ()

参加度 (35)

小テスト ()

授業中発表等 (35)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習 I <c>

担当者 尾下 成敏

テーマ

日本近世史研究の諸問題

獲得目標

研究する際の基本的な技術や姿勢について理解を深める。

授業の内容

15世紀後半～19世紀前半を扱った著作物を講読して整理・発表し、討論する形式で進めることにする。前期の最後には、原稿用紙換算で10枚以上のレポートを作成してもらう。なお、期間中、歴史学に関する講演会等を1回実施する。また16世紀・17世紀の漢文史料を読むこともある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 ガイダンス
 - 第3回 著作物の講読(漢文史料を読む場合もある)
 - 第4回 著作物の講読(漢文史料を読む場合もある)
 - 第5回 著作物の講読(漢文史料を読む場合もある)
 - 第6回 著作物の講読(漢文史料を読む場合もある)
 - 第7回 著作物の講読(漢文史料を読む場合もある)
 - 第8回 著作物の講読(漢文史料を読む場合もある)
 - 第9回 著作物の講読(漢文史料を読む場合もある)
 - 第10回 著作物の講読(漢文史料を読む場合もある)
 - 第11回 著作物の講読(漢文史料を読む場合もある)
 - 第12回 著作物の講読(漢文史料を読む場合もある)
 - 第13回 著作物の講読(漢文史料を読む場合もある)
 - 第14回 著作物の講読(漢文史料を読む場合もある)
 - 第15回 まとめ、レポート作成に関するアドバイス
-

授業以外での学習方法

概説書・伝記・選書・新書などを1冊でも多く読むこと。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a103030113

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (35)

授業中発表等 (35)

参加度 (30)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習 I <d>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

日本近代史の諸問題

獲得目標

研究論文を読みこなす能力や史料読解力など日本近代史を学ぶための必要な知識の習得

授業の内容

各自が各自のテーマにもとづく著書・研究論文の内容を批判をまじえながら報告し、全体で討論を行う。

内 容

- 第1回 ゼミの運営方法と卒論テーマを決めていく際の心得
 - 第2回 日本近代史にかかわる文献・史料の検索の仕方
 - 第3回 日本近代史に関する著書・研究論文の選択方法と読み方
 - 第4回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(1)
 - 第5回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(2)
 - 第6回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(3)
 - 第7回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(4)
 - 第8回 日本近代史に関するビデオ鑑賞
 - 第9回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(5)
 - 第10回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(6)
 - 第11回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(7)
 - 第12回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(8)
 - 第13回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(9)
 - 第14回 ゼミ生各自による著書・研究論文の紹介とコメント(10)
 - 第15回 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

事前に配布された文献を呼んでくること

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史講読 I <a>

担当者 須原 祥二

テーマ

日本古代史の基礎的な史料の講読を通じて、史料の読解力をつけることをはじめ参考図書の調査法や先行研究の検討など歴史研究の基本的方法を学びます。

獲得目標

①古代史の史料に慣れ、読解力を高めること。②史料で言及されている事件、制度、人物等について調査・レポートすることを通して、歴史研究の基本的方法を修得すること。③口頭報告およびその際のレジュメ・資料作成のスキルを身につけること。

授業の内容

恵美押勝の乱の翌年にあたる天平神護元年の九月から読みます。称徳女帝が重祚したいいわゆる道鏡政権が体制を整えていく時期にあたります。まず一人ずつ分担を決め、二～三回程度報告(発表)してもらいます。報告の際は、報告者以外の人に適宜史料の文章を読み下してもらいます(これも成績評価に大きく反映されます)。なお全員、毎回、漢和辞典を持ってきて下さい。

内 容

- 第1回 ガイダンス、分担の決定
- 第2回 『続日本紀』解題・報告例(天平神護元年九月前半)
- 第3回 『続日本紀』巻二十六(天平神護元年九月後半・十月初期)
- 第4回 『続日本紀』巻二十六(天平神護元年十月中旬)
- 第5回 『続日本紀』巻二十六(天平神護元年十月後期)
- 第6回 『続日本紀』巻二十六(天平神護元年閏十月前半)
- 第7回 『続日本紀』巻二十六(天平神護元年閏十月後半)
- 第8回 『続日本紀』巻二十六(天平神護元年十一月前期)
- 第9回 『続日本紀』巻二十六(天平神護元年十一月中期)
- 第10回 『続日本紀』巻二十六(天平神護元年十一月後期・十二月)
- 第11回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年正月)
- 第12回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年二月)
- 第13回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年三月初半)
- 第14回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年三月後半)
- 第15回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年四月)

授業以外での学習方法

毎回、事前に読んでから出席して下さい。また用語等わからないことについて、あらかじめ調べて出席してもらった方が学習効果は上がります。

教科書

テキスト(新訂増補国史大系本)はコピーで配布します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新日本古典文学大系『続日本紀』

著者: 青木和夫ほか編

出版社: 岩波書店

出版年:

ISBN:

六国史

著者： 坂本太郎

出版社： 吉川弘文館

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（50）

参加度（50）

「参加度」には、毎回の報告担当者以外の人による講読(読み下し)の平常点を含めます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史講読 I

担当者 山田 徹

テーマ

幕府法令を読む

獲得目標

中世法制史料の読解力と、関連事項を調べる力をつける。

授業の内容

法制史料は、文書・記録と並んで、中世史研究の基本的な史料です。本講では、鎌倉・室町幕府の法令を読み、上記の能力の養成を目指します。また、こうした法令を読み解いていくことで、中世社会で何が問題とされ、それに対して幕府がどのような対策をとろうとしていたのかも、わかってくるはずです。

内 容

- 第1回 ガイダンス(テキストの配布と分担決定)
 - 第2回 史料講読の基礎確認
 - 第3回 史料講読の基礎確認 第一課題提出
 - 第4回 史料の講読
 - 第5回 史料の講読
 - 第6回 史料の講読
 - 第7回 史料の講読
 - 第8回 史料の講読
 - 第9回 史料の講読
 - 第10回 史料の講読
 - 第11回 史料の講読
 - 第12回 史料の講読
 - 第13回 史料の講読
 - 第14回 史料の講読
 - 第15回 史料の講読 第二課題提出 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

授業で取り上げることのできる法令は限られています。それ以外にも、中世法令の読解にチャレンジしてみてください。また、授業中に指示する研究書や論文にも、ぜひ目を通してみましょう。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

a103030312

第1回に決定した担当範囲に関して、読み下し・逐語訳・関連事項についてのレジユメを第3回までに提出してもらい(第一課題)、第4回以降の進行は、そのレジユメに沿った報告を順番におこなうかたちで進めていきます。成績評価は、この第一課題と報告のほか、授業の途中で提示する第二課題(第15回までに提出)によっておこないます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史講読 I <c>

担当者 尾下 成敏

テーマ

近世京都の文献史料を読む

獲得目標

江戸時代の漢文史料に慣れ、この時代について理解を深める。

授業の内容

江戸時代の北野社(現在の北野天満宮)に関する史料(北野社諸事覚帳など)を読み進めることにする。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳・事項解説の作成と報告。③史料を読んで気になった点を調べる。

内 容

- 第1回 ガイダンス・テキストに関する概説
 - 第2回 テキストに関する概説
 - 第3回 北野社関連史料の講読
 - 第4回 北野社関連史料の講読(第4回から第15回までの間に小テストを2回実施)
 - 第5回 北野社関連史料の講読
 - 第6回 北野社関連史料の講読
 - 第7回 北野社関連史料の講読
 - 第8回 北野社関連史料の講読
 - 第9回 北野社関連史料の講読
 - 第10回 北野社関連史料の講読
 - 第11回 北野社関連史料の講読
 - 第12回 北野社関連史料の講読
 - 第13回 北野社関連史料の講読
 - 第14回 北野社関連史料の講読
 - 第15回 まとめ ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料に慣れ親しんで欲しい。

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a103030313

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (25)

授業中発表等 (25)

参加度 (30)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく、この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史講読 I <d>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

近代日本の日記・手紙などの史料を読む。

獲得目標

幕末から明治期にかけてのあらゆる種類の史料をスムーズに読み、内容を把握できる能力を養う。

授業の内容

幕末の京都の庶民の日記、政治家の手紙、明治期の政治家の日記(京都府知事北垣国道の日記等)などを読んでいく。授業は受講者が用意したレジュメをもとに進められる。受講生は割り当てられた史料について、文の音読ができるようにした上で、語句の意味、人名や事件名、歴史的背景などを調べ、論点をレジュメ化して提示し、発表することが求められる。史料は配布する。

内 容

- 第1回 授業の進め方、史料についてのガイダンス
 - 第2回 受講生による発表、質疑応答、教師からの補足説明
 - 第3回 同上
 - 第4回 同上
 - 第5回 同上
 - 第6回 同上
 - 第7回 同上
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 同上
 - 第11回 同上
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 同上
-

授業以外での学習方法

京都や近江に関する史料があるので、現場を歩いて欲しい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習 I <a>

担当者 王 衛明

テーマ

中国史研究の最も基本となる文献の理解を軸に、歴史の意味や史料のあり方について議論する。

獲得目標

この授業では、東アジア史、とりわけ古代中国史発展の基本構造を理解するため、基本的な文献資料やその資料探索の方法について具体的に指導する。また読み方、内容理解の仕方を各個が関心を抱くテーマの報告、討論することを通して、問題意識を深めることを目的とする。また教員から史料提供することによって、様々な文献調査法、解釈、分析法を実践する。

授業の内容

内 容

- 第1回 発表の主旨を説明する
 - 第2回 研究の時代・地域を設定する
 - 第3回 各自の研究テーマを設定する
 - 第4回 各自の研究テーマと併せて、文献史料・研究論文の調査法を説明する
 - 第5回 各自の研究テーマと併せて、文献史料・研究論文の調査法を説明する
 - 第6回 学外授業(中国関連の寺社見学)
 - 第7回 発表及び講評・議論
 - 第8回 発表及び講評・議論
 - 第9回 発表及び講評・議論
 - 第10回 発表及び講評・議論
 - 第11回 学外授業(中国関連の常設展、或いは特別展見学)
 - 第12回 発表及び講評・議論
 - 第13回 改めて各自の研究テーマ設定の妥当性を考える
 - 第14回 改めて各自の研究テーマ設定の妥当性を考える
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習 I

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

獲得目標

専門論文の読み方を会得することを目標とする。また文献探索・収集の仕方も習得する。

授業の内容

前期は初めの3～4回分を使って中央アジア・西アジアの歴史に関する学術論文を選読し、歴史の専門論文とはいかなるものかを習得させる。専門論文を読む場合、内容全体はもとより一文一文をおろそかにせず徹底して精読する姿勢が要求される点で、通常の読書とは異なる。たとえ日本語の論文であろうと、その内容がほぼ理解できるとは限らないのである。読んでみても解らないとき、著者の論旨が把握し難いのか、それとも自分自身の知識不足ゆえに理解が及ばないからか、つまりどの点がどう解らないのかを明確に見定めることが肝要である。こうした点に留意しながら論文と言うものに慣れてもらう。論文内容に関しては担当者を決めてその担当者が用意したレジュメにもとづき、出席者で疑問点を出し合い討議する。それ以降、最終の15回までは出席者各自の研究発表ないしみずから選んだ論文の紹介を行なう。ただし、学外者を招いて講演会を開くこともある。

内 容

- 第1回 基本的工具類の紹介説明――目録・入門書・地図等
- 第2回 文献を探す――具体的に文献の所蔵確認およびその検索方法につき説明する
- 第3回 選定した学術論文の内容解説
- 第4回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その1
- 第5回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その2
- 第6回 担当者による内容報告(レジュメ配布)と質疑応答 その3
- 第7回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その1
- 第8回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その2
- 第9回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その3
- 第10回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その4
- 第11回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その5
- 第12回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その6
- 第13回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その7
- 第14回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その8
- 第15回 出席者各自のテーマにもとづく研究発表および質疑応答 その9

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習 I <c>

担当者 松浦 京子

テーマ

西洋史に関する研究文献に基づく研究・報告

獲得目標

卒業論文作成に向けて、各自が問題(テーマ)を発見し、歴史に対する独自の視点を養い、また、文献検索の手法を習得することをめざす。

授業の内容

卒論作成に向けて必須のスキルとメソッドの獲得、テーマの設定、研究視点の多様性の認識を身につけるべく、2回の解説講義の後、指定論文の精読・分析を通じてテーマ・問題設定、内容展開について考える。以降は、各自が関心を持っている地域、時代(大まかな区分でかまわない)に関して、どのような歴史上の課題が設定できるかを念頭におきつつ、各自の関心に関わる研究論文をできるだけ広く収集し、精読し、4本の簡単な内容紹介と1本については詳細な内容紹介を行う。これらの学習を通じて、卒論のテーマのしぼり込みを行う。ゼミ生各自の一回目の報告が終了した時点で、おおよそのテーマ(関心対象となる事件、事象、もしくは地域、時代が)絞られてきていることが求められる。それに基づき、以降は、各自がテーマに沿った文献リストを作成し、簡単な研究動向を報告する。なお、期間中に歴史学に関する講演会を1回行う。なお、歴史学に関する講演会等(1回)を行う場合がある。

内 容

- 第1回 歴史研究とは何かについて。本ゼミの目的についての講義
- 第2回 図書館ガイダンスに基づく、専門文献の検索の手法ならびに入手法についての説明
- 第3回 学術論文について考察する。松浦論文を用いて、文献の精読(批判的精読)、研究の視点、分析手法、論文構成について学ぶ。
- 第4回 松浦論文の全員による内容紹介を行い、相互比較を行う①
- 第5回 松浦論文の全員による内容紹介を行い、相互比較を行う②
- 第6回 ゼミ生報告1-①と質疑応答
- 第7回 ゼミ生報告1-②と質疑応答
- 第8回 ゼミ生報告1-③と質疑応答
- 第9回 ゼミ生報告1-④と質疑応答
- 第10回 ゼミ生報告1-⑤と質疑応答
- 第11回 これからの研究の進め方、課題設定について
- 第12回 ゼミ生報告2-①とリストのチェック
- 第13回 ゼミ生報告2-②とリストのチェック
- 第14回 ゼミ生報告2-③とリストのチェック
- 第15回 夏休み中の研究の進め方、課題設定について

授業以外での学習方法

参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容を関心にそって分析・整理する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史講読 I <a>

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジア史関連の文献を読む

獲得目標

中央アジア・西アジア史に関連する文献を読み、ヨーロッパ中心史観を脱したグローバルな世界史理解を試みる。

授業の内容

三木亘『世界史の第2ラウンドは可能か』を読みつつ、西アジアを中心としたグローバルな世界史理解を試みる。毎回全員で輪読し、内容から問題点を読み取る。テキストはプリントにして配布する。

内 容

- 第1回 授業の目的説明、およびテキストの説明。
 - 第2回 テキスト内容の概略の解説
 - 第3回 輪読と内容の解説 その1
 - 第4回 輪読と内容の解説 その2
 - 第5回 輪読と内容の解説 その3
 - 第6回 輪読と内容の解説 その4
 - 第7回 輪読と内容の解説 その5
 - 第8回 輪読と内容の解説 その6
 - 第9回 輪読と内容の解説 その7
 - 第10回 輪読と内容の解説 その8
 - 第11回 輪読と内容の解説 その9
 - 第12回 輪読と内容の解説 その10
 - 第13回 輪読と内容の解説 その11
 - 第14回 輪読と内容の解説 その12
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

世界史の第二ラウンドは可能か

著者： 三木 亘

出版社： 平凡社

出版年： 1992

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史講読 I

担当者 松浦 京子

テーマ

英語文献の精読と内容理解

獲得目標

英語文献史料の正確な翻訳力と、それを史料として用いる力を身につけることをめざす

授業の内容

西洋史研究において必携である英語文献の読解能力を身につけ向上させるために、比較的平易な英語研究書をゼミ生で輪読し、内容についての質疑応答を行う。テキストは、19世紀イギリスで横行し後に社会問題となった児童労働の実態と、その解消のために尽力した人物ならびに運動を概観したElizabeth Longmate, *Children at Work 1830-1885, (Then and There Series)*, U.K., 1981である。平易な叙述で本文全体83頁と短いながら、同時代史料と図版が多用されているので、初めて本格的英語研究文献に触れる者にも、取組みやすいテキストと言えよう。ゼミ生で各章ごとに分担して全文和訳を行う。担当者は、報告に際して、全訳文を載せたレジュメを用意し、なおかつ、邦語文献にあたることで史料内容の背景や関連事象の理解に努め、その成果を報告すること。また、報告後に講読箇所の内容について質疑応答を行うので、担当者以外のゼミ生もテキストの熟読に努めること。なお、全訳担当者は、報告より前に翻訳文を担当教員に提出し、チェックを受けること。

内 容

- 第1回 テキストの紹介、担当箇所の決定
- 第2回 背景としての奴隷制貿易反対運動と博愛主義運動の説明と、冒頭数頁の全訳と特記事項の紹介 次回以降学生の翻訳報告に入る
- 第3回 学生報告①と質疑応答
- 第4回 学生報告②と質疑応答
- 第5回 学生報告③と質疑応答
- 第6回 ここまでの内容に関連する事象についての解説(労働者の家庭と子ども)
- 第7回 学生報告④と質疑応答
- 第8回 学生報告⑤と質疑応答
- 第9回 学生報告⑥と質疑応答
- 第10回 学生報告⑦と質疑応答
- 第11回 ここまでの内容に関する事象についての解説(イギリスの農業事情、教育事情)
- 第12回 学生報告⑧と質疑応答
- 第13回 学生報告⑨と質疑応答
- 第14回 学生報告⑩と質疑応答
- 第15回 内容把握確認のための総括と小テスト

授業以外での学習方法

関連文献の収集と精読

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (34)

小テスト (33)

授業中発表等 (33)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 現代史演習 I <a>

担当者 酒井 一臣

テーマ

日本現代史の諸問題

獲得目標

この授業では、卒業論文作成に向けて、各自のテーマをみつけて研究を進めていく準備を行います。発表と質疑応答を通じ、各自のテーマを深めて具体化していくことを目的とします。

授業の内容

最初は、卒業論文を書くためのガイダンスを行います。その後、各自のテーマを決定し、発表を行います。発表に対して質問をすることも重要です。表と質疑応答を通じて、卒業論文の内容を高めていきましょう。なお、外部講師の招請・校外学習を行う場合があります。

内 容

- 第1回 卒業論文の書き方、テーマ設定の方法
 - 第2回 テーマの発表と文献の探し方
 - 第3回 発表の方法を学ぶ
 - 第4回 テーマ選択の動機の発表会
 - 第5回 個人発表(1)
 - 第6回 個人発表(2)
 - 第7回 個人発表(3)
 - 第8回 個人発表(4)
 - 第9回 個人発表(5)
 - 第10回 個人発表(6)
 - 第11回 個人発表(7)
 - 第12回 個人発表(8)
 - 第13回 これからの計画発表(1)
 - 第14回 これからの計画発表(2)
 - 第15回 これからの計画発表(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 現代史演習 I

担当者 南 直人

テーマ

西洋史学の諸問題

獲得目標

卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探し出し、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学びさらに研究発表及び質疑応答・議論の基本的な作法を身につける。

授業の内容

まず最初に全体的なガイダンスをおこない、テーマを選ぶ際の注意、学術論文の探し方を学んだあと、各自で研究発表をする。それぞれのテーマについて、文献・史料を探し、その内容を理解して、まとめ、発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外者の講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。

内 容

- 第1回 卒論の書き方、テーマ、卒業後の進路
 - 第2回 専門書・論文の探索方法、図書館利用方法
 - 第3回 卒業研究に関する基礎知識、これまでの卒業論文の内容の学習
 - 第4回 個別発表1回目(1)
 - 第5回 個別発表1回目(2)
 - 第6回 個別発表1回目(3)
 - 第7回 個別発表1回目(4)
 - 第8回 個別発表1回目(5)
 - 第9回 個別発表1回目(6)
 - 第10回 個別発表2回目(1)
 - 第11回 個別発表2回目(2)
 - 第12回 個別発表2回目(3)
 - 第13回 個別発表2回目(4)
 - 第14回 個別発表2回目(5)
 - 第15回 個別発表2回目(6)
-

授業以外での学習方法

自分のテーマを見つけだすために、自分が関心を持つ分野の概説書や専門書を読みすすめること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 現代史講読 I <a>

担当者 久保田 裕次

テーマ

近現代日本の政治外交に関する基礎史料の読解

獲得目標

歴史を研究する上で、史料の読解能力を身につけることは不可欠です。この授業では、史料の「読み」方を習得し、論文を作成するための基礎力の養成を目指します。

授業の内容

課題史料の輪読、課題史料の時代背景などに関する報告。課題史料は配布します。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方、近現代史史料の概要説明など)
 - 第2回 史料読解①
 - 第3回 史料読解②
 - 第4回 史料読解③
 - 第5回 史料読解④
 - 第6回 史料報告①
 - 第7回 史料読解⑤
 - 第8回 史料読解⑥
 - 第9回 史料読解⑦
 - 第10回 史料読解⑧
 - 第11回 史料報告②
 - 第12回 史料読解⑨
 - 第13回 史料読解⑩
 - 第14回 史料読解⑪
 - 第15回 史料報告③
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

東アジア国際政治史

著者： 川島真・服部龍二

出版社： 名古屋大学出版会

出版年： 2007

ISBN： 481580561X

「国際化」の中の帝国日本

著者： 有馬学

出版社： 中央公論新社

出版年： 1999

ISBN： 4124901046

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (20)

積極的な議論を期待しています

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ <a>

担当者 増淵 徹

テーマ

卒業研究の展開

獲得目標

自分の関心を明確化するとともに、その分野に関わる卒業論文作成を目指した個人研究を進展させる。同時に、テーマの絞り方や研究史の整理・評価、史料の読解やそこからの問題点の引き出し方など、随時授業における各人の報告をもとに討論を行い、より広い視点と客観性の維持に配慮できるようにする。

授業の内容

卒業論文の作成に向けて、参加者各人が関心あるテーマに沿った史料を提出し、その史料の理解に関する研究史や問題点を報告することを通じて、全員で議論する形式で授業を進行させる。なお、古代史関係の遺産を見学する学外学習や、必要に応じて、卒業研究の参考になるように、学外授業や学外講師を招いての講演を行うことがある。

内 容

- 第1回 個人研究の進め方に関する概括的指導
 - 第2回 個人研究の報告と指導
 - 第3回 歴史遺産見学(学外授業)
 - 第4回 個別発表(1)
 - 第5回 個別発表(2)
 - 第6回 個別発表(3)
 - 第7回 個別発表(4)
 - 第8回 個別発表(5)
 - 第9回 個別発表(6)
 - 第10回 個別発表(7)
 - 第11回 個別発表(8)
 - 第12回 個別発表(9)
 - 第13回 個別発表(10)
 - 第14回 個別発表(11)
 - 第15回 後期に向けての卒業研究に関する概括的指導(まとめ)
-

授業以外での学習方法

図書館や様々な情報媒体を通して、論文と史料の博搜に努めること

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ

担当者 細川 涼一

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文を完成させる。日本史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4年生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導を行います。

授業の内容

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。また、必要に応じて学外授業を行う。

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
 - 第2回 個別発表(1)
 - 第3回 個別発表(2)
 - 第4回 個別発表(3)
 - 第5回 個別発表(4)
 - 第6回 個別発表(5)
 - 第7回 個別発表(6)
 - 第8回 個別発表(7)
 - 第9回 個別発表(8)
 - 第10回 個別発表(9)
 - 第11回 個別発表(10)
 - 第12回 個別発表(11)
 - 第13回 個別発表(12)
 - 第14回 個別発表(13)
 - 第15回 個別発表(14)
-

授業以外での学習方法

研究発表に向けて関係する研究書・論文をよく読んで調べること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ <c>

担当者 尾下 成敏

テーマ

日本近世史研究の諸問題

獲得目標

卒業論文作成の第二段階。特に研究史や史料の読み込みを中心とした分析をおこなう。

授業の内容

各自が研究テーマに応じた報告をし、質疑応答を行う。また前期の最後には原稿用紙換算で30枚以上のレポートを作成してもらう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 漢文史料の熟読
 - 第3回 個別報告(漢文史料を読む場合もある)
 - 第4回 個別報告(漢文史料を読む場合もある)
 - 第5回 個別報告(漢文史料を読む場合もある)
 - 第6回 個別報告(漢文史料を読む場合もある)
 - 第7回 個別報告(漢文史料を読む場合もある)
 - 第8回 個別報告(漢文史料を読む場合もある)
 - 第9回 個別報告(漢文史料を読む場合もある)
 - 第10回 個別報告(漢文史料を読む場合もある)
 - 第11回 個別報告(漢文史料を読む場合もある)
 - 第12回 個別報告(漢文史料を読む場合もある)
 - 第13回 個別報告(漢文史料を読む場合もある)
 - 第14回 個別報告(漢文史料を読む場合もある)
 - 第15回 まとめ、レポート作成に関するアドバイス ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

授業中に指示する。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a103040113

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (15)

小テスト ()
授業中発表等 (35)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ <d>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文作成に向けて自己のテーマに基づき研究を深化させる。

授業の内容

各自のテーマにもとづく戸別報告を行い、議論をおこなう。

内 容

- 第1回 4回生前期のゼミ運営方法討議
 - 第2回 卒論の内容にかかわる個別報告(1)
 - 第3回 卒論の内容にかかわる個別報告(2)
 - 第4回 卒論の内容にかかわる個別報告(3)
 - 第5回 卒論の内容にかかわる個別報告(4)
 - 第6回 卒論の内容にかかわる個別報告(5)
 - 第7回 卒論の内容にかかわる個別報告(6)
 - 第8回 卒論の内容にかかわる個別報告(7)
 - 第9回 卒論の内容にかかわる個別報告(8)
 - 第10回 卒論の内容にかかわる個別報告(9)
 - 第11回 卒論の内容にかかわる個別報告(10)
 - 第12回 卒論の内容にかかわる個別報告(11)
 - 第13回 卒論の内容にかかわる個別報告(12)
 - 第14回 卒論の内容にかかわる個別報告(13)
 - 第15回 4回生前期のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅲ <e>

担当者 酒井 一臣

テーマ

日本近現代史の諸問題

獲得目標

この授業では、卒業論文作成に向けて、各自のテーマに関して研究を進めていきます。発表と質疑応答を通じ、各自のテーマを深めて具体化していくことを目的とします。

授業の内容

3年で決めた各自のテーマに従い、発表を行います。発表に対して質問をすることも重要です。表と質疑応答を通じて、卒業論文の内容を高めていきましょう。

内 容

- 第1回 卒業論文の説明(1)
 - 第2回 卒業論文の説明(2)
 - 第3回 個人発表(1)
 - 第4回 個人発表(2)
 - 第5回 個人発表(3)
 - 第6回 個人発表(4)
 - 第7回 個人発表(5)
 - 第8回 個人発表(6)
 - 第9回 個人発表(7)
 - 第10回 個人発表(8)
 - 第11回 個人発表(9)
 - 第12回 個人発表(10)
 - 第13回 これからの計画(1)
 - 第14回 これからの計画(2)
 - 第15回 これからの計画(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅲ <a>

担当者 島居 一康

テーマ

中国史史料読解

獲得目標

中国史の学習の基礎となる漢文・中国語文献の読解力を修得する。

授業の内容

基礎文献を提示して用語・構文の特徴を理解させる。

内 容

- 第1回 漢文史料読解の基礎(1)
 - 第2回 漢文史料読解の基礎(2)
 - 第3回 漢文史料読解の基礎(3)
 - 第4回 漢文史料読解の基礎(4)
 - 第5回 漢文史料読解の基礎(5)
 - 第6回 漢文史料読解の基礎(6)
 - 第7回 各種漢文史料の講読(1)
 - 第8回 各種漢文史料の講読(2)
 - 第9回 各種漢文史料の講読(3)
 - 第10回 各種漢文史料の講読(4)
 - 第11回 各種漢文史料の講読(5)
 - 第12回 各種漢文史料の講読(6)
 - 第13回 中国語学術論文・資料の読解(1)
 - 第14回 中国語学術論文・資料の読解(1)
 - 第15回 中国語学術論文・資料の読解(1)
-

授業以外での学習方法

必要に応じて参考資料等による予習を指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅲ

担当者 小野 浩

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文を完成させる

授業の内容

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導などを行います。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。
○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
 - 第2回 個別発表(1)
 - 第3回 個別発表(2)
 - 第4回 個別発表(3)
 - 第5回 個別発表(4)
 - 第6回 個別発表(5)
 - 第7回 個別発表(6)
 - 第8回 個別発表(7)
 - 第9回 個別発表(8)
 - 第10回 個別発表(9)
 - 第11回 個別発表(10)
 - 第12回 個別発表(11)
 - 第13回 個別発表(12)
 - 第14回 個別発表(13)
 - 第15回 個別発表(14)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅲ <c>

担当者 南 直人

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導を行います。

授業の内容

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導 なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外授業・学外講師を招いての講演等を行うことがある。

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
 - 第2回 個別発表(1)
 - 第3回 個別発表(2)
 - 第4回 個別発表(3)
 - 第5回 個別発表(4)
 - 第6回 個別発表(5)
 - 第7回 個別発表(6)
 - 第8回 個別発表(7)
 - 第9回 個別発表(8)
 - 第10回 個別発表(9)
 - 第11回 個別発表(10)
 - 第12回 個別発表(11)
 - 第13回 個別発表(12)
 - 第14回 個別発表(13)
 - 第15回 個別発表(14)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅲ <d>

担当者 松浦 京子

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文執筆のために必要な史料文献の収集の完了と問題考察に努めること

授業の内容

これまでの学習の集大成としての卒業論文執筆に向けて、そのための研究発表・討論・指導などを行う。授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行なう。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する。また、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 全体指導(卒業研究の進め方)
 - 第2回 全体指導と個別面談①
 - 第3回 全体指導と個別面談②
 - 第4回 全体指導と個別面談③
 - 第5回 全体指導と個別面談④
 - 第6回 学生報告②と討論・講評
 - 第7回 学生報告③と討論・講評
 - 第8回 学生報告④と討論・講評
 - 第9回 学生報告⑤と討論・講評
 - 第10回 学生報告⑥と討論・講評
 - 第11回 学生報告⑦と討論・講評
 - 第12回 学生報告⑧と討論・講評
 - 第13回 学生報告⑨と討論・講評
 - 第14回 学生報告⑩と討論・講評
 - 第15回 個別指導と学生報告予備日
-

授業以外での学習方法

各自、卒業論文執筆に向けて文献収集、精読に努めること

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 女性史特別演習Ⅱ

担当者 松浦 京子・増淵 徹

テーマ

多様な地域の女性史の比較研究

獲得目標

卒業論文のテーマに基づく先行研究の収集とその内容分析を行い、知識情報、研究手法の習得をめざす。

授業の内容

女性史研究を卒業論文のテーマとしている学生を、日本史、東アジア史、西アジア史、西洋史の区別なく一堂に集めて、それぞれの課題、手法を互いに吟味し、切磋琢磨することを通じて、卒業論文を完成することをめざす。地域、国によって女性史研究の進展の度合いはさまざまであり、また、課題として据えられる事象も、またそれへのアプローチ法も異なっている。こうしたことを各ゼミ生の発表を通して理解することは自らの女性史研究に役立つはずである。授業の前半では、担当の教員による女性史の研究史の講義を行い、日本、西洋における女性史研究の動向や基本的枠組みについての理解を深める。その後、各自が研究報告を、最低でも当該時期で1回行う。また、その後の質疑応答と討論にも積極的に参加することによって、研究課題に関する理解に一層の増進を図る。

内 容

- 第1回 (講義) 卒論作成に向けて
- 第2回 (講義) 日本女性史の研究動向①
- 第3回 (講義) 日本女性史の研究動向②
- 第4回 (講義) 西洋女性史の研究動向①
- 第5回 (講義) 西洋女性史の研究動向②
- 第6回 ゼミ生報告①と質疑応答
- 第7回 ゼミ生報告②と質疑応答
- 第8回 ゼミ生報告③と質疑応答
- 第9回 ゼミ生報告④と質疑応答
- 第10回 ゼミ生報告⑤と質疑応答
- 第11回 ゼミ生報告⑥と質疑応答
- 第12回 ゼミ生報告⑦と質疑応答
- 第13回 ゼミ生報告⑧と質疑応答
- 第14回 ゼミ生報告⑨と質疑応答
- 第15回 ゼミ生報告⑩と質疑応答

授業以外での学習方法

各自、それぞれのテーマ、課題にそって、文献収集と精読、分析、考察に努めること

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **考古学概説 <Z>**

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

土中にある過去の遺跡状況をいかに紐解くかを考える。日本の建築・都市の歴史を概観する。

獲得目標

考古学的遺跡群、そして歴史的建造物や伝統的町並みの特徴を理解するために必要な事柄について概観する。その上で、それらを型式・様式、構造・技術などの視点から分析する目をもつことで、遺跡、建築・都市遺産としていかに評価できるかについて考察する。

授業の内容

遺跡、建築・都市遺産を考える上で、それらを観察し、そして型式・様式、構造・技術などの視点から分析する目をもつことをめざす。必要に応じて学外授業を行うことがある。

内 容

- 第1回 考古学的遺跡群は何を語るか(考古学者のイメージを話し合う)。
- 第2回 遺跡学入門① イタリア・ポンペイ遺跡の状況。
- 第3回 遺跡学入門② 群馬県黒井峯・大阪府河内平野遺跡群の状況。
- 第4回 遺跡学入門③ 土にパッキングされたコンテキストを追う。
- 第5回 型式学入門① クリスチャン・トムセンの研究。
- 第6回 型式学入門② オスカル・モンテリウスの研究。
- 第7回 層位学入門① ガブリエル・ド・モルティエの研究。
- 第8回 層位学入門② 遺跡の見学(学外授業)。
- 第9回 建築・都市遺産学とは何か(建築・都市遺産学の目的や方法、社会的な役割について理解を深める)。
- 第10回 建築・都市遺産学入門①(寺社建築の歴史)
- 第11回 建築・都市遺産学入門②(寺社建築の歴史 学外授業)
- 第12回 建築・都市遺産学入門③(寺社建築の歴史 学外授業)
- 第13回 建築・都市遺産学入門④(民家と町屋)
- 第14回 建築・都市遺産学入門⑤(日本の都市空間)
- 第15回 建築・都市遺産学入門⑥(日本の近代化と建築)

授業以外での学習方法

身の回りのものを観察する。

教科書

参考書

通論考古学

著者： 浜田耕作

出版社： 雄山閣出版

出版年： 1996

ISBN： 4639003145

考古学研究入門

著者： 田中琢・佐原真

出版社： 岩波書店

出版年： 1981

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財基礎ゼミ I <Zb>

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の文献史料を読む

獲得目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の内容

文献史料(翻刻史料)を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 近世の文献史料を読む(1)
 - 第3回 近世の文献史料を読む(2)
 - 第4回 近世の文献史料を読む(3)
 - 第5回 近世の文献史料を読む(4)
 - 第6回 近世の文献史料を読む(5)
 - 第7回 近世の文献史料を読む(6)
 - 第8回 近世の文献史料を読む(7)
 - 第9回 学外授業
 - 第10回 くずし字を読む(1)
 - 第11回 くずし字を読む(2)
 - 第12回 くずし字を読む(3)
 - 第13回 くずし字を読む(4)
 - 第14回 くずし字を読む(5)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

博物館・美術館の展示を積極的に見学すること

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年:

ISBN: 9.78449E+12

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財特講Ⅱ(中近世文化史)〈Z〉

担当者 登谷 伸宏

テーマ

日本建築・都市史を読み解く

獲得目標

自分たちの身の回りに存在する歴史的建造物や歴史都市は、どのように成立・展開してきたのだろうか。その答えを、建築・都市遺構や文字・絵画史料を解説することにより見つけられるようになって欲しい。そのための基礎的な力を身につけることを目標とする。

授業の内容

日本列島においてどのような建造物・都市がつくられ、時代とともに如何なる空間的・機能的展開を遂げたのかを辿っていく。それとともに、その背景となる各時代の社会・文化や建築技術のあり方についても考えていきたい。なお、各回の内容は変更する可能性がある。また、必要に応じて学外授業をおこなう。

内 容

- 第1回 中世都市の種類と空間
- 第2回 中世の住宅建築
- 第3回 戦国期京都の空間と社会
- 第4回 近世の寺社建築① 統一政権と寺社
- 第5回 近世の寺社建築② 庶民信仰と寺社
- 第6回 近世城郭の成立
- 第7回 近世城下町の成立と展開
- 第8回 近世書院造の空間と儀礼
- 第9回 近世都市住宅の種類と空間
- 第10回 近世民家の種類と地方的特色
- 第11回 近世都市の空間と社会 三都を中心として
- 第12回 建築技術の変遷 設計技術と大工道具
- 第13回 近代化と建築 擬洋風建築とお雇い外国人
- 第14回 近世都市から近代都市へ
- 第15回 近代建築の展開

授業以外での学習方法

歴史的建造物・歴史都市の見学を積極的に行い、自分自身でそれらを評価する力を養って欲しい。

教科書

日本建築史図集 新訂第三版

著者： 日本建築学会編

出版社： 彰国社

出版年： 2011年

ISBN: 9.7844E+12

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財特講Ⅳ(染織)〈Z〉

担当者 中村 千枝子

テーマ

日本の染織文化の変遷をたどる

獲得目標

生活のなかで基本的に必要とされる条件を指して「衣・食・住」という言葉がある。その筆頭に挙げられているように「衣」は人々の生活に最も密着した関係をもってきた。古くから布を「織る」「染める」行為は繰り返し行われてきたが、どのように変化してきたのかその変遷について各時代の歴史的背景とともに理解を深める。

授業の内容

パワーポイントからの画像・ビデオ・サンプル資料の提示などさまざまな角度から視覚的に学びを進める。また素材や染物・織物の種類や紋様など染織を理解するための基本的な知識についても解説する。

内 容

- 第1回 概論 染織とは
 - 第2回 天然繊維の解説
 - 第3回 古墳時代の染織
 - 第4回 上代の染織
 - 第5回 上代の染織
 - 第6回 正倉院の染織
 - 第7回 正倉院の文様染
 - 第8回 平安時代の染織
 - 第9回 平安時代の染織
 - 第10回 名物裂
 - 第11回 能装束
 - 第12回 小袖
 - 第13回 小袖
 - 第14回 小袖
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

博物館・美術館・社寺などで染織品を見る、伝統芸能に触れるなど鑑賞の眼を養う

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

織りと染めの歴史

著者: 河上繁樹 藤井健三共著

出版社: 昭和堂

出版年: 1999年

ISBN:

染と織を訪ねる

著者： 長崎巖

出版社： 新潮社

出版年：

ISBN：

日本の色辞典

著者： 吉岡幸雄

出版社： 紫紅社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 考古学実習 I <Za>

担当者 巽 淳一郎・登谷 伸宏

テーマ

歴史的建造物を知る(登谷) 古文書に親しむ(有坂)

獲得目標

歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷)。さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する。(有坂)

授業の内容

歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。(有坂)

内 容

- 第1回 ガイダンス(登谷)
 - 第2回 実測調査①(登谷)
 - 第3回 実測調査②(登谷)
 - 第4回 実測調査③(登谷)
 - 第5回 図面の清書①(登谷)
 - 第6回 図面の清書②(登谷)
 - 第7回 図面の清書③、まとめ(登谷)
 - 第8回 ガイダンス 考古学研究の基礎となる遺物調査法を学ぶ。(巽淳一郎)
 - 第9回 土器実測実習。(巽淳一郎)
 - 第10回 土器実測実習。(巽淳一郎)
 - 第11回 土器実測実習。(巽淳一郎)
 - 第12回 土器実測実習。(巽淳一郎)
 - 第13回 土器実測実習。(巽淳一郎)
 - 第14回 拓本実習。(巽淳一郎)
 - 第15回 拓本実習。まとめ。(巽淳一郎)
-

授業以外での学習方法

出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見る。(有坂)

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 美術工芸史実習 I <Za>

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

考古学の調査技術を体験する。(巽淳一郎) 歴史的建造物を知る(登谷 伸宏) 美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ。(小林 裕子) 古文書に親しむ(有坂)

獲得目標

考古学資料に対する観察力を高め、図面に表す。(巽淳一郎) 歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷 伸宏)。計測・デッサン・ディスクリプション(作品記述)によって、対象となる作例を深く知る方法を会得する。なお、必要に応じて学外授業を実施する。(小林 裕子) さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する。(有坂)

授業の内容

歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。(有坂)

内 容

- 第1回 ガイダンス(小林 裕子)
 - 第2回 法量計測実習(小林 裕子)
 - 第3回 デッサン実習①(小林 裕子)
 - 第4回 デッサン実習②(小林 裕子)
 - 第5回 デッサン実習③(小林 裕子)
 - 第6回 ディスクリプション実習①(小林 裕子)
 - 第7回 ディスクリプション実習②(小林 裕子)
 - 第8回 授業の進め方についてのガイダンス(有坂)
 - 第9回 古文書を扱う①(有坂)
 - 第10回 古文書を扱う②(有坂)
 - 第11回 くずし字を読む①(有坂)
 - 第12回 くずし字を読む②(有坂)
 - 第13回 くずし字を読む③(有坂)
 - 第14回 くずし字を読む④(有坂)
 - 第15回 まとめ(有坂)
-

授業以外での学習方法

出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見る。(有坂)

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

a104024510

実習参加度と実習成果品から成績を評価。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習 I <a>

担当者 巽 淳一郎

テーマ

卒業論文作成に向けて研究テーマを設定し、計画的に準備を進める。

獲得目標

研究論文を読み解く能力の向上。論文の主旨を文章にまとめ、それに対する意見をみんなの前で自分の言葉で分かり易く説明する能力を着ける。

授業の内容

授業は会議方式で行い、ゼミ構成員の各自が発表者・司会者・質疑聴衆役を交代で務め会議を運営する。

内 容

- 第1回 ガイダンス。ゼミ運営方式の策定。
 - 第2回 学外授業。
 - 第3回 研究発表会議。
 - 第4回 研究発表会議。
 - 第5回 研究発表会議。
 - 第6回 研究発表会議。
 - 第7回 研究発表会議。
 - 第8回 研究発表会議。
 - 第9回 研究発表会議。
 - 第10回 研究発表会議。
 - 第11回 学外授業。
 - 第12回 研究発表会議。
 - 第13回 研究発表会議。
 - 第14回 研究発表会議。
 - 第15回 研究発表会議。前期ゼミ総括。後期ゼミ課題設定。
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習 I

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

自己の研究テーマを設定し、それに伴う資料を収集し、分類、分析案などを中心に発表する。

獲得目標

設定した研究テーマにおいて、まず最も最新の成果を学ばせ、課題点を見つけ、自分の研究視角を定め、計画的に研究を進める。誰でも分かってもらえるような発表の仕方を考え工夫させる。

授業の内容

各テーマ発表においては、計画をたてて順次発表を行う。必要に応じて、遺跡、建造物や博物館などを見学する。

内 容

- 第1回 各自、研究テーマの設定をする。
 - 第2回 学外授業。各自のテーマに沿った形で授業の場を設定。
 - 第3回 学外授業。各自のテーマに沿った形で授業の場を設定。
 - 第4回 研究発表・討議
 - 第5回 研究発表・討議
 - 第6回 研究発表・討議
 - 第7回 研究発表・討議
 - 第8回 研究発表・討議
 - 第9回 研究発表・討議
 - 第10回 学外授業。各自のテーマに沿った形で授業の場を設定。土曜もしくは日曜に実施。
 - 第11回 研究発表・討議
 - 第12回 研究発表・討議
 - 第13回 研究発表・討議
 - 第14回 研究発表・討議
 - 第15回 総括・今後の目標と課題
-

授業以外での学習方法

興味をもった研究論文を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習 I <c>

担当者 小林 裕子

テーマ

嘉承元年(1106)頃における奈良の諸大寺の様相を綴った日本美術史研究に欠かせない基本文献たる大江親通『七大寺日記』の輪読と研究発表を通じて、美術史の研究手法を体得する。

獲得目標

本演習では、『七大寺日記』の輪読及び研究発表をおこなう。発表では、親通の記述から生じた各自の疑問や好奇心を先行研究や現存作例の詳細などによって分析、解決するものとし、これにより美術史研究の多角的な方法を知り、論文執筆の能力を養うことを目的とする。なお、必要に応じて現地見学を実施する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス及び『七大寺日記』解題
 - 第2回 東大寺条
 - 第3回 東大寺条
 - 第4回 東大寺条
 - 第5回 東大寺条
 - 第6回 東大寺条
 - 第7回 興福寺条
 - 第8回 興福寺条
 - 第9回 興福寺条
 - 第10回 元興寺条
 - 第11回 元興寺条
 - 第12回 西大寺条
 - 第13回 西大寺条
 - 第14回 興福院条
 - 第15回 講評(外部講師による講義の可能性あり)
-

授業以外での学習方法

『七大寺日記』に記載される寺院についての文献を読んだり、実際に訪れることにより、現存作例に対するイメージを明確にしてほしい。

教科書

七大寺日記・七大寺巡礼私記

著者： 藤田経世

出版社： 中央公論美術出版

出版年： 1972年

ISBN:

参考書

奈良六大寺大観(全14巻)

著者： 奈良六大寺大観刊行会

出版社： 岩波書店

出版年： 1999~2001年

ISBN:

日本の古寺美術シリーズ

著者:

出版社: 保育社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習 I <d>

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の古文書を読む(初級)

獲得目標

古文書の読解力、および古文書に関する基礎的な知識を身につける。

授業の内容

古文書の現物を用いてくずし字を読む力をつけるとともに、古文書を扱うテーマでの演習発表を行う。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 演習(1)
 - 第3回 演習(2)
 - 第4回 演習(3)
 - 第5回 演習(4)
 - 第6回 学外授業
 - 第7回 演習(5)
 - 第8回 演習(6)
 - 第9回 演習(7)
 - 第10回 演習(8)
 - 第11回 学外授業
 - 第12回 演習(9)
 - 第13回 演習(10)
 - 第14回 演習(11)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN: 4-490-10333-6

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

a104030114

出席を重視する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 考古学実習Ⅲ <a>

担当者 巽 淳一郎

テーマ

発掘現場で行われる考古作業技術を身に付ける。

獲得目標

発掘現場で行われる基礎的な考古作業を体得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス。
 - 第2回 学外授業。
 - 第3回 レベルを立てる。レベル移動。
 - 第4回 測距作業。
 - 第5回 平板測量実習。
 - 第6回 平板測量実習。
 - 第7回 平板測量実習。
 - 第8回 平板測量実習。
 - 第9回 平板測量実習。
 - 第10回 遺物出土状況の実測。
 - 第11回 遺物出土状況の実測。
 - 第12回 遺物出土状況の実測。
 - 第13回 学外授業
 - 第14回 土層断面図作成
 - 第15回 土層断面図作成。まとめ。
-

授業以外での学習方法

発掘現場見学。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 考古学実習Ⅲ

担当者 一瀬 和夫

テーマ

組織、群としての発掘調査成果を記録する考古学研究の基礎となる実践方法を知る

獲得目標

今日、発掘されたものはどのような手続きで処置されているのかを知り、フィジカルなチームプレーで行うことの多い調査の流れと
いうものを理解して、研究へとつなげていくことを目的とする。また、その研究成果の活用も考える。

授業の内容

作業室、野外、PC教室での作業。資料活用法の見学

内 容

- 第1回 考古遺物のスケッチと観察
- 第2回 研究資料活用開発の技術—チームワーク・ワークショップ①
- 第3回 研究資料活用開発の技術—チームワーク・ワークショップ②
- 第4回 Photoshopによる石器のスキャニング、実測図、製図①
- 第5回 Photoshopによる石器のスキャニング、実測図、製図②
- 第6回 Photoshopによる石器のスキャニング、実測図、製図③
- 第7回 野外での測量①
- 第8回 野外での測量②
- 第9回 野外での測量③
- 第10回 Photoshop・Illustratorによる遺跡分布図の作成
- 第11回 Photoshop・Illustratorによる調査区設定図の作成
- 第12回 Photoshop・Illustratorによる土層断面図の作成
- 第13回 Photoshop・Illustratorによる遺構平面図の作成
- 第14回 Photoshop・Illustratorによる出土状況図の作成
- 第15回 考古資料の展示の見学(学外授業)

授業以外での学習方法

Photoshop、Illustratorのコンピュータ・ソフトに触れてみる。

教科書

PCによる教材提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

埋蔵文化財発掘調査の手びき

著者: 文化庁文化財保護部

出版社: 国土地理協会

出版年: 1966

ISBN:

成績評価

a104030312

試験 (0)
授業中課題 (80)
参加度 (20)

小テスト (0)
授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 美術工芸史実習Ⅲ <a>

担当者 小林 裕子

テーマ

美術作品の形状記述や図面作成、美術工芸作品(絵画・工芸品等)の調書作成方法や取扱など、実習を通じてより深く美術工芸史を理解する。

獲得目標

学芸員や研究者は直接実物資史料に触れる仕事であるが、その対象はかけがえのない作品であるため、決して過失があってはならない。実習では、作品を取り扱うための特殊な技術と専門的な知識を正しく身につけるとともに、美術工芸史に対する理解を深めることを目的とする。なお、必要に応じて外部講師を招聘する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 ディスクリプション及び製図①
- 第3回 ディスクリプション及び製図②
- 第4回 ディスクリプション及び製図③
- 第5回 ディスクリプション及び製図④
- 第6回 美術工芸作品の種類と取扱説明
- 第7回 取扱実習(箱物①)
- 第8回 取扱実習(箱物②)
- 第9回 取扱実習(絵画①)
- 第10回 取扱実習(絵画②)
- 第11回 取扱実習(金工①)
- 第12回 取扱実習(金工②)
- 第13回 取扱実習(染織①)
- 第14回 取扱実習(染織②)
- 第15回 まとめ なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

奈良や京都の寺院、博物館や美術館に足を運び、実物から学びとる機会をつくること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 美術工芸史実習Ⅲ

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

獲得目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の内容

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方の実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 実習(1)
 - 第3回 実習(2)
 - 第4回 実習(3)
 - 第5回 実習(4)
 - 第6回 学外授業
 - 第7回 実習(5)
 - 第8回 実習(6)
 - 第9回 実習(7)
 - 第10回 実習(8)
 - 第11回 学外授業
 - 第12回 実習(9)
 - 第13回 実習(10)
 - 第14回 実習(11)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者： 児玉幸多

出版社： 東京堂出版

出版年： 平成22年

ISBN: 9.78449E+12

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (70)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a104030512

出席を重視する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古都学 I

担当者 小林 裕子

テーマ

仏教美術からみた日本の古代都城の成立と展開

獲得目標

日本の仏教美術の諸問題に触れ、作品の理解はもとより、従来の研究方法や研究史を客観的に分析できる視点を養うことを目標とする。

授業の内容

美術史研究は、主に文献と実物を駆使した研究手法によって支えられており、その学問的意義と有効性はひろく認められている。授業では、明治以来争点とされてきた京都及び奈良の寺院の歴史や本尊など所蔵作品をめぐる様々な問題をはじめ、それらがどのように問題化され、また解明されてきたのか、これまでの研究の歴史と解釈とを具体的に示す。そのうえで日本の都城の形成に宗教がいかに関わってきたのか読み解いていく。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献と実物の研究事例 法隆寺金堂釈迦三尊像と薬師如来像
- 第3回 制作年代論争 薬師寺金堂薬師三尊像と山田寺仏頭
- 第4回 平城京における造仏 興福寺西金堂釈迦集会像
- 第5回 鎮護国家の時代 東大寺法華堂不空羂索観音像と大仏造立
- 第6回 唐代美術の日本への伝播 旧光宅寺石仏龕と聖林寺十一面観音像
- 第7回 複雑な研究史と最新発掘成果による展開 唐招提寺金堂三尊と鑑真和上
- 第8回 新文化の刺激 唐招提寺旧講堂木彫群
- 第9回 平安京の幕開け 東寺講堂諸像と空海
- 第10回 現世利益と山岳仏教 神護寺薬師如来像
- 第11回 叡山と南都 室生寺金堂諸像
- 第12回 思想と発願者の関係性 平等院鳳凰堂の美術と頼通の浄土観
- 第13回 平安後期の造寺造仏と仏師集団 蓮華王院千手観音像
- 第14回 鎌倉仏教と造像 円成寺大日如来像と真言仏教
- 第15回 阿弥陀信仰の諸相 永観堂見返阿弥陀
- 第16回 理解度の確認

授業以外での学習方法

京都、奈良の寺院、また博物館や美術館に足を運び実物に接する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 東アジア文化財特講 I

担当者 王 衛明

テーマ

古代中国絵画史の発展様相を体系的に考察する。

獲得目標

絵画史の資料を考察することによって、中国地域における美術造形発展の重要事項を把握し、美術史学の学問体系からその重要画家、代表作品、表現様式について、様々な角度で検討する。また、近年最新の研究状況、考古学発見の紹介を加えながら、中国絵画史の歴史展開の輪郭を講じていく。

授業の内容

内 容

- 第1回 中国絵画史研究の特徴および研究方法
 - 第2回 漢代絵画史の諸問題—墓室壁画
 - 第3回 絵画史資料からみる漢代絵画史の発展状況
 - 第4回 魏晋南北朝の絵画史の諸問題
 - 第5回 魏晋南北朝の代表画家—顧愷之、彫刻家戴逵
 - 第6回 魏晋南北朝の出土壁画
 - 第7回 絵画史資料からみる南北地域の代表画家とその作品
 - 第8回 絵画史資料からみる南北朝の芸術論
 - 第9回 魏晋南北朝墓室壁画の諸問題
 - 第10回 隋唐時代の絵画史の諸問題
 - 第11回 張彦遠『歴代名画記』にみられる漢唐時代の絵画史の発展
 - 第12回 隋唐時代の代表画家とその作品
 - 第13回 隋唐時代の代表画家とその作品
 - 第14回 西安郊外に出土した墓室壁画の諸問題
 - 第15回 内容総括
-

授業以外での学習方法

重要な特別展を見学し、その絵画作品を実見することによって問題意識を養うこと。また、見学などの学外授業への参加を義務づける。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅲ <a>

担当者 巽 淳一郎

テーマ

卒業論文の作成。

獲得目標

各自論文の構成を検討し、研究計画を策定。研究史をまとめ、自己の研究の眼目を明確にする。

授業の内容

内 容

- 第1回 前期授業計画の策定。各自研究の現状と研究計画を発表。
 - 第2回 学外授業。
 - 第3回 研究発表・質疑応答。
 - 第4回 研究発表・質疑応答。
 - 第5回 研究発表・質疑応答。
 - 第6回 研究発表・質疑応答。
 - 第7回 研究発表・質疑応答。
 - 第8回 研究発表・質疑応答。
 - 第9回 研究発表・質疑応答
 - 第10回 卒論中間発表資料案作成・案の検討。
 - 第11回 卒論中間発表資料案作成・案の検討。
 - 第12回 卒論中間発表資料案作成・案の検討。
 - 第13回 卒論中間発表資料案作成・案の検討。
 - 第14回 卒論中間発表資料案作成・案の検討。
 - 第15回 卒論中間発表資料案作成・案の検討。
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅲ

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

卒業論文の作成

獲得目標

各自論文構成を検討し、研究計画を策定。研究史の整理し、自己の研究のオリジナリティーを明確にさせる。

授業の内容

研究計画の整備。発表、それにもとづく質疑応答と討議、評価。まとめと課題の抽出。

内 容

- 第1回 授業計画
 - 第2回 学外授業
 - 第3回 研究発表
 - 第4回 研究発表
 - 第5回 研究発表
 - 第6回 研究発表
 - 第7回 研究発表
 - 第8回 研究発表
 - 第9回 図・文献等整備
 - 第10回 図・文献等整備
 - 第11回 図・文献等整備
 - 第12回 論文補足修正・加筆
 - 第13回 論文補足修正・加筆
 - 第14回 研究修正案発表
 - 第15回 研究修正案発表
-

授業以外での学習方法

資料収集と観察と分析。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

研究発表内容、研究進展度、オリジナリティーを基に評価。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅲ <C>

担当者 小林 裕子・王 衛明

テーマ

卒業論文執筆準備

獲得目標

各々研究テーマを検討、先行研究をまとめたうえで論文構成を決定する。

授業の内容

まず受講者各々の研究テーマを発表し、それについての討論を実施する。つぎにテーマに沿った先行研究を整理し、論文構成を練ったうえで再度発表して執筆方針を確定する。なお、必要に応じて外部講師による研究発表を実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 研究テーマの検討
 - 第3回 研究テーマの発表
 - 第4回 研究テーマの発表
 - 第5回 研究テーマの発表
 - 第6回 研究テーマの発表
 - 第7回 研究テーマの発表
 - 第8回 外部講師による研究発表
 - 第9回 論文執筆方針及び構成の発表
 - 第10回 論文執筆方針及び構成の発表
 - 第11回 論文執筆方針及び構成の発表
 - 第12回 論文執筆方針及び構成の発表
 - 第13回 論文執筆方針及び構成の発表
 - 第14回 論文執筆方針及び構成の発表
 - 第15回 論文執筆方針及び構成の発表 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

実物をよく観察し、先行研究を理解することこそ、独創性・新規性あふれる論文を生む。したがって積極的に資料収集につとめてほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅲ <d>

担当者 有坂 道子

テーマ

卒業論文作成にむけて

獲得目標

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。○
テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各
自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について
指導する。○論文作成にむけての個別指導

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 文化財学演習(1)
 - 第3回 文化財学演習(2)
 - 第4回 文化財学演習(3)
 - 第5回 文化財学演習(4)
 - 第6回 学外授業
 - 第7回 文化財学演習(5)
 - 第8回 文化財学演習(6)
 - 第9回 文化財学演習(7)
 - 第10回 文化財学演習(8)
 - 第11回 学外授業
 - 第12回 文化財学演習(9)
 - 第13回 文化財学演習(10)
 - 第14回 文化財学演習(11)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (100)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (遺) <A>

担当者 有坂 道子・登谷 伸宏

テーマ

歴史学とは何か(登谷) 文字史料に親しむ(有坂)

獲得目標

歴史学は、何を対象としてどのように研究を進める学問なのか、について理解を深める(登谷)。自分で研究テーマを設定し、研究成果を発表するとはどういうことか学ぶ。(有坂)

授業の内容

テキストを精読することにより、歴史学とはどのような学問なのか、という問いに対する自分なりの考えを見つける。以上の過程をレジュメにまとめて口頭発表を行う。発表にもとづき議論することを通して、歴史学の基礎を学ぶ。なお、必要に応じて学外授業を行うこともある(登谷)。研究テーマとして文字史料を取り上げ、「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」ことの基本を学ぶ。(有坂)

内 容

- 第1回 ガイダンス(登谷)
 - 第2回 ゼミ発表①
 - 第3回 ゼミ発表②
 - 第4回 ゼミ発表③
 - 第5回 ゼミ発表④
 - 第6回 ゼミ発表⑤
 - 第7回 ゼミ発表⑥
 - 第8回 ゼミ発表⑦
 - 第9回 授業の進め方についてのガイダンス(有坂)
 - 第10回 ゼミ発表(1)
 - 第11回 ゼミ発表(2)
 - 第12回 ゼミ発表(3)
 - 第13回 ゼミ発表(4)
 - 第14回 ゼミ発表(5)
 - 第15回 ゼミ発表(6)
 - 第16回 総括
-

授業以外での学習方法

歴史に興味を持ち、歴史に関する書籍を多く読むとともに、博物館や美術館で実際に史料を見学して欲しい(登谷)。できるだけ身の回りのさまざまなことに興味を持ち、本や新聞などをよく読むこと。(有坂)

教科書

歴史学入門

著者： 福井憲彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2006年

ISBN： 4-00-028041-4

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (遺)

担当者 有坂 道子・巽 淳一郎

テーマ

文字史料に親しむ 興味・関心を昇華し、研究心を育む。(巽淳一郎)

獲得目標

自分で研究テーマを設定し、研究成果を発表するとはどういうことか学ぶ。考古学の研究方法を学ぶ。討論の場では人の話を聞き、疑問点を質し、自分の考えを述べる。(巽淳一郎)

授業の内容

研究テーマとして文字史料を取り上げ、「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」ことの基本を学ぶ。

内 容

- 第1回 授業の進め方についてのガイダンス
 - 第2回 ゼミ発表(1)
 - 第3回 ゼミ発表(2)
 - 第4回 ゼミ発表(3)
 - 第5回 ゼミ発表(4)
 - 第6回 ゼミ発表(5)
 - 第7回 ゼミ発表(6)
 - 第8回 総括
 - 第9回 自己紹介・授業の進め方に関するガイダンス(巽淳一郎)
 - 第10回 討論会「考古学とはいかなる学問か」。
 - 第11回 考古学の研究法・考古学と歴史学。
 - 第12回 考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。
 - 第13回 考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。
 - 第14回 考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。
 - 第15回 考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。まとめ
 - 第16回 学外授業。
-

授業以外での学習方法

できるだけ身の回りのさまざまなことに興味を持ち、本や新聞などをよく読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (遺) <C>

担当者 小林 裕子・巽 淳一郎

テーマ

興味・関心を昇華し、研究心を育む。(巽淳一郎) 美術工芸史研究に対する興味を誘起する。(小林 裕子)

獲得目標

考古学の研究方法を学ぶ。討論の場では人の話を聞き、疑問点を質し、自分の考えを述べる。(巽淳一郎) 自らの目でテーマを選び、研究成果をグループでプレゼンする力をつける。なお、必要に応じて学外授業を実施する。(小林 裕子)

授業の内容

内 容

- 第1回 (巽淳一郎)自己紹介・授業の進め方に関するガイダンス。
- 第2回 (巽淳一郎)討論会「考古学とはいかなる学問か」。
- 第3回 (巽淳一郎)考古学の研究法・考古学と歴史学。
- 第4回 (巽淳一郎)考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。
- 第5回 (巽淳一郎)考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。
- 第6回 (巽淳一郎)考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。
- 第7回 (巽淳一郎)考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。まとめ。
- 第8回 (巽淳一郎)学外授業。
- 第9回 (小林 裕子)ガイダンス 美術史研究の歴史
- 第10回 (小林 裕子)テーマ討論① 美術とは何か
- 第11回 (小林 裕子)テーマ討論② 美術史研究の意義と目的
- 第12回 (小林 裕子)グループ発表のテーマ設定
- 第13回 (小林 裕子)グループ発表と討議①
- 第14回 (小林 裕子)グループ発表と討議②
- 第15回 (小林 裕子)グループ発表と討議③

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **歴史遺産学概説 I**

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

土中にある過去の遺跡状況をいかに紐解くかを考える。日本の建築・都市の歴史を概観する。

獲得目標

考古学的遺跡群、そして歴史的建造物や伝統的町並みの特徴を理解するために必要な事柄について概観する。その上で、それらを型式・様式、構造・技術などの視点から分析する目をもつことで、遺跡、建築・都市遺産としていかに評価できるかについて考察する。

授業の内容

遺跡、建築・都市遺産を考える上で、それらを観察し、そして型式・様式、構造・技術などの視点から分析する目をもつことをめざす。必要に応じて学外授業を行うことがある。

内 容

- 第1回 考古学的遺跡群は何を語るか(考古学者のイメージを話し合う)。
- 第2回 遺跡学入門① イタリア・ポンペイ遺跡の状況。
- 第3回 遺跡学入門② 群馬県黒井峯・大阪府河内平野遺跡群の状況。
- 第4回 遺跡学入門③ 土にパッキングされたコンテキストを追う。
- 第5回 型式学入門① クリスチャン・トムセンの研究。
- 第6回 型式学入門② オスカル・モンテリウスの研究。
- 第7回 層位学入門① ガブリエル・ド・モルティエの研究。
- 第8回 層位学入門② 遺跡の見学(学外授業)。
- 第9回 建築・都市遺産学とは何か(建築・都市遺産学の目的や方法、社会的な役割について理解を深める)。
- 第10回 建築・都市遺産学入門①(寺社建築の歴史)
- 第11回 建築・都市遺産学入門②(寺社建築の歴史 学外授業)
- 第12回 建築・都市遺産学入門③(寺社建築の歴史 学外授業)
- 第13回 建築・都市遺産学入門④(民家と町屋)
- 第14回 建築・都市遺産学入門⑤(日本の都市空間)
- 第15回 建築・都市遺産学入門⑥(日本の近代化と建築)

授業以外での学習方法

身の回りのものを観察する。

教科書

参考書

通論考古学

著者： 浜田耕作

出版社： 雄山閣出版

出版年： 1996

ISBN： 4639003145

考古学研究入門

著者： 田中琢・佐原真

出版社： 岩波書店

出版年： 1981

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本美術史 I**

担当者 村田 隆志

テーマ

日本美術の特質の認識と、各時代の特徴についての体系的な理解

獲得目標

日本では各時代、各分野それぞれに多くの優れた美術作品が生み出されてきた。幾度もの自然災害や戦乱にも関わらず、現代にも多数の作品が残されている。教員の紹介する作品の画像を通じて、その魅力、および特質を認識し、時代が下るにつれて美術の表現はどのように変化していったのかを体系的に理解すること、そして課題を通じてその魅力について言葉で表現する能力を養うことを目的とする。

授業の内容

本講義では、各時代、各分野の優れた作品について画像を提示しながら紹介し、理解を深める。課題では特定の作品について、作品解説の執筆を求め、ディスクリプションの能力についても強化を図る。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 縄文・弥生時代の美術
 - 第3回 飛鳥・白鳳時代の美術
 - 第4回 奈良時代の美術
 - 第5回 平安時代の美術
 - 第6回 鎌倉時代の美術
 - 第7回 室町時代の美術
 - 第8回 桃山時代の美術
 - 第9回 江戸時代の美術1
 - 第10回 江戸時代の美術2
 - 第11回 実地見学
 - 第12回 明治・大正時代の美術
 - 第13回 昭和期の美術
 - 第14回 現代の美術
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

関西では、本講義で紹介する各種の作品に博物館・美術館・寺社などで実際に接することが比較的容易である。積極的な鑑賞機会を持つこと。本科目の学びに益する展覧会が開催される場合、学外授業として実地見学を行う場合がある。

教科書

参考書

カラー版 日本美術史

著者： 辻惟雄監修

出版社： 美術出版社

出版年： 2002

ISBN： 4568400651

日本美術の歴史

著者： 辻惟雄

出版社： 東京大学出版会

出版年： 2005

ISBN： 4130820869

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **東洋美術史 I**

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史の全体像を体系的に解説する

獲得目標

美術、考古資料を概観することによって、東アジアにおける美術造形発展の流れを把握する。オリエント(東洋)という芸術史上の概念は、インド以東の中国、朝鮮、日本及び東南アジア諸国の造形美術を指す。この授業では、美術史通史の性格を持ち、中国古代文明を中心に、歴代王朝に生み出された代表的な絵画、彫刻、工芸、建築等を直接的考察対象にし、美術史学の学問体系から、これらの様々な様式特徴、表現主題、重要作家の事跡と歴史地位等をイメージ資料で通覧し、また中国において近年最新の考古発掘資料とその研究現状の紹介を加えながら、複雑で多様な美的歴史展開の輪郭を講じていきたい。

授業の内容

内 容

- 第1回 概説・中国美術史発展の特徴と研究方法
- 第2回 史前・原始社会の美術—文明の形態
- 第3回 夏文明に関する諸説の検討
- 第4回 二里头遺跡の発掘及び青銅文明の出現
- 第5回 商周の美術—青銅器の出現と文飾の意味
- 第6回 春秋・戦国時代の美術—帛画・青銅工芸品、漆器(美術副葬品の出現)
- 第7回 秦代の美術—始皇帝陵と兵馬俑
- 第8回 秦代美術の問題点—その源流を考える
- 第9回 漢代の美術—死後世界の憧憬とその表現
- 第10回 墓室壁画及び画像石、画像磚に見られる美術資料
- 第11回 東アジア地域における秦漢美術の意義
- 第12回 魏晋南北朝時代—職業仏教画家と士大夫画家及び墓室壁画の諸問題。
- 第13回 中国古代の絵画史論—謝赫の「六法」から張彦遠の『歴代名画記』まで
- 第14回 魏晋南北朝時代の代表画家とその史料上の問題
- 第15回 内容総括

授業以外での学習方法

場合によって授業内容にかかわる寺社や特別展の見学を実施する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 西洋美術史 I

担当者 安藤 邦洋

テーマ

美術(主に絵画、彫刻)作品から、作者のメッセージを読む。

獲得目標

美術作品は何も知らなくても、表面的な美しさは分かる。しかし、すぐれた作品はただ感覚的な美しさだけでなく、もっと深いメッセージを伝えようとしていることを知ってほしい。そのメッセージを読み解くための「技術」の獲得をめざす。

授業の内容

内 容

- 第1回 「序論」絵画の見方のいろいろ ～絵が「分かる」とはどういうことか?～
- 第2回 「物語る絵画」①旧約の世界(1)
- 第3回 「物語る絵画」②旧約の世界(2)
- 第4回 「物語る絵画」①新約の世界(1)
- 第5回 「物語る絵画」①新約の世界(2)
- 第6回 「物語る絵画」③レオナルド作「最後の晩餐」の修復の過程を記録したビデオ視聴
- 第7回 「物語る絵画」④最後の晩餐の系譜
- 第8回 「物語る絵画」⑤古典モチーフ ～ギリシア神話～
- 第9回 「物語る絵画」⑥古典モチーフ ～神話以外の文学～
- 第10回 「讚える絵画」①聖母子
- 第11回 「讚える絵画」②聖人
- 第12回 「讚える絵画」③世俗の人間
- 第13回 「世界を観る絵画」①ミケランジェロ作「最後の審判」の修復の過程を記録したビデオ視聴
- 第14回 「世界を観る絵画」②最後の審判の系譜
- 第15回 まとめ(試験含む)

授業以外での学習方法

展覧会、テレビの美術番組を見る。その時々展覧会については、授業内で紹介する。

教科書

絵画の探偵術

著者： 島本 淳・岸文和 編

出版社： 昭和堂

出版年： 1995年(初版)

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 民俗学 I

担当者 橋本 章彦

テーマ

宗教民俗学入門

獲得目標

現代を生きる我々の問題として「民俗」を考えてみたい。その為に講義では、我々にとってできる限り身近な民俗的事象を取り上げる。中には、一見して民俗と何の関わりもないような話題についても考察を加えることになるであろう。皆さんは、それらの検討を通じて、現代生活と民俗の深い関わりを認識し、自分自身を民俗の視点から、今一度見つめ直す機会として欲しい。

授業の内容

以下の予定にしたがって講義を展開する。

内 容

- 第1回 柳田国男の人と学問—導入的観点から
- 第2回 民俗と民俗学そして宗教民俗学について(目的、方法、対象など)
- 第3回 「傘」の宗教民俗学—なぜ人は相合い傘を画くのか—
- 第4回 ご先祖様が帰ってくる—盆行事の現代的意義を考える(1)—
- 第5回 ご先祖様が帰ってくる—盆行事の現代的意義を考える(2)—
- 第6回 ご先祖様が帰ってくる—盆行事の現代的意義を考える(3)—
- 第7回 怪獣民俗論—『ゴジラ』(1954)の鑑賞
- 第8回 怪獣民俗論—ゴジラの出現を民俗的世界観から考える—
- 第9回 怪獣民俗論—怪獣についての現代的イメージの源をさぐる—
- 第10回 怪獣民俗論—アメリカゴジラと日本ゴジラの比較民俗学—
- 第11回 都市伝説の民俗学—戦時下世間話の中の神々(1)—
- 第12回 都市伝説の民俗学—戦時下世間話の中の神々(2)—
- 第13回 笑いの民俗—漫才の近代史・言祝ぎから娯楽へ(1)—
- 第14回 笑いの民俗—漫才の近代史・言祝ぎから娯楽へ(2)—
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

民俗学の入門書を一冊くらいは読むのが望ましい。また宗教学の講義を受けたり、もしくは概説書を読んで宗教について理解を深めておくことも重要である。

教科書

プリント配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

民俗学概論

著者: 福田アジオ・宮田登編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

現代民俗学入門

著者： 佐野賢治編

出版社： 吉川弘文館

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（50）

・参加度とは出席率を意味する。3分の2以上の出席者を採点対象として点数化する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **世界遺産論**

担当者 登谷 伸宏

テーマ

世界遺産の現状と課題を学ぶ。

獲得目標

世界遺産の制度やその歴史について学習するとともに、文化遺産に登録された歴史的建造物や歴史都市に関する基本的な知識の獲得を目指す。さらに、世界遺産の制度が抱える課題についても理解を深める。

授業の内容

各回とも配布したプリントに従い講義を行う。なお、各回の内容を変更する可能性がある。また必要に応じて学外授業を実施する。

内 容

- 第1回 世界遺産とは何か-歴史と制度
 - 第2回 アフリカ・ヨーロッパの文化遺産① エジプトの建築と都市
 - 第3回 アフリカ・ヨーロッパの文化遺産② ギリシャの建築と都市
 - 第4回 ヨーロッパの文化遺産① ローマの建築と都市
 - 第5回 ヨーロッパの文化遺産② ロマネスクの建築と都市
 - 第6回 ヨーロッパの文化遺産③ ゴシックの建築と都市
 - 第7回 ヨーロッパの文化遺産④ ルネサンスの建築と都市
 - 第8回 ヨーロッパの文化遺産⑤ バロックの建築と都市
 - 第9回 ヨーロッパの文化遺産⑥ ヨーロッパにおける世界遺産の現状と課題
 - 第10回 アジアの文化遺産① 東アジアの建築と都市
 - 第11回 アジアの文化遺産② 東南アジアの建築と都市
 - 第12回 日本の文化遺産① 法隆寺地域の仏教建造物について(学外授業)
 - 第13回 日本の文化遺産② 古都奈良の文化財(学外授業)
 - 第14回 日本の文化遺産③ 平泉-仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群-
 - 第15回 日本の文化遺産④ 石見銀山遺跡とその文化的景観
-

授業以外での学習方法

世界遺産の現状と課題について、新聞・雑誌などから知識を得ておいて欲しい。

教科書

西洋建築史図集 三訂版

著者： 日本建築学会編

出版社： 彰国社

出版年： 1983年

ISBN： 4-395-00021-5

参考書

図説 西洋建築史

著者： 陣内秀信ほか

出版社： 彰国社

出版年： 2005年

ISBN： 4-395-00648-5

世界遺産が消えてゆく

著者： 中村俊介

出版社： 千倉書房

出版年： 2006年

ISBN: 4-8051-0871-1

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミ I <a>

担当者 巽 淳一郎

テーマ

考古学の学説を批判的に読み解く。

獲得目標

考古学の学説は提唱者の生きた時代の知的環境(時代性・歴史観・掌握情報資料の質と量)の下で組み立てられた仮説あり、その後の発掘調査や研究によって検証・淘汰されるものであることを知らせる。論文を読む場合には鵜呑みにすることなく、批判的に読むべきことを教える。

授業の内容

内 容

- 第1回 ゼミ運営の策定。自己紹介。
 - 第2回 学外授業。
 - 第3回 論文購読・検討。
 - 第4回 論文購読・検討。
 - 第5回 論文購読・検討。
 - 第6回 論文購読・検討。
 - 第7回 論文購読・検討。
 - 第8回 課題発表・討議。
 - 第9回 課題発表・討議。
 - 第10回 課題発表・討議。
 - 第11回 課題発表・討議。
 - 第12回 課題発表・討議。
 - 第13回 課題発表・討議。
 - 第14回 課題発表・討議。
 - 第15回 課題発表・討議。まとめ。
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミ I

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の文献史料を読む

獲得目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の内容

文献史料(翻刻史料)を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 近世の文献史料を読む(1)
 - 第3回 近世の文献史料を読む(2)
 - 第4回 近世の文献史料を読む(3)
 - 第5回 近世の文献史料を読む(4)
 - 第6回 近世の文献史料を読む(5)
 - 第7回 近世の文献史料を読む(6)
 - 第8回 近世の文献史料を読む(7)
 - 第9回 学外授業
 - 第10回 くずし字を読む(1)
 - 第11回 くずし字を読む(2)
 - 第12回 くずし字を読む(3)
 - 第13回 くずし字を読む(4)
 - 第14回 くずし字を読む(5)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

博物館・美術館の展示を積極的に見学すること

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年:

ISBN: 9.78449E+12

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **歴史遺産学基礎ゼミ I <c>**

担当者 登谷 伸宏

テーマ

建築・都市に関する文献史料を読む

獲得目標

文献史料の読解能力を養うことは、歴史遺産学研究を進めるための土台となる。本講義では古記録・古文書を解読するための基礎的な能力の獲得を目指す。

授業の内容

各回とも、近世を中心とした建築・都市に関する文献史料を解読する。なお、講義の予定を変更して学外授業に充てることもある。

内 容

- 第1回 ガイダンス 古文書とは
 - 第2回 くずし字を読むための準備
 - 第3回 建築・都市関係史料を読む①
 - 第4回 建築・都市関係史料を読む②
 - 第5回 建築・都市関係史料を読む③
 - 第6回 建築・都市関係史料を読む④
 - 第7回 建築・都市関係史料を読む⑤
 - 第8回 建築・都市関係史料を読む⑥
 - 第9回 建築・都市関係史料を読む⑦
 - 第10回 建築・都市関係史料を読む⑧
 - 第11回 建築・都市関係史料を読む⑨
 - 第12回 建築・都市関係史料を読む⑩
 - 第13回 建築・都市関係史料を読む⑪
 - 第14回 建築・都市関係史料を読む⑫
 - 第15回 建築・都市関係史料を読む⑬
-

授業以外での学習方法

歴史的建造物・伝統的町並みに関する基本的な知識を身に付けるとともに、博物館や資料館に足を運び、くずし字に慣れ親しんで欲しい。

教科書

おさらい古文書の基礎

著者： 林英夫監修

出版社： 柏書房

出版年： 2002年

ISBN： 4-7601-2200-1

参考書

くずし字用例辞典 普及版

著者： 児玉幸多編

出版社： 東京堂出版

出版年： 1993年

ISBN： 9.78449E+12

成績評価

a10412a113

試験 (40)
授業中課題 ()
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文献史料学 I

担当者 有坂 道子

テーマ

文献史料を読む

獲得目標

史料を読み解く力を身につける

授業の内容

古文書の翻刻史料を用いて、古文書に関する基礎的な知識を身につけ、古文書の読み方・解釈の仕方を学ぶ。

内 容

- 第1回 江戸時代の文献史料
 - 第2回 史料を読むために
 - 第3回 古文書の基礎知識(1)
 - 第4回 古文書の基礎知識(2)
 - 第5回 文献史料の読み方・調べ方(1)
 - 第6回 文献史料の読み方・調べ方(2)
 - 第7回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(1)
 - 第8回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(2)
 - 第9回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(3)
 - 第10回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(4)
 - 第11回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(5)
 - 第12回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(6)
 - 第13回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(7)
 - 第14回 古文書を読む－文書から知る江戸時代(8)
 - 第15回 まとめと総括
-

授業以外での学習方法

必ず復習をし、できるだけ予習をすること。また、博物館・美術館の展示を積極的に見学すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 美術工芸史研究Ⅱ

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史上の仏教美術品諸問題

獲得目標

美術作品を実際に見ることによって、東洋では普遍的な意味を持つ仏教美術史の流れを把握する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
 - 第2回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
 - 第3回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
 - 第4回 仏典の漢訳と仏像の制作
 - 第5回 仏典の漢訳と仏像の制作
 - 第6回 漢代における仏教美術の成立(文献と実物の両面から)
 - 第7回 漢代における仏教美術の成立(文献と実物の両面から)
 - 第8回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
 - 第9回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
 - 第10回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
 - 第11回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察(キジル石窟、敦煌石窟)
 - 第12回 敦煌莫高窟からみる仏教美術の諸問題
 - 第13回 河西地域からみる漢民族化仏教芸術の諸問題
 - 第14回 雲岡石窟・龍門石窟からみる仏教造像の様式
 - 第15回 内容総括
-

授業以外での学習方法

授業時に指定する参考書をよく読むことと日本・中国の仏教美術に関する特別展や寺院・仏像の見学を実施する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築遺産研究 I**

担当者 登谷 伸宏

テーマ

日本建築・都市史を読み解く

獲得目標

自分たちの身の回りに存在する歴史的建造物や歴史都市は、どのように成立・展開してきたのだろうか。その答えを、建築・都市遺構や文字・絵画史料を解説することにより見つけられるようになって欲しい。そのための基礎的な力を身につけることを目標とする。

授業の内容

日本列島においてどのような建造物・都市がつくられ、時代とともに如何なる空間的・機能的展開を遂げたのかを辿っていく。それとともに、その背景となる各時代の社会・文化や建築技術のあり方についても考えていきたい。なお、各回の内容は変更する可能性がある。

内 容

- 第1回 日本建築入門①
 - 第2回 日本建築入門②(学外授業)
 - 第3回 飛鳥時代の寺院建築
 - 第4回 奈良時代の寺院建築
 - 第5回 古代都市の空間
 - 第6回 真言・天台宗の建築
 - 第7回 平安京の空間と社会
 - 第8回 顕密仏教の展開と寺院建築(学外授業)
 - 第9回 古代における貴族住宅の成立
 - 第10回 神社本殿の成立
 - 第11回 大仏様の建築
 - 第12回 禅宗様の建築
 - 第13回 中世仏堂の成立とその空間・機能
 - 第14回 新和様・折衷様の建築
 - 第15回 中世の神社建築(学外授業)
-

授業以外での学習方法

歴史的建造物・歴史都市の見学を積極的に行い、自分自身でそれらを評価する力を養って欲しい。

教科書

日本建築史図集 新訂第三版

著者： 日本建築学会編

出版社： 彰国社

出版年： 2011年

ISBN: 9.7844E+12

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 歴史遺産研究Ⅱ

担当者 中村 千枝子

テーマ

日本の染織文化の変遷をたどる

獲得目標

生活のなかで基本的に必要とされる条件を指して「衣・食・住」という言葉がある。その筆頭に挙げられているように「衣」は人々の生活に最も密着した関係をもってきた。古くから布を「織る」「染める」行為は繰り返し行われてきたが、どのように変化してきたのかその変遷について各時代の歴史的背景とともに理解を深める。

授業の内容

パワーポイントからの画像・ビデオ・サンプル資料の提示などさまざまな角度から視覚的に学びを進める。また素材や染物・織物の種類や紋様など染織を理解するための基本的な知識についても解説する。

内 容

- 第1回 概論 染織とは
 - 第2回 天然繊維の解説
 - 第3回 古墳時代の染織
 - 第4回 上代の染織
 - 第5回 上代の染織
 - 第6回 正倉院の染織
 - 第7回 正倉院の文様染
 - 第8回 平安時代の染織
 - 第9回 平安時代の染織
 - 第10回 名物裂
 - 第11回 能装束
 - 第12回 小袖
 - 第13回 小袖
 - 第14回 小袖
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

博物館・美術館・社寺などで染織品を見る、伝統芸能に触れるなど鑑賞の眼を養う

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

織りと染めの歴史

著者: 河上繁樹 藤井健三共著

出版社: 昭和堂

出版年: 1999年

ISBN:

染と織を訪ねる

著者： 長崎巖

出版社： 新潮社

出版年：

ISBN：

日本の色辞典

著者： 吉岡幸雄

出版社： 紫紅社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育実践発展研究c(総合学習論)〈Z〉

担当者 小寺 隆幸

テーマ

小学校における総合的な学習の意義を理解し、優れた実践から学ぶ。

獲得目標

環境や平和の問題を考えるための基本的な知識を身につけ、総合的な学習を構想し教材をつくる力を育てる。

授業の内容

内 容

- 第1回 総合学習の意義と系譜
 - 第2回 地域の川を考える総合学習
 - 第3回 地域の自然を考える総合学習
 - 第4回 生き物を通して考える総合学習
 - 第5回 食を考える総合学習
 - 第6回 福祉を考える総合学習
 - 第7回 異文化国際理解の総合学習
 - 第8回 平和を考える総合学習
 - 第9回 沖縄を考える総合学習
 - 第10回 東日本大震災と防災教育を考える総合
 - 第11回 福島原発事故を考える総合学習
 - 第12回 小学校の先生のお話を伺う
 - 第13回 グループ発表1
 - 第14回 グループ発表2
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

* 社会の様々な問題に関心を持ち、新聞や本を読む。そして将来教師となったときにその問題をどのように子どもたちに伝え考えさせていけばよいのかという問題意識を持つ。

教科書

小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児) <A>

担当者 小寺 隆幸

テーマ

高校までの「学び」の質を吟味し、大学での「学び」の第一歩を形成する一学びの転換をはかるためにー

獲得目標

大学での「学び」は高校までの「学び」とは大きく違っていることに気づき、大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団で考え合う。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが「値打ちのあることなのか」という価値を問うことから始まる。本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけるために必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なスチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と能動性/主体性を育て、「学び」の転換をはかる。すなわち、自ら調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった学習の方法と能動的な学習姿勢をゼミの中で形成する。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

授業の内容

内 容

- 第1回 (合同)児童教育学科についてのガイダンスと研究入門ゼミの導入
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/他己を題材にして/メモを取るとは
- 第3回 自分たちが読む本を決めよう/図書館の利用方法: 文献の探し方、文献一覧の作成
- 第4回 ★(合同)プレゼンテーション: オリターによるチビッコランド紹介【5月2日】
- 第5回 本の読み方①: 内容を正しくつかむとは/傍線の使い方。文の書き方①: 自分の思いを文にする=書く
- 第6回 文の書き方②: 自分の思いを正確に文にするには; 一文一義の文を書く
- 第7回 本の読み方②: 書かれていることについて拡がりを持たせて読む=知らないことを質問する/調べる/発表する
- 第8回 本の読み方③: 書かれていることについて関係を持たせて読む=読み深める
- 第9回 文の書き方③: 自分の言いたいことを整理して書く=始め・中・おわり/起承転結など
- 第10回 本の読み方④: 書かれていることについて自分の考えを織り交ぜて読む=批判的に読む/相互に聞き合って深める
- 第11回 ★ちびっ子ランドの出し物を考えよう。大学祭への参加について考える。
- 第12回 本の読み方⑤: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(1)/コミュニケーション力を高める/メモを取ること
- 第13回 本の読み方⑥: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(2)/コミュニケーション力を高める/議論の視点を明確に自覚して
- 第14回 本の読み方⑦: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(3)/コミュニケーション力を高める/対立ということの意味
- 第15回 振り返り: 「学びの転換」の観点から/学ぶことの値打ちについて ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (50)
参加度 (0)

小テスト (0)
授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児)

担当者 倉持 祐二

テーマ

高校までの「学び」の質を吟味し、大学での「学び」の第一歩を形成する一学びの転換をはかるためにー

獲得目標

大学での「学び」は高校までの「学び」とは大きく違っていることに気づき、大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団で考え合う。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問うことから始まる。本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけるために必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なスチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と能動性/主体性を育て、「学び」の転換をはかる。すなわち、自ら調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった学習の方法と能動的な学習姿勢をゼミの中で形成する。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

授業の内容

内 容

- 第1回 (合同ゼミ)児童教育学科についてのガイダンスと研究入門ゼミの導入
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/他己を題材にして/メモを取るとは
- 第3回 自分たちが読む本を決めよう/図書館の利用方法: 文献の探し方、文献一覧の作成
- 第4回 ★(合同ゼミ)プレゼンテーション: オリターによるチビッコランド紹介
- 第5回 本の読み方①: 内容を正しくつかむとは/傍線の使い方。文の書き方①: 自分の思いを文にする=書く
- 第6回 文の書き方②: 自分の思いを正確に文にするには; 一文一義の文を書く
- 第7回 本の読み方②: 書かれていることについて拡がりを持たせて読む=知らないことを質問する/調べる/発表する
- 第8回 本の読み方③: 書かれていることについて関係を持たせて読む=読み深める
- 第9回 文の書き方③: 自分の言いたいことを整理して書く=始め・中・おわり/起承転結など
- 第10回 本の読み方④: 書かれていることについて自分の考えを織り交ぜて読む=批判的に読む/相互に聞き合って深める
- 第11回 ★ちびっ子ランドの出し物を考えよう。大学祭への参加について考える。
- 第12回 本の読み方⑤: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(1)/コミュニケーション力を高める/メモを取ること
- 第13回 本の読み方⑥: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(2)/コミュニケーション力を高める/議論の視点を明確に自覚して
- 第14回 本の読み方⑦: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(3)/コミュニケーション力を高める/対立ということの意味
- 第15回 振り返り: 「学びの転換」の観点から/学ぶことの値打ちについて

授業以外での学習方法

学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児) <C>

担当者 神谷 栄司

テーマ

高校までの「学び」の質を吟味し、大学での「学び」の第一歩を形成する一学びの転換をはかるためにー

獲得目標

大学での「学び」は高校までの「学び」とは大きく違っていることに気づき、大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団で考え合う。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが「値打ちのあることなのか」という価値を問うことから始まる。本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけるために必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なスチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と能動性/主体性を育て、「学び」の転換をはかる。すなわち、自ら調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった学習の方法と能動的な学習姿勢をゼミの中で形成する。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

授業の内容

内 容

- 第3回 自分たちが読む本を決めよう／図書館の利用方法：文献の探し方、文献一覧の作成
 第4回 ★(合同ゼミ)プレゼンテーション：オリターによるチビッコランド紹介
 第5回 本の読み方①：内容を正しくつかむとは／傍線の使い方。文の書き方①：自分の思いを文にする＝書く
 第6回 文の書き方②：自分の思いを正確に文にするには；一文一義の文を書く
 第7回 本の読み方②：書かれていることについて拡がりを持たせて読む＝知らないことを質問する／調べる／発表する
 第8回 本の読み方③：書かれていることについて関係を持たせて読む＝読み深める
 第9回 文の書き方③：自分の言いたいことを整理して書く＝始め・中・おわり／起承転結など
 第10回 本の読み方④：書かれていることについて自分の考えを織り交ぜて読む＝批判的に読む／相互に聞き合って深める
 第11回 ★ちびっ子ランドの出し物を考えよう。大学祭への参加について考える。
 第12回 本の読み方⑤：輪読会をしよう＝レジメの書き方を学ぶ(1)／コミュニケーション力を高める／メモを取るということ
 第13回 本の読み方⑥：輪読会をしよう＝レジメの書き方を学ぶ(2)／コミュニケーション力を高める／議論の視点を明確に自覚して
 第14回 本の読み方⑦：輪読会をしよう＝レジメの書き方を学ぶ(3)／コミュニケーション力を高める／対立ということの意味
 第15回 振り返り：「学びの転換」の観点から／学ぶことの値打ちについて
 第1回 (合同ゼミ)児童教育学科についてのガイダンスと研究入門ゼミIの導入
 第2回 プレゼンテーション：自己紹介／他己を題材にして／メモを取るとは

授業以外での学習方法

学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児) <D>

担当者 三上 周治

テーマ

高校までの「学び」の質を吟味し、大学での「学び」の第一歩を形成する一学びの転換をはかるためにー

獲得目標

(獲得目標) 大学での「学び」は高校までの「学び」とは大きく違っていることに気づき、大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団で考え合う。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問うことから始まる。本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけるために必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と能動性/主体性を育て、「学び」の転換をはかる。すなわち、自ら調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった学習の方法と能動的な学習姿勢をゼミの中で形成する。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

授業の内容

内 容

- 第1回 (合同)児童教育学科についてのガイダンスと研究入門ゼミIの導入
- 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/他己を題材にして/メモを取るとは
- 第3回 自分たちが読む本を決めよう/図書館の利用方法: 文献の探し方、文献一覧の作成
- 第4回 ★(合同)プレゼンテーション: オリターによるチビッコランド紹介【5月2日】
- 第5回 本の読み方①: 内容を正しくつかむとは/傍線の使い方。文の書き方①: 自分の思いを文にする=書く
- 第6回 文の書き方②: 自分の思いを正確に文にするには; 一文一義の文を書く
- 第7回 本の読み方②: 書かれていることについて拡がりを持たせて読む=知らないことを質問する/調べる/発表する
- 第8回 本の読み方③: 書かれていることについて関係を持たせて読む=読み深める
- 第9回 文の書き方③: 自分の言いたいことを整理して書く=始め・中・おわり/起承転結など
- 第10回 本の読み方④: 書かれていることについて自分の考えを織り交ぜて読む=批判的に読む/相互に聞き合って深める
- 第11回 ★ちびっ子ランドの出し物を考えよう。大学祭への参加について考える。
- 第12回 本の読み方⑤: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(1)/コミュニケーション力を高める/メモを取ること
- 第13回 本の読み方⑥: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(2)/コミュニケーション力を高める/議論の視点を明確に自覚して
- 第14回 本の読み方⑦: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(3)/コミュニケーション力を高める/対立ということの意味
- 第15回 振り返り: 「学びの転換」の観点から/学ぶことの値打ちについて

授業以外での学習方法

学習方法 学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児) <E>

担当者 三山 岳

テーマ

高校までの「学び」の質を吟味し、大学での「学び」の第一歩を形成する一学びの転換をはかるためにー

獲得目標

大学での「学び」は高校までの「学び」とは大きく違っていることに気づき、大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団で考え合う。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問うことから始まる。本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけるために必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なスチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と能動性/主体性を育て、「学び」の転換をはかる。すなわち、自ら調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった学習の方法と能動的な学習姿勢をゼミの中で形成する。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

授業の内容

内 容

- 第1回 (合同ゼミ)児童教育学科についてのガイダンスと研究入門ゼミの導入
 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/他己を題材にして/メモを取るとは
 第3回 自分たちが読む本を決めよう/図書館の利用方法: 文献の探し方、文献一覧の作成
 第4回 ★(合同ゼミ)プレゼンテーション: オリターによるチビッコランド紹介
 第5回 本の読み方①: 内容を正しくつかむとは/傍線の使い方。文の書き方①: 自分の思いを文にする=書く
 第6回 文の書き方②: 自分の思いを正確に文にするには; 一文一義の文を書く
 第7回 本の読み方②: 書かれていることについて拡がりを持たせて読む=知らないことを質問する/調べる/発表する
 第8回 本の読み方③: 書かれていることについて関係を持たせて読む=読み深める
 第9回 文の書き方③: 自分の言いたいことを整理して書く=始め・中・おわり/起承転結など
 第10回 本の読み方④: 書かれていることについて自分の考えを織り交ぜて読む=批判的に読む/相互に聞き合って深める
 第11回 ★ちびっ子ランドの出し物を考えよう。大学祭への参加について考える。
 第12回 本の読み方⑤: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(1)/コミュニケーション力を高める/メモを取ること
 第13回 本の読み方⑥: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(2)/コミュニケーション力を高める/議論の視点を明確に自覚して
 第14回 本の読み方⑦: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(3)/コミュニケーション力を高める/対立ということの意味
 第15回 振り返り: 「学びの転換」の観点から/学ぶことの値打ちについて

授業以外での学習方法

学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (児) <F>

担当者 加用 美代子

テーマ

高校までの「学び」の質を吟味し、大学での「学び」の第一歩を形成する一学びの転換をはかるためにー

獲得目標

大学での「学び」は高校までの「学び」とは大きく違っていることに気づき、大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団で考え合う。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問うことから始まる。本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけるために必要なスタディ・スキルや大学生活の基本的なスチューデント・スキルを身につけ、大学生としての「学び」の基礎力と能動性/主体性を育て、「学び」の転換をはかる。すなわち、自ら調べる、読む、書く、考える、発表する、意見交換する、といった学習の方法と能動的な学習姿勢をゼミの中で形成する。また、教師と保育士の仕事の基礎的な理解を得る。

授業の内容

内 容

- 第1回 (合同ゼミ)児童教育学科についてのガイダンスと研究入門ゼミの導入
 第2回 プレゼンテーション: 自己紹介/他己を題材にして/メモを取るとは
 第3回 自分たちが読む本を決めよう/図書館の利用方法: 文献の探し方、文献一覧の作成
 第4回 ★(合同ゼミ)プレゼンテーション: オリターによるチビッコランド紹介
 第5回 本の読み方①: 内容を正しくつかむとは/傍線の使い方。文の書き方①: 自分の思いを文にする=書く
 第6回 文の書き方②: 自分の思いを正確に文にするには; 一文一義の文を書く
 第7回 本の読み方②: 書かれていることについて拡がりを持たせて読む=知らないことを質問する/調べる/発表する
 第8回 本の読み方③: 書かれていることについて関係を持たせて読む=読み深める
 第9回 文の書き方③: 自分の言いたいことを整理して書く=始め・中・おわり/起承転結など
 第10回 本の読み方④: 書かれていることについて自分の考えを織り交ぜて読む=批判的に読む/相互に聞き合って深める
 第11回 ★ちびっ子ランドの出し物を考えよう。大学祭への参加について考える。
 第12回 本の読み方⑤: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(1)/コミュニケーション力を高める/メモを取ること
 第13回 本の読み方⑥: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(2)/コミュニケーション力を高める/議論の視点を明確に自覚して
 第14回 本の読み方⑦: 輪読会をしよう=レジュメの書き方を学ぶ(3)/コミュニケーション力を高める/対立ということの意味
 第15回 振り返り: 「学びの転換」の観点から/学ぶことの値打ちについて

授業以外での学習方法

学んだスキルは、他の授業で実践し、スキル・アップを心がけること。現代の保育・教育が直面している諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 現代と教育

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

教師として身につけるべき現代認識

獲得目標

私たちはどのような時代を生きているかを同時代的視点から捉えるとともに、現代社会が取り組むべき教育の課題を考える。また、小学校、幼稚園、保育園、福祉施設の状況を知って、自らの進路を考える資質を養う。

授業の内容

内 容

- 第1回 子ども社会の現実とは？：子どもたちを取り巻く学校を見てみよう
 - 第2回 東日本大震災から学校が担うべき防災教育を考える
 - 第3回 私たちは原子力発電をどのように学んできたか
 - 第4回 原子力発電所で発電する仕組みは原子爆弾と同じだが、人類は原子力の平和利用に成功しているのか？
 - 第5回 戦争と子どもたち①：ヒロシマ・ナガサキと核問題を考える
 - 第6回 戦争と子どもたち②：ヒロシマ・ナガサキから福島原発事故を考える
 - 第7回 戦争と子どもたち③：劣化ウラン弾の被害者イラクの子どもたちからフクシマを考える
 - 第8回 私たちは「3.11」後をどう生きていくべきか
 - 第9回 学校現場から教育を考える①：小学校
 - 第10回 学校現場から教育を考える②：幼稚園
 - 第11回 保育士の仕事を考える
 - 第12回 福祉施設で働くということ
 - 第13回 ジェンダーと教育(1)
 - 第14回 ジェンダーと教育(2)
 - 第15回 子どもたちを取り巻く日本の社会：子どもと貧困
-

授業以外での学習方法

新聞やテレビで報道される国際情勢や時事問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

教科書

授業内で配布する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業内で紹介する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a30101ad10

試験 (0)
授業中課題 (60)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職入門(初)

担当者 小寺 隆幸

テーマ

教師の仕事についての認識を深め、教職を志す目的や教師としての責任について考える。

獲得目標

今日の教育・学校・子どもをとりまく状況の中で、教師の仕事は何かを考え、教師としての責任と生きがいについて認識を深める。特に学習指導、生活指導、学校づくりについて、基本的な点を理解する。さらに現在の教育課題を自分自身が主体的に考える姿勢を育てる。

授業の内容

具体的な事例をもとに講義する。一方的な講義だけではなく、参加者相互が学び合える授業とするために、授業の感想やレポートを全員に還元することなどに取り組む。

内 容

- 第1回 教育をとりまく状況と今日の教育課題
- 第2回 教師に期待されること、教師としての生き方、教師の日常
- 第3回 学習指導の歴史的な変遷と、現代に求められる学力
- 第4回 小学校での授業創りの実際(算数を例に考える)
- 第5回 少人数指導・習熟度別指導を巡って
- 第6回 子どもたちの現状と生活指導の課題
- 第7回 いじめや不登校にどう取り組むか
- 第8回 学級作りの取り組み
- 第9回 総合的な学習の時間の意義と実際
- 第10回 特別支援教育について(ADHDなどの子どもたちの指導について)
- 第11回 評価についての様々な考え方と実際
- 第12回 保護者・地域との連携をどうつくるか
- 第13回 教師としての研修、教師の権利と責任、教師の身分保障、教師を巡る法的問題
- 第14回 試験
- 第15回 試験の解説と授業のまとめ

授業以外での学習方法

教育の理念を深く掘り下げるために、古典とされる書物、あるいは現在の優れた実践記録などを読む。教育を巡る様々なできごとや教育改革の報道に注目し、自分が教師であればどのように考え対処するか、という問題意識を常に持つ。

教科書

新しい時代の教職入門

著者： 秋田喜代美・佐藤学

出版社： 有斐閣アルマ

出版年： 2006

ISBN： 4-641-12241-5

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **自然科学概論**

担当者 宮下 ゆたか

テーマ

21世紀を生きる市民・社会人に求められる「科学的自然観自然」、「自然科学と社会との正しい関わり方」などについて具体的事例を通して学ぶ。

獲得目標

①「自然の階層性・歴史性」について具体的事例を通して学び、「科学的自然観とは何か」について理解する。②天動説から地動説への変遷の歴史をとおり、「自然科学とは何か」について考察する。③2011.3.11福島第一原発事故問題をとおして、「自然科学と社会との正しい関わり方」について考察する。

授業の内容

「科学的な自然観とは」、「自然科学とは」、「自然科学と社会との正しい関わり方」などについてグループ討論も取り入れて学習を深める。

内 容

- 第1回 自然科学概論オリエンテーション(講義内容・進め方、班編成、アンケートなど)
- 第2回 「自然の階層性」: 原子のミクロな世界から宇宙のマクロな世界までの各階層を貫く法則性について学習する。
- 第3回 「自然の歴史性(1)」: 宇宙の進化と星の一生について学習する。
- 第4回 「自然の歴史性(2)」: 太陽や私たちの地球ははどのようにして生まれ、進化してきたのかについて学習する。
- 第5回 「自然の歴史性(3)」: 最初の生命体は地球上でどのようにして誕生し、進化してきたのかについて学習する。
- 第6回 「ヒトの進化と技術」: ヒトが類人猿から分岐して進化した原動力について考察し、技術と自然科学のめばえについて学習する。
- 第7回 「古代国家と自然科学の起源」: 農耕の始まりが人間生活・人間社会を大きく変化させ、自然科学が誕生してきたことを学習する。
- 第8回 「自然科学とは何か(1)」: 「天動説と地動説」形成の歴史について学習する。
- 第9回 「自然科学とは何か(2)」: 「近代科学の父 ガリレオ」の思想と生き方について学習する。
- 第10回 「原発・放射線学習(1)」: 「原発の過去・現在・未来」について学習する。
- 第11回 「原発・放射線学習(2)」: 「放射線の人体への影響」について学習する。
- 第12回 「原発・放射線学習(3)」: 未来のエネルギー(自然エネルギー)について学習する。
- 第13回 「原発 是か非か(1)」: プレゼン&討論 (1)
- 第14回 「原発 是か非か(2)」: プレゼン&討論 (2)
- 第15回 自然科学概論 ふりかえり学習とまとめ

授業以外での学習方法

講義を受けて興味を持った項目・内容が出てきた場合はグループを作るなどして、図書館やインターネットのサイトから各自学習するとよい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (25)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (25)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 音楽概論

担当者 佐野 仁美

テーマ

社会や他芸術との関わりから音楽の歴史を辿り、音楽表現への理解を深める。

獲得目標

1)西洋音楽や日本音楽の歴史についての基礎知識を習得する。2)様々な音楽や総合芸術作品を鑑賞し、その特徴を自らの言葉で語れるようになることを目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 人間と音楽
 - 第2回 西洋音楽:古代ギリシア、中世の音楽
 - 第3回 西洋音楽:ルネサンス音楽
 - 第4回 西洋音楽:バロック音楽
 - 第5回 西洋音楽:古典派の音楽
 - 第6回 西洋音楽:ロマン派の音楽
 - 第7回 西洋音楽:国民楽派の音楽
 - 第8回 西洋音楽:近代・現代の音楽
 - 第9回 ポピュラー音楽
 - 第10回 日本の音楽:古代から中世へ
 - 第11回 日本の音楽:能と狂言
 - 第12回 日本の音楽:近世の音楽
 - 第13回 総合芸術:音楽と舞踊
 - 第14回 総合芸術:劇の音楽
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

音楽に関連する本や雑誌を読む。いろいろなジャンルの曲を聴く。

教科書

はじめての音楽史—古代ギリシアから日本の現代音楽まで

著者: 久保田慶一他

出版社: 音楽之友社

出版年: 2009年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **美術概論**

担当者 上中 良子

テーマ

美術と人間、美術と教育・保育との関連について理解する。

獲得目標

○子どもにとっての美術表現活動の意味を考察すると共に、西洋と日本における美術の流れをおさえた上で近代以降の日本の美術教育史に触れ、受講者自身が受けてきた美術教育の体験交流をふまえて美術教育のありようを考える。○ジャンルごとの簡単な制作実習も行う。

授業の内容

「美術」全般にわたっての理解を組織するために進めるが、子どもの発達との関わりや自己表現という視点も重要にする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 西洋美術史の概要
- 第3回 日本美術史の概要
- 第4回 造形表現のための具体 ○「色」の理論 ○多様な描材と描法①(色紙作り)
- 第5回 造形表現のための具体 ○多様な描材と描法②(デカルコマニー・コラージュ他)
- 第6回 美術の楽しさ・美術の意味: 作って遊ぶ楽しさ体験①(紙ぶんぶんゴマ)
- 第7回 美術の楽しさ・美術の意味: 作って遊ぶ楽しさ体験②(登るおもちゃ)
- 第8回 作品の見方: 美術教育史との関連で
- 第9回 子どもの発達と表現①(乳幼児期)
- 第10回 子どもの発達と表現②(学童期～思春期)
- 第11回 美術の楽しさ・美術の意味: 自己表現としての『絵綴り方活動』に学ぶ①(低学年)
- 第12回 美術の楽しさ・美術の意味: 自己表現としての『絵綴り方活動』に学ぶ②(中・高学年)
- 第13回 これまでの学習を生かしてミニ絵本作り(計画→構成)
- 第14回 これまでの学習を生かしてミニ絵本作り(完成→鑑賞)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

○展覧会なども含めて美術作品の鑑賞の機会を意識して持つこと。○問題意識を持って乳幼児期・児童期の美術(造形)作品に触れる機会を持つこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語コミュニケーション技術(ディベート)

担当者 池田 修

テーマ

第三者を説得するコミュニケーションの形態であるディベートを初歩から学び、コミュニケーションの質を深める。

獲得目標

ディベートを初歩から学び、そのスキルと指導方法の習得をめざす。論文執筆に必須の、論証の方法を学ぶ。小学校でディベートの指導ができるようになる。

授業の内容

ディベートを学ぶとディベートで学ぶの二つを行う。まとめとして、小論文を書く。製本して提出する。演習が中心になるので授業には積極的に参加のこと。課題が多く出ることを予め告げておく。ワード、エクセル、e-mailはある程度使えることが望ましい。チームを作ってディベートをすることがあるので、欠席は基本的に認めない。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。

内 容

- 第1回 ディベートとは？ シナリオ方式のディベート1
- 第2回 シナリオ方式のディベート2、シナリオ方式のディベート3
- 第3回 シナリオの改良 立論の構造／プランの役割
- 第4回 改良シナリオ方式のディベート1、改良シナリオ方式のディベート2、改良シナリオ方式のディベート3(個人戦)
- 第5回 第二反駁のある改良シナリオ方式のディベート1、改良シナリオ方式のディベート2、改良シナリオ方式のディベート3(個人戦)
- 第6回 試合の準備の仕方、リンクマップ、反駁カード、団体戦準備
- 第7回 改良シナリオ方式のディベート1、改良シナリオ方式のディベート2、改良シナリオ方式のディベート3(団体戦)
- 第8回 改良シナリオ方式のディベート1、改良シナリオ方式のディベート2、改良シナリオ方式のディベート3(団体戦)
- 第9回 ディベートビデオ視聴 フローシートのとり方のテスト
- 第10回 自由席論題ディベート1、自由席論題ディベート2、自由席論題ディベート3(個人戦)
- 第11回 立論の作り方
- 第12回 団体戦ディベート 予選1
- 第13回 団体戦ディベート 予選2
- 第14回 団体戦ディベート 予選3
- 第15回 団体戦ディベート決勝 まとめ

授業以外での学習方法

自らの疑問に対して、仮説を立て、調査を行い、自説を構築し、第三者が納得する形で話言葉と文字で伝えるというトレーニングは、諸君の得手不得手の分野を明らかにするだろう。これを理解した上で、世の中にある事象に対して「なぜだろう」「どうなっているのだろう」と考え、調べる癖を付けることが大事である。四回生で書くことになる卒業論文のための基礎トレーニングの一つとなることを期待する。

教科書

中等教育におけるディベートの研究

著者： 池田修

出版社： 大学図書出版

出版年：

ISBN：

武器としての決断思考

著者： 瀧本哲史

出版社： 星海社新書

出版年：

ISBN：

参考書

武器としての交渉思考

著者： 瀧本哲史

出版社： 星海社新書

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（40）

授業中課題（40）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

出欠席は出席君と掲示板の両方で確認する。参加度は、出席回数ではないことを理解すること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅱ〈幼a〉

担当者 佐野 仁美

テーマ

ピアノ基礎技能と子どもの歌のコード伴奏弾き歌い

獲得目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の弾き歌いができるようになる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の内容

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と視唱および子どもの歌のコード弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

内 容

- 第1回 コードネームの復習、視唱、バイエルNo.79
- 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.79、80、81
- 第3回 ハ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.80、81
- 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.81、82
- 第5回 ヘ長調のコード進行(F、B \flat 、C、C7)、視唱、バイエルNo.82、85
- 第6回 ヘ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.85、88
- 第7回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、視唱、バイエルNo.88、91
- 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、視唱、バイエルNo.91、93
- 第9回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、視唱、バイエルNo.93、94
- 第10回 ト長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.94、95
- 第11回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、視唱、バイエルNo.95、96
- 第12回 二長調のコード進行(D、G、A、A7)、視唱、バイエルNo.96、97
- 第13回 二長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.97、98
- 第14回 子どもの歌の弾き歌い(二長調)、ピアノ実技試験曲
- 第15回 ピアノ実技試験、子どもの歌の弾き歌い発表

授業以外での学習方法

授業中の課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

全訳バイエル教則本

著者:

出版社: 全音楽譜出版社

出版年:

ISBN:

コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー

著者: 坂井康子他編著

出版社: ヤマハ・ミュージックメディア

出版年:

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅱ〈幼b〉

担当者 佐野 仁美 阿部 真子

テーマ

ピアノ基礎技能と子どもの歌のコード伴奏弾き歌い

獲得目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の弾き歌いができるようになる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の内容

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と視唱および子どもの歌のコード弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

内 容

- 第1回 コードネームの復習、視唱、バイエルNo.79
- 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.79、80、81
- 第3回 ハ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.80、81
- 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.81、82
- 第5回 ヘ長調のコード進行(F、B \flat 、C、C7)、視唱、バイエルNo.82、85
- 第6回 ヘ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.85、88
- 第7回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、視唱、バイエルNo.88、91
- 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、視唱、バイエルNo.91、93
- 第9回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、視唱、バイエルNo.93、94
- 第10回 ト長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.94、95
- 第11回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、視唱、バイエルNo.95、96
- 第12回 二長調のコード進行(D、G、A、A7)、視唱、バイエルNo.96、97
- 第13回 二長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.97、98
- 第14回 子どもの歌の弾き歌い(二長調)、ピアノ実技試験曲
- 第15回 ピアノ実技試験、子どもの歌の弾き歌い発表

授業以外での学習方法

授業中の課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

全訳バイエル教則本

著者:

出版社: 全音楽譜出版社

出版年:

ISBN:

コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー

著者: 坂井康子他編著

出版社: ヤマハ・ミュージックメディア

出版年:

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅱ〈児〉

担当者 佐野 仁美

テーマ

ピアノ基礎技能と子どもの歌のコード伴奏弾き歌い

獲得目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の弾き歌いができるようになる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の内容

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と視唱および共通教材を中心とする子どもの歌のコード弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

内 容

- 第1回 コードネームの復習、視唱、バイエルNo.79
- 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.79、80、81
- 第3回 ハ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.80、81
- 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.81、82
- 第5回 ヘ長調のコード進行(F、B♭、C、C7)、視唱、バイエルNo.82、85
- 第6回 ヘ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.85、88
- 第7回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、視唱、バイエルNo.88、91
- 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、視唱、バイエルNo.91、93
- 第9回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、視唱、バイエルNo.93、94
- 第10回 ト長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.94、95
- 第11回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、視唱、バイエルNo.95、96
- 第12回 二長調のコード進行(D、G、A、A7)、視唱、バイエルNo.96、97
- 第13回 二長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.97、98
- 第14回 子どもの歌の弾き歌い(二長調)、ピアノ実技試験曲
- 第15回 ピアノ実技試験、子どもの歌の弾き歌い発表

授業以外での学習方法

授業中の課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

全訳バイエル教則本

著者:

出版社: 全音楽譜出版社

出版年:

ISBN:

コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー

著者: 坂井康子他編著

出版社: ヤマハ・ミュージックメディア

出版年:

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育課程研究(初) <Z>**

担当者 八木 英二

テーマ

教育課程の構造と教育実践

獲得目標

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。

授業の内容

1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。

内 容

- 第1回 教育課程の構造と意味
- 第2回 内申書、通知票について
- 第3回 目標と評価のあり方
- 第4回 観点別評価の意味
- 第5回 教育実践評価と授業公開(初等)
- 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理(初等)
- 第7回 教科書の採択システム
- 第8回 教科書づくり
- 第9回 教科と教科外の教育方法(初等)
- 第10回 総合学習について(初等)
- 第11回 身体と教育課程(初等)
- 第12回 教育課程と授業づくり(初等)
- 第13回 思春期の教育階梯
- 第14回 SNE(特別なニーズ教育)について
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

教師の役割変化を問う

著者: 八木英二

出版社: 三学出版

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育方法の研究(初) <Z>

担当者 梅本 裕

テーマ

<授業をつくる>ことへのイメージを育む

獲得目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。より具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようにすること。

授業の内容

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して学習者が「生き生きと学べる授業」の要件を考察する。

内 容

- 第1回 「あの坂の名は？」: 社会科における発信型の授業と学力とは何か？
- 第2回 「見たこと作文」: 子どもが<動く>授業の条件とは？
- 第3回 「木の葉の駅で」: 発問の構造
- 第4回 「発電所はどこにあるか？」: 教授行為とは何か？
- 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての<指示・発問・説明・応答・調整>
- 第6回 「お化け屋敷で算数を」: こどもたちの理解の構造をさぐる
- 第7回 「絵を描くのは苦手です」: 教育内容と方法の開発論理
- 第8回 「声を育てる音楽の授業」: <雰囲気の良い授業>の構造は？
- 第9回 「世界とつながる、深く調べる」: コンピュータとインターネットでできること
- 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」: 言語技術としての<分析ツールを教える>国語の授業
- 第11回 「琵琶湖で学ぶ」: 総合学習とは何か？
- 第12回 授業づくりの記号論的構造: <教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価>
- 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」: 授業の機能とITの活用
- 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」: イメージをそだてる授業の構造
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

(1) 新聞やテレビなどのマスメディアでの教育問題の紹介に注意を払い、理論的説明を試みることを期待する。(2) 小中高時代のノートや教科書があれば、それを手がかりにして、自分がどのような授業を受けたかを振り返ってみよう。「教わったようには教えない」とするならば、どんな教え方が可能か調べてみよう。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

a301023250

試験(レポート)についての詳細は授業の中で説明する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 道德教育の研究(初) <Z>

担当者 碓井 敏正

テーマ

学校教育における道德教育の可能性

獲得目標

道德概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道德教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

授業の内容

前半の授業は講義形式を基本とするが、後半の授業では、主として「道德の時間」においてどのような授業が可能なのかを実践的に追究していきたい。また、現場の先生を呼んで、道德教育のユニークな実践例をはなしてもらう予定である。

内 容

- 第1回 道德とは何か
 - 第2回 道德教育の歴史(明治以降)
 - 第3回 道德教育の歴史(戦後)
 - 第4回 日本の学校教育の現実
 - 第5回 小学校におけるにおける道德教育の捉え方
 - 第6回 小学生の道德的発達の特徴
 - 第7回 全面主義と特設主義
 - 第8回 全面主義を前提とした特設主義
 - 第9回 道德の時間と各教科の関係
 - 第10回 道德教育と特別活動、総合学習との関係
 - 第11回 道德教育の要としての道德の時間
 - 第12回 道德の時間の展開の仕方
 - 第13回 家庭、地域と道德教育
 - 第14回 現場における道德教育の実践例
 - 第15回 評価の問題とまとめ
-

授業以外での学習方法

ニュースで報道される教育問題や、青少年の精神状況、道德意識について常に関心を払うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (0)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育相談**

担当者 三山 岳

テーマ

人間理解とカウンセリングマインド

獲得目標

多様な心の病いを知ること。教育相談関係の初歩的理論と技法を身につけること。学校現場でカウンセリングマインドの活用を図る基礎力をつけること。

授業の内容

講義を主に、随時指名して発言を求めたり、バズ学習、エクササイズ体験、ビデオ視聴などを適宜入れながら進めるので、時間配分の変更もありうる。

内 容

- 第1回 授業ガイダンス。教育相談の意義：“今なぜ教育相談か？”
- 第2回 教育相談とカウンセリング：学校での位置づけとその機能、限界。
- 第3回 教育相談の歩み：教育相談誕生の背景。
- 第4回 現場の事例を考える(1)：不登校、いじめ
- 第5回 現場の事例を考える(2)：対人恐怖、神経症など。
- 第6回 教育相談に役立つ基礎的理論と技法(1)精神分析論(フロイトなど)
- 第7回 " (2)自己理論(ロジャーズなど)
- 第8回 " (3)行動理論、論理療法
- 第9回 " (4)交流分析その他
- 第10回 ストレスマネジメント
- 第11回 カウンセリングマインドの活用(1)人間理解と関係づくりのエクササイズ
- 第12回 " (2)構成的グループエンカウンター
- 第13回 自尊感情を高める：「例外」「リソース」を見つける。
- 第14回 望ましいコミュニケーションづくりのために
- 第15回 復習とまとめ

授業以外での学習方法

いじめ・不登校など教育にかかわる新聞記事をできるだけ読むようにしてください

教科書

参考書

成績評価

試験 (75)

授業中課題 ()

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教科教育法(国語)

担当者 池田 修

テーマ

国語科授業の基本的な指導法に触れる

獲得目標

学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

内 容

- 第1回 国語科って何？ 授業ガイダンス 学習指導要領では？ どんな力をつける教科？ 国語科教育の歴史 学習権宣言 授業と家庭学習の循環 教科通信
- 第2回 国語の授業を作る基礎 発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方
- 第3回 メモ指導 聞く生徒を育てるために。箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法
- 第4回 漢字指導 1 漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント、辞書指導 四字熟語でポン たほいや 百人一首 簡単な学習ゲーム論
- 第5回 読書指導 読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニメーション、図書館の使いかた指導
- 第6回 ポートフォリオ学習 和綴じ本づくり
- 第7回 作文指導 1 体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方、アイデア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価
- 第8回 作文指導 2 デジタルストーリーテリングの可能性
- 第9回 作文指導 3 「書き込み回覧作文」による評価
- 第10回 学習指導案作り 国語科の学習指導案の書き方を学び、実際に作ってみる。
- 第11回 テスト問題と採点方法 国語科のテスト問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。
- 第12回 音読／プレゼン指導 滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際
- 第13回 句会方式による指導 句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト
- 第14回 模擬授業1 国語の模擬授業を行う
- 第15回 模擬授業2 まとめ 国語の模擬授業を行う まとめ

授業以外での学習方法

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も薦める。

教科書

小学校学習指導要領 第4版 平成20年3月告示

著者：

出版社：東京書籍

出版年：Aug-09

ISBN：

小学校学習指導要領解説編

著者：

出版社：東洋館出版社

出版年：Aug-08

ISBN：

実践へのヒント 国語科授業用語の手引き 第二版

著者： 中原國明・大熊徹編

出版社： 教育出版

出版年： Jul-06

ISBN:

国語科資料総覧

著者： 吉野教育図書編集部

出版社： 吉野教育図書

出版年：

ISBN:

白川静さんに学ぶ 漢字は怖い

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年： Jan-12

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

出欠席については、出席君と掲示板の書き込みのセットで確認する。なお、参加度は出席率ではないことを理解すること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教科教育法(社会) <a>

担当者 倉持 祐二

テーマ

小学校社会科の授業づくりの基礎・基本

獲得目標

小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。

授業の内容

小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。

内 容

- 第1回 学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと
- 第2回 社会科教材研究入門
- 第3回 社会科授業の発問づくり
- 第4回 小学校社会科の授業方法
- 第5回 学習指導案をつくる
- 第6回 地図を使った模擬授業と授業研究
- 第7回 「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第8回 日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第9回 環境をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第10回 各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究
- 第11回 「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究
- 第12回 「武士の世の中」の模擬授業と授業研究
- 第13回 日本国憲法を教える模擬授業と授業研究
- 第14回 世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究
- 第15回 模擬授業や授業研究から学んだこと

授業以外での学習方法

(1)学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。(2)授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。

教科書

『小学校学習指導要領解説 社会編』

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： 2008 年8 月

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

a301025410

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教科教育法(社会) **

担当者 倉持 祐二

テーマ

小学校社会科の授業づくりの基礎・基本

獲得目標

小学校社会科の授業をつくる視点と方法を獲得する。

授業の内容

小学校での社会科学習を、児童の実態に即してどのように指導するのかを学ぶために、次のような流れで展開する。(1)2008年度版学習指導要領や教科書から授業単元を選び、各自が学習指導案をつくる。(2)できあがった指導案をグループの中で検討する。(3)グループごとに指導案を1つ選び、全体で模擬授業を実施し、授業研究を行う。(4)模擬授業や授業研究から学んだことを確かめる。

内 容

- 第1回 学習指導要領＝小学校社会科で学ぶこと
- 第2回 社会科教材研究入門
- 第3回 社会科授業の発問づくり
- 第4回 小学校社会科の授業方法
- 第5回 学習指導案をつくる
- 第6回 地図を使った模擬授業と授業研究
- 第7回 「町ではたらく人たち」をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第8回 日本の産業をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第9回 環境をテーマにした模擬授業と授業研究
- 第10回 各地のくらしをテーマにした模擬授業と授業研究
- 第11回 「貴族の世の中」の模擬授業と授業研究
- 第12回 「武士の世の中」の模擬授業と授業研究
- 第13回 日本国憲法を教える模擬授業と授業研究
- 第14回 世界の国ぐにとのつながりを教える模擬授業と授業研究
- 第15回 模擬授業や授業研究から学んだこと

授業以外での学習方法

(1)学習指導案の作成にあたっては、楽しい社会科の実践の先行実践を調べ、それをもとに資料収集をすすめることを期待する。(2)授業以外でも集団的に教材研究をすすめることができるようになることを期待する。

教科書

『小学校学習指導要領解説 社会編』

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： 2008 年8 月

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

a301025412

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教科教育法(生活) <a>

担当者 三上 周治

テーマ

小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む

獲得目標

小学校「生活科」は小学校1年、2年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものをやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。

授業の内容

身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学びのひろがりや連続性についても実践の吟味を通して追究していく。

内 容

- 第1回 生活科教育の目的:自立への基礎を育むために。
- 第2回 実践報告「おだんごころがし」を読み取る。
- 第3回 「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。
- 第4回 地図を片手に東西南北一地域の自然と社会から学ぶ(含む:安全対策)
- 第5回 笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの
- 第6回 「やじろべえ」①「直角やじろべえ／鋭角やじろべえ／鈍角やじろべえ」
- 第7回 「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。
- 第8回 「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。
- 第9回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう①(含む:安全対策)
- 第10回 生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの
- 第11回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう②(含む:安全対策)
- 第12回 はたらく人々ー地域の人と社会から学ぶ①
- 第13回 生活科の指導案。何が重要なポイントか。
- 第14回 生活科の指導案をグループで発表・評価する。
- 第15回 試験問題の解説と授業のまとめ

授業以外での学習方法

(1)小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

担当者からハンドアウト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

小学校学習指導要領

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301025710

試験 (20)
授業中課題 (40)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教科教育法(生活) **

担当者 三上 周治

テーマ

小学校生活科を豊かに教えることのできる教師を育む

獲得目標

小学校「生活科」は小学校1年、2年に限定された教科である。この時期の児童は大きく変容する精神発達を基礎に、人間力を獲得していくことでものやことがらに働きかけていく力が育っていく。その力に寄り添い引き出しながら、自然や社会に働きかけることを通して、よりゆたかな人間力を育むことのできる教師としての力量を育てる。

授業の内容

身近な環境を対象としながら体験を通して学習するため、地域や学校、児童の実態に即した学習を重視する。具体的な指導計画や学習展開を教材として生活科教育法の基本を把握していく。また、個の学びと集団における学びのひろがりや連続性についても実践の吟味を通して追究していく。

内 容

- 第1回 生活科教育の目的:自立への基礎を育むために。
- 第2回 実践報告「おだんごころがし」を読み取る。
- 第3回 「おだんごころがし」の生活科実践としての意味を考える。
- 第4回 地図を片手に東西南北一地域の自然と社会から学ぶ(含む:安全対策)
- 第5回 笠井守実践「おだんごころがし」から読み取ったもの
- 第6回 「やじろべえ」①「直角やじろべえ／鋭角やじろべえ／鈍角やじろべえ」
- 第7回 「やじろべえ」②「まっすぐやじろべえの改造」が意味するものはなんだろうか。
- 第8回 「やじろべえ」③「こどものわかり方によりそう授業を作る」ということを吟味する。
- 第9回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう①(含む:安全対策)
- 第10回 生源寺実践「やじろべえ」から読み取ったもの
- 第11回 生活科とものづくりーおもちゃを作ろう②(含む:安全対策)
- 第12回 はたらく人々ー地域の人と社会から学ぶ①
- 第13回 生活科の指導案。何が重要なポイントか。
- 第14回 生活科の指導案をグループで発表・評価する。
- 第15回 試験問題の解説と授業のまとめ

授業以外での学習方法

(1)小学校現場での生活科の授業を参観し授業の作り方・進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

担当者からハンドアウト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

小学校学習指導要領

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301025712

試験 (20)
授業中課題 (40)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教科教育法(体育) <a>

担当者 口野 隆史

テーマ

自分の体育授業で、どんな子どもに育ててほしいのかを考える

獲得目標

まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を(理想でもよいのである程度)描けるようにする。

授業の内容

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

内 容

- 第7回 陸上競技③ 模擬授業「リレー」を題材に
- 第8回 器械運動① マット・跳び箱の授業実践を学ぶ
- 第9回 器械運動② 模擬授業「側転」を題材に
- 第10回 器械運動③ 模擬授業「お話マット」を題材に
- 第11回 球技① 球技の授業実践を学ぶ
- 第12回 球技② 模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に
- 第13回 球技③ 模擬授業「フラッグフットボール」を題材に
- 第14回 模擬授業を振り返り「指導案」を修正する
- 第15回 まとめ
- 第1回 自分の受けて来た体育授業を振り返る 体育授業の目的・目標
- 第2回 体育授業で子どもたちに学ばせたい内容
- 第3回 体育授業の指導方法と評価
- 第4回 優れた体育授業について学ぶ
- 第5回 陸上競技① 陸上競技の授業実践を学ぶ
- 第6回 陸上競技② 模擬授業「短距離走」を題材に

授業以外での学習方法

1. クラブやサークル、その他様々な機会に、あなたがスポーツや運動を行う時、あなたは何を目的にそれを行っていますか、またスポーツや運動を人に教えたり教えてもらった時に、教える難しさやわかりやすい教え方について考えてみてください。2. テレビや新聞の体育や教育に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は、授業で話題にしてみましょう。

教科書

小学校学習指導要領解説 体育編

著者:

出版社: 東洋館出版社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

授業で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301026010

試験 ()
授業中課題 (40)
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教科教育法(体育)

担当者 口野 隆史

テーマ

自分の体育授業で、どんな子どもに育ててほしいのかを考える

獲得目標

まず、体育の授業に関わる目的・目標、内容、方法、評価、教材化などに関する基礎的な知識を学ぶ。また、優れた体育の授業や学習指導要領等についても理解し、その上で自分の体育の授業を通して育てたい子ども像、学ばせたい内容を(理想でもよいのである程度)描けるようにする。

授業の内容

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

内 容

- 第1回 自分の受けて来た体育授業を振り返る 体育授業の目的・目標
- 第2回 体育授業で子どもたちに学ばせたい内容
- 第3回 体育授業の指導方法と評価
- 第4回 優れた体育授業について学ぶ
- 第5回 陸上競技① 陸上競技の授業実践を学ぶ
- 第6回 陸上競技② 模擬授業「短距離走」を題材に
- 第7回 陸上競技③ 模擬授業「リレー」を題材に
- 第8回 器械運動① マット・跳び箱の授業実践を学ぶ
- 第9回 器械運動② 模擬授業「側転」を題材に
- 第10回 器械運動③ 模擬授業「お話マット」を題材に
- 第11回 球技① 球技の授業実践を学ぶ
- 第12回 球技② 模擬授業「じゃまじゃまサッカー」を題材に
- 第13回 球技③ 模擬授業「フラッグフットボール」を題材に
- 第14回 模擬授業を振り返り「指導案」を修正する
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

1. クラブやサークル、その他様々な機会に、あなたがスポーツや運動を行う時、あなたは何を目的にそれを行っていますか、またスポーツや運動を人に教えたり教えてもらった時に、教える難しさやわかりやすい教え方について考えてみてください。2. テレビや新聞の体育や教育に関する問題に注意を払って下さい。気になる問題は、授業で話題にしてみましょう。

教科書

小学校学習指導要領解説 体育編

著者:

出版社: 東洋館出版社

出版年: 2008年

ISBN:

参考書

授業で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301026012

試験 ()
授業中課題 (40)
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教科教育法(図画工作) <a>

担当者 上中 良子

テーマ

小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ

獲得目標

学童期の発達段階と表現様式・表現内容のありようを理解し、具体的な指導内容・方法を理解する。乳・幼児期からの連続性と質的展開、低学年・中学年・高学年の発達のちがいによる特徴とそれぞれの時期における指導のポイントを学ぶ。

授業の内容

図画工作教育の基本的な理論とともに、小学校現場実践における授業を取材して、ねらい・展開の実際を分析し、具体的な指導実践の課題に結びつける。

内 容

- 第1回 日本の美術教育の歴史と課題「自由と主体性」
- 第2回 図工・美術教育の課題「表現&技術、その指導法」
- 第3回 「幼児期・低学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から)
- 第4回 「中学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から)
- 第5回 「高学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から)
- 第6回 図画工作指導法①「入門期の指導」
- 第7回 図画工作指導法②「描画表現指導の実際」(現場実践者:ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第8回 図画工作指導法③「手仕事表現指導の実際」(現場実践者:ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第9回 実践に向けて「学習指導案」作成
- 第10回 教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」
- 第11回 教育実習に向けて「図画工作指導計画②模擬授業(中学年授業)と検証」
- 第12回 教育実習に向けて「図画工作指導計画③模擬授業(高学年授業)と検証」
- 第13回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開①(日本絵画・西洋絵画)
- 第14回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開②(学級の仲間の作品)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

○自主訪問などにより、小学校現場プロ教師の「図画工作」授業の実際から学ぶ。○教育現場でのボランティア・フィールドワークなどで「美術表現活動」を意識的に展開し、自らの実践と結びつけながら学内学習を充実させる。○自らの幼稚園・小学校・中学校・高等学校時代の「美術教育」の実際を振り返り、教育としての図画工作・美術の意味と課題検証も合わせて行う。

教科書

参考書

小学校学習指導要領『総合学習に生かす美術教育 「絵綴り方・綴り方」を生かした学級づくり』小学校低学年

著者:

出版社: 明治図書

出版年:

ISBN:

小学校学習指導要領『総合学習に生かす美術教育「絵綴り・綴り方」を生かした学級づくり』小学校中・高学年

著者:

出版社: 明治図書

出版年:

ISBN:

小学校学習指導要領『人格の形成と美術教育2 小学生の美術教育

著者:

出版社: あゆみ出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教科教育法(図画工作)

担当者 上中 良子

テーマ

小学校図画工作教育の意義及び具体的な指導内容・方法を学ぶ

獲得目標

学童期の発達段階と表現様式・表現内容のありようを理解し、具体的な指導内容・方法を理解する。乳・幼児期からの連続性と質的展開、低学年・中学年・高学年の発達のちがいによる特徴とそれぞれの時期における指導のポイントを学ぶ。

授業の内容

図画工作教育の基本的な理論とともに、小学校現場実践における授業を取材して、ねらい・展開の実際を分析し、具体的な指導実践の課題に結びつける。

内 容

- 第1回 日本の美術教育の歴史と課題「自由と主体性」
- 第2回 図工・美術教育の課題「表現&技術、その指導法」
- 第3回 「幼児期・低学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から)
- 第4回 「中学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から)
- 第5回 「高学年」における図画工作教育の内容(学習指導要領&取材実践から)
- 第6回 図画工作指導法①「入門期の指導」
- 第7回 図画工作指導法②「描画表現指導の実際」(現場実践者:ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第8回 図画工作指導法③「手仕事表現指導の実際」(現場実践者:ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第9回 実践に向けて「学習指導案」作成
- 第10回 教育実習に向けて「図画工作指導計画①模擬授業(低学年授業)と検証」
- 第11回 教育実習に向けて「図画工作指導計画②模擬授業(中学年授業)と検証」
- 第12回 教育実習に向けて「図画工作指導計画③模擬授業(高学年授業)と検証」
- 第13回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開①(日本絵画・西洋絵画)
- 第14回 図画工作・美術授業と評価、鑑賞授業の展開②(学級の仲間の作品)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

○自主訪問などにより、小学校現場プロ教師の「図画工作」授業の実際から学ぶ。○教育現場でのボランティア・フィールドワークなどで「美術表現活動」を意識的に展開し、自らの実践と結びつけながら学内学習を充実させる。○自らの幼稚園・小学校・中学校・高等学校時代の「美術教育」の実際を振り返り、教育としての図画工作・美術の意味と課題検証も合わせて行う。

教科書

参考書

小学校学習指導要領『総合学習に生かす美術教育 「絵綴り方・綴り方」を生かした学級づくり』小学校低学年

著者:

出版社: 明治図書

出版年:

ISBN:

小学校学習指導要領『総合学習に生かす美術教育「絵綴り・綴り方」を生かした学級づくり』小学校中・高学年

著者:

出版社: 明治図書

出版年:

ISBN:

小学校学習指導要領『人格の形成と美術教育2 小学生の美術教育

著者:

出版社: あゆみ出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容(言語) <Za>

担当者 神谷 栄司

テーマ

獲得目標

乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

授業の内容

・乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握し、2・3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達の役割を理解する。・外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。・幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。・乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。

内 容

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
 - 第2回 ことばの発達① 乳児期—有意味語の成立まで
 - 第3回 ことばの発達② 幼児前期—話しことばの体系の一応の獲得まで
 - 第4回 ことばの発達③ 幼児後期—外的言語、自己中心的言語、内的言語
 - 第5回 ことばと身ぶり書きことばの前史
 - 第6回 書きことばの前史ことばと思考の発達
 - 第7回 ことばと思考の発達
 - 第8回 形象、複合、概念 —まとめにかえて
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 児童文化論

担当者 古澤 夕起子

テーマ

日本の近代におけるメディアの成り立ちについて学ぶ

獲得目標

・現在につながる近代のメディアの成り立ちについて理解する。・メディアに振り回されることのない主体の育成をめざす。

授業の内容

明治維新から後に生まれたメディアの中から、「こども向け雑誌」「音楽」「食卓」といったものを取り上げて考察する。授業は講義形式で行ない、随時CDやDVDを視聴する。毎時提出してもらった感想文をフィードバックさせることで、双方向の授業を心がけたい。

内 容

- 第1回 開国…日本を発信する「ちりめん本」というメディア
- 第2回 翻訳事始…西洋を受信する「こどもの本」はどのように翻訳されたか
- 第3回 雑誌①…こどものメディア「少年雑誌」「少年世界」など
- 第4回 雑誌②…こどものメディア「少女雑誌」「少女の友」など
- 第5回 雑誌③…こどものメディア「児童雑誌」「赤い鳥」など
- 第6回 音楽①…唱歌誕生 教室で教える音楽はメディアとしてどんな働きをしたか
- 第7回 音楽②…童謡運動 「赤い鳥」から、金子みすゞなどの童謡作家まで
- 第8回 音楽③…少女歌手の登場 ラジオやレコードもフル稼働
- 第9回 食卓①…メディアとしての教科書 しつけの場所
- 第10回 食卓②…横並びの食卓「家族ゲーム」1983
- 第11回 食卓③…固定された「幸福な食卓」2003
- 第12回 食卓④…食ドライブ『家族の勝手でしょ!』
- 第13回 食卓⑤…メディアはどのように食卓を演出してきたか
- 第14回 音楽④…ブルーハーツの時代1985-1995 僕らは泣くために生まれてきたわけじゃない
- 第15回 まとめ…100年前から変わらないもの メディアの本質

授業以外での学習方法

メディア漬けになっている毎日の暮らしを見直しましょう

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (60)

「授業中課題」は最終授業時に提出するレポートを指す。レポートの内容や長さについては授業で説明する。「参加度」は毎時提出の感想文を指す。未提出の時は出席とは認めない。8回以上欠席の時は評価の対象外とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 小児保健Ⅱ〈Z〉

担当者 安藤 忠 齋藤 洋子

テーマ

子どもの疾病とその予防および適切な対応、子どもの生活と保育環境について学ぶ

獲得目標

1, 子どもに見られる症状の特徴を理解する 2, 症状を軽減するための対処方法を理解する 3, 子どもの健康生活が家庭・地域
その他関係機関との密接な連携の中で育まれることを理解する

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(齋藤)
 - 第2回 子どもに多い症状への対応(1)(齋藤)
 - 第3回 子どもに多い症状への対応(2)(齋藤)
 - 第4回 子どもに多い症状への対応(3)(齋藤)
 - 第5回 予防接種(齋藤)
 - 第6回 子どもの生活と環境(齋藤)
 - 第7回 子どもの心身症と精神疾患(安藤)
 - 第8回 子どもの心の健康とその課題Ⅰ(安藤)
 - 第9回 子どもの心の健康とその課題Ⅱ(安藤)
 - 第10回 子どもの心の健康とその課題Ⅲ(安藤)
 - 第11回 保育環境整備(齋藤)
 - 第12回 事故と安全Ⅰ(齋藤)
 - 第13回 事故と安全Ⅱ(齋藤)
 - 第14回 健康・安全の実施体制(齋藤)
 - 第15回 まとめ(齋藤)
-

授業以外での学習方法

教科書

図表で学ぶ子どもの保健

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a301028350

授業の最後に毎回、振り返りを行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 小児栄養 <Zc>

担当者 小川 亜紀

テーマ

子どもの発育に応じた栄養と食生活

獲得目標

栄養の基礎知識と小児の発達を理解し、小児の栄養と食生活を学ぶ。

授業の内容

子どもが健やかに発育するために必要な栄養の基本的な知識を身につける。小児の発育に必要な栄養は成長とともに変化し、成人と異なる点も多い。各発達段階における栄養と食事を具体的に学ぶ。

内 容

- 第1回 小児栄養の意義
 - 第2回 小児の発育・発達と栄養(味覚・食物嗜好・食習慣の形成)
 - 第3回 食品と栄養に関する基礎知識1
 - 第4回 食品と栄養に関する基礎知識2
 - 第5回 食品と栄養に関する基礎知識3
 - 第6回 食品と栄養に関する基礎知識4
 - 第7回 妊娠・授乳期の食生活
 - 第8回 乳児期・離乳期の食生活
 - 第9回 学童期の食生活
 - 第10回 食育の基本
 - 第11回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
 - 第12回 食べる機能の発達、障害のある小児の食生活
 - 第13回 幼児期の食生活と疾病
 - 第14回 小児期の食生活と疾病
-

授業以外での学習方法

教科書

最新子どもの食と栄養～食生活の基礎を築くために～

著者: 飯塚美和子他

出版社: 学健書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (10)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習(児) <a>**

担当者 倉持 祐二

テーマ

子どもと保育の流れの実際を理解し、子どもの見方や保育指導の視点を学ぶ

獲得目標

必修課題として設定する体験学習を通して、観察・記録の仕方を身につけるとともに、観察した事実と関連する文献の講読・討論を通して、子どもの成長発達・年間の保育の流れ・指導と援助の方法についての視点を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 体験学習の意義と概要
 - 第3回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
 - 第4回 体験学習(5月)の振り返り
 - 第5回 文献講読と討論
 - 第6回 文献講読と討論
 - 第7回 文献講読と討論
 - 第8回 文献講読と討論
 - 第9回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第10回 体験学習(6月)の振り返り
 - 第11回 文献講読と討論
 - 第12回 文献講読と討論
 - 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第14回 体験学習(7月)の振り返り
 - 第15回 今後の課題
-

授業以外での学習方法

この授業の必修課題として、月1回(午前中半日)の体験学習(フィールドワーク)を行う。また、子どもや保育に関するさまざまな文献・資料を読むよう、心がける。

教科書

参考書

育ちあう乳幼児心理学

著者: 心理科学研究会 編

出版社: 有斐閣

出版年: 2000年

ISBN: 4-641-07634-0

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習(児) **

担当者 池田 修

テーマ

児童の指導に関する実践記録を読み、教育観・指導観・子ども観について学ぶ。

獲得目標

子どもの表現(特に詩)から子どもを理解することの意義と方法を学ぶ。グループでの話し合いを組織し、まとめ、発表する力を養う。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(教職教育としての学びについて)
- 第2回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第3回 『心ってこんなに動くんた』① グループ討議と発表
- 第4回 『心ってこんなに動くんた』② グループ討議と発表
- 第5回 『心ってこんなに動くんた』③ グループ討議と発表
- 第6回 フィールドワークの中間まとめ
- 第7回 『心ってこんなに動くんた』④ グループ討議と発表
- 第8回 『心ってこんなに動くんた』⑤ グループ討議と発表
- 第9回 『心ってこんなに動くんた』⑥ グループ討議と発表
- 第10回 西條先生の講演(予定)
- 第11回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ①
- 第12回 西條実践『子どもが伸びるとき』に学ぶ②
- 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」のプラン作成
- 第14回 フィールドワークのまとめ
- 第15回 基礎演習の総括

授業以外での学習方法

教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。

教科書

心ってこんなに動くんた

著者： 西條昭男

出版社： 新日本出版社

出版年： 2006年

ISBN:

参考書

子どもが伸びるとき - 荒れる高学年の克服 -』

著者： 西條昭男

出版社： 駒草出版

出版年： 1989年

ISBN:

成績評価

a30102aa12

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習(児) <c>**

担当者 三上 周治

テーマ

子どもと保育の流れの実際を理解し、子どもの見方や保育指導の視点を学ぶ

獲得目標

必修課題として設定する体験学習を通して、観察・記録の仕方を身につけるとともに、観察した事実と関連する文献の講読・討論を通して、子どもの成長発達・年間の保育の流れ・指導と援助の方法についての視点を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 体験学習の意義と概要
 - 第3回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
 - 第4回 体験学習(5月)の振り返り
 - 第5回 文献講読と討論
 - 第6回 文献講読と討論
 - 第7回 文献講読と討論
 - 第8回 文献講読と討論
 - 第9回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第10回 体験学習(6月)の振り返り
 - 第11回 文献講読と討論
 - 第12回 文献講読と討論
 - 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第14回 体験学習(7月)の振り返り
 - 第15回 今後の課題
-

授業以外での学習方法

この授業の必修課題として、月1回(午前中半日)の体験学習(フィールドワーク)を行う。また、子どもや保育に関するさまざまな文献・資料を読むよう、心がける。

教科書

参考書

育ちあう乳幼児心理学

著者: 心理科学研究会 編

出版社: 有斐閣

出版年: 2000年

ISBN: 4-641-07634-0

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習(児) <d>**

担当者 神谷 栄司

テーマ

子どもと保育の流れの実際を理解し、子どもの見方や保育指導の視点を学ぶ

獲得目標

必修課題として設定する体験学習を通して、観察・記録の仕方を身につけるとともに、観察した事実と関連する文献の講読・討論を通して、子どもの成長発達・年間の保育の流れ・指導と援助の方法についての視点を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 体験学習の意義と概要
 - 第3回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
 - 第4回 体験学習(5月)の振り返り
 - 第5回 文献講読と討論
 - 第6回 文献講読と討論
 - 第7回 文献講読と討論
 - 第8回 文献講読と討論
 - 第9回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第10回 体験学習(6月)の振り返り
 - 第11回 文献講読と討論
 - 第12回 文献講読と討論
 - 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第14回 体験学習(7月)の振り返り
 - 第15回 今後の課題
-

授業以外での学習方法

この授業の必修課題として、月1回(午前中半日)の体験学習(フィールドワーク)を行う。また、子どもや保育に関するさまざまな文献・資料を読むよう、心がける。

教科書

参考書

育ちあう乳幼児心理学

著者： 心理科学研究会 編

出版社： 有斐閣

出版年： 2000年

ISBN： 4-641-07634-0

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習(児) <e>**

担当者 加用 美代子

テーマ

子どもと保育の流れの実際を理解し、子どもの見方や保育指導の視点を学ぶ

獲得目標

必修課題として設定する体験学習を通して、観察・記録の仕方を身につけるとともに、観察した事実と関連する文献の講読・討論を通して、子どもの成長発達・年間の保育の流れ・指導と援助の方法についての視点を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 体験学習の意義と概要
 - 第3回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
 - 第4回 体験学習(5月)の振り返り
 - 第5回 文献講読と討論
 - 第6回 文献講読と討論
 - 第7回 文献講読と討論
 - 第8回 文献講読と討論
 - 第9回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第10回 体験学習(6月)の振り返り
 - 第11回 文献講読と討論
 - 第12回 文献講読と討論
 - 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第14回 体験学習(7月)の振り返り
 - 第15回 今後の課題
-

授業以外での学習方法

この授業の必修課題として、月1回(午前中半日)の体験学習(フィールドワーク)を行う。また、子どもや保育に関するさまざまな文献・資料を読むよう、心がける。

教科書

参考書

育ちあう乳幼児心理学

著者: 心理科学研究会 編

出版社: 有斐閣

出版年: 2000年

ISBN: 4-641-07634-0

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習(児) <f>**

担当者 三山 岳

テーマ

子どもと保育の流れの実際を理解し、子どもの見方や保育指導の視点を学ぶ

獲得目標

必修課題として設定する体験学習を通して、観察・記録の仕方を身につけるとともに、観察した事実と関連する文献の講読・討論を通して、子どもの成長発達・年間の保育の流れ・指導と援助の方法についての視点を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 体験学習の意義と概要
 - 第3回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
 - 第4回 体験学習(5月)の振り返り
 - 第5回 文献講読と討論
 - 第6回 文献講読と討論
 - 第7回 文献講読と討論
 - 第8回 文献講読と討論
 - 第9回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第10回 体験学習(6月)の振り返り
 - 第11回 文献講読と討論
 - 第12回 文献講読と討論
 - 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
 - 第14回 体験学習(7月)の振り返り
 - 第15回 今後の課題
-

授業以外での学習方法

この授業の必修課題として、月1回(午前中半日)の体験学習(フィールドワーク)を行う。また、子どもや保育に関するさまざまな文献・資料を読むよう、心がける。

教科書

参考書

育ちあう乳幼児心理学

著者： 心理科学研究会 編

出版社： 有斐閣

出版年： 2000年

ISBN： 4-641-07634-0

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus**科目名 基礎演習(児) <g>****担当者 森本 美絵**

テーマ

子どもと保育の流れの実際を理解し、子どもの見方や保育指導の視点を学ぶ

獲得目標

必修課題として設定する体験学習を通して、観察・記録の仕方を身につけるとともに、観察した事実と関連する文献の講読・討論を通して、子どもの成長発達・年間の保育の流れ・指導と援助の方法についての視点を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業の進め方について
- 第2回 体験学習の意義と概要
- 第3回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組みについて
- 第4回 体験学習(5月)の振り返り
- 第5回 文献講読と討論
- 第6回 文献講読と討論
- 第7回 文献講読と討論
- 第8回 文献講読と討論
- 第9回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
- 第10回 体験学習(6月)の振り返り
- 第11回 文献講読と討論
- 第12回 文献講読と討論
- 第13回 「子どもが楽しめる企画と技術」の計画
- 第14回 体験学習(7月)の振り返り
- 第15回 今後の課題

授業以外での学習方法

この授業の必修課題として、月1回(午前中半日)の体験学習(フィールドワーク)を行う。また、子どもや保育に関するさまざまな文献・資料を読むよう、心がける。

教科書

参考書

育ちあう乳幼児心理学

著者： 心理科学研究会 編

出版社： 有斐閣

出版年： 2000年

ISBN： 4-641-07634-0

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育制度論(初)**

担当者 古田 薫

テーマ

教育課程と教育制度のあり方を考える

獲得目標

教育課程に関する教育制度の一般的な学習を通して、今日的課題や問題点に対する認識を深め、今後の教育課程と教育制度のあり方を考える資質・能力を養う。

授業の内容

教育課程と教育制度に関する基礎的・基本的な知識の内容と実践的な内容で学習していきます。

内 容

- 第1回 (次は、一応の目安です。日本国憲法・高等学校の現代社会の知識を有していることを前提として講義を進めます)
授業の説明等(大学における「教職」)(イントロダクション)
- 第2回 教育課程に関する法制 ①(教育課程とその基準)
- 第3回 教育課程に関する法制 ②(教育課程に関する法令)
- 第4回 学習指導要領の法的性格
- 第5回 学習指導要領の変遷
- 第6回 学習指導要領の内容と特徴(平成10年版)
- 第7回 新学習指導要領の内容と特徴(平成20年版)
- 第8回 わが国の教育の目的と方針
- 第9回 学校教育の目的と目標
- 第10回 教育法規の体系と適用
- 第11回 学校組織について
- 第12回 教師に求められる資質・能力
- 第13回 教師の研修
- 第14回 教育職員について
- 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育課程論(初)

担当者 八木 英二

テーマ

教育課程の構造と教育実践

獲得目標

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。

授業の内容

1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。

内 容

- 第1回 教育課程の構造と意味
 - 第2回 内申書、通知票について
 - 第3回 目標と評価のあり方
 - 第4回 観点別評価の意味
 - 第5回 教育実践評価と授業公開(初等)
 - 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理(初等)
 - 第7回 教科書の採択システム
 - 第8回 教科書づくり
 - 第9回 教科と教科外の教育方法(初等)
 - 第10回 総合学習について(初等)
 - 第11回 身体と教育課程(初等)
 - 第12回 教育課程と授業づくり(初等)
 - 第13回 思春期の教育階梯
 - 第14回 SNE(特別なニーズ教育)について
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

教師の役割変化を問う

著者: 八木英二

出版社: 三学出版

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 道徳教育の理論と方法(初)

担当者 碓井 敏正

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

獲得目標

道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

授業の内容

前半の授業は講義形式を基本とするが、後半の授業では、主として「道徳の時間」においてどのような授業が可能なのかを実践的に追究していきたい。また、現場の先生を呼んで、道徳教育のユニークな実践例をはなしてもらおう予定である。

内 容

- 第1回 道徳とは何か
 - 第2回 道徳教育の歴史(明治以降)
 - 第3回 道徳教育の歴史(戦後)
 - 第4回 日本の学校教育の現実
 - 第5回 小学校における道徳教育の捉え方
 - 第6回 小学生の道徳的発達の特徴
 - 第7回 全面主義と特設主義
 - 第8回 全面主義を前提とした特設主義
 - 第9回 道徳の時間と各教科の関係
 - 第10回 道徳教育と特別活動、総合学習との関係
 - 第11回 道徳教育の要としての道徳の時間
 - 第12回 道徳の時間の展開の仕方
 - 第13回 家庭、地域と道徳教育
 - 第14回 現場における道徳教育の実践例
 - 第15回 評価の問題とまとめ
-

授業以外での学習方法

ニュースで報道される教育問題や、青少年の精神状況、道徳意識について常に関心を払うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (0)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育方法論(初)

担当者 梅本 裕

テーマ

<授業をつくる>ことへのイメージを育む

獲得目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。より具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようにすること。

授業の内容

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して学習者が「生き生きと学べる授業」の要件を考察する。

内 容

- 第1回 「あの坂の名は？」: 社会科における発信型の授業と学力とは何か？
- 第2回 「見たこと作文」: 子どもが<動く>授業の条件とは？
- 第3回 「木の葉の駅で」: 発問の構造
- 第4回 「発電所はどこにあるか？」: 教授行為とは何か？
- 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての<指示・発問・説明・応答・調整>
- 第6回 「お化け屋敷で算数を」: こどもたちの理解の構造をさぐる
- 第7回 「絵を描くのは苦手です」: 教育内容と方法の開発論理
- 第8回 「声を育てる音楽の授業」: <雰囲気の良い授業>の構造は？
- 第9回 「世界とつながる、深く調べる」: コンピュータとインターネットでできること
- 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」: 言語技術としての<分析ツールを教える>国語の授業
- 第11回 「琵琶湖で学ぶ」: 総合学習とは何か？
- 第12回 授業づくりの記号論的構造: <教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価>
- 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」: 授業の機能とITの活用
- 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」: イメージをそだてる授業の構造
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

(1) 新聞やテレビなどのマスメディアでの教育問題の紹介に注意を払い、理論的説明を試みることを期待する。(2) 小中高時代のノートや教科書があれば、それを手がかりにして、自分がどのような授業を受けたかを振り返ってみよう。「教わったようには教えない」とするならば、どんな教え方が可能か調べてみよう。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

a30102d550

試験(レポート)についての詳細は授業の中で説明する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **国語概論**

担当者 佐野 裕子・新谷 泰一

テーマ

国語(日本語)を分析対象として科学的・客観的に考えるための基礎知識を学ぶ

獲得目標

無意識に習得し、何の問題もなく運用することができる国語(日本語)について意識化し、これまで気づくことのなかった日本語の特性に目を向けることのできる能力を養うことを目標とする。具体的には、比較研究や対照研究などによる外からの視点を通して日本語の特性について考える。

授業の内容

授業は、配布プリントを使用して講義と学生への質問によって進める。授業の最後に、講義についての設問を解いてもらい、これを授業中課題とする。

内 容

- 第1回 ガイダンス 授業方針・評価方法説明
- 第2回 国語としての日本語
- 第3回 外国語としての日本語
- 第4回 言語の系譜・系統からみた日本語Ⅰ(比較言語学)
- 第5回 言語の系譜・系統からみた日本語Ⅱ(日本語の系統)
- 第6回 言語類型論からみた日本語Ⅰ(形態的類型論と日本語)
- 第7回 言語類型論からみた日本語Ⅱ(語順類型論と日本語)
- 第8回 対照研究からみた日本語Ⅰ(情報の後置性・省略)
- 第9回 対照研究からみた日本語Ⅱ(名詞に関わる日本語の特性)
- 第10回 日本語の音と形Ⅰ(日本語の子音と母音)
- 第11回 日本語の音と形Ⅱ(日本語の音節・音素)
- 第12回 まとめ
- 第13回 言語事項Ⅰ(小学校における書写)
- 第14回 言語事項Ⅱ(中学校における書写)
- 第15回 言語事項Ⅲ(高等学校における書道)

授業以外での学習方法

授業中に配布されたプリントと設問について授業後、もう一度目を通しておく。

教科書

テキストはプリントを作成し配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考文献は授業中適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。出席確認は、カードによる確認と授業中課題の提出による確認のダブルチェックを行う。出席に際しては、必ずカードのチェックと課題の提出を忘れないように。(どちらか欠けている場合は欠席と見なす)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会科概論**

担当者 倉持 祐二

テーマ

小学校社会科の全体像をつかむ

獲得目標

各学年の社会科の授業を体験的に学びながら、社会科の役割、社会科の目標・内容・方法、社会科学習指導の基礎的な技能の習得をめざす。また、2008年度版の学習指導要領の実践的課題について考える視点を獲得する。

授業の内容

2008年度版学習指導要領や教科書をもとに、小学校3～6年の社会科学習の目標・内容・方法のアウトラインをつかむ。そのうえで、実際に地域の教材づくりを試みる。

内 容

- 第1回 社会科で学ぶこと(社会科の誕生)
- 第2回 2008年度版学習指導要領の特徴をつかむ
- 第3回 社会科の目標と評価
- 第4回 小学校3・4年の学習内容 商店をどう教えるか
- 第5回 小学校3・4年の学習内容 地域の生産労働をどう教えるか
- 第6回 小学校3・4年の学習内容 地図をどう教えるか
- 第7回 小学校5年の学習内容 日本の農業をどう教えるか
- 第8回 小学校5年の学習内容 日本の工業をどう教えるか
- 第9回 小学校5年の学習内容 情報をどう教えるか
- 第10回 小学校6年の学習内容 鎌倉時代をどう教えるか
- 第11回 小学校6年の学習内容 戦争をどう教えるか
- 第12回 小学校6年の学習内容 憲法をどう教えるか
- 第13回 小学校社会科の教育課程を考える
- 第14回 教材研究①(絵画史料を読み解く)
- 第15回 教材研究②(地域の教材化)

授業以外での学習方法

『2008年度版 小学校学習指導要領解説 社会科編』や小学校社会科に関する実践書に興味をもち、自らの力で読みすすめていくことを期待する。

教科書

小学校学習指導要領解説 社会編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： 2008年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (30)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 生活科概論

担当者 三上 周治

テーマ

獲得目標

小学校低学年における、自然や社会に関わる学びを創る

授業の内容

小学校中学年以降に展開される学びの土台となる認識を培う。小学校低学年の子ども達の周りにある自然や社会について、個別にそして具体的に認識することを目的とする。動物や植物、磁石や空気、自分の体や自分がくらす、学校や家庭を具体的に取り上げることで、自然認識や社会認識の基礎を培う。

内 容

- 第1回 小学校低学年での教科教育が果たす役割(教科教育としての生活科の任務①)
 - 第2回 小学校低学年での自然や社会にかかわる学びの意味(教科教育としての生活科の任務②)
 - 第3回 生活科教科書、学習指導要領の定期する生活科とは？
 - 第4回 身近な動物の飼育観察を通して、動物の生き様を学ぶ
 - 第5回 身近な植物の栽培観察を通して、植物の生き様を学ぶ
 - 第6回 トンカチ、サンドペーパー、豆電球をむ使って金属探し
 - 第7回 磁石を使って、鉄探し
 - 第8回 空気は、水とよく似ていることを学ぶ
 - 第9回 色水遊び
 - 第10回 音の鳴るおもちゃづくり
 - 第11回 動くおもちゃづくり
 - 第12回 学校の教室、家の部屋
 - 第13回 家族の生活と、家で働く人の仕事
 - 第14回 郵便局の仕事
 - 第15回 生活科学習指導案の作り方
-

授業以外での学習方法

教科書

その都度プリントを示す。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

生活科教科書

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

学習指導要領

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

授業中にプリントで示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 家庭科概論

担当者 大塚 真理子

テーマ

小学校家庭科を指導するための基礎力を高める

獲得目標

小学校家庭科の指導に必要な基礎的な知識や技能を習得するとともに、子どもの生活課題を踏まえた指導の深め方を考察する。

授業の内容

学習指導要領で示されている各内容について、講義と学生のグループ発表により、理解を深める。

内 容

- 第1回 小学校家庭科の役割(オリエンテーション)
 - 第2回 小学校家庭科の内容(学習指導要領と教科書を見る)
 - 第3回 家庭生活と家族 1
 - 第4回 家庭生活と家族 2
 - 第5回 日常の食事と調理の基礎 1
 - 第6回 日常の食事と調理の基礎 2
 - 第7回 日常の食事と調理の基礎 3
 - 第8回 快適な衣服 1
 - 第9回 快適な衣服 2
 - 第10回 布を使った製作 1
 - 第11回 布を使った製作 2
 - 第12回 快適な住まい 1
 - 第13回 快適な住まい 2
 - 第14回 身近な消費生活と環境 1
 - 第15回 身近な消費生活と環境 2 (まとめ)
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

小学校家庭科の学習内容は生活の基礎基本である。自分自身の生活に関心を深め、学習したことを日常生活に活かそうとする実践的態度をもつ。

教科書

教科書「新しい家庭5・6」

著者:

出版社: 東京書籍

出版年:

ISBN:

小学校家庭科概論

著者: 加地芳子

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011

ISBN:

参考書

小学校学習指導要領解説家庭編

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **保育内容総論**

担当者 八木 英二

テーマ

保育内容の総合性と指導の基本をつかむ

獲得目標

保育内容の健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域を総合的にとらえる視点を養う。さらに発達過程と幼児理解を基礎にした保育を行うための教育課程の編成と長期・短期の指導計画の立案過程について学ぶ。

授業の内容

実践事例に数多くふれながら、あわせて教育・保育実習の実習ができるような実習指導計画の作成方法について学んでいく。

内 容

- 第1回 幼稚園教育要領と保育所保育指針
 - 第2回 自然(環境)と社会(人間関係)の関係
 - 第3回 小学校への接続
 - 第4回 入園当初の計画
 - 第5回 ごっこ遊びの意義
 - 第6回 遊びの素材論
 - 第7回 遊びの発展
 - 第8回 身振り表現の意義
 - 第9回 お話を聞くこと
 - 第10回 童話の扱い
 - 第11回 保育計画とは何か
 - 第12回 前期の保育
 - 第13回 後期の保育
 - 第14回 劇遊びと生活発表
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境) I <幼A>

担当者 藤井 修

テーマ

獲得目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の内容

I では主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

内 容

- 第1回 子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
 - 第2回 保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
 - 第3回 居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
 - 第4回 あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
 - 第5回 保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
 - 第6回 野外観察実習 身近な樹木の識別と草花あそび
 - 第7回 園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗(のぞ)く窓」・ビオトープ
 - 第8回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

演習 保育内容 環境

著者： 柴崎 正行

出版社： 建帛社

出版年： 2009

ISBN： 9.78477E+12

参考書

確かな感性と認識を育てる保育

著者： 全国保育問題研究協議会

出版社： 新読書社

出版年： 2011

ISBN： 9.78479E+12

むすんでみよう子どもと自然

著者： 井上美智子 無藤 隆 神田 浩行

出版社： 北大路書房

出版年： 2010

ISBN： 9.78476E+12

作ろう草玩具

著者： 佐藤 邦昭

出版社： 築地書館

出版年： 2004

ISBN： 4-8067-1294-9

成績評価

試験（70）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（ ）

参加度（10）

まとめの時間に試験を行う。試験に授業ノート・資料類の持ち込みは不許可。授業中の提出物の成績を付加し、総合点で合否を決める。参加度の考慮は草玩具の習熟度を持って行い、提出物の加点と同様に扱う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境) I <幼B>

担当者 藤井 修

テーマ

獲得目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の内容

I では主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

内 容

- 第3回 居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
 - 第4回 あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
 - 第5回 保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
 - 第6回 野外観察実習 身近な樹木の識別と草花あそび
 - 第7回 園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗(のぞ)く窓」・ピオトープ
 - 第8回 まとめ
 - 第1回 子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
 - 第2回 保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
-

授業以外での学習方法

教科書

演習 保育内容 環境

著者： 柴崎 正行

出版社： 建帛社

出版年： 2009

ISBN： 9.78477E+12

参考書

確かな感性と認識を育てる保育

著者： 全国保育問題研究協議会

出版社： 新読書社

出版年： 2011

ISBN： 9.78479E+12

むすんでみよう子どもと自然

著者： 井上美智子 無藤 隆 神田 浩行

出版社： 北大路書房

出版年： 2010

ISBN： 9.78476E+12

作ろう草玩具

著者： 佐藤 邦昭

出版社： 築地書館

出版年： 2004

ISBN： 4-8067-1294-9

成績評価

試験（70）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（ ）

参加度（10）

まとめの時間に試験を行う。試験に授業ノート・資料類の持ち込みは不許可。授業中の提出物の成績を付加し、総合点で合否を決める。参加度の考慮は草玩具の習熟度を持って行い、提出物の加点と同様に扱う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境) I <幼C>

担当者 藤井 修

テーマ

獲得目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の内容

I では主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

内 容

- 第1回 子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史的変遷
 - 第2回 保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
 - 第3回 居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
 - 第4回 あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
 - 第5回 保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
 - 第6回 野外観察実習 身近な樹木の識別と草花あそび
 - 第7回 園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗(のぞ)く窓」・ビオトープ
 - 第8回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

演習 保育内容 環境

著者： 柴崎 正行

出版社： 建帛社

出版年： 2009

ISBN： 9.78477E+12

参考書

確かな感性と認識を育てる保育

著者： 全国保育問題研究協議会

出版社： 新読書社

出版年： 2011

ISBN： 9.78479E+12

むすんでみよう子どもと自然

著者： 井上美智子 無藤 隆 神田 浩行

出版社： 北大路書房

出版年： 2010

ISBN： 9.78476E+12

作ろう草玩具

著者： 佐藤 邦昭

出版社： 築地書館

出版年： 2004

ISBN： 4-8067-1294-9

成績評価

試験（70）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（ ）

参加度（10）

まとめの時間に試験を行う。試験に授業ノート・資料類の持ち込みは不許可。授業中の提出物の成績を付加し、総合点で合否を決める。参加度の考慮は草玩具の習熟度を持って行い、提出物の加点と同様に扱う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境) I <児>

担当者 藤井 修

テーマ

獲得目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の内容

I では主として、①幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「環境」の理解を図る。②子どもの発達に相応しい生活環境・遊び場の諸条件を具体的に理解する。③身近な自然を子どもの興味・関心の対象とするための保育方法を学習する。

内 容

- 第1回 子どもの遊びと環境～空間・時間・仲間・方法の歴史の変遷
 - 第2回 保育における栽培の取り組み～園芸技術の基礎・ペットボトルによる栽培実習
 - 第3回 居場所としての保育環境～生活文化の歴史的考察
 - 第4回 あそびの概念をめぐって絵本からの学び～子ども時代をイメージするもの
 - 第5回 保育環境における動物飼育～養蚕の取り組み
 - 第6回 野外観察実習 身近な樹木の識別と草花あそび
 - 第7回 園庭の機能と環境構成～「園庭は自然を覗(のぞ)く窓」・ビオトープ
 - 第8回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

演習 保育内容 環境

著者： 柴崎 正行

出版社： 建帛社

出版年： 2009

ISBN： 9.78477E+12

参考書

確かな感性と認識を育てる保育

著者： 全国保育問題研究協議会

出版社： 新読書社

出版年： 2011

ISBN： 9.78479E+12

むすんでみよう子どもと自然

著者： 井上美智子 無藤 隆 神田 浩行

出版社： 北大路書房

出版年： 2010

ISBN： 9.78476E+12

作ろう草玩具

著者： 佐藤 邦昭

出版社： 築地書館

出版年： 2004

ISBN： 4-8067-1294-9

成績評価

試験（70）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（ ）

参加度（10）

まとめの時間に試験を行う。試験に授業ノート・資料類の持ち込みは不許可。授業中の提出物の成績を付加し、総合点で合否を決める。参加度の考慮は草玩具の習熟度を持って行い、提出物の加点と同様に扱う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境)Ⅱ <幼A>

担当者 藤井 修

テーマ

獲得目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の内容

Iの内容を踏まえ、IIでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

内 容

- 第1回 子どもの発達の特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
 - 第2回 幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
 - 第3回 保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
 - 第4回 諸外国の保育環境～「森の幼稚園」
 - 第5回 諸外国の保育環境～「保育環境評価」
 - 第6回 人的環境としての保育者
 - 第7回 子どもの権利の保障と平和の文化
 - 第8回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

演習保育内容環境

著者： 柴崎 正行

出版社： 建帛社

出版年： 2009

ISBN： 9.78477E+12

参考書

世界の保育保障 幼保一体改革への示唆

著者： 棕野美智子 藪長千乃

出版社： 法律文化社

出版年： 2012

ISBN： 9.78459E+12

保育環境評価スケール①改訂版

著者： テルマホームス他

出版社： 法律文化社

出版年： 2008

ISBN： 9.78459E+12

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題（20）

授業中発表等（）

参加度（10）

最終回(通算16回目)に試験を行う。資料・ノートの持ち込みは不許可。授業中課題と出席回数を試験点数に加点し合否を決める。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境)Ⅱ〈幼B〉

担当者 藤井 修

テーマ

獲得目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の内容

Iの内容を踏まえ、IIでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

内 容

- 第1回 子どもの発達の特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
- 第2回 幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
- 第3回 保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
- 第4回 諸外国の保育環境～「森の幼稚園」
- 第5回 諸外国の保育環境～「保育環境評価」
- 第6回 人的環境としての保育者
- 第7回 子どもの権利の保障と平和の文化
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

演習保育内容環境

著者： 柴崎 正行

出版社： 建帛社

出版年： 2009

ISBN： 9.78477E+12

参考書

保育環境評価スケール①改訂版

著者： テルマハームス他

出版社： 法律文化社

出版年： 2008

ISBN： 9.78459E+12

世界の保育保障 幼保一体改革への示唆

著者： 椋野美智子 藪長千乃

出版社： 法律文化社

出版年： 2012

ISBN： 9.78459E+12

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題（20）

授業中発表等（ ）

参加度（10）

最終回(通算16回目)に試験を行う。資料・ノートの持ち込みは不許可。授業中課題と出席回数を試験点数に加点し合否を決める。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(環境)Ⅱ〈幼C〉

担当者 藤井 修

テーマ

獲得目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の内容

Iの内容を踏まえ、IIでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

内 容

- 第1回 子どもの発達的特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
- 第2回 幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
- 第3回 保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
- 第4回 諸外国の保育環境～「森の幼稚園」
- 第5回 諸外国の保育環境～「保育環境評価」
- 第6回 人的環境としての保育者
- 第7回 子どもの権利の保障と平和の文化
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

演習保育内容環境

著者： 柴崎 正行

出版社： 建帛社

出版年： 2009

ISBN： 9.78477E+12

参考書

保育環境評価スケール①改訂版

著者： テルマハームス他

出版社： 法律文化社

出版年： 2008

ISBN： 9.78459E+12

世界の保育保障 幼保一体改革への示唆

著者： 椋野美智子 藪長千乃

出版社： 法律文化社

出版年： 2012

ISBN： 9.78459E+12

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題（20）

授業中発表等（ ）

参加度（10）

最終回(通算16回目)に試験を行う。資料・ノートの持ち込みは不許可。授業中課題と出席回数を試験点数に加点し合否を決める。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **保育内容演習(環境)Ⅱ〈児〉**

担当者 藤井 修

テーマ

獲得目標

今日多くの人々は莫大に自然資源を消費し、工業化された都市で生きている。この環境条件は、生物としての人間、そして社会的存在としての子どもが成長するうえで、必ずしも良好とばかりはいえない。この環境と人間の諸関係を読み解く能力を習得させ、子どもの発達を保障する保育環境と生活文化を創造的に構成する実行力ある保育者の養成を目指す。

授業の内容

Iの内容を踏まえ、IIでは主として、①幼稚園設置基準および児童福祉施設最低基準の理解とその向上のための方策を探る。②乳幼児期を過ごす風土の特徴を諸外国の例も知り、「故郷の体験」の意義を考える。

内 容

- 第1回 子どもの発達の特徴と安全管理・事故防止～リスクとハザード
- 第2回 幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「環境」の求めるものと最低基準
- 第3回 保育室の機能と環境構成～遊具・玩具の管理
- 第4回 諸外国の保育環境～「森の幼稚園」
- 第5回 諸外国の保育環境～「保育環境評価」
- 第6回 人的環境としての保育者
- 第7回 子どもの権利の保障と平和の文化
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

演習保育内容環境

著者： 柴崎 正行

出版社： 建帛社

出版年： 2009

ISBN： 9.78477E+12

参考書

保育環境評価スケール①改訂版

著者： テルマハームス他

出版社： 法律文化社

出版年： 2008

ISBN： 9.78459E+12

世界の保育保障 幼保一体改革への示唆

著者： 椋野美智子 藪長千乃

出版社： 法律文化社

出版年： 2012

ISBN： 9.78459E+12

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題（20）

授業中発表等（ ）

参加度（10）

最終回(通算16回目)に試験を行う。資料・ノートの持ち込みは不許可。授業中課題と出席回数を試験点数に加点し合否を決める。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現) I <幼A>

担当者 谷口 敦子

テーマ

獲得目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の内容

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。I では主として、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌や身振りの表現、粘土などの造型活動、等による表現指導法を学ぶ。

内 容

- 第1回 シラバスの説明・「表現」について
 - 第2回 絵本の意義と伝え方
 - 第3回 絵本の読み聞かせの実践
 - 第4回 紙芝居の意義と演じ方
 - 第5回 紙芝居の演じ方と実践
 - 第6回 わらべ歌、手遊び歌の意義と実践・身ぶり表現の実践
 - 第7回 粘土あそび等造形活動
 - 第8回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現) I <幼B>

担当者 谷口 敦子

テーマ

獲得目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の内容

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。I では主として、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌や身振りの表現、粘土などの造型活動、等による表現指導法を学ぶ。

内 容

- 第1回 シラバスの説明・「表現」について
 - 第2回 絵本の意義と伝え方
 - 第3回 絵本の読み聞かせの実践
 - 第4回 紙芝居の意義と演じ方
 - 第5回 紙芝居の演じ方と実践
 - 第6回 わらべ歌、手遊び歌の意義と実践・身ぶり表現の実践
 - 第7回 粘土あそび等造形活動
 - 第8回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現) I <幼C>

担当者 谷口 敦子

テーマ

獲得目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の内容

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Iでは主として、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌や身振りの表現、粘土などの造型活動、等による表現指導法を学ぶ。

内 容

- 第1回 シラバスの説明・「表現」について
 - 第2回 絵本の意義と伝え方
 - 第3回 絵本の読み聞かせの実践
 - 第4回 紙芝居の意義と演じ方
 - 第5回 紙芝居の演じ方と実践
 - 第6回 わらべ歌、手遊び歌の意義と実践・身ぶり表現の実践
 - 第7回 粘土あそび等造形活動
 - 第8回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現) I <児>

担当者 谷口 敦子

テーマ

獲得目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の内容

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Iでは主として、絵本の読み聞かせ、紙芝居の実演、歌や身振りの表現、粘土などの造型活動、等による表現指導法を学ぶ。

内 容

- 第1回 シラバスの説明・「表現」について
 - 第2回 絵本の意義と伝え方
 - 第3回 絵本の読み聞かせの実践
 - 第4回 紙芝居の意義と演じ方
 - 第5回 紙芝居の演じ方と実践
 - 第6回 わらべ歌、手遊び歌の意義と実践・身ぶり表現の実践
 - 第7回 粘土あそび等造形活動
 - 第8回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現)Ⅱ <幼A>

担当者 谷口 敦子

テーマ

獲得目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の内容

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅱでは主として、ペープサート(紙人形劇)を素材として、劇づくりによる表現指導法を学ぶ。

内 容

- 第1回 ペープサートの意義と表現について
 - 第2回 ペープサートの作成と演出について
 - 第3回 ペープサートによる実践
 - 第4回 劇づくりの意義と指導法
 - 第5回 劇づくりの作成、準備
 - 第6回 劇づくりの役割分担と演技
 - 第7回 劇づくりによる表現、実践
 - 第8回 表現の指導のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現)Ⅱ <幼B>

担当者 谷口 敦子

テーマ

獲得目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の内容

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅱでは主として、ペープサート(紙人形劇)を素材として、劇づくりによる表現指導法を学ぶ。

内 容

- 第1回 ペープサートの意義と表現について
 - 第2回 ペープサートの作成と演出について
 - 第3回 ペープサートによる実践
 - 第4回 劇づくりの意義と指導法
 - 第5回 劇づくりの作成、準備
 - 第6回 劇づくりの役割分担と演技
 - 第7回 劇づくりによる表現、実践
 - 第8回 表現の指導のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現)Ⅱ <幼C>

担当者 谷口 敦子

テーマ

獲得目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の内容

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅱでは主として、ペープサート(紙人形劇)を素材として、劇づくりによる表現指導法を学ぶ。

内 容

- 第1回 ペープサートの意義と表現について
 - 第2回 ペープサートの作成と演出について
 - 第3回 ペープサートによる実践
 - 第4回 劇づくりの意義と指導法
 - 第5回 劇づくりの作成、準備
 - 第6回 劇づくりの役割分担と演技
 - 第7回 劇づくりによる表現、実践
 - 第8回 表現の指導のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(表現)Ⅱ〈児〉

担当者 谷口 敦子

テーマ

獲得目標

子どもの感性と創造性を育てる表現の指導

授業の内容

様々な題材をもとにあそびや諸活動について幼児の豊かな発想を引き出せるような指導法の修得をめざす。Ⅱでは主として、ペープサート(紙人形劇)を素材として、劇づくりによる表現指導法を学ぶ。

内 容

- 第1回 ペープサートの意義と表現について
 - 第2回 ペープサートの作成と演出について
 - 第3回 ペープサートによる実践
 - 第4回 劇づくりの意義と指導法
 - 第5回 劇づくりの作成、準備
 - 第6回 劇づくりの役割分担と演技
 - 第7回 劇づくりによる表現、実践
 - 第8回 表現の指導のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(言語)〈児〉

担当者 神谷 栄司

テーマ

獲得目標

乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割を考察する。

授業の内容

・乳幼児のことばの発達の本質と特徴を把握し、2・3歳未満児と学齢児と比較して3歳以上児のことばの発達の役割を理解する。・外的言語、自己中心的言語、内的言語の区別と連関を把握し、3歳以上児に特徴的となる「確立しつつある内的言語」の本質を理解する。・幼児期におけるコミュニケーションの可視性と「確立しつつある内的言語」の可視化を考察する。・乳幼児期の特質としての身体をくぐった認識と言語による認識を理解する。

内 容

- 第1回 本授業のオリエンテーションとして。ことばの意味と「落とし穴」
 - 第2回 ことばの発達① 乳児期—有意味語の成立まで
 - 第3回 ことばの発達② 幼児前期—話しことばの体系の一応の獲得まで
 - 第4回 ことばの発達③ 幼児後期—外的言語、自己中心的言語、内的言語
 - 第5回 ことばと身ぶり書きことばの前史
 - 第6回 書きことばの前史ことばと思考の発達
 - 第7回 ことばと思考の発達
 - 第8回 形象、複合、概念 —まとめにかえて
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育の言語表現〈児〉

担当者 神谷 栄司

テーマ

保育の言語表現について学ぶ

獲得目標

・幼児の遊びのなかに潜んでいることばと想像・情動の関係について理解する。・保育現場の実践を素材に、言葉と身ぶりを中心とする言語表現の展開を理解する。・多くの保育現場で取り組まれている劇遊び・劇つくりという総合的表現の実践を通して言葉と身ぶりについて理解を深める。

授業の内容

言語の指導として総合的表現活動について考察し、乳幼児のことばの発達および乳幼児の人格発達におけることばの役割について学んでいく

内 容

- 第1回 ことばと想像
 - 第2回 ことばと情動
 - 第3回 幼児の遊びについて①
 - 第4回 幼児の遊びについて②
 - 第5回 自然を題材にした保育におけることばと身ぶり
 - 第6回 物語を題材にした保育におけることばと身ぶり
 - 第7回 劇遊びのなかのことばと身ぶり
 - 第8回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 幼児体育 I <幼a>

担当者 口野 隆史

テーマ

獲得目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の内容

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)
- 第2回 自己の体力の理解と仲間づくり I <集団での運動課題>長縄跳び、パラバルーン
- 第3回 自己の体力の理解と仲間づくり II <集団での運動課題>ジャンケン遊び、鬼遊び
- 第4回 手具を用いた運動 I <ボール>用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)
- 第5回 手具を用いた運動 II <縄>用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)
- 第6回 手具を用いた運動 III <輪>用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)
- 第7回 手具を用いた運動 IV <棒>用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

1. 保育園・幼稚園へ行く機会があれば、子どもたちがどんな運動遊びをしているのかその様子をよく見てみよう。また、保育者がどんな指導をしているのかも見てみよう。2. テレビや新聞での子どもの遊び、体育、教育に関する問題にも注意を払ってみよう。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a30102f510

しっかり出席して下さい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 幼児体育 I <幼b>

担当者 口野 隆史

テーマ

獲得目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の内容

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)
- 第2回 自己の体力の理解と仲間づくり I <集団での運動課題>長縄跳び、パラバルーン
- 第3回 自己の体力の理解と仲間づくり II <集団での運動課題>ジャンケン遊び、鬼遊び
- 第4回 手具を用いた運動 I <ボール>用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)
- 第5回 手具を用いた運動 II <縄>用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)
- 第6回 手具を用いた運動 III <輪>用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)
- 第7回 手具を用いた運動 IV <棒>用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

1. 保育園・幼稚園へ行く機会があれば、子どもたちがどんな運動遊びをしているのかその様子をよく見てみよう。また、保育者がどんな指導をしているのかも見てみよう。2. テレビや新聞での子どもの遊び、体育、教育に関する問題にも注意を払ってみよう。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a30102f512

しっかり出席して下さい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 幼児体育 I <児>

担当者 新野 守

テーマ

獲得目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の内容

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業概要、教育課程での位置づけ、レポート作成要領)
 第2回 自己の体力の理解と仲間づくり I <集団での運動課題>長縄跳び、パラバルーン
 第3回 自己の体力の理解と仲間づくり II <集団での運動課題>ジャンケン遊び、鬼遊び
 第4回 手具を用いた運動 I <ボール>用具の特性理解と動作理解(投げる、受けるなど)
 第5回 手具を用いた運動 II <縄>用具の特性理解と動作理解(跳ぶ、引く、各種縄跳び)
 第6回 手具を用いた運動 III <輪>用具の特性理解と動作理解(ケンパ、輪転がし、輪投げ)
 第7回 手具を用いた運動 IV <棒>用具の特性理解と動作理解(バンブーダンス、棒体操)
 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

1. 子どもの頃にどんな遊びをしたか思い出して下さい。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみましょう。2. テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払って下さい。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみましょう。

教科書

参考書

幼児期運動あそびの進め方

著者: 学校体育研究同志会

出版社: 創文企画

出版年: 2009

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (20)

参加度 (50)

授業記録、模擬授業の(略式)指導案とレポート、体力・技術を重視します。

a30102f513

参考URL

2013 Syllabus

科目名 幼児体育Ⅱ〈幼a〉

担当者 口野 隆史

テーマ

獲得目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の内容

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

内 容

- 第1回 手具を用いない運動Ⅰ〈様々な鬼遊び①〉(少人数で単純なルールで)
- 第2回 手具を用いない運動Ⅱ〈様々な鬼遊び②〉(多人数でやや複雑なルールで)
- 第3回 手具を用いない運動Ⅲ〈マット運動①〉感覚・動きづくり
- 第4回 手具を用いない運動Ⅳ〈マット運動②〉側転を学ぶ
- 第5回 身近な物を用いた運動Ⅰ〈新聞紙〉用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
- 第6回 身近な物を用いた運動Ⅱ〈新聞紙〉作成した用具での運動遊び
- 第7回 子どもの運動発達を理解
- 第8回 まとめとレポート作成

授業以外での学習方法

1. 保育園・幼稚園へ行く機会があれば、子どもたちがどんな運動遊びをしているのかその様子をよく見てみよう。また、保育者がどんな指導をしているのかも見てみよう。2. テレビや新聞での子どもの遊び、体育、教育に関する問題にも注意を払ってみよう。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a30102f610

しっかり出席して下さい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 幼児体育Ⅱ〈幼b〉

担当者 口野 隆史

テーマ

獲得目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の内容

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

内 容

- 第1回 手具を用いない運動Ⅰ〈様々な鬼遊び①〉(少人数で単純なルールで)
- 第2回 手具を用いない運動Ⅱ〈様々な鬼遊び②〉(多人数でやや複雑なルールで)
- 第3回 手具を用いない運動Ⅲ〈マット運動①〉感覚・動きづくり
- 第4回 手具を用いない運動Ⅳ〈マット運動②〉側転を学ぶ
- 第5回 身近な物を用いた運動Ⅰ〈新聞紙〉用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
- 第6回 身近な物を用いた運動Ⅱ〈新聞紙〉作成した用具での運動遊び
- 第7回 子どもの運動発達を理解
- 第8回 まとめとレポート作成

授業以外での学習方法

1. 保育園・幼稚園へ行く機会があれば、子どもたちがどんな運動遊びをしているのかその様子をよく見てみよう。また、保育者がどんな指導をしているのかも見てみよう。2. テレビや新聞での子どもの遊び、体育、教育に関する問題にも注意を払ってみよう。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a30102f612

しっかり出席して下さい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 幼児体育Ⅱ〈児〉

担当者 新野 守

テーマ

獲得目標

どんな子どもに育って欲しいかを考えながら、楽しく運動遊びを行う

授業の内容

体育を通して、育てたい“子ども(幼児)像”、幼児期に獲得させたい“運動能力”について考え理解する。子どもの全面的な発達を促すために、人間の運動発達についての理解を深め、幼児の体育指導に必要な技術・技能(適切なスポーツ・運動遊びを選択し、子どもたちに指導し、子どもたちと共に楽しく運動を行える能力)を獲得する。

内 容

- 第1回 手具を用いない運動Ⅰ〈様々な鬼遊び①〉(少人数で単純なルールで)
- 第2回 手具を用いない運動Ⅱ〈様々な鬼遊び②〉(多人数でやや複雑なルールで)
- 第3回 手具を用いない運動Ⅲ〈マット運動①〉感覚・動きづくり
- 第4回 手具を用いない運動Ⅳ〈マット運動②〉側転を学ぶ
- 第5回 身近な物を用いた運動Ⅰ〈新聞紙〉用具の特性理解と動作理解(遊びの創造)
- 第6回 身近な物を用いた運動Ⅱ〈新聞紙〉作成した用具での運動遊び
- 第7回 子どもの運動発達を理解
- 第8回 まとめとレポート作成

授業以外での学習方法

1. 子どもの頃にどんな遊びをしたか思い出して下さい。鬼ごっこ、かくれんぼ、縄跳び、ボール遊び、ケンパ等々、楽しかったものはこの授業でもやってみましょう。2. テレビや新聞の体育、教育、乳幼児に関する問題に注意を払って下さい。現代の子どもたちが置かれている状況を考えてみましょう。

教科書

参考書

幼児期運動あそびの進め方

著者： 学校体育研究同志会

出版社： 創文企画

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (20)

参加度 (50)

授業記録、模擬授業の(略式)指導案とレポート、体力・技術を重視します。

a30102f613

参考URL

2013 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅳ〈幼A〉

担当者 田中 淑子

テーマ

幼児の内面を豊かにする音楽教育を考える。

獲得目標

音楽は、幼児の内面を豊かにするものである。きれいな声で歌う、音楽に合わせて体を動かす(律動)、歌や曲に合わせてリズム打ちをするなど、音楽を楽しませながら、内面を豊かにするには、どうすればよいかを考える。

授業の内容

幼児の年齢に応じた音楽活動を、周辺の環境等を考慮しながら相応しいものを探っていく。

内 容

- 第1回 音楽教育の意義について考える。
 - 第2回 季節に合わせた音楽を見つける。 1
 - 第3回 季節に合わせた音楽を見つける。 2
 - 第4回 季節に合った絵本を読み、その内容に相応しい歌を見つける。
 - 第5回 絵本を読み、その内容を、音楽に合わせて表現する。
 - 第6回 リズム打ちの基本を学ぶ。
 - 第7回 打楽器を使って、リズム打ちの応用を考える。
 - 第8回 身近にある物を使って、簡単な打楽器を作る。
 - 第9回 グループで自由に曲を決め、打楽器を使って、発想豊かな演奏をする。
 - 第10回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 1
 - 第11回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 2
 - 第12回 身近にあるものを題材にして、簡単な作詞作曲をする。
 - 第13回 作詞作曲したものを発表し合う。
 - 第14回 実際の幼児の音楽活動(映像)を見る。
 - 第15回 歌や身体表現、打楽器などを使って、総合的な音楽を考える。
-

授業以外での学習方法

自然の移り変わりを心に留める。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅳ〈幼B〉

担当者 田中 淑子

テーマ

幼児内面を豊かにする音楽教育を考える。

獲得目標

音楽は、幼児の内面を豊かにするものである。きれいな声で歌う、音楽に合わせて体を動かす(律動)、歌や曲に合わせてリズム打ちをするなど、音楽を楽しませながら、内面を豊かにするにはどうすればよいかを考える。

授業の内容

幼児の年齢に応じた音楽活動を、周辺の環境などを考慮しながら相応しいものを探っていく。

内 容

- 第1回 音楽教育の意義について考える。
 - 第2回 季節に合わせた音楽を見つける。 1
 - 第3回 季節に合わせた音楽を見つける。 2
 - 第4回 季節に合った絵本を読み、その内容に相応しい歌を見つける。
 - 第5回 絵本を読み、その内容を、音楽に合わせて表現する。
 - 第6回 リズム打ちの基本を学ぶ。
 - 第7回 打楽器を使って、リズム打ちの応用を考える。
 - 第8回 身近にあるものを使って、簡単な打楽器を作る。
 - 第9回 グループで自由に曲を決め、打楽器を使って、発想豊かな演奏をする。
 - 第10回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 1
 - 第11回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 2
 - 第12回 身近にあるものを題材にして、簡単な作詞作曲をする。
 - 第13回 作詞作曲したものを発表し合う。
 - 第14回 実際の幼児の音楽活動(映像)を見る。
 - 第15回 歌や身体表現、打楽器などを使って、総合的な音楽を考える。
-

授業以外での学習方法

自然の移り変わりを心に留める。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 音楽演習Ⅳ〈幼C〉

担当者 田中 淑子

テーマ

幼児の内面を豊かにする音楽教育を考える。

獲得目標

音楽は、幼児の内面を豊かにするものである。きれいな声で歌う、音楽に合わせて体を動かす(律動)、歌や曲に合わせてリズム打ちをするなど、音楽を楽しませながら、内面を豊かにするにはどうすればよいかを考える。

授業の内容

幼児の年齢に応じた音楽活動を、周辺の環境等を考慮しながら相応しいものを探っていく。

内 容

- 第1回 音楽教育の意義について考える。
- 第2回 季節に合わせた音楽を見つける。 1
- 第3回 季節に合わせた音楽を見つける。 2
- 第4回 季節に合った絵本を読み、その内容に相応しい歌を見つける。
- 第5回 絵本を読み、その内容を、音楽に合わせて表現する。
- 第6回 リズム打ちの基本を学ぶ。
- 第7回 打楽器を使って、リズム打ちの応用を考える。
- 第8回 身近にあるものを使って、簡単な打楽器を作る。
- 第9回 グループで自由に曲を決め、打楽器を使って、発想豊かな演奏をする。
- 第10回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 1
- 第11回 周辺の自然環境を題材にした音楽を考える。 2
- 第12回 身近にあるものを題材にして、簡単な作詞作曲をする。
- 第13回 作詞作曲したものを発表し合う。
- 第14回 実際の幼児の音楽活動(映像)を見る。
- 第15回 歌や身体表現、打楽器などを使って、総合的な音楽を考える。

授業以外での学習方法

自然の移り変わりを心に留める。

教科書

必要に応じてコピーを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **音楽演習Ⅳ〈児〉**

担当者 佐野 仁美 阿部 真子

テーマ

小学校の音楽指導に必要な歌唱技能を養う。

獲得目標

(1)日本語を歌う上での基本的な発声法、発語法を習得する。(2)基本的な音楽理論を理解し、読譜力をつける。(3)小学校の共通教材を使用し、斉唱・重唱などの体験を通して、実際の授業で歌唱教育を実践する上での様々な方法を身につける。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション「歌うって何だろう」「語る」と“歌う”の違い、“日本語らしさ”の表現について考える。
- 第2回 基本的な発声法、日本語としての詩の朗読法の実践。新曲視唱(2度音程)
- 第3回 発声法の実践。小学校1・2年の共通教材の歌唱、新曲視唱(3度音程)
- 第4回 小学校1・2年共通教材の歌唱とその応用(輪唱など)。新曲視唱(4度音程)
- 第5回 小学校3年の共通教材の歌唱。新曲視唱(5度音程)
- 第6回 小学校3年共通教材の歌唱とその応用(身体表現と歌唱)。新曲視唱(8分音符)
- 第7回 小学校4年の共通教材の歌唱。新曲視唱(付点音符)
- 第8回 小学校4年共通教材の歌唱とその応用(重唱の導入)。新曲視唱(8分の6拍子)
- 第9回 小学校5年の共通教材の歌唱。新曲視唱(シンコペーション等のリズム)
- 第10回 小学校5年共通教材の歌唱とその応用(重唱・合唱)。新曲視唱(6度音程)
- 第11回 小学校6年の共通教材の歌唱。新曲視唱(短調)
- 第12回 小学校6年共通教材の歌唱とその応用(合唱)。新曲視唱
- 第13回 合唱への取り組み(グループ)。日本古謡について。新曲視唱
- 第14回 合唱発表(グループ)。歌唱共通教材の練習。新曲視唱
- 第15回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

教科書

初等科音楽教育法[改訂版]

著者： 初等科音楽教育研究会編

出版社： 音楽之友社

出版年： 2011年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (20)

小テスト (50)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 相談援助〈幼A〉

担当者 幸重 忠孝

テーマ

相談援助のための自己覚知と相談援助方法の理解

獲得目標

他者理解のための自己覚知と価値観が相談援助に与える影響を演習を通して学び福祉倫理・福祉哲学を高める。具体的な相談援助の方法と技法を学ぶ。

授業の内容

演習を通して相談援助の土台となる自己覚知と価値観を深める。ロールプレイなどを通して個別相談援助の技術を習得する。グループでの演習を通して集団援助技術を習得する。

内 容

- 第1回 相談援助の概要①(生育歴からの自己覚知と他者理解)
 - 第2回 相談援助の概要②(環境からの自己覚知と他者理解)
 - 第3回 相談援助の理論(心理アセスメント)
 - 第4回 集団を活用した相談援助①(自他の価値観の理解)
 - 第5回 集団を活用した相談援助②(連携・調整技術)
 - 第6回 個別相談援助の理解(ロールプレイ)
 - 第7回 相談記録の理解
 - 第8回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介された参考文献等を読み進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

のほほん研究室

<http://nohohonse.com/>

2013 Syllabus

科目名 相談援助〈幼B〉

担当者 幸重 忠孝

テーマ

相談援助のための自己覚知と相談援助方法の理解

獲得目標

他者理解のための自己覚知と価値観が相談援助に与える影響を演習を通して学び福祉倫理・福祉哲学を高める。具体的な相談援助の方法と技法を学ぶ。

授業の内容

演習を通して相談援助の土台となる自己覚知と価値観を深める。ロールプレイなどを通して個別相談援助の技術を習得する。グループでの演習を通して集団援助技術を習得する。

内 容

- 第1回 相談援助の概要①(生育歴からの自己覚知と他者理解)
 - 第2回 相談援助の概要②(環境からの自己覚知と他者理解)
 - 第3回 相談援助の理論(心理アセスメント)
 - 第4回 集団を活用した相談援助①(自他の価値観の理解)
 - 第5回 集団を活用した相談援助②(連携・調整技術)
 - 第6回 個別相談援助の理解(ロールプレイ)
 - 第7回 相談記録の理解
 - 第8回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介された参考文献等を読み進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

のほほん研究室

<http://nohohonse.com/>

2013 Syllabus

科目名 相談援助〈幼C〉

担当者 幸重 忠孝

テーマ

相談援助のための自己覚知と相談援助方法の理解

獲得目標

他者理解のための自己覚知と価値観が相談援助に与える影響を演習を通して学び福祉倫理・福祉哲学を高める。具体的な相談援助の方法と技法を学ぶ。

授業の内容

演習を通して相談援助の土台となる自己覚知と価値観を深める。ロールプレイなどを通して個別相談援助の技術を習得する。グループでの演習を通して集団援助技術を習得する。

内 容

- 第1回 相談援助の概要①(生育歴からの自己覚知と他者理解)
 - 第2回 相談援助の概要②(環境からの自己覚知と他者理解)
 - 第3回 相談援助の理論(心理アセスメント)
 - 第4回 集団を活用した相談援助①(自他の価値観の理解)
 - 第5回 集団を活用した相談援助②(連携・調整技術)
 - 第6回 個別相談援助の理解(ロールプレイ)
 - 第7回 相談記録の理解
 - 第8回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介された参考文献等を読み進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

のほほん研究室

<http://nohohonse.com/>

2013 Syllabus

科目名 保育相談支援〈幼A〉

担当者 大山 弘美

テーマ

保育相談支援の理論と実践

獲得目標

保護者支援の意義や基本を学び、保育相談支援の実際について内容や方法を理解する

授業の内容

保育相談支援の実際と保護者支援の方法を、具体的事例から学ぶ

内 容

- 第2回 保育相談支援の基本
 - 第3回 保育所における保育相談支援の実際
 - 第4回 保育相談支援の進め方と連携
 - 第5回 事例の概要と展開
 - 第6回 事例検討
 - 第7回 事例検討
 - 第8回 まとめと理解度調査
 - 第1回 保育と保育相談支援
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

<増補版> 保育者の保護者支援

著者： 柏女霊峰 橋本真紀

出版社： フレーベル館

出版年：

ISBN：

保育相談支援

著者： 小林育子

出版社： 萌文書林

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **保育相談支援 <幼B>**

担当者 大山 弘美

テーマ

保育相談支援の理論と実際

獲得目標

保育者支援の意義や基本を学び、保育相談支援の実際について内容や方法を理解する

授業の内容

保育相談支援の実際と保護者支援の方法を、具体的事例から学ぶ

内 容

- 第1回 保育と保育相談支援
 - 第2回 保育相談支援の基本
 - 第3回 保育所における保育相談支援の実際
 - 第4回 保育相談支援の進め方と連携
 - 第5回 事例の概要と展開
 - 第6回 事例検討
 - 第7回 事例検討
 - 第8回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

<増補版> 保育者の保護者支援

著者： 柏女霊峰 橋本真紀

出版社： フレーベル館

出版年：

ISBN：

保育相談支援

著者： 小林育子

出版社： 萌文書林

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育相談支援〈幼C〉

担当者 大山 弘美

テーマ

保育相談支援の理論と実践

獲得目標

保護者支援の意義や基本を学び、保育相談支援の実際について内容や方法を理解する

授業の内容

保育相談支援の実際と保護者支援の方法を、具体的事例から学ぶ

内 容

- 第1回 保育と保育相談支援
 - 第2回 保育相談支援の基本
 - 第3回 保育所における保育相談支援の実際
 - 第4回 保育相談支援の進め方と連携
 - 第5回 事例の概要と展開
 - 第6回 事例検討
 - 第7回 事例検討
 - 第8回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

<増補版> 保育者の保護者支援

著者： 柏女霊峰 橋本真紀

出版社： フレーベル館

出版年：

ISBN：

保育相談支援

著者： 小林育子

出版社： 萌文書林

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **児童家庭福祉**

担当者 森本 美絵

テーマ

「子どもの最善の利益」保障の観点から児童家庭福祉を理解する。

獲得目標

児童家庭福祉の現代的意義、歴史の変遷を学び、子どもの権利及び保育との関係性を理解する。また、児童福祉法等を体系的に学び、子どもを取り巻く環境の諸課題の理解を深める。

授業の内容

児童福祉の法体系、施設及び機関の機能等を学び、「子どもの最善の利益」を保障する児童家庭福祉を理解する。

内 容

- 第1回 児童福祉の制定
 - 第2回 児童福祉法の改正
 - 第3回 児童福祉の歴史－イギリス
 - 第4回 児童福祉の歴史－日本
 - 第5回 児童の権利
 - 第6回 児童福祉の法体系
 - 第7回 児童福祉施設と里親制度
 - 第8回 児童福祉の財政
 - 第9回 現代家族の特徴と児童養護問題
 - 第10回 ひとり親家庭の現状と課題
 - 第11回 現代家族と保育問題－子育ての社会化
 - 第12回 現代家族と保育問題－保育サービス
 - 第13回 障害児福祉の理念と課題
 - 第14回 児童福祉とソーシャルワーク
 - 第15回 まとめ、質疑応答
-

授業以外での学習方法

児童福祉の動向及び子ども・家庭に関わるニュース等に関心を持ち、メモを心がける。

教科書

児童福祉論

著者： 吉田明弘

出版社： 八千代出版

出版年： 2009

ISBN： 4-8429-1481-7

参考書

児童の世紀

著者： エレン・ケイ

出版社： 富山房百科文庫

出版年： 1979

ISBN： 4-572-00124

成績評価

a30102h110

試験 (0)
授業中課題 (30)
参加度 (10)

小テスト (60)
授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **こどもの保健 I - 2**

担当者 安藤 忠 齋藤 洋子

テーマ

子どもの疾病とその予防および適切な対応、子どもの生活と保育環境について学ぶ

獲得目標

1, 子どもに見られる症状の特徴を理解する 2, 症状を軽減するための対処方法を理解する 3, 子どもの健康生活が家庭・地域
その他関係機関との密接な連携の中で育まれることを理解する

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(齋藤)
 - 第2回 子どもに多い症状への対応(1)(齋藤)
 - 第3回 子どもに多い症状への対応(2)(齋藤)
 - 第4回 子どもに多い症状への対応(3)(齋藤)
 - 第5回 予防接種(齋藤)
 - 第6回 子どもの生活と環境(齋藤)
 - 第7回 子どもの心身症と精神疾患(安藤)
 - 第8回 子どもの心の健康とその課題Ⅰ(安藤)
 - 第9回 子どもの心の健康とその課題Ⅱ(安藤)
 - 第10回 子どもの心の健康とその課題Ⅲ(安藤)
 - 第11回 保育環境整備(齋藤)
 - 第12回 事故と安全Ⅰ(齋藤)
 - 第13回 事故と安全Ⅱ(齋藤)
 - 第14回 健康・安全の実施体制(齋藤)
 - 第15回 まとめ(齋藤)
-

授業以外での学習方法

教科書

図表で学ぶ子どもの保健

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a30102h310

授業の最後に毎回、振り返りを行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **こどもの食と栄養〈幼A〉**

担当者 小川 亜紀

テーマ

子どもの発育に応じた栄養と食生活

獲得目標

栄養の基礎知識と小児の発達を理解し、小児の栄養と食生活を学ぶ。

授業の内容

子どもが健やかに発育するために必要な栄養の基本的な知識を身につける。小児の発育に必要な栄養は成長とともに変化し、成人と異なる点も多い。各発達段階における栄養と食事を具体的に学ぶ。

内 容

- 第1回 小児栄養の意義
 - 第2回 小児の発育・発達と栄養(味覚・食物嗜好・食習慣の形成)
 - 第3回 食品と栄養に関する基礎知識1
 - 第4回 食品と栄養に関する基礎知識2
 - 第5回 食品と栄養に関する基礎知識3
 - 第6回 食品と栄養に関する基礎知識4
 - 第7回 妊娠・授乳期の食生活
 - 第8回 乳児期・離乳期の食生活
 - 第9回 学童期の食生活
 - 第10回 食育の基本
 - 第11回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
 - 第12回 食べる機能の発達、障害のある小児の食生活
 - 第13回 幼児期の食生活と疾病
 - 第14回 小児期の食生活と疾病
-

授業以外での学習方法

教科書

最新子どもの食と栄養～食生活の基礎を築くために～

著者: 飯塚美和子他

出版社: 学健書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (10)

授業中発表等 ()

a30102h510

3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **こどもの食と栄養〈幼B〉**

担当者 小川 亜紀

テーマ

子どもの発育に応じた栄養と食生活

獲得目標

栄養の基礎知識と小児の発達を理解し、小児の栄養と食生活を学ぶ。

授業の内容

子どもが健やかに発育するために必要な栄養の基本的な知識を身につける。小児の発育に必要な栄養は成長とともに変化し、成人と異なる点も多い。各発達段階における栄養と食事を具体的に学ぶ。

内 容

- 第1回 小児栄養の意義
 - 第2回 小児の発育・発達と栄養(味覚・食物嗜好・食習慣の形成)
 - 第3回 食品と栄養に関する基礎知識1
 - 第4回 食品と栄養に関する基礎知識2
 - 第5回 食品と栄養に関する基礎知識3
 - 第6回 食品と栄養に関する基礎知識4
 - 第7回 妊娠・授乳期の食生活
 - 第8回 乳児期・離乳期の食生活
 - 第9回 学童期の食生活
 - 第10回 食育の基本
 - 第11回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
 - 第12回 食べる機能の発達、障害のある小児の食生活
 - 第13回 幼児期の食生活と疾病
 - 第14回 小児期の食生活と疾病
-

授業以外での学習方法

教科書

最新子どもの食と栄養～食生活の基礎を築くために～

著者: 飯塚美和子他

出版社: 学健書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (10)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **こどもの食と栄養〈幼C〉**

担当者 小川 亜紀

テーマ

子どもの発育に応じた栄養と食生活

獲得目標

栄養の基礎知識と小児の発達を理解し、小児の栄養と食生活を学ぶ。

授業の内容

子どもが健やかに発育するために必要な栄養の基本的な知識を身につける。小児の発育に必要な栄養は成長とともに変化し、成人と異なる点も多い。各発達段階における栄養と食事を具体的に学ぶ。

内 容

- 第1回 小児栄養の意義
 - 第2回 小児の発育・発達と栄養(味覚・食物嗜好・食習慣の形成)
 - 第3回 食品と栄養に関する基礎知識1
 - 第4回 食品と栄養に関する基礎知識2
 - 第5回 食品と栄養に関する基礎知識3
 - 第6回 食品と栄養に関する基礎知識4
 - 第7回 妊娠・授乳期の食生活
 - 第8回 乳児期・離乳期の食生活
 - 第9回 学童期の食生活
 - 第10回 食育の基本
 - 第11回 家庭や児童福祉施設における食事と栄養
 - 第12回 食べる機能の発達、障害のある小児の食生活
 - 第13回 幼児期の食生活と疾病
 - 第14回 小児期の食生活と疾病
-

授業以外での学習方法

教科書

最新子どもの食と栄養～食生活の基礎を築くために～

著者: 飯塚美和子他

出版社: 学健書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (10)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **保育の心理学〈幼a〉**

担当者 平沼 博将

テーマ

保育実践と関連づけながら、子どもの発達過程や保育という営みを心理学的に理解する

獲得目標

子どもたちの発達過程や「保育」という営みを心理学的に理解することにより、人格形成における保育の役割について深く考える。また、実践記録等を教材とすることで、実際の保育実践への想像力を涵養しつつ、単なる知識としての学習ではなく、保育者として必要な実践的力量的形成をめざす。

授業の内容

胎生期から児童期の子どもたちの発達について学ぶとともに保育・教育実践の課題について考える。また、障害のある子どもたちの障害特性や発達の特徴についての学習を通して、保育における支援のあり方を考える。

内 容

- 第1回 「保育の心理学」で何を学ぶのか
- 第2回 胎生期の発達と胎児の発達保障
- 第3回 0歳児の発達と保育実践の課題(1)－乳児期前半－
- 第4回 0歳児の発達と保育実践の課題(2)－乳児期後半－
- 第5回 1歳児の発達と保育実践の課題
- 第6回 2歳児の発達と保育実践の課題
- 第7回 3歳児の発達と保育実践の課題
- 第8回 4歳児の発達と保育実践の課題
- 第9回 5歳児の発達と保育実践の課題
- 第10回 障害のある子どもの発達と保育における支援(1)－自閉症の理解と支援－
- 第11回 障害のある子どもの発達と保育における支援(2)－発達障害の理解と支援－
- 第12回 乳幼児の遊びと保育心理学(1)
- 第13回 乳幼児の遊びと保育心理学(2)
- 第14回 乳幼児の遊びと保育心理学(3)
- 第15回 まとめにかえて－保育者として発達し続けるために－
- 第16回 期末試験

授業以外での学習方法

授業中に紹介する資料や文献の中から興味を持ったものを読んでみる。

教科書

授業中にプリントを配布する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業中に適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

a30102h610

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **保育の心理学〈幼b〉**

担当者 平沼 博将

テーマ

保育実践と関連づけながら、子どもの発達過程や保育という営みを心理学的に理解する

獲得目標

子どもたちの発達過程や「保育」という営みを心理学的に理解することにより、人格形成における保育の役割について深く考える。また、実践記録等を教材とすることで、実際の保育実践への想像力を涵養しつつ、単なる知識としての学習ではなく、保育者として必要な実践的力量的形成をめざす。

授業の内容

胎生期から児童期の子どもたちの発達について学ぶとともに保育・教育実践の課題について考える。また、障害のある子どもたちの障害特性や発達的特徴についての学習を通して、保育における支援のあり方を考える。

内 容

- 第1回 「保育の心理学」で何を学ぶのか
 - 第2回 胎生期の発達と胎児の発達保障
 - 第3回 0歳児の発達と保育実践の課題(1)－乳児期前半－
 - 第4回 0歳児の発達と保育実践の課題(2)－乳児期後半－
 - 第5回 1歳児の発達と保育実践の課題
 - 第6回 2歳児の発達と保育実践の課題
 - 第7回 3歳児の発達と保育実践の課題
 - 第8回 4歳児の発達と保育実践の課題
 - 第9回 5歳児の発達と保育実践の課題
 - 第10回 障害のある子どもの発達と保育における支援(1)－自閉症の理解と支援－
 - 第11回 障害のある子どもの発達と保育における支援(2)－発達障害の理解と支援－
 - 第12回 乳幼児の遊びと保育心理学(1)
 - 第13回 乳幼児の遊びと保育心理学(2)
 - 第14回 乳幼児の遊びと保育心理学(3)
 - 第15回 まとめにかえて－保育者として発達し続けるために－
 - 第16回 期末試験
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介する資料や文献の中から興味を持ったものを読んでみる。

教科書

授業中にプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (60)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **乳児保育〈幼A〉**

担当者 加用 美代子・山口 陽子

テーマ

現代社会における乳児保育の位置づけを理解し、乳児保育の内容と方法を学ぶ。

獲得目標

0歳から2歳児クラスまでの子どもの発達を理解し、それを踏まえた保育の内容と方法を理解する。また、乳児保育の歴史と現状を知り、今後の課題を検討する視点を養う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 乳児保育とは何か
 - 第3回 乳児保育の歩みと現状
 - 第4回 乳児保育の実際
 - 第5回 乳児の発達を学ぶ①
 - 第6回 乳児の発達を学ぶ②
 - 第7回 乳児保育をめぐる論点と課題①
 - 第8回 乳児保育をめぐる論点と課題②
 - 第9回 乳児の基本的生活と豊かな遊びをつくりだす視点
 - 第10回 0歳児の生活と遊び①
 - 第11回 0歳児の生活と遊び②
 - 第12回 1歳児の生活と遊び①
 - 第13回 1歳児の生活と遊び②
 - 第14回 2歳児の生活と遊び①
 - 第15回 2歳児の生活と遊び②
-

授業以外での学習方法

現場ボランティアや体験学習の機会に、子どもの発達や保育者の関わり方、保育環境等を良く観察し、できるだけ記録をとっておくこと。また、乳児期の育児に関わるさまざまな情報に目を配り、吸収しておくこと。

教科書

見る・考える・創りだす

著者： CHS子育て研究所 編

出版社： 萌文書林

出版年： 2009

ISBN：

参考書

育ちあう乳幼児心理学

著者： 心理科学研究会 編

出版社： 有斐閣

出版年： 2000

ISBN：

成績評価

a30102h710

試験 (0)
授業中課題 (50)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **乳児保育〈幼B〉**

担当者 加用 美代子・山口 陽子

テーマ

現代社会における乳児保育の位置づけを理解し、乳児保育の内容と方法を学ぶ。

獲得目標

0歳から2歳児クラスまでの子どもの発達を理解し、それを踏まえた保育の内容と方法を理解する。また、乳児保育の歴史と現状を知り、今後の課題を検討する視点を養う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 乳児保育とは何か
 - 第3回 乳児保育の歩みと現状
 - 第4回 乳児保育の実際
 - 第5回 乳児の発達を学ぶ①
 - 第6回 乳児の発達を学ぶ②
 - 第7回 乳児保育をめぐる論点と課題①
 - 第8回 乳児保育をめぐる論点と課題②
 - 第9回 乳児の基本的生活と豊かな遊びをつくりだす視点
 - 第10回 0歳児の生活と遊び①
 - 第11回 0歳児の生活と遊び②
 - 第12回 1歳児の生活と遊び①
 - 第13回 1歳児の生活と遊び②
 - 第14回 2歳児の生活と遊び①
 - 第15回 2歳児の生活と遊び②
-

授業以外での学習方法

現場ボランティアや体験学習の機会に、子どもの発達や保育者の関わり方、保育環境等を良く観察し、できるだけ記録をとっておくこと。また、乳児期の育児に関わるさまざまな情報に目を配り、吸収しておくこと。

教科書

見る・考える・創りだす

著者： CHS子育て研究所 編

出版社： 萌文書林

出版年： 2009

ISBN：

参考書

育ちあう乳幼児心理学

著者： 心理科学研究会 編

出版社： 有斐閣

出版年： 2000

ISBN：

成績評価

a30102h712

試験 (0)
授業中課題 (50)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **乳児保育〈幼C〉**

担当者 加用 美代子・山口 陽子

テーマ

現代社会における乳児保育の位置づけを理解し、乳児保育の内容と方法を学ぶ。

獲得目標

0歳から2歳児クラスまでの子どもの発達を理解し、それを踏まえた保育の内容と方法を理解する。また、乳児保育の歴史と現状を知り、今後の課題を検討する視点を養う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 乳児保育とは何か
 - 第3回 乳児保育の歩みと現状
 - 第4回 乳児保育の実際
 - 第5回 乳児の発達を学ぶ①
 - 第6回 乳児の発達を学ぶ②
 - 第7回 乳児保育をめぐる論点と課題①
 - 第8回 乳児保育をめぐる論点と課題②
 - 第9回 乳児の基本的生活と豊かな遊びをつくりだす視点
 - 第10回 0歳児の生活と遊び①
 - 第11回 0歳児の生活と遊び②
 - 第12回 1歳児の生活と遊び①
 - 第13回 1歳児の生活と遊び②
 - 第14回 2歳児の生活と遊び①
 - 第15回 2歳児の生活と遊び②
-

授業以外での学習方法

現場ボランティアや体験学習の機会に、子どもの発達や保育者の関わり方、保育環境等を良く観察し、できるだけ記録をとっておくこと。また、乳児期の育児に関わるさまざまな情報に目を配り、吸収しておくこと。

教科書

見る・考える・創りだす

著者： CHS子育て研究所 編

出版社： 萌文書林

出版年： 2009

ISBN：

参考書

育ちあう乳幼児心理学

著者： 心理科学研究会 編

出版社： 有斐閣

出版年： 2000

ISBN：

成績評価

a30102h713

試験 (0)
授業中課題 (50)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習 I <a>

担当者 倉持 祐二

テーマ

小学生の学びと授業を考える基本文献を読む

獲得目標

小学生の学びの特徴や小学校の授業のあり方を考えるための基本文献を読み進める。その中で、自分の研究課題を見つけ出し、研究課題を深める資料を収集し、わかったことをまとめて発表する。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション 好きな授業・嫌いな授業とは
- 第2回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む①
- 第3回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む②
- 第4回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む③
- 第5回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む④
- 第6回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む⑤
- 第7回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む⑥
- 第8回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む⑦
- 第9回 小学生の学びと授業を考える基本文献を読む⑧
- 第10回 学外授業／戦争遺跡を訪ねる
- 第11回 小学校の平和教育実践を考える①
- 第12回 小学校の平和教育実践を考える②
- 第13回 小学校の平和教育実践を考える③
- 第14回 小学校の平和教育実践を考える④
- 第15回 小学校の平和教育実践を考える⑤

授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけるために、大学図書館を利用し、『教育』『生活教育』『歴史地理教育』『社会科教育』『どの子も伸びる』『授業づくりネットワーク』などの教育関係の雑誌を定期的に読む。

教科書

時代を切り拓いた教師たち―戦後教育実践からのメッセージ

著者： 田中耕治

出版社： 日本標準

出版年： 2005年

ISBN:

参考書

歴史地理教育

著者：

出版社： 歴史教育者協議会

出版年：

ISBN:

社会科教育

著者:

出版社: 明治図書

出版年:

ISBN:

教育

著者:

出版社: 国土社

出版年:

ISBN:

生活教育

著者:

出版社: 日本生活教育連盟

出版年:

ISBN:

どの子も伸びる

著者:

出版社: 部落問題研究所

出版年:

ISBN:

授業づくりネットワーク

著者:

出版社: 学事出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育演習 I **

担当者 口野 隆史

テーマ

子どもの運動発達、スポーツ・運動文化及び体育指導について基礎文献を通して学ぶ

獲得目標

子どもの運動発達、スポーツ・運動文化、または幼児や児童の運動遊びや体育指導に関する保育や教育の実践記録を読み、各自が関心のあるテーマを探し出す。そのテーマに沿って調査したことを報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、自らの問題意識を深める。

授業の内容

幼児や児童の運動遊びや体育指導にかかわる保育・教育実践上の課題をつかむために、子どもの運動発達、スポーツ・運動文化、体育指導に関する基本文献を読み進める。その中で、自分の研究課題を見つけ出し、さらにその研究課題を深めるための資料を収集し、わかったことをまとめて発表を行っていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション。運動遊びの指導や体育科教育学の研究対象と領域、研究の方法論についての理解。自らの課題意識(興味関心)について。
- 第2回 運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する基本文献を読む①
- 第3回 運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する基本文献を読む②
- 第4回 運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する基本文献を読む③
- 第5回 運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する基本文献を読む④
- 第6回 運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する基本文献を読む⑤
- 第7回 運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する基本文献を読む⑥
- 第8回 ここまでのまとめと各人の課題発表
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第15回 前期の振り返りと夏期休暇及び後期の課題・まとめ(学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある)

授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけ出すために、本学や他大学、その他の図書館を利用して、子どもの運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する論文や実践(『たのしい体育・スポーツ』『体育科教育』『教育』『保育問題研究』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載)を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

a301030112

授業中、まず他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習 I <c>

担当者 小寺 隆幸

テーマ

算数教育、平和教育、総合学習などを中心に、幅広く教育のあり方について考える。

獲得目標

幼稚園、小学校の各段階の子どもたちの数量認識を探り、算数教育のあり方、内容、方法について理解を深める。また平和をテーマとする総合学習の実践を調べ、あらたな教材や内容を構想する。各自が関心のあるテーマを考え、そのテーマにそって調べたことを報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、深めていく。

授業の内容

内 容

- 第1回 問題意識の交流
 - 第2回 基本文献を読む①
 - 第3回 基本文献を読む②
 - 第4回 基本文献を読む③
 - 第5回 基本文献を読む④
 - 第6回 基本文献を読む⑤
 - 第7回 個別発表と質疑・応答・討議①
 - 第8回 個別発表と質疑・応答・討議②
 - 第9回 個別発表と質疑・応答・討議③
 - 第10回 個別発表と質疑・応答・討議④
 - 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
 - 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
 - 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
 - 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

学外授業等を行うことがある 自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習 I <d>

担当者 三上 周治

テーマ

子どもと音楽の関わりについて考える。

獲得目標

1)授業や実習、ボランティア活動を通して抱いた興味・関心を具体化して、研究テーマを設定する。2)文献を検索し、文献を読み込む力をつける。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション: 自己紹介、ゼミ選択理由の報告、ゼミ運営についての説明
- 第2回 保育や教育の場における子どもと音楽の関わり①
- 第3回 保育や教育の場における子どもと音楽との関わり②
- 第4回 基本文献の輪読と発表①
- 第5回 基本文献の輪読と発表②
- 第6回 基本文献の輪読と発表③
- 第7回 基本文献の輪読と発表④
- 第8回 基本文献の輪読と発表⑤
- 第9回 基本文献の輪読と発表⑥
- 第10回 基本文献の輪読と発表⑦
- 第11回 研究テーマ設定に向けての計画
- 第12回 関心を持つ分野および文献についての報告①
- 第13回 関心を持つ分野および文献についての報告②
- 第14回 関心を持つ分野および文献についての報告③
- 第15回 まとめ: 夏季休暇中の課題と実習に向けての抱負

授業以外での学習方法

自ら進んで、関心を持つ分野の書籍や新聞・雑誌の記事を読む。

教科書

授業中に指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301030114

試験 ()
授業中課題 (30%)
参加度 (20%)

小テスト ()
授業中発表等 (50%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習 I <e>

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

子どもの発達と教育をめぐる諸問題

獲得目標

文献等の読解と検討を通じて、研究「テーマ」を設定する基礎能力の向上を目指す。また、文献や資料を読み取り、分析する力量の向上を目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 本演習の概要説明、及び本演習が目指すもの
 - 第2回 文献の講読と検討
 - 第3回 文献の講読と検討
 - 第4回 文献の講読と検討
 - 第5回 文献の講読と検討
 - 第6回 文献の講読と検討
 - 第7回 文献の講読と検討
 - 第8回 文献の講読と検討
 - 第9回 関心領域についてのレジュメ作成と発表
 - 第10回 関心領域についてのレジュメ作成と発表
 - 第11回 関心領域についてのレジュメ作成と発表
 - 第12回 関心領域についての文献リストの作成と発表
 - 第13回 関心領域についての文献リストの作成と発表
 - 第14回 関心領域についての文献リストの作成と発表
 - 第15回 まとめと夏季課題について
-

授業以外での学習方法

図書館や自宅での、テーマ(関心領域)に沿った文献等の収集、ノート作成は必須である。適当な時期での「ゼミ合宿」を検討する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習 I <f>

担当者 池田 修

テーマ

国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献に学ぶ

獲得目標

国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献、または幼児や児童のことばに関する認識を育てる保育実践や教育実践の記録を読み、各自が関心のあるテーマを探し出す。テーマにそって調査したことを報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、問題意識を深める。

授業の内容

幼児や児童ことばの形成にかかわる教育実践上の課題と、学級づくりに関する実践上の課題をつかむために、ことばの発達と教育に関する基本文献、学級づくりのための基本文献を読み進める。その中で、自分の研究課題を見つけ出し、研究課題を深める資料を収集し、わかったことをまとめて発表する。受講生の学ぼうとする領域の分布、または関心によって授業の進め方は調整することがある。また、学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある。

内 容

- 第1回 国語科教育学、学校経営研究の研究対象と領域、研究の方法論について
- 第2回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む①
- 第3回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む②
- 第4回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む③
- 第5回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む④
- 第6回 国語科の授業づくりと学級づくりに関する基本文献を読む⑤、個別発表の計画づくり
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑧

授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、国語科の授業づくりと学級づくりに関する論文や実践(『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載)を読む。教育研究会に積極的に参加する。

教科書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301030116

試験 ()
授業中課題 (25)
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 (25)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習 I <g>

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護のもとにある児童に関わる諸課題を基本文献から学ぶ。

獲得目標

基本となる文献を読み、各自が関心のあるテーマを探す。

授業の内容

基本文献を読み、発表する。

内 容

- 第1回 研究方法について学ぶー1
 - 第2回 研究方法について学ぶー2
 - 第3回 基本文献1の講読の分担報告ー1
 - 第4回 基本文献1の講読の分担報告ー2
 - 第5回 基本文献1の講読の分担報告ー3
 - 第6回 基本文献1の講読の分担報告ー4
 - 第7回 質疑・応答・討議
 - 第8回 基本文献2の講読の分担報告ー1
 - 第9回 基本文献2の講読の分担報告ー2
 - 第10回 基本文献2の講読の分担報告ー3
 - 第11回 基本文献2の講読の分担報告ー4
 - 第12回 質疑・応答・討議
 - 第13回 基本文献3の講読の分担報告ー1
 - 第14回 基本文献3の講読の分担報告ー2
 - 第15回 基本文献3の講読の分担報告ー3
-

授業以外での学習方法

基本文献のほかに、各自の関心あるテーマに関して、大学図書館等を活用して、できるだけ多くの文献を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習 I <h>

担当者 三山 岳

テーマ

“気になる子ども”の保育と教育の課題に関する基本的知識を学ぶ

獲得目標

障害のある子や運動・精神面を含めて発達が遅れが心配な子、虐待を受けている子など、いわゆる“気になる子”と言われる子どもの保育や教育活動の進め方や、そのなかで現れる子どもの様子や行動などについての理解を深め、そこで見られる課題や問題について考えます。また障害や特別な支援ニーズについての考え方を学び、保育や教育との関連を踏まえながら、各自の問題意識を掘り下げることを目指します。

授業の内容

個別の発表を中心に進めます。各自の関心にそった発表テーマを決めてもらい、レジュメを作成・発表し、ゼミ生全体でグループ討論をします。

内 容

- 第1回 ガイダンス(自己紹介とレジュメの作り方について)
 - 第2回 “気になる子”に関する基本的文献を読む①
 - 第3回 “気になる子”に関する基本的文献を読む②
 - 第4回 “気になる子”に関する基本的文献を読む③
 - 第5回 “気になる子”に関する基本的文献を読む④
 - 第6回 これまでの学習内容の整理と個別発表の計画づくり
 - 第7回 個別発表と全体での討論①
 - 第8回 個別発表と全体での討論②
 - 第9回 個別発表と全体での討論③
 - 第10回 個別発表と全体での討論④
 - 第11回 個別発表と全体での討論⑤
 - 第12回 個別発表と全体での討論⑥
 - 第13回 個別発表と全体での討論⑦
 - 第14回 個別発表と全体での討論⑧
 - 第15回 前期のまとめ
-

授業以外での学習方法

基本的文献に関連して、各自の興味のある資料や文献を探して読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習 I <i>

担当者 神谷 栄司

テーマ

大学生活後半期の課題(卒業論文、保育・教育実習、就職活動)の展望を見据える。

獲得目標

(1) 終えたばかりの保育・教育実習から学んだことを報告しあい、相互に学び合う。(2) 進路希望について交流し、自分の方向性を確かめる。(3) 卒業論文の課題意識について交流を図る。(4) 大学生としての交流を図る。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 保育実習またはボランティア実践から学んだことの報告(1)
 - 第3回 保育実習またはボランティア実践から学んだことの報告(2)
 - 第4回 保育実習またはボランティア実践から学んだことの報告(3)
 - 第5回 保育実習またはボランティア実践から学んだことの報告(4)
 - 第6回 保育実習またはボランティア実践から学んだことの報告(5)
 - 第7回 保育実習またはボランティア実践から学んだことの報告(6)
 - 第8回 卒業論文の現時点での課題意識と進路希望(1)
 - 第9回 卒業論文の現時点での課題意識と進路希望(2)
 - 第10回 卒業論文の現時点での課題意識と進路希望(3)
 - 第11回 卒業論文の現時点での課題意識と進路希望(4)
 - 第12回 卒業論文の現時点での課題意識と進路希望(5)
 - 第13回 卒業論文の現時点での課題意識と進路希望(6)
 - 第14回 3回生前期のゼミを振り返る
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

報告の準備を行う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習 I <j>

担当者 八木 英二

テーマ

ゼミでの発表と討論

獲得目標

「教育演習 I」は3～4回生の2年間のゼミ活動の出発点として、各自が自身のテーマを見つけ、ゼミのなかで発表を行い、討論できる力を身につける。レジュメの初歩的な書き方についても学ぶ。

授業の内容

各自が自身のみつけたテーマにそって、発表準備のための文献を収集し、集めた資料の要点と自身の感想を整理し発表を行う。ゼミに積極的に参加し、他人の発表に耳を傾け、意見の交流を活発に行う。

内 容

- 第1回 レジュメの書き方について
 - 第2回 各自の発表と全体討論1
 - 第3回 各自の発表と全体討論2
 - 第4回 各自の発表と全体討論3
 - 第5回 各自の発表と全体討論4
 - 第6回 各自の発表と全体討論5
 - 第7回 各自の発表と全体討論6
 - 第8回 各自の発表と全体討論7
 - 第9回 各自の発表と全体討論8
 - 第10回 各自の発表と全体討論9
 - 第11回 各自の発表と全体討論10
 - 第12回 各自の発表と全体討論11
 - 第13回 各自の発表と全体討論12
 - 第14回 各自の発表と全体討論13
 - 第15回 各自の発表と全体討論14
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 表現教育論 <a>

担当者 上中 良子

テーマ

綴方や絵画表現を通して、表現活動保障と教育実践のかかわり方を学ぶ。

獲得目標

○(Education through Art)と(Education for Art)の違いを考察することを通して子どもの表現の持つ意味を多角的な視点から探り、その教育的意義について学ぶ。○子どもの表現活動に関する多様な実践や研究方法を学び取るとともに、子どもが書いた綴方や描いた絵などを分析することを通してその教育的意義について理解した上で、実践への見通しをつかむ。

授業の内容

○文献学習と共に、具体的な教育現場における表現活動及び表現作品や子どもから学ぶために、取材研究も行う。○子どもの表現作品を分析する中で、重要なものを掴み取り、実践に向かう力を身につける。

内 容

- 第1回 <Education through Art>と<Education for Art>の違い①
- 第2回 <Education through Art>と<Education for Art>の違い②
- 第3回 表現と技術について考える①
- 第4回 表現と技術について考える②
- 第5回 良い絵・良い文章とは？①
- 第6回 良い絵・良い文章とは？②
- 第7回 実践現場における表現活動・子どもの表現から学ぶ①
- 第8回 実践現場における表現活動・子どもの表現から学ぶ②
- 第9回 実践現場における表現活動・子どもの表現から学ぶ③
- 第10回 実践現場における表現活動・子どもの表現から学ぶ④
- 第11回 実践現場における表現活動・子どもの表現から学ぶ⑤
- 第12回 実践現場における表現活動・子どもの表現から学ぶ⑥
- 第13回 実践現場における表現活動・子どもの表現から学ぶ⑦
- 第14回 実践現場における表現活動・子どもの表現から学ぶ⑧
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

○教育全体と絡めながら表現活動を考える上で根源的な捉え方ができるよう、日常的に教育に関わる多様な文献や主張に意識的・意欲的に触れるため、研究会等に主体的に参加する。○意識的に保育・小学校教育現場での表現活動に触れる機会を持つようにするために、現場に意識的に出向く。

教科書

担当者によるハンドアウト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

生活画の起源

著者: 栗岡英之助

出版社: 明治図書

出版年: 1990

ISBN: 418709004

生活綴方と教師の仕事

著者： 村山士郎

出版社： 桐書房

出版年： 2004

ISBN： 487645648

新しい綴方教室

著者： 国分一太郎

出版社： 新評論

出版年： 昭和39年

ISBN：

山びこ学校

著者： 無着成恭

出版社： 百合出版

出版年： 1990

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（30）

授業中発表等（40）

参加度（30）

全回出席・内容への深い参加が前提となる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合学習論**

担当者 小寺 隆幸

テーマ

小学校における総合的な学習の意義を理解し、優れた実践から学ぶ。

獲得目標

環境や平和の問題を考えるための基本的な知識を身につけ、総合的な学習を構想し教材をつくる力を育てる。

授業の内容

内 容

- 第1回 総合学習の意義と系譜
 - 第2回 地域の川を考える総合学習
 - 第3回 地域の自然を考える総合学習
 - 第4回 生き物を通して考える総合学習
 - 第5回 食を考える総合学習
 - 第6回 福祉を考える総合学習
 - 第7回 異文化国際理解の総合学習
 - 第8回 平和を考える総合学習
 - 第9回 沖縄を考える総合学習
 - 第10回 東日本大震災と防災教育を考える総合
 - 第11回 福島原発事故を考える総合学習
 - 第12回 小学校の先生のお話を伺う
 - 第13回 グループ発表1
 - 第14回 グループ発表2
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

* 社会の様々な問題に関心を持ち、新聞や本を読む。そして将来教師となったときにその問題をどのように子どもたちに伝え考えさせていけばよいのかという問題意識を持つ。

教科書

小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **保育実習指導 I - 2 <a>**

担当者 谷口 敦子・森本 美絵・一柳 敦子・太田 みつ枝・大山 弘美・杉江 由紀子・中崎 あつ子・山口 陽子・吉田 裕子

テーマ

居住型児童福祉施設実習の充実にむけて

獲得目標

実習の意義・目的と内容についての基本を理解し、必要な技術を身につける。また、実習を振り返り自らの課題を明確にし、今後の学習にいかす。

授業の内容

実習の意義・目的と内容についての基本を理解し、実習体験が充実したものになるように準備する。また、実習後においては、自らの実習を振り返り、課題を明確にする。

内 容

- 第1回 保育実習のすすめ方について 施設実習に必要な帳票類を理解する
- 第2回 保育実習I-2の内容を知る
- 第3回 記録の意義と書き方を学ぶ
- 第4回 実習目標と10日間の実習目的の設定の仕方を学ぶ
- 第5回 外部講師(施設職員)の講話から実習の実際を学ぶ
- 第6回 実習まで、実習中、実習後の手続き、レポートの書き方
- 第7回 実習体験を振り返る
- 第8回 実習体験の共有化をはかる

授業以外での学習方法

児童福祉施設等の学習支援や行事手伝いなどのボランティアをする。

教科書

参考書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

a30103a050

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **保育実習指導 I -2 **

担当者 谷口 敦子・森本 美絵・一柳 敦子・太田 みつ枝・大山 弘美・杉江 由紀子・中崎 あつ子・山口 陽子・吉田 裕子

テーマ

居住型児童福祉施設実習の充実にむけて

獲得目標

実習の意義・目的と内容についての基本を理解し、必要な技術を身につける。また、実習を振り返り自らの課題を明確にし、今後の学習にいかす。

授業の内容

実習の意義・目的と内容についての基本を理解し、実習体験が充実したものになるように準備する。また、実習後においては、自らの実習を振り返り、課題を明確にする。

内 容

- 第1回 保育実習のすすめ方について 施設実習に必要な帳票類を理解する
- 第2回 保育実習I-2の内容を知る
- 第3回 記録の意義と書き方を学ぶ
- 第4回 実習目標と10日間の実習目的の設定の仕方を学ぶ
- 第5回 外部講師(施設職員)の講話から実習の実際を学ぶ
- 第6回 実習まで、実習中、実習後の手続き、レポートの書き方
- 第7回 実習体験を振り返る
- 第8回 実習体験の共有化をはかる

授業以外での学習方法

児童福祉施設等の学習支援や行事手伝いなどのボランティアをする。

教科書

参考書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

a30103a052

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <a>

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

テーマの絞り込みと関連文献・資料の収集を通じて、卒論作成の基盤を築く。

授業の内容

内 容

- 第13回 卒論進捗報告(本論・調査内容)
 - 第14回 卒論進捗報告(本論・調査内容)
 - 第15回 まとめと夏期課題
 - 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方
 - 第3回 卒論進捗報告(構想)
 - 第4回 卒論進捗報告(構想)
 - 第5回 卒論進捗報告(構想)
 - 第6回 卒論進捗報告(構想)
 - 第7回 卒論進捗報告(先行研究)
 - 第8回 卒論進捗報告(先行研究)
 - 第9回 卒論進捗報告(先行研究)
 - 第10回 卒論進捗報告(先行研究)
 - 第11回 卒論進捗報告(本論・調査内容)
 - 第12回 卒論進捗報告(本論・調査内容)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ

担当者 加用 美代子

テーマ

卒業研究を進める

獲得目標

研究テーマを決定し、課題に見合った研究方法を身につけつつ研究を進める。

授業の内容

内 容

- 第1回 ゼミ活動の計画と確認
 - 第2回 文献研究の取り組み方について
 - 第3回 各自の研究テーマと関連研究の報告①
 - 第4回 各自の研究テーマと関連研究の報告②
 - 第5回 各自の研究テーマと関連研究の報告③
 - 第6回 各自の研究テーマと関連研究の報告④
 - 第7回 各自の研究進捗状況の報告と討論①
 - 第8回 各自の研究進捗状況の報告と討論②
 - 第9回 各自の研究進捗状況の報告と討論③
 - 第10回 各自の研究進捗状況の報告と討論④
 - 第11回 各自の研究進捗状況の報告と討論⑤
 - 第12回 中間報告
 - 第13回 中間報告
 - 第14回 中間報告
 - 第15回 今後の作業について
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

授業中に適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <c>

担当者 小寺 隆幸

テーマ

算数教育、平和教育、総合学習等を中心に幅広く教育のあり方について考える。

獲得目標

算数教育や総合学習のあり方、内容、方法などについて自分の問題意識を醸成し、それを深く追求する。それぞれの報告をもとに、質疑・応答・討議を重ねながら、深めていく。

授業の内容

内 容

- 第1回 問題意識の交流
 - 第2回 文献を読む①
 - 第3回 文献を読む②
 - 第4回 文献を読む③
 - 第5回 文献を読む④
 - 第6回 文献を読む⑤
 - 第7回 個別発表と質疑・応答・討議①
 - 第8回 個別発表と質疑・応答・討議②
 - 第9回 個別発表と質疑・応答・討議③
 - 第10回 個別発表と質疑・応答・討議④
 - 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
 - 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
 - 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
 - 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

学外授業等を行うことがある 自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <d>

担当者 佐野 仁美

テーマ

卒業論文作成に向けて研究を深める。

獲得目標

1)各自が関心を持つテーマについて主体的に論文をまとめることにより、文献・資料収集の仕方を学び、論理的構成力および考察力を養う。2)研究発表および討論を通して、プレゼンテーション力を身につける。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション:春休みの課題の報告、ゼミ運営についての説明
 - 第2回 論文作成方法の説明
 - 第3回 研究目的と方法の明確化①
 - 第4回 研究目的と方法の明確化②
 - 第5回 研究目的と方法の明確化③
 - 第6回 途中経過発表および討論①
 - 第7回 途中経過発表および討論②
 - 第8回 途中経過発表および討論③
 - 第9回 途中経過発表および討論④
 - 第10回 途中経過発表および討論⑤
 - 第11回 途中経過発表および討論⑥
 - 第12回 途中経過発表および討論⑦
 - 第13回 途中経過発表および討論⑧
 - 第14回 途中経過発表および討論⑨
 - 第15回 まとめ:夏季休暇中の課題
-

授業以外での学習方法

各自のテーマに沿って文献や資料を収集し、読み込む。

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <e>

担当者 八木 英二

テーマ

獲得目標

各自の卒論予定テーマを明確にし、ゼミ発表をふまえて討論を行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 卒論の書き方
 - 第2回 卒論テーマの各自発表と討論1
 - 第3回 卒論テーマの各自発表と討論2
 - 第4回 卒論テーマの各自発表と討論3
 - 第5回 卒論テーマの各自発表と討論4
 - 第6回 卒論テーマの各自発表と討論5
 - 第7回 卒論テーマの各自発表と討論6
 - 第8回 卒論テーマの各自発表と討論7
 - 第9回 卒論テーマの各自発表と討論8
 - 第10回 卒論テーマの各自発表と討論9
 - 第11回 卒論テーマの各自発表と討論10
 - 第12回 卒論テーマの各自発表と討論11
 - 第13回 卒論テーマの各自発表と討論12
 - 第14回 卒論テーマの各自発表と討論13
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <f>

担当者 池田 修

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を通して卒業論文を書き進めることができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方。テーマの絞り方。討論・講評し、最終テーマを決定させる。文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導。
 - 第3回 卒論進捗報告(序論)
 - 第4回 卒論進捗報告(序論)
 - 第5回 卒論進捗報告(序論)
 - 第6回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第7回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第8回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第9回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第10回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第11回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第12回 卒論中間発表会 1
 - 第13回 卒論中間発表会 2
 - 第14回 卒論中間発表会 3
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

卒業研究のテーマに関して調査研究を進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (25)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <g>

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護のもとにある児童に関わる諸課題を基本文献から学ぶ。

獲得目標

論文の章立てと各章の概要を書き上げる。

授業の内容

内 容

- 第1回 各自の課題の検討
 - 第2回 文献1の講読の分担報告-1
 - 第3回 文献1の講読の分担報告-2
 - 第4回 文献1の講読の分担報告-3
 - 第5回 文献1の講読の分担報告-4
 - 第6回 質疑・応答・討議
 - 第7回 文献2の講読の分担報告-1
 - 第8回 文献2の講読の分担報告-2
 - 第9回 文献2の講読の分担報告-3
 - 第10回 文献2の講読の分担報告-4
 - 第11回 質疑・応答・討議
 - 第12回 文献3の講読の分担報告-1
 - 第13回 基本文献3の講読の分担報告-2
 - 第14回 文献3の講読の分担報告-3
 - 第15回 文献3の講読の分担報告-4
-

授業以外での学習方法

大学図書館等を活用して、できるだけ多くの本を読み要約する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <h>

担当者 三山 岳

テーマ

卒業論文の検討と準備

獲得目標

関心のある研究テーマを見つけ、そのテーマにそった研究内容とその方法を学び、今後の研究方針を決定して準備を進める

授業の内容

卒業論文のテーマを決定し、テーマに関連した発表を行ない、質疑応答のなかで専門的な知識と考察を深めていきます。

内 容

- 第1回 ガイダンス(今後の進め方について)
 - 第2回 各自が春休みに集めた資料の紹介①
 - 第3回 各自が春休みに集めた資料の紹介②
 - 第4回 研究テーマの発表と検討①
 - 第5回 研究テーマの発表と検討②
 - 第6回 研究テーマの発表と検討③
 - 第7回 研究テーマの発表と検討④
 - 第8回 研究テーマの発表と検討⑤
 - 第9回 ゼミ合宿の内容検討
 - 第10回 研究進行状況の報告と討論①
 - 第11回 研究進行状況の報告と討論②
 - 第12回 研究進行状況の報告と討論③
 - 第13回 研究進行状況の報告と討論④
 - 第14回 研究進行状況の報告と討論⑤
 - 第15回 前期のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <i>

担当者 上中 良子

テーマ

自らの問題意識に基づいて研究する

獲得目標

自らのテーマに沿って研究視点を深め、内容を主張のあるものにまとめて[オリジナルな視点]で発表を行う。討議を重ねる中で各自の研究の到達点と課題を明らかにし、研究活動第三段階に入る。○テーマの絞り方、その他につき討議・講評し、最終テーマを決定させる。○文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導 ○順次、各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導 ○中間発表後、執筆要領、留意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

授業の内容

集団討議による学び合いを通して、深い論文作成に向かう。

内 容

- 第1回 「教育演習Ⅰ」「教育演習Ⅱ」の研究成果の交流&各自の研究計画発表
 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬
 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑭

授業以外での学習方法

(学外授業・教育研究会参加など…やゼミ合宿を、適宜、行うことがある) ○自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、ものごとの本質に関する論文(実績のある大学のそれらに関わる論文集)や実践(教育研究会での報告集など)を読む。○恒常的に学びを追究するべく意識する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅲ <j>

担当者 神谷 栄司

テーマ

卒業論文作成の準備

獲得目標

(1) 各自の卒業論文の課題意識を確かなものにしつつ、テーマと章構成をつくりあげる。(2) 卒業後の進路にかかわって、就職活動について交流を図る。(3) 上記に限らず、必要な諸問題での交流を行う。

授業の内容

基本的に、各人の発表にもとづいて討論を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション——今期の課題について
 - 第2回 論文執筆の方法(1)
 - 第3回 論文執筆の方法(2)
 - 第4回 就職活動の交流(1)
 - 第5回 卒業論文の課題意識の発表(1)
 - 第6回 卒業論文の課題意識の発表(2)
 - 第7回 卒業論文の課題意識の発表(3)
 - 第8回 卒業論文の課題意識の発表(4)
 - 第9回 就職活動の交流(2)
 - 第10回 卒業論文中間発表(1)
 - 第11回 卒業論文中間発表(2)
 - 第12回 卒業論文中間発表(3)
 - 第13回 卒業論文中間発表(4)
 - 第14回 卒業論文中間発表(5)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

卒業論文のテーマ、章構成の作成にむけて、各自、関連する文献を読み、思索する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (英) <a>

担当者 浅井 雅志

テーマ

大学の学習スタイルを身につける

獲得目標

自分を取り巻く状況から「問題」を発見し、それについて調べて考え、その内容を発表し、議論する能力の伸長

授業の内容

高校までの学習スタイルと大学のそれとはかなり異なる。そのスタイルの最大の特徴は、与えられた知識を理解し、覚えるのではなく、自ら問題を発見し、それについて調べ、そして議論することである。それを実現するために、まず前期では、テキストから「問題」を提供してもらい、それについて議論してみよう。

内 容

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 『日本の英語教育』①
 - 第3回 『日本の英語教育』②
 - 第4回 『日本の英語教育』③
 - 第5回 『日本の英語教育』④
 - 第6回 『日本の英語教育』⑤
 - 第7回 『日本の英語教育』⑥
 - 第8回 『日本の英語教育』⑦
 - 第9回 『日本の英語教育』⑧
 - 第10回 『日本の英語教育』⑨
 - 第11回 『日本の英語教育』⑩
 - 第12回 『日本の英語教育』⑪
 - 第13回 ビデオ「英語が会社にやってきた」
 - 第14回 未定
 - 第15回 総括、ペーパー提出
-

授業以外での学習方法

教科書

日本の英語教育

著者： 山田雄一郎

出版社： 岩波書店

出版年： 2005

ISBN: 4-00-430943-3

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミ I (英)

担当者 西村 友美

テーマ

アカデミック・スキルの習得

獲得目標

高校とは違う大学での学びとはなにかを知り、少しずつ自分の学びをつくりあげられるようにすること。(1) 大学で学ぶために必要なアカデミック・スキルを身につける。(2) 英語を学ぶ意味を考え、その強化を図る。(3) 英語コミュニケーション学科で学ぶ専門領域の基礎的文献を読む。(4) 平常の授業を通して、自ら考え、自ら行動する習慣を身につける。

授業の内容

基本的には、課題の reading articles や図書を読んで授業で発表・討論すること、レポートの書き方を訓練することが中心になる。それら一連の活動から、自ら考え、自ら行動する力を養う。

内 容

- 第1回 大学で英語を学ぶということを考える
- 第2回 受講生の発表と全員での討論(1回目)
- 第3回 受講生の発表と全員での討論(1回目)
- 第4回 受講生の発表と全員での討論(1回目)
- 第5回 受講生の発表と全員での討論(1回目)
- 第6回 中間のまとめ、レポート第1ドラフトの提出
- 第7回 受講生の発表と全員での討論(2回目)、レポート第1ドラフトの返却
- 第8回 受講生の発表と全員での討論(2回目)、レポート第2ドラフトの提出
- 第9回 受講生の発表と全員での討論(2回目)、レポート第2ドラフトの返却
- 第10回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第11回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第1ドラフトの提出
- 第12回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第1ドラフトの返却
- 第13回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第2ドラフトの提出
- 第14回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第2ドラフトの返却
- 第15回 ファイナル・レポートの提出とまとめ

授業以外での学習方法

発表のための reading や発表練習をする。英語力強化のために graded readers を読む。自主勉強会に参加する。

教科書

国際共通語としての英語(講談社現代新書)[新書]

著者: 鳥飼 玖美子

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 Reading & Vocabulary Building I <a>

担当者 山崎 清水

テーマ

リーディング演習

獲得目標

平易な文章で書かれた英文を読みながら読解力と語彙力を身につけることを目指す。

授業の内容

「外国人気質」について書かれたエッセイを読んで、読解力と語彙力の向上を図る。

内 容

- 第1回 The Americans
 - 第2回 The English
 - 第3回 The Italians
 - 第4回 The French
 - 第5回 プリント教材
 - 第6回 The Germans
 - 第7回 The Chinese
 - 第8回 The Greeks
 - 第9回 プリント教材
 - 第10回 The Russians
 - 第11回 The Aussies
 - 第12回 The Spanish
 - 第13回 The Kiwis
 - 第14回 The Koreans
 - 第15回 プリント教材
-

授業以外での学習方法

予習すること。詳細は授業で説明する。

教科書

People Are Funny

著者: Basil Lechatt

出版社: マクミラン ランゲージハウス

出版年: 2001

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building I **

担当者 石塚 浩之

テーマ

A Pre-intermediate Reading and Vocabulary Course on Contemporary Topics

獲得目標

(1) To introduce students to a variety of contemporary topics and their English vocabulary (2) To ensure complete confidence with a basic 1,000 word vocabulary (3) To develop pre-intermediate reading and vocabulary skills and knowledge This class will be taught in English.

授業の内容

In the first semester we will look at a number of short texts with very different content. This is to equip students with the English vocabulary necessary to communicate in contemporary situations, and to reinforce grammatical structures learned in high school.

内 容

- 第1回 Textbook: Unit 1
 - 第2回 Textbook: Unit 2 Vocabulary: 1~200
 - 第3回 Graded Readers
 - 第4回 Textbook: Unit 3
 - 第5回 Textbook: Unit 4 Vocabulary: 201~400
 - 第6回 Graded Readers
 - 第7回 Textbook: Unit 5
 - 第8回 Textbook: Unit 6 Vocabulary: 401~600
 - 第9回 Graded Readers
 - 第10回 Textbook: Unit 7
 - 第11回 Textbook: Unit 8 Vocabulary: 601~800
 - 第12回 Graded Readers
 - 第13回 Textbook: Unit 9
 - 第14回 Textbook: Unit 10 Vocabulary: 1~1000
 - 第15回 Final discussion and evaluation
-

授業以外での学習方法

Students will be encouraged to keep up their self-study programme using the graded readers kept in the English Department Common Room and Language Centre.

教科書

Reading Pass 2

著者: Andrew E. Bennett

出版社: NAN7UN-DO

出版年: 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a30201a312

Students will have regular reading homework with questions on the text. These will be handed in and go towards the final grade. There will also be regular vocabulary quizzes; and a final quiz on the basic 1,000 word list.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Listening I <a>**

担当者 西村 友美

テーマ

英語のリズムとイントネーションの体得

獲得目標

特に日本人が苦手とする英語特有のリズムとイントネーションに気づき、慣れることをめざす。

授業の内容

テキストを中心に、身近なトピックスとバラエティーにとんだアクティビティーでリスニングの基礎づくりをする。また、特に日本人が苦手とする英語特有のリズムとイントネーションに気づき、慣れることを目指す。中間・終了テスト以外に、小テストをする。

内 容

- 第1回 授業の説明、リズムの基本
 - 第2回 自己紹介、英語のリズム
 - 第3回 要望の仕方
 - 第4回 旅行の計画、ビデオ—日本人のリスニングの弱点(1)
 - 第5回 公共交通機関の使い方、ビデオ—日本人のリスニングの弱点(2)
 - 第6回 レストランでの注文、ビデオのまとめ—レポート提出
 - 第7回 中間テストとまとめ
 - 第8回 強く発音される音(1)
 - 第9回 道を尋ねる、強く発音される音(2)
 - 第10回 ショッピング、弱く撥音される音(1)
 - 第11回 紛失物、弱く撥音される音(2)
 - 第12回 病院で
 - 第13回 経験を伝える
 - 第14回 旅慣れる
 - 第15回 終了テストとまとめ
-

授業以外での学習方法

アウトプット(授業で説明するシャドーイングなど)を日課的に行う。自分の気に入ったマテリアル(映画や音楽)を選んでどんどん聞く。

教科書

Adventures Abroad

著者: Dale Fuller, Kevin Cleary

出版社: MACMILLAN LANGUAGEHOUSE

出版年: 2007

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Listening I **

担当者 山崎 清水

テーマ

リスニング能力を体得

獲得目標

リスニング能力を体得することで英語で日常会話ができるようになることを目指す。

授業の内容

様々な形態の英語を聴いて数多くのリスニングの演習を行う。

内 容

- 第1回 Getting in Touch with an Old Friend
 - 第2回 It's Good to See You Again!
 - 第3回 Sightseeing in Kansai
 - 第4回 Off to San Francisco
 - 第5回 After a Long Flight
 - 第6回 A Warm Welcome
 - 第7回 Out and About in San Francisco
 - 第8回 A Visit to the University of California
 - 第9回 A Cafe Lunch Date
 - 第10回 Beautiful and Historic Monterey
 - 第11回 A Hilly Downtown Workout
 - 第12回 Wild and Wonderful Yosemite
 - 第13回 Buying Gifts for Friends and Family
 - 第14回 San Francisco Gourmet
 - 第15回 Until We Meet Again
-

授業以外での学習方法

日頃から積極的に英語を聴くように心がけること。

教科書

Take a Trip Around San Francisco!

著者： 行時 潔/Nicholas Bovee/長田 順子

出版社： 松柏社

出版年： 2013

ISBN: 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Listening II <a>**

担当者 野口 博代

テーマ

Listening to CNN Student News

獲得目標

アメリカのニュース番組を聞き、英語の音とリズムに慣れリスニングの力を強化する事を目標とする。

授業の内容

アメリカのニュース番組を教材に用い様々なリスニング演習を行う。また、ニュースを読んだり、シャドーイングなどを取り入れたスピーキング練習も行う。

内 容

- 第1回 Introduction, Unit 1 Soccer Brain Study
 - 第2回 Unit 2 The World's Population
 - 第3回 Unit 3 Quake Concerns
 - 第4回 Unit 4 Fat Tax
 - 第5回 Unit 5 Global Sea Level
 - 第6回 Unit 6 Light Pollution
 - 第7回 Unit 7 Leaning Tower?
 - 第8回 Unit 8 New Arcade Trend
 - 第9回 Unit 9 Smell of Success
 - 第10回 Unit 10 Mine Detection
 - 第11回 Unit 11 Power of the Consumer
 - 第12回 Unit 12 Shoe Frenzy
 - 第13回 Unit 13 Multigenerational Homes
 - 第14回 Unit 14 Speaking Code
 - 第15回 Unit 15 Inspirational Teen Scholar
-

授業以外での学習方法

Web等を利用して英語のニュースを聞く。

教科書

CNN Student News

著者: Fyuhiko Sekido 他

出版社: Asahi Press

出版年: 2013

ISBN: 9.78426E+12

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Listening II **

担当者 日高 周平

テーマ

基礎的なリスニング能力の向上。

獲得目標

日常生活で必要とされるリスニング能力の基礎を養う。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義概要・成績評価の方法・TOEICに関する説明
 - 第2回 Unit 1 Travel
 - 第3回 Unit 2 Entertainment
 - 第4回 Unit 3 Socializing and Food
 - 第5回 Unit 4 Sports and Health
 - 第6回 Unit 5 Purchasing
 - 第7回 Unit 6 Housing and Accommodations
 - 第8回 Unit 7 Office Work 1
 - 第9回 Unit 8 Office Work 2
 - 第10回 Unit 9 Employment
 - 第11回 Unit 10 Lecture and Presentations
 - 第12回 Unit 11 Business Affairs 1
 - 第13回 Unit 12 Business Affairs 2
 - 第14回 TOEIC系対策問題（プリントにて対応）
 - 第15回 総合復習、理解度確認テスト
-

授業以外での学習方法

第一回講義で配布するTOEIC対策用の単語リストを暗記する事

教科書

Fast Pass for the TOEIC TEST

著者： Ritsuko Uenaka, Seiko Korechika

出版社： Cengage Learning

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ ）

参加度（ 60 ）

小テスト（ 40 ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus**科目名 Writing & Academic Presentation I <a>**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマDevelop confidence in writing and presenting in English

獲得目標

This course will aim to develop basic academic presentation and writing skills. Students will learn how to present a topic using effective physical, visual and verbal communication, and how to write academic paragraphs and short essays.

授業の内容

The first-semester course will focus on presentation skills, and paragraphs will be developed based on each presentation. From the final presentation, students will develop a 400-word essay. Students will be expected to attend regularly, participate actively and submit regular writing and presentation assignments. This class will be held in a computer lab. This class will be taught in English.

内 容

- 第1回 Posture and eye contact
 - 第2回 Present an informative speech about a city
 - 第3回 Using gestures
 - 第4回 Present a layout speech
 - 第5回 Using voice inflection
 - 第6回 Present a demonstration speech
 - 第7回 Making effective visuals
 - 第8回 Explaining visuals
 - 第9回 Present a country comparison speech
 - 第10回 Presentation structure: introduction
 - 第11回 Presentation structure: body
 - 第12回 Presentation structure: conclusion
 - 第13回 Developing a short essay
 - 第14回 Final presentations (1)
 - 第15回 Final presentations (2)
-

授業以外での学習方法

教科書

Speaking of Speech (New Edition)

著者: D. Harrington & C. LeBeau

出版社: Macmillan

出版年: 2009

ISBN: 9.78023E+12

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (30)
参加度 (40)

小テスト (0)
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation I **

担当者 栗田 梨津子

テーマ

アカデミック・ライティングおよびプレゼンテーション入門

獲得目標

英語でのライティングおよびプレゼンテーションの基本技能を習得し、自分の考えを論理的に英語で表現できるようになること。

授業の内容

プレゼンテーションのための英文を作成する中で、レポートまたは論文作成の基本となるパラグラフの書き方や形式上のルール、読み手または聞き手を意識した効果的な伝え方について学んでいきます。

内 容

- 第1回 授業概要の説明 プレゼンテーション①(Giving a self-introduction)の説明
- 第2回 英文原稿の作り方について (Brainstorming/Organizing)
- 第3回 英文原稿の作成
- 第4回 プレゼンテーションの仕方について (Presentation tips)
- 第5回 プレゼンテーション①個人発表
- 第6回 プレゼンテーション②(A memorable experience)の説明 英文原稿の作り方について(Brainstorming/Organizing)
- 第7回 英文原稿の作成
- 第8回 プレゼンテーションの仕方について (Presentation tips)
- 第9回 プレゼンテーション②個人発表
- 第10回 プレゼンテーション③(Show me how/Movie magic)の説明 英文原稿の作り方について(Brainstorming/Organizing)
- 第11回 英文原稿の作成
- 第12回 英文原稿の作成 プレゼンテーションの仕方について(Power Point)
- 第13回 プレゼンテーションの仕方について (Presentation tips)
- 第14回 プレゼンテーション③グループ発表
- 第15回 プレゼンテーション③グループ発表 全体のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

Present Yourself 1: Experiences

著者: Steven Gershon

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

a30201a912

授業中課題として、英文エッセイ(400 words)を提出してもらいます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation I <c>**

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Developing lower intermediate level writing and presentation skills

獲得目標

(1) To reinforce English writing skills learned at high school (2) To develop basic presentation skills on a variety of topics (3) To produce a final, formally-typed essay of over 400 words This class will be taught in English.

授業の内容

The written work and presentations that the students will make, one being a PowerPoint presentation, will build into a portfolio that will be of use during the students' SAP, GFP or GIP programmes.

内 容

- 第1回 Unit One: Writing Preparation; A new club member (i)
 - 第2回 Unit One: Writing Preparation; A new club member (ii)
 - 第3回 Unit One: Student Presentations
 - 第4回 Unit Two: Writing Preparation; A favorite place (i)
 - 第5回 Unit Two: Writing Preparation; A favorite place (ii)
 - 第6回 Unit Two: Student Presentations
 - 第7回 Unit Three: Writing Preparation; A prized possession (i)
 - 第8回 Unit Three: Writing Preparation; A prized possession (ii)
 - 第9回 Unit Three: Student Presentations
 - 第10回 Unit Four: Writing Preparation; A memorable experience (i)
 - 第11回 Unit Four: Writing Preparation; A memorable experience (ii)
 - 第12回 Unit Four: Student Presentations
 - 第13回 Unit Five: Writing Preparation; Show me how (i)
 - 第14回 Unit Five: Writing Preparation; Show me how (ii)
 - 第15回 Unit Five: Student PowerPoint Presentations
-

授業以外での学習方法

Practice using the extensive DVD and CD materials for the textbook Recording and listening to your own speeches
Reading famous speeches in collected anthologies Listening to English speeches on TV

教科書

Present Yourself 1: Experiences

著者: Steven Gersho

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a30201a913

All students are required to produce a final essay of over 400 words, and make three class presentations.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **International Business English I <Z>**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

A course in practical and communicative business English

獲得目標

This course will aim to help you develop the necessary confidence and skills for communicating in everyday business situations, as well as an understanding of global business cultures. The course will also help you practice for the TOIEC test.

授業の内容

Students in this course will be required to attend regularly and interact positively with classmates. There will be weekly homework assignments. This class will be taught in English.

内 容

- 第1回 Meeting people and talking about a company
 - 第2回 Telephoning; leaving and taking messages
 - 第3回 Talking about schedules and making appointments
 - 第4回 Talking about company performance and presenting information
 - 第5回 Review I
 - 第6回 Talking about products and services
 - 第7回 Talking about business decisions
 - 第8回 Making, receiving and dealing with complaints
 - 第9回 Checking progress; giving an update
 - 第10回 Review II
 - 第11回 Talking about future prospects and giving financial advice
 - 第12回 Explaining job requirements and company regulations
 - 第13回 Negotiating and discussing in meetings
 - 第14回 Giving speeches and presentations
 - 第15回 Review III
-

授業以外での学習方法

Homework will involve doing online exercises.

教科書

Business Venture 2 (3rd Ed.) student's book

著者: Roger Barnard & Jeff Cady

出版社: Oxford University Press

出版年: 2009

ISBN: 194578186

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ〈a〉

担当者 浅井 雅志

テーマ

SAP,GFP成功のために

獲得目標

SAP,GFPを成功させるための諸能力の獲得

授業の内容

SAP,GFPという体験をより豊かなものにするための能力、とりわけリーディング、リスニング、ノート・テイキング、スピーキング能力の向上を目指します。また、アメリカの地理と歴史、文化の諸相、外国で暮らすとはどういうことか、どんなことに留意すればいいのか、異文化体験から何を学ぶべきか、といった話もする予定。具体的には、リーディングとリスニングおよびノート・テイキングを隔週で行う。リスニングとその後の質疑応答は英語で行う。また、学期の最後に、各自テーマを決めて準備し、5分程度のスピーチを行う。

内 容

- 第1回 Introduction
- 第2回 Listening 1
- 第3回 Reading 1
- 第4回 Listening 2
- 第5回 Reading 2
- 第6回 Listening 3
- 第7回 Reading 3
- 第8回 Listening 4
- 第9回 Reading 4
- 第10回 Listening 5
- 第11回 Reading 5
- 第12回 Listening 6
- 第13回 Reading 6; Speech 1
- 第14回 Speech 2
- 第15回 Speech 3 ; 総括

授業以外での学習方法

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。英語圏で作られた映画を観たりや音楽を聴いたりするときも、その文化的背景を考えてみよう。

教科書

News Across the Universe

著者： 二ノ宮寛子、二ノ宮靖史

出版社： 松柏社

出版年：

ISBN：

参考書

参考文献一覧を配布する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a30202a150

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ

担当者 西村 友美

テーマ

充実した留学生活のために

獲得目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の内容

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨンー留学とは、多文化理解プログラムの目標
- 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
- 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
- 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
- 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
- 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
- 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
- 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ
- 第9回 ディスカッション①ー気候や環境について
- 第10回 ディスカッション②ー食べ物や食生活についてー
- 第11回 ディスカッション③ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー
- 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定)
- 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定)
- 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

Many Voices: English for Global Interaction

著者： Onaka, Sakamoto

出版社： Kinseido

出版年： 2003

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ <c>

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

充実した留学生活のために

獲得目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の内容

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

内 容

- 第1回 イントロダクションー留学とは、多文化理解プログラムの目標
- 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
- 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
- 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
- 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
- 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
- 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
- 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ
- 第9回 ディスカッション①ー気候や環境について
- 第10回 ディスカッション②ー食べ物や食生活についてー
- 第11回 ディスカッション③ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー
- 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定)
- 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定)
- 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

Students should read books explaining aspects of Japanese culture in English. They should also follow the news about the country of their choice, and use the Internet to find out about the local environment where they will be studying. This class will be

教科書

American Homestay Album

著者： 島田拓司

出版社： 成美堂

出版年： 2006

ISBN： 4-7919-4528-X

参考書

The Exchange Student Survival Kit

著者： Nobuyuki Yamauchi

出版社： 英宝社

出版年： 2008

ISBN： 978-4-269-14011

Gateway to Canada

著者: V. Sauve

出版社: Oxford

出版年:

ISBN: 978019-5443356

成績評価

試験 (20)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

The constant use of English will be a major factor in the evaluation of the students in this class.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building III <a>**

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Intermediate level reading

獲得目標

(1) To develop intermediate English reading skills in preparation for studying or living abroad (2) To give students the confidence to read extensively in English (3) To consolidate a basic 3,200 word vocabulary

授業の内容

In this class we will read a text that is directly related to studying or living in a foreign country, and the problems and issues that people face when abroad. The text will be supplemented with a number of short homework texts and worksheets all related to Japanese culture and society. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction to Part I
 - 第2回 Intercultural Learning
 - 第3回 Cultural Baggage
 - 第4回 What You Need to Know about Culture
 - 第5回 Stereotypes
 - 第6回 Identity Crisis
 - 第7回 Cross-cultural Challenges for the Host Family
 - 第8回 Introduction to Part II
 - 第9回 Deepening the Relationship
 - 第10回 Culture Shock
 - 第11回 Dimensions of Culture Shock
 - 第12回 Culture Learning (1)
 - 第13回 Culture Learning (2)
 - 第14回 Readjustment
 - 第15回 Final discussion and assessment
-

授業以外での学習方法

Extensive reading in English, including graded readers.

教科書

The Exchange Student Survival Kit

著者: Nobuyuki Yamauchi

出版社: 英宝社

出版年: 2008

ISBN: 9784269-14011-0

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a30202a210

Students will be required to achieve 60% on a common 3,200 word (Kilgaraff) vocabulary test.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 Reading & Vocabulary Building Ⅲ

担当者 西村 友美

テーマ

リーディング・ストラテジーと語彙力の強化

獲得目標

身近な話題を題材にして、リーディング・ストラテジーを用いながら総合的に英文読解力と語彙力を高める。

授業の内容

予習・復習が基本となる。毎回授業で教科書を1ユニットずつめ、ワード・テストも小テストとして毎回行う。

内 容

- 第1回 unit 1
 - 第2回 unit 2
 - 第3回 unit 3
 - 第4回 unit 4
 - 第5回 unit 5
 - 第6回 unit 6
 - 第7回 unit 7
 - 第8回 unit 8
 - 第9回 unit 9
 - 第10回 unit 10
 - 第11回 unit 11
 - 第12回 unit 12
 - 第13回 unit 13
 - 第14回 unit 14
 - 第15回 unit 15
-

授業以外での学習方法

教科書

Focus on Reading!

著者: Richard Carpenter、関口智子

出版社: 松柏社

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Listening V <a>**

担当者 浅井 雅志

テーマ

SAP, GFP成功のために

獲得目標

SAP, GFPを成功させるための諸能力の獲得

授業の内容

SAP, GFPという体験をより豊かなものにするための能力、とりわけリーディング、リスニング、ノート・テイキング、スピーキング能力の向上を目指します。また、アメリカの地理と歴史、文化の諸相、外国で暮らすとはどういうことか、どんなことに留意すればいいのか、異文化体験から何を学ぶべきか、といった話もする予定。具体的には、リーディングとリスニングおよびノート・テイキングを隔週で行う。リスニングとその後の質疑応答は英語で行う。また、学期の最後に、各自テーマを決めて準備し、5分程度のスピーチを行う。

内 容

- 第1回 Introduction
 - 第2回 Listening 1
 - 第3回 Reading 1
 - 第4回 Listening 2
 - 第5回 Reading 2
 - 第6回 Listening 3
 - 第7回 Reading 3
 - 第8回 Listening 4
 - 第9回 Reading 4
 - 第10回 Listening 5
 - 第11回 Reading 5
 - 第12回 Listening 6
 - 第13回 Reading 6; Speech 1
 - 第14回 Speech 2
 - 第15回 Speech 3; 総括
-

授業以外での学習方法

共同研究室Cに設置してあるGraded readerをなるべくたくさん読みなさい。それ以外にも、たとえばNetAcademyという自学自習教材などを使って各自で英語の力を付ける。

教科書

social issues in a contemporary world

著者:

出版社: 成美堂

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 ()

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Listening V **

担当者 金山 敬

テーマ

英語が聴き取れない状態から少しずつ英語耳をつくる。

獲得目標

初級のレベルから段階的に中級のレベルに達することが出来るように学習する。

授業の内容

短い身近な話題の会話文から、ニュースやレクチャーのリスニングまで一つのユニットで聴いていながら、徐々に長さや内容を高度なものに挑戦する。

内 容

- 第1回 Unit 1
 - 第2回 Unit 2
 - 第3回 Unit 3
 - 第4回 Unit 4
 - 第5回 Unit 1～4 Review
 - 第6回 Unit 5
 - 第7回 Unit 6
 - 第8回 Unit 7
 - 第9回 Unit 8
 - 第10回 Unit 5～8 Review
 - 第11回 Unit 9
 - 第12回 Unit 10
 - 第13回 Unit 11
 - 第14回 Unit 12
 - 第15回 Unit 9～12 Review
-

授業以外での学習方法

教科書

Listening Lounge

著者: Steve Ziolkowski

出版社: 成美堂

出版年: 2011年

ISBN: 978-4-7919-3091

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Listening VI <a>**

担当者 野口 博代

テーマ

English Listening for Communication!

獲得目標

様々な場面において必要な情報が正確に聞きとれ、また自分の考えを英語で伝える事が出来るようになる事を目標にします。

授業の内容

主に日米間の文化の違いをトピックにとりあげた会話、インタビューなど様々な形式のリスニングタスクを行い、情報を正確にとらえ英語で自分の意見をまとめる練習をします。

内 容

- 第1回 Introduction / weddings
 - 第2回 student jobs / TV stations and programs
 - 第3回 common superstitions / movies and movie theaters
 - 第4回 living at college / national holidays
 - 第5回 Review
 - 第6回 being a volunteer / living with your parents after college
 - 第7回 breakfast habits / spectacular sports
 - 第8回 bible and religion / romance and dating
 - 第9回 Christmas / family time
 - 第10回 Review
 - 第11回 discipline at school / shopping on the Net
 - 第12回 high school prom / newspapers
 - 第13回 inappropriate language
 - 第14回 Review
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

教科書

Cubic Listening: Closing The Culture Gap

著者: Timothy Kiggell / Kevin Cleary

出版社: Macmillan Languagehouse

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Listening VI **

担当者 日高 周平

テーマ

リスニング能力の向上。

獲得目標

日常生活/海外の大学で必要となるリスニング能力の向上をめざす。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義概要、成績評価・TOEICに関する説明
 - 第2回 Unit 1 Studying Abroad
 - 第3回 Unit 2 International Conference
 - 第4回 Unit 3 Holidays
 - 第5回 Unit 4 Leisure
 - 第6回 Unit 5 Restaurant
 - 第7回 Unit 6 Online Shopping
 - 第8回 Unit 7 Global Warming
 - 第9回 Unit 8 Web Sites
 - 第10回 Unit 9 Workplace
 - 第11回 Unit 10 Nursing Care
 - 第12回 Unit 11 Global Trading
 - 第13回 Unit 12 Eco-Friendly Economy
 - 第14回 Unit 13 Business Trips
 - 第15回 Unit 14 金融、総合復習、理解度確認テスト
-

授業以外での学習方法

第一回講義で配布する単語リストを暗記する事。

教科書

Perfect Practice for the TOEIC Test. TOEIC

著者: Takayuki Ishii 他著

出版社: Seibido

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (60)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation III <a>**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Researching and writing academic essays and developing academic presentations

獲得目標

This course will aim to develop the skills, strategies and procedures necessary for writing longer essays and making longer academic presentations.

授業の内容

The course text is a writing text, and the main focus of the course will be on developing a research essay. Presentations will be developed from writing assignments. The course will be conducted in a computer lab. This class will be taught in English.

内 容

- 第4回 Taking notes
 - 第5回 Plagiarism
 - 第6回 Citing sources
 - 第7回 Outlining
 - 第8回 Levels of information
 - 第9回 Topic sentences and paragraphs
 - 第10回 Supporting ideas and details
 - 第11回 Introductions and conclusions
 - 第12回 Peer feedback
 - 第13回 Proofreading
 - 第14回 Final presentations (I)
 - 第15回 Final presentations (II)
 - 第1回 Review of presentation techniques
 - 第2回 Selecting and narrowing a topic
 - 第3回 Researching
-

授業以外での学習方法

教科書

Developing Academic Writing Skills – Second Edition

著者: R. Najar & L. Riley

出版社: MacMillan Language House

出版年: 2013

ISBN: 9.78478E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (45)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (35)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 Writing & Academic Presentation III

担当者 金山 敬

テーマ

知識を提供するプレゼンテーション

獲得目標

自分の英語で情報を発信できる能力を養成する。

授業の内容

身近なトピックについての語彙や表現に関する基礎演習からスタートして、チャート的に英語のプレゼンテーションをイメージしながらばらぐらふ・ライティングを行うことにより、原稿作成とプレゼンテーションの準備を並行して進める。

内 容

- 第1回 Chapter 1: Section 1-1
 - 第2回 Section 1-2
 - 第3回 Section 2-1
 - 第4回 Section 2-2
 - 第5回 Section 3-1
 - 第6回 Section 3-2
 - 第7回 Section 4-1
 - 第8回 Section 4-2
 - 第9回 Section 5-1
 - 第10回 Section 5-2
 - 第11回 Section 6-1
 - 第12回 Section 6-2
 - 第13回 Chapter 3: Section 1-1
 - 第14回 Section 1-2
 - 第15回 Summary
-

授業以外での学習方法

教科書

Writing for resentation in English

著者: 杉田由仁

出版社: 南雲堂

出版年: 2012年

ISBN: 978-4-523-17731

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation III <c>**

担当者 芝原 妙子

テーマ

This class is designed to increase students' English writing skills and gain practical skills to give presentations in English.

獲得目標

The overall objectives of this class is not only to enhance writing skills made in the first and second courses, but also to encourage students to write more sophisticated forms of academic paper and develop public speaking skills, including eye contact, facial expression, voice projection. Students are expected to master basic Power Point skills.

授業の内容

Students are responsible for completing the readings for the day they are assigned. To enhance vocabularies and writing skills, students will have vocabulary quizzes (based on the Kilgarriff word list, no. 2001-2860). Students are required to make three oral presentations and turn in three typed papers (two short essays (350 words for each) and the final essay (1200 words). This class will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction: Unit 1
 - 第2回 Unit 2
 - 第3回 Unit 3
 - 第4回 Unit 4
 - 第5回 Presentation 1
 - 第6回 Unit 5
 - 第7回 Unit 6
 - 第8回 Unit 7 & Presentation 2-1
 - 第9回 Unit 8 & Presentation 2-2
 - 第10回 Unit 9
 - 第11回 Unit 10
 - 第12回 Unit 11
 - 第13回 Unit 12
 - 第14回 Presentation 3-1
 - 第15回 Presentation 3-2
-

授業以外での学習方法

Students should read newspapers, magazines, and journals.

教科書

Writing Facilitator

著者: Shizuka Tetsuhito

出版社: Shohakusha

出版年: 2012

ISBN: 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

a30202a513

Students are expected to participate in discussion, present their ideas, and turn in the papers on the scheduled days. Unexpected late papers are penalized. For example, a B paper would be recorded as a C. Without prior arrangements, there will be no make-ups for the presentations or the quizzes.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語学**

担当者 久保田 美佳

テーマ

What is English language? What are its characteristics?

獲得目標

①To learn the basics of English linguistics ②To deepen understanding of the history, grammar, and social significance of the English language.

授業の内容

English is said to be the native language of 350 million people, an official language of 400 million people, and a second language (of various proficiency levels) of 1 billion people. The class is designed to study the English language from a variety of perspectives in order to answer the questions, "What is English language?" and "What are its characteristics?" This class is mostly conducted in English.

内 容

- 第1回 English linguistics: Overview English as a global language
 - 第2回 History of English (Old English)
 - 第3回 History of English (Old English ~ Middle English)
 - 第4回 History of English (Middle English ~ Modern English)
 - 第5回 American English and Other English Varieties.
 - 第6回 Pidgin English and Creole English
 - 第7回 Future of English, English in Asia
 - 第8回 English Phonetics
 - 第9回 English Vocabulary
 - 第10回 English Grammar①
 - 第11回 English Grammar②
 - 第12回 Social Dialects of English (Class-based Dialects, Black English, etc.)
 - 第13回 Polite and Humble Forms of English
 - 第14回 English and Culture
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

Students are required to read the designated sections of the textbook BEFORE coming to each class. (i.e. Students are expected to do some reading outside the class.) Also, since the lectures are mostly given in English, students are advised to study the r

教科書

Twenty-Six Short Essays on English

著者: 清水克正、Naoyuki Akaso, William Herlofsy

出版社: 英宝社

出版年: 2013

ISBN: 4-269-41018-9

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

参加度 (0)

小テスト (80)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英米文学論 I

担当者 杉山 泰

テーマ

イギリス小説に描かれた「余った女たち」(Odd Women)の生きる道 — 結婚かガヴァネス(女家庭教師)か

獲得目標

イギリス小説は18世紀に始まる。デフォーの『ロビンソン・クルーソー』(1719年)、スウィフトの『ガリバー旅行記』(1726年)、リチャードソンの『パミラ』(1840年)で、確立されていく。植民地時代はまさしく「男の時代」で植民地に向かう船長もプラント・ハンターも牧師もすべて男性であった。そのために国内には50万人もの女たちが「余り」、何としても結婚しようとする女たちの闘いすらあった。一方で、自立していくためにピアノを習い、governessの道を歩んでいく女性もいた。スポーツを楽しみ、自転車に乗り、水着を着て泳ぐ開放的な女性も現われた。小説に表われたヴィクトリア時代の女性にスポットを当てながら、毎回、原文購読も楽しんでいきたい。

授業の内容

「パミラ」という女性が両親に書いた手紙から始まり、オースティンが描き出す結婚願望の強い女性主人公の会話、さらにはニュージーランド映画で有名になった『ピアノ・レッスン』のシナリオなどを読みながら、さまざまな女性が語る英語を学んでみたい。最後に、ようやく日本でも完訳されたD・H・ロレンスの『チャタレー夫人の恋人』の心の内を描き出す「描出話法」の英語を読みながら、イギリス小説の原点ともいえるべき「手紙」がなぜ「小説」につながるのかを、村上春樹の『ノルウェイの森』などのいわゆる手紙文学(武者小路実篤の『愛と死』など)の伝統などを論じながら、明らかにしてみたい。

内 容

- 第1回 イギリス文学「チェックリスト」の完成。イギリス文学(文化)の知識度は?
- 第2回 イギリスのGive Wayの精神とは? 道を譲る精神=Queuingの精神
- 第3回 イギリス小説の台頭=私という1人称による語り=手紙(日記)文学
- 第4回 Richardson, Pamela(1740)の手紙小説の講読。副題にVirtue Rewardedとあり、「美德が報われる」けげな女性Pamelaの父母に宛てた手紙を読んでいく。
- 第5回 Henry Fielding, Shamela(1741)の講読。Pamelaという純粋な女性は実はひどいあばずれ女で子持ち、Shamelaが本名。若旦那をだまして妻となったというパロディ小説。
- 第6回 世界万博(1851年)と「余った女たち」—なぜ女性は余ったのか?
- 第7回 Jane Campion, The Piano(1993)映画鑑賞
- 第8回 The Pianoの脚本講読。スコットランドから子連れでなぜニュージーランドに出かけたのか?
- 第9回 女たちの自立の道=結婚。Jane Austen, Pride and Prejudice(1811)講読。
- 第10回 女たちの自立の道=governess Charlotte Bronte, Jane Eyre(1847)講読。
- 第11回 女たちの自立の道=離婚と女性解放 D.H. Lawrence, The Rainbow(1915)映画鑑賞。
- 第12回 女たちの自立の道=離婚と再婚 D.H. Lawrence, Lady Chatterley's Lover(1928)映画鑑賞。
- 第13回 女たちの自立の道=性の解放 Lady Chatterley's Lover講読。描出話法の訳し方。
- 第14回 イギリス、アメリカにおける女性差別=Cambridge U.とHarvard U.の女性差別。
- 第15回 イギリス小説に描かれた女性たち=結婚、離婚、女性解放

授業以外での学習方法

大学でもイギリス映画が観賞できるし、映画館でも上映しているので、暇を見つけて、E.M. Forster, A Room with a View(1908)やJane Austen, Sense and sensibility(1811)、さらにはKazuo Ishiguro, The Remains of the Day(1989)などできるだけ映画鑑賞をすること。

教科書

適時プリントして配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ヴィクトリア朝の性と結婚

著者: 度会好一

出版社: 中公新書

出版年: 1997年

ISBN:

ガヴァネス

著者： 川本静子
出版社： 中公新書
出版年： 1994年

ISBN:

ヴィクトリア女王

著者： 君塚直隆
出版社： 中公新書
出版年： 2007年

ISBN:

知っておきたいイギリス英語

著者： 大石五雄
出版社： 平凡社新書
出版年： 2003年

ISBN:

イギリスの不思議と謎

著者： 金谷展雄
出版社： 集英社新書
出版年： 2012年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

毎回提出物があるので、遅れてもその提出物を出さないと評価はつかないのでかならず提出すること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **国際ビジネス I**

担当者 岡田 有叶

テーマ

リーガルライティング

獲得目標

国際ビジネスは、原則としてその開始にあたり、契約書(主に英文)が取り交わされ、契約内容に厳密に沿って展開されます。そこで国際ビジネスに進むことを希望する皆さんは、英文契約書を読めて、さらには作成できるようになっておくことが将来的にみて極めて望ましいといえます。この考え方に立って、英文契約書の解釈と作成法(リーガルライティング)について、その基礎を学び、併せて重要な関連事項を学習します。

授業の内容

この授業では、英文契約書の読み方、書き方だけでなく、日本人と(英米の人々を主とする)外国人の契約観の違い、ひいては、物事に対する考え方の違いなどを初めとして、国際ビジネスにおける英文契約書の重要性や、さらに、国際ビジネスに進むことを希望する学生にとって、覚えておいたほうが好ましいと思われる国際売買取引の概要なども、併せて学習します。最後に、契約交渉にも触れ、説得力ある交渉文をいかに作成するかについて学習したいと考えます。同学習は、皆さんがビジネスのどのような分野に進むとしても、相手方との交渉において、必ず役立つでしょう。また、この授業では、英語だけでなく、日本語(国語)力の強化にも力を入れます。というのは、英文契約書を読み解き、正しく邦訳するためには、しっかりとした日本語力が必要であり、英文契約書の作成や相手方との交渉においても、英語力を発揮する前提として、日本語による論理的な思考が不可欠だからです。上記の学習効果を上げるため、次のことを実施します。1.(宿題)初回と最終回を除いて、ほぼ毎回皆さんの余力負担にならない程度で宿題を出す。2.(レポート)新書版程度の本を1冊指定して、800字程度で読後感想文を書くようにとの課題を出す。契約書の英文は、文学作品や新聞記事などで普段接する英文とかなり違っていただけでなく、国際ビジネスで扱われる諸事項がふんだんに出てくるので、初めは戸惑うかもしれません。私もできるだけ平易に解説しますので、新しいことに挑戦する気概で取り組んでください。国際ビジネスに進むことを予定していない人でも、学んでおけば、この国際化の時代にあって、役立つときがきつとくるものと信じています。同時に、この授業が皆さんの日本語力向上にも役立つことを念じています。

内 容

- 第1回 英文契約書総論(英文契約書の背景、国内契約書との違い、英文契約書の種類など)
- 第2回 英文契約書総論(英文契約書の背景、国内契約書との違い、英文契約書の種類など)
- 第3回 英文契約書総論(英文契約書の背景、国内契約書との違い、英文契約書の種類など)
- 第4回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第5回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第6回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第7回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第8回 英文契約書の読み方のポイントと注意点(英文契約書の構成、注意すべき表現、一般条項の留意点と読み方など)
- 第9回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第10回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第11回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第12回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第13回 英文国際売買契約書精読と解説(併せて、国際売買取引とそこで使用される貿易用語の学習)
- 第14回 契約交渉論入門(ビジネスにおける説得力ある交渉文の書き方(組立て方と表現方法など))
- 第15回 契約交渉論入門(ビジネスにおける説得力ある交渉文の書き方(組立て方と表現方法など))

授業以外での学習方法

当面は、授業(と予習、復習)、宿題、レポートに力を注いで、その後、下記に掲げる参考書や授業中に挙げる書籍などを読んでください。

教科書

ひと目でわかる英文契約書

著者: 野口 幸雄

出版社: かんき出版

出版年: 2011

ISBN: 978-4-7612-6778

参考書

[新版]英文契約書を読みこなす

著者: 大崎 正瑠

出版社: 大修館書店

出版年: 2011

ISBN: 978-4-469-24562

英文契約書の読み方

著者: 山本 孝夫

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2006

ISBN: 4-532-11105-6

英文契約書の書き方(第2版)

著者: 山本 孝夫

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2006

ISBN: 4-532-11104-8

はじめての英文契約書起案・作成完全マニュアル

著者: 長谷川 俊明

出版社: 日本法令

出版年: 2003

ISBN: 4-539-71873-8

国際ビジネス実践セミナー、契約の英語(2巻)、交渉の英語(3巻)

著者: 小中 信幸、中谷 栄一郎他

出版社: 日興企画

出版年: 1999~2001

ISBN: 4-88877-630-X

The McGraw-Hill Handbook of Business Letters (4th edition)

著者: Roy W. Poe

出版社: McGraw-Hill

出版年: 2005

ISBN: 9.78007E+12

(注:この他、詳しくは授業中に説明します。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **翻訳基礎論**

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

An introduction to translation practice, strategies and theory

獲得目標

(1) To increase the students' awareness about languages and their various characters (2) To provide them with knowledge about the different types of translation (3) To equip them strategies to help them translate between English and Japanese successfully This class will be taught in English.

授業の内容

This course is intended as a practical introduction to those interested in language in general, and in the practice of translating from one language to another in particular. We will take an initial look at the linguistic differences between different languages, but between Japanese and English in particular. Then we will look at the translation process itself, touch on a little translation theory, and then look at different kinds of translation. In the central section of the course, we will translate a number of so-called 'simple' English texts, analyze them for the problems they display, and look at various strategies for solving them. Finally, we will undertake the translation of a short set text.

内 容

- 第1回 PowerPoint introduction: the world's languages, language families and a comparison of the Japanese and English languages
 - 第2回 PowerPoint: different types of translation
 - 第3回 PowerPoint: the translation process
 - 第4回 PowerPoint: introduction to translation theory
 - 第5回 Basic translation strategies (1)
 - 第6回 Basic translation strategies (2)
 - 第7回 Basic translation strategies (3)
 - 第8回 PowerPoint: textual analysis
 - 第9回 How to use dictionaries, the thesaurus, the Internet, and other translation resources; and their dangers
 - 第10回 Technical translation
 - 第11回 Literary translation
 - 第12回 Advanced translation strategies: transposition
 - 第13回 Advanced translation strategies: componential analysis
 - 第14回 Translation of a set text
 - 第15回 Final discussion and evaluation
-

授業以外での学習方法

I have a wide range of translation texts and exercises that can be made available for students who wish to practice the strategies taught in class, and a wide variety of books on the subject of translation.

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a30202d610

Students will have a short translation assignment to be handed in towards their final grade as well as an 'unseen' translation test.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **通訳基礎論**

担当者 西村 友美

テーマ

通訳入門

獲得目標

(1) 基本的な通訳訓練法を身につける。(2) 通訳過程を理解し、簡単な逐次通訳・同時通訳ができるようになること。

授業の内容

聞いたことを瞬時に口頭で訳す通訳者の頭の中はどうなっているのだろう。通訳をいろいろな角度から観察したり、解剖してその中身を覗いてみよう。授業では簡単な通訳を練習し、日本の諸相を英語話者に紹介する場面でボランティアで通訳できるようになることをめざす。また、プロとして活躍する通訳者はきわめて高い語学力を持っていると言われる。この授業では、シャドーイングをはじめ、一般の語学学習にもたいへん効果があるといわれる通訳訓練を実際におこなうことによって、受講生の英語力全般を養成する。

内 容

- 第1回 通訳とは、通訳実例の観察
- 第2回 Unit 1 自己紹介、通訳実例の分析
- 第3回 Unit 2 社会、クイック・リスパンス
- 第4回 Unit 3 大学生生活、シャドーイング(1)
- 第5回 Unit 4 教育(留学)、シャドーイング(2)
- 第6回 Unit 5 社会(ファッション)、スラッシュ・リーディング
- 第7回 Unit 6 医療(メタボリック症候群)、サイト・トランスレーション
- 第8回 Unit 7 日本文化(アニメ・漫画)、中間まとめ
- 第9回 Unit 8 教育(ボランティア活動)、逐次通訳(1)
- 第10回 Unit 9 社会(長寿社会)、逐次通訳(2)
- 第11回 Unit 10 国際交流Ⅰ(実践演習)、逐次通訳(3)
- 第12回 Unit 11 日本文化(伝統的な行事)、同時通訳(1)
- 第13回 Unit 12 環境、同時通訳(2)
- 第14回 Unit 13 国際交流Ⅱ(実践演習)、「「On-line の理解」の解剖と日英語対照研究
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業で紹介する通訳トレーニングを毎日実行すること。通訳のトレーニングを別の場で試してみることを、応用してみることを。

教科書

TOEIC150点アップを目指す 通訳訓練法

著者: 越智 美江

出版社: 大阪教育図書

出版年: 2010

ISBN:

参考書

授業で指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a30202d710

試験 (70)
授業中課題 ()
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **International Business English**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

A course in practical and communicative business English

獲得目標

This course will aim to help you develop the necessary confidence and skills for communicating in everyday business situations, as well as an understanding of global business cultures. The course will also help you practice for the TOIEC test.

授業の内容

Students in this course will be required to attend regularly and interact positively with classmates. There will be weekly homework assignments. This class will be taught in English.

内 容

- 第1回 Meeting people and talking about a company
 - 第2回 Telephoning; leaving and taking messages
 - 第3回 Talking about schedules and making appointments
 - 第4回 Talking about company performance and presenting information
 - 第5回 Review I
 - 第6回 Talking about products and services
 - 第7回 Talking about business decisions
 - 第8回 Making, receiving and dealing with complaints
 - 第9回 Checking progress; giving an update
 - 第10回 Review II
 - 第11回 Talking about future prospects and giving financial advice
 - 第12回 Explaining job requirements and company regulations
 - 第13回 Negotiating and discussing in meetings
 - 第14回 Giving speeches and presentations
 - 第15回 Review III
-

授業以外での学習方法

Homework will involve doing online exercises.

教科書

Business Venture 2 (3rd Ed.) student's book

著者: Roger Barnard & Jeff Cady

出版社: Oxford University Press

出版年: 2009

ISBN: 194578186

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語教育論**

担当者 金山 敬

テーマ

英語教育、現在の日本の英語教育の問題点を提起し、国際理解と英語教育のあるべきすがたについて考える。

獲得目標

英語教育を理論面および実践面から概観し、考察する。

授業の内容

英語教育の基本理念、言語習得理論の基礎、国際理解などを学びながら、英語教育のあり方を考察する。、

内 容

- 第1回 ガイダンス(国際理解教育と英語教育の問題点、そのあり方)
 - 第2回 第1章 英語教育の基本理念
 - 第3回 第2章 第二言語習得(言語習得理論の基礎)
 - 第4回 第3章 外国語教授法
 - 第5回 第4章 学習指導要領
 - 第6回 第1章から4章までのまとめ
 - 第7回 第5章 言語要素の指導
 - 第8回 第6章 4技能の活動
 - 第9回 第7章 授業展開
 - 第10回 第8章 教材・教具
 - 第11回 第5章から8章までのまとめ
 - 第12回 第9章 評価とテスト
 - 第13回 第10章 学習者
 - 第14回 第11章 教員養成と教員研修
 - 第15回 第9章から11章までのまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

グローバル時代の英語教育

著者: 岡 秀夫 編著

出版社: 成美堂

出版年: 2011年

ISBN: 978-4-7919-3099

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I <a>

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Seminar in Translation Studies

獲得目標

1. To reinforce the translation strategies previously learned 2. To develop a linguistic flexibility of mind 3. To develop advanced English language skills and vocabulary 4. To introduce students to a variety of text translation 5. To give students the opportunity to make academic presentations

授業の内容

In this seminar, we will revise and reinforce the various translation strategies covered in the Basic Theory of Translation class, so that students are completely familiar with them. (Any third-year students who have not already taken this class should be sure to register for it.) Then we will cover a number of different text translations together in class before students are given translation assignments, which they will then present in class, explaining how they employed the various strategies that they have learned. A set English-Japanese and Japanese-English text will be given and graded as part of the final evaluation. This class will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction 1: Comparing the English and Japanese languages & discussion
 - 第2回 Introduction 2: Basic translation strategies with examples & discussion
 - 第3回 Introduction 3: Advanced translation strategies with examples & discussion
 - 第4回 Short texts for translation 1: English to Japanese
 - 第5回 Short texts for translation 2: Japanese to English
 - 第6回 Set narrative texts 'Mukashi Banashi' for class discussion
 - 第7回 Set narrative texts 'Mukashi Banashi' groupwork
 - 第8回 Set narrative texts 'Mukashi Banashi' group presentations
 - 第9回 Set cultural texts for class discussion
 - 第10回 Set cultural texts groupwork
 - 第11回 Set cultural texts presentations
 - 第12回 Set practical texts (pamphlet) for class discussion
 - 第13回 Set practical texts (pamphlet) groupwork
 - 第14回 Set practical texts (pamphlet) presentations
 - 第15回 Final Discussion and Conclusions
-

授業以外での学習方法

Reading general introductory materials on translation and translation studies. Careful checking of any translated material, from signs and short texts to film and TV subtitles.

教科書

参考書

翻訳の基礎

著者: 宮脇 孝雄

出版社: 研究社出版

出版年: 2000

ISBN: 9.78433E+12

A Textbook of Translation

著者: P. Newark

出版社: Prentice Hall

出版年: 1988

ISBN: 9.78014E+12

In Oher Words

著者: M. Baker

出版社: Routeledge

出版年: 2011

ISBN: 9.78042E+12

The Translation Studies Reader

著者: L. Venuti

出版社: Routeledge

出版年: 2004

ISBN: 9.78042E+12

Theories of Transaltion

著者: J. Biguenet

出版社: Chicago Guides

出版年: 1992

ISBN: 9.78023E+12

翻訳はいかにすべきか

著者: 柳瀬 尚紀

出版社: 岩波新書

出版年: 2000

ISBN: 9.784E+12

実践翻訳の技術

著者: 別宮 貞徳

出版社: ちくま学芸文庫

出版年: 2006

ISBN: 9.78448E+12

成績評価

試験 (30)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I

担当者 浅井 雅志

テーマ

日本文化の発信を通して日本文化への理解を深める

獲得目標

明治以降、巨大な変化を経て、日本はかなりうまく近代化に成功したかに見える。しかし急激な変化のために、アイデンティティ・クライシスも経験しつつある。それに加えて近年、いわゆるグローバル化が進行する中、日本人は世界の中での立ち位置をますます見失っているようにも見える。そんな状況の中で、現在の若者は自らの文化をどのように世界に向けて説明しようとしているのか。ある大学でのその取り組みを共有することで、自分の生まれ育った文化をより深く理解することを旨とする。

授業の内容

日本のある大学での授業を英語でまとめた本を読みつつ、われわれだったら日本を外国に向かってどう説明するかを考えていく。具体的には、毎回の授業で担当者が、レジュメを用意して口頭発表し、教員が必要な補足説明を加え、それをもとにディスカッションをする。学期末にはペーパーを提出する。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 The Japanese Mind 1
- 第3回 The Japanese Mind 2
- 第4回 The Japanese Mind 3
- 第5回 The Japanese Mind 4
- 第6回 The Japanese Mind 5
- 第7回 The Japanese Mind 6
- 第8回 The Japanese Mind 7
- 第9回 The Japanese Mind 8
- 第10回 The Japanese Mind 9
- 第11回 The Japanese Mind 10
- 第12回 The Japanese Mind 11
- 第13回 The Japanese Mind 12
- 第14回 The Japanese Mind 13
- 第15回 総括;ペーパー提出

授業以外での学習方法

教科書

The Japanese Mind

著者: Roger J. Davies, Osamu Ikeno

出版社: Tuttle

出版年: 2002

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I <c>

担当者 西村 友美

テーマ

アカデミック・スタディ・スキルの養成と通訳学入門

獲得目標

(1) SAP参加から得た問題意識をより深く追求する。(2) 通訳を一つの研究領域として学ぶ。(3) 通訳を通じて異文化コミュニケーションについて考え、かつ実際の異文化コミュニケーション能力の向上を図る。

授業の内容

日本語と英語の比較に関心がある。人が言語を超えて理解するとはどんなことなのか知りたい。——そのような関心や疑問を、通訳を通じて考えてみよう。また、文献のみならず自ら通訳を実践しながら考えよう。そのために通常の授業での通訳訓練だけでなく、学外にも出て、京都の名所を英語でガイドしたり、通訳ボランティアなどを実践する。そうして考えたことを論理的に表現する訓練をする(教科書の使用)。さらに、橘での残り2年間をどのような目標をもって進むのかを考え、ゼミの活動を通じてそれを実行する。ゼミ生どうしの絆をしっかりと作り、卒業後の生き方を考えることもゼミの重要な活動となる。★★受講者は原則として「通訳基礎論」を既に履修済みであることが望ましい。履修していない者でこの演習の受講を希望する者は、事前学習教材を指示するので担当教員まで申し出てください。★★この授業を履修する学生はさらに通訳技能のブラッシュアップを目指し、「通訳研究」を同時履修することが好ましい。

内 容

- 第1回 スタディ・スキルとは
- 第2回 プレゼン1回目、逐次通訳演習
- 第3回 プレゼン1回目、逐次通訳演習
- 第4回 プレゼン1回目、逐次通訳演習
- 第5回 通訳学文献研究、通訳演習
- 第6回 通訳学文献研究、通訳演習
- 第7回 通訳学文献研究、通訳演習
- 第8回 通訳学文献研究、同時通訳演習
- 第9回 通訳学文献研究、同時通訳演習
- 第10回 プレゼン2回目、同時通訳演習
- 第11回 プレゼン2回目、同時通訳演習
- 第12回 プレゼン2回目、同時通訳演習
- 第13回 通訳ガイド(情報収集と練習)
- 第14回 通訳ガイド(情報収集と練習)
- 第15回 学外授業(京都英語観光ガイド) ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

教科書

Basic Steps to Writing Research Papers

著者: Klug Taylor

出版社: Cengage Learning

出版年: 2007

ISBN:

参考書

授業で指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I <Ⅰ>

担当者 北林 利治

テーマ

これからの日本の英語教育を考える

獲得目標

①日本における英語教育について、とくに言語観とのかかわりから、その目標や内容を検討し、今日の問題点を理解する。②クラスで効果的なプレゼンテーションが行えるように、また、説得力のあるレポートを書くことができるようにする。

授業の内容

英語教育の目的を論じるときによく聞かれることばが「積極的にコミュニケーションをとろうとする態度を育成する」という文言である。しかし、ここでいう「コミュニケーション」とはどのような意味なのか、さらには「積極的に～態度」とはどういうことかは、人によってさまざまな解釈ができるだろう。いずれにせよ、現在の日本の英語教育では、「英語の運用能力を身につけた人材を育成することこそ、学校英語教育の目的」があるということになる。この英語教育観が真剣に検討されたことがあるだろうか？また、この考え方は、言語がコミュニケーションの道具であるという「道具としての言語観」に究極的には結び付くものであるが、この言語観が学校英語教育の目的に照らして、納得のいくまで議論されたことはあまりなかったように思える。2011年から外国語活動として小学校で導入される英語については、いろいろな問題があるだろうが、中学・高校・大学の英語教育にもたくさん問題点がある。しかし、「英語運用能力の育成」というスローガンのもとに、隠れた多くの問題が潜んだままになっているのではないだろうか？このクラスでは、下記の教科書と参考文献を受講生の発表を中心に読み進めながら、さまざまな観点から現代日本の英語教育について考えていくことにしたい。その中には、直接は英語教育の範囲におさまらない問題点も多数あるだろうが、あまり、ゼミで取り扱う内容を狭くするのではなく、ゼミではなるべく論点を広くとりあげ、受講生のプレゼンテーションによって広い視点からの問題の考察をすすめていきたいと考えている。クラスで最初に読むテキストは、第二言語習得研究で明らかにされたことについて、英語を教える人たちが最低限おさえておいてほしい内容についてまとめたもので、さらには、それらをふまえて、日本の英語教育のあり方、今後の方向性などについて論じられている。テキストのほかには、プリントなどの補助教材を使用する。（なお、このゼミは、3年生と4年生の合同ゼミになります。）

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 プレゼンテーションの基礎
- 第3回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第4回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第5回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第6回 アカデミックライティングの基礎①
- 第7回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第8回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第9回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第10回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第11回 アカデミックライティングの基礎②
- 第12回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第13回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第14回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第15回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論、まとめ

授業以外での学習方法

クラスで参考文献を紹介するので、文献をたくさん読むこと。

教科書

英語教師のための第二言語習得論入門

著者： 白井恭弘

出版社： 大修館書店

出版年： 2012年

ISBN:

参考書

現代の英語科教育法

著者： 石黒昭博・山内信幸・赤松信彦・北林利治

出版社： 英宝社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（10）

授業中課題（50）

授業中発表等（30）

参加度（10）

4回以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はしません。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習 I <e>

担当者 金山 敬

テーマ

児童英語教育—小学校英語活動と中学校英語の連携 言語習得と英語教育

獲得目標

日本の英語教育、特に児童期の英語教育の果たすべき役割の研究

授業の内容

小学生、中学生の発達段階に応じた英語教育のありかたを考察する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 母語の言語習得の過程の考察
 - 第3回 母語の言語習得について討議
 - 第4回 母語の言語習得についての発表 ①
 - 第5回 母語の言語習得についての発表 ②
 - 第6回 ESLとEFLについての考察
 - 第7回 第二言語の習得の過程の考察
 - 第8回 第二言語習得についての討議
 - 第9回 第二言語習得についての発表 ①
 - 第10回 大の言語習得についての発表 ②
 - 第11回 言語習得理論の変遷についての考察
 - 第12回 言語習得理論についての討議
 - 第13回 言語習得理論についての発表 ①
 - 第14回 言語習得理論についての発表 ②
 - 第15回 振り返りとまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a302030115

積極的かつ意欲的な授業態度を高く評価します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Critical Reading I <a>**

担当者 芝原 妙子

テーマ

This class is designed to increase students' English reading skills and develop their insights to the topics of reading materials.

獲得目標

The overall objectives of this class is not only to enhance reading skills made in the first and second years, but also to encourage students to form their own opinions and thoughts to relate to the ideas in the text.

授業の内容

The Text: Students are responsible for completing the readings for the day they are assigned. They should come to class prepared with two to three questions. Questions should be designed to generate interesting discussions and critical thinking about the reading. Graded Readers: Read books from Graded Readers and write two book reports. This class will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction and course description
 - 第2回 Chapter 1-1
 - 第3回 Chapter 1-2
 - 第4回 Chapter 2-1 & Vocabulary Quiz-1
 - 第5回 Chapter 2-2
 - 第6回 Graded Readers Book Reprt Day-1
 - 第7回 Chapter 3-1 & Vocabulary Quiz-2
 - 第8回 Cahpter 3-2
 - 第9回 Chapter 4-1 & Vocabulary Quiz-3
 - 第10回 Chapter 4-2
 - 第11回 Chapter 5-1 & Vocabulary Quiz -4
 - 第12回 Chapter 5-2
 - 第13回 Chapter 6-1 & Vocabulary Quiz-5
 - 第14回 Chapter 6-2
 - 第15回 Graded Readers Book Report Day- 2
-

授業以外での学習方法

Read newspapers, magazines, and journals.

教科書

Reading Choice

著者: Miwako Yamashita

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (35)

参加度 ()

小テスト (25)

授業中発表等 (20)

a302030310

Since the readings and the class sessions in this course complement rather than repeat each other, it is extremely important that you be in class, on time and prepared, each day. Please do the day's reading before coming to class, and be prepared to discuss and ask questions about the reading assignments. You are expected to participate in discussion and turn in the papers on the scheduled days. Unexpected late papers are penalized. For example, a B paper would be recorded as a C. Without prior arrangements, there will be no make-ups for the presentations or the quizzes and exams.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Critical Reading I **

担当者 金山 敬

テーマ

Express yourself

獲得目標

By sharing each thought and insight of the students it enables students to improve their abilities to organize their ways of thinking and to master communicative English.

授業の内容

Reading of the intercultural essays written by an American writer

内 容

- 第1回 Guidance
 - 第2回 Unit 1 Foreign Neighbors
 - 第3回 Unit 2 Kids and Culture
 - 第4回 Unit 3 Strong Women
 - 第5回 Unit 4 Global Shopping
 - 第6回 Unit 5 Meeting Strangers
 - 第7回 Unit 6 Calligraphy
 - 第8回 Unit 1~6 Review
 - 第9回 Unit 7 Human Touch
 - 第10回 Unit 8 Family Ties
 - 第11回 Unit 9 Freedom and Love
 - 第12回 Unit 10 Volunteering
 - 第13回 Unit 11 Kids and Violence
 - 第14回 Unit 12 Racism and Stupidity
 - 第15回 Unit7~12 Review
-

授業以外での学習方法

教科書

Insights

著者: Joseph Shaules

出版社: 南雲堂

出版年: 2005年

ISBN: 4-523-17487-3

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **翻訳研究**

担当者 日高 周平

テーマ

翻訳の基礎を学ぶ

獲得目標

英日翻訳に必要とされる様々な手法を学び、原文の意図を的確に訳す能力を養う

授業の内容

内 容

- 第1回 講義概要・成績評価などに関する説明・英日翻訳の基礎技術 A
 - 第2回 英日翻訳の基礎技術 B
 - 第3回 翻訳演習 (歌詞)
 - 第4回 翻訳演習 (歌詞)
 - 第5回 翻訳演習 (歌詞)
 - 第6回 翻訳演習 (歌詞)
 - 第7回 翻訳演習 (歌詞)
 - 第8回 翻訳演習 (歌詞)
 - 第9回 翻訳演習 (歌詞)
 - 第10回 翻訳演習 (映画字幕)
 - 第11回 翻訳演習 (映画字幕)
 - 第12回 翻訳演習 (雑誌記事)
 - 第13回 翻訳演習 (新聞記事)
 - 第14回 翻訳演習 (各自、発表へ向けて課題を選択する)
 - 第15回 発表
-

授業以外での学習方法

教科書

プリントにて対応

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 多文化の理解と教育

担当者 神谷 栄司・浅井 雅志・アンガス ノーマン・池田 修・金山 敬・加用 美代子・北林 利治・西村 友美・宮嶋 邦明
八木 英二

テーマ

多文化の理解と教育——視点としての「言語と人間」

獲得目標

多文化理解・教育のひとつの重要な視点として、「言語と人間」をめぐる諸問題について多角的に学習する。

授業の内容

「言語と人間」の諸問題について、教員各自の専門性を活かして、オムニバス方式で講じる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(神谷)
 - 第2回 ことばはどのように生まれたのか——歴史的起原(神谷)
 - 第3回 赤ちゃんのことば(加用)
 - 第4回 独り言と内的言語(宮嶋)
 - 第5回 想像とウソとことば(宮嶋)
 - 第6回 対話について(神谷)
 - 第7回 ことばの病理と障害(神谷)
 - 第8回 日本語の魅力(池田)
 - 第9回 言語の翻訳可能性(西村)
 - 第10回 滅びゆく言語(アンガス)
 - 第11回 多言語主義(北林)
 - 第12回 第2言語習得(金山)
 - 第13回 英語公用語化論争(浅井)
 - 第14回 コミュニケーションと教育改革(八木)
 - 第15回 まとめ(浅井、神谷)
-

授業以外での学習方法

授業で紹介された文献をできるだけ読むように務めること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a302033210

2回から14回までのうちの一つのテーマをえらび、それについて論じること。レポートの採点はそのテーマを論じた教員が行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 言語理論研究

担当者 久保田 美佳

テーマ

Understanding English grammar

獲得目標

The objective of this course is to give students a way of understanding English grammar and the chief technical terms needed to describe the English language precisely.

授業の内容

In order to communicate in English, the basic knowledge of English grammar is required because grammar is the rule of building words into a sentence, which is the basic unit of communication. This course gives students a way of "talking about" grammar by introducing them to the basic theories of syntax and technical terms.

内 容

- 第1回 What is a sentence?; Types of sentence
 - 第2回 The parts of a clause; Making clause patterns
 - 第3回 The verb, The subject; The object
 - 第4回 Completing a clause; Saying when, where, and how
 - 第5回 Making clause parts agree; Statements
 - 第6回 Questions; Commands; Exclamations
 - 第7回 Nouns; Different kinds of noun
 - 第8回 Singular and plural; People, animals, and things
 - 第9回 Apostrophe s; Building up noun phrases
 - 第10回 Adding words before a noun; Adding words after a noun; The noun phrase
 - 第11回 Different kinds of verb; Regular verbs; Irregular verbs
 - 第12回 Helping verbs; Multi-word verbs; The time of an action
 - 第13回 Completing an action; Active and passive; Verb phrases
 - 第14回 Pronouns; Pronouns and gender
 - 第15回 Adjectives; Adverbs
-

授業以外での学習方法

Students are expected to read the assignments before coming to the class. For the presentations in English, students will be required to research materials related to the issue on their own.

教科書

Discover Grammar

著者: David Crystal

出版社: Longman

出版年: 1996

ISBN:

参考書

エイザーのわかって使える英文法(上、下)

著者: ベティ・エイザー

出版社: 桐原書店

出版年: 2005年

ISBN:

a302033310

コーパス活用ロングマン実用英文法辞典

著者: Geoffrey Leechほか

出版社: 桐原書店

出版年: 2005年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (80)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

This class will be conducted in English.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地域文化研究Ⅲ

担当者 浅井 雅志

テーマ

To have more knowledge and better understanding of Japanese history and culture

獲得目標

This class is designed for those students who are interested in getting better understanding of how the Japanese have been living and created their culture.

授業の内容

This class is run by English only. We are going to read a book written by a Western historian with Western points of view. The focus of the class is to have a better understanding of how the Western people have seen and understood Japan. In each meeting an assigned student gives a brief presentation on the chapter we read, using resume which should include the outline of the chapter, questions and discussion points. The teacher will give necessary explanations. At the end of the semester, students are to submit a mid-length paper. If you are absent from the class more than 4 times, you will fail. We are going to read a good deal. So prepare yourselves!

内 容

- 第1回 Introduction
 - 第2回 Modern Japan, Introduction
 - 第3回 Modern Japan, Chap. 1 ①
 - 第4回 Modern Japan, Chap. 1 ②
 - 第5回 Modern Japan, Chap. 1 ③
 - 第6回 Modern Japan, Chap. 2 ①
 - 第7回 Modern Japan, Chap. 2 ②
 - 第8回 Modern Japan, Chap. 3 ①
 - 第9回 Modern Japan, Chap. 3 ②
 - 第10回 Modern Japan, Chap. 3 ③
 - 第11回 Modern Japan, Chap. 4 ①
 - 第12回 Modern Japan, Chap. 4 ②
 - 第13回 Modern Japan, Chap. 4 ③
 - 第14回 Modern Japan, Chap. 5
 - 第15回 Modern Japan, Epilogue; 総括、ペーパー提出
-

授業以外での学習方法

教科書

Modern Japan: A Very Short Introduction

著者: Christopher Goto-Jones

出版社: Oxford University Press

出版年: 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Essay & Presentation I**

担当者 日高 周平

テーマ

Essay and presentation

獲得目標

Learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of emails.

授業の内容

内 容

- 第1回 Introduction & Course Description
 - 第2回 Unit 1 Let me introduce myself
 - 第3回 Unit 2 Would you do me a favor?
 - 第4回 Unit 3 Please give me some advice
 - 第5回 Unit 4 How about going to the museum?
 - 第6回 Unit 5 Let's decide when to meet
 - 第7回 Unit 6 I have to apologize to you
 - 第8回 Unit 7 Room for two?
 - 第9回 Unit 8 I have a problem
 - 第10回 Unit 9 We would like to invite you to a party!
 - 第11回 Unit 10 How to get to his place?
 - 第12回 Unit 11 This is just a reminder
 - 第13回 Unit 12 Thank you for the invitation, but...
 - 第14回 Unit 13 Good luck!
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

Students will be required to write emails and letters, both inside and outside the class. Students are welcome to contact me via email.

教科書

Write Me Back Soon! Communicating through Email

著者: 成岡恵子/早野 薫/Sean M. Hackett 著

出版社: 金星堂

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **国際ビジネス実務演習 I**

担当者 弓場 俊也

テーマ

国際ビジネスにおける実践的英語コミュニケーション力と貿易実務の習得

獲得目標

わが国の貿易は自由化されており、世界の動向も自由貿易協定(FTA)や経済連携協定(EPA)など各国間で通商規制を緩和して貿易をより自由に行える潮流になっている。情報機器、物流システムの進歩により商社、専門家を通しての間接貿易から、一般の会社、個人による直接貿易へ形態も変化してきた。そしてインターネットの普及により国際ビジネスコミュニケーションも従来のいわゆる「コレボン」商業英語からEメールが主流になった。それにともない新しい貿易実務対応が求められている。貿易はモノ・カネ・サービスの国際取引であるが、海外のビジネスパートナーと信頼関係を築くためには国際ビジネスにおける公用語として英語によるコミュニケーションが必須である。ビジネス英語は英語力だけではなく貿易取引全体の仕組みについて知識、貿易実務、専門用語まで幅広い習得が必要である。ビジネスの現場で使われる英語はそれほどレベルの高いものではないが、シンプルで的確に意図を相手に伝えられる実践的なものでなければならない。またスムーズに商談交渉を進めるためには異文化理解能力も国際ビジネスパーソンには必要である。将来国際ビジネス分野での活躍を目指す人にとって最低限身につけておくべき総合実務能力として、基礎的なビジネス英語、貿易実務、コミュニケーション力の習得を目標とする。

授業の内容

国際商取引に必要な英文ビジネス・ライティングおよび貿易基礎知識を習得します。

内 容

- 第1回 ビジネスライティングの概要
 - 第2回 海外取引の基本的な流れ
 - 第3回 ビジネスレター・Eメールの基礎
 - 第4回 ビジネス交渉の流れ
 - 第5回 ビジネスレターの構成
 - 第6回 貿易における国際ルール
 - 第7回 ビジネスライティングの応用
 - 第8回 国際取引に使われる貿易書類
 - 第9回 英文契約書の理解
 - 第10回 貿易条件と決済
 - 第11回 国際物流で使われる英語
 - 第12回 ビジネスレター(ケーススタディ)
 - 第13回 海外決済で使われる英語
 - 第14回 国際ビジネスにおける異文化理解
 - 第15回 総括と確認
-

授業以外での学習方法

教科書

日商ビジネス英語検定3級公式テキスト

著者:

出版社: 日本商工会議所

出版年:

ISBN:

日本能率協会マネジメントセンター

著者:

出版社:

出版年: 2012年改定版

ISBN:

成績評価

試験 (34)

小テスト (33)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (33)

毎講義時に実施するミニテストと学期末試験および出席日数により評価します。期間中に日商ビジネス英語検定3級に合格した者は評価を特別加点します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 児童英語教育研究

担当者 金山 敬

テーマ

幼児や児童の英語教育について

獲得目標

小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのか、また、どのように教えたらよいかを異文化理解と英語教育のあり方について、実践と理論の両側面から考察する。

授業の内容

実際に幼児や小学生に教える場合にすぐに役立つ歌、ライム、ゲームを始めとして、言語習得理論に基づいた指導法などを紹介し、学習した後、発表する。

内 容

- 第1回 ガイダンス(異文化理解と英語教育について)
 - 第2回 英語の指導技術について
 - 第3回 歌の指導法
 - 第4回 歌指導の発表 I
 - 第5回 歌指導の発表 II
 - 第6回 ナーサリーライムの指導法
 - 第7回 ナーサリーライム指導の発表 I
 - 第8回 ナーサリーライム指導の発表 II
 - 第9回 フォニックスの指導法
 - 第10回 フォニックス指導の発表 I
 - 第11回 フォニックス指導の発表 II
 - 第12回 異文化理解教育について
 - 第13回 異文化理解を促す指導の発表 I
 - 第14回 異文化理解を促す指導の発表 II
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

a302034210

授業への積極的な取り組みと意欲的な態度を高く評価します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 児童英語指導演習 I

担当者 金山 敬

テーマ

児童英語教育の実践のための演習

獲得目標

児童英語教育のあるべき教育内容の考察とその実践のための実習

授業の内容

児童英語教育の目的と意義を理解し、実際に小学校や幼稚園において英語活動を行うのに必要なカリキュラムの考察および作成、そして近隣の公立小学校における観察実習と短期実習

内 容

- 第1回 ガイダンス(児童英語教育の目的と意義)
- 第2回 "Hi, friends!"を活用したカリキュラムの考察と討議①
- 第3回 "Hi, friends!"を活用したカリキュラムの考察と討議②
- 第4回 "Hi, friends!"を活用したカリキュラムの考察と討議③
- 第5回 "Hi, friends!"を使った模擬授業①
- 第6回 "Hi, friends!"を使った模擬授業②
- 第7回 "Hi, friends!"を使った模擬授業③
- 第8回 公立小学校における英語活動の観察実習一低中学年
- 第9回 公立小学校における英語活動の観察実習一高学年
- 第10回 小学校における観察実習の報告と討議
- 第11回 私立幼稚園における課外英語授業の観察実習
- 第12回 幼稚園における観察実習の報告と討議
- 第13回 実習反省会(教室運営、指導力についての評価)①
- 第14回 実習反省会(教室運営、指導力についての評価)②
- 第15回 まとめ(観察実習の総括と児童英語教育の意義の再確認)

授業以外での学習方法

公立小学校の英語活動および私立幼稚園の課外英語授業の観察実習

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト (30)

授業中発表等 ()

a302034410

授業への積極的な取り組みを評価します

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語科教育法 I

担当者 中井 弘一

テーマ

授業作りのABC

獲得目標

授業とは・授業づくりとはどういうものかを、体験を通じて理解する。また、英語教師として最低限必要な英語力をつける。

授業の内容

模擬授業を積極的に行い、授業づくりに必要な基礎的技術を身につけていく。ほとんどの授業で発表・模擬授業がある。この授業はプロフェッショナルへの第1歩である。受講者は甘えず、真摯に課題に取り組み、積極的に授業に参加することが求められる。

内 容

- 第1回 イントロダクション 英語を学ぶとはどのような体験か。
- 第2回 英語教師のレベルに達する学習の仕方の紹介、発音練習(リズムチャンツ)
- 第3回 「教材研究とは」説明と体験。発音練習(リズムチャンツ2)
- 第4回 英語授業の構造。教案の書き方。発音練習(リズムチャンツ3)
- 第5回 「文法の導入とは」場面づくりの方法。発音練習(破裂音1)
- 第6回 模擬授業1(前置詞、疑問詞)「内容の導入とは」Oral Introduction の方法 発音練習(破裂音2)
- 第7回 模擬授業2(助動詞、中3題材内容) Oral interaction の方法 発音練習(破裂音3)
- 第8回 模擬授業3(不定詞、中2題材内容)先輩の授業から学ぶ発音練習(摩擦音1)
- 第9回 模擬授業4(現在完了、中1題材内容)単語の提示の仕方発音練習(摩擦音2)
- 第10回 模擬授業5(比較、高校題材内容) 場面転換の方法 発音練習(破裂音)
- 第11回 模擬授業6(受動態、中3題材内容)指示・発問の大切さ 発音練習(鼻音)
- 第12回 模擬授業を通じて、授業の進め方の基礎となる技術を習得する。(種々の言語活動) 発音練習(側音)
- 第13回 模擬授業8(関係代名詞、高校題材内容)生徒への関与、人間関係づくり 発音練習(半母音)
- 第14回 学習指導案の書き方 ビデオによる反省 今までの授業と自分の学びを省察。
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

他の英語教授法のコンセプトをテキストや図書館にある参考書籍を読み理解する。

教科書

現代英語教授法総覧

著者： 田崎清忠

出版社： 大修館書店

出版年： 1995

ISBN： 4-469-24372-8

New Crown English Series New Edition(Book1, 2, 3)

著者： 高橋貞雄

出版社： 三省堂書店

出版年： 2012

ISBN：

参考書

中学校学習指導要領解説 外国語編

著者： 文部科学省

出版社：開隆堂出版社

出版年：2008

ISBN：

高等学校学習指導要領解説 外国語編

著者：文部科学省

出版社：開隆堂出版社

出版年：2009

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

授業中課題:教授法に関するレポート「…教授法は役に立つ指導法か？ その指導法の考え方と指導の実際から」授業中発表等:各教授法を事前に調べて、pptにまとめ発表・模擬授業 参加度:授業中における質問や回答による貢献

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ <a>

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文作成に向けて準備をする Translation Seminar

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導 This course will be taught in English

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 論文の書き方
- 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
- 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
- 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

Translation – An advanced resource book

著者: B. Hatim and J. Munday

出版社: Routledge

出版年: 2004

ISBN: 9780415-28305-9

In Other Words – A coursebook on translation

著者: Mona Baker

出版社: Routledge

出版年: 2011

ISBN: 9781415-46754-4

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ

担当者 浅井 雅志

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文作成に向けて準備をする

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方
 - 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ <c>

担当者 西村 友美

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文作成に向けて準備をする

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○
順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部
について指導する。○論文作成にむけての個別指導

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方
 - 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む) ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅲ <d>

担当者 北林 利治

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文作成に向けて準備をする

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方
 - 第3回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第4回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第5回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第6回 卒業研究進捗状況報告(序論)
 - 第7回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第8回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第9回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第10回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第11回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第12回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第13回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第14回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
 - 第15回 卒業研究進捗発表(本論:先行研究を含む)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **経営学概論 <Z>**

担当者 今久保 幸生

テーマ

経営学とは何かを学ぶ

獲得目標

経営学の基礎から最新の理論までを学ばせることを通じて、経営や組織や人、そして現代の経済社会のあり方を理解させる。

授業の内容

経営学の性格、企業・経営の諸類型、経営理論の流れ、組織、戦略、リーダーシップ、人事管理、生産管理、日本的経営、現代社会と経営について、テキストに即しつつ講義するとともに、テキストが触れていない事柄の講義も行う。

内 容

- 第1回 経営学とは何か
 - 第2回 企業の特徴
 - 第3回 企業の分類
 - 第4回 株式会社について
 - 第5回 経営学の発生
 - 第6回 科学的管理法とフォーディズム
 - 第7回 人間関係論
 - 第8回 行動科学と統合理論
 - 第9回 近代管理論からコンティンジャンシー理論へ
 - 第10回 経営組織論
 - 第11回 経営戦略論
 - 第12回 人事管理とリーダーシップ論
 - 第13回 生産管理論
 - 第14回 日本的経営
 - 第15回 現代社会と企業
-

授業以外での学習方法

授業中に示された参考書や関連する新聞記事などを読んで、その日の講義のテーマについてさらに学ぶことが望まれる。

教科書

テキスト経営学[増補版]

著者： 井原久光

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2006年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (マ) <A>**

担当者 河野 充央

テーマ

経済の仕組みと企業経営

獲得目標

グローバルな経済の動きが企業経営に及ぼす影響の本質について、経済理論を学びながら修得する。

授業の内容

報告とディスカッションを中心に進める。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 外国為替市場の仕組み(1)
 - 第3回 外国為替市場の仕組み(2)
 - 第4回 外国為替市場の仕組み(3)
 - 第5回 外国為替市場の仕組み(4)
 - 第6回 為替の企業経営得の影響
 - 第7回 日銀の金融政策(1)
 - 第8回 日銀の金融政策(2)
 - 第9回 日銀の金融政策(3)
 - 第10回 日銀の金融政策(4)
 - 第11回 金融政策の企業経営への影響
 - 第12回 政府の財政政策(1)
 - 第13回 政府の財政政策(2)
 - 第14回 財政政策の企業経営への影響
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

日経新聞や日経ビジネス等の、タイムリーな経済情報をプリントで配布する。テレビ、インターネット等も含め、こうした経済記事に積極的にアプローチすること。

教科書

経済のニュースがよくわかる本

著者： 細野真宏

出版社： 小学館

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (15)

参加度 (70)

小テスト (15)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (マ) **

担当者 岡本 哲弥

テーマ

マーケティング論に親しむ

獲得目標

マーケティング論のテキストの輪読、講演会への参加等を通じて、ゼミ形式での発表や討論に慣れる。報告者は、内容を要約したレジュメを作成し、疑問点や論点を提示する。全員で意見や感想を述べ合いながら理解を深めていく。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表方法について
 - 第3回 学生による報告(1)
 - 第4回 学生による報告(2)
 - 第5回 学生による報告(3)
 - 第6回 学生による報告(4)
 - 第7回 学生による報告(5)
 - 第8回 学生による報告(6)
 - 第9回 学生による報告(7)
 - 第10回 文章の要約
 - 第11回 論理的思考
 - 第12回 論理的思考
 - 第13回 グループワーク
 - 第14回 グループワーク
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

テキストをよく読み、十分に準備した上で、授業に参加する。日頃、新聞やテレビなどの企業経営やマーケティングの報道に関心を持っておく。スケジュールについては、受講生の人数、理解度などに配慮して入れ替え・変更を行う可能性がある。また、講演会への参加等の学外授業を実施する場合もある。

教科書

売れる仕掛けはこうしてつくる－成功企業のマーケティング－

著者:

出版社: 日本経済新聞社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト (20)

授業中発表等 (35)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (マ) <C>**

担当者 李 在鎬

テーマ

経営者の役割(1)

獲得目標

組織を成功に導く経営者の哲学、リーダーシップ、行動原理について考察し、現代ビジネス学習の楽しさを覚えるとともに、文献の読解能力、レジュメとして纏める能力、発表能力など、大学教育の基礎を身に付けることを獲得目標とする。

授業の内容

名経営者の伝記や文献を輪読・発表・議論し、リーダーシップ、戦略能力、管理能力について学ぶ。

内 容

- 第1回 授業の概説、リーダーシップ、経営戦略の基礎についての講義
 第2回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
 第3回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
 第4回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
 第5回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
 第6回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
 第7回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
 第8回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
 第9回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
 第10回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
 第11回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
 第12回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
 第13回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
 第14回 マネジメント現場の見学など
 第15回 全体の総括、マネジメント現場の見学、又は理解度チェック ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

幸之助論

著者: ジョン・P・コッター

出版社: ダイヤモンド社

出版年: 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (30)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

a50101a113

参加度（20）

2/3以上の出席率が単位認定の前提条件となります。1回以上の報告と討論への積極的な参加が求められます。理解度テストは筆記試験か、口頭試問によって行われます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (マ) <D>**

担当者 高山 一夫

テーマ

大学における学習スキルの習得並びに学習習慣の確立

獲得目標

この演習では、受講生が学生生活を円滑にスタートするために資するよう、大学で勉強をするために必要な各種のスキルを学ぶとともに、受講生が自ら勉強する習慣の確立を図ることを、目標とする。

授業の内容

①大学での基本的学習スキルについての解説、②映像教材を通じたマネジメント分野への学習意欲の喚起、③テキストを用いた発表と討論を通じたコミュニケーションスキルの獲得

内 容

- 第1回 大学での学び(1) プレゼンテーションの技術(1)
 - 第2回 大学での学び(2) プレゼンテーションの技術(2)
 - 第3回 大学での学び(3) 討論の技術
 - 第4回 大学での学び(4) 文章の読み方(1)
 - 第5回 大学での学び(5) 文章の読み方(2)
 - 第6回 学習技法に関するまとめと確認テスト
 - 第7回 映像教材を用いた学習(1)
 - 第8回 映像教材を用いた学習(2)
 - 第9回 映像教材を用いた学習(3)
 - 第10回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(1)
 - 第11回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(2)
 - 第12回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(3)
 - 第13回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(4)
 - 第14回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(5)
 - 第15回 演習全体のまとめと確認テスト
-

授業以外での学習方法

予習復習をしっかりと行い、演習に積極的に参加すること。各自で学習ポートフォリオを作成し、学習記録と配布物等を保存すること。

教科書

社会人の生き方

著者： 暉峻淑子

出版社： 岩波新書

出版年： 2012

ISBN: 9.784E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (50)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (マ) <E>**

担当者 阪本 崇

テーマ

具体的な経済問題に触れながら、大学で学ぶためのアカデミック・スキルを身につける

獲得目標

・大学生らしい文章が書けるようになる・インターネットを使った資料調査ができるようになる・レジュメを作ることができるようになる・自分の意見を発表することができるようになる

授業の内容

ゼミナールという授業の形式は、大学に特徴的なものであると同時に、自分自身で研究するという大学での学習スタイルの基礎となるものでもある。この授業では、具体的な経済問題に触れながら、大学で学ぶために必要なアカデミックスキルを身につけることを目的とする。

内 容

- 第1回 イントロダクション:ゼミで学ぶこと
 - 第2回 テキストの輪読:第1章前半
 - 第3回 テキストの輪読:第1章後半
 - 第4回 調べるスキル・書くスキル
 - 第5回 発表する技術・議論する技術
 - 第6回 テキストの輪読:第2章前半
 - 第7回 テキストの輪読:第2章後半
 - 第8回 テキストの輪読:第3章前半
 - 第9回 テキストの輪読:第3章後半
 - 第10回 テキストの輪読:第4章前半
 - 第11回 テキストの輪読:第4章後半
 - 第12回 テキストの輪読:第5章前半
 - 第13回 テキストの輪読:第5章後半
 - 第14回 テキストの輪読:第6章前半
 - 第15回 テキストの輪読:第6章後半
-

授業以外での学習方法

授業に参加するための準備を各自があらかじめ行っておく必要がある。具体的に言えば、指示された課題等は、指定日までに必ずこなしておかなければならない。また、日常から社会全体について幅広い関心を持ち、大学生らしい教養を身につける努力を行って欲しい。

教科書

日本財政 転換の指針

著者: 井手英策

出版社: 岩波書店(岩波新書 新赤版1403)

出版年: 2013

ISBN: 978-4004314035

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (救) <A>**

担当者 志賀 亮一

テーマ

現代市民・公務員に求められる知識と教養――現代の政治

獲得目標

救急救命士養成コースでは、卒業後の進路を確実なものとするため、市民・公務員として基本的な知識と教養が不可欠である。この授業では、現代政治の基礎知識を身につける。

授業の内容

毎回プリントを配布し、それをもとに現代政治の基礎知識を講義したのち、授業終了時に、受講生数名を指名して次回のための小テスト問題作成を課す。次回は、授業開始時にその小テストを受け、自己採点して前回の知識を確実なものとする。

内 容

- 第1回 近代政治思想――王権神授説と社会契約論
 - 第2回 近代国家の諸原則
 - 第3回 人権の原理と歴史
 - 第4回 世界の政治制度――イギリス、アメリカ、社会主義国
 - 第5回 日本国憲法
 - 第6回 日本国憲法と人権①
 - 第7回 日本国憲法と人権②
 - 第8回 中間のテスト&日本国憲法と平和主義
 - 第9回 日本国憲法と政治制度①
 - 第10回 日本国憲法と政治制度②
 - 第11回 現代政治①
 - 第12回 現代政治②
 - 第13回 国際政治①
 - 第14回 国際政治②
 - 第15回 まとめテストと自己採点
-

授業以外での学習方法

各授業後毎回プリント復習のこと。小テスト問題の作成を課されたものは、期限までにならず提出のこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (救) **

担当者 土井 一弘

テーマ

獲得目標

救急救命士に必要な数的推理の基礎を身につける

授業の内容

内 容

- 第1回 数の世界の不思議から文字へ
 - 第2回 文字式の計算を図で考えよう～展開、因数分解、平方完成、解の公式
 - 第3回 数の世界の拡張～有理数、無理数、正負の数
 - 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
 - 第5回 方程式の活用～一次・連立・二次方程式
 - 第6回 不等式とその活用
 - 第7回 比・比例・割合
 - 第8回 場合の数
 - 第9回 順列・組み合わせ
 - 第10回 確率
 - 第11回 平面図形の基礎
 - 第12回 相似
 - 第13回 図形の計量
 - 第14回 空間図形
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎解剖学**

担当者 川上 ゆかり

テーマ

正常な人体の形態と構造について学ぶ

獲得目標

本基礎解剖学は肉眼解剖学、組織学及び発生学の分野を含むが、その中で今後、専門分野を学ぶにあたり、必要と思われる基礎的知識に重点を置き、各部所を関連づけながら正常な人体の形態と構造を立体的に理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 概論
 - 第2回 細胞・組織
 - 第3回 骨格系
 - 第4回 筋系
 - 第5回 神経系
 - 第6回 神経系(自律神経、伝導路) 感覚系
 - 第7回 循環器系
 - 第8回 血液、脈管系
 - 第9回 呼吸器系
 - 第10回 消化器系Ⅰ
 - 第11回 消化器系Ⅱ
 - 第12回 内分泌系
 - 第13回 泌尿器系
 - 第14回 生殖器系
 - 第15回 発生
-

授業以外での学習方法

解剖学は医学を学ぶにあたって最も基礎となる学問です。専門分野を学ぶ度、解剖学の教科書、参考書に立ち戻り、比較、確認される事でより理解を深めることができます

教科書

入門人体解剖学

著者： 藤田恒夫

出版社： 南江堂

出版年：

ISBN：

救急救命士標準テキスト

著者：

出版社： へるす出版

出版年：

ISBN：

参考書

カラー人体解剖

著者： 井上貴央 監訳

出版社：西村書店

出版年： ISBN：

入門組織学

著者：牛木辰男

出版社：南江堂

出版年： ISBN：

ラングマン 人体発生学

著者：安田峯生 訳

出版社：メディカル・サイエンス・インターナショナル

出版年： ISBN：

成績評価

試験（100%）

小テスト（0%）

授業中課題（0%）

授業中発表等（0%）

参加度（0%）

適時行う小テスト・出席状況は、最終判定時考慮する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **生理学**

担当者 浜本 徹・藤野 和典

テーマ

基礎生理学・病態生理学

獲得目標

生命現象を主に機能的側面から学ぶ。人体の生体システムについて恒常性の維持や体組成、細胞などについて学習し、血液、神経系、循環器系などについての正常な生理的機能について理解を深める。さらに異常状態である病態生理についても学ぶ。

授業の内容

内 容

| | | |
|------|----------|--------------------|
| 第1回 | 生体システムⅠ | 生体の構成、細胞の構造、体液の組成 |
| 第2回 | 生体システムⅡ | 生体維持機能 |
| 第3回 | 神経系の機能Ⅰ | 中枢神経系 |
| 第4回 | 神経系の機能Ⅱ | 末梢神経系、運動、知覚 |
| 第5回 | 神経系の機能Ⅲ | 自律神経系、感覚系 |
| 第6回 | 呼吸系の機能Ⅰ | 気道、胸郭 |
| 第7回 | 呼吸系の機能Ⅱ | 肺、酸・塩基平衡 |
| 第8回 | 循環器系の機能Ⅰ | 循環システム |
| 第9回 | 循環器系の機能Ⅱ | 心臓 |
| 第10回 | 血液の機能Ⅰ | 血球成分と血漿成分 |
| 第11回 | 血液の機能Ⅱ | 止血線溶機能と凝固因子 |
| 第12回 | 消化系機能Ⅰ | 消化管機能 |
| 第13回 | 消化系機能Ⅱ | 肝・胆・膵機能 |
| 第14回 | その他 | 泌尿器系、生殖系、内分泌系、免疫機能 |
| 第15回 | まとめ | |

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（70%）

授業中課題（0%）

参加度（30%）

小テスト（0%）

授業中発表等（0%）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急医学総論 I

担当者 夏目 美樹

テーマ

救急救命士の使命・基礎知識と代表的応急処置

獲得目標

救急救命士の業務遂行には、その社会的使命の理解や救急医療制度の理解、そして救急医学を中心とした医学全般の知識が必要となる。本講義では、救急救命の歴史や現代の救急医療について概観し、救急救命士の業務を担保する科学的思考の基礎知識や人間の体、心、くらしへの理解を深める。さらに、救急救命士の行う応急処置と種類、代表的な処置としての心肺蘇生法までを習得し、一連の講義を通して、職業としての救急救命士の具体的なイメージを持てるようにする。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション、医の倫理と生命論理
 - 第2回 救急業務とは・救急業務の沿革
 - 第3回 心肺蘇生法・病院前救護
 - 第4回 科学的思考の基礎・人間と人間生活
 - 第5回 救急救命士の役割と責任
 - 第6回 救急医療体制とは
 - 第7回 救急医療システムとは
 - 第8回 メディカルコントロールとは
 - 第9回 救急救命士に関する法規
 - 第10回 救急活動要領について
 - 第11回 救急活動要領について
 - 第12回 死者の対応要領について
 - 第13回 医療保険等について
 - 第14回 まとめ
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第1巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第3巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第4巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第5巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験（100）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

規定回数の講義参加度に達している者のみ試験評価を実施する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 医療マネジメント入門

担当者 高山 一夫

テーマ

医療マネジメントの入門

獲得目標

医療問題を解決するうえでマネジメントの知見は有益である。この授業では、医療分野におけるマネジメントの基本的な内容について、制度レベル、経営レベル、技術レベルの3つのレベルで理解を深める。

授業の内容

医療マネジメントの3つのレベルについて、それぞれ5回程度に分けて講義する。

内 容

- 第1回 ガイダンスと話題提供
 - 第2回 医療マネジメントの特徴
 - 第3回 医療制度のマネジメント(1) 医療保険制度
 - 第4回 医療制度のマネジメント(2) 医療法
 - 第5回 医療制度のマネジメント(3) 介護保険制度
 - 第6回 医療制度のマネジメント(4) 税と社会保障の一体改革
 - 第7回 医療経営のマネジメント(1) 診療報酬制度と医業経営の現状
 - 第8回 医療経営のマネジメント(2) 医療機関の人的資源管理
 - 第9回 医療経営のマネジメント(3) 医療機関の業務管理
 - 第10回 医療経営のマネジメント(4) 医療機関のファイナンス
 - 第11回 医療技術のマネジメント(1) 医療の経済評価の基礎
 - 第12回 医療技術のマネジメント(2) 費用効果分析とその事例
 - 第13回 医療技術のマネジメント(3) 費用効用分析とその事例
 - 第14回 医療技術のマネジメント(4) 費用便益分析とその事例
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

新聞や雑誌の記事に目を通すなど、医療に対する理解と関心を持つこと。授業中に紹介した参考書などを積極的に読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会調査・フィールドワーク入門**

担当者 高原 正興

テーマ

社会調査・フィールドワークの意義・歴史・類型等、基本的なことについてわかりやすく解説する。

獲得目標

「社会調査士」資格取得に必要な認定科目(A)に対応する授業科目として、社会調査の基本知識を身につける。

授業の内容

下記の教科書に準拠して、社会調査の基本知識を講義形式で展開する。第一に定義・目的・歴史、第二に各種調査の種類を紹介、第三に調査方法や手順の実際に関する内容を概説する。

内 容

- 第1回 社会調査とは何か 社会調査の目的
 - 第2回 社会学と社会調査の歴史
 - 第3回 調査方法論 調査倫理
 - 第4回 量的調査と質的調査
 - 第5回 国勢調査 官庁統計 事業所・企業統計調査 世論調査
 - 第6回 調査票調査
 - 第7回 調査票作成
 - 第8回 サンプリング
 - 第9回 データ化作業
 - 第10回 データ分析
 - 第11回 フィールドワークとはなにか
 - 第12回 フィールドワークの事例
 - 第13回 聞き取り調査 参与観察法
 - 第14回 ドキュメント分析
 - 第15回 (まとめ)社会調査の意義
-

授業以外での学習方法

教科書

社会調査へのアプローチ第2版

著者： 大谷信介他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2005

ISBN： 9.78462E+12

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **統計学基礎論(マ)**

担当者 村上 雅俊

テーマ

獲得目標

本科目は、官庁や企業が公表する統計や調査結果を理解し、あるいは、社会調査を行うときに必要となる「統計学」の基礎的な知識と態度を身につけることを目的としている。授業では、まず、社会調査における「統計」の意味・目的、「データ」の種類・性質、実際の「統計調査」の事例を学び、続いて、「量的なデータ」のうち、「一変量データ」については、単純集計、度数分布、代表値、ばらつきなど、「二変量データ」については、クロス集計、相関関係などの意味、計算の仕方、グラフの読み方・描き方を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第12回 因果関係と相関関係
 - 第13回 疑似相関
 - 第14回 単回帰分析
 - 第15回 順位相関分析
 - 第1回 授業ガイダンス:社会調査と統計学
 - 第2回 調査方法とデータの種類:定性調査と定量調査、質的データと量的データ
 - 第3回 定性調査(フィールドワーク論文)の事例
 - 第4回 定量調査(官庁統計や簡単な調査報告)の事例
 - 第5回 基本統計量:代表値
 - 第6回 基本等計量:ちらばり
 - 第7回 度数分布表とヒストグラム
 - 第8回 正規分布
 - 第9回 様々な図表化
 - 第10回 クロス集計表
 - 第11回 散布図と相関分析
-

授業以外での学習方法

教科書

教科書は使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

a50101d650

遅刻・早退2回を欠席1回とみなし、5回を超えて欠席すると単位を取得できない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ミクロ経済学**

担当者 阪本 崇

テーマ

獲得目標

ミクロ経済学の基礎を学び、身近な現象をミクロ経済学の視点から分析する

授業の内容

ニュースなどを見ている、経済に関わる論説には分かりにくいものが多い。たとえば「最低賃金の引き上げ」のような一見したところ誰もが望ましいように思うことについても、反対意見を述べる経済学者がいたりする。その背後には経済学独特の考え方があり、それをよく理解していないと、必ずしも「絶対」ではない意見を鵜呑みにしたりしてしまうようになる。この授業では、こうした現象を論理的に考えるときの基礎になるミクロ経済学の考え方について学ぶ。

内 容

- 第1回 市場の調整メカニズム:ものの値段はどのように決まるのか?
 - 第2回 消費者余剰と生産者余剰:最低賃金の引き上げは望ましいのか?
 - 第3回 弾力性分析:税金をかけるなら、米かブランドもののバッグか?
 - 第4回 家計と満足の最大化:お金を出して買うのは何個までか?
 - 第5回 家計の行動と予算制約:財布の中身を見て決める
 - 第6回 弾力性と財の種類:必需品と贅沢品の違い
 - 第7回 企業と費用構造:企業は何を指標にして行動を決めているのか?
 - 第8回 損益分岐点と操業停止点:赤字でも生産をやめないのはどうしてか?
 - 第9回 市場と効率性:なぜ、経済学者は市場のはたらきを重視するのか?
 - 第10回 独占と自然独占:企業が大きくなるのは望ましいのか?
 - 第11回 公共財の理論:どうして一般道はタダで使えるのか?
 - 第12回 外部性の理論:エコカー減税はなぜ必要か?
 - 第13回 経済行動とリスク:ギャンブルをする人、しない人
 - 第14回 保険とモラル・ハザード:火災保険はどうして全額補償ではないのか?
 - 第15回 逆選択とクリーム・スキミング:中古車市場は粗悪品ばかり
-

授業以外での学習方法

授業中に課題を出すことがありますので、必ず次の授業までにこなしてきておいて下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (60)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **経営学入門**

担当者 今久保 幸生

テーマ

経営学とは何かを学ぶ

獲得目標

経営学の基礎から最新の理論までを学ばせることを通じて、経営や組織や人、そして現代の経済社会のあり方を理解させる。

授業の内容

経営学の性格、企業・経営の諸類型、経営理論の流れ、組織、戦略、リーダーシップ、人事管理、生産管理、日本的経営、現代社会と経営について、テキストに即しつつ講義するとともに、テキストが触れていない事柄の講義も行う。

内 容

- 第1回 経営学とは何か
 - 第2回 企業の特徴
 - 第3回 企業の分類
 - 第4回 株式会社について
 - 第5回 経営学の発生
 - 第6回 科学的管理法とフォーディズム
 - 第7回 人間関係論
 - 第8回 行動科学と統合理論
 - 第9回 近代管理論からコンティンジャンシー理論へ
 - 第10回 経営組織論
 - 第11回 経営戦略論
 - 第12回 人事管理とリーダーシップ論
 - 第13回 生産管理論
 - 第14回 日本的経営
 - 第15回 現代社会と企業
-

授業以外での学習方法

授業中に示された参考書や関連する新聞記事などを読んで、その日の講義のテーマについてさらに学ぶことが望まれる。

教科書

テキスト経営学[増補版]

著者： 井原久光

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2006年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 マーケティングリサーチ

担当者 岡本 哲弥

テーマ

マーケティング・リサーチを学ぶ。

獲得目標

本科目はマーケティング・リサーチでよく用いられる代表的な統計解析の基本的な考え方と適用方法を習得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 統計解析の概要
 - 第3回 SPSSの基礎
 - 第4回 相関分析
 - 第5回 重回帰分析の理論(1): 最小2乗法と決定係数
 - 第6回 重回帰分析の理論(2): 回帰モデルの仮説検定
 - 第7回 重回帰分析の実際
 - 第8回 因子分析の考え方
 - 第9回 因子分析の実際
 - 第10回 分散分析の考え方
 - 第11回 分散分析の実際
 - 第12回 調査データを用いた分析(1)
 - 第13回 調査データを用いた分析(2)
 - 第14回 レポートの作成(1)
 - 第15回 レポートの作成(2)
-

授業以外での学習方法

マーケティングリサーチを習得するには一歩一歩積み上げていく必要があるので、理解不足の部分は必ず復習して下さい。

教科書

授業において配布予定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (55)

参加度 (45)

小テスト (0)

授業中発表等 ()

a501024150

レポートの評価を重視するので、課題には積極的に取り組む必要があります。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 企業法〈Z〉

担当者 山田 廣己

テーマ

企業(会社)とその法規制

獲得目標

企業(個人企業や会社企業)の組織や活動に関する基本的法律知識を習得する。

授業の内容

個人企業や会社企業(株式会社・合同会社・合資会社・合名会社)の組織や活動と法律による規制を概観する。

内 容

- 第1回 経済活動と企業： 企業の種類、意義、企業活動一般について説明する。
- 第2回 資本主義・市場経済・貨幣(金融)制度： 企業をとりまく資本主義、市場経済原理について、また企業活動に不可欠な金融制度について概説する。
- 第3回 企業をめぐる法規制： 企業の組織や活動に関するさまざまな法律、法規定がある。たとえば、商法、会社法、民法、独占禁止法や金融商品取引法等の法律などに触れる。
- 第4回 企業の組織： 「個人企業」、組合、合名会社、合資会社、合同会社や株式会社の組織を説明し、さらに国内で活動する外国会社にも触れる。
- 第5回 企業の経営者・従業員： 株式会社を経営する取締役や会社の従業員の法的地位や権利義務を説明する。
- 第6回 企業グループ： 会社はグループを作って企業活動を展開する。その法規制を概観する。多国籍企業、合併(ごうべん)企業についても触れる。
- 第7回 企業の資金： 企業(とくに会社)はその活動を展開するために資金を必要とする。その資金調達方法について説明する。金融市場の国際化についても触れる。
- 第8回 投資と利殖(りしょく)： 株式会社が発行する「株式」や「社債」は人々の投資・利殖の対象である。証券や金融商品の取引、商品先物取引、為替取引など活発に行われる。お金は世界を駆け巡っている。その実態を概観し、法規制の概要を見る。
- 第9回 企業の失敗： 企業の事業活動が失敗に終わったとき(倒産)、どのように処理するか説明する。
- 第10回 企業の責任： 企業の社会的責任、会社の法的責任、経営者が負う責任など、企業の組織活動などに関して発生するさまざまな責任を概説する。
- 第11回 競争と独占(1)： 独占禁止法の話をする。
- 第12回 競争と独占(2)： 独占禁止法の話をする。
- 第13回 企業の決済手段(1)： 手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払、つまり企業の決済手段に決済手段について説明する。
- 第14回 企業の決済手段(2)： 手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払い、つまり企業の決済手段について説明する。
- 第15回 総括と理解度チェック

授業以外での学習方法

新聞報道やニュース報道に接し、多くの学生の就職先である企業(会社)の組織活動に興味を持つよう心がけて下さい。

教科書

特に指定しない。

著者： 講義レジュメ配布。

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

携帯用法令集(必ず用意してください)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

授業に出席して講義を聞くことを前提として、講義期間中ごろにレポート提出を求める。最終講義日に小テストを実施する(必ず受験してください)。以上を総合的に判断して評価する。毎回積極的に講義に参加し、集中して話を聞き、積極的に質問してほしい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(マ) <a>**

担当者 李 在鎬

テーマ

経営者の役割(3)

獲得目標

組織を成功に導く経営者の経営理論、戦略立案、リーダーシップについて考察し、現代ビジネス学習の楽しさを覚えるとともに、文献の読解能力、レジュメとして纏める能力、発表能力など、大学教育の基礎を身に付けることを獲得目標とする。

授業の内容

名経営者の伝記や文献を輪読・発表・議論し、読解力、探求能力を鍛える。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第8回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第9回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第14回 マネジメント現場の見学、又は理解度チェック
- 第15回 全体の総括、マネジメント現場の見学、又は理解度チェック

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

幸之助論

著者: ジョン・P・コッター

出版社: ダイヤモンド社

出版年: 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (30)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

a50102a110

2/3以上の出席率が単位認定の前提条件となります。基本的に2回以上の報告と討論への積極的な参加が求められます。最終回の理解度テストは筆記試験か口頭試問で行われます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(マ) **

担当者 高原 正興

テーマ

大学のゼミ形式の学習方法に習熟する

獲得目標

新書版のテキストを読んで、発表者はレジユメを作り、みんなが討論に参加して、レポートを作成する能力を身につける。

授業の内容

テキストの講読・発表・討論

内 容

- 第14回 学生による発表・討論(13)
 - 第15回 総括
 - 第1回 ゼミの運営についてのガイダンスとゼミ生の自己紹介
 - 第2回 学生による発表・討論(1)
 - 第3回 学生による発表・討論(2)
 - 第4回 学生による発表・討論(3)
 - 第5回 学生による発表・討論(4)
 - 第6回 学生による発表・討論(5)
 - 第7回 学生による発表・討論(6)
 - 第8回 学生による発表・討論(7)
 - 第9回 学生による発表・討論(8)
 - 第10回 学生による発表・討論(9)
 - 第11回 学生による発表・討論(10)
 - 第12回 学生による発表・討論(11)
 - 第13回 学生による発表・討論(12)
-

授業以外での学習方法

テキストをよく読んで、十分に準備した上でゼミに参加すること

教科書

商店街はなぜ減ひるのか

著者: 新雅史

出版社: 光文社新書

出版年: 2012

ISBN: 9.78433E+12

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(マ) <c>**

担当者 河野 充央

テーマ

経済の仕組みと企業経営

獲得目標

グローバルな経済の動きが企業経営に及ぼす影響の本質について、経済理論を学びながら修得する。

授業の内容

報告とディスカッションを中心に進める。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 外国為替市場の仕組み(1)
 - 第3回 外国為替市場の仕組み(2)
 - 第4回 外国為替市場の仕組み(3)
 - 第5回 外国為替市場の仕組み(4)
 - 第6回 為替の企業経営得の影響
 - 第7回 日銀の金融政策(1)
 - 第8回 日銀の金融政策(2)
 - 第9回 日銀の金融政策(3)
 - 第10回 日銀の金融政策(4)
 - 第11回 金融政策の企業経営への影響
 - 第12回 政府の財政政策(1)
 - 第13回 政府の財政政策(2)
 - 第14回 財政政策の企業経営への影響
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

日経新聞や日経ビジネス等の、タイムリーな経済情報をプリントで配布する。テレビ、インターネット等も含め、こうした経済記事に積極的にアプローチすること。

教科書

経済のニュースがよくわかる本

著者： 細野真宏

出版社： 小学館

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (15)

参加度 (70)

小テスト (15)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(マ) <d>**

担当者 今久保 幸生

テーマ

経営戦略を考える。

獲得目標

経営戦略に関するテキストの輪読を通じて、企業・経営がその経営戦略の実行を通じて経済社会にどのような役割を演じているか、について理解させる。並行して、書物や人の意見を批評し、自分の考えを論理的に提示できる力を身につけさせる。

授業の内容

テキストの輪読による、要旨の報告、論点の提示、司会の主導による討論を行う。

内 容

- 第1回 演習の進め方に関するガイダンス、報告分担決定など。
 - 第2回 テキストの輪読・討論1
 - 第3回 テキストの輪読・討論2
 - 第4回 テキストの輪読・討論3
 - 第5回 テキストの輪読・討論4
 - 第6回 テキストの輪読・討論5
 - 第7回 テキストの輪読・討論6
 - 第8回 テキストの輪読・討論7
 - 第9回 テキストの輪読・討論8
 - 第10回 テキストの輪読・討論9
 - 第11回 テキストの輪読・討論10
 - 第12回 テキストの輪読・討論11
 - 第13回 テキストの輪読・討論12
 - 第14回 テキストの輪読・討論13
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

経営戦略に関する参考書、新聞雑誌を読み、また映像など見ることによって、演習のテーマに関する理解を深める。

教科書

経営戦略をつかむ

著者： 浅羽茂・牛島辰男

出版社： 有斐閣

出版年： 2010年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(マ) <e>**

担当者 高山 一夫

テーマ

学習スキルの向上と学習習慣の確立

獲得目標

演習の前半では専門科目の学習への動機付けを兼ねて映像教材を用いた学習を行う。後半ではテキストを用いてグループ・ワークを行い、そこで得た知見や主張について討論する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 医療問題の学習と討論(1) 医療問題 1章
 - 第3回 医療問題の学習と討論(2) 医療問題 1章続き
 - 第4回 医療問題の学習と討論(3) 医療問題 2章
 - 第5回 医療問題の学習と討論(4) 医療問題 2章続き
 - 第6回 医療問題の学習と討論(5) 医療問題 3章
 - 第7回 医療問題の学習と討論(6) 医療問題 3章続き
 - 第8回 医療問題の学習と討論(7) 医療問題 4章
 - 第9回 医療問題の学習と討論(8) 医療問題 4章続き 中間まとめと確認テスト
 - 第10回 時事問題の学習と討論(1) 社会人の生き方 1章
 - 第11回 時事問題の学習と討論(2) 社会人の生き方 2章
 - 第12回 時事問題の学習と討論(3) 社会人の生き方 3章
 - 第13回 時事問題の学習と討論(4) 社会人の生き方 4章
 - 第14回 時事問題の学習と討論(5) 社会人の生き方 5章
 - 第15回 全体のまとめと確認テスト
-

授業以外での学習方法

テキストの予習と復習、グループワークに積極的に参加すること。学習ポートフォリオを作成し、学習内容や配布物を各自保存すること。

教科書

社会人の生き方

著者： 暉峻淑子

出版社： 岩波新書

出版年： 2012

ISBN： 9.784E+12

医療問題 第4版

著者： 池上直己

出版社： 日本経済新聞社

出版年： 2010

ISBN： 9.78453E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(救) <a>**

担当者 志賀 亮一

テーマ

政治経済基礎知識の簡潔

獲得目標

基礎演習Ⅰ & Ⅱの続きとして、現代社会の政治・経済の基礎知識を身につけ、キャリア形成の基盤を形成する。

授業の内容

レジュメをもととした講義に政治経済の基礎知識を学んだのち、毎回受講生数名を指名して小テスト問題の作成を課す。つぎの回にはその小テストによって前回の学びを確実なものとする。

内 容

- 第1回 日本の政治制度1(司法と地方自治)
 - 第2回 日本の政治制度2(選挙と政党)
 - 第3回 行政の課題
 - 第4回 国際政治1(国際社会と国連)
 - 第5回 国際政治2(冷戦)
 - 第6回 国際政治3(軍縮と国際紛争)
 - 第7回 戦後の日本外交+中間テスト
 - 第8回 戦後日本経済の歴史
 - 第9回 戦後日本経済の問題点1(農業・中小企業・消費者)
 - 第10回 戦後日本経済の問題点2(公害と環境)
 - 第11回 戦後日本経済の問題点3(労働・社会保障)
 - 第12回 国際経済1(国際収支)
 - 第13回 国際経済2(国際通貨体制)
 - 第14回 国際経済3(諸問題と日本)
 - 第15回 まとめとテスト
-

授業以外での学習方法

新聞の政治欄、経済欄を毎日読むこと

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

出席不良者、小テスト作問改題未提出者は単位を認定しない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(救) **

担当者 土井 一弘

テーマ

獲得目標

救急救命士に必要な数的推理の基礎を身につける

授業の内容

内 容

- 第1回 資料解釈
 - 第2回 空間把握
 - 第3回 指数
 - 第4回 対数
 - 第5回 二次関数
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **救急疾病 I**

担当者 小尾口 邦彦・福井 道彦

テーマ

呼吸器系(総論)・循環器系(総論)・神経系の疾病の理解

獲得目標

呼吸系・循環系を中心に構造と機能、観察と診断法、疾患に応じた症状の特徴、さらに応急処置と搬送法について学習する。また関連して、呼吸困難、喀血、発熱、胸痛、動悸・不整脈などの症候や、高齢者に特有の疾患について、原因と病態、観察・判断応急処置と搬送までの修得を目指す。この他、神経系の疾患などについても理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 呼吸器①解剖と生理1
- 第2回 呼吸器②解剖と生理2
- 第3回 呼吸器③呼吸器疾患の病態生理
- 第4回 呼吸器④疾患の診断 問診・症状・理学所見、検査 喀血、呼吸困難、胸痛など ※小テスト(呼吸器分野)
- 第5回 循環器①解剖と生理1
- 第6回 循環器②解剖と生理2
- 第7回 循環器③病態生理 循環電気生理
- 第8回 循環器④病態生理疾患の診断 問診・症状・理学所見、胸痛、呼吸困難、動悸・不整脈、発熱 ※小テスト(循環器分野)
- 第9回 神経系①解剖・生理1 脳神経
- 第10回 神経系②解剖生理2 脊髄・末梢神経
- 第11回 神経系③主要な神経症候 神経感染症、脳血管障害、脊髄疾患感覚系疾患、その他神経疾患
- 第12回 神経系④脳血管障害、神経外傷学 ※小テスト(神経系分野)
- 第13回 高齢者に特有の疾患① 原因と病態
- 第14回 高齢者に特有の疾患② 高齢者をめぐる社会状況 観察・判断、処置・搬送
- 第15回 まとめ ※13～15講はワークショップ形式で高齢者問題を考え、グループ発表とレポート提出を予定している。

授業以外での学習方法

高齢者の授業はワークショップ形式で「高齢社会の問題と対策」を行います。高齢者との暮らしについて各自考えておくこと。救急救命士標準テキスト「健康と社会保障」(上巻P.175)の章・インターネット他を参照のこと。

教科書

参考書

成績評価

- | | |
|-------------|-------------|
| 試験 (0%) | 小テスト (30%) |
| 授業中課題 (20%) | 授業中発表等 (0%) |
| 参加度 (50%) | |

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急症候学 I

担当者 藤野 和典

テーマ

外傷総論

獲得目標

救急医療のうち、特に外傷救急医学について学ぶ。外傷とは機械的外力により身体が形態的、機能的に障害を被ることであり、損傷の種類や緊急度の評価により適切な処置を習得する。また外傷を引き起こす原因・メカニズムや(受傷機転)、複数以上の部位に一定以上の重症度を有する外傷(多発外傷)の特徴や病態・症状、観察と応急処置なども理解する。なお、各授業の始めに前回の授業内容に関する小テストを毎回行います。

授業の内容

内 容

- 第1回 外傷総論 外傷の定義と種類、疫学
 - 第2回 出血と止血機構、創傷と感染 出血の種類と病態生理、創傷の治療機転
 - 第3回 受傷機転、損傷の特徴 外傷別発生機序とそれらの特徴
 - 第4回 多発外傷 多発外傷の病態と観察・処置
 - 第5回 妊婦・小児・高齢者の外傷 特徴と観察・処置
 - 第6回 ショックについて 原因と分類
 - 第7回 ショックの病態生理 生体反応と重症度
 - 第8回 観察と判断 観察のポイント
 - 第9回 重症度評価 状況評価と重症度評価のポイント
 - 第10回 応急処置と搬送 初期評価と応急処置
 - 第11回 応急処置と搬送 搬送時の注意点
 - 第12回 演習
 - 第13回 演習
 - 第14回 まとめ
 - 第15回 試験とまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60%)

授業中課題 (0%)

参加度 (10%)

小テスト (30%)

授業中発表等 (0%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急医学総論Ⅲ

担当者 河原 宣子・磯見 智恵・奥野 信行・松本 賢哉

テーマ

局所所見観察と在宅処置、看護、リスクマネジメントなど

獲得目標

救急現場では、傷病者とその周囲の状況を短時間で情報収集し、まず何をすべきかの判断を下さなくてはならない。そのために必要な環境観察と傷病者観察の意義を学び、全身・局所観察の基本を習得する。さらに患者の増加に伴い重要となる在宅療養者に対する救急活動時の問題と在宅医療の知識、処置の方法について習得する。また感染とその予防、安全管理とリスクマネジメント、看護概念と救急医療についても理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 生命倫理とは【河原 宣子】
 - 第2回 安全管理とリスクマネジメント(1)【松本 賢哉】
 - 第3回 安全管理とリスクマネジメント(2)【松本 賢哉】
 - 第4回 観察(局所)(1)【奥野 信行】
 - 第5回 観察(局所)(2)【奥野 信行】
 - 第6回 看護について【河原 宣子】
 - 第7回 看護について【河原 宣子】
 - 第8回 接遇演習【河原 宣子】
 - 第9回 感染症とは【磯見 智恵】
 - 第10回 消毒と滅菌について、清潔操作【磯見 智恵】
 - 第11回 在宅療養者に対する処置(1)
 - 第12回 在宅療養者に対する処置(2)
 - 第13回 在宅療養者に対する処置(3)
 - 第14回 在宅療養者に対する処置(4)
 - 第15回 まとめ【河原 宣子】
-

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **救急症候学Ⅱ**

担当者 北川 一智・松井 道宣・山木 垂水・榊原 毅彦

テーマ

ショック概念と様々な外傷の症状、処置・搬送方法の習得を目指す

獲得目標

医学用語としてのショック概念を学び、その原因と分類を理解する。また外傷に伴うショック(外傷性ショック)の分類とそれぞれの原因、病態生理と観察と判断法を習得する。さらに、腹部外傷、胸部外傷、頭部外傷について発生機序と病態、それぞれの外傷の種類について理解を深める。このほか感染症と救急、死の概念についても学習する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ショックについて 原因・病態生理、循環不全
 - 第2回 ショックの観察と判断 応急処置と搬送
 - 第3回 外傷性ショック 原因と分類
 - 第4回 外傷性ショックの病態生理 観察と判断
 - 第5回 腹部外傷① 解剖、発生機序と病態・主な腹部外傷
 - 第6回 腹部外傷② 症状と観察、判断・応急処置・搬送等
 - 第7回 胸部外傷① 解剖、主な胸部外傷
 - 第8回 胸部外傷② 症状と観察、判断・応急処置・搬送等
 - 第9回 顔面・頸部外傷① 解剖、主な顔面・頸部外傷
 - 第10回 顔面・頸部外傷② 症状と観察、判断・応急処置・搬送等
 - 第11回 頭部外傷① 解剖、発生機序と病態、外傷の分類と主な損傷
 - 第12回 頭部外傷② 頭部外傷続発症、後遺症、小児・高齢者の頭部外傷、症状と観察、判断・処置運送等
 - 第13回 熱傷、電撃症他、化学損傷、異物、縊頸・絞頸、刺咬症 外傷関連特殊感染症
 - 第14回 感染症と救急、死の概念と判定
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 人的資本の経済学

担当者 阪本 崇

テーマ

人間の能力の形成とその有効活用について経済的視点から分析する

獲得目標

教育や技能の持つ意味を人的資本の概念を使って分析できるようになる

授業の内容

天然資源の豊かな国や国土の広い国、人口の多い国が必ずしも経済的に豊かな国ではないことからわかるように、社会が保有している資源がいくら豊かであったとしても、それを有効に活用する知識や技術がなければ、経済は発展しない。そこでポイントになるのが、人間の持つ能力であるが、これを経済学では「人的資本」としてとらえる。この授業では経済の中で人的資源はどのように蓄積され、また、どのようにすれば有効に利用されるのかを、教育経済学や労働経済学の視点から学ぶ。

内 容

- 第1回 人的資本とは何か：T.シュルツの発見とI.フィッシャーの資本理論
 - 第2回 成長のエンジンとしての人的資本
 - 第3回 労働供給の理論
 - 第4回 失業とその類型
 - 第5回 ささまざまな労働者のグループと知的熟練
 - 第6回 OJTとOffJT
 - 第7回 年功賃金と長期雇用の意味
 - 第8回 内部労働市場と昇進
 - 第9回 人的資本の基礎理論
 - 第10回 人的資本投資の直接的費用と間接的費用
 - 第11回 一般訓練と特殊訓練
 - 第12回 シグナルとしての教育
 - 第13回 教育財政の日本の特徴と公的支援の根拠
 - 第14回 資本市場の不完全性と所得連動型教育ローン
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

きちんと復習をしてノートを仕上げてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 ()

小テスト (80)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **経営戦略論 I**

担当者 今久保 幸生

テーマ

経営戦略の基礎

獲得目標

経営戦略に関する教科書を説明し検討することを通じて、経営戦略の基礎を理解させる。

授業の内容

次の内容からなる。①経営戦略の諸理論を順に検討する。②主要な諸国・地域の経営戦略の類型を米欧亜日の順に説明する。③以上の理論と類型を総括することによって、経営戦略の基礎を理解させる。

内 容

- 第1回 経営戦略とは何か
 - 第2回 戦略を立てる
 - 第3回 戦略の策定I
 - 第4回 戦略の策定II
 - 第5回 競争の戦略I
 - 第6回 競争の戦略II
 - 第7回 成長の戦略I
 - 第8回 成長の戦略II
 - 第9回 ネットワーク戦略I
 - 第10回 ネットワーク戦略II
 - 第11回 グローバル戦略I
 - 第12回 グローバル戦略II
 - 第13回 地域企業の戦略
 - 第14回 経営戦略と社会
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

参考書で学んだり新聞やインターネットなど知った様々な経営戦略の実践や考え方を、授業で取り扱われたさまざまな経営戦略の側面と照らし合わせればどうなるか、を考えてみよう。

教科書

経営戦略 新版

著者： 大滝精一・金井一頼・山田英夫・岩田智

出版社： 有斐閣アルマ

出版年： 2008年

ISBN：

参考書

経営戦略をつかむ

著者： 浅羽茂・牛島辰男

出版社： 有斐閣

出版年： 2010年

ISBN：

成績評価

a50102d310

試験 (50)
授業中課題 ()
参加度 (20)

小テスト (30)
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **経営組織論**

担当者 李 在鎬

テーマ

経営組織の基本原理を学ぶ。

獲得目標

経営組織の全体像を把握した上で、主要理論について理解を深めることが本教科の目的である。

授業の内容

経営組織の概要及び、ミクロ理論(個人と組織間の関係からとらえる観点)とマクロ理論(環境の中で機能するシステムとして捉える視点)の諸理論を学習する。

内 容

- 第1回 講義概要と経営組織論の概要説明
 - 第2回 多様な組織観
 - 第3回 組織論における人間観
 - 第4回 モチベーション
 - 第5回 個人と組織との関係
 - 第6回 集団と組織
 - 第7回 組織とリーダーシップ
 - 第8回 前半内容の総括及び理解度チェック
 - 第9回 組織文化
 - 第10回 経営戦略と組織
 - 第11回 分業の形態
 - 第12回 組織設計の原理
 - 第13回 組織構造、またはDVD資料鑑賞
 - 第14回 組織変革
 - 第15回 後半内容の総括及び理解度チェック
-

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお薦めします。

教科書

経営組織

著者: 金井壽宏

出版社: 日本経済新聞出版社

出版年: 2006

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 (0)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a50102d510

2/3以上の出席率が単位認定の前提条件となります。テスト以外の見なし評価は原則的に認めておりません。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 人的資源管理論

担当者 李 在鎬

テーマ

組織成員を最も大事な経営資源として捉え、組織成員が成長でき、且つ人的資源を最大限に活用及び拡大再生産できる組織のあり方を学ぶ分野である。

獲得目標

企業などの組織内で行われている採用、職務設計、人事考課、報酬、昇進、人材育成に関する手法とその根幹をなす諸理論を理解することが本教科の主要な獲得目標である。

授業の内容

授業の前半において人的資源開発の基本的な概念を習い、後半では関連理論を学習する。

内 容

- 第1回 労務管理の概要
 - 第2回 採用と退職
 - 第3回 人事異動
 - 第4回 人事制度
 - 第5回 能力開発
 - 第6回 職場の能率
 - 第7回 労働条件と職場環境
 - 第8回 人的資源管理の制度とコンセプトの総括
 - 第9回 古典的組織理論
 - 第10回 人間関係論
 - 第11回 モチベーション論(1)
 - 第12回 モチベーション論(2)
 - 第13回 リーダーシップ論(1)またはDVD資料鑑賞
 - 第14回 リーダーシップ論(2)
 - 第15回 人的資源の関連理論の総括
-

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

参考書

労務管理と人的資源管理の構図

著者： 赤岡功・日置弘一郎

出版社： 中央経済社

出版年： 2005

ISBN:

成績評価

試験 (80)

授業中課題 (0)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a50102d710

2/3以上の出席率が単位認定の前提条件となります。講義資料は授業中配られます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **マーケティング論 I**

担当者 岡本 哲弥

テーマ

現実のマーケティングへの理解を深める

獲得目標

今日のビジネス、特にマーケティングや流通に関する新聞記事などを読みこなせる(理論的に把握できる)だけのマーケティング論の知識を修得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス／マーケティングとは
 - 第2回 製品
 - 第3回 価格
 - 第4回 流通
 - 第5回 プロモーション
 - 第6回 セグメンテーション
 - 第7回 製品ライフサイクル
 - 第8回 市場地位別のマーケティング戦略
 - 第9回 業界の競争構造分析
 - 第10回 事業とドメイン
 - 第11回 全社・事業戦略
 - 第12回 消費者行動論
 - 第13回 サービス・マーケティング
 - 第14回 演習
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

日頃、新聞やテレビなどの企業経営やマーケティングの報道に注意を向け、授業で学んだマーケティング論の視点から解釈するように心がける。

教科書

資料を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (70)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 応用簿記演習 I

担当者 山本 耕二

テーマ

複式簿記の基礎分野を含めて応用分野を学習して行く

獲得目標

決算に関連する項目を学習し財務諸表を作成する能力を身につける 特殊商品売買など簿記の応用分野を理解する

授業の内容

本講座は昨年度開講された会計学概論bの承継講座です。同講座を受講した学生が望ましい。前半は日商簿記3級レベルの内容で主に決算に関連した内容を学習する 後半は日商簿記2級レベルで商業簿記の内容を学習する

内 容

- 第1回 売掛金、買掛金元帳 商品有高帳 各勘定と補助簿の関係
 - 第2回 伝票会計 売上原価の計算
 - 第3回 精算表の作成 貸倒れ、貸倒引当金
 - 第4回 有形固定資産の減価償却、売却 費用・収益の繰延べ
 - 第5回 費用・収益の見越し 消耗品の決算処理 現金過不足
 - 第6回 売買目的有価証券 引出金勘定 精算表の作成
 - 第7回 総勘定元帳、仕訳帳の締切り 損益計算書および貸借対照表の作成
 - 第8回 簿記一巡の手続きと財務諸表
 - 第9回 銀行勘定調整表
 - 第10回 有価証券
 - 第11回 商品売買
 - 第12回 特殊商品売買(1)
 - 第13回 特殊商品売買(2)
 - 第14回 特殊商品売買(3)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

簿記を理解するには予習及び復習が必要です。毎回宿題を出しますから、しっかり自宅学習することが大切です。

教科書

完全合格のための日商簿記3級テキスト

著者： 大原簿記学校編

出版社： 大原出版

出版年：

ISBN：

完全合格のための日商簿記2級商業簿記テキスト

著者： 大原簿記学校編

出版社： 大原出版

出版年：

ISBN：

参考書

完全合格のための日商簿記3級問題集

著者： 大原簿記学校編

出版社：大原出版

出版年：

ISBN：

完全合格のための日商簿記2級商業簿記問題集

著者：大原簿記学校編

出版社：大原出版

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（40）

小テスト（10）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（30）

参考URL

山本耕二税理士事務所

<http://homepage3.nifty.com/tax-yamamoto>

追加的な連絡事項を掲示する

2013 Syllabus

科目名 **企業と法**

担当者 山田 廣己

テーマ

企業(会社)とその法規制

獲得目標

企業(個人企業や会社企業)の組織や活動に関する基本的法律知識を習得する。

授業の内容

個人企業や会社企業(株式会社・合同会社・合資会社・合名会社)の組織や活動と法律による規制を概観する。

内 容

- 第1回 経済活動と企業： 企業の種類、意義、企業活動一般について説明する。
- 第2回 資本主義・市場経済・貨幣(金融)制度： 企業をとりまく資本主義、市場経済原理について、また企業活動に不可欠な金融制度について概説する。
- 第3回 企業をめぐる法規制： 企業の組織や活動に関するさまざまな法律、法規定がある。たとえば、商法、会社法、民法、独占禁止法や金融商品取引法等の法律などに触れる。
- 第4回 企業の組織： 「個人企業」、組合、合名会社、合資会社、合同会社や株式会社の組織を説明し、さらに国内で活動する外国会社にも触れる。
- 第5回 企業の経営者・従業員： 株式会社を経営する取締役や会社の従業員の法的地位や権利義務を説明する。
- 第6回 企業グループ： 会社はグループを作って企業活動を展開する。その法規制を概観する。多国籍企業、合併(ごうべん)企業についても触れる。
- 第7回 企業の資金： 企業(とくに会社)はその活動を展開するために資金を必要とする。その資金調達方法について説明する。金融市場の国際化についても触れる。
- 第8回 投資と利殖(りしょく)： 株式会社が発行する「株式」や「社債」は人々の投資・利殖の対象である。証券や金融商品の取引、商品先物取引、為替取引など活発に行われる。お金は世界を駆け巡っている。その実態を概観し、法規制の概要を見る。
- 第9回 企業の失敗： 企業の事業活動が失敗に終わったとき(倒産)、どのように処理するか説明する。
- 第10回 企業の責任： 企業の社会的責任、会社の法的責任、経営者が負う責任など、企業の組織活動などに関して発生するさまざまな責任を概説する。
- 第11回 競争と独占(1)： 独占禁止法の話をする。
- 第12回 競争と独占(2)： 独占禁止法の話をする。
- 第13回 企業の決済手段(1)： 手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払、つまり企業の決済手段に決済手段について説明する。
- 第14回 企業の決済手段(2)： 手形(約束手形・為替手形)や小切手など金銭の支払い、つまり企業の決済手段について説明する。
- 第15回 総括と理解度チェック

授業以外での学習方法

新聞報道やニュース報道に接し、多くの学生の就職先である企業(会社)の組織活動に興味を持つよう心がけて下さい。

教科書

特に指定しない。

著者： 講義レジュメ配布。

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

携帯用法令集(必ず用意してください)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

授業に出席して講義を聞くことを前提として、講義期間中ごろにレポート提出を求める。最終講義日に小テストを実施する(必ず受験してください)。以上を総合的に判断して評価する。毎回積極的に講義に参加し、集中して話を聞き、積極的に質問してほしい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **企業と産業の経済学**

担当者 大畑 貴裕

テーマ

獲得目標

内部組織の経済学、産業組織論の基礎を学び、企業や産業を経済学的な視点から分析することができる力を身につける

授業の内容

経済学を学び始めた多くの学生が、経済学の教科書では企業や産業の扱いが余りにも小さいことに疑問を感じるはずである。現実の社会では生産者は複雑な組織である場合が普通であり、また、複数の組織が多様な関係を形成しながら生産活動を行っているということは常識であるのに対し、初歩的なマイクロ経済学の教科書などでは、企業はそれ自体が意志決定する能力を持つ点のようにとらえられ、また企業と企業の間にはほとんど何の関係もないかのように想定されているように見えるからである。こうした現実の企業活動、あるいは産業活動を分析するのが、内部組織の経済学や産業組織論である。この2つの経済学の分野をテーマとするこの授業では、取引費用やゲーム理論の基本的な考え方を基礎にして、そもそもなぜ企業は存在するのか、企業の中で権限はどう配分されるべきか、寡占市場(生産者がごく少数の場合の市場)で企業はどのような行動を行うか、どのような場合に企業は垂直統合(たとえば部品メーカーと組み立て企業の統合)が行われるのかといったトピックを学習しながら、内部組織の経済学や産業組織論の基礎を修得する。

内 容

- 第1回 イントロダクション:経済学は企業や産業をどのように見ているか?いくつかの比喻
 - 第2回 取引費用の概念とコースの定理
 - 第3回 なぜ企業は存在するのか
 - 第4回 隠れた情報とモラル・ハザード
 - 第5回 エイジェンシー理論(依頼人=代理人関係の理論)
 - 第6回 所有と経営の分離をどのように理解するか
 - 第7回 中間のまとめ
 - 第8回 企業の費用構造と独占企業の行動
 - 第9回 潜在的参入者の役割
 - 第10回 価格の差別化と製品の差別化
 - 第11回 寡占市場における企業行動とゲーム理論の基礎
 - 第12回 川上産業(部品メーカー)と川下産業(組み立てメーカー)の関係
 - 第13回 垂直的統合と権限の配分
 - 第14回 ネットワーク外部性(OSと市場支配力)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (80)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **医療政策論**

担当者 高山 一夫

テーマ

格差拡大社会における社会保障制度の役割と課題

獲得目標

医療・福祉制度を中心に日本の社会保障制度に関する基本的な知識を習得するとともに、格差拡大社会を生き抜くための基本的なリテラシーを身につける。

授業の内容

社会保障制度とりわけ医療・介護制度の現状と課題について講義し、貧困や格差が拡大する日本社会のあり方について理解を深める。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 貧困・格差と社会保障の理念
 - 第3回 社会保障の制度と財源
 - 第4回 医療制度の現状と課題(1) 医療保険制度
 - 第5回 医療制度の現状と課題(2) 医療提供体制
 - 第6回 医療制度の現状と課題(3) 医療制度の改革
 - 第7回 介護保険制度
 - 第8回 中間まとめと確認テスト
 - 第9回 公的扶助、医療扶助
 - 第10回 労災保険と雇用保険
 - 第11回 社会福祉
 - 第12回 公的年金とライフプラン
 - 第13回 社会保障制度の国際比較(1)
 - 第14回 社会保障の国際比較(2)
 - 第15回 講義全体のまとめと確認テスト
-

授業以外での学習方法

授業中で指示する参考文献にできるだけ目を通すとともに、医療問題や社会保障に関する新聞、雑誌記事等に注意を払ってください。

教科書

はじめての社会保障

著者： 棕野美智子・田中耕太郎

出版社： 有斐閣

出版年： 2012

ISBN： 9.78464E+12

国民衛生の動向

著者： 厚生労働統計協会

出版社： 厚生労働統計協会

出版年：

ISBN：

国民の福祉の動向

著者： 厚生労働統計協会

出版社： 厚生労働統計協会

出版年：

ISBN：

保険と年金の動向

著者： 厚生労働統計協会

出版社： 厚生労働統計協会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（50）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（50）

理解度の確認のために小テストを実施します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I (マ)

担当者 河野 充央

テーマ

財務管理の研究

獲得目標

財務諸表の分析をとおりて企業経営の良否の判断をする。最終的に、実際に企業が作成提出する有価証券報告書に掲載された財務諸表を分析する能力を身につける。

授業の内容

内 容

- 第1回 資金管理と財務諸表
 - 第2回 財務分析と比較
 - 第3回 収益性の分析法(1)
 - 第4回 収益性の分析法(2)
 - 第5回 収益性の分析法(3)
 - 第6回 生産性の分析法(1)
 - 第7回 生産性の分析法(2)
 - 第8回 生産性の分析法(3)
 - 第9回 流動性の分析法(1)
 - 第10回 流動性の分析法(2)
 - 第11回 流動性の分析法(3)
 - 第12回 損益分岐点分析(1)
 - 第13回 損益分岐点分析(2)
 - 第14回 成長性の分析法
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

日経新聞や日経ビジネスのタイムリーな記事を、プリントで適宜配布する。積極的にアプローチしてもらいたい。

教科書

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

原価計算

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (15)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I (マ) <c>

担当者 岡本 哲弥

テーマ

「マーケティング」を中心テーマとして据え、マーケティング・リサーチ(プロジェクト・リサーチ)の内容で演習を進める。

獲得目標

プロジェクト・リサーチにおいて、マーケティング・リサーチや商品企画を立案することを通じて、企画能力を養成する。ゼミのメンバーとのリサーチ・プロジェクト、講演会への参加等を通じて、コミュニケーション力、プレゼンテーション力などビジネスで求められるスキルを養うことである。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 グループ分け
 - 第3回 テーマの選定
 - 第4回 調査問題の検討
 - 第5回 仮説の構成
 - 第6回 調査企画の立案
 - 第7回 標本抽出の方法
 - 第8回 調査票の作成(1)
 - 第9回 調査票の作成(1)
 - 第10回 調査の実施
 - 第11回 データ分析(1)
 - 第12回 データ分析(2)
 - 第13回 報告書の作成
 - 第14回 報告結果の発表
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

※夏季期間中に合宿を企画する場合がある。※進捗状況に応じて、上記の順番を変更することがある。※学外授業を実施する可能性がある。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (45)

小テスト (0)

授業中発表等 (25)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I (マ) <d>

担当者 李 在鎬

テーマ

スティーブ・ジョブズの伝記を輪読し、経営戦略とリーダーシップの実践について理解を深める。

獲得目標

ゼミの研究テーマについて学習するとともに、卒業研究において、しっかり先行研究を吟味し、理論的な脈絡の中で、自分の経営学研究を位置づけるため、必読の代表的な論文を読み、読解力、発表力を鍛えるのが本教科の目的である。

授業の内容

スティーブ・ジョブズの伝記を輪読し、グローバルな視点から、経営戦略とリーダーシップのあり方について議論する。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第3回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第4回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第5回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第6回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第7回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第8回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第9回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第10回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第11回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第12回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第13回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第14回 全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック ※尚、この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。
- 第15回 全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック ※尚、この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

スティーブ・ジョブズ I

著者: ウォルター・アイザックソン

出版社: 講談社

出版年: 2011年

ISBN:

スティーブ・ジョブズ II

著者: ウォルター・アイザックソン

出版社: 講談社

出版年: 2011年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (80)

参加度 (20)

2/3以上の出席率が単位認定の前提条件となります。基本的に2回以上の発表、積極的な議論への参加が求められます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I (マ) <e>

担当者 高山 一夫

テーマ

医療マネジメントについて考える。

獲得目標

医療マネジメントに関する知見を深めるとともに、受講生相互の交流を通じて、各自の研究テーマや将来の進路について考える。

授業の内容

グループワーク並びにテキストを用いた発表と討論を通じて、卒業研究をまとめるために必要な各種のスキルを学ぶ。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 グループワーク(1)
 - 第3回 グループワーク(2)
 - 第4回 グループワーク(3)
 - 第5回 グループワークのまとめ
 - 第6回 テキストを用いた討論(1)
 - 第7回 テキストを用いた討論(2)
 - 第8回 テキストを用いた討論(3)
 - 第9回 テキストを用いた討論(8)
 - 第10回 テキストを用いた討論(9)
 - 第11回 テキストを用いた討論(10)
 - 第12回 テキストを用いた討論(11)
 - 第13回 テキストを用いた討論(12)
 - 第14回 学外授業
 - 第15回 演習全体のまとめ(ゼミ合宿) ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

自主ゼミ(医療マネジメント研究会)も活用しつつ、積極的に学習する習慣を保持して下さい。

教科書

日本の医療

著者: 島崎謙治

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2011

ISBN: 9.78413E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I (マ) <f>

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文作成のための文献調査方法・文章作成方法

獲得目標

卒業論文作成の基礎となる調査能力・文章力を身につける

授業の内容

専門演習 I・II では、4回生で卒業論文を書くための準備を行う。専門演習 I では、各個人がテーマを決めて、半年間をかけて文献レポートを作成する。テーマは自分自身の関心に応じて選んでよい。最初にレポート・論文を書くための基礎的な文章作成方法や文献調査方法などを学んだ上で、それぞれの進捗状況に合わせて中間報告を行う。レポート・論文の書き方について、参考書をいくつか挙げておくが、これ以外にもたくさん刊行されているので、自分にあったものを選んでよい。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 文献・資料の調べ方
 - 第3回 テクニカル・ライティング入門(1)
 - 第4回 テクニカル・ライティング入門(2)
 - 第5回 レポート発表 I (1)
 - 第6回 レポート発表 I (2)
 - 第7回 レポート発表 I (3)
 - 第8回 中間のまとめ
 - 第9回 レポート発表 II (1)
 - 第10回 レポート発表 II (2)
 - 第11回 レポート発表 II (3)
 - 第12回 レポート発表 II (4)
 - 第13回 レポート発表 II (5)
 - 第14回 レポート発表 II (6)
 - 第15回 半年間のまとめ
-

授業以外での学習方法

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

a501030115

授業の最後に作成した文献レポートを提出する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I (マ) <g>

担当者 高原 正興

テーマ

研究課題の設定と社会病理学系の講読

獲得目標

ゼミ生の社会的な関心を深化させるとともに、社会病理学系に関する文献を講読して、社会的な素養を育成する。

授業の内容

テキストの講読・発表・討論など

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 春季課題の発表(1)
 - 第3回 春季課題の発表(2)
 - 第4回 学生によるテキストの発表・討論(1)
 - 第5回 学生によるテキストの発表・討論(2)
 - 第6回 学生によるテキストの発表・討論(3)
 - 第7回 学生によるテキストの発表・討論(4)
 - 第8回 学生によるテキストの発表・討論(5)
 - 第9回 学生によるテキストの発表・討論(6)
 - 第10回 学生によるテキストの発表・討論(7)
 - 第11回 学生によるテキストの発表・討論(8)
 - 第12回 学生によるテキストの発表・討論(9)
 - 第13回 学生によるテキストの発表・討論(10)
 - 第14回 学生によるテキストの発表・討論(11)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

講読文献の予習は必須である。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

a501030116

授業中課題は春季レポートの評価である。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I (マ) <h>

担当者 今久保 幸生

テーマ

経営戦略の諸相を学ぶ

獲得目標

経営戦略に関する諸理論と豊富なケーススタディを学ばせることを通じて、企業経営活動の要についての理解を深めさせる。

授業の内容

経営戦略に関する、理論的整理と事例研究を盛り込んだ入門書を輪読する。具体的には、毎回報告担当者が担当部分を報告し、論点を提示し、これを皮切りに様々な論点を提示しあって、これらに関する討論を行う。

内 容

- 第1回 演習のガイダンス、報告分担の決定など
 - 第2回 テキストの輪読・討論1
 - 第3回 テキストの輪読・討論2
 - 第4回 テキストの輪読・討論3
 - 第5回 テキストの輪読・討論4
 - 第6回 テキストの輪読・討論5
 - 第7回 テキストの輪読・討論6
 - 第8回 テキストの輪読・討論7
 - 第9回 テキストの輪読・討論8
 - 第10回 テキストの輪読・討論9
 - 第11回 テキストの輪読・討論10
 - 第12回 テキストの輪読・討論11
 - 第13回 テキストの輪読・討論12
 - 第14回 テキストの輪読・討論13
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

毎回の授業で論じるテーマを、テキストのみならず関連する専門書や雑誌や新聞、インターネットなどの情報に基づき収集し予習しておく。

教科書

経営戦略入門

著者： 網倉久弥・新宅純二郎

出版社： 日本経済新聞社

出版年： 2011年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I (救)

担当者 夏目 美樹, 北小屋 裕, 関根 和弘, 千田 いずみ, 深澤 雄二

テーマ

公務員試験対策

獲得目標

救急救命士の最大の就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学及び時事問題等の理解を目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 公務員試験対策
- 第3回 公務員試験対策
- 第4回 公務員試験対策
- 第5回 公務員試験対策
- 第6回 公務員試験対策
- 第7回 公務員試験対策
- 第8回 公務員試験対策
- 第9回 公務員試験対策
- 第10回 公務員試験対策
- 第11回 公務員試験対策
- 第12回 公務員試験対策
- 第13回 公務員試験対策
- 第14回 公務員試験対策
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a501030120

この科目は参加度を重視します

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急処置各論 I

担当者 富士原 彰 関根 和弘 西本 香 王里 林 敏雅

テーマ

薬剤投与とメディカルコントロール

獲得目標

医師の具体的指示のもとに行う特定行為の静脈路確保とアドレナリン投与、救急医療体制とメディカルコントロールについて学びます。

授業の内容

内 容

- 第1回 心肺停止前後の病態
 - 第2回 特定行為が適応となる心肺停止の病態
 - 第3回 薬剤投与に必要な基礎知識、薬物の作用
 - 第4回 薬物の吸収・代謝・排泄
 - 第5回 薬剤の投与経路と投与方法、薬物の有害作用
 - 第6回 薬剤投与の原則、薬事法と医薬品
 - 第7回 輸液製剤、自律神経薬
 - 第8回 心停止に用いられる代表的薬剤
 - 第9回 医療機関で行われる二次救命処置
 - 第10回 心停止と特定行為のプロトコル1
 - 第11回 心停止と特定行為のプロトコル2
 - 第12回 事後検証とウツタイン様式
 - 第13回 救急救命処置とメディカルコントロール1
 - 第14回 実際のMC体制について
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急症候学VI

担当者 富士原 彰・大石 泰男・小畑 仁司・西本 泰久

テーマ

救急症候・病態生理学

獲得目標

プレホスピタルの主体は観察・判断・処置で構成されているが、本講義では傷病者観察、特に内科鑑別診断学の領域について教授し、この分野の実践能力向上のために、すでに2回生時(標準テキストP458～618)に講義を終了しているが、事例を紹介しながら、判断・処置の知識の整理を行い、さらに理解を深めます。

授業の内容

内 容

- 第1回 胸痛・動悸・不整脈
 - 第2回 心肺停止①
 - 第3回 咯血・痙攣
 - 第4回 心肺停止②
 - 第5回 意識障害
 - 第6回 頭痛・めまい
 - 第7回 運動障害・感覚障害
 - 第8回 ショック・循環不全
 - 第9回 咯血・痙攣
 - 第10回 呼吸困難・発熱
 - 第11回 性器出血・鼻出血
 - 第12回 腹痛・吐下血・血尿
 - 第13回 嘔吐・下痢・歯痛
 - 第14回 鑑別診断学のまとめ
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (30)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **管理会計論**

担当者 河野 充央

テーマ

経営管理(マネジメント)に役立つ会計を学ぶ

獲得目標

企業の経営管理者が行うマネジメント活動に対して、会計がどのような役割を果たすのかを学ぶプロセスで、意志決定と業績管理の方法を修得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス 管理会計の意義と目的
 - 第2回 財務諸表の分析(1)
 - 第3回 財務諸表の分析(2)
 - 第4回 財務諸表の分析(3)
 - 第5回 短期利益計画
 - 第6回 予算編成と予算統制
 - 第7回 事業部業績評価
 - 第8回 コストダウンの方法
 - 第9回 投資意思決定の諸問題
 - 第10回 在庫費用の管理
 - 第11回 マーケティング会計(1) 販売費と物流費の管理
 - 第12回 マーケティング会計(2) 研究開発費の管理
 - 第13回 経営戦略と管理会計(1)
 - 第14回 経営戦略と管理会計(2)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

日経新聞や日経ビジネス等に掲載される経済記事を適宜紹介する(プリントで配布等)ので、学んだ知識を活用して、経営の実務にも興味を持ってもらいたい。

教科書

管理会計を語る

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

a501034410

管理会計

著者： 岡本清 他

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（30）

授業中課題（15）

参加度（40）

小テスト（15）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **仕事研究Ⅱ**

担当者 今久保 幸生

テーマ

グローバル企業・グローバルビジネスの研究

獲得目標

グローバル企業・グローバルビジネスの動向を、主として学生自身のグループや個人による調査・発表とそれに基づく討論等を通じて、グローバル企業の動向やグローバルビジネス、または経済のグローバル化に関する確かな認識を獲得させるとともに、とりわけ、実社会で不可欠となる、グループまたは個人で課題に取り組むノウハウを身につけさせる。キャリア開発演習Ⅳの受講生の受講を推奨するが、3回生で新規に受講する学生も大いに歓迎する。

授業の内容

経済のグローバル化、グローバルビジネスの動向について講義で概観したあと、いくつかのグループによる調査研究チームを編成して、グループごとにテーマを決めて調査研究を行い、それぞれの調査研究の成果の発表と討論を（場合によっては学生の相互評価も）行い、その後、個人による調査研究および発表と討論を実施する。実際にグローバル企業で活躍されているビジネスマン等に、その豊かな経験を伺う機会も設ける。2013年夏の台湾への短期研修プログラムを企画しているので、受講生にはこれへの参加も奨めたい。

内 容

- 第1回 授業の狙いや進め方などのガイダンスとグループ編成
- 第2回 経済のグローバル化の動向
- 第3回 グローバルビジネスの展開
- 第4回 調査研究の方法 グループごとのテーマの決定
- 第5回 グループ発表と討論1
- 第6回 グループ発表と討論2
- 第7回 グループ発表と討論3
- 第8回 グローバル企業の実務家による講義
- 第9回 個別調査研究の方法 個人発表のテーマの決定
- 第10回 個人研究の発表と討論1
- 第11回 個人研究の発表と討論2
- 第12回 個人研究の発表と討論3
- 第13回 個人研究の発表と討論4
- 第14回 キャリアセンター担当者の話を聴く
- 第15回 まとめ：グローバル企業への就職について

授業以外での学習方法

グループ発表の場合も個人研究発表のどちらの場合も、テーマに関する、専門書や業界新聞・専門誌・映像・インターネットなどで収集した多様な情報を、個人での分析を通じたり、グループ学習を通じて、課題にとって意味なかに再構成する作業を繰り返すこと、研究のまとめ方・発表の仕方などを習得する。

教科書

テキストは用いない。レジュメや資料によって授業を進める。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

講義中に指示する場合がある。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a501034650

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(マ)

担当者 河野 充央

テーマ

卒業論文の作成

獲得目標

夏季休暇中に下書きを完成させることを目的に、前期演習において卒論の指導を行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス 春季休暇中の課題提出 論文の形式(書き方)について指導
- 第2回 卒論指導(1) 卒論のテーマ, 目次, 概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ, 目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第3回 卒論指導(2) 卒論のテーマ, 目次, 概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ, 目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第4回 卒論指導(3) 卒論のテーマ, 目次, 概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ, 目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第5回 卒論指導(4) 卒論のテーマ, 目次, 概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ, 目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第6回 卒論指導(5) 卒論のテーマ, 目次, 概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ, 目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第7回 卒論指導(6) 卒論のテーマ, 目次, 概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ, 目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第8回 卒論指導(7) 卒論のテーマ, 目次, 概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ, 目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第9回 卒論指導(8) 卒論のテーマ, 目次, 概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ, 目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第10回 卒論指導(9) 卒論のテーマ, 目次, 概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ, 目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第11回 卒論指導(10) 卒論のテーマ, 目次, 概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ, 目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第12回 卒論指導(11) 卒論のテーマ, 目次, 概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ, 目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第13回 卒論指導(12) 卒論のテーマ, 目次, 概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ, 目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第14回 卒論指導(13) 卒論のテーマ, 目次, 概要および進捗報告 報告内容に対する質疑応答 テーマ, 目次に対する指導と参考文献の指示など(個別指導を含む)
- 第15回 夏季休暇中の課題指示(夏季休暇中に下書きの完成を目標とする)

授業以外での学習方法

適宜指示をする参考文献を参照し、質の高い卒論の完成を目指す。

教科書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(マ) <c>

担当者 岡本 哲弥

テーマ

卒業論文を作成する。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方
 - 第3回 卒論進捗報告(序論)
 - 第4回 卒論進捗報告(序論)
 - 第5回 卒論進捗報告(序論)
 - 第6回 卒論進捗報告(序論)
 - 第7回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第8回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第9回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第10回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第11回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第12回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第13回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第14回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (45)

小テスト (0)

授業中発表等 (55)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(マ) <d>

担当者 李 在鎬

テーマ

卒業研究の計画を行う。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の内容

基礎演習Ⅲでの経営リーダーシップ理論、専門演習Ⅰ・Ⅱでの経営戦略論を土台にし、自分の卒業研究のテーマを決め、研究計画を行う。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第8回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第9回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第14回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、20分報告、質疑応答、議論)
- 第15回 全体の総括

授業以外での学習方法

経済新聞を精読してください。

教科書

コア・コスピタンス経営

著者: ゲイリー・ハメル&C. K. プラハラード

出版社: 日経ビジネス文庫

出版年: 2002

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (45)

小テスト (0)

授業中発表等 (55)

a501040114

基本的に2回以上の発表、積極的な議論への参加が求められます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(マ) <e>

担当者 高山 一夫

テーマ

医療マネジメントに関するさらなる学習

獲得目標

卒業研究のテーマ等を交流しつつ、課題に見合った研究方法や論文の書き方について学習する。また、医療マネジメントについてさらに学習を進め、必要に応じて事業所訪問などの学外授業も実施する。

授業の内容

研究の方法について学習するとともに、進捗状況や問題意識を受講生相互で交流する。また、医療マネジメントについて理解を深める。夏合宿を実施し、他回生との親睦も深める

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 研究技法の学習(1)論文の書き方 序～3章
 - 第3回 研究技法の学習(2)論文の書き方 4～5章
 - 第4回 研究技法の学習(3)論文の書き方 6～7章
 - 第5回 研究技法の学習(4)論文の書き方 8章、10章
 - 第6回 卒業研究構想報告(1)
 - 第7回 卒業研究構想報告(2)
 - 第8回 卒業研究構想報告(3)
 - 第9回 卒業研究構想報告(4)
 - 第10回 テキストの輪読と討論(1)
 - 第11回 テキストの輪読と討論(2)
 - 第12回 テキストの輪読と討論(3)
 - 第13回 テキストの輪読と討論(4)
 - 第14回 テキストの輪読と討論(5)
 - 第15回 まとめ(ゼミ合宿) ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

自主ゼミ等を通じて、学外授業の準備や論文作成技法の学習などに努めることが望ましい。

教科書

論文の書き方

著者： 澤田昭夫

出版社： 講談社現代文庫

出版年： 1977

ISBN: 9.78406E+12

社会人の生き方

著者： 暉峻淑子

出版社： 岩波新書

出版年： 2012

ISBN: 9.784E+12

参考書

レポートの組み立て方

著者： 木下是雄

a501040115

出版社：ちくま文庫

出版年：1994

ISBN：9.78448E+12

論文の教室

著者：戸田山和久

出版社：NHKブックス

出版年：2002

ISBN：9.78414E+12

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（55）

参加度（45）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(マ) <f>

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文を作成する。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方
 - 第3回 卒論進捗報告(序論)
 - 第4回 卒論進捗報告(序論)
 - 第5回 卒論進捗報告(序論)
 - 第6回 卒論進捗報告(序論)
 - 第7回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第8回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第9回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第10回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第11回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第12回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第13回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第14回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (45)

小テスト (0)

授業中発表等 (55)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(マ) <g>

担当者 高原 正興

テーマ

卒業論文の作成にむけて

獲得目標

12月の卒業論文の提出にむけて、よりよい卒業論文が作成できるように、ゼミ生の研究発表を続ける。

授業の内容

ゼミ生による卒業論文の研究発表

内 容

- 第1回 前期ガイダンス
 - 第2回 春季課題の報告(1)
 - 第3回 春季課題の報告(2)
 - 第4回 春季課題の報告(3)
 - 第5回 春季課題の報告(4)
 - 第6回 春季課題の報告(5)
 - 第7回 卒業論文の研究発表(1)
 - 第8回 卒業論文の研究発表(2)
 - 第9回 卒業論文の研究発表(3)
 - 第10回 卒業論文の研究発表(4)
 - 第11回 卒業論文の研究発表(5)
 - 第12回 卒業論文の研究発表(6)
 - 第13回 卒業論文の研究発表(7)
 - 第14回 卒業論文の研究発表(8)
 - 第15回 まとめと展望
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(救)

担当者 夏目 美樹,北小屋 裕,関根 和弘,千田 いずみ,深澤 雄二

テーマ

公務員試験対策

獲得目標

救急救命士の最大の就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学及び時事問題等の理解を目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 公務員試験対策
 - 第3回 公務員試験対策
 - 第4回 公務員試験対策
 - 第5回 公務員試験対策
 - 第6回 公務員試験対策
 - 第7回 公務員試験対策
 - 第8回 公務員試験対策
 - 第9回 公務員試験対策
 - 第10回 公務員試験対策
 - 第11回 公務員試験対策
 - 第12回 公務員試験対策
 - 第13回 公務員試験対策
 - 第14回 公務員試験対策
 - 第15回 公務員試験対策
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急疾病Ⅲ

担当者 藤原 大輔・加藤 之紀

テーマ

内分泌系・代謝系・泌尿器・生殖器系の疾患を理解する。

獲得目標

内分泌系・代謝系・泌尿器・生殖器系の病因・病態生理、症状、悪化防止、生命の危険回避をするために必要な救急処置の知識・技能、観察の方法と意義(重傷度、全身・局所の観察、各種病状の観察)、検査などを修得する。造血管、抹消血の解剖生理と血液疾患について、また皮膚疾患、感染症についても学習する。

授業の内容

内 容

- 第1回 内分泌・代謝系器官①解剖・生理1
- 第2回 内分泌・代謝系器官②解剖・生理2
- 第3回 内分泌・代謝系器官③代謝器官障害、症状、おもな疾患
- 第4回 内分泌・代謝系期間④演習
- 第5回 泌尿器・生殖器系器官①解剖・生理1
- 第6回 泌尿器・生殖器系器官②解剖・生理2
- 第7回 泌尿器・生殖器系器官③障害、症状、おもな疾患
- 第8回 泌尿器・生殖器系器官④演習
- 第9回 血液疾患①貧血の病態生理等
- 第10回 血液疾患②急性白血病の病態生理 播種性血管内症候群
- 第11回 血液疾患③骨髄移植、その他の血液疾患
- 第12回 血液疾患④演習
- 第13回 感染症と予防 特異な感染症、AIDS 皮膚疾患
- 第14回 高齢者の疾患
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急救命実習XI

担当者 夏目 美樹・北小屋 裕・千田 はずみ・深澤 雄二

テーマ

実践的なシミュレーション実習により、救急救命士としての総合的な観察・処置技術を養う

獲得目標

実習 I ～ X で修得した救急救命技術を総括し、各種高度シミュレーターを用いた実践的な実習により、救急救命士としての総合的な観察・処置技術を習得する

授業の内容

※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。

内 容

- 第1回 シミュレーション実習
 - 第2回 シミュレーション実習
 - 第3回 シミュレーション実習
 - 第4回 シミュレーション実習
 - 第5回 シミュレーション実習
 - 第6回 シミュレーション実習
 - 第7回 シミュレーション実習
 - 第8回 シミュレーション実習
 - 第9回 シミュレーション実習
 - 第10回 シミュレーション実習
 - 第11回 シミュレーション実習
 - 第12回 シミュレーション実習
 - 第13回 シミュレーション実習
 - 第14回 シミュレーション実習
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

集中講義を行うこともある

教科書

救急スキルブック

著者： 安田康晴

出版社： 荘道社

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **都市環境デザイン論 I <Z>**

担当者 織田 直文

テーマ

観光やまちづくりの魅力を知り、それらに関わるための基礎知識を身につけよう。

獲得目標

「観光」や「まちづくり」の概念、特性、その成立過程などを知るとともに、多くの事例を通じて、その内容の多様性と深淵性を理解する。まちづくりに関する基礎的な知識、技術の習得をめざす。

授業の内容

「観光」や「まちづくり」の基礎となるハード面としての空間認識、単位、住宅・建築、都市計画の基本事項を学ぶとともに、地域経済、観光振興、文化政策、福祉のまちづくりなどのソフト面の基本事項も学ぶ。まちづくりの歴史および、現代的課題の提示と解決手法なども学ぶ。なお、学外から専門家を招いての特別講義も考えている。

内 容

- 第1回 講義の進め方と「まちづくり」に関する概論。
 - 第2回 ハード面のまちづくりのための基本事項。空間単位、住宅・建築について。
 - 第3回 住宅見学。バリアフリーとユニバーサルデザイン。
 - 第4回 ハード面のまちづくりとしての「都市計画」
 - 第5回 まちづくりと景観まちづくり。まちかどのスポット整備。
 - 第6回 地域資源を活かした地域経済振興。
 - 第7回 「観光」の概念と観光振興。
 - 第8回 イベント論 <ツアー>および<地域イベント>企画案作成課題の提示。
 - 第9回 まちづくりの主体(誰がまちづくりを行うのか)①
 - 第10回 まちづくりの主体(誰がまちづくりを行うのか)②
 - 第11回 日本のまちづくりの歴史①「計画的都市史編」
 - 第12回 日本のまちづくりの歴史②「歴史都市類型編」
 - 第13回 ツアー・地域イベント企画の学生発表①
 - 第14回 ツアー・地域イベント企画の学生発表②
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

あなたが暮らす地域で起こる出来事に関心を持ってください。また、地域の行事や、社会でのボランティア活動にできるだけ参加してください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 (20)

参加度 (50)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **デッサン〈Za〉**

担当者 富家 大器

テーマ

演習を通じ「色」や「かたち」を表現する基礎を学習する

獲得目標

自分の手を動かしていくことで体験的に観察力を養うとともに、もののもつ形態的な特徴や素材感などを把握し表現する能力を高め、あらゆる造形表現の基礎能力を獲得する。

授業の内容

鉛筆を使ったデッサン、色紙を使用する平面構成、ペーパーを使った立体構成を予定している。適宜事例の解説なども織りまぜて行く。場合によって各自の作品発表を行うこともある。

内 容

- 第1回 ガイダンス 道具の使い方、デッサンの基礎
 - 第2回 デッサン1(課題1)
 - 第3回 デッサン2(課題2-1)
 - 第4回 デッサン3(課題2-2)
 - 第5回 デッサン4(課題3-1)
 - 第6回 デッサン5(課題3-2)
 - 第7回 平面構成 課題説明 事例紹介
 - 第8回 平面構成1(課題1-1)
 - 第9回 平面構成2(課題1-2)
 - 第10回 平面構成3(課題2-1)
 - 第11回 平面構成4(課題2-2)
 - 第12回 立体構成 課題説明 事例紹介
 - 第13回 立体構成1(課題1-1)
 - 第14回 立体構成2(課題1-2)
 - 第15回 立体構成3 まとめと発表
-

授業以外での学習方法

普段から「物をよく見る」という姿勢が重要。また、美術館に出向いたりして先人のよい作品などを積極的に観賞することも効果的である

教科書

参考書

授業中全都紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a502014110

授業中課題50%、授業中発表・出席・授業中態度・積極性・参加度総合50% 尚、全授業回数の1/3以上の欠席をもって授業放棄と見なすので注意したい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **都市とアート <Z>**

担当者 小暮 宣雄

テーマ

都市環境デザイン学科文化プロデュース入門の入門編

獲得目標

文化と都市、プロデュースと環境デザインの関係を広く柔軟に学ぶ。映画(アニメ、ホラーなど)を事例として、文化をプロデュースする世界を垣間見る。アーツマネジメントの基礎概念に慣れていく第一歩。

授業の内容

都市環境デザイン学科の主に文化プロデュースを学びたい学生さんの最初の一步。でも、他の学修にも役に立つと思います。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 文化ってなんだろう～静的な捉え方と動的(社会構成的)な捉え方
- 第3回 まちと都市と地域と文化と(互いの関係とすみわけ)
- 第4回 文化のなかのアート、その分類と特質
- 第5回 超自然存在としてのアニマ、妖怪(妖怪と幽霊、妖怪の例示～河童の特性とは?)
- 第6回 誕生日のあるアート、それが映画だ(活動写真からトーキーへ)
- 第7回 学外授業 6/30 こどもの文化フォーラム参加 京都市東部文化会館
- 第8回 アニメ映画への接近1(原恵一監督～クレヨンしんちゃん映画の進化)
- 第9回 アニメ映画への接近2(原恵一監督～「河童のクウの夏休み」から分かること)現在製作中の新しい映画「カラフル」に言及する可能性あり
- 第10回 実写映画への接近1(黒沢清監督～ホラー映画を冷静に鑑賞するには?)
- 第11回 実写映画への接近2(黒沢清監督～心理とアクション～)「東京ソナタ」を題材にして
- 第12回 映画プロデュースに必要なものは
- 第13回 文化プロデュースから何が生まれるのか
- 第14回 私たちの文化の未来へ アーツマネジメントってなんだろう
- 第15回 まとめ・・・これからの文化プロデュース科目の予告 文化プロデュースに関わる学外での活動を随時説明する。ゲストで飛び入りのアーティストなどが夏休みのボランティア募集などに来ることも可能性あり。

授業以外での学習方法

古典となった映画を系統的に紹介するので、それを、ただぼんやり見るのではなく、どういうプロデュース手法がとられているのか、監督の特質とはなんだろうかなど、分析的かつ批評的に鑑賞すること。メディアセンターなどに設置してあります。東部文化会館にいて実際に鑑賞を行うので、よく地理を調べておくこと。参考文献をいくつか購入して読むこと。そのために生協読書奨励制度を活用すること。ソーシャルメディアもfacebookを活用したりブログなどを手がけたりうまく利用したりするようにしてください。

教科書

参考書

アニメーション監督 原恵一

著者: 浜野保樹

出版社: 晶文社

出版年: 2005年

ISBN: 4-7949-6677-6

これからのアートマネジメント

著者： 中川真・小暮宣雄ほか

出版社： フィルムアート社

出版年： 2011年

ISBN： 9.78485E+12

黒沢清の映画術

著者： 黒沢清

出版社： 新潮社

出版年： 2006年

ISBN： 4-10-302851-3

成績評価

試験（0）

小テスト（40）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（40）

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄のアーツブログ

小暮宣雄フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

できればフィード購読を

2013 Syllabus

科目名 **社会文化論 <Z>**

担当者 五十川 伸矢

テーマ

日本の社会と文化の関係を歴史的に考える

獲得目標

東アジアの列島に開花した日本文化の歴史は、根強く現代日本社会の基盤となっている。この文化と社会の変遷を詳しく紹介する。

授業の内容

日本の基層文化から初めて、基本的に時代順に古代から中世近世近代へと、それぞれの時代を特徴付ける文化について説明する。

内 容

- 第1回 日本文化の基層をなす列島の自然環境
 - 第2回 日本社会の基層をなす農耕文化
 - 第3回 都市と農村の織りなす文化景観
 - 第4回 古代の宮廷文化 奈良時代の唐風文化
 - 第5回 古代の国風文化 平安時代の貴族文化
 - 第6回 学外授業 博物館または周辺の文化財見学
 - 第7回 仏教文化の成立と展開
 - 第8回 仏教文化の変容と革新
 - 第9回 儒教文化と日本人の道德規範
 - 第10回 わびさびの文化
 - 第11回 講演会 社会文化論
 - 第12回 学外授業 博物館または周辺の文化財見学
 - 第13回 近代明治の社会と文化
 - 第14回 戦後の社会と文化
 - 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。
-

授業以外での学習方法

京都周辺の博物館・美術館や史跡・遺跡を訪ね、その歴史を学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 基礎演習 I (都) <A>

担当者 織田 直文

テーマ

自分で調べ、発表し、イベントに参加しよう

獲得目標

大学での学びの意義や特性を知ってもらう。とくに本学の教学理念の一つである「臨床の知」の習得の基本スキルを身につける。

授業の内容

学内でのイベントにスタッフとして参加し、企画・実施を体験する。また、自分の関心事に関する書籍を読み発表する「私のお奨め一冊」を行うとともに、京都の歴史について学習する。

内 容

- 第1回 講義の進め方。自己紹介。
 - 第2回 フィールドワーク調査①。
 - 第3回 フィールドワーク調査②。
 - 第4回 私のお奨め一冊発表① + 京都のまちづくり史①
 - 第5回 私のお奨め一冊発表② + 京都のまちづくり史②
 - 第6回 私のお奨め一冊発表③ + 京都のまちづくり史③
 - 第7回 過去の学内イベントについての学習。
 - 第8回 学内イベント企画。ワークショップ。
 - 第9回 学内イベントのデザイン会議。準備。
 - 第10回 学内イベントにスタッフとして参加①。
 - 第11回 学内イベントにスタッフとして参加②。
 - 第12回 学内イベントの反省会。
 - 第13回 私のお奨め一冊発表④ + 京都のまちづくり歴史④
 - 第14回 夏休みレポートの出題について。
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

京都千二百年(上)

著者: 西川幸治

出版社: 草思社

出版年: 1997

ISBN: 4794207573

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (都) **

担当者 金武 創

テーマ

大学における学びの方法を身につける

獲得目標

1. 毎回の授業で必ず発言する 2. 基本的な発表と討論の仕方を身につける。3. レジユメを作成できるようになる。どのコースを選択する学生にも必要な学びのスキルを身につけることをめざします。

授業の内容

内 容

- 第1回 大学の学び方
 - 第2回 グループ討論1 就職活動と学校教育との違いを意識する
 - 第3回 グループ討論2 時間内に結論を導く方法
 - 第4回 グループ討論3 商品開発をデザインする
 - 第5回 レジユメ作成と報告1 専門文献を読む
 - 第6回 レジユメ作成と報告2 一人で報告する
 - 第7回 レジユメ作成と報告3 報告から質問する
 - 第8回 レジユメ作成と報告4 自分の報告と比べる
 - 第9回 図書館の積極的利用1 書誌情報とは
 - 第10回 図書館の積極的利用2 知的興味と文献探索
 - 第11回 図書館の積極的利用3 夏休みレポートの素材探し
 - 第12回 図書館の積極的利用4 研究対象の確定と参考文献の把握
 - 第13回 夏休みレポートの準備1 焦点の絞られたテーマ設定
 - 第14回 夏休みレポートの準備2 引用文献の探索
 - 第15回 夏休みレポートの準備3 執筆準備の工夫
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (90)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a50201aa12

学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (都) <C>**

担当者 杉山 泰

テーマ

大学生が持つべき「学習のための技能」を身につける

獲得目標

・大学生らしい論理的な文章が書けるようになる。(母語としての日本語に目覚める)・基本的な発表討論の仕方を身につける。(factとopinionの違いを明確にする)・レジュメを作成できるようにする。(コンピュータ・リテラシーと3・3・3の発表テクニック)・世界の中の日本を見る視点を身につける。(新聞、雑誌に目を通し図書館を利用する)

授業の内容

前半では、新書『スローライフ』と『原発ゼロ社会へ！ 新エネルギー論』を担当を決めて読みながら、factを明らかにして、その事実についてどう思うのか(opinion)を「レジュメ」を作って発表してもらおう。テレビや携帯電話と人間的コミュニケーションはできない。テレビを見ているだけでは、赤ん坊はことばを発することができない。相手にどうしたらことばが伝わるのかを実践的に学んでもらう。発表する中で、特にイギリスの視点を加えるので、日頃からquality of lifeだとか、slow way of lifeといったイギリスの生き方に興味を抱いてほしい。

内 容

- 第1回 自己紹介(杉山ゼミカードの作成と自己アピール、わがまちを語る)
- 第2回 近江八幡のヴォーリス建築の印象と近江八幡のまちづくりを各自語ってもらおう。
- 第3回 『スローライフ』の「はしがき」を全員で読んできて何がfactなのかを論じる。
- 第4回 筑紫哲也が書いたfactを調べる。「ワーグナー」「バーナード・ショー」「掛川」「二宮金次郎」「スローライフ・ジャパン」「自由の森大学」を知っているか？
- 第5回 各自調べてきたfactを発表してもらおう。「まえがき」の引用文の意味は？
- 第6回 『スローライフ』の1、2、3の発表。「レジュメ」を作成して1人15分の発表。
- 第7回 4、5、6の発表。発表者以外は「チェックリスト」で発表者を点数評価する。
- 第8回 7、8、9の発表と討論。「チェックリスト」でキーワード3つを書いてもらう。
- 第9回 10、11、12の発表と討論。
- 第10回 13、14、15の発表と討論。
- 第11回 『スローライフ』で筑紫哲也は何を言いたかったのか、各自まとめる。
- 第12回 『原発ゼロ社会へ！』の「序章」を読んで、factとopinionを明らかにする。
- 第13回 「スローライフ」と「即脱原発」の共通点について討論し合う。
- 第14回 『原発ゼロ社会へ！』の第4章「自然エネルギーを普及する真の目的」の発表。
- 第15回 電気自動車はエコか？についての討論。YesかNoかの理由を発表してもらおう。夏休みの過ごし方:「夏休みわがまちレポート」の書き方の説明。

授業以外での学習方法

ゼミの主役は学生。授業に参加するだけでなく、5月International theatre company Londonの英語劇(ミュージカル)を觀賞してもらおう。「弘法さん」「天神さん」「葵祭」「祇園祭」にも積極的に参加してもらおう。スポーツ大会、ゼミコンパを担当を決めて行なう。京都はヴォーリスだけでなく、安藤忠雄、高松伸、磯崎新といった建築家が建てたビルが山とある。京都タワーは美しいか、醜いか、また琵琶湖疏水周辺の自然の美しさも散策してみたい。すべて、It's up to you。(君次第)

教科書

スローライフ — 緩急自在のすすめ

著者: 筑紫哲也

出版社: 岩波新書

出版年: 2006

ISBN:

原発ゼロ社会へ！新エネルギー論

著者: 広瀬隆

出版社: 集英社新書

出版年: 2012

ISBN:

参考書

脱原子力社会へ ― 電力をグリーン化する

著者： 長谷川公一

出版社： 岩波新書

出版年： 2011

ISBN:

この国は原発事故から何をまなんだのか

著者： 小出裕章

出版社： 幻冬舎ルネッサンス新書

出版年： 2012

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (都) <D>**

担当者 五十川 伸矢

テーマ

大学生としての基本的教養と都市環境デザイン学科の学習法を身につける

獲得目標

①見たり聞いたりしたことの中に、社会的な問題を発見する。②問題意識をもったことを、岩波新書のような参考文献を使って、きちんと調べる習慣をつける。③自分の考えを伝えるための、文章・写真・図表などの多様な表現法を獲得する。

授業の内容

テーマと順番を決めて、発表をおこない、全員で質疑応答する。

内 容

- 第1回 新入生キャンプで学んだことを話し合う
 - 第2回 今後の発表の方法の説明
 - 第3回 新入生キャンプ・レポートの発表①
 - 第4回 新入生キャンプ・レポートの発表②
 - 第5回 新入生キャンプ・レポートの発表③
 - 第6回 新入生キャンプ・レポートの発表④
 - 第7回 学外授業 京都の歴史的文化的文化景観を歩く
 - 第8回 自由課題の研究発表の説明
 - 第9回 日本語のきまりと原稿の書き方 (Wordを使った原稿作成法)
 - 第10回 写真や図による記録方法の解説
 - 第11回 自由課題の研究発表①
 - 第12回 自由課題の研究発表②
 - 第13回 自由課題の研究発表③
 - 第14回 自由課題の研究発表④
 - 第15回 基礎レポート(夏休みレポート)の説明
-

授業以外での学習方法

毎日、新聞を読み、テレビニュースを見るという習慣をつけ、時事的で社会的な問題に関心をもって接すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (都) <E>**

担当者 木下 達文

テーマ

大学生がもつべき「学習のための機能」を身につける ～「研究」と「実践」の基礎から考える～

獲得目標

本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の基礎としての 課題設定、情報(文献)収集、レポート・原稿の書き方、調査(フィールドワーク)の方法など、基礎的な方法論と同時に、クラスで一つの事業実践を企画し、その事業テーマについて、理論と事例をまなびつつ、実践を行いながら、身をもって現代ビジネスのあり方を応用的に身につけるとともに、全体的には、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力の基礎を高めることを目的とする。同時に夏休みレポートの対応を行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標・自己紹介)
- 第2回 セルフスピーチ(自分自身の考えを人に伝える)
- 第3回 シンキングメソッド(自分の興味関心を深く考える)
- 第4回 リサーチプログラム(問題解決のための方法論)
- 第5回 リーディング(文献をきちんと読む)
- 第6回 フィールドワーク(自分の五感で体感する)
- 第7回 フィールドワーク(自分の五感で体感する)
- 第8回 プレゼンテーション(発表)1
- 第9回 プレゼンテーション(発表)2
- 第10回 プレゼンテーション(発表)3
- 第11回 プレゼンテーション(発表)4
- 第12回 後期演習プロジェクト企画の設定1
- 第13回 後期演習プロジェクト企画の設定2
- 第14回 演習プロジェクト企画書のまとめと発表
- 第15回 夏休みレポートの課題設定 ※演習の内容によって多少変更をする場合もある。※この講義では、必要に応じて学外授業を行うことがある。フィールドワークの時期等も状況に応じて決めていくこととする。

授業以外での学習方法

メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導も合わせて行う予定である。また、ゼミ会も行います。教室で学ぶだけでなく、身の回りの出来事を観察することが大切です。研究と実践に繋がる事象をこまめに観察したり、可能な範囲で体験できる ことはしてみましょう。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a50201aa15

とくに出席を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (都) <F>**

担当者 上原 恵美

テーマ

大学生としての研究・学習の方法を身につける

獲得目標

- ①社会的な問題を発見する。②問題意識を持ったことについて書籍や資料を調べて整理する。図書館を利用する方法を学ぶ。
③調べたことについて文章にまとめて発表する能力を養う。

授業の内容

世界の中から日本を見て比較の視点、問題点のありかを探ってみる。新聞を読み、ニュースに関心を持つことを習慣づけるため、ゼミ冒頭で前の週のニュースで目に留まったことを全員が発表する。学外授業を行うこともあり、その場合は下記の日程を調整する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(獲得目標、ゼミの進め方、自己紹介) 新入生キャンプレポート(ワークシート方式)の提出
第2回 新入生キャンプで学んだことをワークシートをもとに話し合う。
第3回 教科書『世界の国1位と最下位』第2章 人口を全員が読んできて世界の人口の動向、日本の状況について話し合う。
第4回 教科書を各章を分担して、「レジュメ」を作り、各自10分程度で発表する。
第5回 教科書第3章 GDP(国内総生産)
第6回 教科書第4章 税金
第7回 教科書第7章 貧困率
第8回 教科書第8章 食料自給率
第9回 教科書第9章 進学率
第10回 自由研究とレポートの書き方について説明する
第11回 図書館を利用する
第12回 自由研究発表①
第13回 自由研究発表②
第14回 自由研究発表③
第15回 夏休みの課題について

授業以外での学習方法

毎日、新聞を読み、テレビのニュースを見るという習慣をつける。ゼミでの発表のため、関心を持った記事をスクラップしたり、メモを取る。

教科書

世界の国 1位と最下位

著者: 眞淳平

出版社: 岩波書店

出版年: 2010年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習 I (都) <G>**

担当者 小森 治夫

テーマ

現代日本社会をジェンダーの視点から考える

獲得目標

入門的文献の講読とビデオ学習により、女性学と男性学の基礎を学ぶ

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 大学で学ぶ意味とは
 - 第3回 ノートの取り方
 - 第4回 『女性学・男性学』第1章
 - 第5回 ビデオ「男と女の境界線」
 - 第6回 『女性学・男性学』第2章
 - 第7回 『女性学・男性学』第3章
 - 第8回 『女性学・男性学』第4章
 - 第9回 『女性学・男性学』第5章
 - 第10回 『女性学・男性学』第6章
 - 第11回 『女性学・男性学』第7章
 - 第12回 『女性学・男性学』第8章
 - 第13回 『女性学・男性学』第9章
 - 第14回 夏休みレポートのテーマ報告(1)
 - 第15回 夏休みレポートのテーマ報告(2)
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など) ジェンダー問題を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

女性学・男性学(改訂版)

著者: 伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子

出版社: 有斐閣

出版年: 2011年

ISBN:

参考書

大学生生活ナビ

著者: 小原芳明監修

出版社: 玉川大学出版部

出版年: 2006年

ISBN:

新版 大学生の学習テクニック

著者： 森靖雄

出版社： 大月書店

出版年： 2007年

ISBN:

大学生の生き方・考え方

著者： 塚谷正彦

出版社： 実教出版

出版年： 2004年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **造形基礎 <a>**

担当者 富家 大器

テーマ

演習を通じ「色」や「かたち」を表現する基礎を学習する

獲得目標

自分の手を動かしていくことで体験的に観察力を養うとともに、もののもつ形態的な特徴や素材感などを把握し表現する能力を高め、あらゆる造形表現の基礎能力を獲得する。

授業の内容

鉛筆を使ったデッサン、色紙を使用する平面構成、ペーパーを使った立体構成を予定している。適宜事例の解説なども織りまぜて行く。場合によって各自の作品発表を行うこともある。

内 容

- 第1回 ガイダンス 道具の使い方、デッサンの基礎
 - 第2回 デッサン1(課題1)
 - 第3回 デッサン2(課題2-1)
 - 第4回 デッサン3(課題2-2)
 - 第5回 デッサン4(課題3-1)
 - 第6回 デッサン5(課題3-2)
 - 第7回 平面構成 課題説明 事例紹介
 - 第8回 平面構成1(課題1-1)
 - 第9回 平面構成2(課題1-2)
 - 第10回 平面構成3(課題2-1)
 - 第11回 平面構成4(課題2-2)
 - 第12回 立体構成 課題説明 事例紹介
 - 第13回 立体構成1(課題1-1)
 - 第14回 立体構成2(課題1-2)
 - 第15回 立体構成3 まとめと発表
-

授業以外での学習方法

普段から「物をよく見る」という姿勢が重要。また、美術館に出向いたりして先人のよい作品などを積極的に観賞することも効果的である

教科書

参考書

授業中都度紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a50201d110

授業中課題50%、授業中発表・出席・授業中態度・積極性・参加度総合50% 尚、全授業回数の1/3以上の欠席をもって授業放棄と見なすので注意したい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習 I <a>**

担当者 西山 紀子

テーマ

建築・インテリアの基礎を習得する。

獲得目標

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス(1)
 - 第2回 ガイダンス(2)
 - 第3回 線の引き方(1)
 - 第4回 線の引き方(2)
 - 第5回 木造住宅のトレース1、平面図(1)
 - 第6回 木造住宅のトレース1、平面図(2)
 - 第7回 木造住宅のトレース2、立面図・断面図(1)
 - 第8回 木造住宅のトレース2、立面図・断面図(2)
 - 第9回 木造住宅のトレース3、矩計図(1)
 - 第10回 木造住宅のトレース3、矩計図(2)
 - 第11回 部屋の改装1、実測とエスキース(1)
 - 第12回 部屋の改装1、実測とエスキース(2)
 - 第13回 部屋の改装2、平面図・展開図(1)
 - 第14回 部屋の改装2、平面図・展開図(2)
 - 第15回 部屋の改装3、模型制作(1)
 - 第16回 部屋の改装3、模型制作(2)
 - 第17回 部屋の改装4、模型制作(1)
 - 第18回 部屋の改装4、模型制作(2)
 - 第19回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(1)
 - 第20回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(2)
 - 第21回 小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成(1)
 - 第22回 小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成(2)
 - 第23回 小住宅の設計3、立面図・断面図の作成(1)
 - 第24回 小住宅の設計3、立面図・断面図の作成(2)
 - 第25回 小住宅の設計4、模型制作(1)
 - 第26回 小住宅の設計4、模型制作(2)
 - 第27回 小住宅の設計5、模型制作(1)
 - 第28回 小住宅の設計5、模型制作(2)
 - 第29回 講評とまとめ(1)
 - 第30回 講評とまとめ(2)
-

授業以外での学習方法

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

教科書

初学者の建築講座 建築製図第3版

著者： 瀬川康秀

出版社： 市谷出版社

出版年： 2008

ISBN： 9.78487E+12

参考書

必要に応じて指示する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習 I **

担当者 富澤 実

テーマ

建築・インテリアの基礎を習得する。

獲得目標

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

授業の内容

内 容

- 第23回 小住宅の設計3、立面図・断面図の作成(1)
 - 第24回 小住宅の設計3、立面図・断面図の作成(2)
 - 第25回 小住宅の設計4、模型制作(1)
 - 第26回 小住宅の設計4、模型制作(2)
 - 第27回 小住宅の設計5、模型制作(1)
 - 第28回 小住宅の設計5、模型制作(2)
 - 第29回 講評とまとめ(1)
 - 第30回 講評とまとめ(2)
 - 第1回 ガイダンス(1)
 - 第2回 ガイダンス(2)
 - 第3回 線の引き方(1)
 - 第4回 線の引き方(2)
 - 第5回 木造住宅のトレース1、平面図(1)
 - 第6回 木造住宅のトレース1、平面図(2)
 - 第7回 木造住宅のトレース2、立面図・断面図(1)
 - 第8回 木造住宅のトレース2、立面図・断面図(2)
 - 第9回 木造住宅のトレース3、矩計図(1)
 - 第10回 木造住宅のトレース3、矩計図(2)
 - 第11回 部屋の改装1、実測とエスキース(1)
 - 第12回 部屋の改装1、実測とエスキース(2)
 - 第13回 部屋の改装2、平面図・展開図(1)
 - 第14回 部屋の改装2、平面図・展開図(2)
 - 第15回 部屋の改装3、模型制作(1)
 - 第16回 部屋の改装3、模型制作(2)
 - 第17回 部屋の改装4、模型制作(1)
 - 第18回 部屋の改装4、模型制作(2)
 - 第19回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(1)
 - 第20回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(2)
 - 第21回 小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成(1)
 - 第22回 小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成(2)
-

授業以外での学習方法

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

教科書

初学者の建築講座 建築製図第3版

著者： 瀬川康秀

出版社： 市谷出版社

出版年： 2008

ISBN： 9.78487E+12

参考書

必要に応じて指示する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習 I <c>**

担当者 河野 良平

テーマ

獲得目標

建築・インテリアの基礎を習得するために、図面を描く練習を中心に行う。線の引き方から始め、平面、立面、断面図や展開図など基本的な図面を教科書に沿ってトレースする。次にスケール感覚を養うため身近な空間を実測し、実際に図面化する。最後に規模の小さい住宅などの設計を行い、講評を実施する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス(1)
 - 第2回 ガイダンス(2)
 - 第3回 線の引き方(1)
 - 第4回 線の引き方(2)
 - 第5回 木造住宅のトレース1、平面図(1)
 - 第6回 木造住宅のトレース1、平面図(2)
 - 第7回 木造住宅のトレース2、立面図・断面図(1)
 - 第8回 木造住宅のトレース2、立面図・断面図(2)
 - 第9回 木造住宅のトレース3、矩計図(1)
 - 第10回 木造住宅のトレース3、矩計図(2)
 - 第11回 部屋の改装1、実測とエスキース(1)
 - 第12回 部屋の改装1、実測とエスキース(2)
 - 第13回 部屋の改装2、平面図・展開図(1)
 - 第14回 部屋の改装2、平面図・展開図(2)
 - 第15回 部屋の改装3、模型制作(1)
 - 第16回 部屋の改装3、模型制作(2)
 - 第17回 部屋の改装4、模型制作(1)
 - 第18回 部屋の改装4、模型制作(2)
 - 第19回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(1)
 - 第20回 小住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(2)
 - 第21回 小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成(1)
 - 第22回 小住宅の設計2、エスキース、平面図の作成(2)
 - 第23回 小住宅の設計3、立面図・断面図の作成(1)
 - 第24回 小住宅の設計3、立面図・断面図の作成(2)
 - 第25回 小住宅の設計4、模型制作(1)
 - 第26回 小住宅の設計4、模型制作(2)
 - 第27回 小住宅の設計5、模型制作(1)
 - 第28回 小住宅の設計5、模型制作(2)
 - 第29回 講評とまとめ(1)
 - 第30回 講評とまとめ(2)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 CAD演習 I <a>

担当者 杉本 雅子

テーマ

JW-CADによる建築製図

獲得目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CADの基本的な操作方法について学ぶ。

授業の内容

建築業界で最も代表的なCADソフトの一つであるJW-CADを習得する。基本操作を学習後、実際の建築図面を一通り作成することにより、CADにより建築製図の基礎をマスターする。

内 容

- 第1回 CAD ソフトについて
 - 第2回 CAD 製図の基礎とオブジェクトの操作
 - 第3回 平面図の作図
 - 第4回 "
 - 第5回 "
 - 第6回 "
 - 第7回 家具、窓等の作図
 - 第8回 課題の作図、提出
 - 第9回 立面図の作図
 - 第10回 "
 - 第11回 "
 - 第12回 断面図の作図
 - 第13回 "
 - 第14回 敷地図の作図、レイアウト
 - 第15回 図面の設定、印刷、総括
-

授業以外での学習方法

建築、インテリアの専門書に目を通し、建築作品展に足を運ぶことにより、図面の表現技法を自身の目で学ぶこと

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築構造**

担当者 福田 浩明

テーマ

獲得目標

建築における構造の仕組みや役割を学ぶ。木質構造、鉄筋コンクリート構造、鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造、壁式鉄筋コンクリート構造、コンクリートブロック構造など基本的な構法を取り上げ、それらの特性について理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス、建築構造と倫理
 - 第2回 地盤特性について
 - 第3回 基礎について、免震構造
 - 第4回 木質構造1
 - 第5回 木質構造2
 - 第6回 コンクリートブロック構造、組石造
 - 第7回 壁式鉄筋コンクリート構造
 - 第8回 鉄筋コンクリート構造1
 - 第9回 鉄筋コンクリート構造2
 - 第10回 鉄骨構造、鉄骨鉄筋コンクリート構造
 - 第11回 建築の各部構造1、屋根
 - 第12回 建築の各部構造2、床と壁
 - 第13回 建築の各部構造3、天井と階段
 - 第14回 建築の各部構造4、造作と開口部
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

図解やさしい建築一般構造

著者： 今村仁美 他

出版社： 学芸出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a50201d510

人数、その他の状況に応じて評価方法を変えることもありますが、原則出席とノートの記録を重視します。最終日に100点満点のペーパーテスト(ノートのみ持ち込み可)と一緒に成績の評価とします。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 インテリアデザイン論

担当者 西山 紀子

テーマ

インテリアデザインに関わる基礎的知識を身に付ける。

獲得目標

インテリアのデザインに関する基礎的な知識を修得する。建物の内装を構成する色彩、形態、空間、家具、建具、設備やそれらの性質、機能や構造などについて学ぶ。また、実際の事例について解説し、カタログ・見本帳・サンプルなどを実際に見ることで理解を深め、快適なインテリア空間の在り方について考える。

授業の内容

内 容

- 第1回 暮らしとインテリア
 - 第2回 日本の住まいとインテリア 西洋のインテリアと家具の様式
 - 第3回 インテリアと寸法
 - 第4回 インテリアの性能と安全性
 - 第5回 空間のデザイン
 - 第6回 インテリアの色彩、テクスチャー
 - 第7回 インテリアの仕上げ材料
 - 第8回 家具の種類、配置、インテリアファブリック
 - 第9回 照明計画と照明器具
 - 第10回 インテリアの構法とデザイン
 - 第11回 室内環境の計画
 - 第12回 インテリアの計画演習1
 - 第13回 インテリアの計画演習2
 - 第14回 インテリアの計画演習3
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

日常生活においてもインテリアデザインに対する関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

教科書

図解テキスト インテリアデザイン

著者： 小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口真佐子、ペリー史子、西山紀子

出版社： 井上書院

出版年： 2009

ISBN： 9.78475E+12

参考書

必要に応じて指示する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a50201d710

試験 (70)
授業中課題 ()
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **観光学総論**

担当者 谷口 知司

テーマ

観光学の全体像を知る。

獲得目標

さまざまな観光の現況と、それらが社会の情報化の中でどのように変容してきたかについて理解する。

授業の内容

観光学の全般について論述する。

内 容

- 第1回 観光とは(歴史を含む)①
 - 第2回 観光とは(歴史を含む)②
 - 第3回 旅行業と観光①
 - 第4回 旅行業と観光②
 - 第5回 鉄道会社と観光①
 - 第6回 鉄道会社と観光②
 - 第7回 航空産業と観光①
 - 第8回 航空産業と観光②
 - 第9回 ホテル・旅館業と観光①
 - 第10回 ホテル・旅館業と観光②
 - 第11回 土産品と観光①
 - 第12回 土産品と観光②
 - 第13回 ニューツーリズム①
 - 第14回 ニューツーリズム②
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

さまざまな調査・文献研究を授業外で要求する。それらは基本的にレポートとして提出する。

教科書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **観光資源論 I**

担当者 谷口 知司

テーマ

日本国内の観光資源について概観する。

獲得目標

国内の主要な観光地理を概観し、国内観光資源の全体像を理解できることを目的とする。

授業の内容

ワークブックを用いて行う。

内 容

- 第1回 北海道エリア1
 - 第2回 北海道エリア2
 - 第3回 東北エリア1
 - 第4回 東北エリア2
 - 第5回 関東エリア1
 - 第6回 関東エリア2
 - 第7回 中部エリア1
 - 第8回 中部エリア2
 - 第9回 関西エリア1
 - 第10回 関西エリア2
 - 第11回 中国・四国エリア1
 - 第12回 中国・四国エリア2
 - 第13回 九州・沖縄エリア1
 - 第14回 九州・沖縄エリア2
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

毎回授業で小テストを行うので家庭学習が必要です。

教科書

国内観光地理

著者： JTB能力開発

出版社：

出版年： 2009

ISBN：

参考書

成績評価

試験（20）

授業中課題（0）

参加度（10）

小テスト（70）

授業中発表等（0）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 まちづくり論入門

担当者 織田 直文

テーマ

観光やまちづくりの魅力を知り、それらに関わるための基礎知識を身につけよう。

獲得目標

「観光」や「まちづくり」の概念、特性、その成立過程などを知るとともに、多くの事例を通じて、その内容の多様性と深淵性を理解する。まちづくりに関する基礎的な知識、技術の習得をめざす。

授業の内容

「観光」や「まちづくり」の基礎となるハード面としての空間認識、単位、住宅・建築、都市計画の基本事項を学ぶとともに、地域経済、観光振興、文化政策、福祉のまちづくりなどのソフト面の基本事項も学ぶ。まちづくりの歴史および、現代的課題の提示と解決手法なども学ぶ。なお、学外から専門家を招いての特別講義も考えている。

内 容

- 第1回 講義の進め方と「まちづくり」に関する概論。
 - 第2回 ハード面のまちづくりのための基本事項。空間単位、住宅・建築について。
 - 第3回 住宅見学。バリアフリーとユニバーサルデザイン。
 - 第4回 ハード面のまちづくりとしての「都市計画」
 - 第5回 まちづくりと景観まちづくり。まちかどのスポット整備。
 - 第6回 地域資源を活かした地域経済振興。
 - 第7回 「観光」の概念と観光振興。
 - 第8回 イベント論 <ツアー>および<地域イベント>企画案作成課題の提示。
 - 第9回 まちづくりの主体(誰がまちづくりを行うのか)①
 - 第10回 まちづくりの主体(誰がまちづくりを行うのか)②
 - 第11回 日本のまちづくりの歴史①「計画的都市史編」
 - 第12回 日本のまちづくりの歴史②「歴史都市類型編」
 - 第13回 ツアー・地域イベント企画の学生発表①
 - 第14回 ツアー・地域イベント企画の学生発表②
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

あなたが暮らす地域で起こる出来事に関心を持ってください。また、地域の行事や、社会でのボランティア活動にできるだけ参加してください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 (20)

参加度 (50)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化プロデュース入門 I

担当者 小暮 宣雄

テーマ

都市環境デザイン学科文化プロデュース入門の入門編

獲得目標

文化と都市、プロデュースと環境デザインの関係を広く柔軟に学ぶ。映画(アニメ、ホラーなど)を事例として、文化をプロデュースする世界を垣間見る。アーツマネジメントの基礎概念に慣れていく第一歩。

授業の内容

都市環境デザイン学科の主に文化プロデュースを学びたい学生さんの最初の一步。でも、他の学修にも役に立つと思います。

内 容

- 第1回 はじめに
- 第2回 文化ってなんだろう～静的な捉え方と動的(社会構成的)な捉え方
- 第3回 まちと都市と地域と文化と(互いの関係とすみわけ)
- 第4回 文化のなかのアーツ、その分類と特質
- 第5回 超自然存在としてのアニマ、妖怪(妖怪と幽霊、妖怪の例示～河童の特性とは?)
- 第6回 誕生日のあるアーツ、それが映画だ(活動写真からトーキーへ)
- 第7回 学外授業 6/30 こどもの文化フォーラム参加 京都市東部文化会館
- 第8回 アニメ映画への接近1(原恵一監督～クレヨンしんちゃん映画の進化)
- 第9回 アニメ映画への接近2(原恵一監督～「河童のクウの夏休み」から分かること)現在製作中の新しい映画「カラフル」に言及する可能性あり
- 第10回 実写映画への接近1(黒沢清監督～ホラー映画を冷静に鑑賞するには?)
- 第11回 実写映画への接近2(黒沢清監督～心理とアクション～)「東京ソナタ」を題材にして
- 第12回 映画プロデュースに必要なものは
- 第13回 文化プロデュースから何が生まれるのか
- 第14回 私たちの文化の未来へ アーツマネジメントってなんだろう
- 第15回 まとめ・・・これからの文化プロデュース科目の予告 文化プロデュースに関わる学外での活動を随時説明する。ゲストで飛び入りのアーティストなどが夏休みのボランティア募集などに来ることも可能性あり。

授業以外での学習方法

古典となった映画を系統的に紹介するので、それを、ただぼんやり見るのではなく、どういうプロデュース手法がとられているのか、監督の特質とはなんだろうかなど、分析的かつ批評的に鑑賞すること。メディアセンターなどに設置してあります。東部文化会館にいて実際に鑑賞を行うので、よく地理を調べておくこと。参考文献をいくつか購入して読むこと。そのために生協読書奨励制度を活用すること。ソーシャルメディアもfacebookを活用したりブログなどを手がけたりうまく利用したりするようにしてください。

教科書

参考書

アニメーション監督 原恵一

著者: 浜野保樹

出版社: 晶文社

出版年: 2005年

ISBN: 4-7949-6677-6

これからのアートマネジメント

著者： 中川真・小暮宣雄ほか

出版社： フィルムアート社

出版年： 2011年

ISBN: 9.78485E+12

黒沢清の映画術

著者： 黒沢清

出版社： 新潮社

出版年： 2006年

ISBN: 4-10-302851-3

成績評価

試験 (0)

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (40)

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄のアーツブログ

小暮宣雄フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

できればフィード購読を

2013 Syllabus

科目名 都市文化資源論

担当者 木下 達文

テーマ

都市を含む地域にある文化的な要素を考える

獲得目標

京都には、神社仏閣だけでなく、魅力的な文化施設や商業施設が多々あるように、地域のさまざまな文化的資源を発掘・発見する目を養い、テーマ(エリア)を決めて実際にフィールドワークを行いながら、資源の掘り起こしとその情報の編集・制作までを行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 都市の文化とは
 - 第3回 文化資源の多様性
 - 第4回 観光と文化資源
 - 第5回 まち育てと文化資源
 - 第6回 その他の文化資源
 - 第7回 文化資源の発掘
 - 第8回 個別都市(地域)の選定
 - 第9回 個別文化資源研究(文献研究)1
 - 第10回 個別文化資源研究(文献研究)2
 - 第11回 文化資源の現地調査(フィールドワーク)
 - 第12回 文化資源の現地調査(フィールドワーク)
 - 第13回 文化資源の編集
 - 第14回 文化資源の編集
 - 第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

身の回りにあるものすべてが、文化資源であるといえる。ふだん見過ごしがちなものでも、多角的に観察してみると、新たな価値を発見できる目を養って欲しい。

教科書

参考書

観光学への扉

著者： 井口貢・木下達文他編

出版社： 学芸出版社

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a50201e610

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※後半グループワークを行うため、欠席は3回までとしているので、良く考えて履修をすること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 CAD演習 I <Zb>

担当者 松本 正富

テーマ

2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

獲得目標

平面図・立面図・断面図といった建築図面の作成ルールを理解し、建築製図用のCADソフトを使用してそれら建築図面を制作する。また図面のトレースや立体化を通じて、空間デザインのトレーニングを行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 基本の操作 面を使って図を描く 練習課題
 - 第2回 基本の操作
 - 第3回 基本の操作 線を使って図を描く 練習課題:アクソメを描く
 - 第4回 基本の操作復習 練習課題:階段をアクソメで描く
 - 第5回 基本の操作復習(2) 練習課題:らせん階段をアクソメで描く
 - 第6回 演習課題1:小住宅のアクソメを描き、その空間構成をプロポーションについて学ぶ
 - 第7回 //
 - 第8回 演習課題2:名作住宅の図面をトレースする
 - 第9回 //
 - 第10回 演習課題2-2:トレースした図面をもとにアクソメをたちあげる
 - 第11回 //
 - 第12回 演習課題3:美術館をアクソメ化し、館内案内図をつくる
 - 第13回 //
 - 第14回 //
 - 第15回 講評
-

授業以外での学習方法

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック

出版年: 2010

ISBN: 9.78488E+12

参考書

初学者の建築講座

著者: 瀬川康秀

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2011

ISBN: 9.78487E+12

成績評価

a502023812

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地理情報論 <Z>

担当者 谷口 知司

テーマ

日本国内の観光資源について概観する。

獲得目標

国内の主要な観光地理を概観し、国内観光資源の全体像を理解できることを目的とする。

授業の内容

ワークブックを用いて行う。

内 容

- 第1回 北海道エリア1
 - 第2回 北海道エリア2
 - 第3回 東北エリア1
 - 第4回 東北エリア2
 - 第5回 関東エリア1
 - 第6回 関東エリア2
 - 第7回 中部エリア1
 - 第8回 中部エリア2
 - 第9回 関西エリア1
 - 第10回 関西エリア2
 - 第11回 中国・四国エリア1
 - 第12回 中国・四国エリア2
 - 第13回 九州・沖縄エリア1
 - 第14回 九州・沖縄エリア2
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

毎回授業で小テストを行うので家庭学習が必要です。

教科書

国内観光地理

著者: JTB能力開発

出版社:

出版年: 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (0)

参加度 (10)

小テスト (70)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 色彩環境論 <Z>

担当者 渡辺 安人

テーマ

感性感覚だけの対応になりやすい色彩だが、色彩は人間の心理生理に多大な影響を及ぼす。色彩環境を見直し、本来あるべき快適な生活環境を創出する一助にしたい。

獲得目標

色彩に関する基礎的な知識を学ぶ。色の特徴や性質、配色などを具体的な事例を見ながら理解し、建築やインテリアにおける色の効果や役割について考える。同時に、実践的に活用できるように簡単なセンスアップ演習も行う。

授業の内容

各回の授業項目に関係する色彩基礎知識を多角的な視点で解説する。基礎理論を実感しながら学ぶために、また、単なる知識習得ではなく実践的に活用できるように、理論を基礎にして授業内でのセンスアップ演習も行う。そのため「配色カード158b」日本色研事業(株)発行を購入し、ハサミ、のりと共に毎回の授業に持参すること。

内 容

- 第1回 色を伝える方法
 - 第2回 色彩調和
 - 第3回 美的造形手法
 - 第4回 目の構造と視覚
 - 第5回 混色と測色
 - 第6回 人工光源と色
 - 第7回 インテリアのカラーコーディネート1
 - 第8回 インテリアのカラーコーディネート2
 - 第9回 外観の色彩設計1
 - 第10回 外観の色彩設計2
 - 第11回 景観調和と色彩1
 - 第12回 景観調和と色彩2
 - 第13回 気候風土と色彩文化1
 - 第14回 気候風土と色彩文化2
 - 第15回 色彩環境のまとめ
-

授業以外での学習方法

身の回りの色々なモノの色使いについて、自分で良否の評価とその理由を考えながら見る習慣をつける。

教科書

色彩学の実践

著者： 渡辺安人

出版社： 学芸出版社

出版年： 2005

ISBN： 4-7615-2358-1

参考書

色彩

著者： 大井義雄・川崎昭

出版社： 日本色研事業(株)

出版年：

ISBN：

色彩学入門

著者:

出版社: 日本色研事業(株)

出版年:

ISBN:

建築と色彩

著者: 宮後浩・渡辺安人

出版社: 学芸出版社

出版年: 1999

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (40%)

学習目標を達成するために、欠席が授業回数の1/3を超えた場合は、評価の対象としない(単位取得不可)。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 都市と文化資源 <Z>

担当者 木下 達文

テーマ

都市を含む地域にある文化的な要素を考える

獲得目標

京都には、神社仏閣だけでなく、魅力的な文化施設や商業施設が多々あるように、地域のさまざまな文化的資源を発掘・発見する目を養い、テーマ(エリア)を決めて実際にフィールドワークを行いながら、資源の掘り起こしとその情報の編集・制作までを行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 都市の文化とは
 - 第3回 文化資源の多様性
 - 第4回 観光と文化資源
 - 第5回 まち育てと文化資源
 - 第6回 その他の文化資源
 - 第7回 文化資源の発掘
 - 第8回 個別都市(地域)の選定
 - 第9回 個別文化資源研究(文献研究)1
 - 第10回 個別文化資源研究(文献研究)2
 - 第11回 文化資源の現地調査(フィールドワーク)
 - 第12回 文化資源の現地調査(フィールドワーク)
 - 第13回 文化資源の編集
 - 第14回 文化資源の編集
 - 第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

身の回りにあるものすべてが、文化資源であるといえる。ふだん見過ごしがちなものでも、多角的に観察してみると、新たな価値を発見できる目を養って欲しい。

教科書

参考書

観光学への扉

著者： 井口貢・木下達文他編

出版社： 学芸出版社

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a502025510

※授業の内容によって多少変更をする場合もある。※後半グループワークを行うため、欠席は3回までとしているので、良く考えて履修をすること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **アーツ演習 I <Za>**

担当者 清水 俊洋

テーマ

美的表現が感動を起こす作用の理解とデザイン制作実践(※主に視覚芸術の領域における)

獲得目標

昨今の「美」の基準が多様化する中で、「発案としての芸術」と「解決としてのデザイン」はそれぞれの影響を受け、進化し続けている。「芸術」と「デザイン」と便宜上領域が分けられているそれぞれの作品のあいだでも、その感動をもよおす効果が共通している例が多く見受けられる。舞台公演の宣伝美術(ちらし)デザイナー・舞台写真家として活動してきた講師が芸術とデザイン双方を横断しつつ、美しさとは／芸術性とは何かを学生の皆さんと一緒に探りつつ、デザイン・写真撮影スキルの習得も目指します。

授業の内容

(1)視覚芸術の名作(現代美術・グラフィックデザイン・写真・映像など)の鑑賞と分析・説明 (2)Illustrator・Photoshopを用いたデザイン制作の実践 (3)写真撮影実習とPhotoshopをつかった修整作業の実践

内 容

- 第1回 「ビジュアルアーツ演習」とは? 心にひびくデザインを考える ～ たくさんのチラシをみながら～
 - 第2回 文字をみる・文字をつくる ～ タイポグラフィー制作
 - 第3回 文字をみる・文字をつくる ～ 名刺制作
 - 第4回 文字をみる・文字をつくる ～ 名刺制作
 - 第5回 文字をみる・文字をつくる ～ ABCのデザイン
 - 第6回 文字をみる・文字をつくる ～ ABCのデザイン
 - 第7回 文字をみる・文字をつくる ～ サイン計画
 - 第8回 文字をみる・文字をつくる ～ サイン計画
 - 第9回 文字をみる・文字をつくる ～ サイン計画
 - 第10回 視覚効果 ～ 隠蔽と想像力／錯覚／意外性その他
 - 第11回 商品広告写真を撮る
 - 第12回 心にひびくことばを考える ～ キャッチコピー
 - 第13回 見る人に伝わる商品広告をつくる
 - 第14回 見る人に伝わる商品広告をつくる
 - 第15回 見る人に伝わる商品広告をつくる
 - 第16回 最終試験(60分ほどの時間内でデザイン作品制作・提出)
-

授業以外での学習方法

PhotoshopやIllustratorといったソフトは触れている時間が長ければ長いほど上達します。情報メディアセンターのPCを可能な限り使ってPhotoshopやIllustratorに慣れるようにしてください。

教科書

参考書

フライヤーのレイアウト

著者: 志賀 隆生

出版社: ビー・エヌ・エヌ新社

出版年: 2007

ISBN: 978-4861005442

タイポグラフィの基本ルール

著者： 大崎 善治

出版社： ソフトバンククリエイティブ

出版年： 2010

ISBN： 978-4797359220

なぜ、これがアートなの？

著者： アメリア アレナス

出版社： 淡交社

出版年： 1998

ISBN： 978-4473015785

成績評価

試験 (30)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

参考URL

宣伝美術 清水俊洋

<http://shimizutoshihiro.info>

講師の公式ウェブサイト

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(都) <a>**

担当者 河野 良平

テーマ

建築家やインテリアデザイナーについて調べる

獲得目標

普段から興味をもっている建築家やインテリアデザイナーについて時間をかけて調べ、自分の関心がどこにあるのかを確認する。また、発表の方法について意識し、自分の考えを相手に分かりやすく伝えるにはどのようにすればよいか、ということを考える。

授業の内容

建築家やインテリアデザイナーについて、各自が興味のあることについて調査し、そこから気が付いたことをゼミ形式で発表する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 建築家について
 - 第3回 発表1
 - 第4回 発表1
 - 第5回 発表1
 - 第6回 発表2
 - 第7回 発表2
 - 第8回 発表2
 - 第9回 発表3
 - 第10回 発表3
 - 第11回 発表3
 - 第12回 見学
 - 第13回 見学
 - 第14回 発表予備日
 - 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

普段から雑誌、専門書、建築の見学や展覧会などを通して、興味のある作家について積極的に情報や資料を収集すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(都) **

担当者 谷口 知司

テーマ

観光文化、観光ビジネス、観光情報、文化資源の情報化

獲得目標

世界中で年間10億人近くの人々が観光目的で移動していると言われています。こうした現状から観光は、それを担う21世紀最大の産業と言われています。ゼミでは、「ビジネスとしての観光」と「文化現象としての観光」という2つの視点から観光を眺めることによって、観光を総合的に理解する力を身につけることを目標とします。

授業の内容

シラバスの順番に授業を進めるが、あわせて観光英語の基礎やゼミで展開するいろいろな企画等の学習をおこなう。

内 容

- 第1回 「ビジネスとしての観光」概説
- 第2回 日本および世界の観光の現状について
- 第3回 旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて1
- 第4回 旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて2
- 第5回 旅行会社、鉄道、ホテル、エアライン等の観光ビジネスについて3
- 第6回 観光情報誌等の分析1
- 第7回 観光情報誌等の分析2
- 第8回 観光情報誌等の分析3
- 第9回 課題発表
- 第10回 観光資源(国内・国外)について
- 第11回 温泉地や世界遺産など日本の観光資源に関する知識1
- 第12回 温泉地や世界遺産など日本の観光資源に関する知識2
- 第13回 世界の観光資源に関する知識1
- 第14回 世界の観光資源に関する知識2
- 第15回 課題発表、まとめ ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

授業以外での学習方法

グループに分けて、各種課題について調査・研究および発表を課すので、授業時間外の学習は必須である。また、観光英語の小テストも行うので復習をする必要がある。

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(都) <c>**

担当者 竹山 清明

テーマ

世界の人に優しく美しい生活空間のあり方を学ぶ

獲得目標

優れたインテリア・家具・住宅・住宅地などの生活空間の中でデザインを学び、その結実として有名建築模型をグループで作成し空間のあり方を学ぶ

授業の内容

優れた事例の学習・調査と、それらを参考にしながら有名建築の模型を作成する

内 容

- 第1回 ガイダンス・自己紹介
 - 第2回 アーツアンドクラフツ
 - 第3回 サンフランシスコの美しい住宅
 - 第4回 イギリス人の心の故郷コッツワルド
 - 第5回 アジアモダン最前線
 - 第6回 大山崎山荘美術館見学
 - 第7回 夢の集合住宅
 - 第8回 生活豊リフォーム
 - 第9回 好きな有名建築模型づくり(グループ作業)1
 - 第10回 好きな有名建築模型づくり(グループ作業)2
 - 第11回 好きな有名建築模型づくり(グループ作業)3
 - 第12回 好きな有名建築模型づくり(グループ作業)4
 - 第13回 好きな有名建築模型づくり(グループ作業)5
 - 第14回 好きな有名建築模型づくり(グループ作業)6
 - 第15回 好きな有名建築模型づくり(グループ作業)発表 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

世界の質の高い空間づくりの事例などを図書から学ぶ

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(都) <d>**

担当者 上原 恵美

テーマ

文化芸術や文化施設の意義について学ぶ

獲得目標

①図書館、美術館・博物館、劇場・音楽堂の意義とマネジメントの現状と課題をテーマに教科書や資料から問題点や解決策などを把握する。②施設見学の後にレポートを作成し、発表することによってレポート作成の方法や発表の仕方を学ぶ。③新聞記事を読む習慣をつける。

授業の内容

教科書を読んで分担して発表する。発表者以外は、必ず質問や意見を述べる。新聞記事のスクラップ目次を作成し、毎月1回、提出して発表する。見学先は一般には入ることのできない場所を見学するため、限られてくる。また、相手先の都合で日程が変更になることもある。その場合は下記の日程を調整する。夏休みの課題を課す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション～ゼミの進め方と新聞スクラップ目次の作り方
- 第2回 教科書(平田オリザ「芸術立国論」)序章、第1章を読む。
- 第3回 教科書第2章を読む。
- 第4回 教科書第3章を読む。
- 第5回 教科書第4章を読む。
- 第6回 教科書第5章を読む。
- 第7回 教科書終章を読む。
- 第8回 教科書(木下直之編「芸術が生まれる場」)第1章
- 第9回 同上
- 第10回 美術館に関する新聞記事を読む
- 第11回 同上
- 第12回 滋賀県立近代美術館を見学し、同時に開催されている企画展を鑑賞する
- 第13回 美術館見学についてレポートをまとめ発表する。
- 第14回 同上
- 第15回 前期のまとめと後期に向けて

授業以外での学習方法

新聞を読んでスクラップし、目次を作る。音楽会、演劇、美術展覧会などに数多く足を運ぶ。

教科書

芸術立国論

著者： 平田オリザ

出版社： 集英社新書

出版年： 2001

ISBN:

芸術の生まれる場

著者： 木下直之編

出版社： 東信堂

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(都) <e>**

担当者 西山 紀子

テーマ

いすのモダンデザインについて

獲得目標

20世紀にデザインされたいすを通してインテリアデザインに対する理解を深め、客観的に分析・考察を行う力や、文章・図表にまとめる、言葉で話すなどの表現力を身につける。

授業の内容

本学リエゾンセンターでは巨匠のデザインによるいすを数点所蔵している。その中から各自1点を選び、時代背景を踏まえてその意義を確認し、また今日における役割や影響を考える。

内 容

- 第1回 20世紀以降のデザインの動向について学ぶため、配布資料の講読、討論を行う。(内容について感心したことや疑問に思ったこと、気付いたことなどその根拠を明らかにしたうえで発表し、意見交換を行う。)
- 第2回 20世紀以降のデザインの動向について学ぶため、配布資料の講読、討論を行う。(内容について感心したことや疑問に思ったこと、気付いたことなどその根拠を明らかにしたうえで発表し、意見交換を行う。)
- 第3回 20世紀以降のデザインの動向について学ぶため、配布資料の講読、討論を行う。(内容について感心したことや疑問に思ったこと、気付いたことなどその根拠を明らかにしたうえで発表し、意見交換を行う。)
- 第4回 20世紀以降のデザインの動向について学ぶため、配布資料の講読、討論を行う。(内容について感心したことや疑問に思ったこと、気付いたことなどその根拠を明らかにしたうえで発表し、意見交換を行う。)
- 第5回 第1回から第4回までのまとめと、それを踏まえていすの選定を発表する。発表では写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫する。
- 第6回 第1回から第4回までのまとめと、それを踏まえていすの選定を発表する。発表では写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫する。
- 第7回 選定したいすについて各自調べ、発表する。意匠にとどまらず、機能や性能、他の家具との関連性、材料と製法、ニストなど統合的に考えることとする。特に機能や性能については、実際のすわり心地や肌ざわりなどを調査し、分析・考察を行うものとする。
- 第8回 選定したいすについて各自調べ、発表する。意匠にとどまらず、機能や性能、他の家具との関連性、材料と製法、ニストなど統合的に考えることとする。特に機能や性能については、実際のすわり心地や肌ざわりなどを調査し、分析・考察を行うものとする。
- 第9回 選定したいすについて各自調べ、発表する。意匠にとどまらず、機能や性能、他の家具との関連性、材料と製法、ニストなど統合的に考えることとする。特に機能や性能については、実際のすわり心地や肌ざわりなどを調査し、分析・考察を行うものとする。
- 第10回 選定したいすについて各自調べ、発表する。意匠にとどまらず、機能や性能、他の家具との関連性、材料と製法、ニストなど統合的に考えることとする。特に機能や性能については、実際のすわり心地や肌ざわりなどを調査し、分析・考察を行うものとする。
- 第11回 選定したいすについて各自調べ、発表する。意匠にとどまらず、機能や性能、他の家具との関連性、材料と製法、ニストなど統合的に考えることとする。特に機能や性能については、実際のすわり心地や肌ざわりなどを調査し、分析・考察を行うものとする。
- 第12回 選定したいすについて各自調べ、発表する。意匠にとどまらず、機能や性能、他の家具との関連性、材料と製法、ニストなど統合的に考えることとする。特に機能や性能については、実際のすわり心地や肌ざわりなどを調査し、分析・考察を行うものとする。
- 第13回 選定したいすについて各自調べ、発表する。意匠にとどまらず、機能や性能、他の家具との関連性、材料と製法、ニストなど統合的に考えることとする。特に機能や性能については、実際のすわり心地や肌ざわりなどを調査し、分析・考察を行うものとする。
- 第14回 ショールーム等の見学
- 第15回 ショールーム等の見学 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

日常より身の回りのインテリアについて関心を持ち、感心したことや疑問に思ったこと、気付いたことなどをデータとして活用できるように記録、整理しておくこと。また建築・インテリア関連の図書や雑誌だけでなく、新聞を読む、テレビや映画を観る、講演会に参加するなど、広い視野を持って情報を得るように心がける。

教科書

必要に応じて指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(都) <f>**

担当者 小森 治夫

テーマ

京都の観光について学ぶ

獲得目標

(1)わが国を代表する観光文化都市・京都の観光資源について学ぶとともに、今後の京都観光のあり方について考える(2)観光関連業界の仕事について学ぶ(3)全国の観光・まちづくりの優れた事例について学び、ふるさとの観光・まちづくりに貢献できる人材となることをめざす

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 京都の世界遺産
 - 第3回 旅行業務取扱管理者(1)
 - 第4回 旅行業務取扱管理者(2)
 - 第5回 葵祭
 - 第6回 旅行業務取扱管理者(3)
 - 第7回 旅行業務取扱管理者(4)
 - 第8回 京町家(1)
 - 第9回 京町家(2)
 - 第10回 京都景観論争
 - 第11回 京都新景観政策
 - 第12回 祇園祭(1)
 - 第13回 祇園祭(2)
 - 第14回 五山送り火
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

京都の寺社仏閣をはじめとする観光地を自らフィールドワークして、その現状と問題点を発見するとともに、その改善策について提案する

教科書

参考書

京都人が書いた「京都」の本

著者： 京都ゆうゆう倶楽部

出版社： PHP研究所

出版年： 2008年

ISBN：

京都ここだけの話

著者： 日本経済新聞社京都支社

出版社： 日本経済新聞出版社

出版年： 2012年

ISBN：

京都の「まち」の社会学

著者： 鯨坂学・小松秀雄編

出版社： 世界思想社

出版年： 2008年

ISBN：

観光京都研究叙説

著者： 杉野国明

出版社： 文理閣

出版年： 2007年

ISBN：

歴史都市・京都から学ぶジュニア日本文化検定テキストブック

著者： 同推進プロジェクト

出版社： 京都新聞出版センター

出版年： 2006年

ISBN：

京都・観光文化への招待

著者： 井口貢他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2012年

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（70）

参加度（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅲ(都) <g>**

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメント入門(1)

獲得目標

文化のなかのアーツの概要と特質を知る。アーツの現場に自分で行くことが出来る。楽しく、アーツプロジェクトに参加する。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション・・・話すこと、メモること、聞き取ること
- 第2回 文化とは・・・自然と文化
- 第3回 アーツとは・・・文化の分類、術の分類
- 第4回 実演芸術とは・・・音楽、演劇、ダンス・・・
- 第5回 視覚芸術とは・・・美術、工芸、映画・・・
- 第6回 学外授業1・・・かえっこバザール、5月下旬予定
- 第7回 学外授業2・・・子どもの文化フォーラム、6/19 東部文化会館
- 第8回 学外授業3・・・舞台の照明、音響を体験する(学外講師)
- 第9回 学外授業4・・・舞台づくり、舞台美術に触れる(学外講師)
- 第10回 アーツマネジメントとは
- 第11回 アーツのいれものとは
- 第12回 演劇とは・・・芸術鑑賞(DVDなど)
- 第13回 ダンスとは・・・芸術鑑賞(DVDなど)
- 第14回 音楽とは・・・芸術鑑賞(DVDなど)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業中、学外授業のほか、自主的活動、アーツ鑑賞などにおいても、ノートをつけること。評価の対象とする可能性あり。授業として、数回、休日に学外にでるので、休日の予定を調整する必要がある。授業以外にも、アーツ鑑賞、アーツボランティア、アーツマネジメント・インターンシップを行ってもらうことが必須になるので、そういう学生を歓迎する。この内容の授業順序は行事予定、アーティストなどの事情で自由に入れ替わる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

記録として、ノート、ブログ、ツイッターなどを活用していく。

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄メインブログ

ツイッターブログ

<http://twilog.org/kogurenob>

Twilog(twitterのブログ)

かえっこ

<http://kaekko.exblog.jp/>

かえっこバザール

2013 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅲ <a>**

担当者 河野 良平

テーマ

獲得目標

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント(1)
 - 第2回 課題主旨説明、設計のポイント(2)
 - 第3回 配置計画案の作成(1)
 - 第4回 配置計画案の作成(2)
 - 第5回 平面計画案の作成(1)
 - 第6回 平面計画案の作成(2)
 - 第7回 立面・断面計画案の作成(1)
 - 第8回 立面・断面計画案の作成(2)
 - 第9回 架構計画案の作成(1)
 - 第10回 架構計画案の作成(2)
 - 第11回 中間発表(1)
 - 第12回 中間発表(2)
 - 第13回 配置図・平面図の作成1(1)
 - 第14回 配置図・平面図の作成1(2)
 - 第15回 平面図の作成2(1)
 - 第16回 平面図の作成2(2)
 - 第17回 立面図の作成(1)
 - 第18回 立面図の作成(2)
 - 第19回 断面図の作成(1)
 - 第20回 断面図の作成(2)
 - 第21回 展開図、パースまたはアクソメトリック図の作成(1)
 - 第22回 展開図、パースまたはアクソメトリック図の作成(2)
 - 第23回 模型1(1)
 - 第24回 模型1(2)
 - 第25回 模型2(1)
 - 第26回 模型2(2)
 - 第27回 模型3(1)
 - 第28回 模型3(2)
 - 第29回 講評とまとめ(1)
 - 第30回 講評とまとめ(2)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅲ **

担当者 松本 正富

テーマ

戸建て住宅の設計

獲得目標

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

授業の内容

木造戸建て住宅の設計を行う。実在する敷地を想定し、容積率・建蔽率など基本的な建築基準法を満たす計画とする。建築計画や動線について考慮し、主要な室については展開図、内観パースやアクソメトリック図を作成する。また、周辺環境に配慮し、建物の規模、形態、仕上材料や外構計画についても具体的に計画する。建築の立地する背景、都市、町並み、地形、気候などや利用者の条件等、建築を設計する上で考慮すべき条件や建築に求められる要件について学ぶ。また、木造住宅などの設計を通して、木造の架構方法を学ぶ。

内 容

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント(1)
- 第2回 課題主旨説明、設計のポイント(2)
- 第3回 配置計画案の作成(1)
- 第4回 配置計画案の作成(2)
- 第5回 平面計画案の作成(1)
- 第6回 平面計画案の作成(2)
- 第7回 立面・断面計画案の作成(1)
- 第8回 立面・断面計画案の作成(2)
- 第9回 架構計画案の作成(1)
- 第10回 架構計画案の作成(2)
- 第11回 中間発表(1)
- 第12回 中間発表(2)
- 第13回 配置図・平面図の作成1(1)
- 第14回 配置図・平面図の作成1(2)
- 第15回 平面図の作成2(1)
- 第16回 平面図の作成2(2)
- 第17回 立面図の作成(1)
- 第18回 立面図の作成(2)
- 第19回 断面図の作成(1)
- 第20回 断面図の作成(2)
- 第21回 展開図、パースまたはアクソメトリック図の作成(1)
- 第22回 展開図、パースまたはアクソメトリック図の作成(2)
- 第23回 模型1(1)
- 第24回 模型1(2)
- 第25回 模型2(1)
- 第26回 模型2(2)
- 第27回 模型3(1)
- 第28回 模型3(2)
- 第29回 講評とまとめ(1)
- 第30回 講評とまとめ(2)

授業以外での学習方法

教科書

初学者の建築講座

著者： 瀬川康秀

出版社： 市ヶ谷出版社

出版年： 2011

ISBN: 9.78487E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅲ <Z>**

担当者 今井 裕夫

テーマ

獲得目標

4階以上の中または高層集合住宅の設計を行う。現代の様々な居住者に対応した建築計画を提案する。各住戸の平面計画と同時に周辺環境に配慮した全体計画を行う。あわせて建築基準法、設備計画や内装などの検討も行う。構造はRC造とする。他の事例について研究し、計画に反映させる。図面・模型の表現を工夫し、プレゼンテーション能力を身に付ける。

授業の内容

内 容

- 第1回 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント(1)
 - 第2回 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント(2)
 - 第3回 集合住宅の事例調査発表(1)
 - 第4回 集合住宅の事例調査発表(2)
 - 第5回 配置計画、全体計画案の作成(1)
 - 第6回 配置計画、全体計画案の作成(2)
 - 第7回 構造計画案の作成(1)
 - 第8回 構造計画案の作成(2)
 - 第9回 設備計画案の作成(1)
 - 第10回 設備計画案の作成(2)
 - 第11回 全体計画案の修正、建築基準法の確認(1)
 - 第12回 全体計画案の修正、建築基準法の確認(2)
 - 第13回 基本住戸平面計画案の作成(1)
 - 第14回 基本住戸平面計画案の作成(2)
 - 第15回 立面・断面・内装計画案の作成(1)
 - 第16回 立面・断面・内装計画案の作成(2)
 - 第17回 中間発表(1)
 - 第18回 中間発表(2)
 - 第19回 配置図の作成(1)
 - 第20回 配置図の作成(2)
 - 第21回 平面図の作成(1)
 - 第22回 平面図の作成(2)
 - 第23回 立面・断面図の作成(1)
 - 第24回 立面・断面図の作成(2)
 - 第25回 模型1(1)
 - 第26回 模型1(2)
 - 第27回 模型2(1)
 - 第28回 模型2(2)
 - 第29回 講評とまとめ(1)
 - 第30回 講評とまとめ(2)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築計画 I**

担当者 竹山 清明

テーマ

住空間の総合的な計画論を学ぶ

獲得目標

居住施設の計画について基本的な知識を習得する。人間の基本動作とそれに伴う必要寸法、戸建て住宅の歴史や様々な形式、各室の計画、配置計画、動線計画さらには集合住宅の種類と計画まで学ぶ。また、住宅の基本計画を実際に行うことで理解を深める。

授業の内容

様々な住空間について学ぶ

内 容

- 第1回 ガイダンス、建築計画の役割
 - 第2回 住活様式と住宅の変化
 - 第3回 人間の基本動作1
 - 第4回 人間の基本動作2
 - 第5回 戸建住宅の配置計画
 - 第6回 戸建住宅の平面計画
 - 第7回 戸建住宅の各室計画
 - 第8回 戸建住宅の基本計画1
 - 第9回 戸建住宅の基本計画2
 - 第10回 団地計画
 - 第11回 集合住宅の形式と配置計画
 - 第12回 集合住宅の平面計画
 - 第13回 集合住宅の住戸計画1
 - 第14回 集合住宅の住戸計画2
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

美しく使いやすい住宅空間の事例を学んでおく

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築環境工学**

担当者 柴田 祥江

テーマ

感性感覚だけの対応になりやすい色彩だが、色彩は人間の心理生理に多大な影響を及ぼす。色彩環境を見直し、本来あるべき快適な生活環境を創出する一助にしたい。

獲得目標

色彩に関する基礎的な知識を学ぶ。色の特徴や性質、配色などを具体的な事例を見ながら理解し、建築やインテリアにおける色の効果や役割について考える。同時に、実践的に活用できるように簡単なセンスアップ演習も行う。

授業の内容

各回の授業項目に関係する色彩基礎知識を多角的な視点で解説する。基礎理論を実感しながら学ぶために、また、単なる知識習得ではなく実践的に活用できるように、理論を基礎にして授業内でのセンスアップ演習も行う。そのため「配色カード158b」日本色研事業(株)発行を購入し、ハサミ、のりと共に毎回の授業に持参すること。

内 容

- 第1回 色を伝える方法
 - 第2回 色彩調和
 - 第3回 美的造形手法
 - 第4回 目の構造と視覚
 - 第5回 混色と測色
 - 第6回 人工光源と色
 - 第7回 インテリアのカラーコーディネート1
 - 第8回 インテリアのカラーコーディネート2
 - 第9回 外観の色彩設計1
 - 第10回 外観の色彩設計2
 - 第11回 景観調和と色彩1
 - 第12回 景観調和と色彩2
 - 第13回 気候風土と色彩文化1
 - 第14回 気候風土と色彩文化2
 - 第15回 色彩環境のまとめ
-

授業以外での学習方法

身の回りの色々なモノの色使いについて、自分で良否の評価とその理由を考えながら見る習慣をつける。

教科書

色彩学の実践

著者： 渡辺安人

出版社： 学芸出版社

出版年： 2005

ISBN： 4-7615-2358-1

参考書

色彩

著者： 大井義雄・川崎昭

出版社： 日本色研事業(株)

出版年：

ISBN：

色彩学入門

著者:

出版社: 日本色研事業(株)

出版年:

ISBN:

建築と色彩

著者: 宮後浩・渡辺安人

出版社: 学芸出版社

出版年: 1999

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (40%)

学習目標を達成するために、欠席が授業回数の1/3を超えた場合は、評価の対象としない(単位取得不可)。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **構造計画**

担当者 福田 浩明

テーマ

獲得目標

構造と意匠(デザイン)と建築計画の相互の関係性を学ぶ。面と軸の構造概念の理解を通し、構造が直接意匠に及ぼす影響や、意匠を成立させる為の構造の重要性など具体例をあげ、業務レベルでの構造計画を実感し、理解を深める。

授業の内容

構造の原理を感覚としてとらえられるよう模型を作りながら又、実例を紹介しながら理解してもらい、実践力を養う。

内 容

- 第1回 構造計画とは
 - 第2回 面構造と軸構造の話
 - 第3回 柱、梁の話
 - 第4回 木構造 在来工法
 - 第5回 木構造 民家型工法
 - 第6回 木構造 2×4 工法
 - 第7回 木構造 その他の工法
 - 第8回 鉄筋コンクリート造 ラーメン構造
 - 第9回 鉄筋コンクリート造 壁式構造
 - 第10回 鉄筋コンクリート造 その他
 - 第11回 鉄骨造、SRC造、他
 - 第12回 混構造
 - 第13回 その他の構造、工法
 - 第14回 演習(構造模型作製等)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

テキストなし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a50202d810

人数、その他の状況に応じて評価方法を変えることもありますが、原則出席とノートの記録を重視します。最終日に100点満点のペーパーテスト(ノートのみ持ち込み可)と一緒に成績の評価とします。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 構造力学Ⅱ

担当者 山本 康彦

テーマ

構造物に起こる変形状態、崩壊機構の基礎について学習する。

獲得目標

構造物に働く力についての基本的な知識を習得し、構造物を合理的に設計する上で必要な事項を学ぶ。部材や構造物に作用する力に対して、どのように力が伝わり、どのように変形するかなどを理解するために、部材の応力度やひずみ、柱の座屈、静定構造物の変形、不静定構造物の弾性解析について練習問題を通して具体的に理解を深める。

授業の内容

テキストに沿って講義を進め、プリント類を使って理解度を確認する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 応力度
 - 第3回 弾性とひずみ
 - 第4回 柱の理論1、短柱
 - 第5回 柱の理論2、長柱
 - 第6回 静定構造物の変形1、片持ちはり1
 - 第7回 静定構造物の変形1、片持ちはり2
 - 第8回 静定構造物の変形2、単純はり1
 - 第9回 静定構造物の変形2、単純はり2
 - 第10回 不静定構造物と解法について
 - 第11回 不静定構造物の解析1 たわみ角法1
 - 第12回 不静定構造物の解析1 たわみ角法2
 - 第13回 不静定構造物の解析2 固定法1
 - 第14回 不静定構造物の解析2 固定法2
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

建築物が力を受けると、どのように変形するかを常にイメージする。

教科書

図説 やさしい構造力学

著者： 浅野清昭

出版社：(株)学芸出版社

出版年：2011年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅱ <a>

担当者 中山 大介

テーマ

2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

獲得目標

平面図・立面図・断面図といった建築図面の作成ルールを理解し、建築製図用のCAD ソフトを使用してそれら建築図面を制作する。また図面のトレースや立体化を通じて、空間デザインのトレーニングを行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 基本の操作 面を使って図を描く 練習課題
 - 第2回 基本の操作
 - 第3回 基本の操作 線を使って図を描く 練習課題: アクソメを描く
 - 第4回 基本の操作復習 練習課題: 階段をアクソメで描く
 - 第5回 基本の操作復習(2) 練習課題: らせん階段をアクソメで描く
 - 第6回 演習課題1: 小住宅のアクソメを描き、その空間構成をプロポーションについて学 ぶ
 - 第7回 //
 - 第8回 演習課題2: 名作住宅の図面をトレースする
 - 第9回 //
 - 第10回 演習課題2-2: トレースした図面をもとにアクソメをたちあげる
 - 第11回 //
 - 第12回 演習課題3: 美術館をアクソメ化し、館内案内図をつくる
 - 第13回 //
 - 第14回 //
 - 第15回 講評
-

授業以外での学習方法

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック

出版年: 2010

ISBN: 9.78488E+12

参考書

初学者の建築講座

著者: 瀬川康秀

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2011

ISBN: 9.78487E+12

成績評価

a50202e210

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅱ

担当者 松本 正富

テーマ

2次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

獲得目標

平面図・立面図・断面図といった建築図面の作成ルールを理解し、建築製図用のCADソフトを使用してそれら建築図面を制作する。また図面のトレースや立体化を通じて、空間デザインのトレーニングを行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 基本の操作 面を使って図を描く 練習課題
 - 第2回 基本の操作
 - 第3回 基本の操作 線を使って図を描く 練習課題:アクソメを描く
 - 第4回 基本の操作復習 練習課題:階段をアクソメで描く
 - 第5回 基本の操作復習(2) 練習課題:らせん階段をアクソメで描く
 - 第6回 演習課題1:小住宅のアクソメを描き、その空間構成をプロポーションについて学ぶ
 - 第7回 //
 - 第8回 演習課題2:名作住宅の図面をトレースする
 - 第9回 //
 - 第10回 演習課題2-2:トレースした図面をもとにアクソメをたちあげる
 - 第11回 //
 - 第12回 演習課題3:美術館をアクソメ化し、館内案内図をつくる
 - 第13回 //
 - 第14回 //
 - 第15回 講評
-

授業以外での学習方法

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック

出版年: 2010

ISBN: 9.78488E+12

参考書

初学者の建築講座

著者: 瀬川康秀

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2011

ISBN: 9.78487E+12

成績評価

a50202e212

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 都市建築文化史Ⅱ

担当者 石井 和浩

テーマ

未来が必要としている都市建築のあり方

獲得目標

都市建築の歴史を学ぶ意義は、先人たちがそれぞれの時代において、より良い生活を営むためにやってきた「試行錯誤の跡」を確認することである。何に失敗し、どのように克服してきたかを検証する。そのことによって冷静な判断力を養い「未来の生き方の視座」となる。

授業の内容

都市・建築空間の構成やディテールなど図版・画像・逸話などを交えて臨場感ある解説を行う。

内 容

- 第1回 歴史的変遷を学ぶ意義
 - 第2回 都市の誕生と建築
 - 第3回 古代における建築文化
 - 第4回 中世・町衆の都市建築
 - 第5回 「都城」制の変容としての平安京
 - 第6回 戦国武将の町づくり
 - 第7回 近世の建築文化1
 - 第8回 近世の建築文化2
 - 第9回 近代の歴史的産業遺産
 - 第10回 近代の建築文化1 - 西洋建築の輸入 -
 - 第11回 近代の建築文化2 - 大正デモクラシーの建築 -
 - 第12回 近代の建築文化3 - 現代建築の規範 -
 - 第13回 現代の在郷町におけるまちづくり
 - 第14回 歴史的文化的遺産を生かしたまちづくり
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

適宜レジュメを配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

図説 建築の歴史 西洋・日本・近代

著者: 西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎

出版社: 学芸出版社

出版年: 2003年

ISBN:

成績評価

a50202e550

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (50)

小テスト (50)
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **観光情報論**

担当者 谷口 知司

テーマ

観光にかかわるさまざまな情報および情報媒体について学ぶ。

獲得目標

観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまな情報がかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。

授業の内容

講義と受講者による発表で構成される。授業タイトルは「論」であるが演習のつもりで受講してほしい。

内 容

- 第1回 観光情報とは
 - 第2回 観光情報とメディア
 - 第3回 観光ビジネスと情報活用について①
 - 第4回 観光ビジネスと情報活用について②
 - 第5回 観光ビジネスと情報活用について③
 - 第6回 観光ビジネスと情報活用について④
 - 第7回 いろいろな観光情報
 - 第8回 観光情報について分析する(発表を含む)①
 - 第9回 観光情報について分析する(発表を含む)②
 - 第10回 観光情報について分析する(発表を含む)③
 - 第11回 観光情報について分析する(発表を含む)④
 - 第12回 観光情報について分析する(発表を含む)⑤
 - 第13回 観光情報について分析する(発表を含む)⑥
 - 第14回 観光情報について分析する(発表を含む)⑦
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **アーツマネジメント論**

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメントを学ぶ入り口

獲得目標

アーツマネジメントが都市環境デザインにどう位置づけられるかを知る。アーツマネジメントの基礎的用語を理解し説明できる。アーツマネジメントの分類ができる。

授業の内容

ゲスト講師をできれば呼びたい。アーティストやアーツマネージャーが呼びかけに来てくれることもあるので、楽しみに

内 容

- 第1回 これからの予定の紹介(冒頭に、これからの演劇ダンス公演のPRだとか、美術関係のボランティア募集などの呼びかけが随時行われることがあり、そこに登場する方々は、それぞれ新進気鋭のアーツマネージャーなので、適宜、生のアーツマネジメントの姿を挿入することを促進する。)
 - 第2回 アーツマネジメントのABC
 - 第3回 アーツマネジメントの定義と文化政策、まちづくりとの関係
 - 第4回 アーツスペース(劇場ホール、美術館)とアーツカンパニー(劇団、楽団など)
 - 第5回 学外授業 芸術鑑賞 京都かその周辺(予定)
 - 第6回 アーツスペース論～劇場、コンサートホール、ライブハウス、美術館、画廊の真実～
 - 第7回 アーツの分類
 - 第8回 限界芸術論1・・・結婚式など冠婚葬祭を例示する
 - 第9回 限界芸術論2・・・ウェディングプランナーとフューネラルマネージャー
 - 第10回 アーツマネジメントの分類と歴史
 - 第11回 アーツマネージャーを招いて(外部講師)
 - 第12回 指定管理者制度など行政的マネジメント課題
 - 第13回 非営利民間活動の公共性～アーツNPOと企業メセナ
 - 第14回 限界芸術と先端芸術、伝統芸術、市場芸術の関係
 - 第15回 まとめ・・・アーツ(マネジメント)の公共性とは
-

授業以外での学習方法

アーツマネジメントの基本文献を紹介したり配布するので、時間外によく読んでおくこと。生協の読書奨励制度を積極的に活用するととても役立つ。芸術鑑賞と文化ボランティアの学外での活動を評価する。

教科書

参考書

アーツ・マネジメント概論三訂版

著者： 伊藤裕夫ほか

出版社： 水曜社

出版年： 2009

ISBN：

文化政策学の展開

著者： 池上惇ほか

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN:

入門都市政策

著者： 真山達志ほか

出版社： 大学コンソーシアム京都

出版年： 2009

ISBN:

アーツマネジメントみち

著者： 小暮宣雄

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN:

分権時代の自治体文化政策

著者： 中川幾郎

出版社： 勁草書房

出版年： 2001

ISBN:

限界芸術論

著者： 鶴見俊輔

出版社： 筑摩書房

出版年： 1999

ISBN:

著作権とは何か

著者： 福井健策

出版社： 集英社

出版年： 2005

ISBN:

地域再生の罫

著者： 久繁哲之介

出版社： 筑摩書房

出版年： 2010

ISBN:

未来型サバイバル音楽論

著者： 牧村憲一ほか

出版社： 中央公論新社

出版年： 2010

ISBN:

これからのアートマネジメント

著者： 中川真ほか

出版社： フィルムアート社

出版年： 2011

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（20）

授業中課題（30）

授業中発表等（0）

参加度（50）

毎回、A5版程度の用紙（出席確認を兼ねるもの）に感想や意見、時にはミニテストなどをして提出してもらう。欠席の場合はそれに替わるものをA5用紙で提出して15回をクリアすることをめざす。

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄メインブログ

小暮宣雄フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

できればフィード購読を

2013 Syllabus

科目名 **文化施設マネジメント論**

担当者 上原 恵美

テーマ

国や自治体の文化政策の変遷と文化施設のマネジメントについて学ぶ。

獲得目標

文化施設の利用者の立場を超えて、「マネジメントする」という視点から文化施設のあり方について学ぶ。

授業の内容

国や自治体の文化政策の変遷の中で、国公立の文化施設のマネジメントの在り方が大きく変化してきている。前半は、文化政策の変遷と様々な文化施設について学び、後半は、文化施設の中でもマネジメントの在り方が多様な劇場・音楽堂に焦点を当ててそのマネジメントについてみていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション～文化施設とは何か(1)国立文化施設
- 第2回 文化施設とは何か(2)公立文化施設
- 第3回 図書館、美術館・博物館、劇場・音楽堂の意義と役割 図書館法、博物館法、劇場・音楽堂の振興に関する法律
- 第4回 戦後日本の文化政策の変遷
- 第5回 文化予算の現状
- 第6回 文化芸術振興基本法について
- 第7回 文化施設の運営主体について(1)国立文化施設の運営主体(独立行政法人)
- 第8回 文化施設の運営主体について(2)公立文化施設への指定管理者制度の導入
- 第9回 指定管理者制度の現状と課題
- 第10回 市民会館・文化会館から劇場・音楽堂へ(建築構造の違い、活動内容の違い)
- 第11回 公立文化施設の運営の事例(1)市立文化会館からゲストを迎えて
- 第12回 公立文化施設の運営の事例(2)県立芸術劇場からゲストを迎えて
- 第13回 国立劇場の運営について(新国立劇場の事例)
- 第14回 劇場・音楽堂の活動を支える組織と資金(マネジメントの要)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

公共劇場の10年

著者： 伊藤裕夫ほか編

出版社： 美学出版

出版年： 2010

ISBN:

進化する劇場 舞台の裏側は面白い

著者： 中山浩男

出版社： 新評論

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化政策論

担当者 金武 創

テーマ

獲得目標

1)文化政策の先進事例から複眼的思考の重要性を学ぶ 2)学生が自らの経験を基礎に考えることを促す 3)自らの経済的自立のための基礎学力を育む(就職活動支援も含めて) 個人の自立を目指した文化政策を考える

授業の内容

生活の豊かさと個人の自立について考える。(「文化経済論」と連続講義)

内 容

- 第1回 稀少性と選択の科学
 - 第2回 価格メカニズム
 - 第3回 文化生産
 - 第4回 文化消費
 - 第5回 文化資本
 - 第6回 文化遺産観光
 - 第7回 埋蔵文化財
 - 第8回 JPOPと音楽消費
 - 第9回 温泉文化
 - 第10回 ギャンブルと文化支援
 - 第11回 スポーツ振興(1)
 - 第12回 スポーツ振興(2)
 - 第13回 建築デザイン
 - 第14回 パブリックアート
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

文化経済論

著者: 金武創/阪本崇

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2005年

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a50202g310

試験 ()
授業中課題 (80)
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地域文化行政論

担当者 五十川 伸矢

テーマ

文化財行政の現状と課題

獲得目標

文化財の保護という仕事は、これまで国都道府県市町村の行政体を中心となっておこなってきた。その仕事内容は、現実的な仕事である。また、最近では、時代の変化に対応した文化財行政のありかたが求められている。これらの文化財行政の現実と課題を理解する。

授業の内容

文化財行政の担当者が、きびしい現実に対して、どのように業務をこなしているのかを、きちんと説明してゆく。かれらが「古代のロマン」なんぞ感じてはいないことを、理解していただきたい。

内 容

- 第1回 近代国家成立以前の文化財保護
 - 第2回 近代の行政的文化財保護の歴史① 国家成立期の文化財事情
 - 第3回 近代の行政的文化財保護の歴史② 文化財保護法の成立
 - 第4回 古代のロマンとナショナリズムの形成
 - 第5回 埋蔵文化財の調査現場の仕事
 - 第6回 教育委員会の仕事①(ゲストスピーカー)埋蔵文化財調査担当者
 - 第7回 埋蔵文化財に関する文化財行政のまとめ
 - 第8回 学外授業 発掘調査現場、または整備された遺跡・建築
 - 第9回 日本の世界遺産と平泉
 - 第10回 教育委員会の仕事②(ゲストスピーカー)世界遺産担当者
 - 第11回 行政体の文化財保護組織・保存問題
 - 第12回 文化財行政の課題① 大学・博物館・行政組織・民間の関係の変貌
 - 第13回 文化財行政の課題② 民間調査組織と資格問題
 - 第14回 文化財行政の課題③ 文化財の有効活用
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I <a>

担当者 今井 裕夫

テーマ

「スペース・エレメント(建築を構成している要素)」の研究

獲得目標

私たちが取りまく環境は、いろいろな「建築を構成しているエレメント」により成立している。環境に漠然と散在する「エレメント」の中から、興味を引く「エレメント」を求め、それから一つ一つの存在意味を探るデザイン・サーヴェイ(デザイン取材)を写真の撮影により行う。その場所に赴き、凝視(じっとみつめること)を通して建築やインテリアの設計、環境を構想する人のデザイナーとしての感性の獲得とさらに磨きをかけるための感性ノート作りを行うとともに作家研究または設計課題を行う。

授業の内容

毎日の視線から気になる建築のデザイン要素を求めて歩く。例えば窓や階段といった機能や用途が明解である対象物を撮影する。エレメントの意味を読み取り、その成立背景から大まかに分類する。・写真によるチェックを行う。・写生または写真からのドローイングにより記憶素として確認を行う。・眼差しによる言葉をつづること。(箇条書程度でよいがキーワードやキャプションが必要)・適宜、報告と情報交換をゼミ形式で行う。発表者は発表用レジュメを人数分用意する。・2-3名のグループ行動がよいと思われる。・提出物は感性ノート I A4版(20P)クリアファイル(A4 用紙に写真またはそのカラーコピーを添付(コメント付き)20枚以上/ドローイング2枚)・カメラ(できればマニュアルカメラ)を所有すること。・その他指示による。

内 容

- 第1回 ガイダンス(課題主旨の説明)
- 第2回 講義
- 第3回 取材①
- 第4回 取材①
- 第5回 取材①
- 第6回 講義
- 第7回 課題(設計・ドローイング)
- 第8回 課題(設計・ドローイング)
- 第9回 課題(設計・ドローイング)
- 第10回 取材②
- 第11回 取材②
- 第12回 取材②
- 第13回 発表・講評
- 第14回 発表・講評
- 第15回 ノート作成(提出) ※尚、この授業は必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

つね日頃、カメラを持ち歩くこと。環境に散在するかたちに興味をもつこと。凝視すること。言葉を交わすこと。撮影すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I

担当者 河野 良平

テーマ

自分の好きな建築やインテリアとは？

獲得目標

自分の建築やインテリアに対する興味のあるかを探す。印象や感想ではなく、事実やその関係等から、ものごとを客観的に捉える姿勢を身に付ける。自分の意見や考えを、相手に伝える発表方法を検討する。

授業の内容

自分の好きな建築や建築家、インテリアやインテリアデザイナー、自分の身近にある建築やインテリアについて調べてみる。各自が本当に興味のあることについて調べ、そこから気が付いたこと、面白いと思ったことをゼミ形式で発表する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表1
 - 第3回 発表1
 - 第4回 発表1
 - 第5回 発表1
 - 第6回 発表2
 - 第7回 発表2
 - 第8回 発表2
 - 第9回 発表2
 - 第10回 発表3
 - 第11回 発表3
 - 第12回 発表3
 - 第13回 発表3、まとめ
 - 第14回 ゼミ合宿
 - 第15回 ゼミ合宿
-

授業以外での学習方法

普段から新聞、建築関係の雑誌・専門誌、建築・インテリア関連の図書、テレビ、インターネット、講演会、建築の見学や展覧会などを通して、興味のあるものについて積極的に情報や資料を収集すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I <c>

担当者 竹山 清明

テーマ

3Dキャドの修得

獲得目標

卒業制作や、社会に出てからの設計業務に必須の3Dキャドの作図法を学ぶ

授業の内容

3Dキャドであるアーキキャドを用いて住宅の作図法を学ぶ

内 容

- 第1回 基本操作1
 - 第2回 基本操作2
 - 第3回 敷地の入力
 - 第4回 1階床壁建具の入力
 - 第5回 2階床壁建具の入力
 - 第6回 ロフト階・屋根の入力
 - 第7回 家具の入力1
 - 第8回 家具の入力2
 - 第9回 設備の配置
 - 第10回 階段その他の配置
 - 第11回 平面図の作成
 - 第12回 断面図の作成
 - 第13回 立面図の作成
 - 第14回 レンダリング
 - 第15回 図面レイアウト
-

授業以外での学習方法

教科書を参考に予習復習を行う

教科書

ArchiCad StarterBook

著者： 新 貴美子

出版社： GRAPHISOFT

出版年： 2010

ISBN： 9.78491E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I <d>

担当者 松本 正富

テーマ

現代建築家のデザイン手法についての検討

獲得目標

様々な建築家のデザイン手法や設計に対する概念を学ぶことで、建築設計やデザインという行為に対する興味と見識を広げる。効果的なプレゼンテーションの技能を習得する。

授業の内容

1)各自が興味を持った建築家とその作品について調査し、パワーポイントによるプレゼンテーションを行う。2)数回の建築見学会を開催する。3)建築やデザイン系のコンペへの参加を奨励し、これに関わるアドバイスと支援を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 調査テーマの設定
 - 第3回 プレゼンテーション-1
 - 第4回 プレゼンテーション-2
 - 第5回 プレゼンテーション-3
 - 第6回 プレゼンテーション-4
 - 第7回 プレゼンテーション-5
 - 第8回 プレゼンテーション-6
 - 第9回 建築見学会-1
 - 第10回 コンペ課題コンセプト検討-1
 - 第11回 コンペ課題コンセプト検討-2
 - 第12回 コンペ課題ドローイング-1
 - 第13回 コンペ課題ドローイング-2
 - 第14回 建築見学会-2
 - 第15回 まとめと講評 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業・特別講演会を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加、見学旅行等、デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で、モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

教科書

参考書

コンパクト設計資料集成

著者： 日本建築学会編

出版社： 丸善株式会社

出版年： 2005

ISBN： 9.78462E+12

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I <e>

担当者 西山 紀子

テーマ

空間の構成要素について

獲得目標

「床」「壁」「天井」「階段」「出入口・扉」「窓」など、また「家具」「照明器具」「カーテン」「ブラインド」など、さまざまな空間の構成要素（以下エレメントと称する。）に関する調査・報告を通して、それらに対する理解を深め、客観的に分析・考察を行う力や文章や図表にまとめる、言葉で話すなどの表現力を身につける。

授業の内容

エレメントは種々ある。それぞれのエレメントが果たす役割を確認し、その機能や効果を踏まえて、よりよいデザインのあり方を考える。特に意匠にとどまらず、機能や性能、他の要素との関連性、材料と製法、コストなど統合的に考えることとする。

内 容

- 第1回 エレメントについての講義、ビデオ、各自のテーマ決定
- 第2回 学内において、各自のテーマに基づき実態調査
- 第3回 学内において、各自のテーマに基づき実態調査
- 第4回 実態調査の結果および分析・考察→発表、討論(写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫すること。)→レポートの作成・提出
- 第5回 実態調査の結果および分析・考察→発表、討論(写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫すること。)→レポートの作成・提出
- 第6回 実態調査の結果および分析・考察→発表、討論(写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫すること。)→レポートの作成・提出
- 第7回 各自がテーマに選んだエレメントを活かした小住宅の設計
- 第8回 各自がテーマに選んだエレメントを活かした小住宅の設計
- 第9回 各自がテーマに選んだエレメントを活かした小住宅の設計
- 第10回 各自がテーマに選んだエレメントを活かした小住宅の設計
- 第11回 各自がテーマに選んだエレメントを活かした小住宅の設計
- 第12回 設計課題プレゼンテーション
- 第13回 見学会(ショールーム、展示場など)
- 第14回 見学会(ショールーム、展示場など)
- 第15回 ゼミ合宿(美術館、博物館、工場の見学など) ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

日常より身の回りで見掛けるサインについて関心を持ち、特に学内での調査終了後はデータとして活用できるように記録、整理しておくこと。また建築・インテリア関連の図書や雑誌だけでなく、新聞を読む、テレビや映画を観る、講演会に参加するなど、広い視野を持って情報を得るように心がける。

教科書

必要に応じ指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I <f>

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アートを伝える、文化を創る(その1)

獲得目標

1)アーツマネジメントの概念を自分のものにする 2)各種の文化プロデュース現場に参加し意味を考える 3)実演芸術、視覚芸術、言語芸術のほか、冠婚葬祭イベントなど自分のテーマを見つける

授業の内容

自主性を大事にします。形にしばられない考え方をしたい人向きです。卒業研究も卒業論文だけでなく、卒業制作(独自に企画を考えたり、外部企画に積極的に参加したりして、その成果を写真や動画なども含めて提出する形)も積極的に取り入れます。ゼミの運営もできるだけ、その場で起きる「創発」的な状態にしたい。就職活動にも、義務感とするのではなく、自分たちで楽しくできるように、工夫をしようと思っています。就活の準備を演劇的に模擬化したり、自らを伝える術を芸術(アーツ)によって身に付けるように考えています。自分のテーマのために、積極的に読書すること。その際、参考書欄を見つつ、生協の読書奨励制度を活用すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 アーツマネジメントを自分のことばにする
- 第3回 地域の文化イベントに参加する
- 第4回 アーツプロジェクト体験Ⅰ～子どもの文化フォーラム参加
- 第5回 アーツの鑑賞を学外で行う
- 第6回 アーティストやアーツマネージャーのお話を聞く
- 第7回 アーティストやアーツマネージャーをインタビューしてまとめる
- 第8回 レジュメを作って発表する① 演劇ダンス
- 第9回 レジュメを作って発表する② 音楽
- 第10回 レジュメを作って発表する③ 映画
- 第11回 レジュメを作って発表する④ 美術工芸デザイン
- 第12回 各地の夏休み企画を探してみる(卒業制作の準備とも連動)
- 第13回 アーツプロジェクト体験Ⅱ 自分が参加できる企画を見つけ、アプローチする
- 第14回 キャリア研究(インターンシップ先など)
- 第15回 まとめ ※尚、この講義では第5回の講義時、また必要に応じて学外で授業を行う。

授業以外での学習方法

ツイッターやブログの活用を検討する。京都や滋賀、大阪などにおけるさまざまなアーツセンターのボランティアなどをゼミで提示するので、活用する。

教科書

参考書

キャラクター文化入門

著者: 暮沢剛巳

出版社: NTT出版

出版年: 2010

ISBN:

大学論

著者： 大塚英志

出版社： 講談社

出版年： 2010

ISBN:

アーツ・マネジメント概論三訂版

著者： 伊藤裕夫ほか

出版社： 水曜社

出版年： 2009

ISBN:

入門都市政策

著者： 真山達志ほか

出版社： 大学コンソーシアム京都

出版年： 2009

ISBN:

アーツマネジメントみち

著者： 小暮宣雄

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN:

限界芸術論

著者： 鶴見俊輔

出版社： 筑摩書房

出版年： 1999

ISBN:

地域再生の罨

著者： 久繁哲之介

出版社： 筑摩書房

出版年： 2010

ISBN:

コミュニティを問いなおす

著者： 広井良典

出版社： 筑摩書房

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (50)

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄アーツブログ

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I <g>

担当者 木下 達文

テーマ

プロジェクトマネジメント&空間プロデュース(1) ～自己テーマの確立と基礎知識の習得～

獲得目標

本演習では、各自のテーマを明確にし、文献を通じて基礎的知識を養う。なお、等ゼミにおいては、ゼミ生相互の交流と共同研究を促進するため、「サブプログラム」を実施している。また、夏休みには、アパレンティシップとして、将来設計に応じたインターンのプログラムを自分自身で設定し、それらを達成していくことを目的としている。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標)
 - 第2回 自己関心発見ワークショップ
 - 第3回 専門領域・テーマの絞り込み(1)
 - 第4回 専門領域・テーマの絞り込み(2)
 - 第5回 将来目標の設定
 - 第6回 基礎文献の収集と購読(1)
 - 第7回 基礎文献の収集と購読(2)
 - 第8回 中間発表(1)
 - 第9回 中間発表(2)
 - 第10回 基礎文献の収集と購読(1)
 - 第11回 基礎文献の収集と購読(2)
 - 第12回 基礎文献の収集と購読(3)
 - 第13回 期末発表(1)
 - 第14回 期末発表(2)
 - 第15回 評価とまとめ
-

授業以外での学習方法

個人研究は基本的に学生自ら行うことなので、計画的に時間をとって研究を進めること。ゼミでは、研究だけでなく、就職支援も積極的に行うので、将来のことを早くから考えるようにする。また、当ゼミではメールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導を適宜行っている。なお、必要に応じて、ゼミ会等の懇親会も毎年行っている。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a502030117

特に出席を重視する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I <h>

担当者 織田 直文

テーマ

まちの元気づくりをプロデュースする力を付ける。

獲得目標

現代のまちの様々な病理について学ぶとともに、まちを元気にするプロデュース力を身につける。実践学習として具体的なイベント企画・実施を行う。また、各自が卒業研究のテーマを検討する。

授業の内容

まちづくりの意義や手法を学習するとともに、学内でのイベント企画・実施をする。また、卒論テーマの検討を開始する。テーマは例えば祭・イベント、歴史を活かしたまちづくり、自然・環境を活かしたまちづくり、伝統産業・観光等の振興、町家・町並み、中心市街地や歴史的商店街の活性化等である。

内 容

- 第1回 ゼミの進め方、自己紹介
- 第2回 フィールドワーク①
- 第3回 フィールドワーク②
- 第4回 卒業研究に向けての基礎知識(講義)
- 第5回 卒業研究に向けての発表① +学内イベント研究①
- 第6回 卒業研究に向けての発表② +学内イベント研究②
- 第7回 卒業研究に向けての発表③ +学内イベント研究③
- 第8回 卒業研究に向けての発表④ +学内イベント研究④
- 第9回 学内イベント研究⑤
- 第10回 学内イベント研究⑥
- 第11回 学内イベント実施
- 第12回 学内イベント実施
- 第13回 学内イベント反省
- 第14回 まちづくりに関する総括講義
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

卒業研究につなげていくことを念頭に、各自の関心事について日頃から情報収集を行い、スクラップする。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

イベントやまちづくりに関する情報をチェックしておく。また、自分の卒論研究に関する文献を読む。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I <i>

担当者 谷口 知司

テーマ

観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究

獲得目標

観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺的な知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。なお、併せて教科書の輪読を行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
- 第2回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
- 第3回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
- 第4回 観光資源や文化資源の情報化について学ぶ。
- 第5回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
- 第6回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
- 第7回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
- 第8回 観光情報・観光ビジネスについて課題を解決する。
- 第9回 課題についての発表
- 第10回 課題についての発表
- 第11回 旅(調査)をプランニングする。夏休み中に海外観光地の現地調査(観光資源調査を含む)を行う。そのための①現地予備調査(書籍・雑誌・Web・ビデオ等)をする。②現地予備調査を基に旅(調査)のプランニングをする。なお、ゼミメンバー各人が責任分担し全体を構成する。
- 第12回 旅(調査)をプランニングする。
- 第13回 旅(調査)をプランニングする。
- 第14回 旅(調査)をプランニングする。
- 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

授業以外での学習方法

様々な観光資源や地域資料等の収集やその方法を身につけるためのフィールドワークを行う。

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習 I <J>

担当者 金武 創

テーマ

観光/文化と現代ビジネス

獲得目標

ビジネス・マインドを基礎に文化観光の理解を深める

授業の内容

①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練(専門演習 I, II 共通)前後期ともに都市環境デザイン学科2コースの専門的な学習を予定しているが、詳しい内容はゼミ生と相談して決める。他と比べて、2倍以上のゼミ学習量なので、1コース集中の他ゼミと遜色ない水準を維持できるのではないか。条件が整えば、らくたび文庫プロジェクトを実施予定です。

内 容

- 第1回 「ハイ・コンセプト」を読む①
- 第2回 「ハイ・コンセプト」を読む②
- 第3回 「祭りのゆくえ」を読む①
- 第4回 「祭りのゆくえ」を読む②
- 第5回 「モチベーション3.0」を読む①
- 第6回 「モチベーション3.0」を読む②
- 第7回 観光ビジネス改善提案①
- 第8回 観光ビジネス改善提案②
- 第9回 観光ビジネス改善提案③
- 第10回 『ワークショップと学び(全3巻)』を読む①
- 第11回 『ワークショップと学び(全3巻)』を読む②
- 第12回 『ワークショップと学び(全3巻)』を読む③
- 第13回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む①
- 第14回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む②
- 第15回 「ふるさと資源化と民俗学」を読む③ ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行う

授業以外での学習方法

教科書

参考書

ハイ・コンセプト

著者: ピンク

出版社: 講談社

出版年: 2006

ISBN:

モチベーション3.0

著者: ピンク

出版社: 三笠書房

出版年: 2010

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（）

授業中課題（60）

授業中発表等（20）

参加度（20）

授業出席と授業中課題は成績評価の最低条件です。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習V**

担当者 今井 裕夫

テーマ

獲得目標

4階以上の中または高層集合住宅の設計を行う。現代の様々な居住者に対応した建築計画を提案する。各住戸の平面計画と同時に周辺環境に配慮した全体計画を行う。あわせて建築基準法、設備計画や内装などの検討も行う。構造はRC造とする。他の事例について研究し、計画に反映させる。図面・模型の表現を工夫し、プレゼンテーション能力を身に付ける。

授業の内容

内 容

- 第1回 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント(1)
 - 第2回 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント(2)
 - 第3回 集合住宅の事例調査発表(1)
 - 第4回 集合住宅の事例調査発表(2)
 - 第5回 配置計画、全体計画案の作成(1)
 - 第6回 配置計画、全体計画案の作成(2)
 - 第7回 構造計画案の作成(1)
 - 第8回 構造計画案の作成(2)
 - 第9回 設備計画案の作成(1)
 - 第10回 設備計画案の作成(2)
 - 第11回 全体計画案の修正、建築基準法の確認(1)
 - 第12回 全体計画案の修正、建築基準法の確認(2)
 - 第13回 基本住戸平面計画案の作成(1)
 - 第14回 基本住戸平面計画案の作成(2)
 - 第15回 立面・断面・内装計画案の作成(1)
 - 第16回 立面・断面・内装計画案の作成(2)
 - 第17回 中間発表(1)
 - 第18回 中間発表(2)
 - 第19回 配置図の作成(1)
 - 第20回 配置図の作成(2)
 - 第21回 平面図の作成(1)
 - 第22回 平面図の作成(2)
 - 第23回 立面・断面図の作成(1)
 - 第24回 立面・断面図の作成(2)
 - 第25回 模型1(1)
 - 第26回 模型1(2)
 - 第27回 模型2(1)
 - 第28回 模型2(2)
 - 第29回 講評とまとめ(1)
 - 第30回 講評とまとめ(2)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築設備**

担当者 柴田 祥江

テーマ

建築設備の基礎を学ぶ

獲得目標

快適な建築空間を構築するために、建築と建築設備との関わりを理解した上で、給排水・衛生設備、空気調和設備、電気設備、搬送設備について、基礎的な知識を得ることとする。

授業の内容

地球温暖化防止のためには、建物内での省エネルギー技術は重要であり、それを担うのが建築設備技術である。建築設備から建築空間のあり方を探る授業内容とする。

内 容

- 第1回 建築と建築設備との関わり、地球環境と建築設備との関わり
 - 第2回 給排水・衛生設備 給水設備について
 - 第3回 給排水・衛生設備 給湯設備・ガス設備について
 - 第4回 給排水・衛生設備 排水・通気設備について
 - 第5回 給排水・衛生設備 排水処理設備・衛生器具設備について
 - 第6回 給排水・衛生設備 消火設備について
 - 第7回 空気調和設備 空気調和と室内環境について
 - 第8回 空気調和設備 空気線図の使い方について
 - 第9回 空気調和設備 空調負荷について
 - 第10回 空気調和設備 空気調和方式の種類・特徴について
 - 第11回 空気調和設備 熱源・熱搬送設備と機器部材について
 - 第12回 空気調和設備 換気・排煙・自動制御設備について
 - 第13回 電気設備 受変電・幹線設備と動力設備について
 - 第14回 電気設備 照明・コンセント設備と情報・通信設備について
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

予習としては、事前に次回の授業の教科書を読んでくること。復習は授業時に重要な用語を示すので、意味を理解して覚えていくこと。

教科書

初学者の建築講座 建築設備

著者： 大塚雅之

出版社： 市ヶ谷出版社

出版年： 2011

ISBN： 9.78487E+12

参考書

成績評価

試験（40）

授業中課題（ ）

参加度（30）

小テスト（30）

授業中発表等（ ）

a502033310

試験は最終週に実施。小テストは中間で習熟度の確認。参加度は出席と授業態度で評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築施工**

担当者 笠井 俊明

テーマ

建築物がつくり出される過程や施工上のポイントについて、具体的にやさしく学ぶ。建築施工の基礎的な内容を中心に建築積算についても並行して学ぶ。

獲得目標

建築施工における基礎的な知識を学び、一般的な建築工事のプロセスについて理解する。各工程、工種での基本的な工事内容、技術的な手法や積算方法について具体的に知ることで、施工計画や工程管理などの重要性を認識する。

授業の内容

各テーマに沿って、写真や図を用いてより具体的に、また実践での経験などもおろみぜながら、基本的なことを教えます。学内外で適当な工事現場があれば、見学を予定しています。

内 容

- 第1回 建築施工について
 - 第2回 建築生産に関わる各種業務;設計・工事発注・施工など
 - 第3回 施工の流れと工程計画作成
 - 第4回 仮設工事について、および、地盤強度と地盤調査
 - 第5回 土工事と、地業工事の種類と施工法
 - 第6回 鉄筋工事と型枠工事
 - 第7回 コンクリートの配合と、その打設手順
 - 第8回 鉄骨の種類と、その接合や建て方について
 - 第9回 メーソロジー(組積)工事とプレキャストパネル
 - 第10回 建具工事
 - 第11回 内外装の機能材料と仕上工事
 - 第12回 給排水・空調・電気設備工事
 - 第13回 工事費の積算の手順
 - 第14回 簡単な構造物の積算演習
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業で学んだ事を工事現場があれば、興味を持って施工方法や工程を観察してみる。テキストの予習・復習をする。

教科書

建築施工(改訂版)

著者: 中澤明夫 角田 誠

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2010/9/24

ISBN: 9.78487E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

a502033410

最後にまとめの試験をします30%。各授業の最後に小テスト30% 出席率40%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **景観・アメニティ論**

担当者 小森 治夫

テーマ

獲得目標

地域計画を通じて現代における景観やアメニティを考える。地域開発の歴史や景観論争の実態を把握し、論点を理解・整理した上で、日本の伝統文化が育んできたアメニティについて学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション、地域計画・景観・アメニティ
 - 第2回 京都の町屋
 - 第3回 京都景観論争
 - 第4回 京都の新景観政策
 - 第5回 鞆浦景観論争
 - 第6回 ソウル大改造
 - 第7回 農村の景観(1)里山
 - 第8回 農村の景観(2)棚田
 - 第9回 農村の景観(3)黒川温泉
 - 第10回 建築の美(1)桂離宮
 - 第11回 建築の美(2)白川郷
 - 第12回 建築の美(3)かやぶき屋根
 - 第13回 建築の美(4)蔵と石橋
 - 第14回 建築の美(5)ヴォーリス
 - 第15回 建築家のミッション
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(特に経済面、政治面、社会面など) 講義内容に関連するテレビ番組を見る

教科書

参考書

日本に風景を殺したのは誰だ？

著者： 船瀬俊介

出版社： 彩流社

出版年： 2004年

ISBN:

日本美の再発見

著者： ブルーノ・タウト

出版社： 岩波書店

出版年： 1939年

ISBN:

ブルーノ・タウト

著者： 田中辰明

出版社： 中央公論新社

出版年： 2012年

ISBN:

ヴォーリズ建築の100年

著者： 山形政昭

出版社： 創元社

出版年： 2008年

ISBN:

日本の宝 鞆の浦を歩く

著者： 三浦正幸

出版社： 南々社

出版年： 2010年

ISBN:

都市伝説 ソウル大改造

著者： 李明博

出版社： マネジメント社

出版年： 2007年

ISBN:

京都観光学のススメ

著者： 井口和紀他

出版社： 人文書院

出版年： 2005年

ISBN:

都市不動産の経済学

著者： 柿本尚志

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2008年

ISBN:

歴史的環境の社会学

著者： 片桐新自編

出版社： 新曜社

出版年： 2000年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) <a>

担当者 河野 良平・松本 正富

テーマ

卒業研究について考える

獲得目標

論文のテーマを探し、資料を集める。研究対象を分析し、新しい知見を得る。

授業の内容

各自進捗状況を報告する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表1
 - 第3回 発表1
 - 第4回 発表1
 - 第5回 発表2
 - 第6回 発表2
 - 第7回 発表2
 - 第8回 発表3
 - 第9回 発表3
 - 第10回 発表3
 - 第11回 発表4
 - 第12回 発表4
 - 第13回 発表4、まとめ
 - 第14回 ゼミ合宿
 - 第15回 ゼミ合宿
-

授業以外での学習方法

普段から新聞、建築関係の雑誌・専門誌、建築・インテリア関連の図書、テレビ、インターネット、講演会、建築の見学や展覧会などを通して、興味のあるものについて積極的に情報や資料を収集する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都)

担当者 今井 裕夫

テーマ

卒業論文を完成させる(1)テーマの設定と調査

獲得目標

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の内容

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法 ○文献・資料検索についての具体的指導を行う。・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表1
 - 第3回 発表1
 - 第4回 発表1
 - 第5回 発表2
 - 第6回 発表2
 - 第7回 発表2
 - 第8回 発表3
 - 第9回 発表3
 - 第10回 発表3
 - 第11回 発表4
 - 第12回 発表4
 - 第13回 発表4
 - 第14回 ゼミ合宿
 - 第15回 ゼミ合宿 ※尚、この授業では必要に応じて学外での授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) <c>

担当者 上原 恵美

テーマ

卒業論文を完成させる(1)テーマの設定と調査

獲得目標

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の内容

卒業研究を進めるための一般的指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法 ○文献・資料検索についての具体的な指導を行う。・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導を行う。・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表1
 - 第3回 発表1
 - 第4回 発表1
 - 第5回 発表2
 - 第6回 発表2
 - 第7回 発表2
 - 第8回 発表3
 - 第9回 発表3
 - 第10回 発表3
 - 第11回 発表4
 - 第12回 発表4
 - 第13回 発表4
 - 第14回 発表4
 - 第15回 中間発表にむけて
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (30)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) <d>

担当者 織田 直文

テーマ

卒業研究テーマの追及

獲得目標

各自が卒業研究テーマを確定し、計画的に調査、作業を進め、論文作成を進めることで、課題発見力、調査研究能力、表現力などを向上させる。

授業の内容

各自が卒業研究計画をたて、計画に従って進めた作業を順次報告し、討論を行う。

内 容

- 第1回 ゼミの進め方および卒業研究に向けての基礎学習①
 - 第2回 卒業研究に向けての基礎学習②
 - 第3回 過去の優秀論文に学ぶ学習①
 - 第4回 過去の優秀論文に学ぶ学習②
 - 第5回 発表と討議
 - 第6回 発表と討議
 - 第7回 発表と討議
 - 第8回 発表と討議
 - 第9回 発表と討議
 - 第10回 中間総括
 - 第11回 発表と討議
 - 第12回 発表と討議
 - 第13回 発表と討議
 - 第14回 発表と討議
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (10)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

過去の優秀論文を精読する、また自分の研究に関する情報収集・分析を精力的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) <e>

担当者 木下 達文

テーマ

卒業研究を作成する。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 論文の書き方
 - 第3回 卒論進捗報告(序論)
 - 第4回 卒論進捗報告(序論)
 - 第5回 卒論進捗報告(序論)
 - 第6回 卒論進捗報告(序論)
 - 第7回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第8回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第9回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第10回 卒論進捗報告(本論:先行研究の検討)
 - 第11回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第12回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第13回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第14回 卒論進捗報告(本論:調査内容)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (45)

小テスト (0)

授業中発表等 (55)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) <f>

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメント研究を形にしていく

獲得目標

アーツマネジメント研究を自分の研究、制作として形にするための計画をつくること 卒業研究(論文・制作)の準備と着手をきちんとおこなうこと

授業の内容

内 容

- 第1回 はじめに
 - 第2回 自分の卒業研究の内容確認
 - 第3回 卒業研究の作法の確認
 - 第4回 卒業制作と卒業研究の違い、共通事項
 - 第5回 卒業研究の企画書発表(1)
 - 第6回 卒業研究の企画書発表(2)
 - 第7回 卒業研究の企画書発表(3)
 - 第8回 卒業研究の企画書発表(4)
 - 第9回 卒業研究のための先行事例と文献の確認
 - 第10回 フィールドワークの作法とノーツの確認
 - 第11回 卒業研究の概要発表(1)
 - 第12回 卒業研究の概要発表(2)
 - 第13回 卒業研究の概要発表(3)
 - 第14回 卒業研究の概要発表(4)
 - 第15回 まとめ、夏休みの確認
-

授業以外での学習方法

卒業研究の作業は授業中ではできないものではないので、授業外で文献を読み、フィールドワークにおいてはインタビューや観察を丹念にし、記録すること。

教科書

参考書

アーツ・マネジメント概論三訂版

著者: 伊藤裕夫ほか

出版社: 水曜社

出版年: 2009

ISBN:

入門都市政策

著者: 真山達志ほか

出版社: 大学コンソーシアム京都

出版年: 2009

ISBN:

アーツマネジメントみち

著者： 小暮宣雄

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN：

限界芸術論

著者： 鶴見俊輔

出版社： 筑摩書房

出版年： 1999

ISBN：

地域再生の罨

著者： 久繁哲之介

出版社： 筑摩書房

出版年： 2010

ISBN：

コミュニティを問いなおす

著者： 広井良典

出版社： 筑摩書房

出版年： 2009

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（60）

参加度（40）

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄のブログ

小暮宣雄フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) <g>

担当者 杉山 泰

テーマ

英国から学ぶ都市環境デザインと若者を潰すブラック企業研究

獲得目標

世界で最も早く産業革命を成し遂げ、幕末の1860年代にはロンドンのunderground(地下鉄)を掘っていた。日本において、そうした英国の技術が東京大学工学部でも教授され、1877年に入学した田邊朔郎は琵琶湖疏水を計画する。明治時代に日本は英国から多くを学んでいた。24時間営業のPub、アル中患者の登場、公害の発生、その後1895年のNational Trustの設立。英国の衣食住を眺めることで、日本の現代の課題が数多く見えてくる。500もの歴史的建造物を、国民1人1人の会費で守り続けているこの運動1つとっても学ぶことは多い。ヴィクトリア時代、労働者が30歳で死亡した悲惨な英国を再生させた英国の文化政策とは何だったのか。今日の英国のまちづくり、観光を学び、さらには日本への外国人観光客がなぜ英国の10分の1なのかを考えながら卒業論文のテーマを探し出し、論文を完成させていく。

授業の内容

内 容

- 第1回 就活での面接にどう答えるか、「質問ペーパー」に応え、討議する。
- 第2回 3回生ゼミで一応決めた「卒論テーマ」の発表(5分)と討議。
- 第3回 「ブラック企業」のプリント配布、各自ブラック企業を定義する。
- 第4回 配布資料から具体的「ブラック企業」の悪質な手口を発表する。
- 第5回 「日本の老舗企業」(プリント)の研究。200年以上続いた理由。
- 第6回 各自発表。(BBB運動、70年住宅の価値、Park & Rideシステム)
- 第7回 各自発表。(sports、pub、庭園、寺院、無料の博物館、高速道路)
- 第8回 各自発表。(B & B、The Beatles、イギリスの魔女・日本の魔女)
- 第9回 各自発表。(英国の王室・日本の皇室、英国の食・日本の食)
- 第10回 面接を受ける(受けた)企業研究。ブラック企業?(各自発表)
- 第11回 面接を受ける(受けた)企業研究。早期退職者数は?(各自発表)
- 第12回 卒論テーマとサブタイトルの発表(研究文献を挙げる)
- 第13回 卒論テーマとサブタイトルの発表(研究文献からfactを挙げる)
- 第14回 新卒者にとっていい企業の条件を考える。3年で辞めたほうがいい?
- 第15回 京セラとユニクロの比較研究(各自3つ以上の比較表を提出)

授業以外での学習方法

International Theatre Company Londonによる演劇鑑賞、英国の文化政策のインターネット情報と本からの情報の収集、京エコセンターを訪問してエコハウスの研究、英国的スポーツの実践とスポーツ大会、ゼミコンパ、観光地でのゼミ合宿。七夕陶灯路への参加、清水焼団地訪問。

教科書

授業中に適時プリント配布(新書を示すこともある。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) <h>

担当者 竹山 清明

テーマ

使いやすく美しい建築計画を作成するための課題設定

獲得目標

卒業制作のための制作目標の設定準備

授業の内容

卒業制作の計画・デザインのフリーハンドおよびアーキキヤドによるエスキースづくり

内 容

- 第1回 制作課題の探索1
 - 第2回 制作課題の探索2
 - 第3回 制作課題の探索3
 - 第4回 フリーハンドによるエスキース作成1
 - 第5回 フリーハンドによるエスキース作成2
 - 第6回 アーキキヤドによるエスキース作成1
 - 第7回 アーキキヤドによるエスキース作成2
 - 第8回 アーキキヤドによるエスキース作成3
 - 第9回 制作課題の探索4
 - 第10回 制作課題の探索5
 - 第11回 フリーハンドによるエスキース作成3
 - 第12回 フリーハンドによるエスキース作成4
 - 第13回 アーキキヤドによるエスキース作成4
 - 第14回 アーキキヤドによるエスキース作成5
 - 第15回 アーキキヤドによるエスキース作成6
-

授業以外での学習方法

授業外でもエスキース作業を行っておくこと

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) <i>

担当者 谷口 知司

テーマ

卒業論文を完成させる(1)テーマの設定と調査

獲得目標

論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の内容

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。受講生の研究の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法 ○文献・資料検索についての具体的指導を行う。・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 ○順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表に向けての指導。・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

内 容

第1回 ガイダンス

第2回 発表1

第3回 発表1

第4回 発表1

第5回 発表2

第6回 発表2

第7回 発表2

第8回 発表3

第9回 発表3

第10回 発表3

第11回 発表4

第12回 発表4

第13回 発表4

第14回 ゼミ合宿等

第15回 ゼミ合宿等 ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅲ(都) <j>

担当者 西山 紀子

テーマ

卒業論文・卒業研究を完成させる。(1)－テーマの設定と調査

獲得目標

卒業論文作成者は、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。卒業研究作成者は、課題に見合った研究方法を身につけ、卒業研究を完成させる。(ゼミ合宿あり)

授業の内容

内 容

- 第1回 卒業研究を進めるための一般指導と現地調査、各自のテーマに応じた個別指導をする。テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法
- 第2回 テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法
- 第3回 テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法
- 第4回 テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法
- 第5回 テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法
- 第6回 テーマのしぼり方、その他につき討論・公表し、最終テーマを決定させる。 ・論理の構成、目次の作成 ・論理的な文章を書く方法
- 第7回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 順次各自の研究テーマについて発表させる。
- 第8回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 順次各自の研究テーマについて発表させる。
- 第9回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 順次各自の研究テーマについて発表させる。
- 第10回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 順次各自の研究テーマについて発表させる。
- 第11回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 順次各自の研究テーマについて発表させる。
- 第12回 文献・資料検索についての具体的指導を行う。 ・研究テーマの深め方、より専門的な資料の調査 順次各自の研究テーマについて発表させる。
- 第13回 中間発表に向けての指導。 ・レジユメの作成方法 ・質疑応答の仕方
- 第14回 中間発表に向けての指導。 ・レジユメの作成方法 ・質疑応答の仕方
- 第15回 中間発表に向けての指導。 ・レジユメの作成方法 ・質疑応答の仕方 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

日常生活においても各自のテーマに係る関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

教科書

必要に応じて指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じて指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護学原論Ⅰ**

担当者 大島 弓子

テーマ

看護学全体を概観し、その基盤となっている本質的な見方考え方を学ぶことをめざす。看護の歴史的な背景および看護理論の見地から、目的・本質を中心に看護の原理を理解する。また、看護の対象である人間そして病人について理解し、看護の方法の概括とケアの方向性、看護が提供されるシステム全体を知る。さらに、看護の今後の課題についても考察する。

獲得目標

1, 看護の概念、定義に含まれる構成要素(人間、環境、健康、看護)の理解を通し、看護の本質、原理について考察する。2, 看護の対象である個人/家族/集団について、その対象を全体的な存在としての理解について、理論的基盤の見地から理解する。3, 看護の専門性、責任・義務を多様な視点から、看護を学ぶ者としての方向性を考察する。4, 看護の機能、役割、保健福祉医療チームについて看護活動との関連を通し、その概括を理解する。5, 看護の本質、専門性を大切にされた看護実践における現状と課題について考える。

授業の内容

内 容

- 第1回 Introduction;看護学の学修に向けて留意すること。私自身が看護にたずさわる中で大切にしてきたこと。看護学の成り立ち、構造、基礎看護学の位置づけ、本学の看護学の構築
- 第2回 看護の概念、看護の本質・原理(1):看護理論家からの看護の概念、看護の本質、看護の定義
- 第3回 看護の概念、看護の本質・原理(2):看護理論家からの看護の概念、看護の本質、看護の定義
- 第4回 看護の概念、看護の本質・原理(3):看護理論家からの看護の概念、看護の本質、看護の定義
- 第5回 看護の構成要素としての主要概念(1):「人間」/「環境」/「健康」/「看護」-1
- 第6回 看護の構成要素としての主要概念(2):「人間」/「環境」/「健康」/「看護」-2
- 第7回 自分が今考える看護の構成要素の概念と関連性(1):自らが今考える看護の構成要素「人間」「環境」「健康」「看護」の概念と関連性
- 第8回 看護の構成要素の概念とその関連性の検討(2):看護の構成要素「人間」「環境」「健康」「看護」の概念と関連性の討論
- 第9回 看護の歴史的な変遷と本質:看護の歴史的な変 からみた看護の本質、かかえる課題
- 第10回 看護の対象の理解(1):生理的・心理的・社会的にシステムティックに統合した全体としての依存、環境とダイナミックな関連を持ち適応して生きる存在、成長/発達する存在
- 第11回 看護の対象の理解(2):固有性、多様なニーズを持つ存在、自ら考え、意思決定し問題に対処していく存在
- 第12回 看護の対象の理解(3):患者/家族/集団としての存在、病人としての存在
- 第13回 看護の専門性・責任・義務、看護の役割、機能:看護の専門性、専門性求められる責務・倫理と教育、看護の役割機能、看護に対する社会からのニーズと役割
- 第14回 保健福祉医療チームと連携、看護活動:保健福祉医療チームとの連携、看護活動
- 第15回 看護の現状の課題と看護の本質からみた課題:看護の本質、専門性を大切にされた看護、現状と課題の概括

授業以外での学習方法

教科書

看護学概論、第5版

著者: 松木光子編集

出版社: ニューヴェルヒロカワ

出版年: 2011年

ISBN:

参考書

ザ・ロイ適応看護モデル第2番

著者: C.Roy,H.Andrews(松木光子監訳)

a70101a110

出版社：医学書院

出版年：2010年

ISBN:

看護理論集

著者： J・B. ジョージ(編), 南裕子他(訳)

出版社：日本看護協会

出版年：2011年

ISBN:

成績評価

試験 (60)

小テスト (10)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ヘルスプロモーション**

担当者 北村 隆子・伊藤 恵美子・河原 宣子・神崎 光子・竹下 夏美・堀 妙子・家根 明子

テーマ

健康の概念およびヘルスプロモーションの概念を学び、ライフサイクル各期において、人々が自らの健康をコントロールし、改善する過程を支援する看護方法を学ぶ

獲得目標

1. 健康の概念を理解する 2. ヘルスプロモーションの概念を理解する 3. 人の誕生からライフサイクル各期におけるヘルスプロモーション活動を理解する 4. 現代社会の保健医療福祉におけるヘルスプロモーション活動を理解する 5. ヘルスプロモーションと政策について理解する

授業の内容

ライフサイクル論と対応させ、オムニバス方式で授業を進行する。はじめに、ヘルスプロモーションの総論を学び、続いて、ライフサイクル各期における具体的活動および政策について学ぶ。

内 容

- 第1回 健康の概念(北村)
- 第2回 ヘルスプロモーションの概念(北村)
- 第3回 地域を基盤とした疾病予防の考え方と対応(家根)
- 第4回 人々の健康行動の特性・効果的な介入方法と技術(家根)
- 第5回 健康教育の定義・歴史と変遷(家根)
- 第6回 健康教育の理論とモデル(家根)
- 第7回 現代社会、現代文化におけるヘルスプロモーションと政策(竹下)
- 第8回 健康教育活動の展開の実施例(地域)【家根】
- 第9回 健康教育活動の展開の実施例(母性)【神崎】
- 第10回 健康教育活動の展開の実施例(小児)【堀】
- 第11回 健康教育活動の展開の実施例(成人)【河原】
- 第12回 健康教育活動の展開の実施例(精神)【伊藤】
- 第13回 健康教育活動の展開の実施例(老年)【北村】
- 第14回 健康教育活動の展開の実施例(成人)【河原】
- 第15回 まとめ【北村】

授業以外での学習方法

教科書

ライフサイクル論で用いたテキストを適宜使用

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 ライフサイクル論

担当者 堀 妙子・磯見 智恵・伊藤 恵美子・遠藤 俊子・河原 宣子・北村 隆子

テーマ

人のライフサイクルと発達について学び、それぞれのライフサイクルにおける生活のあり方や健康課題の特徴を学び看護の対象となる人々を理解するための基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.人のライフサイクルと発達について説明できる。2.人の発達段階各期における保健統計から健康課題の特徴を説明できる。3.人の発達段階各期における、身体的変化、認知や感情、心理社会的変化について説明できる。4.人を生活している人ととらえ、発達段階各期におけるその特徴を説明できる。5.妊娠・産婦・褥婦の生理、胎児・新生児・乳幼児の生理について説明できる。6.人の発達段階各期における健康課題について理解し、健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法について説明できる。7.自己分析を行い、自己理解できる。

授業の内容

「橘薫の一生」というオリジナル教材を用い、主人公である橘薫の人生を題材として、それぞれの発達段階における特徴を、様々な視点から学ぶ。

内 容

- 第26回 老年期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第27回 老年期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第28回 老年期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第29回 老年期の成長・発達課題と健康課題(5)
- 第30回 ライフサイクル論まとめ
- 第1回 ライフサイクル論概説(1)
- 第2回 ライフサイクル論概説(2)
- 第3回 ライフサイクル論概説(3)
- 第4回 青年期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第5回 青年期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第6回 青年期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第7回 青年期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第8回 青年期の成長・発達課題と健康課題(5)
- 第9回 成人前期の成長・発達課題と健康課題(1) 小テスト(1)
- 第10回 成人前期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第11回 成人前期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第12回 小児期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第13回 小児期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第14回 小児期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第15回 成人期中期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第16回 成人期中期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第17回 成人期中期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第18回 成人期中期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第19回 小児期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第20回 小児期の成長・発達課題と健康課題(5) 小テスト(2)
- 第21回 成熟期の成長・発達課題と健康課題(1)
- 第22回 成熟期の成長・発達課題と健康課題(2)
- 第23回 成熟期の成長・発達課題と健康課題(3)
- 第24回 成熟期の成長・発達課題と健康課題(4)
- 第25回 老年期の成長・発達課題と健康課題(1)

授業以外での学習方法

授業中に紹介します

教科書

老年看護学 概論と看護の実践

著者： 奥野茂代他

出版社： ヌーベルヒロカワ

出版年： 最新版

ISBN:

成人看護学 ヘルスプロモーション

著者： 大西和子他編

出版社： ヌーベルヒロカワ

出版年： 最新版

ISBN:

公衆衛生マニュアル

著者： 柳川洋他編

出版社： 南山堂

出版年： 最新版

ISBN:

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論

著者： 小松浩子他

出版社： 医学書院

出版年： 最新版

ISBN:

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児臨床看護総論

著者： 奈良間美保他

出版社： 医学書院

出版年： 最新版

ISBN:

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学[1]

著者： 武井麻子他

出版社： 医学書院

出版年： 最新版

ISBN:

系統看護学講座 基礎分野 人間関係論

著者： 長谷川浩他

出版社： 医学書院

出版年： 最新版

ISBN:

新体系看護学全書 母性看護学①母性看護学概論/ウィメンズヘルスと看護

著者： 新藤幸恵他編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 最新版

ISBN:

新体系看護学全書 母性看護学②マタニティサイクルにおける母子の健康と看護

著者： 中野仁雄他編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 最新版

ISBN:

最新保健学講座別巻1 健康教育論

著者： 宮坂忠夫他編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 最新版

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

小テスト (50)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

2013 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント I**

担当者 堀 妙子・松浦 基博・林正 健二

テーマ

解剖学、微生物学の基礎医学を系統的に学び、身体の状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。

獲得目標

1. 人体の構造を系統的・立体的に理解できる。 2. 人体の各組織や器官の正常機能およびそれらの協調による恒常性の維持などの調節機構を理解できる。 3. 看護に必要な人体の防御システムについて説明できる。

授業の内容

解剖学、微生物学を中心とした基礎医学的知識を学ぶ。フィジカルアセスメントⅡ及び、フィジカルアセスメント演習Ⅰ・Ⅱと連動して授業をすすめる。

内 容

- 第1回 学修方法、看護の土台となる解剖生理学:解剖学用語
- 第2回 体を構成する仕組み:細胞と組織
- 第3回 物質を運搬する仕組み:血液
- 第4回 体の隅々まで血液を送る仕組み:循環器系
- 第5回 酸素を取り入れ二酸化炭素を排出する仕組み:呼吸器系
- 第6回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み:消化器系
- 第7回 尿をつくり体液の恒常性を保つ仕組み:泌尿器系
- 第8回 体や臓器を守る仕組み:皮膚と膜
- 第9回 体を支える仕組み:骨格系
- 第10回 体を動かす仕組み:筋系
- 第11回 子孫を残す仕組み:生殖器系
- 第12回 外部の情報を取り入れる仕組み:感覚器系
- 第13回 情報を収集し、判断して伝達する仕組み:神経系
- 第14回 体内の環境を整える仕組み:内分泌系
- 第15回 異物を認識し、記憶して排除する仕組み:免疫系
- 第16回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(1):咀嚼、嚥下
- 第17回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(2):消化
- 第18回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(3):吸収
- 第19回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(4):排泄
- 第20回 栄養と代謝(1):臨床栄養学の基礎知識
- 第21回 栄養と代謝(2):運動と栄養
- 第22回 栄養と代謝(3)人生各期における栄養
- 第23回 感染症の診断と治療
- 第24回 病原微生物学概論, 細菌学-1
- 第25回 細菌学-2
- 第26回 細菌学-3
- 第27回 ウイルス学-1
- 第28回 ウイルス学-2
- 第29回 真菌学, 原虫学
- 第30回 感染に対する防御機構

授業以外での学習方法

教科書

ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能(1)解剖生理学 [第3版]

著者: 林松健二編

出版社: メディカ出版

出版年: 2013年

ISBN:

ビジュアル微生物学[第2版]

著者: 小田紘

出版社: ヌーベルヒロカワ

出版年: 2012年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント演習 I**

担当者 小野塚 元子・植村 由美子・奥野 信行・梶谷 佳子・片山 由加里・中橋 苗代・堀 妙子

テーマ

フィジカルアセスメント I で学んだ身体の機能と構造の知識に基づいて、身体の状態を理解し、健康状態を把握するための基本的技術を獲得する。

獲得目標

1.看護に必要な人体の構造と機能を系統的な知識を活用できる。2.成長発達の視点に基づき、身体についての情報収集ができる。3.情報収集に必要な診察技法(問診, 視診, 聴診, 打診, 触診)が活用できる。4.身体の状態の正常が理解できる。5.身体の状態の代表的な異常が理解できる。6.対象との援助的なコミュニケーションを展開できる。7.アセスメント過程での援助的関係を形成できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 看護におけるフィジカルアセスメントの意義 観察技術の種類や方法
- 第2回 演習に関する諸注意, 日常的手洗い, ベッドメイキング
- 第3回 循環器系のアセスメント(講義)、体温調節
- 第4回 循環器系のアセスメント①
- 第5回 循環器系のアセスメント②
- 第6回 呼吸器系のアセスメント
- 第7回 小児のフィジカルアセスメント
- 第8回 実技試験
- 第9回 ペーパー試験

授業以外での学習方法

・フィジカルアセスメント I II の知識を活用できるように、ビジュアル等の視聴覚教材を利用し知識を深めてください。・技術の修得は演習内では困難です。主体的に練習を行ってください。

教科書

ナーシンググラフィカ ヘルスアセスメント

著者: 川村佐知子他編

出版社: メディカ出版

出版年: 2004

ISBN:

参考書

フィジカルアセスメント完全ガイド

著者: 藤崎郁

出版社: Gakken

出版年: 2001

ISBN:

フィジカルアセスメントガイド

著者: 山内豊明

出版社: 医学書院

出版年: 2000

ISBN:

フィジカルアセスメント

著者： 日野原重明

出版社： 医学書院

出版年： 1978

ISBN:

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 ()

実技試験: 40, ペーパー試験: 30, 授業中課題: 30

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 異文化コミュニケーション論

担当者 竹下 夏美

テーマ

多文化共生社会におけるあらゆるコミュニケーションを異文化コミュニケーションとしてとらえた上でさまざまな文化をグローバルな視点で考える。

獲得目標

1. 多文化共生社会における対象を理解するために何が必要か考える。2. 多文化共生社会における文化とは何かについて考える。3. 多文化共生社会における看護師の役割について考える。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業ガイダンス、異文化コミュニケーションを学ぶことの意義
 - 第2回 文化について考える①
 - 第3回 文化について考える②
 - 第4回 空間、時間、異文化コミュニケーション
 - 第5回 異文化理解とコミュニケーション
 - 第6回 多文化社会の人間関係力
 - 第7回 異文化トレーニング
 - 第8回 多文化共生社会における看護師の役割
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 (10)

レポート課題を随時提示予定です。

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報科学 I <A>

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

a70101b410

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報科学 I **

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 論理的思考

担当者 梅本 裕

テーマ

看護学学習と研究および一般教養として必要な論理的思考の基礎を講義と演習によって身につける

獲得目標

看護の研究と実践に必要な論理的思考の基礎を身につける。(1)思考を深めるための定型を、書きことばと話しことばの両面にわたって身につける。(2)作文と作文の添削という二つの方法により、見学や実習の体験を文章化する技法に習熟する。

授業の内容

前半は、受講生がひとまとまりの文章を書き、それをクラスで検討する。翻訳書や論文の文章も検討する。後半はディベートを学ぶことにより主張と根拠の関係を理解し、論理的な文章やディスコースの特質を理解する。授業には常に国語辞書(電子辞書でよいが、携帯電話の辞書機能利用は推奨しない)を持参すること。

内 容

- 第1回 400字で論評文を書く(その1)
 - 第2回 400字で論評文を書く(その2)
 - 第3回 思考単位としての文
 - 第4回 文章書き換えの練習(その1)
 - 第5回 文章書き換えの練習(その2)
 - 第6回 段落のはたらき・つくり方
 - 第7回 800字で論評文を書く(その1)
 - 第8回 800字で論評文を書く(その2)
 - 第9回 語句の選び方と使い方(その1)
 - 第10回 語句の選び方と使い方(その2)
 - 第11回 演習:ブックレビューを書く
 - 第12回 演習:案内文を書く
 - 第13回 ディベートの立論を書く(その1)
 - 第14回 ディベートの立論を書く(その2)
 - 第15回 アカデミックスキルとしての論理的文章
-

授業以外での学習方法

日ごろより本をたくさん読もう。また、文章を書く時には、常に一文一義の文体で書くように心がけよう

教科書

新版 論理的思考

著者: 宇佐美寛

出版社: メディカルフレンド社

出版年: 1989

ISBN: 9.78484E+12

参考書

論理トレーニング101題

著者: 野矢茂樹

出版社: 産業図書

出版年: 2001

ISBN: 478280136X

レポート・論文の書き方入門 第3版

著者： 河野哲也

出版社： 慶應義塾大学出版会

出版年： 2002

ISBN: 4766409698

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **統計学基礎論(看)**

担当者 岡本 哲弥

テーマ

統計学の基礎的な知識を修得する。

獲得目標

看護に関する調査報告・論文を理解するために求められるデータ分析の基本的な知識を習得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 調査方法とデータの種類
 - 第3回 度数分布表とヒストグラム
 - 第4回 基本統計量: 代表値
 - 第5回 基本等計量: ちらばり
 - 第6回 確率分布(二項分布)
 - 第7回 確率分布(正規分布)
 - 第8回 グラフ化と分割表
 - 第9回 散布図と相関係数
 - 第10回 回帰分析(回帰式)
 - 第11回 回帰分析(分散分析表)
 - 第12回 分割表の分析(オッズ比、連関係数)
 - 第13回 分割表の検定(カイ2乗検定)
 - 第14回 偏差値
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

日頃、新聞などに掲載されている統計データを解釈してみる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (70)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <A>**

担当者 中島 登美子 梶谷 佳子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

授業の内容

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション、図書館オリエンテーション
- 第2回 前半の演習内容のオリエンテーション
- 第3回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 全体講義 レポートのまとめ方など
- 第9回 演習(6) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第10回 演習(7) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第11回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(9) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(10) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b810

2/3以上の出席が必要である。前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) **

担当者 梶谷 佳子・竹下 夏美

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

授業の内容

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション、図書館オリエンテーション
- 第2回 前半の演習内容のオリエンテーション
- 第3回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 全体講義 レポートのまとめ方など
- 第9回 演習(6) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第10回 演習(7) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第11回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(9) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(10) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b812

2/3以上の出席が必要である。前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <C>**

担当者 竹下 夏美 富永 真己

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

授業の内容

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション、図書館オリエンテーション
- 第2回 前半の演習内容のオリエンテーション
- 第3回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 全体講義 レポートのまとめ方など
- 第9回 演習(6) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第10回 演習(7) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第11回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(9) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(10) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b813

2/3以上の出席が必要である。前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <D>**

担当者 富永 真己 松本 賢哉

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

授業の内容

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション、図書館オリエンテーション
- 第2回 前半の演習内容のオリエンテーション
- 第3回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 全体講義 レポートのまとめ方など
- 第8回 演習(5) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第9回 演習(6) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第10回 演習(7) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第11回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(9) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(10) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(11) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b814

2/3以上の出席が必要である。前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <E>**

担当者 松本 賢哉・中橋 苗代

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の見つけ方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

授業の内容

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション、図書館オリエンテーション
- 第2回 前半の演習内容のオリエンテーション
- 第3回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 全体講義 レポートのまとめ方など
- 第9回 演習(6) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第10回 演習(7) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第11回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(9) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(10) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b815

2/3以上の出席が必要である。前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <F>**

担当者 中橋 苗代・植村 由美子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

授業の内容

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション、図書館オリエンテーション
- 第2回 前半の演習内容のオリエンテーション
- 第3回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 全体講義 レポートのまとめ方など
- 第9回 演習(6) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第10回 演習(7) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第11回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(9) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(10) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b816

2/3以上の出席が必要である。前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <G>**

担当者 植村 由美子・奥野 信行

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

授業の内容

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション、図書館オリエンテーション
- 第2回 前半の演習内容のオリエンテーション
- 第3回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 全体講義 レポートのまとめ方など
- 第9回 演習(6) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第10回 演習(7) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第11回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(9) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(10) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b817

2/3以上の出席が必要である。前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <H>**

担当者 奥野 信行 小野塚 元子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

授業の内容

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション、図書館オリエンテーション
- 第2回 前半の演習内容のオリエンテーション
- 第3回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 全体講義 レポートのまとめ方など
- 第9回 演習(6) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第10回 演習(7) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第11回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(9) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(10) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b818

2/3以上の出席が必要である。前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <I>**

担当者 小野塚 元子・常田 裕子

テーマ

主体的に学ぶ姿勢を身につける

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

授業の内容

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション、図書館オリエンテーション
- 第2回 前半の演習内容のオリエンテーション
- 第3回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 全体講義 レポートのまとめ方など
- 第9回 演習(6) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第10回 演習(7) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第11回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(9) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(10) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b819

2/3以上の出席が必要である。前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I (看護) <J>**

担当者 常田 裕子・中島 登美子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ

授業の内容

内 容

- 第1回 全体オリエンテーション、図書館オリエンテーション
- 第2回 前半の演習内容のオリエンテーション
- 第3回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 全体講義 レポートのまとめ方など
- 第9回 演習(6) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第10回 演習(7) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第11回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(9) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(10) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b820

2/3以上の出席が必要である。前期前半の教員が前期後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護学 I**

担当者 磯見 智恵・植村 由美子・奥野 信行・小野塚 元子・梶谷 佳子・片山 由加里・中橋 苗代・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

既習の学習を踏まえ、発達段階や人間の基本的ニードと関連させながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ。

獲得目標

1. ライフサイクル各期における日常生活援助の方法を理解できる。 2. 看護における安全・安楽の重要性について理解できる。 3. 援助的な関係を形成するためのコミュニケーションについて理解できる。 4. 根拠に基づいた援助を提供するための看護過程の意義と方法を理解できる。 5. 問題解決思考を活用し看護計画を立案できる

授業の内容

内 容

- 第1回 看護技術の安全性・安楽性・経済性、スタンダードプリコーションについて
- 第2回 看護の方法ーライフサイクル各期を理解した日常生活援助の意義
- 第3回 看護過程の要素①目的・対象・意義
- 第4回 対人関係プロセスとコミュニケーション①
- 第5回 活動と休息の援助①
- 第6回 対人関係プロセスとコミュニケーション②
- 第7回 対人関係プロセスとコミュニケーション③
- 第8回 看護過程の要素② 情報収集
- 第9回 看護過程の要素③ アセスメント
- 第10回 看護過程の要素④ 看護診断
- 第11回 看護過程の要素⑤ 計画
- 第12回 看護過程の要素⑥ 評価と記録
- 第13回 生活環境の調整
- 第14回 移動の援助
- 第15回 活動と休息の援助②
- 第16回 清潔の援助①
- 第17回 排泄の援助
- 第18回 衣生活の援助
- 第19回 小児・老年の移動の援助
- 第20回 食事の援助
- 第21回 小児・老年の排泄の援助
- 第22回 清潔の援助②
- 第23回 小児の清潔の援助 沐浴・殿部浴・清拭
- 第24回 看護過程の実践① 情報収集
- 第25回 看護過程の実践② 情報の解釈・分析
- 第26回 看護過程の実践③ 情報の統合、関連図
- 第27回 看護過程の実践④ 看護診断
- 第28回 看護過程の実践⑤ 計画・目標
- 第29回 看護過程の実践⑥ 実施、評価
- 第30回 看護過程の実践⑦ まとめ

授業以外での学習方法

教科書

根拠がわかる基礎看護技術

著者： 岡崎美智子, 角濱春美編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 2008

ISBN： 8392-1461-6

看護学概論第5版

著者： 松木光子編

出版社： ニューヴェルヒロカワ

出版年： 2011

ISBN： 86174-039-8

参考書

NANDA-I看護診断—定義と分類2012-2014

著者： 日本看護診断学会監訳／T. ヘザー・ハードマン編

出版社： 医学書院

出版年： 2012

ISBN： 260-01557-8

基本から学ぶ看護過程と看護診断

著者： 江本愛子監訳／, R. アルファロ・ルフィーヴィア著

出版社： 医学書院

出版年： 2008

ISBN： 260-00564-7

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護学演習 I**

担当者 片山 由加里・磯見 智恵・植村 由美子・奥野 信行・小野塚 元子・梶谷 佳子・中橋 苗代・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

実践看護学 I と対応しながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における発達段階や人間の基本的ニーズに応じた必要な看護技術とその適応方法を学ぶ。

獲得目標

1. ライフサイクル各期における日常生活援助の方法を修得する。 2. 安全・安楽、対象者のプライバシーを配慮した実践力を習得する。 3. 対象者の意志を尊重し、基本的ニーズに応じた実践力を習得する。 4. 対象者と援助的な関係を形成するコミュニケーション力を養う。 5. 実践した看護を評価し、記録する方法を習得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 環境について、手洗い、ベッドメイキング①
- 第2回 環境について、手洗い、ベッドメイキング②
- 第3回 移乗と移送①
- 第4回 移乗と移送②
- 第5回 体位変換・ポジショニング①
- 第6回 体位変換・ポジショニング②
- 第7回 排泄・陰部洗浄①
- 第8回 排泄・陰部洗浄②
- 第9回 シーツ交換・寝衣交換①
- 第10回 シーツ交換・寝衣交換②
- 第11回 小児・老年の移動①
- 第12回 小児・老年の移動②
- 第13回 食事・口腔ケア①
- 第14回 食事・口腔ケア②
- 第15回 小児・老年の排泄の援助、離乳食、サークルベッド①
- 第16回 小児・老年の排泄の援助、離乳食、サークルベッド②
- 第17回 全身清拭①
- 第18回 全身清拭②
- 第19回 全身清拭③
- 第20回 洗髪①
- 第21回 洗髪②
- 第22回 洗髪③
- 第23回 フットケア①
- 第24回 フットケア②
- 第25回 沐浴・殿部浴、清拭①
- 第26回 沐浴・殿部浴、清拭②
- 第27回 日常生活援助の技術評価①
- 第28回 日常生活援助の技術評価②
- 第29回 日常生活援助の技術評価③
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

根拠がわかる基礎看護技術

著者： 岡崎美智子, 角濱春美編

出版社： メヂカルフレンド社

出版年： 2008

ISBN: 8392-1461-6

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 ()

実技試験の受験には、2/3以上の出席が必要とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 実践看護学実習 I

担当者 小野塚 元子・磯見 智恵・伊藤 恵美子・植村 由美子・奥野 信行・梶谷 佳子・片山 由加里・河原 宣子・北村 隆子・中橋 苗代・松本 賢哉

テーマ

実践看護学 I・実践看護学演習 Iでの学習を踏まえ、高齢者施設をフィールドとして、主として日常生活援助を実施し、発達段階や人間の基本的ニード、健康レベルに応じた看護技術を適用する方法の基礎を学ぶ。また、実習での体験を通して、自らの看護観を養う。

獲得目標

1. 発達段階や人間の基本的ニード、健康レベルをふまえ、対象を理解する。2. 対象の基本的ニード充足のために必要な日常生活援助を実践できる能力を養う。3. 対象と援助的コミュニケーションを展開できる。4. 対象の権利、プライバシーや情報の保護に配慮できる。5. ケアチームの一員として自覚と責任をもち、適切なコミュニケーションをとることができる。6. 自己の看護の向上に向けて、実習での体験を振り返り、自己を洞察し看護観を自らの言葉で説明できる。

授業の内容

実習は、介護老人保健施設で2週間行う。一人の対象を受け持ち、対象に適した日常生活援助を計画し、指導者・教員と共に実施する

内 容

第1回 時期：前半・後半に分かれて実施(8月下旬～9月中旬)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 () 小テスト ()
授業中課題 () 授業中発表等 ()
参加度 ()
実習の到達度、実習態度、出席状況などを総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ヘルスケアシステム I**

担当者 河原 宣子・富永 真己・家根 明子

テーマ

ヘルスプロモーション、ヘルスプロモーション演習、プライマリケア論、プライマリケア実習 I を踏まえ、地域特性に対応した健康環境づくりの過程を理解するとともに、地方行政における人的管理・人材確保など公衆衛生看護管理について学ぶ。また統計学基礎論、情報科学を踏まえ、地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標を活用して、地域の健康課題を解決する過程を学ぶ。

獲得目標

1. 地域の人々の生活、地域の環境、社会経済構造を把握し、地域の特性を基盤とした看護活動を説明できる。2. 保健医療福祉制度の歴史から看護の現状と動向、地域の保健医療福祉政策について理解し、その中で看護職が担う活動や役割を説明できる。3. 疫学調査、分析活用方法、統計上とその活用方法について理解する。4. 行政における組織や財政の仕組みを理解するとともに、住民の健康ニーズの把握方法や施策を実施するための財源や人的資源の確保、評価など基本構造を説明できる。5. 地域の保健医療福祉制度、健康に関する情報や指標を理解し、地域の健康課題を導く方法について説明できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 地域を基盤とした看護活動①ー地域看護の成立基盤
- 第2回 地域を基盤とした看護活動②ー地域看護の活動方法
- 第3回 地域保健行政における看護職の役割
- 第4回 地区活動の実際
- 第5回 地区診断における疫学・保健統計の活用方法① 集団の健康状態の把握
- 第6回 地区診断における疫学・保健統計の活用方法② 疫学的研究方法
- 第7回 地区診断における疫学・保健統計の活用方法③ 疾病の予防とスクリーニング
- 第8回 地区診断における疫学・保健統計の活用方法④ 感染症の疫学
- 第9回 地区診断における疫学・保健統計の活用方法⑤ おもな疾患の疫学
- 第10回 我が国の保健医療福祉の変遷①ー公衆衛生の歴史と体系
- 第11回 我が国の保健医療福祉の変遷②ー看護の現状と動向
- 第12回 地域看護管理①ー保健医療福祉分野における計画策定と施策化
- 第13回 地域看護管理②ー地域保健行政における情報管理システム、予算管理と人材育成
- 第14回 地域看護管理③ー行政評価と事業評価
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験 なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

看護師教育のための地域看護概説

著者： 眞船拓子

出版社：

出版年：

ISBN：

はじめて学ぶやさしい疫学

著者： 日本疫学会

出版社： 南江堂

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈A〉**

担当者 中島 登美子

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる文献を講読することができる 3. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ ・自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ・文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について・図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈B〉**

担当者 梶谷 佳子

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる文献を講読することができる 3. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ ・自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ・文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について・図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈C〉**

担当者 竹下 夏美

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる文献を講読することができる 3. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ ・自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ・文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について・図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈D〉**

担当者 富永 真己

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる文献を講読することができる 3. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ ・自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ・文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について・図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈E〉**

担当者 松本 賢哉

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる文献を講読することができる 3. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ ・自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ・文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について・図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <F>**

担当者 中橋 苗代

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる文献を講読することができる 3. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ ・自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ・文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について・図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈G〉**

担当者 植村 由美子

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる文献を講読することができる 3. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ ・自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ・文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について・図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈H〉**

担当者 奥野 信行

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる文献を講読することができる 3. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ ・自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ・文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について・図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護) <I>**

担当者 小野塚 元子

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる文献を講読することができる 3. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ ・自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ・文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について・図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ(看護)〈J〉**

担当者 常田 裕子

テーマ

文献の活用方法、論理的思考、プレゼンテーション方法を身につける

獲得目標

1. 看護学分野において関心のあるテーマを抽出することができる 2. 関連する文献を検索する方法が理解できる文献を講読することができる 3. テーマに沿い、理解した内容を表現、伝達することができる

授業の内容

1. 看護学分野において関心のあるテーマへの絞り方を学ぶ ・自己の看護分野においての関心事を文献検索が可能なテーマに設定できる。2. 専門分野における文献講読の方法について学ぶ ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する ・文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3. プレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献検索について・図書館オリエンテーション(OPAC,NACSIS Webcat,医中誌,CiNii)
- 第3回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第4回 看護学分野において関心事を発表しテーマを絞込む
- 第5回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第9回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第10回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第11回 テーマに基づいて収集した文献をまとめる
- 第12回 文献講読及びディスカッション
- 第13回 文献講読及びディスカッション
- 第14回 文献講読及びディスカッション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 災害看護学Ⅱ

担当者 河原 宣子・奥野 信行・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

災害看護学Ⅰを踏まえ、災害看護に関する実践方法論を学び、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における防災訓練の企画・実施・評価を通して災害時における看護の役割を考察する。授業は演習形式で実施する。さまざまな看護の場においてライフサイクル各期の対象に防災訓練を企画・実施し、評価を行う。

獲得目標

1.災害看護の実例を学び、災害サイクル各期およびライフサイクル各期の特徴を踏まえた看護の役割を理解する。2.防災訓練の準備・実施に参加し、準備期における看護の役割を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 災害看護学Ⅰの復習、災害サイクル中長期におけるケア、災害支援活動の実際①
 - 第2回 災害支援活動の実際②
 - 第3回 災害支援活動の実際③
 - 第4回 災害支援活動の実際④
 - 第5回 トリアージ
 - 第6回 演習：防災訓練の実施－トリアージ訓練等
 - 第7回 演習：防災訓練の実施－トリアージ訓練等
 - 第8回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (60)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **学校保健**

担当者 家根 明子・近藤 恵・寺口 佐與子

テーマ

学校保健の基礎を学ぶ

獲得目標

1. 学校教育における学校保健の目的について理解できる 2. 学校保健の行政と制度、学校保健関係職員について理解できる
3. 学校における保健管理と保健教育、保健組織活動の内容について理解できる 4. 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題について理解できる 5. 学校保健の今日的課題と展望について考察できる

授業の内容

内 容

- 第1回 学校保健の目的と内容、学校保健の歴史
 - 第2回 学校保健の行政と制度、学校保健関係職員の健康管理・健康教育
 - 第3回 学校保健と社会保障
 - 第4回 学校における保健教育(保健学習と保健指導)
 - 第5回 学校における保健管理①(健康診断、保健調査、健康評価)
 - 第6回 学校における保健管理②(感染症)、食育の推進
 - 第7回 学校保健組織活動と学校保健安全計画
 - 第8回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題①
 - 第9回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題②
 - 第10回 児童・生徒の心身の発育・発達と健康課題③
 - 第11回 学校保健の今日的課題と展望①
 - 第12回 学校保健の今日的課題と展望②
 - 第13回 学校環境衛生、学校安全
 - 第14回 応急手当
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

2回生前期科目「養護概説」と関連づけて学習を進めること。

教科書

学校保健ハンドブック 第5次改訂

著者： 教員養成系大学保健協議会／編

出版社： ぎょうせい

出版年： 2009

ISBN： 9.78432E+12

参考書

新訂版 学校保健実務必携<第2次改訂版>

著者： 学校保健・安全実務研究会 編著

出版社： 第一法規

出版年： 2009

ISBN： 9.78447E+11

成績評価

a70102d210

試験 (50)
授業中課題 (20)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **養護概説**

担当者 永井 節子

テーマ

学校教育及び学校保健活動における養護教諭の役割と、専門性の理解

獲得目標

学校教育及び学校保健活動における養護教諭の役割を理解し、養護教諭としての基礎的な知識と技術について学び、専門職としての能力を修得する。

授業の内容

養護教諭の役割の基礎的理解をはかり、実践論を通してより深く具体的に理解する。

内 容

- 第1回 養護の概念と、養護の目的機能
- 第2回 養護教諭の専門性と、専門職化の過程
- 第3回 養護教諭と保健室・保健室機能
- 第4回 養護活動の展開・来室児童生徒への対応
- 第5回 養護活動の方法・健康実態の把握と支援 ①健康診断
- 第6回 教育としての健康診断
- 第7回 保健指導実習
- 第8回 保健指導実習
- 第9回 養護活動の方法・健康実態の把握と支援 ②健康管理
- 第10回 健康問題に応じた養護活動(内科的な訴えをもつ子ども)
- 第11回 健康問題に応じた養護活動(傷害を負った子ども)
- 第12回 健康問題に応じた養護活動(慢性疾患を抱えた子ども他)
- 第13回 学校の特性に合わせた養護活動
- 第14回 協働化組織活動・研究活動の実際
- 第15回 レポートとまとめ

授業以外での学習方法

授業中に紹介された参考文献や、配布された資料を読むこと。学校保健や子どもの健康情報(新聞記事など)を収集して、子どもの健康課題を考える。

教科書

新養護学概論

著者： 大谷尚子・中桐佐智子

出版社： 東山書房

出版年： ISBN:

参考書

養護教諭の役割と教育実践

著者： 宍戸洲美

出版社： 学事出版

出版年： 2000.3.31 ISBN:

保健室と養護教諭

著者： 教育科学研究会

出版社： 国土社

出版年： 2011.1.25

ISBN:

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（20）

授業中発表等（20）

参加度（10）

提出されたレポートと、授業中の課題と発表を加味して行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅴ(看護)**

担当者 松本 賢哉・磯見 智恵・伊藤 恵美子・遠藤 俊子・奥野 信行・小野塚 元子・河原 宣子・北村 隆子・家根 明子

テーマ

2回生までの学びを踏まえて、実践看護学実習に向けて事例検討を行い、自らの課題を明確化する。

獲得目標

1. さまざまな対象の健康課題について、ライフサイクルと看護の場を踏まえてアセスメントすることができる。2. 自らの学習上の課題を見出し、解決方法を考えて取り組むことができる。

授業の内容

ライフサイクルでの妊娠出産の過程を理解する。また、障害を抱えた人へのリハビリテーション看護を理解し、それを支える家族へのサポートと地域でのサポートの在り方を理解できるように段階を踏まえた演習

内 容

- 第1回 妊婦、産褥・新生児期(帝王切開事例含む)事例看護過程演習①
- 第2回 妊婦、産褥・新生児期(帝王切開事例含む)事例看護過程演習① 発表
- 第3回 妊婦、産褥・新生児期(帝王切開事例含む)事例看護過程演習②と 発表
- 第4回 障害を抱えた人の事例看護過程展開①
- 第5回 障害を抱えた人の事例看護過程展開②
- 第6回 障害を抱えた人の事例看護過程展開③
- 第7回 障害を抱えた人の事例看護過程展開④
- 第8回 障害を抱えた家族員を受け入れる高齢者家族の事例展開①
- 第9回 障害を抱えた家族員を受け入れる高齢者家族の事例展開②
- 第10回 障害を抱えた家族員を受け入れる高齢者家族の事例展開③
- 第11回 障害を抱えた家族員を受け入れる高齢者家族の事例展開④
- 第12回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区活動計画①
- 第13回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区活動計画②
- 第14回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区活動計画③
- 第15回 様々な健康課題を抱えた家族をサポートする地区活動計画④

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習 I

担当者 片山 由加里

テーマ

看護研究に必要な基本的知識を理解する

獲得目標

1.看護における研究の役割を理解する 2.看護研究のプロセスを学ぶ 3.文献検討の意義と方法を理解する 4.各種研究デザインと研究方法を理解する 5.看護研究における倫理を理解する

授業の内容

内 容

- 第1回 看護における研究の役割
 - 第2回 文献検討の意義と方法
 - 第3回 研究デザイン
 - 第4回 研究における倫理
 - 第5回 看護研究のプロセス
 - 第6回 看護研究の方法 論文の構成、測定・分析方法
 - 第7回 看護研究の方法 質的研究デザイン
 - 第8回 看護研究の方法 介入研究デザイン
 - 第9回 看護研究の方法 調査研究デザイン
 - 第10回 看護研究の方法 学会発表、論文発表
 - 第11回 論文講読①
 - 第12回 論文講読②
 - 第13回 論文講読③
 - 第14回 論文講読④
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

これからの看護研究第3版

著者： 小笠原知枝、松木光子編

出版社： ヌーヴェルヒロカワ

出版年： 2012

ISBN： 86174-035-0

参考書

APA論文作成マニュアル

著者： アメリカ心理学会／江藤裕之他訳

出版社： 医学書院

出版年： 2011

ISBN： 260-01220-1

APAに学ぶ看護系論文執筆のルール

著者： 前田樹海、江藤裕之

出版社： 医学書院

出版年： 2013

ISBN： 260-01739-8

成績評価

試験（ ）

授業中課題（30）

参加度（20）

小テスト（ ）

授業中発表等（50）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護管理学 I**

担当者 阿部 祝子・遠藤 俊子

テーマ

1. 看護におけるマネジメント 2. 看護をとりまく諸制度

獲得目標

1. マネジメント及び看護におけるマネジメントの主要概念を理解する。 2. 看護におけるマネジメントに必要な理論的知識体系を理解する。 3. 医療施設の看護におけるマネジメントの実際を理解する。 4. 患者中心志向医療における看護職、看護管理者の役割を理解する。

授業の内容

本講は、看護管理の基礎的知識及び21世紀に期待される患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメントについて理解することを意図している。授業内容は、近代看護における看護管理の発想はF.ナイチンゲールの看護の概念・方法論にあることを認識した上で、「看護管理」についての基礎知識を概説する。これらを論拠として、医療施設におけるケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの実際、患者中心志向の医療サービス提供体制や運営にかかわる看護職・看護管理者のあり方を、資料、映像学習、課題学習によって学習する。

内 容

- 第1回 看護管理、看護管理学とは何か(阿部)
- 第2回 マネジメントとは何か、看護におけるマネジメントの場(阿部)
- 第3回 看護職と法制度(遠藤)
- 第4回 医療制度、看護政策と制度、医療及び看護経済(遠藤)
- 第5回 医療サービスと看護職の役割の拡大(遠藤)
- 第6回 看護におけるマネジメントと変遷(阿部)
- 第7回 ケアのマネジメント:看護職の機能、患者の権利(阿部)
- 第8回 看護業務実践の基本的なしくみ:組織とは何か、看護職の協働、他職種との協働(阿部)
- 第9回 看護サービスのマネジメント:組織の有効な維持、運営、変革(阿部)
- 第10回 マネジメントに必要な知識と技術:リーダーシップとマネジメント、組織・個人の調整(阿部)
- 第11回 人材の育成と活用(阿部)
- 第12回 安全管理(阿部)
- 第13回 情報管理(阿部)
- 第14回 医療及び看護経済(阿部)
- 第15回 医療サービスにおける看護マネジメントの展望、まとめ(阿部)

授業以外での学習方法

経営学、経済学、医療・看護政策等に関心を持ち、さまざまなメディアで発信される情報に触れる。サークル活動、アルバイト等において、マネジメントについて考えてみる。

教科書

系統看護学講座統合分野 看護の統合と実践[1] 看護管理 第8版

著者: 上泉和子他著

出版社: 医学書院

出版年: 2007年

ISBN: 978-4260001748

参考書

系統看護学講座統合分野 看護の統合と実践[2] 医療安全 第2版

著者: 川村治子著

出版社: 医学書院

出版年: 2011年

ISBN: 978-4260007535

系統看護学講座別巻 看護情報学

著者： 中山和弘他著

出版社： 医学書院

出版年： 2012年

ISBN：

看護要覧<平成24年版>

著者： 門脇豊子他編

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2012年

ISBN：

成績評価

試験（80）

授業中課題（10）

参加度（10）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護教育学 I

担当者 阿部 祝子・梶谷 佳子

テーマ

1. 看護の教育的機能 2. 看護教育

獲得目標

1. 看護の対象への教育的支援について理解する。 2. 看護教育について理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション, 授業の進め方(阿部)
 - 第2回 教育原理(阿部)
 - 第3回 教育方法(阿部)
 - 第4回 教育評価(阿部)
 - 第5回 看護教育の発達と看護教育制度(阿部)
 - 第6回 キャリア開発と看護継続教育(阿部)
 - 第7回 まとめ(阿部)
 - 第8回 オリエンテーション, 授業の進め方, 教育プロセスと教案作成(梶谷)
 - 第9回 教育プロセスと教案作成(梶谷)
 - 第10回 グループ学習①ーグループ編成, 課題設定(梶谷)
 - 第11回 グループ学習②ー授業案の作成(梶谷)
 - 第12回 グループ学習③ー教育方法の検討, 教材作成(梶谷)
 - 第13回 グループ学習④ー授業評価の媒体の作成(梶谷)
 - 第14回 模擬授業と授業リフレクション①(梶谷)
 - 第15回 模擬授業と授業リフレクション②(梶谷)
-

授業以外での学習方法

模擬授業の教育内容等については、図書室で学習してください。

教科書

特に指定しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

看護教育学

著者: グレグ美鈴, 池西悦子

出版社: 南江堂

出版年: 2009年

ISBN: 978-4524250493

看護教育における授業設計 第4版

著者： 佐藤みつ子, 宇佐美千恵子, 青木康子

出版社： 医学書院

出版年： 2009年

ISBN： 978-4260008402

患者教育のポイント アセスメントから評価まで

著者： Barbara McVan(武山満智子訳)

出版社： 医学書院

出版年： 1990年

ISBN： 978-4260340199

ナースのための患者教育と健康教育

著者： A. Graham/Carol J. Gleit/Marlyn Duncan Boyd(安酸史子監訳)

出版社： 医学書院

出版年： 1996年

ISBN： 978-4260342094

成績評価

試験 (30)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

レポート, 授業中発表および授業参加度により総合的に評価する.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護学Ⅲ－1**

担当者 磯見 智恵・天野 博夫・伊藤 恵美子・奥野 信行・小野塚 元子・河原 宣子・喜多 伸幸・北村 隆子・鈴木 要子・
常田 裕子・堀 妙子・松浦 基博・松本 賢哉・村上 節

テーマ

さまざまな健康課題をもつ対象とその家族、多様な看護の場における、人によりそう看護に必要な病態・治療についてライフサイクルを踏まえて理解する。

獲得目標

1. 健康破綻をもたらす病態や疾患とその治療を理解する。2. ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と健康レベルについて理解する。3. 健康に影響する生活環境の把握と健康な環境づくりについて理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 糖代謝障害とその治療
- 第2回 高齢者に特有な症候①
- 第3回 高齢者に特有な症候②
- 第4回 分娩経過と分娩期の異常①
- 第5回 抑うつ状態・躁状態にある人の特徴と治療
- 第6回 小児によく見られる内分泌疾患とその治療
- 第7回 循環機能障害とその治療
- 第8回 小児によくみられる循環器・筋・骨疾患とその治療
- 第9回 物質関連障害をもつ人の特徴と治療
- 第10回 生殖生理
- 第11回 周産期の診断と検査
- 第12回 呼吸機能障害とその治療
- 第13回 脳神経系・運動機能の障害とその治療
- 第14回 統合失調症患者の特徴と治療
- 第15回 精神保健福祉にかかわる法制度
- 第16回 感染症とは（結核）
- 第17回 高齢者の薬物療法
- 第18回 精神障害への薬物療法、心理社会療法
- 第19回 高齢者に特有な症候③認知症の診断と治療
- 第20回 高齢者に特有な症候④認知症の診断と治療
- 第21回 排泄機能障害とその治療
- 第22回 小児によくみられる腎・呼吸器疾患とその治療
- 第23回 がんとは がんの予防と検査
- 第24回 がんの手術療法
- 第25回 がんの薬物療法
- 第26回 がんの放射線療法
- 第27回 小児によく見られる悪性腫瘍とその治療
- 第28回 がんの終末期
- 第29回 消化・吸収障害とその治療
- 第30回 小児によくみられる消化器疾患とその治療 なお、外部講師による講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論 第12版

著者： 奈良間美保

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 第11版

著者： 森恵美

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学 第8版(2回生で購入済)

著者： 北島政樹

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

成人看護学 慢性期看護

著者： 鈴木久美

出版社： 南江堂

出版年：

ISBN：

精系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開

著者： 武井麻子

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 実践看護学演習Ⅲ

担当者 磯見 智恵・奥野 信行・小野塚 元子・河原 宣子・神崎 光子・北村 隆子・鈴木 要子・常田 裕子・判澤 恵・堀
妙子・松本 賢哉

テーマ

実践看護学Ⅲ-2と対応しながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場において必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ。

獲得目標

1. ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と看護の場に応じたアセスメントの方法について理解できる。2. ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と看護の場に応じた看護技術を修得することができる。3. がん看護、精神看護、地域看護、老年看護、小児看護、母性看護、慢性疾患看護、急性・重症患者看護、感染症看護、家族支援看護等のさまざまな看護の場における看護活動と専門性を理解する。

授業の内容

内 容

- 第5回 周産期の看護技術(実技演習)
- 第6回 周産期の看護技術(実技演習)
- 第7回 感染看護 在宅・臨床看護演習
- 第8回 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際①
- 第9回 精神障害をもつ人の地域生活支援の実際②
- 第10回 小児に特有の看護技術
- 第11回 小児の権利を守るための看護技術
- 第12回 小児に特有の症状に対する看護
- 第13回 高齢で手術を受ける人の看護 事例演習①
- 第14回 高齢で手術を受ける人の看護 事例演習②
- 第15回 在宅・臨床看護演習①
- 第16回 在宅・臨床看護演習②
- 第17回 在宅・臨床看護演習③
- 第18回 排泄経路を変更した人への看護
- 第19回 高齢で手術を受ける人の看護 事例演習③
- 第20回 高齢で手術を受ける人の看護 事例演習④
- 第21回 在宅・臨床看護演習④
- 第22回 在宅・臨床看護演習⑤
- 第23回 在宅・臨床看護演習⑥
- 第24回 在宅・臨床看護演習⑦
- 第25回 在宅・臨床看護演習⑧
- 第26回 在宅・臨床看護演習⑨
- 第27回 がんの終末期の看護
- 第28回 小児の終末期の看護
- 第29回 看取りと看護①
- 第30回 看取りと看護② なお、外部講師を招いて、講演会を実施することがある。
- 第1回 周産期の看護技術(実技演習)
- 第2回 低出生体重児の看護技術
- 第3回 新生児期のアセスメントと看護②
- 第4回 統合失調症患者の地域生活支援

授業以外での学習方法

教科書

系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学[2] 母性看護学各論 第11版

著者: 森恵美

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護倫理 I**

担当者 大島 弓子

テーマ

獲得目標

1. 保健医療にかかわる社会の中で求められる倫理の必要性および、生命倫理の歴史的な背景、変遷の概括と現在の社会的な要請を理解する。2. 看護倫理の概念、本質、意義とその必要性、原則について理解する。3. 倫理的な感受性を育むことの必要性がわかり、多様な観点から他者、事象を倫理的に検討する。4. 保健医療全般、また看護に関連した場面における倫理的ジレンマについて考察を深める。

授業の内容

看護倫理について、歴史的な視点、現在の社会からの要請の見地と共に生命倫理の概括を知ること、多角的な角度から看護の倫理が考えられることを中心に講義を行う。また、医療における倫理的なジレンマのある現在の事象を、多様な角度でグループ討論をする。他者と自分との見方の相違、何が倫理として重要であるか等、討議、発表、討議過程から学生自身が学び、自身でそのあり様を主体的に考えることを体験的に習得する。

内 容

- 第1回 Introduction, 看護倫理と生命倫理の背景, 看護倫理の意義、倫理的センシティビティの必要性,
- 第2回 看護倫理の概念, 倫理原則, 法律との関連, 倫理的ジレンマ, 倫理的な感受性
- 第3回 倫理綱領、患者の権利の擁護の考え方と方法
- 第4回 看護の倫理-事例をグループ討議で検討(1)
- 第5回 看護の倫理-事例をグループ討議で検討(2)
- 第6回 看護の倫理-事例をグループ討議で検討結果の発表・討議(1)
- 第7回 看護の倫理-事例をグループ討議で検討結果の発表・討議(2)
- 第8回 看護倫理の研究、臨床における必要性、現状の課題、まとめ

授業以外での学習方法

教科書

看護者の基本的責務—定義・概念/基本法/倫理

著者: 日本看護協会編

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: ISBN: 2008

参考書

看護実践の倫理—倫理的意思決定のためのガイド

著者: サラ・T. フライ・メガン・ジェーン ジョンストン (著), 片田 範子・山本 あい子 (訳)

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 2007 ISBN:

改訂版基礎看護学, 患者の権利を擁護する方法,

著者: 大島弓子, 他

出版社: 日本放送出版協会

出版年: 2012 ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護管理学Ⅱ〈a〉

担当者 阿部 祝子

テーマ

多様な看護の場における看護管理

獲得目標

1. 看護管理に必要な理論的知識体系と技術、それらのマネジメントへの適用について理解する。2. 看護管理実践の場、対象と範囲を理解する。3. 多様な看護の場における看護管理の実際を理解する。4. トップマネジメントにおける経営参画者としての看護職の役割について理解する。

授業の内容

本講は、看護管理学Ⅰでの学びを踏まえ、多様な看護の場における看護管理のあり方を学び、看護におけるマネジメントの基本的能力と自己の看護管理学への関心を発展させることを意図している。授業内容は、看護管理に必要な諸理論、知識と技術、看護管理実践の場や対象を認識したうえで、看護の場における看護管理の実際を多様な側面から学び、看護サービス・マネジメントのあり方やチームの一員としての看護職者の役割と経営参画者としての看護管理者の役割や方向性について学習する。

内 容

- 第1回 看護管理に必要な諸理論と看護サービスのマネジメント
- 第2回 看護管理実践の領域と場、対象と範囲
- 第3回 看護管理に必要な知識と技術①
- 第4回 看護管理に必要な知識と技術②
- 第5回 看護管理に必要な知識と技術③
- 第6回 多様な看護の場における看護管理①
- 第7回 多様な看護の場における看護管理②
- 第8回 多様な看護の場における看護管理③
- 第9回 多様な看護の場における看護管理④
- 第10回 多様な看護の場における看護管理⑤
- 第11回 多様な看護の場における看護管理⑥
- 第12回 多様な看護の場における看護管理⑦
- 第13回 多様な看護の場における看護管理⑧
- 第14回 看護サービスの質の向上
- 第15回 看護管理のあり方と21世紀の看護職・看護管理者の役割

授業以外での学習方法

教科書

特に指定しない。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（30）

授業中課題（30）

参加度（20）

小テスト（ ）

授業中発表等（20）

a701043110

レポート, 課題発表, および授業参加度のより総合的に評価する.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護管理学Ⅱ **

担当者 遠藤 俊子

テーマ

助産実践の基礎的な考え方や実践に必要な概念や考え方を学ぶ。母子の保健医療福祉現場における役割や業務を明確にし、助産師の役割機能を理解する。助産管理の理念と管理の構成要素、ならびに助産師の専門性による助産業務や対象の特殊性からもたらされる助産管理を学ぶ。

獲得目標

1. 助産師の定義・役割を理解する。2. わが国の母子保健を歴史的、統計、法や諸制度から知り、今後の課題を明らかにする。3. 助産師活動に必要な諸理論・倫理を学び、助産過程を展開する能力を獲得する。4. 助産サービスの質管理に必要な概念を理解する。5. 周産期における安全管理とリスクマネジメントを学ぶ。6. 施設における助産業務管理ならびに地域母子保健について知る。7. 助産サービス管理の実際—病院・診療所・助産所における管理の実際を知る。

授業の内容

内 容

- 第4回 世界の母子保健の動向
- 第5回 わが国の母子保健関連法と制度
- 第6回 保助看法とその他の助産師関連法
- 第7回 女性の健康と人権
- 第8回 周産期医療における質と安全の保証 (院内助産システム含む)
- 第9回 助産師が行うケアを支える理論
- 第10回 助産実践の倫理
- 第11回 助産診断と助産過程
- 第12回 助産業務管理と地域母子保健
- 第13回 周産期におけるリスクマネジメント
- 第14回 助産サービスの質管理
- 第15回 助産サービス管理の実際
- 第16回 テスト(13:30 開始)
- 第1回 助産師の定義と業務・役割
- 第2回 助産の歴史と助産師教育
- 第3回 日本の母子保健の動向

授業以外での学習方法

教科書

助産師基礎教育テキスト1 2013年版 助産概論

著者: 山本あい子他

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

国民衛生の動向

著者:

出版社:

出版年: 2012

ISBN:

助産師基礎教育テキスト3 2013年版 周産期における医療の質と安全

著者： 成田伸他

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： ISBN：

参考書

新版助産師業務要覧 I・II

著者： 福井トシ子他

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： ISBN：

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

評価項目(番号) → (12)(13)、(3)(4)(5)、(1)(2)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 助産技術学

担当者 常田 裕子・神崎 光子

テーマ

各期のマタニティケアを根拠に基づいて計画的に実践する基礎的な助産技術を養う

獲得目標

1 周産期の健康の保持増進および異常の予防のために必要な助産を理解し、経過に沿った診断に基づいて実践できる 2 家族形成期にある母児および家族の発達課題について理解し、必要な助産を診断に基づいて実践できる 3 妊娠・分娩・育児期の母児と家族の健康状態と課題を身体的、心理的、社会的側面から理解し、必要な助産を診断に基づいて実践できる 4 個人の特性および地域の特性に対応した健康のための環境づくりの支援ニーズを診断し、それに基づいて実践できる

授業の内容

周産期における母児と家族の健康の保持増進と異常の予防・早期発見を目指して、妊娠・分娩・産褥の経過に沿った母児の健康問題と家族の課題に関するニーズを満たす助産技術を学ぶ。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 助産に必要な知識、技術の復習1(バイタル、清拭、浣腸 導尿、ガウンテクニック、滅菌操作、妊婦計測等)
- 第2回 助産に必要な知識、技術の復習2(バイタル、清拭、浣腸 導尿、ガウンテクニック、滅菌操作、妊婦計測等)
- 第3回 周産期の援助技術(レオポルド触診・妊婦／褥婦計測・乳房ケア)の復習
- 第4回 妊娠期の保健指導の方法と立案
- 第5回 分娩のメカニズムと分娩介助技術
- 第6回 分娩経過と助産技術
- 第7回 入院時の産婦へのケア(入院時の診断・分娩に必要な物品／機器の準備)
- 第8回 分娩第1期の産婦およびその家族への援助方法
- 第9回 分娩第1期の援助:ロールプレイ
- 第10回 分娩第1期の援助:ロールプレイ
- 第11回 分娩介助方法:経膈分娩の介助(デモンストレーション)
- 第12回 分娩介助方法:異常時の介助(デモンストレーション)
- 第13回 分娩介助方法:ロールプレイ
- 第14回 分娩介助方法:ロールプレイ
- 第15回 分娩介助方法:ロールプレイ
- 第16回 分娩経過の診断と技術(事例検討:正常)
- 第17回 分娩経過の診断と技術(事例検討:正常)
- 第18回 分娩経過の診断と技術(事例検討:異常)
- 第19回 分娩経過の診断と技術(事例検討:異常)
- 第20回 入院から分娩終了までのロールプレイ(直接介助、間接介助、新生児係)
- 第21回 入院から分娩終了までのロールプレイ(直接介助、間接介助、新生児係)
- 第22回 入院から分娩終了までのロールプレイ(直接介助、間接介助、新生児係)
- 第23回 分娩監視装置の判読方法
- 第24回 新生児蘇生法(基礎知識)
- 第25回 新生児蘇生法(実技:アセスメントと方法)
- 第26回 妊娠期の保健指導の実際(グループ発表)
- 第27回 産褥期の退院指導および継続看護(新生児訪問、地域連携含む)の方法
- 第28回 継続看護の事例検討
- 第29回 助産技術のまとめ(事例とその対応:実技)
- 第30回 助産技術のまとめ(事例とその対応:実技) なお、外部講師による講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

助産師基礎教育テキスト2012年版第1巻

著者： 山本あい子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2012

ISBN： 9.78482E+12

助産師基礎教育テキスト2012年版第4巻

著者： 森恵美

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2012

ISBN： 9.78482E+12

助産師基礎教育テキスト2012年版第5巻

著者： 町浦美智子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2012

ISBN： 9.78482E+12

助産師基礎教育テキスト2012年版第6巻

著者： 横尾京子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2012

ISBN： 9.78482E+12

助産師基礎教育テキスト2012年版第7巻

著者： 遠藤俊子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2012

ISBN： 9.78482E+12

最新産科学正常編改訂第22版

著者： 荒木勤

出版社： 文光堂

出版年： 2012

ISBN： 9.78483E+12

最新産科学異常編改訂第22版

著者： 荒木勤

出版社： 文光堂

出版年： 2012

ISBN： 9.78483E+12

参考書

胎児心拍数モニタリング集中トレーニング

著者： 池田智明

出版社： メディカ出版

出版年： 2010

ISBN： 9.78484E+12

新生児蘇生法テキスト改訂第2版

著者： 田村正徳

出版社： メジカルビュー社

出版年： 2011

ISBN：

今日の助産 改訂第2版

著者： 北村真理子ら

出版社： 南江堂

出版年： 2004

ISBN： 9.78452E+12

成績評価

試験（100）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

全回出席が原則 試験には実技も含まれます。

2013 Syllabus

科目名 **芸術と癒し〈Za〉**

担当者 山本 善則

テーマ

芸術を知ることによって文化的価値の追求力を養う。

獲得目標

さまざまな分野の芸術を広い角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に芸術を肌で感じ取る。

授業の内容

授業では各分野の芸術を映像、楽器、資料などを参考にしながら実際に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れていきます。毎回、小レポートなどで各回の意見、感想を提出してもらいます。

内 容

- 第1回 サウンドスケープとは？
 - 第2回 笑いと芸術
 - 第3回 香りと芸術
 - 第4回 全ての芸術の本質とは？
 - 第5回 情報化社会と芸術の評価
 - 第6回 自然の法則と芸術の関係
 - 第7回 健康と芸術
 - 第8回 五感で捉える芸術
 - 第9回 音楽と芸術
 - 第10回 表現者心理と聴衆心理
 - 第11回 芸術の心理的効果とその実験
 - 第12回 ミュージカルとオペラ
 - 第13回 夢(右脳の活動)と芸術
 - 第14回 器と芸術
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業での学習をもとに、自主的に芸術に触れ、日常にその機会を増やしてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

a701a13110

毎回の出席と授業での提出物は評価の基準になりますので、授業内容をよく理解し必ず提出してください。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 人体の構造と機能演習 I (骨・関節・筋・神経など)

担当者 林正 健二

テーマ

理学療法の実践に必要な、人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の基礎知識を修得する。

獲得目標

1. 構造(解剖学)に関する知識を機能(生理学)に関連させる習慣を養う。2. 細胞、組織、器官に関する知識を総合して生体特有の合目的性と恒常性を理解する。

授業の内容

予習用プリントを用いて予習し田内容を、授業で発表する。

内 容

- 第1回 学修の案内
 - 第2回 細胞と組織 1
 - 第3回 細胞と組織 2
 - 第4回 皮膚と膜 1
 - 第5回 皮膚と膜 2
 - 第6回 骨格系 1 (骨と骨格)
 - 第7回 骨格系 2 (頭蓋、脊柱)
 - 第8回 骨格系 3 (胸郭、上肢帯の骨格、上肢の骨)
 - 第9回 骨格系 4 (骨盤、下肢の骨)
 - 第10回 骨格系 5 (関節の構造と機能)
 - 第11回 骨格系 6 (頭部・脊椎の関節と靭帯)
 - 第12回 骨格系 7 (胸部・骨盤・肩・肘の関節と靭帯)
 - 第13回 骨格系 8 (手部、股、膝の関節と靭帯)
 - 第14回 骨格系 9 (足部の関節と靭帯)
 - 第15回 筋系 1
 - 第16回 筋系 2 (頭部の筋)
 - 第17回 筋系 3 (頸部、背部の筋)
 - 第18回 筋系 4 (胸部の筋、横隔膜、腹部の筋)
 - 第19回 筋系 5 (上肢の筋; 肩、腕)
 - 第20回 筋系 6 (上肢の筋; 手部、手指)
 - 第21回 筋系 7 (下肢の筋; 下肢帯、大腿)
 - 第22回 筋系 8 (下肢の筋; 下腿、足部)
 - 第23回 神経系 1
 - 第24回 神経系 2
 - 第25回 神経系 3
 - 第26回 神経系 4
 - 第27回 神経系 5
 - 第28回 感覚系 1 (感覚の特徴、視覚)
 - 第29回 感覚系 2 (聴覚、平衡覚)
 - 第30回 感覚系 3 (化学的感覚、体性感覚、内臓感覚)
-

授業以外での学習方法

解剖生理学の問題集による自学自習

教科書

ナーシング・グラフィカ①解剖生理学(第3版)

著者: 林正健二編著

出版社: メディカ出版

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂第19版

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年: 2000年

ISBN:

ギャノン生理学原書第23版

著者: ギャノン

出版社: 丸善

出版年: 2011年

ISBN:

成績評価

試験 (90)

小テスト (10)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **理学療法概論**

担当者 小田桐 匡・濱出 茂治

テーマ

理学療法および理学療法士の職能について基礎的な理解を促進する。

獲得目標

本講義では、理学療法の歴史や定義、理学療法士の職能や倫理、エトス、治療のプロセスや方法をはじめ、4年間のうちに習得する知識、技術の基礎となる事柄を学習する。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション（濱出茂治）
- 第2回 リハビリテーションと理学療法—その歴史と思想—（濱出茂治）
- 第3回 世界の理学療法とリハビリテーションの情勢（濱出茂治）
- 第4回 理学療法士の職能（濱出茂治）
- 第5回 理学療法の対象と専門領域（濱出茂治）
- 第6回 障害の構造—ICIDHとICF—（小田桐匡）
- 第7回 理学療法における評価（小田桐匡）
- 第8回 理学療法における治療（小田桐匡）
- 第9回 理学療法士の関連職種と関連領域およびチーム医療について（小田桐匡）
- 第10回 理学療法士の倫理（小田桐匡）
- 第11回 理学療法の教育課程（小田桐匡）
- 第12回 医療・福祉情勢（小田桐匡）
- 第13回 理学療法と研究（小田桐匡）
- 第14回 理学療法士の組織と運営（小田桐匡）
- 第15回 まとめ（小田桐匡）

授業以外での学習方法

理学療法学の概論書の購読

教科書

理学療法学概論 第3版 理学療法学テキストⅠ

著者：

出版社：神陵文庫

出版年：

ISBN：

参考書

ICF 国際生活機能分類—国際障害分類改定版

著者： 障害者福祉研究会編

出版社：中央法規出版

出版年：

ISBN：

医療倫理学の方法—原則・手順・ナラティブ

著者： 宮坂道夫著

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

リハビリテーションの思想—人間復権の医療を求めて

著者： 上田敏著

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（60）

授業中課題（）

参加度（40）

3分の1以上の欠席を認めない

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **医学概論**

担当者 吉川 隆一

テーマ

医学と人類の歴史

獲得目標

人類の歴史は「病との戦い」であると云える。多くの人類の命を奪った伝染病との長い戦いはいまだ続いており、更にライフスタイルの変化に伴って生活習慣病といった新たな敵が現れてきた。人類の生存をかけたこうした「病との戦い」の中から医学は生まれ、そして発展してきた。こうした人類と医学の歴史を通して「医学のあるべき姿」について考えたい。

授業の内容

これまでに人類を苦しめてきた様々な病魔に医学が如何に対応してきたかを学び、「医学の在るべき姿」について教授する。

内 容

- 第1回 ペスト
 - 第2回 ハンセン病
 - 第3回 コレラ
 - 第4回 結核
 - 第5回 マラリア
 - 第6回 天然痘
 - 第7回 麻疹
 - 第8回 黄熱病
 - 第9回 デング熱
 - 第10回 インフルエンザ
 - 第11回 エボラ出血熱
 - 第12回 エイズ
 - 第13回 クロイツフェルド・ヤコブ病
 - 第14回 がん
 - 第15回 心臓病
-

授業以外での学習方法

教科書

Disease人類を襲った30の病魔

著者： Mary Dobson, 小林力訳

出版社： 医学書院

出版年： 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **統計学基礎論(理)**

担当者 山崎 真理子

テーマ

統計学の基礎的な知識を修得する。

獲得目標

理学療法に関する調査報告・論文を理解するために求められるデータ分析の基本的な知識を習得する。

授業の内容

電卓(√ ボタンがあるもの)が必要です。授業中に課題を出題しますので、皆さんに計算をしてもらいながら、授業を進めます。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 調査方法とデータの種類
 - 第3回 度数分布表とヒストグラム
 - 第4回 基本統計量:代表値
 - 第5回 基本等計量:ちらばり
 - 第6回 確率分布(二項分布)
 - 第7回 確率分布(正規分布)
 - 第8回 グラフ化と分割表
 - 第9回 散布図と相関係数
 - 第10回 回帰分析(回帰式)
 - 第11回 回帰分析(分散分析表)
 - 第12回 分割表の分析(オッズ比、連関係数)
 - 第13回 分割表の検定(カイ2乗検定)
 - 第14回 偏差値
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

理学療法関連の書籍・学術雑誌などを自分自身で探してみて、どのような研究が行われているのかを調べてみて下さい。統計学を学ぶ必要性を実感できるかと思います。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **臨床心理学**

担当者 濱田 智崇

テーマ

対人援助職に必要な臨床心理学の知識や考え方を身につける

獲得目標

対人援助職として人とかかわるために必要な、臨床心理学の知識や考え方を身につけることを目的とする。理論だけではなく、それをバックボーンとして「自分が」どのように相手へかかわる存在になっていくのか、それぞれが、主体的に考えられるようになることを目指す。

授業の内容

いくつかの心理療法の基礎となる理論的枠組みと、さまざまな精神的障害に関する基本的な知識を学ぶ。知識だけにとどまらず、自分が現場にコミットして、相手との関係の中で考える「臨床の知」としての思考力を身につける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 臨床心理学とは何か
 - 第3回 ロジャーズの来談者中心療法の基礎①
 - 第4回 ロジャーズの来談者中心療法の基礎②
 - 第5回 カウンセラーの基本的な態度から考える対人援助とは①
 - 第6回 カウンセラーの基本的な態度から考える対人援助とは②
 - 第7回 認知行動療法の基礎
 - 第8回 フロイトの精神分析の基礎①
 - 第9回 フロイトの精神分析の基礎②
 - 第10回 無意識とイメージの世界に触れる①
 - 第11回 無意識とイメージの世界に触れる②
 - 第12回 援助者が自らと向き合う①
 - 第13回 援助者が自らと向き合う②
 - 第14回 臨床心理学と現代社会の対人援助
 - 第15回 まとめ
 - 第16回 期末試験
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読んでおくと理解が深まる

教科書

授業中にプリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

a90102a110

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 人体の構造と機能実習 I (構造系)

担当者 林正 健二

テーマ

理学療法の実践に必要な骨と筋に関する解剖学的知識の活用法を実習により学ぶ。

獲得目標

1. 体表の皮下に存在する骨と筋の正確な位置関係を学習者の手技によって確認出来る。2. 徒手筋力検査と関節可動域検査に必要な骨と筋の名称を述べる事が出来る。

授業の内容

予習用プリントで予習した内容を用いて、骨と筋の名称や相互の位置関係を人体で観察する。

内 容

- 第1回 股関節の骨と筋1
 - 第2回 股関節の骨と筋2
 - 第3回 膝関節の骨と筋
 - 第4回 脚関節の骨と筋
 - 第5回 脊椎の骨と筋
 - 第6回 頸部の骨と筋
 - 第7回 体幹の骨と筋(胸部)
 - 第8回 大患の骨と筋(腹部)
 - 第9回 肩関節の骨と筋
 - 第10回 肘関節の骨と筋
 - 第11回 前腕の骨と筋
 - 第12回 手関節の骨と筋
 - 第13回 足関節の骨と筋
 - 第14回 指関節の骨と筋
 - 第15回 上肢・下肢の深部腱反射
-

授業以外での学習方法

国家試験過去問題集の自学自習

教科書

エッセンシャルキネシオロジー

著者: 弓岡光徳他訳

出版社: 南江堂

出版年: 2012年

ISBN:

筋骨格系の触察マニュアル

著者: 丸山仁司監修

出版社: 産調出版

出版年: 2012年

ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂第19版

著者: 金子丑之助

出版社： 南山堂

出版年： 2000年

ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論・運動器系)

著者： 坂井建雄他訳

出版社： 医学書院

出版年： 2011年

ISBN:

成績評価

試験 (90)

小テスト (10)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **運動生理学演習**

担当者 堀江 淳・甲斐 義浩

テーマ

運動における中枢神経系、骨関節系、呼吸循環器系、代謝系の変化を理解し理学療法へ応用する。

獲得目標

本授業の目的は以下のこととする。・身体運動を行う際の中枢神経系の役割(運動制御)を理解すること。・身体運動と各種感覚との関係、運動学習理論を理解する。・呼吸器系の解剖、生理学を復習し、運動時の呼吸器系の変化を理解すること。・循環器系の解剖、生理学を復習し、運動時の循環器系の変化を理解すること。・代謝、体温調節など生体における運動中の変化を理解すること。

授業の内容

講義による座学を中心とするが、測定方法などを理解する場合は実技、実習を取り入れていく。

内 容

- 第1回 呼吸① 呼吸器の構造と機能、呼吸調節、血液ガスの解釈について学習する。
- 第2回 呼吸② 呼吸機能検査(フローボリューム検査と肺気量分画検査)の解釈と実際について学習する。
- 第3回 循環① 循環器の構造と機能、循環調節
- 第4回 循環② 運動時の心拍変動について学習する。
- 第5回 運動耐容能 酸素輸送系における循環応答(呼気ガス分析による酸素摂取量測定)の解釈と実際について学習する。
- 第6回 代謝 基礎代謝と運動時エネルギー代謝の理解する。
- 第7回 体温調節 体温、熱産生、熱放散の理解する。
- 第8回 運動を支配する機能[神経系]① 神経系の基本的構造と機能
- 第9回 運動を支配する機能[神経系]② 神経系と運動
- 第10回 運動を支配する機能[神経系]③ 運動を支配する機能の障害
- 第11回 運動を発現する機能[骨格筋]① 筋収縮のメカニズム
- 第12回 運動を発現する機能[骨格筋]② 筋収縮のエネルギー
- 第13回 運動を発現する機能[骨格筋]③ 筋線維の種類
- 第14回 運動を発現する機能[骨格筋]④ 筋収縮の様式 筋機能の障害
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

当該科目における国家試験の過去問においてどのような問題が出題されているか確認しておくこと。

教科書

シンプル生理学改訂第6版

著者:

出版社: 南江堂

出版年:

ISBN:

参考書

やさしい運動生理学

著者: 杉晴夫

出版社: 南江堂

出版年: 2006

ISBN: 9.78452E+12

健康・体力のための運動生理学

著者： 石河 利寛

出版社： 杏林書院

出版年： 2000

ISBN: 9.78476E+12

成績評価

試験 (90)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (10)

期末試験の受験は堀江担当範囲、甲斐担当範囲のそれぞれの講義の3分の2以上の出席を必要とする。3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **運動学演習**

担当者 甲斐 義浩 永井 宏達

テーマ

四肢・体幹における関節の解剖学的構造と運動について学ぶ。

獲得目標

1.身体運動に関する骨格筋の解剖学的作用および運動学的作用について理解できる。2.身体の動作における各筋の相互作用について理解できる。3.運動学で得た知識に基づき、運動障害分析の基礎を理解できる。4.運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。

授業の内容

解剖生理学で学んだ知識をベースに、運動器を主とする障害学の基礎となる身体運動のメカニズムについて解説する。

内 容

- 第1回 脊柱の構造と機能 1
 - 第2回 脊柱の構造と機能 2
 - 第3回 脊柱の構造と機能 3
 - 第4回 股関節の構造と機能 1
 - 第5回 股関節の構造と機能 2
 - 第6回 股関節の構造と機能 3
 - 第7回 膝関節の構造と機能 1
 - 第8回 膝関節の構造と機能 2
 - 第9回 膝関節の構造と機能 3
 - 第10回 足関節と足部の構造と機能 1
 - 第11回 足関節と足部の構造と機能 2
 - 第12回 足関節と足部の構造と機能 3
 - 第13回 歩行のキネシオロジー
 - 第14回 咀嚼と換気のキネシオロジー
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

運動学の参考書の購読

教科書

エッセンシャルキネシオロジー

著者： Mansfield PJ・他(著) 弓岡光徳・他(訳)

出版社： 南江堂

出版年： 2010

ISBN：

基礎運動学第6版

著者： 中村隆一

出版社： 医歯薬出版株式会社

出版年： 2003

ISBN：

参考書

プロメテウス解剖学アトラス

著者： 坂井建雄(監訳)

出版社：医学書院

出版年：2011

ISBN:

成績評価

試験（90）

小テスト（10）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 人間発達学

担当者 村田 伸・安藤 忠・崎田 正博

テーマ

人間の誕生から死に至るまでの生涯を発達という視点からとらえ、身体・心理両面における人間発達に関する基礎的知識を教授する。その際、人間が発達する上で欠かせない外界との関わりにも言及する。

獲得目標

1. 人間の胎生期、新生児期、乳児期に焦点をあて、発達の視点を理解する。
動機能、知的、心理的、社会的発達を理解する。
2. 身体や運

授業の内容

リハビリテーションの対象者は新生児から高齢者まで多岐に渡るため、人間の発達過程を広く学び、一生涯を通じて課題をどのように解決するか学ぶことが必要である。そこで、中枢神経系、代謝機能、身体機能、知覚認知機能、言語機能、情緒・社会性の領域で各発達期の特徴と各期特有のリハビリテーション対象疾患についてのアプローチを教授する。

内 容

- 第1回 人間発達の定義と目的、発達理論、発達の法則
- 第2回 反射と運動1
- 第3回 反射と運動2
- 第4回 知覚・認知の発達1
- 第5回 知覚・認知の発達2
- 第6回 新生児・乳幼児の運動発達1
- 第7回 新生児・乳幼児の運動発達2
- 第8回 学童期の発達
- 第9回 青年期の発達
- 第10回 成人期の発達
- 第11回 老年期の発達
- 第12回 脳・神経系の発達と障害
- 第13回 身体構造・機能の発達と障害
- 第14回 知覚認知・言語機能の発達と障害
- 第15回 情緒・社会性の発達と障害

授業以外での学習方法

教科書

リハビリテーションのための人間発達学

著者： 大城昌平

出版社：メディカルプレス

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（90）

授業中課題（0）

参加度（10）

小テスト（0）

授業中発表等（0）

a90102a710

授業を1/3以上欠席した者は、試験を受けることができません。3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **内科学**

担当者 吉川 隆一

テーマ

理学療法士に必要な内科疾患の基礎的知識を身につける。

獲得目標

理学療法士を受ける患者の多くは内科疾患を罹患している。したがって、内科学、内科疾患の概要を理解することは理学療法士にとって重要な課題である。本講義では、内科学総論(症候、診断、治療)を概説し、さらに臓器別、病因別に内科疾患の各論を講義し、理学療法の対象となる内科疾患患者の病態の理解、把握に資することが目標となる。

授業の内容

理学療法の対象となる患者が持つ疾患を理解するための内科学的知識、技術を教授する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、内科学の概念
 - 第2回 診断、治療
 - 第3回 症候学
 - 第4回 循環器疾患
 - 第5回 呼吸器疾患
 - 第6回 消化管疾患
 - 第7回 肝胆膵疾患
 - 第8回 血液・造血器疾患
 - 第9回 代謝性疾患
 - 第10回 内分泌疾患
 - 第11回 腎・泌尿器疾患
 - 第12回 膠原病・アレルギー疾患
 - 第13回 感染症
 - 第14回 中毒性疾患
 - 第15回 皮膚疾患
-

授業以外での学習方法

教科書の予習、復習

教科書

標準理学療法学・作業療法学「内科学」第2版

著者： 大成浄志

出版社： 医学書院

出版年： 2009

ISBN:

参考書

内科学

著者： 杉本恒明・矢崎義雄総編集

出版社： 朝倉書店

出版年： 2007

ISBN:

日本内科学会雑誌(月刊)

著者: 日本内科学会編

出版社: 日本内科学会

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (30)

3分の1以上の欠席を認めない

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **整形外科学**

担当者 安藤 忠

テーマ

獲得目標

研究・臨床における理学療法と整形外科との関連の重要性について理解し、次に、整形外科臨床においてよく見られる、各種疾患における理学療法の要点を理解する。

授業の内容

まず、整形外科の歴史や理学療法との関わりを明らかにし、理学療法が、研究や臨床において、整形外科学の良きパートナーであることを認識することを主目的とする。そのため、講義では、整形外科学における診断・検査の概要と、外傷性疾患、炎症性疾患、先天性疾患、代謝・内分泌系疾患、腫瘍などの主要疾患と理学療法の役割を解説する。

内 容

- 第1回 総論 整形外科学とリハビリテーションの関連
- 第2回 総論 整形外科学における診断法・検査法・治療法
- 第3回 総論 整形外科疾病論 ①炎症性疾患
- 第4回 総論 整形外科疾病論 ②代謝・内分泌性疾患
- 第5回 総論 整形外科疾病論 ③骨・関節性疾患
- 第6回 総論 整形外科疾病論 ④骨・軟部腫瘍
- 第7回 総論 整形外科疾病論 ⑤神経・筋疾患
- 第8回 各論 外傷性疾患 ①骨折
- 第9回 各論 外傷性疾患 ②脊髄損傷
- 第10回 各論 外傷性疾患 ③関節の損傷
- 第11回 各論 外傷性疾患 ④腱・人体の損傷
- 第12回 各論 外傷性疾患 ⑤末梢神経の損傷
- 第13回 各論 外傷性疾患 ⑥スポーツ障害
- 第14回 各論 外傷性疾患 ⑦熱傷と凍傷
- 第15回 各論 外傷性疾患 ⑧切断と離断

授業以外での学習方法

整形外科学や理学療法技術ガイドなどの関連書の購読や学会・研究会への参加

教科書

整形外科学(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野シリーズ)

著者: 立野勝彦

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

参考書

小児整形外科の実際

著者: 藤井敏男

出版社: 南山堂

出版年:

ISBN:

成績評価

a90102b010

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

3分の1以上の欠席を認めない

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **精神医学(理)**

担当者 西村 伊三男

テーマ

「心の病気」、すなわち精神疾患に関する医学

獲得目標

理学療法士に必要な精神医学の基本を修得する。①精神症状を理解し、精神医学用語で説明できるようになる。②代表的な精神疾患について、症状・経過・診断・治療などの基本事項を理解する。③わが国の精神科医療の現状と課題について理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 精神医学とは
 - 第2回 精神科症候学
 - 第3回 統合失調症Ⅰ
 - 第4回 統合失調症Ⅱ
 - 第5回 気分障害Ⅰ
 - 第6回 気分障害Ⅱ
 - 第7回 神経症
 - 第8回 心身症
 - 第9回 児童思春期精神医学
 - 第10回 物質依存
 - 第11回 認知症を含む器質性精神障害Ⅰ
 - 第12回 認知症を含む器質性精神障害Ⅱ
 - 第13回 コンサルテーション・リエゾン精神医学、精神腫瘍学
 - 第14回 精神科治療学
 - 第15回 日本の精神科医療
-

授業以外での学習方法

教科書

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第3版

著者： 上野 武治

出版社： 医学書院

出版年： 2010

ISBN： 9.78426E+12

参考書

うつ病 知る・治す・防ぐ

著者： 福居顯二・井上和臣・河瀬雅紀 編

出版社： 金芳堂

出版年： 2009

ISBN： 9.78477E+12

成績評価

a90102b110

試験 (60)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

3分の1以上の欠席を認めない

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **神経内科学**

担当者 吉川 隆一

テーマ

理学療法を必要とする疾患として最も多い「神経系疾患」について学ぶ。

獲得目標

中枢神経系、末梢神経系の構造と機能を理解すると共に、様々な神経系疾患の病因、臨床像、治療法について理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 序論
 - 第2回 診断法
 - 第3回 症候学 1
 - 第4回 症候学 2
 - 第5回 高次機能障害 1
 - 第6回 高次機能障害 2
 - 第7回 高次機能障害 3
 - 第8回 脳血管障害
 - 第9回 認知症
 - 第10回 脳腫瘍・外傷
 - 第11回 脊髄疾患
 - 第12回 変性疾患・末梢神経障害
 - 第13回 筋疾患
 - 第14回 感染症・中毒
 - 第15回 小児神経・合併症
-

授業以外での学習方法

教科書

標準理学療法学・作業療法学「神経内科学」第3版

著者： 川平和美編集

出版社： 医学書院

出版年： 2011

ISBN：

参考書

標準神経病学 2版

著者： 水野美邦監修

出版社： 医学書院

出版年： 2012

ISBN：

成績評価

a90102b210

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (25)

3分の1以上の欠席を認めない

小テスト ()

授業中発表等 (25)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 理学療法技術学入門演習Ⅱ(筋・神経の触察)

担当者 宮崎 純弥・松尾 奈々

テーマ

筋・神経の機能解剖学を学び、検査・測定や治療に必要な触察を演習形式で学習する。

獲得目標

1. 学習者が演習を理解するために、解剖学的構造の名称および形などの基礎知識を修得することができる。
2. 学習者が視診・触察を行うために、人体での体表の解剖学的構造の形について認識できる。
3. 学習者が評価・治療の実施ができるために、解剖学的構造を実際の身体で視診・触診する技術を修得できる。

授業の内容

理学療法士は、関節を操作することで身体運動の改善を促す専門家である。そのためには、その原点である関節を構成する組織について、解剖学・運動学・生体力学などの観点から理解していることが望ましい。この講義では、筋・神経の解剖学的知識を学び、それらを触り部位を確認できる能力を習得することを目的とする。また、実際の治療では対象者の身体を扱うため、触られたときの感覚を知っておくことも重要である。そのため、触られている感覚を言語化してフィードバックすることで相互の学習効果が期待できる。演習への姿勢、受講態度を通じて医療人としての意識を芽生えさせることもねらいとする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、総論(筋の形、触察法)
- 第2回 肩甲帯筋の触診
- 第3回 肩甲帯筋の触診
- 第4回 上腕筋の触診
- 第5回 上腕筋の触診
- 第6回 前腕筋の触診
- 第7回 前腕筋・手の内在筋の触診
- 第8回 頸筋・頭部の筋の触診
- 第9回 体幹筋の触診
- 第10回 体幹筋の触診
- 第11回 骨盤筋の触診
- 第12回 大腿筋の触診
- 第13回 大腿筋・下腿筋の触診
- 第14回 下腿筋の触診
- 第15回 足の内在筋の触診

授業以外での学習方法

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

教科書

筋骨格系の触診マニュアル

著者： ジョセフ・F・マスコリーノ

出版社： 産調出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78488E+12

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系

著者： 坂井建雄

出版社： 医学書院

出版年： 2011

ISBN： 9.78426E+12

参考書

触診機能解剖カラーアトラス 下 筋・血管・神経

著者： 竹内仁

出版社： 文光堂

出版年： 2008

ISBN: 9.78483E+12

成績評価

試験（60）

小テスト（30）

授業中課題（5）

授業中発表等（0）

参加度（5）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **理学療法評価学総論**

担当者 村田 伸兒玉 隆之

テーマ

獲得目標

1. 障害モデルと生活モデルを説明できる。2. 理学療法における検査・測定、治療の流れを説明できる。3. 形態測定の方法と関節可動域の測定を実施できる。

授業の内容

理学療法における検査・測定、治療の流れを理解し、基本的な検査・測定の意義や主義について学習する。また、リハビリテーションの観点から障害評価を理解し、患者の問題を考える指標となる障害モデルについて学ぶ。

内 容

- 第1回 理学療法評価の流れ、
 - 第2回 患者が抱える問題を見極める
 - 第3回 障害モデルと生活モデルの理解
 - 第4回 障害モデルの抽出方法
 - 第5回 患者の一般情報の収集方法
 - 第6回 患者の問題点を予測する
 - 第7回 問題点の抽出
 - 第8回 治療計画の立案
 - 第9回 形態測定(肢長)
 - 第10回 形態測定(周径)
 - 第11回 形態測定の実践と記録方法
 - 第12回 関節可動域の測定(上肢)
 - 第13回 関節可動域の測定(下肢)
 - 第14回 関節可動域の測定(体幹)
 - 第15回 関節可動域の実践と記録方法
-

授業以外での学習方法

教科書

理学療法評価学 改訂第4版

著者: 松澤正

出版社: 金原出版株式会社

出版年: 2012

ISBN: 9.78431E+12

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

a90102b410

3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **理学療法評価学総論実習**

担当者 安彦 鉄平・松尾 奈々

テーマ

理学療法評価における検査測定の実際について学習する。理学療法評価を施行する上で必要な基礎的知識の理解と技術の習得を中心に、各種検査・評価を実習形式で教授する。

獲得目標

1. 各種検査・評価の意義や目的を説明することができる。2. 各種検査・評価の手順および注意点について説明することができる。3. 適した検査法が具体的に実施することができる。4. 各種検査・評価の結果が記録できる。

授業の内容

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。また、理学療法評価でも基本的な評価項目である徒手筋力検査法(MMT)をはじめとする理学療法評価の実習を行い、各種理学療法評価技術の習得を目指す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 形態測定
- 第3回 形態測定
- 第4回 関節可動域測定
- 第5回 関節可動域測定
- 第6回 感覚検査
- 第7回 感覚検査
- 第8回 反射検査、筋緊張検査
- 第9回 反射検査、筋緊張検査
- 第10回 筋力検査、徒手筋力検査(上肢)
- 第11回 徒手筋力検査(上肢)
- 第12回 徒手筋力検査(頸部、体幹)
- 第13回 徒手筋力検査(頸部、体幹)
- 第14回 徒手筋力検査(下肢)
- 第15回 徒手筋力検査(下肢)
- 第16回 協調性検査、姿勢反射検査
- 第17回 平衡機能検査
- 第18回 平衡機能検査
- 第19回 片麻痺機能検査
- 第20回 片麻痺機能検査
- 第21回 高次脳機能検査
- 第22回 整形外科的検査
- 第23回 ADL評価、環境評価

授業以外での学習方法

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

教科書

理学療法評価学 改訂第4版

著者： 松澤正

出版社： 金原出版株式会社

出版年： 2012

ISBN： 9.78431E+12

新・徒手筋力検査法 原著第8版

著者： 津山直一

出版社： 協同医書出版社

出版年： 2008

ISBN： 9.78476E+12

参考書

筋骨格系の触診マニュアル

著者： 丸山仁司

出版社： 産調出版

出版年： 2011

ISBN： 9.78488E+12

成績評価

試験（60）

小テスト（30）

授業中課題（5）

授業中発表等（0）

参加度（5）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **English Communication I (Ⅰ) <a>**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Practical Oral Communication in English

獲得目標

This course will aim to improve students' self-expression in and understanding of real-life English while fostering critical thinking.

授業の内容

Students will be expected to attend regularly, participate actively and interact with classmates. We will practice listening and speaking skills, and do exercises to build vocabulary and grammar skills. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Names & Introductions (I)
 - 第2回 Names & Introductions (II)
 - 第3回 Assessment 1
 - 第4回 Jobs (I)
 - 第5回 Jobs (II)
 - 第6回 Assessment 2
 - 第7回 Cultures & Customs (I)
 - 第8回 Cultures & Customs (II)
 - 第9回 Assessment 3
 - 第10回 Happy Endings (I)
 - 第11回 Happy Endings (II)
 - 第12回 Assessment 4
 - 第13回 Vacations (I)
 - 第14回 Vacations (II)
 - 第15回 Assessment 5
-

授業以外での学習方法

Classwork will be augmented with online homework exercises.

教科書

Q: Skills for Success 1 Listening & Speaking Student Book with Student Access Code Card

著者: Jaimie Scanlon

出版社: Oxford University Press

出版年: 2010

ISBN: 194756106

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト (25)

授業中発表等 (25)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **English Communication I (心) **

担当者 ビショップ マイケル

テーマ

Reading as an effective means of acquiring fluency in English.

獲得目標

This course aims to improve all essential language-learning skills: reading, vocabulary building, listening comprehension, and grammar. Through extensive reading students are prepared for standardized tests such as TOEIC and TOEFL.

授業の内容

Each unit contains a five-hundred word article followed by comprehension and analysis questions. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Class and grading requirements. Introduction to textbook. 'Breaking the ice' activity.
 - 第2回 Music and the Mind
 - 第3回 Music and the Mind
 - 第4回 Body Language across Cultures
 - 第5回 Body Language across Cultures
 - 第6回 Turning Waste into Wealth
 - 第7回 Turning Waste into Wealth
 - 第8回 The Search for Other Worlds
 - 第9回 The Search for Other Worlds
 - 第10回 Crowdsourcing
 - 第11回 Crowdsourcing
 - 第12回 Urban Landmarks
 - 第13回 Urban Landmarks
 - 第14回 Food Safety
 - 第15回 Food Safety
-

授業以外での学習方法

Students are required to attend regularly and bring a good dictionary to each class. They should also read widely in both Japanese and English.

教科書

Reading Fusion 1

著者: Andrew E. Bennett

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2012/3/14

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験 (35)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 English Communication I (心) <R>

担当者 杉山 泰

テーマ

英語が分かれば日本語も分かる - 日英語対照をしながら学ぶ基礎英語

獲得目標

「平田容疑者が捕まった」をMakoto Hirata was arrested.とするのはなぜなのか、「受身構文」が理解できないまま、英語が嫌いになった学生が多い。「原爆は墮ちた」のではなく、An A-bomb was dropped.であり、「これください」はI'll take this.となる。「主語」が必要な英語と、なくても問題ない日本語の対照をしながら、外国語としての日本語文法と英語文法を楽しく学んでいく。

授業の内容

毎回、日英語を対照しながら、基礎英語を学び、1枚のプリントを仕上げてもらう。各自、教科書と辞書を持参しないとできないので、出席が重要となる。

内 容

- 第1回 自己紹介。Lesson 1 日英語の違い(I love you.のS+V+O構文と君が好きという形容詞構文)
- 第2回 Lesson 2 「私」からの発想。(I have a good time.と楽しい)
- 第3回 Lesson 3 「命令文」(On your mark. Get set. Go.主語がなければ命令文)
- 第4回 Lesson 4 「be動詞」という曲者(1) (なぜ、I am illness.と言えないのか?)
- 第5回 Lesson 5 「be動詞」という曲者(2) (なぜ、It is hard.と言えるのに、It is happy.と言えないのか?)
- 第6回 Lesson 6 「未来」を示す英語 (なぜ、「先生、酒を飲みに行きますか」はWill you go for a drink?なのか?)
- 第7回 Lesson 7 「不定詞」構文 (I have no need to hurry.とI have difficulty finding a job.の違いはどこにあるのか?)
- 第8回 Lesson 8 「現在完了形」構文 (Have you eaten sushi?とDid you eat sushi?はどう違うのか?)
- 第9回 Lesson 9 「能動態」と「受動態」(I am excited.とFootball is exciting.はどう違うのか?)
- 第10回 Lesson 10 5W1Hで始まる疑問文 (Do / Does / Didの使い方が分かりますか?)
- 第11回 Lesson 11 「動名詞」構文 (I enjoy driving a new car.のように動名詞を取る動詞はMegafepsです)
- 第12回 Lesson 12 「比較級」構文 (Which do you like better, white or red?といつも比較級が使われる英語)
- 第13回 Lesson 13 There is(are)構文 (新聞に多用されるThere is「存在」構文 「ある」と「いる」の違いを留学生に教えられますか?)
- 第14回 Lesson 14 「仮定法」構文 (原子力発電所事故が起こりえないからこそ、起こったときのシミュレーションが必要なのです)
- 第15回 Lesson 15 「て・に・を・は」と前置詞 (日本文学の英訳はむずかしい?)

授業以外での学習方法

5月に英語劇の鑑賞を行なう予定。NHKラジオの「基礎英語講座」などの利用を高く評価する。

教科書

Discover English Grammar

著者: 杉山 泰

出版社: 朝日出版社

出版年: 2006年

ISBN:

参考書

日本人はなぜ英語ができないか

著者: 鈴木孝夫

出版社: 岩波新書

出版年: 1999年

ISBN:

日本語の教室

著者： 大野晋

出版社： 岩波新書

出版年： 2002年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

どうしても参加できない場合(病気、就職のための面接など)毎回毎のプリントの提出と教科書の問題をやって提出すれば、遅れの出席として評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 English Literacy I <a>

担当者 弥永 啓子

テーマ

物語文のリーディングを通して、基礎的な読解力を身につける

獲得目標

・アカデミックな説明文のリーディングに取り組む前段階として、物語文がスムーズに読めるようになる。・基礎的な語彙力を増強する。・読解に必要な、中級以上の文法項目を理解し、複雑な文構造をもつ文を理解できるようになる。

授業の内容

ミステリー仕立てで書かれた、日本人留学生アイのカナダ生活のストーリーを読み、表面的な事実の理解だけでなく推測する力を養い、奥行のある読解力を養います。

内 容

- 第1回 Watcher, Stalker, Killer (1)
 - 第2回 Watcher, Stalker, Killer (2)
 - 第3回 Suspicious Package (1)
 - 第4回 Suspicious Package (2)
 - 第5回 Mystery at the Museum (1)
 - 第6回 Mystery at the Museum (2)
 - 第7回 既出文法総復習
 - 第8回 説明文の読解(1)
 - 第9回 Trapped at Stanley Park (1)
 - 第10回 Trapped at Stanley Park (2)
 - 第11回 Revenge at the Rink (1)
 - 第12回 Revenge at the Rink (2)
 - 第13回 Finding Myself (1)
 - 第14回 Finding Myself (2)
 - 第15回 既出文法総復習(2), 説明文の読解 (2)
-

授業以外での学習方法

オンラインで行う予習・復習を必須とします。

教科書

Mystery Break

著者: Atsuko Uemura, Irene Iwasaki

出版社: Cengage Learning

出版年: 2011

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (15)

小テスト (60)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 English Literacy I

担当者 栗田 梨津子

テーマ

アカデミック英語入門

獲得目標

様々な学問分野の英語を読んで理解できるようになるための基礎力を養うこと。まとまった英文を読む際に必要となる基礎的な語彙力、文法力を身につけること。

授業の内容

アカデミック英語の基礎となる様々なトピックの説明文を読み、パラグラフごとの要点をつかむ練習をします。補足的に、各ユニットのテーマに関連するリスニングの練習を通して、聴解力を養います。

内 容

- 第1回 授業概要の説明 英語の学習経験や英語能力に関するアンケート
- 第2回 Unit 1: How did you get your name? (Reading 1: Naming Around the World)
- 第3回 Unit 1: How did you get your name? (Reading 2: Naming the Blackbelly)
- 第4回 Unit 1のまとめとリスニング練習
- 第5回 Unit 2: What is a good job? (Reading 1: The Right Job for You)
- 第6回 Unit 2: What is a good job? (Reading 2: The World of Work)
- 第7回 Unit 2のまとめとリスニング練習
- 第8回 Unit 3: Why do people immigrate to other countries? (Reading 1: The World in a City)
- 第9回 Unit 3: Why do people immigrate to other countries? (Reading 2: Immigrant Stories)
- 第10回 Unit 3のまとめとリスニング練習
- 第11回 Unit 4: What are the benefits of positive thinking? (Reading 1: The Power of Positive Thinking?)
- 第12回 Unit 4: What are the benefits of positive thinking? (Reading 2: The Lost Horse)
- 第13回 Unit 4のまとめとリスニング練習
- 第14回 リスニング練習
- 第15回 リスニング練習

授業以外での学習方法

各ユニットの終わりに、語彙と内容をどれだけ理解できているかを確認する小テストを行いますので、毎回授業の復習をしっかりしておいてください。

教科書

Q: Skills for Success (Reading and Writing) 1

著者: Sarah Lynn

出版社: Oxford University Press

出版年: 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (70)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **アカデミックスキルズ**

担当者 梅本 裕

テーマ

大学での勉強に必要な論理的な文章の書き方を身につける

獲得目標

アカデミックスキルズは、大学での勉強に必要な学習技法の総称である。この科目では、数多くあるアカデミックスキルズのうち、「論理的な文章」の書き方をとりたてて教える。論理的な文章、すなわち、論理性の高い文章が書けるようになると、大学での学習がはかどる。なぜなら、「論理的な文章」の書き方を身につけることは論理的思考を身につけることに他ならないからだ。大学での学習内容の多くは論理的に構築されており、論理的思考が深まると学習内容をより深く理解できる。

授業の内容

この授業では、まず、比較的短い作文を、段落、語句、文体に意識をはらいながらきちんと書けるように指導する。論評文を中心として400-800字程度の文章を論理的に書けるようにする。授業終了時には大学の勉強には不可欠のレポートやブックレビュー、あるいは実験記録などの文章を、論理的に書けるようにする。

内 容

- 第1回 400字で論評文を書く(その1)
 - 第2回 400字で論評文を書く(その2)
 - 第3回 思考単位としての文
 - 第4回 文章書き換えの練習(その1)
 - 第5回 文章書き換えの練習(その2)
 - 第6回 段落のはたらき・つくり方
 - 第7回 800字で論評文を書く(その1)
 - 第8回 800字で論評文を書く(その2)
 - 第9回 語句の選び方と使い方(その1)
 - 第10回 語句の選び方と使い方(その2)
 - 第11回 演習:ブックレビューを書く
 - 第12回 演習:案内文を書く
 - 第13回 デベートの立論を書く(その1)
 - 第14回 デベートの立論を書く(その2)
 - 第15回 アカデミックスキルとしての論理的文章
-

授業以外での学習方法

日ごろより本をたくさん読もう。また、文章を書く時には、常に一文一義の文体で書くように心がけよう

教科書

新版 論理的思考

著者: 宇佐美寛

出版社: メディカルフレンド社

出版年: 1989

ISBN: 9.78484E+12

参考書

論理トレーニング101題

著者: 野矢茂樹

出版社: 産業図書

出版年: 2001

ISBN: 478280136X

レポート・論文の書き方入門 第3版

著者： 河野哲也

出版社： 慶應義塾大学出版会

出版年： 2002

ISBN: 4766409698

成績評価

試験（70）

授業中課題（30）

参加度（）

試験はレポート形式によって行う。詳細は別に指示する。

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 自己表現研究 I <a>

担当者 日比野 英子・ジェイムス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス) なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 自己表現研究 I

担当者 日比野 英子・ジェイムス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス) なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 自己表現研究 I <C>

担当者 日比野 英子・ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス) なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 自己表現研究 I <d>

担当者 日比野 英子・ジェイムス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス) なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 自己表現研究 I <e>

担当者 日比野 英子・ジェイムス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス) なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学 I**

担当者 坂本 敏郎

テーマ

獲得目標

心理学の歴史、心理学の研究方法について概観し、心理学がどのような学問分野であるかを理解する。心理学の中でも、科学的に明らかにされてきた知覚、認知、学習、感情、動機づけなどの基礎心理学領域について理解を深める。

授業の内容

こころのはたらきを客観的、科学的に観察、解析することの重要性が、心理学、とりわけ実験心理学、基礎心理学において指摘されてきた。本講義では、情動、動機づけ、知覚、認知、学習、記憶、発達といった実験や観察によって明らかにされてきた心理機能について、わかりやすく概説する。これらの基礎心理学全般の基本的な知見を概観することにより、心理学とはどういう学問なのかを探究する。

内 容

- 第1回 心理学とは
 - 第2回 心理学の研究方法
 - 第3回 実験心理学の歴史
 - 第4回 こころの数量化、実験計画法
 - 第5回 感覚と知覚
 - 第6回 錯視と運動の知覚
 - 第7回 感情と情動
 - 第8回 動機づけと生得的行動
 - 第9回 学習の基礎1:古典的条件づけとその理論
 - 第10回 学習の基礎2:オペラント条件づけとその理論
 - 第11回 遺伝と発達
 - 第12回 こころの発達と成長
 - 第13回 認知、記憶、思考
 - 第14回 推論と意思決定
 - 第15回 心理学の未来(社会の役に立つ心理学とは)
-

授業以外での学習方法

心理学関連図書による自主学習

教科書

心理学概論

著者: 山内弘継、橋本幸 編

出版社: ナカニシヤ出版

出版年: 2006年

ISBN:

参考書

心理学入門

著者: 佐藤タツヤ

出版社: 有斐閣アルマ

出版年: 2010年

ISBN:

成績評価

a90201b010

試験 (60)
授業中課題 (20)
参加度 ()

小テスト (20)
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 臨床心理学 I

担当者 日比野 英子 松下 孝江

テーマ

臨床心理学の概論の理解

獲得目標

臨床心理学は、現代社会が抱えている心理的問題のみならず、教育の問題、高齢者・障害者のケアとリハビリテーション、犯罪被害者のケアなどのさまざまな問題の解決や改善を要請されている学問領域であるが、本科目ではその基礎理論と心理アセスメント・心理的援助を概観して、その理念・歴史・構造・実践活動を理解することをねらいとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 臨床心理学とは
- 第2回 臨床心理学の歴史
- 第3回 臨床心理学の主な学問分野
- 第4回 臨床心理学の基礎理論① 精神分析学
- 第5回 臨床心理学の基礎理論② 人間性心理学
- 第6回 臨床心理学の基礎理論③ 認知・行動理論
- 第7回 心の発達と心の病理① 乳幼児期の心と心のつまずき
- 第8回 心の発達と心の病理② 児童期・思春期の心理的問題
- 第9回 心の発達と心の病理③ 青年期の心と心の迷い
- 第10回 心の状態を測る—心理アセスメント—
- 第11回 心理アセスメントの方法
- 第12回 心の病の回復の援助① カウンセリング
- 第13回 心の病の回復の援助② 子どもの心理療法
- 第14回 心の病の回復の援助③ 問題行動の心理療法
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

臨床心理学を基本から学ぶ

著者： 丸島令子・日比野英子他

出版社： 北大路書房

出版年： 2004年

ISBN： 4-7628-2401-1

参考書

成績評価

試験（50）

授業中課題（ ）

参加度（50）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

a90201b310

意見を述べる、質問する、リアクションペーパーに記述するなど、積極的な授業参加を評価します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 ころとからだの臨床学 I

担当者 滝野 功久・中島 暢美・中村 和夫・日比野 英子・前田 洋光・松下 幸治

テーマ

ころとからだ/健康であること・病気であること/ケアすること・ケアされること/ころとからだの変化・変貌・変遷— 個人と社会と文化のなかで

獲得目標

— ころとからだの相互作用の理解を深める — ころとからだの個人・社会・文化による多様性を、さまざまな領域と観点と動きのなかで発見する — それらが、各人の生活と学びのなかで実際に生きることを模索する

授業の内容

6名の教員のオムニバス方式で行われるもので、履修者の構成や「授業」の展開によって、実施される内容は動いて行くので、下記のプログラムは変更することがある。

内 容

- 第1回 オリエンテーション「ころ」とは? 「からだ」とは? 心身と病気についてのいろいろな考え方 [滝野]
- 第2回 身体は理解のモノサシ [中村]
- 第3回 共感と言葉の「意味」の理解 [中村]
- 第4回 心と外見— 顔と心の臨床 1 顔から何がわかるのか [日比野]
- 第5回 心と外見— 顔と心の臨床 2 何のために顔を粧うのか [日比野]
- 第6回 心と外見— 顔と心の臨床 3 化粧・美容マッサージの施術による心のケア [日比野]
- 第7回 ころとからだ— よりよい人間関係のつくり方 [前田]
- 第8回 ころとからだ— マスメディアの影響 [前田]
- 第9回 発達障害と身体感覚 [中島]
- 第10回 発達障害児の遊戯療法を通してころとからだを考える [中島]
- 第11回 臨床の知と共生 [松下幸]
- 第12回 身体感覚とイメージ [松下幸]
- 第13回 完全性(perfection)と全体性(wholeness) [松下幸]
- 第14回 臨床(学)とはなにか? 臨床の知からの考え方 [滝野]
- 第15回 全体の振り返りとフィードバック

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

各担当教員ごとにレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **経済学概説**

担当者 阪本 崇

テーマ

日本経済についての話題をきっかけに、社会認識の手段としての経済学の基礎を学ぶ

獲得目標

経済社会の中で起こる様々な現象について、報道をはじめとする世の中の言説を鵜呑みにするのではなく、経済学で用いられる概念や思考方法を駆使しながら自分自身で論理的に考える力を身につける。

授業の内容

経済学は「金儲けのための学問」ではありません。20世紀初頭に活躍したイギリスの経済学者A.C.ピグーの言葉にもあるように、それは「人間生活の改良のための学問」です。人間生活の改良のために解決しなければならない経済問題は、その時代毎に変化します。経済学は250年の歴史の中で、さまざまな経済問題にとりくみながら発展してきました。この授業では、こうした経済学の発展過程で生まれてきた重要な概念や思考方法を学びながら、経済学が、現代の社会に生きる私たちが取り組まなければならない問題-地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題-にどのように取り組んでいるのかを学びます。

内 容

- 第1回 イントロダクション:経済学とは何か?
- 第2回 なぜ景気は変動するのか?
- 第3回 不況になったら政府は何をするべきか?
- 第4回 為替レートはどのように決まるのか?
- 第5回 輸出を増やせば景気は良くなるか?
- 第6回 バブル経済とは何だったのか?
- 第7回 インフレやデフレはどうして良くないのか?
- 第8回 今後の日本経済はどうなるのか?
- 第9回 所得や価格は消費にどのように影響を与えるか?
- 第10回 企業はどのように行動するのか?
- 第11回 なぜ市場に任せるのが望ましいのか?
- 第12回 企業はどのようにして競争を避けるのか?
- 第13回 なぜ公園や道路は政府が作るのか?
- 第14回 消費者は商品の本当の価値を知っているか?
- 第15回 市場と政府だけが経済ではない

授業以外での学習方法

授業で教科書の内容すべてを説明することはできません。教科書の該当範囲を示した上で、要点のみを説明しますので、授業後に該当部分をしっかり読んでおくことが必要です。また、新聞を読んだりニュースを見たりして普段から日本経済の状況について知るように心がけてください。

教科書

What's経済学:わかる楽しさ 使うよろこび(第3版)

著者: 辻 正次・八田 英二

出版社: 有斐閣(有斐閣アルマ)

出版年: 2010

ISBN: 978-4641123878

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

a90201d810

教科書および授業内容に関する小テストを数回行います。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ <a>**

担当者 坂本 敏郎・佐藤 鮎美・中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施
 - 第3回 鏡映描写実験の実施
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施(1)
 - 第13回 動物実験の実施(2)
 - 第14回 動物実験の実施(3)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90202a150

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ **

担当者 佐藤 鮎美 坂本 敏郎 田中 芳幸

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施
 - 第3回 鏡映描写実験の実施
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施(1)
 - 第13回 動物実験の実施(2)
 - 第14回 動物実験の実施(3)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90202a152

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ <c>**

担当者 田中 芳幸 坂本 敏郎 前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施
 - 第3回 鏡映描写実験の実施
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施(1)
 - 第13回 動物実験の実施(2)
 - 第14回 動物実験の実施(3)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90202a153

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ <d>**

担当者 田中 芳幸 坂本 久美 前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施
 - 第3回 鏡映描写実験の実施
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施(1)
 - 第13回 動物実験の実施(2)
 - 第14回 動物実験の実施(3)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90202a154

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ <e>**

担当者 中川 明仁・坂本 久美・前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施
 - 第3回 鏡映描写実験の実施
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施(1)
 - 第13回 動物実験の実施(2)
 - 第14回 動物実験の実施(3)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90202a155

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ** <f>

担当者 坂本 久美・佐藤 鮎美・中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施
 - 第3回 鏡映描写実験の実施
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施(1)
 - 第13回 動物実験の実施(2)
 - 第14回 動物実験の実施(3)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90202a156

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会心理学 I**

担当者 前田 洋光

テーマ

獲得目標

理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考える。

授業の内容

社会心理学者Aronsonは、人間を「社会的動物 (The social animal)」と呼んだ。その言葉の通り、私たちは日常生活を営む上で、他者や社会から多大な影響を受けており、同時に他者や社会に多大な影響を及ぼしている。本講では、社会的認知や社会的影響の問題を中心に、様々な自己と他者のかかわりを、心理学的視点から論考していく。

内 容

- 第1回 インTRODakション
 - 第2回 原因帰属
 - 第3回 対人認知
 - 第4回 対人魅力
 - 第5回 性役割
 - 第6回 社会的欲求
 - 第7回 自尊感情
 - 第8回 自己開示と自己呈示
 - 第9回 対人不安と自己意識
 - 第10回 態度
 - 第11回 説得的コミュニケーション1: 受け手・送り手・メッセージ内容に着目した検討
 - 第12回 説得的コミュニケーション2: 説得への抵抗と説得技法
 - 第13回 言語的コミュニケーション
 - 第14回 非言語的コミュニケーション
 - 第15回 まとめと確認
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **発達心理学 I**

担当者 中村 和夫

テーマ

獲得目標

胎生期から成人期までの人間の発達の様相の理解

授業の内容

発達心理学についての基礎的知識と発達的な見方が理解できること、および人間の発達上の重要なトピックスについて、それぞれの発達段階におけるその意味を理解するとともに、具体的なイメージをもつことができるようになること。

内 容

- 第1回 出生前期の感覚の発達と胎児診断の問題
 - 第2回 ヒトの生理的早産と社会的存在としての人間
 - 第3回 新生児期の共鳴動作と新生児反射の意味
 - 第4回 乳児期の姿勢・運動、手指の操作性の発達
 - 第5回 前言語的コミュニケーションと共同注意・三項関係の発達
 - 第6回 愛着理論と愛着の発達
 - 第7回 幼児期の表象的思考と話し言葉の発達
 - 第8回 こころの理論と他者の心の理解、自己抑制の発達
 - 第9回 児童期の内言と書き言葉の発達
 - 第10回 具体的操作の発達と9・10歳の節
 - 第11回 思春期の第二次性徴と自己意識的感情、形式的操作の発達
 - 第12回 青年期のアイデンティティの発達、アイデンティティ・ステータス
 - 第13回 時間的展望と親密性の発達、アイデンティティの拡散
 - 第14回 成人期のキャリア発達とジェネラティビティの発達
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介された参考書を活用して、授業で言及された問題について自ら進んで見識を深めること。

教科書

よくわかる認知発達とその支援

著者： 子安増生 編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2005

ISBN： 4-623-04395-9

参考書

小学生の生活とこころの発達

著者： 心理科学研究会 編

出版社： 福村出版

出版年： 2009

ISBN：

成績評価

a90202a410

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

参加度とは出席を含めた授業態度。

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **English Communication III (Ⅲ) <a>**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Practical Oral Communication in English

獲得目標

This course will aim to improve students' self-expression in and understanding of real-life English while fostering critical thinking.

授業の内容

Students will be expected to attend regularly, participate actively and interact with classmates. We will practice listening and speaking skills, and do exercises to build vocabulary and grammar skills. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction
 - 第2回 Things in common
 - 第3回 Starting a conversation
 - 第4回 Leisure time
 - 第5回 Music
 - 第6回 Health
 - 第7回 Encouraging people to talk
 - 第8回 Review 1
 - 第9回 Celebrations
 - 第10回 Traditions
 - 第11回 Childhood
 - 第12回 School
 - 第13回 Locations
 - 第14回 Giving directions
 - 第15回 Review 2
-

授業以外での学習方法

Classwork will be augmented with online homework exercises.

教科書

Touchstone Blended Online Level 2 Student's Book A w/Audio CD/CD-ROM & Online Workbook A

著者:

出版社:

出版年:

ISBN: 9.78111E+12

参考書

成績評価

試験 (15)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (15)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus**科目名 English Literacy III ****担当者** 久保田 美佳**テーマ**

Academic Readingの実践

獲得目標

一般的な英語で書かれた文献を読んで自力である程度理解できるようになる。専門分野の基礎語彙を習得する。英語の音とリズムに慣れる。

授業の内容

「ストレス」というテーマに特化したテキストを使って、正しく読み取る練習をします。また、同テキスト付属の音源を聞き英語の音やリズムを体得して行きます。

内 容

- 第1回 授業オリエンテーション Unit 1 What is Stress?
- 第2回 Unit 2 What Causes Stress? Unit 3 What Is the Stress Response?
- 第3回 Unit 4 How Did We First Learn about the Bad Effects of Stress?
- 第4回 Unit 5 How are Bodily Systems Affected by Stress?
- 第5回 Unit 6 Unhealthy Stress: How Can We Resist It?
- 第6回 Unit 7 Laugh Unit 8 Get Rid of Anger
- 第7回 Review Unit 1-8
- 第8回 Unit 9 Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Live by Lists
- 第9回 Unit 10 Adapt Your Environment
- 第10回 Unit 11 Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfection
- 第11回 Unit 12 Take Time Out for Meals
- 第12回 Unit 13 Try Aerobic Exercise and Take a Walk Unit 14 Learn Good Posture and Be Conscious of Your Jaw
- 第13回 Unit 15 Reaching the True Relaxation State
- 第14回 Review Unit 9-15
- 第15回 Listening and Vocabulary

授業以外での学習方法

毎週授業で扱う箇所を事前に読んで来ること。また、単語テストを随時行うのでその準備も忘れないようにして下さい。

教科書

Beating Stress ストレスフリー・ライフを目指す

著者： 田部井世志子、井上径子

出版社： 朝日出版

出版年： 2006

ISBN: 4255154228C1082

参考書**成績評価**

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (80)

授業中発表等 ()

a90202d252

習熟度を測るため、定期的に小テストを行います。上記に、期末統一英語テスト20%が加算されます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 心理学研究法Ⅱ(質的調査)

担当者 中村 和夫

テーマ

獲得目標

インタビューや観察を通して得られたデータに基づいて、ボトムアップ的に研究領域に密着した理論や概念モデルを構成していく質的研究方法を理解し、一連の手続きを取得すること。

授業の内容

質的な研究方法として、具体的には、グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)に基づいて、データの収集(とくに、半構造化面接)、データのコード化、カテゴリーの関係づけによる理論(ストーリーライン)の生成について、それらの手続き・方法を実習する。

内 容

- 第1回 質的研究、質的心理学とは何か
 - 第2回 グラウンデッド・セオリー・アプローチ(GTA)とは何か
 - 第3回 インタビュー・観察によるデータ収集について
 - 第4回 プロパティとディメンションによる概念把握について
 - 第5回 ラベル名をつける——オープンコーディングについて
 - 第6回 カテゴリーにまとめる——アクシャルコーディングについて
 - 第7回 比較と理論的サンプリングについて
 - 第8回 カテゴリーの関係をとらえる——セレクトティブコーディングについて
 - 第9回 インタビューによるデータの収集
 - 第10回 トランスクリプトの作成
 - 第11回 オープンコーディング
 - 第12回 アクシャルコーディング
 - 第13回 セレクトティブコーディング
 - 第14回 研究発表(前段の班)
 - 第15回 研究発表(後段の班)と授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

データの収集や分析方法の実践など、授業時間外での課題(宿題)をきちんとおこなって授業に臨むこと。

教科書

グラウンデッド・セオリー・アプローチ 実践ワークブック

著者: 戈木クレイグヒル滋子 編

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 2010

ISBN:

質的研究方法ゼミナール増補版 グラウンデッドセオリーアプローチを学ぶ

著者: 戈木クレイグヒル滋子 編

出版社: 医学書院

出版年: 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（40）

授業中発表等（20）

参加度（40）

課題を実践しながら方法を学んでいくので、毎時間授業に出席することが当然の前提となる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 心理統計学Ⅱ

担当者 前田 洋光

テーマ

推測統計学の理解

獲得目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、実際の心理学研究において頻繁に用いられる種々の統計解析について、具体的な問題を解きながら理解を深めていく。それによって、各分析手法の概念について理解することを、第一の目的とする。加えて、与えられたデータ分析し、適切な結論を導くことができる実践力を獲得することを目標とする。

授業の内容

心理統計学Ⅰで習得した内容を踏まえ、本講では、卒業研究において自らで心理学研究をまとめるにあたり最低限必要となる、より発展的・実践的な統計学の概念について学んでいく。また、種々の統計手法について、電卓を用いて手計算をおこなう演習を併用することによって、一層の理解を深めていく。

内 容

- 第1回 イントロダクション:統計学の基礎の復習
 - 第2回 標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(1)
 - 第3回 標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(2)
 - 第4回 統計的検定の基礎
 - 第5回 t検定(1):対応のない場合のt検定
 - 第6回 t検定(2):対応のある場合のt検定
 - 第7回 一元配置分散分析(1):一要因被験者間検定
 - 第8回 一元配置分散分析(2):多重比較
 - 第9回 ノンパラメトリック検定(1)
 - 第10回 ノンパラメトリック検定(2)
 - 第11回 データ分析演習(1)
 - 第12回 データ分析演習(2)
 - 第13回 データ分析演習(3)
 - 第14回 データ分析演習(4)
 - 第15回 授業全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

本当にわかりやすいすぐく大切なことが書いてあるすぐ初歩の統計の本

著者: 吉田 寿夫 著

出版社: (北大路書房)

出版年:

ISBN:

よくわかる心理統計

著者： 山田 剛史・村井 潤一郎 著

出版社：(ミネルヴァ書房)

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (40)

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト (30)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **感情心理学**

担当者 坂本 敏郎

テーマ

獲得目標

人や動物のこころのはたらきの重要な機能のひとつである感情・情動のメカニズムについて理解する。なぜ感情が生起するのか、感情と身体反応(脳の活動、生理反応、免疫反応)はどのような関係をもつのかについて理解を深める。

授業の内容

ヒトを含む動物は感情・情動という心理的機能を生得的に有している。情動は比較的短期の感情の動きと定義され、快と不快の情動に分類される。食欲や性欲などが充足された時には快の情動が生じ、恐怖、嫌悪、怒りなどは不快情動が生じる。本講義では、情動の起源、情動の分類、情動を制御する脳内機構、情動障害のメカニズムについて、ヒトや動物から得られた知見を紹介し、解説する。さらに、二個体以上の相互作用からなる行動、社会行動(攻撃行動、性行動、養育行動、愛着行動)の心理的メカニズムおよびそれを制御する脳内機構、神経内分泌機構についても解説する。

内 容

- 第1回 感情とは？
 - 第2回 情動と感情
 - 第3回 情動理論
 - 第4回 進化と情動
 - 第5回 快の情動
 - 第6回 快の情動と神経回路
 - 第7回 不快の情動
 - 第8回 不快の情動の神経回路
 - 第9回 情動障害1
 - 第10回 情動障害2
 - 第11回 攻撃行動の基礎
 - 第12回 つがい形成行動、愛着行動の基礎
 - 第13回 養育行動の基礎
 - 第14回 他個体の認知
 - 第15回 こころの絆の形成
-

授業以外での学習方法

感情心理学関連図書による自学自習

教科書

感情心理学・入門

著者： 大平英樹(編)

出版社： 有斐閣アルマ

出版年： 2010年

ISBN:

参考書

進化心理学入門

著者： J.H. カートライト

出版社： 新曜社

出版年： 2005年

ISBN:

脳とホルモンの行動学

著者： 近藤保彦他（編）

出版社： 西村書店

出版年： 2009年

ISBN:

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ 60 ）

参加度（ ）

小テスト（ 40 ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実験心理学**

担当者 上北 朋子

テーマ

こころを解明するための様々な研究法

獲得目標

こころを科学的に分析するための研究方法について学ぶ。それぞれの長所と短所を理解したうえで、各自が研究に取り組む際に適切な手法を選択・実施できるようになることを目標とする。

授業の内容

実証的な研究を行う時に、どのように変数を操作して行動を測定すればよいのか、また、統制すべきものは何かが問題となる。これらを様々な実験場面にあわせて、体系的に学習する。

内 容

- 第1回 心理学実験の意義
 - 第2回 実験法の基本
 - 第3回 独立変数と従属変数
 - 第4回 剰余変数
 - 第5回 実験計画(1)
 - 第6回 実験計画(2)
 - 第7回 実験的研究(1)
 - 第8回 実験的研究(2)
 - 第9回 観察的研究(1)
 - 第10回 観察的研究(2)
 - 第11回 データの統計処理(1)
 - 第12回 データの統計処理(2)
 - 第13回 実験結果の解釈
 - 第14回 研究倫理
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

関連図書による自学自習

教科書

心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし―

著者： 高野 陽太郎・岡 隆編

出版社： 有斐閣アルマ

出版年： 2004

ISBN： 4-641-12214-8

参考書

授業中に適宜紹介する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a90202e210

試験 (70)
授業中課題 (20)
参加度 (10)

小テスト (0)
授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 パーソナリティ心理学Ⅱ

担当者 ジェイムス 朋子・青木 剛

テーマ

パーソナリティに関する精神分析基礎理論と査定法の基礎

獲得目標

パーソナリティという構成概念、パーソナリティの発達、および、パーソナリティの査定理論についてさまざまな理論背景を学んだ上で、本講義では、精神分析的なアプローチからのパーソナリティ理論を追求する。また、現代精神医学における臨床査定基礎であるミロンによるパーソナリティ・スタイル理論とその査定基礎を理解する。さらに、自身のパーソナリティを追求することを通じ、臨床的態度とは何かを検討することをめざす。受講生の人数によって、講義・演習・討議・体験学習によって展開するため授業の順序や内容は適宜変更され得る。そのため、全出席を原則とする。

授業の内容

パーソナリティという構成概念、パーソナリティの発達、および、パーソナリティの査定理論について様々な理論背景を学んだ上で、本講義では、精神分析的なアプローチからのパーソナリティ理論を追求する。また、現代精神医学における臨床査定基礎であるミロンによるパーソナリティ・スタイル理論とその査定基礎を理解する。さらに、自身のパーソナリティを追求することを通じ、臨床的態度の一端を体験的に理解する。

内 容

- 第1回 パーソナリティ理論の歴史的展開と構成概念
- 第2回 精神分析的アプローチによるパーソナリティ理論-自己と自我-
- 第3回 パーソナリティと発達-精神性的発達理論-
- 第4回 パーソナリティと適応-防衛機制理論-
- 第5回 パーソナリティ査定理論の基礎
- 第6回 質問紙法による静的パーソナリティ査定-小レポート課題
- 第7回 基礎理論のまとめ
- 第8回 ミロンによるパーソナリティ・スタイル理論
- 第9回 パーソナリティと病理
- 第10回 質問紙による動的パーソナリティ査定-小レポート課題
- 第11回 パーソナリティと成熟
- 第12回 質問紙によるパーソナリティ・ファンクション査定-小レポート課題
- 第13回 パーソナリティと変化-成長と治療に関する心理教育・心理療法理論の基礎-
- 第14回 スモール・グループ・ディスカッション-パーソナリティ・スタイル理論の理解を深める-
- 第15回 グループ・プレゼンテーションとまとめ

授業以外での学習方法

クラスの中で提示されるテキスト指定箇所を事前に読んで次のクラスに臨むこと。また、小グループ課題が出されるので、発表準備などの作業が課される。

教科書

ガイダンスとカウンセリング―指導から自己実現への共同作業

著者： 小谷英文

出版社： 北樹出版

出版年： 1993

ISBN： 4-89384-293-5

参考書

臨床心理学概説

著者： 田中富士夫

出版社： 北樹出版

出版年： 1988

ISBN： 489384519

初めて学ぶパーソナリティ心理学

著者： 小塩真司

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN： 4623056848

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 対人援助論A

担当者 中西 龍一・青木 剛

テーマ

心理学的対人援助の基礎を学ぶ

獲得目標

心理学的対人援助の理論とスキルについて、その基礎となるC・ロジャーズによる「来談者中心法 (Client centered therapy)」およびE・バーンによる「交流分析 (Transactional Analysis)」の理論について理解する。また、ロジャーズがセラピストに求めた「受容」「共感」「自己一致」の態度や傾聴のスキル、バーンによる「交流」の視点を獲得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 心理学的対人援助とは
 - 第2回 Rogers による「来談者中心法」
 - 第3回 「来談者中心法」を考える
 - 第4回 「来談者中心法」とは
 - 第5回 「来談者中心法」をマイクロカウンセリングの視点から分析する
 - 第6回 「マイクロカウンセリング」基本的傾聴技法、質問技法
 - 第7回 「マイクロカウンセリング」言い換え技法、最小限お励まし、感情の同定
 - 第8回 「傾聴」とは
 - 第9回 来談者中心法 まとめ
 - 第10回 交流分析 交流分析とは
 - 第11回 交流分析 エゴグラム
 - 第12回 交流分析 やりとり分析
 - 第13回 交流分析 ゲーム・人生脚本
 - 第14回 交流分析 再決断療法 (TA・ゲシュタルト)
 - 第15回 授業 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 (20)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **カウンセリング**

担当者 中島 暢美

テーマ

カウンセリングの基本的態度を学ぶ

獲得目標

カウンセリングにおけるカウンセラーの基本的態度について理解することを目標とする。まず、自分自身のための言語化、次に、他者に伝えるための言語化を意識する。人が互いに影響を与え合うことを相互作用という。相互作用において人は互いに理解を深めようと努める。日常生活において必要不可欠でありながら、今、困難をきたしている双方向の理解の仕方について学習する。

授業の内容

カウンセリング理論の習得および実践演習

内 容

- 第1回 オリエンテーション&イントロダクション(1) ～カウンセリングとは(1)～
 - 第2回 イントロダクション(2) ～カウンセリングとは(2)～
 - 第3回 カウンセリングにおける技術の訓練
 - 第4回 カウンセリングにおける専門性
 - 第5回 クライアントを理解するとは(1)
 - 第6回 クライアントを理解するとは(2)
 - 第7回 基本的情動性
 - 第8回 積極的傾聴(1)
 - 第9回 積極的傾聴(2)
 - 第10回 ロール・プレイによる技法訓練(1)
 - 第11回 ロール・プレイによる技法訓練(2)
 - 第12回 ロール・プレイによる技法訓練(3)
 - 第13回 ロール・プレイによる技法訓練(4)
 - 第14回 ロール・プレイによる技法訓練(5)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

参考書、心理学辞典等を用いた専門用語の意味の確認(予習、復習)、および関連図書の購読。

教科書

参考書

試行カウンセリング

著者: 鑓幹八郎

出版社: 誠信書房

出版年:

ISBN:

方法としての面接

著者: 土居健郎

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

心理臨床家の手引

著者： 鎌幹八郎・名島潤慈

出版社： 誠信書房

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

授業内における課題レポートを加点していく為、全出席が基本となる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワーク I <a>**

担当者 中西 龍一・ジェイムス 朋子・滝野 功久・羽下 大信・松下 幸治

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

獲得目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワーク I **

担当者 中西 龍一・ジェイムス 朋子・滝野 功久・羽下 大信・松下 幸治

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

獲得目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワーク I <c>**

担当者 中西 龍一・ジェイムス 朋子・滝野 功久・羽下 大信・松下 幸治

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

獲得目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワーク I <d>**

担当者 中西 龍一・ジェイムス 朋子・滝野 功久・羽下 大信・松下 幸治

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

獲得目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワーク I <e>**

担当者 中西 龍一・ジェイムス 朋子・滝野 功久・羽下 大信・松下 幸治

テーマ

他者(グループ・メンバー)と出会う体験を通して自身の内的世界と多少なりとも目を背けない姿勢を養う。

獲得目標

人間性心理学的立場の論理的理解を深めるとともに、それとは別次元に「なま」の関係性を通して、ともすれば「回避的」ないし「退却的」になりがちな自らの対人関係のあり様を見つめ、「自己援助的内省」を活性化していくこと。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(アイスブレイキング)
- 第2回 回避性人格(avoidant personality)の理解とディスカッション
- 第3回 対人関係体験様式①(関係性拒否・拘束段階)の理解とディスカッション
- 第4回 対人関係体験様式②(関係性観察段階)の理解とディスカッション
- 第5回 対人関係体験様式③(関係性直面段階)の理解とディスカッション
- 第6回 対人関係体験様式④(関係性体験段階)の理解とディスカッション
- 第7回 対人関係体験様式⑤(関係性受容段階)の理解とディスカッション
- 第8回 対人関係体験様式①～⑤の「吟味」と「物語紡ぎ」
- 第9回 「いま、ここ(here and now)」での「感じ」の焦点化
- 第10回 「伝えること」と「伝わること」
- 第11回 「論理的普遍性」と「臨床的個別性」
- 第12回 「空想(fantasy)」と「想像(imagination)」の区別について
- 第13回 「出会い体験」から「つながり体験」へ
- 第14回 マイクロカウンセリング技法概観
- 第15回 より深く豊かな関係性をめざして～ディスカッション(まとめ)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <a>**

担当者 中西 龍一・ジェイムス 朋子・滝野 功久・羽下 大信・松下 幸治

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

獲得目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasy—に基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 I(私) —message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と同情—sympathyの相違点]についての概念化

授業以外での学習方法

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

教科書

参考書

現代人の居場所(現代のエスプリ別冊)

著者: 藤竹暁編集

出版社: 至文堂

出版年: 2000

ISBN:

ロジャース学派の現在(現代のエスプリ別冊)

著者: 村山正治編集

出版社: 至文堂

出版年: 2003

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ **

担当者 中西 龍一・ジェイムス 朋子・滝野 功久・羽下 大信・松下 幸治

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

獲得目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasy—に基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 I(私) —message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と同情—sympathyの相違点]についての概念化

授業以外での学習方法

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

教科書

参考書

現代人の居場所(現代のエスプリ別冊)

著者: 藤竹暁編集

出版社: 至文堂

出版年: 2000

ISBN:

ロジャース学派の現在(現代のエスプリ別冊)

著者: 村山正治編集

出版社: 至文堂

出版年: 2003

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <c>**

担当者 中西 龍一・ジェイムス 朋子・滝野 功久・羽下 大信・松下 幸治

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

獲得目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasy—に基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 I(私) —message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と同情—sympathyの相違点]についての概念化

授業以外での学習方法

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

教科書

参考書

現代人の居場所(現代のエスプリ別冊)

著者: 藤竹暁編集

出版社: 至文堂

出版年: 2000

ISBN:

ロジャース学派の現在(現代のエスプリ別冊)

著者: 村山正治編集

出版社: 至文堂

出版年: 2003

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <d>**

担当者 中西 龍一・ジェイムス 朋子・滝野 功久・羽下 大信・松下 幸治

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

獲得目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasy—に基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 I(私) —message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と同情—sympathyの相違点]についての概念化

授業以外での学習方法

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

教科書

参考書

現代人の居場所(現代のエスプリ別冊)

著者: 藤竹暁編集

出版社: 至文堂

出版年: 2000

ISBN:

ロジャース学派の現在(現代のエスプリ別冊)

著者: 村山正治編集

出版社: 至文堂

出版年: 2003

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ <e>**

担当者 中西 龍一・ジェイムス 朋子・滝野 功久・羽下 大信・松下 幸治

テーマ

対人援助行為の本質として、他者の「他者性」を身体感覚を媒介に感じ取り、真の共感性を体験する。

獲得目標

対人援助行為においてはもちろんのこと、日常ないし生活の中の人間関係においても、自身の、時として身勝手な空想—fantasy—に基づく他者への「思い込み」や「決めつけ」が、長い間他者を傷つけてしまう恐れがあるという臨床的事実について、身体を媒介にしたワークの体験を通じて実感してもらうことを本科目のねらいとする。他者の「他者性」を自覚することにより、真の「共感—empathy」が可能となることを体感してもらうことで、「良質な」対人援助行為の理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 I(私) —message法(「自」と「他」の区別を実感する体験)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 肩たたきのワーク(他者化—alienateされた他者の実感①)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 trust walk(他者化—alienateされた他者の実感②)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 「思い込み」の弊害(「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いを実感する体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 「わかること」から「わかろうとするところ」へ(相互性—mutualityの深化)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 「自」と「他」の区別について
- 第12回 他者化—alienateされた他者について
- 第13回 「空想—fantasy」と「想像—imagination」の違いについて
- 第14回 「会話」と「対話」
- 第15回 「共感—empathy」と同情—sympathyの相違点]についての概念化

授業以外での学習方法

「思い込み」と「思いやり」のちがいを日常的に感じてみる。

教科書

参考書

現代人の居場所(現代のエスプリ別冊)

著者: 藤竹暁編集

出版社: 至文堂

出版年: 2000

ISBN:

ロジャース学派の現在(現代のエスプリ別冊)

著者: 村山正治編集

出版社: 至文堂

出版年: 2003

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 コミュニティ心理学

担当者 濱田 智崇

テーマ

獲得目標

人間を生活者として、環境を含めて理解し、その視点での心理的援助を学ぶ

授業の内容

コミュニティ心理学の歴史的背景、基本的な発想、背景となるいくつかの理論、介入と援助について理解する。家庭や地域、学校教育、産業領域といった各分野での実践例にふれることを通じて、理解を深める。さらに、社会的文脈から人間の心理を理解できるようになり、さらに心理学を学んだ者として、自分自身が社会に対しどうかかわるかを考えることができるようになる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 コミュニティ心理学とは何か・その概念と理念
 - 第3回 コミュニティ心理学の歴史的背景
 - 第4回 基本的発想(1)人と環境の適合を目指して
 - 第5回 基本的発想(2)エンパワメントとサービス提供のあり方
 - 第6回 背景となる理論(1)危機理論・ストレス理論等
 - 第7回 背景となる理論(2)ソーシャルサポートをめぐって
 - 第8回 介入と援助(1)危機介入・コンサルテーション
 - 第9回 介入と援助(2)さまざまなアプローチ
 - 第10回 子育て支援の実践から
 - 第11回 DV 対応における実践から
 - 第12回 学校・教育における実践から
 - 第13回 産業・職場における実践から
 - 第14回 男性のための悩み相談の実践から
 - 第15回 まとめ～学んだ皆さん自身の社会とのかかわりを考える
-

授業以外での学習方法

毎回の授業内容を復習し、それに対する自分の考え方をまとめておく。行政やNPO 団体、ボランティア団体などが行っている市民活動にも関心を向けておき、授業中に紹介した実践に関連するものについて調べてみる。自分が関心をもてるものには、余裕があれば参加してみる。

教科書

よくわかるコミュニティ心理学第2版

著者： 植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・原裕視・久田満 編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2012年

ISBN： 4623064913

参考書

男の電話相談

著者： 『男』悩みのホットライン 編

出版社： かもがわ出版

出版年： 2006年

ISBN： 4876999910

成績評価

a90202f310

試験 (60)
授業中課題 (20)
参加度 (20)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 産業心理学 I (組織行動論)

担当者 石田 正浩

テーマ

よりよい組織を作るために必要な心理学的な視点を獲得する。

獲得目標

組織において人を動かす上で生じる問題を、心理学的な観点から適切に理解し、効果的な対処が考えられるようになる。現在進行中の働きかたの変化に対しても、その心理学的な意味を理解・説明できるようになる。

授業の内容

組織に生きる人々の心理・行動の問題として、ワークモチベーション・集団生産性・リーダーシップ・ストレスを取り上げ、心理学的な人間理解とはどのようなものかを学ぶ。自分が所属する集団での経験を参照できるように身近な事例を多く取り入れて講義する。

内 容

- 第1回 組織行動論・組織心理学とは
 - 第2回 ワーク・モチベーション1 基本概念、欲求階層理論
 - 第3回 ワーク・モチベーション2 2要因理論と達成動機づけ
 - 第4回 ワーク・モチベーション3 内発的動機づけ
 - 第5回 ワーク・モチベーション4 公平理論・期待理論・目標設定理論
 - 第6回 応用行動分析
 - 第7回 ワークモチベーション理論と実践 目標管理・成果主義・ジョブデザイン
 - 第8回 集団生産性1 基本的な枠組み、社会的促進、規範の影響
 - 第9回 集団生産性2 シュタイナーの課題分類と生産性
 - 第10回 集団生産性3 集団意思決定
 - 第11回 リーダーシップ1 リーダーシップとは、特性論、行動論
 - 第12回 リーダーシップ2 条件即応理論
 - 第13回 リーダーシップ3 変革型リーダーシップ理論、LMX
 - 第14回 組織ストレス1 組織ストレス理解の基本的枠組み、ラザルスのストレス理論
 - 第15回 組織ストレス2 バーンアウト、ストレスの管理
-

授業以外での学習方法

自分が所属している(した)集団での経験を振り返り、概念の意味を実感する。

教科書

参考書

産業・組織心理学エッセンシャルズ 改訂三版

著者： 田中堅一郎編

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2011

ISBN： 4779505631

新版 組織行動のマネジメント

著者： スティーブン P. ロビンス著、高木春夫訳

出版社： ダイヤモンド社

出版年： 2009

ISBN： 978-4478004593

成績評価

試験（60）

授業中課題（20）

参加度（20）

小テスト（0）

授業中発表等（0）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **学習心理学**

担当者 坂本 敏郎

テーマ

獲得目標

ヒトを含む動物が環境内の刺激をどのように学習し、記憶するのか、そのメカニズムを理解する。学習と記憶に関わる脳神経回路を学ぶことで、学習・記憶障害のメカニズムを理解する。

授業の内容

心理学において、“学習”とは、“経験による比較的永続的な行動の変容”と定義される。ヒトを含む動物は、環境内の様々な刺激から、餌のある場所、捕食者の足音や匂い、危険な場所など、様々な事象を学習し、記憶する。情動や社会行動が生得的な性質を持つものに対して、学習、記憶は経験によって獲得していく後発的な心理機能である。本講義では、様々な学習の種類（報酬学習、運動学習、逃避・回避学習、空間認知学習）とその理論を解説する。さらに学習・記憶を担う神経回路についても解析し、学習障害、記憶障害、認知障害が生起するメカニズムを紹介する。

内 容

- 第1回 学習とは
 - 第2回 馴化と鋭敏化
 - 第3回 古典的条件づけの獲得
 - 第4回 古典的条件づけの消去
 - 第5回 オペラント条件づけの基礎
 - 第6回 オペラント条件づけ(強化スケジュール)
 - 第7回 消去と罰
 - 第8回 随伴性
 - 第9回 弁別と般化
 - 第10回 運動学習
 - 第11回 観察学習と概念学習
 - 第12回 記憶と学習
 - 第13回 学習障害
 - 第14回 記憶障害
 - 第15回 行動療法
-

授業以外での学習方法

学習心理学関連図書による自学自習

教科書

学習の心理

著者： 実森正子／中島定彦

出版社： サイエンス社

出版年： 2000年

ISBN:

参考書

メイザーの学習と行動

著者： JE メイザー

出版社： 二瓶社

出版年： 1996年

ISBN:

動物の認知学習心理学

著者: J.M.ピアース

出版社: 北大路書房

出版年: 1990年

ISBN:

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (20)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 臨床知と文化の多様性

担当者 滝野 功久

テーマ

臨床の知(臨床知)は本学の教学理念の三本柱の一つでもあります。しかし、それはどういうことなのでしょう？ さまざまな臨床実践に携わっている人には、これを考えることは極めて意味深いことです。それはそれが越えんとする「近代の科学知」についても、改めて考え直すことですが、近代の「科学の知」とは、コトを厳密な客観的対象化によって主体が対象を観察し研究し操作できるという考えです。「臨床の知」はそれを越えて、相互関係の中で、頭脳だけではなく身体も関わって、全体的意味として世界を理解しようとする動きのなかで展開することです。そこにおいて最も重要なことは多様性です。それは世界の多様性だけではなく、自分の中にある多様性を発見することなのです。それが実は臨床の実践のなかでも極めて大切なことであることなのです。それをさまざまな具体的な事象のなかで確認したいと思います。

獲得目標

臨床知と近代科学知の対比についての理解を具体的に説明できる。自分と世界をつくっている多様性を、具体的な事例を通じて発見したり確認したりして、それを言葉ないし図像で説明できるようになる。

授業の内容

全員参加型のワークショップ方式で行います。参加メンバーの構成とその展開によって、大きく変わるので、スケジュールとして下に挙げたことは、ワークショップのなかで、できるだけ取り上げたいテーマですが、その順序や密度などはグループの展開によって大きく変わって行くこととなります。

内 容

- 第1回 全体のオリエンテーション 臨床の知と学び方 学ぶとはそもそもなにか？自分の学び方を調べる
- 第2回 全体のオリエンテーション2 臨床の知と学び方 学ぶとはそもそもなにか？2 自分の学び方の長所と弱点
- 第3回 臨床とはなにか？1 臨床の知と科学の知とはどう違うか？ オリエンテーションの修正と修整と
- 第4回 臨床とはなにか？2 臨床の知と科学の知とはどう違うか？ オリエンテーションの修正と修整と
- 第5回 臨床の知(臨床知)の誕生1:1960年後半 河合隼雄1
- 第6回 臨床の知(臨床知)の誕生2:1970年代から1980年代へ 河合隼雄2 中村雄二郎の関心と河合隼雄
- 第7回 多様性に関わる問題1 障害と個性という問題
- 第8回 多様性に関わる問題2 セクシュアリティ 人間の性 性的欲望
- 第9回 多様性に関わる問題3 セクシュアリティとジェンダー
- 第10回 多様性に関わる問題4 食べ物と食事
- 第11回 多様性に関わる問題5 聖なるもの、宗教における多様性
- 第12回 多様性に関わる問題6 民主主義と政治 あるいはPC問題
- 第13回 日本の単一性神話と今日の問題
- 第14回 日本の単一性神話と今日の課題
- 第15回 全体の振り返り 自分には何が出来るかという可能性があるか？

授業以外での学習方法

見聞きしたこと体験したことを吟味検討しそれを言葉に表すという習慣を身につけること。関心のあるテーマに関わる事例を集めたり、それを詳細に考察する。日常の身の回りに起きることの観察と記録をつける。

教科書

臨床の知とは何か

著者: 中村雄二郎

出版社: 岩波書店

出版年: 1992

ISBN:

臨床とことば

著者: 河合隼雄・鷲田清一

出版社: TBSブリタニカ

出版年: 2003

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **よそおいの心理学**

担当者 日比野 英子

テーマ

外見と心の関係

獲得目標

本講義では、粧いと装いという外見のデザインや印象管理を行うことが、人の心の有り様や心の健康とどのような関係があるのか、人と人とのコミュニケーションにどのような影響をおよぼすのかを理解し、さらに、福祉や医療の場でのこれらを用いたサポートの実践例についても理解を深める。

授業の内容

以下のように、装いと化粧についての心理学各領域における基礎研究を紹介し、後にそれらを用いた実践例を紹介するとともに臨床心理学的見地からのよそおいについての考察を展開する。

内 容

- 第2回 装いの社会・心理的機能①
- 第3回 装いの社会・心理的機能②
- 第4回 顔について① 顔とは(乳幼児期における顔認知などから)
- 第5回 顔について② こども顔とおとな顔、女顔とお男顔
- 第6回 顔について③ 顔認知のステレオタイプ
- 第7回 化粧とは 化粧の文化誌、メーキャップの心理学
- 第8回 社会心理学における化粧研究
- 第9回 感情心理学・生理心理学における化粧研究①
- 第10回 感情心理学・生理心理学における化粧研究②
- 第11回 化粧とパーソナリティ
- 第12回 化粧の臨床的応用① 精神障害者を対象として
- 第13回 化粧の臨床的応用② 高齢者を対象として
- 第14回 化粧と装いの臨床的応用③ 身体障害者を対象として
- 第15回 まとめ 臨床心理学的視点からみたよそおいの意味
- 第1回 オリエンテーション 外見をめぐる諸問題、よそおいとは、本授業のねらい・方針

授業以外での学習方法

化粧や服装について、多岐にわたる視点からアプローチするため、特に1冊の教科書を用いないが、下記の参考書や授業中に紹介する書籍を精読して興味を深めてもらいたい。

教科書

参考書

被服と化粧の社会心理学—人はなぜ装うのか

著者： 大坊郁夫・神山進他

出版社： 北大路書房

出版年： 1996年

ISBN： 978-4762820588

化粧行動の社会心理学

著者： 大坊郁夫他

出版社： 北大路書房

出版年： 2001年

ISBN： 4-7628-2226-4

個と向き合う介護

著者： 西本典良・日比野英子他

出版社： 誠信書房

出版年： 2006年

ISBN: 4-414-60137-1

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 V <Za>**

担当者 弥永 啓子

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通した、英語運用能力の向上

獲得目標

7月のTOEIC試験で700点以上を目指します。

授業の内容

TOEIC試験得点アップのための重要項目をおさえながら、リーディングセクションを中心とする大量の実践演習を行います。
【注意事項】 1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC600点以上の学生が対象となります。600点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。 2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。

内 容

- 第1回 受講に際しての留意点、TOEIC試験対策のための英語学習に関する全般的な指導
- 第2回 写真問題の留意点、文法頻出項目1
- 第3回 応答問題の留意点、文法頻出項目2
- 第4回 会話問題の留意点、文法頻出項目3
- 第5回 アナウンス問題の留意点、文法頻出項目4
- 第6回 文法頻出項目5、文法頻出項目総合
- 第7回 文法頻出項目6、典型的な文書1
- 第8回 文法頻出項目7、典型的な文書2
- 第9回 文法頻出項目8、典型的な文書3
- 第10回 文法頻出項目まとめ、典型的な文書4
- 第11回 文法頻出項目まとめ、典型的な文書4
- 第12回 文法実践演習、典型的な文書6
- 第13回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第14回 文法実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第15回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第16回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第17回 文法実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第18回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第19回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第20回 文法実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第21回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第22回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第23回 模擬試験1、解説
- 第24回 模擬試験解説と弱点補強
- 第25回 実践演習、文法実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第26回 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第27回 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第28回 模擬試験2、解説
- 第29回 模擬試験解答解説
- 第30回 文法最終実践演習による弱点強化

授業以外での学習方法

毎回語彙テストを実施します。又、毎週リスニングを中心とする宿題を課します。これらをしっかりとこなすようにしてください。

教科書

TOEICテスト本番攻略リーディング10回模試

著者： カン・ジンオー、カン・ウォンジー

出版社： 学研

出版年： 2010

ISBN： 9.78405E+12

Listening Guide to the TOEIC Test

著者： Bruce Rogers

出版社： Cengage Learning

出版年： 2007

ISBN： 9.7849E+12

TOEICテスト書き込みドリル スコア650文法編

著者： 早川幸治

出版社： 桐原書店

出版年： 2010

ISBN： 4342000067

参考書

成績評価

試験（20）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（0）

上記試験成績は7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです（前期中の公開テストでも可）。受講者は全員、IPないしは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 V <Zb>**

担当者 弥永 啓子

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通した、英語運用能力の向上

獲得目標

7月のTOEIC試験で600点以上を目指します。

授業の内容

TOEIC試験得点アップのためのReading Sectionの重要項目(文法・語彙・読解問題パターン)をおさえながら一定量の問題をこなすことで、試験に慣れてゆきます。【注意事項】1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC500点以上の学生が対象となります。500点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。

内 容

- 第1回 受講に際しての留意点、TOEIC試験対策のための英語学習に関する全般的な指導
- 第2回 写真問題の留意点、文法頻出項目1
- 第3回 応答問題の留意点、文法頻出項目2
- 第4回 会話問題の留意点、文法頻出項目3
- 第5回 アナウンス問題の留意点、文法頻出項目4
- 第6回 文法頻出項目5、文法頻出項目総合
- 第7回 文法頻出項目6、典型的な文書1
- 第8回 文法頻出項目7、典型的な文書2
- 第9回 文法頻出項目8、典型的な文書3
- 第10回 文法頻出項目まとめ、典型的な文書4
- 第11回 文法頻出項目まとめ、典型的な文書4
- 第12回 文法実践演習、典型的な文書6
- 第13回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第14回 文法実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第15回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第16回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第17回 文法実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第18回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第19回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第20回 文法実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第21回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第22回 長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第23回 模擬試験1、解説
- 第24回 模擬試験解説と弱点補強
- 第25回 実践演習、文法実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第26回 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第27回 実践演習、長文実践演習、語彙強化エクササイズ
- 第28回 模擬試験2、解説
- 第29回 模擬試験解答解説
- 第30回 文法最終実践演習による弱点強化

授業以外での学習方法

毎回語彙テストを実施します。又、毎週リスニングを中心とする宿題を課します。これらをしっかりとこなすようにしてください。

教科書

新TOEICテスト 出る8パターン スピードリーディング

著者： 柴山かつの他

出版社： 旺文社

出版年： 2010

ISBN:

Listening Guide to the TOEIC Test

著者： Bruce Rogers

出版社： Cengage Learning

出版年： 2007

ISBN: 9.7849E+12

TOEICテスト書き込みドリル スコア650 文法編

著者： 早川幸治

出版社： 桐原書店

出版年： 2010

ISBN: 4342000067

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (60)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

上記試験成績は7月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです(前期中の公開テストでも可)。受講者は全員、IPないしは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅷ <Z>**

担当者 三輪 幸一

テーマ

アニメーションを主としたプログラミング入門

獲得目標

JavaScriptやFlashアニメーションの初歩的なプログラミングができることを目指す

授業の内容

ホームページでの動的なアニメーション表現やデータ処理などにJavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラムが使われています。JavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラミングは、現在のWeb技術には欠くことのできない技術になっています。WebデザイナーやWebプログラマの基礎技術にもなっています。画像や図形のアニメーションを主としたJavaScriptやFlashアニメーションのプログラミングを通してプログラミングの初歩とプログラミングの基本的な処理パターンを修得します。初めてプログラミングを学ぶ人のために、実習を通して易しくプログラミングを修得します。授業では「プログラミングによるアニメーションの初歩と表現の可能性」を追究しながら授業をすすめていきます。1. JavaScriptによるプログラミング入門(第1～11回) 画像や図形のアニメーションを主としたプログラムの作成を通して、ループ処理や分岐処理、マウスによるイベント処理などのプログラミングの基本的な処理パターンを修得します。2. FlashのActionScriptによるアニメーションプログラミング入門(第12～15回) ActionScriptはFlashアニメーションのプログラムの作成を支援するツールで、プログラムの作成が初心者でも比較的容易になります。これを用いて、初歩的なプログラミング技術を修得します。ActionScriptにより高度なFlashアニメーションの作成技術が修得できますので、情報処理演習Ⅵの受講者も引続き受講されることを推奨します。

内 容

- 第1回 JavaScriptの準備 (HTMLの基礎)
- 第2回 画像の配置とJavaScriptでプログラミングを行うための基礎知識
- 第3回 ボタンクリックで背景色が変わるプログラム キャラクタの画像の移動を制御するアニメーションのプログラム
- 第4回 キャラクタの画像がボタンクリックにより上下左右にアニメーションするプログラム
- 第5回 複数の画像が画面遷移しながら切替わり表示されるプログラム
- 第6回 ボタンクリックで複数の画像が画面遷移しながら切替わり表示されるプログラム
- 第7回 配列とfor文やwhile文によるループ処理
- 第8回 for文による二重ループ処理
- 第9回 飛行機が左下から右上へ拡大しながら上昇するアニメーションのプログラム 雪が降る情景のアニメーションのプログラム
- 第10回 桜が散る情景のアニメーションのプログラム トトロと風船がふんわりと上昇するアニメーションのプログラム
- 第11回 アニメーションのプログラムを改造・組み合わせて作成するプログラム
- 第12回 ActionScriptによるFlashアニメーションの基礎・トトロがマウスの動きに追従するアニメーション・透明度とサイズをランダムに変えながら明滅するロゴアニメーション
- 第13回 キャラクタの画像がステージの両端でリターンするアニメーション ボタンクリックで移動を開始または停止するアニメーション
- 第14回 当たり判定により命中すると爆発する宇宙船のゲームプログラミング
- 第15回 HTML5によるを利用したアニメーションのプログラミング

授業以外での学習方法

授業形態は、積み上げ型による演習形式であり、授業時間も限られているので、授業に欠席した場合は、受講者はパソコン教室などを利用し、授業時間以外の学習によって、次の時間までに自習し追いつくようにして下さい。

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介します。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ 50 ）

参加度（ 50 ）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 フランス語Ⅲ

担当者 志賀 亮一

テーマ

フランス語基礎の完成(1)

獲得目標

フランス語Ⅱで身につけた力をもとに、より高度な規則を学び、やや複雑なフランス文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

授業の内容

規則の説明ののち、音声と筆記によってできるかぎり多くの反復練習を実施するとともに、節目の小テストによって学んだ事項を確実に自分のものとする。

内 容

- 第1回 第5章のリーダー
 - 第2回 第2群規則動詞の直説法現在と命令法
 - 第3回 不規則動詞 savoir の直説法現在と命令法
 - 第4回 疑問詞(1)
 - 第5回 疑問詞(2)
 - 第6回 疑問詞(3)
 - 第7回 第6章のリーダー
 - 第8回 直説法複合過去－助動詞 avoir の場合(1)
 - 第9回 直説法複合過去－助動詞 avoir の場合(2)
 - 第10回 直説法複合過去－助動詞 avoir の場合(小テスト)
 - 第11回 直説法複合過去－助動詞 etre の場合(1)
 - 第12回 直説法複合過去－助動詞 etre の場合(2)
 - 第13回 直説法複合過去－助動詞 etre の場合(小テスト)
 - 第14回 フランス文の構造と語の機能(1)
 - 第15回 フランス文の構造と語の機能(2)
 - 第16回 補語人称代名詞(1)
 - 第17回 補語人称代名詞(2)
 - 第18回 補語人称代名詞(3)
 - 第19回 補語人称代名詞(小テスト)
 - 第20回 第7章のリーダー
 - 第21回 代名動詞の直説法現在と命令法(1)
 - 第22回 代名動詞の直説法現在と命令法(2)
 - 第23回 代名動詞の直説法現在と命令法(3)
 - 第24回 代名動詞の直説法現在と命令法(小テスト)
 - 第25回 代名動詞の複合過去(1)
 - 第26回 代名動詞の複合過去(2)
 - 第27回 代名動詞の複合過去(小テスト)
 - 第28回 受動態(1)
 - 第29回 受動態(2)
 - 第30回 指示代名詞
-

授業以外での学習方法

2年目とはいえ、初習外国語なので予習はかなり困難。授業中に配布する練習問題を中心に、節目の小テストにむけた復習に力を入れること。

abs4041310

教科書

オルセー美術館にて

著者： 中山真彦

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (100)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ドイツ語Ⅲ**

担当者 久下 泰弘

テーマ

ドイツ語応用その1

獲得目標

ドイツ語初級後期読解、および中級への橋渡しとなる表現ができるようになること。ドイツ語検定試験4級合格を指標として

授業の内容

日常会話主体のテキストで実用的な口語表現を学び、また聞き取り、書き取りや反意語・同義語問題等、多様な練習問題を用いて、総合的な学力を身につけることができるようになるでしょう。春学期には、テキストの前半部分を扱います。

内 容

- 第1回 初級後期の文法事項の補足説明、及び練習による基礎固め
- 第2回 初級後期の文法事項の補足説明、及び練習による基礎固め
- 第3回 初級後期の文法事項の補足説明、及び練習による基礎固め
- 第4回 初級後期の文法事項の補足説明、及び練習による基礎固め
- 第5回 初級後期の文法事項の補足説明、及び練習による基礎固め
- 第6回 第1課「学生寮で」本文読解練習、資料プリント配布(以下同様)
- 第7回 第1課「学生寮で」文法の復習、名詞の合成
- 第8回 第1課「学生寮で」不定代名詞
- 第9回 第1課「学生寮で」関係代名詞
- 第10回 第1課「学生寮で」ドイツの学生生活について
- 第11回 第2課「旅行計画」本文読解練習、資料プリント配布(以下同様)
- 第12回 第2課「旅行計画」文法の復習、接続法
- 第13回 第2課「旅行計画」接続法
- 第14回 第2課「旅行計画」比較級、最高級の不規則変化
- 第15回 第2課「旅行計画」復活祭について
- 第16回 第3課「招待されて」本文読解練習、資料プリント配布(以下同様)
- 第17回 第3課「招待されて」文法の復習、
- 第18回 第3課「招待されて」分詞
- 第19回 第3課「招待されて」受動文
- 第20回 第3課「招待されて」レーゲンスブルクについて
- 第21回 第4課「手紙」本文読解練習、資料プリント配布(以下同様)
- 第22回 第4課「手紙」文法の復習、複合動詞
- 第23回 第4課「手紙」再帰動詞、再帰代名詞
- 第24回 第4課「手紙」新国会議事堂について
- 第25回 第4課「手紙」チェックポイントチャーリー、サンサーシー宮殿について
- 第26回 ドイツ語検定試験4級挑戦のための練習問題
- 第27回 ドイツ語検定試験4級挑戦のための練習問題
- 第28回 ドイツ語検定試験4級挑戦のための練習問題
- 第29回 まとめとドイツ語Ⅳへの橋渡し 資料プリント配布
- 第30回 まとめとドイツ語Ⅳへの橋渡し 資料プリント配布

授業以外での学習方法

添付のCDを活用すること。発音、聞き取りを怠らないこと。

教科書

体験するドイツ語

著者： 須澤通、E. シュミット、浜泰子

出版社： 郁文堂

出版年： 2005

ISBN: 9.78426E+11

参考書

アポロン独和辞典

著者： 根本道也ほか

出版社： 同学社

出版年： 2010年

ISBN: 9.78481E+12

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

出席重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 簿記演習 I <Z>

担当者 山本 耕二

テーマ

簿記システムの基礎的理解

獲得目標

簿記一巡の手続きを理解する 複式簿記の借方及び貸方を理解する

授業の内容

簿記の基礎的な考え方を解説し問題演習を行う

内 容

- 第1回 ガイダンス 資産、負債、資本と貸借対照表
 - 第2回 収益、費用と損益計算書
 - 第3回 取引
 - 第4回 勘定と仕訳
 - 第5回 帳簿の記入
 - 第6回 決算と財務諸表
 - 第7回 元帳の締め切りと財務諸表の作成(1)
 - 第8回 元帳の締め切りと財務諸表の作成(2)
 - 第9回 精算表の作成
 - 第10回 現金、現金過不足
 - 第11回 当座預金、当座借越
 - 第12回 小口現金、商品売買(1)
 - 第13回 商品売買(2)
 - 第14回 総合問題演習
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

内容を理解して授業についてくるには予習及び復習が欠かせません。毎回宿題を出すので、できるかぎり時間を作って地道に取組むことが大切です。

教科書

平成25年度版 新検定簿記講義3級／商業簿記

著者：

出版社：中央経済社

出版年：

ISBN：

新検定簿記ワークブック3級／商業簿記

著者：

出版社：中央経済社

出版年：

ISBN：

参考書

合格トレーニング日商簿記3級 TAC簿記検定講座

著者：

出版社：TAC出版

出版年：

ISBN：

合格するための過去問題集 日商簿記3級

著者：

出版社：TAC出版

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（40）

小テスト（10）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（30）

参考URL

山本耕二税理士事務所

<http://homepage3.nifty.com/tax-yamamoto/>

追加的な連絡事項を掲示する

2013 Syllabus

科目名 日本文化演習 I

担当者 辻野 里枝

テーマ

日本の文化について関心と理解を深める

獲得目標

日本文化を学ぶためには文献を読むだけでなく、自らの目で確認する作業が必要である。身近な文化体験から伝統工芸の見学などを交え、日本語力の下支えとなる文化理解の向上を図る。

授業の内容

テーマについて発表、討議により理解を深めた後、実際に体験、見学を行う

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 日本の家屋
 - 第3回 文化体験①
 - 第4回 書道
 - 第5回 文化体験②
 - 第6回 見学(雨天時、DVD鑑賞)
 - 第7回 見学の発表 校外学習の準備
 - 第8回 校外学習①
 - 第9回 校外学習成果発表
 - 第10回 日用品
 - 第11回 文化体験③
 - 第12回 短歌・俳句
 - 第13回 伝統工芸品
 - 第14回 校外学習②
 - 第15回 作品発表会
-

授業以外での学習方法

学習方法 葵祭、祇園祭、壬生狂言、都をどりなどの見学、寺社仏閣の拝観など積極的な文化体験を望む。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **健康科学 <Za>**

担当者 堀 妙子.河原 宣子.松本 賢哉

テーマ

健康について様々な視点から学び事で、自分自身の健康に関心を持ち、健康に生きるための方法を考えるために必要な能力を養う。

獲得目標

1. 健康とは何かを理解する 2. 健康に対して関心を持つことができる 3. 健康に生きるための方法を考える事ができる

授業の内容

健康に関連した統計や社会の取り組み、そしてよくある病気等について学びながら、自分自身の生活についても見つめなおし、健康に生きていくために必要な知識を講義を通して学ぶ。

内 容

- 第1回 健康とは
 - 第2回 日本人の健康の特徴
 - 第3回 人間の体の仕組み
 - 第4回 青年期の健康 性感染症
 - 第5回 成人期の健康 がん
 - 第6回 老年期の健康 認知症
 - 第7回 心の健康(1) 心のはたらき
 - 第8回 心の健康(2) ストレスと健康
 - 第9回 心の健康(3) 大学生の心の問題
 - 第10回 環境と健康
 - 第11回 生活習慣と健康(1)食生活
 - 第12回 生活習慣と健康(2)喫煙
 - 第13回 生活習慣と健康(3)飲酒
 - 第14回 生活習慣と健康(4)運動
 - 第15回 まとめ 小テスト
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **健康科学 <Zb>**

担当者 西 彰子.中村 一郎

テーマ

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。

獲得目標

1. 健康と栄養の関連を理解する。2. 食の安全性を理解し、健康増進に役立てる。3. 健康的な食生活を志向する。

授業の内容

健康的な食生活を目指すために、最初に基本的な栄養学を栄養素ごとに解説する。次に多様な健康情報から是非理解してほしいトピックを取り上げる。最後に具体的な食生活をダイエットやスポーツなどの視点から考察する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 健康と栄養
 - 第2回 健康と栄養 -糖質と糖類-
 - 第3回 健康と栄養 -脂肪とコレステロールとDHA-
 - 第4回 健康と栄養 -アミノ酸とたんぱく質-
 - 第5回 健康と栄養 -ミネラルと骨密度-
 - 第6回 健康と栄養 -ビタミンと美容-
 - 第7回 健康と栄養 -色と食品-
 - 第8回 健康と食トピックス -ビタミン-
 - 第9回 健康と食トピックス -ポリフェノール-
 - 第10回 健康と食トピックス -BSE-
 - 第11回 健康と食トピックス -食品添加物-
 - 第12回 健康と食生活 -ダイエット-
 - 第13回 健康と食生活 -運動と食べ方-
 - 第14回 健康と食生活 -ストレス-
 - 第15回 まとめ 小テスト
-

授業以外での学習方法

教科書

改訂「食と健康」第2版

著者： 日本フードスペシャリスト協会

出版社： 建帛社

出版年： 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (10)

参加度 (10)

小テスト (80)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **現代社会の課題B <Zb>**

担当者 上原 恵美

テーマ

男女共同参画社会とは何かについて考察する

獲得目標

時事問題の中でも大きな課題である男女共同参画社会の実現というテーマに絞って取り上げ、将来の人生設計の参考とする。

授業の内容

男女共同参画社会の実現は、大きな政治・行政課題でもある。行政担当者をゲストに迎え、その取り組みについて話をしてもらう予定である。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 分野別男女の地位の平等感
- 第3回 憲法上の男女の地位
- 第4回 映画「ベアテのおくりもの」をみる
- 第5回 参政権の獲得について
- 第6回 男女の役割に関する意識の現状
- 第7回 男女雇用機会均等法の成立過程について
- 第8回 男女雇用機会均等法の改正について
- 第9回 雇用の場における男女平等の実態
- 第10回 国際的にみた日本の女性の地位
- 第11回 男女共同参画社会基本法について
- 第12回 少子化の現状と背景
- 第13回 少子化対策・育児休業法について
- 第14回 男性の生き方・男性の育児休業について
- 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがあります。

授業以外での学習方法

男性、女性の生き方について関心を持ち、新聞記事や報道に接すること

教科書

参考書

フランスの子育てが日本よりも10倍楽な理由

著者： 横田増生

出版社： 洋泉社

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究A <Za>

担当者 今井 裕夫

テーマ

現代における住環境(住居)の理解

獲得目標

現代の時代環境の中で、人間の生活の基本(衣・食・住)の一つである住環境に絞り、その理解をより深いものにし、居心地のよい美しい住居を得るためのパッシブ的側面からの知識を涵養する。

授業の内容

講義の進行具合により、若干の変更あり

内 容

- 第1回 講義の説明
 - 第2回 作品①(落水荘 F.L.ライト)
 - 第3回 作品②(サヴォア邸 L.コルビジエ)
 - 第4回 作品③(ファンズワース邸 M.ローエ)
 - 第5回 作品④(アウエルバツハ邸 W.グロピウス)
 - 第6回 作品⑤(自邸 A.アアルト)
 - 第7回 作品⑥(田の家 L.コルビジエ)
 - 第8回 作品⑦(自邸 R.ノイトラ)
 - 第9回 作品⑧(自邸 L.バラガン邸)
 - 第10回 作品⑨(自邸 O.ニーマイアー邸)
 - 第11回 作品⑩(マナパルテ邸 リベラ)
 - 第12回 作品⑪(ケーススタディハウス22 P.コーニック)
 - 第13回 作品⑫(シーランチコンドミニアム C.ムーア)
 - 第14回 作品⑬(軽井沢の山荘 吉村順三)
 - 第15回 作品⑭(F邸 藤木忠善)と全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

都市や建築に関する新聞記事に興味を持つこと。配布資料作品についての予習を怠らないこと。

教科書

配布資料による。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

配布資料による。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

ajg1011810

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

補助金交付の根拠資料となりますので、必ずご記入ください。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 経済学 I <Z>

担当者 阪本 崇

テーマ

獲得目標

ミクロ経済学の基礎を学び、身近な現象をミクロ経済学の視点から分析する

授業の内容

ニュースなどを見ている、経済に関わる論説には分かりにくいものが多い。たとえば「最低賃金の引き上げ」のような一見したところ誰もが望ましいように思うことについても、反対意見を述べる経済学者がいたりする。その背後には経済学独特の考え方があり、それをよく理解していないと、必ずしも「絶対」ではない意見を鵜呑みにしたりしてしまうようになる。この授業では、こうした現象を論理的に考えるときの基礎になるミクロ経済学の考え方について学ぶ。

内 容

- 第1回 市場の調整メカニズム:ものの値段はどのように決まるのか?
- 第2回 消費者余剰と生産者余剰:最低賃金の引き上げは望ましいのか?
- 第3回 弾力性分析:税金をかけるなら、米かブランドもののバッグか?
- 第4回 家計と満足の最大化:お金を出して買うのは何個までか?
- 第5回 家計の行動と予算制約:財布の中身を見て決める
- 第6回 弾力性と財の種類:必需品と贅沢品の違い
- 第7回 企業と費用構造:企業は何を指標にして行動を決めているのか?
- 第8回 損益分岐点と操業停止点:赤字でも生産をやめないのはどうしてか?
- 第9回 市場と効率性:なぜ、経済学者は市場のはたらきを重視するのか?
- 第10回 独占と自然独占:企業が大きくなるのは望ましいのか?
- 第11回 公共財の理論:どうして一般道はタダで使えるのか?
- 第12回 外部性の理論:エコカー減税はなぜ必要か?
- 第13回 経済行動とリスク:ギャンブルをする人、しない人
- 第14回 保険とモラル・ハザード:火災保険はどうして全額補償ではないのか?
- 第15回 逆選択とクリーム・スキミング:中古車市場は粗悪品ばかり

授業以外での学習方法

授業中に課題を出すことがありますので、必ず次の授業までにこなしてきておいて下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (60)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ビジネスリサーチA <a>**

担当者 本庄 賢行

テーマ

業種・業界・職種を知り、働くことの意味や企業選びのポイントを学ぶ

獲得目標

卒業後の進路となる『働く場』(「業種」・「業界」)の現状と将来性を理解し、あわせてどんな「仕事(職種)」があるのか、さらに働くことで得られる能力ややりがいを知ることでこれからの就職活動の目標作りに役立てる

授業の内容

「業界」の現状と将来について事例を交えながら学ぶことで就職先を選ぶ予備知識とする。「職種」については、民間企業と公務員の仕事の違いや企業の仕組みを具体的な事例で学ぶ。また、働くために自覚しておかねばならないこと、その仕事をするために求められる『基礎能力』とその仕事を通じて得られる『専門能力』や『楽しみ』を具体的に理解できる。

内 容

- 第1回 日本の業界の全体像、役割、関連と“業界研究方法”を学ぶ(公務員の役割を含む)
- 第2回 業界研究(1):モノをつくる…電機、機械、自動車、食品・飲料、アパレル、医薬品業界
- 第3回 業界研究(2):社会の基盤産業…交通・運輸、IT・通信、建設、不動産・住宅販売業界
- 第4回 業界研究(3):モノを売る①(B to B)…商社・貿易、卸売業(モノを仕入れる)
- 第5回 業界研究(4):モノを売る②(B to C)…流通(百貨店、スーパー、コンビニ)・小売業界(専門店、一般小売業)
- 第6回 業界研究(5):お金を扱う…銀行・証券・保険業界
- 第7回 業界研究(6):サービスを売る①…ホテル、旅行、エンタテインメント、冠婚葬祭業界
- 第8回 業界研究(7):サービスを売る②…人材、医療福祉・介護業界 業界研究(8):情報を売る…出版・広告・放送・新聞業界
- 第9回 職種の理解(1):モノを売る仕事(営業・販売)、人と接する仕事(教育・保育・接客・医療・福祉)とはどんな仕事か
- 第10回 職種の理解(2):モノを作る仕事(製造・開発・デザイン)、機器を扱う仕事(システムエンジニア・プログラマー・技師)とはどんな仕事か
- 第11回 職種の理解(3):会社を支える仕事(人事総務・経理財務・経営企画・秘書・広報宣伝)とはどんな仕事か。
- 第12回 経済・業界・企業情報の見方・読み方・研究のポイントを学ぶ
- 第13回 やりたい仕事探しのポイント(自分について考える。ー自己分析、自己理解の方法ー) 働きがいのある会社の条件と探し方を学ぶ(企業選びの方法と注意点)
- 第14回 働く人の行動の基本(社会人基礎力、ビジネスマナー、人間関係づくり)を学ぶ
- 第15回 働くことを通じて学び成長することの大切さと面白さを学ぶ

授業以外での学習方法

新聞を読む。テレビの経済ニュースに関心を持つ。

教科書

別途レジメ配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

京都橘大学生のための就職ハンドブック

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ビジネスリサーチA **

担当者 本庄 賢行

テーマ

業種・業界・職種を知り、働くことの意味や企業選びのポイントを学ぶ

獲得目標

卒業後の進路となる『働く場』(「業種」・「業界」)の現状と将来性を理解し、あわせてどんな「仕事(職種)」があるのか、さらに働くことで得られる能力ややりがいを知ることでこれからの就職活動の目標作りに役立つ

授業の内容

「業界」の現状と将来について事例を交えながら学ぶことで就職先を選ぶ予備知識とする。「職種」については、民間企業と公務員の仕事の違いや企業の仕組みを具体的な事例で学ぶ。また、働くために自覚しておかねばならないこと、その仕事をするために求められる『基礎能力』とその仕事を通じて得られる『専門能力』や『楽しみ』を具体的に理解できる。

内 容

- 第1回 日本の業界の全体像、役割、関連と“業界研究方法”を学ぶ(公務員の役割を含む)
- 第2回 業界研究(1):モノをつくる…電機、機械、自動車、食品・飲料、アパレル、医薬品業界
- 第3回 業界研究(2):社会の基盤産業…交通・運輸、IT・通信、建設、不動産・住宅販売業界
- 第4回 業界研究(3):モノを売る①(B to B)…商社・貿易、卸売業(モノを仕入れる)
- 第5回 業界研究(4):モノを売る②(B to C)…流通(百貨店、スーパー、コンビニ)・小売業界(専門店、一般小売業)
- 第6回 業界研究(5):お金を扱う…銀行・証券・保険業界
- 第7回 業界研究(6):サービスを売る①…ホテル、旅行、エンタテインメント、冠婚葬祭業界
- 第8回 業界研究(7):サービスを売る②…人材、医療福祉・介護業界 業界研究(8):情報を売る…出版・広告・放送・新聞業界
- 第9回 職種の理解(1):モノを売る仕事(営業・販売)、人と接する仕事(教育・保育・接客・医療・福祉)とはどんな仕事か
- 第10回 職種の理解(2):モノを作る仕事(製造・開発・デザイン)、機器を扱う仕事(システムエンジニア・プログラマー・技師)とはどんな仕事か
- 第11回 職種の理解(3):会社を支える仕事(人事総務・経理財務・経営企画・秘書・広報宣伝)とはどんな仕事か。
- 第12回 経済・業界・企業情報の見方・読み方・研究のポイントを学ぶ
- 第13回 やりたい仕事探しのポイント(自分について考える。ー自己分析、自己理解の方法ー) 働きがいのある会社の条件と探し方を学ぶ(企業選びの方法と注意点)
- 第14回 働く人の行動の基本(社会人基礎力、ビジネスマナー、人間関係づくり)を学ぶ
- 第15回 働くことを通じて学び成長することの大切さと面白さを学ぶ

授業以外での学習方法

新聞を読む。テレビの経済ニュースに関心を持つ。

教科書

別途レジメ配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

京都橘大学生のための就職ハンドブック

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ビジネスリサーチA <c>**

担当者 本庄 賢行

テーマ

業種・業界・職種を知り、働くことの意味や企業選びのポイントを学ぶ

獲得目標

卒業後の進路となる『働く場』(「業種」・「業界」)の現状と将来性を理解し、あわせてどんな「仕事(職種)」があるのか、さらに働くことで得られる能力ややりがいを知ることでのこれからの就職活動の目標作りに役立てる

授業の内容

「業界」の現状と将来について事例を交えながら学ぶことで就職先を選ぶ予備知識とする。「職種」については、民間企業と公務員の仕事の違いや企業の仕組みを具体的な事例で学ぶ。また、働くために自覚しておかねばならないこと、その仕事をすめるために求められる『基礎能力』とその仕事を通じて得られる『専門能力』や『楽しみ』を具体的に理解できる。

内 容

- 第5回 業界研究(4):モノを売る②(B to C)…流通(百貨店、スーパー、コンビニ)・小売業界(専門店、一般小売業)
- 第6回 業界研究(5):お金を扱う…銀行・証券・保険業界
- 第7回 業界研究(6):サービスを売る①…ホテル、旅行、エンタテインメント、冠婚葬祭業界
- 第8回 業界研究(7):サービスを売る②…人材、医療福祉・介護業界 業界研究(8):情報を守る…出版・広告・放送・新聞業界
- 第9回 職種の理解(1):モノを売る仕事(営業・販売)、人と接する仕事(教育・保育・接客・医療・福祉)とはどんな仕事か
- 第10回 職種の理解(2):モノを作る仕事(製造・開発・デザイン)、機器を扱う仕事(システムエンジニア・プログラマー・技師)とはどんな仕事か
- 第11回 職種の理解(3):会社を支える仕事(人事総務・経理財務・経営企画・秘書・広報宣伝)とはどんな仕事か。
- 第12回 経済・業界・企業情報の見方・読み方・研究のポイントを学ぶ
- 第13回 やりたい仕事探しのポイント(自分について考える。ー自己分析、自己理解の方法ー) 働きがいのある会社の条件と探し方を学ぶ(企業選びの方法と注意点)
- 第14回 働く人の行動の基本(社会人基礎力、ビジネスマナー、人間関係づくり)を学ぶ
- 第15回 働くことを通じて学び成長することの大切さと面白さを学ぶ
- 第1回 日本の業界の全体像、役割、関連と“業界研究方法”を学ぶ(公務員の役割を含む)
- 第2回 業界研究(1):モノをつくる…電機、機械、自動車、食品・飲料、アパレル、医薬品業界
- 第3回 業界研究(2):社会の基盤産業…交通・運輸、IT・通信、建設、不動産・住宅販売業界
- 第4回 業界研究(3):モノを売る①(B to B)…商社・貿易、卸売業(モノを仕入れる)

授業以外での学習方法

新聞を読む。テレビの経済ニュースに関心を持つ。

教科書

別途レジメ配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

京都橘大学生のための就職ハンドブック

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職教養講義Ⅲ(初等)

担当者 島田 尚夫

テーマ

教育的論理形成と具体的な教育実践及び評価

獲得目標

教育を目指す者に求められる専門的力量的中心課題は、児童生徒理解に基づく学級づくり・集団及び個別指導の力量形成である。学校教育に対する基本認識を深め推進していくうえでの知識・技術・能力・態度を身に付ける。

授業の内容

教育原理・教育心理・教育行政等の理論を学ぶと同時に、それらの理論が具現化された実際の教育活動についての理解を深める。

内 容

- 第1回 学習の姿、オリエンテーション
 - 第2回 今の学校の姿
 - 第3回 教育課程の一般方針
 - 第4回 様々な教育方法
 - 第5回 学習の理論
 - 第6回 学習指導要領の改訂とその経過
 - 第7回 教育評価
 - 第8回 授業評価
 - 第9回 学級経営について
 - 第10回 生徒指導について
 - 第11回 特別活動について
 - 第12回 発達と障害の理論
 - 第13回 教育時事
 - 第14回 教育法規について
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを見て学ぶことや、一般の新聞記事などにおける教育関係の記事、教育専門誌、教育月刊誌などを読む。

教科書

小学校学習指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年：

ISBN：

小学校指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

生徒指導提要

著者： 文部科学省

出版社： 教育図書

出版年：

ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（なし）

小テスト（なし）

授業中課題（70）

授業中発表等（15）

参加度（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な評定を行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職教養講義Ⅲ(中等)

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

客観的論理と主体的な教育実践

獲得目標

中央教育審議会答申は、教育の専門家としての確かな力量を具体的に「子ども理解力」「児童・生徒指導力」「集団指導の力」「学級づくりの力」「学習指導・授業づくりの力」「教材解釈の力」などを掲げている。教職を目指す学生・院生は、これらの知識や技能を身につけることはもちろんのこと、これらに加えて客観的論理に基づいた自己の考え方や、その論理から導き出された具体的な教育実践について、発信できる資質や能力を身につけることである。

授業の内容

客観的論理に基づいた自己の考え方や、その論理から導き出された教育実践についての表現力を身につける

内 容

- 第1回 オリエンテーション、本授業の構成要素等について
- 第2回 教師論について
- 第3回 学習指導について①(確かな学力・学習意欲・学習習慣・探究的な学習の重視)
- 第4回 学習指導について②(学力向上・読書指導・言語活動の充実・体験活動の重視)
- 第5回 生徒指導について(生徒理解・自己肯定感・コミュニケーション能力)
- 第6回 生徒指導について(いじめ・教師と生徒の信頼関係・規範意識・社会性)
- 第7回 学級経営について
- 第8回 道徳指導について
- 第9回 人権教育について
- 第10回 進路指導について
- 第11回 キャリア教育について
- 第12回 地域や保護者の信頼について
- 第13回 家庭・地域の教育力について
- 第14回 安全教育について
- 第15回 体育・健康教育について

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読んでおくこと

教科書

(中等)中学校学習指導要領本体

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:

ISBN:

(中等)中学校学習指導要領解説総則編

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（70）

授業中発表等（15）

参加度（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **起業家育成論 <Z>**

担当者 山脇 康彦

テーマ

「起業すること」を想定して、それに必要な知識、考え方を習得する

獲得目標

受講生ごとに、現実の、または想定上の起業案件に、アイデアから起業に至る諸問題について、学習と演習をとおして理解・習得するとともに、実践的なビジネス・プランを策定・提出することを目標とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業の目的と進め方) 起業概論
 - 第2回 (個人別) 起業動機、起業アイデア、これまでの自分の整理
 - 第3回 アイデアの整理、ビジョン、事業目標の設定
 - 第4回 事業の仕組み(ビジネスモデル)
 - 第5回 市場戦略(顧客)、競争戦略(ライバルとの違い)
 - 第6回 開業のポイント(日本政策金融公庫)
 - 第7回 マーケティング戦略①(商品と価格)
 - 第8回 マーケティング戦略②(販路と販売促進策)
 - 第9回 事業経済性①(売上、原価、粗利益)
 - 第10回 事業経済性②(損益と損益分岐点)
 - 第11回 私の起業体験(フットクリエイト)
 - 第12回 資金計画(調達と用途)
 - 第13回 ビジネスプラン作成①(まとめ)
 - 第14回 ビジネス・プラン作成②(質疑、意見交換)
 - 第15回 ビジネス・プラン完成と提出
-

授業以外での学習方法

日常利用する店舗の観察(店頭、接客など)、ネットショップの研究など

教科書

参考書

やさしい経営入門読本

著者: 岸田道彦

出版社: 晃洋書房

出版年: 2009年

ISBN: 9.78477E+12

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職教養講義Ⅳ(初等)

担当者 島田 尚夫

テーマ

「生きる力」を育む教育実践

獲得目標

教職を目指す者は、その専門職としての力量を高めることが求められている。専門的力量の大半は授業力である。授業づくりは、児童の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針にのっとり、各教科の目標や内容は計画的に意図し取り組まれていることを理解させる。また、各教科の特性、及び、その系統性を理解し、学習指導案作成の基礎・基本の力量を身に付けさせる。

授業の内容

「生きる力」をどのように育んでいくかを授業づくりを通して理解していく。その際、授業の根底にある学習指導要領、またそれを支える教育理論、授業に反映させなければならない子どもたちの現状等の理解も合わせて図っていく。

内 容

- 第1回 学習の姿のふり返り
 - 第2回 学習指導要領について
 - 第3回 特色のある教育活動
 - 第4回 発達の論理
 - 第5回 学習指導要領の改訂とその変遷
 - 第6回 学習指導について
 - 第7回 指導案作成①
 - 第8回 指導案作成②
 - 第9回 指導案作成③
 - 第10回 道徳教育について
 - 第11回 生徒指導について
 - 第12回 発達と障害について
 - 第13回 教育時事
 - 第14回 教育法規と参考法令
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを見ておくことや、新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育月刊誌などを読むようにする。

教科書

小学校指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年：

ISBN：

小学校指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

生徒指導提要

著者： 文部科学省

出版社： K教育図書

出版年：

ISBN：

参考書

必要に応じて紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（なし）

小テスト（なし）

授業中課題（70）

授業中発表等（15）

参加度（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教職教養講義Ⅳ(中等)**

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

教育サイクル(PDCA)の理解と「指導と評価の一体化」について

獲得目標

学校の教育活動は、PDCAという教育サイクルがスパイラルに繰り返されながら、生徒のよりよい成長を願った指導が展開される。授業は、生徒の実態を踏まえ、学習指導要領に示される基本方針や授業時間数、各教科等の目標・内容等を計画的に実施されることについて理解する。また、各教科等の内容・目標等及び教科等の系統性を理解し、学習指導案作成の基礎を身につける。一方、教育評価の結果によって今後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける。

授業の内容

各教科等の目標・内容等及び教科等の系統性を理解し、学習指導案作成の基礎を身につける。一方、教育評価の結果によって今後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす教育評価の基礎的・基本的な知識・技能を身につける

内 容

- 第1回 オリエンテーション、本授業の構成要素等について
- 第2回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編①
- 第3回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編②
- 第4回 中(高)学校学習指導要領 解説 教科編③
- 第5回 授業づくりについて
- 第6回 授業づくりの必要事項について
- 第7回 学習指導計画案作成①
- 第8回 授業設計について
- 第9回 学習指導計画案作成②
- 第10回 授業中の大切なことについて
- 第11回 学習指導計画案作成③
- 第12回 授業の評価と授業の改善(指導と評価の一体化)
- 第13回 中教審(報告)から評価規準作成の参考資料
- 第14回 教育評価の基本的用語
- 第15回 目標に準拠した評価について

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

教科書

(中等)中・高等学校学習指導要領専門教科の解説編

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 (15)

授業における課題のレポート, 授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 京都の歴史と文化財 I <Z>

担当者 仲田 順和

テーマ

京都の文化財を現代にまで伝わる文化財、信仰行事等を通じて学ぶ。

獲得目標

文化がどのように伝承されたかを学び、将来に伝えていく方策を考える。

授業の内容

この授業は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学术交流協定に基づく授業である。現代に伝わる様々な文化をそれぞれの専門家が担当して講義する。さらに醍醐寺に残る文化財、信仰行事に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。各回毎に専門の担当者が授業を行うリレー方式で行われる。

内 容

- 第1回 京都に残る有形文化財がどのように伝えられてきたか、さらに将来への保存に向けてどのような方法が取られているか、具体例を上げて講義する。
- 第2回 京都の歴史について(醍醐寺を中心に)<その1>
- 第3回 京都の歴史について(醍醐寺を中心に)<その2>
- 第4回 文化財にふれる(醍醐寺霊宝館見学・学外授業)
- 第5回 醍醐寺所蔵の文化財について
- 第6回 現代に生きる山岳信仰<その1>
- 第7回 現代に生きる山岳信仰<その2>
- 第8回 信仰行事にふれる(柴灯護摩見学・学外授業)
- 第9回 生け花の文化
- 第10回 日本人の生活の中に生きる仏教
- 第11回 日本人の根底に流れる仏教の影響
- 第12回 桃山文化にふれる(醍醐寺三宝院見学・学外授業)
- 第13回 華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に)<その1>
- 第14回 華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に)<その2>
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

積極的に街に残る行事に参加あるいは見学すること

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

ajg1016110

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Aa>

担当者 米澤 洋子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ab>

担当者 古澤 夕起子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ac>

担当者 禧美 智章

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ad>

担当者 権藤 愛順

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ae>

担当者 名和 久仁子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Af>

担当者 松井 治子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ag>

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ah>

担当者 三重野 由加

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ai>

担当者 渡邊 浩史

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Aj>

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ak>

担当者 伊藤 典文

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <AI>

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Am>

担当者 重松 恵美

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <An>

担当者 檜垣 泰代

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Ba>

担当者 米澤 洋子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <Bb>**

担当者 古澤 夕起子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bc>

担当者 禧美 智章

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本語表現 I <Bd>**

担当者 権藤 愛順

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Be>

担当者 名和 久仁子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bf>

担当者 松井 治子

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bg>

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bh>

担当者 三重野 由加

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bi>

担当者 渡邊 浩史

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bj>

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bk>

担当者 伊藤 典文

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <BI>

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bm>

担当者 重松 恵美

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現 I <Bn>

担当者 檜垣 泰代

テーマ

日本語コミュニケーション能力の習得

獲得目標

話す力・聞く力を中心とした日本語コミュニケーション能力の育成を目指す。授業はグループワークを中心に行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業計画全体の説明とグループワーク
 - 第2回 自己紹介シートの記入とグループワーク(1)
 - 第3回 自己紹介シートの記入とグループワーク(2)
 - 第4回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第5回 自己紹介シートの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第6回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(1)
 - 第7回 アクションプランの記入とクラス全員に向けたプレゼンテーション(2)
 - 第8回 「贈る言葉」の発表
 - 第9回 待遇表現(1)
 - 第10回 待遇表現(2)
 - 第11回 来客の応対
 - 第12回 案内状
 - 第13回 プレゼンテーション
 - 第14回 面接の作戦・自己アピール
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーション I <a>**

担当者 松本 広美

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする

獲得目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の修得

授業の内容

講義とワーク、トレーニングにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ

内 容

- 第13回 ～スピーチ I ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR
 第14回 ～スピーチ II ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス
 第15回 総まとめ
- 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え
 第2回 ～敬語 I ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き
 第3回 ～敬語 II ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形
 第4回 ～敬語 III ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例
 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音
 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現
 第7回 ～話す・聞く I ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現
 第8回 話しことば検定 模擬テスト体験(1回目)
 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語
 第10回 ～話す・聞く II ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント
 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す
 第12回 話しことば検定 模擬テスト体験(2回目)

授業以外での学習方法

教科書

話しことば検定 3級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2012

ISBN:

参考書

話しことば検定 3級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2010

ISBN:

話しことば検定 2級テキスト

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2010

ISBN：

話しことば検定 2級問題集

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2009

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（50）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーション I **

担当者 松本 広美

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする

獲得目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の修得

授業の内容

講義とワーク、トレーニングにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え
 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き
 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形
 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例
 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音
 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現
 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現
 第8回 話しことば検定 模擬テスト体験(1回目)
 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語
 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント
 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す
 第12回 話しことば検定 模擬テスト体験(2回目)
 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR
 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス
 第15回 総まとめ

授業以外での学習方法

教科書

話しことば検定 3級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2012

ISBN:

参考書

話しことば検定 3級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2010

ISBN:

話しことば検定 2級テキスト

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2010

ISBN：

話しことば検定 2級問題集

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2009

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（50）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーション I <c>**

担当者 吉田 真知子

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする

獲得目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の修得

授業の内容

講義とワーク、トレーニングにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え
 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き
 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形
 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例
 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音
 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現
 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現
 第8回 話しことば検定 模擬テスト体験(1回目)
 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語
 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント
 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す
 第12回 話しことば検定 模擬テスト体験(2回目)
 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR
 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス
 第15回 総まとめ

授業以外での学習方法

教科書

話しことば検定 3級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2012

ISBN:

参考書

話しことば検定 3級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2010

ISBN:

話しことば検定 2級テキスト

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2010

ISBN：

話しことば検定 2級問題集

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2009

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（50）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーション I <d>**

担当者 吉田 真知子

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする

獲得目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の修得

授業の内容

講義とワーク、トレーニングにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え
 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き
 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形
 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例
 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音
 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現
 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現
 第8回 話しことば検定 模擬テスト体験(1回目)
 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語
 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント
 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す
 第12回 話しことば検定 模擬テスト体験(2回目)
 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR
 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス
 第15回 総まとめ

授業以外での学習方法

教科書

話しことば検定 3級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2012

ISBN:

参考書

話しことば検定 3級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2010

ISBN:

話しことば検定 2級テキスト

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2010

ISBN：

話しことば検定 2級問題集

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2009

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（50）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーション I <e>**

担当者 辻井 利恵

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする

獲得目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の修得

授業の内容

講義とワーク、トレーニングにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え
 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き
 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形
 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例
 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音
 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現
 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現
 第8回 話しことば検定 模擬テスト体験(1回目)
 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語
 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント
 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す
 第12回 話しことば検定 模擬テスト体験(2回目)
 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR
 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス
 第15回 総まとめ

授業以外での学習方法

教科書

話しことば検定 3級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2012

ISBN:

参考書

話しことば検定 3級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2010

ISBN:

話しことば検定 2級テキスト

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2010

ISBN：

話しことば検定 2級問題集

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2009

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（50）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーション I <f>**

担当者 辻井 利恵

テーマ

「話す・聞く」技術を磨き、よいコミュニケーションの為の話しことばの修得を目的とする

獲得目標

1. 話しことばに欠かせない音声表現の知識と技術の修得 2. 人間関係を円滑にするための敬語表現のスキルを磨く 3. パブリックスピーキングに必要な筋道の立った話し方を身につける 4. 正しい日本語の運用についての知識の修得

授業の内容

講義とワーク、トレーニングにより、社会生活に役立つ話し方を学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 話しことばを学ぶ意義 挨拶と受け答え
 第2回 ～敬語Ⅰ～ 人間関係の認識 使う場面 種類と働き
 第3回 ～敬語Ⅱ～ 尊敬語と謙譲語 一般的なパターンと特別な形
 第4回 ～敬語Ⅲ～ 第三者についての敬語表現 間違いやすい例
 第5回 発声と発音 腹式呼吸 発音 日本語の音
 第6回 発音を正しく 発音の基本練習 声の大きさ・高低・速度・リズム 音声表現
 第7回 ～話す・聞くⅠ～ 話の種類 正しく話す 豊かな表現
 第8回 話しことば検定 模擬テスト体験(1回目)
 第9回 話しことばの特徴 話しことばと書きことば パブリックスピーキング 共通語
 第10回 ～話す・聞くⅡ～ 話し手・聞き手 場面 内容 話すときのポイント 聞くときのポイント
 第11回 ～読む・話す～ お知らせ文を読む 童話を読む 内容を話す
 第12回 話しことば検定 模擬テスト体験(2回目)
 第13回 ～スピーチⅠ～ 話を組み立てる 就活のための自己PR
 第14回 ～スピーチⅡ～ 自己PRの発表 スピーチを聞き合う アドバイス
 第15回 総まとめ

授業以外での学習方法

教科書

話しことば検定 3級テキスト

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2012

ISBN:

参考書

話しことば検定 3級問題集

著者: NPO法人 日本話しことば協会

出版社:

出版年: 2010

ISBN:

話しことば検定 2級テキスト

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2010

ISBN：

話しことば検定 2級問題集

著者： NPO法人 日本話しことば協会

出版社：

出版年： 2009

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（50）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I A **

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 人物の動作と状態 (Part 1)
 - 第2回 疑問詞を使った疑問文 (Part 2)
 - 第3回 電話での会話 (Part 3)
 - 第4回 留守番電話 (Part 4)
 - 第5回 物の状態と位置 (Part 1)
 - 第6回 基本構文と応答の決まり文句 (Part 2)
 - 第7回 屋外や交通機関での会話 (Part 3)
 - 第8回 アナウンス (Part 4)
 - 第9回 YES/NO構文 (Part 2)
 - 第10回 店での会話 (Part 3)
 - 第11回 ラジオ放送 (広告/天気予報) (Part 4)
 - 第12回 オフィスでの会話 (Part 3)
 - 第13回 ツアー・トーク・スピーチ (Part 4)
 - 第14回 各パート攻略法 復習
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Mastery Drills for the TOEIC TEST All in One TARGET

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2011年

ISBN: 9.78434E+12

Mastery Drills for the TOEIC TEST Grammer TARGET 400

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2011年

ISBN: 9.78434E+12

参考書

成績評価

試験（30）

小テスト（20）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <c>

担当者 久保田 美佳

テーマ

英語の基礎固め:基礎文法の再確認と英語音の体得。

獲得目標

英文法や基本語彙をしっかり復習すると同時に、音としての英語に触れる機会を増やす。

授業の内容

コミュニケーションのための英文法と語句を教科書とプリント等で学習し、実際に口頭練習をし定着させます。また、CDを聞いて英語の音を識別する練習をします。単語や語句のテストを随時実施します。

内 容

- 第5回 過去形と過去進行形 Unit 5
 - 第6回 過去形と現在完了 Unit 6
 - 第7回 時を表す前置詞 Unit 7
 - 第8回 Review
 - 第9回 数えられる名詞と数えられない名詞 Unit 8
 - 第10回 be going to とwill Unit 9
 - 第11回 助動詞 Unit 10
 - 第12回 等位接続詞と2語で成り立つ接続詞 Unit 11
 - 第13回 Yes-No疑問文 Unit 12
 - 第14回 Review
 - 第15回 Review
 - 第1回 オリエンテーション Be動詞の現在形と過去形 Unit 1
 - 第2回 命令文 Unit 2
 - 第3回 現在形と過去進行形 Unit 3
 - 第4回 代名詞 Unit 4
-

授業以外での学習方法

語彙や文法の復習とCDを聞くという習慣を定着させ、毎日少しでも英語に触れるようにすること。

教科書

English Upload

著者: Robert Hickling, Satsuki Osaki

出版社: 金星堂

出版年: 2013

ISBN: 9.78476E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (80)

授業中発表等 ()

aks201a113

習熟度を測るため、定期的にテストを行います。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <d>

担当者 溝部 芳子

テーマ

Be an Active Reader!

獲得目標

平易な英語でかかれた最新の話題、新聞記事、ブログやインタビューなどバライティに富んだ文章を読みながら、Skimming, Scanning を始めとした様々なリーディングスキルの修得と語彙力の向上を目的とする。

授業の内容

工夫されたタスクを手助けに、興味深い内容の英文を読んでいきます。読む前の準備、読みながら取り組むこと、読後に考えることの3つのステップを着実に踏むことにより、英文を読めた！と実感していきましょう。ペアワークではクラスメートと協力して、セルフワークでは集中力を高めて課題に取り組んでください。

内 容

- 第1回 Introduction. Class Rules
 - 第2回 Unit 1: All About Food
 - 第3回 Unit 1: All About Food
 - 第4回 Unit 2: Inventions
 - 第5回 Unit 2: Inventions
 - 第6回 Unit 3: Studying Abroad
 - 第7回 Unit 3: Studying Abroad
 - 第8回 Review 1
 - 第9回 Unit 4: Money and Budgets
 - 第10回 Unit 4: Money and Budgets
 - 第11回 Unit 5: Our Modern Life style
 - 第12回 Unit 5: Our Modern Life style
 - 第13回 Unit 6: The Olympics
 - 第14回 Unit 6: The Olympics
 - 第15回 Review 2
-

授業以外での学習方法

授業中に指示します。

教科書

ACTIVE Skills For Reading1

著者: Neil J Anderson

出版社: Cengage Learning

出版年: 3rd edition

ISBN: 9.78113E+12

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <e>

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 リスニングセクション概説と解法テクニック
 - 第2回 Part 1 写真描写問題攻略法
 - 第3回 Part 2 応答問題攻略法
 - 第4回 Part 3 会話問題攻略法
 - 第5回 Part 4 説明文問題攻略法
 - 第6回 キーワードのつかみ方
 - 第7回 設問の早読みテクニック
 - 第8回 5W1Hクエスチョンへの対応
 - 第9回 中心テーマを把握する練習
 - 第10回 シャドーイングの練習
 - 第11回 詳しい情報を正確に把握する練習
 - 第12回 主語・時制をしっかりと把握する練習
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 1・2
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 3・4
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Power Charge for the TOEIC Test

著者： 西田晴美/吉田佳代

出版社： 金星堂

出版年： 2009年

ISBN: 9.78476E+12

A Shorter Course in EVERYDAY VOCABULARY QUIZZ

著者： 佐藤誠司

出版社： 南雲堂

出版年： 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ出版

出版年： 2008年

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <f>

担当者 田中 美和子

テーマ

英語で発信することができる能力の開発

獲得目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく読み、英語で発信することができる能力の開発です。簡潔にまとめられた平明な英語のテキストを多く読み、様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、初級基本英文法の復習や総合的な読解スキルの学習、さらに語彙ビルディングも行われます。そして、発信する能力へとつなげていきます。

授業の内容

1. 主題別にディスカッションをして、英語リーディングを行う 2. 初級基本英文法の復習 3. 様々な読解スキルを習得して、パラグラフ・リーディングをする 4. 語彙力の向上をめざす

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 Chapter 1 April Fool's Day
 - 第3回 文の要素
 - 第4回 Chapter 2 Clever Pigs
 - 第5回 文型①(第1～3文型)
 - 第6回 Chapter 3 Split the Bill
 - 第7回 文型②(第4～5文型)
 - 第8回 Chapter 4 Disney's Dream
 - 第9回 文の構造①(単文)
 - 第10回 Chapter 5 Compact Lifestyle
 - 第11回 文の構造②(複文)
 - 第12回 Chapter 6 Ryo Ishikawa: Record Breaker
 - 第13回 時制①(現在形:現在進行形)
 - 第14回 Chapter 7 Unusual Pets
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

予習と復習をしましょう。

教科書

PRISM Book1: Red, Second Edition

著者: Timothy Kiggell, Katsuhiko Muto

出版社: Macmillan Language house LTD

出版年: 2012

ISBN: 9.78478E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I A <g>**

担当者 野口 博代

テーマ

英文を読む楽しさを実感しよう！

獲得目標

リーディングスキルの向上を目指すだけでなく、語彙を増やし運用できる力をつける事を目標とする。

授業の内容

様々なトピックの英文を読み、リーディングスキルを養うだけでなく、語彙を増やし強化するためのタスクを数多く行います。

内 容

- 第1回 Course Orientation / Unit 1: Chapter 1
 - 第2回 Unit 1: Chapter 1
 - 第3回 Unit 1: Chapter 2
 - 第4回 Unit 1: Chapter 2 / Unit 2: Chapter 1
 - 第5回 Unit 2: Chapter 1 / Unit 2: Chapter 2
 - 第6回 Unit 2: Chapter 2 / Unit 3: Chapter 1
 - 第7回 Unit 3: Chapter 1 / Unit 3: Chapter 2
 - 第8回 Unit 3: Chapter 2 / Review Unit 1
 - 第9回 Unit 4: Chapter 1
 - 第10回 Unit 4: Chapter 2
 - 第11回 Unit 5: Chapter 1
 - 第12回 Unit 5: Chapter 2
 - 第13回 Unit 6: Chapter 1
 - 第14回 Unit 6: Chapter 2
 - 第15回 Review Unit 2
-

授業以外での学習方法

教科書

Active Skills For Reading 2

著者: Neil J Anderson

出版社: CENGAGE Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <h>

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 動作表現・人や物を指す表現(Part 1)
 - 第2回 疑問詞を使った疑問文(Part 2)
 - 第3回 大意把握(Part 3)
 - 第4回 留守番電話のメッセージ(Part 4)
 - 第5回 物の状態と位置を表す表現(Part 1)
 - 第6回 YES/NO疑問文・否定疑問文・付加疑問文(Part 2)
 - 第7回 店での会話・電話での会話(Part 3)
 - 第8回 スピーチ・トーク・アナウンス(Part 4)
 - 第9回 提案・依頼・申し出の表現(Part 2)
 - 第10回 オフィスでの会話(Part 3)
 - 第11回 ガイドツアー(Part 4)
 - 第12回 広告(Part 4)
 - 第13回 模擬試験 解答・解説(Part 1・2)
 - 第14回 模擬試験 解答・解説(Part 3・4)
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Mastery Drills for the TOEIC Listening TARGET 400

著者： 早川幸治

出版社： 桐原書店

出版年： 2011年

ISBN: 9.78434E+12

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 1

著者： David Bramley

出版社： 松柏社

出版年： 2007年

ISBN: 9.78488E+12

新TOEIC Test 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ

出版年： 2008年

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <i>

担当者 原 俊樹

テーマ

「使える英語」を身に付ける;基礎からの英語の理解を深める。

獲得目標

平易な英文の解釈・定型表現の演習を通して、英語表現の特性を基礎から見直す。英語の理解・表現のための基礎的な知識(「文型的分析」や文法・単語・成句など)を整理し、英語と日本語の表現方法の違いも考えて、国際的に通用するコミュニケーション技能(読む・書く・聞く・話す)の実践力や基本的な英語の理解力・表現力を「論理的に考える力」として身に付ける。

授業の内容

基本的には、テキストに沿って行なう。知識の再確認に関する小テストを毎回課す予定。現在の自分の英語力を更に高め、英語を通して様々な知識・世界の情勢を的確に把握し、異なる言葉、異なる意見を持つ人々と対等に話し合える実践的な英語力を身に付けてください。 只単に、「単位さえ貰えれば良いのだ」という姿勢で受講することが無いようにしなさい。

内 容

- 第1回 (一応の目安ですが、各回の「重要ポイント」として考えてください) 講義概要・テキスト利用法の説明・基礎力判定 Pre-Test
- 第2回 フォニクス(単語と発音)／英文の基本構造の把握／英語の叙法
- 第3回 主語－述語動詞の捉え方／自動詞と他動詞の違いの把握
- 第4回 自動詞と他動詞の違いの把握／句動詞(群動詞)・Idioms
- 第5回 基本文型の捉え方 単文;基本五文型と文の要素
- 第6回 基本文型の捉え方 複文・重文・修飾の関係・接続の関係
- 第7回 述語動詞と時制 ;基本時制(現在・過去・未来)
- 第8回 述語動詞と時制 ;進行時制と進行形
- 第9回 述語動詞と時制 ;完了時制と完了形・完了進行形
- 第10回 助動詞
- 第11回 態表現;能動態と受動態
- 第12回 不定詞とその用法
- 第13回 分詞とその用法
- 第14回 文法総整理;各自の英語学習法の確立;基本知識・文法の総整理を踏まえて、日本語と英語の相互比較の中で、英語運用能力としての4技能を発展させる
- 第15回 文法総整理;各自の英語学習法の確立;基本知識・文法の総整理を踏まえて、日本語と英語の相互比較の中で、英語運用能力としての4技能を発展させる
- 第16回 期末試験

授業以外での学習方法

時間をうまく利用して、なるべく多くの練習(リスニング・ディクテーション・音読・読解など)をすること。テキスト理解に関しては、辞書をしっかりと利用し、語彙としての単語の意味や用法の理解や例文の用例などに注意をして、予習・復習に使えるようにすること。毎日の努力・継続が必ず実を結ぶことを信じなさい。(手抜きは必ず命取りになる)テレビやラジオの英語講座も利用すること。

教科書

“SNOOPY'S World of English(スヌーピーと覚える日常表現)”(英語 I A / II Aで使用)

著者: Hidehiko Konaka(小中秀彦)編著

出版社: Asahi Press(朝日出版社)

出版年: 2007 ¥1700E

ISBN:

参考書

高校時代に使用した文法参考書・問題集・教科書等を利用して基礎力の強化をする。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

中辞典以上の英和・和英・英々辞典(電子辞書は不可)

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <j>

担当者 弥永 啓子

テーマ

社会に出て必要となる最低限の英語力を身につける。

獲得目標

・典型的なビジネス・シーンの会話を理解することができる。・典型的なビジネス・シーンで必要となる語彙・表現を身につける。・カジュアルなメールのやり取りを和訳することなく理解することができる。・英語らしい音声で、英語を声に出して読むことができるようになる。・発信に必要な基礎的文法項目を完璧に理解する。

授業の内容

英語力が必須の企業で働くタカシの日常生活で生じた会話のリスニングやメールの読解を通して、受容レベルでの英語力向上を目指します。同時に、基礎文法の総復習、就職後役に立つ語彙・表現の学習、音読練習を通して、発信力の基礎を固めます。

内 容

- 第1回 「出迎えと自己紹介」: Be動詞
- 第2回 「仕事の説明」: 一般動詞現在
- 第3回 「苦情対応」: 一般動詞過去
- 第4回 「会議の準備」: 疑問詞
- 第5回 「依頼」: 助動詞(1)
- 第6回 「使用法説明」: 命令文
- 第7回 「相談と励まし」: 進行形
- 第8回 「確認」: 未来
- 第9回 まとめと復習
- 第10回 「指示と確認」: 現在完了
- 第11回 「場所の説明と感謝」: 受動態
- 第12回 「詳細を尋ねる」: 比較
- 第13回 「依頼と希望」: 助動詞(2)
- 第14回 「誘う」: 動名詞
- 第15回 「計画と理由」接続詞、まとめと復習

授業以外での学習方法

オンラインでの予習・復習を必須とします。

教科書

Let's Read Aloud & Learn English

著者: Teruhiko Kadoyama, Simon Capper

出版社: Seibido

出版年: 2012

ISBN: 9.78479E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (60)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <k>

担当者 小川 享子

テーマ

TOEICテスト準備を介して実用的な英語力を養う

獲得目標

TOEICテストにおけるリスニング力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

TOEICテストのリスニングは、短文写真描写、会話、ニュース、お知らせ、宣伝などの英語から構成されている。それら英語が使われている状況も、日常的なものからビジネス、旅行など様々である。したがって、この授業では、英語を聞く前に、まず単語の学習をしてからリスニングに取り組む。リスニングはTOEICテストの形式で組まれた演習を行い、聞いた後は、スクリプトに目を通し、語彙の確認を行う。

内 容

- 第1回 授業方法、TOEICテストの説明、課題、成績のつけ方などの説明。第1回リスニング演習セットのpre-listening word study
- 第2回 第1回リスニング演習セットの実施、解説 第2回リスニング演習セットのpre-listening word study
- 第3回 第2回リスニング演習セットの実施、解説 第3回リスニング演習セットのpre-listening word study
- 第4回 第3回リスニング演習セットの実施、解説 第4回リスニング演習セットのpre-listening word study
- 第5回 第4回リスニング演習セットの実施、解説 第5回リスニング演習セットのpre-listening word study
- 第6回 第5回リスニング演習セットの実施、解説 第6回リスニング演習セットのpre-listening word study
- 第7回 第6回リスニング演習セットの実施、解説 第7回リスニング演習セットのpre-listening word study
- 第8回 第7回リスニング演習セットの実施、解説 第8回リスニング演習セットのpre-listening word study
- 第9回 第8回リスニング演習セットの実施、解説 第9回リスニング演習セットのpre-listening word study
- 第10回 第9回リスニング演習セットの実施、解説 第10回リスニング演習セットのpre-listening word study
- 第11回 第10回リスニング演習セットの実施、解説 模擬テスト
- 第12回 模擬テスト
- 第13回 模擬テスト
- 第14回 模擬テスト
- 第15回 模擬テスト

授業以外での学習方法

語彙を覚える、リスニング演習の問題を聞く、自分で語彙表を作る

教科書

New Steps to Success in the TOEIC Test Listening: Workbook 1

著者: David E Bramley, 中井弘一

出版社: 松柏社

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (35)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

aks201a121

参加度 (15)

上記に加えて前期末英語テスト(TOEIC) 20% 小テストにまとめの試験が含まれる。授業中課題に宿題や授業中の発表が含まれる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <I>

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 動作表現・人や物を指す表現(Part 1)
 - 第2回 疑問詞を使った疑問文(Part 2)
 - 第3回 大意把握(Part 3)
 - 第4回 留守番電話のメッセージ(Part 4)
 - 第5回 物の状態と位置を表す表現(Part 1)
 - 第6回 YES/NO疑問文・否定疑問文・付加疑問文(Part 2)
 - 第7回 店での会話・電話での会話(Part 3)
 - 第8回 スピーチ・トーク・アナウンス(Part 4)
 - 第9回 提案・依頼・申し出の表現(Part 2)
 - 第10回 オフィスでの会話(Part 3)
 - 第11回 ガイドツアー(Part 4)
 - 第12回 広告(Part 4)
 - 第13回 模擬試験 解答・解説(Part 1・2)
 - 第14回 模擬試験 解答・解説(Part 3・4)
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Mastery Drills for the TOEIC Listening TARGET 400

著者： 早川幸治

出版社： 桐原書店

出版年： 2011年

ISBN: 9.78434E+12

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 1

著者： David Blamley

出版社： 松柏社

出版年： 2007年

ISBN: 9.78488E+12

新TOEIC Test 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ

出版年： 2008年

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <m>

担当者 ビショップ マイケル

テーマ

This English course teaches clear expression of thoughts.

獲得目標

In this course, students are guided through the process of writing clear paragraphs. They learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of paragraphs. At the end of the course students will be able to see how paragraphs work together to make short essays.

授業の内容

This course will be taught in English. Students will need to do pair and group work in order to express themselves in English. They will also be required to produce paragraph writing during class time and for homework.

内 容

- 第1回 Class and study requirements; 'Break the ice' activity.
 - 第2回 What is a paragraph?: Format and punctuation
 - 第3回 What is a paragraph?: Format and punctuation
 - 第4回 The Topic Sentence
 - 第5回 The Topic Sentence
 - 第6回 Supporting Sentence
 - 第7回 Supporting Sentence
 - 第8回 Time Order
 - 第9回 Time Order
 - 第10回 Space Order
 - 第11回 Space Order
 - 第12回 Process and Direction
 - 第13回 Process and Direction
 - 第14回 Cause and Effect
 - 第15回 Cause and Effect
-

授業以外での学習方法

Students will need to attend regularly, be on time, and to submit homework on time. Students should bring a good dictionary to each class. Students are expected to read widely in both Japanese and English as a part of their university education. Self-stud

教科書

Get Your Message Across: Writing Cummmunicative Paragraphs

著者: Hisataka Jimbo et al

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2012/3/14

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験 (35)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <n>

担当者 溝部 芳子

テーマ

Be an Active Reader!

獲得目標

平易な英語でかかれた最新の話題、新聞記事、ブログやインタビューなどバライティに富んだ文章を読みながら、Skimming, Scanning を始めとした様々なリーディングスキルの修得と語彙力の向上を目的とする。

授業の内容

工夫されたタスクを手助けに、興味深い内容の英文を読んでいきます。読む前の準備、読みながら取り組むこと、読後に考えることの3つのステップを着実に踏むことにより、英文を読めた！と実感していきましょう。ペアワークではクラスメートと協力して、セルフワークでは集中力を高めて課題に取り組んでください。

内 容

- 第1回 Introduction. Class Rules
 - 第2回 Unit 1: All About Food
 - 第3回 Unit 1: All About Food
 - 第4回 Unit 2: Inventions
 - 第5回 Unit 2: Inventions
 - 第6回 Unit 3: Studying Abroad
 - 第7回 Unit 3: Studying Abroad
 - 第8回 Review 1
 - 第9回 Unit 4: Money and Budgets
 - 第10回 Unit 4: Money and Budgets
 - 第11回 Unit 5: Our Modern Life style
 - 第12回 Unit 5: Our Modern Life style
 - 第13回 Unit 6: The Olympics
 - 第14回 Unit 6: The Olympics
 - 第15回 Review 2
-

授業以外での学習方法

授業中に指示します。

教科書

ACTIVE Skills For Reading1

著者: Neil Anderson

出版社: Cengage Learning

出版年: 3rd edition

ISBN: 9.78113E+12

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <○>

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 動作表現・人や物を指す表現(Part 1)
 - 第2回 疑問詞を使った疑問文(Part 2)
 - 第3回 大意把握(Part 3)
 - 第4回 留守番電話のメッセージ(Part 4)
 - 第5回 物の状態と位置を表す表現(Part 1)
 - 第6回 YES/NO疑問文・否定疑問文・付加疑問文(Part 2)
 - 第7回 店での会話・電話での会話(Part 3)
 - 第8回 スピーチ・トーク・アナウンス(Part 4)
 - 第9回 提案・依頼・申し出の表現(Part 2)
 - 第10回 オフィスでの会話(Part 3)
 - 第11回 ガイドツアー(Part 4)
 - 第12回 広告(Part 4)
 - 第13回 模擬試験 解答・解説(Part 1・2)
 - 第14回 模擬試験 解答・解説(Part 3・4)
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Mastery Drills for the TOEIC Listening TARGET 400

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2011年

ISBN: 9.78434E+12

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 1

著者: David Bramley

出版社: 松柏社

出版年: 2007年

ISBN: 9.78488E+12

新TOEIC Test 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ

出版年： 2008年

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <q>

担当者 久保田 美佳

テーマ

英語の基礎固め:基礎文法の再確認と英語音の体得。

獲得目標

英文法や基本語彙をしっかり復習すると同時に、音としての英語に触れる機会を増やす。

授業の内容

コミュニケーションのための英文法と語句を教科書とプリント等で学習し、実際に口頭練習をし定着させます。また、CDを聞いて英語の音を識別する練習をします。単語や語句のテストを随時実施します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション Be動詞の現在形と過去形 Unit 1
 - 第2回 命令文 Unit 2
 - 第3回 現在形と過去進行形 Unit 3
 - 第4回 代名詞 Unit 4
 - 第5回 過去形と過去進行形 Unit 5
 - 第6回 過去形と現在完了 Unit 6
 - 第7回 時を表す前置詞 Unit 7
 - 第8回 Review
 - 第9回 数えられる名詞と数えられない名詞 Unit 8
 - 第10回 be going to とwill Unit 9
 - 第11回 助動詞 Unit 10
 - 第12回 等位接続詞と2語で成り立つ接続詞 Unit 11
 - 第13回 Yes-No疑問文 Unit 12
 - 第14回 Review
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

語彙や文法の復習とCDを聞くという習慣を定着させ、毎日少しでも英語に触れるようにすること。

教科書

English Upload

著者: Robert Hickling, Satsuki Osaki

出版社: 金星堂

出版年: 2013

ISBN: 9.78476E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (80)

授業中発表等 ()

aks201a127

習熟度を測るため、定期的にテストを行います。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <r>

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 リスニングセクション概説と解法テクニック
 - 第2回 Part 1 写真描写問題攻略法
 - 第3回 Part 2 応答問題攻略法
 - 第4回 Part 3 会話問題攻略法
 - 第5回 Part 4 説明文問題攻略法
 - 第6回 キーワードのつかみ方
 - 第7回 設問の早読みテクニック
 - 第8回 5W1Hクエスチョンへの対応
 - 第9回 中心テーマを把握する練習
 - 第10回 シャドーイングの練習
 - 第11回 詳しい情報を正確に把握する練習
 - 第12回 主語・時制をしっかり把握する練習
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 1・2
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 3・4
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Power Charge for the TOEIC Test

著者： 西田晴美/吉田佳代

出版社： 金星堂

出版年： 2009年

ISBN: 9.78476E+12

A Shorter Course in EVERYDAY VOCABULARY QUIZZ

著者： 佐藤誠司

出版社： 南雲堂

出版年： 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ出版

出版年： 2008年

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I A <s>**

担当者 野口 博代

テーマ

英文を読む楽しさを実感しよう！

獲得目標

リーディングスキルの向上を目指すだけでなく、語彙を増やし運用できる力をつける事を目標とする。

授業の内容

様々なトピックの英文を読み、リーディングスキルを養うだけでなく、語彙を増やし強化するためのタスクを数多く行います。

内 容

- 第1回 Course Orientation / Unit 1: Chapter 1
 - 第2回 Unit 1: Chapter 1
 - 第3回 Unit 1: Chapter 2
 - 第4回 Unit 1: Chapter 2 / Unit 2: Chapter 1
 - 第5回 Unit 2: Chapter 1 / Unit 2: Chapter 2
 - 第6回 Unit 2: Chapter 2 / Unit 3: Chapter 1
 - 第7回 Unit 3: Chapter 1 / Unit 3: Chapter 2
 - 第8回 Unit 3: Chapter 2 / Review Unit 1
 - 第9回 Unit 4: Chapter 1
 - 第10回 Unit 4: Chapter 2
 - 第11回 Unit 5: Chapter 1
 - 第12回 Unit 5: Chapter 2
 - 第13回 Unit 6: Chapter 1
 - 第14回 Unit 6: Chapter 2
 - 第15回 Review Unit 2
-

授業以外での学習方法

教科書

Active Skills For Reading 2

著者: Neil J Anderson

出版社: CENGAGE Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <t>

担当者 田中 美和子

テーマ

英語で発信することができる能力の開発

獲得目標

本コースの目的は、簡単な英語文を効率よく読み、英語で発信することができる能力の開発です。簡潔にまとめられた平明な英語のテキストを多く読み、様々な主題や表現を経験します。この読む練習を通じて、初級基本英文法の復習や総合的な読解スキルの学習、さらに語彙ビルディングも行われます。そして、発信する能力へとつなげていきます。

授業の内容

1. 主題別にディスカッションをして、英語リーディングを行う 2. 初級基本英文法の復習 3. 様々な読解スキルを習得して、パラグラフ・リーディングをする 4. 語彙力の向上をめざす

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 Chapter 1 April Fool's Day
 - 第3回 文の要素
 - 第4回 Chapter 2 Clever Pigs
 - 第5回 文型①(第1～3文型)
 - 第6回 Chapter 3 Split the Bill
 - 第7回 文型②(第4～5文型)
 - 第8回 Chapter 4 Disney's Dream
 - 第9回 文の構造①(単文)
 - 第10回 Chapter 5 Compact Lifestyle
 - 第11回 文の構造②(複文)
 - 第12回 Chapter 6 Ryo Ishikawa: Record Breaker
 - 第13回 時制①(現在形:現在進行形)
 - 第14回 Chapter7 Unusual Pets
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

予習と復習をしましょう。

教科書

PRISM Book1: Red, Second Edition

著者: Timothy Kiggell, Katsuhiko Muto

出版社: Macmillan Language house LTD

出版年: 2012

ISBN: 9.78478E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <u>

担当者 原 俊樹

テーマ

「使える英語」を身に付ける;基礎からの英語の理解を深める。

獲得目標

平易な英文の解釈・定型表現の演習を通して、英語表現の特性を基礎から見直す。英語の理解・表現のための基礎的な知識（「文型的分析」や文法・単語・成句など）を整理し、英語と日本語の表現方法の違いも考えて、国際的に通用するコミュニケーション技能（読む・書く・聞く・話す）の実践力や基本的な英語の理解力・表現力を「論理的に考える力」として身に付ける。

授業の内容

基本的には、テキストに沿って行なう。知識の再確認に関する小テストを毎回課す予定。現在の自分の英語力を更に高め、英語を通して様々な知識・世界の情勢を的確に把握し、異なる言葉、異なる意見を持つ人々と対等に話し合える実践的な英語力を身に付けてください。只単に、「単位さえ貰えれば良いのだ」という姿勢で受講することが無いようにしなさい。

内 容

- 第1回 (一応の目安ですが、各回の「重要ポイント」として考えてください) 講義概要・テキスト利用法の説明・基礎力判定 Pre-Test
- 第2回 フォニクス(単語と発音)／英文の基本構造の把握／英語の叙法
- 第3回 主語－述語動詞の捉え方／自動詞と他動詞の違いの把握
- 第4回 自動詞と他動詞の違いの把握／句動詞(群動詞)・Idioms
- 第5回 基本文型の捉え方 単文;基本五文型と文の要素
- 第6回 基本文型の捉え方 複文・重文・修飾の関係・接続の関係
- 第7回 述語動詞と時制 ;基本時制(現在・過去・未来)
- 第8回 述語動詞と時制 ;進行時制と進行形
- 第9回 述語動詞と時制 ;完了時制と完了形・完了進行形
- 第10回 助動詞
- 第11回 態表現;能動態と受動態
- 第12回 不定詞とその用法
- 第13回 分詞とその用法
- 第14回 文法総整理;各自の英語学習法の確立;基本知識・文法の総整理を踏まえて、日本語と英語の相互比較の中で、英語運用能力としての4技能を発展させる
- 第15回 文法総整理;各自の英語学習法の確立;基本知識・文法の総整理を踏まえて、日本語と英語の相互比較の中で、英語運用能力としての4技能を発展させる
- 第16回 期末試験

授業以外での学習方法

時間をうまく利用して、なるべく多くの練習(リスニング・ディクテーション・音読・読解など)をすること。テキスト理解に関しては、辞書をしっかりと利用し、語彙としての単語の意味や用法の理解や例文の用例などに注意をして、予習・復習に使えるようにすること。毎日の努力・継続が必ず実を結ぶことを信じなさい。(手抜きは必ず命取りになる) テレビやラジオの英語講座も利用すること。

教科書

“SNOOPY'S World of English(スヌーピーと覚える日常表現)” (英語 I A / II Aで使用)

著者: Hidehiko Konaka(小中秀彦)編著

出版社: Asahi Press(朝日出版社)

出版年: 2007 ¥1700E

ISBN:

参考書

高校時代に使用した文法参考書・問題集・教科書等を利用して基礎力の強化をする。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

中辞典以上の英和・和英・英々辞典(電子辞書は不可)

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <v>

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 人物の動作と状態 (Part 1)
 - 第2回 疑問詞を使った疑問文 (Part 2)
 - 第3回 電話での会話 (Part 3)
 - 第4回 留守番電話 (Part 4)
 - 第5回 物の状態と位置 (Part 1)
 - 第6回 基本構文と応答の決まり文句 (Part 2)
 - 第7回 屋外や交通機関での会話 (Part 3)
 - 第8回 アナウンス (Part 4)
 - 第9回 YES/NO構文 (Part 2)
 - 第10回 店での会話 (Part 3)
 - 第11回 ラジオ放送 (広告/天気予報) (Part 4)
 - 第12回 オフィスでの会話 (Part 3)
 - 第13回 ツアー・トーク・スピーチ (Part 4)
 - 第14回 各パート攻略法 復習
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

教科書

Mastery Drills for the TOEIC TEST All in One TARGET

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2011年

ISBN: 9.78434E+12

Mastery Drills for the TOEIC TEST Grammer TARGET 400

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2011年

ISBN: 9.78434E+12

参考書

成績評価

試験（30）

小テスト（20）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <w>

担当者 ビショップ マイケル

テーマ

This English course teaches clear expression of thoughts.

獲得目標

In this course, students are guided through the process of writing clear paragraphs. They learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of paragraphs. At the end of the course students will be able to see how paragraphs work together to make short essays.

授業の内容

This course will be taught in English. Students will need to do pair and group work in order to express themselves in English. They will also be required to produce paragraph writing during class time and for homework.

内 容

- 第14回 Cause and Effect
 - 第15回 Cause and Effect
 - 第1回 Class and study requirements; 'Break the ice' activity.
 - 第2回 What is a paragraph?: Format and punctuation
 - 第3回 What is a paragraph?: Format and punctuation
 - 第4回 The Topic Sentence
 - 第5回 The Topic Sentence
 - 第6回 Supporting Sentence
 - 第7回 Supporting Sentence
 - 第8回 Time Order
 - 第9回 Time Order
 - 第10回 Space Order
 - 第11回 Space Order
 - 第12回 Process and Direction
 - 第13回 Process and Direction
-

授業以外での学習方法

Students will need to attend regularly, be on time, and to submit homework on time. Students should bring a good dictionary to each class. Students are expected to read widely in both Japanese and English as a part of their university education. Self-stud

教科書

Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraphs

著者: Hisataka Jimbo et al

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2012/3/14

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験 (35)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <x>

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 リスニングセクション概説と解法テクニック
 - 第2回 Part 1 写真描写問題攻略法
 - 第3回 Part 2 応答問題攻略法
 - 第4回 Part 3 会話問題攻略法
 - 第5回 Part 4 説明文問題攻略法
 - 第6回 シヤドーイング訓練法
 - 第7回 設問の早読みテクニック
 - 第8回 5W1Hクエスチョンへの対応
 - 第9回 中心テーマを把握する練習
 - 第10回 状況、場所を把握する練習
 - 第11回 詳しい情報を正確に把握する練習
 - 第12回 主語・時制をしっかり把握する練習
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 1・2
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 3・4
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Total Strategy for the TOEIC Test

著者： 石井隆之/山口修

出版社： 成美堂

出版年： 2006年

ISBN: 9.78479E+12

A Shorter Course in EVERYDAY VOCABULARY QUIZZ

著者： 佐藤誠司

出版社： 南雲堂

出版年： 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ出版

出版年： 2008年

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <y>

担当者 山崎 清水

テーマ

総合的な英語運用能力を習得

獲得目標

平易な文章で書かれた英文を読んで英語力の向上を目指す。

授業の内容

食べ物に関する英文を読んでリーディングスキルを養うと共に、語彙力アップを図る。

内 容

- 第1回 Harry Potter and Chocolate Frogs
 - 第2回 Peter Rabbit and Pie
 - 第3回 Mrs. Rabbit and Herb Tea
 - 第4回 Chocolate Chip Cookies
 - 第5回 Winnie-the-Pooh and Honey
 - 第6回 Daddy-Long-Legs and Ice Cream
 - 第7回 Kenji Miyazawa and Tomatoes
 - 第8回 O. Henry and "Witches' Loaves"
 - 第9回 The Old Man and Fish
 - 第10回 "East of Eden" and Lettuce
 - 第11回 Laura and Cheese-Making on the Prairie
 - 第12回 Breakfast and Tiffany's
 - 第13回 "Mujina" and "Soba"
 - 第14回 Bridget Jones and Dieting
 - 第15回 Agatha Christie and Apples
-

授業以外での学習方法

教科書

A Taste of English: Food and Fiction

著者: Fiona Wall Minami / 田口 誠一 / 本山 ふじ子

出版社: 朝日出版社

出版年: 2013

ISBN: 9.78426E+12

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <z>

担当者 小川 享子

テーマ

TOEICテスト準備を介して実用的な英語力を養う。

獲得目標

TOEICテストにおけるリスニング力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

TOEICテストのリスニングは、短文写真描写、会話、ニュース、お知らせ、宣伝などの英語から構成されている。それら英語が使われている状況も、日常的なものからビジネス、旅行など様々である。したがって、この授業では、英語を聞く前に、まず単語の学習をしてからリスニングに取り組む。リスニングはTOEICテストの形式で組まれた演習を行い、聞いた後は、スクリプトに目を通し、語彙の確認を行う。

内 容

- 第1回 授業方法、TOEICテストの説明、課題、成績のつけ方などの説明。第1回リスニング演習セットのpre-listening word study
 第2回 第1回リスニング演習セットの実施、解説 第2回リスニング演習セットのpre-listening word study
 第3回 第2回リスニング演習セットの実施、解説 第3回リスニング演習セットのpre-listening word study
 第4回 第3回リスニング演習セットの実施、解説 第4回リスニング演習セットのpre-listening word study
 第5回 第4回リスニング演習セットの実施、解説 第5回リスニング演習セットのpre-listening word study
 第6回 第5回リスニング演習セットの実施、解説 第6回リスニング演習セットのpre-listening word study
 第7回 第6回リスニング演習セットの実施、解説 第7回リスニング演習セットのpre-listening word study
 第8回 第7回リスニング演習セットの実施、解説 第8回リスニング演習セットのpre-listening word study
 第9回 第8回リスニング演習セットの実施、解説 第9回リスニング演習セットのpre-listening word study
 第10回 第9回リスニング演習セットの実施、解説 第10回リスニング演習セットのpre-listening word study
 第11回 第10回リスニング演習セットの実施、解説 模擬テスト
 第12回 模擬テスト
 第13回 模擬テスト
 第14回 模擬テスト
 第15回 模擬テスト

授業以外での学習方法

語彙を覚える、リスニング演習の問題を聞く、自分で語彙表を作る

教科書

参考書

New Steps to Success in the TOEIC Test Listening: Workbook 1

著者： David E. Bramley, 中井弘一

出版社： 松柏社

出版年： 2012

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (35)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

aks201a136

参加度 (15)

上記に加えて前期末英語テスト(TOEIC) 20% 小テストにまとめの試験が含まれる。授業中課題に宿題や授業中の発表が含まれる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <Pa>

担当者 田中 美和子

テーマ

総合的な読解スキルの体系的な学習

獲得目標

本授業の目的は、簡潔にまとめられた平明な英文を読み、よく理解することのできる能力の開発と思考力を養うことです。さらに、コミュニケーション能力を高めることも目標とします。

授業の内容

1. 主題別にディスカッションをして、英語リーディングを行う 2. 基礎英文法の復習 3. 様々な読解スキルを習得して、パラグラフ・リーディングをする 4. 語彙力の向上

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 Chapter1 Batty Accents
 - 第3回 句(1) 名詞句
 - 第4回 Chapter2 Functional Foods
 - 第5回 句(2) 形容詞句
 - 第6回 Chapter3 My Own Name
 - 第7回 句(3) 副詞句
 - 第8回 Chapter4 24-Hour Fitness
 - 第9回 節(1) 形容詞節
 - 第10回 Chapter5 Blood Secrets
 - 第11回 節(2) 副詞節
 - 第12回 Chapter6 Virtual Cities
 - 第13回 分詞(形容詞的用法)
 - 第14回 Chapter7 Narrow Escape
 - 第15回 理解度調査とまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書を前もって読み、わからない単語や表現をチェックしておきましょう。そして、授業には必ず英和辞書を持ってきて下さい。また、英文法が不得意な人は、自分が読みやすい文法参考書などを用意して、わからないときには、自宅学習で補いましょう。

教科書

PRIZM Book4: Indigo, Second Edition

著者: Timothy Kiggell, 武藤克彦

出版社: マクミランランゲージハウス

出版年: 2012

ISBN: 9.78478E+12

参考書

総合英語フォレスト 6th edition

著者: 石黒昭博

出版社: 桐原書店

出版年: 2009

ISBN: 9.78434E+12

成績評価

aks201a137

試験 (30)
授業中課題 ()
参加度 (35)

小テスト (35)
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <Pb>

担当者 山崎 清水

テーマ

総合的な英語運用能力を習得

獲得目標

平易な文章で書かれた英文を読んで英語力の向上を目指す。

授業の内容

食べ物に関する英文を読んでリーディングスキルを養うと共に、語彙力アップを図る。

内 容

- 第1回 Harry Potter and Chocolate Frogs
 - 第2回 Peter Rabbit and Pie
 - 第3回 Mrs. Rabbit and Herb Tea
 - 第4回 Chocolate Chip Cookies
 - 第5回 Winnie-the-Pooh and Honey
 - 第6回 Daddy-Long-Legs and Ice Cream
 - 第7回 Kenji Miyazawa and Tomatoes
 - 第8回 O. Henry and "Witches' Loaves"
 - 第9回 The Old Man and Fish
 - 第10回 "East of Eden" and Lettuce
 - 第11回 Laura and Cheese-Making on the Prairie
 - 第12回 Breakfast and Tiffany's
 - 第13回 "Mujina" and "Soba"
 - 第14回 Bridget Jones and Dieting
 - 第15回 Agatha Christie and Apples
-

授業以外での学習方法

教科書

A Taste of English: Food and Fiction

著者: Fiona Wall Minami / 田口 誠一 / 本山 ふじ子

出版社: 朝日出版社

出版年: 2013

ISBN: 9.78426E+12

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I A <R>

担当者 杉山 泰

テーマ

英語が分かれば日本語も分かる - 日英語対照をしながら学ぶ基礎英語

獲得目標

「平田容疑者が捕まった」をMakoto Hirata was arrested.とするのはなぜなのか、「受身構文」が理解できないまま、英語が嫌いになった学生が多い。「原爆は墮ちた」のではなく、An A-bomb was dropped.であり、「これください」はI'll take this.となる。「主語」が必要な英語と、なくても問題ない日本語の対照をしながら、外国語としての日本語文法と英語文法を楽しく学んでいく。

授業の内容

毎回、日英語を対照しながら、基礎英語を学び、1枚のプリントを仕上げてもらおう。各自、教科書と辞書を持参しないとできないので、出席が重要となる。

内 容

- 第1回 自己紹介。Lesson 1 日英語の違い(I love you.のS+V+O構文と君が好きという形容詞構文)
- 第2回 Lesson 2 「私」からの発想。(I have a good time.と楽しい)
- 第3回 Lesson 3 「命令文」(On your mark. Get set. Go.主語がなければ命令文)
- 第4回 Lesson 4 「be動詞」という曲者(1) (なぜ、I am illness.と言えないのか?)
- 第5回 Lesson 5 「be動詞」という曲者(2) (なぜ、It is hard.と言えるのに、It is happy.と言えないのか?)
- 第6回 Lesson 6 「未来」を示す英語 (なぜ、「先生、酒を飲みに行きますか」はWill you go for a drink?なのか?)
- 第7回 Lesson 7 「不定詞」構文 (I have no need to hurry.とI have difficulty finding a job.の違いはどこにあるのか?)
- 第8回 Lesson 8 「現在完了形」構文 (Have you eaten sushi?とDid you eat sushi?はどう違うのか?)
- 第9回 Lesson 9 「能動態」と「受動態」(I am excited.とFootball is exciting.はどう違うのか?)
- 第10回 Lesson 10 5W1Hで始まる疑問文 (Do / Does / Didの使い方が分かりますか?)
- 第11回 Lesson 11 「動名詞」構文 (I enjoy driving a new car.のように動名詞を取る動詞はMegafepsです)
- 第12回 Lesson 12 「比較級」構文 (Which do you like better, white or red?といつも比較級が使われる英語)
- 第13回 Lesson 13 There is(are)構文 (新聞に多用されるTere is「存在」構文 「ある」と「いる」の違いを留学生に教えられますか?)
- 第14回 Lesson 14 「仮定法」構文 (原子力発電所事故が起こりえないからこそ、起こったときのシミュレーションが必要なのです)
- 第15回 Lesson 15 「て・に・を・は」と前置詞 (日本文学の英訳はむずかしい?)

授業以外での学習方法

5月に英語劇の鑑賞を行なう予定。NHKラジオの「基礎英語講座」などの利用を高く評価する。

教科書

Discover English Grammar

著者: 杉山 泰

出版社: 朝日出版社

出版年: 2006年

ISBN:

参考書

日本人はなぜ英語ができないか

著者: 鈴木孝夫

出版社: 岩波新書

出版年: 1999年

ISBN:

日本語の教室

著者： 大野晋

出版社： 岩波新書

出版年： 2002年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

どうしても参加できない場合(病気、就職のための面接など)毎回毎のプリントの提出と教科書の問題をやって提出すれば、遅れの出席として評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I B <a>

担当者 松村 優子

テーマ

英文読解、語彙・表現の修得

獲得目標

Readingを中心に据えて、本文の内容理解力、トピック関連語彙・表現力を高めることを目指す。

授業の内容

毎回、英文記事の読解・リスニングを通して、内容を確認し、構文・表現を学習する。発表形式も採り入れる。下記の計画は予定であり、授業の進捗状況や受講生の希望により順序など変更することもある。

内 容

- 第1回 Introduction
 - 第2回 Unit 1 Exam Time
 - 第3回 Unit 1 Exam Time
 - 第4回 Unit 2 Going Abroad
 - 第5回 Unit 2 Going Abroad
 - 第6回 Unit 3 Movie Makers
 - 第7回 Unit 3 Movie Makers
 - 第8回 Unit 4 Young Athletes
 - 第9回 Unit 4 Young Athletes
 - 第10回 Unit 5 The Amazing Human Body
 - 第11回 Unit 5 The Amazing Human Body
 - 第12回 Unit6 Leisure Time
 - 第13回 Unit6 Leisure Time
 - 第14回 まとめ・復習テスト
 - 第15回 まとめ・復習テスト
-

授業以外での学習方法

指定箇所の予習・復習

教科書

Active Skills for Reading 2 Third Edition

著者: Anderson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (15)

小テスト (60)

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I B

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 表・用紙 (Part 7)
 - 第2回 手紙・Eメール (Part 7)
 - 第3回 品詞 (Part 5)
 - 第4回 動詞 (Part 5)
 - 第5回 広告 (Part 7)
 - 第6回 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7)
 - 第7回 代名詞・関係代名詞 (Part 5)
 - 第8回 接続詞・前置詞 (Part 5)
 - 第9回 Part 7 (読解問題)の復習
 - 第10回 Part 5 (短文穴埋め問題)の復習
 - 第11回 時制・代名詞・語彙問題 (Part 6)
 - 第12回 つなぎ言葉 (Part 6)
 - 第13回 Part 6 (長文穴埋め問題)の復習
 - 第14回 各パート攻略法 復習
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Mastery Drills for the TOEIC TEST All in One TARGET

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2011年

ISBN: 9.78434E+12

Mastery Drills for the TOEIC Grammer TARGET 400

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2011年

ISBN: 9.78434E+12

参考書

成績評価

試験（30）

小テスト（20）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I B <c>**

担当者 スミス ジョン

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

獲得目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の内容

This course will be taught in English. There are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

内 容

- 第1回 Self-introduction
 - 第2回 Getting to know the teacher and classmates
 - 第3回 Hobbies and interests
 - 第4回 Appearance adjectives
 - 第5回 Describing friends
 - 第6回 Family
 - 第7回 Daily activities and routines
 - 第8回 Comparisons
 - 第9回 Talking about one's home
 - 第10回 Describing places
 - 第11回 Giving directions
 - 第12回 Prepositions
 - 第13回 Important life events
 - 第14回 Talking about weekends
 - 第15回 Summer plans and course review.
-

授業以外での学習方法

教科書

English Firsthand 1

著者: Marc Helgesen, Steven Brown

出版社: Pearson Longman

出版年: 2010

ISBN: 978-988-00-3059

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

aks201a253

The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I B <d>

担当者 ビショップ マイケル

テーマ

This English course teaches clear expression of thoughts.

獲得目標

In this course, students are guided through the process of writing clear paragraphs. They learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of paragraphs. At the end of the course students will be able to see how paragraphs work together to make short essays.

授業の内容

This course will be taught in English. Students will need to do pair and group work in order to express themselves in English. They will also be required to produce paragraph writing during class time and for homework.

内 容

- 第1回 Class and study requirements; 'Break the ice' activity.
 - 第2回 What is a paragraph?: Format and punctuation
 - 第3回 What is a paragraph?: Format and punctuation
 - 第4回 The Topic Sentence
 - 第5回 The Topic Sentence
 - 第6回 Supporting Sentence
 - 第7回 Supporting Sentence
 - 第8回 Time Order
 - 第9回 Time Order
 - 第10回 Space Order
 - 第11回 Space Order
 - 第12回 Process and Direction
 - 第13回 Process and Direction
 - 第14回 Cause and Effect
 - 第15回 Cause and Effect
-

授業以外での学習方法

Students will need to attend regularly, be on time, and to submit homework on time. Students should bring a good dictionary to each class. Students are expected to read widely in both Japanese and English as a part of their university education. Self-stud

教科書

Get Your Message Across: Writing Cummmunicative Paragraphs

著者: Hisataka Jimbo et al

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2012/3/14

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験 (35)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus**科目名 英語 I B <e>**

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 文の構造
 - 第2回 名詞 I : 名詞・代名詞
 - 第3回 名詞 II : 可算/不可算名詞
 - 第4回 形容詞・副詞
 - 第5回 動詞・助動詞
 - 第6回 時制
 - 第7回 イディオム
 - 第8回 一致
 - 第9回 分詞・動名詞・不定詞
 - 第10回 関係詞
 - 第11回 接続詞・前置詞・特殊構文
 - 第12回 比較・仮定法
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 5.6
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 7
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Power Charge for the TOEIC Test

著者： 西田晴美/吉田佳代

出版社： 金星堂

出版年： 2009年

ISBN: 9.78476E+12

A Shorter Course in EVERYDAY VOCABULARY QUIZZ

著者： 佐藤誠司

出版社： 南雲堂

出版年： 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ出版

出版年： 2008年

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I B <f>**

担当者 ヒエタフティ エルッキ.栗田 梨津子

テーマ

Basic to early intermediate English conversation.

獲得目標

Student improvement on all four macro skills of basic English conversation.

授業の内容

****This course will be taught in English**** Using the textbook and various forms of multimedia, this class will focus around everyday use of the English language in a realistic context.

内 容

- 第1回 Class introduction and explanation
 - 第2回 Begin Unit 2 "In class"
 - 第3回 Continue Unit 2
 - 第4回 Finish Unit 2
 - 第5回 Begin Unit 3 "Favorite people"
 - 第6回 Continue Unit 3
 - 第7回 Finish Unit 3
 - 第8回 Review and reflection of Units 2 and 3
 - 第9回 Begin Unit 4 "Everyday life"
 - 第10回 Continue Unit 4
 - 第11回 Finish Unit 4
 - 第12回 Begin Unit 5 "Free time"
 - 第13回 Continue Unit 5
 - 第14回 Finish Unit 5
 - 第15回 Review and recap of semester
-

授業以外での学習方法

****There are many free and fun ESL websites online that cater to all levels. ****Watching your favorite DVDs WITHOUT subtitles is also a fun way to learn!

教科書

Touchstone 1

著者: Michael McCarthy, etal

出版社: Cambridge

出版年: 2005

ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (15)

参加度 (20)

小テスト (15)

授業中発表等 (20)

Quizzes and tests are important, but in-class performance is also very important for your final grade.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I B <g>**

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Acting English Drama

獲得目標

This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.

授業の内容

Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocabulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introductions and class objectives.
 - 第2回 Journal notebook check #1 Written introduction.
 - 第3回 Journal week 2 Story Research, Roswell.
 - 第4回 Morning After, Character review.
 - 第5回 Natural pronunciation Pg. 5
 - 第6回 Journal week 5 Listening Acting Scene.
 - 第7回 285 South
 - 第8回 Journal 7 Riverdog – Acting Scene.
 - 第9回 Blood Brothers – Story Summary
 - 第10回 Journal 9 Heat Wave – Rewrite Questions.
 - 第11回 Final Journal 10 Story Review.
 - 第12回 Toy House Questions and Answers.
 - 第13回 Scene Review
 - 第14回 Final Reports
 - 第15回 Final Papers and Presentations.
-

授業以外での学習方法

A B5 Journal Notebook is required for taking daily notes, word list and assigned homework. Teacher will check 10 times for a journal homework grade.

教科書**参考書****成績評価**

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I B <h>

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 リーディングセクション概説
 - 第2回 Part 5 攻略① 重要語句
 - 第3回 Part 6 攻略① 手紙
 - 第4回 Part 7 1 文書 攻略① 案内文
 - 第5回 Part 5 攻略② 名詞
 - 第6回 Part 6 攻略② 広告
 - 第7回 Part 7 2 文書 攻略① 行程表
 - 第8回 Part 5 攻略③ イディオム
 - 第9回 Part 7 1 文書 攻略② e-mail
 - 第10回 Part 7 2 文書 攻略② 手紙
 - 第11回 Part 5 攻略④ 総合問題
 - 第12回 Part 6 攻略③ 告知文
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 5・6
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 7
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Mastery Drills for the TOEIC Listening TARGET400

著者： 早川幸治

出版社： 桐原書店

出版年： 2011年

ISBN: 9.78434E+12

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 1

著者： David Bramley

出版社： 松柏社

出版年： 2007年

ISBN: 9.78488E+12

新TOEIC Test 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ出版

出版年： 2007年

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I B <i>

担当者 プライアンバスカウエル

テーマ

Expressing Your Ideas in English

獲得目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

授業の内容

内 容

- 第1回 introductions
 - 第2回 classroom English
 - 第3回 student interviews-A
 - 第4回 student interviews-B
 - 第5回 likes
 - 第6回 dislikes
 - 第7回 abilities
 - 第8回 describing people-A
 - 第9回 describing people-B
 - 第10回 families
 - 第11回 occupations-A
 - 第12回 occupations-B
 - 第13回 experiences
 - 第14回 sports
 - 第15回 review of topics
-

授業以外での学習方法

教科書

Talk a Lot: Book One – Second Edition

著者: David Martin

出版社: EFL Press

出版年:

ISBN: 4.58024E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I B <j>

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Using English for Communication

獲得目標

Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context

授業の内容

This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation
 - 第2回 Introductions
 - 第3回 Greetings: Hello
 - 第4回 Greetings: Goodbye
 - 第5回 Naming things
 - 第6回 Object locations
 - 第7回 Finding things
 - 第8回 Talking about cities and countries
 - 第9回 Giving information about place of origin, nationality
 - 第10回 Numbers and ages
 - 第11回 Describing people
 - 第12回 Clothing and colors
 - 第13回 Clothing and present continuous
 - 第14回 Clothing and seasons
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

Review Textbook

教科書

Interchange 4th Edition Intro Student's Book A

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

Interchange 4th Ed Intro Workbook A

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (55)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

参考URL

2013 Syllabus**科目名 英語 I B <k>****担当者 小川 享子**

テーマ

TOEICテスト準備を介して実用的な英語力を養う

獲得目標

TOEICテストにおけるリーディング力、文法力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

旅行、ショッピングなど様々なシチュエーションごとに、TOEICテスト形式に沿った問題演習を行う。その中で必要な語彙を整理していく。文法は、品詞の選び方、時制など基本的な文法項目別を整理しながら、演習を行う。最後に各省ごとの単語リストを使っての語彙・文法の復習する。

内 容

- 第1回 教科書の特徴の説明とUnit1 Shopping
- 第2回 Unit1 Shopping
- 第3回 Unit2 Restaurant
- 第4回 Unit2 Restaurant Unit3 Entertainment
- 第5回 Unit 3 Entertainment Unit 4 Job Hunting
- 第6回 Unit 4 Job Hunting Unit 5 Hotel Stay
- 第7回 Unit 5 Hotel Stay Unit 6 Business
- 第8回 Unit 6 Business Unit 7 Sports
- 第9回 Unit 7 Sports Unit 8 Education
- 第10回 Unit 8 Education まとめ
- 第11回 Review Test
- 第12回 Review Test
- 第13回 模擬テスト
- 第14回 模擬テスト
- 第15回 模擬テスト

授業以外での学習方法

特に各章ごとの単語・文法リストの書入れ、復習。

教科書

Aim High for the TOEIC Test

著者： 塩見佳代子、Richard Silver、滝田尚広

出版社： 成美堂

出版年： 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 ()

小テスト (45)

授業中発表等 (15)

aks201a261

上記に加えて前期末英語テスト(TOEIC) 20% 小テストにまとめの試験を含まれる。授業中課題に宿題や授業中の発表が含まれる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I B <I>

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進捗等を調整することがある。

内 容

- 第1回 リーディングセクション概説
 - 第2回 Part 5 攻略① 重要語句
 - 第3回 Part 6 攻略① 手紙
 - 第4回 Part 7 1 文書 攻略① 案内文
 - 第5回 Part 5 攻略② 名詞
 - 第6回 Part 6 攻略② 広告
 - 第7回 Part 7 2 文書 攻略① 行程表
 - 第8回 Part 5 攻略③ イディオム
 - 第9回 Part 7 1 文書 攻略② e-mail
 - 第10回 Part 7 2 文書 攻略② 手紙
 - 第11回 Part 5 攻略④ 総合問題
 - 第12回 Part 6 攻略③ 告知文
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 5・6
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 7
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Mastery Drills for the TOEIC Listening TARGET400

著者： 早川幸治

出版社： 桐原書店

出版年： 2011年

ISBN: 9.78434E+12

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 1

著者： David Bramley

出版社： 松柏社

出版年： 2007年

ISBN: 9.78488E+12

新TOEIC Test 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ出版

出版年： 2008年

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus**科目名 英語 I B <m>**

担当者 溝部 芳子

テーマ

英語で知る日本の企業像

獲得目標

関西に基盤を置く企業を紹介した英文を読み、語彙力と読解力の向上をめざす。

授業の内容

関西に基盤を置く12の企業を紹介した平易な英文を読み、さまざまなタスクを行います。英文を通じて企業への関心や理解を深めます。コースの終盤では企業を紹介するプレゼンテーションに挑戦します。

内 容

- 第1回 Introduction. Class Rules.
 - 第2回 Chapter 1: Bringing Water to Life
 - 第3回 Chapter 1: Bringing Water to Life
 - 第4回 Chapter 2: Handling Eggs Carefully
 - 第5回 Chapter 2: Handling Eggs Carefully
 - 第6回 Chapter 3: Inspiration from Everyday Life
 - 第7回 Chapter 3: Inspiration from Everyday Life
 - 第8回 Chapter 4: Passing on the Best Works to Future Generations
 - 第9回 Chapter 4: Passing on the Best Works to Future Generations
 - 第10回 Chapter 6: Delivering Inspiration, Efficiency and Comfort
 - 第11回 Chapter 6: Delivering Inspiration, Efficiency and Comfort
 - 第12回 Chapter 7: Ink Jet Printers from Wakayama to the World
 - 第13回 Chapter 7: Ink Jet Printers from Wakayama to the World
 - 第14回 Presentation
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

授業内で指示します。

教科書

A visit to Amazing Kansai-based Companies

著者： 井上 治 ・ 吉野成美 他

出版社： 松柏社

出版年：

ISBN: 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I B <n>

担当者 ビショップ マイケル

テーマ

This English course teaches clear expression of thoughts.

獲得目標

In this course, students are guided through the process of writing clear paragraphs. They learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of paragraphs. At the end of the course students will be able to see how paragraphs work together to make short essays.

授業の内容

This course will be taught in English. Students will need to do pair and group work in order to express themselves in English. They will also be required to produce paragraph writing during class time and for homework.

内 容

- 第1回 Class and study requirements; 'Break the ice' activity.
 - 第2回 What is a paragraph?: Format and punctuation
 - 第3回 What is a paragraph?: Format and punctuation
 - 第4回 The Topic Sentence
 - 第5回 The Topic Sentence
 - 第6回 Supporting Sentence
 - 第7回 Supporting Sentence
 - 第8回 Time Order
 - 第9回 Time Order
 - 第10回 Space Order
 - 第11回 Space Order
 - 第12回 Process and Direction
 - 第13回 Process and Direction
 - 第14回 Cause and Effect
 - 第15回 Cause and Effect
-

授業以外での学習方法

Students will need to attend regularly, be on time, and to submit homework on time. Students should bring a good dictionary to each class. Students are expected to read widely in both Japanese and English as a part of their university education. Self-stud

教科書

Get Your Message Across: Writing Cummmunicative Paragraphs

著者: Hisataka Jimbo et al

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2012/3/14

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験 (35)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I B <○>

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC 形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 リーディングセクション概説
 - 第2回 Part 5 攻略① 重要語句
 - 第3回 Part 6 攻略① 手紙
 - 第4回 Part 7 1 文書 攻略① 案内文
 - 第5回 Part 5 攻略② 名詞
 - 第6回 Part 6 攻略② 広告
 - 第7回 Part 7 2 文書 攻略① 行程表
 - 第8回 Part 5 攻略③ イディオム
 - 第9回 Part 7 1 文書 攻略② e-mail
 - 第10回 Part 7 2 文書 攻略② 手紙
 - 第11回 Part 5 攻略④ 総合問題
 - 第12回 Part 6 攻略③ 告知文
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 5・6
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 7
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Mastery Drills for the TOEIC Listening TARGET400

著者： 早川幸治

出版社： 桐原書店

出版年： 2011年

ISBN: 9.78434E+12

Reach Your Target for the TOEIC Test Workbook 1

著者： David Bramley

出版社： 松柏社

出版年： 2007年

ISBN: 9.78488E+12

新TOEIC Test 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ出版

出版年： 2008年

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I B <p>

担当者 松村 優子

テーマ

英文読解、語彙・表現の修得

獲得目標

Readingを中心に据えて、本文の内容理解力、トピック関連語彙・表現力を高めることを目指す。

授業の内容

毎回、英文記事の読解・リスニングを通して、内容を確認し、構文・表現を学習する。発表形式も採り入れる。下記の計画は予定であり、授業の進捗状況や受講生の希望により順序など変更することもある。

内 容

- 第1回 Introduction
 - 第2回 Unit 1 Exam Time
 - 第3回 Unit 1 Exam Time
 - 第4回 Unit 2 Going Abroad
 - 第5回 Unit 2 Going Abroad
 - 第6回 Unit 3 Movie Makers
 - 第7回 Unit 3 Movie Makers
 - 第8回 Unit 4 Young Athletes
 - 第9回 Unit 4 Young Athletes
 - 第10回 Unit 5 The Amazing Human Body
 - 第11回 Unit 5 The Amazing Human Body
 - 第12回 Unit6 Leisure Time
 - 第13回 Unit6 Leisure Time
 - 第14回 まとめ・復習テスト
 - 第15回 まとめ・復習テスト
-

授業以外での学習方法

指定箇所の予習・復習

教科書

Active Skills for Reading 2 Third Edition

著者: Anderson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (15)

小テスト (60)

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I B <q>**

担当者 スミス ジョン

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

獲得目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の内容

This course will be taught in English. There are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

内 容

- 第1回 Self-introduction
 - 第2回 Getting to know the teacher and classmates
 - 第3回 Hobbies and interests
 - 第4回 Appearance adjectives
 - 第5回 Describing friends
 - 第6回 Family
 - 第7回 Daily activities and routines
 - 第8回 Comparisons
 - 第9回 Talking about one's home
 - 第10回 Describing places
 - 第11回 Giving directions
 - 第12回 Prepositions
 - 第13回 Important life events
 - 第14回 Talking about weekends
 - 第15回 Summer plans and course review.
-

授業以外での学習方法

教科書

English Firsthand 1

著者: Marc Helgesen, Steven Brown

出版社: Pearson Longman

出版年: 2010

ISBN: 978-988-00-3059

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

aks201a267

The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I B** <r>

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 文の構造
 - 第2回 名詞 I : 名詞・代名詞
 - 第3回 名詞 II : 可算/不可算名詞
 - 第4回 形容詞・副詞
 - 第5回 動詞・助動詞
 - 第6回 時制
 - 第7回 イディオム
 - 第8回 一致
 - 第9回 分詞・動名詞・不定詞
 - 第10回 関係詞
 - 第11回 接続詞・前置詞・特殊構文
 - 第12回 比較・仮定法
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 5.6
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 7
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Power Charge for the TOEIC Test

著者： 西田晴美/吉田佳代

出版社： 金星堂

出版年： 2009年

ISBN: 9.78476E+12

A Shorter Course in EVERYDAY VOCABULARY QUIZZ

著者： 佐藤誠司

出版社： 南雲堂

出版年： 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ出版

出版年： 2008年

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I B <s>**

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Acting English Drama

獲得目標

This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.

授業の内容

Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocabulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introductions, Class Objectives
 - 第2回 Journals Homework #1 Introduction.
 - 第3回 The Alien Truth - Story Research
 - 第4回 Journals week 3 Pronunciation Pg. 5
 - 第5回 Leaving Normal - Acting Scene.
 - 第6回 Episode 5 Missing Q - A
 - 第7回 Journals week 6 Kyle and Liz Scene
 - 第8回 Episode 7 Riverdog - Acting
 - 第9回 Story Review - Tell the story.
 - 第10回 Episode 9 Heat Wave
 - 第11回 Final Journals week 10
 - 第12回 Presentations - Reports
 - 第13回 Toy House - Acting Scene
 - 第14回 Into the Woods
 - 第15回 The Convention - Q and A
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I B <t>**

担当者 ヒエタラフティ エルッキ.栗田 梨津子

テーマ

Basic to early intermediate English conversation.

獲得目標

Student improvement on all four macro skills of basic English conversation.

授業の内容

****This course will be taught in English**** Using the textbook and various forms of multimedia, this class will focus around everyday use of the English language in a realistic context.

内 容

- 第1回 Class introduction and explanation
 - 第2回 Begin Unit 2 "In class"
 - 第3回 Continue Unit 2
 - 第4回 Finish Unit 2
 - 第5回 Begin Unit 3 "Favorite people"
 - 第6回 Continue Unit 3
 - 第7回 Finish Unit 3
 - 第8回 Midterm review on Units 2 and 3
 - 第9回 Begin Unit 4 "Everyday life"
 - 第10回 Continue Unit 4
 - 第11回 Finish Unit 4
 - 第12回 Begin Unit 5 "Free time"
 - 第13回 Continue Unit 5
 - 第14回 Finish Unit 5
 - 第15回 Review and recap of semester
-

授業以外での学習方法

****There are many free and fun ESL websites online that cater to all levels. ****Watching your favorite DVDs WITHOUT subtitles is also a fun way to learn!

教科書

Touchstone 1

著者: Michael McCarthy, etal

出版社: Cambridge

出版年: 2005

ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (15)

参加度 (20)

小テスト (15)

授業中発表等 (20)

Tests and homework are important, but so is IN CLASS participation, performance, and attitude.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I B <u>

担当者 プライアンバスカウエル

テーマ

Expressing Your Ideas in English

獲得目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

授業の内容

内 容

- 第1回 introductions
 - 第2回 classroom English
 - 第3回 student interviews-A
 - 第4回 student interviews-B
 - 第5回 getting acquainted
 - 第6回 experiences-A
 - 第7回 experiences-B
 - 第8回 sports & leisure
 - 第9回 money
 - 第10回 shopping
 - 第11回 food-A
 - 第12回 food-B
 - 第13回 travel-A
 - 第14回 travel-B
 - 第15回 review
-

授業以外での学習方法

教科書

Let's Chat

著者: John Pak

出版社: EFL Press

出版年: 2007

ISBN: 4.58024E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I B <v>

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 表・用紙 (Part 7)
 - 第2回 手紙・Eメール (Part 7)
 - 第3回 品詞 (Part 5)
 - 第4回 動詞 (Part 5)
 - 第5回 広告 (Part 7)
 - 第6回 ダブルパッセージ (2つの文書) (Part 7)
 - 第7回 代名詞・関係代名詞 (Part 5)
 - 第8回 接続詞・前置詞 (Part 5)
 - 第9回 Part 7 (読解問題)の復習
 - 第10回 Part 5 (短文穴埋め問題)の復習
 - 第11回 時制・代名詞・語彙問題 (Part 6)
 - 第12回 つなぎ言葉 (Part 6)
 - 第13回 Part 6 (長文穴埋め問題)の復習
 - 第14回 各パート攻略法 復習
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

教科書

Mastery Drills for the TOEIC TEST All in One TARGET

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2011年

ISBN: 9.78434E+12

Mastery Drills for the TOEIC Grammer TARGET 400

著者: 早川幸治

出版社: 桐原書店

出版年: 2011年

ISBN: 9.78434E+12

参考書

成績評価

試験（30）

小テスト（20）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I B <w>**

担当者 溝部 芳子

テーマ

英語で知る日本の企業像

獲得目標

関西に基盤を置く企業を紹介した英文を読み、語彙力と読解力の向上をめざす。

授業の内容

関西に基盤を置く12の企業を紹介した平易な英文を読み、さまざまなタスクを行います。英文を通じて企業への関心や理解を深めます。コースの終盤では企業を紹介するプレゼンテーションに挑戦します。

内 容

- 第1回 Introduction. Class Rules.
 - 第2回 Chapter 1: Bringing Water to Life
 - 第3回 Chapter 1: Bringing Water to Life
 - 第4回 Chapter 2: Handling Eggs Carefully
 - 第5回 Chapter 2: Handling Eggs Carefully
 - 第6回 Chapter 3: Inspiration from Everyday Life
 - 第7回 Chapter 3: Inspiration from Everyday Life
 - 第8回 Chapter 4: Passing on the Best Works to Future Generations
 - 第9回 Chapter 4: Passing on the Best Works to Future Generations
 - 第10回 Chapter 6: Delivering Inspiration, Efficiency and Comfort
 - 第11回 Chapter 6: Delivering Inspiration, Efficiency and Comfort
 - 第12回 Chapter 7: Ink Jet Printers from Wakayama to the World
 - 第13回 Chapter 7: Ink Jet Printers from Wakayama to the World
 - 第14回 Presentation
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

授業内で指示します。

教科書

A visit to Amazing Kansai-based Companies

著者: 井上 治・吉野成美 他

出版社: 松柏社

出版年:

ISBN: 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I B <x>**

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進捗等を調整することがある。

内 容

- 第1回 コンピュータ社会
 - 第2回 ビジネス
 - 第3回 オフィス
 - 第4回 車社会
 - 第5回 食生活
 - 第6回 ショッピング
 - 第7回 娯楽
 - 第8回 事故・犯罪
 - 第9回 教育・学問
 - 第10回 医療・病院
 - 第11回 金融・銀行
 - 第12回 経済・産業
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 5・6
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 7
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Total Strategy for the TOEIC Test

著者： 石井隆之/山口修

出版社： 成美堂

出版年： 2006年

ISBN: 9.78479E+12

A Shorter Course in EVERYDAY VOCABULARY QUIZZ

著者： 佐藤誠司

出版社： 南雲堂

出版年： 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test 直前対策模試

著者： 柴山かつの

出版社： Jリサーチ出版

出版年： 2008年

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語 I B <y>

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Using English for Communication

獲得目標

Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context

授業の内容

This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation
 - 第2回 Introductions
 - 第3回 Greetings: Hello
 - 第4回 Greetings: Goodbye
 - 第5回 Naming things
 - 第6回 Object locations
 - 第7回 Finding things
 - 第8回 Talking about cities and countries
 - 第9回 Giving information about place of origin, nationality
 - 第10回 Numbers and ages
 - 第11回 Describing people
 - 第12回 Clothing and colors
 - 第13回 Clothing and present continuous
 - 第14回 Clothing and seasons
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

Review Textbook

教科書

Interchange 4th Ed Intro Student's Book A

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

Interchange 4th Ed Intro Workbook A

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (55)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I B <z>**

担当者 小川 享子

テーマ

TOEICテスト準備を介して実用的な英語力を養う

獲得目標

TOEICテストにおけるリーディング力、文法力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

旅行、ショッピングなど様々なシチュエーションごとに、TOEICテスト形式に沿った問題演習を行う。その中で必要な語彙を整理していく。文法は、品詞の選び方、時制など基本的な文法項目別に整理しながら、演習を行う。最後に各省ごとの単語リストを使っての語彙・文法の復習する。

内 容

第8回 Unit 7 Sports Unit 8 Education
 第9回 Unit 8 Education まとめ
 第10回 Review Test
 第11回 Review Test
 第12回 模擬テスト
 第13回 模擬テスト
 第14回 模擬テスト
 第15回 模擬テスト
 第1回 授業の進め方とUnit 1 Shopping
 第2回 Unit 1 Shopping Unit 2 Restaurant
 第3回 Unit 2 Restaurant Unit 3 Entertainment
 第4回 Unit 3 Entertainment Unit 4 Job Hunting
 第5回 Unit 4 Job Hunting Unit 5 Hotel Stay
 第6回 Unit 5 Hotel Stay Unit 6 Business
 第7回 Unit 6 Business Unit 7 Sports

授業以外での学習方法

各章ごとの語彙・文法リストの書き込み、復習

教科書

Aim High for the TOEIC Test

著者： 塩見佳代子、Richard Silver、滝田尚広

出版社： 成美堂

出版年： 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (15)

小テスト (45)

授業中発表等 ()

aks201a276

上記に加えて前期末英語テスト(TOEIC) 20% 小テストにまとめの試験が含まれる。授業中課題に宿題や授業中の発表が含まれる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I B <Pa>**

担当者 ヒエタラフティ エルッキ.ピシヨップ マイケル

テーマ

Basic to early intermediate English conversation.

獲得目標

Student improvement on all four macro skills of basic English conversation.

授業の内容

****This course will be taught in English**** Using the textbook and various forms of multimedia, this class will focus around everyday use of the English language in a realistic context.

内 容

- 第1回 Class introduction and explanation
 - 第2回 Begin Unit 2 "In class"
 - 第3回 Continue Unit 2
 - 第4回 Finish Unit 2
 - 第5回 Begin Unit 3 "Favorite people"
 - 第6回 Continue Unit 3
 - 第7回 Finish Unit 3
 - 第8回 Review and reflection of Units 2 and 3
 - 第9回 Begin Unit 4 "Everyday life"
 - 第10回 Continue Unit 4
 - 第11回 Finish Unit 4
 - 第12回 Begin Unit 5 "Free time"
 - 第13回 Continue Unit 5
 - 第14回 Finish Unit 5
 - 第15回 Review and recap of semester
-

授業以外での学習方法

****There are many free and fun ESL websites online that cater to all levels. ****Watching your favorite DVDs **WITHOUT** subtitles is also a fun way to learn!

教科書

Touchstone 1

著者: Michael McCarthy, etal

出版社: Cambridge

出版年: 2005

ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (15)

参加度 (20)

小テスト (15)

授業中発表等 (20)

aks201a277

Tests and homework are important, but IN CLASS performance and attitude are also very important. If you do not attend class, you will not pass.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I B <Pb>**

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Acting English Drama

獲得目標

This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.

授業の内容

Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocabulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introductions, Class objectives Pg. 1
 - 第2回 Journal Notebook Homework #1 – Intro.
 - 第3回 Journal week 2 – Story Research, Roswell.
 - 第4回 Natural Pronunciation Pg.5
 - 第5回 Journal week 4 Roswell Characters an actors.
 - 第6回 285 South – Pg.15 Questions.
 - 第7回 Journal week 6 – Riverdog Pg.17, Vocabulary.
 - 第8回 Blood Brother Pg 19, Acting Scene.
 - 第9回 Journal week 8 – Heat Wave.
 - 第10回 Toy House Pg.30 – Story Summary
 - 第11回 Final Journal 10 – Acting Scene.
 - 第12回 Actor Reports, Presentations.
 - 第13回 Into the Woods – Episode 12.
 - 第14回 The Convention – Acting Scene Review.
 - 第15回 Final Papers and Reports.
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語 I B <R>**

担当者 杉山 泰

テーマ

文化的基礎知識 (Culture Literacy) を最大限生かしながら、基礎英語を利用して日本文化を発信していく。

獲得目標

日本語は世界の6000語の言語の中で10位以内に入る大言語であり、人口も193の国連加盟国の中で10位に位置している。日本食も国連でMacrobioticsとして健康食と認められ、トム・クルーズもマドンナも実践している。寿司バーも世界中にあり、日本食もミッシェランの三つ星で選ばれるようになった。「おでん」や「お好み焼き」をさて、どう世界の人に英語で伝えていくのか。発信型の英語を学んでいきたい。

授業の内容

テキストの問題を毎回やって、プリントを提出してもらう。中学基礎英語でどれだけの日本文化を伝えられるのか、実践していく。毎回、教科書と辞書を持って、英語で日本文化を伝えていくので、参加することが大切。

内 容

- 第1回 自己紹介。Lesson 1 There is 構文。(京都に何があるのか、金閣寺や銀閣寺、御所や京料理を英語で紹介できるか?)
 - 第2回 Lesson 2 オノマトピア研究。(「春の海ひねもすのたりのたりにかな」を英語で訳せるか?)
 - 第3回 lesson 3 「こ・そ・あ・ど」体系の日本語とThis / That / Itはどう違う。(新聞社の時事英語試験はどんなもの?)
 - 第4回 Lesson 4 能動態と受動態 (I am excited.とFootball is exciting.はどう違う?)
 - 第5回 Lesson 5 同格のthat (I have a feeling that the Nankai earthquake will happen soon.構文=…という気がする)
 - 第6回 Lesson 6 現在分詞と過去分詞 (「現在進行形」と「受動態」と「現在完了形」)
 - 第7回 Lesson 7 分詞構文 (オバマ大統領好みの英文。文と文とのつなぎ方)
 - 第8回 Lesson 8 仮定法 (起こりえないからこそシミュレーションをする英語的発想=原発が万一爆発したら…)
 - 第9回 Lesson 9 接続詞 (It is ... that ...の3つの構文)
 - 第10回 Lesson 10 形容詞の研究 (比較級のない日本語「僕のほうが重い」でいかに比較するのか?)
 - 第11回 Lesson 11 動名詞構文 (I had fun visiting the U.K.構文)
 - 第12回 Lesson 12 動詞+er=～する人(もの) (He is a trouble maker.構文=S+V+C構文の不思議)
 - 第13回 Lesson 13 節と句(前置詞と「て・に・を・は」の比較)
 - 第14回 Lesson 14 不定冠詞(a)と定冠詞(the) (日本語の「は」と「が」の違いを英語でどう説明するのか?)
 - 第15回 Lesson 15 日英文化のまとめ (道路標識に見るイギリス文化=RoundaboutとGive Way)
-

授業以外での学習方法

レストランや寺社仏閣での英語パンフレット収集。日本文化がどう英語に訳されているのかを調べてもらう。

教科書

Eye Opening Facts

著者: 杉山 泰

出版社: 朝日出版社

出版年: 2005年

ISBN:

参考書

心にとどく英語

著者: マーク・ピーターセン

出版社: 岩波新書

出版年: 1999年

ISBN:

日本語は敬語があって主語がない

著者： 金谷武洋

出版社： 光文社新書

出版年： 2010年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

毎回の教科書とプリントの提出がなければ出席を認めない。ただ、病気、就職試験などで欠席した場合も、自宅学習をして遅れて提出があれば、「遅れの出席」を認める。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢA <a>

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 Daily Life 生活関連
 - 第2回 Shopping 買い物
 - 第3回 Restaurant レストラン
 - 第4回 Travel 旅行(空港など)
 - 第5回 People and Professions さまざまな職種
 - 第6回 Office 会社(オフィス)
 - 第7回 Recruitment 人事(求人・求職)
 - 第8回 Manufacturing 製造関連
 - 第9回 Marketing マーケティング
 - 第10回 Business Finance and Economy 経済・財務
 - 第11回 Weather Forecast 天気予報
 - 第12回 Government and Other Organizations 政府
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 1・2
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 3・4
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Target on the TOEIC TEST Starter

著者: 水本篤

出版社: 金星堂

出版年: 2010年

ISBN: 9.78476E+12

A Shorter Course in TOEIC TEST in VOCABULARY QUIZZ

著者: 佐藤誠司

出版社: 南雲堂

出版年: 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 2

著者: 小山克明

出版社: Z会

出版年: 2008年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅢA **

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research a topic and express your findings in English

獲得目標

This course will aim to improve basic English speaking and writing skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing an individual research topic.

授業の内容

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will prepare weekly short talks and blog entries about their topic. We will also focus on various tools for autonomously improving your English speaking and writing skills.

内 容

- 第1回 Introduction + allotment of topics
 - 第2回 Keeping a research log
 - 第3回 Recording monologues
 - 第4回 Writing blog entries
 - 第5回 Pronunciation: tools & tactics
 - 第6回 Peer practice & Feedback
 - 第7回 Logging vocabulary
 - 第8回 Effective use of Internet translation
 - 第9回 Using writing feedback symbols
 - 第10回 Internet grammar reference tools
 - 第11回 Using Internet searches for language feedback
 - 第12回 Creating a class wiki
 - 第13回 Presenting your research
 - 第14回 Final Presentations (I)
 - 第15回 Final Presentations (II)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (35)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (35)

参考URL

2013 Syllabus**科目名 英語ⅢA <c>****担当者** ビショップ マイケル**テーマ**

This course will enable students to more fully benefit from their private English language reading.

獲得目標

The purpose of this course is to refine English language skills developed in previous years. It is hoped that by improving their understanding of written passages students will be more confident in speaking. This outcome is expected since students are asked to actively examine the structure of written texts which simultaneously augment the range of topics about which they have something to say.

授業の内容

The main component of this well-rounded course, which is taught in English, is a reading passage upon which a series of exercises is based. These exercises develop reading comprehension, vocabulary building, phrase building, grammar accuracy, listening comprehension, and discussion skills. Students need to actively participate in pair and group tasks if they desire a high grade. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Class requirements; 'Breaking the Ice' activity
- 第2回 1 One Laptop Per Child
- 第3回 2 Green Profits
- 第4回 3 Italy's Fashion Kings
- 第5回 Review of lessons 1 to 3
- 第6回 4 Viral Marketing
- 第7回 5 The NBA Goes Global
- 第8回 6 The Gossip Media
- 第9回 Review of lessons 4 to 6
- 第10回 7 Replanting the World's Forests
- 第11回 8 Adventure Tourism
- 第12回 Review of lessons 7 to 8
- 第13回 9 The Cannes Film Festival
- 第14回 Review of Lessons 9 to 10
- 第15回 Review of Lessons 1 to 10

授業以外での学習方法

Students are expected to read widely in both English and Japanese in their own time. Punctuality, regular attendance, and active participation in activities are mandatory.

教科書

Reading Pass 2

著者: Andrew E. Bennett

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2012/3/14

ISBN: 9.78452E+12

参考書**成績評価**

試験 (35)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

aks202a113

Punctuality, regular attendance, and active participation in class are essential for those wishing a high grade. Students should have a good dictionary.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢA <d>

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 英語のチャンクを聞き取る(Part 1 対策)
 - 第2回 不動産・マーケティング①(Part 2 対策)
 - 第3回 不動産・マーケティング②(Part 3 対策)
 - 第4回 金融①(Part 4 対策)
 - 第5回 金融②(Part 3.4 対策)
 - 第6回 テレコミュニケーション(Part 2 対策)
 - 第7回 業務①(Part 3 対策)
 - 第8回 業務②(Part 1 対策)
 - 第9回 人事・雇用①(Part 2 対策)
 - 第10回 人事・雇用②(Part 3.4 対策)
 - 第11回 運輸・交通①(Part 3.4 対策)
 - 第12回 運輸・交通②(Part 3.4 対策)
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 1・2
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 3・4
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald

著者: ECC

出版社: ECC

出版年: 2012年

ISBN:

A Shorter Course in TOEIC TEST in VOCABULARY QUIZZ

著者: 佐藤 誠司

出版社: 南雲堂

出版年: 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 2

著者: 小山 克明

出版社: Z会

出版年: 2007年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus**科目名 英語ⅢA <e>****担当者 田中 美和子****テーマ**

英語で自分の意見を発信できるようになる

獲得目標

総合的な英語力の養成

授業の内容

前期はリスニング力および語彙力をつけるために、チームで協調して学びながら、自分の意見を発信できるようになることを目標に勉強します。目標をたてて、英語のリスニング、および英語表現を勉強していきましょう。前期において、特に重要なポイントは、リスニング力をつけること、そして意見のまとめ方を練習することです。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Chapter1 Do You Want to Be Famous?
- 第3回 Listening: Words
- 第4回 Chapter2 Facebook Me
- 第5回 Listening:S+V
- 第6回 Chapter3 Breaking Rules
- 第7回 Listening:Adjective + Noun
- 第8回 Chapter4 The Sudoku Craze
- 第9回 Listening: Numbers
- 第10回 Chapter5 Here's Your Allowance
- 第11回 Listening: S, th
- 第12回 Chapter6 Picky Eaters
- 第13回 Listening: S, sh
- 第14回 Chapter7 Brain Training
- 第15回 理解度調査とまとめ

授業以外での学習方法

教科書をよく読み、単語を調べておきましょう。英語辞書や自分で興味がもてる文法書を用意しましょう。

教科書

PRISM Listening Book1 red

著者： 藤澤慶巳, Timothy Kiggell

出版社： マクミランランゲージハウス

出版年： 2009

ISBN: 9.78478E+12

参考書

総合英語フォレスト6th edition

著者： 石黒昭博

出版社： 桐原書店

出版年： 2009

ISBN: 9.78434E+12

成績評価

aks202a115

試験 (30)
授業中課題 ()
参加度 (30)

小テスト (20)
授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅢA <f>**

担当者 小川 享子

テーマ

TOEICテスト受験準備を介して実用的な英語力を養う。

獲得目標

TOEICテストにおけるリスニング力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

1時間の授業で、2章ずつ進む予定。各章についている単語確認の練習問題を毎回小テストとする。リスニングを行ったあと、スクリプトで語彙を確認していく。

内 容

- 第1回 授業の進め方、評価方法の説明 Unit 1 Office, Unit 2 Restaurant
 - 第2回 Unit 3 Department Store Unit 4 Airport
 - 第3回 Unit 5 Bank Unit 7 Duty-free Shop
 - 第4回 Unit 8 Travel Unit 9 Rent-a-Car
 - 第5回 Unit 10 Fitness Center Unit 11 Job Training
 - 第6回 Unit 13 Business Trip Unit 14 Vacation
 - 第7回 Unit 15 Pay Unit 16 Exhibition
 - 第8回 Unit 17 Shopping Unit 19 Hospital
 - 第9回 Unit 20 Train Station Unit 21 Presentation
 - 第10回 Unit 22 Lecture Unit 23 Contract
 - 第11回 Review
 - 第12回 Review
 - 第13回 模擬テスト
 - 第14回 模擬テスト
 - 第15回 模擬テスト
-

授業以外での学習方法

語彙の予習、復習、表現の整理、リスニングの復習

教科書

Listening Promoter for the TOEIC Test

著者： 石井隆之、山口修、他

出版社： 成美堂

出版年： 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (15)

小テスト (45)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢA <g>

担当者 山崎 清水

テーマ

総合的な英語運用能力を習得

獲得目標

日常会話が可能になる英語運用能力を習得することを目指す。

授業の内容

海外旅行において最低限必要な会話を演習する。

内 容

- 第1回 Traveling on Airlines
 - 第2回 Going through Immigration
 - 第3回 Meeting a Host Family
 - 第4回 Ordering in Fast-food Restaurants
 - 第5回 Shopping
 - 第6回 Buying Gifts in Department Stores
 - 第7回 Paying with Traveler's Cheques
 - 第8回 Choosing a Hotel
 - 第9回 Making Hotel Reservations
 - 第10回 Making Friends Abroad
 - 第11回 Cooking Together
 - 第12回 Reserving Tables at Restaurants
 - 第13回 Mailing a Packages
 - 第14回 Staying Healthy Abroad
 - 第15回 Spending Time while in Transit
-

授業以外での学習方法

予習すること。詳細は授業で説明する。

教科書

Enjoy Your Trip

著者: William A. O'Donnell / 芝垣 哲夫

出版社: センゲージラーニング

出版年: 2012

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢA <h>

担当者 久保田 美佳

テーマ

時事英語への導入。

獲得目標

比較的平易な英語で書かれた英文記事が読めるようになる。時事英語に関連した基本語彙を学習する。授業で検討したそれぞれの社会的問題についての意識を高める。英語の音とリズムに慣れる。

授業の内容

英文テキストの内容を正確に読み取る練習をします。また、付属の音源を使って英語の音とリズムに慣れる練習をします。

内 容

- 第1回 Introduction Chapter 1 Freeters and NEETS
 - 第2回 Chapter 1 Freeters and NEETS
 - 第3回 Chapter 2 Low Birth Rate
 - 第4回 Chapter 2 Low Birth Rate
 - 第5回 Chapter 3 Working Poor
 - 第6回 Chapter 3 Working Poor
 - 第7回 Review
 - 第8回 Chapter 4 Net Cafe Refugee
 - 第9回 Chapter 4 Net Cafe Refugee
 - 第10回 Chapter 5 Loser Dog
 - 第11回 Chapter 5 Loser Dog
 - 第12回 Chapter 6 False Accusation
 - 第13回 Chapter 6 False Accusation
 - 第14回 Summary
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

語彙の復習は欠かさず行い定着させ、授業外でも音読をするなどして毎日英語に触れる習慣を付けるようにして下さい。

教科書

Keywords for Japan Today

著者: Paul Stapleton

出版社: Cengage Learning

出版年: 2008

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (80)

授業中発表等 ()

小テストを定期的に行い習熟度をチェックして行きます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢA <i>

担当者 溝部 芳子

テーマ

やさしい英語で情報発信しよう！

獲得目標

海外旅行、e-mail、アルバイト先などの実践的な場面で役立つ基礎的な英語ライティングスキルの獲得をめざす。

授業の内容

サンプル英文をよみ、必須の文法事項を確認したうえで、毎回ライティングタスクに取り組みます。コース終盤では書き溜めたタスクをもとに個人プレゼンテーションに挑戦します。

内 容

- 第1回 Overview. Unit 1:Self Introduction
 - 第2回 Unit 2: My Family, My Friends
 - 第3回 Unit 3: My Room
 - 第4回 Review Practice(1)
 - 第5回 Unit 4: Everyday Activities
 - 第6回 Unit 5: Recipes
 - 第7回 Review Practice(2)
 - 第8回 Unit 6: Introducing My Town
 - 第9回 Unit 7: Asking Questions
 - 第10回 Unit 8: Diary
 - 第11回 Review Practice (3)
 - 第12回 Unit 9: Making a Reservation
 - 第13回 Unit 10: Writing a Postcard
 - 第14回 Review Practice (4)
 - 第15回 Presentation
-

授業以外での学習方法

授業内で指示します。

教科書

New English Composition Workbook

著者: Kazuyo Murata & Mami Otani

出版社: マクミランランゲージハウス

出版年: 2012.1.20

ISBN: 9.78478E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢA <j>

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 At the Office (会社にて) (Part 1.2)
 - 第2回 At a Restaurant (レストランにて) (Part 3.4)
 - 第3回 At a Hotel (ホテルにて) (Part 1.2)
 - 第4回 At a Bank (銀行にて) (Part 3.4)
 - 第5回 At a Hospital (病院にて) (Part 1.2)
 - 第6回 At an Airport (Part 3.4)
 - 第7回 At a Department Store (デパートにて) (Part 1.2)
 - 第8回 At College (大学にて) (Part 3.4)
 - 第9回 Sightseeing (観光) (Part 1.2)
 - 第10回 Business Trip (Part 3.4)
 - 第11回 Business Transactions (ビジネス) (Part 1.2)
 - 第12回 Global Business (グローバル時代) (Part 3.4)
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 1・2
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 3・4
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Prize Pointers for the TOEIC Test

著者: 石井隆之/山口修

出版社: 南雲堂

出版年: 2009年

ISBN: 9.78452E+12

A Shorter Course in TOEIC Test in VOCABULALY QUIZZ

著者: 佐藤誠司

出版社: 南雲堂

出版年: 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試2

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2008年

ISBN： 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅢA <k>**

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 英語のチャンクを聞き取る(Part 1 対策)
 - 第2回 不動産・マーケティング①(Part 2 対策)
 - 第3回 不動産・マーケティング②(Part 3 対策)
 - 第4回 金融①(Part 4 対策)
 - 第5回 金融②(Part 3.4 対策)
 - 第6回 テレコミュニケーション(Part 2 対策)
 - 第7回 業務①(Part 3 対策)
 - 第8回 業務②(Part 1 対策)
 - 第9回 人事・雇用①(Part 2 対策)
 - 第10回 人事・雇用②(Part 3.4 対策)
 - 第11回 運輸・交通①(Part 3.4 対策)
 - 第12回 運輸・交通②(Part 3.4 対策)
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 1・2
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 3・4
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald

著者: ECC

出版社: ECC

出版年: 2012年

ISBN:

A Shorter Course in TOEIC TESTⁿ VOCABULARY QUIZZ

著者: 佐藤 誠司

出版社: 南雲堂

出版年: 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 2

著者: 小山 克明

出版社: Z会

出版年: 2007年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢA <I>

担当者 野口 博代

テーマ

英語でニュースを聞いてみよう。

獲得目標

アメリカのニュース番組を聞き、リスニングの力を強化する事と、ニュースを理解するための語彙や表現を習得することを目標とする。

授業の内容

アメリカのニュース番組を教材に用い、ニュースを理解するための語彙、表現を学びます。また、ニュースを用いてのリスニング演習を毎回行います。

内 容

- 第1回 Introduction, Unit 1 Soccer Brain Study
 - 第2回 Unit 2 The World's Population
 - 第3回 Unit 3 Quake Concerns
 - 第4回 Unit 4 Fat Tax
 - 第5回 Unit 5 Global Sea Level
 - 第6回 Unit 6 Light Pollution
 - 第7回 Unit 7 Leaning Tower?
 - 第8回 Unit 8 New Arcade Trend
 - 第9回 Unit 9 Smell of Success
 - 第10回 Unit 10 Mine Detection
 - 第11回 Unit 11 Power of the Consumer
 - 第12回 Unit 12 Shoe Frenzy
 - 第13回 Unit 13 Multigenerational Homes
 - 第14回 Unit 14 Speaking Code
 - 第15回 Unit 15 Inspirational Teen Scholar
-

授業以外での学習方法

Web等を利用して英語のニュースを聞く。

教科書

CNN Student News

著者: Fyuhiko Sekido 他

出版社: Asahi Press

出版年: 2013

ISBN: 9.78426E+12

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢA <m>

担当者 原 俊樹

テーマ

ーコミュニケーションの手段としての「普段着の英語」を目指してー

獲得目標

世界のニュースを通して、英語理解の為の必要最低限の基礎的な知識(文型的分析や文法・単語・成句と語法など)を確認しながら再整理する。英語と日本語の表現方法の相違を考えた上で、「実用的な英語・productiveな英語」の運用能力(英語の4技能)を確実に身に付け、「情報」を「知識」化し、双方向のコミュニケーションを可能にする実践的・総合的な英語運用能力を身に付ける。

授業の内容

基本的には、テキストに沿って行なう。知識の再確認に関する小テストを毎回課す予定。テキストの内容把握を通して現在の自分の英語力を更に高めて、様々な知識・世界の情勢を的確に把握し、異なる言葉、異なる意見を持つ人々と対等にコミュニケーションのできる実践的な英語力をしっかり身に付けてください。 只単に、「単位さえ貰えれば良いのだ」という姿勢で受講することの無い様にしなさい。

内 容

- 第1回 (一応の目安、各回の重点的テーマとして考えてください) 講義概要・テキストの利用法の説明・基礎力確認テスト
- 第2回 英文の捉え方; 英語の叙法/主語-述語動詞の関係/時制 ; 基本時制・進行時制
- 第3回 英文の捉え方; 自動詞と他動詞/単文と文型 ; 自動詞の文型
- 第4回 英文の捉え方; 単文と文型 ; 他動詞の文型/時制 ; 完了時制・完了進行時制
- 第5回 英文の捉え方; 単文と文型 ; 文の要素以外の語句と修飾の関係
- 第6回 英文の捕え方; 接続詞・重文・複文と分詞構文
- 第7回 文中品詞の把握と語法 ; 名詞・代名詞
- 第8回 文中品詞の把握と語法 ; 形容詞・副詞・比較
- 第9回 文中品詞の把握と語法 ; 前置詞と前置詞句
- 第10回 文中品詞の把握と語法 ; 接続詞・関係詞
- 第11回 文中品詞の把握と語法 ; 同格・省略
- 第12回 英文の読み取り; Top Down Reading
- 第13回 英文の読み取り; Top Down Reading
- 第14回 英文の読み取り; Scanning & Skimming
- 第15回 各自の英語学習法の確立と確認; 語彙・語法・文法の総整理
- 第16回 期末試験

授業以外での学習方法

テレビやラヂオの言語番組の視聴など英語に接する機会をなるべく多く持つこと。テキストに関しては、受験時代の「文法参考書」や辞書をしっかりと利用し、単語・熟語の意味・用法、英語特有の表現をきちんとピックアップして予習・復習に使えるようにすること。毎日の努力の継続が必ず実を結ぶことを信じなさい。(手抜きは自分の首を絞める。)

教科書

“English through the News Media 2013 Edition(ニュースメディアの英語-演習と解説2013年度版-)” (英語 ⅢA/ⅣAで使用)

著者: Masami Takahashi, Noriko Itoh, Richard Powell

出版社: Asahi Press(朝日出版社)

出版年: 2013 ¥1600E

ISBN: 9.78426E+12

参考書

高校時代に使用した文法参考書・問題集・教科書等

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

1年次のテキスト・ノート

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

中辞典以上の英和・和英・英々辞典(電子辞書は、確認のためだけに使うこと)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅢA <n>**

担当者 野口 博代

テーマ

コミュニケーションのための看護英語

獲得目標

看護の現場において、英語でスムーズに患者とコミュニケーションを図れるようになるために、基本的な語彙、表現の習得を目指す。

授業の内容

患者とコミュニケーションを図る際に必要な語彙、表現を様々なタスクを通じて学習します。

内 容

- 第1回 Chapter 1 看護とは 1) What is a nurse?
 - 第2回 2) What kind of things do nurses do?
 - 第3回 3) Let's Talk: Things that nurses do
 - 第4回 Chapter 2 看護の歴史 1) How did nursing begin?
 - 第5回 2) Nightingale's advice is still important today.
 - 第6回 3) Let's talk: Describing medical instruments
 - 第7回 Chapter 3 患者と看護師の関係 1) The nurse has a special relationship with the patient
 - 第8回 2) The patient needs me
 - 第9回 3) Let's talk: Asking for personal details
 - 第10回 Chapter 4 患者とのコミュニケーション 1) Good communication with a patient is important
 - 第11回 2) Thank you for talking to me.
 - 第12回 3) Let's talk: Listening to and sympathizing with the patient
 - 第13回 Chapter 5 患者との異文化コミュニケーション 1) How can culture cause problems?
 - 第14回 2) Something special for me
 - 第15回 3) Let's talk: Avoiding and solving difficulties
-

授業以外での学習方法

教科書

English for Nursing Students

著者: Marilyn W. Edmunds / Paul Price 他

出版社: 南雲堂

出版年: 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢA <○>

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 At the Office (会社にて) (Part 1.2.5)
- 第2回 At a Restaurant (レストランにて) (Part 3.4.6)
- 第3回 At a Hotel (ホテルにて) (Part 1.2.7)
- 第4回 At a Bank (銀行にて) (Part 4.5)
- 第5回 At a Hospital (病院にて) (Part 1.2.6)
- 第6回 At an Airport (Part 3.4.7)
- 第7回 At a Department Store (デパートにて) (Part 1.2.5)
- 第8回 At College (大学にて) (Part 3.4.6)
- 第9回 Sightseeing (観光) (Part 1.2.7)
- 第10回 Business Trip (Part 3.4.5)
- 第11回 Business Transactions (ビジネス) (Part 1.2.6)
- 第12回 Global Business (グローバル時代) (Part 3.4.7)
- 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 1.2.5.6
- 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 3.4.7
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Prize Pointers for the TOEIC Test

著者: 石井隆之/山口修

出版社: 南雲堂

出版年: 2009年

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (0)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢA <p>

担当者 原 俊樹

テーマ

苦手意識を克服して、看護・医療の英語に慣れましょう。

獲得目標

看護関連のクラスに特化して、医学・医療英語を総合的に考え、理解するため必要最低限の基礎的な知識(文型的分析や文法・単語・成句・語法など)を確認・再整理する。英語と日本語の表現方法の相違を考えた上で、コミュニケーションの手段としての「普段着の英語」・「使える英語・プロダクティブな英語」の運用能力としての4技能を身に付け、英語を通して、「情報」を「知識」化し、双方向のコミュニケーションを可能にする実践的・総合的な英語運用能力を身に付ける。

授業の内容

基本的には、テキストに沿って行なう。知識の再確認に関する小テストを毎回課す予定。テキストの内容把握を通して現在の自分の英語力を更に高めて、単なる読解だけでなく、口頭コミュニケーションの面でも様々な知識・情勢を的確に把握し、異なる言葉、異なる意見を持つ人々と対等にコミュニケーションのできる実践的かつ実用的な英語運用力をしっかり身に付けてください。 只単に、「単位さえ貰えれば良いのだ」という姿勢で受講しないようにしなさい。

内 容

- 第1回 (一応の目安や各回の重点的テーマとして考えてください) 講義概要・テキストの利用法の説明・基礎力確認テスト
- 第2回 英文の捉え方 ; 英語の叙法／主語－述語動詞の関係／時制 ; 基本時制・進行時制
- 第3回 英文の捉え方 ; 自動詞と他動詞／単文と文型 ; 自動詞の文型
- 第4回 英文の捉え方 ; 単文と文型 ; 他動詞の文型／時制 ; 完了時制・完了進行時制
- 第5回 英文の捉え方 ; 単文と文型 ; 文の要素以外の語句と修飾の関係、
- 第6回 英文の捉え方 ; 接続詞; 重文・複文と分詞構文
- 第7回 文中品詞の把握と語法 ; 名詞・代名詞
- 第8回 文中品詞の把握と語法 ; 形容詞・副詞・比較
- 第9回 文中品詞の把握と語法 ; 前置詞と前置詞句
- 第10回 文中品詞の把握と語法 ; 接続詞・関係詞
- 第11回 文中品詞の把握と語法 ; 同格・省略
- 第12回 英文の読み取り ; Top Down Reading
- 第13回 英文の読み取り ; Scanning & Skimming
- 第14回 各自の英語学習法の確立; 基本知識・文法の総整理を踏まえて、総合的でインタラクティブな解釈(読解・聴解)法・表現(作文・発話・会話)法を身に付ける。
- 第15回 各自の英語学習法の確立; 基本知識・文法の総整理を踏まえて、総合的でインタラクティブな解釈(読解・聴解)法・表現(作文・発話・会話)法を身に付ける。
- 第16回 前期末試験

授業以外での学習方法

言語番組の視聴や外国人との会話など英語に接する機会をなるべく多く持つこと。テキストに関しては、受験時代の「文法参考書」や辞書をしっかりと利用し、単語・熟語の意味・用法、英語特有の表現をきちんとピックアップして予習・復習に使えるようにすること。 毎日の努力の継続が必ず実を結ぶことを信じなさい。(手抜きは自分の首を絞める。)

教科書

“Understanding Health Care (医療の世界-基本情報と表現演習)”(英語ⅢA/ IVAで使用)

著者: Tsukimaro Nishimura 他3名

出版社: Asahi Press(朝日出版社)

出版年: 2011 ¥ 1800E

ISBN: 9.78426E+12

参考書

高校時代に使用した文法参考書・問題集・教科書等

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

1年次のテキスト・ノート

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

中辞典以上の英和・和英・英々辞典(電子辞書は、確認のためだけに使うこと)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢA <R>

担当者 杉山 泰

テーマ

基礎英語(Basic English)、特に「基礎動詞＋前置詞」というやさしい英語で日本文化を伝えよう。

獲得目標

中学校で学んだ基礎英語(850語)で、日本文化を伝えることができる。Goだけでも、Rice goes with natto and fresh eggs.で立派な説明になるし、nattoもfermented(発酵した)を知らなくとも、traditional sticky beansで十分だろう。On your mark. Get set. Go.など子どもがいつも用いている基礎英語だ。こうした中学英語を徹底利用して、日本文化を伝えていく。

授業の内容

毎回教科書の問題をやっていく。90分間は作業をするので、毎回辞書を持ってくること。毎回のプリント提出が重要になるので、欠席した学生は、必ず次回にそのプリントをもらい、遅れても提出する。

内 容

- 第1回 自己紹介。Lesson 1 一語、一文で英語は通じる。(No work, no money.式アジア英語も重要。Long time, no see.の意味は?)
- 第2回 Lesson 2 動詞＋er＝～する人、～する道具 (I am a mind reader.=君の心が読めるんだ)
- 第3回 lesson 3 動詞＋～ing＝(現在分詞と動名詞の違い＝I am feeling well.&I gave up smoking.)
- 第4回 Lesson 4 動詞＋ed＝過去分詞 (I love fried rice and smoked salmon.&An A-bomb was dropped on Hiroshima.)
- 第5回 Lesson 5 be動詞＋形容詞 (I am pleased to see you.&It is pleasant to get all my credits.)
- 第6回 Lesson 6 InとOut (in controlとout of controlの違いは? 同じく、Get in my car.&Get out of the room.の違いは?)
- 第7回 Lesson 7 OnとOff (Is the switch on? NO, it's off.)
- 第8回 Lesson 8 Haveの構文 (We had nothing to do with it.の構文)
- 第9回 Lesson 9 Comeの構文 (Dinner is ready. I am coming.近づいていくニュアンス)
- 第10回 Lesson 10 Goの構文 (Dinner is ready. I am going.=用事があるから出かけます=離れていくニュアンス)
- 第11回 Lesson 11 Takeの構文 (I'll take this.=これください)
- 第12回 Lesson 12 Putの構文 (Don't put off till tomorrow what you can do today.)
- 第13回 Lesson 13 Giveの構文 (魔法の杖のGiveとGet=on/offやin/outを用いたイデオムの意味は?)
- 第14回 Lesson 14 Getの構文 (8つの基礎動詞 go-come/put-take/get-give/keep-let&make/have/do/sayなどを使いこなそう)
- 第15回 Lesson 15 makeの構文 (基礎動詞を用いて、履歴書で自己アピールの英文を書こう)

授業以外での学習方法

NHKの基礎英語や『チャロの冒険物語』をテレビで鑑賞してほしい。また、映画などにも興味を持ち、BBCのニュースを聞く週間を持つよう。

教科書

Putting Common Verbs to Work for You

著者: 鳥飼慎一郎

出版社: 朝日出版社

出版年: 2010年

ISBN:

参考書

英語の壁

著者: マーク・ピーターセン

出版社: 中公新書

出版年: 2003年

ISBN:

日本語練習帳

著者： 大野晋

出版社： 岩波新書

出版年： 1999年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

毎回の出席と毎回の提出物を最大限重視する。毎回授業に参加できない場合は、各自教科書の問題を自宅でやり、プリントをもらって提出すれば、遅れの出席として評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢB <a>

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 Daily Life 生活関連 品詞の違い
- 第2回 Shopping 買い物 接頭辞・接尾辞
- 第3回 Restaurant レストラン 数量の表し方
- 第4回 Travel 旅行(空港など) 主語と動詞の一致
- 第5回 People and Professions さまざまな職種
- 第6回 Office 会社(オフィス) 自動詞・他動詞
- 第7回 Recruitment 人事(求人・求職) 不定詞・動名詞
- 第8回 Manufacturing 製造関連 代名詞
- 第9回 Marketing マーケティング 前置詞
- 第10回 Business Finance and Economy 経済・財務
- 第11回 Weather Forecast 天気予報 接続詞
- 第12回 Government and Other Organizations 政府
- 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 5.6
- 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 7
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Target on the TOEIC TEST Starter

著者: 水本篤

出版社: 金星堂

出版年: 2010年

ISBN: 9.78476E+12

A Shorter Course in TOEIC TEST in VOCABULARY QUIZZ

著者: 佐藤誠司

出版社: 南雲堂

出版年: 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 2

著者: 小山克明

出版社: Z会

出版年: 2008年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅢB **

担当者 溝部 芳子

テーマ

やさしい英語で情報発信しよう！

獲得目標

海外旅行、e-mail、アルバイト先などの実践的な場面で役立つ基礎的な英語ライティングスキルの獲得をめざす。

授業の内容

サンプル英文をよみ、必須の文法事項を確認したうえで、毎回ライティングタスクに取り組みます。コース終盤では書き溜めたタスクをもとに個人プレゼンテーションに挑戦します。

内 容

- 第2回 Unit 2: My Family, My Friends
 - 第3回 Unit 3: My Room
 - 第4回 Review Practice (1)
 - 第5回 Unit 4: Everyday Activities
 - 第6回 Unit 5: Recipes
 - 第7回 Review Practice (2)
 - 第8回 Unit 6: Introducing My Town
 - 第9回 Unit 7: Asking Questions
 - 第10回 Unit 8: Diary
 - 第11回 Review Practice (3)
 - 第12回 Unit 9: Making a Reservation
 - 第13回 Unit 10: Writing a Postcard
 - 第14回 Review Practice (4)
 - 第15回 Presentation
 - 第1回 Overview. Unit 1: Self Introduction
-

授業以外での学習方法

授業内で指示します。

教科書

New English Composition Workbook

著者: Kazuyo Murata & Mami Otani

出版社: マクミランランゲージハウス

出版年: 2012.1.20

ISBN: 9.78478E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢB <c>

担当者 松村 優子

テーマ

英字新聞・英語ニュースの修得

獲得目標

英字新聞記事を題材にして、時事問題に関する関心を高め、新聞英語特有の構文、表現に慣れ親しむことを目指す。

授業の内容

毎回、英字新聞記事を読み、内容を確認し、英字新聞に特有な構文、表現を学習する。発表形式も採り入れる。下記の計画は予定であり、授業の進捗状況や受講生の希望により順序など変更することもある。

内 容

- 第1回 Introduction
 - 第2回 Chapter 1 English Creates Chances
 - 第3回 Chapter 2 Keep Away from Herbs!
 - 第4回 Chapter 3 Road Warrior No More
 - 第5回 Chapter How is Personality Formed?
 - 第6回 Chapter 5 Welcome to a Cheaper Sky!
 - 第7回 Chapter 6 Modern-Day Tatami
 - 第8回 Chapter 7 17-Year-Old Ballerina Wins Prix de Lausanne
 - 第9回 Chapter 8 High-Tech Voting
 - 第10回 Chapter 9 The Mystical Factory Tour
 - 第11回 Chapter 10 Speak Up, Japanese Youth!
 - 第12回 まとめ・復習
 - 第13回 まとめ・復習
 - 第14回 まとめ・復習テスト
 - 第15回 まとめ・復習テスト
-

授業以外での学習方法

指定箇所の予習。

教科書

Insights 2013

著者： 村尾純子 他

出版社： 金星堂

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (15)

小テスト (60)

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢB <d>

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 TOEIC Reading Section 概説 (Part 5 対策)
 - 第2回 不動産・マーケティング① (Part 6 対策)
 - 第3回 不動産・マーケティング② (Part 7 対策)
 - 第4回 金融① (Part 5 対策)
 - 第5回 金融② (Part 6 対策)
 - 第6回 テレコミュニケーション (Part 7 対策)
 - 第7回 業務① (Part 5 対策)
 - 第8回 業務② (Part 6 対策)
 - 第9回 人事・雇用① (Part 7 対策)
 - 第10回 人事・雇用② (Part 5 対策)
 - 第11回 運輸・交通① (Part 6 対策)
 - 第12回 運輸・交通② (Part 7 対策)
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 5.6
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 7
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

A Shorter Course in TOEIC TEST in VOCABULARY QUIZZ

著者: 佐藤 誠司

出版社: 南雲堂

出版年: 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 2

著者: 小山 克明

出版社: Z会

出版年: 2008年

ISBN: 9.78486E+12

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald

著者: ECC

出版社: ECC

出版年: 2012年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <e>**

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Film and Acting Review

獲得目標

To study and research video movies for reading, writing and acting out parts of the film. Students will work on listening and pronunciation from video clips watching and acting out the character parts.

授業の内容

Vocabulary lessons will be developed from video scripts and acted out in class. Reading and writing exercises will also come from different video topics. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction, Class objectives.
 - 第2回 Journal Notebook #1 Written Into.
 - 第3回 Journal homework week 2 Story Notes.
 - 第4回 Video Story Dialogue
 - 第5回 Character Study
 - 第6回 Journal week 5 - Acting
 - 第7回 Story Review
 - 第8回 Pronunciation Practice
 - 第9回 Journal Week 8
 - 第10回 Summary of Story
 - 第11回 Final Journal 10
 - 第12回 Research Report
 - 第13回 Small Group Presentations
 - 第14回 Final Papers and Film.
 - 第15回 Acting Review
-

授業以外での学習方法

Video Research from internet. B5 Notebook Journal to be presented to class 10 times for a Journal grade.

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢB <f>

担当者 小川 享子

テーマ

TOEICテスト受験準備を介して実用的な英語力を養う。

獲得目標

TOEICテストにおけるリーディング力、文法力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

各章は1つのシチュエーションを想定し(例:旅行)、語彙の整理確認を行いながら、TOEIC testのリスニングからリーディングセクションの問題を解くようになっている。授業では問題を解き、要点を確認する。文法は、1つの文法項目での知識を確認し、問題演習を行う。各章ごとに語彙・文法確認リストを用意するので、最後にそれを使って復習を行う。

内 容

- 第1回 授業方法、評価方法の説明 Unit 1 Travel
 - 第2回 Unit 1 Travel Unit 2 Daily Life
 - 第3回 Unit 2 Daily Life Unit 3 Health
 - 第4回 Unit 3 Health Unit 4 Eating out
 - 第5回 Unit 4 Eating out Unit 5 Events
 - 第6回 Unit 5 Events Unit 6 Entertainment
 - 第7回 Unit 6 Entertainment Unit 7 Media
 - 第8回 Unit 7 Media Unit 8 Office
 - 第9回 Unit 8 Office Review
 - 第10回 Review
 - 第11回 模擬テスト
 - 第12回 模擬テスト
 - 第13回 模擬テスト
 - 第14回 模擬テスト
 - 第15回 模擬テスト
-

授業以外での学習方法

各章ごとの語彙・文法事項のリストの書き込み

教科書

The Next Stage to the TOEIC Test: Pre-Intermediate

著者: 鈴木薫、青谷法子、他

出版社: 金星堂

出版年: 2011(5版)

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (15)

小テスト (45)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢB <g>

担当者 ヒエタラフティ エルッキ.ピシヨップ マイケル

テーマ

Travel English

獲得目標

Learn the basics of travel English and survival English

授業の内容

This course will be taught in English Follow four young Japanese students as they travel abroad and introduce Japan to overseas guests. The course introduces key language needed for speaking English at home or abroad.

内 容

- 第1回 Class introduction and preview an begin Unit 1 "Would you like some more?"
 - 第2回 Finish Unit 1
 - 第3回 Begin Unit 2 "What should we do first?"
 - 第4回 Finish Unit 2
 - 第5回 Begin Unit 3 "We're going to visit Chinatown"
 - 第6回 Finish Unit 3
 - 第7回 Review and reflection of Units 1 to 3
 - 第8回 Begin Unit 4 "Are you good at skiing?"
 - 第9回 Finish Unit 4
 - 第10回 Begin Unit 5 "This one is cheaper"
 - 第11回 Finish Unit 5
 - 第12回 Begin Unit 6 "Don't forget your money!"
 - 第13回 Finish Unit 6
 - 第14回 Review and reflection of Units 4 to 6
 - 第15回 Semester review and recap
-

授業以外での学習方法

Try to use the English learned in this class whenever you travel abroad.

教科書

My First Passport 2

著者: Tanja McCandie

出版社: Oxford

出版年: 2006

ISBN: 9.78019E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (15)

参加度 (20)

小テスト (15)

授業中発表等 (20)

aks202a217

This will be a very fun class, but to get a good grade, you must do well on exams and quizzes as well as have good class performance

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <h>**

担当者 プライアンバスカウエル

テーマ

Expressing More of Your Ideas in English

獲得目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills and introduce cultural topics as appropriate.

授業の内容

内 容

- 第1回 classroom English
 - 第2回 introductions
 - 第3回 student interviews
 - 第4回 comparisons
 - 第5回 work-A
 - 第6回 work-B
 - 第7回 directions
 - 第8回 travel English-A
 - 第9回 travel English-B
 - 第10回 talking about experiences-A
 - 第11回 talking about experiences-A
 - 第12回 cooking
 - 第13回 food
 - 第14回 puzzles and projects
 - 第15回 review of topics
-

授業以外での学習方法

教科書

Talk a Lot: Book Two – Second Edition

著者: David Martin

出版社: EFL Press

出版年:

ISBN: 4.58024E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <i>**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research a topic and express your findings in English

獲得目標

This course will aim to improve basic English speaking and writing skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing an individual research topic.

授業の内容

The course will be conducted in English, in a computer lab. Students will prepare weekly short talks and blog entries about their topic. We will also focus on various tools for autonomously improving your English speaking and writing skills.

内 容

- 第1回 Introduction + allotment of topics
 - 第2回 Keeping a research log
 - 第3回 Recording monologues
 - 第4回 Writing blog entries
 - 第5回 Pronunciation: tools & tactics
 - 第6回 Peer practice & Feedback
 - 第7回 Logging vocabulary
 - 第8回 Effective use of Internet translation
 - 第9回 Using writing feedback symbols
 - 第10回 Internet grammar reference tools
 - 第11回 Using Internet searches for language feedback
 - 第12回 Creating a class wiki
 - 第13回 Presenting your research
 - 第14回 Final Presentations (I)
 - 第15回 Final Presentations (II)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (35)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (35)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢB <j>

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 At the Office (会社にて) (Part 5)
 - 第2回 At a Restaurant (レストランにて) (Part 6)
 - 第3回 At a Hotel (ホテルにて) (Part 7)
 - 第4回 At a Bank (銀行にて) (Part 5)
 - 第5回 At a Hospital (病院にて) (Part 6)
 - 第6回 At an Airport (Part 7)
 - 第7回 At a Department Store (デパートにて) (Part 5)
 - 第8回 At College (大学にて) (Part 6)
 - 第9回 Sightseeing (観光) (Part 7)
 - 第10回 Business Trip (Part 5)
 - 第11回 Business Transactions (ビジネス) (Part 6)
 - 第12回 Global Business (グローバル時代) (Part 7)
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 5.6
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 7
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Prize Pointers for the TOEIC Test

著者: 石井隆之/山口修

出版社: 南雲堂

出版年: 2009年

ISBN: 9.78452E+12

A Shorter Course in TOEIC Test in VOCABULALY QUIZZ

著者: 佐藤誠司

出版社: 南雲堂

出版年: 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試2

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2008年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢB <k>

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 TOEIC Reading Section 概説 (Part 5 対策)
 - 第2回 不動産・マーケティング① (Part 6 対策)
 - 第3回 不動産・マーケティング② (Part 7 対策)
 - 第4回 金融① (Part 5 対策)
 - 第5回 金融② (Part 6 対策)
 - 第6回 テレコミュニケーション (Part 7 対策)
 - 第7回 業務① (Part 5 対策)
 - 第8回 業務② (Part 6 対策)
 - 第9回 人事・雇用① (Part 7 対策)
 - 第10回 人事・雇用② (Part 5 対策)
 - 第11回 運輸・交通① (Part 6 対策)
 - 第12回 運輸・交通② (Part 7 対策)
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 5.6
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 7
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Emerald

著者: ECC

出版社: ECC

出版年: 2012年

ISBN:

A Shorter Course in TOEIC TEST in VOCABULARY QUIZZ

著者: 佐藤 誠司

出版社: 南雲堂

出版年: 2011年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 2

著者: 小山 克明

出版社: Z会

出版年: 2008年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <I>**

担当者 スミス ジョン

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

獲得目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の内容

This course will be taught in English. There are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

内 容

- 第1回 Self-introduction
 - 第2回 Getting to know the teacher and classmates
 - 第3回 Describing occupations
 - 第4回 Talking about a work day and free time
 - 第5回 Describing festivals and celebrations
 - 第6回 Talking about favorite celebrities
 - 第7回 Identify possessions
 - 第8回 Giving travel advice
 - 第9回 Food and favorite kinds of restaurants
 - 第10回 Count and noncount nouns
 - 第11回 Activities happening now
 - 第12回 Favorite sports
 - 第13回 Adventure holidays
 - 第14回 Past vacation experiences
 - 第15回 Summer plans and course review.
-

授業以外での学習方法

教科書

World English 1

著者: Martin Milner

出版社: Heinle Cengage

出版年: 2010

ISBN: 13:978-1-4240

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

aks202a222

The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢB <m>

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Using English for Communication

獲得目標

Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context

授業の内容

This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation
 - 第2回 Introductions
 - 第3回 Introducing others
 - 第4回 Exchanging personal information
 - 第5回 How do you spend your day?
 - 第6回 Work and school
 - 第7回 Daily schedules
 - 第8回 Review
 - 第9回 Meaning of colors
 - 第10回 Clothes shopping
 - 第11回 Making Comparisons
 - 第12回 Music
 - 第13回 Entertainment
 - 第14回 Invitations
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

教科書

Interchange I Student's Book A(fourth Edition)

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

Interchange I Workbook Book A(4th Edition)

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (55)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅢB <n>

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Using English for Communication

獲得目標

Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context

授業の内容

This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation
 - 第2回 Introductions
 - 第3回 Introducing others
 - 第4回 Exchanging personal information
 - 第5回 How do you spend your day?
 - 第6回 Work and school
 - 第7回 Daily schedules
 - 第8回 Review
 - 第9回 Meaning of colors
 - 第10回 Clothes shopping
 - 第11回 Making Comparisons
 - 第12回 Music
 - 第13回 Entertainment
 - 第14回 Invitations
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

教科書

Interchange I Student's Book A(fourth Edition)

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

Interchange I Workbook Book A(4th Edition)

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (55)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (45)

Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <ο>**

担当者 スミス ジョン

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

獲得目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の内容

This course will be taught in English. There are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

内 容

- 第1回 Self-introduction
 - 第2回 Getting to know the teacher and classmates
 - 第3回 Describing occupations
 - 第4回 Talking about a work day and free time
 - 第5回 Describing festivals and celebrations
 - 第6回 Talking about favorite celebrities
 - 第7回 Identify possessions
 - 第8回 Giving travel advice
 - 第9回 Food and favorite kinds of restaurants
 - 第10回 Count and noncount nouns
 - 第11回 Activities happening now
 - 第12回 Favorite sports
 - 第13回 Adventure holidays
 - 第14回 Past vacation experiences
 - 第15回 Summer plans and course review.
-

授業以外での学習方法

教科書

World English 1

著者: Martin Milner

出版社: Heinle Cengage

出版年: 2010

ISBN: 13:978-1-4240

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

aks202a225

The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <p>**

担当者 プライアンバスカウエル

テーマ

Expressing More of Your Ideas in English

獲得目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

授業の内容

内 容

- 第1回 classroom English
 - 第2回 introductions
 - 第3回 student interviews
 - 第4回 comparisons
 - 第5回 work-A
 - 第6回 work-B
 - 第7回 directions
 - 第8回 travel English-A
 - 第9回 travel English-B
 - 第10回 talking about experiences-A
 - 第11回 talking about experiences-A
 - 第12回 cooking
 - 第13回 food
 - 第14回 puzzles and projects
 - 第15回 review of topics
-

授業以外での学習方法

教科書

Talk a Lot: Book Two – Second Edition

著者: David Martin

出版社: EFL Press

出版年:

ISBN: 4.58024E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅢB <R>**

担当者 杉山 泰

テーマ

基礎英語での英語的論理の修得

獲得目標

何のために英語を学ぶのか。「がんばれ、日本」にしても、イギリスではThe Independentという新聞が、Don't give up, Japan.というタイトルで大きく報道した。英語での発信なくして、原発事故も海外には伝わらない。外国人観光客は激減し、外国人観光客1000万人の目標も達成できそうにない。日本の魅力を「基礎英語2000語」で海外に発信できるような授業にしたい。

授業の内容

教科書をやっていくので、毎回教科書と辞書を持参すること。この当たり前のことをして、毎回プリントを提出すれば、基礎英語で日本文化を英語的論理で発信できることが学べる。

内 容

- 第1回 自己紹介。Unit 1 To Drive or to Ride (マイカーか、公共交通か? パラグラフをマスターしよう。)
- 第2回 Unit 2 Help Yourself (自給自足の生活がベスト 原因と結果の論理)
- 第3回 Unit 3 What I learned from Fay (物語を読み取る)
- 第4回 Unit 4 Ways to Help Others (寄付の文化 分類の方法)
- 第5回 Unit 5 Can Fish Fall from the Sky? (時事英語の論理)
- 第6回 Unit 6 How to Prepare a Presentation (発表の論理)
- 第7回 Unit 7 International Date Line (時差の存在理由)
- 第8回 Unit 8 What Is Friendship? (A=Bという定義)
- 第9回 Unit 9 Entering a Photo Contest (電子媒体の英語)
- 第10回 Unit 10 Getting Money for a Big Project (比較の論理)
- 第11回 Unit 11 Accepting the "Salesperson of the Year" Award (スピーチの論理)
- 第12回 Unit 12 Written Art (筆記体の美しさ)
- 第13回 Unit 13 Life Advice Q & A (ストレス解消法の説明文)
- 第14回 Unit 14 Stronger Yen Threatens Japanese Economy (経済記事の論理、グラフの活用)
- 第15回 Unit 15 Not Hearing a Gorilla (科学記事の文体)

授業以外での学習方法

ネット検索をして、海外で日本の原発問題、観光問題、経済問題などの記事をチェックしてもらう。

教科書

英語リーディングへの道: 初級編

著者: 竹内理ほか

出版社: 金聖堂

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

知らなきゃ恥ずかしい日本文化

著者: 白幡洋三郎

出版社: ワニブックス新書

出版年: 2010年

ISBN:

大学の思い出は就活です(苦笑)

著者: 石渡嶺司

出版社: ちくま新書

出版年: 2012年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

毎回の授業参加を重視する。病気などで欠席の場合は、自宅学習で提出物をやり、遅れて提出すれば、遅れの出席として評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習 I <a>

担当者 森田 周

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I **

担当者 福田 雅子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <C>**

担当者 森田 周

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <d>**

担当者 福田 雅子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <e>**

担当者 森田 周

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <f>**

担当者 福田 雅子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ
- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <g>**

担当者 森田 周

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <h>**

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <i>**

担当者 森田 周

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <j>**

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年: ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <k>**

担当者 森田 周

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <I>**

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <m>**

担当者 福田 雅子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <n>**

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <○>**

担当者 福田 雅子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <p>**

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <q>**

担当者 福田 雅子

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <r>**

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <s>**

担当者 森田 周

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習 I <t>**

担当者 井上 薫

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 オリエンテーション(学内ネットワークの説明、タイピング練習など)、Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 セキュリティと情報モラル(1) セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット Infoss情報倫理(eラーニング)の学習方法
- 第3回 Word2010(1)Word基本操作、チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第4回 Word2010(2)ビジネス文書作成《主な機能》前回の基本操作復習、表作成、インデント、タブ、挨拶ウィザード
- 第5回 Excel2010(1)Excel基本操作、表作成、基本的な計算(関数)《主な機能》ブックとシート、書式、罫線、配置、範囲選択、オートフィル、四則演算、絶対参照、基本関数(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、COUNT)、IF関数
- 第6回 Excel2010(2)応用的な計算(関数)《主な機能》前回の関数復習、COUNTA関数、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成 グラフの作成《主な機能》グラフの種類とそれぞれの分析目的(縦棒、横棒、円、折れ線、レーダーチャート等、各種グラフ作成)考察、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポート作成1 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Word2010(4)レポートの作成2、Wordまとめ《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注、Word操作のまとめ
- 第11回 Excel2010(4)データベース1《主な機能》データベース(リスト)とは、並べ替え、フィルタ、アンケート結果の数値化、関数・グラフの復習、グラフの編集
- 第12回 Excel2010(5)データベース2、Excelまとめ《主な機能》シート見出し、シート間の操作、作業グループ、3D集計、Excel操作のまとめ
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

文書作成・プレゼンに役立つ! 実践ドリルで学ぶOffice活用術

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本事情 I <a>

担当者 取屋 淳子

テーマ

日本の文化や生活習慣・季節の行事などを通して、それらの背景にある日本人の考え方などを探る。

獲得目標

それぞれの習慣や行事などは、日本人の歩んできた歴史や考え方や密接に関係している。この講義では、言葉にも焦点を当て、文化から出てきた独特な慣用語なども学んでいく。自国との相違点や共通点を発見し、自分なりの意見を言えるようにする。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(自己紹介)、日本人と桜
 - 第2回 年中行事①
 - 第3回 年中行事②
 - 第4回 「色」について
 - 第5回 着物について
 - 第6回 日本料理
 - 第7回 日本の伝統的な遊び
 - 第8回 日本人の宗教観(寺・神社)
 - 第9回 関西弁
 - 第10回 日本の童謡・歌
 - 第11回 日本の教育
 - 第12回 日本の祭り
 - 第13回 発表 & ディスカッション①
 - 第14回 発表 & ディスカッション②
 - 第15回 発表 & ディスカッション③
-

授業以外での学習方法

日本の生活や習慣、行事などへの積極的な参加を望む。

教科書

プリント配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

プリント配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

aks401d510

試験 (0)
授業中課題 (30)
参加度 (50)

小テスト (0)
授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本事情Ⅲ

担当者 取屋 淳子

テーマ

日本のポップカルチャー(特に日本アニメやマンガ)から見た日本の文化や習慣

獲得目標

アニメやマンガを題材にして、内容やセリフだけではなく、その中に隠されているメッセージや日本独特の文化や習慣などを探っていく。一つの作品をさまざまな視点から見ることで、日本という国を見ていく。

授業の内容

日本アニメを代表するジブリ作品(マンガなども)を中心に、毎回テーマを決めて、内容やセリフなどから分かる日本文化を見ていく。一つの作品を平均3回の講義で観て、詳しく内容を分析し、そこから分かる日本人の考え方や感想などをクラスで発表したり、レポートにまとめていく。日本アニメやマンガの歴史なども紹介し、日本がなぜ「アニメ・マンガ大国」となりえたのか、といった背景にあるものにも言及していく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 日本のマンガ・アニメの歴史①
 - 第3回 日本のマンガ・アニメの歴史②
 - 第4回 ジブリ作品①
 - 第5回 ジブリ作品①
 - 第6回 ジブリ作品①
 - 第7回 ジブリ作品②
 - 第8回 ジブリ作品②
 - 第9回 ジブリ作品②
 - 第10回 ジブリ作品③
 - 第11回 ジブリ作品③
 - 第12回 ジブリ作品③
 - 第13回 作品を通してみる日本とは①
 - 第14回 作品を通してみる日本とは②
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

たくさんのアニメやマンガに触れ、さまざまな視点から詳しく観て、自分なりの考察を加える。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教養入門 <a>

担当者 河原 宣子・北林 利治・阪本 崇・野村 幸一郎・南 直人・横山 茂樹

テーマ

大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)
 - 第3回 外部講師による講演(2)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教養入門

担当者 南 直人、河原 宣子、北林 利治、阪本 崇、野村 幸一郎、横山 茂樹

テーマ

大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)
 - 第3回 外部講師による講演(2)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教養入門 <c>

担当者 北林 利治・河原 宣子・阪本 崇・野村 幸一郎・南 直人・横山 茂樹

テーマ

大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)
 - 第3回 外部講師による講演(2)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教養入門 <d>

担当者 阪本 崇・河原 宣子・北林 利治・野村 幸一郎・南 直人・横山 茂樹

テーマ

大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)
 - 第3回 外部講師による講演(2)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教養入門 <Ga>**

担当者 野村 幸一郎・アンガス ノーマン・今久保 幸生・岡本 哲弥・高山 一夫・李 在鎬

テーマ

グローバル社会において必要とされる教養を習得していく

獲得目標

グローバル化が進行する現在の世界情勢の中で、日本、そして、日本に生きる私たちの置かれている位置を確認する。その上で、これからの人生を乗り切っていく上で必要とされる基本的な世界認識や異文化理解の方法、近代日本に対する歴史認識を習得していく

授業の内容

経済グローバリゼーションの構造・異文化理解の方法・世界の中の日本という3つの視点から、3人の教員によるオムニバス形式の講義を行う。

内 容

- 第1回 はじめに 大学で何をなぜ学ばないといけないか？グローバル社会を生き抜くためのサバイバル術
- 第2回 グローバル経済の構造(1)
- 第3回 グローバル経済の構造(2)
- 第4回 グローバル経済の構造(3)
- 第5回 グローバル経済の構造(4)
- 第6回 グローバル経済の構造(5)
- 第7回 異文化理解の方法(1)
- 第8回 異文化理解の方法(2)
- 第9回 異文化理解の方法(3)
- 第10回 異文化理解の方法(4)
- 第11回 異文化理解の方法(5)
- 第12回 世界の中の日本(1)尖閣問題から見てくるもの
- 第13回 世界の中の日本(2)東京裁判史観と靖国史観
- 第14回 世界の中の日本(3)明治維新の世界史的意味
- 第15回 世界の中の日本(4)日露戦争からアジア太平洋戦争へ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教養入門 <e>

担当者 河原 宣子・北林 利治・阪本 崇・野村 幸一郎・南 直人・横山 茂樹

テーマ

大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)
 - 第3回 外部講師による講演(2)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教養入門〈f〉

担当者 南 直人・河原 宣子・北林 利治・阪本 崇・野村 幸一郎・横山 茂樹

テーマ

大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)
 - 第3回 外部講師による講演(2)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教養入門 <g>

担当者 北林 利治.河原 宣子.阪本 崇.野村 幸一郎.南 直人.横山 茂樹

テーマ

大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)
 - 第3回 外部講師による講演(2)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教養入門 <h>

担当者 阪本 崇・河原 宣子・北林 利治・野村 幸一郎・南 直人

テーマ

大学でなにを／なぜ学ぶか？

獲得目標

この春入学した1回生を主な対象として、なにをなぜ学ばないといけないのかをまず確認する。その上で、大学における学びをはじめるに当たっての基本的な知識やものの考え方を習得していく。

授業の内容

5人の教員によるオムニバス形式で講義を進める。最初の3回は講演形式で大学で学ぶことの意義を振り返る。残りの12回は、「人間と知の伝達」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然」の4つのテーマからそれぞれの担当教員が講義を行う。

内 容

- 第1回 大学でなにを／なぜ学ぶのか？
 - 第2回 外部講師による講演(1)
 - 第3回 外部講師による講演(2)
 - 第4回 人間と知の伝達(1)
 - 第5回 人間と知の伝達(2)
 - 第6回 人間と知の伝達(3)
 - 第7回 人間と文化(1)
 - 第8回 人間と文化(2)
 - 第9回 人間と文化(3)
 - 第10回 人間と社会(1)
 - 第11回 人間と社会(2)
 - 第12回 人間と社会(3)
 - 第13回 人間と自然(1)
 - 第14回 人間と自然(2)
 - 第15回 人間と自然(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教養入門 <Gb>

担当者 野村 幸一郎・アンガス ノーマン・今久保 幸生・岡本 哲弥・高山 一夫・李 在鎬

テーマ

グローバル社会において必要とされる教養を習得していく

獲得目標

グローバル化が進行する現在の世界情勢の中で、日本、そして、日本に生きる私たちの置かれている位置を確認する。その上で、これからの人生を乗り切っていく上で必要とされる基本的な世界認識や異文化理解の方法、近代日本に対する歴史認識を習得していく

授業の内容

経済グローバリゼーションの構造・異文化理解の方法・世界の中の日本という3つの視点から、3人の教員によるオムニバス形式の講義を行う。

内 容

- 第1回 はじめに 大学で何をなぜ学ばないといけないか？グローバル社会を生き抜くためのサバイバル術
- 第2回 グローバル経済の構造(1)
- 第3回 グローバル経済の構造(2)
- 第4回 グローバル経済の構造(3)
- 第5回 グローバル経済の構造(4)
- 第6回 グローバル経済の構造(5)
- 第7回 異文化理解の方法(1)
- 第8回 異文化理解の方法(2)
- 第9回 異文化理解の方法(3)
- 第10回 異文化理解の方法(4)
- 第11回 異文化理解の方法(5)
- 第12回 世界の中の日本(1)尖閣問題から見えてくるもの
- 第13回 世界の中の日本(2)東京裁判史観と靖国史観
- 第14回 世界の中の日本(3)明治維新の世界史的意味
- 第15回 世界の中の日本(4)日露戦争からアジア太平洋戦争へ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教養入門〈S〉

担当者 森本 美絵 坂本 敏郎 野村 幸一郎 堀 妙子 南 直人 李 在鎬

テーマ

臨地演習を核として構成することで、体験を共有し、共感し合うプロセスを通して仲間づくりをする

獲得目標

上記のテーマをよりスムーズに達成する手段として、上回生をオリターとして参加させる。上回生にとっては、担当教員との連携のもと、初年次接続型クラスを受講する学生と積極的にコミュニケーションをはかることにより、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしてくるために必要な基礎的な力」(2006年2月経済産業省定義)を実践的に養成することを目的とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 「放課後児童クラブ」の法的根拠、事業の意義、実施状況等を概説する。
- 第2回 大宅児童館を訪問見学し、当該児童館の実践について学び、当日児童館利用の子どもたちとふれ合うなど実践活動に参加する。
- 第3回 見学及び実践体験(子どもたちとの触れあい)の振り返り
- 第4回 「健康と運動」に関する講義、活動量計の説明及び設定
- 第5回 山科区内の散策
- 第6回 散策の振り返り
- 第7回 散策コースの説明とグループの確認。感情状態を測定する質問紙の説明と実施
- 第8回 山科駅から蹴上駅まで、琵琶湖疏水を歩く
- 第9回 蹴上駅にて散策、見学のふりかえり。散策後の感情状態の測定
- 第10回 京都の歴史文化遺産の紹介・解説(醍醐寺、京都御所、世界文化遺産の寺社等)
- 第11回 京都文化博物館見学(歴史的建造物としての同館の外観、および同館常設展示物の見学)
- 第12回 京都文化博物館見学(続)およびそのまとめと振り返り
- 第13回 イノベーション論としてニュースポーツの社会的、経営学的意義について学ぶ
- 第14回 受講生同士で旧来スポーツ、または創作スポーツなどについて体験的に学習
- 第15回 明示的に研究成果物を完成することによって、学習の充実感を味わい、学習モチベーションを高める。また、到達点、反省点について振り返る。
- 第16回 全体(第1回～第15回)の振り返り

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

aky101a121

毎回の体験について、グループで意見交流等による共有化をはかり、ワークシート等に記入する。それらを総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 哲学概論 <a>

担当者 安部 彰

テーマ

哲学の広がりと深さを学ぶ。

獲得目標

哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。

授業の内容

哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどんな意味をもつのかについて、様々な哲学者の著作を通して考える。

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
 - 第2回 哲学とはなにか？
 - 第3回 哲学の問い
 - 第4回 哲学の問いの意味
 - 第5回 懐疑論
 - 第6回 懐疑論と自己
 - 第7回 経験論とカントの哲学
 - 第8回 カントの哲学——認識論と倫理学
 - 第9回 社会哲学
 - 第10回 実存主義
 - 第11回 分析哲学の展開
 - 第12回 現代哲学(1)——暴力と国家
 - 第13回 現代哲学(2)——社会哲学の再興と展開
 - 第14回 現代正義論
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

授業時間外における講義の復習および関連文献の読書を推奨する。

教科書

参考書

マンガは哲学する

著者： 永井均

出版社： 岩波書店

出版年： 2009

ISBN: 9.78401E+12

100の思考実験

著者： J・バジーニ

出版社： 紀伊国屋書店

出版年： 2012

ISBN: 9.78431E+12

読む哲学事典

著者： 田島正樹

出版社： 講談社

出版年： 2006

ISBN： 4-06-149839-8

哲学思考トレーニング

著者： 伊勢田哲治

出版社： 筑摩書房

出版年： 2005

ISBN： 978-4480062451

政治哲学への招待

著者： A・スウィフト

出版社： 風行社

出版年： 2011

ISBN： 978-4862580290

成績評価

試験（100）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

出席が総授業数の3分の2に満たないものは受験資格をえられない（つまり評価対象外とする）。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **哲学概論 **

担当者 碓井 敏正

テーマ

哲学の広がりと深さを学ぶ。

獲得目標

哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。

授業の内容

哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどんな意味をもつのかについて、様々な哲学者の著作を通して考える。

内 容

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 哲学とはなにか？
 - 第3回 哲学の問い
 - 第4回 哲学の問いの意味
 - 第5回 懐疑論
 - 第6回 懐疑論と自己
 - 第7回 経験論とカントの哲学
 - 第8回 カントの哲学——認識論と倫理学
 - 第9回 社会哲学
 - 第10回 実存主義
 - 第11回 分析哲学の展開
 - 第12回 現代哲学(1)——暴力と国家
 - 第13回 現代哲学(2)——社会哲学の再興と展開
 - 第14回 現代正義論
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

『哲学入門』

著者: バートランド・ラッセル 著 高村夏輝 訳

出版社: 筑摩書房

出版年:

ISBN:

他は授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト (70)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **言語コミュニケーション論**

担当者 北林 利治

テーマ

日本語と英語のコミュニケーション

獲得目標

(1) 英語と日本語のコミュニケーションのさまざまなレベルにおける違いを理解すること。(2) 上記のテーマで、短いプレゼンテーションかスキットができるようになること。

授業の内容

このクラスでは、日本語によるコミュニケーションとの比較を通じて、英語コミュニケーションの方法の特徴を学ぶ。担当者による講義と、教科書をつかった実践とを組み合わせ、英語コミュニケーションの特徴を自らの体験をとおして理解してもらいたい。各時間の後半は、受講生によるプレゼンテーションかスキットにあてる。受講者には、グループか個人で、5分ていどのスキット(英語)を含むプレゼンテーションをしてもらう。なお、言語によるコミュニケーションとのかかわりにおいて、若干、言語以外によるコミュニケーションにも触れることがある。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 ハグや握手(ノンバーバルコミュニケーション)
- 第3回 パーティーの習慣(好みを選択させる)
- 第4回 お礼の表現(ていねいな表現)
- 第5回 クラスで意見を述べる(間接表現、はっきりと意見を述べる)
- 第6回 謙遜表現(日本語のていねいな表現)
- 第7回 感情を表すかどうか(ノンバーバルコミュニケーション)
- 第8回 教師と学生の呼びかけ方(会話表現の比較、ていねいな言葉使いとは)
- 第9回 レストランにおける習慣の違い(注文の仕方)
- 第10回 誤りははっきりと言葉で伝えるか、それとなく伝えるか(間接コミュニケーション)
- 第11回 デートに誘うとき(表現には日英でどんな違いがあるか)
- 第12回 好みを言う場合(自分の意見をどう伝えるか)
- 第13回 人前でする(言う)と失礼だとされること(鼻をかむ、失礼な表現とは)
- 第14回 謝罪の表現(遅刻と時間の概念について)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

英文の教科書は、指定されたところは必ず予習しておくこと。期末レポートのほか、小レポートをときどきクラス内において提出してもらう。

教科書

Cultural Crossroads

著者: Kimberly Forsythe and Akira Mikami

出版社: 三修社

出版年: 1999年

ISBN:

参考書

異文化コミュニケーション・ハンドブック

著者: 石井敏ほか

出版社: 有斐閣選書

出版年: 1997年

ISBN:

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション

著者： 久米昭元ほか

出版社： 有斐閣選書

出版年： 2007年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (50)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 現代のメディアと表現 <a>

担当者 野村 幸一郎

テーマ

宮崎駿のメッセージ

獲得目標

「風の谷ナウシカ」「もののけ姫」の分析を中心として講義形式で授業を行う。宮崎駿が作品に込めたメッセージや思想を理解する

授業の内容

内 容

- 第1回 宮崎駿の思想
 - 第2回 「風の谷のナウシカ」読解(1)
 - 第3回 「風の谷のナウシカ」読解(2)
 - 第4回 「風の谷のナウシカ」読解(3)
 - 第5回 「風の谷のナウシカ」読解(4)
 - 第6回 「紅の豚」から「ハウルの動く城」へ
 - 第7回 「もののけ姫」読解(1)
 - 第8回 「もののけ姫」読解(2)
 - 第9回 「もののけ姫」読解(3)
 - 第10回 「となりのトトロ」のアニミズム
 - 第11回 「もののけ姫」読解(4)
 - 第12回 「もののけ姫」読解(5)
 - 第13回 「魔女の宅急便」から「千と千尋の神隠し」へ
 - 第14回 「崖の上のポニョ」から「借りぐらしのアリエッティ」へ
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

宮崎駿の地平

著者： 野村幸一郎

出版社： 白地社

出版年： 2010・10

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 現代のメディアと表現

担当者 禧美 智章

テーマ

宮崎駿のメッセージ

獲得目標

「風の谷ナウシカ」「もののけ姫」の分析を中心として講義形式で授業を行う。宮崎駿が作品に込めたメッセージや思想を理解する

授業の内容

内 容

- 第1回 宮崎駿の思想
 - 第2回 「風の谷のナウシカ」読解(1)
 - 第3回 「風の谷のナウシカ」読解(2)
 - 第4回 「風の谷のナウシカ」読解(3)
 - 第5回 「風の谷のナウシカ」読解(4)
 - 第6回 「紅の豚」から「ハウルの動く城」へ
 - 第7回 「もののけ姫」読解(1)
 - 第8回 「もののけ姫」読解(2)
 - 第9回 「もののけ姫」読解(3)
 - 第10回 「となりのトトロ」のアニミズム
 - 第11回 「もののけ姫」読解(4)
 - 第12回 「もののけ姫」読解(5)
 - 第13回 「魔女の宅急便」から「千と千尋の神隠し」へ
 - 第14回 「崖の上のポニョ」から「借りぐらしのアリエッティ」へ
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

宮崎駿の地平

著者： 野村幸一郎

出版社： 白地社

出版年： Oct-10

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報社会論 <a>**

担当者 三輪 幸一

テーマ

IT社会におけるエンドユーザとしての基礎知識

獲得目標

経営戦略, システム企画, マネジメント, ハードウェア, ネットワーク, 情報セキュリティ, 著作権, 情報分析などの手法に関する基礎知識を修得すること

授業の内容

IT技術の進展した高度情報化社会に対処していく上で、経営戦略、システム企画、マネジメント、ハードウェアやネットワークのしくみに関する基礎的な知識は不可欠となっています。また個人情報の漏洩やコンピュータウイルスなどの脅威にさらされており、情報セキュリティに関する知識も不可欠となっています。これらについて概説するとともに、国家資格である情報処理技術者試験のITパスポート試験レベルを視野に入れた情報技術の基礎知識や情報分析の手法についても概説します。講義内容の理解を深めるため、ほぼ毎回授業の最後に小テスト形式での課題の提出が必要です。

内 容

- 第1回 経営管理と組織論 業務の把握と分析手法
- 第2回 経営戦略の手法
- 第3回 システム戦略とシステム企画
- 第4回 プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント
- 第5回 コンピュータシステムⅠ・コンピュータの構成要素(メモリ, CPU, バスシステムなど)
- 第6回 コンピュータシステムⅡ コンピュータの構成要素(補助記憶装置, 入出力インタフェースなど)
- 第7回 コンピュータシステムⅢ・ソフトウェアシステム(OS, ファイルシステムなど)
- 第8回 ネットワークの構成としくみⅠ・IPアドレスとネットワークのしくみ
- 第9回 ネットワークの構成としくみⅡ・ネットワークのプロトコルやネットワーク構成に必要なサーバなど
- 第10回 ホームページやソフトウェアの著作権・コンピュータウイルスの種類とセキュリティ対策
- 第11回 情報セキュリティ・アクセス権, 認証, 暗号化, デジタル署名, メッセージ認証・ネットワークのセキュリティ対策・情報漏えい対策(フィッシング対策, スパイウェア対策など)
- 第12回 情報分析の手法Ⅰ(決定表とDFDによる分析)
- 第13回 情報分析の手法Ⅱ(E-R図による分析)
- 第14回 情報分析の手法Ⅲ(ポートフォリオ図による分析, SWOT分析)
- 第15回 情報分析の手法Ⅳ アローダイアグラムによる日程計画

授業以外での学習方法

ITパスポート試験を受験する場合は、テキストのITパスポート試験の参考書を完全に精読し理解しておく必要があります。また70%は過去問から同様な問題が出題されるので過去問題集により傾向把握し問題練習するのが効果的です。

教科書

授業中にレジュメや小テスト形式の課題のプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ITパスポート スーパー合格本(CBT対応)

著者: 三輪幸市(ペンネーム)

出版社: 秀和システム

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (80)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

授業中の小テスト形式の課題による平常点評価のウエイトが高いので(80%)、やむを得ぬ理由があり授業に欠席した場合は、申し出て小テスト形式の課題を受取り、指定の提出期限までに課題を提出するようにして下さい。

参考URL

ITパスポート試験の過去問解説

http://www.osk.3web.ne.jp/~a0mediac/index_k.htm

ITパスポート試験の過去問を分野別に解説している携帯用サイトの紹介(私のWEBサイトからQRコード)

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <Aa>

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ab>

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ac>

担当者 中西 隆

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ad>

担当者 古田 薫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ae>

担当者 奥田 久美子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <Af>

担当者 木原 雅子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **数学演習 I <Ag>**

担当者 関 浩成

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <Ba>

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認
- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **数学演習 I <Bb>**

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bc>

担当者 中西 隆

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **数学演習 I <Bd>**

担当者 古田 薫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <Be>

担当者 奥田 久美子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bf>

担当者 木原 雅子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <Bg>

担当者 関 浩成

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <a>

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <c>

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦勞することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになってください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <d>

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第3回 数と計算の仕組み～分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求～密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解～文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解～式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)～一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)～方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用～1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)～グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)～2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)～2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)～関数と方程式
- 第15回 まとめと到達の確認
- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張～有理数、無理数、正負の数

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習 I <e>

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

学生の皆さんの中には数学が苦手だという人が多いと思います。なかには、文系の学部に入學して、やっと数学から解放されると思っている人もいます。しかし、文系の学部だからといって数学から離れてしまうと、就職活動の際に大変苦労することになります。多くの企業では学力を測定するために入社試験で数学分野(非言語分野と呼ばれます)の問題を課していますし、公務員試験や教員採用試験などでも数学は出題されます。そのほとんどはそれほど難しいものではなく、多くは中学レベルの数学をマスターしていれば対応することができますが、計算ができるだけでなく、自分自身で式を立てるなど数学の知識を活用する力を身につけている必要があります。この授業では、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

入社試験や公務員試験で実際に出題された問題を解答しながら、中学・高校で学んだ数学の知識を再確認し、それらを自在に応用できる力を身につけることを目指して練習問題の解答や講義を行います。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 イントロダクション:入社試験を体験してみよう!
- 第2回 数の世界とその拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第3回 数と計算の仕組み~分数の加減乗除を中心に
- 第4回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第5回 数の世界の不思議から文字へ
- 第6回 展開、因数分解~文字式の計算
- 第7回 展開、因数分解~式の計算と因数分解
- 第8回 方程式の活用(1)~一次・連立・二次方程式
- 第9回 方程式の活用(2)~方程式の応用問題
- 第10回 不等式とその活用~1次不等式・2次不等式と応用問
- 第11回 関数とグラフ(1)~グラフの見方・1次関数
- 第12回 関数とグラフ(2)~2次関数・平方完成
- 第13回 関数とグラフ(3)~2次関数の最大値・最小値
- 第14回 関数とグラフ(4)~関数と方程式
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようになしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートII 京都橘のポートフォリオ

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年: 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習 V

担当者 三輪 幸一

テーマ

アニメーションを主としたプログラミング入門

獲得目標

JavaScriptやFlashアニメーションの初歩的なプログラミングができることを目指す

授業の内容

ホームページでの動的なアニメーション表現やデータ処理などにJavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラムが使われています。JavaScriptやFlashのActionScriptによるプログラミングは、現在のWeb技術には欠くことのできない技術になっています。WebデザイナーやWebプログラマの基礎技術にもなっています。画像や図形のアニメーションを主としたJavaScriptやFlashアニメーションのプログラミングを通してプログラミングの初歩とプログラミングの基本的な処理パターンを修得します。初めてプログラミングを学ぶ人のために、実習を通して易しくプログラミングを修得します。授業では「プログラミングによるアニメーションの初歩と表現の可能性」を追究しながら授業をすすめていきます。1. JavaScriptによるプログラミング入門(第1～11回) 画像や図形のアニメーションを主としたプログラムの作成を通して、ループ処理や分岐処理、マウスによるイベント処理などのプログラミングの基本的な処理パターンを修得します。2. FlashのActionScriptによるアニメーションプログラミング入門(第12～15回) ActionScriptはFlashアニメーションのプログラムの作成を支援するツールで、プログラムの作成が初心者でも比較的容易になります。これを用いて、初歩的なプログラミング技術を修得します。ActionScriptにより高度なFlashアニメーションの作成技術が修得できますので、情報処理演習VIの受講者も引続き受講されることを推奨します。

内 容

- 第1回 JavaScriptの準備 (HTMLの基礎)
- 第2回 画像の配置とJavaScriptでプログラミングを行うための基礎知識
- 第3回 ボタンクリックで背景色が変わるプログラム キャラクタの画像の移動を制御するアニメーションのプログラム
- 第4回 キャラクタの画像がボタンクリックにより上下左右にアニメーションするプログラム
- 第5回 複数の画像が画面遷移しながら切替わり表示されるプログラム
- 第6回 ボタンクリックで複数の画像が画面遷移しながら切替わり表示されるプログラム
- 第7回 配列とfor文やwhile文によるループ処理
- 第8回 for文による二重ループ処理
- 第9回 飛行機が左下から右上へ拡大しながら上昇するアニメーションのプログラム 雪が降る情景のアニメーションのプログラム
- 第10回 桜が散る情景のアニメーションのプログラム トトロと風船がふんわりと上昇するアニメーションのプログラム
- 第11回 アニメーションのプログラムを改造・組み合わせて作成するプログラム
- 第12回 ActionScriptによるFlashアニメーションの基礎・トトロがマウスの動きに追従するアニメーション・透明度とサイズをランダムに変えながら明滅するロゴアニメーション
- 第13回 キャラクタの画像がステージの両端でリターンするアニメーション ボタンクリックで移動を開始または停止するアニメーション
- 第14回 当たり判定により命中すると爆発する宇宙船のゲームプログラミング
- 第15回 HTML5によるを利用したアニメーションのプログラミング

授業以外での学習方法

授業形態は、積み上げ型による演習形式であり、授業時間も限られているので、授業に欠席した場合は、受講者はパソコン教室などを利用し、授業時間以外の学習によって、次の時間までに自習し追いつくようにして下さい。

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介します。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（50）

参加度（50）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 比較文化論 <a>

担当者 浅井 雅志

テーマ

文化が分かれば自分がわかる／かわる

獲得目標

1. 世界の諸文化についての知識を深める。2. 世界で起こっている様々な問題の原因を知り、そうした問題と自分がどう関わるのかを考える。3. 様々な文化について理解するとは、すなわち自分が変わることであることを体得する。

授業の内容

世界は「謎」に満ちている。私たちの想像や理解を超えたことが頻発する。そうした「謎」を、自分には関係ないと簡単に退けず、自分を、そして自分を形作ってきた「文化」というとらえどころのないものを理解する最良の機会と考えられるようになったら——これがこの授業の最大の目標である。世界と自分を知るには知識と思考が必要だ。この授業はその手助けをすることを念頭におき、ビデオなども使いながら進めたい。受講生は、講義の内容についての感想、疑問、意見などを最低2回、関心をもったテーマについての短いペーパーを1回提出すること。これらを授業にフィードバックしたい。●この科目では毎授業必ず出席を取ります。

内 容

- 第1回 イントロダクション;日本
- 第2回 韓国①
- 第3回 韓国②
- 第4回 中国①
- 第5回 中国②
- 第6回 東南アジア
- 第7回 インド①
- 第8回 インド②
- 第9回 インド③
- 第10回 イスラーム世界①
- 第11回 イスラーム世界②
- 第12回 イスラーム世界③;ヨーロッパ①
- 第13回 ヨーロッパ②
- 第14回 ヨーロッパ③;アメリカ①
- 第15回 アメリカ②;総括

授業以外での学習方法

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **芸術と文化 <a>**

担当者 山本 善則

テーマ

芸術を知ることによって文化的価値の追求力を養う。

獲得目標

さまざまな分野の芸術を広い角度から感じ取り、芸術の目的や価値について知る。知識として「知る」だけでなく、実際に芸術を肌で感じ取る。

授業の内容

授業では各分野の芸術を映像、楽器、資料などを参考にしながら実際に感じてもらい、具体的に芸術の本質に触れていきます。毎回、小レポートなどで各回の意見、感想を提出してもらいます。

内 容

- 第1回 サウンドスケープとは？
 - 第2回 笑いと芸術
 - 第3回 香りと芸術
 - 第4回 全ての芸術の本質とは？
 - 第5回 情報化社会と芸術の評価
 - 第6回 自然の法則と芸術の関係
 - 第7回 健康と芸術
 - 第8回 五感で捉える芸術
 - 第9回 音楽と芸術
 - 第10回 表現者心理と聴衆心理
 - 第11回 芸術の心理的効果とその実験
 - 第12回 ミュージカルとオペラ
 - 第13回 夢(右脳の活動)と芸術
 - 第14回 器と芸術
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業での学習をもとに、自主的に芸術に触れ、日常にその機会を増やしてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

毎回の出席と授業での提出物は評価の基準になりますので、授業内容をよく理解し必ず提出してください。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 中国語 I <a>

担当者 蒲 豊彦

テーマ

中国語入門

獲得目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったたり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の内容

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

内 容

- 第1回 中国語について、授業について
- 第2回 発音1 母音
- 第3回 発音2 子音
- 第4回 発音3 鼻音
- 第5回 発音4 声調
- 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)
- 第7回 練習
- 第8回 練習
- 第9回 第2課 ～する (大学へ行きます。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第3課 ～したい (ウーロン茶を飲みたい。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第1課～3課の復習
- 第16回 第4課 場所・時間+～する (レストランで何を食べますか。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第4課～5課の復習
- 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第6課～7課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 中国語 I

担当者 蒲 豊彦

テーマ

中国語入門

獲得目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったたり下がったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の内容

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

内 容

- 第1回 中国語について、授業について
- 第2回 発音1 母音
- 第3回 発音2 子音
- 第4回 発音3 鼻音
- 第5回 発音4 声調
- 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)
- 第7回 練習
- 第8回 練習
- 第9回 第2課 ～する (大学へ行きます。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第3課 ～したい (ウーロン茶を飲みたい。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第1課～3課の復習
- 第16回 第4課 場所・時間+～する (レストランで何を食べますか。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第4課～5課の復習
- 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第6課～7課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 中国語 I <c>

担当者 トウ カ

テーマ

中国語入門

獲得目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったりがったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の内容

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

内 容

- 第1回 中国語について、授業について
- 第2回 発音1 母音
- 第3回 発音2 子音
- 第4回 発音3 鼻音
- 第5回 発音4 声調
- 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)
- 第7回 練習
- 第8回 練習
- 第9回 第2課 ～する (大学へ行きます。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第3課 ～したい (ウーロン茶を飲みたい。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第1課～3課の復習
- 第16回 第4課 場所・時間+～する (レストランで何を食べますか。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第4課～5課の復習
- 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第6課～7課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 中国語 I <d>

担当者 トウ カ

テーマ

中国語入門

獲得目標

発音の基礎と基本的表現を身につける。中国語には一つ一つの漢字に、音が上がったりがったりする、独特な調子がついている。全部で4種類しかないが、中国語を習得するうえで非常に重要なものである。最初にこれをしっかり学んでほしい。レベルとしては、中国語検定準4級をめざす。

授業の内容

教科書は毎回プリントして配布するため、購入する必要はない。週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。前期中(中国語 I)に第7課まで終了する。中国語検定準4級をめざすが、授業中に練習できる単語数は限られている。そのため、授業時間以外に各自で、とくに単語の習得が必要となる。具体的な勉強方法については、授業中に紹介する。

内 容

- 第1回 中国語について、授業について
- 第2回 発音1 母音
- 第3回 発音2 子音
- 第4回 発音3 鼻音
- 第5回 発音4 声調
- 第6回 第1課 あいさつと自己紹介 (こんにちは。私は田中といいます。)
- 第7回 練習
- 第8回 練習
- 第9回 第2課 ～する (大学へ行きます。)
- 第10回 練習
- 第11回 練習
- 第12回 第3課 ～したい (ウーロン茶を飲みたい。)
- 第13回 練習
- 第14回 練習
- 第15回 第1課～3課の復習
- 第16回 第4課 場所・時間+～する (レストランで何を食べますか。)
- 第17回 練習
- 第18回 練習
- 第19回 第5課 曜日 (水曜日の午後に来ます。)
- 第20回 練習
- 第21回 練習
- 第22回 第4課～5課の復習
- 第23回 第6課 様子、状態 (すごくおいしい。)
- 第24回 練習
- 第25回 練習
- 第26回 第7課 所有、存在 (彼は北京にいます。)
- 第27回 練習
- 第28回 練習
- 第29回 第6課～7課の復習
- 第30回 小テストの再テスト

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 中国語Ⅲ

担当者 トウ カ

テーマ

中国語中級

獲得目標

中国語Ⅰ、Ⅱで学んだことを復習しつつ、もう一段階上のレベルを目指す。非常にやさしい例文を使用しながら、日常生活に充分役立つ各種表現を身につけてほしい。

授業の内容

4回の授業で1課ずつ進む。とくに、口頭で受け答えの練習を行いたい。プリントを使用するため、教科書を購入する必要はない。

内 容

- 第1回 発音の復習
 - 第2回 第1課 中国の朝ご飯
 - 第3回 会話(助動詞、方向補語等)
 - 第4回 短文
 - 第5回 練習
 - 第6回 第2課 服装
 - 第7回 会話(助動詞、兼語文等)
 - 第8回 短文
 - 第9回 練習
 - 第10回 第1課～2課の復習
 - 第11回 第3課 映画を見る
 - 第12回 会話(完了、比較等)
 - 第13回 短文
 - 第14回 練習
 - 第15回 第4課 割り勘
 - 第16回 会話(受け身、比較等)
 - 第17回 短文
 - 第18回 練習
 - 第19回 第3課～4課の復習
 - 第20回 第5課 病気になる
 - 第21回 会話(状態の持続等)
 - 第22回 短文
 - 第23回 練習
 - 第24回 第6課 携帯電話
 - 第25回 会話(～しながら等)
 - 第26回 短文
 - 第27回 練習
 - 第28回 第5課～6課の復習
 - 第29回 小テストの再テスト
 - 第30回 全体の復習
-

授業以外での学習方法

単語はすべて覚えてください。授業中の練習のためにも必要です。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

小テストを行います。この小テストが成績評価の中心となります。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 韓国語 I <a>

担当者 朴 惠貞

テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。

獲得目標

①韓国語の文字(ハングル)と発音の習得 ②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。 ③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。

授業の内容

このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているので検定対策もできる。

内 容

- 第1回 授業の進め方について 韓国語とは？
- 第2回 子音字と母音字<1>-1
- 第3回 子音字と母音字<1>-2
- 第4回 子音字と母音字<2>-1
- 第5回 子音字と母音字<2>-2
- 第6回 子音字と母音字<3>-1
- 第7回 子音字と母音字<3>-2
- 第8回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ①
- 第9回 パッチム1
- 第10回 パッチム2
- 第11回 日本の地名・人名のハングル表記
- 第12回 指定詞の表現
- 第13回 実践会話と検定対策 1
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ②
- 第15回 指定詞・疑問詞の表現
- 第16回 指示詞の否定の表現
- 第17回 漢数詞
- 第18回 月日・曜日の表現
- 第19回 存在詞・位置の表現
- 第20回 実践会話と検定対策 2
- 第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ③
- 第22回 用言の「ハムニダ体」の表現
- 第23回 助詞
- 第24回 好き嫌いの表現
- 第25回 用言の「ハムニダ体」の否定の表現
- 第26回 固有数詞
- 第27回 実践会話と検定対策 3
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう! ④
- 第29回 「韓国語 I」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語 I」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聞くこと。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

教科書

サクサクっと韓国語 * テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者: 金美華

出版社: 白帝社

出版年: 2012

ISBN:

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **韓国語 I **

担当者 朴 惠貞

テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国について理解する。

獲得目標

①韓国語の文字(ハングル)と発音の習得 ②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。 ③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。

授業の内容

このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているので検定対策もできる。

内 容

- 第1回 授業の進め方について 韓国語とは？
- 第2回 子音字と母音字<1>-1
- 第3回 子音字と母音字<1>-2
- 第4回 子音字と母音字<2>-1
- 第5回 子音字と母音字<2>-2
- 第6回 子音字と母音字<3>-1
- 第7回 子音字と母音字<3>-2
- 第8回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！ ①
- 第9回 パッチム1
- 第10回 パッチム2
- 第11回 日本の地名・人名のハングル表記
- 第12回 指定詞の表現
- 第13回 実践会話と検定対策 1
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！ ②
- 第15回 指定詞・疑問詞の表現
- 第16回 指示詞の否定の表現
- 第17回 漢数詞
- 第18回 月日・曜日の表現
- 第19回 存在詞・位置の表現
- 第20回 実践会話と検定対策 2
- 第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！ ③
- 第22回 用言の「ハムニダ体」の表現
- 第23回 助詞
- 第24回 好き嫌いの表現
- 第25回 用言の「ハムニダ体」の否定の表現
- 第26回 固有数詞
- 第27回 実践会話と検定対策 3
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう！ ④
- 第29回 「韓国語 I」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語 I」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聞くこと。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する。

教科書

サクサクっと韓国語 * テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者: 金美華

出版社: 白帝社

出版年: 2012

ISBN:

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 韓国語 I <C>

担当者 崔 孝先

テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国社会について理解する。

獲得目標

①韓国語の文字(ハングル)と発音の習得 ②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。

授業の内容

このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているので検定対策もできる。

内 容

- 第1回 授業の進め方について 韓国語とは？
- 第2回 子音字と母音字<1>-1
- 第3回 子音字と母音字<1>-2
- 第4回 子音字と母音字<2>-1
- 第5回 子音字と母音字<2>-2
- 第6回 子音字と母音字<3>-1
- 第7回 子音字と母音字<3>-2
- 第8回 韓国(文化・社会)を知ろう! ①
- 第9回 パッチム1
- 第10回 パッチム2
- 第11回 日本の地名・人名のハングル表記
- 第12回 指定詞の表現
- 第13回 実践会話と検定対策 1
- 第14回 韓国(文化・社会)を知ろう! ②
- 第15回 指示詞・疑問詞の表現
- 第16回 指定詞の否定の表現
- 第17回 漢数詞
- 第18回 月日・曜日の表現
- 第19回 存在詞・位置の表現
- 第20回 実践会話と検定対策 2
- 第21回 韓国(文化・社会)を知ろう! ③
- 第22回 用言の「ハムニダ体」の表現
- 第23回 助詞
- 第24回 好き嫌いの表現
- 第25回 用言の「ハムニダ体」の否定の表現
- 第26回 固有数詞
- 第27回 実践会話と検定対策 3
- 第28回 韓国(文化・社会)を知ろう! ④
- 第29回 「韓国語 I」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語 I」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聞くこと。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する

教科書

*テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 韓国語 I <d>

担当者 崔 孝先

テーマ

韓国語の基礎を学ぶと同時に、韓国社会について理解する。

獲得目標

①韓国語の文字(ハングル)と発音の習得 ②簡単な自己紹介と基本的な挨拶ができることを目指す。③ハングル能力検定試験5級レベルの力を付けるための基礎を学ぶ。

授業の内容

このクラスでは、文字と発音の学習から始めて、丁寧な表現、指定詞、存在詞、数詞などの文法事項を体系的に学ぶが、その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習していく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているので検定対策もできる。

内 容

- 第1回 授業の進め方について 韓国語とは？
- 第2回 子音字と母音字<1>-1
- 第3回 子音字と母音字<1>-2
- 第4回 子音字と母音字<2>-1
- 第5回 子音字と母音字<2>-2
- 第6回 子音字と母音字<3>-1
- 第7回 子音字と母音字<3>-2
- 第8回 韓国(文化・社会)を知ろう! ①
- 第9回 パッチム1
- 第10回 パッチム2
- 第11回 日本の地名・人名のハングル表記
- 第12回 指定詞の表現
- 第13回 実践会話と検定対策 1
- 第14回 韓国(文化・社会)を知ろう! ②
- 第15回 指示詞・疑問詞の表現
- 第16回 指定詞の否定の表現
- 第17回 漢数詞
- 第18回 月日・曜日の表現
- 第19回 存在詞・位置の表現
- 第20回 実践会話と検定対策 2
- 第21回 韓国(文化・社会)を知ろう! ③
- 第22回 用言の「ハムニダ体」の表現
- 第23回 助詞
- 第24回 好き嫌いの表現
- 第25回 用言の「ハムニダ体」の否定の表現
- 第26回 固有数詞
- 第27回 実践会話と検定対策 3
- 第28回 韓国(文化・社会)を知ろう! ④
- 第29回 「韓国語 I」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語 I」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聞くこと。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解する

教科書

*テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜、資料配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **韓国語Ⅲ**

担当者 朴 惠貞

テーマ

韓国語の習熟

獲得目標

①韓国語会話能力(自己意思表示が可能なレベル)及び読解能力の向上を目指す。②ハングル能力検定試験4級レベルの力をつけるための基礎を学ぶ。

授業の内容

このクラスでは、「韓国語Ⅰ、Ⅱ」クラスで学んだ文法事項を復習しながら新しい文法項目などを体系的に積み上げていく。その際には、DVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。

内 容

- 第1回 授業の進め方について お互いのことを知ろう！
- 第2回 指定詞の「ハムニダ体」の表現 指定詞の「ハムニダ体」の否定表現
- 第3回 用言の「ハムニダ体」の表現 用言の「ハムニダ体」の否定表現
- 第4回 存在詞の「ハムニダ体」の表現、疑問詞の表現
- 第5回 読んでみよう！①
- 第6回 指示、所有、位置表現
- 第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！①
- 第8回 用言の「ヘヨ体」の表現①
- 第9回 用言の「ヘヨ体」の表現②
- 第10回 用言の「ヘヨ体」の否定表現
- 第11回 指定詞、存在詞の「ハムニダ体」の過去形の表現
- 第12回 用言の「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の過去形の表現
- 第13回 用言の変則活用形の表現①、文法①
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！②
- 第15回 指定詞の「ヘヨ体」の表現と否定表現、文法②
- 第16回 読んでみよう！②
- 第17回 漢数詞の応用、文法③
- 第18回 固有数詞の応用
- 第19回 用言の変則活用形の表現②、文法④
- 第20回 理由・原因・丁寧なお願い・勧誘表現
- 第21回 願望・目的・逆説表現、文法⑤
- 第22回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！③
- 第23回 注文してみよう！ 尊敬表現・特殊な尊敬語の表現
- 第24回 推量・推測・比較・感嘆表現
- 第25回 読んでみよう！③
- 第26回 尊敬表現の「ハムニダ体」と「ヘヨ体」の過去形 禁止表現
- 第27回 病気の症状を説明してみよう！ 提案・順序表現
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)に親しもう！④
- 第29回 「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ①
- 第30回 「韓国語Ⅲ」の授業のまとめ②

授業以外での学習方法

1. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。2. 韓国の新聞・雑誌などを積極的に読むこと。3. 辞書を用いて作文をしてみる

教科書

キャンパス韓国語

著者:

出版社: 白帝社

出版年:

ISBN:

参考書

ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典

著者: 油谷幸利その他編

出版社: 小学館

出版年: 2008

ISBN:

* 他の辞書も可。必ず辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 フランス語 I

担当者 志賀 亮一

テーマ

フランス語の基礎(その1)

獲得目標

フランス語文法の重要な規則のうち、もっとも基本的な項目を学び、それらを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

授業の内容

「講義による説明 → 音声と筆記による反復練習 → 練習問題＋小テスト」というサイクルで、ひとつ一つの項目を着実に学ぶ。なお、音声による反復練習の際には、クラス全員に聞こえるようしっかり発声することが望まれる。

内 容

- 第1回 講義「フランス語とはどんな言語か？」＋授業の進め方
- 第2回 フランス語のアルファベット：文字の呼び方と筆記体
- 第3回 発音記号と発音の仕方①：母音
- 第4回 発音記号と発音の仕方②：鼻母音と子音
- 第5回 名詞の変化：性と数
- 第6回 不定冠詞の変化①
- 第7回 不定冠詞の変化②・練習問題＋小テスト
- 第8回 定冠詞の変化①
- 第9回 定冠詞の変化②・練習問題＋小テスト
- 第10回 品質形容詞の変化①
- 第11回 品質形容詞の変化②・練習問題＋小テストリーダー
- 第12回 不規則動詞 *etre* の直説法現在①
- 第13回 不規則動詞 *etre* の直説法現在②・疑問文と否定文
- 第14回 不規則動詞 *etre* の直説法現在③・練習問題＋小テスト
- 第15回 第1章リーダー不規則動詞 *avoir* の直説法現在①
- 第16回 不規則動詞 *avoir* の直説法現在②・練習問題＋小テスト
- 第17回 第一群規則動詞の直説法現在①
- 第18回 第一群規則動詞の直説法現在②・練習問題＋小テスト
- 第19回 第2章リーダー＋基数形容詞
- 第20回 指示形容詞の変化①
- 第21回 指示形容詞の変化②・練習問題＋小テスト
- 第22回 所有形容詞の変化①
- 第23回 所有形容詞の変化②・練習問題＋小テスト
- 第24回 不規則動詞 *pouvoir* の直説法現在①
- 第25回 不規則動詞 *pouvoir* の直説法現在②・練習問題＋小テスト
- 第26回 不規則動詞 *vouloir* の直説法現在①
- 第27回 不規則動詞 *vouloir* の直説法現在②・練習問題＋小テスト
- 第28回 命令法①
- 第29回 命令法②・練習問題＋小テスト
- 第30回 第3章リーダー

授業以外での学習方法

初習外国語なので予習はかなり困難。むしろ、各回終了ごとに10-20分程度復習する(ex.通学返りの車中でその日のノートを読み返す)ことが望ましい。ただし、各章の学習項目を学び終えたところで、リーダーの読解に移るので、予告された回にはかならず予習を欠かさないこと。

教科書

オルセー美術館にて-初級フランス語総合教本

著者: 中山真彦

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ドイツ語 I <a>**

担当者 久下 泰弘

テーマ

ドイツ語入門その1

獲得目標

ドイツ語の初級文法、購読、会話の習得 その1

授業の内容

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

内 容

- 第1回 授業の進め方について、辞書の話
 第2回 Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音
 第3回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき母音の発音 挨拶表現
 第4回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき子音の発音 曜日、月の表現
 第5回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」動詞の現在人称変化（規則変化）
 第6回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」語順、定動詞の位置
 第7回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」自己紹介
 第8回 Lektion 1「ミュンヘンで自己紹介」 ことば、君はなに読派？！
 第9回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」 名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
 第10回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」 名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
 第11回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」 格の用法 職業、身分をたづねるとき
 第12回 Lektion 2「ザルツブルクの美術館で」 ～するのが好きです、 塩について
 第13回 Lektion3「ウィーン市街で」人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
 第14回 Lektion3「ウィーン市街で」命令形
 第15回 Lektion3「ウィーン市街で」名詞の複数形、非人称表現
 第16回 Lektion3「ウィーン市街で」 場所をたづねるとき、クールな都
 第17回 Lektion4「ハンブルクで買い物」定冠詞類
 第18回 Lektion4「ハンブルクで買い物」不定冠詞類
 第19回 Lektion4「ハンブルクで買い物」否定冠詞
 第20回 Lektion4「ハンブルクで買い物」身につけるもの、家族をあらわす表現 買い物をするとき、ハンスと太郎
 名前のあるこれ
 第21回 Lektion5「バーゼルで」前置詞と格
 第22回 Lektion5「バーゼルで」前置詞と名詞の融合形
 第23回 Lektion5「バーゼルで」人称代名詞の3格と4格、その語順
 第24回 Lektion5「バーゼルで」 行きかたをたづねるとき、ドライな数 三・さん
 第25回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第26回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第27回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第28回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第29回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第30回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習

授業以外での学習方法

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

教科書

ブーメラン

著者： 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社： 朝日出版社

出版年： 2013

ISBN： 9.78426E+12

参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者： 根本道也ほか

出版社： 同学社

出版年： 2010

ISBN： 9.78481E+12

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

授業出席重視。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ドイツ語 I **

担当者 久下 泰弘

テーマ

ドイツ語入門その1

獲得目標

ドイツ語の初級文法、購読、会話の習得 その1

授業の内容

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

内 容

- 第1回 授業の進め方について、辞書の話
 第2回 Das Alphabet, ドイツ語の綴りと発音
 第3回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき母音の発音 挨拶表現
 第4回 ドイツ語の綴りと発音 注意すべき子音の発音 曜日、月の表現
 第5回 Lektion 1 「ミュンヘンで自己紹介」 動詞の現在人称変化（規則変化）
 第6回 Lektion 1 「ミュンヘンで自己紹介」語順、定動詞の位置
 第7回 Lektion 1 「ミュンヘンで自己紹介」自己紹介
 第8回 Lektion 1 「ミュンヘンで自己紹介」 ことば、君はなに読派？！
 第9回 Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」 名詞の性、冠詞、定冠詞と名詞の変化
 第10回 Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」 名詞の性、不定冠詞と名詞の変化
 第11回 Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」 格の用法 職業、身分をたづねるとき
 第12回 Lektion 2 「ザルツブルクの美術館で」 ～するのが好きです、 塩について
 第13回 Lektion3 「ウィーン市街で」人称代名詞の変化、不規則動詞現在人称変化
 第14回 Lektion3 「ウィーン市街で」命令形
 第15回 Lektion3 「ウィーン市街で」名詞の複数形、非人称表現
 第16回 Lektion3 「ウィーン市街で」 場所をたづねるとき、クールな都
 第17回 Lektion4 「ハンブルクで買い物」 定冠詞類
 第18回 Lektion4 「ハンブルクで買い物」 不定冠詞類
 第19回 Lektion4 「ハンブルクで買い物」 否定冠詞
 第20回 Lektion4 「ハンブルクで買い物」身につけるもの、家族をあらわす表現 買い物をするとき、ハンスと太郎
 名前のあるこれ
 第21回 Lektion5 「バーゼルで」前置詞と格
 第22回 Lektion5 「バーゼルで」前置詞と名詞の融合形
 第23回 Lektion5 「バーゼルで」人称代名詞の3格と4格、その語順
 第24回 Lektion5 「バーゼルで」 行きかたをたづねるとき、ドライな数 三・さん
 第25回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第26回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第27回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第28回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第29回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習
 第30回 前期のまとめとドイツ語2への橋渡し、補足練習

授業以外での学習方法

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

教科書

ブーメラン

著者： 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社： 朝日出版社

出版年： 2013

ISBN： 9.78426E+12

参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者： 根本道也ほか

出版社： 同学社

出版年： 2010

ISBN： 9.78481E+12

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

授業出席重視。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 京都講座 I

担当者 永田 信一

テーマ

埋もれた京都の地下から京都の歴史・文化を探る

獲得目標

発掘調査による資料をもとに京都の地下の文化財にふれ、学び、理解し、考えてみる。そして遺跡から京都の歴史や文化がわかる表現方法の取得にむかう。

授業の内容

内 容

- 第12回 伏見城と城下町
 - 第13回 江戸時代の京都
 - 第14回 遺跡が語る京都の近代化
 - 第15回 京都市資料館の見学(学外授業)
 - 第1回 京都の文化財ガイド
 - 第2回 平安京以前の京都(旧石器時代～奈良時代)
 - 第3回 短命の都 長岡京について
 - 第4回 平安京の創設(条坊制にもとづく平安京の構造)
 - 第5回 平安宮の遺跡と遺物(大内裏の構造)
 - 第6回 羅城門跡と東寺、西寺跡(平安京の南辺)
 - 第7回 平安京右京
 - 第8回 平安京左京
 - 第9回 平安京の変質(郊外地への進展)
 - 第10回 中世京都の成立(鎌倉・室町時代の京都)
 - 第11回 近世京都の始まり(安土桃山時代～江戸時代初期の京都)
-

授業以外での学習方法

身の回りにある史跡を訪ねたり、発掘調査現地説明会に参加する。

教科書

随時プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

随時プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

aky501e910

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (30)

小テスト (30)
授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化Ⅱ

担当者 仲田 順和

テーマ

京都の文化財を現代にまで伝わる文化財、信仰行事等を通じて学ぶ。

獲得目標

文化がどのように伝承されたかを学び、将来に伝えていく方策を考える。

授業の内容

この授業は、京都橘大学と総本山醍醐寺の学术交流協定に基づく授業である。現代に伝わる様々な文化をそれぞれの専門家が担当して講義する。さらに醍醐寺に残る文化財、信仰行事に接する機会を設け、日本文化について考察を進める。各回毎に専門の担当者が授業を行うリレー方式で行われる。

内 容

- 第1回 京都に残る有形文化財がどのように伝えられてきたか、さらに将来への保存に向けてどのような方法が取られているか、具体例を上げて講義する。
- 第2回 京都の歴史について(醍醐寺を中心に)〈その1〉
- 第3回 京都の歴史について(醍醐寺を中心に)〈その2〉
- 第4回 文化財にふれる(醍醐寺霊宝館見学・学外授業)
- 第5回 醍醐寺所蔵の文化財について
- 第6回 現代に生きる山岳信仰〈その1〉
- 第7回 現代に生きる山岳信仰〈その2〉
- 第8回 信仰行事にふれる(柴灯護摩見学・学外授業)
- 第9回 生け花の文化
- 第10回 日本人の生活の中に生きる仏教
- 第11回 日本人の根底に流れる仏教の影響
- 第12回 桃山文化にふれる(醍醐寺三宝院見学・学外授業)
- 第13回 華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に)〈その1〉
- 第14回 華やかな桃山文化について(醍醐の花見を中心に)〈その2〉
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

積極的に街に残る行事に参加あるいは見学すること

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **文学と京都**

担当者 辻本 千鶴

テーマ

近代文学のなかの京都

獲得目標

京都を舞台とした近代文学の小説作品を読む。小説の読解力・鑑賞力を養うとともに、京都の歴史・風土にも触れて行きたい。京都の大学で学ぶ学生として興味・知的関心を深めることを目標とする。

授業の内容

谷崎潤一郎と〈陰翳礼讃〉の美意識、三島由紀夫と金閣寺放火事件、水上勉と京の寺、という三つの柱を立て、作家たちの芸術的感興を喚起した京都という観点から作品鑑賞を行う。

内 容

- 第1回 概説 ——川端康成「古都」——
 - 第2回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」1
 - 第3回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」2
 - 第4回 谷崎潤一郎「少将滋幹の母」1
 - 第5回 谷崎潤一郎「少将滋幹の母」2
 - 第6回 谷崎潤一郎と京都 まとめ
 - 第7回 三島由紀夫「金閣寺」1
 - 第8回 三島由紀夫「金閣寺」2
 - 第9回 三島由紀夫「金閣寺」3
 - 第10回 三島由紀夫と京都 まとめ
 - 第11回 水上勉「金閣炎上」
 - 第12回 水上勉「五番町夕霧楼」
 - 第13回 水上勉「雁の寺」1
 - 第14回 水上勉「雁の寺」2
 - 第15回 水上勉と京都 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業で扱う小説作品を通読する。舞台として出てきた京都の寺院や名所を訪れ、興味を深める。

教科書

(使用しない。プリント配布。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

試験はレポート形式とする。課題は授業中に伝達、提出は学期末。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本国憲法 <a>

担当者 上出 浩

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

獲得目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の内容

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
 - 第2回 日本国憲法の3大原則
 - 第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
 - 第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
 - 第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
 - 第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)
 - 第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)
 - 第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)
 - 第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)
 - 第10回 日本国憲法の人権(社会権)
 - 第11回 日本国憲法の人権(手続き的保証、そのほかの権利)
 - 第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)
 - 第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)
 - 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)
 - 第15回 到達度確認試験、復習
 - 第16回 総まとめ
-

授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証 第5版

著者: 小林武ほか編

出版社: 法律文化社

出版年: 2011

ISBN: 978-4589033529

参考書

憲法 第5版

著者: 芦部信喜著・高橋和之補訂

出版社: 岩波書店

出版年: 2011

ISBN: 978-4000227810

ポケット六法 平成25年版

著者: 西田 典之 他編

出版社: 有斐閣

出版年: 2012

ISBN: 978-4641009134

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本国憲法

担当者 上出 浩

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

獲得目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の内容

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
- 第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
- 第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
- 第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)
- 第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)
- 第10回 日本国憲法の人権(社会権)
- 第11回 日本国憲法の人権(手続き的保証、そのほかの権利)
- 第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)
- 第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)
- 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)
- 第15回 到達度確認試験、復習
- 第16回 総まとめ

授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証 第5版

著者: 小林武ほか編

出版社: 法律文化社

出版年: 2011

ISBN: 978-4589033529

参考書

憲法 第5版

著者: 芦部信喜著・高橋和之補訂

出版社: 岩波書店

出版年: 2011

ISBN: 978-4000227810

ポケット六法 平成25年版

著者： 西田 典之 他編

出版社： 有斐閣

出版年： 2012

ISBN： 978-4641009134

成績評価

試験（60）

授業中課題（ ）

参加度（10）

小テスト（20）

授業中発表等（10）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本国憲法 <c>

担当者 高橋 正俊

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

獲得目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の内容

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
- 第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
- 第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
- 第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)
- 第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)
- 第10回 日本国憲法の人権(社会権)
- 第11回 日本国憲法の人権(手続き的保証、そのほかの権利)
- 第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)
- 第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)
- 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)
- 第15回 到達度確認試験、復習
- 第16回 総まとめ

授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証 (第5版)

著者: 小林武ほか編

出版社: 法律文化社

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本国憲法 <d>

担当者 高橋 正俊

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

獲得目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の内容

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
- 第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
- 第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
- 第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)
- 第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)
- 第10回 日本国憲法の人権(社会権)
- 第11回 日本国憲法の人権(手続き的保証、そのほかの権利)
- 第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)
- 第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)
- 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)
- 第15回 到達度確認試験、復習
- 第16回 総まとめ

授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証 (第5版)

著者: 小林武ほか編

出版社: 法律文化社

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 法学概論 I <a>

担当者 高橋 正俊

テーマ

公法に関する基礎知識の習得

獲得目標

公法の基本的な仕組み、重要な概念、重要判例等の基礎知識を習得するとともに、公法的な思考を身につける。公法の基本的なテーマについて検討し、各諸制度について考察する。

授業の内容

授業は講義形式で、指定テキストを使用しながら行う。補足資料として、適宜にレジュメを配布する。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン
 - 第2回 近代立憲主義と日本国憲法
 - 第3回 国会と内閣
 - 第4回 地方自治と地方分権
 - 第5回 裁判所と司法権
 - 第6回 行政活動とその法的規制
 - 第7回 行政救済法
 - 第8回 幸福追求権、法の下での平等
 - 第9回 精神的自由権
 - 第10回 経済的自由権と社会権
 - 第11回 環境権と行政
 - 第12回 情報公開と個人情報保護
 - 第13回 犯罪と刑罰
 - 第14回 国際社会と法
 - 第15回 総まとめ
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

新聞・テレビ等の報道に注意を払い、法改正や判決に関する論理的説明を試みる。

教科書

『公法入門』

著者： 小泉洋一・島田茂(編)

出版社： 法律文化社

出版年：

ISBN：

参考書

『なるほど公法入門 第2版』

著者： 村上英明・小原清信(編)

出版社： 法律文化社

出版年：

ISBN：

『はじめての憲法学 第2 版』

著者： 中村睦男(編)

出版社： 三省堂

出版年：

ISBN：

『はじめての行政法 第2 版』

著者： 石川敏行ほか

出版社： 有斐閣

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **法学概論 I **

担当者 高橋 正俊

テーマ

公法に関する基礎知識の習得

獲得目標

公法の基本的な仕組み、重要な概念、重要判例等の基礎知識を習得するとともに、公法的な思考を身につける。公法の基本的なテーマについて検討し、各諸制度について考察する。

授業の内容

授業は講義形式で、指定テキストを使用しながら行う。補足資料として、適宜にレジュメを配布する。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

内 容

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 近代立憲主義と日本国憲法
 - 第3回 国会と内閣
 - 第4回 地方自治と地方分権
 - 第5回 裁判所と司法権
 - 第6回 行政活動とその法的規制
 - 第7回 行政救済法
 - 第8回 幸福追求権、法の下での平等
 - 第9回 精神的自由権
 - 第10回 経済的自由権と社会権
 - 第11回 環境権と行政
 - 第12回 情報公開と個人情報保護
 - 第13回 犯罪と刑罰
 - 第14回 国際社会と法
 - 第15回 総まとめ
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

新聞・テレビ等の報道に注意を払い、法改正や判決に関する論理的説明を試みる。

教科書

『公法入門』

著者： 小泉洋一・島田茂(編)

出版社： 法律文化社

出版年：

ISBN：

参考書

『なるほど公法入門 第2版』

著者： 村上英明・小原清信(編)

出版社： 法律文化社

出版年：

ISBN：

『はじめての憲法学 第2 版』

著者： 中村睦男(編)

出版社： 三省堂

出版年：

ISBN：

『はじめての行政法 第2 版』

著者： 石川敏行ほか

出版社： 有斐閣

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **政治学概論 I**

担当者 鶴谷 将彦

テーマ

本講義は、政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

獲得目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 イントロダクション・選挙について
 - 第2回 投票行動・メディアと政治
 - 第3回 政治家
 - 第4回 日本政治史① ～戦後政治と55年体制～
 - 第5回 日本政治史② ～疑似政権交代・55年体制の崩壊～
 - 第6回 政党
 - 第7回 官僚制
 - 第8回 利益団体
 - 第9回 国会(議会)
 - 第10回 政策過程
 - 第11回 首相～強い首相と弱い首相～
 - 第12回 地方自治①～地方自治制度の変遷を中心に～
 - 第13回 地方自治②～地方自治体の政策課題を中心に～
 - 第14回 国際政治
 - 第15回 本講義のまとめ
 - 第16回 定期試験
-

授業以外での学習方法

教科書

ポリティカルサイエンス事始め第3版

著者: 伊藤光利編

出版社: 有斐閣ブックス

出版年: 2009

ISBN: 9.78464E+12

参考書

はじめて出会う政治学—構造改革の向こうに 第3版

著者: 北山俊哉・久米郁男・真淵勝

出版社: 有斐閣アルマ

出版年: 2009

ISBN: 9.78464E+12

成績評価

試験（100）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（0）

成績評価については、第1回の授業の中のイントロダクションで説明する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **民法**

担当者 近藤 実千代

テーマ

民法に関する基礎知識と初歩的な応用力の習得

獲得目標

1. 日常生活の各場面において、民法の関連や位置付けを理解する。
 2. 法的な思考方法に触れ、多面的な考え方を身につける。
 3. 初歩的な問題発見能力と処理能力を身につける。
-

授業の内容

日常生活の各場面において、事例を用いながら、民法の基本的な制度とその背景にある考え方について講義する。講義時には、毎回レジュメや参考資料を配布し、これに沿って講義する。※法学概論Ⅱと講義スケジュールの表記が重複している部分があるが、内容は異なる。

内 容

- 第1回 民法の基本原則
 - 第2回 意思表示
 - 第3回 未成年者と高齢者の契約
 - 第4回 無権代理と表見代理
 - 第5回 双務契約の債務の関係
 - 第6回 債務不履行責任
 - 第7回 まとめとテスト①(第1回～第6回)
 - 第8回 人的担保
 - 第9回 物的担保
 - 第10回 不法行為と損害賠償
 - 第11回 婚姻
 - 第12回 離婚
 - 第13回 親子
 - 第14回 遺言と相続
 - 第15回 まとめとテスト②(第8回～第14回)
-

授業以外での学習方法

新聞やテレビ等のニュースに注意を払い、法と日常生活との関連に留意する。

教科書

2013年版の小型六法

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

民事法入門 第5版増補版

著者: 野村 豊弘

出版社: 有斐閣

出版年: 2012

ISBN:

民法への招待 第4版

著者： 池田真朗

出版社： 税務経理協会

出版年： 2012

ISBN:

新・キーワード民法

著者： 中田邦博・高嶋英弘

出版社： 法律文化社

出版年： 2007

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト (70)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 人権と教育 <a>

担当者 井手 幸喜

テーマ

獲得目標

今日、子どもや女性、障害者問題、部落問題、など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

授業の内容

日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。

内 容

- 第1回 世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－
- 第2回 世界的な人権の流れ－人権の概略史－
- 第3回 明治期、人権なる言葉の導入とその理解
- 第4回 人権の変容－戦前期まで－
- 第5回 人権に対する戦後の理解
- 第6回 人権教育の提唱－国連人権教育10 年計画－
- 第7回 部落問題とは
- 第8回 同和(融和)教育の軌跡－戦前－
- 第9回 同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－
- 第10回 同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－
- 第11回 同和教育の功罪
- 第12回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－
- 第13回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－
- 第14回 まとめ－教育実践と教材－
- 第15回 まとめ－教育実践、留意すべきこと－

授業以外での学習方法

授業のキーワードを調べたり、発表したりする参加型の授業。市民レベルの人権企画などへの参加も留意して欲しい。

教科書

適宜紹介を行う。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

適宜紹介を行う。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

aky602d310

試験 ()
授業中課題 (40)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 人権と教育

担当者 井手 幸喜

テーマ

獲得目標

今日、子どもや女性、障害者問題、部落問題、など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

授業の内容

日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。

内 容

- 第1回 世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－
- 第2回 世界的な人権の流れ－人権の概略史－
- 第3回 明治期、人権なる言葉の導入とその理解
- 第4回 人権の変容－戦前期まで－
- 第5回 人権に対する戦後の理解
- 第6回 人権教育の提唱－国連人権教育10 年計画－
- 第7回 部落問題とは
- 第8回 同和(融和)教育の軌跡－戦前－
- 第9回 同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－
- 第10回 同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－
- 第11回 同和教育の功罪
- 第12回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－
- 第13回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－
- 第14回 まとめ－教育実践と教材－
- 第15回 まとめ－教育実践、留意すべきこと－

授業以外での学習方法

授業のキーワードを調べたり、発表したりする参加型の授業。市民レベルの人権企画などへの参加も留意して欲しい。

教科書

適宜紹介を行う。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

適宜紹介を行う。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 国際関係入門

担当者 酒井 一臣

テーマ

国際関係論の基礎を学ぶ

獲得目標

この授業では、国際関係論の基礎を、ニュースなどで最近話題になっていることなどをとりあげつつ、学んでいきます。現在の社会はグローバル化が進んでいます。よって、国際関係の基礎知識は、政治経済はもちろんのこと、歴史やビジネスや看護などを学ぶ人にも必須のものです。受講生が、基礎知識を習得するとともに、自分のこととして国際関係に関心を持つ習慣を身につけることを目的とします。

授業の内容

国際関係の基礎知識を講義するとともに、小レポートやグループ学習を通じて、国際関係について、自分の意見を述べる練習もおこなう予定です。外部講師を招く場合もあります。

内 容

- 第1回 国際関係論はどんな学問か？
 - 第2回 国際関係論の基礎(1) 国際社会の基本概念
 - 第3回 国際関係論の基礎(2) 国際連合から考える
 - 第4回 国際関係論の基礎(3) 国家を裁くことができるのか？
 - 第5回 日本の平和(1) 国際関係史からみる憲法9条
 - 第6回 日本の平和(2) 日米安全保障条約と集団的自衛権
 - 第7回 現代世界の形成(1) 冷戦 イデオロギーの対立
 - 第8回 現代世界の形成(2) 核兵器
 - 第9回 現代世界の形成(3) 冷戦の終結
 - 第10回 現代世界の形成(4) 冷戦後の世界
 - 第11回 国際関係の諸問題(1) グローバル化の光と陰
 - 第12回 国際関係の諸問題(2) アジア太平洋と日本
 - 第13回 国際関係の諸問題(3) 人間の安全保障
 - 第14回 国際関係の諸問題(4) 世界平和に向けて
 - 第15回 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

テレビニュースだけでなく、新聞を読む習慣をつけましょう。また、地図帳をながめて世界地図に親しむことも大切です。

教科書

ニュース解説質へようこそ！ 2014

著者：

出版社：清水書院

出版年：2012

ISBN：

参考書

国際秩序

著者：細谷雄一

出版社：中央公論新社

出版年：2012

ISBN：

民族とネーション

著者： 塩川伸明

出版社： 岩波書店

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ 50 ）

授業中課題（ 40 ）

授業中発表等（ ）

参加度（ 10 ）

授業期間中に2回程度小レポートを課します。知識の確認のための小テストもおこないます。

参考URL

国際連合広報センター

<http://unic.or.jp/index.php>

国連のしくみや最新の動きがわかる

外務省ホームページ

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html>

日本外交の諸活動を知ることができる

2013 Syllabus

科目名 **くらしと経済**

担当者 阪本 崇

テーマ

日本経済についての話題をきっかけに、社会認識の手段としての経済学の基礎を学ぶ

獲得目標

経済社会の中で起こる様々な現象について、報道をはじめとする世の中の言説を鵜呑みにするのではなく、経済学で用いられる概念や思考方法を駆使しながら自分自身で論理的に考える力を身につける。

授業の内容

経済学は「金儲けのための学問」ではありません。20世紀初頭に活躍したイギリスの経済学者A.C.ピグーの言葉にもあるように、それは「人間生活の改良のための学問」です。人間生活の改良のために解決しなければならない経済問題は、その時代毎に変化します。経済学は250年の歴史の中で、さまざまな経済問題にとりくみながら発展してきました。この授業では、こうした経済学の発展過程で生まれしてきた重要な概念や思考方法を学びながら、経済学が、現代の社会に生きる私たちが取り組まなければならない問題-地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題-にどのように取り組んでいるのかを学びます。

内 容

- 第2回 なぜ景気は変動するのか？
- 第3回 不況になったら政府は何をするべきか？
- 第4回 為替レートはどのように決まるのか？
- 第5回 輸出を増やせば景気は良くなるか？
- 第6回 バブル経済とは何だったのか？
- 第7回 インフレやデフレはどうして良くないのか？
- 第8回 今後の日本経済はどうなるのか？
- 第9回 所得や価格は消費にどのように影響を与えるか？
- 第10回 企業はどのように行動するのか？
- 第11回 なぜ市場に任せるのが望ましいのか？
- 第12回 企業はどのようにして競争を避けるのか？
- 第13回 なぜ公園や道路は政府が作るのか？
- 第14回 消費者は商品の本当の価値を知っているか？
- 第15回 市場と政府だけが経済ではない
- 第1回 イントロダクション：経済学とは何か？

授業以外での学習方法

授業で教科書の内容すべてを説明することはできません。教科書の該当範囲を示した上で、要点のみを説明しますので、授業後に該当部分をしっかり読んでおくことが必要です。また、新聞を読んだりニュースを見たりして普段から日本経済の状況について知るように心がけてください。

教科書

What's経済学：わかる楽しさ 使うよろこび(第3版)

著者： 辻 正次・八田 英二

出版社： 有斐閣(有斐閣アルマ)

出版年： 2010

ISBN： 978-4641123878

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

aky701d110

教科書および授業内容に関する小テストを数回行います。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会学概論 I**

担当者 松田 いりあ

テーマ

現代日本社会の諸問題を社会学理論とデータを参照しながら読み解く

獲得目標

現代日本は20世紀につちかわれた「自明性」の感覚が空洞化し再編される時代を迎えている。私たちが「あたりまえ」と思ってきたことがもはや「あたりまえ」ではない時代に「まとも」に生きることは簡単ではない。この授業ではかつて「あたりまえ」と思われてきた事柄をメタレベルから再検討することによって、21世紀の社会で少しでも「まとも」に生きていく方法をともに模索していく

授業の内容

自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の習得を目指す。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちだが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる

内 容

- 第1回 はじめに:この授業の概要の説明
- 第2回 社会学とは何か(1):社会とは
- 第3回 社会学とは何か(2):近代社会とは
- 第4回 社会学とは何か(3):現代社会とは
- 第5回 家族をめぐる社会学(1):家族を定義することの困難
- 第6回 家族をめぐる社会学(2):現代家族をめぐる諸問題
- 第7回 ジェンダーをめぐる社会学
- 第8回 自己(自我)をめぐる社会学
- 第9回 仕事をめぐる社会学
- 第10回 地域をめぐる社会学
- 第11回 国家をめぐる社会学
- 第12回 グローバル化をめぐる社会学
- 第13回 メディアと情報化をめぐる社会学(1):メディアの歴史的展開
- 第14回 メディアと情報化をめぐる社会学(2):現代社会とメディア
- 第15回 まとめ:この授業の総括

授業以外での学習方法

担当教員の指示する資料(ウェブ上で公開されている各種統計など)を参照してもらうことがある

教科書

よくわかる社会学 第2版

著者: 宇都宮京子編

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2009

ISBN: 9.78462E+12

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究 <a>

担当者 今井 裕夫

テーマ

現代における住環境(住居)の理解

獲得目標

現代の時代環境の中で、人間の生活の基本(衣・食・住)の一つである住環境に絞り、その理解をより深いものにし、居心地のよい美しい住居を得るためのパッシブ的側面からの知識を涵養する。

授業の内容

講義の進行具合により、若干の変更あり

内 容

- 第6回 作品⑤(自邸 A.アアルト)
 - 第7回 作品⑥(田の家 L.コルビジユ)
 - 第8回 作品⑦(自邸 R.ノイトラ)
 - 第9回 作品⑧(自邸 L.バラガン邸)
 - 第10回 作品⑨(自邸 O.ニーマイアー邸)
 - 第11回 作品⑩(マナパルテ邸 リベラ)
 - 第12回 作品⑪(ケーススタディハウス22 P.コーニック)
 - 第13回 作品⑫(シーランチ Condominium C.ムーア)
 - 第14回 作品⑬(軽井沢の山荘 吉村順三)
 - 第15回 作品⑭(F邸 藤木忠善)と全体のまとめ
 - 第1回 講義の説明
 - 第2回 作品①(落水荘 F.L.ライト)
 - 第3回 作品②(サヴォア邸 L.コルビジユ)
 - 第4回 作品③(ファンズワース邸 M.ローエ)
 - 第5回 作品④(アウエルパツハ邸 W.グロピウス)
-

授業以外での学習方法

都市や建築に関する新聞記事に興味を持つこと。配布資料作品についての予習を怠らないこと。

教科書

配布資料による。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

配布資料による。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

aky701d730

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

補助金交付の根拠資料となりますので、必ずご記入ください。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究

担当者 上原 恵美

テーマ

男女共同参画社会とは何かについて考察する

獲得目標

時事問題の中でも大きな課題である男女共同参画社会の実現というテーマに絞って取り上げ、将来の人生設計の参考とする。

授業の内容

男女共同参画社会の実現は、大きな政治・行政課題でもある。行政担当者をゲストに迎え、その取り組みについて話をしてもらう予定である。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 分野別男女の地位の平等感
- 第3回 憲法上の男女の地位
- 第4回 映画「ベアテのおくりもの」をみる
- 第5回 参政権の獲得について
- 第6回 男女の役割に関する意識の現状
- 第7回 男女雇用機会均等法の成立過程について
- 第8回 男女雇用機会均等法の改正について
- 第9回 雇用の場における男女平等の実態
- 第10回 国際的にみた日本の女性の地位
- 第11回 男女共同参画社会基本法について
- 第12回 少子化の現状と背景
- 第13回 少子化対策・育児休業法について
- 第14回 男性の生き方・男性の育児休業について
- 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて特別講演会を行うことがあります。

授業以外での学習方法

男性、女性の生き方について関心を持ち、新聞記事や報道に接すること

教科書

参考書

フランスの子育てが日本よりも10倍楽な理由

著者： 横田増生

出版社： 洋泉社

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **経済学概論 I**

担当者 小森 治夫

テーマ

現代日本経済をめぐる諸問題

獲得目標

バブル経済とその崩壊、女性労働、労働問題など、現代日本経済をめぐる諸問題について学ぶ

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 経済学とは何か
 - 第2回 バブル経済
 - 第3回 90年代不況(1)不良債権処理の10年
 - 第4回 90年代不況(2)不良債権処理の10年
 - 第5回 90年代不況(3)ケーススタディ・日本長期信用銀行
 - 第6回 90年代不況(4)ケーススタディ・山一証券
 - 第7回 中小企業問題
 - 第8回 女性労働(1)均等法誕生
 - 第9回 女性労働(2)均等法その後
 - 第10回 女性労働(3)育児支援
 - 第11回 労働問題(1)過労死・過労自殺
 - 第12回 労働問題(2)ホームレス
 - 第13回 労働問題(3)派遣労働
 - 第14回 労働問題(4)ネットカフェ難民
 - 第15回 労働問題(5)派遣村
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など) 経済問題を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

日本の宿題

著者: NHK「日本の宿題」プロジェクト

出版社: NHK出版

出版年: 2001年

ISBN:

中小企業が日本経済を救う

著者: 森靖雄

出版社: 大月書店

出版年: 2004年

ISBN:

ワーキング・プア

著者： デイヴィッド・K・シプラー

出版社： 岩波書店

出版年： 2007年

ISBN:

今日、ホームレスになった

著者： 増田明利

出版社： 新風舎

出版年： 2006年

ISBN:

フリーター漂流

著者： 松宮健一

出版社： 旬報社

出版年： 2006年

ISBN:

若者が働くとき

著者： 熊沢誠

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2006年

ISBN:

派遣村

著者： 宇都宮健児・湯浅誠編

出版社： 岩波書店

出版年： 2009年

ISBN:

15歳のワークルール

著者： 道幸哲也

出版社： 旬報社

出版年： 2007年

ISBN:

反貧困

著者： 湯浅誠

出版社： 岩波新書

出版年： 2008年

ISBN:

派遣のリアル

著者： 門倉貴史

出版社： 宝島社

出版年： 2007年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **健康に生きる I**

担当者 堀 妙子.河原 宣子.松本 賢哉

テーマ

健康について様々な視点から学び事で、自分自身の健康に関心を持ち、健康に生きるための方法を考えるために必要な能力を養う。

獲得目標

1. 健康とは何かを理解する 2. 健康に対して関心を持つことができる 3. 健康に生きるための方法を考える事ができる

授業の内容

健康に関連した統計や社会の取り組み、そしてよくある病気等について学びながら、自分自身の生活についても見つめなおし、健康に生きていくために必要な知識を講義を通して学ぶ。

内 容

- 第1回 健康とは
 - 第2回 日本人の健康の特徴
 - 第3回 人間の体の仕組み
 - 第4回 青年期の健康 性感染症
 - 第5回 成人期の健康 がん
 - 第6回 老年期の健康 認知症
 - 第7回 心の健康(1) 心のはたらき
 - 第8回 心の健康(2) ストレスと健康
 - 第9回 心の健康(3) 大学生の心の問題
 - 第10回 環境と健康
 - 第11回 生活習慣と健康(1)食生活
 - 第12回 生活習慣と健康(2)喫煙
 - 第13回 生活習慣と健康(3)飲酒
 - 第14回 生活習慣と健康(4)運動
 - 第15回 まとめ 小テスト
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **健康に生きるⅡ**

担当者 西 彰子・中村 一郎

テーマ

健康を食生活の視点から学び、食生活の自己管理能力を高める。

獲得目標

1. 健康と栄養の関連を理解する。2. 食の安全性を理解し、健康増進に役立てる。3. 健康的な食生活を志向する。

授業の内容

健康的な食生活を目指すために、最初に基本的な栄養学を栄養素ごとに解説する。次に多様な健康情報から是非理解してほしいトピックを取り上げる。最後に具体的な食生活をダイエットやスポーツなどの視点から考察する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 健康と栄養
- 第2回 健康と栄養 -糖質と糖類-
- 第3回 健康と栄養 -脂肪とコレステロールとDHA-
- 第4回 健康と栄養 -アミノ酸とたんぱく質-
- 第5回 健康と栄養 -ミネラルと骨密度-
- 第6回 健康と栄養 -ビタミンと美容-
- 第7回 健康と栄養 -色と食品-
- 第8回 健康と食トピックス -ビタミン-
- 第9回 健康と食トピックス -ポリフェノール-
- 第10回 健康と食トピックス -BSE-
- 第11回 健康と食トピックス -食品添加物-
- 第12回 健康と食生活 -ダイエット-
- 第13回 健康と食生活 -運動と食べ方-
- 第14回 健康と食生活 -ストレス-
- 第15回 まとめ 小テスト

授業以外での学習方法

教科書

改訂「食と健康」第2版

著者： 日本フードスペシャリスト協会

出版社： 建帛社

出版年： 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (10)

参加度 (10)

小テスト (80)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 体育理論 <a>

担当者 新野 守

テーマ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える

獲得目標

①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 体育科教育
- 第3回 前近代スポーツ
- 第4回 イギリスのスポーツ教育
- 第5回 アメリカのスポーツ教育
- 第6回 アジアのスポーツ
- 第7回 日本の学校体育
- 第8回 子どもの遊び
- 第9回 スポーツ部活動
- 第10回 女性スポーツ
- 第11回 職場スポーツ
- 第12回 生涯スポーツ
- 第13回 オリンピック
- 第14回 プロスポーツ
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

ビデオの内容、レジュメとメモなどをノートあるいはルーズリーフ一枚程度整理する。興味のあるキーワードを図書館やウェブで調べてみる。講義内容の知見から自分の体験した体育・スポーツ活動や現在の競技スポーツやレクリエーションについて考察してみる

教科書

参考書

図説スポーツ史

著者： 寒川恒夫

出版社： 朝倉書房

出版年： 1991

ISBN:

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **体育理論 **

担当者 新野 守

テーマ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える

獲得目標

①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 体育科教育
- 第3回 前近代スポーツ
- 第4回 イギリスのスポーツ教育
- 第5回 アメリカのスポーツ教育
- 第6回 アジアのスポーツ
- 第7回 日本の学校体育
- 第8回 子どもの遊び
- 第9回 スポーツ部活動
- 第10回 女性スポーツ
- 第11回 職場スポーツ
- 第12回 生涯スポーツ
- 第13回 オリンピック
- 第14回 プロスポーツ
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

ビデオの内容、レジュメとメモなどをノートあるいはルーズリーフ一枚程度整理する。興味のあるキーワードを図書館やウェブで調べてみる。講義内容の知見から自分の体験した体育・スポーツ活動や現在の競技スポーツやレクリエーションについて考察してみる。

教科書

参考書

図説スポーツ史

著者： 寒川恒夫

出版社： 朝倉書房

出版年： 1991

ISBN:

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 体育理論 <c>

担当者 新野 守

テーマ

体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える

獲得目標

①体育科教育の概要を理解する。②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 体育科教育
- 第3回 前近代スポーツ
- 第4回 イギリスのスポーツ教育
- 第5回 アメリカのスポーツ教育
- 第6回 アジアのスポーツ
- 第7回 日本の学校体育
- 第8回 子どもの遊び
- 第9回 スポーツ部活動
- 第10回 女性スポーツ
- 第11回 職場スポーツ
- 第12回 生涯スポーツ
- 第13回 オリンピック
- 第14回 プロスポーツ
- 第15回 まとめ
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

ビデオの内容、レジュメとメモなどをノートあるいはルーズリーフ一枚程度整理する。興味のあるキーワードを図書館やウェブで調べてみる。講義内容の知見から自分の体験した体育・スポーツ活動や現在の競技スポーツやレクリエーションについて考察してみる。

教科書

参考書

図説スポーツ史
著者： 寒川恒夫
出版社： 朝倉書房
出版年： 1991

ISBN:

成績評価

試験 (100)
授業中課題 ()

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 スポーツコース I <a>

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源・ルール等)
- 第2回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・サーブ)
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (5)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

aky801d510

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **スポーツコース I **

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源・ルール等)
 - 第2回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・サーブ)
 - 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
 - 第4回 応用練習(ミニゲーム)
 - 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)
 - 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
 - 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
 - 第11回 応用練習(ミニゲーム)
 - 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)
-

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (5)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

aky801d512

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **スポーツコース I <C>**

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源・ルール等)
- 第2回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・サーブ)
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (5)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

aky801d513

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である

参考URL

2013 Syllabus

科目名 スポーツコース I <d>

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源・ルール等)
 - 第2回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・サーブ)
 - 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
 - 第4回 応用練習(ミニゲーム)
 - 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)
 - 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
 - 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
 - 第11回 応用練習(ミニゲーム)
 - 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)
-

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (5)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

aky801d514

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **スポーツコース I <ラクト>**

担当者 佐々木 雅人

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット

獲得目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション: フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)
- 第2回 ストレッチ実践: 柔軟性の向上と準備・整理体操
- 第3回 体力・形態測定: 自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較
- 第4回 マシンジム: オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ。
- 第5回 ストレッチ理論: ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり
- 第6回 ダイエットの為の栄養と理論: 体脂肪とはなんぞや? 正しい運動ダイエット。リバウンドについて体脂肪率について
- 第7回 有酸素運動: 体脂肪を燃焼させるメカニズムについて。
- 第8回 エアロビクス I: ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践
- 第9回 無酸素運動: ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」
- 第10回 自律訓練法: ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に
- 第11回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動
- 第12回 腹部ひきしめ体操: 腹筋群、背筋群、コアトレーニング
- 第13回 ダンスエクササイズ: ズンバ(ZUMBA)で敏捷性、巧緻性(器用さ)の向上
- 第14回 脚部ひきしめ体操: 脚筋群、臀部を強化、スクワット
- 第15回 マシンジム実践: ジム機器を利用して運動。体脂肪測定

授業以外での学習方法

(1) JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。(2) 参考書:「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **スポーツコースⅢ <a>**

担当者 宇部 一

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)

獲得目標

バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の内容

バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。

内 容

- 第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など
- 第2回 バレーボールの基礎技能(パス、サービス)
- 第3回 バレーボールの基礎技能(サーブレシーブ、スパイク)、ミニゲーム
- 第4回 グルーピング、チームでの練習の取り組み
- 第5回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)
- 第6回 リーグ戦形式でのゲーム(フォーメーションに関わるチーム練習)
- 第7回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)
- 第8回 バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ
- 第9回 バスケットボールの基礎技能(ボールハンドリング)
- 第10回 バスケットボールの基礎技能(シュート、ドリブル、パス)、ミニゲーム
- 第11回 グルーピング、チームでの練習の取り組み
- 第12回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)
- 第13回 リーグ戦形式でのゲーム(組織的なディフェンスの活用)
- 第14回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)
- 第15回 バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

授業以外での学習方法

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

教科書

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **スポーツコースⅢ **

担当者 宇部 一

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)

獲得目標

バレーボールとバスケットボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の内容

バレーボール、バスケットボール両種目ともに全体での基礎練習から始め、グループ単位での練習を行い、リーグ戦形式でゲームを楽しむ。バレーボールは6人制を基本に男女混合のチーム構成で行う。バスケットボールは男女別とする。

内 容

- 第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認など
- 第2回 バレーボールの基礎技能(パス、サービス)
- 第3回 バレーボールの基礎技能(サーブレシーブ、スパイク)、ミニゲーム
- 第4回 グルーピング、チームでの練習の取り組み
- 第5回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)
- 第6回 リーグ戦形式でのゲーム(フォーメーションに関わるチーム練習)
- 第7回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)
- 第8回 バレーボールの基礎的なスキルテスト、まとめ
- 第9回 バスケットボールの基礎技能(ボールハンドリング)
- 第10回 バスケットボールの基礎技能(シュート、ドリブル、パス)、ミニゲーム
- 第11回 グルーピング、チームでの練習の取り組み
- 第12回 リーグ戦形式でのゲーム(ルールの確認と審判法について)
- 第13回 リーグ戦形式でのゲーム(組織的なディフェンスの活用)
- 第14回 リーグ戦形式でのゲーム(チーム力の分析と反省)
- 第15回 バスケットボールの基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

授業以外での学習方法

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

教科書

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

授業実施回数の3分の2以上出席しないと成績評価の対象としない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **スポーツコースⅢ〈ラクト〉**

担当者 佐々木 雅人

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と柔軟性の向上

獲得目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、柔軟性向上プログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション フィットネスを始める前に(運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック)
- 第2回 ストレッチⅠ 柔軟性の向上と準備・整理体操
- 第3回 体力・形態測定：自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデーターとの比較
- 第4回 マシンジム：オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ。
- 第5回 ストレッチ理論：ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり
- 第6回 ストレッチⅡ：スタティックストレッチとは。体前屈で良い結果をだす。
- 第7回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動
- 第8回 エアロビクスⅠ ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践
- 第9回 ストレッチⅢ：ストレッチで柔軟性を向上する
- 第10回 ペアストレッチ：ペアになってストレッチを実践する。
- 第11回 自律訓練法：ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に
- 第12回 ボールストレッチ：バランスボールを使ったストレッチ
- 第13回 ピラティス：身体の歪を解消
- 第14回 肩こり・腰痛体操：柔軟・筋力不足の肩こり、腰痛を解消する。
- 第15回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動。

授業以外での学習方法

(1) JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。(2)参考書：「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **エコロジー研究〈a〉**

担当者 小森 治夫

テーマ

環境と開発の総合的研究

獲得目標

日本における山と森林・河川・海の開発事例について、自然環境と開発の関係を学ぶ

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション レイチェル・カーソン
 - 第2回 日本の自然保護(1)尾瀬
 - 第3回 日本の自然保護(2)富士山
 - 第4回 山と森林の自然保護(1)白神山地
 - 第5回 山と森林の自然保護(2)国有林の危機
 - 第6回 山と森林の自然保護(3)林業政策の大転換
 - 第7回 川の自然保護(1)川の文化
 - 第8回 川の自然保護(2)四万十川
 - 第9回 川の自然保護(3)四万十川、琵琶湖
 - 第10回 海の自然保護・諫早湾干拓
 - 第11回 日本の世界遺産(1)屋久島
 - 第12回 日本の世界遺産(2)知床
 - 第13回 日本のエコツーリズム(沖縄)
 - 第14回 世界のエコツーリズム(ガラパゴス諸島)
 - 第15回 里山の保護
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(特に経済面、政治面、社会面など) 環境問題を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

日本の自然保護

著者: 石川徹也

出版社: 平凡社

出版年: 2001

ISBN:

沈黙の春

著者: レイチェル・カーソン

出版社: 新潮社

出版年: 1974

ISBN:

森は海の恋人

著者： 畠山重篤

出版社： 北斗出版

出版年： 1994

ISBN：

四万十川・歩いて下る

著者： 多田実

出版社： 築地出版

出版年： 1995

ISBN：

諫早の叫び

著者： 永尾俊彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2005

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **エコロジー研究 **

担当者 小森 治夫

テーマ

環境と開発の総合的研究

獲得目標

日本における山と森林・河川・海の開発事例について、自然環境と開発の関係を学ぶ

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション レイチェル・カーソン
 - 第2回 日本の自然保護(1)尾瀬
 - 第3回 日本の自然保護(2)富士山
 - 第4回 山と森林の自然保護(1)白神山地
 - 第5回 山と森林の自然保護(2)国有林の危機
 - 第6回 山と森林の自然保護(3)林業政策の大転換
 - 第7回 川の自然保護(1)川の文化
 - 第8回 川の自然保護(2)四万十川
 - 第9回 川の自然保護(3)四万十川、琵琶湖
 - 第10回 海の自然保護・諫早湾干拓
 - 第11回 日本の世界遺産(1)屋久島
 - 第12回 日本の世界遺産(2)知床
 - 第13回 日本のエコツーリズム(沖縄)
 - 第14回 世界のエコツーリズム(ガラパゴス諸島)
 - 第15回 里山の保護
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(特に経済面、政治面、社会面など) 環境問題を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

日本の自然保護

著者: 石川徹也

出版社: 平凡社

出版年: 2001

ISBN:

沈黙の春

著者: レイチェル・カーソン

出版社: 新潮社

出版年: 1974

ISBN:

森は海の恋人

著者： 畠山重篤

出版社： 北斗出版

出版年： 1994

ISBN:

四万十川・歩いて下る

著者： 多田実

出版社： 築地出版

出版年： 1995

ISBN:

諫早の叫び

著者： 永尾俊彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2005

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **自然の探求**

担当者 佐々木 尚子

テーマ

身近な自然の観察と理解

獲得目標

この授業では、1)身の回りの自然を丁寧に観察し、それらを具体的に認識すること、2)自然界を構成する地圏・水圏・気圏・生物圏の基本的な仕組みを理解することを通じて、3)「わたしたちにとって自然とは何か」「自然にはどのような価値があるのか」、各自が論考することを目指します。

授業の内容

1)五感を使った身の回りの自然の観察、2)投影資料やプリントを使った自然界の仕組みの解説を基本とし、必要に応じて、グループディスカッションなどを織り込みながら授業を進めます。

内 容

- 第1回 ガイダンス・身近な生き物を思い出す
 - 第2回 地球の形
 - 第3回 地震と地形
 - 第4回 身近な生き物を探す
 - 第5回 身近な生き物を描く
 - 第6回 身近な生き物を測る
 - 第7回 地球をめぐる水
 - 第8回 地球をめぐる大気
 - 第9回 日本列島の気候
 - 第10回 生き物の住処
 - 第11回 生き物のつながり
 - 第12回 気候変動
 - 第13回 生き物の分布域
 - 第14回 人類の歴史
 - 第15回 自然と人間
-

授業以外での学習方法

授業中に、参考になる文献・資料を提示するので、各自読んで内容の理解を深めること。

教科書

参考書

日本の自然

著者： 守山 弘

出版社： 小峰書店

出版年： 2004

ISBN： 4338199016

里山

著者： 守山 弘

出版社： 小峰書店

出版年： 2004

ISBN： 4338199067

生命の湖琵琶湖をさぐる

著者： 滋賀県立琵琶湖博物館(編)

出版社： 文一総合出版

出版年： 2011

ISBN: 9.78483E+12

大文字山を歩こう

著者： 久山喜久雄

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2003

ISBN: 9.78489E+12

地球学入門 惑星地球と大気・海洋のシステム

著者： 酒井治孝

出版社： 東海大学出版会

出版年： 2003

ISBN: 9.78449E+12

植物(小学館の図鑑NEO)

著者： 門田裕一

出版社： 小学館

出版年： 2002

ISBN: 9.78409E+12

人類がたどってきた道

著者： 海部陽介

出版社： 日本放送出版協会

出版年： 2005

ISBN: 9.78414E+12

自然を守るとはどういうことか

著者： 守山 弘

出版社： 農山漁村文化協会

出版年： 1988

ISBN: 4540871404

なぜ生態系を守るのか？

著者： 松田裕之

出版社： NTT出版

出版年： 2008

ISBN: 9.78476E+12

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 物理学基礎

担当者 古田 薫

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として物理学の基礎について学ぶ。

獲得目標

高等学校で学習した物理の内容を再確認するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、科学技術への関心を高め、市民として必要な科学的な知識・能力・態度を身につける。

授業の内容

運動とエネルギー、電気、波について、原理・法則を学び、日常的な現象や先端科学技術との関連を考える。

内 容

- 第1回 物体の運動
 - 第2回 力(1)
 - 第3回 力(2)
 - 第4回 運動の法則
 - 第5回 エネルギー(1)
 - 第6回 電気(1)
 - 第7回 電気(2)
 - 第8回 電気(3)
 - 第9回 波
 - 第10回 音
 - 第11回 光
 - 第12回 温度と熱
 - 第13回 エネルギー(2)
 - 第14回 エネルギー(3)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

Primary 大学テキスト これだけはおさえたい物理

著者: 金原 粲

出版社: 実教出版

出版年:

ISBN: 9.78441E+12

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 化学基礎

担当者 中村 一郎

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として化学の基礎について学ぶ。

獲得目標

高等学校における化学の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な化学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の内容

生活の中にある物質や現象を、化学的なものの見方や考え方で捉え理解できるように、一部演習形式を取り入れながら化学的な基礎概念を解説する。

内 容

- 第10回 触媒、反応速度
 - 第11回 酸と塩基(1)
 - 第12回 酸と塩基(2)
 - 第13回 酸化と還元
 - 第14回 有機化合物の構造とその書き表し方、命名法
 - 第15回 日常の中の化合物、小テスト(2回目)
 - 第1回 物質は何からできているか。
 - 第2回 分子について
 - 第3回 原子の構造と原子同士の結合
 - 第4回 分子の形はどのようにして決まるか
 - 第5回 分子の形……異性体と立体化学
 - 第6回 物質の三態……固体・液体・気体
 - 第7回 溶液について(1)
 - 第8回 溶液について(2)、小テスト(1回目)
 - 第9回 化学反応はなぜ起こるか
-

授業以外での学習方法

教科書

新版 化学「もの」をみる目

著者： 大野惇吉、安井伸郎、牛田智

出版社： 三共出版

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (50)

授業中発表等 (20)

aky901e610

結果だけではなく過程も評価します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **生物学基礎**

担当者 中村 一郎

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として生物学の基礎について学ぶ。

獲得目標

高等学校における生物の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な生物学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の内容

生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命化学について概説する。生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、できるだけ最新のトピックスをまじえて解説する。

内 容

- 第1回 細胞生物学(1) 細胞の構造と役割
 - 第2回 細胞生物学(2) 細胞を構成する物質-1
 - 第3回 細胞生物学(3) 細胞を構成する物質-2
 - 第4回 細胞生物学(4) エネルギー、酵素、代謝
 - 第5回 細胞生物学(5) エネルギー獲得
 - 第6回 遺伝(1)メンデル遺伝学とその後
 - 第7回 遺伝(2)DNAと遺伝におけるその役割
 - 第8回 遺伝(3)DNAからタンパク合成まで
 - 第9回 発生と老化(1)
 - 第10回 発生と老化(2)
 - 第11回 脳の構造と機能
 - 第12回 がん
 - 第13回 食と健康(1)
 - 第14回 食と健康(2)
 - 第15回 感染と免疫
-

授業以外での学習方法

教科書

やさしい基礎生物学

著者: 南雲 保

出版社: 羊土社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 国語科教育法 I

担当者 池田 修

テーマ

国語科授業の基本的な指導法に触れる

獲得目標

学校現場に立った時すぐに行わなければならない国語科の基本的な指導について、具体的にその方法に触れる。具体的には、漢字、読書、作文、音読などの項目について学習集団に対しての指導法を理解する。

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な参加を期待する。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。

内 容

- 第1回 国語科って何？ 授業ガイダンス。学習指導要領では？ どんな力をつける教科なの？ 国語科教育の歴史 学習権宣言
- 第2回 国語の授業を作る基礎。発声の基礎、板書の基礎、教室の立ち位置、チョークの持ち方。
- 第3回 メモ指導。聞く生徒を育てるために。箇条書き、マッピング、マンダラート、KJ法。
- 第4回 漢字指導 1。漢字カルタ、漢字ウォーリーを捜せ、津川式超記憶術、漢字ドリル、漢字ルーツプリント
- 第5回 漢字指導 2。自作漢字学習教材の相互評価 四字熟語でポン たほいや 簡単な学習ゲーム論。
- 第6回 読書指導 1。読むは、書くである。読書感想文、読書郵便、朝の読書、書き抜きエッセイ、読書へのアニメーション。
- 第7回 読書指導 2。「書き込み回覧作文」による評価 和綴じ本づくり。
- 第8回 作文指導 1。体験作文指導の哲学。作文は、料理に似ている、原稿用紙の使い方。
- 第9回 作文指導 2。アイデア出し、リサーチ、タイトルの付け方、書きはじめの指示、推敲、評価。
- 第10回 作文指導 3。「書き込み回覧作文」による評価 テスト問題のつくり方。
- 第11回 小テストと定期考査。国語科で行うテストについて、具体的に考え、実際に作ってみる。
- 第12回 音読／プレゼン指導。滑舌調音、群読、ショウ&テル、ことわざスピーチバトル、評価の実際。
- 第13回 句会方式による指導。句会、人生名言集、こんな本なら読んでみたいタイトルコンテスト。
- 第14回 小テストと定期考査と採点方法。第11回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。。
- 第15回 国語科教育法1を評価する。「書き込み回覧作文」による国語科教育法1の評価。

授業以外での学習方法

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように働きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

教科書

まともな日本語教えない勘違いだらけの国語教育

著者： 有元秀文

出版社： 合同出版

出版年：

ISBN：

いちばんやさしい教える技術

著者： 向後千春

出版社： 永岡書店

出版年：

ISBN：

参考書

中学校言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集

著者： 石川晋・平山雅一

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

みんな言葉を持っていた

著者： 柴田保之

出版社： オクムラ書店

出版年：

ISBN：

一斉指導10の原理100の原則

著者： 堀 裕嗣

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

新版 教師になるということ

著者： 池田修

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

読書で遊ぼうアニメーション

著者： モセラット・サルト

出版社： 柏書房

出版年：

ISBN：

プレイフル・ラーニング

著者： 上田信行×中原淳

出版社： 三省堂

出版年：

ISBN：

授業の作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

これだけは身につけたい 超定番！ 授業づくりの基礎・基本

著者： 八木正一・上條晴夫

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

奇跡の教室

著者： 伊藤氏貴

出版社： 小学館

出版年：

ISBN：

白川静さんに学ぶ 漢字は面白い

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト (10)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

出席君と掲示板へ授業後の課題提出を合わせて、出席をカウントすることを理解すること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 国語科教育法Ⅲ

担当者 神崎 友子・舟橋 秀晃

テーマ

中等国語科教育の実践的な学習指導の研究

獲得目標

中学校・高等学校における国語科授業の構成、実施、評価にかかわる知識、能力を身につける。特に、教材研究、授業計画、授業分析の実際を通して力量を高める。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 中学校・高等学校国語科教育の目標と内容—平成20年版学習指導要領から—
 - 第3回 学習指導案作成のポイントと評価の仕方
 - 第4回 文学的文章の学習指導(1)
 - 第5回 文学的文章の学習指導(2)
 - 第6回 説明的文章の学習指導(1)
 - 第7回 説明的文章の学習指導(2)
 - 第8回 古典の学習指導(1)
 - 第9回 書くことの学習指導(1)
 - 第10回 書くことの学習指導(2)
 - 第11回 話すこと・聞くことの学習指導
 - 第12回 文学的文章の学習指導(3)模擬授業
 - 第13回 説明的文章の学習指導(3)模擬授業
 - 第14回 古典の学習指導(2)模擬授業
 - 第15回 文法の学習指導
-

授業以外での学習方法

・教育実習で指導内容を考え、授業が行えるように中学校、高等学校の教材分析や学習指導案(略案)作成を課題として課す。
・幅広い知識と教養を身につけるために新聞スクラップの課題を課す。

教科書

文学の授業づくりハンドブック 第4巻 授業実践史をふまえて中・高等校編

著者： 浜本純逸監修

出版社： 溪水社

出版年： 2010

ISBN： 978-4863270794

徒然草 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典

著者： 角川書店編

出版社： 角川書店

出版年： 2002

ISBN： 978-4043574087

参考書

国語教育を学ぶ人のために

著者： 糸井通浩／植山俊宏編

出版社：世界思想社

出版年：1995

ISBN： 978-4790705796

成績評価

試験（0）

授業中課題（60）

参加度（20）

小テスト（0）

授業中発表等（20）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会科教育法 I**

担当者 田中 曜次

テーマ

まず、「社会科は暗記するだけ」という考え方を捨てましょう。そうすると、「暗記ではなく何？」という疑問が出てきます。この疑問に対する答えを探ることがこの授業のテーマです。「なぜ学習するのか」を教師が理解していないと、「覚えなさい」というおもしろくない授業になります。「良い授業」を作るためには何が必要か考えていきます。

獲得目標

中学校社会科の授業を自ら構成し、「学習指導案」の形で表現できる。このためには、「社会科の基本的な内容を理解している」「社会科の教科としての目標や特徴を理解している」「教材研究や授業作りを自主的に行うことができる」ということが必要になります。

授業の内容

前半は講義を中心に、社会科について概略を学ぶ。その際、これまでに議論されていることや、現在も課題とされていることなどについて話し合いたい。後半は設定した課題に取り組む形で、発表や互いに交流する機会を持ちたい。

内 容

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 社会科について 成立から現在まで 経験主義と系統主義 ゆとりと学力低下
- 第3回 社会科で育てる資質・能力、学力とは？ 公民的資質と社会認識 「理解する」と「覚える」
- 第4回 社会科と評価 相対評価と絶対評価 観点別学習状況
- 第5回 国際学力調査を踏まえたこれからの社会科の課題
- 第6回 中学校社会科の単元計画と授業(地域学習を手がかりに)
- 第7回 中学校社会科の3つの分野と単元構成
- 第8回 発表「私の住んでいる地域のようす」
- 第9回 地理的分野の目標・内容 ①
- 第10回 地理的分野の目標・内容 ②
- 第11回 歴史的分野の目標・内容 ①
- 第12回 歴史的分野の目標・内容 ②
- 第13回 公民的分野の目標・内容 ①
- 第14回 公民的分野の目標・内容 ②
- 第15回 授業のまとめ 模擬授業の作り方

授業以外での学習方法

図書館などにある授業実践を記録した書籍などに触れるようにしてほしい。

教科書

中学校学習指導要領解説社会編

著者： 文部科学省

出版社： 日本文教出版

出版年： 2008.9

ISBN： 9.78454E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

ask1012810

発表する課題については最初の時間に説明します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書道科教育法 I

担当者 尾西 正成

テーマ

模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の現状と課題、その指導の実際を考える

獲得目標

高等学校の現状と指導内容を把握し、教科教材の研究開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備展開できるようにする。授業は、高等学校芸術科書道教員を目指す諸君が、指導の実際を考え、書道の授業に関する諸々を身につけることを目標とする。諸君が書をどうとらえ、生徒たちをどう育てることが出来るのか、講義と模擬授業を通して、さまざまな角度からアプローチを図りたいと思う。※前期は書道1の範囲を中心とする。(漢字、かな他) 授業は、受講生の人数とも勘案の上、出来る限り幅広い教材や問題点を取り上げ、実りの多いものとする。ユニークで積極的な参加が望まれるところである。

授業の内容

内 容

- 第1回 芸術科書道の現状と課題を探る
- 第2回 年間授業計画について①
- 第3回 年間授業計画について②
- 第4回 指導案の基本的な考え方
- 第5回 指導案の書き方
- 第6回 用具用材についての模擬授業と授業研究
- 第7回 楷書領域での模擬授業と授業研究①
- 第8回 楷書領域での模擬授業と授業研究②
- 第9回 楷書領域での模擬授業と授業研究③
- 第10回 仮名領域での模擬授業と授業研究①
- 第11回 仮名領域での模擬授業と授業研究②
- 第12回 行書領域での模擬授業と授業研究①
- 第13回 行書領域での模擬授業と授業研究②
- 第14回 授業研究のまとめ
- 第15回 漢字かな交じりの書について ※尚、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。

教科書

高校書道 I

著者:

出版社: 光村書店

出版年:

ISBN:

高校書道 II

著者:

出版社: 光村書店

出版年:

ISBN:

高校書道Ⅲ

著者:

出版社: 光村書店

出版年:

ISBN:

参考書

学習指導要領

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (40)

参加度 (20)

レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等を総合的に評価することとする

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地歴科教育法 I

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

地歴科教育の意義・課題と授業方法

獲得目標

高校地歴科分野の学習内容とその変遷を分析することにより、現代史学習や現代の課題を学ぶことが求められていることを理解する。また、子どもの授業参加を創り出す方法について学ぶ。

授業の内容

教育実習に向けて、教材研究の仕方、地歴科の授業の作り方、指導案の書き方を学び、教材を作成する。

内 容

- 第1回 教育困難校の授業から考える―「机化」する生徒を起きあがらせる授業はどのような授業か
 - 第2回 学習を放棄する高校生が「学ぶ」意味を体感する―学習内容を吟味する
 - 第3回 イスラームの導入教材を作る：仮説実験授業でイスラームのイメージをつくる
 - 第4回 学習指導案の作り方：教材研究と導入の重要性
 - 第5回 模擬授業と学習指導案の検討
 - 第6回 人物を教材化して歴史を教える
 - 第7回 地理教育の内容と意義：地理の授業をつくってみよう
 - 第8回 地理の模擬授業を体験しよう
 - 第9回 世界史の導入教材をつくる：ギリシア世界
 - 第10回 新聞記事を導入にした日本史の授業を作ってみよう
 - 第11回 導入教材の作成と検討(1)
 - 第12回 導入教材の作成と検討(2)
 - 第13回 導入教材の作成と検討(3)
 - 第14回 導入教材の作成と検討(4)
 - 第15回 導入教材の作成と検討(5)
-

授業以外での学習方法

新聞やTVニュース、小説や映画などにふれ、歴史や地理についての関心を深めて欲しい

教科書

中等社会科ハンドブック ―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―』B5判

著者： 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編

出版社：

出版年： ISBN： 9.78476E+12

参考書

学習指導要領

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

ask1013410

試験 (0)
授業中課題 (60)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 公民科教育法 I

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

公民科教育の意義・内容・課題

獲得目標

多様化する現代社会について理解を深め、民主的で平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うために、高校公民科教育の意義や内容についての理解を深める。特に、高校での公民科の授業を追体験することで、カリキュラム作成、教材開発、授業評価の実際を学ぶ。

授業の内容

新聞の切り抜きをもとにした「社会科通信」づくりを通して、現代の社会が抱える諸問題を教材化させ、授業づくりの方法論、学習指導案の書き方、授業評価の方法を実践的に学ぶ。

内 容

- 第1回 学習指導要領のもとでの公民科の位置づけとそれを具体化する授業づくりを考える
- 第2回 学習を放棄する生徒を学びの世界に引き戻す授業は可能か？
- 第3回 身近なものを教材化する—コンビニから戦後の小売業を考える
- 第4回 身近なものを教材化する—コンビニから情報化社会を考える
- 第5回 身近なものを教材化する—コンビニから食糧自給を考える
- 第6回 メディアリテラシー：今日のニュースや国際紛争・事件をどのように教材化するか
- 第7回 新聞で学ぶ現代の社会—「9. 11」からイラク戦争を教材化する
- 第8回 新聞で学ぶ現代の社会—「9. 11」以降の実践記録の特徴を検討する
- 第9回 経済分野の授業：経済学入門をどう教材化するか
- 第10回 経済分野の授業：絵本『レモンをお金にかえる方』を教材化する
- 第11回 憲法の授業をつくる：日米安保条約と沖縄
- 第12回 憲法の授業をつくる：冷戦終結と日米安保条約
- 第13回 模擬授業と授業研究(1)
- 第14回 模擬授業と授業研究(2)
- 第15回 模擬授業と授業研究(3)

授業以外での学習方法

人間の生き方・あり方及び社会の現実と理想について関心を持ち、そうした分野の読書をする。新聞を読み、時事問題に留意すること。

教科書

中等社会科ハンドブック —〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き—』B5判

著者： 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編

出版社：

出版年： ISBN： 9.78476E+12

参考書

学習指導要領

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

ask1013610

試験 (0)
授業中課題 (60)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 生徒・進路指導

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

生徒指導とそれを支える生活指導

獲得目標

生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題、クラス経営や生徒会づくりの具体的な指導事例、生徒の学校参加の事例、進路指導の在り方を学ぶことを目的とする。

授業の内容

基本的には、学校現場で見られる事象を紹介し、それについて学生が意見表明をすることを授業の柱にする。授業の中で提示される具体的な事例や資料をもとに、小グループで検討・意見交換をし、全体の場で交流した後、重要ポイントを抽出する。また、事例研究では、具体的な事例に現場教師がどのようにかかわっているかを読み解き、レポートとして提出を義務づける。

内 容

- 第1回 生徒指導の領域と内容:いわゆる「教育困難校」の1日
- 第2回 学校がどんな組織で運営されているか—校務分掌と組織(生徒指導体制?)
- 第3回 生徒指導の方法—ゼロ・トレランス方式を考える
- 第4回 生徒指導の実際:教師は、授業妨害・指導不服従・対教師暴言が何に繋がると考えているか
- 第5回 生徒指導の実際:問題行動(授業妨害や校則違反、いじめや暴力行為)を克服するために、生徒の学校参加のシステムを作る取り組み。
- 第6回 生活指導(1):クラスづくりに生かす学級通信と日直新聞
- 第7回 生活指導(2)—自治的にクラスを運営する組織づくり
- 第8回 生活指導(3)—生徒が自治的に進める文化祭の取り組み
- 第9回 生活指導(4)—文化祭の取り組みから委員長と副委員長が消えた
- 第10回 高校での進路指導の考え方:自己実現を目指す進路指導のあり方を考えよう
- 第11回 グループ討議:高校時代の進路学習を振り返って、どのような進路指導が必要と考えるか
- 第12回 生徒を取り巻く社会と現実を考える(1)—単位制高校の進路をめぐる状況
- 第13回 生徒を取り巻く社会と現実を考える(2)—子どもの貧困と教育格差の現実
- 第14回 教職員の連携とチーム会議(カンファレンス)の事例研究
- 第15回 ケーススタディ:「カンニング」疑惑を指導した教師の対応について考えてみよう。

授業以外での学習方法

新聞やテレビで報道される国際情勢や時事問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

教科書

授業内で配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

ask1013810

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 同和教育〈Za〉

担当者 井手 幸喜

テーマ

獲得目標

今日、子どもや女性、障害者問題、部落問題、など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

授業の内容

日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。

内 容

- 第1回 世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－
- 第2回 世界的な人権の流れ－人権の概略史－
- 第3回 明治期、人権なる言葉の導入とその理解
- 第4回 人権の変容－戦前期まで－
- 第5回 人権に対する戦後の理解
- 第6回 人権教育の提唱－国連人権教育10 年計画－
- 第7回 部落問題とは
- 第8回 同和(融和)教育の軌跡－戦前－
- 第9回 同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－
- 第10回 同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－
- 第11回 同和教育の功罪
- 第12回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－
- 第13回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－
- 第14回 まとめ－教育実践と教材－
- 第15回 まとめ－教育実践、留意すべきこと－

授業以外での学習方法

授業のキーワードを調べたり、発表したりする参加型の授業。市民レベルの人権企画などへの参加も留意して欲しい。

教科書

適宜紹介を行う。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

適宜紹介を行う。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

ask1014510

試験 ()
授業中課題 (40)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 同和教育〈Zb〉

担当者 井手 幸喜

テーマ

獲得目標

今日、子どもや女性、障害者問題、部落問題、など、多様な人権問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。

授業の内容

日本社会の中で本格的に人権が論じられ始めるのは戦後になってからである。今日、様々な人権問題が指摘され、問題解決のための取り組みもおこなわれている。教育的な営みとして日本社会はこれまでどんな取り組みをおこなってきたか、主に同和教育の通ってきた道からその成果と課題を示す。かつ、世界人権宣言をはじめとした、普遍性を持つとされる人権の概念をどう受容してきたかも合わせて検討したい。その上でこれからの人権教育の方向性、特に指導する側の能力や態度について明らかにしたい。

内 容

- 第1回 世界的な人権の流れ－そもそも人権とは－
- 第2回 世界的な人権の流れ－人権の概略史－
- 第3回 明治期、人権なる言葉の導入とその理解
- 第4回 人権の変容－戦前期まで－
- 第5回 人権に対する戦後の理解
- 第6回 人権教育の提唱－国連人権教育10 年計画－
- 第7回 部落問題とは
- 第8回 同和(融和)教育の軌跡－戦前－
- 第9回 同和教育の軌跡－地域での独自の取り組み－
- 第10回 同和教育の軌跡－法の下での成果と課題－
- 第11回 同和教育の功罪
- 第12回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－提唱されている人権教育－
- 第13回 人権教育の現状とこれからの教育における人権－その指導にあたって－
- 第14回 まとめ－教育実践と教材－
- 第15回 まとめ－教育実践、留意すべきこと－

授業以外での学習方法

授業のキーワードを調べたり、発表したりする参加型の授業。市民レベルの人権企画などへの参加も留意して欲しい。

教科書

適宜紹介を行う。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

適宜紹介を行う。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

ask1014512

試験 ()
授業中課題 (40)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座 I <1a>**

担当者 山脇 康彦

テーマ

21世紀の企業と経営に求められる人材

獲得目標

企業とその経営に関する実態認識を深めるとともに、各自のキャリア形成について考えるきっかけを得る

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 キャリア開発概論(1):山脇
 - 第3回 同(2):人材開発企業(有限会社 キャップス)
 - 第4回 同(3):人材開発企業(有限会社 キャップス)
 - 第5回 先輩と語ろう(1):卒業生からのメッセージ
 - 第6回 同(2):卒業生とのQ&A
 - 第7回 流通業界概論(1):山脇
 - 第8回 同(2):流通業界企業(株式会社 高島屋 京都店)
 - 第9回 同(3):演習(流通業の販促企画)
 - 第10回 サービス業界概論(1):山脇
 - 第11回 同(2):サービス業界企業(株式会社 近鉄ホテルシステムズ 新・都ホテル)
 - 第12回 製造業界概論(1):山脇
 - 第13回 同(2):製造業界企業(京セラ 株式会社)
 - 第14回 最近の企業経営の動向:山脇
 - 第15回 最近の経営動向からみたキャリア形成の考え方と課題:山脇
-

授業以外での学習方法

キャリア形成への基本的な考え方とアプローチ方法を会得する一助として、書籍、新聞、雑誌、ウェブ記事等を通してキャリア意識を磨くこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask101d110

授業中課題としては、レポート(受講時の気づき、講師への質問など)を提出していただく。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅱ <2a>**

担当者 濱田 剛

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を強化する。

獲得目標

- ・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
- ・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を問題演習形式で習得することを目指す。

授業の内容

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各單元ごとに再確認していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 基礎国語① 国語力の基礎演習 I
- 第3回 基礎国語② 国語力の基礎演習 II
- 第4回 基礎国語③ 文章力育成 I
- 第5回 基礎国語④ 文章力育成 II
- 第6回 基礎国語⑤ 文章力育成 III
- 第7回 基礎数学① 速さに関する問題 I
- 第8回 基礎数学② 速さに関する問題 II
- 第9回 基礎数学③ 金銭に関する問題 I
- 第10回 基礎数学④ 金銭に関する問題 II
- 第11回 基礎数学⑤ 場合の数・確率
- 第12回 基礎数学⑥ 資料の整理・集合
- 第13回 基礎数学⑦ 推論
- 第14回 基礎数学⑧ 総合演習 I
- 第15回 基礎数学⑨ 総合演習 II

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

就職筆記試験対策 ～入門編～

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

ask101d210

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅱ <2b>**

担当者 土井 貴明、川村 秀裕

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。

獲得目標

- ・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
 - ・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。
-

授業の内容

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各单元ごとに再確認していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
 - 第2回 基礎国語① 国語力の基礎演習 I
 - 第3回 基礎国語② 国語力の基礎演習 II
 - 第4回 基礎国語③ 文章力育成 I
 - 第5回 基礎国語④ 文章力育成 II
 - 第6回 基礎国語⑤ 文章力育成 III
 - 第7回 基礎数学① 四則混合計算からの総復習
 - 第8回 基礎数学② 単位変換、速さの計算等の総復習
 - 第9回 基礎数学③ 速さに関する問題 I
 - 第10回 基礎数学④ 速さに関する問題 II
 - 第11回 基礎数学⑤ 金銭に関する問題 I
 - 第12回 基礎数学⑥ 金銭に関する問題 II
 - 第13回 基礎数学⑦ 場合の数・確率
 - 第14回 基礎数学⑧ 資料の整理・集合
 - 第15回 基礎数学⑨ 推論
-

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

就職筆記試験対策 ～入門編～

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

ask101d212

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <2a>**

担当者 香坂 千佳子

テーマ

自分のキャリアを、自ら方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとします。

獲得目標

「自己発見」を通して自分の可能性を広げるとともに、「働くことの意義」を考え、将来に向けての「キャリア・デザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。

授業の内容

過去の自分を振り返り、自分の強み、価値観などをワークシートを使って自己分析を行うと共に、「働く事の意味」を考える。

内 容

- 第1回 オリエンテーション「キャリアとキャリア・デザイン」(講義内容・ルール・講師紹介)
 - 第2回 社会人基礎力／学生時代に身につけたい能力
 - 第3回 キャリアを考える①
 - 第4回 キャリアを考える②
 - 第5回 私の価値観を見つける①
 - 第6回 私の価値観を見つける②
 - 第7回 人生の目標・目的① (大学)
 - 第8回 人生の目標・目的②(大学)
 - 第9回 人生の目標・目的③(仕事)
 - 第10回 ゲストスピーカー①
 - 第11回 ゲストスピーカー②
 - 第12回 自分を知る／自分のことを考える①
 - 第13回 自分を知る／自分のことを考える②
 - 第14回 自分を知る／自分のことを考える③
 - 第15回 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

本学はもとより学外の「キャリア開発講座」や「インターンシップ」などに参加することにより、さらに効果が出るようにプログラムされている。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask102b810

●授業中課題+宿題+発表+最終レポートなど=70% ●出席率+授業中の態度=30%(出席回数は高評価の対象となる)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <2b>**

担当者 堀越 昭夫

テーマ

自分のキャリアを、自ら方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとします。

獲得目標

「自己発見」を通して自分の可能性を広げるとともに、「働くことの意義」を考え、将来に向けての「キャリア・デザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。

授業の内容

過去の自分を振り返り、自分の強み、価値観などをワークシートを使って自己分析を行うと共に、「働く事の意味」を考える。

内 容

- 第1回 オリエンテーション「キャリアとキャリア・デザイン」(講義内容・ルール・講師紹介)
 - 第2回 社会人基礎力／学生時代に身につけたい能力
 - 第3回 キャリアを考える①
 - 第4回 キャリアを考える②
 - 第5回 私の価値観を見つける①
 - 第6回 私の価値観を見つける②
 - 第7回 人生の目標・目的① (大学)
 - 第8回 人生の目標・目的② (大学)
 - 第9回 人生の目標・目的③ (仕事)
 - 第10回 ゲストスピーカー①
 - 第11回 ゲストスピーカー②
 - 第12回 自分を知る／自分のことを考える①
 - 第13回 自分を知る／自分のことを考える②
 - 第14回 自分を知る／自分のことを考える③
 - 第15回 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

本学はもとより学外の「キャリア開発講座」や「インターンシップ」などに参加することにより、さらに効果が出るようにプログラムされている。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask102b812

●授業中課題+宿題+発表+最終レポートなど=70% ●出席率+授業中の態度=30%(出席回数が高評価の対象となる)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <2c>**

担当者 香坂 千佳子

テーマ

自分のキャリアを、自ら方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとします。

獲得目標

「自己発見」を通して自分の可能性を広げるとともに、「働くことの意義」を考え、将来に向けての「キャリア・デザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。

授業の内容

過去の自分を振り返り、自分の強み、価値観などをワークシートを使って自己分析を行うと共に、「働く事の意味」を考える。

内 容

- 第1回 オリエンテーション「キャリアとキャリア・デザイン」(講義内容・ルール・講師紹介)
 - 第2回 社会人基礎力／学生時代に身につけたい能力
 - 第3回 キャリアを考える①
 - 第4回 キャリアを考える②
 - 第5回 私の価値観を見つける①
 - 第6回 私の価値観を見つける②
 - 第7回 人生の目標・目的① (大学)
 - 第8回 人生の目標・目的②(大学)
 - 第9回 人生の目標・目的③(仕事)
 - 第10回 ゲストスピーカー①
 - 第11回 ゲストスピーカー②
 - 第12回 自分を知る／自分のことを考える①
 - 第13回 自分を知る／自分のことを考える②
 - 第14回 自分を知る／自分のことを考える③
 - 第15回 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

本学はもとより学外の「キャリア開発講座」や「インターンシップ」などに参加することにより、さらに効果が出るようにプログラムされている。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask102b813

●授業中課題+宿題+発表+最終レポートなど=70% ●出席率+授業中の態度=30%(出席回数が高評価の対象となる)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門 <2d>**

担当者 堀越 昭夫

テーマ

自分のキャリアを、自ら方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとします。

獲得目標

「自己発見」を通して自分の可能性を広げるとともに、「働くことの意義」を考え、将来に向けての「キャリア・デザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。

授業の内容

過去の自分を振り返り、自分の強み、価値観などをワークシートを使って自己分析を行うと共に、「働く事の意味」を考える。

内 容

- 第1回 オリエンテーション「キャリアとキャリア・デザイン」(講義内容・ルール・講師紹介)
 - 第2回 社会人基礎力／学生時代に身につけたい能力
 - 第3回 キャリアを考える①
 - 第4回 キャリアを考える②
 - 第5回 私の価値観を見つける①
 - 第6回 私の価値観を見つける②
 - 第7回 人生の目標・目的① (大学)
 - 第8回 人生の目標・目的②(大学)
 - 第9回 人生の目標・目的③(仕事)
 - 第10回 ゲストスピーカー①
 - 第11回 ゲストスピーカー②
 - 第12回 自分を知る／自分のことを考える①
 - 第13回 自分を知る／自分のことを考える②
 - 第14回 自分を知る／自分のことを考える③
 - 第15回 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

本学はもとより学外の「キャリア開発講座」や「インターンシップ」などに参加することにより、さらに効果が出るようにプログラムされている。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask102b814

●授業中課題+宿題+発表+最終レポートなど=70% ●出席率+授業中の態度=30%(出席回数が高評価の対象となる)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門〈2e〉**

担当者 香坂 千佳子

テーマ

自分のキャリアを、自ら方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとします。

獲得目標

「自己発見」を通して自分の可能性を広げるとともに、「働くことの意義」を考え、将来に向けての「キャリア・デザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。

授業の内容

過去の自分を振り返り、自分の強み、価値観などをワークシートを使って自己分析を行うと共に、「働く事の意味」を考える。

内 容

- 第1回 オリエンテーション「キャリアとキャリア・デザイン」(講義内容・ルール・講師紹介)
 - 第2回 社会人基礎力／学生時代に身につけたい能力
 - 第3回 キャリアを考える①
 - 第4回 キャリアを考える②
 - 第5回 私の価値観を見つける①
 - 第6回 私の価値観を見つける②
 - 第7回 人生の目標・目的① (大学)
 - 第8回 人生の目標・目的②(大学)
 - 第9回 人生の目標・目的③(仕事)
 - 第10回 ゲストスピーカー①
 - 第11回 ゲストスピーカー②
 - 第12回 自分を知る／自分のことを考える①
 - 第13回 自分を知る／自分のことを考える②
 - 第14回 自分を知る／自分のことを考える③
 - 第15回 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

本学はもとより学外の「キャリア開発講座」や「インターンシップ」などに参加することにより、さらに効果が出るようにプログラムされている。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask102b815

●授業中課題+宿題+発表+最終レポートなど=70% ●出席率+授業中の態度=30%(出席回数が高評価の対象となる)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアデザイン入門<2f>**

担当者 堀越 昭夫

テーマ

自分のキャリアを、自ら方向付けることができる「基礎・基盤作り」をテーマとします。

獲得目標

「自己発見」を通して自分の可能性を広げるとともに、「働くことの意義」を考え、将来に向けての「キャリア・デザイン」を描ける力を身につけることを目標とする。

授業の内容

過去の自分を振り返り、自分の強み、価値観などをワークシートを使って自己分析を行うと共に、「働く事の意味」を考える。

内 容

- 第1回 オリエンテーション「キャリアとキャリア・デザイン」(講義内容・ルール・講師紹介)
 - 第2回 社会人基礎力／学生時代に身につけたい能力
 - 第3回 キャリアを考える①
 - 第4回 キャリアを考える②
 - 第5回 私の価値観を見つける①
 - 第6回 私の価値観を見つける②
 - 第7回 人生の目標・目的① (大学)
 - 第8回 人生の目標・目的②(大学)
 - 第9回 人生の目標・目的③(仕事)
 - 第10回 ゲストスピーカー①
 - 第11回 ゲストスピーカー②
 - 第12回 自分を知る／自分のことを考える①
 - 第13回 自分を知る／自分のことを考える②
 - 第14回 自分を知る／自分のことを考える③
 - 第15回 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

本学はもとより学外の「キャリア開発講座」や「インターンシップ」などに参加することにより、さらに効果が出るようにプログラムされている。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask102b816

●授業中課題+宿題+発表+最終レポートなど=70% ●出席率+授業中の態度=30%(出席回数が高評価の対象となる)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ <2c>**

担当者 久野 勤・濱田 剛

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

獲得目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重要項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の内容

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 SPI試験とは / 言語分野① 同意語、反意語、四字熟語
- 第3回 就職と言語能力 / 言語分野② ことわざ、慣用句、二語の関係
- 第4回 コミュニケーション能力 / 言語分野③ 敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題
- 第5回 自己分析と能力の磨き方 / 言語分野④ 文の並び替え、文章読解基礎
- 第6回 伝える力を育てる / 言語分野⑤ 文章読解応用
- 第7回 非言語分野① 計算・計数の総復習
- 第8回 非言語分野② 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
- 第9回 非言語分野③ 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
- 第10回 非言語分野④ 仕事算、年齢算、濃度算
- 第11回 非言語分野⑤ 場合の数、確率
- 第12回 非言語分野⑥ 集合、ブラックボックス
- 第13回 非言語分野⑦ 資料の整理、長文読み取り
- 第14回 非言語分野⑧ 推論
- 第15回 非言語分野⑨ 領域、物の流れと比率

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

就職筆記試験対策

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

ask102d150

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館学総論 I <Za>

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

司書課程の導入科目として、我国の公立図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。

授業の内容

図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。

内 容

- 第1回 図書館の現状と動向 図書館数、貸出点数、資料費の変化、職員数の構成、管理運営の変化等について解説する。
- 第2回 図書館の構成要素と機能 図書館の定義、図書館の法的基盤(憲法、教育基本法、社会教育法等)、図書館システムの構成等について解説する。
- 第3回 図書館の社会的意義(ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む) ユネスコ公共図書館宣言、地域の情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館、図書館づくりへの住民参加等について解説する。
- 第4回 知的自由と図書館(図書館の自由に関する宣言等) アメリカの図書館の権利宣言や我国の図書館の自由に関する宣言の採択や図書館の自由に関する事例、略年表について解説する。
- 第5回 図書館の歴史 古代より近代公立図書館の成立及び我国の公立図書館100年の歴史を中心に解説する。
- 第6回 公立図書館の成立と展開 我国の図書館法(1950年)制定以降の「中小都市における公立図書館の運営」(1963年刊行)、「日野市立図書館の実践」(1965年)、「市民の図書館」(1970年刊行)を中心に解説する。
- 第7回 館種別図書館と利用者のニーズ(その1) 学校図書館及び大学図書館の制度と機能について解説する。
- 第8回 館種別図書館と利用者のニーズ(その2) 国立国会図書館、専門図書館、その他の図書館の制度と機能について解説する。
- 第9回 図書館職員の役割と資格 図書館長の役割、図書館員の資質と資格付与制度、司書の専門性(司書職制度)、司書の養成教育と研修等について解説する。
- 第10回 図書館の類縁機関・関係団体(文書館を含む) 類縁機関との協力、国際的図書館団体と図書館協会、日本の図書館団体、学会、研究会等について解説する。
- 第11回 図書館の課題と展望 直営から民間委託へ、予算の削減、厳しい職員体制(正規職員の減少)等を把握し、課題解決への方策を解説する。
- 第12回 外国の図書館 アメリカ、イギリス、北欧、中国、韓国の各図書館について解説する。
- 第13回 これからの図書館 生涯学習社会と図書館、情報化の進展、電子図書館等について解説する。
- 第14回 公共図書館をめぐる諸問題 サービス拠点の整備、特化したサービス(ビジネス支援、健康情報の提供、行政支援策の課題解決支援)等について解説する。
- 第15回 図書館を支える力 図書館協議会、図書館友の会、図書館ボランティア、議会運営等について解説する。

授業以外での学習方法

教科書

図書館概論 第3版

著者: 塩見昇 編著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2008

ISBN:

参考書

図書館学基礎資料 第10版

著者:

出版社: 樹村房

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館学総論 I <Zb>

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

司書課程の導入科目として、我国の公立図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。

授業の内容

図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。

内 容

- 第1回 図書館の現状と動向 図書館数、貸出点数、資料費の変化、職員数の構成、管理運営の変化等について解説する。
- 第2回 図書館の構成要素と機能 図書館の定義、図書館の法的基盤(憲法、教育基本法、社会教育法等)、図書館システムの構成等について解説する。
- 第3回 図書館の社会的意義(ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む) ユネスコ公共図書館宣言、地域の情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館、図書館づくりへの住民参加等について解説する。
- 第4回 知的自由と図書館(図書館の自由に関する宣言等) アメリカの図書館の権利宣言や我国の図書館の自由に関する宣言の採択や図書館の自由に関する事例、略年表について解説する。
- 第5回 図書館の歴史 古代より近代公立図書館の成立及び我国の公立図書館100年の歴史を中心に解説する。
- 第6回 公立図書館の成立と展開 我国の図書館法(1950年)制定以降の「中小都市における公立図書館の運営」(1963年刊行)、「日野市立図書館の実践」(1965年)、「市民の図書館」(1970年刊行)を中心に解説する。
- 第7回 館種別図書館と利用者のニーズ(その1) 学校図書館及び大学図書館の制度と機能について解説する。
- 第8回 館種別図書館と利用者のニーズ(その2) 国立国会図書館、専門図書館、その他の図書館の制度と機能について解説する。
- 第9回 図書館職員の役割と資格 図書館長の役割、図書館員の資質と資格付与制度、司書の専門性(司書職制度)、司書の養成教育と研修等について解説する。
- 第10回 図書館の類縁機関・関係団体(文書館を含む) 類縁機関との協力、国際的図書館団体と図書館協会、日本の図書館団体、学会、研究会等について解説する。
- 第11回 図書館の課題と展望 直営から民間委託へ、予算の削減、厳しい職員体制(正規職員の減少)等を把握し、課題解決への方策を解説する。
- 第12回 外国の図書館 アメリカ、イギリス、北欧、中国、韓国の各図書館について解説する。
- 第13回 これからの図書館 生涯学習社会と図書館、情報化の進展、電子図書館等について解説する。
- 第14回 公共図書館をめぐる諸問題 サービス拠点の整備、特化したサービス(ビジネス支援、健康情報の提供、行政支援策の課題解決支援)等について解説する。
- 第15回 図書館を支える力 図書館協議会、図書館友の会、図書館ボランティア、議会運営等について解説する。

授業以外での学習方法

教科書

図書館概論 第3版

著者: 塩見昇 編著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2008

ISBN:

参考書

図書館学基礎資料 第10版

著者:

出版社: 樹村房

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **図書館資料論 I <Za>**

担当者 竹島 昭雄

テーマ

公立図書館を中心とする図書館の所蔵資料の種類を知るとともに、その収集方法と管理の在り方を学ぶ。また、出版流通のしくみについても理解を深める。

獲得目標

公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応じてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。

授業の内容

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

内 容

- 第1回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(1) 図書・雑誌・新聞、資料の歴史。
- 第2回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(2) 主要な一次・二次資料(小冊子、地図等)。
- 第3回 電子資料、ネットワーク情報源の類型と特質 電子資料の収集・選択・利用、課題 ネットワーク情報源の類型・特質、インターネットの運用・課題。
- 第4回 地域資料 地域資料の種類と内容、収集と提供、課題。
- 第5回 行政資料(政府刊行物)、灰色文献 行政資料、政府刊行物の種類と特徴、収集・提供、灰色文献の種類と特徴。
- 第6回 情報資源の生産(出版)と流通(1) 出版、書店、図書館、出版流通経路。
- 第7回 情報資源の生産(出版)と流通(2) 再販制度、主な出版社に関する基礎知識。
- 第8回 図書館業務と情報資源に関する知識(主な著者に関する基礎知識を含む)。
- 第9回 コレクション形成の理論 蔵書構成論、図書選択論。
- 第10回 コレクション形成の方法(1) 資料の選択・収集・評価。
- 第11回 コレクション形成の方法(2) 選択ツールの利用、選定、評価。
- 第12回 人文・社会科学分野の情報資源とその特質
- 第13回 科学技術分野の情報源とその特質
- 第14回 資料の管理(1) 資料の受入・除籍・保存・管理。
- 第15回 資料の管理(2) 資料の装備・補修・排架・展示・点検等。

授業以外での学習方法

居住地の近辺又は帰省先にある公共図書館を訪問して、次の3点を調査して、第8回目の授業でA4のレポートを提出する。ただし、図書館員に尋ねることはしない。①所蔵資料(蔵書)の種類。②行事や催し物などの事業内容。③訪問した図書館の感想。

教科書

図書館情報資源概論 JLA図書館学テキストシリーズⅢ8

著者: 馬場俊明

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2012

ISBN: 9.78482E+12

参考書

図書館情報資源概論

著者: 高山正也・平野英俊編集

出版社: 樹村房

出版年: 2012

ISBN: 9.78488E+12

ask2011410

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職入門

担当者 横山 政夫

テーマ

先生になりたい！なるぞ！なれるかな？

獲得目標

教職の意義や教員の仕事・役割を知ること。厳しい教育現実の問題点も冷静に受け止め、自己の資質・能力を鑑みて、教職への高い志を育む。

授業の内容

出きるだけ教師の仕事の多彩さを具体例によって示しながら、適宜学生相互の討論を行う。また学校の具体状況を知るためにビデオ視聴などもとり入れる。

内 容

- 第1回 講義のイントロダクション。「教職入門」の目的、意義等について。
 - 第2回 教育とは何か(1) 教育基本法など
 - 第3回 教育とは何か(2) 可能性の伸長、自己実現、人格の完成
 - 第4回 教職の特殊性 三つの教師像
 - 第5回 教員の仕事(1) 教科指導、総合的学習の時間、評価など
 - 第6回 教員の仕事(2) 生徒指導、教育相談
 - 第7回 教員の仕事(3) 特別活動(学級経営他)、教育課程の編成など
 - 第8回 先生の日
 - 第9回 教員の身分・服務・研修
 - 第10回 今、教育現場では？(1) 教育思潮、ゆとり教育の是非など
 - 第11回 今、教育現場では？(2) 教育の諸問題、いじめ・不登校、モンスターペアレンツなど
 - 第12回 教師の資質・能力(1) 教師にはどんな資質能力が必要か？
 - 第13回 教師の資質・能力(2) 文部科学省が求めるものは？
 - 第14回 教師の力量形成とまとめ : 修養・研修・同僚性
 - 第15回 先生への道、教員採用試験と初任者研修について
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

講義で紹介する資料の原典を読む

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新・教育学[第2版]

著者: 南新秀一他編

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2009年

ISBN:

新しい時代の教職入門

著者： 秋田喜代美他編

出版社： 有斐閣アルマ

出版年： 2006年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (10)

参加度 (40)

授業中課題(50%)は、講義で扱った内容に関するレポートです。授業中発表(10%)は、各講義の度に提出する小レポートで、講義内容を理解した上で、自分の考えを整理できているかを評価します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育心理学 <a>**

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

子どもの発達と教育

獲得目標

「発達理論」、「学習理論」、「人格理論」、「教育評価理論」等の柱を立てて、そこでの基礎概念の習得を通じて、子どもに対する理解を深めるとともに、指導や支援の際の、基本的な視点の習得をめざす。また教育心理学の基礎概念の習得を通じて、子どもの発達と教育のかかわりについての理解を深める。

授業の内容

講義形式の授業となるが、一方的な知識の伝達とならぬよう、ミニ心理学実験や心理検査など、折々に実施し、受講生の参加度や能動性を高めるための工夫を心がける。また本講義ではテキストは使用せず、資料を通じての授業となるが、実験データや観察記録など、具体的な資料にそっての授業の展開に努める。

内 容

- 第1回 教育心理学とは、本講義が目指すもの
 - 第2回 系統発生と個体発生
 - 第3回 発達の原理と発達に必要な基本条件
 - 第4回 教育におけるピアジェとヴィゴツキー
 - 第5回 学習の原理と学習理論(「行動主義学派」)
 - 第6回 学習の原理と学習理論(「ゲシュタルト学派」)
 - 第7回 学習動機とは、学習動機に関する2つの学説
 - 第8回 学習動機とその発達(障がいのある児童の学習課程を含む)
 - 第9回 人格の構造と人格理論(障がいのある児童の発達を含む)
 - 第10回 欲求の階層構造と人格発達
 - 第11回 身体と運動機能の発達
 - 第12回 適応と防衛機制
 - 第13回 教育評価とは、指導と評価
 - 第14回 教育評価の方法(絶対評価、相対評価、到達度評価など)
 - 第15回 総復習 要点とまとめ
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

15回の講義で3～4回のレポートを課す。配布資料と合わせて他の文献などを参照してまとめること。

教科書

適宜資料を配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

発達と教育の心理学

著者: 宮嶋邦明

出版社: 法制出版

出版年: 1998年

ISBN: 4938554267

絶対役立つ教育心理学

著者： 藤田哲也編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007年

ISBN: 9.78462E+12

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育制度論 <a>**

担当者 古田 薫

テーマ

現代日本の教育制度の基礎をなす原理とその展開について学び、課題を発見する。

獲得目標

現代日本の教育制度の基礎をなす制度原理とその展開について基礎的な理解と、教育改革の現状について考察し、課題を発見して学習研究を行うことを目標とする。

授業の内容

現代日本の教育の基本理念、学校制度、教育行政、教職員法制の原理と展開について概説し、学習研究の課題を提示する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 I 憲法・教育基本法制 ①憲法の教育条項
 - 第3回 同 上 ②教育基本法の制定と改正
 - 第4回 同 上 ③国際教育法
 - 第5回 II 学校制度 ①初等・中等教育制度
 - 第6回 同 上 ②就学奨励制度
 - 第7回 同 上 ③教科書制度
 - 第8回 同 上 ④学校の組織運営
 - 第9回 III 教育行政制度 ①中央教育行政組織
 - 第10回 同 上 ②教育委員会制度の創設
 - 第11回 同 上 ③教育委員会制度の展開
 - 第12回 IV 教職員法制 ①教員養成・免許制度
 - 第13回 同 上 ②教員採用制度
 - 第14回 同 上 ③教員研修制度
 - 第15回 同 上 ④教員評価制度
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

教育法規スタートアップ 教育行政・政策入門 ver.2.0

著者： 高見茂他(編)

出版社： 昭和堂

出版年： 2012

ISBN:

教職を目指す人のための教育用語・法規

著者： 広岡義之(編)

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2012

ISBN:

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育相談

担当者 大平 勲

テーマ

「教育相談」に関する知識を習得し、今日の教育課題についての理解を深める

獲得目標

教育相談全般に関わる教育分野と今日の学校教育の現状と課題を認識理解する。

授業の内容

講義を中心にするが具体的な実践場面での指導についてのグループ討議を挿入する。

内 容

- 第1回 子どもをどう理解するか【『10円塾』の実践経験を語る
 - 第2回 教育相談活動とは何か。今日の教育問題を考える。
 - 第3回 子どもの居場所としての『学級集団』をどのように作るか
 - 第4回 子どもの問題行動を考え、グループ討議により実践的な解決指導を見出す。
 - 第5回 『学習指導要領』の変遷と学力保障の実践を考察する。指導・支援の在り方を考える。
 - 第6回 いじめ問題の実態とその考察①
 - 第7回 いじめ問題の実態とその考察② 具体的な事例でのグループ討議。
 - 第8回 不登校問題の実状とその背景を考える。
 - 第9回 不登校問題の打開に向けて考察する。
 - 第10回 特別支援教育と発達障害を考える。
 - 第11回 キャリア教育の実践から学び、進路実現の道筋を考える。
 - 第12回 父母の教育への願いを知り、PTA活動の実情を知る。
 - 第13回 学校と教育専門機関との連携とネットワークを考える。
 - 第14回 今日の教師に求められていることは何か
-

授業以外での学習方法

『講座通信』を読み、受講生の意見についての共感や反論をする。教育に関する情報を新聞やネットで知る。

教科書

プリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

風雨強けれど光り輝く

著者: 大平 勲他

出版社: つむぎ出版

出版年: 2011年

ISBN: 9.78488E+12

成績評価

試験 (70)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館サービス論 <Za>

担当者 川上 博幸

テーマ

図書館サービスとは？ その本質 図書館サービスの理念と基本

獲得目標

高度情報化社会にあって、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の内容

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

内 容

- 第1回 図書館サービスの開始までの建設と準備業務
- 第2回 図書館サービスの変遷
- 第3回 図書館サービスの意義と方法① 図書館の基本機能
- 第4回 図書館サービスの意義と方法② 図書館サービスの種類
- 第5回 資料、情報の提供① 資料、情報サービスの基本
- 第6回 資料、情報の提供② 利用案内、応対接遇とフロアワーク
- 第7回 読書案内と予約・リクエスト① 読書案内とレファレンス
- 第8回 読書案内と予約・リクエスト② その処理過程と相互協力
- 第9回 ニーズに沿ったサービスの展開① 児童ヤングサービス
- 第10回 ニーズに沿ったサービスの展開② 障害者、高齢者、多文化サービス
- 第11回 ニーズに沿ったサービスの展開③ 各種課題解決支援サービス
- 第12回 図書館ネットワーク協力和類縁機関等との連携
- 第13回 図書館サービスと著作権①
- 第14回 図書館サービスと著作権②
- 第15回 図書館サービス、現代の課題

授業以外での学習方法

在住する自治体の公共図書館や利用可能な大学図書館を、実際に利用して、よく観察する

教科書

新訂図書館サービス論

著者： 前園主計編著

出版社： 東京書籍

出版年： 2009

ISBN： 9.78449E+12

参考書

図書館サービス論補訂3版

著者： 塩見昇編著

出版社： 教育史料出版会

出版年： 2008

ISBN：

改訂図書館サービス論

著者： 高山正也編著

出版社： 樹村房

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

試験（40）

小テスト（30）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業中課題はレポートに変更があり得る。全回出席者には特別課題の用意があります。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **図書館サービス論 <Zb>**

担当者 川上 博幸

テーマ

図書館サービスとは？ その本質の理解 図書館サービスの理念と基本

獲得目標

高度情報化社会にあつて、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の内容

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

内 容

- 第1回 図書館サービスの開始までの建設と準備業務
- 第2回 図書館サービスの変遷
- 第3回 図書館サービスの意義と方法① 図書館の基本機能
- 第4回 図書館サービスの意義と方法② 図書館サービスの種類
- 第5回 資料、情報の提供① 資料、情報サービスの基本
- 第6回 資料、情報の提供② 利用案内、応対接遇とフロアワーク
- 第7回 読書案内と予約・リクエスト① 読書案内とレファレンス
- 第8回 読書案内と予約・リクエスト② その処理過程と相互協力
- 第9回 ニーズに沿ったサービスの展開① 児童ヤングサービス
- 第10回 ニーズに沿ったサービスの展開② 障害者、高齢者、多文化サービス
- 第11回 ニーズに沿ったサービスの展開③ 各種課題解決支援サービス
- 第12回 図書館ネットワーク協力和類縁機関等との連携
- 第13回 図書館サービスと著作権①
- 第14回 図書館サービスと著作権②
- 第15回 図書館サービス、現代の課題

授業以外での学習方法

在住する自治体の公共図書館や利用可能な大学図書館を実際に利用して、よく観察する

教科書

新訂図書館サービス論

著者： 前園主計編著

出版社： 東京書籍

出版年： 2009

ISBN： 9.78449E+12

参考書

図書館サービス論補訂3版

著者： 塩見昇編著

出版社： 教育史料出版会

出版年： 2008

ISBN：

改訂図書館サービス論

著者： 高山正也編著

出版社： 樹村房

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

試験（40）

小テスト（30）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業中課題はレポートに変更があり得る。全回出席者には特別課題の用意がある。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **資料組織概説 <Za>**

担当者 福井 多恵子

テーマ

図書館における情報資源の組織化について、その意義・目的・方法を学ぶ

獲得目標

図書館情報学の内、学生にとって最もわかりにくいのが情報資源組織論であろう。情報検索を可能にしている仕組み、メタデータや書誌データの機能と活用を説明し、また図書館内における情報原の組織化についても実際に図書館へ行って調べるなどして机上の理解だけでなく体験して理解できるようにする。

授業の内容

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。

内 容

- 第1回 情報資源組織化の意義(1) 図書館の機能と情報資源組織、図書館業務の中での位置づけなどを説明。
- 第2回 情報資源組織化の意義(2) 多様化するメディアや資料アクセスと情報資源組織の関係について説明
- 第3回 資料コントロール 意義、歴史、国際標準について説明
- 第4回 書誌情報の作成・流通・管理 書誌ユーティリティ、OPAC, MARC等について、その歴史的経過から今日に至る現状と課題もあわせて説明
- 第5回 コンピュータによる目録作成の実際 流用入力とオリジナル入力、総合目録、オンライン検索について説明
- 第6回 目録法の基礎 記述目録法と主題目録法、目録の種類と機能、メタデータと書誌データなどの説明
- 第7回 記述目録法の基礎 記述目録法の概要、記述の範囲、「日本目録規則1987年版改訂3版」の構成について説明
- 第8回 記述の単位と順序／記述目録作成の実際(1) 書誌階層の考え方と階層化の利点、書誌記述の情報原、書誌的事項と記述の順序、記述ユニット方式、ISBD区切り記号について説明
- 第9回 記述目録作成の実際(2) 各書誌的事項作成の説明
- 第10回 記述目録作成の実際(3) 各書誌的事項および標目・排列について説明
- 第11回 主題目録法 主題目録法の概要、「日本十進分類法」、「基本件名標目表」の概要説明
- 第12回 分類法の基礎(1) 分類法の概要、書誌分類と書架分類、十進分類法と序列表示型分類法の説明
- 第13回 分類法の基礎(2) 列挙型分類法と分析型分類法、ファセット分類法ほか世界の主要な分類法について説明
- 第14回 主題目録作成の実際「日本十進分類法」の適用、件名目録作成の実際について説明
- 第15回 まとめと補足 情報資料の物理的排架に必要な補助記号としての図書館記号・著者記号表、およびシソーラスと件名標目表など説明

授業以外での学習方法

事前に教科書の該当部分は勿論のこと、『日本目録規則』『日本十進分類法』『基本件名標目表』の該当箇所を精読のこと。大学図書館や地域の公共図書館を利用し、それぞれのOPACやカード目録を実際に利用してみる。また資料の排列についても注意して観察すること。

教科書

情報資源組織論』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ)

著者: 柴田正美

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2012

ISBN: 9.78482E+12

参考書

情報資源組織法

著者: 志保田務 他

出版社: 第一法規

出版年: 2012

ISBN: 9.78447E+12

情報資源組織論

著者： 田窪直規

出版社： 樹村房

出版年： 2011

ISBN: 9.78488E+12

成績評価

試験 (60)

小テスト (30)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (10)

小テストはレポートに振り替える場合があります

参考URL

2013 Syllabus

科目名 生涯学習概論 I <a>

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

日本における社会教育・生涯学習の歴史と課題につき基礎的理解を得る

獲得目標

生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、地域社会における多様な課題を解決する市民の主体形成を支援する職員としての資質形成を目標とする。

授業の内容

わが国における生涯学習・社会教育の歴史的特質の理解を基礎に、社会教育・生涯学習の法制と行政、施設論、地域住民の諸階層の生活課題と学習課題、学校教育、社会福祉との連携協力等、今日的課題について解説し、学習支援に求められる課題を明らかにする。

内 容

- 第1回 生涯学習の意義および、学校教育、社会教育との関係を解説する
- 第2回 明治期通俗教育から大正期青年教育の成立までにいたる、日本の生涯学習の歴史的特質を解説する。
- 第3回 昭和期の女性に対する社会教育—婦人教育の成立およびその意義について解説する。
- 第4回 戦後の社会教育行政の法制と行政的特質について解説する。
- 第5回 公民館・生涯学習センター等の社会教育施設像の発展について事例に即して解説する。
- 第6回 社会教育施設としての図書館、博物館の発展について、事例に即して解説する。
- 第7回 女性の学習の発展および今日的課題としての女性問題の学習について、事例に即して解説する。
- 第8回 女性の学習としての子育て支援について、家庭教育学級の事例に即して解説する。
- 第9回 少子高齢社会における高齢者の学習について、今日の理論的実践的な到達点につき解説する。
- 第10回 青少年教育における教育と福祉の連携の必要性および、とりわけ青少年施設運営の今日的到達点につき事例を挙げて解説する
- 第11回 青少年の居場所づくりと地域社会の役割につき、多様な実践を紹介し理解を深める。
- 第12回 多様な実践を紹介し、校区社会教育の可能性について考察を深める
- 第13回 学校支援地域本部、PTA などの地域の組織・団体の役割を解説し、学校教育と社会教育の分担と連携を考察する。
- 第14回 障がい者をはじめマイノリティの人々との共生を可能にする、社会教育・生涯学習と社会福祉の連携の課題を考察する。
- 第15回 これまでの講義をふりかえり、質疑応答を通じてまとめを行う。

授業以外での学習方法

授業中紹介した参考文献を読むようにする

教科書

指定しない。プリント配布。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業中に指示。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (70)
授業中課題 ()
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 生涯学習概論 I

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

日本における生涯学習・社会教育の歴史と課題について基礎的理解を得る

獲得目標

生涯学習及び社会教育の本質と意義の理解を図り、地域社会における多様な課題を解決する市民の主体形成を支援する職員としての資質形成を目標とする。

授業の内容

わが国における生涯学習・社会教育の歴史的特質の理解を基礎に、社会教育・生涯学習の法制と行政、施設論、地域住民の諸階層の生活課題と学習課題、学校教育、社会福祉との連携協力等、今日的課題について解説し、学習支援に求められる課題を明らかにする。

内 容

- 第1回 生涯学習の意義および、学校教育、社会教育との関係を解説する
- 第2回 明治期通俗教育から大正期青年教育の成立までにいたる、日本の生涯学習の歴史的特質を解説する。
- 第3回 昭和期の女性に対する社会教育—婦人教育の成立およびその意義について解説する。
- 第4回 戦後の社会教育行政の法制と行政の特質について解説する。
- 第5回 公民館・生涯学習センター等の社会教育施設像の発展について事例に即して解説する。
- 第6回 社会教育施設としての図書館、博物館の発展について、事例に即して解説する。
- 第7回 女性の学習の発展および今日的課題としての女性問題の学習について、事例に即して解説する。
- 第8回 女性の学習としての子育て支援について、家庭教育学級の事例に即して解説する。
- 第9回 少子高齢社会における高齢者の学習について、今日の理論的実践的な到達点につき解説する。
- 第10回 青少年教育における教育と福祉の連携の必要性および、とりわけ青少年施設運営の今日的到達点につき事例をふえて解説する
- 第11回 青少年の居場所づくりと地域社会の役割につき、多様な実践を紹介し理解を深める。
- 第12回 多様な実践を紹介し、校区社会教育の可能性について考察を深める
- 第13回 学校支援地域本部、PTA などの地域の組織・団体の役割を解説し、学校教育と社会教育の分担と連携を考察する。
- 第14回 障がい者をはじめマイノリティの人々との共生を可能にする、社会教育・生涯学習と社会福祉の連携の課題を考察する。
- 第15回 これまでの講義をふりかえり、質疑応答を通じてまとめを行う。

授業以外での学習方法

教科書

授業中に配布するプリント

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)
授業中課題 ()
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館概論 <a>

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

司書課程の導入科目として、我国の公立図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。

授業の内容

図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。

内 容

- 第1回 図書館の現状と動向 図書館数、貸出点数、資料費の変化、職員数の構成、管理運営の変化等について解説する。
- 第2回 図書館の構成要素と機能 図書館の定義、図書館の法的基盤(憲法、教育基本法、社会教育法等)、図書館システムの構成等について解説する。
- 第3回 図書館の社会的意義(ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む) ユネスコ公共図書館宣言、地域の情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館、図書館づくりへの住民参加等について解説する。
- 第4回 知的自由と図書館(図書館の自由に関する宣言等) アメリカの図書館の権利宣言や我国の図書館の自由に関する宣言の採択や図書館の自由に関する事例、略年表について解説する。
- 第5回 図書館の歴史 古代より近代公立図書館の成立及び我国の公立図書館100年の歴史を中心に解説する。
- 第6回 公立図書館の成立と展開 我国の図書館法(1950年)制定以降の「中小都市における公立図書館の運営」(1963年刊行)、「日野市立図書館の実践」(1965年)、「市民の図書館」(1970年刊行)を中心に解説する。
- 第7回 館種別図書館と利用者のニーズ(その1) 学校図書館及び大学図書館の制度と機能について解説する。
- 第8回 館種別図書館と利用者のニーズ(その2) 国立国会図書館、専門図書館、その他の図書館の制度と機能について解説する。
- 第9回 図書館職員の役割と資格 図書館長の役割、図書館員の資質と資格付与制度、司書の専門性(司書職制度)、司書の養成教育と研修等について解説する。
- 第10回 図書館の類縁機関・関係団体(文書館を含む) 類縁機関との協力、国際的図書館団体と図書館協会、日本の図書館団体、学会、研究会等について解説する。
- 第11回 図書館の課題と展望 直営から民間委託へ、予算の削減、厳しい職員体制(正規職員の減少)等を把握し、課題解決への方策を解説する。
- 第12回 外国の図書館 アメリカ、イギリス、北欧、中国、韓国の各図書館について解説する。
- 第13回 これからの図書館 生涯学習社会と図書館、情報化の進展、電子図書館等について解説する。
- 第14回 公共図書館をめぐる諸問題 サービス拠点の整備、特化したサービス(ビジネス支援、健康情報の提供、行政支援策の課題解決支援)等について解説する。
- 第15回 図書館を支える力 図書館協議会、図書館友の会、図書館ボランティア、議会運営等について解説する。

授業以外での学習方法

教科書

図書館概論 第3版

著者: 塩見昇 編著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2008

ISBN:

参考書

図書館学基礎資料 第10版

著者:

出版社: 樹村房

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **図書館概論 **

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

司書課程の導入科目として、我国の公立図書館を中心に学校図書館、大学図書館、国立国会図書館、専門図書館等の制度、機能、現状や課題を理解させる。

授業の内容

図書館の機能や社会における意義や役割について理解を図り、図書館の歴史と現状、館種別図書館と利用者ニーズ、図書館職員の役割と資格、類縁機関との関係、今後の課題と展望等の基本を解説する。

内 容

- 第1回 図書館の現状と動向 図書館数、貸出点数、資料費の変化、職員数の構成、管理運営の変化等について解説する。
- 第2回 図書館の構成要素と機能 図書館の定義、図書館の法的基盤(憲法、教育基本法、社会教育法等)、図書館システムの構成等について解説する。
- 第3回 図書館の社会的意義(ユネスコ公共図書館宣言、地域社会と図書館を含む) ユネスコ公共図書館宣言、地域の情報拠点としての図書館、まちづくりと図書館、図書館づくりへの住民参加等について解説する。
- 第4回 知的自由と図書館(図書館の自由に関する宣言等) アメリカの図書館の権利宣言や我国の図書館の自由に関する宣言の採択や図書館の自由に関する事例、略年表について解説する。
- 第5回 図書館の歴史 古代より近代公立図書館の成立及び我国の公立図書館100年の歴史を中心に解説する。
- 第6回 公立図書館の成立と展開 我国の図書館法(1950年)制定以降の「中小都市における公立図書館の運営」(1963年刊行)、「日野市立図書館の実践」(1965年)、「市民の図書館」(1970年刊行)を中心に解説する。
- 第7回 館種別図書館と利用者のニーズ(その1) 学校図書館及び大学図書館の制度と機能について解説する。
- 第8回 館種別図書館と利用者のニーズ(その2) 国立国会図書館、専門図書館、その他の図書館の制度と機能について解説する。
- 第9回 図書館職員の役割と資格 図書館長の役割、図書館員の資質と資格付与制度、司書の専門性(司書職制度)、司書の養成教育と研修等について解説する。
- 第10回 図書館の類縁機関・関係団体(文書館を含む) 類縁機関との協力、国際的図書館団体と図書館協会、日本の図書館団体、学会、研究会等について解説する。
- 第11回 図書館の課題と展望 直営から民間委託へ、予算の削減、厳しい職員体制(正規職員の減少)等を把握し、課題解決への方策を解説する。
- 第12回 外国の図書館 アメリカ、イギリス、北欧、中国、韓国の各図書館について解説する。
- 第13回 これからの図書館 生涯学習社会と図書館、情報化の進展、電子図書館等について解説する。
- 第14回 公共図書館をめぐる諸問題 サービス拠点の整備、特化したサービス(ビジネス支援、健康情報の提供、行政支援策の課題解決支援)等について解説する。
- 第15回 図書館を支える力 図書館協議会、図書館友の会、図書館ボランティア、議会運営等について解説する。

授業以外での学習方法

教科書

図書館概論 第3版

著者: 塩見昇 編著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2008

ISBN:

参考書

図書館学基礎資料 第10版

著者:

出版社: 樹村房

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館サービス概論 <a>

担当者 川上 博幸

テーマ

図書館サービスとは？ その本質 図書館サービスの理念と基本

獲得目標

高度情報化社会にあって、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の内容

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

内 容

- 第1回 図書館サービスの開始までの建設と準備業務
- 第2回 図書館サービスの変遷
- 第3回 図書館サービスの意義と方法① 図書館の基本機能
- 第4回 図書館サービスの意義と方法② 図書館サービスの種類
- 第5回 資料、情報の提供① 資料、情報サービスの基本
- 第6回 資料、情報の提供② 利用案内、応対接遇とフロアワーク
- 第7回 読書案内と予約・リクエスト① 読書案内とレファレンス
- 第8回 読書案内と予約・リクエスト② その処理過程と相互協力
- 第9回 ニーズに沿ったサービスの展開① 児童ヤングサービス
- 第10回 ニーズに沿ったサービスの展開② 障害者、高齢者、多文化サービス
- 第11回 ニーズに沿ったサービスの展開③ 各種課題解決支援サービス
- 第12回 図書館ネットワーク協力と類縁機関等との連携
- 第13回 図書館サービスと著作権①
- 第14回 図書館サービスと著作権②
- 第15回 図書館サービス、現代の課題

授業以外での学習方法

在住する自治体の公共図書館や利用可能な大学図書館を、実際に利用して、よく観察する

教科書

新訂図書館サービス論

著者： 前園主計編著

出版社： 東京書籍

出版年： 2009

ISBN： 9.78449E+12

参考書

図書館サービス論補訂3版

著者： 塩見昇編著

出版社： 教育史料出版会

出版年： 2008

ISBN：

改訂図書館サービス論

著者： 高山正也編著

出版社： 樹村房

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

試験（40）

小テスト（30）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業中課題はレポートに変更があり得る。全回出席者には特別課題の用意があります。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **図書館サービス概論 **

担当者 川上 博幸

テーマ

図書館サービスとは？ その本質の理解 図書館サービスの理念と基本

獲得目標

高度情報化社会にあって、激変する社会経済の影響のもと、図書館に求められる機能や役割が多様化している。このような状況のなか、「進化する図書館」を視野に入れて、「図書館サービスとは何か」を、さまざまな館種における現実の図書館サービスに根ざしながら、実証的に理解することを目指す。

授業の内容

館種ごとの図書館サービスを知り、その基盤となる考え方や、図書館機能とその構造を理解することを図る。具体的には、閲覧、資料提供、情報提供、予約、リクエスト、読書案内、レファレンス、問題解決支援などの働き、さらに児童・ヤングサービス、障害者、高齢者、多文化サービスなど、各種のサービスを扱い、それに関わる著作権や接遇の基本を解説する。

内 容

- 第1回 図書館サービスの開始までの建設と準備業務
- 第2回 図書館サービスの変遷
- 第3回 図書館サービスの意義と方法① 図書館の基本機能
- 第4回 図書館サービスの意義と方法② 図書館サービスの種類
- 第5回 資料、情報の提供① 資料、情報サービスの基本
- 第6回 資料、情報の提供② 利用案内、応対接遇とフロアワーク
- 第7回 読書案内と予約・リクエスト① 読書案内とレファレンス
- 第8回 読書案内と予約・リクエスト② その処理過程と相互協力
- 第9回 ニーズに沿ったサービスの展開① 児童ヤングサービス
- 第10回 ニーズに沿ったサービスの展開② 障害者、高齢者、多文化サービス
- 第11回 ニーズに沿ったサービスの展開③ 各種課題解決支援サービス
- 第12回 図書館ネットワーク協力和類縁機関等との連携
- 第13回 図書館サービスと著作権①
- 第14回 図書館サービスと著作権②
- 第15回 図書館サービス、現代の課題

授業以外での学習方法

在住する自治体の公共図書館や利用可能な大学図書館を実際に利用して、よく観察する

教科書

新訂図書館サービス論

著者： 前園主計編著

出版社： 東京書籍

出版年： 2009

ISBN： 9.78449E+12

参考書

図書館サービス論補訂3版

著者： 塩見昇編著

出版社： 教育史料出版会

出版年： 2008

ISBN：

改訂図書館サービス論

著者： 高山正也編著

出版社： 樹村房

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

試験（40）

小テスト（30）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業中課題はレポートに変更があり得る。全回出席者には特別課題の用意がある。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 児童サービス論 <a>

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。また、自らたくさんの児童書に接し、その豊かさと魅力を体験する。

授業の内容

児童(乳幼児からヤングアダルトまで)を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

内 容

- 第1回 発達と学習における読書の役割 児童の発達段階と読書興味、読書能力の段階について解説し、読書ばなれの原因と問題に言及し、読書の意義について考える。
- 第2回 児童サービスの意義と概要 これまでの公共図書館における児童サービスの歴史に触れ、今日的な流れの中で「なぜ児童サービスなのか」、その意義と概要について解説する
- 第3回 児童資料の特色と選択1 絵本 絵本は乳幼児から大人まで幅広く読まれているが、児童の発達に沿って、読みつかれている基本的な絵本を紹介しつつ、ジャンル別に紹介したい新しい絵本にもふれる。絵本の魅力とその留意点を解説する。
- 第4回 児童資料の特色と選択2 創作児童文学と詩 「読書ばなれ」が言われる今日、本当は読書能力に応じたおもしろい本は存在するということをもっと学生達に体験してほしい。さまざまな創作児童文学を、基本図書や新しい図書も含めて紹介する。また児童に「ことばの楽しさ」を体験してもらえ詩の本もたくさん紹介する。
- 第5回 児童資料の特色と選択3 昔話・伝承文学、知識の本 最近の児童は昔話を読書体験として育っていないように見られるが、昔話を含む伝承文学の豊かさを紹介し、創作児童文学と伝承文学の違いにも触れる。またノンフィクションや知識の本の特色を解説し、その評価方法を解説する。
- 第6回 児童資料の特色と選択4 児童資料の出版と流通 主に明治以降の児童資料出版の歴史に触れ、あわせて児童図書出版の流通の課題にも焦点をあてて解説する。
- 第7回 児童資料コレクションの形成と管理 児童資料の収集方針と評価方法、選書会議など、また維持管理のための方策などについて解説する。
- 第8回 児童サービスの業務1 資料提供サービス 資料提供の意義、貸出の意義、フロアワークの重要性、児童のリクエストの扱いや「図書館の自由」の問題などについて解説し、討論する。
- 第9回 児童サービスの業務2 情報サービス 情報サービスの意義、レファレンス資料や「調べ学習」に役立つ情報ファイルの形成、パスファインダーなどについて解説する。
- 第10回 児童サービスの業務3 乳幼児サービス ブックスタートや乳幼児サービスについて解説し、乳幼児向け資料の特色とわらべ歌や手遊びについても解説・実演する。
- 第11回 児童サービスの業務4 ヤングアダルト・サービス 子どもから大人へ移行するこの時期特有の世代に向けて、資料の特色や、そのサービスについて解説し、サービスの企画立案について考える。
- 第12回 児童サービスの方法・技術 1 読み聞かせ、ストーリーテリング 児童を読書に誘う方法として使われる代表的な技術について解説し、実演する。
- 第13回 児童サービスの方法・技術 2 ブックトーク、書評、ブックリストブックトークの実演を見て、課題としてブックトーク案を作成する。またブックリスト用の「本の解題」を書いて提出させる。
- 第14回 児童サービスの展開(運営、施設と設備、児童図書館員の役割) 児童サービス関連法規、運営方針、児童の特徴をふまえた施設と設備のあり方、児童図書館員の役割などについて解説する。
- 第15回 学校、家庭、地域との連携・協力 学校図書館の活動(公共図書館との相違点を含む)、司書教諭・学校司書の役割について解説する。また、「子どもの読書活動推進に関する法律」を理解し、学校と公共図書館、家庭を含む地域および県立図書館や他の自治体を含めた連携・協力の実例を紹介し、その重要性和今後のあり方について解説する。

授業以外での学習方法

教科書

児童サービス論

著者： 堀川照代 編著

出版社： 日本図書館協会

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 児童サービス論

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

公共図書館や学校図書館における児童サービスの意義を理解し、児童・生徒を「本好き」にするための方策について知識を深め、その技術を理解する。また、自らたくさんの児童書に接し、その豊かさと魅力を体験する。

授業の内容

児童(乳幼児からヤングアダルトまで)を対象に、発達と学習における読書の役割、年齢層別サービス、絵本・物語等の資料、読み聞かせやブックトークなどの技術、学校や地域との協力等について解説し、必要に応じて演習を行う。

内 容

- 第1回 発達と学習における読書の役割 児童の発達段階と読書興味、読書能力の段階について解説し、読書ばなれの原因と問題に言及し、読書の意義について考える。
- 第2回 児童サービスの意義と概要 これまでの公共図書館における児童サービスの歴史に触れ、今日的な流れの中で「なぜ児童サービスなのか」、その意義と概要について解説する
- 第3回 児童資料の特色と選択1 絵本 絵本は乳幼児から大人まで幅広く読まれているが、児童の発達に沿って、読みつかれている基本的な絵本を紹介しつつ、ジャンル別に紹介したい新しい絵本にもふれる。絵本の魅力とその留意点を解説する。
- 第4回 児童資料の特色と選択2 創作児童文学と詩 「読書ばなれ」が言われる今日、本当は読書能力に応じたおもしろい本は存在するというをもっと学生達に体験してほしい。さまざまな創作児童文学を、基本図書や新しい図書も含めて紹介する。また児童に「ことばの楽しさ」を体験してもらえ詩の本もたくさん紹介する。
- 第5回 児童資料の特色と選択3 昔話・伝承文学、知識の本 最近の児童は昔話を読書体験として育っていないように見られるが、昔話を含む伝承文学の豊かさを紹介し、創作児童文学と伝承文学の違いにも触れる。またノンフィクションや知識の本の特色を解説し、その評価方法を解説する。
- 第6回 児童資料の特色と選択4 児童資料の出版と流通 主に明治以降の児童資料出版の歴史に触れ、あわせて児童図書出版の流通の課題にも焦点をあてて解説する。
- 第7回 児童資料コレクションの形成と管理 児童資料の収集方針と評価方法、選書会議など、また維持管理のための方策などについて解説する。
- 第8回 児童サービスの業務1 資料提供サービス 資料提供の意義、貸出の意義、フロアワークの重要性、児童のリクエストの扱いや「図書館の自由」の問題などについて解説し、討論する。
- 第9回 児童サービスの業務2 情報サービス 情報サービスの意義、レファレンス資料や「調べ学習」に役立つ情報ファイルの形成、パスファインダーなどについて解説する。
- 第10回 児童サービスの業務3 乳幼児サービス ブックスタートや乳幼児サービスについて解説し、乳幼児向け資料の特色とわらべ歌や手遊びについても解説・実演する。
- 第11回 児童サービスの業務4 ヤングアダルト・サービス 子どもから大人へ移行するこの時期特有の世代に向けて、資料の特色や、そのサービスについて解説し、サービスの企画立案について考える。
- 第12回 児童サービスの方法・技術 1 読み聞かせ、ストーリーテリング 児童を読書に誘う方法として使われる代表的な技術について解説し、実演する。
- 第13回 児童サービスの方法・技術 2 ブックトーク、書評、ブックリストブックトークの実演を見て、課題としてブックトーク案を作成する。またブックリスト用の「本の解題」を書いて提出させる。
- 第14回 児童サービスの展開(運営、施設と設備、児童図書館員の役割) 児童サービス関連法規、運営方針、児童の特徴をふまえた施設と設備のあり方、児童図書館員の役割などについて解説する。
- 第15回 学校、家庭、地域との連携・協力 学校図書館の活動(公共図書館との相違点を含む)、司書教諭・学校司書の役割について解説する。また、「子どもの読書活動推進に関する法律」を理解し、学校と公共図書館、家庭を含む地域および県立図書館や他の自治体を含めた連携・協力の実例を紹介し、その重要性和今後のあり方について解説する。

授業以外での学習方法

教科書

児童サービス論

著者： 堀川照代 編著

出版社： 日本図書館協会

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館情報資源概論 <a>

担当者 竹島 昭雄

テーマ

公立図書館を中心とする図書館の所蔵資料の種類を知るとともに、その収集方法と管理の在り方を学ぶ。また、出版流通のしくみについても理解を深める。

獲得目標

公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応じてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。

授業の内容

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

内 容

- 第1回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(1) 図書・雑誌・新聞、資料の歴史。
- 第2回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(2) 主要な一次・二次資料(小冊子、地図等)。
- 第3回 電子資料、ネットワーク情報源の類型と特質 電子資料の収集・選択・利用、課題 ネットワーク情報源の類型・特質、インターネットの運用・課題。
- 第4回 地域資料 地域資料の種類と内容、収集と提供、課題。
- 第5回 行政資料(政府刊行物)、灰色文献 行政資料、政府刊行物の種類と特徴、収集・提供、灰色文献の種類と特徴。
- 第6回 情報資源の生産(出版)と流通(1) 出版、書店、図書館、出版流通経路。
- 第7回 情報資源の生産(出版)と流通(2) 再販制度、主な出版社に関する基礎知識。
- 第8回 図書館業務と情報資源に関する知識(主な著者に関する基礎知識を含む)。
- 第9回 コレクション形成の理論 蔵書構成論、図書選択論。
- 第10回 コレクション形成の方法(1) 資料の選択・収集・評価。
- 第11回 コレクション形成の方法(2) 選択ツールの利用、選定、評価。
- 第12回 人文・社会科学分野の情報資源とその特質
- 第13回 科学技術分野の情報源とその特質
- 第14回 資料の管理(1) 資料の受入・除籍・保存・管理。
- 第15回 資料の管理(2) 資料の装備・補修・排架・展示・点検等。

授業以外での学習方法

居住地の近辺又は帰省先にある公共図書館を訪問して、次の3点を調査して、第8回目の授業でA4のレポートを提出する。ただし、図書館員に尋ねることはしない。①所蔵資料(蔵書)の種類。②行事や催し物などの事業内容。③訪問した図書館の感想。

教科書

図書館情報資源概論 JLA図書館学テキストシリーズⅢ8

著者: 馬場俊明

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2012

ISBN: 9.78482E+12

参考書

図書館情報資源概論

著者: 高山正也・平野英俊編集

出版社: 樹村房

出版年: 2012

ISBN: 9.78488E+12

ask302e010

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館情報資源概論

担当者 竹島 昭雄

テーマ

公立図書館を中心とする図書館の所蔵資料の種類を知るとともに、その収集方法と管理の在り方を学ぶ。また、出版流通のしくみについても理解を深める。

獲得目標

公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応じてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。

授業の内容

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、歴史、生産、流通、選択、収集、保存、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。

内 容

- 第1回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(1) 図書・雑誌・新聞、資料の歴史。
- 第2回 印刷資料・非印刷資料の類型と特質(2) 主要な一次・二次資料(小冊子、地図等)。
- 第3回 電子資料、ネットワーク情報源の類型と特質 電子資料の収集・選択・利用、課題 ネットワーク情報源の類型・特質、インターネットの運用・課題。
- 第4回 地域資料 地域資料の種類と内容、収集と提供、課題。
- 第5回 行政資料(政府刊行物)、灰色文献 行政資料、政府刊行物の種類と特徴、収集・提供、灰色文献の種類と特徴。
- 第6回 情報資源の生産(出版)と流通(1) 出版、書店、図書館、出版流通経路。
- 第7回 情報資源の生産(出版)と流通(2) 再販制度、主な出版社に関する基礎知識。
- 第8回 図書館業務と情報資源に関する知識(主な著者に関する基礎知識を含む)。
- 第9回 コレクション形成の理論 蔵書構成論、図書選択論。
- 第10回 コレクション形成の方法(1) 資料の選択・収集・評価。
- 第11回 コレクション形成の方法(2) 選択ツールの利用、選定、評価。
- 第12回 人文・社会科学分野の情報資源とその特質
- 第13回 科学技術分野の情報源とその特質
- 第14回 資料の管理(1) 資料の受入・除籍・保存・管理。
- 第15回 資料の管理(2) 資料の装備・補修・排架・展示・点検等。

授業以外での学習方法

近隣の公立図書館を利用し、所蔵されている資料の内容を確認するとともに蔵書の特徴を把握する。

教科書

図書館資料論 JLA図書館情報学テキストシリーズⅡ7

著者: 馬場俊明

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2009

ISBN: 9.78482E+12

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 ()

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報資源組織論 <a>**

担当者 福井 多恵子

テーマ

図書館における情報資源の組織化について、その意義・目的・方法を学ぶ

獲得目標

図書館情報学の内、学生にとって最もわかりにくいのが情報資源組織論であろう。情報検索を可能にしている仕組み、メタデータや書誌データの機能と活用を説明し、また図書館内における情報原の組織化についても実際に図書館へ行って調べるなどして机上の理解だけでなく体験して理解できるようにする。

授業の内容

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。

内 容

- 第1回 情報資源組織化の意義(1) 図書館の機能と情報資源組織、図書館業務の中での位置づけなどを説明。
- 第2回 情報資源組織化の意義(2) 多様化するメディアや資料アクセスと情報資源組織の関係について説明
- 第3回 資料コントロール 意義、歴史、国際標準について説明
- 第4回 書誌情報の作成・流通・管理 書誌ユーティリティ、OPAC, MARC等について、その歴史的経過から今日に至る現状と課題もあわせて説明
- 第5回 コンピュータによる目録作成の実際 流用入力とオリジナル入力、総合目録、オンライン検索について説明
- 第6回 目録法の基礎 記述目録法と主題目録法、目録の種類と機能、メタデータと書誌データなどの説明
- 第7回 記述目録法の基礎 記述目録法の概要、記述の範囲、「日本目録規則1987年版改訂3版」の構成について説明
- 第8回 記述の単位と順序／記述目録作成の実際(1) 書誌階層の考え方と階層化の利点、書誌記述の情報原、書誌的事項と記述の順序、記述ユニット方式、ISBD区切り記号について説明
- 第9回 記述目録作成の実際(2) 各書誌的事項作成の説明
- 第10回 記述目録作成の実際(3) 各書誌的事項および標目・排列について説明
- 第11回 主題目録法 主題目録法の概要、「日本十進分類法」、「基本件名標目表」の概要説明
- 第12回 分類法の基礎(1) 分類法の概要、書誌分類と書架分類、十進分類法と序列表示型分類法の説明
- 第13回 分類法の基礎(2) 列挙型分類法と分析型分類法、ファセット分類法ほか世界の主要な分類法について説明
- 第14回 主題目録作成の実際「日本十進分類法」の適用、件名目録作成の実際について説明
- 第15回 まとめと補足 情報資料の物理的排架に必要な補助記号としての図書館記号・著者記号表、およびシソーラスと件名標目表など説明

授業以外での学習方法

事前に教科書の該当部分は勿論のこと、『日本目録規則』『日本十進分類法』『基本件名標目表』の該当箇所を精読のこと。大学図書館や地域の公共図書館を利用し、それぞれのOPACやカード目録を実際に利用してみる。また資料の排列についても注意して観察すること。

教科書

情報資源組織論』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ)

著者: 柴田正美

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2012

ISBN: 9.78482E+12

参考書

情報資源組織法

著者: 志保田務 他

出版社: 第一法規

出版年: 2012

ISBN: 9.78447E+12

情報資源組織論

著者： 田窪直規

出版社： 樹村房

出版年： 2011

ISBN: 9.78488E+12

成績評価

試験 (60)

小テスト (30)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (10)

小テストはレポートに振り替える場合があります

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報資源組織論 **

担当者 福井 多恵子

テーマ

図書館における情報資源の組織化について、その意義・目的・方法を学ぶ

獲得目標

図書館情報学の内、学生にとって最もわかりにくいのが情報資源組織論であろう。情報検索を可能にしている仕組み、メタデータや書誌データの機能と活用を説明し、また図書館内における情報原の組織化についても実際に図書館へ行って調べるなどして机上の理解だけでなく体験して理解できるようにする

授業の内容

印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題分析、メタデータ、書誌データの活用法等を解説する。

内 容

- 第1回 情報資源組織化の意義(1) 図書館の機能と情報資源組織、図書館業務の中での位置づけなどを説明。
- 第2回 情報資源組織化の意義(2) 多様化するメディアや資料アクセスと情報資源組織の関係について説明
- 第3回 資料コントロール 意義、歴史、国際標準について説明
- 第4回 書誌情報の作成・流通・管理 書誌ユーティリティ、OPAC, MARC等について、その歴史的経過から今日に至る現状と課題もあわせて説明
- 第5回 コンピュータによる目録作成の実際 流用入力とオリジナル入力、総合目録、オンライン検索について説明
- 第6回 目録法の基礎 記述目録法と主題目録法、目録の種類と機能、メタデータと書誌データなどの説明
- 第7回 記述目録法の基礎 記述目録法の概要、記述の範囲、「日本目録規則1987年版改訂3版」の構成について説明
- 第8回 記述の単位と順序／記述目録作成の実際(1) 書誌階層の考え方と階層化の利点、書誌記述の情報原、書誌的事項と記述の順序、記述ユニット方式、ISBD区切り記号について説明
- 第9回 記述目録作成の実際(2) 各書誌的事項作成の説明
- 第10回 記述目録作成の実際(3) 各書誌的事項および標目・排列について説明
- 第11回 主題目録法 主題目録法の概要、「日本十進分類法」、「基本件名標目表」の概要説明
- 第12回 分類法の基礎(1) 分類法の概要、書誌分類と書架分類、十進分類法と序列表示型分類法の説明
- 第13回 分類法の基礎(2) 列挙型分類法と分析型分類法、ファセット分類法ほか世界の主要な分類法について説明
- 第14回 主題目録作成の実際「日本十進分類法」の適用、件名目録作成の実際について説明
- 第15回 まとめと補足 情報資料の物理的排架に必要な補助記号としての図書館記号・著者記号表、およびシソーラスと件名標目表など説明

授業以外での学習方法

事前に教科書の該当部分は勿論のこと、『日本目録規則』『日本十進分類法』『基本件名標目表』の該当箇所を精読のこと。講義終了後は復習をし、疑問点を確実に解消して次の授業に臨むこと。

教科書

情報資源組織論』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ)

著者: 柴田正美

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2012

ISBN: 9.78482E+12

参考書

情報資源組織法

著者: 志保田務 他

出版社: 第一法規

出版年: 2012

ISBN: 9.78447E+12

情報資源組織論

著者： 田窪直規

出版社： 樹村房

出版年： 2011

ISBN: 9.78488E+12

成績評価

試験 (60)

小テスト (30)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (10)

小テストはレポートに振り替える場合があります。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **学校経営と学校図書館**

担当者 村岡 益子

テーマ

学校図書館の理念と意義を学校教育の抱える課題の中に位置づけて理解する。

獲得目標

今日の学校教育の諸課題をふまえ、学校図書館の教育的意義及び司書教諭の果たすべき任務について理解し、意欲的・創造的に活動する司書教諭をめざす。

授業の内容

当科目が講義科目全体の総論的な位置づけであることを踏まえ、まず学校教育における学校図書館の果たす役割等、学校図書館全般について論じ、基本的理解を図る。次に教師として、学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と職務を明確にし、校内の協力体制づくり、司書教諭としての研修の重要性にふれる。さらに、学校図書館メディア・学校図書館活動・他の館種を含めた図書館ネットワーク等についての基本的理解を図る。

内 容

- 第1回 学校図書館の理念と教育的意義
- 第2回 生涯学習社会・知識基盤社会と学校図書館
- 第3回 学校図書館の発展と課題
- 第4回 教育行政と学校図書館
- 第5回 学校図書館法と関係法令
- 第6回 教育サービスとしての学校図書館施策
- 第7回 学校経営組織における学校図書館
- 第8回 学校図書館のマネジメント・サイクル
- 第9回 司書教諭の任務と役割
- 第10回 学校内の協力体制と司書教諭の職務
- 第11回 学校図書館メディアの構築と管理
- 第12回 学校図書館活動の対象と領域
- 第13回 学校図書館活動の内容と方法
- 第14回 「読む力」と「読書へのアニマシオン」
- 第15回 学校図書館が築くネットワーク

授業以外での学習方法

母校を訪問し、無償で学校図書館ボランティアを体験させてもらう。また、必要な事前学習については、適宜指示する。

教科書

学校経営と学校図書館

著者：「シリーズ学校図書館学」編集委員会

出版社：全国学校図書館協議会

出版年：2011

ISBN：4-7933-2243-6

参考書

学校図書館・司書教諭講習資料

著者：全国学校図書館協議会 編

出版社：全国学校図書館協議会

出版年：2012

ISBN：4-7933-0087-5

成績評価

試験（50）

小テスト（0）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（30）

出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **読書と豊かな人間性**

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

子どもが読書することの意義、子どもに読書を薦める意義について自分なりの考えを持つ。また、学校図書館における読書教育の方策についての知識と理解を獲得する。子どもを本好きにするために何ができるか、読書教育と環境について考える

授業の内容

子どもの読書の意義について理解を深め、読書資料をジャンルごとに解説し、子供を本好きにするためのさまざまな技術や方法についても学ぶ。

内 容

- 第1回 子どもの読書の現状
 - 第2回 子どもの読書と人間形成
 - 第3回 学校教育における読書
 - 第4回 発達段階と読書
 - 第5回 小学生、中学生、高校生の読書
 - 第6回 読書指導の実際
 - 第7回 子どもを読書に誘う方法(1)読み聞かせとストーリーテリング
 - 第8回 子どもを読書に誘う方法(2)ブックトーク
 - 第9回 子どもを読書に誘う方法(3)朝の読書 ほか
 - 第10回 読書資料の種類と活用(1)絵本
 - 第11回 読書資料の種類と活用(2)児童文学 ほか
 - 第12回 読書資料の種類と活用(3)昔話・伝承文学、知識の本
 - 第13回 読書活動における司書教諭の役割、「図書館の自由」と「読書の秘密」
 - 第14回 生涯学習への読書、家庭・地域・公共図書館との連携、協力
 - 第15回 子ども読書活動の推進
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

教科書

読書と豊かな人間性

著者： 朝比奈大作 編

出版社： 樹村房

出版年： 2002

ISBN： 9.78488E+12

参考書

学校図書館発絵本ガイドブック

著者： 三宅興子ほか著

出版社： 翰林書房

出版年： 2004

ISBN： 978-87737-191-3

読書力

著者： 齊藤孝 著

出版社： 岩波書店

出版年： 2002

ISBN: 9.784E+12

成績評価

試験 (40)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 博物館学概論

担当者 小林 裕子

テーマ

本講義では、博物館の歴史及び種類、学芸員の仕事、文化財の保護、関係法規などについて概説し、博物館の課題と展望について考えを深めてゆく。さらに国立博物館の独立行政法人化、指定管理者制度など、博物館が直面している今日的課題についても言及する。

獲得目標

授業の内容

内 容

第1回

授業以外での学習方法

博物館や美術館に実際に足を運び、その意義について各々考えてもらいたい。なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

教科書

資料配付

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 博物館資料論

担当者 五十川 伸矢

テーマ

博物館資料の収集保管・調査研究・整理活動の方法

獲得目標

博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。

授業の内容

博物館における調査研究と資料公開の方法、すなわち、博物館資料の収集・調査研究・展示の方法を理解する。博物館資料の種類(文献・考古・民俗・自然史など)ごとに、その特徴と研究方法、博物館での研究と公開の方法を解説する。

内 容

- 第1回 博物館資料には、どんなものがあるか
 - 第2回 博物館資料の収集方法
 - 第3回 見学実習① 学外授業 博物館参観
 - 第4回 遺跡博物館の展示方法
 - 第5回 博物館資料の調査研究① 考古資料(1)
 - 第6回 博物館資料の調査研究② 考古資料(2)
 - 第7回 博物館資料の調査研究③ 民俗資料
 - 第8回 博物館資料の調査研究④ 歴史資料
 - 第9回 博物館資料の調査研究⑤ 美術資料
 - 第10回 見学実習② 学外授業 博物館参観
 - 第11回 博物館資料の調査研究⑥ 自然史資料
 - 第12回 博物館資料の調査報告書(図録)の編集
 - 第13回 博物館学芸員による資料収集・調査研究活動(講演会)
 - 第14回 博物館資料の調査研究展示普及活動の課題
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

博物館・美術館・資料館を訪ね、展示している資料を観察して、展示内容と展示の仕方を学習する。とくに京都国立博物館・奈良国立博物館は、キャンパスメンバーなので、頻繁に活用すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 博物館実習 I <a>

担当者 五十川 伸矢・宇野 日出生

テーマ

《五十川伸矢》考古遺物の取り扱いと調査法 《宇野日出生》古文書整理の基本を学ぶ

獲得目標

実習 I では、考古資料の実測図や古文書の取り扱いを学ぶことを通じて、博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを目標とする。

授業の内容

考古資料の実測図・拓本・解説図の作成技術を身につける。また、古文書整理の技術習得をめざす。

内 容

- 第1回 【事前指導1】実習に係る事前指導と、実測図と拓本の技術解説
- 第2回 見学実習② 学外授業 博物館参観
- 第3回 古文書の解読と整理(冊子を中心に)
- 第4回 古文書の解読と整理②(冊子を中心に)
- 第5回 古文書の解読と整理(状を中心に)
- 第6回 古文書の解読と整理②(状を中心に)
- 第7回 見学実習① 学外授業 博物館参観
- 第8回 【事後指導1】実習総括
- 第9回 【事前指導2】実習に係る事前指導と、古文書の扱い方
- 第10回 実測図の意味と線画を描く基礎的練習
- 第11回 実測図の作成①
- 第12回 実測図の作成②
- 第13回 解説図の作成
- 第14回 拓本の作成
- 第15回 【事後指導2】実習総括

授業以外での学習方法

《五十川 伸矢》各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている考古資料を観察して、その意義について学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask403d110

《五十川 伸矢》試験(20%) 小テスト(0%) 授業中課題(60%) 授業中発表等(0%) 参加度(20%) 《宇野日出生》試験(0%) 小テスト(0%) 授業中課題(50%) 授業中発表等(0%) 参加度(50%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 博物館実習 I

担当者 五十川 伸矢・宇野 日出生

テーマ

《五十川伸矢》考古遺物の取り扱いと調査法 《宇野日出生》古文書整理の基本を学ぶ

獲得目標

実習 I では、考古資料の実測図や古文書の取り扱いを学ぶことを通じて、博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを目標とする。

授業の内容

考古資料の実測図・拓本・解説図の作成技術を身につける。また、古文書整理の技術習得をめざす。

内 容

- 第1回 【事前指導1】実習に係る事前指導と、実測図と拓本の技術解説
- 第2回 実測図の意味と線画を描く基礎的練習
- 第3回 実測図の作成①
- 第4回 実測図の作成②
- 第5回 解説図の作成
- 第6回 拓本の作成
- 第7回 見学実習① 学外授業 博物館参観
- 第8回 【事後指導1】実習総括
- 第9回 【事前指導2】実習に係る事前指導と、古文書の扱い方
- 第10回 見学実習② 学外授業 博物館参観
- 第11回 古文書の解説と整理(冊子を中心に)
- 第12回 古文書の解説と整理(冊子を中心に)
- 第13回 古文書の解説と整理(状を中心に)
- 第14回 古文書の解説と整理(状を中心に)
- 第15回 【事後指導2】実習総括

授業以外での学習方法

《五十川 伸矢》各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている考古資料を観察して、その意義について学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask403d112

《五十川 伸矢》試験(20%) 小テスト(0%) 授業中課題(60%) 授業中発表等(0%) 参加度(20%) 《一》試験(0%)
小テスト(0%) 授業中課題(50%) 授業中発表等(0%) 参加度(50%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 博物館実習Ⅲ <a>

担当者 木下 達文

テーマ

博物館学芸員としての共通の基礎的技術を身につける。

獲得目標

博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。とくにどのような博物館においても、二次資料としての写真、レプリカ、出版物(編集物)などは日常的に用いられるものであるため、それらの基本的な知識を学ぶとともに、小さな展示会をつづいて実際の制作を行うことで、理解を深めることを目標とする。また、博物館の現場における実務を経験すること(館園実習)によって、博物館への理解をよりいっそう深める。

授業の内容

現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術(おもに二次資料の制作と利用)を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解を深める。

内 容

- 第1回 写真機(カメラ)の構造 博物館で使用される写真機には多様なものがあり、その種類と基本的な構造について、テキストと実物を用いて説明する。
- 第2回 博物館における資料撮影について 博物館における撮影は、いわゆる芸術作品とは全く異なり、正確に資料を映し出す必要がある。図録などを用いてその意味を体験的に説明する。
- 第3回 写真機の取り扱い ブローニカカメラを用いて、グループ毎に実習用カメラの操作方法について体験的に学ぶ。ここではあくまでシミュレーションを中心に行う。
- 第4回 写真展の考え方 撮影する対象を考える。具体的な写真展を行うという設定で、自分たちの撮影モチーフ(資料)の設定と、展示展開を考える。
- 第5回 資料撮影の実際(1) 撮影モチーフをもちより、1人ひとり資料撮影を行う。とくに被写界深度を考え、絞りとの関係が理解できることを念頭において撮影指導する。
- 第6回 資料撮影の実際(2) 1回目できちんと撮影するのは難しいため、何度か撮影を繰り返したり、モチーフを変更することで、より質の高い撮影法の習得を指導する。
- 第7回 写真パネルの制作(1) 撮影した写真の現像を行い、グループ毎に以前決めたシナリオ毎に展開を考えながら、主となる写真のパネルをボードなどを利用し作成指導する。
- 第8回 写真パネルの制作(2) 写真パネルと同時に、その写真に付属する解説キャンペーンボードや関連資料などの制作全てを行い、展示制作へとつなげていく。
- 第9回 図録編集の実務(1) 博物館では図録をはじめとする多種多様な出版物・印刷物の編集を行っている。ここでは、印刷までの流れについて実物を用いて体験的に説明する。
- 第10回 図録編集の実務(2) 編集の最終段階である「校正作業」について、校正記号の説明とともに、それらを使用して実際の編集物の校正を体験的に指導する。
- 第11回 レプリカ資料の制作(1) 博物館においては、写真とともにレプリカ(複製資料)も多く取り扱う。ここでは、レプリカの意味と利用を知り、型どりを指導する。
- 第12回 レプリカ資料の制作(2) ここでは、自然資料や歴史資料など、様々な型を利用してFRPのレプリカをまず成形する。その後、見本サンプルをもとに着色までを指導する。
- 第13回 写真展示の実際(1) 自らが撮影した写真を一定の展示ストーリーにしたがって動線・配色・レイアウト・分かりやすさなどを考慮し、完成させる。
- 第14回 写真展示の実際(2) 写真を設置するのみならず、多様な利用者サービスを考える。写真撮影の目的やモチーフの解説資料作成や人による解説などをも行う。
- 第15回 バリエーション(自己評価・他者評価) 自分たちが制作した写真や展示について、自己評価と他者評価のワークショップを通じて、今後の改善に向けた視点を学び取れるよう指導する。
- 第16回 【実習直前ガイダンス】 実習者の心得、大学側・実習館側との連絡、実習後のレポート、実習館との連絡と挨拶訪問、事前学修その他の指導
- 第17回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第18回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第19回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第20回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第21回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第22回 【事後指導】レポートの提出・実習まとめ

授業以外での学習方法

実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。

教科書

参考書

博物館学実習マニュアル

著者： 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社： 芙蓉書房出版

出版年： 2002

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（30）

参加度（40）

特に出席を重視する

小テスト（0）

授業中発表等（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 博物館実習Ⅲ

担当者 木下 達文

テーマ

博物館学芸員としての共通の基礎的技術を身につける。

獲得目標

博物館学芸員としての自覚と共通の基礎的技術を身につける。とくにどのような博物館においても、二次資料としての写真、レプリカ、出版物(編集物)などは日常的に用いられるものであるため、それらの基本的な知識を学ぶとともに、小さな展示会をつづいて実際の制作を行うことで、理解を深めることを目標とする。また、博物館の現場における実務を経験すること(館園実習)によって、博物館への理解をよりいっそう深める。

授業の内容

現在、博物館の種類は多様化しているが、学内における実習によって、共通して学芸員が身につけていなければならない基礎的技術(おもに二次資料の制作と利用)を習得する。同時に博物館の現場における実務を経験することによって、博物館への理解を深める。

内 容

- 第1回 写真機(カメラ)の構造 博物館で使用される写真機には多様なものがあり、その種類と基本的な構造について、テキストと実物を用いて説明する。
- 第2回 博物館における資料撮影について 博物館における撮影は、いわゆる芸術作品とは全く異なり、正確に資料を映し出す必要がある。図録などを用いてその意味を体験的に説明する。
- 第3回 写真機の取り扱い ブローニカカメラを用いて、グループ毎に実習用カメラの操作方法について体験的に学ぶ。ここではあくまでシミュレーションを中心に行う。
- 第4回 写真展の考え方 撮影する対象を考える。具体的な写真展を行うという設定で、自分たちの撮影モチーフ(資料)の設定と、展示展開を考える。
- 第5回 資料撮影の実際(1) 撮影モチーフをもちより、1人ひとり資料撮影を行う。とくに被写界深度を考え、絞りとの関係が理解できることを念頭において撮影指導する。
- 第6回 資料撮影の実際(2) 1回目できちんと撮影するのは難しいため、何度か撮影を繰り返したり、モチーフを変更することで、より質の高い撮影法の習得を指導する。
- 第7回 写真パネルの制作(1) 撮影した写真の現像を行い、グループ毎に以前決めたシナリオ毎に展開を考えながら、主となる写真のパネルをボードなどを利用し作成指導する。
- 第8回 写真パネルの制作(2) 写真パネルと同時に、その写真に付属する解説キャンペーンボードや関連資料などの制作全てを行い、展示制作へとつなげていく。
- 第9回 図録編集の実務(1) 博物館では図録をはじめとする多種多様な出版物・印刷物の編集を行っている。ここでは、印刷までの流れについて実物を用いて体験的に説明する。
- 第10回 図録編集の実務(2) 編集の最終段階である「校正作業」について、校正記号の説明とともに、それらを使用して実際の編集物の校正を体験的に指導する。
- 第11回 レプリカ資料の制作(1) 博物館においては、写真とともにレプリカ(複製資料)も多く取り扱う。ここでは、レプリカの意味と利用を知り、型どりを指導する。
- 第12回 レプリカ資料の制作(2) ここでは、自然資料や歴史資料など、様々な型を利用してFRPのレプリカをまず成形する。その後、見本サンプルをもとに着色までを指導する。
- 第13回 写真展示の実際(1) 自らが撮影した写真を一定の展示ストーリーにしたがって動線・配色・レイアウト・分かりやすさなどを考慮し、完成させる。
- 第14回 写真展示の実際(2) 写真を設置するのみならず、多様な利用者サービスを考える。写真撮影の目的やモチーフの解説資料作成や人による解説などをも行う。
- 第15回 バリエーション(自己評価・他者評価) 自分たちが制作した写真や展示について、自己評価と他者評価のワークショップを通じて、今後の改善に向けた視点を学び取れるよう指導する。
- 第16回 【実習直前ガイダンス】 実習者の心得、大学側・実習館側との連絡、実習後のレポート、実習館との連絡と挨拶訪問、事前学修その他の指導
- 第17回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第18回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第19回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第20回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第21回 (各実習館でのスケジュールに準じる)
- 第22回 【事後指導】レポートの提出・実習まとめ

授業以外での学習方法

実務実習に入るまでに博物館たくさん見学をして、学芸員の日常業務を理解する努力をしてほしい。また、外にでるため、さまざまな社会人としての素養を身につけておくことが望ましい。

教科書

参考書

博物館学実習マニュアル

著者： 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社： 芙蓉書房出版

出版年： 2002

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（30）

参加度（40）

特に出席を重視する

小テスト（0）

授業中発表等（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語教授法Ⅲ

担当者 佐野 裕子

テーマ

初級レベル(主に初級前期)の授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。

獲得目標

これまで学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、初級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。具体的には、模擬授業を通して、受講生同士コメントを加え、日本語初級文型の導入の仕方を学ぶ。

授業の内容

授業は講義形式ではなく、毎回2～3名の学生が自分の担当する課の学習項目についての授業を行い、その内容についてクラスで討議を行う形です。場合によっては留学生とペアになって授業を行ってもらうこともある。※教授法Ⅰ、Ⅱを履修済みまたは今年度履修登録している学生、日本語教員養成に関する科目(日本語学概説など)をいくつか履修済みまたは登録している学生を対象としている。基本的に教授法Ⅲ以外日本語教員養成に関する科目を履修しない学生に対しては、事前相談なしに履修を認めないので、登録前に担当教員と相談すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス・授業方針・評価方法説明・模擬授業の担当課の決定
- 第2回 初級指導概説(初級の学習目標と指導の流れ)
- 第3回 初級指導概説(文型の定着方法と教案の作り方)
- 第4回 模擬授業1(みんなの日本語初級Ⅰ 1課と2課前半)
- 第5回 模擬授業2(みんなの日本語初級Ⅰ 2課後半と3課)
- 第6回 模擬授業3(みんなの日本語初級Ⅰ 4課と5課前半)
- 第7回 模擬授業4(みんなの日本語初級Ⅰ 5課後半と6課)
- 第8回 模擬授業5(みんなの日本語初級Ⅰ 7課と8課前半)
- 第9回 模擬授業6(みんなの日本語初級Ⅰ 8課後半と9課)
- 第10回 模擬授業7(みんなの日本語初級Ⅰ 10課と11課前半)
- 第11回 模擬授業8(みんなの日本語初級Ⅰ 11課後半と12課)
- 第12回 模擬授業9(みんなの日本語初級Ⅰ 13課と14課前半)
- 第13回 模擬授業10(みんなの日本語初級Ⅰ 14課後半と15課)
- 第14回 模擬授業11(みんなの日本語初級Ⅰ 16課と17課前半)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自分が担当しない課でも、必ず教材研究を行うこと、教案についても作成することが望ましい。日頃から留学生と接し、なるべく多くの時間を外国人と共有することを心掛けるように。また日本語学校、地域の日本語教室などへの見学や参加などを主体的に行うこと。

教科書

みんなの日本語—初級1本冊

著者:

出版社: スリーエーネットワーク

出版年: 1998

ISBN:

参考書

参考文献は授業中適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

ask6011310

試験（0）

小テスト（10）

授業中課題（20）

授業中発表等（40）

参加度（30）

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本語教材研究**

担当者 佐野 裕子

テーマ

日本語教育の様々な教材を分析し、学習レベルや学習目的による教材の特徴や違いを学ぶ

獲得目標

初級教材、中上級教材を分析し、初級と中上級との相違点や扱われる内容の違いを理解する。年代の異なる教材を分析し、年代による変化をつかむ。

授業の内容

授業は、講義形式ではなく、学生の発表を主体とした討議形式によって行う。前半はグループ形式で教材を分析しその内容を発表してもらい、後半は個人で特定のレベルを対象として教材作成を行ってもらう。

内 容

- 第1回 ガイダンス 授業方針・評価方法説明・担当教材の決定
- 第2回 教材分析の方法1(学習段階と到達目標)
- 第3回 教材分析の方法2(教材分析の観点)
- 第4回 初級教材(『日本語初歩』『An Introduction to Modern Japanese』)の分析・発表・討論1
- 第5回 初級教材(『初級日本語 げんき』『ステップアップ日本語』)の分析・発表・討論2
- 第6回 初級教材(『ひらけ日本語』『みんなの日本語初級』)の分析・発表・討論3
- 第7回 中上級教材(『中級日本語(東京外国語大学)』)の分析・発表・討論1
- 第8回 中上級教材(『テーマ別中級から学ぶ日本語』)の分析・発表・討論2
- 第9回 中上級教材(『文化中級日本語 I・II』)の分析・発表・討論3
- 第10回 中上級教材(『日本語中級J301』)の分析・発表・討論4
- 第11回 中上級教材(『表現テーマ別 にほんご作文の方法』)の分析・発表・討論5
- 第12回 中上級教材(『会話に挑戦! 中級前期からの日本語ロールプレイ』)の分析・発表・討論6
- 第13回 教材作成実習(学習段階・学習項目の検討)
- 第14回 教材作成実習(教材の選定)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自分が担当しない教材についても、必ず教材研究を行うことが望ましい。地域の日本語教室への見学や参加などを自主的に行うこと。

教科書

テキストはプリントを作成し配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考文献は授業中適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

ask6011510

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会教育計画 I**

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

学習者の理解と学習課題の把握

獲得目標

社会教育計画策定の前提として、地域に問わず多様な学習者を理解し、生活課題と学習課題を探ることをねらいとする。

授業の内容

講義を主とするが、受講生による発表も行う

内 容

- 第1回 オリエンテーション 社会教育計画とは
 - 第2回 婦人教育から女性の学習へ
 - 第3回 子育てに関わる学びとネットワークづくり
 - 第4回 女性がはたらくことと学び
 - 第5回 今日の青少年教育施設
 - 第6回 子どもと地域 プレイパークの現在
 - 第7回 エイジングはよくないことか？高齢者の可能性
 - 第8回 文化の創造者としての高齢者
 - 第9回 障害者の学習
 - 第10回 障害者の自己表現と自立支援
 - 第11回 在日外国人の現在と学習課題
 - 第12回 多文化共生社会にかかわる学習
 - 第13回 まちづくりと社会教育計画
 - 第14回 企画・考察の交流とまとめ(1)
 - 第15回 企画・考察の交流とまとめ(2)
-

授業以外での学習方法

市町村の社会教育政策に関心を持つ。授業中に提示する参考文献を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会教育演習**

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

社会教育の学習方法

獲得目標

小集団による話し合い、調査など社会教育実践における主要な学習方法を習得する

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション 自己紹介
 - 第2回 関心を持つテーマについて話し合う
 - 第3回 話し合いを発展させる
 - 第4回 ゲーム・スポーツによる親睦交流
 - 第5回 郷土料理を通じて知る地域
 - 第6回 調理実習の企画
 - 第7回 調理実習の実施
 - 第8回 学習のふりかえり
 - 第9回 地域社会教育の調査
 - 第10回 地域社会教育の調査
 - 第11回 調査のまとめ
 - 第12回 調査結果の発表準備
 - 第13回 発表・交流
 - 第14回 発表・交流
 - 第15回 全体のまとめと評価
-

授業以外での学習方法

日頃から様々な問題に関心を持ち、自分の意見をまとめるようにする。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語教授法 I

担当者 中川 裕子

テーマ

日本語教授法概論

獲得目標

日本語教育を理解する上で必要な基礎知識を身につける

授業の内容

日本語教育の現状、日本語教育の歴史、外国語教授法、日本語教育の内容、言語の習得を主に扱う。授業は基本的に講義形式で行うが、内容によっては、課題を与え、発表[もしくは提出]を課す。

内 容

- 第1回 日本語教育の現状
- 第2回 日本語教育現場の実際と日本語教育に従事する人々の役割
- 第3回 日本語教育の歴史①
- 第4回 日本語教育の歴史②
- 第5回 日本語教育の歴史③
- 第6回 外国語教授法①(文法訳読法、直接法)
- 第7回 外国語教授法②(オーディオリンガルメソッド)
- 第8回 外国語教授法③(コミュニカティブアプローチ他)
- 第9回 日本語教育の内容①(初級で扱う文型)
- 第10回 日本語教育の内容②(入門期の発音指導)
- 第11回 日本語教育の内容③(入門期の文字、語彙の指導範囲とその方法)
- 第12回 日本語教育の内容④(指導の手順、指導の流れ)
- 第13回 日本語教育の内容⑤(指導準備、指導内容の知識の整理)
- 第14回 日本語教育の内容⑥(指導案作成`実践へ)
- 第15回 言語の習得
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

日本語教育関係の文献を数多く読む。基本用語を理解する。日本語教育関係のみならず、文化、日常社会生活に関するさまざまなものに多く接する。異文化理解に関する文献や、メディアからの情報に接する。日本語学習者との交流の機会に積極的に参加する。

教科書

参考書

新・はじめての日本語教育 基本用語事典

著者： 高見澤孟監修

出版社：アスク

出版年：2004

ISBN:

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 デジタルデザイン演習 I <Za>

担当者 杉本 雅子

テーマ

JW-CADによる建築製図

獲得目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CAD の基本的な操作方法について学ぶ。

授業の内容

建築業界で最も代表的なCADソフトの一つであるJW-CADを習得する。基本操作を学習後、実際の建築図面を一通り作成することにより、CADにより建築製図の基礎をマスターする。

内 容

- 第1回 CAD ソフトについて
 - 第2回 CAD 製図の基礎とオブジェクトの操作
 - 第3回 平面図の作図
 - 第4回 "
 - 第5回 "
 - 第6回 "
 - 第7回 家具、窓等の作図
 - 第8回 課題の作図、提出
 - 第9回 立面図の作図
 - 第10回 "
 - 第11回 "
 - 第12回 断面図の作図
 - 第13回 "
 - 第14回 敷地図の作図、レイアウト
 - 第15回 図面の設定、印刷、総括
-

授業以外での学習方法

建築、インテリアの専門書に目を通し、建築作品展に足を運ぶことにより、図面の表現技法を自身の目で学ぶこと

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築環境 I <Z>**

担当者 柴田 祥江

テーマ

感性感覚だけの対応になりやすい色彩だが、色彩は人間の心理生理に多大な影響を及ぼす。色彩環境を見直し、本来あるべき快適な生活環境を創出する一助にしたい。

獲得目標

色彩に関する基礎的な知識を学ぶ。色の特徴や性質、配色などを具体的な事例を見ながら理解し、建築やインテリアにおける色の効果や役割について考える。同時に、実践的に活用できるように簡単なセンスアップ演習も行う。

授業の内容

各回の授業項目に関係する色彩基礎知識を多角的な視点で解説する。基礎理論を実感しながら学ぶために、また、単なる知識習得ではなく実践的に活用できるように、理論を基礎にして授業内でのセンスアップ演習も行う。そのため「配色カード158b」日本色研事業(株)発行を購入し、ハサミ、のりと共に毎回の授業に持参すること。

内 容

- 第1回 色を伝える方法
 - 第2回 色彩調和
 - 第3回 美的造形手法
 - 第4回 目の構造と視覚
 - 第5回 混色と測色
 - 第6回 人工光源と色
 - 第7回 インテリアのカラーコーディネート1
 - 第8回 インテリアのカラーコーディネート2
 - 第9回 外観の色彩設計1
 - 第10回 外観の色彩設計2
 - 第11回 景観調和と色彩1
 - 第12回 景観調和と色彩2
 - 第13回 気候風土と色彩文化1
 - 第14回 気候風土と色彩文化2
 - 第15回 色彩環境のまとめ
-

授業以外での学習方法

身の回りの色々なモノの色使いについて、自分で良否の評価とその理由を考えながら見る習慣をつける。

教科書

色彩学の実践

著者： 渡辺安人

出版社： 学芸出版社

出版年： 2005

ISBN： 4-7615-2358-1

参考書

色彩

著者： 大井義雄・川崎昭

出版社： 日本色研事業(株)

出版年：

ISBN：

色彩学入門

著者:

出版社: 日本色研事業(株)

出版年:

ISBN:

建築と色彩

著者: 宮後浩・渡辺安人

出版社: 学芸出版社

出版年: 1999

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 ()

参加度 (40%)

学習目標を達成するために、欠席が授業回数の1/3を超えた場合は、評価の対象としない(単位取得不可)。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築法規**

担当者 石井 和浩

テーマ

建築づくりは社会を構成して行く為の総合法規

獲得目標

① 建築が人間や社会へ与える影響力を認識し、倫理観を養うことができる。② 安心・安全な心豊かな人格形成ができ、主体性を持った生き方の契機となる。③ コミュニティ・アーキテクトとして地域社会をコーディネートする力が養える。

授業の内容

日常社会の事例を交え、建築法規の必要性を身近に感じるように解説する。

内 容

- 第1回 建築基準法の概要1
 - 第2回 建築基準法の概要2
 - 第3回 用途と形態の制限1
 - 第4回 用途と形態の制限2
 - 第5回 防火対策と内装の規制1
 - 第6回 防火対策と内装の規制2
 - 第7回 避難施設の基準
 - 第8回 構造強度の規制1
 - 第9回 構造強度の規制2
 - 第10回 環境と整備に関する基準1
 - 第11回 環境と整備に関する基準2
 - 第12回 建築協定・建築士法
 - 第13回 ハートビル法・耐震改修促進法、建築業法
 - 第14回 消防法、都市計画法、品確法、その他の法令
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

図説 やさしい建築法規

著者： 今村仁美・田中美都

出版社： 学芸出版社

出版年：

ISBN：

参考書

建築基準法令集

著者： 国土交通省住宅局・日本建築学会

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

ask8010610

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (50)

小テスト (50)
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地域計画論 <Z>

担当者 小森 治夫

テーマ

獲得目標

地域計画を通じて現代における景観やアメニティを考える。地域開発の歴史や景観論争の実態を把握し、論点を理解・整理した上で、日本の伝統文化が育んできたアメニティについて学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション、地域計画・景観・アメニティ
 - 第2回 京都の町屋
 - 第3回 京都景観論争
 - 第4回 京都の新景観政策
 - 第5回 鞆浦景観論争
 - 第6回 ソウル大改造
 - 第7回 農村の景観(1) 里山
 - 第8回 農村の景観(2) 棚田
 - 第9回 農村の景観(3) 黒川温泉
 - 第10回 建築の美(1) 桂離宮
 - 第11回 建築の美(2) 白川郷
 - 第12回 建築の美(3) かやぶき屋根
 - 第13回 建築の美(4) 蔵と石橋
 - 第14回 建築の美(5) ヴォーリス
 - 第15回 建築家のミッション
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(特に経済面、政治面、社会面など) 講義内容に関連するテレビ番組を見る

教科書

参考書

日本に風景を殺したのは誰だ？

著者： 船瀬俊介

出版社： 彩流社

出版年： 2004年

ISBN:

日本美の再発見

著者： ブルーノ・タウト

出版社： 岩波書店

出版年： 1939年

ISBN:

ブルーノ・タウト

著者： 田中辰明

出版社： 中央公論新社

出版年： 2012年

ISBN:

ヴォーリズ建築の100年

著者： 山形政昭

出版社： 創元社

出版年： 2008年

ISBN:

日本の宝 鞆の浦を歩く

著者： 三浦正幸

出版社： 南々社

出版年： 2010年

ISBN:

都市伝説 ソウル大改造

著者： 李明博

出版社： マネジメント社

出版年： 2007年

ISBN:

京都観光学のススメ

著者： 井口和紀他

出版社： 人文書院

出版年： 2005年

ISBN:

都市不動産の経済学

著者： 柿本尚志

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2008年

ISBN:

歴史的環境の社会学

著者： 片桐新自編

出版社： 新曜社

出版年： 2000年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 住宅計画

担当者 織田 直文

テーマ

安全で、健康的な住まいをデザインする

獲得目標

住宅を生活と環境の側面からとらえ、既往の建築計画学の成果である寸法計画、規模や形態に関する計画、地域計画などの知見も取り入れながら、住宅の設計の基本と応用を学ぶ。具体的な住宅作品を解説・評価し、住まい手について安全で快適、かつ健康的で文化的な住宅とはどのようなものかを考察する。また、設計や管理計画に関する知見についても学び、将来の実務に役立つ知識を修得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 住宅の定義および生活と住環境
 - 第2回 住宅計画学の体系と計画のプロセス
 - 第3回 住空間の形態と設計
 - 第4回 住宅計画のための調査の種類と進め方
 - 第5回 人間の寸法と設計の方法
 - 第6回 法規と設計
 - 第7回 平面計画の方法
 - 第8回 構造計画の方法
 - 第9回 室内環境の計画
 - 第10回 住宅設計実例の研究①
 - 第11回 住宅設計実例の研究②
 - 第12回 地域計画における住宅計画と景観づくり
 - 第13回 住宅の管理
 - 第14回 住み手参加による集合住宅デザイン
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

住宅のデザインと製図

著者： 三川 榮吉

出版社： 彰国社

出版年： 1998

ISBN： 9.7844E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 データ分析 I

担当者 村上 雅俊

テーマ

獲得目標

本科目は、より高度な統計手法である「多変量解析法」のいくつかの手法について、その基本的な考え方と方法を身につけることを目的としている。授業では、「重回帰分析」のほか、「主成分分析」、「相関分析」、「分散分析」、「クラスター分析」、「判別分析」、「因子分析」などを取り上げ、その基本的な考え方、方法、利用事例などを学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業ガイダンス: 社会調査と多変量解析
 - 第2回 相関分析の方法と利用
 - 第3回 分散分析の考え方と方法
 - 第4回 分散分析の利用
 - 第5回 重回帰分析の理論(1): 最小二乗法と決定係数
 - 第6回 重回帰分析の理論(2): 回帰モデルの仮説検定
 - 第7回 重回帰分析の実際
 - 第8回 相関分析・分散分析・重回帰分析のレビュー
 - 第9回 主成分分析の方法と利用
 - 第10回 クラスター分析の方法と利用
 - 第11回 判別分析の方法と利用
 - 第12回 因子分析の考え方と方法
 - 第13回 因子分析の利用
 - 第14回 その他のモデル(数量化理論など)
 - 第15回 主成分分析・クラスター分析・判別分析・因子分析・その他のレビュー
-

授業以外での学習方法

教科書

教科書は使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

ask802d110

遅刻・早退2回を欠席1回とみなし、5回を超えて欠席すると単位を取得できない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 医学概論(通信)

担当者 吉川 隆一

テーマ

医学と人類の歴史

獲得目標

人類の歴史は「病いと戦い」の歴史であるとも言える。例えば、伝染病との戦いはペストや天然痘には勝利したものの、エイズやインフルエンザといった新たな敵との戦いが引き起こされている。人類の生存をかけた戦いのなかで医学は生まれ、発展してきた。さらに、ライフスタイルの変化、人口の少子高齢化等の社会情勢の変化は生活習慣病などの新たな「病い」の発生の素地となっている。医学は新たな姿の敵との戦いを迎えている。こうした医学の歴史を振り返りながら、「医学の過去、現在、未来」について考える。

授業の内容

[テキスト授業/全15回]

内 容

- 第1回 ペスト (テキスト8～19ページ)
- 第2回 ハンセン病 (テキスト20～27ページ)
- 第3回 コレラ (テキスト44～53ページ)
- 第4回 結核 (テキスト62～71ページ)
- 第5回 マラリア (テキスト84～93ページ)
- 第6回 天然痘 (テキスト128～139ページ)
- 第7回 はしか(麻疹) (テキスト140～145ページ)
- 第8回 黄熱病 (テキスト146～151ページ)
- 第9回 デング熱 (テキスト152～155ページ)
- 第10回 インフルエンザ (テキスト172～183ページ)
- 第11回 エボラ出血熱 (テキスト184～191ページ)
- 第12回 エイズ (テキスト192～201ページ)
- 第13回 クールー病とクロイツフェルト・ヤコブ病 (テキスト216～221ページ)
- 第14回 がん (テキスト222～233ページ)
- 第15回 心臓病 (テキスト234～247ページ)

授業以外での学習方法

教科書

Disease 人類を襲った30の病魔

著者: Mary Dobson 著 小林 力 訳

出版社: (医学書院)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 (20%)

参加度 ()

小テスト (40%)

授業中発表等 ()

小テストは第5回、第10回の授業後に行う「授業中課題」は第15回の後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **English Communication I (通信)**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Developing Listening, Speaking and Other Communicative Skills through DVD Materials

獲得目標

In this course we will cover some basic daily English communicative items. The aim is to provide practical and useful material that will enable students to become comfortable with listening to, understanding, and speaking in a limited number of frequently occurring English situations. It is also hoped that, as psychology majors, they will be able to pick up the feelings and thoughts of the various speakers in the DVD materials, and understand some basic differences between Japanese and English ways of expression.

授業の内容

[テキスト授業／14回＋メディア授業／1回]

内 容

- 第1回 Introductory Video: introduction of the teachers and of the 15 session course and its aims; how to use the DVD text with an explanation of the text's format and types of practice, course requirements and evaluation; what students should do if they have questions; recommendations about other forms of study and other study materials relevant to this course. 【メディア授業】
- 第2回 Textbook Unit 1: Here's Your Boarding Pass — understanding flight information and checking in 【テキスト授業】
- 第3回 Textbook Unit 2: So, Where Are You From? — introducing yourself, talking about your interests 【テキスト授業】
- 第4回 Textbook Unit 3: A Good Hotel at a Great Price — checking in at a hotel, making special requests 【テキスト授業】
- 第5回 Textbook Unit 4: Planning a Day Trip — choosing a place and planning a day trip 【テキスト授業】
- 第6回 Textbook Unit 5: Next Stop, Chicago! — arranging transportation and paying 【テキスト授業】
- 第7回 Textbook Unit 6: A Buffalo Burger — choosing a restaurant and ordering a meal 【テキスト授業】
- 第8回 Review of Units 1 ~ 6 and mid-semester evaluation 【テキスト授業】
- 第9回 Textbook Unit 7: Walking Around Oxford — understanding locations and following directions 【テキスト授業】
- 第10回 Textbook Unit 8: Shopping in London — shopping and understanding prices 【テキスト授業】
- 第11回 Textbook Unit 9: Oh, no! Where's My Passport? — reporting found items and describing lost items 【テキスト授業】
- 第12回 Textbook Unit 10: Ouch! That Hurts! — understanding health situations and talking with a doctor 【テキスト授業】
- 第13回 Textbook Unit 11: Tell Me About Your Trip — talking about a trip and asking questions 【テキスト授業】
- 第14回 Textbook Unit 12: Be a Street-Smart Traveler — asking for and giving advice and learning about travel safety 【テキスト授業】
- 第15回 Review of Units 7 ~ 12 and evaluation 【テキスト授業】

授業以外での学習方法

KTU's 'Moodle' e-learning programs, NHK radio programs; TOEIC practice; Kilgarriff vocabulary list; graded readers

教科書

Adventures Abroad

著者: Dale Fuller/Kevin Cleary

出版社: (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

e90201a110

試験 (40%)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テストは、第8回・第15回の授業後に行う

小テスト (60%)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 English Literacy I (通信)

担当者 弥永 啓子

テーマ

基本的なリーディング能力の育成、ライティングの基礎となる中・高文法の総復習

獲得目標

アカデミック・リーディング、ライティングの基礎としての、1) 基本的な文法・語彙知識 2) 平易な文章を一定速度で読み内容を把握できる読解能力

授業の内容

【テキスト授業／14回＋メディア授業／1回】各回テキストにそって、語彙学習、リーディング、文法理解と演習、語彙学習(発展)、語彙復習の順に学習を進めます。又、余裕のある受講生がやや難しいリーディング素材にふれることができるように、各回に応用のリーディング演習も準備してあります。

内 容

- 第1回 授業オリエンテーション (コンテンツの構成と効果的な学習方法、成績評価、オンライン辞書の活用方法等)【メディア授業】
- 第2回 テキスト:Unit 1 (Getting into Hot Water, Be 動詞)【テキスト授業】
- 第3回 テキスト:Unit 2 (Tips for University Students, 命令文)【テキスト授業】
- 第4回 テキスト:Unit 3 (What Happens to Our Trash?, 一般動詞-現在形)【テキスト授業】
- 第5回 テキスト:Unit 4 (To Your Health, 現在進行形)【テキスト授業】
- 第6回 Unit 1～4復習【テキスト授業】
- 第7回 テキスト:Unit 5 (Hello Cutie, 過去形)【テキスト授業】
- 第8回 テキスト:Unit 6 (Thank You John and Christopher, 過去進行形)【テキスト授業】
- 第9回 テキスト:Unit 7 (Street Fashion & Fast Fashion, 現在完了)【テキスト授業】
- 第10回 Unit 5～7 復習【テキスト授業】
- 第11回 テキスト:Unit 8 (It's in the Bag, 受動態)【テキスト授業】
- 第12回 テキスト:Unit 9 (Cars of the Future, Will vs. be going to)【テキスト授業】
- 第13回 テキスト:Unit 10 (The Tsukiji Fish Market, 助動詞)【テキスト授業】
- 第14回 テキスト:Unit 11 (A Nice Hotel or an Ice Hotel? Wh-疑問文)【テキスト授業】
- 第15回 Unit 8～11 復習【テキスト授業】

授業以外での学習方法

「音声を聴きながら、繰り返し読む」、さらに「音読する」に勝る方法はありません。

教科書

Reading Sense

著者: Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa

出版社: (Kinseido)

出版年:

ISBN:

参考書

無料で使用できるオンライン辞書など、授業内で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

復習テスト1 33% 復習テスト2 33% 復習テスト3 34%

小テスト (100%)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **アカデミックスキルズ(通信)**

担当者 梅本 裕

テーマ

大学での勉強に必要な論理的な文章の書き方を身につける

獲得目標

アカデミックスキルズは、大学での勉強に必要な学習技法の総称である。この科目では、数多くあるアカデミックスキルズのうち、「論理的な文章」の書き方をとりたてて教える。論理的な文章、すなわち、論理性の高い文章が書けるようになると、大学での学習がはかどる。なぜなら、「論理的な文章」の書き方を身につけることは論理的思考を身につけることに他ならないからだ。大学での学習内容の多くは論理的に構築されており、論理的思考が深まると学習内容をより深く理解できる。

授業の内容

[メディア授業／全15回] この授業では、まず、比較的短い作文を、段落、語句、文体に意識をはらいながらきちんと書けるように指導する。論評文を中心として400-800字程度の文章を論理的に書けるようにする。授業終了時には大学の勉強には不可欠のレポートやブックレビュー、あるいは実験記録などの文章を、論理的に書けるようにする。

内 容

- 第1回 400字で論評文を書く(その1)
- 第2回 400字で論評文を書く(その2)
- 第3回 思考単位としての文
- 第4回 文章書き換えの練習(その1)
- 第5回 文章書き換えの練習(その2)
- 第6回 段落のはたらき・つくり方
- 第7回 800字で論評文を書く(その1)
- 第8回 800字で論評文を書く(その2)
- 第9回 語句の選び方と使い方(その1)
- 第10回 語句の選び方と使い方(その2)
- 第11回 演習:ブックレビューを書く
- 第12回 演習:案内文を書く
- 第13回 デベートの立論を書く(その1)
- 第14回 デベートの立論を書く(その2)
- 第15回 アカデミックスキルとしての論理的な文章

授業以外での学習方法

教科書

論理的思考 ― 論説文の読み書きにおいて(新版)

著者: 宇佐美寛

出版社: (メヂカルフレンド社)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

「授業中課題」は第9回、第15回後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **自己表現研究 I (6月15日)(通信)**

担当者 日比野 英子・ジェイムス 朋子・中西 龍一・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的・積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回]

内 容

- 第1回 パーソナリティの心理 (テキスト6～9ページ) パーソナリティとは、どのような意味か、パーソナリティの類型論・特性論・構造論のそれぞれについてノートにまとめてみよう。【テキスト授業】
- 第2回 パーソナリティをみる (テキスト10～17ページ) まず、TSTを実施してみよう。つぎに、この章の前文と、質問紙法・投影法・作業検査法の3種の人格検査について理解し、TSTの結果を整理し、解説によって自己を分析して、Ⅲふりかえりの2問に答えなさい。【テキスト授業】
- 第3回 心の成り立ち (テキスト18～25ページ) まず、エゴグラムに答えてみよう。つぎに、この章の前文と、交流分析について概観し、その中で特に構造分析について理解を深める。エゴグラムの結果を整理し、解説を手がかりに自分の自我状態について考え、Ⅲふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】
- 第4回 無意識のはたらき (テキスト26～31ページ) まず、TATをやってみよう。つぎに、この章の前文と、基礎知識として、無意識の発見、無意識を知る方法、コンプレックスについて理解し、TATの結果を整理し、解説をよんで、Ⅲふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】
- 第5回 自己をみつめる (テキスト32～40ページ) まず、自己評価チェックリストⅠ～Ⅲに答える。つぎに、この章の前文と、自己評価の意味、自己評価の高さと質についてよく理解し、自己評価チェックリストの結果を整理し、解説の設問に答え、ふりかえりをしてみましょう。【テキスト授業】
- 第6回 自己をつかむ (テキスト41～48ページ) はじめに自我同一性測定尺度に答えてみる。つぎに、この章の前文と、自我同一性・同一性拡散・モラトリアム・職業的同一性について理解し、自我同一性測定尺度の結果の整理を行い、解説のマーシャの自我同一性地位について理解を深めてから、ふりかえりの設問に答えてみよう。【テキスト授業】
- 第7回 自己をいかす (テキスト49～54ページ) はじめに自己実現傾向質問紙に答えてみよう。つぎに、この章の前文と、ユング、マズロー、ロジャーズの自己実現についての説を読んで理解しましょう。自己実現傾向質問紙の結果を整理し、解説を読んで自分の結果について検討し、ふりかえりの設問に答えてみましょう。【テキスト授業】
- 第8回 同一性障害 (テキスト55ページ) メンタルヘルスのページの同一性障害の事例についての説明を読んで、また、同一性について他の文献でもしらべて理解を深めよう。【テキスト授業】
- 第9回 発達の心理 (テキスト108～109ページ) 発達とはどんなことか、発達段階と発達課題、発達の理論、についてよく読んでノートにまとめてみよう。【テキスト授業】
- 第10回 わたしと家族 (テキスト110～115ページ) はじめに親子関係尺度に答えてみましょう。つぎに、この章の前文と、家族ライフサイクルや家族関係について読んで理解し、親子関係尺度の結果を整理し、解説を参考にして、自己のデータを検討し、ふりかえりの設問に答えてみましょう。【テキスト授業】
- 第11回 わたしの子ども時代 (テキスト116～120ページ) はじめに幼児期の幸福度チェックリストに答えてみよう。つぎに、この章の前文と、母子関係、マラーの分離-個体化理論を理解し、チェックリストの結果を整理し、解説を参考にして、ふりかえりの設問に答えてみましょう。【テキスト授業】
- 第12回 自己表現のワーク①【スクーリング授業】
- 第13回 自己表現のワーク②【スクーリング授業】
- 第14回 自己表現のワーク③【スクーリング授業】
- 第15回 自己表現のワーク④【スクーリング授業】

授業以外での学習方法

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

教科書

新 自分さがしの心理学

著者： 川瀬正裕・松本真理子 著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年： ISBN：

参考書

「心理学Ⅰ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「心理学Ⅱ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「臨床心理学Ⅰ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「臨床心理学Ⅱ」教科書など

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）自己表現のワークへの参加と提出物40%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 自己表現研究 I (6月16日)(通信)

担当者 日比野 英子・中島 暢美・中西 龍一

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的・積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回]

内 容

- 第1回 パーソナリティの心理(テキスト6～9ページ) パーソナリティとは、どのような意味か、パーソナリティの類型論・特性論・構造論のそれぞれについてノートにまとめてみよう。【テキスト授業】
- 第2回 パーソナリティをみる(テキスト10～17ページ) まず、TSTを実施してみよう。つぎに、この章の前文と、質問紙法・投影法・作業検査法の3種の人格検査について理解し、TSTの結果を整理し、解説によって自己を分析して、Ⅲふりかえりの2問に答えなさい。【テキスト授業】
- 第3回 心の成り立ち(テキスト18～25ページ) まず、エゴグラムに答えてみよう。つぎに、この章の前文と、交流分析について概観し、その中で特に構造分析について理解を深める。エゴグラムの結果を整理し、解説を手がかりに自分の自我状態について考え、Ⅲふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】
- 第4回 無意識のはたらき(テキスト26～31ページ) まず、TATをやってみよう。つぎに、この章の前文と、基礎知識として、無意識の発見、無意識を知る方法、コンプレックスについて理解し、TATの結果を整理し、解説をよんで、Ⅲふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】
- 第5回 自己をみつめる(テキスト32～40ページ) まず、自己評価チェックリストⅠ～Ⅲに答える。つぎに、この章の前文と、自己評価の意味、自己評価の高さと質についてよく理解し、自己評価チェックリストの結果を整理し、解説の設問に答え、ふりかえりをしてみましょう。【テキスト授業】
- 第6回 自己をつかむ(テキスト41～48ページ) はじめに自我同一性測定尺度に答えてみる。つぎに、この章の前文と、自我同一性・同一性拡散・モラトリアム・職業的同一性について理解し、自我同一性測定尺度の結果の整理を行い、解説のマーシャの自我同一性地位について理解を深めてから、ふりかえりの設問に答えてみよう。【テキスト授業】
- 第7回 自己をいかす(テキスト49～54ページ) はじめに自己実現傾向質問紙に答えてみよう。つぎに、この章の前文と、ユング、マズロー、ロジャーズの自己実現についての説を読んで理解しましょう。自己実現傾向質問紙の結果を整理し、解説を読んで自分の結果について検討し、ふりかえりの設問に答えてみましょう。【テキスト授業】
- 第8回 同一性障害(テキスト55ページ) メンタルヘルスのページの同一性障害の事例についての説明を読んで、また、同一性について他の文献でもしらべて理解を深めよう。【テキスト授業】
- 第9回 発達の心理(テキスト108～109ページ) 発達とはどんなことか、発達段階と発達課題、発達の理論、についてよく読んでノートにまとめてみよう。【テキスト授業】
- 第10回 わたしと家族(テキスト110～115ページ) はじめに親子関係尺度に答えてみましょう。つぎに、この章の前文と、家族ライフサイクルや家族関係について読んで理解し、親子関係尺度の結果を整理し、解説を参考にして、自己のデータを検討し、ふりかえりの設問に答えてみましょう。【テキスト授業】
- 第11回 わたしの子ども時代(テキスト116～120ページ) はじめに幼児期の幸福度チェックリストに答えてみよう。つぎに、この章の前文と、母子関係、マラーの分離-個体化理論を理解し、チェックリストの結果を整理し、解説を参考にして、ふりかえりの設問に答えてみましょう。【テキスト授業】
- 第12回 自己表現のワーク①【スクーリング授業】
- 第13回 自己表現のワーク②【スクーリング授業】
- 第14回 自己表現のワーク③【スクーリング授業】
- 第15回 自己表現のワーク④【スクーリング授業】

授業以外での学習方法

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

教科書

新 自分さがしの心理学

著者： 川瀬正裕・松本真理子 著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年： ISBN：

参考書

「心理学Ⅰ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「心理学Ⅱ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「臨床心理学Ⅰ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「臨床心理学Ⅱ」教科書など

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）自己表現のワークへの参加と提出物40%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 自己表現研究 I (7月14日)(通信)

担当者 ジェイムス 朋子・中島 暢美・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的・積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

[テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回]

内 容

- 第1回 パーソナリティの心理(テキスト6～9ページ) パーソナリティとは、どのような意味か、パーソナリティの類型論・特性論・構造論のそれぞれについてノートにまとめてみよう。【テキスト授業】
- 第2回 パーソナリティをみる(テキスト10～17ページ) まず、TSTを実施してみよう。つぎに、この章の前文と、質問紙法・投影法・作業検査法の3種の人格検査について理解し、TSTの結果を整理し、解説によって自己を分析して、Ⅲふりかえりの2問に答えなさい。【テキスト授業】
- 第3回 心の成り立ち(テキスト18～25ページ) まず、エゴグラムに答えてみよう。つぎに、この章の前文と、交流分析について概観し、その中で特に構造分析について理解を深める。エゴグラムの結果を整理し、解説を手がかりに自分の自我状態について考え、Ⅲふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】
- 第4回 無意識のはたらき(テキスト26～31ページ) まず、TATをやってみよう。つぎに、この章の前文と、基礎知識として、無意識の発見、無意識を知る方法、コンプレックスについて理解し、TATの結果を整理し、解説をよんで、Ⅲふりかえりの問いに答えなさい。【テキスト授業】
- 第5回 自己をみつめる(テキスト32～40ページ) まず、自己評価チェックリストⅠ～Ⅲに答える。つぎに、この章の前文と、自己評価の意味、自己評価の高さと質についてよく理解し、自己評価チェックリストの結果を整理し、解説の設問に答え、ふりかえりをしてみましょう。【テキスト授業】
- 第6回 自己をつかむ(テキスト41～48ページ) はじめに自我同一性測定尺度に答えてみる。つぎに、この章の前文と、自我同一性・同一性拡散・モラトリアム・職業的同一性について理解し、自我同一性測定尺度の結果の整理を行い、解説のマーシャの自我同一性地位について理解を深めてから、ふりかえりの設問に答えてみよう。【テキスト授業】
- 第7回 自己をいかす(テキスト49～54ページ) はじめに自己実現傾向質問紙に答えてみよう。つぎに、この章の前文と、ユング、マズロー、ロジャーズの自己実現についての説を読んで理解しましょう。自己実現傾向質問紙の結果を整理し、解説を読んで自分の結果について検討し、ふりかえりの設問に答えてみましょう。【テキスト授業】
- 第8回 同一性障害(テキスト55ページ) メンタルヘルスのページの同一性障害の事例についての説明を読んで、また、同一性について他の文献でもしらべて理解を深めよう。【テキスト授業】
- 第9回 発達の心理(テキスト108～109ページ) 発達とはどんなことか、発達段階と発達課題、発達の理論、についてよく読んでノートにまとめてみよう。【テキスト授業】
- 第10回 わたしと家族(テキスト110～115ページ) はじめに親子関係尺度に答えてみましょう。つぎに、この章の前文と、家族ライフサイクルや家族関係について読んで理解し、親子関係尺度の結果を整理し、解説を参考にして、自己のデータを検討し、ふりかえりの設問に答えてみましょう。【テキスト授業】
- 第11回 わたしの子ども時代(テキスト116～120ページ) はじめに幼児期の幸福度チェックリストに答えてみよう。つぎに、この章の前文と、母子関係、マラーの分離-個体化理論を理解し、チェックリストの結果を整理し、解説を参考にして、ふりかえりの設問に答えてみましょう。【テキスト授業】
- 第12回 自己表現のワーク①【スクーリング授業】
- 第13回 自己表現のワーク②【スクーリング授業】
- 第14回 自己表現のワーク③【スクーリング授業】
- 第15回 自己表現のワーク④【スクーリング授業】

授業以外での学習方法

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

教科書

新 自分さがしの心理学

著者： 川瀬正裕・松本真理子 著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年： ISBN：

参考書

「心理学Ⅰ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「心理学Ⅱ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「臨床心理学Ⅰ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「臨床心理学Ⅱ」教科書など

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）・自己表現のワークへの参加と提出物40%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学 I (通信)**

担当者 坂本 敏郎

テーマ

心理学の基礎領域を全般的に概観することにより、心理学とはどういう学問なのかを探究する。

獲得目標

心理学の歴史、心理学の研究方法について概観し、心理学がどのような学問分野であるかを理解する。心理学の中でも、科学的に明らかにされてきた知覚、認知、学習、感情、動機づけなどの基礎心理学領域について理解を深める。

授業の内容

[メディア授業／全15回] こころのはたらきを客観的、科学的に観察、解析することの重要性が、心理学、とりわけ実験心理学、基礎心理学において指摘されてきた。本講義では、情動、動機づけ、知覚、認知、学習、記憶、発達といった実験や観察によって明らかにされてきた心理機能について、わかりやすく概説する。これらの基礎心理学全般の基本的な知見を概観することにより、心理学とはどういう学問なのかを探究する。

内 容

- 第1回 心理学とは
- 第2回 心理学の歴史
- 第3回 心理学の研究法
- 第4回 感覚・知覚
- 第5回 聴覚・注意・環境の知覚
- 第6回 学習の基礎1: 古典的条件づけとその理論
- 第7回 学習の基礎2: オペラント条件づけとその理論
- 第8回 学習の基礎3: 運動学習、観察学習
- 第9回 動機づけ(生理的欲求)
- 第10回 社会的動機づけ
- 第11回 感情と情動
- 第12回 情動の理論
- 第13回 記憶と認知
- 第14回 記憶障害
- 第15回 心理学の未来(社会の役に立つ心理学とは)

授業以外での学習方法

教科書

心理学概論

著者: 山内弘継・橋本宰 監修

出版社: (ナカニシヤ出版)

出版年:

ISBN:

参考書

心理学・入門 心理学はこんなにももしろい

著者: サトウタツヤ・渡邊芳之 著

出版社: (有斐閣)

出版年:

ISBN:

成績評価

e90201b010

試験 (40%)

小テスト ()

授業中課題 (60%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は第5回、第10回、第15回後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 臨床心理学 I (通信)

担当者 日比野 英子 松下 孝江

テーマ

臨床心理学の概論の理解

獲得目標

臨床心理学は、現代社会が抱えている心理的問題のみならず、教育の問題、高齢者・障害者のケアとリハビリテーション、犯罪被害者のケアなどのさまざまな問題の解決や改善を要請されている学問領域であるが、本科目ではその基礎理論と心理アセスメント・心理的援助を概観して、その理念・歴史・構造・実践活動を理解することをねらいとする。

授業の内容

[メディア授業／全15回]

内 容

- 第1回 臨床心理学とは[日比野]
- 第2回 臨床心理学の歴史[日比野]
- 第3回 臨床心理学の主な学問分野[日比野]
- 第4回 臨床心理学の基礎理論① 精神分析学[日比野]
- 第5回 臨床心理学の基礎理論② 人間性心理学[日比野]
- 第6回 臨床心理学の基礎理論③ 認知・行動理論[日比野]
- 第7回 心の発達と心の病理① 乳幼児期の心と心のつまずき[日比野]
- 第8回 心の発達と心の病理② 児童期・思春期の心理的問題[日比野]
- 第9回 心の発達と心の病理③ 青年期の心と心の迷い[日比野]
- 第10回 心の状態を測る—心理アセスメント—[日比野]
- 第11回 心理アセスメントの方法[日比野]
- 第12回 心の病の回復の援助① カウンセリング[松下孝]
- 第13回 心の病の回復の援助② 子どもの心理療法[松下孝]
- 第14回 心の病の回復の援助③ 問題行動の心理療法[松下孝]
- 第15回 まとめ[日比野]

授業以外での学習方法

授業中に紹介する専門書を最低3冊読んでみよう。

教科書

臨床心理学を基本から学ぶ

著者： 丸島令子・日比野英子 編著

出版社：(北大路書房)

出版年：

ISBN：

参考書

よくわかる臨床心理学

著者： 下山晴彦 編

出版社：(ミネルヴァ書房)

出版年：

ISBN：

成績評価

e90201b310

試験（40%）

授業中課題（）

参加度（）

小テストは第6回、第11回、第15回の授業後に行う

小テスト（60%）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **こころとからだの臨床学 I (通信)**

担当者 中村 和夫・滝野 功久・中島 暢美・日比野 英子・前田 洋光・松下 幸治

テーマ

こころとからだ/健康であること・病気であること/ケアすること・ケアされること/こころとからだの変化・変貌・変遷— 個人と社会と文化のなかで

獲得目標

— こころとからだの相互作用の理解を深める — こころとからだの個人・社会・文化による多様性を、さまざまな領域と観点と動きのなかで発見する — それらが、各人の生活と学びのなかで実際に生きることを模索する

授業の内容

[メディア授業/全15回] 6名の教員のオムニバス方式で行われるもので、履修者の構成や「授業」の展開によって、実施される内容は動いて行くので、下記のプログラムは変更することがある。

内 容

- 第1回 オリエンテーション「こころ」とは? 「からだ」とは? 心身についてのいろいろな考え方 身体技法について[滝野]
- 第2回 身体は理解のモノサシ[中村]
- 第3回 共感と言葉の「意味」の理解[中村]
- 第4回 心と外見— 顔と心の臨床 1 顔から何がわかるのか[日比野]
- 第5回 心と外見— 顔と心の臨床 2 何のために顔を粧うのか[日比野]
- 第6回 心と外見— 顔と心の臨床 3 化粧・美容マッサージの施術による心のケア[日比野]
- 第7回 発達障害と身体感覚[中島]
- 第8回 発達障害児の遊戯療法を通してこころとからだを考える[中島]
- 第9回 よりよい人間関係のつくり方[前田]
- 第10回 緊張するこころ: 対人不安[前田]
- 第11回 臨床の知と共生[松下幸]
- 第12回 身体感覚とイメージ[松下幸]
- 第13回 完全性(perfection)と全体性(wholeness)[松下幸]
- 第14回 ケア—すること/ケア—されること ストレス・マネジメントについて考える[滝野]
- 第15回 全体を振り返ってみる 「こころ」の伸びやかさとは? 「からだ」の健やかさとは?[滝野]

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

各担当教員ごとにレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 女性とイメージ(通信)

担当者 志賀 亮一

テーマ

私たち自身のジェンダーへの気づき

獲得目標

ヨーロッパでは古来、家父長制社会が営まれてきた。絵画・彫刻など芸術をはじめとして、近現代のポスターやテレビCMまで、この社会の女性イメージは、上記家父長制の影響を色濃く示し、男性優位のジェンダー像を呈している。授業では、このイメージを母・妻・妖婦の3要素に集約したうえ、さまざまな視覚イメージをもとに個々の要素を詳説しつつ、各要素間の関係を明らかにし、その全体像を再構築する。あわせて、近現代の女性たちの業績をつうじて、このイメージに対する女性たちの反抗の足取りを跡づける。以上の学修を通じて、受講生は自らの課されているジェンダーの枠組みを自覚すること。

授業の内容

[メディア授業／全15回]

内 容

- 第1回 導入:視覚メディアにおける女性のイメージ
- 第2回 母親像1:子孫再生産の担い手
- 第3回 母親像2:究極の母親・聖母マリア——子孫再生産と男系血統の保障
- 第4回 母親像3:一家の母(マーテル・ファミリアス)と一家の父(パーテル・ファミリアス)——子孫再生産とジェンダー
- 第5回 妻像1:夫を補佐するもの
- 第6回 妻像2:男性を補佐するもの
- 第7回 妻像3:家内を管理するもの
- 第8回 妻像4:女・家内・私事 vs 男・社会・公事——社会的役割とジェンダー
- 第9回 妖婦像1:近代以前の妖婦像——伝説の妖婦たち
- 第10回 妖婦像2:近代の妖婦たち
- 第11回 妖婦像3:妖婦像の二重構造——魅惑するものと墮落させるもの
- 第12回 妖婦像4:ジェンダーの要としての妖婦像
- 第13回 女性たちの反抗1:男性に伍した女性たち
- 第14回 女性たちの反抗2:解放運動のイメージあれこれ
- 第15回 まとめ:解放の歴史

授業以外での学習方法

身近なジェンダー像の表出に日常注意を払うこと

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

女のイメージ

著者: G・デュビィ 編

出版社:(藤原書店)

出版年:

ISBN:

聖母マリアの美術

著者： 諸川春樹・利倉隆 著

出版社：（美術出版社）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50%）

授業中課題（）

参加度（）

小テスト（50%）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 ヨーロッパの歴史(通信)

担当者 南 直人

テーマ

ヨーロッパの歴史の基礎的理解をはかる

獲得目標

16世紀以降のヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、西洋世界をより深く理解することにつなげる。

授業の内容

[メディア授業/全15回] 近代世界システム論の視角から近現代のヨーロッパ史(西洋史)を考察する。最初に近代世界システム論を紹介し、その後16世紀から20世紀にいたるヨーロッパ史(西洋史)の流れをたどっていく。

内 容

- 第1回 世界史の新しい見方ー世界システム
 - 第2回 近代世界システムの形成
 - 第3回 ポルトガルのアジア進出
 - 第4回 スペインの新大陸支配
 - 第5回 ハプスブルク「世界帝国」の盛衰
 - 第6回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー(1)
 - 第7回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー(2)
 - 第8回 イギリスの商業革命と大西洋貿易
 - 第9回 英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争
 - 第10回 産業革命とフランス革命の新解釈
 - 第11回 大英帝国のヘゲモニー
 - 第12回 19世紀ヨーロッパ社会
 - 第13回 20世紀のヨーロッパ(1)
 - 第14回 20世紀のヨーロッパ(2)
 - 第15回 20世紀のヨーロッパ(3)
-

授業以外での学習方法

近現代ヨーロッパ史のさまざまな文献を読むこと

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社: (放送大学教育振興会)

出版年:

ISBN:

大学で学ぶ西洋史 近現代

著者: 小山哲、他

出版社: (ミネルヴァ書房)

出版年:

ISBN:

インディアスの破壊についての簡潔な考察

著者: ラス・カサス

出版社: (岩波書店)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40%)

小テスト (60%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストは第2回、第7回、第12回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化(通信)

担当者 田端 泰子・脇田 修・脇田 晴子

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々

獲得目標

”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

内 容

- 第1回 都城の変遷[田端]
 - 第2回 平安京の成立[田端]
 - 第3回 平安京に暮らす人々[田端]
 - 第4回 院政期の京都[田端]
 - 第5回 京―鎌倉をつなぐ人々[田端]
 - 第6回 「このごろ都にはやるもの」―南北朝期の京都[田端]
 - 第7回 室町幕府の成立と京の都[田端]
 - 第8回 土一揆の時代[田端]
 - 第9回 京の商工業者[田端]
 - 第10回 『洛中洛外図』に描かれた京都[田端]
 - 第11回 祇園祭と京の町[脇田晴子]
 - 第12回 中世京都の芸能[脇田晴子]
 - 第13回 織田信長と京都[脇田修]
 - 第14回 豊臣政権と京の町[脇田修]
 - 第15回 元禄時代の京都[脇田修]
-

授業以外での学習方法

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

物語 京都の歴史

著者: 脇田修・晴子

出版社: (中央公論新社)

出版年:

ISBN:

女性芸能の源流

著者： 脇田晴子

出版社：（角川書店）

出版年： ISBN：

中世京都と祇園祭

著者： 脇田晴子

出版社：（中央公論新社）

出版年： ISBN：

秀吉の経済感覚

著者： 脇田修

出版社：（中央公論社）

出版年： ISBN：

北政所おね

著者： 田端泰子

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年： ISBN：

足利義政と日野富子

著者： 田端泰子

出版社：（山川出版社）

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（100%）

参加度（ ）

「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **政治学概説(通信)**

担当者 鶴谷 将彦

テーマ

本講義は、政治学を学ぶ入門段階において理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。

獲得目標

本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例から受講生に理解してもらうことを目指す。

授業の内容

[テキスト授業／全15回] 指定教科書の各回の範囲を読んでもらい、3回に一度、小テストを受けてもらう。各回の小テストの結果は、成績評価の対象となる。各章の文章で太字で出てくる用語は、巻末にある用語解説を必ず読むこと。

内 容

- 第1回 序 政治学を勉強してみませんか 政治学での視点 (テキスト1～16ページ)
- 第2回 1 えっ!! 投票するの? だれに投票するの? 選挙を科学する 投票行動の研究 (テキスト17～34ページ)
- 第3回 2 テレビが政治をつくる? マスメディアと政治意識 (テキスト35～50ページ)
- 第4回 3 政治家ってどんな人? 野心と理念 (テキスト51～72ページ)
- 第5回 4 思想と利権のからみあい 政党と政党政治の変動 (テキスト73～96ページ)
- 第6回 5 官僚ってどんな人? 官僚制 (テキスト97～114ページ)
- 第7回 6 変わる「コネ」社会 日本 ネットワーク社会の政治と利益団体 (テキスト115～134ページ)
- 第8回 7 政策のつくり方 政策過程(1) (テキスト137～150ページ)
- 第9回 7 政策のつくり方 政策過程(2) (テキスト150～157ページ)
- 第10回 8 日本の最高権力者 強い首相、ひ弱な首相 (テキスト159～176ページ)
- 第11回 9 自治の気概 日本に地方自治はあるの?(1) (テキスト177～186ページ)
- 第12回 9 自治の気概 日本に地方自治はあるの?(2) (テキスト187～196ページ)
- 第13回 10 世界はどこへ行く? 国際政治 (テキスト197～213ページ)
- 第14回 11 グローバリゼーションと地域主義 仲間づくりの国際政治経済学 (テキスト215～232ページ)
- 第15回 12 21世紀の試練 政治改革と構造改革 (テキスト234～256ページ)

授業以外での学習方法

教科書

ポリティカルサイエンス事始め[第3版]

著者: 伊藤光利編

出版社: (有斐閣)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20%)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (80%)

授業中発表等 ()

小テストは第3回、第6回、第9回、第12回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **経済学概説(通信)**

担当者 阪本 崇

テーマ

社会認識の手段としての経済学を学ぶ

獲得目標

経済社会の中で起こる様々な現象について、報道をはじめとする世の中の言説を鵜呑みにするのではなく、経済学で用いられる概念や思考方法を駆使しながら自分自身で論理的に考える力を身につける。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 経済学は「金儲けのための学問」ではありません。20世紀初頭に活躍したイギリスの経済学者A.C.ピグーの言葉にもあるように、それは「人間生活の改良のための学問」です。人間生活の改良のために解決しなければならない経済問題は、その時代毎に変化します。経済学は250年の歴史の中で、さまざまな経済問題にとりくみながら発展してきました。この授業では、こうした経済学の発展過程で生まれてきた重要な概念や思考方法を学んだ上で、経済学が、現代の社会に生きる私たちが取り組まなければならない問題-地球環境の問題、国際金融の問題、格差の問題-にどのように取り組んでいるのかを学びます。

内 容

- 第1回 経済学はどんな学問か？
- 第2回 経済学と政治経済学：グローバリゼーションと、そのインパクト
- 第3回 経済学の5つの視点：人間はどこまで経済をコントロールできるか？
- 第4回 経済成長のメカニズム(1)：経済が順調に循環する条件とは？
- 第5回 経済成長のメカニズム(2)：何が経済を成長させるのか？
- 第6回 景気変動のメカニズム(1)：経済が不安定化する原因はどこにあるのか？
- 第7回 景気変動のメカニズム(2)：市場経済はどのように変化してきたか？
- 第8回 市場のはたらきとその限界(1)：価格メカニズムのメリットとは何か？
- 第9回 市場のはたらきとその限界(2)：市場が失敗するのはどのような場合か？
- 第10回 政府による経済のコントロール(1)：経済を不安定にする「バブル」とは何か？
- 第11回 政府による経済のコントロール(2)：経済を安定化する方法とは？
- 第12回 技術革新と経済発展：経済を飛躍させる契機は何か？
- 第13回 国際的金融取引の進展と政府の役割の変容：資本移動は国家を破壊するか？
- 第14回 持続可能な経済発展に向けて：自然環境の維持と経済発展は調和できるか？
- 第15回 まとめ：経済学を学んだ人に期待されること

授業以外での学習方法

教科書

ヒューマニティーズ経済学

著者： 諸富徹 著

出版社：(岩波書店)

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 ()

小テスト (60%)

授業中発表等 ()

e90201d810

参加度 ()

小テストは第3回、第6回、第12回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護情報論(通信)**

担当者 阿部 祝子

テーマ

看護は情報や知識を駆使する高度な情報処理プロセスである。本講では情報学はコンピュータを学ぶという偏見や苦手意識を解き、日々の看護実践・管理における情報を改めて意識する。そして、情報技術、通信技術の進歩に伴い、看護の現場に導入された情報システムによる支援について学習する。さらに、質の高い看護の提供をめざす看護実践・管理における情報活用について、探求する。

獲得目標

・看護情報論を学ぶ意義を理解する。・日々の看護実践・管理において、活用している情報を意識する。・医療・看護を支援する情報及び情報システムの活用について理解する。・医療・看護における情報倫理について理解する。・医療・看護情報(学)の今後の方向性、課題を理解する。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 情報技術の発展に伴い、看護現場での情報活用の利便性が向上し、看護情報学が扱う領域が拡大した。本講では、病院情報システムのみならず、看護情報学の幅広い領域を網羅的に教授する。職場における情報の電子化の如何を問わず、質の高い看護の提供をめざした情報活用について各自が学びを深める。そのため、なるべく具体例を取り上げながら授業を進め、日々の看護実践・管理における自分の体験と重ね合わせて内容を理解できるように配慮する。

内 容

- 第1回 看護情報論を学ぶ意義、情報(学)の基礎
- 第2回 医療・看護情報(学)の特徴と領域
- 第3回 情報技術・通信技術の発展と医療・看護への影響
- 第4回 医療・看護情報に関する標準化(用語の標準化、NANDA、NOC、NIC、看護必要度等)
- 第5回 情報倫理その1(情報倫理、インフォームド・コンセント、プライバシー権、守秘義務)
- 第6回 情報倫理その2(情報技術・通信技術の発展と個人情報の取扱、それに関する法律)
- 第7回 情報倫理その3(情報セキュリティ、情報倫理教育、情報開示、情報公開)
- 第8回 病院情報システム(病院における情報の特徴、電子カルテの定義、要件、安全管理)
- 第9回 看護職が関わる情報システム(看護を支援システム、電子化による看護への影響)
- 第10回 情報共有、チーム医療を支援するシステム(クリニカルパス、職種横断的マネジメント組織と情報活用)
- 第11回 医療安全を支援するシステム(患者認証システム、ヒヤリ・ハットレポートシステム等)
- 第12回 EBM、EBNのための情報活用(Evidenceの概念、EBM(EBN)のプロセス)
- 第13回 看護管理プロセスと情報活用(看護管理の目的と情報、情報システム構築導入と運営)
- 第14回 情報発信・収集(病院における情報発信・収集)、医療・看護情報(学)の今後の展望
- 第15回 まとめ(看護実践・管理における情報活用)

授業以外での学習方法

日々の看護実践・管理において、自分の思考プロセスを意識し、言葉で具体的に表現してみる。日々の看護実践・管理で、自分が体験している具体的な個々の状況をよく観察し振り返り、詳細にイメージできるようにする。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

エッセンシャル看護情報学

著者: 太田勝正・前田樹海 編著

出版社: (医歯薬出版)

出版年:

ISBN:

看護管理学習テキスト第5巻 看護情報管理論

著者： 上泉和子・太田勝正 編

出版社：（日本看護協会出版会）

出版年：

ISBN：

系統看護学講座別巻 看護情報学

著者： 中山和宏・瀬戸山陽子ほか 著

出版社：（医学書院）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（60%）

授業中課題（ ）

参加度（ ）

小テスト（40%）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **高齢者のヘルスプロモーション(通信)**

担当者 奥野 茂代

テーマ

高齢者のヘルスプロモーションを理解し看護のありかたを考える

獲得目標

1. 高齢者の特性を理解する。
2. 高齢者のQ.O.L(quality of life)の維持向上を目指したヘルスプロモーションについて理解する。
3. 高齢者のヘルスプロモーション活動における看護の機能・役割を考えることができる。

授業の内容

【メディア授業／12回＋テキスト授業／3回】 高齢者のQ.O.L(quality of life)の維持・向上を目指した看護のあり方をヘルスプロモーションの視点から検討し、高齢者と関わる医療福祉施設をはじめとする多様な場面における看護支援について学ぶ。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、老年看護の理念とヘルスプロモーション【メディア授業】
- 第2回 高齢者の特性の理解【メディア授業】
- 第3回 高齢者の健康課題 主な症状と看護(テキスト271～325ページ)【テキスト授業】
- 第4回 高齢者の健康課題 特徴的な疾患と看護(テキスト346～402ページ)【テキスト授業】
- 第5回 高齢者のQ.O.L(quality of life)【メディア授業】
- 第6回 ヘルスプロモーションの活動プロセス:PP第1～8段階【メディア授業】
- 第7回 ヘルスプロモーションの活動プロセス:事例【メディア授業】
- 第8回 ヘルスプロモーションに活用される理論(1)【メディア授業】
- 第9回 ヘルスプロモーションに活用される理論(2)【メディア授業】
- 第10回 ヘルスプロモーションに活用される理論(3)(テキスト126～158ページ)【テキスト授業】
- 第11回 高齢者の行動変容と健康教育(1)【メディア授業】
- 第12回 高齢者の行動変容と健康教育(2)【メディア授業】
- 第13回 高齢者のヘルスプロモーションをはかる社会施策(1)【メディア授業】
- 第14回 高齢者のヘルスプロモーションをはかる社会施策(2)【メディア授業】
- 第15回 高齢者のヘルスプロモーション活動における看護の機能・役割【メディア授業】

授業以外での学習方法

教科書

老年看護学 概論と看護の実践 第4版

著者: 奥野茂代・大西和子 編

出版社: (ヌーヴェルヒロカワ)

出版年:

ISBN:

参考書

国民衛生の動向

著者: 厚生労働統計協会 編

出版社: (厚生労働統計協会)

出版年:

ISBN:

国民の福祉の動向

著者： 厚生労働統計協会 編

出版社： (厚生労働統計協会)

出版年： ISBN:

ヘルスプロモーション

著者： ローレンス・W. グリーン/マーシャル・W. クロイター 著

出版社： (医学書院)

出版年： ISBN:

実践ヘルスプロモーション

著者： ローレンス・W. グリーン/マーシャル・W. クロイター 著

出版社： (医学書院)

出版年： ISBN:

成績評価

試験 (70%)

小テスト (30%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストは第5回、第10回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **認知症看護学(通信)**

担当者 奥野 茂代

テーマ

認知症とともに生きる高齢者を理解し看護のありかたを考える

獲得目標

1.認知症とともに生きる高齢者を理解する 2.認知症の病態・治療について理解する 3.認知症になっても人として尊重され、安心して暮らしていける看護支援を考えることができる

授業の内容

【メディア授業／13回＋テキスト授業／2回】 高齢者が認知症になっても人として尊重され、安心して暮らしていけるように、認知症高齢者の理解を深め多職種や家族と協働し看護支援を創意工夫する視点について学ぶ。

内 容

- 第11回 認知症高齢者の終末期ケア【メディア授業】
- 第12回 家族の負担と支援(1)【メディア授業】
- 第13回 家族の負担と支援(2)【メディア授業】
- 第14回 認知症高齢者にやさしい地域づくり・政策①2015年高齢者介護報告、介護保険法【メディア授業】
- 第15回 認知症高齢者にやさしい地域づくり・政策②虐待防止法、成年後見制度【メディア授業】
- 第1回 オリエンテーション、認知症の定義、認知症の高齢者、統計的視点から認知症【メディア授業】
- 第2回 認知症の理解(診断)【メディア授業】
- 第3回 認知症の理解(診断つづき)、認知症の予防【メディア授業】
- 第4回 認知症の理解(治療)【メディア授業】
- 第5回 認知症を生きるということ①(テキスト『痴呆を生きるということ』1～150ページ)【テキスト授業】
- 第6回 認知症を生きるということ②(テキスト『痴呆を生きるということ』151～221ページ)【テキスト授業】
- 第7回 認知症高齢者の理解と看護(意識環境、エイジズム)【メディア授業】
- 第8回 認知症高齢者の理解と看護(生活環境の工夫)【メディア授業】
- 第9回 認知症高齢者の理解と看護(BPSDの予防・対応)【メディア授業】
- 第10回 高齢者虐待【メディア授業】

授業以外での学習方法

教科書

認知症高齢者の看護

著者： 中島紀恵子 編

出版社：(医歯薬出版)

出版年：*2012年度履修生

ISBN:

新版 認知症の人々の看護

著者： 中島紀恵子 編

出版社：(医歯薬出版)

出版年：*2013年度履修生

ISBN:

痴呆を生きるということ

著者： 小澤勲 著

出版社：（岩波書店）

出版年： * 共通

ISBN:

上記1・2についてはいずれか一方で受講可

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

参考書

鏡のなかの老人－痴呆の世界を生きる

著者： 竹中星郎 著

出版社：（ワールドプランニング）

出版年：

ISBN:

私は誰になっていくの

著者： クリスティーン・ブライデン 著

出版社：（クリエイツかもがわ）

出版年：

ISBN:

私は私になっていく

著者： クリスティーン・ブライデン 著

出版社：（クリエイツかもがわ）

出版年：

ISBN:

老年看護学 概論と看護の実践 第4版

著者： 奥野茂代・大西和子 編

出版社：（ヌーヴェルヒロカワ）

出版年：

ISBN:

成績評価

試験（70%）

小テスト（30%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

小テストは第5回、第10回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学概論(通信)

担当者 前原 澄子・堀 妙子

テーマ

次世代を健康に育成するための看護の役割について

獲得目標

1 次世代を健康に育成するための看護について説明できる。2 出生までの次世代の健康を支える看護を説明できる。3 子どもの成長発達を支える看護を説明できる。4 健康課題を持つ子どもを支える看護を説明できる。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 次世代を育成するために必要な看護に関する講義

内 容

- 第1回 次世代育成看護学とは[前原]
- 第2回 リプロダクティブヘルス[前原]
- 第3回 出生までの次世代の健康を支える看護(思春期)[前原]
- 第4回 出生までの次世代の健康を支える看護(妊娠期)[前原]
- 第5回 出生までの次世代の健康を支える看護(分娩期)[前原]
- 第6回 出生後の次世代の健康を支える看護(産褥期)[前原]
- 第7回 子どもの成長発達を支える看護(成長発達の特徴)[堀]
- 第8回 子どもの成長発達を支える看護(成長発達と社会の関係)[堀]
- 第9回 健康課題をもつ子どもを支える看護(先天性疾患)[堀]
- 第10回 健康課題をもつ子どもを支える看護(疾患の受容)[堀]
- 第11回 健康課題をもつ子どもを支える家族への看護(子どもの入院)[堀]
- 第12回 健康課題をもつ子どもを支える家族への看護(在宅ケア)[堀]
- 第13回 健康課題をもつ子どもを支える看護(End of Life Care)[堀]
- 第14回 諸統計から見た次世代育成看護の課題[前原・堀]
- 第15回 次世代育成に関わる政策[前原・堀]

授業以外での学習方法

適宜紹介する参考文献により学習する

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

e90201e710

試験 (60%)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テストは第6回、第13回の授業後に行う

小テスト (40%)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ(7月13・14・20日)(通信)**

担当者 坂本 敏郎・上北 朋子・田中 芳幸・永野 光朗・山崎 真理子

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

[スクーリング授業／全15回] グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施
 - 第3回 鏡映描写実験の実施
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施(1)
 - 第13回 動物実験の実施(2)
 - 第14回 動物実験の実施(3)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60%)

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

e90202a150

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習Ⅱ(9月14-16日)(通信)**

担当者 永野 光朗.上北 朋子.中川 明仁.前田 洋光.山崎 真理子

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

[スクーリング授業／全15回] グループに分かれての演習授業である。実験の概要目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 鏡映描写の説明・鏡映描写実験計画の説明
 - 第2回 鏡映描写実験の実施
 - 第3回 鏡映描写実験の実施
 - 第4回 データの処理・分析(1)
 - 第5回 データの処理・分析(2)
 - 第6回 質問紙の作成・実施方法の解説
 - 第7回 質問紙の作成
 - 第8回 調査の実施
 - 第9回 データの解析(1)
 - 第10回 データの解析(2)
 - 第11回 動物実験の概要・データの取得方法の説明
 - 第12回 動物実験の実施(1)
 - 第13回 動物実験の実施(2)
 - 第14回 動物実験の実施(3)
 - 第15回 データの解析
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60%)

参加度 (40%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会心理学 I (通信)**

担当者 前田 洋光

テーマ

社会的認知、社会的自己、態度、対人コミュニケーション

獲得目標

社会心理学者Aronsonは、人間を「社会的動物 (The social animal)」と呼んだ。その言葉の通り、私たちは日常生活を営む上で、他者や社会から多大な影響を受けており、同時に他者や社会に多大な影響を及ぼしている。本講では、社会的認知や社会的影響の問題を中心に、様々な自己と他者のかかわりを、心理学的視点から論考していく。本講義においては、理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考えることも目的とする。

授業の内容

[メディア授業／全15回]

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン
 - 第2回 原因帰属
 - 第3回 対人認知
 - 第4回 対人魅力
 - 第5回 性役割
 - 第6回 社会的欲求
 - 第7回 自尊感情
 - 第8回 自己開示と自己呈示
 - 第9回 態度
 - 第10回 説得的コミュニケーション1: 受け手・送り手・メッセージ内容に着目した検討
 - 第11回 説得的コミュニケーション2: 説得への抵抗と説得技法
 - 第12回 言語的コミュニケーション
 - 第13回 非言語的コミュニケーション
 - 第14回 マスメディアの影響
 - 第15回 まとめと確認
-

授業以外での学習方法

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新編社会心理学 改訂版

著者: 堀洋道 監修

出版社: (福村出版)

出版年:

ISBN:

グラフィック 社会心理学

著者: 池上知子・遠藤由美 著

出版社: (サイエンス社)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50%)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テストは、第8回・第14回の授業の後に行う。

小テスト (50%)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **発達心理学 I (通信)**

担当者 中村 和夫

テーマ

胎生期から成人期までの人間の発達の様相の理解

獲得目標

発達心理学についての基礎的知識と発達の見方が理解できること、および人間の発達上の重要なトピックスについて、それぞれの発達段階におけるその意味を理解するとともに、具体的なイメージをもつことができるようになること。

授業の内容

[メディア授業／全15回]

内 容

- 第1回 出生前期の感覚の発達と胎児診断の問題
- 第2回 出生前期の感覚の発達と胎児診断の問題(続き)
- 第3回 ヒトの生理的早産と社会的存在としての人間
- 第4回 新生児期の共鳴動作と新生児反射の意味
- 第5回 乳児期の姿勢・運動、手指の操作性の発達
- 第6回 前言語的コミュニケーションと共同注意・三項関係の発達
- 第7回 前言語的コミュニケーションと共同注意・三項関係の発達(続き) 愛着理論と愛着の発達
- 第8回 愛着理論と愛着の発達(続き) 幼児期の発達の特徴と表象的思考
- 第9回 幼児期の発達の特徴と表象的思考(続き)
- 第10回 話し言葉の発達と自己中心的言語
- 第11回 こころの理論の発達と他者のこころの理解
- 第12回 児童期の具体的操作の発達、複合的思考から概念的思考へ
- 第13回 書き言葉の発達、9,10歳の節、自己意識的感情
- 第14回 思春期の第二次性徴、形式的操作の発達
- 第15回 青年期におけるアイデンティティの発達と拡散

授業以外での学習方法

発達心理学関連図書による自学自習

教科書

よくわかる認知発達とその支援

著者: 子安増生 編

出版社: (ミネルヴァ書房)

出版年:

ISBN:

参考書

小学生の生活とこころの発達

著者: 心理科学研究会 編

出版社: (福村出版)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (100%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

「出生前期～乳児期」の小テストは第8回の授業後に行う「幼児期」の小テストは第11回の授業後に行う「児童期・思春期～青年期」の小テストは第15回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **English Communication Ⅲ (通信)**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Developing Listening, Speaking and Other Communicative Skills through DVD Materials

獲得目標

Through work with DVD material, this course aims to further build on the communicative skills built in English Communication I and II. The aim is to give students further practice in listening to, understanding, and speaking in English by exploring the lives of the individuals introduced on the DVD and studying a number of frequently occurring English situations. It is also hoped that, as psychology majors, students will be able to pick up the feelings and thoughts of the various speakers in the DVD materials, and understand some basic differences between Japanese and English ways of expression.

授業の内容

[テキスト授業／14回＋メディア授業／1回]

内 容

- 第1回 Introductory Video: Outline of the course, the text, and recommended study approach 【メディア授業】
- 第2回 Textbook Unit 1: Nice to meet you — Exchanging personal information; friendship 【テキスト授業】
- 第3回 Textbook Unit 2: Shop till you drop — Talk about shopping and fashion 【テキスト授業】
- 第4回 Textbook Unit 3: Extreme sports — Inviting someone to a sports event 【テキスト授業】
- 第5回 Textbook Unit 4: Home sweet home — Talk about home life; the weekend 【テキスト授業】
- 第6回 Textbook Unit 5: What's cookin'? — Talk about food; order a meal 【テキスト授業】
- 第7回 Textbook Unit 6: Career choices — Talk about occupations 【テキスト授業】
- 第8回 Review of Units 1 ~ 6 and mid-semester evaluation 【テキスト授業】
- 第9回 Textbook Unit 7: Have a nice trip — Talk about vacations and hotels 【テキスト授業】
- 第10回 Textbook Unit 8: Love is in the air — Talk about dating preferences 【テキスト授業】
- 第11回 Textbook Unit 9: Music makers — Talk about music and concerts 【テキスト授業】
- 第12回 Textbook Unit 10: School is cool — Talk about school 【テキスト授業】
- 第13回 Textbook Unit 11: You look amazing — Talk about appearance 【テキスト授業】
- 第14回 Textbook Unit 12: Facing the future — Talk about future plans 【テキスト授業】
- 第15回 Review of Units 7 ~ 12 and evaluation 【テキスト授業】

授業以外での学習方法

教科書

True to Life

著者: Lauren Merenda

出版社: (Macmillan Language House)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト (50%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストは、第8回・第15回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理応用演習 I (6月22・29日・7月6・27日)(通信)**

担当者 松永 順子

テーマ

Excelを使用し、業務データを目的に応じて活用・分析する方法を習得する。

獲得目標

Excelを使用し、効率の良い業務データの処理分析、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』資格の取得をめざす。

授業の内容

[スクーリング授業／全15回]]※通学制と共通開講 現在、最もシェアの高い表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、データの集計処理やグラフ化、データベース分析などを行い、効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、取引の仕組みや業務データの流れなどもあわせて学習し、総合的なデータの処理分析能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終回のみ1～3講時とする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは／表作成の基本
- 第2回 実務における表作成と編集・・・データ入力、修正、削除、コピー、オートフィル、書式設定
- 第3回 実務における表計算・・・数式、関数 知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア(各装置の役割)
- 第4回 実務における表計算・・・相対参照、絶対参照 知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア(記憶装置、情報の量と単位)
- 第5回 知識科目対策(共通分野)・・・ソフトウェア(OS、アプリケーション)
- 第6回 実技科目対策・・・問題1(行挿入、ピボットテーブル、複合グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ファイルとフォルダ
- 第7回 知識科目対策(共通分野)・・・データベース・XML、ネットワーク基礎、インターネット
- 第8回 実技科目対策・・・問題2(並べ替え、集計、関数、グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ネット社会、法律、コンプライアンス
- 第9回 知識科目対策(共通分野)・・・取引の仕組みと業務データの流れ
- 第10回 実技科目対策・・・問題3(関数、複合グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ビジネスデータの取り扱い(会計・財務)
- 第11回 実技科目対策・・・問題4(列挿入、書式コピー、関数、ピボットテーブル、並べ替え、グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ビジネスデータの取り扱い(業務分析・業務計画)
- 第12回 実技科目対策・・・問題5(関数、ピボットテーブル、グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・電子商取引、電子政府・電子自治体、データベース管理
- 第13回 検定対策／総合演習・・・模擬試験-1
- 第14回 検定対策／総合演習・・・模擬試験-2
- 第15回 課題

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

教科書

日商PC検定試験 データ活用 3級 完全マスター Excel2010対応

著者： 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社： FOM出版

出版年：

ISBN： 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学研究法Ⅱ(質的調査)(通信)**

担当者 中村 和夫

テーマ

インタビューや観察を通して得られたデータに基づいて、ボトムアップ的に研究領域に密着した理論や概念モデルを構成していく質的研究方法を理解し、一連の手続きについて学ぶこと。

獲得目標

質的研究方法として、具体的には、グラウンデッド・セオリー・アプローチに基づいて、データの収集、データのコード化、カテゴリーの関係づけによる理論の生成について、それらの手続き・方法について学び、理解すること。

授業の内容

[テキスト授業/全15回]

内 容

- 第1回 テキスト1のsession1 研究方法を学ぶ理由【グラウンデッド・セオリー・アプローチのデータ分析の流れをつかもう。】
- 第2回 テキスト1のsession2 インタビュー法によるデータ収集【インタビュー法によるデータ収集の手順を学ぼう。】
- 第3回 テキスト1のsession3 参加観察法によるデータ収集【参加観察法によるデータ収集の手順を学ぼう。】
- 第4回 テキスト1のsession4 プロパティとディメンション【プロパティとは何か、ディメンションとは何かを理解しよう。】
- 第5回 テキスト1のsession5 ラベル名をつける【オープンコーディングの最初の作業を学ぼう。】
- 第6回 テキスト1のsession6 カテゴリーにまとめる【ラベルをカテゴリーにまとめる手順を学ぼう。】
- 第7回 テキスト1のsession7 比較をおこなう【理論的比較と理論的サンプリングがなぜ必要か理解しよう。】
- 第8回 テキスト1のsession8 カテゴリー同士の関係をとらえる【パラダイムとカテゴリー関連図について理解しよう。】
- 第9回 テキスト1のsession9 「ナースQさんの語り」のデータの分析【事例を通してこれまでの学びについて確認をしよう。】
- 第10回 テキスト2の第1章 概要、プロパティとディメンション、ラベル【授業中課題】自己学習用データを用いて練習問題1をおこなってみよう。結果を提出すること。
- 第11回 テキスト2の第2章 概念の把握 自己学習用データを用いて練習問題2をおこなってみよう。
- 第12回 テキスト2の第3章 概念の関係をとらえる 自己学習用データを用いて練習問題3をおこなってみよう。
- 第13回 テキスト2の第4章 参加観察法で収集したデータの分析 自己学習用データを用いて練習問題4をおこなってみよう。
- 第14回 テキスト2の第5章 カテゴリーの現象分類 自己学習用データを用いて練習問題5をおこなってみよう。
- 第15回 授業中課題の振り返り【練習問題1～5について自分の分析結果と著者による分析例(テキスト2の巻末の資料編参照)とを全体としてあらためて比べてみて、そこから学んだことをまとめよう。】まとめた結果をレポートにして提出すること(400～600字)。

授業以外での学習方法

教科書

質的研究方法ゼミナール[増補版] グラウンデッド セオリー アプローチを学ぶ

著者: 戈木クレイグヒル滋子 編

出版社: (医学書院)

出版年:

ISBN:

グラウンデッド・セオリー・アプローチ 実践ワークブック

著者： 戈木クレイグヒル滋子 編

出版社：（日本看護協会出版会）

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

授業中課題とは、①授業中に課された自己学習用の練習問題1つについて、自分で分析を試みた結果が記入されたものを提出することと、②練習問題1～5について自分の分析結果と著者による分析例（テキスト2の巻末の資料編参照）とを全体として比べてみて、そこから学んだことをまとめてレポートにして提出することである。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 心理統計学Ⅱ(通信)

担当者 前田 洋光

テーマ

推測統計学の理解

獲得目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、実際の心理学研究において頻繁に用いられる種々の統計解析について、具体的な問題を解きながら理解を深めていく。それによって、各分析手法の概念について理解することを、第一の目的とする。加えて、与えられたデータを分析し、適切な結論を導くことができる実践力を獲得することを目標とする。

授業の内容

[メディア授業/全15回] 心理統計学Ⅰで習得した内容を踏まえ、本講では、卒業研究において自らで心理学研究をまとめるにあたり最低限必要となる、より発展的・実践的な統計学の概念について学んでいく。また、種々の統計手法について、電卓を用いて手計算をおこなう演習を併用することによって、一層の理解を深めていく。

内 容

- 第1回 イントロダクション:統計学の基礎の復習
- 第2回 標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(1)
- 第3回 標本と母集団、及び正規分布と中心極限定理(2)
- 第4回 統計的検定の基礎
- 第5回 t検定(1):対応のない場合のt検定
- 第6回 t検定(2):対応のある場合のt検定
- 第7回 一元配置分散分析(1):一要因被験者間検定
- 第8回 一元配置分散分析(2):多重比較
- 第9回 ノンパラメトリック検定(1)
- 第10回 ノンパラメトリック検定(2)
- 第11回 データ分析演習(1)
- 第12回 データ分析演習(2)
- 第13回 データ分析演習(3)
- 第14回 データ分析演習(4)
- 第15回 授業全体のまとめ

授業以外での学習方法

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

本当にわかりやすいすぐく大切なことが書いてあるすぐ初歩の統計の本

著者: 吉田 寿夫 著

出版社: (北大路書房)

出版年:

ISBN:

よくわかる心理統計

著者： 山田 剛史・村井 潤一郎 著

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50%）

授業中課題（ ）

参加度（ ）

小テストは第6回、第10回の授業後に行う

小テスト（50%）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **感情心理学(通信)**

担当者 坂本 敏郎

テーマ

感情心理学における諸理論の理解

獲得目標

人や動物のこころのはたらきの重要な機能のひとつである感情・情動のメカニズムについて理解する。なぜ感情が生起するのか、感情と身体反応(脳の活動、生理反応、免疫反応)はどのような関係をもつのかについて理解を深める。進化の視点から、感情の生起について理解し、人がどのような動物が考察する。

授業の内容

[メディア授業/全15回] 授業の目的に従って、講義をします。

内 容

- 第1回 情動の理論
 - 第2回 感情の生物学的基盤
 - 第3回 感情の機能
 - 第4回 感情と進化
 - 第5回 感情と認知
 - 第6回 感情と発達
 - 第7回 感情と言語
 - 第8回 感情と病理
 - 第9回 感情と健康
 - 第10回 ストレスと感情
 - 第11回 進化と性淘汰
 - 第12回 こころの原型(恐怖、不安とこころの病)
 - 第13回 脳の大きさと知能の進化
 - 第14回 攻撃行動、養育行動
 - 第15回 他個体の認知と絆の形成
-

授業以外での学習方法

感情心理学関連図書による自学自習

教科書

感情心理学・入門

著者: 大平英樹 編

出版社: (有斐閣)

出版年:

ISBN:

参考書

進化心理学入門

著者: J.H. カートライト 著

出版社: (新曜社)

出版年:

ISBN:

脳とホルモンの行動学

著者： 近藤保彦他 編

出版社：（西村書店）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（40%）

小テスト（）

授業中課題（60%）

授業中発表等（）

参加度（）

「授業中課題」は第5回、第10回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学史(通信)**

担当者 高砂 美樹

テーマ

近代心理学の成立以前から現代まで、心理学の歩んできた歴史について理解を深める。

獲得目標

古代ギリシアから20世紀に至るまでの心理学の背景を概観するとともに、なぜ心理学が19世紀に専門分野として登場したのかについて理解することを目的とする。その際に、医学や哲学、生物学など、隣接領域の発展を理解しながら、こころについて考えることの現代性について考察できるようにする。

授業の内容

[テキスト授業／全15回]

内 容

- 第1回 心理学が始まる以前の背景 (テキスト 11～30ページ)
 - 第2回 近代心理学誕生の3要因① 哲学における展開 (テキスト 30～41ページ)
 - 第3回 近代心理学誕生の3要因② 生理学における展開 (テキスト 41～52ページ)
 - 第4回 近代心理学誕生の3要因③ 生物学における展開 (テキスト 52～61ページ)
 - 第5回 新しい心理学としての生理学的心理学 (テキスト 65～74ページ)
 - 第6回 大学を中心とした心理学の展開① 実験室の拡大 (テキスト 75～86ページ)
 - 第7回 大学を中心とした心理学の展開② 学会の設立と専門誌の登場 (テキスト 86～97ページ)
 - 第8回 現場における心理学の拡大① 発達心理学と臨床心理学 (テキスト 97～104ページ)
 - 第9回 現場における心理学の拡大② 心理検査と産業心理学 (テキスト105～119ページ)
 - 第10回 20世紀の主要な潮流① 行動主義 (テキスト 119～125ページ)
 - 第11回 20世紀の主要な潮流② 精神分析 (テキスト 125～134ページ)
 - 第12回 20世紀の主要な潮流③ ゲシュタルト心理学 (テキスト 134～144ページ)
 - 第13回 現代心理学の展開① 臨床心理学の隆盛 (テキスト 147～156ページ)
 - 第14回 現代心理学の展開② 認知心理学 (テキスト 156～165ページ)
 - 第15回 現代心理学の展開③ 認知心理学 (テキスト 165～174ページ)
-

授業以外での学習方法

教科書

心理学史 はじめの一步

著者: 高砂 美樹

出版社: (アルテ)

出版年:

ISBN:

参考書

流れを読む心理学史

著者: サトウタツヤ・高砂美樹

出版社: (有斐閣)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（70%）

小テスト（）

授業中課題（30%）

授業中発表等（）

参加度（）

「授業中課題」は、レポートは3回を第4回・第9回・第12回の授業後に課す。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実験心理学(通信)**

担当者 上北 朋子

テーマ

こころを解明するための様々な研究法

獲得目標

こころを科学的に分析するための研究方法について学ぶ。それぞれの長所と短所を理解したうえで、各自が研究に取り組む際に適切な手法を選択・実施できるようになることを目標とする。

授業の内容

[テキスト授業/全15回]

内 容

- 第1回 心理学実験の意義(テキスト2~19ページ) まず、相関関係と因果関係の違いについて書き出してみよう。そして、こころや行動を科学的に理解するというのはどういうことなのか、テキストを読んで自分の言葉でまとめてみよう。
- 第2回 実験法の基本(テキスト20~26ページ) バンデューラーの実験をノートに書き出してみよう。実験の対象者、方法、結果、考察の項目に分けて整理しよう。
- 第3回 独立変数と従属変数(テキスト27~28ページ) 表2-1と表2-2をノートに写そう。そして、日常生活で体験する事象の「原因と結果」の例を書き出してみよう。その事象の因果関係を実験的に推定できるのかを考えてみよう。実験的に推定する方法を記述し、独立変数と従属変数に色分けして下線をひこう。
- 第4回 剰余変数(テキスト28~29ページ, 38~39ページ) 第3回で考えた実験例のなかで、剰余変数になりそうな事象を書き出してみよう。分からない場合はColumn3を参考にしてください。
- 第5回 実験計画(1)(テキスト42~67ページ) テキストを読んで、面接におけるアイコンタクトの役割についての実験を計画しよう。その実験の独立変数をどのように操作するか、どのような点に気をつけるかを書きだそう。
- 第6回 実験計画(2)(テキスト68~78ページ) 第5回で計画した実験の従属変数をいくつか書きだそう。それぞれの従属変数の補助仮説についても考えよう。
- 第7回 実験的研究(1)(テキスト90~105ページ) 93ページの記憶の実験の例を使用しながら、被験者内計画、被験者間計画、無作為配分についてノートにまとめよう。
- 第8回 実験的研究(2)(テキスト105~112ページ) ミューラーリヤーの錯視の実験の例を使用しながら、カウンターバランスと無作為化についてノートにまとめよう。
- 第9回 観察的研究(1)(テキスト182~183, 212~217, 236~240, 257~263ページ) 観察的研究にはどのようなものがあるか、調査法、観察法、検査法、面接法の導入部分を読んで、ノートにまとめよう。
- 第10回 観察的研究(2)(テキスト182~283の当該箇所) 第9回で概観した観察的研究の中で興味をもった方法1つについて、具体的な方法や長所、短所、気をつけるべき点をまとめよう。
- 第11回 データの統計処理(1)(テキスト314~317ページ) データの散らばりについて理解しよう。データの統計的処理において、なぜ散らばりを考慮する必要があるか、ノートにまとめよう。
- 第12回 データの統計処理(2)(テキスト324~327ページ) 統計的検定の理論について、まとめよう。帰無仮説はどのようなものか、有意水準は何かということをおさえること。
- 第13回 実験結果の解釈(テキスト301~313ページ) 実験的研究の限界についてふれたうえで、それでも実験を行う意義についてまとめよう。
- 第14回 研究倫理(テキスト175~179ページ) 実験を行う際に、実験者が守るべき事柄、配慮すべき事柄についてノートにまとめよう。
- 第15回 授業のまとめ 14回の学習を振り返り、「心理学は科学的特性をもつか?それは、どのような点からいえるのか?」自分の言葉でノートにまとめよう。

授業以外での学習方法

教科書

心理学研究法―心を見つめる科学のまなざし―

著者： 高野 陽太郎・岡 隆編

出版社：（有斐閣アルマ）

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

「授業中課題」は第6回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 パーソナリティ心理学Ⅱ(通信)

担当者 ジェイムス 朋子・青木 剛

テーマ

パーソナリティに関する精神分析の基礎理論と査定法の基礎

獲得目標

パーソナリティという構成概念、パーソナリティの発達、および、パーソナリティの査定理論について様々な理論背景を学んだ上で、本講義では、精神分析的なアプローチからのパーソナリティ理論を追求する。また、現代精神医学における臨床査定法の基礎であるミロンによるパーソナリティ・スタイル理論とその査定法の基礎を理解する。さらに、自身のパーソナリティを追求することを通じ、臨床的態度の一端を体験的に理解する。

授業の内容

[メディア授業／3回＋テキスト授業／12回]

内 容

- 第1回 精神分析的アプローチによるパーソナリティ理論—自我と自己—[ジェイムス] (テキスト86～92ページ12行目) 【テキスト授業】
- 第2回 システム理論による人の理解[ジェイムス] (テキスト93ページ13行目～102ページ) 【テキスト授業】
- 第3回 パーソナリティと発達[ジェイムス] (テキスト104～115ページ17行目) 【テキスト授業】
- 第4回 パーソナリティと適応—ストレス／症候発達図式の考え方—[ジェイムス] (テキスト115ページ18行目～120ページ) 【テキスト授業】
- 第5回 パーソナリティ査定理論の基礎[青木] 【メディア授業】
- 第6回 質問紙法による特性論的パーソナリティ査定法の体験と小レポート作成[青木] (PDFなどによる質問紙の提示 *結果の算出と考察のポイントについて加える) 【テキスト授業】
- 第7回 基礎理論のまとめ[ジェイムス] 【メディア授業】
- 第8回 ミロンによるパーソナリティ・スタイル理論[ジェイムス] (テキスト122ページ10行目～130ページ7行目) 【テキスト授業】
- 第9回 パーソナリティと病理[青木] (テキスト130ページ8行目～134ページ＋配布資料) 【テキスト授業】
- 第10回 質問紙によるパーソナリティ・スタイル査定法の体験と小レポート作成[ジェイムス] (PPTによる質問紙の提示 *結果算出と考察のポイントについての配布資料) 【テキスト授業】
- 第11回 パーソナリティと成熟—精神分析的アプローチから—[青木] (テキスト44～53ページ＋配布資料) 【テキスト授業】
- 第12回 質問紙によるパーソナリティ・ファンクション査定法の体験と小レポート作成[ジェイムス] (PDFによる質問紙の提示 *結果算出と考察のポイントについての配布資料) 【テキスト授業】
- 第13回 パーソナリティと変化—人間性心理学の立場から—[青木] (テキスト35～43ページ＋配布資料) 【テキスト授業】
- 第14回 パーソナリティと変化の実際—カウンセリング事例から—[ジェイムス] (テキスト191～206ページ) 【テキスト授業】
- 第15回 パーソナリティ理論と自分—まとめ—[ジェイムス] 【メディア授業】

授業以外での学習方法

教科書

ガイダンスとカウンセリング—指導から自己実現への共同作業

著者: 小谷英文 著

出版社: (北樹出版)

出版年:

ISBN:

参考書

臨床心理学概説

著者: 田中富士夫 著

出版社：（北樹出版）

出版年：

ISBN：

初めて学ぶパーソナリティ心理学

著者： 小塩真司 著

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

「授業中課題」は、レポートを第6回・第10回・第12回の授業の後に課す。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 対人援助論A(通信)

担当者 中西 龍一・青木 剛

テーマ

心理学的対人援助の基礎を学ぶ

獲得目標

心理学的対人援助の理論とスキルについて、C・ロジャーズの「来談者中心法 (Client centered therapy)」に代表されるカウンセリングの理論、およびE・バーンによる「交流分析 (Transactional Analysis)」の理論について理解する。また、ロジャーズがセラピストに求めた「受容」「共感」「自己一致」の態度や傾聴のスキル、バーンによる「交流」の視点を獲得する。

授業の内容

[メディア授業／3回＋テキスト授業／12回]

内 容

- 第1回 援助すること、されること[中西]【メディア授業】
- 第2回 受容・共感・自己一致[中西]【メディア授業】
- 第3回 カウンセリングの意味、カウンセリングとコンサルテーション、カウンセリングとケースワーク、カウンセリングとサイセラピー、カウンセリングについて学んでください(カウンセリングとコンサルテーション、ケースワークとの違い)。
[中西] (『カウンセリングの話』9～22ページ)【テキスト授業】
- 第4回 X理論とY理論、マズローの人間観、職業指導運動と人間観、精神衛生運動と人間観、ロジャーズの人間観、カウンセリングの人間観、歴史について学んでください。特にマズロー、ロジャーズの人間観は重要です。[中西] (『カウンセリングの話』25～51ページ)【テキスト授業】
- 第5回 人間行動と表現の枠組み、内容とプロセス、部分そして全体、理論の2つの柱「クライアントを理解するとは」について学んでください。[中西] (『カウンセリングの話』55～79ページ)【テキスト授業】
- 第6回 精神分析的カウンセリング、特性因子理論によるカウンセリング 様々なカウンセリング理論(心理療法)に触れる。
[中西] (『カウンセリングの話』83～95ページ)【テキスト授業】
- 第7回 来談者中心法、行動療法、論理療法、ゲシュタルト療法 様々なカウンセリング理論(心理療法)に触れる。特に「来談者中心法」についてよく理解してください。(114～135ページの交流分析については、9回から14回[青木担当]で詳しく触れます)[中西] (『カウンセリングの話』96～114ページ)【テキスト授業】
- 第8回 家族カウンセリング、グループ・アプローチ、コミュニティ・アプローチ、新しいアプローチの展開 対象を個人とするのではなく、家族、グループ、コミュニティに拡げた対人援助論や、心理療法の統合、折衷について学んでください。
[中西] (『カウンセリングの話』135～162ページ)【テキスト授業】
- 第9回 カウンセラー観、邪気のないこと＝本物であること、人間への畏敬の気持ち カウンセラーの人間観、特にロジャーズがカウンセラーに求めた3つの条件(態度)については、よく理解してください。[中西] (『カウンセリングの話』165～184ページ)【テキスト授業】
- 第10回 交流分析とは[青木] (『交流分析』1～35ページ11行目) 交流分析の中心的な概念である主に3つの自我状態についてよく理解してください。【テキスト授業】
- 第11回 エゴグラム[青木] (『交流分析』35 12行目～51ページ) エゴグラムの読み方、それをどのように活用していくのかについてよく理解してください。【テキスト授業】
- 第12回 やりとり分析[青木] (『交流分析』52～95ページ) 交流の種類や、その応用、また、やりとり(交流)の動機についても触れ、基本的構えについても理解してください。【テキスト授業】
- 第13回 ゲーム・人生脚本[青木] (『交流分析』96～155, 179～204ページ) 「ゲーム」について理解し、その「ゲーム」へのアプローチを学びます。また、そこから展開されている人生脚本について理解してください。【テキスト授業】
- 第14回 再決断療法、フォーカシング[青木] (『交流分析』156～178ページおよび配付資料) 「ゲーム」の原動力になっている「ラケット」の性質や成り立ちを理解し、そのアプローチとして、再決断療法とフォーカシングについて学びます。
【テキスト授業】
- 第15回 対人援助論A、来談者中心法と交流分析のまとめ[中西]【メディア授業】

授業以外での学習方法

教科書

新版 カウンセリングの話

著者： 平木典子 著

出版社：（朝日新聞出版(朝日選書)）

出版年：

ISBN：

講座サイコセラピー第8巻 交流分析

著者： 杉田峰康 著

出版社：（日本文化科学社）

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

「授業中課題」は第9回、第14回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **カウンセリング(通信)**

担当者 中島 暢美

テーマ

リスニングの基本的態度の理解

獲得目標

カウンセリング理論の概要を習得すること、および心理療法としてのカウンセリングにおけるカウンセラーの基本的態度について理解することを目標とする。

授業の内容

[メディア授業／全15回]

内 容

- 第1回 イントロダクション I.カウンセリングとは 1. カウンセリングの定義 2. カウンセリングの目的
 - 第2回 I.カウンセリングとは 3. カウンセリングの歴史—三つの源流—
 - 第3回 I.カウンセリングとは 4. 指示的カウンセリングと非指示的カウンセリング
 - 第4回 I.カウンセリングとは 5. 日本におけるカウンセリングの歴史 II.心理療法としてのカウンセリング 1. 心理療法とは
 - 第5回 II.心理療法としてのカウンセリング 2. カウンセリング理論
 - 第6回 II.心理療法としてのカウンセリング 3. アプローチの方法 4. カウンセリングの対象
 - 第7回 II.心理療法としてのカウンセリング 5. カウンセリングの専門性
 - 第8回 III.リスニングの基本的態度 1. カウンセリングにおける対話的關係
 - 第9回 III.リスニングの基本的態度 2. 積極的傾聴
 - 第10回 III.リスニングの基本的態度 2. 積極的傾聴
 - 第11回 IV.リスニングの実際 1. カウンセリングの始め方
 - 第12回 IV.リスニングの実際 2. 見立て
 - 第13回 IV.リスニングの実際 2. 見立て
 - 第14回 IV.リスニングの実際 3. リスニングの実際
 - 第15回 IV.リスニングの実際 4. カウンセリングでの約束事
-

授業以外での学習方法

参考書や心理学辞典を調べるなど、専門用語の理解について自学自習を实践されたい。

教科書

参考書

現代カウンセリング事典

著者： 国分康孝 編

出版社：(金子書房)

出版年：

ISBN：

教育臨床心理学中辞典

著者： 小林利亘 編

出版社：（北大路書房）

出版年：

ISBN：

心理学の基礎知識

著者： 東洋・大山正・詫摩武俊・藤永保 編

出版社：（有斐閣ブックス）

出版年：

ISBN：

試行カウンセリング

著者： 鑪幹八郎 著

出版社：（誠信書房）

出版年：

ISBN：

新訂 方法としての面接 臨床家のために

著者： 土居健郎 著

出版社：（医学書院）

出版年：

ISBN：

カウンセリングを学ぶ

著者： 佐治守夫他 著

出版社：（東京大学出版会）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（40%）

小テスト（60%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

小テストは第3回、第7回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワーク I (6月15・16日)(通信)**

担当者 羽下 大信・青木 剛・滝野 功久・中西 龍一・濱田 智崇・松下 孝江

テーマ

自分のことを感じることに、それを相手に伝えることがテーマである。

獲得目標

コミュニケーション、特に人と人とのコミュニケーションのなかで育っていく心の動きをさまざまな実験的あるいは創造的なグループ活動を通して学んでいく。個人と集団のなかで起きることのなかで、どのような課題と可能性が生まれてくるかを探求できるようにする。このグループワークはその準備期と位置づけ、問題・課題と、援助の内容を明確にすることを中心に行う。

授業の内容

[テキスト授業／5回＋スクーリング授業／10回]

内 容

- 第1回 必ずしもスクーリングの際のグループが、このように展開されるとは限りませんが(臨床心理学には、様々な学派があります)、基本的な態度として学んで下さい。(テキスト1～11ページ)【テキスト授業】
- 第2回 体験やそれによる気づきを記録せず、そのままにしておくことは、とても「もったいない」ことです。学びや気づきを深めるためにも、グループ体験の後はジャーナル(記録)をつけられることを強くおすすめします。(テキスト21～23ページ)人間関係トレーニングの視点から、家族をふり返ってみましょう。(テキスト32～35ページ)【テキスト授業】
- 第3回 プロセスとコンテンツについて学んで下さい。(テキスト42～47ページ)フィードバックは、グループワークのふり返り、シェアリング(分かち合い)に欠かせないものです。上手なフィードバックの仕方を学んで下さい。(テキスト66～68ページ)【テキスト授業】
- 第4回 一ロジャーズの「傾聴」に触れるーコミュニケーションの基本である傾聴について学び、それを身につけて下さい。(テキスト80～88ページ)【テキスト授業】
- 第5回 ーアイビーのマイクロカウンセリングに触れるーコミュニケーションの基本である傾聴について学び、それを身につけて下さい。(テキスト89～96ページ)【テキスト授業】
- 第6回 対人関係トレーニングのためのグループワークA①【スクーリング授業】
- 第7回 対人関係トレーニングのためのグループワークA②【スクーリング授業】
- 第8回 対人関係トレーニングのためのグループワークA③【スクーリング授業】
- 第9回 対人関係トレーニングのためのグループワークB①【スクーリング授業】
- 第10回 対人関係トレーニングのためのグループワークB②【スクーリング授業】
- 第11回 対人関係トレーニングのためのグループワークB③【スクーリング授業】
- 第12回 対人関係トレーニングのためのグループワークC①【スクーリング授業】
- 第13回 対人関係トレーニングのためのグループワークC②【スクーリング授業】
- 第14回 対人関係トレーニングのためのグループワークC③【スクーリング授業】
- 第15回 対人関係トレーニングのためのグループワーク まとめ【スクーリング授業】

授業以外での学習方法

教科書

人間関係トレーニング(第2版)

著者: 津村俊充・山口真人 編

出版社: (ナカニシヤ出版)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

「授業中課題」はテキスト授業のレポート1回25%、スクーリング授業のグループワークのふりかえり25%で評価する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワークⅡ(7月14・15日)(通信)**

担当者 羽下 大信・青木 剛・滝野 功久・中西 龍一・濱田 智崇・松下 孝江

テーマ

自分のことを感じることに、それを相手に伝えることがテーマである。

獲得目標

コミュニケーション、特に人と人とのコミュニケーションのなかで育っていく心の動きをさまざまな実験的あるいは創造的なグループ活動を通して学んでいく。個人と集団のなかで起きることのなかで、どのような課題と可能性が生まれてくるかを探求できるようにする。このグループワークはその開始期と位置づけ、個人を集団になじませることを中心に行う。

授業の内容

[テキスト授業／5回＋スクーリング授業／10回]

内 容

- 第1回 感情に「よい感情」、「悪い感情」といったものはなく、感情は生きていることの証です。感情について学んで下さい。(テキスト97～99ページ) 日常の言葉によるコミュニケーションをもう一度振り返ってみて下さい。(テキスト100～103ページ) 時として態度や姿勢は、言葉より正直に、そして雄弁にその人の有り様を語ります。非言語コミュニケーションについて学んで下さい。(テキスト104～107ページ)【テキスト授業】
- 第2回 「からだをひらく」「ことばをひらく」について学んで下さい。(テキスト108～111ページ) 自己概念と経験について学んで下さい。その際21、22、23、24をもう一度読み直して下さい。(テキスト112～115ページ)【テキスト授業】
- 第3回 暗黙のルール「規範(ノーム)」について学んで下さい。(テキスト48～51ページ) 集団における様々な意思決定について学んで下さい。(テキスト52～53ページ)【テキスト授業】
- 第4回 集団におけるリーダーシップについて学んで下さい。(テキスト54～57ページ) —「変わる」ためには— 社会的相互作用の循環過程について学んで下さい。(テキスト58～61ページ)【テキスト授業】
- 第5回 ご自分の「ジョハリの窓」を作して下さい。身近な人に、その人から見たあなたの「ジョハリの窓」を作ってもらい、比較するのも面白いかもしれません。(テキスト62～65ページ)【テキスト授業】
- 第6回 対人関係トレーニングのためのグループワークD①【スクーリング授業】
- 第7回 対人関係トレーニングのためのグループワークD②【スクーリング授業】
- 第8回 対人関係トレーニングのためのグループワークD③【スクーリング授業】
- 第9回 対人関係トレーニングのためのグループワークE①【スクーリング授業】
- 第10回 対人関係トレーニングのためのグループワークE②【スクーリング授業】
- 第11回 対人関係トレーニングのためのグループワークE③【スクーリング授業】
- 第12回 対人関係トレーニングのためのグループワークF①【スクーリング授業】
- 第13回 対人関係トレーニングのためのグループワークF②【スクーリング授業】
- 第14回 対人関係トレーニングのためのグループワークF③【スクーリング授業】
- 第15回 対人関係トレーニングのためのグループワーク まとめ【スクーリング授業】

授業以外での学習方法

教科書

人間関係トレーニング(第2版)

著者: 津村俊充・山口真人 編

出版社: (ナカニシヤ出版)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

「授業中課題」はテキスト授業のレポート1回25%、スクーリング授業のグループワークのふりかえり25%で評価する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 コミュニティ心理学(通信)

担当者 濱田 智崇

テーマ

獲得目標

人間を生活者として、環境を含めて理解し、その視点での心理的援助を学ぶ

授業の内容

[メディア授業／全15回] コミュニティ心理学の歴史的背景、基本的な発想、背景となるいくつかの理論、介入と援助について理解する。家庭や地域、学校教育、産業領域といった各分野での実践例にふれることを通じて、理解を深める。さらに、社会的文脈から人間の心理を理解できるようになり、さらに心理学を学んだ者として、自分自身が社会に対しどうかかわるかを考えることができるようになる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 コミュニティ心理学とは何か・その概念と理念
- 第3回 コミュニティ心理学の歴史的背景
- 第4回 基本的発想(1)人と環境の適合を目指して
- 第5回 基本的発想(2)エンパワメントとサービス提供のあり方
- 第6回 背景となる理論(1)危機理論・ストレス理論等
- 第7回 背景となる理論(2)ソーシャルサポートをめぐって
- 第8回 介入と援助(1)危機介入・コンサルテーション
- 第9回 介入と援助(2)さまざまなアプローチ
- 第10回 子育て支援の実践から
- 第11回 DV 対応における実践から
- 第12回 学校・教育における実践から
- 第13回 産業・職場における実践から
- 第14回 男性のための悩み相談の実践から
- 第15回 まとめ～学んだ皆さん自身の社会とのかかわりを考える

授業以外での学習方法

毎回の授業内容を復習し、それに対する自分の考え方をまとめておく。行政やNPO 団体、ボランティア団体などが行っている市民活動にも関心を向けておき、授業中に紹介した実践に関連するものについて調べてみる。自分が関心をもてるものには、余裕があれば参加してみる。

教科書

よくわかるコミュニティ心理学第2版

著者： 植村勝彦・高畠克子・箕口雅博・原裕視・久田満 編

出版社：(ミネルヴァ書房)

出版年：

ISBN：

参考書

男の電話相談

著者： 『男』悩みのホットライン 編

出版社：(かがわ出版)

出版年：

ISBN：

成績評価

e90202f310

試験 ()

小テスト (60%)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストは第5回、第9回の授業後に行う「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 産業心理学 I (組織行動論) (通信)

担当者 石田 正浩

テーマ

よりよい組織を作るために必要な心理学的な視点を獲得する。

獲得目標

組織において人を動かす上で生じる問題を、心理学的な観点から適切に理解し、効果的な対処が考えられるようになる。現在進行中の働きかたの変化に対しても、その心理学的な意味を理解・説明できるようになる。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 組織に生きる人々の心理・行動の問題として、ワークモチベーション・集団生産性・リーダーシップ・ストレスを取り上げ、心理学的な人間理解とはどのようなものを学ぶ。自分が所属する集団での経験を参照できるように身近な事例を多く取り入れて講義する。

内 容

- 第1回 組織行動論・組織心理学とは
 - 第2回 ワーク・モチベーション1 基本概念、欲求階層理論
 - 第3回 ワーク・モチベーション2 2要因理論と達成動機づけ
 - 第4回 ワーク・モチベーション3 内発的動機づけ
 - 第5回 ワーク・モチベーション4 公平理論・期待理論・目標設定理論
 - 第6回 応用行動分析
 - 第7回 ワークモチベーション理論と実践 目標管理・成果主義・ジョブデザイン
 - 第8回 集団生産性1 基本的な枠組み、社会的促進、規範の影響
 - 第9回 集団生産性2 シュタイナーの課題分類と生産性
 - 第10回 集団生産性3 集団意思決定
 - 第11回 リーダーシップ1 リーダーシップとは、特性論、行動論
 - 第12回 リーダーシップ2 条件即応理論
 - 第13回 リーダーシップ3 変革型リーダーシップ理論、LMX
 - 第14回 組織ストレス1 組織ストレス理解の基本的枠組み、ラザルスのストレス理論
 - 第15回 組織ストレス2 バーンアウト、ストレスの管理
-

授業以外での学習方法

自分が所属している(した)集団での経験を振り返り、概念の意味を実感する。

教科書

参考書

産業・組織心理学エッセンシャルズ 改訂三版

著者: 田中堅一郎編

出版社: (ナカニシヤ出版)

出版年:

ISBN:

新版 組織行動のマネジメント

著者: スティーブン P. ロビンス著、高木春夫訳

出版社: (ダイヤモンド社)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（40%）

授業中課題（）

参加度（）

小テストは第5回、第10回、第15回の授業後に行う

小テスト（60%）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **学習心理学(通信)**

担当者 坂本 敏郎

テーマ

学習と記憶の心理学に関わる諸理論の理解

獲得目標

古典的条件づけ、オペラント条件づけを中心に、様々な学習の種類(報酬学習、運動学習、逃避・回避学習、空間認知学習)とその理論を理解する。学習・記憶を担う神経回路を理解し、学習障害、記憶障害、認知障害のメカニズムについても考察する。

授業の内容

[メディア授業/全15回] 授業の目的を達成するよう、テキストに沿って講義を行う。

内 容

- 第1回 学習研究の方法/馴化と鋭敏化
 - 第2回 古典的条件づけ1: 基本的特徴
 - 第3回 古典的条件づけ2: 信号機能
 - 第4回 古典的条件づけ3: 学習内容と発現システム
 - 第5回 古典的条件づけの脳内機構(恐怖条件づけ、瞬目反射条件づけ)
 - 第6回 オペラント条件づけ1: 基本的特徴
 - 第7回 オペラント条件づけ2: 強化スケジュール
 - 第8回 オペラント条件づけ3: 刺激性制御
 - 第9回 オペラント条件づけの脳内機構(空間学習)
 - 第10回 選択行動、マッチング
 - 第11回 観察学習、運動技能の学習
 - 第12回 概念学習、問題解決行動
 - 第13回 学習と記憶(学習障害、認知障害)
 - 第14回 動物の認知学習
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

学習心理学関連図書による自学自習

教科書

学習の心理

著者: 実森正子・中島定彦 著

出版社: (サイエンス社)

出版年:

ISBN:

参考書

メイザーの学習と行動

著者: ジェームズ・E. メイザー 著

出版社: (二瓶社)

出版年:

ISBN:

動物の認知学習心理学

著者: J.M.ピアース 著

出版社: (北大路書房)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

授業中課題 (60%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は第5回、第10回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 よそおいの心理学(通信)

担当者 日比野 英子

テーマ

外見と心の関係

獲得目標

本講義では、粧いと装いという外見のデザインや印象管理を行うことが、人の心の有り様や心の健康とどのような関係があるのか、人と人とのコミュニケーションにどのような影響をおよぼすのかという理解を促し、さらに福祉や医療の場でこれらを用いたサポートの実践例を紹介し、理解を深めてもらう。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 以下のように、よそおいについての心理学領域における基礎研究を紹介し、後にそれらを活用した実践例を紹介するとともに、臨床心理学的見地からのよそおいについての考察を展開する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 外見をめぐる諸問題、よそおいとは、本授業のねらい・方針
- 第2回 装いの社会・心理的機能①
- 第3回 装いの社会・心理的機能②
- 第4回 顔について① 顔とは(顔の意味、顔の認知等)
- 第5回 顔について② こども顔とおとな顔、女顔と男顔
- 第6回 顔について③ 顔認知のステレオタイプ
- 第7回 化粧とは 化粧の文化誌、メーキャップの心理学
- 第8回 社会心理学における化粧研究
- 第9回 感情心理学・生理心理学における化粧研究①
- 第10回 感情心理学・生理心理学における化粧研究②
- 第11回 化粧とパーソナリティ
- 第12回 化粧の臨床心理学的応用① 精神障害者を対象として
- 第13回 化粧の臨床心理学的応用② 高齢者を対象として
- 第14回 化粧と装いの臨床心理学的応用 身体障害者を対象として
- 第15回 まとめ 臨床心理学的視点からみたよそおいの意味

授業以外での学習方法

化粧や服装について、多岐にわたる視点からアプローチするため、特に1冊の教科書を用いないが、下記の参考書や授業中に紹介する書籍を精読して興味を深めてほしい。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

被服と化粧の社会心理学

著者: 高木修 監修 大坊郁夫・神山進他 著

出版社: (北大路書房)

出版年:

ISBN:

化粧行動の社会心理学

著者： 大坊郁夫他 著

出版社：（北大路書房）

出版年：

ISBN：

個と向き合う介護

著者： 西本典良・日比野英子他 著

出版社：（誠信書房）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（50%）

授業中課題（50%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

小テストは第6回、第11回の授業後に行う「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習 I (通信)

担当者 吉野 衣美

テーマ

現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を習得する。

獲得目標

Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養い、情報社会における様々な危険を防ぐための知識、情報を扱う上でのマナーを身につける。

授業の内容

[メディア授業/全15回] 学生生活ですぐに役立つレポートやプレゼンテーション資料の作成に必要なパソコンスキルを基礎から習得する。

内 容

- 第1回 パソコンの基本操作 Windows7(OS)の基本操作、ファイルとフォルダ操作
- 第2回 Word2010(1)チラシの作成《主な機能》フォント、中央揃え、インデント、タブ、表作成、ワードアート、クリップアート、図の挿入、図形、ページ罫線、印刷
- 第3回 Word2010(2)レポート作成《主な機能》ページ設定、表紙の作成、ページ番号、Excelの表とグラフの挿入、脚注、引用、参考文献、スタイル、スペルチェックと文章校正
- 第4回 Word2010(3)練習問題 第2～3回内容の復習
- 第5回 Excel2010(1)スコア表の作成《主な機能》AVERAGE関数、IF関数、絶対参照、合計、COUNTIF関数、SUMIF関数、RANK.EQ関数
- 第6回 Excel2010(2)スコア表の作成《主な機能》小数点以下の表示桁数を減らす/増やす、桁区切りスタイル、フォントサイズ、セルを結合して中央揃え、罫線、ページ設定、印刷
- 第7回 Excel2010(3)グラフの作成《主な機能》シートの操作、並べ替え、積み上げ横棒グラフの作成、グラフの編集、改ページ、印刷
- 第8回 PowerPoint(1)スライド作成の注意点、スライドの作成《主な機能》テーマの利用、スライドの挿入、スライドの操作、フォントサイズ、段落番号、ワードアート、クリップアート、SmartArt、Excelの表の挿入、画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行
- 第9回 Word2010(3)レポートの構成 レポートの基本、良いレポートに必要なもの、レポートの構成、レポート作成の流れ、アウトラインとは、Wordのアウトライン機能
- 第10回 Excel2010(4)アンケート結果の集計1《主な機能》リスト形式、アンケート結果の数値化、COUNTIF関数、SUMIF関数、積み上げ縦棒グラフの作成、グラフの編集
- 第11回 Excel2010(5)アンケート結果の集計2《主な機能》列単位で並べ替え、シートを分けてアンケート結果を検証 文章とは、分かりやすい文(1文が短い、主語と述語の関係が分かりやすい、誤解されない、文に矛盾がない、品格がある)、良い文章のポイント(文体の統一、用語の統一と確認)
- 第12回 Word2010(4)アンケート結果レポートの作成《主な機能》ページ設定、段組み、表の作成、Excelのグラフの挿入、段区切り、図表番号、参考文献、文末脚注
- 第13回 PowerPoint(2)アンケート結果スライドの作成《主な機能》スライド作成の流れ、テーマの利用、アウトラインペインの利用、SmartArt、Excelのグラフの挿入、図形の変更
- 第14回 PowerPoint(3)アンケート結果スライドの作成《主な機能》画面切り替え効果、アニメーションの設定、スライドショーの実行 PowerPoint(4)発表の準備《主な機能》ノートの入力、配布資料の印刷、ノートの印刷、リハーサル
- 第15回 セキュリティと情報モラル セキュリティとは、コンピューターウイルス、スパイウェア、不正アクセス、不正アクセスを防ぐ対策、フィッシング詐欺、情報社会の問題点、著作権・知的財産権、個人情報、ネチケット

授業以外での学習方法

教科書

身近なテーマで作って学ぶ！学生のための Office2010&情報モラル

著者:

出版社: (noa出版)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (100%)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 哲学概論(通信)

担当者 安部 彰

テーマ

哲学の広がりと深さを学ぶ。

獲得目標

哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。とくに、近代以降の社会哲学を一つの軸として、様々な事象や出来事を広い視野で捉えるための基礎になる知識と考え方を獲得すること。

授業の内容

[テキスト授業／全15回] 哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどのような意味をもつのかについて、とくに「個人と社会」の関係性を一つの軸として、様々な哲学者の著作を通して考える。

内 容

- 第9回 第四章 外界(2) (テキスト157～173ページ) 同上。
- 第10回 第五章 科学(1) (テキスト174～185ページ) 科学哲学の基本的な考え方と枠組みを知り、科学に関する哲学的なアプローチの方法を学ぶ。
- 第11回 第五章 科学(2) (テキスト186～198ページ) 同上。
- 第12回 第六章 心(1) (テキスト199～223ページ(「他人の心」まで)) 心と身体、心と脳の関係に関する哲学的な話題と議論について理解する。
- 第13回 第六章 心(2) (テキスト特に223～228ページ) 他人の心に関する複数の考え方を知り、常識的な答えに距離を取って考える。
- 第14回 第七章 芸術 (テキスト229～254ページ) 芸術とは何か、芸術を芸術にする本質はあるのか否か、という問いとそれに対する様々な考え方を知る。
- 第15回 まとめ(全体の再読) あらためて全体のなかで最も興味深いと思われる箇所について再読し、できれば参考文献もあたり、考え方を深める。
- 第1回 第一章 はじめに／神(1) (テキスト11～66ページ(特に40まで)) 哲学とは何かについて知り、哲学の議論の運び方を(馴染みはないかもしれないが)神の存在証明という文脈で理解する。
- 第2回 第一章 神(2) (テキスト40～66ページ) とくに「悪」と「自由」の関係性という論点を考える。
- 第3回 第二章 正しいこと・正しくないこと(1) (テキスト67～79ページ) 義務論の議論の論理の組み立てを確認し批判論とともに自らの直観に照らして考える。
- 第4回 第二章 正しいこと・正しくないこと(2) (テキスト80～109ページ) 功利主義、徳倫理の考え方を知り、具体的な事例についても実際に当てはめて考える。またメタ倫理の問題の捉え方を学ぶ。
- 第5回 第三章 政治(1) (テキスト110～119ページ) 平等という理念の意義と、平等主義をめぐる争点について考える。
- 第6回 第三章 政治(2) (テキスト120～132ページ(一行目まで)) 民主主義と言論の自由の意義について考える。
- 第7回 第三章 政治(3) (テキスト132～146ページ(自由の剥奪～)) 国家が処罰権をもっているのはなぜか。それに対する個人の権利は正当化されるのか否か。
- 第8回 第四章 外界(1) (テキスト147～156ページ) 世界を知覚するとはどういうことか、感覚は信頼できるのか否かという問題とそれに対する考え方を学ぶ。

授業以外での学習方法

できれば、関心のある部分について、入手しやすい参考文献を使ってさらに考察を深めてほしい。(参考文献はとくに文庫で入手できるものを中心に挙げている)。

教科書

哲学の基礎

著者: ウォーバートン, ナイジェル 著・栗原泉 訳

出版社: 講談社

出版年: 2010

ISBN:

参考書

倫理とは何か—猫のアイジヒトの挑戦

著者： 永井均

出版社：（筑摩書房）

出版年：

ISBN：

これからの「正義」の話をしよう—いまを生き延びるための哲学

著者： サンデル, マイケル 著・鬼澤忍 訳

出版社：（早川書房）

出版年：

ISBN：

哲学入門(ちくま学芸文庫)

著者： ラッセル, バートランド 著・高村夏輝 訳

出版社：（筑摩書房）

出版年：

ISBN：

哲学の謎

著者： 野矢茂樹

出版社：（講談社）

出版年：

ISBN：

ロボットの心—7つの哲学物語

著者： 柴田正良

出版社：（講談社）

出版年：

ISBN：

芸術哲学入門

著者： ラコスト, ジャン 著・阿部成樹 訳

出版社：（白水社）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

「授業中課題」は第7回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本人と宗教(通信)

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本人の宗教観の原理的性格を考える

獲得目標

日本人は、無宗教だとよく言われる。確かに西欧のキリスト教的な意味での「宗教」は存在しなかったかもしれない。だが仏教は確かに日本に定着したし、また様々な事象に対する「信仰」というものがなかったわけではない。日本人もやはり信心深い性格を強烈に有していたのである。その意味では「宗教」は確かにあったと言えるだろう。だが、今日では科学的な合理性を重んじるが故に本来的に不合理な面を持つ「宗教」や「信仰」が社会全体で急激に希薄になっている。だが人間はすぐれて宗教的な性格を持った存在でもある。結局は日常において宗教もしくは宗教的なものに触れざるを得ないといっても過言ではない。一方で宗教を否定しつつも他方ではそれを無視し得ないのである。そうした矛盾が今日起きている問題の背景のひとつにあるといってよい。本講義では、日本人の宗教観を支える原理的な側面を探り出し、人は宗教とどのように関わらなければならないのかについて考えてみたい。したがって諸君の到達目標は、一つには日本人の宗教観の原理的側面を知ることであり、二つには自分たちが宗教とどのように関係を取り結ぶべきかについて一定の考えを持つ、ということになる。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 生活の中にあるさまざまな宗教現象を材料として上記の目標に近づきたい。

内 容

- 第1回 宗教をどのように粹づけるか
- 第2回 神と仏のはざままで—仏教とであった日本人はどのように反応したか
- 第3回 盆行事について考える(1)—概念規定と行事内容
- 第4回 盆行事について考える(2)—起源と変遷そしてその意味
- 第5回 観音と地蔵(1) 観音の誘惑—庶民にとっての観音信仰
- 第6回 観音と地蔵(2) 野の石仏が「地蔵」と呼ばれる理由
- 第7回 ゴジラはなぜ神と呼ばれるのか
- 第8回 眼の霊力について考える—一つ目の鬼、節分・放相氏、そして写楽包介へ
- 第9回 鬼で鬼を払う—「払い」の民俗構造
- 第10回 水神の制御と仏教的神—寺院創建伝説に探る
- 第11回 仏教守護神から福の神へ—毘沙門天信仰の歴史(1)・中国
- 第12回 仏教守護神から福の神へ—毘沙門天信仰の歴史(2)・日本
- 第13回 盗む空海—神話的空海の仏教伝承
- 第14回 日本人のあの世—日本人の他界観はどのように変わったか
- 第15回 復習とまとめ

授業以外での学習方法

宗教学の基礎的な知識を得てほしい。また日常のなかで折に触れて宗教と自身の関係について考えてほしい。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

宗教学

著者: 岸本英夫

出版社: (大明堂)

出版年:

ISBN:

宗教学入門

著者： 棚次正和・山中弘 編著

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年： ISBN：

日本人の一生〈上〉—初心者のための宗教民俗学入門

著者： 吉田清

出版社：（清文堂出版）

出版年： ISBN：

日本人の一生〈下〉—初心者のための宗教民俗学入門

著者： 吉田清

出版社：（清文堂出版）

出版年： ISBN：

その他は授業内で指示。

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験（40%）

小テスト（60%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

小テストは第7回、第14回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 言語コミュニケーション論(通信)

担当者 北林 利治

テーマ

翻訳と通訳を通して学ぶ言語コミュニケーションの基礎

獲得目標

①日本語と英語の翻訳と通訳を通して、言語コミュニケーションのさまざまな側面の理解を深める。②日本語と英語の比較を通して、人間の言語の性質や機能、異言語間で意味がどのように伝達されるのかという問題についての理解を深める。

授業の内容

[テキスト授業／全15回] ことばによるコミュニケーションを、翻訳と通訳に焦点をあわせて、さまざまな観点から検討してみる。翻訳や通訳は、異なる言語のあいだで意味がどのように伝達されるのかということにたいして、さまざまなおもしろい材料を提供してくれる。たとえば、日本語のスピーチで「ただいまご紹介にあずかりました〇〇です」と言ったとして、これを英語に通訳する場合、どのようにしたらよいのだろうか。日本語と英語の言語的な違いのみならず、異文化をどう訳すかという問題も扱いたいと思う。

内 容

- 第1回 コミュニケーションとは何か(テキスト2～14ページ) 言語によるコミュニケーションの特徴、ことばの機能
- 第2回 ことばの意味とコミュニケーション①(テキスト15～27ページ) (単語の意味、日本語と英語の意味のずれ)
- 第3回 ことばの意味とコミュニケーション②(テキスト27～36ページ) 意味の記述と辞書、比喩と言語表現
- 第4回 ことばの運用とコミュニケーション(テキスト37～50ページ) 言語の変種、テキストの要素、発話行為
- 第5回 翻訳とは何か(テキスト52～71ページ) 原文に忠実な翻訳とは、翻訳に必要なもの
- 第6回 英日翻訳英文法(テキスト72～88ページ) 英日翻訳の難しさ、英日翻訳英文法10のルール
- 第7回 日本語の発想と英語の発想(テキスト89～105ページ) 世界の中の日本語、日本語の特色
- 第8回 変幻自在の日本語(テキスト106～122ページ) 日本語の文末表現と英訳、ことば遊びの翻訳
- 第9回 日英翻訳における諸問題①(テキスト123～143ページ) 類義語の選択、日本文化に関する語、オノマトペ
- 第10回 日英翻訳における諸問題②(テキスト144～160ページ) 日英語における主語・代名詞、日英語の敬語
- 第11回 通訳とは何か①(テキスト162～174ページ) 通訳の歴史、通訳の種類
- 第12回 通訳とは何か②(テキスト174～187ページ) 通訳の分野の分類、コミュニケーションのプロとしての通訳者
- 第13回 通訳のプロセス①(テキスト188～205ページ) 通訳のプロセスの理解
- 第14回 通訳のプロセス②(テキスト205～210ページ) 翻訳と通訳の比較
- 第15回 通訳トレーニング(テキスト211～220ページ) スラッシュ・リーディングの基本

授業以外での学習方法

各回のページの内容と関連する教科書の最後にある練習問題をする。

教科書

初めて学ぶ翻訳と通訳—言語コミュニケーション入門

著者: 北林利治・杉山泰・ボナン, リチャード・西村 友美

出版社: (松柏社)

出版年:

ISBN:

参考書

教科書の最後に記載がある参考文献の他、関連するウェブサイトは開講時に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

eky301d110

試験（40%）

授業中課題（）

参加度（）

小テストは第4回、第8回、第12回の授業後に行う

小テスト（60%）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **現代のメディアと表現(通信)**

担当者 野村 幸一郎

テーマ

宮崎駿の思想の理解を通して、現代社会における課題を考えること

獲得目標

宮崎駿のアニメーションはきわめてメッセージ性が高い。それぞれの作品には現代文明に対する宮崎の批判的な視点がちりばめられ、現在を生きる私たちに対してさまざまな警鐘をうち鳴らしている。『風の谷のナウシカ』『もののけ姫』を中心に分析を進めながら、宮崎駿の思想や文明観を理解し、私たちがこれからの時代を生きていくための指針の獲得を目指していきたい。

授業の内容

[テキスト授業／全15回]

内 容

- 第1回 『風の谷のナウシカ』(1) 風の谷の「人民」(テキスト12～28ページ)
- 第2回 『風の谷のナウシカ』(2) 〈共生〉の構造(テキスト28～56ページ)
- 第3回 『風の谷のナウシカ』(3) 『風の谷のナウシカ』から『天空の城ラピュタ』へ(テキスト56～67ページ)
- 第4回 『風の谷のナウシカ』(4) マルキシズムへの懐疑(テキスト67～74ページ)
- 第5回 『風の谷のナウシカ』(5) 「広場の孤独」という実存様式 堀田善衛との接点(テキスト74～93ページ)
- 第6回 国民国家へのまなざし—『紅の豚』と『ハウルの動く城』(テキスト93～114ページ)
- 第7回 『もののけ姫』(1) 『もののけ姫』と照葉樹林文化論(テキスト116～135ページ)
- 第8回 『もののけ姫』(2) カインの末裔(テキスト136～146ページ)
- 第9回 『もののけ姫』(3) 『もののけ姫』から『となりのトトロ』へ—柳田園男との接点(テキスト146～155ページ)
- 第10回 『もののけ姫』(4) アニミズムの受容について(テキスト156～165ページ)
- 第11回 『もののけ姫』(5) タタリ神とデダラボッチ(テキスト165～179ページ)
- 第12回 『もののけ姫』(6) 自我の行方—司馬遼太郎・網野善彦との接点(テキスト179～200ページ)
- 第13回 キキの旅立ち—『魔女の宅急便』(テキスト202～209ページ)
- 第14回 『千と千尋の神隠し』のアニミズム(テキスト210～224ページ)
- 第15回 現代文明を超克する〈私〉—『崖の上のポニョ』(テキスト224～230ページ)

授業以外での学習方法

受講を開始するに当たって、『風の谷のナウシカ』『天空の城ラピュタ』『となりのトトロ』『魔女の宅急便』『紅の豚』『もののけ姫』『千と千尋の神隠し』『ハウルの動く城』『崖の上のポニョ』を視聴しておくこと

教科書

宮崎駿の地平—広場の孤独・照葉樹林・アニミズム

著者： 野村幸一郎

出版社：(白地社)

出版年：

ISBN：

参考書

時代の足音

著者： 宮崎駿・堀田善衛・司馬遼太郎

出版社：(ユニー・ビーユー)

出版年：

ISBN：

出発点

著者: 宮崎駿

出版社: (徳間書店)

出版年:

ISBN:

風の帰る場所

著者: 宮崎駿

出版社: (ロッキング・オン)

出版年:

ISBN:

折り返し点

著者: 宮崎駿

出版社: (岩波書店)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40%)

小テスト (60%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本国憲法(通信)

担当者 上出 浩

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

獲得目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の内容

[テキスト授業/全15回] 日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をひとつずつ積み重ねていく。

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ(テキスト1~14ページ) 各テーマを学ぶ前に、日本国憲法が憲法史上どのような位置づけにあるかを確認する。
- 第2回 日本国憲法の3大原則と象徴天皇制(テキスト14~21ページ) 日本国憲法が基礎とする三大原則を学ぶ。また、我が国に特有である象徴天皇制を学ぶ。
- 第3回 日本国憲法の平和主義(テキスト21~29ページ) 日本国憲法の特徴である平和主義の内容及び現代的な意義を学ぶ。
- 第4回 日本国憲法の人権(人権総論:人権の分類、主体、制限、公共の福祉)(テキスト30~35ページ) 人権を学ぶ上で必要な基礎知識をつけ、人権に共通する問題を学ぶ。
- 第5回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)(テキスト35~38ページ) プライバシーを始め、新しい人権と呼ばれるものがどのように保障され、どのような内容かを学ぶ。
- 第6回 日本国憲法の人権(精神的自由(1):思想・良心の自由、信教の自由)(テキスト39~43ページ) 精神的自由のうち、心の中の自由と宗教の自由、そして政教分離の意義を学ぶ。
- 第7回 日本国憲法の人権(精神的自由(2):表現の自由)(テキスト43~48ページ) 最も大切な自由であるとされる表現の自由の内容とその意義を学ぶ。
- 第8回 日本国憲法の人権(経済的自由)(テキスト48~50ページ) 近代市民革命において中心的な役割を果たし、社会権により制限されることになる経済的自由を学ぶ。
- 第9回 日本国憲法の人権(社会権)(テキスト52~60ページ) 現代憲法において大きな役割を果たす、社会権の意義を学ぶ。
- 第10回 日本国憲法の人権(人身の自由、手続き的保障、そのほかの権利)(テキスト50~51・60~71ページ) 実体的権利を支える手続き的保障、参政権などのその他の権利の内容を学ぶ。
- 第11回 日本国憲法の統治(権力分立、国会)(テキスト72~77ページ) 統治機構の基本である権力分立と国権の最高機関であるとされる国会及び主権を学ぶ。
- 第12回 日本国憲法の統治(内閣、財政)(テキスト77~82ページ) 議院内閣制の下での内閣及び、内閣が大きな役割を果たす財政について学ぶ。
- 第13回 日本国憲法の統治(裁判所、地方自治)(テキスト82~86・94~99ページ) 裁判所に関わる基本的な内容と、地方自治について学ぶ。
- 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)(テキスト86~94ページ) 人権保障でも最も大きな役割を果たす、違憲立法審査権の位置づけ、意義を学ぶ。
- 第15回 日本国憲法の憲法改正、裁判員制度(テキスト99~103・243~257ページ) 平和主義と関わり論じられる憲法改正と、近年で最も大きな法制度改革である裁判員制度についてその意義を学ぶ。

授業以外での学習方法

憲法問題、特に人権問題は身近な所に多数存在しながら見逃してしまいがちである。それぞれのテーマを学習した後、新聞やニュースに現れる社会問題だけでなく、身近な所に隠れている人権問題を探し出し、憲法の諸原理・諸原則、思想を当てはめてみると、より理解が深まる。また、上記シラバスで取り上げられていない最新問題につき、第2部を参考にすると良い。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証 第5版

著者： 小林武ほか編

出版社：（法律文化社）

出版年：

ISBN：

参考書

憲法 第5版

著者： 芦部信喜著・高橋和之補訂

出版社：（岩波書店）

出版年：

ISBN：

ポケット六法 平成23年版

著者： 江頭憲治郎他編

出版社：（有斐閣）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（40%）

小テスト（60%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

小テストは第3回、第10回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **法学概論 I (通信)**

担当者 近藤 実千代

テーマ

公法に関する基礎知識の習得

獲得目標

公法の基本的な仕組み、重要な概念、重要判例等の基礎知識を習得するとともに、公法的な思考を身につける。公法の基本的なテーマについて検討し、各諸制度について考察する。

授業の内容

[テキスト授業／全15回] テキスト学習を行い、適宜に六法で条文を参照していく。計4回の小テストを実施し、基本的な制度に関する理解度を確認する。

内 容

- 第1回 イントロダクション／公法へのアプローチ(テキスト1～15ページ) 公法は、私たちの生活にどのように関わっているのかを知り、公法の位置づけや領域について学ぶ。
- 第2回 幸福追求権(テキスト:16～28ページ) プライバシー権、名誉権、環境権、生命・身体に関する権利などは、判例によってどのように認められているのかを理解する。
- 第3回 人権の享有主体／外国人の人権(テキスト:29～44ページ) 未成年者、天皇、法人、外国人は、一般の国民と人権の保障のあり方がどう違うのかを学ぶ。
- 第4回 法の下での平等(テキスト:45～59ページ) 男女の平等について学ぶ。労働環境の改善やポジティブ・アクションへの取り組み状況、DV問題などを取り扱う。
- 第5回 思想・良心の自由(テキスト:60～78ページ) 思想・良心の自由として、保護される範囲を学ぶ。思想・良心の侵害と思想に反する行為の義務付けとの関係について知る。
- 第6回 表現の自由(テキスト:79～98ページ) 表現の自由は、なぜ優越的地位にあるのかを知る。表現の自由の内容とその制限について理解する。
- 第7回 国会と国会議員(テキスト:99～118ページ) 国会の機能や国会議員の特権について理解するとともに、選挙制度の実態や政治家と官僚の関係について学ぶ。
- 第8回 裁判所と司法権(テキスト:119～137ページ) 裁判所の権能と国民の司法参加について学ぶ。違憲審査制について理解する。
- 第9回 行政組織法(テキスト:138～159ページ) 公務員の勤務条件は、民間企業の従業員とどのように異なるのか、公務員に課せられる義務とは何かについて理解する。
- 第10回 行政基準／行政行為／行政指導(テキスト:160～181ページ) 行政基準、行政行為、行政指導とは何かを知る。行政行為の裁量や効力について理解する。
- 第11回 行政強制(テキスト:182～198ページ) 行政強制の種類と内容について理解する。その上で、即時強制と行政罰について概観する。
- 第12回 情報公開制度(テキスト:199～223ページ) 情報公開制度について学ぶ。情報公開法を中心として、行政に対する情報開示のしくみについて理解する。
- 第13回 個人情報保護制度(テキスト:224～240ページ) 個人情報保護の必要性和行政機関の個人情報の取扱いについて学ぶ。
- 第14回 行政救済法(テキスト:241～260ページ) 行政不服申立てと取消訴訟について、種類やしきみ、要件や効力について理解する。国家賠償と損失補償の違いを学ぶ。
- 第15回 地方自治(テキスト:261～281ページ) 自治体の運営について学ぶ。住民と自治体運営との関わりについて理解する。

授業以外での学習方法

公法の法改正や判例に関するニュースについて、論理的に説明できるよう試みる。

教科書

新・なるほど公法入門

著者： 村上英明・小原清信(編)

出版社：(法律文化社)

出版年： ISBN:

参考書

はじめての憲法学 第2版

著者： 中村睦男(編)

出版社：(三省堂)

出版年： ISBN:

はじめての行政法 第2版

著者： 石川敏行ほか

出版社：(有斐閣)

出版年： ISBN:

2013年版の小型六法

著者：

出版社：

出版年： ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (100%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストは4回行い、第5回・第8回・第11回・第15回の授業後に実施する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 民法(通信)

担当者 近藤 実千代

テーマ

民法に関する基礎知識の習得

獲得目標

民法が日常生活にどのように関連しているのかを明らかにし、多面的なものの見方を養う。法的な思考回路を学び、初歩的な法的问题発見能力や問題処理能力を身につける。

授業の内容

[テキスト授業／全15回] テキスト学習を行い、適宜に六法で条文を参照していく。計4回の小テストを実施し、基本的な制度に関する理解度を確認する。

内 容

- 第1回 ガイダンス(テキスト2～17ページ) 民法の対象範囲や特徴を概観し、民法の意義について学ぶ。
- 第2回 制限行為能力者の保護(テキスト20～33ページ) 4類型の制限行為能力者の取消について、それぞれ整理する。また、制限能力者の相手方の保護として、どんな制度があるのかを学ぶ。
- 第3回 問題のある意思表示(テキスト33～39ページ) 詐欺・強迫により取消可能な場合、錯誤・心裡留保・虚偽表示により無効となる場合を整理する。
- 第4回 代理・無権代理・表見代理／無効と取消し(テキスト39～43ページ) 代理の要件を概観する。無権代理と表見代理の関係について学び、表見代理の3つの類型を整理する。無効と取消のそれぞれの効果について学ぶ。
- 第5回 条件・期限／時効(テキスト43～50ページ) 条件・期限とは、何をさすのかを知る。消滅時効と取得時効について、それぞれの意義を理解する。
- 第6回 物権変動(テキスト60～78ページ) 不動産物権変動と動産物権変動において、それぞれの対抗要件を理解する。
- 第7回 契約総論(テキスト92～108ページ) 契約の分類について概観し、契約の効力には、どのようなものがあるのかを理解する。
- 第8回 契約各論(テキスト108～124ページ) 重要な典型契約について、ひとつお概観する。各種の契約が、どのような内容のものであるかを理解した上で、要件と効果を整理する。
- 第9回 不法行為(テキスト126～139ページ) 一般不法行為の要件と効果について学ぶ。特殊な不法行為には、どのようなものがあるのかを知る。
- 第10回 債権者代位権と詐害行為取消権(テキスト146～160ページ) 債権者代位権と詐害行為取消権において、それぞれの意義・要件・効果を整理する。
- 第11回 多数当事者の債権関係(テキスト161～170ページ) 連帯債務と保証債務において、それぞれの意義と効力について理解する。
- 第12回 約定担保物権と法定担保物権(テキスト186～196ページ) 担保物権の意義と種類を学ぶ。特に、抵当権の効力について理解を深める。
- 第13回 婚姻と離婚(テキスト202～210ページ) 婚姻の成立と効果について学ぶ。婚約や内縁は、どういった状態をいうのかを知る。離婚時の財産分与の考え方について学ぶ。
- 第14回 親子と養子／親権・後見・補佐・補助(テキスト210～216ページ) 認知制度、養子縁組制度などを概観し、親子間の法的関係を理解する。
- 第15回 相続(テキスト218～231ページ) 法定相続における相続人と相続分について理解する。遺言相続における遺留分について学ぶ。

授業以外での学習方法

新聞やテレビ等のニュースに注意を払い、法との関連事項について留意する。

教科書

民法への招待 第4版

著者： 池田真朗

出版社：(税務経理協会)

出版年: ISBN:

参考書

新・キーワード民法

著者: 中田邦博・高島英弘

出版社: (法律文化社)

出版年: ISBN:

2013年版の小型六法

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (100%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **経営学概論(通信)**

担当者 仲田 正機

テーマ

企業、経営、マネジメントの理論を学び、企業経営の実際を分析する手がかりにする。

獲得目標

「会社(企業)が事業を経営する」という基本命題を分析的に理解して、企業経営をめぐる社会の仕組み＝社会システムを理解することが、この科目の目標である。

授業の内容

[メディア授業/全15回] 会社の仕組みを明らかにし、経営のノウハウやスキルについても講義します。

内 容

- 第1回 はじめに—企業とは何か、会社とは何か、「会社(企業)が事業を経営する」とは?その仕組みを理解する—
- 第2回 企業における様々な形態について—会社の基本を押さえる—
- 第3回 企業が営む事業の種類と業態に目を向けよう—自社の営む事業やその業態は、会社のどこで決めるのか—
- 第4回 企業における一般的な意思決定の仕組みについて
- 第5回 事業の経営に必要な具体的な仕事(1)—会社の側から見た仕事—
- 第6回 事業の経営に必要な具体的な仕事(2)—業種と業態、個人の入社から退職まで—
- 第7回 経営組織の基本を押さえる—職能部門組織と事業部制組織、ラインとスタッフ—
- 第8回 マネジメントの見方・考え方を知ろう—マネジメント論の源流と主流—
- 第9回 マネジメントへの工学的アプローチ(「科学的管理法」とその後の発展)
- 第10回 マネジメントへの心理・社会学的アプローチ(「人間関係論」とその後の発展)
- 第11回 現代マネジメントの基礎理論—C.I.バーナード『経営者の役割』で示されたこと—
- 第12回 経営における個人と組織の関係—H.A.サイモン『経営行動』で示されたこと—
- 第13回 経営における環境と組織の関係—H.A.サイモン「貢献と誘因のシステム」が示すもの—
- 第14回 激変する環境へ適応する戦略的マネジメント、そして競争優位の経営戦略とは?—A.D.チャンドラー、H.I.アンゾフやM.ポーターが示したこと—
- 第15回 経営の国際化、グローバル化とは何か?—経営の今日的な課題とは?—

授業以外での学習方法

授業中に示されたキーワード、概念、理論、事例(ケース)について、講義の前には参考文献やインターネット等で再確認しよう。

教科書

テキストは定めません。レジュメを配布して、授業を進めます。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

基礎コース 経営学

著者: 小松 章

出版社: (新世社)

出版年:

ISBN:

イラスト図解 会社のしくみ

著者： 坂田岳史

出版社：（日本実業出版社）

出版年：

ISBN：

現代アメリカ管理論史

著者： 仲田正機

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50%）

授業中課題（ ）

参加度（ ）

小テスト（50%）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会学概論 I (通信)**

担当者 松田 いりあ

テーマ

現代社会の諸課題を社会学の考え方とデータを参照しながら理解する

獲得目標

現代社会の諸課題を受講生自身の日常生活の課題として把握することができるようになること

授業の内容

[テキスト授業／全15回] 社会学概論 I では、社会学という学問分野の歴史や考え方からはじまり、19世紀から20世紀にかけての社会の変動(地域、家族、階級・階層など)に社会学がどのように向き合ってきたのか、さらに21世紀の社会にとっての課題にどう対応しようとしているかについて理解を深める

内 容

- 第1回 社会学とは(1) (テキスト2～3、194～197ページ) 社会学とはどのような学問なのか。社会学の視点と代表的な社会学者を概観する
- 第2回 社会学とは(2) (テキスト4～9ページ) 社会学の対象と方法(歴史的視点／構造的視点、客観主義／主観主義等)を理解する
- 第3回 地域をめぐる社会学(1) (テキスト58～61ページ) 近代社会を特徴づける都市的生活様式と村落的生活様式の違いについて理解する
- 第4回 地域をめぐる社会学(2) (テキスト54～57、62～63ページ) シカゴ学派を中心とした都市社会学のうち、おもに人間生態学およびサブカルチャーについて理解する
- 第5回 家族をめぐる社会学(1) (テキスト38～39、48～49ページ) 家族の定義の難しさ、および近代社会と核家族の関わりについて理解する
- 第6回 家族をめぐる社会学(2) (テキスト44～47ページ) 夫婦関係および親子関係(前期／中期／後期)について理解する
- 第7回 家族をめぐる社会学(3) (テキスト40～43、50～51ページ) 結婚、出産を中心に、近代家族から現代家族への変化について理解する
- 第8回 レポート1の作成に向けこれまでの内容(テキストの該当ページ)を復習する
- 第9回 階級・階層をめぐる社会学(1) (テキスト86～89ページ) 近代社会における階級・階層をめぐる考え方を社会的資源の配分という点から理解する
- 第10回 階級・階層をめぐる社会学(2) (テキスト90～93ページ) 現代日本社会の階層について社会移動の多少という点から理解する
- 第11回 階級・階層をめぐる社会学(2) (テキスト94～99ページ) 階層構造の変化と現代における社会的不平等と再分配政策をめぐる問題について理解する
- 第12回 国際社会とエスニシティ(1) (テキスト134～137ページ) 国民国家の成立とグローバル化を背景にした移民問題について理解する
- 第13回 国際社会とエスニシティ(2) (テキスト132～133、138～139ページ) エスニシティ、多文化社会、オリエンタリズムについて理解する
- 第14回 国際社会とエスニシティ(3) (テキスト66～69ページ) 人種のマイノリティと貧困の関係および脱工業化について理解する
- 第15回 レポート2の作成に向けこれまでの内容(テキストの該当ページ)の復習をする

授業以外での学習方法

担当教員の指示する資料(ウェブ上で公開されている各種統計など)を参照してもらうことがある

教科書

よくわかる社会学第2版

著者: 宇都宮京子編

出版社: (ミネルヴァ書房)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 自然の探求(通信)

担当者 今村 彰生

テーマ

あいまいな「自然」というイメージに、学習を通して具体性を付与する

獲得目標

自然とは何か、が究極の問いです。我々の身近に自然はあるでしょうか。自分にとっての自然とはどのような存在でしょうか。人間も生き物であり、地球上には様々な生き物が棲んでいることは知っていても、一方で、自然界の生き物については無関心なのではないでしょうか。注意さえ向ければ、身の回りには生き物が生きている「自然」が存在します。自然界の生き物を丁寧に精密に観察し、それらを実体として具体的に認識することが到達点です。さらに、「自然とは何か」「自然にはどのような価値があるのか」、各自が論考することを目指します。

授業の内容

[テキスト授業／全15回] 通信教育課程では、指定した教科書を読み進めるものとします。指定した単元について、通読し、図表を理解し、それらの摘要(summary)を小レポートとして纏めていただきます。

内 容

- 第1回 はじめに(テキスト3～14ページ) 本書で扱う問題点の総括。概要を理解することで、以下の各論への理解を助ける。
- 第2回 第1章 自然公園におけるシカ問題(テキスト20～37ページ) シカと日本人の接点とせめぎ合いについて理解する。自然公園をフィールドに、歴史的背景を踏まえる。
- 第3回 第2章 エゾシカの個体数変動と管理 第1節から第5節まで(テキスト40～48ページ) エゾシカの生態と、「エゾシカ問題」の概要を理解する。
- 第4回 第2章 エゾシカの個体数変動と管理 第6節から最後まで(テキスト48～64ページ) フィードバック管理の方法論と、今後の「エゾシカ問題」の今後の展望を理解する。
- 第5回 第3章 シカはどう増える、なぜ増える 第1節から第2節まで(テキスト65～75ページ) シカの繁殖にかかわる基本を理解する。BOXの説明やグラフの読み取りに重点を置く。
- 第6回 第3章 シカはどう増える、なぜ増える 第3節から最後まで(テキスト75～82ページ) シカが増殖する、ということが人間社会にとってどのような意味を持つのか、我々の対処は？
- 第7回 第4章 大台大峰の山麓から(テキスト84～104ページ) 大台ヶ原、大峰山脈という自然保護区域における人とシカとのかかわりについて、歴史的背景とともに理解する。
- 第8回 前半の総括(テキスト3～104ページ) レポートと添削を踏まえて、前半部分を通読。
- 第9回 第5章 林床からササが消える 稚樹が消える(テキスト105～123ページ) シカの摂食が森林に与える影響を理解する。近年見られている現象の特徴を把握する。
- 第10回 第6章 シカによる適切な森づくり 第1節から第3節まで(テキスト125～131ページ) シカとその他の生物の関係性を理解するために、「生物間相互作用」という見方を学ぶ。
- 第11回 第6章 シカによる適切な森づくり 第4節から最後まで(テキスト131～146ページ) シカの影響やササの影響について、野外実験やシミュレーションの結果を理解し、「森林の再生」について論考する。
- 第12回 第7章 春日山原始林とニホンジカ(テキスト147～165ページ) 春日山原始林の特性、特徴を踏まえ、春日山におけるシカの増殖の影響について理解する。
- 第13回 第8章 シカの増加と野生植物の絶滅リスク(テキスト168～187ページ) 屋久島の自然環境の特性を踏まえ、シカが増殖することの影響について理解する。提示されている詳細な調査結果について、図表を読み解く。
- 第14回 第9章 サルニワ、シカニワ、ヒトニワ(テキスト189～202ページ) 屋久島でのヒトとシカの間わりの歴史を踏まえ、屋久島におけるシカ増殖の影響、問題点について理解する。
- 第15回 後半の総括(テキスト105～202ページ) レポートと添削を踏まえ、後半部分を通読。

授業以外での学習方法

参考文献などを読み込む

教科書

世界遺産をシカが喰う シカと森の生態学

著者: 湯本貴和・松田裕之 編

出版社: (文一総合出版)

出版年: ISBN:

参考書

生物多様性とは何か

著者: 井田徹治 著

出版社: (岩波書店)

出版年: ISBN:

京都深泥池

著者: 藤田昇・遠藤彰 編

出版社: (京都新聞社)

出版年: ISBN:

大文字山を歩こう

著者: 法然院森のセンター・久山喜久雄 編

出版社: (ナカニシヤ出版)

出版年: ISBN:

ドンダリの謎—拾って、食べて、考えた

著者: 盛口満 著

出版社:

出版年: ISBN:

教えてゲッチョ先生! 雑木林は不思議な世界

著者: 盛口満 著

出版社: (山と溪谷社)

出版年: ISBN:

生命の湖琵琶湖をさぐる

著者: 滋賀県立琵琶湖博物館 編

出版社: (文一総合出版)

出版年: ISBN:

ドンダリの戦略

著者: 森廣信子 著

出版社: (八坂書房)

出版年: ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は第8回、第15回の後にレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 物理学基礎(通信)

担当者 古田 薫

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として物理学の基礎について学ぶ。

獲得目標

高等学校で学習した物理の内容を再確認するとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を身につける。物理学が日常生活や社会とどのように関連しているかを知り、科学技術への関心を高め、市民として必要な科学的な知識・能力・態度を身につける。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 運動とエネルギー、電気、波について、原理・法則を学び、日常的な現象や先端科学技術との関連を考える。

内 容

- 第1回 物体の運動
 - 第2回 力(1)
 - 第3回 力(2)
 - 第4回 運動の法則
 - 第5回 エネルギー(1)
 - 第6回 電気(1)
 - 第7回 電気(2)
 - 第8回 電気(3)
 - 第9回 波
 - 第10回 音
 - 第11回 光
 - 第12回 温度と熱
 - 第13回 エネルギー(2)
 - 第14回 エネルギー(3)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

Primary 大学テキスト これだけはおさえたい物理

著者: 金原 稔

出版社: (実教出版)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60%)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (40%)

授業中発表等 ()

eky901e510

小テストは、第8回・第14回の授業の後に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 化学基礎(通信)

担当者 中村 一郎

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として化学の基礎について学ぶ。

獲得目標

高等学校における化学の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な化学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 生活の中にある物質や現象を、化学的なものの見方や考え方で捉え理解できるように、一部演習形式を取り入れながら化学的な基礎概念を解説する。

内 容

- 第1回 物質は何からできているか。
 - 第2回 分子について
 - 第3回 原子の構造と原子同士の結合
 - 第4回 分子の形はどのようにして決まるか
 - 第5回 分子の形……異性体と立体化学
 - 第6回 物質の三態……固体・液体・気体
 - 第7回 溶液について(1)
 - 第8回 溶液について(2)
 - 第9回 化学反応はなぜ起こるか
 - 第10回 触媒、反応速度
 - 第11回 酸と塩基(1)
 - 第12回 酸と塩基(2)
 - 第13回 酸化と還元
 - 第14回 有機化合物の構造とその書き表し方、命名法
 - 第15回 日常の中の化合物
-

授業以外での学習方法

教科書

新版 化学「もの」をみる目

著者： 大野惇吉・安井伸郎・牛田智 著

出版社： (三共出版)

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (60%)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (40%)

授業中発表等 ()

eky901e610

小テストは、第8回・第15回の授業の後に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 生物学基礎(通信)

担当者 中村 一郎

テーマ

専門科目を学ぶ前の教養科目として生物学の基礎について学ぶ。

獲得目標

高等学校における生物の内容を再確認するとともに専門科目を学ぶために必要な生物学の基礎知識を身につけることを目標とする。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 生物学の中でも主にヒトに焦点を当てた生命化学について概説する。生命現象の科学的な解析、解明が急速に進展する現代において、できるだけ最新のトピックスをまじえて解説する。

内 容

- 第1回 細胞生物学(1)細胞の構造と役割
 - 第2回 細胞生物学(2)細胞を構成する物質-1
 - 第3回 細胞生物学(3)細胞を構成する物質-2
 - 第4回 細胞生物学(4)エネルギー、酵素、代謝
 - 第5回 細胞生物学(5)エネルギー獲得
 - 第6回 光合成と窒素同化
 - 第7回 細胞の分裂・情報伝達・がん化
 - 第8回 生命体の受精と生長(1)、小テスト
 - 第9回 生命体の受精と生長(2)
 - 第10回 多細胞生物の自己維持機構
 - 第11回 遺伝の仕組みと遺伝病(1)
 - 第12回 遺伝の仕組みと遺伝病(2)
 - 第13回 生物と環境
 - 第14回 生物の進化
 - 第15回 生命科学技術と生命操作、小テスト
-

授業以外での学習方法

教科書

やさしい基礎生物学

著者: 南雲保 著

出版社: (羊土社)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60%)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (40%)

授業中発表等 ()

eky901e710

小テストは、第8回・第15回の授業の後に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(言M2前) <Mg>

担当者 横山 弘平

テーマ

仮名作品研究と書美論と書道史学の諸問題の研究

獲得目標

確実で多様性をもつ書表現の養成および書学書道史の深い理解

授業の内容

自らの主体性をもった創作作品づくりと確実な資料収集による論文作製への意見交換とその指導

内 容

第1回

授業以外での学習方法

研究は授業以外が重要な準備時間となるので専念して学習したい。

教科書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業での積極的な取り組み、出席率を総合的に評価したい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 応用言語学研究 I <M>

担当者 安達 太郎

テーマ

文章日本語におけるスタイルの形成

獲得目標

1)文章日本語におけるダ体, デアル体の機能の違いについて理解する。2)近代語から現代語への日本語の変遷について理解する。3)言語資料の分析方法を修得する。

授業の内容

文章日本語におけるダ体の機能とその実態について, 現代と近代の対照分析を行う。I では, 現代の新聞と評論, 小説におけるダ体の実態について考察する。

内 容

- 第1回 導入:文章日本語におけるスタイル
 - 第2回 新聞のスタイル分析 その1
 - 第3回 新聞のスタイル分析 その2
 - 第4回 新聞のスタイル分析 その3
 - 第5回 新聞のスタイル分析 その4
 - 第6回 ダ体の評論のスタイル分析 その1
 - 第7回 ダ体の評論のスタイル分析 その2
 - 第8回 ダ体の評論のスタイル分析 その3
 - 第9回 ダ体の評論のスタイル分析 その4
 - 第10回 ダ体の小説のスタイル分析 その1
 - 第11回 ダ体の小説のスタイル分析 その2
 - 第12回 ダ体の小説のスタイル分析 その3
 - 第13回 ダ体の小説のスタイル分析 その4
 - 第14回 まとめ1
 - 第15回 まとめ2
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本文学研究Ⅲ <M>

担当者 林 久美子

テーマ

歌舞伎について学ぶ

獲得目標

京都を代表する文化のひとつであり、世界遺産でもある歌舞伎の特色を知る。

授業の内容

以下を予定していますが、みなさんの質問とリクエストに応じて進めます。

内 容

- 第1回 歌舞伎とは
 - 第2回 出雲の阿国と南座のこと
 - 第3回 女形とは
 - 第4回 市川団十郎と江戸歌舞伎
 - 第5回 歌舞伎十八番
 - 第6回 坂田藤十郎と近松門左衛門
 - 第7回 『廓文章』
 - 第8回 三大名作
 - 第9回 任侠劇『夏祭浪花鑑』
 - 第10回 鶴屋南北の怪談劇
 - 第11回 黙阿弥の白浪物
 - 第12回 現代の歌舞伎
 - 第13回 受講生による作品紹介①
 - 第14回 受講生による作品紹介②
 - 第15回 これまでのまとめ
-

授業以外での学習方法

4月16日まで特別舞台体験(有料)がありますので、興味のある人は情報を見て南座に足を運んでください。また、メディアセンター所蔵のビデオやテレビ、シネマ歌舞伎などでも鑑賞してください。活字になった脚本も図書館に多数あります。

教科書

歌舞伎の中の日本

著者： 松井今朝子

出版社： 日本放送出版協会

出版年： 2008

ISBN: 9.78414E+11

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

授業中課題には、レポートと提出物が含まれます。発表者はレポートを免除されることがあります。

参考URL

日本芸術文化振興会

<http://www.ntjjac.go.jp/bunraku.html>

文化デジタルライブラリー

<http://www2.ntjjac.go.jp/dglib/>

2013 Syllabus

科目名 日本文学研究Ⅴ〈M〉

担当者 野村 幸一郎

テーマ

ハイクとタンカ—現代日本の短詩型文学

獲得目標

正岡子規、高浜虚子から俵万智、黛まどか、坪内念典まで、明治から現代までを代表する俳人、歌人の作品を取り上げ、日本語の豊かさ、日本文化の奥行き、美意識を学ぶ。

授業の内容

ワークショップ型で授業を進める。グループに分かれ、紹介された短歌や俳句についてディスカッションを行う。また、毎週、俳句の創作を求める予定である。教科書は使用しない。随時プリントを配布する。必要に応じて学外授業を実施する

内 容

- 第1回 ガイダンス—言語にとって美とは何か？
 - 第2回 「恋」をテーマにしたタンカ
 - 第3回 「人生」をテーマにしたハイク・タンカ(1)
 - 第4回 「人生」をテーマにしたタンカ(2) 石川啄木を読む
 - 第5回 「人生」をテーマにしたタンカ(3) 石川啄木を読む
 - 第6回 本学客員教授、俳人、黛まどか氏による特別講義(日程変更の可能性あり)
 - 第7回 「日常」をテーマにしたハイク
 - 第8回 「日常」をテーマにしたタンカ
 - 第9回 「自然」をテーマにしたハイク・タンカ
 - 第10回 「心象風景」をテーマにしたハイク・タンカ
 - 第11回 「老」「病」「死」をテーマにしたハイク・タンカ(1)
 - 第12回 「老」「病」「死」をテーマにしたハイク・タンカ(2) 正岡子規を読む
 - 第13回 「老」「病」「死」をテーマにしたハイク・タンカ(3) 正岡子規を読む
 - 第14回 「家族」をテーマにしたハイク・タンカ
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

毎週課題を出すのでかならず提出すること

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語学研究 I <M>

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語文法概説

獲得目標

日本語教育の現場で教えられている日本語文法について理解を深める。

授業の内容

庵功雄他『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』を読み進める。

内 容

- 第1回 国文法と日本語文法と日本語教育文法
 - 第2回 § 35 品詞
 - 第3回 § 36 活用
 - 第4回 § 2 格助詞
 - 第5回 § 3 名詞と名詞を結ぶ助詞
 - 第6回 § 10 自動詞と他動詞
 - 第7回 § 4 存在・所有を表す表現
 - 第8回 § 7 変化を表す表現
 - 第9回 § 30 立場を表す表現
 - 第10回 § 8 可能を表す表現
 - 第11回 § 11 授受の表現
 - 第12回 § 12 ~ていく・~てくる
 - 第13回 § 18 比較
 - 第14回 § 31 その他の構文
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

初級を教える人のための日本語文法ハンドブック

著者： 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘

出版社：スリーイーネットワーク

出版年：2000

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 漢字文化論 I <M>

担当者 下野 健児

テーマ

書論選読(一)

獲得目標

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。漢文、古文になれるとともに、本文内容を理解することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考える力を養うことが目的となる。講義では、受講者の積極的な質問、発言を期待する。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

授業の内容

授業は、毎回、代表的な書論の一節をとりあげ、その内容を考察していく。また、そこで取り上げられた問題を今日の書道の在り方と比較することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考えていきたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス(「書論とは何か」、参考書・工具書の紹介)
 - 第2回 書論選読1
 - 第3回 書論選読2
 - 第4回 書論選読3
 - 第5回 書論選読4
 - 第6回 書論選読5
 - 第7回 書論選読6
 - 第8回 書論選読7
 - 第9回 書論選読8
 - 第10回 書論選読9
 - 第11回 書論選読10
 - 第12回 書論選読11
 - 第13回 書論選読12
 - 第14回 書論選読13
 - 第15回 前期のまとめ。レポート提出。
-

授業以外での学習方法

書に関する書物(できれば他の芸術に関しても)をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館、美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会をふやしてほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 特別研究 I (歴財M1前) <Mi>

担当者 王 衛明

テーマ

修士論文の指導

獲得目標

修士論文の完成

授業の内容

内 容

第1回 内容趣旨論文を完成させるためには、研究対象とした美術作品のデータ収集、それと関連する歴史文献の読破及び研究史の読み込みを徹底的に行うことが最重要課題である。この授業は以下の三項目を内容に、ゼミという形で議論を重ねながら確実な美術史研究の力を身に付けることと、修論の完成を促進させることを目標とする。①美術作品に関する研究初期段階のデータ収集の方法 ②修論で取り挙げる漢文史料の精読及びその史料内容上の問題点に関する検討(史料文献学の操作方法) ③修論で取り挙げる美術作品に関する比較分析及び記述の方法 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

博物館見学への積極的に参加、常時に図書館で資料調査を行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (50%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (0%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 特別研究 I (歴財M1前) <Mo>

担当者 巽 淳一郎

テーマ

如何に修士論文を作成するか。

獲得目標

現状における研究の到着点をしっかりと把握し、問題点を見出し、学会の評価が得られるような修論にしあげる。

授業の内容

発表に基づき、指導と教唆を行う。

内 容

- 第1回 研究論文の書き方。
 - 第2回 研究史に関する発表と討議。
 - 第3回 研究史に関する発表と討議。
 - 第4回 研究史に関する発表と討議。
 - 第5回 研究史に関する発表と討議。
 - 第6回 研究対象資料の検討。
 - 第7回 研究対象資料の検討。
 - 第8回 研究対象資料の検討。
 - 第9回 研究対象資料の検討。
 - 第10回 研究対象資料の検討。
 - 第11回 関連文献史料に関する発表と討議・
 - 第12回 関連文献史料に関する発表と討議・
 - 第13回 関連文献史料に関する発表と討議・
 - 第14回 関連文献史料に関する発表と討議・
 - 第15回 まとめと課題
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前) <Mc>

担当者 細川 涼一

テーマ

日本中世史の史料・論文を読む

獲得目標

日本中世史の史料・論文の読解力を身につけ、研究の方法論を深める。日本中世史関係の史料・論文を読み、ともに討論していきたい。日本中世史関係の史料・論文を読み、ともに討論していきたい。

授業の内容

内 容

- 第1回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第2回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第3回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第4回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第5回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第6回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第7回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第8回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第9回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第10回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第11回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第12回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第13回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第14回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第15回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
-

授業以外での学習方法

事前の予習を行っておくこと。当日は全員に発言を求める。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (0%)

参加度 (30%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (70%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前) <Mi>

担当者 王 衛明

テーマ

修士論文の指導

獲得目標

修士論文の完成

授業の内容

内 容

第1回 内容趣旨論文を完成させるためには、研究対象とした美術作品のデータ収集、それと関連する歴史文献の読破及び研究史の読み込みを徹底的に行うことが最重要課題である。この授業は以下の三項目を内容に、ゼミという形で議論を重ねながら確実な美術史研究の力を身に付けることと、修論の完成を促進させることを目標とする。①美術作品に関する研究初期段階のデータ収集の方法 ②修論で取り挙げる漢文史料の精読及びその史料内容上の問題点に関する検討(史料文献学の操作方法) ③修論で取り挙げる美術作品に関する比較分析及び記述の方法 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

博物館見学への積極的に参加、常時に図書館で資料調査を行うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (50%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (0%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 特別研究Ⅲ(歴財M2前)〈Mo〉

担当者 巽 淳一郎

テーマ

如何に修士論文を作成するか。

獲得目標

現状における研究の到着点をしっかりと把握し、問題点を見出し、学会の評価が得られるような修論にしあげる。

授業の内容

発表に基づき、指導と教唆を行う。

内 容

- 第1回 研究論文の書き方。
 - 第2回 研究史に関する発表と討議。
 - 第3回 研究史に関する発表と討議。
 - 第4回 研究史に関する発表と討議。
 - 第5回 研究史に関する発表と討議。
 - 第6回 研究対象資料の検討。
 - 第7回 研究対象資料の検討。
 - 第8回 研究対象資料の検討。
 - 第9回 研究対象資料の検討。
 - 第10回 研究対象資料の検討。
 - 第11回 関連文献史料に関する発表と討議・
 - 第12回 関連文献史料に関する発表と討議・
 - 第13回 関連文献史料に関する発表と討議・
 - 第14回 関連文献史料に関する発表と討議・
 - 第15回 まとめと課題
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本古代史研究 I <M>

担当者 増淵 徹

テーマ

日記を読む

獲得目標

平安期の貴族社会に関する知識を増やし、諸種の史料から総合的に歴史像を再構成する資質を養う。

授業の内容

10世紀末～11世紀前期は『小右記』『御堂閔白記』『権記』等の貴族日記が遺存する、史料的には恵まれた時期である。これらの日記の記述を主材料に、具体的な記事の分析を通して貴族社会の構造を考えていく内容とする。

内 容

- 第1回 日記概論①
- 第2回 日記概論②
- 第3回 日記の記事から①-女性の暴力-
- 第4回 日記の記事から②-下女の口論と集団乱闘-
- 第5回 日記の記事から③-事件処理と検非違使-
- 第6回 日記の記事から④-「因縁」「所縁」の世界-
- 第7回 日記の記事から⑤-因幡国愁訴事件とその背景①-
- 第8回 日記の記事から⑥-因幡国愁訴事件とその背景②-
- 第9回 日記の記事から⑦-主人と家司・家人①-
- 第10回 日記の記事から⑧-主人と家司・家人②-
- 第11回 看取られる死・見捨てられる生①
- 第12回 看取られる死・見捨てられる生②
- 第13回 日記の行方①-師輔日記の伝来-
- 第14回 日記の行方②-院政と日記の集約-
- 第15回 まとめ-日記再論- ※この授業では、学外授業を実施することがあります。

授業以外での学習方法

テキストとしては大日本古記録等の該当部分を配布するので、自身での読み取りが必要である。

教科書

参考書

日本の歴史5 王朝の貴族

著者： 土田直鎮

出版社： 中公文庫

出版年：

ISBN：

日本古代史6 摂関政治

著者： 古瀬奈津子

出版社： 岩波新書

出版年：

ISBN：

日記の家

著者： 松園 齊

出版社： 吉川弘文館

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本中・近世史研究 I <M>

担当者 藤田 恒春

テーマ

豊臣秀吉とその時代

獲得目標

16世紀後期の日本社会を考える

授業の内容

16世紀後期の約30年間は、日本社会が中世から近世へと移り変わる時代であった。庶民の立場から天下人と称されるまでになった豊臣秀吉を通してこの時代を見ていく。

内 容

- 第1回 NHK大河ドラマについて考える
 - 第2回 大航海時代の日本、その1
 - 第3回 大航海時代の日本、その2
 - 第4回 鉄炮伝来と戦国時代の終焉
 - 第5回 織田信長の台頭
 - 第6回 室町幕府の滅亡
 - 第7回 安土城築城
 - 第8回 本願寺との対決
 - 第9回 本能寺の変
 - 第10回 秀吉の台頭
 - 第11回 大坂城築城
 - 第12回 関白任官
 - 第13回 宣教師がみた秀吉
 - 第14回 秀吉書状にみえる秀吉像
 - 第15回 前期のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

日本近世の歴史1 天下人の時代

著者： 藤井譲治

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011年

ISBN:

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本近・現代史研究 I <M>

担当者 酒井 一臣

テーマ

日本近現代史理解のためのポイント(戦中・戦後編)

獲得目標

現代史理解には、社会科学の知識が欠かせません。太平洋戦争から現代までの日本史で議論的になっていることを論じます。この授業では、政治学や国際関係論との接点にも注意を向けてもらい、現代史を理解するための基礎的知識獲得を目的とします。

授業の内容

概念整理を中心に重要な事例を取り上げます。通史的な内容は、授業中に紹介する参考文献などで学習してください。高校のときに使用していた日本史の教科書がある人は、現代史のところを読んでおいてください。

内 容

- 第1回 「大東亜」戦争 アジアの盟主
 - 第2回 敗戦 連続か断絶か
 - 第3回 戦後史の可能性 政治学と歴史学
 - 第4回 日本国憲法 歴史的な位置づけ
 - 第5回 吉田茂 ワンマンか名宰相か
 - 第6回 55年体制(1) 冷戦史の文脈
 - 第7回 安保体制 岸信介の決断
 - 第8回 エコノミックアニマル 高度経済成長
 - 第9回 アジア外交(1) 二つの中国・二つの朝鮮
 - 第10回 アジア外交(2) 軍服をスーツに替えて
 - 第11回 新自由主義の登場 戦後政治の総決算
 - 第12回 バブル経済 歴史の教訓
 - 第13回 日本型社会主義 第三の道はあるのか
 - 第14回 55年体制(2) 歴史は終わらない
 - 第15回 現代史の方法 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読んでください。

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

日本外交史入門(仮題)

著者: 酒井一臣

出版社: 昭和堂

出版年: 2013年4月刊行予定

ISBN:

成績評価

h102011610

試験 (0)
授業中課題 (20)
参加度 (10)

小テスト (70)
授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **アジア史史料講読 I <M>**

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジア史関連の文献を読む

獲得目標

中央アジア・西アジア史に関連する文献を読み、当該分野に関する知見を深める。

授業の内容

この授業では写本挿絵として発達したペルシアの細密画を素材にして、イスラム期のイラン・中央アジアを中心とする地域の歴史を学ぶ。テキストは、浅原昌明著『ペルシア細密画の世界を歩く』(幻冬舎)とするが、入手困難な場合にはプリントにして配布する。毎回輪読形式をとり、またテキストの内容に関わる質問も行なうので、出席者は事前に必ず予読しておくことはもちろん、関連事項の下調べも求められる。

内 容

- 第1回 授業の目的説明、およびテキスト・著者の説明。
 - 第2回 テキスト構成の解説
 - 第3回 輪読と内容の解説 その1
 - 第4回 輪読と内容の解説 その2
 - 第5回 輪読と内容の解説 その3
 - 第6回 輪読と内容の解説 その4
 - 第7回 輪読と内容の解説 その5
 - 第8回 輪読と内容の解説 その6
 - 第9回 輪読と内容の解説 その7
 - 第10回 輪読と内容の解説 その8
 - 第11回 輪読と内容の解説 その9
 - 第12回 輪読と内容の解説 その10
 - 第13回 輪読と内容の解説 その11
 - 第14回 輪読と内容の解説 その12
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

ペルシア細密画の世界を歩く

著者： 浅原昌明

出版社： 幻冬舎ルネッサンス新書

出版年： 2011

ISBN:

参考書

ペルシア語が結んだ世界—もうひとつのユーラシア史

著者： (編)森本一夫

出版社： 北海道大学出版会

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

h102013010

試験 (0%)
授業中課題 (0%)
参加度 (40%)

小テスト (0%)
授業中発表等 (60%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 考古資料研究 I <M>

担当者 一瀬 和夫

テーマ

日本考古学の黎明期と東アジアの大型墳墓

獲得目標

考古資料研究 I では、自己の研究にそくした関連文献の講読の方法を考えるために、墳墓の発掘調査資料などを通して、基本となる資料の収集・整備や研究史の整理、そこから課題を抽出し、検討・解釈する力を養う。

授業の内容

考古資料調査の報告文やその際のメモなどを読みながら関連報告や図などをあわせ検討する。データを丹念に見比べるなどして、過去の報告やメモ内容のもつ意味を十分に自己内部で再構築を試みる。

内 容

- 第1回 The Burial Mounds and Dolmens of the Early Emperors of Japan 1907(明治40)年及び、The Dolmens of Japan and Their Builders 1899(明治32)の購読。
- 第2回 The Burial Mounds and Dolmens of the Early Emperors of Japan 1907(明治40)年及び、The Dolmens of Japan and Their Builders 1899(明治32)の購読。
- 第3回 The Burial Mounds and Dolmens of the Early Emperors of Japan 1907(明治40)年及び、The Dolmens of Japan and Their Builders 1899(明治32)の購読。
- 第4回 The Burial Mounds and Dolmens of the Early Emperors of Japan 1907(明治40)年及び、The Dolmens of Japan and Their Builders 1899(明治32)の購読。
- 第5回 The Burial Mounds and Dolmens of the Early Emperors of Japan 1907(明治40)年及び、The Dolmens of Japan and Their Builders 1899(明治32)の購読。
- 第6回 The Burial Mounds and Dolmens of the Early Emperors of Japan 1907(明治40)年及び、The Dolmens of Japan and Their Builders 1899(明治32)の購読。
- 第7回 The Burial Mounds and Dolmens of the Early Emperors of Japan 1907(明治40)年及び、The Dolmens of Japan and Their Builders 1899(明治32)の購読。
- 第8回 大英博物館・ロンドン古物協会にあるゴーランド・コレクション関係直筆ノートデータの検討。
- 第9回 大英博物館・ロンドン古物協会にあるゴーランド・コレクション関係直筆ノートデータの検討。
- 第10回 大英博物館・ロンドン古物協会にあるゴーランド・コレクション関係直筆ノートデータの検討。
- 第11回 大英博物館・ロンドン古物協会にあるゴーランド・コレクション関係直筆ノートデータの検討。
- 第12回 大英博物館・ロンドン古物協会にあるゴーランド・コレクション関係直筆ノートデータの検討。
- 第13回 大英博物館・ロンドン古物協会にあるゴーランド・コレクション関係直筆ノートデータの検討。
- 第14回 大英博物館・ロンドン古物協会にあるゴーランド・コレクション関係直筆ノートデータの検討。
- 第15回 大英博物館にあるゴーランド・コレクション調査分のデータの所見とまとめ。

授業以外での学習方法

ゴーランドに関わる資料の探索や日本での調査地点の検証

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 東アジア文化財研究 I <M>

担当者 王 衛明

テーマ

東洋美術史上の仏教美術品諸問題

獲得目標

美術作品を実際に見ることによって、東洋では普遍的な意味を持つ仏教美術史の流れを把握する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
 - 第2回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
 - 第3回 ガンダーラ・シルクロードから仏教芸術の伝来
 - 第4回 仏典の漢訳と仏像の制作
 - 第5回 仏典の漢訳と仏像の制作
 - 第6回 漢代における仏教美術の成立(文献と実物の両面から)
 - 第7回 漢代における仏教美術の成立(文献と実物の両面から)
 - 第8回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
 - 第9回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
 - 第10回 南北朝時代以前の仏教造像の成立
 - 第11回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察(キジル石窟、敦煌石窟)
 - 第12回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察(キジル石窟、敦煌石窟)
 - 第13回 中国石窟寺院の総解説—仏教造像の考古学・様式学的考察(キジル石窟、敦煌石窟)
 - 第14回 内容総括
 - 第15回 内容総括
-

授業以外での学習方法

授業時に指定する参考書をよく読むことと日本・中国の仏教美術に関する特別展や寺院・仏像の見学を実施する予定。

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本女性史研究 I <M>

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

獲得目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態などの面から会得する。

授業の内容

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

内 容

- 第1回 原始・古代の女性労働
 - 第2回 都城の変遷と女性の生活
 - 第3回 律令制下の女性の地位
 - 第4回 平安京の成立
 - 第5回 女房としての紫式部
 - 第6回 平安女性の財産相続権
 - 第7回 平氏政権下の女性
 - 第8回 院政期の女院と女房
 - 第9回 武士の登場・武士の女性
 - 第10回 鎌倉幕府法にみる娘、妻、母、後家
 - 第11回 平安時代の出産、鎌倉時代の出産
 - 第12回 北条政子の生涯とその役割
 - 第13回 南北朝期、女性の地位変化
 - 第14回 日野重子と日野富子
 - 第15回 古代・中世の女性の地位をめぐって
-

授業以外での学習方法

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい。

教科書

参考書

日本女性史

著者： 脇田・林・永原編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1987

ISBN：

乳母の力

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2005

ISBN：

日本中世女性史論

著者： 田端泰子著

出版社： 塙書房

出版年： 1994

ISBN：

北政所おね

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN：

細川ガラシャ

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN：

日本中世の村落・女性・社会

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011

ISBN：

成績評価

試験（80）

授業中課題（ ）

参加度（ ）

小テスト（20）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 課題研究 I (リサーチ・プロジェクト) <Ma>

担当者 小森 治夫・今久保 幸生・木下 達文・小暮 宣雄・谷口 知司

テーマ

建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究(その1)

獲得目標

履修院生各自が建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究テーマを決定し、計画的に調査・研究が進められるようにする。

授業の内容

内 容

第1回 建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する調査・研究として、履修院生が各自で調査活動を行い、それらの成果を順次発表し、討論・指導を行う。● 博士前期課程2回生と合同で行う。● 隔週の土曜日に2コマ分を使い、研究会方式で開催する。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (40%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 まちづくり政策 I <M>

担当者 織田 直文

テーマ

文化政策とまちづくりの接点で都市をデザインする。

獲得目標

快適で美しく、活かに満ちた文化都市を創る思想と技術を獲得する。地方における地域課題を類型化し、主に実践例をもとに、その地域の空間、社会、文化のデザイン手法を解説していく。

授業の内容

テキストおよび、実例資料を用いながら、講義を進めていく。また実践現場に関わるプロ(ゲストスピーカー)による特別講義や実例の見学を行う。

内 容

- 第1回 講義の進め方、「都市デザイン」の概念について
- 第2回 文化政策と臨地まちづくりによる地域活性化
- 第3回 地域イベントの意義と技術
- 第4回 地域イベント実例の現地調査
- 第5回 コンパクトシティ論と中心市街地活性化の課題と手法
- 第6回 歴史的商店街の意義と活性化方策
- 第7回 まちづくりにおける「溜まり場」論
- 第8回 伝統的な祭りの保存と活用
- 第9回 伝統産業、産地の活性化(ゲストスピーカーによる)
- 第10回 文化施設とまちづくり
- 第11回 文化観光とまちづくり
- 第12回 テーマパークとテーマタウン
- 第13回 キャラクター活用によるまちづくり
- 第14回 都市景観論(ゲストスピーカーによる)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

様々な都市に出かけ、その都市の長短を観察し、記録をとるように努める。

教科書

文化政策と臨地まちづくり

著者： 織田直文編著

出版社： 水曜社

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 観光文化振興策 I <M>

担当者 谷口 知司

テーマ

観光ビジネスの全体像を知る。

獲得目標

さまざまな観光ビジネスの現況と、それらが社会の情報化の中でどのように変容してきたかについて理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 観光ビジネスとは(歴史を含む)①
 - 第2回 観光ビジネスとは(歴史を含む)②
 - 第3回 旅行業の観光ビジネス①
 - 第4回 旅行業の観光ビジネス②
 - 第5回 鉄道会社と観光ビジネス①
 - 第6回 鉄道会社と観光ビジネス②
 - 第7回 航空産業と観光ビジネス①
 - 第8回 航空産業と観光ビジネス②
 - 第9回 ホテル・旅館業と観光ビジネス①
 - 第10回 ホテル・旅館業と観光ビジネス②
 - 第11回 土産品と観光ビジネス①
 - 第12回 土産品と観光ビジネス②
 - 第13回 ニューツーリズムと観光ビジネス①
 - 第14回 ニューツーリズムと観光ビジネス②
 - 第15回 その他の観光ビジネス
-

授業以外での学習方法

さまざまな調査・文献研究を授業外で要求する。それらは基本的にレポートとして提出する。

教科書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN： 9.78462E+12

参考書

成績評価

試験 (30%)

授業中課題 (30%)

参加度 (20%)

小テスト (10%)

授業中発表等 (10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **アート・マネジメント I <M>**

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アートマネジメントを学ぶ入り口

獲得目標

アートマネジメントが都市環境デザインにどう位置づけられるかを知る。アートマネジメントの基礎的用語を理解し説明できる。アートマネジメントの分類ができる。

授業の内容

ゲスト講師をできれば呼びたい。アーティストやアートマネージャーが呼びかけに来てくれることもあるので、楽しみに

内 容

- 第1回 これからの予定の紹介(冒頭に、これからの演劇ダンス公演のPRだとか、美術関係のボランティア募集などの呼びかけが随時行われることがあり、そこに登場する方々は、それぞれ新進気鋭のアートマネージャーなので、適宜、生のアートマネジメントの姿を挿入することを促進する。)
 - 第2回 アートマネジメントのABC
 - 第3回 アートマネジメントの定義と文化政策、まちづくりとの関係
 - 第4回 アーツプレイス(劇場ホール、美術館)とアーツカンパニー(劇団、楽団など)
 - 第5回 学外授業 演劇鑑賞 京都かその周辺(予定)
 - 第6回 アーツプレイス論～劇場、コンサートホール、ライブハウス、美術館、画廊の真実～
 - 第7回 アートの分類
 - 第8回 限界芸術論1・・・結婚式など冠婚葬祭を例示する
 - 第9回 限界芸術論2・・・ウェディングプランナーとフューネラルマネージャー
 - 第10回 アートマネジメントの分類と歴史
 - 第11回 アートマネージャーを招いて(外部講師)
 - 第12回 指定管理者制度など行政的マネジメント課題
 - 第13回 非営利民間活動の公共性～アーツNPOと企業メセナ
 - 第14回 限界芸術と先端芸術、伝統芸術、市場芸術の関係
 - 第15回 まとめ・・・アート(マネジメント)の公共性とは
-

授業以外での学習方法

アートマネジメントの基本文献を紹介したり配布するので、時間外によく読んでおくこと。生協の読書奨励制度を積極的に活用するととても役立つ。芸術鑑賞と文化ボランティアの学外での活動を評価する。

教科書

参考書

アート・マネジメント概論三訂版

著者: 伊藤裕夫ほか

出版社: 水曜社

出版年: 2009

ISBN:

文化政策学の展開

著者： 池上惇ほか

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN：

入門都市政策

著者： 真山達志ほか

出版社： 大学コンソーシアム京都

出版年： 2009

ISBN：

アーツマネジメントみち

著者： 小暮宣雄

出版社： 晃洋書房

出版年： 2003

ISBN：

分権時代の自治体文化政策

著者： 中川幾郎

出版社： 勁草書房

出版年： 2001

ISBN：

限界芸術論

著者： 鶴見俊輔

出版社： 筑摩書房

出版年： 1999

ISBN：

著作権とは何か

著者： 福井健策

出版社： 集英社

出版年： 2005

ISBN：

地域再生の罫

著者： 久繁哲之介

出版社： 筑摩書房

出版年： 2010

ISBN：

未来型サバイバル音楽論

著者： 牧村憲一ほか

出版社： 中央公論新社

出版年： 2010

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（20）

授業中課題（30）

授業中発表等（0）

参加度（50）

毎回、A5版程度の用紙（出席確認を兼ねるもの）に感想や意見、時にはミニテストなどをして提出してもらう。欠席の場合はそれに替わるものをA5用紙で提出して15回をクリアすることをめざす。

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄メインブログ

ツイッターブログ

<http://twilog.org/kogurenob>

Twilog(twitterのブログ)

2013 Syllabus

科目名 **会計学 I <M>**

担当者 河野 充央

テーマ

獲得目標

企業活動の本質を資金の流れに基づいて理解する

授業の内容

財務諸表の構造と体系的な会計の仕組みの研究

内 容

- 第1回 ガイダンス:会計の仕組み・財務諸表の機能
 - 第2回 損益計算書の構造
 - 第3回 費用・収益の認識と測定
 - 第4回 棚卸資産・固定資産の原価処理
 - 第5回 営業費会計
 - 第6回 貸借対照表の構造
 - 第7回 債権・有価証券
 - 第8回 複合金融商品・棚卸資産
 - 第9回 固定資産・繰延資産
 - 第10回 引当金
 - 第11回 流動負債・固定負債
 - 第12回 純資産の構造
 - 第13回 利益処分
 - 第14回 キャッシュフロー計算の意義と構造
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

講義中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

h511015410

試験 ()
授業中課題 (25)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (75)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 都市建築文化 I <M>

担当者 今井 裕夫

テーマ

獲得目標

都市や建築と文化の関わりについて考察し、実務設計デザインの質を向上させる。高度に発展した都市や建築のあるところに、優れた文化が存在する。「都市建築文化 I」では海外の代表的な都市文化や建築文化の事例を中心に検証し、都市や建築の意匠上の特徴を理解しながらデザインの手法を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 事例1 住宅 その1
 - 第3回 事例1 住宅 その2
 - 第4回 事例2 集合住宅 その1
 - 第5回 事例2 集合住宅 その2
 - 第6回 事例3 公共建築 その1
 - 第7回 事例3 公共建築 その2
 - 第8回 事例4 都市 その1
 - 第9回 事例4 都市 その2
 - 第10回 事例5 平面の構成 その1
 - 第11回 事例5 平面の構成 その2
 - 第12回 事例6 立面・断面の構成 その1
 - 第13回 事例6 立面・断面の構成 その2
 - 第14回 事例7 空間の構成 その1
 - 第15回 事例7 空間の構成 その2、まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築計画学 I <M>**

担当者 河野 良平

テーマ

獲得目標

建築計画的な視点から各種ビルディングタイプの事例について詳しく検証していく。海外の代表的な事例の配置計画、平面計画、機能と動線、構造や設備計画などを平面図、立面図や断面図を確認しながら、建築に必要な知識と設計手法を修得する。事例を通して、社会的な責任と職業倫理についても理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 事例研究1 敷地、周辺環境と与条件
 - 第3回 事例研究1 配置計画
 - 第4回 発表1
 - 第5回 事例研究2 平面計画
 - 第6回 事例研究2 機能と動線
 - 第7回 発表2
 - 第8回 事例研究3 平面計画
 - 第9回 事例研究3 構造と設備
 - 第10回 発表3
 - 第11回 事例研究4 平面計画
 - 第12回 事例研究4 立面と断面
 - 第13回 発表4
 - 第14回 事例研究5 社会的責任と職業倫理
 - 第15回 発表5、まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化経済 I <M>

担当者 阪本 崇

テーマ

文化政策を経済学的な視点から理解する。

獲得目標

文化経済学の基礎的なツールを理解する。文化政策を経済学的な視点から分析するための思考法を修得する。

授業の内容

経済学は政策志向の学問であり、政策に応用して初めて意味を持つという側面がある。この授業では、経済学の応用領域のひとつである文化経済学をより政策的な視点から議論し、それを利用してさまざまな領域における文化政策を分析することを試みる。

内 容

- 第1回 インTRODakション
 - 第2回 文化政策の現代的課題(1)
 - 第3回 文化政策の現代的課題(2)
 - 第4回 文化政策の領域(1)
 - 第5回 文化政策の領域(2)
 - 第6回 文化経済学の基礎的概念(1)
 - 第7回 文化経済学の基礎的概念(2)
 - 第8回 文化政策と政策過程(1)
 - 第9回 文化政策と政策過程(2)
 - 第10回 文化政策と政策過程(3)
 - 第11回 都市と地域の発展と文化(1)
 - 第12回 都市と地域の発展と文化(2)
 - 第13回 国際経済における文化(1)
 - 第14回 国際経済における文化(2)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

文献を随時配布するので、精読し理解すること。

教科書

参考書

The Economics of Cultural Policy

著者: David Throsby

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2010

ISBN: 521687845

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護基礎学特論 <M>**

担当者 梶谷 佳子

テーマ

看護実践を支える重要な要素を再確認し、人々の健康に関与する看護実践の基礎となる知識体系を学ぶ。

獲得目標

1.看護実践におけるクリティカルシンキングの意義を説明できる。2.看護の対象であり、看護師自身でもある人間の特性について説明できる。3.看護におけるコミュニケーションの意義について説明できる。4.看護実践家としての看護師の発達過程と各段階の特徴が述べられる。5.看護実践家として必要なリフレクションの必要性を説明できる。

授業の内容

文献のクリティークを行い、看護実践に必要な重要概念を理解します。クリティークのためのプレゼンテーションおよびディスカッションを行います。本科目の位置づけは演習導入科目となり演習でさらに深めていきます。

内 容

- 第1回 クリティカルシンキングの意義①
- 第2回 クリティカルシンキングの意義②
- 第3回 クリティカルシンキングの意義③
- 第4回 人間についての考察①
- 第5回 人間についての考察②
- 第6回 看護におけるコミュニケーション①
- 第7回 看護におけるコミュニケーション②
- 第8回 看護におけるコミュニケーション③
- 第9回 看護実践家としての発達①
- 第10回 看護実践家としての発達②
- 第11回 看護実践家としての発達③
- 第12回 看護実践家としてのリフレクション①
- 第13回 看護実践家としてのリフレクション②
- 第14回 看護実践家としてのリフレクション③
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業方法は講義とプレゼンテーションにて行います。

教科書

看護のコミュニケーション

著者： ジュリア・バルサー・ライリー／渡部富栄訳

出版社： エンゼルピア・ジャパン

出版年： 2007

ISBN:

参考書

ベナー看護ケアの臨床知 行動しつつ考えること

著者： パトリシアベナー他／井上智子

出版社： 医学書院

出版年： 2005

ISBN:

看護学の総合的な値の構築に向けて

著者： ペギー・L・チン, メオナー・K・クレマー／川原由佳里監訳

出版社： エンゼルビア・ジャパン

出版年： 2007

ISBN：

BASIC NURSING SEVEN EDITION

著者：

出版社： MOSBY ELZEBIER

出版年： 2011

ISBN：

専門家の知恵

著者： ドナルド・ショーン／佐藤学・秋田喜代美訳

出版社： ゆみる出版

出版年： 2001

ISBN：

ベナー看護論 新訳版

著者： パトリシアベナー／井部俊子監訳

出版社： 医学書院

出版年： 2005

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（50）

参加度（ ）

レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護技術学 <M>**

担当者 梶谷 佳子

テーマ

看護実践のコアとなる看護技術の構造と特性を理解し、これからの看護実践の質を向上させる基礎を身につける。

獲得目標

1.看護における看護技術の意義が説明できる。 2.看護技術の構造と特性が説明できる。 3.看護技術の普遍性と特殊性について説明できる。 4.看護技術についての先行研究を取り上げて研究の枠組・分析方法・有効性・妥当性を説明できる。 5.看護技術についての自分自身の見解が述べられる。

授業の内容

看護活動を行う上で中心的な概念である看護技術についての理解を深めます。看護技術を取り扱う先行研究を分析することで、臨床の知の具現化でもある看護技術の特性を明確にすることで、よりその理解を深めます。授業は学生のプレゼンテーションを中心とします。初回の授業において本科目の概観を説明し、看護技術について図書や資料を紹介します。これまでの臨床経験を想起しながら、理論と実際を結びつけるような思考の上り降りをしてください。

内 容

- 第1回 科目の概観・技術とは何か
- 第2回 看護技術の歴史と変遷①
- 第3回 看護技術の歴史と変遷②
- 第4回 看護技術の構造と特性①
- 第5回 看護技術の構造と特性②
- 第6回 看護技術の安全性と安楽性①
- 第7回 看護技術の安全性と安楽性②
- 第8回 Evidence-Based Nursing(EBN)の概念
- 第9回 Evidence-Based Nursing(EBN)と看護研究
- 第10回 臨床における看護技術研究①
- 第11回 臨床における看護技術研究②
- 第12回 臨床における看護技術研究③
- 第13回 臨床における看護技術研究④
- 第14回 看護技術におけるこれからの課題と展望
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

プレゼンテーションのための文献購読が必須となります。

教科書

授業時に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

h701011010

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 小児看護学〈M〉

担当者 堀 妙子

テーマ

健康課題のある子どもと家族の特徴を論理的に理解し、必要な看護援助方法を考える

獲得目標

1. 健康課題のある子どもとその家族を理解するために必要な理論や最近の知見を学び説明する事ができる。2. 健康課題のある子どもとその家族を支援するために必要な看護援助方法を公案する事ができる。3. 自身の看護経験を振り返りそのあり方を分析し報告する事ができる。

授業の内容

現在の日本における小児の医療及び看護に関する動向を踏まえた上で、子どもやその家族に関する理論や、Patent and Family -Centered careの概念を学習する。学習した理論やPatent and Family -Centered careの概念をもとに、健康課題のある子どもやその家族がおかれている状況を理解し、より具体的な看護援助方法を学ぶ。授業は講義及び学生のプレゼンテーションによって進める。

内 容

- 第1回 小児看護の役割
- 第2回 小児医療・小児看護の動向
- 第3回 子どもと家族
- 第4回 Patent and Family -Centered care
- 第5回 子どもを取り巻く環境
- 第6回 子どものヘルスプロモーション
- 第7回 入院している子どもへの看護(1)プレパレーション
- 第8回 入院している子どもへの看護(2)痛みのアセスメントとケア
- 第9回 危機的な健康問題をもつ子どもの看護
- 第10回 子どものEnd-of-Life care
- 第11回 慢性的な健康問題をもつ子どもの看護(1)
- 第12回 慢性的な健康問題をもつ子どもの看護(2)
- 第13回 在宅ケアを必要とする子どもの看護(1)
- 第14回 在宅ケアを必要とする子どもの看護(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅲ(周産期) <M>

担当者 遠藤 俊子・中野 育子

テーマ

今日のがが国の周産期医療の課題を踏まえ、周産期医療提供システムにおける看護職の新たな働き方を創造する力を養う。

獲得目標

1 変化の激しいわが国の周産期医療の実態を分析し、これからの母子援助のケアを組み込んだ周産期医療提供システムのあり方をチーム医療の観点からとらえる。2 周産期医療の各々の現場に応じた多職種が協働できる接近法や、新たなシステム構築にむけての調整ができる基礎能力を獲得する。3 周産期の母子援助のためのケアを政策へと結びつける手立てについて学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 わが国と諸外国の周産期医療の歴史的推移 周産期医療統計、周産期医療対策整備事業の方針、設置基準と実際、母体搬送の定義、搬送理由、基準、手順 医療提供者の数と質等から、周産期医療体制の現状を分析し、課題の抽出
- 第2回 //
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 わが国と諸外国の現在の周産期医療提供システム 日本、英国、オーストラリア、ニュージーランドの実情から分析し、わが国のあり方を検討
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 わが国と諸外国の周産期医療に関する看護・助産師教育制度
- 第10回 //
- 第11回 //
- 第12回 //
- 第13回 周産期医療における具体的な医療訴訟を取り上げ、検討する。
- 第14回 //
- 第15回 //
- 第16回 //
- 第17回 医療安全と助産師活動 周産期医療における機能評価、医療安全に関わるシステム
- 第18回 //
- 第19回 //
- 第20回 //
- 第21回 新たな周産期医療システムに関わる看護職(助産師)の役割と機能 助産師と産科医の協働の推進—チーム医療 院内助産システムの体制整備の経緯
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 //
- 第26回 //
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 //
- 第30回 //

授業以外での学習方法

教科書

専門誌からの論文・報告書を中心にし、必要時提示する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（30）

授業中発表等（30）

参加度（40）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地域看護学特論〈M〉

担当者 富永 真己

テーマ

地域看護活動のあり方

獲得目標

地域ヘルスケアの質の向上に寄与できる視点を確立する。

授業の内容

地域看護学の現状を知り、重要課題について理解し、地域看護学の機能と役割について検討する。地域を単位とした看護活動の理論と主要概念を学ぶ。続いて、地域看護に関する保健・医療・福祉・行政の変遷と現状を理解し、課題を分析し、地域ヘルスケアの質の向上に寄与できる役割について検討する。

内 容

- 第1回 地域看護の歴史的概観
 - 第2回 わが国の保健・医療・福祉・行政の現状と課題
 - 第3回 基本となる概念①
 - 第4回 基本となる概念②
 - 第5回 基本となる概念③
 - 第6回 活動を支える概念①
 - 第7回 活動を支える概念②
 - 第8回 地域看護学の特徴的な考え方①
 - 第9回 地域看護学の特徴的な考え方②
 - 第10回 地域看護学の特徴的な考え方③
 - 第11回 地域看護学の特徴的な考え方④
 - 第12回 地域看護学の展開方法①
 - 第13回 地域看護学の展開方法②
 - 第14回 地域ケアシステムと看護の機能
 - 第15回 地域における今後の課題と研究方法
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語圏文化研究 I a(外国事情 I) <Z>

担当者 浅井 雅志

テーマ

英語圏の文化についての理解を深める

獲得目標

英国とアメリカを中心にした「英語圏文化」についての理解を深めるとともに、これらの国々と日本、そしてその中の個人であるあなたが、どのような関係をもっているか、もつべきかについて考える。

授業の内容

現在進行しているグローバリゼーションは、世界のあちこちで大きな力ともなりまた脅威ともなっているが、その「基準」となっているのが、アメリカであり、またその文化的母胎である英国である。それゆえ、現在に生きる私たちは、否が応でもこの「アンгло・アメリカ文化」と直面せざるを得ない。事実、この文化はまず大衆文化としてわれわれの周りにはびこっている。この得体的に知れないものと、私たちはどう付き合えばよいのか。単なる「好」にも「親」にも、はたまた「嫌」にも走らずに、日本が長い関係を持つこの文化圏をじっくり見つめてみよう。この両国以外の英語文化圏にも触れる予定。授業では、なるべくビデオなどの視聴覚に訴えるものを使いながら、講義を進めていく。受講生は、講義の内容についての感想、疑問、意見などを最低3回、関心を持ったテーマについて短いペーパーを1回提出すること。これらを授業にフィードバックしたい。毎回出席を取ります。

内 容

- 第1回 イントロダクション——日本と英語圏との接触の歴史
- 第2回 アイルランド
- 第3回 英国①
- 第4回 英国②
- 第5回 英国③
- 第6回 アメリカ①
- 第7回 アメリカ②
- 第8回 アメリカ③
- 第9回 アメリカ④
- 第10回 アメリカ⑤
- 第11回 アメリカ⑥
- 第12回 アメリカ⑦
- 第13回 アメリカ⑧;カナダ
- 第14回 オーストラリア;ニュージーランド
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。英語圏で作られた映画を観たりや音楽を聴いたりするときも、その文化的背景を考えてみよう。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考文献一覧を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語圏文化研究Ⅱa(外国事情Ⅱ)〈Z〉

担当者 日高 周平

テーマ

英語圏の文化について、理解を深める。

獲得目標

英語圏のマイノリティーに焦点をあて、彼らの生活様式、言語、教育など様々な角度から理解を深めていく。

授業の内容

国際化が進んでいる中、英語圏への理解は学生にとって必用不可欠なものになってきている。英語圏に住むマイノリティーを知る事により、さらに英語圏の人々への理解を深めたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業の進め方、成績評価方法についての説明など)、マイノリティー／マジョリティーについてのディスカッション
- 第2回 Maori 1: 歴史、生活様式、アート(Ta moko)、Haka、国歌
- 第3回 Maori 2: バイリンガル教育、社会福祉問題
- 第4回 Amish: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
- 第5回 Jewish: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
- 第6回 Native Americans: 歴史、居住区域、アート、言語、音楽
- 第7回 African Americans: 歴史、言語(発音/イディオム)、文学、音楽、人種差別
- 第8回 Chinese Americans: 大陸横断鉄道、中国人街、移民、言語教育
- 第9回 Japanese Americans: 戦前戦中戦後、ハワイへの移住者の生活など
- 第10回 Mexican Americans: 不正入国問題、職業、Mexicanの中でのHip-hop文化
- 第11回 Indian American: Gujarat出身のインド系アメリカ人、言語、専門知識、職業など
- 第12回 Canadaのバイリンガル教育
- 第13回 Hong Kongのバイリンガル教育
- 第14回 個人研究
- 第15回 まとめ、個人研究発表

授業以外での学習方法

教科書

プリント等によって対応

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語圏文化研究Ⅱb(英米文学論Ⅱ)〈Z〉

担当者 浅井 雅志

テーマ

近代英文学を読む

獲得目標

D・H・ロレンスの作品を読むことを通して、文学のおもしろさと「すごさ」を感じると同時に、背景となっている英語圏文化についての理解を深める。

授業の内容

20世紀英文学にひととき高くそびえるD・H・ロレンス(1885-1930)。彼は長編小説の書き手として有名だが、中・短編小説にも優れたものが多い。このクラスでは、彼の短編集“The Woman Who Rode Away”の作品を読みながら、文学というものは、日々の人間の平凡な意識とどのように異なる「現実」の捉え方をするのか、それをいかに印象深く読者に提示するかを感じ取ってみたい。それと同時に、これらの作品の背景となっている近代英国について知ることとおして、英語圏文化の諸側面にも理解を広げることを目指したい。具体的には、章ごとに担当を決め、レジュメを作って発表してもらう。その後授業担当者が必要な説明を加え、それからクラス全体で内容について議論してみたい。また、期末にはペーパーを提出してもらう。書き方については授業で指導する。読む英文の分量が多く、積極的な参加が求められるので、相当の覚悟のある人の受講を期待している。欠席は4回まで認めるが、5回以上になると単位は認められない。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 The Lovely Lady 1
- 第3回 The Lovely Lady 2
- 第4回 Sun
- 第5回 The Border-Line
- 第6回 Jimmy and the Desperate Woman
- 第7回 The Last Laugh
- 第8回 In Love
- 第9回 Glad Ghosts
- 第10回 None of That!
- 第11回 The Rocking-Horse Winner
- 第12回 The Woman Who Rode Away 1
- 第13回 The Woman Who Rode Away 2
- 第14回 The Man Who Loved Islands 1
- 第15回 The Man Who Loved Islands 2 総括。ペーパー提出

授業以外での学習方法

授業で指示する。

教科書

The Woman Who Rode Away

著者: D.H.Lawrence

出版社: Penguin

出版年: 1996

ISBN: 0-14-018806-1

参考書

成績評価

a101025250

試験 (60)
授業中課題 ()
参加度 (10)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 Theory & Application II a(通訳研究) <Z>

担当者 西村 友美

テーマ

通訳の理論と集中訓練

獲得目標

(1) 実践を通して通訳術の基本を習得することを目指す。(2) 通訳を通じて異文化コミュニケーションについて考察する力を養う。

授業の内容

「通訳基礎論」で習得した基礎的理論と技術をもとに、より高度な通訳を集中的に訓練する。毎回の授業で、段階的なトレーニングを重ね、最終的には簡単な通訳(逐次・同時)ができるようにしたい。学期末近くにゲストスピーカーを招き、実際により即した通訳を体験してもらう予定である。また、通訳を異文化コミュニケーション学や言語学の視点からとらえ考察する。教科書の理論編を分担して授業でプレゼンをし、全体でディスカッションをする。最後に自分の意見をエッセイにまとめて提出してもらう。自ら通訳者を目指さない受講者も、通訳者はことばの壁をどう乗り越えているのか、また異文化間のコミュニケーションを円滑に進めるためにどんな工夫をしているのかを知ることは、自分の英語の運用にも役立つはずである。授業はそのような観点から進めていきたい。なお、英語コミュニケーション演習Ⅰの受講者にはこの科目を同時履修することを勧める。

内 容

- 第1回 通訳とは(歴史、仕事)、通訳技法(理解)
- 第2回 通訳とは(資質と能力、通訳と翻訳)、通訳技法(クイック・レスポンス)
- 第3回 異文化コミュニケーションとは、通訳技法(シャドーイング)
- 第4回 異文化コミュニケーターとしての通訳者、通訳技法(パラフレーズ)
- 第5回 通訳と言語学との接点(比喻)、通訳技法(要約)
- 第6回 通訳と言語学との接点(推意)、通訳技法(要約)
- 第7回 通訳と言語学との接点(意味の一致)、通訳技法(メモ取り)
- 第8回 通訳と言語学との接点(通訳プロセス)、通訳技法(メモ取り)
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 通訳と言語学との接点(会話のルール・礼のルール)、通訳技法(サイト・トランスレーション)
- 第11回 通訳と言語学との接点(意味の復元)、通訳技法(サイト・トランスレーション)
- 第12回 通訳と言語学との接点(推意の認知プロセス)、通訳技法(同時通訳)
- 第13回 通訳と言語学との接点(通訳に必要な三つの知識)、通訳技法(同時通訳)
- 第14回 ゲスト・スピーカー
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書の理論編を理解するための文献を読む。各種通訳練習。本格的通訳トレーニングは、TOEIC800点程度取得、あるいは英検準1級を取得してから始めるというのが通説になっている。この授業では、受講者ができるだけ早くそのレベルに到達することができるよう指導するので、授業外での自習をしっかりとすることが必須条件となる。

教科書

グローバル時代の通訳

著者: 水野真木子ほか著

出版社: 三修社

出版年: 2002

ISBN:

参考書

授業で指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 Theory & Application II c(ジェンダー研究) <Z>

担当者 芝原 妙子

テーマ

ジェンダーは人種、民族、階級、社会、文化、宗教とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点を用いて今日的な課題を考える。

獲得目標

ジェンダーに関する基本的な概念を理解すると共に、ジェンダーの視点を用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目的とする。

授業の内容

講義中心の授業である。テキストは用いず講義に必要な資料を適時配布する。その資料に基づいての予習が講義の理解のために不可欠である。また講義の理解を深めるため映像資料を用いることがある。講義中に配布するコメント用紙への記入を求める。コメントの内容は評価の対象となる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、ジェンダー史・ジェンダー研究の概観
 - 第2回 ジェンダー研究キー・コンセプト
 - 第3回 ジェンダーと家族 (1)
 - 第4回 ジェンダーと家族 (2)
 - 第5回 ジェンダーと法・社会規範
 - 第6回 ジェンダーと宗教
 - 第7回 ジェンダーと戦争
 - 第8回 ジェンダーと戦争
 - 第9回 ジェンダーと政治
 - 第10回 ジェンダーと平和運動
 - 第11回 ジェンダーと平和運動
 - 第12回 ジェンダーと労働・経済
 - 第13回 ジェンダーと労働・経済
 - 第14回 ジェンダーとセクシュアリティ
 - 第15回 まとめ ジェンダー研究の応用
-

授業以外での学習方法

日常から授業内容に関連するメディア(新聞・雑誌・報道番組など)に目を通す。授業中に紹介された参考文献を読み進めること。

教科書

参考書

女性の目からみたアメリカ史

著者: エレン・キャロル・ディチュボイス、リン・ディメニル

出版社: 明石書店

出版年: 2009

ISBN:

ジェンダーで学ぶ社会学

著者: 伊藤公雄、牟田和恵編

出版社: 世界思想社

出版年: 2006

ISBN:

ジェンダーから世界を読むII

著者： 中野知律、越智博美編

出版社： 明石書店

出版年： 2008

ISBN：

知らないと恥ずかしいジェンダー入門

著者： 加藤秀一

出版社： 朝日新聞社

出版年： 2006

ISBN：

近代日本女性論の系譜

著者： 金子幸子

出版社： 不二出版

出版年： 1999

ISBN：

アメリカ・ジェンダー研究入門

著者： 有賀夏紀、小檜山ルイ編

出版社： 青木書店

出版年： 2010

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（50）

授業中発表等（）

参加度（）

授業中課題50%は、講義時に提出を求めるコメントを意味する。試験50%は中間試験と期末レポート試験を意味する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 Theory & Application II d(国際マーケティング論) <Z>

担当者 岡田 有叶

テーマ

基本貿易実務と貿易英語の学習を中心に国際ビジネスを実務的に学ぶ

獲得目標

国際ビジネス、特に貿易分野に進むことを希望する皆さんにとって必須知識となる貿易実務と貿易英語の基本を中心にして体系的に学習し、併せて貿易実務検定C級(できればそれ以上)の合格を目指します。(同学習と資格の取得によって、これらの分野での就職や入社後の業務活動が円滑に行なわれることを期待します。)

授業の内容

貿易実務検定C級オフィシャルテキストに沿って下記項目を学習し、適宜、テキストで(十分に)触れられていないが、現在国際ビジネス界で話題になっている事柄を時事問題として取り上げて補足します。これら学習案件について皆さんに調べてもらい、簡単なレポートを書いてもらうことも考えています。

内 容

- 第1回 貿易取引の全体像の理解
- 第2回 市場調査から契約の成立まで
- 第3回 信用状の基礎知識
- 第4回 品質条件・数量条件等
- 第5回 インコタームズの基礎知識
- 第6回 貿易運送
- 第7回 貨物海上保険、貿易取引に関するその他の保険
- 第8回 代金決済、船積みから輸出代金の回収
- 第9回 船積通知の受領から貨物の引取りまで
- 第10回 外国為替相場と為替変動リスクの回避
- 第11回 国際貿易体制の基礎知識
- 第12回 貿易書類の基礎知識(インボイス、売買契約書、取消不能信用状、為替手形)
- 第13回 貿易書類の基礎知識(船荷証券、航空運送状、保険証券)
- 第14回 貿易実務英語(英語ビジネスレターの基礎表現、貿易実務用語)
- 第15回 貿易実務英語(英語ビジネスレターの基礎表現、貿易実務用語)
- 第16回 まとめと期末テスト

授業以外での学習方法

世界の政治、経済等がどのように動くかによって国際ビジネスは大きく影響を受けます。新聞、テレビその他の報道等からこれらの動向を把握し、ビジネスと関連付けて考える習慣をつけましょう。国際ビジネス分野を目指す大学生として、就活生として大切なことであり、貿易実務検定C級以上の受験対策としても役立ちます。

教科書

最新貿易実務ベーシックマニュアル(2版第4刷)

著者: 日本貿易実務検定協会

出版社: MHJ出版

出版年: 2012(2版第4刷)

ISBN: 9.7849E+12

(上記1注:開講時点までに改訂版(改訂刷)が発行されることも考えられ、その場合は、同時点での最新版(最新刷)を使用します。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

実践貿易実務第11版

著者: ジェトロ

出版社: ジェトロ

出版年: 2012

ISBN: 9.78482E+12

ジェトロ貿易ハンドブック2013

著者: ジェトロ

出版社: ジェトロ

出版年: 2013

ISBN:

図解貿易実務ハンドブックベーシック版(第5版)

著者: 日本貿易実務検定協会

出版社: 日本能率協会マネジメントセンター

出版年: 2012

ISBN: 9.78482E+12

めざせ! 貿易実務検定(改訂第8版)

著者: 日本貿易実務検定協会

出版社: 日本能率協会マネジメントセンター

出版年: 2012(第3刷)

ISBN: 9.78482E+12

(上記参考書注:この他、詳しくは授業中に説明します。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(日)〈A〉

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日本近代文学の研究法

獲得目標

図書館利用法、レポートの書き方、レジュメの作り方、文学作品の読解法など、日本近代文学を研究していくにあたって必要とされる知識やスキルを身につける

授業の内容

前半は担当教員による説明とグループワーク、後半は受講生により発表を行う。必要に応じて学外授業を実施する。外部講師による講演を実施することもある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 登場人物を分析してみる—芥川龍之介『地獄変』(1)
 - 第3回 ストーリーを分析してみる—芥川龍之介『地獄変』(2)
 - 第4回 結末を分析してみる—芥川龍之介『地獄変』(3)
 - 第5回 レジュメの作り方、図書館利用法
 - 第6回 先行論文の活用法
 - 第7回 受講生による発表(1) 夏目漱石『こころ』
 - 第8回 受講生による発表(2) 森鷗外『高瀬舟』
 - 第9回 受講生による発表(3) 芥川龍之介『羅生門』
 - 第10回 受講生による発表(4) 宮沢賢治『注文の多い料理店』
 - 第11回 受講生による発表(5) 中島敦『山月記』
 - 第12回 受講生による発表(6) 谷崎潤一郎『春琴抄』
 - 第13回 受講生による発表(7) 太宰治『人間失格』
 - 第14回 受講生による発表(8) 三島由紀夫『潮騒』
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業で取り扱う作品は必ず読んでくること。課題は必ず提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(日)〈B〉

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語のことばと心

獲得目標

古典文学をきちんと読むことで味わうことのできる楽しさと意義を実感することを目的とする。古典を読むことが、現代人にとって、各人の人生を考えるきっかけとなるものであることを授業を通じて確認してもらいたい。

授業の内容

前半は、源氏物語を読むための必要な知識や方法の確認を行いつつ作品を鑑賞し、後半は、演習形式で読みの実践を重ねていく。

内 容

- 第1回 前半の授業展開のねらいと進め方のガイダンス
- 第2回 源氏物語という作品について
- 第3回 源氏物語が描く人生
- 第4回 源氏物語を読む方法
- 第5回 源氏物語を読む その1(光源氏の恋 理想と現実)
- 第6回 源氏物語を読む その2(光源氏の人生 栄耀も苦悩も豊かな人生)
- 第7回 源氏物語を読む その3(源氏物語の女君 その賢明さ)
- 第8回 後半の演習形式の授業についてのガイダンス
- 第9回 源氏物語の読みの演習 その1(桐壺の巻)
- 第10回 源氏物語の読みの演習 その2(若紫の巻)
- 第11回 源氏物語の読みの演習 その3(葵の巻)
- 第12回 源氏物語の読みの演習 その4(賢木の巻)
- 第13回 源氏物語の読みの演習 その5(須磨の巻)
- 第14回 源氏物語の読みの演習 その6(明石の巻)
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全14冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964～1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者： 池田亀鑑

出版社： 中央公論社

出版年： 1984～1985

ISBN：

その他各種源氏物語注釈書

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

源氏物語カルチャー講座

著者： 福嶋昭治

出版社： 扶桑社

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（40）

参加度（30）

小テスト（ ）

授業中発表等（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(日)<C>

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語を掘り下げる

獲得目標

1)日本語を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2)データ収集、データ分析、レジユメの作成、口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3)他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の内容

日本語はもっとも身近な言語だが、そこには私たちが知らない〈謎〉がひそんでいる。動詞の意味分析を通して、その〈謎〉を発見し、自らの力で解明する方法をマスターする。

内 容

- 第1回 導入：日本語をなぜ考えるのか？
 - 第2回 内省による言語現象の分析
 - 第3回 実例による言語現象の分析
 - 第4回 1回目の報告の準備
 - 第5回 受講生による報告(1)
 - 第6回 受講生による報告(2)
 - 第7回 受講生による報告(3)
 - 第8回 受講生による報告(4)
 - 第9回 2回目の報告の準備(1)
 - 第10回 2回目の報告の準備(2)
 - 第11回 受講生による報告(1)
 - 第12回 受講生による報告(2)
 - 第13回 受講生による報告(3)
 - 第14回 受講生による報告(4)
 - 第15回 受講生による報告(5)
-

授業以外での学習方法

図書館で『月刊言語』や『日本語学』といった雑誌のバックナンバーを手にとってみてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(日)<D>

担当者 新谷 泰一

テーマ

書の基本の総合的学習

獲得目標

書を理解し、書を学んでいくためのさまざまな方法や問題など、基本的な知識と技法の修得をめざす。

授業の内容

書の基本に関する講義と実習。

内 容

- 第1回 書体と書風
 - 第2回 文字の成立と書体の発達、推移。
 - 第3回 文字の成立と書体の発達、推移。
 - 第4回 篆書の鑑賞と表現。
 - 第5回 隷書の鑑賞と表現。
 - 第6回 楷書の造形。
 - 第7回 行書の造形。
 - 第8回 漢字書の歴史。
 - 第9回 漢字書の歴史。
 - 第10回 仮名書の歴史。
 - 第11回 人と書。
 - 第12回 人と書。
 - 第13回 生活と書。
 - 第14回 用具、用材について。
 - 第15回 まとめ。
-

授業以外での学習方法

多くの書に接する機会を持つこと。臨書をしっかりすること。また書に関する参考書を多く読み、書への理解を深めること。

教科書

授業で資料配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業で紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

レポート、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **書法Ⅱ <a>**

担当者 尾西 正成

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

獲得目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。北魏『張猛龍碑』と褚遂良『雁塔聖教序』を、半紙・半切に臨書する。

授業の内容

内 容

- 第1回 北魏の書について
- 第2回 張猛龍碑について
- 第3回 張猛龍碑の基本点画
- 第4回 張猛龍碑 半紙臨書①
- 第5回 張猛龍碑 半紙臨書②
- 第6回 張猛龍碑 半切臨書①
- 第7回 張猛龍碑 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
- 第8回 ※遂良の楷書について
- 第9回 雁塔聖教序の基本点画
- 第10回 雁塔聖教序 半紙臨書①
- 第11回 雁塔聖教序 半紙臨書②
- 第12回 雁塔聖教序 半切臨書①
- 第13回 雁塔聖教序 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
- 第14回 第14回 魏晋小楷・王羲之
- 第15回 第15回 顔真卿の楷書 *条幅臨書作品の互評会を行う

授業以外での学習方法

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。

教科書

中国法書選23張猛龍碑

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

中国法書選34雁塔聖教序

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **書法Ⅱ **

担当者 尾西 正成

テーマ

楷書の書法を理解し、表現力を身につける。

獲得目標

初唐の三大家を中心に楷書の書美を習得する。初唐の三大家の個性豊かな書美、書の奥深さを味わいながら進めていく。北魏『張猛龍碑』と褚遂良『雁塔聖教序』を、半紙・半切に臨書する。

授業の内容

内 容

- 第1回 北魏の書について
- 第2回 張猛龍碑について
- 第3回 張猛龍碑の基本点画
- 第4回 張猛龍碑 半紙臨書①
- 第5回 張猛龍碑 半紙臨書②
- 第6回 張猛龍碑 半切臨書①
- 第7回 張猛龍碑 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
- 第8回 ※遂良の楷書について
- 第9回 雁塔聖教序の基本点画
- 第10回 雁塔聖教序 半紙臨書①
- 第11回 雁塔聖教序 半紙臨書②
- 第12回 雁塔聖教序 半切臨書①
- 第13回 雁塔聖教序 半切臨書② *条幅臨書作品の互評会を行う
- 第14回 第14回 魏晋小楷・王羲之
- 第15回 第15回 顔真卿の楷書 *条幅臨書作品の互評会を行う

授業以外での学習方法

展覧会などの鑑賞、又そのレポート提出。

教科書

中国法書選23張猛龍碑

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

中国法書選34雁塔聖教序

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法Ⅳ〈a〉

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした基本的な書法の研究。

獲得目標

基本的なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 高野切第一種の臨書①〈線運動・墨法・構成等〉
 - 第2回 高野切第一種の臨書②〈線運動・墨法・構成等〉
 - 第3回 高野切第一種の臨書③〈線運動・墨法・構成等〉
 - 第4回 高野切第一種の背臨
 - 第5回 高野切第一種の集字
 - 第6回 高野切第一種の倣書
 - 第7回 寸松庵色紙について
 - 第8回 寸松庵色紙の臨書①〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉
 - 第9回 寸松庵色紙の臨書②〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉
 - 第10回 寸松庵色紙の臨書③〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉
 - 第11回 寸松庵色紙の臨書④〈ちらし書きの構成法・線運動・墨法〉
 - 第12回 寸松庵色紙の集字
 - 第13回 寸松庵色紙の倣書
 - 第14回 寸松庵色紙の倣書
 - 第15回 寸松庵色紙の倣書
-

授業以外での学習方法

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅ですべて復習と予習を重ねること。

教科書

日本名筆選「高野切第一種」

著者：

出版社：二玄社

出版年：

ISBN：

日本名筆選「寸松庵色紙」

著者：

出版社：二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法Ⅳ

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした基本的なかな書法の研究。

獲得目標

基本的なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 高野切第一種の臨書①<線運動・墨法・構成等>
 - 第2回 高野切第一種の臨書②<線運動・墨法・構成等>
 - 第3回 高野切第一種の臨書③<線運動・墨法・構成等>
 - 第4回 高野切第一種の背臨
 - 第5回 高野切第一種の集字
 - 第6回 高野切第一種の倣書
 - 第7回 寸松庵色紙について
 - 第8回 寸松庵色紙の臨書①<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
 - 第9回 寸松庵色紙の臨書②<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
 - 第10回 寸松庵色紙の臨書③<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
 - 第11回 寸松庵色紙の臨書④<ちらし書きの構成法・線運動・墨法>
 - 第12回 寸松庵色紙の集字
 - 第13回 寸松庵色紙の倣書
 - 第14回 寸松庵色紙の倣書
 - 第15回 寸松庵色紙の倣書
-

授業以外での学習方法

豊かな表現力の養成には徹底した習熟が大切。自宅ですべて復習と予習を重ねること。

教科書

日本名筆選「高野切第一種」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

日本名筆選「寸松庵色紙」

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（80）

授業中発表等（0）

参加度（20）

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本語学概説Ⅱ**

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語の多様性

獲得目標

時間的な変化, 地理的変異, さまざまな属性(世代差, 男女差, 場面差)によることばの切り替え・使い分けなど, 日本語の多様性を示す現象について理解を深める。

授業の内容

時間, 地理, 切り替えなどの観点から日本語の多様性を詳しく見ていくことによって, 日本人にとって日本語がいかに未知の存在であるかを明らかにしていく。

内 容

- 第2回 日本語史(1) 音韻変化
 - 第3回 日本語史(2) かなづかいの変遷
 - 第4回 日本語史(3) 語彙の変遷
 - 第5回 日本語史(4) 文法の変化①概観
 - 第6回 日本語史(5) 文法の変化②変化の方向性
 - 第7回 方言学(1) 方言の概観と方言区画
 - 第8回 方言学(2) 方言圏論と方言地理学
 - 第9回 方言学(3) 接触による方言の変化
 - 第10回 方言学(4) 共通語化と方言の生命力
 - 第11回 社会言語学(1) 話し手/聞き手の属性とことばの切り替え
 - 第12回 社会言語学(2) ことばの世代差
 - 第13回 社会言語学(3) 日本語の性
 - 第14回 社会言語学(4) 日本語学習者の〈日本語〉
 - 第15回 まとめ
 - 第1回 導入:日本語のバリエーション
-

授業以外での学習方法

参考書としてあげた新書を読んでください。日本語への理解や興味を深めてくれます。

教科書

参考書

日本の方言地図

著者: 徳川宗賢編

出版社: 中公新書

出版年: 1979年

ISBN:

横書き登場 日本語表記の近代化

著者: 屋名池誠

出版社: 岩波新書

出版年: 2003年

ISBN:

日本語の歴史

著者： 山口仲美

出版社： 岩波新書

出版年： 2006年

ISBN:

女ことばはどこへ消えたか？

著者： 小林千草

出版社： 光文社新書

出版年： 2007年

ISBN:

振仮名の歴史

著者： 今野真二

出版社： 集英社新書

出版年： 2009年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 中学書写Ⅱ

担当者 尾西 正成

テーマ

中学校学習指導要領における「書写」の学習

獲得目標

漢字と仮名の調和した書き方を理解し、その実技の習得を目的とする。授業研究によって現場における効果的な指導法を模索する。文部科学省による中学校指導要領の目的に沿って、書写の基本から応用まで実技練習を通して学び、中学校教員免許(国語)に役立てる。中学校の教科書「中学書写」を用いて、楷書・行書・仮名の基本と応用を学習する。

授業の内容

内 容

- 第1回 前期の復習
 - 第2回 前期の復習
 - 第3回 半紙による楷書と仮名の調和
 - 第4回 半紙による行書と仮名の調和
 - 第5回 八つ切による学習
 - 第6回 細字による仮名の学習
 - 第7回 細字による楷書の学習
 - 第8回 細字による行書の学習
 - 第9回 細字による漢字仮名交じりの書①
 - 第10回 細字による漢字仮名交じりの書②
 - 第11回 実用に即した書①
 - 第12回 実用に即した書②
 - 第13回 生活の中に生きる芸術書①
 - 第14回 生活の中に生きる芸術書②
 - 第15回 現代における書の必要性和これから
-

授業以外での学習方法

展覧会などの鑑賞をし、そのレポートの提出

教科書

中学書写一年

著者： 井上輝夫他

出版社： 光村図書

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

a10201d650

課題への積極的な学習、授業での意欲的な姿勢、出席率を総合的に判断し、評価する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 漢文学Ⅱ

担当者 蒲 豊彦

テーマ

漢文学概説

獲得目標

漢文学Ⅰを継続する。中国古典文学史の基本事項を、自分で整理できること。授業は毎回テーマが決まっており、1回ごとに完結する。したがって毎回の授業の内容はスムーズにはつながらない。しかし、1年を通して中国古典文学についてのおおまかなイメージを得られるようにしたい。

授業の内容

「漢文学」を概説しつつ、一方で、通常の漢文学では扱わない劇や通俗小説(西遊記のようなもの)も取り上げる。具体的には、漢文学ⅠとⅡで古代から近代初頭までの中国古典文学のおもなジャンルと作品を、時代を追って網羅的に紹介する。そのほか、朝鮮半島、ベトナム、日本の漢文学も扱う予定。

内 容

- 第1回 後期授業の内容紹介
 - 第2回 朝鮮半島の漢文学
 - 第3回 小説の発生
 - 第4回 日本の小説
 - 第5回 長安と詩人Ⅰ
 - 第6回 長安と詩人Ⅱ
 - 第7回 日本の古典小説と中国
 - 第8回 中国の音楽と詞
 - 第9回 印刷術の発展
 - 第10回 中国のオペラ
 - 第11回 都市の繁栄と通俗小説
 - 第12回 読書の歴史
 - 第13回 水滸伝と民衆反乱
 - 第14回 文学革命
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業で取り上げる文学作品はいずれも、その翻訳が本学図書館に入っているため、たとえ1ページでもよいので、見ておいてほしい。参考文献と詳しい授業内容については、<http://yuri.kt.tachibana-u.ac.jp/~kaba/> を見ること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

漢文学のページ

<http://yuri.kt.tachibana-u.ac.jp/~kaba/>

授業に関するさまざまな情報

2013 Syllabus

科目名 篆刻Ⅱ

担当者 小早川 修治

テーマ

刻印の技術の習得

獲得目標

篆刻技術の習得

授業の内容

「篆刻Ⅰ」で習得した印の理解の上に立ち、それらを実際に制作し、その技術の習得を目的とする。篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。それ故、普段から篆書に慣れ親しんでおくことが、技術習得の上で重要になってくる。「篆刻Ⅰ」を履修していることが望ましい。

内 容

- 第1回 側款の文章表現(漢文)、誰が、いつ刻したか
 - 第2回 " どこで、誰の為に刻したか
 - 第3回 側款の刻し方
 - 第4回 白文四字印の布字
 - 第5回 " 刻と鈐印
 - 第6回 朱文四字印の布字
 - 第7回 " 刻と鈐印
 - 第8回 白文四字印の布字
 - 第9回 " 刻と鈐印
 - 第10回 朱文四字印の布字
 - 第11回 " 刻と鈐印
 - 第12回 白文四字印の布字
 - 第13回 " 刻と鈐印
 - 第14回 朱文四字印の布字
 - 第15回 " 刻と鈐印
-

授業以外での学習方法

篆刻は当然のことながら、篆書の理解が前提にある。日頃から展覧会、博物館等に出向き鑑賞眼を高め、篆書を書くことが篆刻の上達に資することは言を待たない。

教科書

書道テキスト 第10巻 篆刻

著者:

出版社: 二玄社

出版年:

ISBN: 7.98454E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(日)<a>**

担当者 安達 太郎

テーマ

〈表現〉を分析する

獲得目標

1) 表現を学ぶことの意味を理解し、分析する方法を修得する。2) テキスト分析、レジメの作成、口頭発表という一連の作業をとおして、「勉強」とは違う「研究」のあり方を理解する。3) 他の受講生の発表に対して積極的に質問を行うことによって、ゼミに対する能動的な関わり方を身につける。

授業の内容

日常生活から文学や芸術の分野まで、私たちはさまざまなレベルで〈表現〉に触れている。ここでは翻訳という行為を対象として、あるテキストがどのように〈解釈〉され、どのように別のテキストとして〈表現〉されていくのかを考える。

内 容

- 第1回 導入：〈表現〉を分析する
 - 第2回 新聞における表現
 - 第3回 音楽における表現
 - 第4回 ドラマにおける表現
 - 第5回 表現を作り上げる現場
 - 第6回 翻訳を分析する方法の説明(1)
 - 第7回 翻訳を分析する方法の説明(2)
 - 第8回 受講生による報告(1)
 - 第9回 受講生による報告(2)
 - 第10回 受講生による報告(3)
 - 第11回 受講生による報告(4)
 - 第12回 受講生による報告(5)
 - 第13回 受講生による報告(6)
 - 第14回 受講生による報告(7)
 - 第15回 受講生による報告(8)
-

授業以外での学習方法

参考書としてあげた『翻訳夜話』に目を通してください。翻訳に対する村上春樹の姿勢を知ることができます。

教科書

参考書

翻訳夜話

著者： 村上春樹・柴田元幸

出版社： 文芸春秋

出版年： 2000年

ISBN： 978-4166601295

翻訳夜話2 サリンジャー戦記

著者： 村上春樹・柴田元幸

出版社： 文芸春秋

出版年： 2003年

ISBN： 978-4166603305

翻訳教室

著者： 柴田元幸

出版社： 新書館

出版年： 2006年

ISBN: 978-4403210884

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(日)**

担当者 辻本 千鶴

テーマ

現代文学 小説鑑賞

獲得目標

研究入門で学んだ発表の仕方、レジュメの作り方の復習を兼ねて、演習形式の授業を行う。3回生ゼミへの橋渡し、及び研究対象として読む作家・作品の幅を広げることを目標とする。

授業の内容

村上春樹『若い読者のための短編小説案内』をテキストとし、扱われている小説を演習形式で読み進める。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 村上春樹「ノルウェイの森」①
- 第3回 村上春樹「ノルウェイの森」②
- 第4回 受講生による発表 吉行淳之介「水の畔り」
- 第5回 受講生による発表 小島信夫「馬」
- 第6回 受講生による発表 安岡章太郎「ガラスの靴」
- 第7回 「水の畔り」・「馬」・「ガラスの靴」まとめ
- 第8回 受講生による発表 庄野潤三「静物」
- 第9回 受講生による発表 丸谷才一「樹影譚」
- 第10回 受講生による発表 長谷川四郎「阿久正の話」
- 第11回 「静物」・「樹影譚」・「阿久正の話」まとめ
- 第12回 ワークショップ 安岡章太郎「家族団欒図」
- 第13回 映画「トニー滝谷」鑑賞
- 第14回 原作「トニー滝谷」(村上春樹 作)を読む。
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自分の担当でなくとも、事前に作品を通読すること。授業で扱う作家の他の作品も積極的に読むこと。

教科書

若い読者のための短編小説案内

著者： 村上春樹

出版社： 文春文庫

出版年： 2010年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

試験はレポート形式とする。発表内容を適宜修正して、論文の体裁にすること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(日)<c>**

担当者 林 久美子

テーマ

文学研究の方法を学ぶ

獲得目標

多くの作品に触れることで、文学の幅広さを知る。きちんと本文を読む態度を養う。プレゼンテーションの方法を身につける。論文の書き方を学ぶ。

授業の内容

前半は古典文学またはその影響を受けた作品についての読みを披露し、後半には、その作品について取り上げた論文を紹介、評価する。

内 容

- 第1回 授業のねらいと進め方についての説明
 - 第2回 中・近世の作品、あるいはそれをもとにした近現代作品から自分に合ったものを選ぶ
 - 第3回 各自の選んだ作品について、研究概要をまとめ、問題点を探る
 - 第4回 作品について語る(プレゼンテーション)①
 - 第5回 同上②
 - 第6回 同上③
 - 第7回 同上④
 - 第8回 同上⑤
 - 第9回 論文を検索し、収集する
 - 第10回 論文の組み立て方、論述の仕方について学ぶ
 - 第11回 すぐれた論文を紹介する①
 - 第12回 同上②
 - 第13回 同上③
 - 第14回 同上④
 - 第15回 特別講義(時期は未定)
-

授業以外での学習方法

本文をよく読む。図書館やインターネットを活用する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参加度には出席だけでなく、受講態度も含まれます

参考URL

2013 Syllabus

科目名 漢字古典研究Ⅱ〈a〉

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字古典の鑑賞と書法解明(唐・宋・元・明・清代各名家及び日本の漢字名跡)

獲得目標

多くの古典に触れ、知識とすると同時に、さまざまな書法の習得をめざす。この授業は、さまざまな漢字古典に触れ、鑑賞力と表現力を一層確かなものにするべく設けられ、中国中唐以後、明清代に到る名家たちの劇跡を自分の眼と手で確かめることとした。多くの古典名跡を手がけることによって、異なる書風の習得と、その時代の書者の書の理想を追求し、幅広い書表現のあり方を考えることとする。授業は1時間数古典をこなし、臨書と鑑賞ノートの作成を行い、臨書を通して得た技法の解明や自らの手応えを記してファイルすることとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス・唐代の書
- 第2回 唐代中期以降の書①
- 第3回 唐代中期以降の書②
- 第4回 宋三大家 米※
- 第5回 宋三大家 蘇軾・黄庭堅
- 第6回 元代の書
- 第7回 明代の書
- 第8回 明末清初の書①
- 第9回 明末清初の書②
- 第10回 明末清初の書③
- 第11回 清代以降の書
- 第12回 日本の書の流れ(漢字を中心として)日本奈良時代以前の書
- 第13回 日本平安時代の書・三跡
- 第14回 日本江戸時代の書(良寛など)
- 第15回 第15回 鑑賞ノート(作品貼付)提出

授業以外での学習方法

各時代の古典の選択や分量など、個々に任される。相当量は家庭での学習となると思われるので、綿密な計画を立てて、授業に臨んでもらいたい。

教科書

改訂書道の古典1～3

著者： 大東文化大学書道文化センター編

出版社： 二玄社

出版年： 1984

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a10202a410

鑑賞ノート、授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 漢字古典研究Ⅱ

担当者 尾西 正成

テーマ

漢字古典の鑑賞と書法解明(唐・宋・元・明・清代各名家及び日本の漢字名跡)

獲得目標

多くの古典に触れ、知識とすると同時に、さまざまな書法の習得をめざす。この授業は、さまざまな漢字古典に触れ、鑑賞力と表現力を一層確かなものにするべく設けられ、中国中唐以後、明清代に到る名家たちの劇跡を自分の眼と手で確かめることとした。多くの古典名跡を手がけることによって、異なる書風の習得と、その時代の書者の書の理想を追求し、幅広い書表現のあり方を考えることとする。授業は1時間数古典をこなし、臨書と鑑賞ノートの作成を行い、臨書を通して得た技法の解明や自らの手応えを記してファイルすることとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス・唐代の書
- 第2回 唐代中期以降の書①
- 第3回 唐代中期以降の書②
- 第4回 宋三大家 米※
- 第5回 宋三大家 蘇軾・黄庭堅
- 第6回 元代の書
- 第7回 明代の書
- 第8回 明末清初の書①
- 第9回 明末清初の書②
- 第10回 明末清初の書③
- 第11回 清代以降の書
- 第12回 日本の書の流れ(漢字を中心として) 日本奈良時代以前の書
- 第13回 日本平安時代の書・三跡
- 第14回 日本江戸時代の書(良寛など)
- 第15回 第15回 鑑賞ノート(作品貼付)提出 ※この授業では必要に応じて学外授業を実施することがある。

授業以外での学習方法

各時代の古典の選択や分量など、個々に任される。相当量は家庭での学習となると思われるので、綿密な計画を立てて、授業に臨んでもらいたい。

教科書

改訂書道の古典1～3

著者： 大東文化大学書道文化センター編

出版社： 二玄社

出版年： 1984

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

鑑賞ノート、授業への意欲的な取り組み、自発的な課題実習へのアプローチ、出席率など総合的に評価したい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 かな古典研究Ⅱ <a>

担当者 橋本 二三

テーマ

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

獲得目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 院政時代の作品「曼殊院本古今集」
- 第2回 院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
- 第3回 院政時代の作品「本阿弥切古今集」
- 第4回 院政時代の作品「小島切齋宮女御集」
- 第5回 世尊寺家の書流について①
- 第6回 世尊寺家の書流について②
- 第7回 世尊寺家の書流について③
- 第8回 世尊寺家の書流について④
- 第9回 平安時代末期の作品「針切」
- 第10回 平安時代末期の作品「香紙切」
- 第11回 平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
- 第12回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第13回 鎌倉時代の作品(西行)
- 第14回 鎌倉時代の作品(定家)
- 第15回 江戸時代の書について(良寛)

授業以外での学習方法

授業中では学習時間が足りないなので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

教科書

「改訂書道の古典Ⅲ」

著者： 大東文化大学書道センター編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a10202a610

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **かな古典研究Ⅱ **

担当者 橋本 二三

テーマ

多様な書美を競った院政時代から江戸時代までの書美について理解。

獲得目標

多様なかな書美の理解と書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 院政時代の作品「曼殊院本古今集」
 - 第2回 院政時代の代表的作品「関戸本古今集」
 - 第3回 院政時代の作品「本阿弥切古今集」
 - 第4回 院政時代の作品「小島切齋宮女御集」
 - 第5回 世尊寺家の書流について①
 - 第6回 世尊寺家の書流について②
 - 第7回 世尊寺家の書流について③
 - 第8回 世尊寺家の書流について④
 - 第9回 平安時代末期の作品「針切」
 - 第10回 平安時代末期の作品「香紙切」
 - 第11回 平安時代末期の作品「和泉式部続集切」
 - 第12回 鎌倉時代の作品(西行)
 - 第13回 鎌倉時代の作品(西行)
 - 第14回 鎌倉時代の作品(定家)
 - 第15回 江戸時代の書について(良寛)
-

授業以外での学習方法

授業中では学習時間が足りないなので、自宅学習が大切。清書作品は毎週仕上げておくこと。

教科書

「改訂書道の古典Ⅲ」

著者： 大東文化大学書道センター編

出版社： 二玄社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a10202a612

授業中課題には提出物とレポートを含む。授業への意欲的な取り組み、出席率など総合的に評価したい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読b(日本語文法研究Ⅱ)

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語文法の展開

獲得目標

1)日本語がどのようなしくみを持つ言語であるのか理解する。2)自分たちが日常的に使っている日本語でさえ、私たちにとって未知な存在であることを理解する。3)2)を通じて、自分の立場を絶対化せず、相対的に考えるという視点を学ぶ。

授業の内容

日本語を母語とする者にとって、日本語はあらためて考える余地がないほど当たり前存在に見える。この授業では、日本語のしくみについて私たちが驚くほど「知らない」ことを明らかにすることを通じて日本語文法の発想を理解させる。

内 容

- 第1回 日本語文法の発想法
 - 第2回 とりたてと知識
 - 第3回 推量的表現の諸相
 - 第4回 疑問と主張の関係
 - 第5回 行為表明と行為要求
 - 第6回 常体と敬体
 - 第7回 複文のとらえ方
 - 第8回 条件と理由
 - 第9回 名詞修飾の諸相
 - 第10回 「こ」「そ」「あ」の使い分け
 - 第11回 言わないことの意味
 - 第12回 無意味なことばの意味
 - 第13回 「のだ」による文と文の関係づけ
 - 第14回 論理関係と接続詞の役割
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

1)授業で配付する資料をよく読んでください。2)『日本語学』や『月刊言語』といった雑誌のバックナンバーを手にとって、興味をひかれるテーマを扱った論文を読んでください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読d(社会言語学Ⅱ)

担当者 鳥谷 善史

テーマ

関西方言の社会言語学的研究

獲得目標

日本各地の方言について概観したうえで、現在の「京ことば」及び「大阪弁」を社会言語学的視点から考察し、その実態や変化を理解する。

授業の内容

日本語諸方言の概説と京ことば及び大阪弁の実態について確認し、方言変化の要因について考察する。

内 容

- 第1回 社会言語学と方言学
 - 第2回 方言と言語の違いについて
 - 第3回 共通語と標準語
 - 第4回 方言の分布について1(周圏分布1)
 - 第5回 方言の分布について2(周圏分布2)
 - 第6回 方言の分布について3(周圏分布3)
 - 第7回 方言の分布について4(東西分布・日本海分布)
 - 第8回 方言の分布について5(アクセントの分布について1)
 - 第9回 方言の分布について6(アクセントの分布について2)
 - 第10回 方言分布のまとめ(小テスト:レポート)
 - 第11回 日本語諸方言の実態1(方言区画論)
 - 第12回 日本語諸方言の実態2(具体的音声から)
 - 第13回 京ことばと大阪弁1
 - 第14回 京ことばと大阪弁2
 - 第15回 京ことばと大阪弁のまとめ(小テスト:レポート)
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介した参考文献を読むこと。小テスト(レポート)に際しては、各自参考文献にあたること。

教科書

適宜プリントを配付

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

『日本言語地図』全6集

著者: 国立国語研究所編

出版社: 大蔵省印刷局

出版年: 1966-74

ISBN:

日本の方言地図

著者： 徳川宗賢編

出版社： 中公新書

出版年： 1929

ISBN：

方言分法全国地図』全6集

著者： 国立国語研究所編

出版社： 財務省印刷局

出版年： Jun-89

ISBN：

方言の地図帳

著者： 佐藤亮一編

出版社： 小学館

出版年： 2002

ISBN：

ガイドブック方言研究

著者： 小林隆他編

出版社： ひつじ書房

出版年： 2003

ISBN：

ガイドブック方言調査

著者： 小林隆他編

出版社： ひつじ書房

出版年： 2007

ISBN：

現代方言の世界

著者： 大西拓一郎

出版社： 朝倉書店

出版年： 2008

ISBN：

シリーズ方言学』全4巻

著者： 小林隆他

出版社： 岩波書店

出版年： Aug-06

ISBN：

大阪のことば地図

著者： 岸江信介他編

出版社： 和泉書院

出版年： 2009

ISBN：

日本語アクセント入門

著者： 松森晶子他編著

出版社： 三省堂

出版年： 2012

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（40）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（40）

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）参加度は、積極的な受講に対して評価するものである。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読f(平安文学研究Ⅱ)

担当者 福嶋 昭治

テーマ

源氏物語を読むー光源氏の人生のかげりー

獲得目標

源氏物語の時代を超える魅力を探り、古典に親しむことの楽しさと豊かさを実感したい。同時に、実人生の中で、文学に親しむことの意味についても確認できるようにしたい。

授業の内容

源氏物語の「少女」の巻以後の、39歳にして頂点を極め、それがやがてかげりを帯びてくる光源氏の人生の後半部分を読む。

内 容

- 第1回 夕霧の元服と六条院の造成ー少女ー
 - 第2回 玉鬘物語ー玉鬘十帖の巻々ー
 - 第3回 光源氏の人生の頂点ー藤裏葉ー
 - 第4回 女三の宮の降嫁ー若菜上①ー
 - 第5回 明石の入道の思いー若菜上②ー
 - 第6回 六条院の蹴鞠ー若菜上③ー
 - 第7回 二度目の住吉詣でー若菜下①ー
 - 第8回 紫の上の孤独ー若菜下②ー
 - 第9回 柏木と女三の宮の密通ー若菜下③ー
 - 第10回 柏木の死と薫の誕生ー柏木ー
 - 第11回 形見の笛ー横笛ー
 - 第12回 出家した女三の宮ー鈴虫ー
 - 第13回 夕霧の恋ー夕霧ー
 - 第14回 紫の上との別れー御法ー
 - 第15回 哀悼の一年ー幻ー
-

授業以外での学習方法

教科書

プリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

源氏物語評釈 全12冊

著者: 玉上琢弥

出版社: 角川書店

出版年: 1964~1969

ISBN:

源氏物語大成 普及版 全14冊

著者: 池田亀鑑

出版社: 中央公論社

出版年: 1984~1985

ISBN:

その他源氏物語各種注釈書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

源氏物語カルチャー講座

著者: 福嶋昭治

出版社: 扶桑社

出版年: 2008

ISBN:

成績評価

試験 (40)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読h(古典文学研究Ⅱ)

担当者 林 久美子

テーマ

『雨月物語』を読む

獲得目標

短編怪異小説の傑作を味わい、表現方法を学ぶ。人間の業や執着心について考える。

授業の内容

みんなで少しずつ読み進め、意見や疑問を交換します。

内 容

- 第1回 授業の進め方、参考文献等について
 - 第2回 「白峯」を読む①
 - 第3回 「白峯」を読む②
 - 第4回 「菊花の約」を読む①
 - 第5回 「菊花の約」を読む②
 - 第6回 「浅茅が宿」を読む①
 - 第7回 「浅茅が宿」を読む②
 - 第8回 「仏法僧」を読む①
 - 第9回 「仏法僧」を読む②
 - 第10回 「吉備津の釜」を読む①
 - 第11回 「吉備津の釜」を読む②
 - 第12回 「邪性の淫」を読む①
 - 第13回 「邪性の淫」を読む②
 - 第14回 「貧福論」を読む
 - 第15回 『雨月物語』の怪異について(まとめ)
-

授業以外での学習方法

テキストに目を通しておくこと。また、関心のある作品については、注をたよりに典拠にも当たってみてください。

教科書

改訂版 雨月物語—現代語訳付き(角川ソフィア文庫)

著者: 鶴飼 洋

出版社: 角川学芸出版

出版年: 2006

ISBN:

参考書

新編日本古典文学全集78『英草紙、西山物語、雨月物語、春雨物語』

著者: 中村幸彦他

出版社: 小学館

出版年: 1995

ISBN:

新潮日本古典集成

著者： 浅野三平

出版社： 新潮社

出版年： 1980

ISBN:

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（50）

参加度（50）

参加度には、出席点以外の平常点も含まれます。また、受講者数によって、発表をレポートに代える場合があります。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読(近代文学研究Ⅱ)

担当者 渡邊 浩史

テーマ

日本近代文学の名作を読む

獲得目標

明治から昭和戦後期にかけての、近代小説を読解する。近代小説の名作、わけても何事かに向け、情熱をかたむける登場人物を描いた作品に焦点を絞り、そこから人間存在のありようについて考察していきたい。さらに、それぞれの文学者の作風、各作品の叙述、構想、主題について獲得することを目標とする。

授業の内容

演習形式を取り入れる予定なので、取り上げる作品は必ず読んでくること。人数が多い際にはグループ発表になる可能性もある。

内 容

- 第1回 ガイダンス ー講義概要等の説明ー
- 第2回 近代文学を読み進めるポイント
- 第3回 夏目漱石「坊っちゃん」①
- 第4回 夏目漱石「坊っちゃん」②
- 第5回 森鷗外「雁」①
- 第6回 森鷗外「雁」②
- 第7回 芥川龍之介「地獄変」①
- 第8回 芥川龍之介「地獄変」②
- 第9回 中島敦「山月記」①
- 第10回 中島敦「山月記」②
- 第11回 坂口安吾「桜の森の満開の下」①
- 第12回 坂口安吾「桜の森の満開の下」②
- 第13回 三島由紀夫「潮騒」①
- 第14回 三島由紀夫「潮騒」②
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業で用いる作品は必ず読み、自分なりの意見をもって参加すること。

教科書

作品で読む20世紀の日本文学

著者： みぎわ書房編

出版社： 白地社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

a10202e050

「授業中課題」は毎時討論で導き出した自分の意見文の提出及び、簡単なレポート。「授業中発表」では、討論における自分の意見や質疑応答が評価の対象となる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読I(現代文学研究Ⅱ) <a>

担当者 辻本 千鶴

テーマ

昭和60年代以降の文学

獲得目標

昭和60年代以降の小説作品を中心に読む。現代文学の潮流について知識を深め、受講者各人の小説鑑賞の幅を広げることが目標とする。

授業の内容

下記の作品を取り上げ、批評・研究の対象としてのアプローチを試みる。主として講義形式で進めるが、受講生は中間発表(あるいは中間レポート)によって、授業の進行に参加する。

内 容

- 第1回 池澤夏樹「スティル・ライフ」
- 第2回 島田雅彦「僕は模造人間」
- 第3回 山田詠美「蝶々の纏足」
- 第4回 吉本ばなな「白川夜船」
- 第5回 村上春樹「TVビープル」・「眠り」1
- 第6回 村上春樹「TVビープル」・「眠り」2
- 第7回 南木佳士「ダイヤモンドダスト」
- 第8回 小川洋子「薬指の標本」
- 第9回 阿部和重「ニッポニアニッポン」
- 第10回 森見登見彦「太陽の塔」
- 第11回 金原ひとみ「アッシュベイビー」
- 第12回 川上弘美「真鶴」
- 第13回 川上美映子「乳と卵」
- 第14回 保坂和志「残響」
- 第15回 まとめ ——保坂和志の小説観から現代文学を考える——

授業以外での学習方法

授業で扱う作品は必ず通読すること。同じ作家の別の作品も積極的に読むことが望ましい。

教科書

(プリント配布)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a10202e250

期末試験はレポート形式とする。なおレポート課題と別の作品について、中間発表(あるいは中間レポートの提出)を義務づける。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読I(現代文学研究Ⅱ)

担当者 林 久美子

テーマ

谷崎潤一郎『細雪』を読む

獲得目標

東京人である谷崎の関西人に対する「エキゾチスム」、あるいは上方の女性文化に対するまなざしが、小説でどのように表現されているのかをさぐる。東京と関西の、言葉や考え方の違いについて考える。

授業の内容

『細雪』上巻を、大阪のアクセントで読み、作品のかもし出す風趣を味わう。受講者は、毎回表現のすぐれているところ、関心をもった事柄を挙げ、そのうちのひとつについてレポートを作成する。

内 容

- 第1回 船場という場所のこと、時代背景など。
 - 第2回 1, 2(雪子の縁談)
 - 第3回 3, 4(中畑と妙子)
 - 第4回 5, 6(雪子と悦子)
 - 第5回 7, 8(三姉妹)
 - 第6回 9, 10, 11(雪子の見合い)
 - 第7回 12, 13, 14(破談)
 - 第8回 15, 16, 18(雪子の次の縁談と、妙子)
 - 第9回 19(花見)
 - 第10回 20(三夫人)
 - 第11回 21, 22(本家の東京移転)
 - 第12回 23, 24(悦子と雪子の不具合)
 - 第13回 25, 26(雪子の次の縁談と帰省)
 - 第14回 27, 28(幸子の流産と雪子の見合)
 - 第15回 29(顛末)、上巻のまとめ
-

授業以外での学習方法

本文を声に出して読んでみてください。

教科書

細雪(上)

著者: 谷崎潤一郎

出版社: 新潮文庫

出版年: 2009年(109刷)

ISBN: 978-4-10-100512

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a10202e252

授業中課題には、レポートのほか、授業での提出物が含まれます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読n(メディア・表現研究Ⅱ)

担当者 禧美 智章

テーマ

戦争とアニメーション

獲得目標

アニメーションは、「戦争」「戦闘」「暴力」を描き続けてきたメディアである。本講義では、様々なアニメーション作品の分析を通して、我々を取り巻く「戦争」について考察することを目的とする。 ※日本語日本文学講読m(メディア・表現研究Ⅰ)を受講し、基本的なアニメーション・リテラシーを身につけていることが望ましい。

授業の内容

「戦争とアニメーション」をテーマに、具体的な作品を取り上げながら、アニメーション批評の方法を講義する。なお、授業内容は進行等に変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 戦前のアニメーション(1) 日本のアニメーション、三人の創始者
- 第3回 戦前のアニメーション(2) 『煙突屋ペロー』
- 第4回 戦中のアニメーション(1) 『海の神兵』の鑑賞
- 第5回 戦中のアニメーション(2) 『海の神兵』の解説
- 第6回 戦後のアニメーション
- 第7回 富野由悠季(1) 70-80年代のアニメーション—『機動戦士ガンダム』
- 第8回 富野由悠季(2) 富野由悠季の描いた「戦争」
- 第9回 (進度調整)
- 第10回 押井守(1) 90年代前半のアニメーション—『機動警察パトレイバー2 the movie』
- 第11回 押井守(2) 押井守の描いた「戦争」
- 第12回 庵野秀明(1) 90年代後半のアニメーション—『新世紀エヴァンゲリオン』
- 第13回 庵野秀明(2) 庵野秀明の描いた「戦争」
- 第14回 ゼロ年代のアニメーション
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

普段から映画、アニメーションを批評的に鑑賞する態度を身につけてほしい。また、積極的に映画館に通ってほしい。

教科書

授業時にプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

紅のメタルスーツ—アニメという戦場

著者: 上野俊哉

出版社: 紀伊國屋書店

出版年: 1998

ISBN: 978-4314008341

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (80)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

毎回コミュニケーションペーパーを回収し、授業理解度・参加度を評価する。また、授業中、レポートの提出を求める(80%)。講義内での発言、授業に関する優れた質問・提言があった場合は評価に加える(20%)。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読o(映像表現研究)

担当者 服部 英夫

テーマ

デジタル時代の映像とイメージ 映像表現実習により、映像とイメージについて考察する。

獲得目標

映像制作の基本的な過程(プロセス)を体験する。

授業の内容

デジタル・アナログ・両方の技法を用いて作品を制作し映像表現の楽しさを体感する。

内 容

- 第1回 映像制作上必要な専門用語・基本テクニックの解説
 - 第2回 デジタルとアナログの差異
 - 第3回 実習内容・方法の説明
 - 第4回 実習 京都市内に出て、映像作品を作る。
 - 第5回 実習 タイトル『極私的映像詩』
 - 第6回 実習 内なる私を映像で表現するころみ
 - 第7回 実習
 - 第8回 映像制作の現場－新聞・雑誌
 - 第9回 映像制作の現場－テレビ・映画
 - 第10回 映像制作の現場－広告
 - 第11回 映像制作の現場－Web・ミックスメディア
 - 第12回 制作した作品の合評
 - 第13回 制作した作品の合評
 - 第14回 デジタル時代の映像表現の可能性
 - 第15回 デジタル時代の映像表現の可能性
-

授業以外での学習方法

新聞・雑誌・他印刷物から気に入った映像を切り取り、スクラップ帳を作ってみよう。

教科書

授業時に資料プリントを配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

デジカメ時代のスナップショット写真術

著者: 大西つぐみ著

出版社: 平凡社新書

出版年:

ISBN:

成績評価

a10202e550

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学講読p(文芸創作実習)

担当者 辻本 千鶴

テーマ

文学作品のパロディー創作

獲得目標

文学作品のパロディーと典拠の比較鑑賞を参考にしつつ、各自でパロディーを創作する。それらの作業を通して、作品創作への理解と興味を培い、文章表現力を向上させることを目標とする。

授業の内容

講読と創作実習を交互に行う。講読ではテキストと典拠の比較を通じて、作者の作為や工夫を考察する。実習では講読の内容を参考に自ら創作を試みる。なお、期間中に2回、黛まどか氏による特別講義を実施する予定である。

内 容

- 第1回 昔話のパロディー 倉橋由美子「鏡を見た王女」
- 第2回 実習ウオーミングアップ 昔話・童話のパロディー
- 第3回 中島敦「山月記」
- 第4回 実習1 変身譚創作
- 第5回 黛まどか氏による特別講義(ただし日程変更の可能性あり)
- 第6回 芥川龍之介「藪の中」
- 第7回 実習2 〈真相は藪の中〉創作
- 第8回 太宰治「走れメロス」
- 第9回 実習3 翻訳「走れメロス」あるいは、視点を変えて批評的に
- 第10回 坂口安吾「桜の森の満開の下」
- 第11回 実習4 〈誰かに会って、何かが変わる〉創作
- 第12回 文学作品のパロディー 中島京子「FUTON」
- 第13回 実習5 文学作品のパロディー
- 第14回 学生実習作品 合評会
- 第15回 まとめ 読むことと書くこと、その相互作用について。

授業以外での学習方法

典拠となっている作品を通読しておくこと。

教科書

新釈走れメロス 他四篇

著者: 森見登美彦

出版社: 祥伝社文庫

出版年: 2009年

ISBN:

参考書

FUTON

著者: 中島京子

出版社: 講談社文庫

出版年: 2007年

ISBN:

続 明暗

著者： 水村美苗

出版社： 新潮文庫

出版年： 1993年

ISBN:

廣作吾輩は猫である

著者： 内田百閒

出版社： ちくま文庫

出版年： 2003年

ISBN:

成績評価

試験（70）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（ ）

参加度（10）

実習作品の提出をもって、試験とする。実習を欠席した場合は追提出を心がけること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **書論・鑑賞Ⅱ**

担当者 下野 健児

テーマ

『書譜』(唐、孫過庭)を読む(二)

獲得目標

(獲得目標) 『書譜』真跡本をテキストにし、書法史と関連づけながら本文の内容を理授解するとともに、簡単な草書体を習得することも目的とする。『書譜』真跡本は、草書学習における必須の古典とされているが、中国書論史上においても重要な古典である。講義では本文をいくつかの章に分け、読解をすすめる。また、草書で書かれた本文を楷書に置き換える作業を行なうことにより、簡単な草書体の習得をめざす(小テストあり)。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

授業の内容

授業では、『書譜』本文を順次講読していく。本文を現代語に置き換えながら、孫過庭の書法に関する考えを理解するとともに、それらを現代の書道に関連付けて考察する。

内 容

- 第1回 ガイダンス—『書譜』について
- 第2回 本文読解1
- 第3回 本文読解2
- 第4回 本文読解3
- 第5回 本文読解4
- 第6回 本文読解5
- 第7回 本文読解6
- 第8回 本文読解7
- 第9回 本文読解8
- 第10回 本文読解9
- 第11回 本文読解10
- 第12回 本文読解11
- 第13回 本文読解12
- 第14回 本文読解13
- 第15回 後期のまとめ。レポート提出。

授業以外での学習方法

中国書道史上の名品を図版などで鑑賞しておくこと。できれば、博物館・美術館などにでかけて、作品(真跡)鑑賞する機会を多く作ることが望ましい。

教科書

中国法書選38 書譜

著者: 西林昭一 編

出版社: 二玄社

出版年: 1988

ISBN:

参考書

授業時に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a10202e850

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

最終講義の時間に提出してもらったレポート、および出席状況によって評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本書道史**

担当者 中村 史朗

テーマ

日本書道史-仮名・上代様の成立を中心に-

獲得目標

漢字渡来から仮名の成立までのながれを視覚的に確認する。特に女手の成立までの過程を正確に把握する。また上代様の基本的な知識を修得し、技法上の特色を相互に比較しながら理解する。さらに本阿弥光悦ら寛永期の代表的能書が上代様をどのように吸収し、新表現につなげたかを理解する。

授業の内容

漢字渡来から、日本人が中国書法を自身のものとする流れを確認するとともに、日本語の表記が成熟する過程、いわゆる上代様の仮名(女手)の成立について考察する。さらに寛永の三筆を例に取り、近世の京都における独自の書展の展開にも言及する。

内 容

- 第1回 古代日本の文字資料
- 第2回 飛鳥・白鳳時代の書
- 第3回 奈良時代の書①
- 第4回 奈良時代の書②
- 第5回 平安時代の漢字書① 弘仁・貞観期の文化、三筆の書(1)
- 第6回 平安時代の漢字書② 三筆の書(2)
- 第7回 平安時代の漢字書③ 国風文化の発達、三跡の書(1)
- 第8回 平安時代の漢字書④ 三跡の書(2)
- 第9回 仮名の生成と発展①
- 第10回 仮名の生成と発展②
- 第11回 上代様の名品とその書法①
- 第12回 上代様の名品とその書法②
- 第13回 寛永の三筆① 王朝美の再現
- 第14回 寛永の三筆② 本阿弥光悦の人と書
- 第15回 寛永の三筆③ 近衛信尹と松花堂昭乗の人と書、まとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を実施することがある。

授業以外での学習方法

日本書道史に関する資料をよく参照し、代表的能書や名品に関する知識を主体的に身につける。また図版資料によって、古筆の書風や書法を視覚的に分析・理解できるよう努めること。

教科書

日本書道史年表

著者： 名兎耶明

出版社： 二玄社

出版年： 1999

ISBN： 4-544-01242-2

参考書

展望日本書道史

著者： 小松茂美

出版社： 中央公論社

出版年：

ISBN：

古筆

著者： 小松茂美

出版社： 講談社

出版年： ISBN：

書道全集

著者：

出版社： 平凡社

出版年： ISBN：

書道藝術

著者：

出版社： 中央公論社

出版年： ISBN：

成績評価

試験（25）

小テスト（25）

授業中課題（20）

授業中発表等（10）

参加度（20）

レポート試験、授業での取り組み、出席率など総合的に判断して評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <a>

担当者 福嶋 昭治

テーマ

卒業論文の完成

獲得目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成ために、必要な文献検索・論文読解などや、各自の卒業論文の構造の具体的な検討などを通じて、卒業論文を完成する。

授業の内容

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。

内 容

- 第1回 卒業論文の進捗状況の報告
 - 第2回 中間発表について
 - 第3回 中間発表要旨の作成
 - 第4回 同上
 - 第5回 中間発表
 - 第6回 卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
 - 第7回 同上
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 同上
 - 第11回 同上
 - 第12回 卒業論文の構造確認と要旨作成
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 全体総括
-

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a102030250

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

獲得目標

卒業論文作成の準備

授業の内容

以下の通り。後期は4回生の発表を優先し、3回生には先輩から多くを学んでもらう。

内 容

- 第1回 夏休み中の作業について報告する
 - 第2回 文献、資料検索、論文収集を進めつつ、読解を深める
 - 第3回 同上
 - 第4回 4回生の中間発表要旨を点検する
 - 第5回 中間発表会に参加する(時期は未確定)
 - 第6回 中間発表に対する講評を行う
 - 第7回 作品分析を深め、テーマを固めてゆく
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 同上
 - 第11回 同上
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 一年間の取り組みへの総括と今後の進め方についての確認
-

授業以外での学習方法

作品の読みを深め、資料を収集する

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <c>

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日本現代文学の研究

獲得目標

卒業研究の作成に向けてテーマを確定し研究を進めていく

授業の内容

授業の内容 研究入門で習得した知識やスキルを踏まえ、受講生による発表を中心として授業を行う。必要に応じて学外授業や外部講師による講演を実施する

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 受講生による発表と質疑応答
 - 第3回 受講生による発表と質疑応答
 - 第4回 受講生による発表と質疑応答
 - 第5回 受講生による発表と質疑応答
 - 第6回 受講生による発表と質疑応答
 - 第7回 受講生による発表と質疑応答
 - 第8回 受講生による発表と質疑応答
 - 第9回 受講生による発表と質疑応答
 - 第10回 受講生による発表と質疑応答
 - 第11回 受講生による発表と質疑応答
 - 第12回 受講生による発表と質疑応答
 - 第13回 受講生による発表と質疑応答
 - 第14回 受講生による発表と質疑応答
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業で取り扱う作品は必ず読んでくること。課題は必ず提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <d>

担当者 辻本 千鶴

テーマ

近現代文学研究(演習)

獲得目標

作品を読む力・論文を書く力を養成することを目標とする。同時に卒論の対象とする作家・作品・テーマを絞り込んでいけるよう、準備を進める。

授業の内容

演習形式。受講者各人が選んだ作家・作品での研究発表を中心に進める。発表一巡後は、近現代文学作品を取り上げ、グループでの作品分析ワーク・ショップを行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス・参考文献の紹介・日程表作成
 - 第2回 ワーク・ショップ 芥川龍之介「蜜柑」・「トロッコ」1
 - 第3回 ワーク・ショップ 芥川龍之介「蜜柑」・「トロッコ」2
 - 第4回 卒業論文中間発表会(日程は変更の可能性あり)
 - 第5回 学生発表 1
 - 第6回 学生発表 2
 - 第7回 学生発表 3
 - 第8回 学生発表 4
 - 第9回 学生発表 5
 - 第10回 学生発表 6
 - 第11回 学生発表 7
 - 第12回 発表予備日
 - 第13回 ワーク・ショップ
 - 第14回 ワーク・ショップ
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

自分の担当日でなくとも、発表作品を事前に通読してから授業に出席すること。

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

a102030254

期末試験はレポート形式とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅱ <e>

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文に向けての方法の模索

獲得目標

1)卒業論文のテーマを確定する。2)みずからの設定したテーマにふさわしい方法論を探求する。

授業の内容

テーマが具体的にイメージできるようになったら、そのテーマにふさわしい方法論を模索する段階にはいる。既存の方法を使いこなすことができるようにし、新しい工夫を盛り込む余地を探る。

内 容

- 第1回 導入
 - 第2回 テーマの確認と目標の設定(1)
 - 第3回 テーマの確認と目標の設定(2)
 - 第4回 第1次経過報告(1)
 - 第5回 第1次経過報告(2)
 - 第6回 第1次経過報告(3)
 - 第7回 第1次経過報告(4)
 - 第8回 第2次経過報告(1)
 - 第9回 第2次経過報告(2)
 - 第10回 第2次経過報告(3)
 - 第11回 第2次経過報告(4)
 - 第12回 第3次経過報告(1)
 - 第13回 第3次経過報告(2)
 - 第14回 第3次経過報告(3)
 - 第15回 第3次経過報告(4)
-

授業以外での学習方法

直接関係がある、ないにかかわらず、学术论文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法Ⅵ〈a〉

担当者 新谷 泰一

テーマ

行草書の書法の研究

獲得目標

自在で幅広い表現技術の修得。特に王羲之は行草書における美の典型として後の書家たちに多大な影響を与えた。よってその書法を基礎として深め、王羲之書法解析を目指す。また、王羲之の影響下で花咲いた多くの大家を研究していく。

授業の内容

内 容

- 第1回 王羲之・十七帖の書法
- 第2回 十七帖の臨書(半紙)
- 第3回 十七帖の臨書(半紙)
- 第4回 十七帖の臨書(半切)
- 第5回 十七帖の臨書(半切)互評会
- 第6回 十七帖の倣書(半切)
- 第7回 十七帖の倣書(半切)互評会
- 第8回 中国歴代の行・草書古典の臨書1(半紙)
- 第9回 中国歴代の行・草書古典の臨書1(半切)
- 第10回 中国歴代の行・草書古典の臨書2(半紙)
- 第11回 中国歴代の行・草書古典の臨書2(半切)
- 第12回 中国歴代の行・草書古典の臨書3(半切)
- 第13回 中国歴代の行草書古典の倣書(半切)
- 第14回 中国歴代の行草書古典の倣書(半切)
- 第15回 倣書作品の互評会・まとめ

授業以外での学習方法

家庭で十分な練習をすること。授業で扱う古典以外の古典の臨書もしっかりすること。書展などを積極的に鑑賞すること。

教科書

中国法書選14十七帖

著者:

出版社: 二玄社

出版年: 1990

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法Ⅵ

担当者 新谷 泰一

テーマ

行書。草書の書法を習得し、書作の幅を広げる。

獲得目標

自在で幅広い字形の表現力と筆を扱う技術の習得を目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第2回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第3回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第4回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第5回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第6回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第7回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第8回 王羲之「十七帖」の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第9回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第10回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第11回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第12回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第13回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第14回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
 - 第15回 中国歴代の行草書の臨書。半紙および画仙紙を使用。
-

授業以外での学習方法

滑らかで自由な運筆をするため、家庭でも十分な練習を欠かさない。授業で扱う古典以外の古典の臨書にも挑戦することを望む。展覧会などの鑑賞も積極的にしたい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法Ⅶ <a>

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

獲得目標

多様なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 継色紙について
 - 第2回 継色紙の技法について
 - 第3回 継色紙の臨書①(用字・造形・構成法)
 - 第4回 継色紙の臨書②(用字・造形・構成法)
 - 第5回 継色紙の臨書③(用字・造形・構成法)
 - 第6回 継色紙の臨書④(用字・造形・構成法)
 - 第7回 継色紙の臨書①(線表現と墨法)
 - 第8回 継色紙の臨書②(線表現と墨法)
 - 第9回 継色紙の臨書③(線表現と墨法)
 - 第10回 継色紙の倣書①
 - 第11回 継色紙の倣書②
 - 第12回 継色紙の倣書③
 - 第13回 創作に向けて(散らし書きについて)
 - 第14回 創作に向けて(帖・卷子について)
 - 第15回 創作への展開
-

授業以外での学習方法

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a102030650

授業中課題には提出物とレポートを含む。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法Ⅷ

担当者 橋本 二三

テーマ

臨書を中心とした日本のかな書法の研究。

獲得目標

多様なかな書法の修得。

授業の内容

内 容

- 第1回 継色紙について
 - 第2回 継色紙の技法について
 - 第3回 継色紙の臨書①(用字・造形・構成法)
 - 第4回 継色紙の臨書②(用字・造形・構成法)
 - 第5回 継色紙の臨書③(用字・造形・構成法)
 - 第6回 継色紙の臨書④(用字・造形・構成法)
 - 第7回 継色紙の臨書①(線表現と墨法)
 - 第8回 継色紙の臨書②(線表現と墨法)
 - 第9回 継色紙の臨書③(線表現と墨法)
 - 第10回 継色紙の倣書①
 - 第11回 継色紙の倣書②
 - 第12回 継色紙の倣書③
 - 第13回 創作に向けて(散らし書きについて)
 - 第14回 創作に向けて(帖・卷子について)
 - 第15回 創作への展開
-

授業以外での学習方法

より高い表現力を養成するためには習熟が必要である。自宅でも繰り返し臨書を重ねることが大切。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a102030652

授業中課題には提出物とレポートを含む。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講b(日本語史Ⅱ)

担当者 鳥谷 善史

テーマ

日本語の通時的变化や変異を概観する。

獲得目標

日本語がどのような変化や変異を遂げてきたかを歴史的に概観したい。とりわけ、基礎的内容をふまえて通時的に考察を深めたい。ここでは、「音図」の歴史や「いろは歌」成立までの状況をとりあげ、音韻史や文字史の実態にせまりたい。最後に、方言の歴史について確認し、日本語の歴史や古代日本語の実態について考えたい。

授業の内容

「五十音図」や「いろは歌」成立の動機や意義について、音韻史や文字史の視点から確認する。また、方言について歴史的にわかっている事実から古代日本語と現在の方言分布についての相関について考察する。

内 容

- 第1回 日本語史について(ガイダンスと前期の確認)
 - 第2回 音図について(五十音図の成立)①
 - 第3回 音図について(五十音図の成立)②
 - 第4回 いろは歌について①
 - 第5回 いろは歌について②
 - 第6回 いろは歌について③
 - 第7回 たゐにの歌について①
 - 第8回 たゐにの歌について②
 - 第9回 あめつちの詞について①
 - 第10回 あめつちの詞について②
 - 第11回 手習いと歌の父母・全体のまとめ
 - 第12回 方言史(上代)
 - 第13回 方言史(中古から中世)
 - 第14回 方言史(近世)
 - 第15回 方言史まとめと小テスト(レポート)
-

授業以外での学習方法

参考文献を各自で調べ授業で述べた内容をより深く考察すること。

教科書

日本語史概説

著者: 沖森卓也

出版社: 朝倉書店

出版年: 2010

ISBN: -51780

参考書

概説日本語の歴史

著者: 佐藤武義

出版社: 朝倉書店

出版年: 1995

ISBN: -51282

日本語史要説

著者： 渡辺実

出版社： 岩波書店

出版年： 1997

ISBN： 4-00-026011-1

日本語の歴史

著者： 山口明穂他

出版社： 東京大学出版会

出版年： 1997

ISBN： -82023

はじめて読む日本語の歴史

著者： 沖森卓也

出版社： ベレ出版

出版年： 2010

ISBN： -86329

日本語の歴史』全8巻』

著者： 亀井孝他編

出版社： 平凡社

出版年： 1963-66

ISBN：

いろはうた

著者： 小松英雄

出版社： 講談社学術文庫

出版年： 2009

ISBN：

五十音図の話

著者： 馬淵和夫

出版社： 大修館書店

出版年： 1993

ISBN：

国語音韻論

著者： 馬淵和夫

出版社： 笠間書院

出版年： 1971

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（40）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（40）

総授業時間数の3分の2以上の出席が無い場合は不可とする。（遅刻は3回で1回の欠席とする。ただし、30分以内）参加度は、積極的な受講に対して評価するものである。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講d(現代日本語研究Ⅱ)

担当者 福田 雅子

テーマ

プレゼンテーションの基礎 自己発言力と説得力の習得

獲得目標

プレゼンテーションとは、情報伝達の一つで、聴衆に対して作品、計画提案、研究成果、開発商品などの情報を、口頭や機器を用いて説明し、説得、売り込みをはかる行為です。簡単に言えば、自分が発見した事実や自分の意見を、他の人々にいかに伝えるか、聞き手の理解・納得をどう得るかというコミュニケーション技術です。社会人としてますます必要とされるスキルです。本講義では、プレゼンテーション技法の基礎を学び、それらのスキルを実践する力を養います。プレゼンツールであるパワーポイントの基礎も修得します。

授業の内容

本講義では、プレゼンテーションの前提となる、コミュニケーション技術の習得に力点を置き、ディスカッションやディベートを行い、表現力と説得術を一步一步、身につけていきます。社会、政治、経済、金融、教育、学芸、芸能、医療、環境と、さまざまな分野で起きつつある事件や動向の中から、テーマを選んび発表してもらいます。

内 容

- 第1回 プレゼンテーションとは
 - 第2回 コミュニケーション技術について
 - 第3回 グループ・ディスカッション
 - 第4回 自己紹介プレゼン1
 - 第5回 自己紹介プレゼン2
 - 第6回 グループ・ディスカッション1
 - 第7回 グループ・ディスカッション2
 - 第8回 プレゼンテーション演習1
 - 第9回 プレゼンテーション演習2
 - 第10回 パワーポイントの基礎・復習
 - 第11回 パワーポイントの実践1
 - 第12回 パワーポイントの実践2
 - 第13回 パワーポイントをつかったプレゼンテーション
 - 第14回 プレゼンテーション実践1
 - 第15回 プレゼンテーション実践2
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講f(女性文学研究)

担当者 福嶋 昭治

テーマ
女性と文学

獲得目標

女性が担い手となった古典を取り上げ、それぞれの作品に込められた登場人物と作者の「思い」を探る。さらに、「文学とは何か」という問いについての答の一つを確認し合い、その担い手となってきた女性のおかれた歴史的立場についても見識を深める。さらに、現代の共生の問題についての一定の知見を得ることも目標とする。

授業の内容

平安時代の古典を中心に取り上げ、それぞれの必要な場所を十分読み解きながら、「文学とは何か」「女性の関わり」という問題を考えて行く。

内 容

- 第1回 「文学について考える」ということ
 - 第2回 蜻蛉日記の作者
 - 第3回 蜻蛉日記「三十日三十夜は我がもとに」
 - 第4回 枕草子が生まれた歴史的背景
 - 第5回 枕草子の文章
 - 第6回 源氏物語の文学論～螢の巻～
 - 第7回 源氏物語の「わたくしの別れ」～賢木の巻～
 - 第8回 源氏物語の空蝉の思い～帚木・空蝉の巻～
 - 第9回 源氏物語の髭黒北の方～真木柱の巻～
 - 第10回 和泉式部という人
 - 第11回 和泉式部日記
 - 第12回 更級日記の作者
 - 第13回 更級日記
 - 第14回 摂州合邦辻～武士の妻～
 - 第15回 与謝野晶子～君死にたまふことなかれ～
-

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a102033610

試験はレポート試験とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講h(歌舞伎・浄瑠璃研究Ⅱ)

担当者 林 久美子

テーマ

文楽(人形浄瑠璃)入門

獲得目標

歌舞伎と並ぶ上方発祥の世界遺産「文楽」(人形浄瑠璃)について知る

授業の内容

テキストにある演目の中から、みなさんの希望をもとに映像を鑑賞し、解説します。また、文楽の作品や芸の特質について、感想を出し合いながら、理解を深めます。

内 容

- 第1回 文楽についての概説
 - 第2回 浄瑠璃の起源と歴史
 - 第3回 近松門左衛門について
 - 第4回 三大名作①「菅原伝授手習鑑」
 - 第5回 三大名作②「義経千本桜」
 - 第6回 三大名作③「仮名手本忠臣蔵」
 - 第7回 世話物①
 - 第8回 世話物②
 - 第9回 時代物・男の巻
 - 第10回 時代物・女の巻①
 - 第11回 時代物・女の巻②
 - 第12回 鑑賞してみたい作品を選び、内容を学ぶ
 - 第13回 選んだ作品についての感想を話し合う①
 - 第14回 選んだ作品についての感想を話し合う②
 - 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。
-

授業以外での学習方法

できれば文楽公演を鑑賞し、興味を持った作品を読んでください。

教科書

あらずじで読む文楽名作50

著者： 高木秀樹

出版社： 世界文化社

出版年： 2005

ISBN: 441805215

参考書

あやつられ文楽鑑賞

著者： 三浦しをん

出版社： 双葉社

出版年： 2011

ISBN: 978-4575713831

仏果を得ず

著者： 三浦しをん

出版社： 双葉社

出版年： 2011

ISBN： 4575514446

新編日本古典文学全集『浄瑠璃集

著者： 鳥越文蔵ほか

出版社： 小学館

出版年： 2002

ISBN： 4-09-658077-5

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

冬休みに自分で選んだ作品を読み、レポートを作成する。

参考URL

日本芸術文化振興会

<http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/bunraku/jp/index>.

財団法人文楽協会

<http://www.bunraku.or.jp/jbunraku/index.html>

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講J(近代文学研究IV)

担当者 辻本 千鶴

テーマ

幻想文学 異界へのまなざし

獲得目標

文学作品に対する読解力・分析力を養うことを目標とする。非現実的な作品世界の創出を目論んで、作者がどのような工夫を設けて読者を誘っているか、設定・構成・表現などの面から考察する。文学研究に向かう姿勢を養成すること、ひいては芸術の力に対するより深い理解を促すことを目標とする。

授業の内容

近代文学のなかから、幻想的な小説作品を取り上げて鑑賞する。主として講義形式で進めるが、受講生の発表(あるいは中間レポート提出)の機会も随時設けて進めていく。

内 容

- 第1回 概説
 - 第2回 泉鏡花「春昼」・「春昼後刻」
 - 第3回 泉鏡花「春昼」・「春昼後刻」
 - 第4回 森鷗外「鼠坂」
 - 第5回 森鷗外「鼠坂」
 - 第6回 芥川龍之介「奇妙な再会」
 - 第7回 芥川龍之介「奇妙な再会」
 - 第8回 芥川龍之介「影」
 - 第9回 谷崎潤一郎「青塚氏の話」
 - 第10回 谷崎潤一郎「青塚氏の話」
 - 第11回 谷崎潤一郎「蘆刈」
 - 第12回 江戸川乱歩「押絵と旅する男」
 - 第13回 江戸川乱歩「押絵と旅する男」
 - 第14回 室生犀星「蜜のあわれ」
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業で取り上げる作品を通読すること。

教科書

(使用しない。プリント配布。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a102034050

試験は期末レポートの形式とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講I(現代文学研究IV)

担当者 野村 幸一郎

テーマ

宮沢賢治の文学

獲得目標

代表作品の読解を通じて宮沢賢治の文明観、人間観、宗教観を理解する

授業の内容

講義形式で代表的な賢治童話の読解を行うことになるが、毎回、グループに分かれ与えられたテーマについて討論を行う予定である。児童文学作家、角野栄子氏による特別講義も予定している

内 容

- 第1回 宮沢賢治の生涯と思想
 - 第2回 デクノボーの思想—『グスコブドリの伝記』読解
 - 第3回 『オツベルと象』読解(1)
 - 第4回 『オツベルと象』読解(2)
 - 第5回 『オツベルと象』読解(3)
 - 第6回 『なめとこ山の熊』読解(1)
 - 第7回 『なめとこ山の熊』読解(2)
 - 第8回 『なめとこ山の熊』読解(3)
 - 第9回 『銀河鉄道の夜』読解(1)
 - 第10回 『銀河鉄道の夜』読解(2)
 - 第11回 『銀河鉄道の夜』読解(3)
 - 第12回 『銀河鉄道の夜』読解(4)
 - 第13回 角野栄子氏による特別講義(1)(日程変更の可能性あり)
 - 第14回 角野栄子氏による特別講義(2)(日程変更の可能性あり)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業で取り扱う作品は必ず読んでくること。課題は必ず提出すること。

教科書

作品で読む宮沢賢治

著者: 宮沢賢治

出版社: 白地社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講n(メディア・表現研究IV)

担当者 重松 恵美

テーマ

ディストピア小説(アンチユートピア小説)の現代性

獲得目標

1. 作品をていねいに読み、理解する。2. 作品について受講生一人一人が考える。3. 作品について考えたことを、意見交換し、各自レポートにまとめる。4. 現代社会と、そこに生きる人間についての考察を深める。

授業の内容

ディストピア小説は未来小説の形態をとることが多いが、現代社会の閉塞感とそれに対する危機感が生み出した作品群である。各作品(小説および映像化作品)を読み解くことで、現代日本の様々な問題とディストピア小説の意義について考えたい。

内 容

- 第1回 ディストピア小説とは何か
- 第2回 小説の映像化(参考作品『世界の中心で愛をさけぶ』)
- 第3回 あさのあつこ『NO. 6 #1』登場人物と作品の構成
- 第4回 『NO. 6 #1』作品のテーマ
- 第5回 山田悠介『スイッチを押すとき』登場人物と作品の構成
- 第6回 『スイッチを押すとき』作品のテーマ
- 第7回 『スイッチを押すとき』結末の解釈
- 第8回 ディスカッション(『NO. 6 #1』『スイッチを押すとき』比較検討)
- 第9回 舞台版『スイッチを押すとき』登場人物
- 第10回 舞台版『スイッチを押すとき』原作との相違点
- 第11回 映画版『スイッチを押すとき』登場人物
- 第12回 映画版『スイッチを押すとき』原作との相違点
- 第13回 ディスカッション(原作と舞台版、映画版の比較検討)
- 第14回 桐野夏生『女神記』登場人物と作品の構成
- 第15回 『女神記』作品のテーマ

授業以外での学習方法

授業時間以外に、授業の予習復習として読書の時間を確保すること。学期末までに、テキスト全3冊を読了すること。

教科書

No.6 #1

著者: あさのあつこ

出版社: 講談社(講談社文庫)

出版年: 2006年

ISBN: 4-06-275523-8

スイッチを押すとき

著者: 山田悠介

出版社: 角川書店(角川文庫)

出版年: 2008年

ISBN: 4-04-379206-1

a102034450

女神記

著者： 桐野夏生

出版社： 角川書店(角川文庫)

出版年： 2011年

ISBN： 4-04-100020-5

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学特講p(アナウンス技術研究Ⅱ)

担当者 飛鳥井 雅和

テーマ

自分自身を母国語である「日本語」で、過不足なく口頭表現出来る人を目指す。

獲得目標

口下手・話し下手の克服と、あらゆる業界・場面で自分自身を自らの口で表現出来る「自己表現力」の獲得と、その能力のアップを目指す。放送界48年の現役アナウンサー・飛鳥井が直接指導します。 * 前期よりグレードアップするため、前期との通年での受講を勧めます。定員制のため、取り敢えずの登録は遠慮下さい。確実に出席出来る人に制限します。

授業の内容

内 容

- 第1回 この授業の狙い
- 第2回 自分の声・話し方を知ろう
- 第3回 "
- 第4回 自分の課題を知ろう
- 第5回 正しい発声～理論と実際～
- 第6回 正しい発音～理論と実際～
- 第7回 正しい話の組み立て～理論と実際～
- 第8回 スピーチの実際
- 第9回 "
- 第10回 他人のメッセージをどう伝えるか
- 第11回 "
- 第12回 スピーチの実際
- 第13回 "
- 第14回 "
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

ラジオ・テレビ、新聞等のNEWSを注視して下さい。

教科書

参考書

必要に応じてプリントを配布。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 (25)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書論特講b

担当者 下野 健児

テーマ

書論選読(二)

獲得目標

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。漢文、古文になれるとともに、本文内容を理解することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考える力を養うことが目的となる。講義では、受講者の積極的な質問、発言を期待する。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

授業の内容

授業は、毎回、代表的な書論の一節をとりあげ、その内容を考察していく。また、そこで取り上げられた問題を今日の書道の在り方と比較することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考えていきたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス(「書論とは何か」、参考書・工具書の紹介)
 - 第2回 書論選読1
 - 第3回 書論選読2
 - 第4回 書論選読3
 - 第5回 書論選読4
 - 第6回 書論選読5
 - 第7回 書論選読6
 - 第8回 書論選読7
 - 第9回 書論選読8
 - 第10回 書論選読9
 - 第11回 書論選読10
 - 第12回 書論選読11
 - 第13回 書論選読12
 - 第14回 書論選読13
 - 第15回 後期のまとめ。レポート提出。
-

授業以外での学習方法

書に関する書物(できれば他の芸術に関しても)をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館、美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会をふやしてほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 現代書研究Ⅱ

担当者 中村 史朗

テーマ

春学期に続いて、今日における書のありかたを総合的に考察する。現代社会において、個の表現としての書はどのような方向を求めているのか、また書が社会性を持つとはどのようなことなのか、実作、鑑賞などを手がかりに検討したい。

獲得目標

現代における新傾向の書の表現について、より掘り下げた視点を設け、制作・鑑賞に取り組む。特に「漢字仮名交じりの書」については、今日の日本語表記と書の表現が今後どのように関係を深めていけるのかを検討し、表現の深化・拡張について検討する。あわせて高等学校「書道」における「漢字仮名交じり書」のあり方を、指導する立場から検討を加える。

授業の内容

戦後の日本の書を概観し、新傾向の書の成立の背景・根拠をさぐるとともに、今日それらの制作活動がどのように展開されているのかを知る。また「漢字仮名交じりの書」「少字数書」などの基礎的技法を再確認しながら、さらに固有の技法を身につけるよう演習する。講義、発表、実習などの形式を交えながら進行する。

内 容

- 第1回 現代の書のありよう①。伝統の書と新傾向の書。
- 第2回 現代書のありよう②。新傾向の書はどのように展開したのか。
- 第3回 現代書の制作。意図と技法、用具・用材。
- 第4回 漢字仮名交じりの書① 古典の技法をふまえて。
- 第5回 漢字仮名交じりの書② 文人の書を参考に。
- 第6回 漢字仮名交じりの書③ 何を書くのか—素材の検討—。
- 第7回 漢字仮名交じりの書④ 指導する立場—教材化を中心に—。
- 第8回 少字数書① 固有の技法、用具・用材。
- 第9回 少字数書② 少字数書の名品を参考に。
- 第10回 少字数書③ 超大字の表現。
- 第11回 現代の生活と書①
- 第12回 現代の生活と書②
- 第13回 現代の書—多様な表現—(1)。さまざまな素材を用いて。
- 第14回 現代の書—多様な表現—(2)。新しい発表のかたち。
- 第15回 まとめ —現代書の現在と今後— ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を実施することがある。

授業以外での学習方法

作品制作を中心とするが、書き上げたものを相互に批評したり、指導の場における評価のあり方などを検討する機会を設ける。授業以外にも積極的に作品を試作するとともに、展示会場に足を運び作品を鑑賞したり、関係書籍に掲載されている作品を参照することによって、自身の表現の方向性を探してほしい。

教科書

参考書

漢字仮名交じりの書の名品

著者： 田宮文平・中野遵

出版社： 天来書院

出版年： 2010

ISBN：

現代文体の書(書学大系・研究編10)

著者： 青木香流

出版社： 同朋舎

出版年： 1984

ISBN：

少数の書(書学大系・研究編11)

著者: 浅見錦龍、新井光風 他

出版社: 同朋舎

出版年: 1984

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (10)

参加度 (30)

作品、レポート、授業の取り組み、出席率など総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ <a>

担当者 福嶋 昭治

テーマ

卒業論文の完成

獲得目標

平安時代を中心とした古典文学の卒業論文作成の完成ために、必要な文献検索・論文読解などや、各自の卒業論文の構造の具体的な検討などを通じて、卒業論文を完成する。

授業の内容

3回生と合同で授業を進める。3回生は、4回生の発表・授業参加姿勢などから卒業論文作成のイメージを固め、4回生は、3回生での学修を振り返りつつ具体的な論文作成を進め完成させる。3・4回生の相互の関わりが4回生における論文作成と完成に資するように授業を展開する。

内 容

- 第1回 卒業論文の進捗状況の報告
 - 第2回 中間発表について
 - 第3回 中間発表要旨の作成
 - 第4回 同上
 - 第5回 中間発表
 - 第6回 卒業論文作成の課題確認と作成方針の確立
 - 第7回 同上
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 同上
 - 第11回 同上
 - 第12回 卒業論文の構造確認と要旨作成
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 全体総括
-

授業以外での学習方法

教科書

プリントを用意する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業ごと、学生各自のテーマごとに必要なものを示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a102040250

試験 ()
授業中課題 ()
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ

担当者 林 久美子

テーマ

古典文学研究(中・近世)

獲得目標

卒業論文作成

授業の内容

卒論を完成させる。演習Ⅱと同時開講なので、間に3回生の発表も行う。

内 容

- 第1回 進捗状況の報告
 - 第2回 中間発表の骨格を考える
 - 第3回 中間発表の要旨作成
 - 第4回 同上
 - 第5回 中間発表(時期は未確定)
 - 第6回 中間発表を受けて、今後の進め方を相談する
 - 第7回 執筆を進め、互に批評を行う
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 同上
 - 第11回 同上
 - 第12回 同上
 - 第13回 『国文橋』の要旨を作成・修正する
 - 第14回 同上
 - 第15回 一年間の取り組みの総括
-

授業以外での学習方法

1, 作品の読みを深め、問題意識を育てる 2, 説得力を高めるために資料を収集する 3, 十分な考察を行う 4, 執筆に時間と労力を注ぐ

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ <c>

担当者 野村 幸一郎

テーマ

日本現代文学の研究

獲得目標

卒業研究の作成を向けて研究発表と質疑応答を行う

授業の内容

受講生による発表を中心として授業を行う。必要に応じて学外授業や外部講師による講演を実施する

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 受講生による研究発表と質疑応答
 - 第3回 受講生による研究発表と質疑応答
 - 第4回 受講生による研究発表と質疑応答
 - 第5回 受講生による研究発表と質疑応答
 - 第6回 受講生による研究発表と質疑応答
 - 第7回 受講生による研究発表と質疑応答
 - 第8回 受講生による研究発表と質疑応答
 - 第9回 受講生による研究発表と質疑応答
 - 第10回 受講生による研究発表と質疑応答
 - 第11回 受講生による研究発表と質疑応答
 - 第12回 受講生による研究発表と質疑応答
 - 第13回 卒業論文要約の作成
 - 第14回 卒業論文要約の作成
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業で取り扱う作品は必ず読んでくること。課題は必ず提出すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ <d>

担当者 辻本 千鶴

テーマ

卒業論文の完成

獲得目標

報告、議論、修正というサイクルをくりかえしながら、卒業論文を完成させることを目標とする。

授業の内容

演習形式。受講生が選んだ作家・作品についての研究発表を中心とする。

内 容

- 第1回 講義 卒業論文の完成にむけて
 - 第2回 講義 卒業論文の完成にむけて
 - 第3回 卒業論文中間発表会(日程未定)
 - 第4回 受講生による発表(1)
 - 第5回 受講生による発表(2)
 - 第6回 受講生による発表(3)
 - 第7回 受講生による発表(4)
 - 第8回 受講生による発表(5)
 - 第9回 受講生による発表(6)
 - 第10回 受講生による発表(7)
 - 第11回 受講生による発表(8)
 - 第12回 受講生による発表(9)
 - 第13回 講義 論文執筆についての注意事項
 - 第14回 講義 卒業生の卒論を教材に
 - 第15回 『国文橋』掲載用原稿執筆
-

授業以外での学習方法

自分の担当でなくとも、発表作品を通読してから出席すること。

教科書

(使用しない。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語日本文学演習Ⅳ <e>

担当者 安達 太郎

テーマ

卒業論文の完成

獲得目標

1)卒業論文の作成をとおして、自らの力でテーマを発見し、そのテーマにふさわしい方法論を確定し、成果を上げるという活動の持つ意味を理解する。2)他の受講生のテーマについても、自らのテーマに対するのと同様の関心を持ち、能動的に関わっていく。3)資料を的確に用いて、自らの考察を論文というかたちで文章化する。

授業の内容

報告、議論、修正というサイクルをくりかえしながら、卒業論文を完成させる。

内 容

- 第1回 導入
 - 第2回 受講生による第1回報告(1)
 - 第3回 受講生による第1回報告(2)
 - 第4回 受講生による第1回報告(3)
 - 第5回 受講生による第1回報告(4)
 - 第6回 受講生による第2回報告(1)
 - 第7回 受講生による第2回報告(2)
 - 第8回 受講生による第2回報告(3)
 - 第9回 受講生による第2回報告(4)
 - 第10回 受講生による第3回報告(1)
 - 第11回 受講生による第3回報告(2)
 - 第12回 受講生による第3回報告(3)
 - 第13回 受講生による第3回報告(4)
 - 第14回 まとめ1
 - 第15回 まとめ2
-

授業以外での学習方法

直接関係がある、ないにかかわらず、学術論文をたくさん読んでください。最初はまったく理解できないかもしれませんが、気にしないで。論文を読む目的は内容を理解するだけではありません。書き方などについてもイメージが明確になってきます。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 作品研究Ⅱ〈a〉

担当者 新谷 泰一

テーマ

漢字作品の創作研究

獲得目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の内容

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

内 容

- 第1回 卒業制作の準備、内容決定。
 - 第2回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
 - 第3回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
 - 第4回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
 - 第5回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
 - 第6回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
 - 第7回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
 - 第8回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
 - 第9回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
 - 第10回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
 - 第11回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
 - 第12回 卒業制作の完成。
 - 第13回 互評、反省会。
 - 第14回 自由制作。
 - 第15回 自由制作 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a102040550

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 作品研究Ⅱ

担当者 新谷 泰一

テーマ

漢字作品の創作研究

獲得目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の内容

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

内 容

- 第1回 卒業制作の準備、内容決定。
- 第2回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第3回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第4回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第5回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第6回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第7回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第8回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第9回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第10回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第11回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第12回 卒業制作の完成。
- 第13回 互評、反省会。
- 第14回 自由制作。
- 第15回 自由制作 まとめ

授業以外での学習方法

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a102040552

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 作品研究Ⅳ〈a〉

担当者 橋本 二三

テーマ

古典に基づく創作

獲得目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。

授業の内容

各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

内 容

- 第1回 主体的作品制作と鑑賞 (1) 配字と構成
- 第2回 主体的作品制作と鑑賞 (2) 配字と構成
- 第3回 主体的作品制作と鑑賞 (3) 配字と構成
- 第4回 主体的作品制作と鑑賞 (4) 運筆のリズムと線質
- 第5回 主体的作品制作と鑑賞 (5) 運筆のリズムと線質
- 第6回 主体的作品制作と鑑賞 (6) 運筆のリズムと線質
- 第7回 主体的作品の習熟 (1) 古筆の再確認
- 第8回 主体的作品の習熟 (2) 変化と統一
- 第9回 主体的作品の習熟 (3) 墨法効果
- 第10回 制作作品の相互研究 <<中間発表>>
- 第11回 作品の完成に向けて (1) 全体構成の研究
- 第12回 作品の完成に向けて (2) 線質の確認と墨法効果
- 第13回 作品の完成に向けて (3) 作品の選別
- 第14回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (1)
- 第15回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (2)

授業以外での学習方法

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **作品研究Ⅳ **

担当者 横山 弘平

テーマ

古典に基づく創作

獲得目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。内容 各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

授業の内容

内 容

- 第1回 主体的作品制作と鑑賞 (1) 配字と構成
- 第2回 主体的作品制作と鑑賞 (2) 配字と構成
- 第3回 主体的作品制作と鑑賞 (3) 配字と構成
- 第4回 主体的作品制作と鑑賞 (4) 運筆のリズムと線質
- 第5回 主体的作品制作と鑑賞 (5) 運筆のリズムと線質
- 第6回 主体的作品制作と鑑賞 (6) 運筆のリズムと線質
- 第7回 主体的作品の習熟 (1) 古筆の再確認
- 第8回 主体的作品の習熟 (2) 変化と統一
- 第9回 主体的作品の習熟 (3) 墨法効果
- 第10回 制作作品の相互研究 <<中間発表>>
- 第11回 作品の完成に向けて (1) 全体構成の研究
- 第12回 作品の完成に向けて (2) 線質の確認と墨法効果
- 第13回 作品の完成に向けて (3) 作品の選別
- 第14回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (1)
- 第15回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (2)

授業以外での学習方法

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴)〈A〉

担当者 小野 浩

テーマ

世界史の文献史料の調査と発表

獲得目標

歴史研究における一次史料(根本史料)とは何なのかを、理解してもらうことが目標である。

授業の内容

歴史を研究するにあたってまず何よりも大切なのは史料である。史料に根拠を置かない議論は無意味だとさえ言えるかも知れない。概説書や研究論文を読むことはもちろん大切であるが、それだけでは本当の意味で歴史を勉強したことにはならない。この授業では一次史料とそれ以外のものとの違いを知ってもらうため、出席者各人に世界史のある時代ある地域を研究する際に不可欠な史料を1つ採り上げ報告させる。またその報告にもとづいた質疑応答も行う。発表者は必ずレジュメを用意し全員に配布する。時間は質疑応答を含め1人30分程度とし、1回の授業で2～3人が報告する。自分がどこに関心をもったのか、どの点に疑問を感じたのか、といった発表者自身の考えが前面に出た発表が望まれる。ただ単に事典、本の関係部分を抜き書きしたような報告は避けること。またいたずらに詳しいだけの報告は、その分野の知識をあまり持たない出席者にとりわかりにくいものとなるので、この点にも留意が必要である。毎回各発表に対する意見、感想を提出させる。最終回までに全員が発表を担当するよう、担当順番を設定して授業を進める。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 導論 一次史料とは何か? その1 歴史研究における史料の意味
- 第2回 導論 一次史料とは何か? その2 文献史料についての説明
- 第3回 過去の発表レジュメの具体的紹介
- 第4回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その1
- 第5回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その2
- 第6回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その3
- 第7回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その4
- 第8回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その5
- 第9回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その6
- 第10回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その7
- 第11回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その8
- 第12回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その9
- 第13回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その10
- 第14回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その11
- 第15回 担当者による発表と出席者との質疑応答 その12 なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴)〈B〉

担当者 松浦 京子

テーマ

世界史上の人物について研究する

獲得目標

歴史学科学学生として、学習研究していくうえで必須のスキルとメソッドの獲得をめざす

授業の内容

ゼミ生各自が、歴史学研究の第一歩として、「自ら人物を選び、調べ、その上でその人物についてどのような視点(関心)から報告するかを考え、内容を整理し、発表する」練習を行なう。また、ゼミ生は、報告担当以外の場合、積極的に質疑に参加する訓練を行う。これらをゼミ生が実践できるようになるために、最初の5回を使って、教員がそのためのスキルとメソッドについて講義を行う。また、学生の発表報告に際しては、1週前の時点でレジュメの概要をもとに個別指導を行なう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 本演習のねらいについての解説: 卒論研究・執筆ための第一歩であり、今後の演習に必須のスキルとメソッドの習得
- 第2回 テーマ設定と問題提起についての説明: どのような歴史上の人物を選ぶべきか、人物をとおしてどのような歴史的問いかけができるのか 課題指示: 指定論文に関してテーマ、問題提起、内容、結論の要約
- 第3回 文献検索、収集のやり方についての解説: 図書館の検索システムを利用して実際に検索してみる(2、3回目は順不同)
- 第4回 問題設定に対する回答を得るための分析・整理: 第2回の課題を用いて、また模擬報告用レジュメを用いて、回答を得るための内容整理について考察検討し、レジュメ作成上の留意点を解説する
- 第5回 読み上げ原稿について、と模擬報告: 読み上げ原稿(400字詰め原稿用紙7~8枚程度)についての説明とレジュメを用いての模擬報告
- 第6回 これより、学生番号順に学生の発表報告①(報告時間は20分程度を目安とすると発表後の質疑応答、教員からのコメント)
- 第7回 学生発表報告②、質疑応答と教員からのコメント
- 第8回 学生発表報告③、質疑応答と教員からのコメント
- 第9回 学生発表報告④、質疑応答と教員からのコメント
- 第10回 学生発表報告⑤、質疑応答と教員からのコメント
- 第11回 学生発表報告⑥、質疑応答と教員からのコメント
- 第12回 学生発表報告⑦、質疑応答と教員からのコメント
- 第13回 学生発表報告⑧、質疑応答と教員からのコメント
- 第14回 学生発表報告⑨、質疑応答と教員からのコメント
- 第15回 学生発表報告⑩、質疑応答と教員からのコメント

授業以外での学習方法

発表に向けて文献収集、文献精読のうえでの報告内容の決定、レジュメならびに読み上げ原稿の作成。その過程で、教員と面談の上アドバイスを受けること。

教科書

参考書

適宜、指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（）

小テスト（）

授業中課題（40）

授業中発表等（30）

参加度（30）

授業中の課題には、発表報告後に、発表の際の読み上げ原稿を、教員からのコメントとゼミ生仲間からの指摘を参考にして書き改めて提出するレポートも含まれる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴) <C>

担当者 南 直人

テーマ

歴史学研究のための基礎的能力の育成

獲得目標

歴史学科で学ぶ意味について自分で考えるとともに、世界史上の重要なトピックについて自分の力で調査し分析し発表する能力を修得する

授業の内容

以下の授業計画に沿っておこなう(なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある)

内 容

- 第1回 大学で学ぶことの意味を考える
 - 第2回 卒業後の進路、将来の人生設計を考える
 - 第3回 歴史学の意義、その社会的役割について考える
 - 第4回 歴史学とは何か、その方法論(1)
 - 第5回 歴史学とは何か、その方法論(2)
 - 第6回 歴史学とは何か、その方法論(3)
 - 第7回 研究発表・レジュメ作成のガイダンス
 - 第8回 個人別発表(1)
 - 第9回 個人別発表(2)
 - 第10回 個人別発表(3)
 - 第11回 個人別発表(4)
 - 第12回 個人別発表(5)
 - 第13回 個人別発表(6)
 - 第14回 個人別発表(7)
 - 第15回 まとめ・総括
-

授業以外での学習方法

発表者は必ずレジュメを準備し、さらに発表用の原稿を準備すること。また授業中に紹介する歴史に関する文献を各自読んでもらいたい。

教科書

歴史学ってなんだ？

著者： 小田中直樹

出版社： PHP新書

出版年： 2004

ISBN：

参考書

歴史を冒険するために

著者： 中谷功治

出版社： 関西学院大学出版会

出版年： 2008

ISBN：

わかる歴史 面白い歴史 役に立つ歴史

著者： 桃木至朗

出版社： 大阪大学出版会

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ 10 ）

参加度（ 40 ）

小テスト（ ）

授業中発表等（ 50 ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴)〈D〉

担当者 増淵 徹

テーマ

京都の歴史を材料に、歴史の学び方を身につける

獲得目標

素材としての史料を読むことにはじまり、レポートの作成・報告・修正・完成に至るまでの一連の作業手順を理解し、それを自力で展開できる基礎能力をつけることが第一の目標である。レポートの作成に際しては担当部分の現地の見学・図化・観察を必須の条件としており、空間の歴史性への関心をもつことと、それを観察する力の向上が第二の目標になる。

授業の内容

1780(安永9)年刊の『都名所図会』から材料を各参加者に割り当て、そこに描写された名所について調べ、その結果を報告し、質疑応答を行う形式で進行させる。また、早い段階に実際の調べ方を学ぶために学外授業を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 テキストの解説、授業展開の説明とレポート作成手順の解説
 - 第2回 図書館の実際の利用方法の解説、史料の読みと理解の実際(1)
 - 第3回 史料の読みと理解の実際(2)
 - 第4回 現地観察の方法(学外授業)
 - 第5回 個別発表と質疑(1)
 - 第6回 個別発表と質疑(2)
 - 第7回 個別発表と質疑(3)
 - 第8回 個別発表と質疑(4)
 - 第9回 個別発表と質疑(5)
 - 第10回 個別発表と質疑(6)
 - 第11回 個別発表と質疑(7)
 - 第12回 個別発表と質疑(8)
 - 第13回 個別発表と質疑(9)
 - 第14回 個別発表と質疑(10)
 - 第15回 完成レポート作成の指導。
-

授業以外での学習方法

積極的に京都内外の歴史遺産を見学すること。活字を通して知識を豊富にすること。

教科書

都名所図会(該当部分コピー配布)

著者:

出版社: 京都叢書・版本

出版年:

ISBN:

参考書

京都の歴史

著者:

出版社: 学芸書林

出版年:

ISBN:

京の鴨川と橋

著者： 門脇禎二・朝尾直弘編

出版社： 思文閣出版

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（50）

参加度（30）

完成レポートの未提出者には単位修得を認めない。

小テスト（0）

授業中発表等（20）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴)〈E〉

担当者 酒井 一臣

テーマ

歴史学入門 歴史を学ぶ楽しさ

獲得目標

この授業では、歴史学を志す学生に、歴史学とはどのような学問か、どのような方法で学べるのか、どのような意義があるのか、などを学んでもらうことを目的とします。

授業の内容

基礎学習のための講義・グループ発表・個人発表の順に授業を進めます。なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがあります。

内 容

- 第1回 歴史学へようこそ 歴史を学ぶ意義(授業参加者のグループ分け、ゼミリーダー決定)
 - 第2回 歴史学へようこそ 歴史学のテーマ(テーマの決め方、方法論)
 - 第3回 歴史学へようこそ 歴史学の学び方(本を探す)
 - 第4回 基礎文献を読む1(教員指定文献の輪読)
 - 第5回 基礎文献を読む2(教員指定文献の輪読)
 - 第6回 グループ発表会1
 - 第7回 グループ発表会2
 - 第8回 個人テーマ発表準備(教員が指定した範囲で個人テーマを決め、学習計画を立てます)
 - 第9回 個人テーマ発表準備(レジュメ作成法)
 - 第10回 個人テーマ発表会1
 - 第11回 個人テーマ発表会2
 - 第12回 個人テーマ発表会3
 - 第13回 個人テーマ発表会4
 - 第14回 個人テーマ発表会5
 - 第15回 個人テーマ発表会6
-

授業以外での学習方法

歴史学は未来を見通す学問です。現代の諸問題にも目を向けましょう。新聞を読む習慣が大切です。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

a10301a255

ゼミは、自分で調べ、人の調査に意見を述べ、自分の思考力をきたえることが目的です。無言は大敵です。ただ出席することを「参加」とはみなしません。高校までの教わることを中心とする学習から、自分でテーマを見つけて学習する姿勢が重要です。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(歴)〈F〉

担当者 尾下 成敏

テーマ

歴史学入門

獲得目標

歴史学の入門書を読み込む、あるいは歴史研究の基礎となる文献史料を読んで考察する、という一連の過程を行ってもらう。そのことによって、歴史学の研究手法についての理解を深めてもらいたい。

授業の内容

授業の前半では、イエズス会の宣教師ルイス・フロイスの著書「日欧文化比較」を読み、初歩的な考察を行ってもらう。後半では、江戸時代の人物に関する文献を読み、内容を要約した上で人物史を扱う際の問題点などを述べてもらう。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス等
 - 第2回 「日欧文化比較」の講読
 - 第3回 「日欧文化比較」の講読
 - 第4回 「日欧文化比較」の講読
 - 第5回 「日欧文化比較」の講読
 - 第6回 「日欧文化比較」の講読
 - 第7回 「日欧文化比較」の講読
 - 第8回 歴史学の入門書の講読
 - 第9回 歴史学の入門書の講読
 - 第10回 歴史学の入門書の講読
 - 第11回 歴史学の入門書の講読
 - 第12回 歴史学の入門書の講読
 - 第13回 歴史学の入門書の講読
 - 第14回 歴史学の入門書の講読
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

講義中に指示する。

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (35)

授業中発表等 (35)

参加度 (30)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史概説Ⅱ

担当者 酒井 一臣

テーマ

獲得目標

日本近現代史の整理。歴史学は決して単なる暗記科目ではありません。しかし、一方で歴史的思考には、基礎事項を知っておく必要があります。この授業では、幕末から太平洋戦争敗戦までの日本史を概観します。

授業の内容

政治・経済・文化など、なるべく偏りなく通史的内容を講義します。高校のときに使用していた日本史の教科書がある人は、関係する部分を読んでおいてください。

内 容

- 第1回 近代への胎動
 - 第2回 開国と幕府滅亡
 - 第3回 明治維新
 - 第4回 初期外交と殖産興業
 - 第5回 大日本帝国憲法制定
 - 第6回 日清日露戦争
 - 第7回 産業革命と明治文化
 - 第8回 政党政治の展開と第一次世界大戦
 - 第9回 大正デモクラシー期の社会
 - 第10回 市民文化
 - 第11回 昭和の恐慌と政党内閣期の政策
 - 第12回 満州事変から日中戦争へ
 - 第13回 統制経済
 - 第14回 太平洋戦争
 - 第15回 全体の考察とまとめ
-

授業以外での学習方法

近現代の日本を扱った歴史小説を読みましょう。日本近現代史への興味を深めることができます。

教科書

日本外交史入門(仮題)

著者： 酒井一臣

出版社： 昭和堂

出版年： 2013年4月刊行予定

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 東洋史概説Ⅱ

担当者 小野 浩

テーマ

東方イスラム世界史概説

獲得目標

一次史料を紹介しつつ、イスラムの勃興からイスラム期イラン・中央アジアの歴史の流れを大まかに把握することを目標とする。

授業の内容

イラン・中央アジアを中心とする東方イスラム世界の歴史を、モンゴル人・トルコ人・ペルシア人の果たした役割に注目しつつ概観する。なお、以下に示す講義計画はあくまで予定であり、扱う対象や回数に変更が生じることもある。また、高校での世界史の学習を前提としている。(昨今、高校で世界史を学習していないことを訴える学生が多々いるが、この授業は、そういった学生のために高校の世界史教科書をおさらいするものではないことを承知されたい)

内 容

- 第1回 イスラムとは何かー六信五行
 - 第2回 預言者ムハンマドの生涯
 - 第3回 イスラムの人名と暦
 - 第4回 カリフー4カリフ・ウマイヤ家・アッバース家
 - 第5回 アリー信仰とシーア派
 - 第6回 イスラムの学術文化 その1
 - 第7回 イスラムの学術文化 その2
 - 第8回 イスラムの学術文化 その3
 - 第9回 イスラム化以前のテュルク人ー突厥・ウイグル
 - 第10回 イスラム化したテュルク人ーカラハン朝・セルジューク朝・ホラズム朝
 - 第11回 モンゴルの大遠征
 - 第12回 イルハン朝とラシード・アッディーンの『集史』
 - 第13回 ティムールの興起とティムール朝
 - 第14回 バーブルとムガル朝の成立
 - 第15回 サファヴィー朝の成立
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 西洋史概説Ⅱ

担当者 南直人

テーマ

近現代の西洋の歴史の基礎的理解をはかる

獲得目標

16世紀以降のヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、西洋世界をより深く理解することにつなげる。

授業の内容

近代世界システム論の視角から近現代のヨーロッパ史(西洋史)を考察する。最初に近代世界システム論を紹介し、その後16世紀から20世紀にいたるヨーロッパ史(西洋史)の流れをたどっていく。

内 容

- 第1回 世界史の新しい見方ー世界システム
 - 第2回 近代世界システムの形成
 - 第3回 16世紀ポルトガルのアジア進出
 - 第4回 16世紀スペインの新大陸支配
 - 第5回 16世紀ハプスブルク家の繁栄
 - 第6回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー
 - 第7回 17・18世紀イギリスの商業革命と大西洋貿易
 - 第8回 18世紀英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争
 - 第9回 産業革命とフランス革命の新解釈
 - 第10回 19世紀大英帝国のヘゲモニー
 - 第11回 19世紀ヨーロッパ社会
 - 第12回 20世紀のヨーロッパ(1)
 - 第13回 20世紀のヨーロッパ(2)
 - 第14回 20世紀のヨーロッパ(3)
 - 第15回 まとめ・総括
-

授業以外での学習方法

近現代ヨーロッパ史のさまざまな文献を読むこと

教科書

参考書

ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2001

ISBN:

大学で学ぶ西洋史[近現代]

著者: 小山哲、他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011

ISBN:

近代ヨーロッパ史

著者： 福井憲彦

出版社： 放送大学教育振興会

出版年： 2005

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (60)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 考古学概説Ⅱ

担当者 五十川 伸矢

テーマ

考古学からみた地域と文化

獲得目標

日本各地の地域性を示す遺跡において解明されている個性豊かな地域の考古学的知見から、特色をもった地域文化が、どのように成立したかを理解する。

授業の内容

日本列島の西から東へと地域をめぐり、先史から歴史へと時代をたどりながら、重要な遺跡を説明する。

内 容

- 第1回 日本文化の地域性
 - 第2回 弥生時代の北九州
 - 第3回 瀬戸内の土器製塩
 - 第4回 中国山地のたたら製鉄
 - 第5回 陶邑の須恵器生産
 - 第6回 土師器「かわらけ」の世界
 - 第7回 学外授業 正倉院展(奈良国博)見学
 - 第8回 正倉院展見学の復習
 - 第9回 東海地方の焼物——猿投・瀬戸・常滑
 - 第10回 鎌倉の考古と歴史
 - 第11回 学外授業 博物館見学
 - 第12回 戦国城下町越前——乗谷朝倉氏遺跡
 - 第13回 江戸時代の考古学
 - 第14回 日本領の「異国」琉球の考古と文化
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

各地の博物館・資料館を訪ね、展示されている資料を観察して歴史的な意義について学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60%)

授業中課題 (40%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学AⅡ(中世)〈Za〉

担当者 米澤 洋子

テーマ

武家文書の世界

獲得目標

古文書学AⅠで学んだ様式論を前提に、古文書の写真版を題材に古文書研究の方法を実践形式で学ぶ。活字史料では読み取れないモノとしての古文書の性格を理解する。武家様文書の各様式については実際に受講者と古文書の写真版を読みながら進める。

授業の内容

前期の講義(古文書学AⅠ)内容を前提としているので、後期のみ受講は薦めない。なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

内 容

- 第1回 イントロダクション ー講義の進め方ー
 - 第2回 古文書研究の基礎 ー様式論の復習ー
 - 第3回 中世の花押を読む
 - 第4回 中世武家文書の世界 ー鎌倉幕府(1)ー
 - 第5回 中世武家文書の世界 ー鎌倉幕府(2)ー
 - 第6回 中世武家文書の世界 ー鎌倉幕府(3)ー
 - 第7回 中世武家文書の世界 ー室町幕府(1)ー
 - 第8回 中世武家文書の世界 ー室町幕府(2)ー
 - 第9回 中世武家文書の世界 ー室町幕府(3)ー
 - 第10回 戦国大名文書の世界(1)
 - 第11回 戦国大名文書の世界(2)
 - 第12回 さまざまな古文書(1)
 - 第13回 さまざまな古文書(2)
 - 第14回 さまざまな古文書(3)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

講義では崩し字の読み方を指導する時間は確保できないので、各自辞典などを用いて自習されたい。また博物館や資料館の展示等のできるだけ現物の古文書に触れることが望ましい。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者: 佐藤進一

出版社: 法政大学出版局

出版年: 1997

ISBN:

概説古文書学 古代・中世編

著者: 日本歴史学会編

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1983

ISBN:

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

单元ごとの確認の小テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価の対象とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学AⅡ(中世)〈Zb〉

担当者 米澤 洋子

テーマ

武家文書の世界

獲得目標

古文書学AⅠで学んだ様式論を前提に、古文書の写真版を題材に古文書研究の方法を実践的に学ぶ。活字史料では読み取れないモノとしての古文書の性格を理解する。武家文書の各様式について実際に受講者と古文書の写真版を読みながら進める。

授業の内容

前期の講義(古文書学AⅠ)内容を前提としているので、後期のみを受講は薦めない。なお、この授業では必要に応じて学外学習を行うことがある。

内 容

- 第1回 イントロダクション ー講義の進め方ー
- 第2回 古文書研究の基礎 ー様式論の復習ー
- 第3回 中世の花押を読む
- 第4回 中世武家文書の世界 ー鎌倉幕府(1)ー
- 第5回 中世武家文書の世界 ー鎌倉幕府(2)ー
- 第6回 中世武家文書の世界 ー鎌倉幕府(3)ー
- 第7回 中世武家文書の世界 ー室町幕府(1)ー
- 第8回 中世武家文書の世界 ー室町幕府(2)ー
- 第9回 中世武家文書の世界 ー室町幕府(3)ー
- 第10回 戦国大名文書の世界(1)
- 第11回 戦国大名文書の世界(2)
- 第12回 さまざまな古文書(1)
- 第13回 さまざまな古文書(2)
- 第14回 さまざまな古文書(3)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

講義では崩し字の読み方を指導する時間は確保できないので、各自辞典などを用いて自習されたい。また博物館や資料館の展示等のできるだけ現物の古文書に触れることが望ましい。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者: 佐藤進一

出版社: 法政大学出版局

出版年: 1997

ISBN:

概説古文書学 古代・中世編

著者: 日本歴史学会編

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1983

ISBN:

演習古文書選様式論

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

单元ごとの確認の小テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価の対象とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史特講h(近現代史) <Z>

担当者 長 志珠絵

テーマ

近代国民国家形成と東アジア、文明の視線／移動と空間

獲得目標

自国史の近現代史を知ることが社会全般にとどまらず、自分の暮らす街や育った地域、親子関係にいたる「当たり前」を歴史(変化)の対象として考える作業の一つです。様々な根拠にもとづきながら、歴史を理解する方法や捉え方を学ぶことで、自国の過去も含め、見知らぬ世界を想像する思考と力を養うことを目指す。

授業の内容

日本の近現代史を東アジア規模の近代化のなかでとらえる一方、文明化と人びとの生活や移動を通じ、19世紀半ばから20世紀半ばに及ぶ日本の歴史経験とその空間を考える。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 近代世界と東アジア
 - 第3回 近代世界と境界
 - 第4回 伝統社会の変容
 - 第5回 近代世界と政治主体
 - 第6回 地域を開発する
 - 第7回 対外戦争を支えるしくみ
 - 第8回 情報と東アジア世界
 - 第9回 「働く」ことの近代
 - 第10回 「住まう」ことの近代
 - 第11回 帝国の時代とつながる地域
 - 第12回 装うことの近代
 - 第13回 戦争の時代を生きる1
 - 第14回 戦争の時代を生きる2
 - 第15回 テスト及び解説
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

近代社会を生きる

著者： 大門正克他

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2003

ISBN： 642-07923-8

全集日本の歴史の近代巻

著者：

出版社： 小学館

出版年： 2008

ISBN：

シリーズ日本近現代史の近代巻

著者:

出版社: 岩波新書

出版年: 2007

ISBN:

日本20世紀館

著者:

出版社: 小学館

出版年: 1999

ISBN: 4096230111

成績評価

試験 (50)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業中の小テスト及び授業中課題及び試験による総合的評価

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史特講J(ヨーロッパ・アメリカ史Ⅱ)〈Z〉

担当者 爲政 雅代

テーマ

第2次世界大戦から冷戦期までのドイツをめぐる国際関係について

獲得目標

冷戦期におけるドイツを多角的な視点から概観することによって、戦後ヨーロッパ社会の特質やその国際関係のありようについて理解する。

授業の内容

超大国である米ソやヨーロッパ諸国の影響下におかれた敗戦国ドイツをめぐる内外の状況について、第2次世界大戦から1950年代にいたるまでを概観する。授業では地図や写真などを用いてより深い理解をうながす。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 戦争は静かに始まった！ —第2次世界大戦—
 - 第3回 1945年 —勝利・解放・敗戦—
 - 第4回 連合国の戦後構想
 - 第5回 ドイツ占領政策 —4つの占領地区—
 - 第6回 ニュルンベルク国際軍事裁判
 - 第7回 フランスの対ドイツ政策 —ルールとザール—
 - 第8回 アメリカの政策転換
 - 第9回 通貨改革とベルリン封鎖
 - 第10回 東西ドイツ分断
 - 第11回 2つの国旗・2つの国歌
 - 第12回 東ドイツ社会の苦悩 —6月17日事件—
 - 第13回 アデナウアーのモスクワ訪問
 - 第14回 西ドイツにおけるアメリカ化
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

参考文献を各自で適宜、読み進めること。(参考文献リストは初回授業で配布する。)

教科書

参考書

成績評価

試験 (90)

授業中課題 (10)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史特講I(ヨーロッパ・アメリカ史IV) <Z>

担当者 松浦 京子

テーマ

イギリスの社会と生活文化2

獲得目標

18～19世紀に西洋近代化の典型を歩んだイギリス社会の特質を生活文化に着目して考察することをめざす

授業の内容

イギリスは、近世から近代にかけて早くも市民社会を成熟させ、また農業革命、産業革命を経ることで19世紀には「世界の工場」として経済的繁栄を謳歌し、いわゆるヴィクトリア的価値観、ライフスタイルの横溢する社会を作り出した。その歴史過程を、生活文化に着目することで解明していく。後期は、基本的に19世紀社会を中心に検証する。

内 容

- 第1回 近世社会再考 ー商業革命から農業革命、そして産業革命へ
- 第2回 農村家内工業 ープロト工業化と女性労働力
- 第3回 産業革命と社会 ー階級社会の成立
- 第4回 産業革命の社会史① ー家族構造の変容
- 第5回 産業革命の社会史② ーセルフ・ヘルプとレスpekタビリティ
- 第6回 産業革命の社会史③ ー救貧法改革
- 第7回 「福祉の複合体」① ー労働者の自助(埋葬クラブ・友愛協会)
- 第8回 「福祉の複合体」② ー慈善・博愛・社会改革
- 第9回 「福祉の複合体」③ ー社会改良運動とフェミニズム
- 第10回 ヴィクトリアン社会改革① ー国家福祉の登場
- 第11回 ヴィクトリアン社会改革② ー選挙法改正・公教育法
- 第12回 ヴィクトリア後期の労働者運動① ー協同組合運動
- 第13回 ヴィクトリア後期の労働者運動② ー労働者教育協会
- 第14回 ヴィクトリア後期の労働者運動③ ーリブ・ラブ同盟から労働党結成へ
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

出来るだけ幅広く、ヴィクトリア時代のイギリス史関連文献を熟読すること

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ <a>

担当者 増淵 徹

テーマ

古代の法から社会像を考える

獲得目標

『類聚三代格』をテキストに、太政官符などの古代史の史料の基本的な読み方を修得するとともに、史料からどのように情報を引き出し、発想を展開し、どのように調べて当時の社会像を復元していくかの基本的方法論の修得を第一の目標とする。

授業の内容

参加者各自に官符などを割り当て、その読み下し、訳、考察等をレポートとして提出し、それを教員が補足・解説する形式で進める。授業に際しては、漢文を読む力、語彙力、公式様文書に関する古文書学の知識は必須の要件であり、参加者は各自でその能力の向上に努めねばならない。この点を補完する手段として、史料訓読の課題を課す。なお、学外授業のほか、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 授業解説、テキストの解説(1)
- 第2回 テキストの解説(2)、図書館の活用方法やレポートの作成方法の解説
- 第3回 史料の読み方と理解の実際(1)
- 第4回 史料の読み方と理解の実際(2)
- 第5回 個別発表(1)
- 第6回 個別発表(2)
- 第7回 個別発表(3)
- 第8回 個別発表(4)
- 第9回 個別発表(5)
- 第10回 個別発表(6)
- 第11回 古代史関係の歴史遺産見学(学外授業)
- 第12回 個別発表(7)
- 第13回 個別発表(8)
- 第14回 個別発表(9)
- 第15回 歴史研究の方法論と史料分析(まとめ)

授業以外での学習方法

漢字そのものや漢語・熟語に関する知識を豊富にすること。そのために硬い文章をたくさん読むこと。漢和辞典を頻繁に利用すること。

教科書

類聚三代格(該当部分コピー配布)

著者: 黒板勝美編(国史大系)

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

参考書

日本の時代史4 律令国家と天平文化

著者: 佐藤 信 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

日本の時代史5 平安京

著者: 吉川真司 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

日本の時代史6 摂関政治と王朝文化

著者: 加藤友康 編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

日本歴史大系2 律令国家の展開

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

日本歴史大系3 貴族政治と武士

著者:

出版社: 山川出版社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ

担当者 山田 徹

テーマ

百練抄を読む

獲得目標

日本中世史料を読解する能力を養う。

授業の内容

テキストは、朝廷の記録書である百練抄を使用する。最初の数回は、和様漢文の基礎を理解するため、簡単な記事を集中的に読む。慣れてきたら、治承・寿永の内乱に関する記事を中心に、講読していくこととする。

内 容

- 第1回 授業解説
 - 第2回 百練抄の講読(1)
 - 第3回 百練抄の講読(2)
 - 第4回 百練抄の講読(3)
 - 第5回 百練抄の講読(4)
 - 第6回 百練抄の講読(5)
 - 第7回 百練抄の講読(6)
 - 第8回 百練抄の講読(7)
 - 第9回 百練抄の講読(8)
 - 第10回 百練抄の講読(9)
 - 第11回 百練抄の講読(10)
 - 第12回 百練抄の講読(11)
 - 第13回 百練抄の講読(12)
 - 第14回 百練抄の講読(13)
 - 第15回 百練抄の講読(14) ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

史料について、予習と復習をおこなうこと。昨年大河ドラマもあって、この時代に関する多くの本が売られています。最新の研究成果が示された本を、ぜひ手に取ってみてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (60)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ <c>

担当者 尾下 成敏

テーマ

江戸時代の文献史料を読む

獲得目標

江戸時代の漢文史料に慣れ、この時代について理解を深める。

授業の内容

江戸時代の京都町奉行所に関する史料(御触頭書)や幕府・藩に関する史料(譜代大名松平忠利の日記)を読み進めることにする。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳・事項解説の作成と報告。また、③史料を読んで気になった点を報告する。

内 容

- 第1回 ガイダンス・テキストに関する概説
 - 第2回 テキストに関する概説
 - 第3回 御触頭書の講読(第3回から第5回までの間に小テストを1回実施)
 - 第4回 御触頭書の講読
 - 第5回 松平忠利の日記の講読(第6回から第15回までの間に小テストを1回実施)
 - 第6回 松平忠利の日記の講読
 - 第7回 松平忠利の日記の講読
 - 第8回 松平忠利の日記の講読
 - 第9回 松平忠利の日記の講読
 - 第10回 松平忠利の日記の講読
 - 第11回 松平忠利の日記の講読
 - 第12回 松平忠利の日記の講読
 - 第13回 松平忠利の日記の講読
 - 第14回 松平忠利の日記の講読
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料に慣れ親しんで欲しい。

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（ ）

小テスト（20）

授業中課題（25）

授業中発表等（25）

参加度（30）

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史基礎ゼミⅡ <d>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

幕末・明治の史料を読む。

獲得目標

日本近代史史料を確実に読める能力を養う。

授業の内容

下記のテーマに関する史料を通読し、幕末・明治の時代状況もあわせて知るようになる。

内 容

- 第1回 史料講読の方法
 - 第2回 幕末という時代についての説明
 - 第3回 京都の幕末についての説明
 - 第4回 「池田屋事件」
 - 第5回 「禁門の変」
 - 第6回 「安政の大獄」
 - 第7回 「薩長盟約」
 - 第8回 「大政奉還」
 - 第9回 「王政復古の号令」
 - 第10回 「鳥羽・伏見の戦い」
 - 第11回 大政奉還から鳥羽・伏見の戦いまでの説明
 - 第12回 「大坂遷都の建白」
 - 第13回 「琵琶湖疏水」
 - 第14回 同上
 - 第15回 明治の京都についてのまとめ
-

授業以外での学習方法

京都には幕末・明治の史蹟が数多くある。京都を散策して欲しい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミⅡ <a>

担当者 松浦 京子

テーマ

西洋史上の著名な史料(英文)を読む

獲得目標

英文史料を精読しその史料から何を読み取れるかを考え、史料解読の方法を理解することをめざす

授業の内容

Weidenfeld and Nicolson社刊のIllustrated History of Europeに掲載されている抜粋史料を年代順に読んでいく。ヘロドトスの『歴史』、アリストテレスの『アテナイの国制』からはじまって、タキトゥスの『ゲルマニア』や『年代記』、各種中世年代記、教皇文書、議会文書、思想家の著作、旅行記、『エンサイクロペディア』、王令・布告、新聞、日記、書簡、条約など、歴史研究において重要な史料を読み、その内容から何が読み取れるかを考える。各史料の翻訳とその意味内容の解説と関連する歴史事象についての報告を受講生各自が分担し行なう。翻訳に関しては、発表報告の最低でも2週間前には全訳文を教員に提出し添削をうけなければならない。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 テキストの解説と分担の決定
- 第2回 史料輪読①
- 第3回 史料輪読②
- 第4回 教員による模擬史料購読、解説①
- 第5回 ゼミ生報告①と質疑応答
- 第6回 ゼミ生報告②と質疑応答
- 第7回 ゼミ生報告③と質疑応答
- 第8回 ゼミ生報告④と質疑応答
- 第9回 教員による模擬史料購読、解説②
- 第10回 ゼミ生報告⑤と質疑応答
- 第11回 ゼミ生報告⑥と質疑応答
- 第12回 ゼミ生報告⑦と質疑応答
- 第13回 ゼミ生報告⑧と質疑応答
- 第14回 教員による模擬史料購読、解説③
- 第15回 これまでの総括と課題提出

授業以外での学習方法

各自担当部分の翻訳と関連文献の精読。史料上の専門用語(歴史用語)に関する下調べ。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史基礎ゼミⅡ

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジアの歴史文献の輪読とそれにもとづく発表

獲得目標

中央アジア史・西アジア史に関する文献を選読して当該地域の歴史の知見を深め、さらには自らの関心にもとづいた研究発表を行なうことで、初歩的な研究態度を習得する。

授業の内容

扱う地域・時代ともにきわめて広範に亘り、また出席者各人の関心もさまざまであることが予想されるので、それにこたえるようなテキストは見出しがたい。それゆえこちらでいくつかの文献を候補として用意し(下記参考書参照)、受講者はその中から一部を選んで要約と発表を行なうという形式をとる。なお、歴史学に関する講演会等を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 出席者各人に自分の興味と関心のあるテーマを自己紹介させる。テキストの紹介。分担の決定。
 - 第2回 担当者による内容要約とそれに付随した研究発表。(その際必ずレジュメを用意すること。)教員のコメントおよび出席者による質疑①。
 - 第3回 報告②と質疑
 - 第4回 報告③と質疑
 - 第5回 報告④と質疑
 - 第6回 報告⑤と質疑
 - 第7回 報告⑥と質疑
 - 第8回 報告⑦と質疑
 - 第9回 報告⑧と質疑
 - 第10回 報告⑨と質疑
 - 第11回 報告⑩と質疑
 - 第12回 報告⑪と質疑
 - 第13回 報告⑫と質疑
 - 第14回 報告⑬と質疑
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

シリーズ知っておきたい中東Ⅰ
著者: 歴史教育者協議会 編
出版社: 青木書店
出版年: 2006

ISBN:

アジアの歴史と文化 西アジア史

著者: 間野英二 編

出版社: 同朋舎

出版年: 2000

ISBN:

アジアの歴史と文化 中央アジア史

著者: 間野英二 編

出版社: 同朋舎

出版年: 1999

ISBN:

新書東洋史8 中央アジアの歴史

著者: 間野英二

出版社: 講談社

出版年: 1977

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 現代史基礎ゼミⅡ <a>

担当者 酒井 一臣

テーマ

この授業では戦後史の史料を読みます。『佐藤栄作日記』を読む予定です。

獲得目標

この授業の目的は、近現代政治史研究には欠かせない日記史料の扱いになれることで、卒業論文にむけた史料読解力を伸張することです。日記史料は、単独では用いにくく、同時期の別の史料と組み合わせるとともに、基本的な知識をあらかじめ調べなければ、何が書いてあるのか理解できないことがよくあります。史料をもとに、どのように調査研究を進めていけばいいのを知ってもらうことも授業の目的です。

授業の内容

日記をめぐる基礎知識の整理をチームをつくって調べてもらいます。その後、担当を決めて、日記を読み進めていきます。「沖縄返還」を中心にする予定です。なお、外部講師の招請・校外学習を行う場合があります。

内 容

- 第1回 導入と解説
 - 第2回 戦後史概説
 - 第3回 基礎調査の発表(1)
 - 第4回 基礎調査の発表(2)
 - 第5回 『佐藤栄作日記』を読む(1)
 - 第6回 『佐藤栄作日記』を読む(2)
 - 第7回 『佐藤栄作日記』を読む(3)
 - 第8回 『佐藤栄作日記』を読む(4)
 - 第9回 『佐藤栄作日記』を読む(5)
 - 第10回 『佐藤栄作日記』を読む(6)
 - 第11回 『佐藤栄作日記』を読む(7)
 - 第12回 『佐藤栄作日記』を読む(8)
 - 第13回 『佐藤栄作日記』を読む(9)
 - 第14回 まとめの発表(1)
 - 第15回 まとめの発表(2)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学AⅡ(古代・中世) <a>

担当者 米澤 洋子

テーマ

武家文書の世界

獲得目標

古文書学AⅠで学んだ様式論を前提に、古文書の写真版を題材に古文書研究の方法を実践形式で学ぶ。活字史料では読み取れないモノとしての古文書の性格を理解する。武家様文書の各様式については実際に受講者と古文書の写真版を読みながら進める。

授業の内容

前期の講義(古文書学AⅠ)内容を前提としているので、後期のみの受講は薦めない。なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

内 容

- 第1回 イントロダクション ー講義の進め方ー
- 第2回 古文書研究の基礎 ー様式論の復習ー
- 第3回 中世の花押を読む
- 第4回 中世武家文書の世界 ー鎌倉幕府(1)ー
- 第5回 中世武家文書の世界 ー鎌倉幕府(2)ー
- 第6回 中世武家文書の世界 ー鎌倉幕府(3)ー
- 第7回 中世武家文書の世界 ー室町幕府(1)ー
- 第8回 中世武家文書の世界 ー室町幕府(2)ー
- 第9回 中世武家文書の世界 ー室町幕府(3)ー
- 第10回 戦国大名文書の世界(1)
- 第11回 戦国大名文書の世界(2)
- 第12回 さまざまな古文書(1)
- 第13回 さまざまな古文書(2)
- 第14回 さまざまな古文書(3)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

講義では崩し字の読み方を指導する時間は確保できないので、各自辞典などを用いて自習されたい。また博物館や資料館の展示等のできるだけ現物の古文書に触れることが望ましい。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者: 佐藤進一

出版社: 法政大学出版局

出版年: 1997

ISBN:

概説古文書学 古代・中世編

著者: 日本歴史学会編

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1983

ISBN:

演習古文書選様式編

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976

ISBN:

成績評価

試験（ ）

小テスト（ 50 ）

授業中課題（ 20 ）

授業中発表等（ 20 ）

参加度（ 10 ）

单元ごとの確認の小テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価の対象とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学AⅡ(古代・中世)

担当者 米澤 洋子

テーマ

武家文書の世界

獲得目標

古文書学AⅠで学んだ様式論を前提に、古文書の写真版を題材に古文書研究の方法を実践的に学ぶ。活字史料では読み取れないモノとしての古文書の性格を理解する。武家文書の各様式について実際に受講者と古文書の写真版を読みながら進める。

授業の内容

前期の講義(古文書学AⅠ)内容を前提としているので、後期のみの受講は薦めない。なお、この授業では必要に応じて学外学習を行うことがある。

内 容

- 第1回 イントロダクション ー講義の進め方ー
- 第2回 古文書研究の基礎 ー様式論の復習ー
- 第3回 中世の花押を読む
- 第4回 中世武家文書の世界 ー鎌倉幕府(1)ー
- 第5回 中世武家文書の世界 ー鎌倉幕府(2)ー
- 第6回 中世武家文書の世界 ー鎌倉幕府(3)ー
- 第7回 中世武家文書の世界 ー室町幕府(1)ー
- 第8回 中世武家文書の世界 ー室町幕府(2)ー
- 第9回 中世武家文書の世界 ー室町幕府(3)ー
- 第10回 戦国大名文書の世界(1)
- 第11回 戦国大名文書の世界(2)
- 第12回 さまざまな古文書(1)
- 第13回 さまざまな古文書(2)
- 第14回 さまざまな古文書(3)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

講義では崩し字の読み方を指導する時間は確保できないので、各自辞典などを用いて自習されたい。また博物館や資料館の展示等のできるだけ現物の古文書に触れることが望ましい。

教科書

参考書

新版古文書学入門

著者: 佐藤進一

出版社: 法政大学出版局

出版年: 1997

ISBN:

概説古文書学 古代・中世編

著者: 日本歴史学会編

出版社: 吉川弘文館

出版年: 1983

ISBN:

演習古文書選様式論

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1976

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (50)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (10)

单元ごとの確認の小テストを行うとともに、宿題や授業中の課題および参加度を評価の対象とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学BⅡ(近世)〈a〉

担当者 牧 知宏

テーマ

日本近世の古文書

獲得目標

日本近世の古文書(くずし字)を読み解き、内容を把握するための能力を身につけることを目的とします。

授業の内容

授業では、事前に配付した古文書のコピーを読み進めていきます。日本近世の様々なタイプの古文書を取りあげ、くずし字や文章内容を読み解く方法について学習します。

内 容

- 第1回 近世の古文書(武家に関する文書)を読む1
 - 第2回 近世の古文書(武家に関する文書)を読む2
 - 第3回 近世の古文書(武家に関する文書)を読む3
 - 第4回 近世の古文書(公家に関する文書)を読む1
 - 第5回 近世の古文書(公家に関する文書)を読む2
 - 第6回 近世の古文書(公家に関する文書)を読む3
 - 第7回 近世の古文書(寺社に関する文書)を読む1
 - 第8回 近世の古文書(寺社に関する文書)を読む2
 - 第9回 近世の古文書(寺社に関する文書)を読む3
 - 第10回 近世の古文書(村に関する文書)を読む1
 - 第11回 近世の古文書(村に関する文書)を読む2
 - 第12回 近世の古文書(村に関する文書)を読む3
 - 第13回 近世の古文書(町に関する文書)を読む1
 - 第14回 近世の古文書(町に関する文書)を読む2
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を行うことが大切です。また、できるだけ博物館・美術館などへ足を運び、古文書の実物に慣れ親しんでください。

教科書

なし、適宜配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

逐次紹介します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（45）

小テスト（10）

授業中課題（ ）

授業中発表等（20）

参加度（25）

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなるのはもちろん、成績評価にも結びつきます。この点をよく心得ておいてください。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学BⅡ(近世)

担当者 佐竹 朋子

テーマ

日本近世の古文書

獲得目標

日本近世の古文書を解読し、その内容を把握することを目的とします。

授業の内容

日本近世の古文書やくずし字に関する基本的な知識を得るとともに、近世の様々なタイプの古文書を取りあげ、その字体や文章について学習します。また、古文書の内容を把握していきながら、日本の近世社会に関する理解を深めます。授業は、事前に配付した古文書のコピーを読んでいます。

内 容

- 第1回 古文書と近世の社会(1)
 - 第2回 古文書と近世の社会(2)
 - 第3回 武家に関する古文書(1)
 - 第4回 武家に関する古文書(2)
 - 第5回 町に関する古文書(1)
 - 第6回 町に関する古文書(2)
 - 第7回 町に関する古文書(3)
 - 第8回 町に関する古文書(4)
 - 第9回 村に関する古文書(1)
 - 第10回 村に関する古文書(2)
 - 第11回 京都に関する古文書(1)
 - 第12回 京都に関する古文書(2)
 - 第13回 京都に関する古文書(3)
 - 第14回 京都に関する古文書(4)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を積み重ねることが何よりも大切です。予習では、配布された古文書のコピーについて翻刻をおこない、書き下しを作成して下さい。復習では、授業で学んだ古文書を、声に出して何度も読み下して下さい。また、日本近世の歴史に関する書物や、史料集を見てみましょう。

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者： 児玉幸多編

出版社： 東京堂出版

出版年： 1993

ISBN:

くずし字解読辞典

著者： 児玉幸多編

出版社： 東京堂出版

出版年： 1993

ISBN:

概説 古文書学 近世編

著者： 日本歴史学会編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1989

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト (10)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書学C II (近世)

担当者 尾下 成敏

テーマ

上級・中級の古文書(2)

獲得目標

古文書の読解能力を高める。

授業の内容

本学所蔵文書の原本、ないしは原本の写真などをテキストに授業を進める。難解なくずし字を読むことがあるので、古文書学B I・B II (いずれも近世)の2科目を履修していることが、受講にさいしての必要条件となる。なお、この授業は、将来大学院進学をめざす学生や、くずし字を学ぶことが好きな学生のために開講されている。また春季休暇中に、自由参加という形で、本学所蔵文書の整理や写真撮影を行うことがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス・古文書の解読
 - 第2回 古文書の解読
 - 第3回 古文書の解読
 - 第4回 古文書の解読
 - 第5回 古文書の解読
 - 第6回 古文書の解読
 - 第7回 古文書の解読
 - 第8回 古文書の解読
 - 第9回 古文書の解読
 - 第10回 古文書の解読
 - 第11回 古文書の解読
 - 第12回 古文書の解読
 - 第13回 古文書の解読
 - 第14回 古文書の解読
 - 第15回 本学所蔵文書の熟覧
-

授業以外での学習方法

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を行うことが大切である、とくに古文書を声を出しながら何度も読むこと、読めなかった字を何度も書くことは大事であろう。

教科書

受講生のほうで用意する必要はない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

a10302d850

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史特講b(古代史)

担当者 渡辺 晃宏

テーマ

木簡を中心とする出土文字資料の特質とそれらが語る新しい歴史像

獲得目標

歴史を考える上で欠くことのできない位置を占めるようになった木簡をはじめとする出土文字資料の特質を理解した上で、実際に木簡を読みながら、資料としての木簡の役割について理解を深め、新しい日本史像を探求する。

授業の内容

具体的な木簡に即して、日本の木簡の概論、各論を講義する。

内 容

- 第1回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について、主として平城宮跡出土木簡を具体的な素材としながら概観する。
- 第2回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について、主として平城宮跡出土木簡を具体的な素材としながら概観する。
- 第3回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について、主として平城宮跡出土木簡を具体的な素材としながら概観する。
- 第4回 代表的な木簡群として、長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第5回 代表的な木簡群として、長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第6回 代表的な木簡群として、長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第7回 代表的な木簡群として、735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第8回 代表的な木簡群として、735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第9回 代表的な木簡群として、735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第10回 平城宮跡(奈文研)での実地授業(日程は変更もあり得る)。
- 第11回 平城宮跡(奈文研)での実地授業(日程は変更もあり得る)。
- 第12回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第13回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第14回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。
- 第15回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体のまとめを行う。

授業以外での学習方法

木簡を初めとする出土文字資料や最新の発掘調査の情報に注目し、現地説明会などへの積極的な参加を期待する。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡を初めとする出土文字資料や発掘調査の情報などを適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えているので、取り上げる木簡やその順序に変更が生じる場合がある。

教科書

特に使用しない。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:
適宜プリントなどを配布する。

著者:
出版社:
出版年: ISBN:

参考書

木簡から古代がみえる(岩波新書)新赤版1256
著者: 木簡学会
出版社: 岩波書店
出版年: 2010 ISBN: 978-4004312567

木簡が語る日本の古代(岩波新書)黄版231
著者: 東野治之
出版社: 岩波書店
出版年: 1983 ISBN: 978-4004202318

平城京と木簡の世紀(講談社学術文庫)
著者: 渡辺晃宏
出版社: 講談社
出版年: 2009 ISBN: 978-4062919043

平城京1300年全検証—奈良の都を木簡から読み解く
著者: 渡辺晃宏
出版社: 柏書房
出版年: 2010 ISBN: 978-4760137404

日本古代木簡選
著者: 木簡学会
出版社: 岩波書店
出版年: 1990 ISBN: 978-4000016803

日本古代木簡集成
著者: 木簡学会
出版社: 東京大学出版会
出版年: 2003 ISBN: 978-4130201360

成績評価

試験 (80) 小テスト ()
授業中課題 () 授業中発表等 ()
参加度 (20)
試験はレポートによる場合もある。

参考URL

奈良文化財研究所

<http://mikasa.nabunken.go.jp/>

木簡データベース

<http://www.nabunken.go.jp/Open/mokkan/mokkan.html>

木簡に関する日本唯一最大の総合的データベース

木簡字典

<http://jiten.nabunken.go.jp/index.html>

木簡の画像を文字単位で検索できる画像データベース

2013 Syllabus

科目名 日本史特講f(近世史)

担当者 藤田 恒春

テーマ

豊臣秀吉とその時代

獲得目標

16世紀後期の日本社会を〈天下人〉豊臣秀吉を通して考えていく

授業の内容

16世紀後期の約30年間は、日本史では中世から近世へと転換する移行期にあたる。この時代、天下一統を果たした豊臣秀吉を宣教師史料などを利用して多角的視野から見ていく

内 容

- 第1回 歴史小説について考える
 - 第2回 宣教師たちが見た日本、その1
 - 第3回 宣教師たちが見た日本、その2
 - 第4回 大坂城、聚楽第、伏見城
 - 第5回 後陽成天皇聚楽第行幸
 - 第6回 天下一統
 - 第7回 朝鮮出兵
 - 第8回 夢のまた夢
 - 第9回 豊臣政権下の〈京〉
 - 第10回 豊臣政権の諸政策、その1
 - 第11回 豊臣政権の諸政策、その2
 - 第12回 戦後歴史学と豊臣政権の歴史的評価
 - 第13回 豊臣秀吉書状に見る秀吉
 - 第14回 豊臣秀吉の歴史的評価
 - 第15回 前後期のまとめ
-

授業以外での学習方法

豊臣秀吉を取りあげた歴史小説を絶対に読むこと

教科書

参考書

日本近世の歴史1 天下人の時代

著者： 藤井讓治

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011年

ISBN:

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本女性史特講Ⅱ

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

獲得目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態などの面から会得する。

授業の内容

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

内 容

- 第1回 戦国～織豊期の女性①北政所おね
 - 第2回 " ②細川ガラシャ
 - 第3回 " ③淀殿
 - 第4回 " ④利家正室まつ
 - 第5回 おあんが語る戦国時代
 - 第6回 江戸幕府の成立と女性
 - 第7回 春日局の一生とその役割
 - 第8回 江戸時代の農村の女性
 - 第9回 江戸時代の商家の女性
 - 第10回 明治維新とは
 - 第11回 大正デモクラシーと女性
 - 第12回 戦時中の生活変化と女性の役割
 - 第13回 戦後終章と女性
 - 第14回 現代社会の女性の地位
 - 第15回 日本女性のあゆみ
-

授業以外での学習方法

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい。

教科書

参考書

日本女性史

著者： 脇田・林・永原編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1987

ISBN：

乳母の力

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2005

ISBN：

日本中世女性史論

著者： 田端泰子著

出版社： 塙書房

出版年： 1994

ISBN：

北政所おね

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN：

細川ガラシャ

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN：

日本中世の村落・女性・社会

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011

ISBN：

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 近現代史特講b(日本)

担当者 長 志珠絵

テーマ

近代国民国家形成と東アジア、文明の視線／移動と空間

獲得目標

自国史の近現代史を知ることが社会全般にとどまらず、自分の暮らす街や育った地域、親子関係にいたる「当たり前」を歴史(変化)の対象として考える作業の一つです。様々な根拠にもとづきながら、歴史を理解する方法や捉え方を学ぶことで、自国の過去も含め、見知らぬ世界を想像する思考と力を養うことを目指す。

授業の内容

日本の近現代史を東アジア規模の近代化のなかでとらえる一方、文明化と人びとの生活や移動を通じ、19世紀半ばから20世紀半ばに及ぶ日本の歴史経験とその空間を考える。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 近代世界と東アジア
 - 第3回 近代世界と境界
 - 第4回 伝統社会の変容
 - 第5回 近代世界と政治主体
 - 第6回 地域を開発する
 - 第7回 対外戦争を支えるしくみ
 - 第8回 情報と東アジア世界
 - 第9回 「働く」ことの近代
 - 第10回 「住まう」ことの近代
 - 第11回 帝国の時代とつながる地域
 - 第12回 装うことの近代
 - 第13回 戦争の時代を生きる1
 - 第14回 戦争の時代を生きる2
 - 第15回 テスト及び解説
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

近代社会を生きる

著者： 大門正克他

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2003

ISBN： 642-07923-8

全集日本の歴史の近代巻

著者：

出版社： 小学館

出版年： 2008

ISBN：

シリーズ日本近現代史の近代巻

著者:

出版社: 岩波新書

出版年: 2007

ISBN:

日本20世紀館

著者:

出版社: 小学館

出版年: 1999

ISBN: 4096230111

成績評価

試験 (50)

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業中の小テスト及び授業中課題及び試験による総合的評価

参考URL

2013 Syllabus

科目名 近現代史特講d(世界)

担当者 爲政 雅代

テーマ

第2次世界大戦から冷戦期までのドイツをめぐる国際関係について

獲得目標

冷戦期におけるドイツを多角的な視点から概観することによって、戦後ヨーロッパ社会の特質やその国際関係のありようについて理解する。

授業の内容

超大国である米ソやヨーロッパ諸国の影響下におかれた敗戦国ドイツをめぐる内外の状況について、第2次世界大戦から1950年代にいたるまでを概観する。授業では地図や写真などを用いてより深い理解をうながす。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 戦争は静かに始まった！ —第2次世界大戦—
 - 第3回 1945年 —勝利・解放・敗戦—
 - 第4回 連合国の戦後構想
 - 第5回 ドイツ占領政策 —4つの占領地区—
 - 第6回 ニュルンベルク国際軍事裁判
 - 第7回 フランスの対ドイツ政策 —ルールとザール—
 - 第8回 アメリカの政策転換
 - 第9回 通貨改革とベルリン封鎖
 - 第10回 東西ドイツ分断
 - 第11回 2つの国旗・2つの国歌
 - 第12回 東ドイツ社会の苦悩 —6月17日事件—
 - 第13回 アデナウアーのモスクワ訪問
 - 第14回 西ドイツにおけるアメリカ化
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

参考文献を各自で適宜、読み進めること。(参考文献リストは初回授業で配布する。)

教科書

参考書

成績評価

試験 (90)

授業中課題 (10)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史特講b(東アジア史Ⅱ)

担当者 島居 一康

テーマ

東アジア諸民族の国家形成

獲得目標

中国とその周辺諸民族の国家形成の歴史を概観することによって、現代東アジア世界の構造を理解する。

授業の内容

中国古代における「漢民族」の形成から、「中華民族」による近代国家の建設まで。

内 容

- 第1回 東アジアの諸民族と現代東アジア諸国
- 第2回 中国文明の起源－長江文明と黄河文明－
- 第3回 春秋戦国時代の社会と国家
- 第4回 秦漢帝国と「漢民族」の形成
- 第5回 大分裂時代の中国と東アジア世界
- 第6回 隋唐世界帝国とトルコ系民族
- 第7回 チベット系民族の国家形成
- 第8回 モンゴル系民族の国家形成
- 第9回 ツングース系民族の国家形成
- 第10回 近世東アジアの中華帝国
- 第11回 東アジア諸国の「近代化」
- 第12回 「中華民族」と中国の国民国家建設
- 第13回 中華人民共和国と社会主義建設
- 第14回 「多民族国家」中国の民族問題
- 第15回 現代東アジア世界の諸問題

授業以外での学習方法

授業で用いる基礎的な学術用語・概念について、概説書・事典等の参考文献を提示して予習を指示することがある。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

筆記試験に際しては、授業中に配付したレジュメ等諸資料の道込みを許可する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史特講f(中央・西アジア史Ⅱ)

担当者 杉山 雅樹

テーマ

イスラームと「イラン」

獲得目標

歴史的イランや中央アジア、北インドといったイスラーム世界東方における政治・文化的変遷に注目しつつ、イスラーム史においてイラン系定住民及びイラン的要素が果たした役割を理解することを目的とする。

授業の内容

本講義ではイスラーム以降における歴史的イラン(現在のイラン・イスラーム共和国よりも広い地域を指す)を中心に、中央アジア、北インドを含めた地域の政治・文化史を扱う。イラン系の人々はかつてサーサーン朝という大帝国を築き上げたが、イスラームの大征服によってアラブの、後にはテュルク系諸王朝の支配下に入った。僅かな例を除いて彼らが再び政治的な権力を握ることはなかったが、イスラームの思想や制度を取り入れ、行政・学術・文化の面で多大な業績を残した。本講義では、こうしたイラン系の人々がイスラーム史において果たした役割に注目し、ともすれば一括りにして捉えられることが多いイスラームの多様性を考察する。なお、各回の予定は以下の通りであるが、必ずこの通りに講義が進むとは限らない。

内 容

- 第1回 「イラン」という用語とその地理的概観
- 第2回 サーサーン朝の崩壊とイスラームによる征服
- 第3回 アッバース朝とイラン系官僚・知識人
- 第4回 地方王朝の成立
- 第5回 近世ペルシア語の確立とイラン・イスラーム文化
- 第6回 テュルク人の移動とテュルク系諸王朝
- 第7回 シーア派の隆盛
- 第8回 セルジューク朝
- 第9回 モンゴルの襲来とイル・ハーン朝の成立
- 第10回 モンゴルのイスラーム改宗
- 第11回 ペルシア韻文学の最盛期
- 第12回 ティムール朝の成立
- 第13回 ヘラートの繁栄
- 第14回 サファヴィー朝の成立と十二イマーム派
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業の中で紹介する関連文献を読んでおくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史特講h(中央・西アジア史Ⅳ)

担当者 宮本 純二

テーマ

古代エジプト王朝史Ⅱ

獲得目標

エジプト古代王朝史の後半の流れを知り、理解を深める

授業の内容

前期の世界史特講gに引き続き、国家の統一が再び崩壊する第二中間期を契機として、輝かしい繁栄が再来する新王国時代、さらには衰退へと向かう末期王朝時代までの古代エジプト王朝史の後半を辿る。さらに、アレクサンダー大王によるエジプト征服や女王クレオパトラ(7世)に代表されるプトレマイオス王朝を概観する。なお、トメス一族やハトシェプスウト女王、異端王アクエンアテン、ツタンカーメン王ならびにラメセス大王(2世)が生きた時代として知られる新王国時代が講義の中心となる(授業の進め方は世界史特講gに同じ)。

内 容

- 第1回 講座解説(映像資料観賞を含む)
- 第2回 王朝史前半を振り返る／大民族移動の嵐
- 第3回 第二中間期: 異民族ヒクソスの支配
- 第4回 第二中間期: エジプト解放戦争
- 第5回 第二中間期: 再統一と武力外交
- 第6回 新王国時代: ハトシェプスウト女王1
- 第7回 新王国時代: ハトシェプスウト女王2
- 第8回 新王国時代: トメス3世の侵略戦争
- 第9回 新王国時代: アメンヘテプ3世と帝国の栄華
- 第10回 新王国時代: アマルナ宗教改革の断行
- 第11回 新王国時代: ツタンカーメン王の生涯
- 第12回 新王国時代: ラメセス2世の奮闘・栄光の終焉
- 第13回 末期王朝～ギリシア・ローマ時代: 新時代の幕開け・アレクサンダー大王の到来
- 第14回 総括(映像資料観賞)
- 第15回 総括(映像資料観賞・レポート提出を含む)

授業以外での学習方法

古代オリエント史に関連する研究成果を掲載している雑誌や論集に目を通すことも大切である。主なものとしては尾形禎亮他／岩波講座・世界歴史2『オリエント世界』、日本オリエント学会・編集発行の研究雑誌『オリエント』、早稲田大学エジプト学会・編集発行の『エジプト学研究』など。

教科書

教科書 随時、コピーで配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

古代エジプト入門(補助テキスト、購入が望ましい)

著者: 内田杉彦

出版社: 岩波ジュニア新書

出版年: 2007

ISBN:

参考書

岩波講座・世界歴史2・オリエント世界

著者： 尾形禎亮他

出版社： 岩波書店

出版年： 1998

ISBN:

古代オリエント辞典

著者： 日本オリエント学会編

出版社： 岩波書店

出版年： 2004

ISBN:

大英博物館・古代エジプト百科事典

著者： イアン・ショー他

出版社： 原書房

出版年： 1997

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (85)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史特講J(ヨーロッパ・アメリカ史Ⅱ)

担当者 松浦 京子

テーマ

イギリスの社会と生活文化2

獲得目標

18～19世紀に西洋近代化の典型を歩んだイギリス社会の特質を生活文化に着目して考察することをめざす

授業の内容

イギリスは、近世から近代にかけて早くも市民社会を成熟させ、また農業革命、産業革命を経ることで19世紀には「世界の工場」として経済的繁栄を謳歌し、いわゆるヴィクトリア的価値観、ライフスタイルの横溢する社会を作り出した。その歴史過程を、生活文化に着目することで解明していく。後期は、基本的に19世紀社会を中心に検証する。

内 容

- 第1回 近世社会再考 ー商業革命から農業革命、そして産業革命へ
- 第2回 農村家内工業 ープロト工業化と女性労働力
- 第3回 産業革命と社会 ー階級社会の成立
- 第4回 産業革命の社会史① ー家族構造の変容
- 第5回 産業革命の社会史② ーセルフ・ヘルプとレスpekタビリティ
- 第6回 産業革命の社会史③ ー救貧法改革
- 第7回 「福祉の複合体」① ー労働者の自助(埋葬クラブ・友愛協会)
- 第8回 「福祉の複合体」② ー慈善・博愛・社会改革
- 第9回 「福祉の複合体」③ ー社会改良運動とフェミニズム
- 第10回 ヴィクトリアン社会改革① ー国家福祉の登場
- 第11回 ヴィクトリアン社会改革② ー選挙法改正・公教育法
- 第12回 ヴィクトリア後期の労働者運動① ー協同組合運動
- 第13回 ヴィクトリア後期の労働者運動② ー労働者教育協会
- 第14回 ヴィクトリア後期の労働者運動③ ーリブ・ラブ同盟から労働党結成へ
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

出来るだけ幅広く、ヴィクトリア時代のイギリス史関連文献を熟読すること

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化史・文化交流史Ⅱ

担当者 酒井 一臣

テーマ

文化交流史の諸問題 現代日本の思想と文化

獲得目標

思想史は難しいというイメージがあります。それは、思想家の文章が抽象的で難解であることが一因です。この授業では、現実の政治動向と関係することから、思想のなかでも比較的容易に理解しやすい政治・社会思想を主として学びます。この授業の目標は次の2点です。 1 現代の日本政治思想の重要点を理解すること。 2 代表的な文献を実際に読むことで、思想書に親しむこと。

授業の内容

授業の最初に、その回でとりあげるテーマに関連した代表的な文献を読んでもらいます。その後に解説をします。また、2回程度、小レポートを提出してもらい、議論の整理を行います。なお、外部講師の招請を行う場合があります。

内 容

- 第1回 日本の政治思想史を学ぶ意義
 - 第2回 実業の思想(1) 渋沢栄一
 - 第3回 大正デモクラシー(1) 民主化と愚民論
 - 第4回 大正デモクラシー(2) 高等遊民たち
 - 第5回 大正デモクラシーのまとめ
 - 第6回 戦争にむかって(1) 国家社会主義と国民社会主義
 - 第7回 戦争にむかって(2) 国体とはなにか
 - 第8回 戦争にむかって(3) 共栄圏構想の意味
 - 第9回 戦時下の社会(1) 戦争の大義と植民地思想
 - 第10回 戦時下の社会(2) 革命と天皇制
 - 第11回 戦時下のまとめ
 - 第12回 戦後の混乱の中から(1) 丸山真男
 - 第13回 戦後の混乱の中から(2) 太平洋戦争の評価
 - 第14回 実業の思想(2) 高度成長を実現させた経営者たち
 - 第15回 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (10)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **自然地理学**

担当者 上野 裕

テーマ

自然環境と人間の関わり

獲得目標

中学・高校で自然地理学分野を教えることを念頭におきながら、自然地理の基礎的概念の理解と、自然と人間の関わりそしてその課題を発見できるようになること。

授業の内容

前半で自然地理の基礎、後半で人間活動との関わりについて、多くの身近な事例をあげ検討していく。

内 容

- 第1回 講義の目標、計画、留意事項の説明
 - 第2回 地表面の形成: 大地形と小地形
 - 第3回 山地の形成と分類
 - 第4回 平野の形成: 侵食平野
 - 第5回 平野の形成: 沖積平野(1)
 - 第6回 平野の形成: 沖積平野(2)
 - 第7回 海岸地形の形成
 - 第8回 様々な地図とその活用
 - 第9回 地形図読図の基礎
 - 第10回 地形図読図の実践(1)
 - 第11回 地形図読図の実践(2)
 - 第12回 地形と災害
 - 第13回 気候環境と生活(1)
 - 第14回 気候環境と生活(2)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

高校で地理を履修していなかった学生は、地理分野に関してある程度自習しておくことが望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 外書研究d

担当者 藤井 翔太

テーマ

英語専門文献の読解

獲得目標

英語で書かれた歴史学(西洋史)関連の入門的な文系を読解し、その内容を正確に理解するための力を身につける事を目指す。同時に文献の読解を通じて近世・近代ヨーロッパ史に関する基礎的な知識を身につける事も目的とする。

授業の内容

英語で書かれた歴史学の入門書を読み進めていく。講義では逐語訳を基本として、専門英語の構造を理解できるようになる事を目指す。

内 容

- 第1回 イントロダクション: 歴史文献に関する基礎知識、授業の進め方など
 - 第2回 入門書を読む(1)
 - 第3回 入門書を読む(2)
 - 第4回 入門書を読む(3)
 - 第5回 入門書を読む(4)
 - 第6回 入門書を読む(5)
 - 第7回 入門書を読む(6)
 - 第8回 入門書を読む(7)小テスト(予定)
 - 第9回 入門書を読む(8)
 - 第10回 入門書を読む(9)
 - 第11回 入門書を読む(10)
 - 第12回 入門書を読む(11)
 - 第13回 入門書を読む(12)
 - 第14回 入門書を読む(13)
 - 第15回 入門書を読む(14)小テスト(予定)
-

授業以外での学習方法

逐語訳を基本とした文献読解が授業の中心となるので予習復習をしっかりとってください。また、講義中では日本語の参考文献を適宜紹介していきます。

教科書

適宜指示します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜指示します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0%)

小テスト (20%)

授業中課題 (20%)

授業中発表等 (30%)

参加度 (30%)

基本的には授業への出席と発表(逐語訳)(60%)、途中に行う小テストの点数(20%)、学期末の簡単なレポート(20%)によって成績評価を行います。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 外書研究f

担当者 佐藤 専次

テーマ

ヨーロッパ中世史に関する英語文献の講読

獲得目標

西洋中世史に関する英語文献を精読して、西洋史の英文を正確に理解して的確に翻訳し、かつ西洋中世史について理解を深める。

授業の内容

ヨーロッパ中世に関する英語文献を講読する。本年も、昨年に引き続き、図版を豊富に使用してヨーロッパ中世をわかりやすく概観した、George Holmes, The Oxford Illustrated History of Medieval Europeをテキストに使用する。授業では、英文を読み進めながら内容について解説していく。

内 容

- 第1回 ガイダンスと中世ヨーロッパの概観
 - 第2回 英書購読
 - 第3回 英書購読
 - 第4回 英書購読
 - 第5回 英書購読
 - 第6回 英書購読
 - 第7回 英書購読
 - 第8回 英書購読
 - 第9回 英書購読
 - 第10回 英書購読
 - 第11回 英書購読
 - 第12回 英書購読
 - 第13回 英書購読
 - 第14回 英書購読
 - 第15回 試験
-

授業以外での学習方法

毎回、必ず訳させるので確実な予習が必要である。

教科書

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a10302h350

予習を前提とした授業の出席回数を重視する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ〈a〉

担当者 増淵 徹

テーマ

日本古代史研究Ⅱ

獲得目標

演習Ⅰに続き、日本古代史を研究する上での史料読解・研究方法の習得と、そのための力量向上を目指す。演習Ⅰでの到達度をみながらではあるが、まずは平安期の日記史料の読解に進み、広く時代を研究するために多様な史料に対応できる能力の獲得を目指す。次いで論文演習に転じ、次年度における卒業研究に対応できる能力を獲得する方向を目指す。

授業の内容

前期に続き、参加者各人に課題を割り当て、それに関する報告レポートを軸に授業を進行させる。なお、歴史学に関する講演(1回)、文化遺産あるいは研究施設の見学(1回)を予定している。

内 容

- 第1回 テキストの配布と授業進行方法の説明
 - 第2回 レポート作成の方法の説明及び史料の説明
 - 第3回 史料の読みと理解の実際
 - 第4回 文化遺産見学(学外授業)
 - 第5回 個別発表(1)
 - 第6回 個別発表(2)
 - 第7回 個別発表(3)
 - 第8回 個別発表(4)
 - 第9回 個別発表(5)
 - 第10回 個別発表(6)
 - 第11回 個別発表(7)
 - 第12回 個別発表(8)
 - 第13回 個別発表(9)
 - 第14回 個別発表(10)
 - 第15回 卒業研究に向けての指導(まとめ)
-

授業以外での学習方法

自分の興味のある分野に関連する論文や著作を多数読むこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ

担当者 細川 涼一

テーマ

中世史をめぐって各自が研究したテーマを発表する

獲得目標

中世史研究の状況を知るとともに、論文読解の方法を身につけ、自分自身の研究作成にむけた目標を設定していくことにしたい。

授業の内容

日本中世史関係の論文から、ゼミ参加者の興味のある論文を読むとともに、適宜ゼミ参加者の研究発表を行っていく。後期には、ゼミ参加者各自が自分の興味ある分野について調べた内容を発表し、皆で討論を行う。なお歴史学に関する講演会等を1回行う。

内 容

- 第1回 発表と討論(1)
 - 第2回 発表と討論(2)
 - 第3回 発表と討論(3)
 - 第4回 発表と討論(4)
 - 第5回 発表と討論(5)
 - 第6回 発表と討論(6)
 - 第7回 発表と討論(7)
 - 第8回 発表と討論(8)
 - 第9回 発表と討論(9)
 - 第10回 発表と討論(10)
 - 第11回 発表と討論(11)
 - 第12回 発表と討論(12)
 - 第13回 発表と討論(13)
 - 第14回 発表と討論(14)
 - 第15回 発表と討論(15)
-

授業以外での学習方法

研究発表に向けて関係する研究書・論文をよく読んで調べること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 ()

参加度 (35)

小テスト ()

授業中発表等 (35)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ <c>

担当者 尾下 成敏

テーマ

日本近世史研究の諸問題

獲得目標

卒業論文作成にむけた第一段階

授業の内容

自分の研究テーマにかかわる研究論文や研究書を収集し読み込んで、研究史を把握し、そこから自分なりの課題を引き出すといった、第一段階の作業をおこなう。後期の最後には原稿用紙換算で20枚以上のレポートを作成してもらう。なお、期間中に歴史学に関する講演会等を1回行う。また16世紀・17世紀の漢文史料を読むこともある。

内 容

- 第1回 ガイダンス・くずし字の熟読
- 第2回 くずし字の熟読
- 第3回 4回生の卒業論文中間発表会への参加
- 第4回 個別発表(漢文史料を読む場合もある)
- 第5回 個別発表(漢文史料を読む場合もある)
- 第6回 個別発表(漢文史料を読む場合もある)
- 第7回 個別発表(漢文史料を読む場合もある)
- 第8回 個別発表(漢文史料を読む場合もある)
- 第9回 個別発表(漢文史料を読む場合もある)
- 第10回 個別発表(漢文史料を読む場合もある)
- 第11回 個別発表(漢文史料を読む場合もある)
- 第12回 個別発表(漢文史料を読む場合もある)
- 第13回 個別発表(漢文史料を読む場合もある)
- 第14回 個別発表(漢文史料を読む場合もある)
- 第15回 まとめ、レポート作成に関するアドバイス

授業以外での学習方法

概説書・伝記・選書・新書および研究書などを1冊でも多く読むこと。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a103030253

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 (45)

参加度 (15)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅱ <d>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

日本近代史の諸問題

獲得目標

基礎的作業を継続するとともに、各自の卒業論文テーマの内容を深める。

授業の内容

各自が各自のテーマにもとづく報告を行い、討論を行う。

内 容

- 第1回 3回生後期のゼミ運営方法討議
 - 第2回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(1)
 - 第3回 卒業論文中間報告を聞く
 - 第4回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(2)
 - 第5回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(3)
 - 第6回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(4)
 - 第7回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(5)
 - 第8回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(6)
 - 第9回 近代史に関するビデオ鑑賞
 - 第10回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(7)
 - 第11回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(8)
 - 第12回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(9)
 - 第13回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(10)
 - 第14回 文献や史料の紹介を通じてゼミ生各自によるテーマ設定のための報告(11)
 - 第15回 3回生後期のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ〈a〉

担当者 須原 祥二

テーマ

日本古代史の基礎的な史料の講読を通じて、史料の読解力をつけることをはじめ参考図書の調査法や先行研究の検討など歴史研究の基本的方法を学びます。

獲得目標

①古代史の史料に慣れ、読解力を高めること。②史料で言及されている事件、制度、人物等について調査・レポートすることを通して、歴史研究の基本的方法を修得すること。③口頭報告およびその際のレジュメ・資料作成のスキルを身につけること。

授業の内容

恵美押勝の乱の二年後の天平神護二年五月から天平神護三年(八月に神護景雲に改元)正月までを読みます。前期と同じように一人ずつ分担を決め、二～三回程度報告(発表)してもらいます。報告の際は、報告者以外の人に適宜史料の文章を読み下してもらいます(これも成績評価に大きく反映されます)。なお全員、毎回、漢和辞典を持ってきて下さい。

内 容

- 第1回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年五月前半)
- 第2回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年五月後半)
- 第3回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年六月前半)
- 第4回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年六月後半)
- 第5回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年七月)
- 第6回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年八月・九月前半)
- 第7回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年九月後半)
- 第8回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年十月初期)
- 第9回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年十月中前期)
- 第10回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年十月中後期)
- 第11回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年十月後期)
- 第12回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年十一月)
- 第13回 『続日本紀』巻二十七(天平神護二年十二月)
- 第14回 『続日本紀』巻二十八(天平神護三年正月前半)
- 第15回 『続日本紀』巻二十八(天平神護三年正月後半)

授業以外での学習方法

毎回、事前に読んでから出席して下さい。また用語等わからないことについて、あらかじめ調べて出席してもらった方が学習効果は上がります。

教科書

テキスト(新訂増補国史大系本)はコピーで配布します

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新日本古典文学大系『続日本紀』

著者: 青木和夫ほか編

出版社: 岩波書店

出版年:

ISBN:

六国史

著者： 坂本太郎

出版社： 吉川弘文館

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（0）

授業中発表等（50）

参加度（50）

「参加度」には、毎回の報告担当者以外の人による講読(読み下し)の平常点を含めます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ

担当者 山田 徹

テーマ

中世の事件簿

獲得目標

中世史料の総合的読解力と、関連事項を調べる力をつける。

授業の内容

歴史を読み解いていくには、文書・記録・法制史料など、さまざまな史料からの情報を、総合的に生かさなければなりません。本講では、上記テーマにかんするさまざまな史料を読み進めていくことにより、卒業論文へもつながる、中世史料の総合的読解力を養成します。

内 容

- 第1回 ガイダンス(テキストの配布と分担決定)
 - 第2回 史料講読の基礎確認
 - 第3回 史料講読の基礎確認 第一課題提出
 - 第4回 史料の講読
 - 第5回 史料の講読
 - 第6回 史料の講読
 - 第7回 史料の講読
 - 第8回 史料の講読
 - 第9回 史料の講読
 - 第10回 史料の講読
 - 第11回 史料の講読
 - 第12回 史料の講読
 - 第13回 史料の講読
 - 第14回 史料の講読
 - 第15回 史料の講読 第二課題提出 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

授業で取り上げることのできる史料は限られています。それ以外にも、興味を持ったら、それを史料で確認するよう心がけ、さまざまな史料に触れてみるようにしてみてください。また、授業中に指示する研究書や論文にも、ぜひ目を通してみましょう。そうした努力が、卒業論文へとつながります。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

a103030452

第1回に決定した担当範囲に関して、読み下し・逐語訳・関連事項についてのレジユメを第3回までに提出してもらい(第一課題)、第4回以降の進行は、そのレジユメに沿った報告を順番におこなうかたちで進めていきます。成績評価は、この第一課題と報告のほか、授業の途中で提示する第二課題(第15回までに提出)によっておこないます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ <c>

担当者 尾下 成敏

テーマ

近世京都の文献史料を読む

獲得目標

江戸時代の漢文史料に慣れ、この時代について理解を深める。

授業の内容

江戸時代の北野社(現在の北野天満宮)に関する史料(北野社諸事覚帳など)を読み進めることにする。受講生の義務は以下の通り、①史料の読み下し、②担当した史料の逐語訳・事項解説の作成と報告。③史料を読んで気になった点を調べる。

内 容

- 第1回 ガイダンス・テキストに関する概説
 - 第2回 テキストに関する概説
 - 第3回 北野社関連史料の講読
 - 第4回 北野社関連史料の講読(第4回から第15回までの間に小テストを2回実施)
 - 第5回 北野社関連史料の講読
 - 第6回 北野社関連史料の講読
 - 第7回 北野社関連史料の講読
 - 第8回 北野社関連史料の講読
 - 第9回 北野社関連史料の講読
 - 第10回 北野社関連史料の講読
 - 第11回 北野社関連史料の講読
 - 第12回 北野社関連史料の講読
 - 第13回 北野社関連史料の講読
 - 第14回 北野社関連史料の講読
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

配布する漢文史料の予習・復習を怠らないこと。また博物館・美術館などへ足を運び、古文書や絵画史料に慣れ親しんで欲しい。

教科書

適宜プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a103030453

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (35)

参加度 (15)

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく、この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史講読Ⅱ <d>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

近代日本の新聞、日記、中央・地方の史料を読む。

獲得目標

明治期から大正期にかけてのあらゆる種類の史料をスムーズに読み、内容を把握できる能力を養う。

授業の内容

「朝日新聞」「朝野新聞」などの新聞、明治期の政治家の書簡や日記、地域(京都、滋賀)などの史料を読んでいく。授業は受講生が用意したレジюмеをもとに進められる。受講生は割り当てられた史料について、文の音読ができるようにしたうえで、語句の意味、人名や事件名、歴史的背景を調べ、論点はレジюме化して提示し、発表することが求められる。史料は配布する。

内 容

- 第1回 授業の進め方、史料についてのガイダンス
 - 第2回 同上
 - 第3回 受講生による発表、質疑応答、教師からの補足説明
 - 第4回 同上
 - 第5回 同上
 - 第6回 同上
 - 第7回 同上
 - 第8回 同上
 - 第9回 同上
 - 第10回 同上
 - 第11回 同上
 - 第12回 同上
 - 第13回 同上
 - 第14回 同上
 - 第15回 同上
-

授業以外での学習方法

大学図書館にあるいろんな種類の新聞を読んで欲しい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ〈a〉

担当者 米田 健志

テーマ

東アジア史の研究と発表

獲得目標

主として東アジアの歴史を研究するために必要な知識の習得をめざす。具体的には次のことがらである。①テーマの設定と関心の深め方。②関連文献の収集と整理。③根本史料の収集と読解。④研究結果の発表。

授業の内容

東アジアという地域は広く、その歴史は長く多様である。受講生諸君も一人一人が異なる興味・関心をもっていることだろう。したがって、この授業では、まず各人がそれぞれの興味・関心に沿ったテーマを決める。ついで、そのテーマに関する文献を調べてレジュメを作成、授業においてその発表を行い、それにもとづいて他の受講生との討論をする、という手順で授業を進めてゆきたい。なお、レジュメの作成にあたっては、複数の文献を利用するように努めてもらいたい。

内 容

- 第7回 発表と講評
 - 第8回 発表と講評
 - 第9回 発表と講評
 - 第10回 発表と講評
 - 第11回 発表と講評
 - 第12回 発表と講評
 - 第13回 発表と講評
 - 第14回 発表と講評
 - 第15回 授業のまとめ
 - 第1回 ガイダンス、発表順の決定
 - 第2回 東アジア研究に関する文献紹介：史料
 - 第3回 東アジア研究に関する文献紹介：工具書
 - 第4回 発表と講評
 - 第5回 発表と講評
 - 第6回 発表と講評
-

授業以外での学習方法

積極的に図書館を利用して、文献・情報を集めるよう心がけて欲しい。

教科書

参考書

中国歴史研究入門

著者： 礪波護ほか編

出版社： 名古屋大学出版会

出版年： 2006年

ISBN： 481580527X

成績評価

試験（0）

授業中課題（25）

参加度（15）

小テスト（0）

授業中発表等（60）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ

担当者 小野 浩

テーマ

中央アジア・西アジア史の諸問題

獲得目標

各人の卒論へ向けたテーマの模索と成果発表

授業の内容

各人の問題関心に沿った発表とそれに対する討論をおこない、卒論のテーマを考えていく。前期と同様に史料収集、目録からの論文探索、主要学術誌の紹介等は授業中に適宜行う。なお、学外者を招いての講演会1回を予定している。

内 容

- 第1回 卒論の書き方、ルールを説明する。
 - 第2回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その1
 - 第3回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その2
 - 第4回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その3
 - 第5回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その4
 - 第6回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その5
 - 第7回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その6
 - 第8回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その7
 - 第9回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その8
 - 第10回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その9
 - 第11回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その10
 - 第12回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その11
 - 第13回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その12
 - 第14回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その13
 - 第15回 卒論テーマと結びつく内容を発表し、討論とアドバイスをを行う。その14
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ〈c〉

担当者 松浦 京子

テーマ

西洋史に関する文献にもとづく研究・報告

獲得目標

卒業論文作成に向けて確定したテーマに見合う基礎知識の獲得をめざす。

授業の内容

3回にわたる講義の後、前期に引き続いて、受講者が順番に発表し、質疑応答・討論の形式をとる。前期の作業の成果を受けて、受講者は、卒業論文のテーマを確定する。そのうえで各自のテーマに沿って、そのテーマから論文課題を抽出するために当該時期・領域に関する概説書、古典的地位を得ている研究書を広く収集し、精読し基本的知識の獲得と理解に努めなければならない。後期のゼミでは、各自が進めている研究成果を発表と言う形でゼミ生仲間に披露し、質疑応答や担当教員からの指導を通して、意義あるかたちに整え、論文の問題関心をしぼっていかなければならない。なお、歴史学に関する講演会等(1回)を行うことがある。

内 容

- 第1回 (講義)研究テーマから問題提起へ ―研究動向整理と問題点の発見
- 第2回 (講義)論文構成の進め方 ―研究報告的講義と研究の発展過程の説明
- 第3回 4回生ゼミと合同の卒論中間発表会
- 第4回 (講義)史料にもとづく研究 ―実際の研究論文にもとづく史料、数量データの扱い方の説明
- 第5回 ゼミ生報告と質疑応答1-①(基本的知識の収集成果に基づく報告)
- 第6回 ゼミ生報告と質疑応答1-②(基本的知識の収集成果に基づく報告)
- 第7回 ゼミ生報告と質疑応答1-③(基本的知識の収集成果に基づく報告)
- 第8回 ゼミ生報告と質疑応答1-④(基本的知識の収集成果に基づく報告)
- 第9回 ゼミ生報告と質疑応答1-⑤(基本的知識の収集成果に基づく報告)
- 第10回 就職活動と並行して進める卒論研究についての心構え
- 第11回 ゼミ生報告と質疑応答2-①(問題関心の明示、それに対応した報告)
- 第12回 ゼミ生報告と質疑応答2-②(問題関心の明示、それに対応した報告)
- 第13回 ゼミ生報告と質疑応答2-③(問題関心の明示、それに対応した報告)
- 第14回 ゼミ生報告と質疑応答2-④(問題関心の明示、それに対応した報告)
- 第15回 ゼミ生報告と質疑応答2-⑤(問題関心の明示、それに対応した報告) 春休み中の研究の進め方についての注意

授業以外での学習方法

参考文献をできるだけ広く収集し、明確な問題関心を持ってそれを精読することを心がける。そして、内容を関心にそって分析・整理する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅱ <d>

担当者 南 直人

テーマ

西洋史学の諸問題

獲得目標

卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探し出し、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学びさらに研究発表及び質疑応答・議論の基本的な作法を身につける。

授業の内容

前期の学修内容を踏まえて、各自で研究発表をする。それぞれのテーマについて、文献・史料を探し、その内容を理解して、まとめ、発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外者の講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。

内 容

- 第1回 卒論のテーマの絞り込み、卒業後の進路(就活に備えて)
 - 第2回 これまでの卒業研究の内容の復習
 - 第3回 個別発表1回目(1)
 - 第4回 個別発表1回目(2)
 - 第5回 個別発表1回目(3)
 - 第6回 個別発表1回目(4)
 - 第7回 個別発表1回目(5)
 - 第8回 個別発表1回目(6)
 - 第9回 個別発表2回目(1)
 - 第10回 個別発表2回目(2)
 - 第11回 個別発表2回目(3)
 - 第12回 個別発表2回目(4)
 - 第13回 個別発表2回目(5)
 - 第14回 個別発表2回目(6)
 - 第15回 まとめ、卒論への展望
-

授業以外での学習方法

自分のテーマを見つけだすために、自分が関心を持つ分野の概説書や専門書を読みすすめること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史講読Ⅱ〈a〉

担当者 小野 浩

テーマ

イスラム世界における聖者の役割 — 西アジア史関連の文献史料と論文を読む

獲得目標

西アジア史に関連する文献を講読し、イスラム世界において聖者の果たした役割を人類学的見地も交えて考察する。

授業の内容

私市正年『イスラム聖者—奇跡・予言・癒しの世界』（講談社現代新書 1996）をテキストにして、輪読形式で授業を進める。こちらで問題点などを提起し、出席者はそれに対する意見を求めるので、あらかじめテキストを読んで出席すること。なおこのテキストは現在品切れ中のため、プリントにして配布する。

内 容

- 第1回 授業の目的と進め方の説明
 - 第2回 テキストの著者および内容概略の紹介
 - 第3回 輪読とコメント・質問 その1
 - 第4回 輪読とコメント・質問 その2
 - 第5回 輪読とコメント・質問 その3
 - 第6回 輪読とコメント・質問 その4
 - 第7回 輪読とコメント・質問 その5
 - 第8回 輪読とコメント・質問 その6
 - 第9回 輪読とコメント・質問 その7
 - 第10回 輪読とコメント・質問 その8
 - 第11回 輪読とコメント・質問 その9
 - 第12回 輪読とコメント・質問 その10
 - 第13回 輪読とコメント・質問 その11
 - 第14回 輪読とコメント・質問 その12
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

イスラム聖者—奇跡・予言・癒しの世界

著者： 私市正年

出版社： 講談社

出版年： 1996

ISBN：

参考書

成績評価

試験（0）

授業中課題（0）

参加度（40）

小テスト（0）

授業中発表等（60）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史講読Ⅱ

担当者 鷺田 睦朗

テーマ

世界史文献の批判的購読

獲得目標

卒業論文を作成するために必要となる世界史文献を批判的に読む方法を実践的に身につけることを目標とする

授業の内容

前半:世界史文献を読んだ上でのプレゼンテーションの実践 後半:書評の読解・執筆方法論の指導と実践

内 容

- 第1回 オリエンテーション・講師によるプレゼンテーション実演
 - 第2回 学生によるプレゼンテーション(1)
 - 第3回 学生によるプレゼンテーション(2)
 - 第4回 学生によるプレゼンテーション(3)
 - 第5回 学生によるプレゼンテーション(4)
 - 第6回 学生によるプレゼンテーション(5)
 - 第7回 学生によるプレゼンテーション(6)
 - 第8回 学生によるプレゼンテーション(7)
 - 第9回 学生によるプレゼンテーション(8)
 - 第10回 学生によるプレゼンテーション(9)
 - 第11回 学生によるプレゼンテーション(10)
 - 第12回 学生によるプレゼンテーション(11)
 - 第13回 書評とは何か、書評の使い方
 - 第14回 書評を書いてみよう
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

(山川出版社の「世界史リブレット」シリーズ等の)本を読んだでのプレゼン資料作成、書評作成。詳しくは講義で説明する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

- ①プレゼンテーション、②他の人のプレゼンテーション時の質問等、③書評を総合的に判断して成績を評価する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅱ〈a〉

担当者 酒井 一臣

テーマ

日本現代史の諸問題

獲得目標

この授業では、卒業論文作成に向けて、各自のテーマをみつけて研究を進めていく準備を行います。発表と質疑応答を通じ、各自のテーマを深めて具体化していくことを目的とします。

授業の内容

最初は、卒業論文を書くためのガイダンスを行います。その後、各自のテーマを決定し、発表を行います。発表に対して質問をすることも重要です。表と質疑応答を通じて、卒業論文の内容を高めていきましょう。なお、外部講師の招請・校外学習を行う場合があります。

内 容

- 第1回 卒業論文の書き方
 - 第2回 史料を選ぶ(1)
 - 第3回 史料を選ぶ(2)
 - 第4回 史料を選ぶ(3)
 - 第5回 個人発表(1)
 - 第6回 個人発表(2)
 - 第7回 個人発表(3)
 - 第8回 個人発表(4)
 - 第9回 個人発表(5)
 - 第10回 個人発表(6)
 - 第11回 個人発表(7)
 - 第12回 個人発表(8)
 - 第13回 仮論文を書く(1)
 - 第14回 仮論文を書く(2)
 - 第15回 仮論文を書く(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 現代史演習Ⅱ

担当者 南 直人

テーマ

西洋史学の諸問題

獲得目標

卒業論文の作成を視野に入れて、各自がテーマを探し出し、研究文献と史料の調査・収集の仕方を学びさらに研究発表及び質疑応答・議論の基本的な作法を身につける。

授業の内容

前期の学修内容を踏まえて、各自で研究発表をする。それぞれのテーマについて、文献・史料を探し、その内容を理解して、まとめ、発表する。なお、必要に応じて学外授業、学外者の講演会などをそれぞれ1回程度おこなうことがある。

内 容

- 第1回 卒論のテーマの絞り込み、卒業後の進路(就活に備えて)
 - 第2回 これまでの卒業研究の内容の復習
 - 第3回 個別発表1回目(1)
 - 第4回 個別発表1回目(2)
 - 第5回 個別発表1回目(3)
 - 第6回 個別発表1回目(4)
 - 第7回 個別発表1回目(5)
 - 第8回 個別発表1回目(6)
 - 第9回 個別発表2回目(1)
 - 第10回 個別発表2回目(2)
 - 第11回 個別発表2回目(3)
 - 第12回 個別発表2回目(4)
 - 第13回 個別発表2回目(5)
 - 第14回 個別発表2回目(6)
 - 第15回 まとめ、卒論への展望
-

授業以外での学習方法

自分のテーマを見つけだすために、自分が関心を持つ分野の概説書や専門書を読みすすめること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 現代史講読Ⅱ <a>

担当者 森本 慶太

テーマ

現代史文献の講読

獲得目標

①卒業論文作成に必要となる、文献を批判的に読む能力を身につける。②文献の講読を通じて、現代史研究への理解を深める。

授業の内容

この授業では、各回の発表担当者が、事前に指定した文献の内容を要約して発表し、受講生全体で議論をおこなう。講読する文献のテーマとして、近年の現代史研究で関心が高まっている「ヨーロッパ統合史」を予定している。課題文献や発表の手順・分担については、第1回の授業で説明する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 教員による講義①
 - 第3回 教員による講義②
 - 第4回 受講生による発表①
 - 第5回 受講生による発表②
 - 第6回 受講生による発表③
 - 第7回 受講生による発表④
 - 第8回 受講生による発表⑤
 - 第9回 受講生による発表⑥
 - 第10回 受講生による発表⑦
 - 第11回 受講生による発表⑧
 - 第12回 受講生による発表⑨
 - 第13回 受講生による発表⑩
 - 第14回 受講生による発表⑪
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

各回の発表担当者は、担当した文献についての報告資料を作成する。そのほかの受講生は、各回の課題文献を事前に読み、疑問点や感想を考えておく必要がある。詳細は授業中に指示する。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ヨーロッパ統合史

著者: 遠藤乾編

出版社: 名古屋大学出版会

出版年: 2008年

ISBN: 4815805830

原典 ヨーロッパ統合史

著者： 遠藤乾編

出版社： 名古屋大学出版会

出版年： 2008年

ISBN： 4815806012

ヨーロッパ統合の理念と軌跡

著者： 紀平英作編

出版社： 京都大学学術出版会

出版年： 2004年

ISBN： 9.78488E+12

歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ

著者： 谷川稔編

出版社： 山川出版社

出版年： 2003年

ISBN： 4634649101

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

①授業中の発表、②発表に対する感想文の提出等の授業中課題、③授業中の議論への貢献度を総合的に判断して、成績を評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ〈a〉

担当者 増淵 徹

テーマ

卒業研究の完成

獲得目標

卒業研究をさらに進め、卒業論文として集成させることを目的とする。後半は個別指導を重点に置く。

授業の内容

参加者各人の研究テーマの特定断面を報告し、それに関する議論を行う形で授業を展開させる。なお、古代史関係の遺産の見学(1回)や、必要に応じて、卒業研究の参考となるように、学外学習や学外講師を招いての講演会を行うことがある。

内 容

- 第1回 後期開始段階における研究の進行状況のチェックと指導
 - 第2回 中間報告に向けての指導
 - 第3回 中間報告での指摘事項及び構想再検討への指導
 - 第4回 歴史遺産見学(学外授業)
 - 第5回 個別報告と質疑(1)
 - 第6回 個別報告と質疑(2)
 - 第7回 個別報告と質疑(3)
 - 第8回 個別発表と質疑(4)
 - 第9回 個別発表と質疑(5)
 - 第10回 個別発表と質疑(6)
 - 第11回 個別発表と質疑(7)
 - 第12回 個別発表と質疑(8)
 - 第13回 卒業研究の整理と評価(1)
 - 第14回 卒業研究の整理と評価(2)
 - 第15回 卒業研究の整理と評価(3)
-

授業以外での学習方法

資料・論文の蒐集に努めること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ

担当者 細川 涼一

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文を完成させる。日本史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4年生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導を行います。

授業の内容

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導 なお、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 全体的指導(卒業後の進路の指導も含む)
 - 第2回 個別発表(1)
 - 第3回 個別発表(2)
 - 第4回 個別発表(3)
 - 第5回 個別発表(4)
 - 第6回 個別発表(5)
 - 第7回 個別発表(6)
 - 第8回 個別発表(7)
 - 第9回 個別発表(8)
 - 第10回 個別発表(9)
 - 第11回 個別発表(10)
 - 第12回 個別発表(11)
 - 第13回 個別発表(12)
 - 第14回 個別発表(13)
 - 第15回 個別発表(14)※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

卒論の下書きの添削指導を授業外でも行う

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ <c>

担当者 尾下 成敏

テーマ

卒業研究の完成に向けて

獲得目標

卒業論文の作成の第三段階。卒業論文を書き完成させる。

授業の内容

各自が研究内容を報告し、質疑応答を行う。また卒業論文の下書きを書く。なお、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 中間発表会に向けた報告準備
 - 第2回 中間発表会に向けた報告準備
 - 第3回 卒業論文中間発表会
 - 第4回 卒業論文の形式と書き方
 - 第5回 下書きの検討
 - 第6回 下書きの検討
 - 第7回 下書きの検討
 - 第8回 下書きの検討
 - 第9回 下書きの検討
 - 第10回 下書きの検討
 - 第11回 下書きの検討
 - 第12回 下書きの検討
 - 第13回 下書きの検討
 - 第14回 卒業論文の最終調整
 - 第15回 反省会
-

授業以外での学習方法

授業中に指示する。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 (25)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ <d>

担当者 高久 嶺之介

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文の作成

授業の内容

各自のテーマにもとづく個別報告を行い、さらに深めた討議をおこなう。

内 容

- 第1回 卒業論文作成のための指導(1)
 - 第2回 卒業論文作成のための指導(2)
 - 第3回 卒業論文中間報告
 - 第4回 卒論の内容にかかわる個別報告(1)
 - 第5回 卒論の内容にかかわる個別報告(2)
 - 第6回 卒論の内容にかかわる個別報告(3)
 - 第7回 卒論の内容にかかわる個別報告(4)
 - 第8回 卒論の内容にかかわる個別報告(5)
 - 第9回 卒論の内容にかかわる個別報告(6)
 - 第10回 卒論の内容にかかわる個別報告(7)
 - 第11回 卒論の内容にかかわる個別報告(8)
 - 第12回 卒論の内容にかかわる個別報告(9)
 - 第13回 卒論作成後の反省会(1)
 - 第14回 卒論作成後の反省会(2)
 - 第15回 卒論作成後の反省会(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本史演習Ⅳ <e>

担当者 酒井 一臣

テーマ

卒業研究の完成に向けて

獲得目標

この授業では、卒業論文作成に向けて、各自のテーマに関して研究を進めていきます。発表と質疑応答を通じ、各自のテーマを深めて卒業論文の完成を目的とします。

授業の内容

各自のテーマに従い、発表を行います。発表に対して質問をすることも重要です。表と質疑応答を通じて、卒業論文の内容を高めていきましょう。

内 容

- 第1回 卒業論文の説明(1)
 - 第2回 卒業論文の説明(2)
 - 第3回 個人発表(1)
 - 第4回 個人発表(2)
 - 第5回 個人発表(3)
 - 第6回 個人発表(4)
 - 第7回 個人発表(5)
 - 第8回 個人発表(6)
 - 第9回 個人発表(7)
 - 第10回 個人発表(8)
 - 第11回 個人発表(9)
 - 第12回 個人発表(10)
 - 第13回 卒業論文の仕上げ(1)
 - 第14回 卒業論文の仕上げ(2)
 - 第15回 卒業論文の仕上げ(3)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅳ〈a〉

担当者 島居 一康

テーマ

中国史上の諸問題

獲得目標

中国史の学習に必要な基礎知識と論文作成に必要な研究方法を修得する。

授業の内容

学界における研究動向を概観した後、各自の問題関心を重視して課題を整理し、定期的に研究発表を行う。

内 容

- 第1回 中国古代史の研究動向
 - 第2回 殷周時代史研究の諸問題
 - 第3回 春秋戦国時代史研究の諸問題
 - 第4回 秦漢時代史研究の諸問題
 - 第5回 中国中世史の研究動向
 - 第6回 魏晋南北朝史研究の諸問題(1)
 - 第7回 魏晋南北朝史研究の諸問題(2)
 - 第8回 隋唐五代史研究の諸問題
 - 第9回 中国近世史の研究動向
 - 第10回 宋代史研究の諸問題
 - 第11回 遼・金・西夏・蒙古・元朝史研究の諸問題
 - 第12回 明・清時代史研究の諸問題
 - 第13回 近現代中国史の研究動向(1)
 - 第14回 近現代中国史の研究動向(2)
 - 第15回 近現代中国史の研究動向(3)
-

授業以外での学習方法

必要に応じて参考資料による予習を指示する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅳ

担当者 小野 浩

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文を完成させる 内 容 世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導を行います。

授業の内容

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導(なお必要に応じて卒論作成の参考になるように学外講師を招いての講演等を行うことがある)なお、期間中、歴史学に関する講演会を行うことがある。

内 容

- 第1回 個別発表(1)
 - 第2回 個別発表(2)
 - 第3回 個別発表(3)
 - 第4回 個別発表(4)
 - 第5回 個別発表(5)
 - 第6回 個別発表(6)
 - 第7回 個別発表(7)
 - 第8回 個別発表(8)
 - 第9回 個別発表(9)
 - 第10回 個別発表(10)
 - 第11回 個別発表(11)
 - 第12回 個別発表(12)
 - 第13回 個別発表(13)
 - 第14回 個別発表(14)
 - 第15回 個別発表(15)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅳ <c>

担当者 南 直人

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

世界史演習Ⅲ・Ⅳは卒業論文演習です。4回生では、これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆しますが、この授業ではそのための研究発表・討論・指導を行います。

授業の内容

授業内容は、次のことに留意しつつ、各自が個別発表を行っていきます。○テーマの絞り方、その他について討論・講評を行い、最終テーマを決定する ○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導 なお必要に応じて学外授業、学外講師を招いての講演等をそれぞれ1回程度行うことがある。

内 容

- 第1回 個別発表(1)
 - 第2回 個別発表(2)
 - 第3回 個別発表(3)
 - 第4回 個別発表(4)
 - 第5回 個別発表(5)
 - 第6回 個別発表(6)
 - 第7回 個別発表(7)
 - 第8回 個別発表(8)
 - 第9回 個別発表(9)
 - 第10回 個別発表(10)
 - 第11回 個別発表(11)
 - 第12回 個別発表(12)
 - 第13回 個別発表(13)
 - 第14回 個別発表(14)
 - 第15回 個別発表(15)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 世界史演習Ⅳ <d>

担当者 松浦 京子

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文を完成させる

授業の内容

これまでの学習の集大成として卒業論文を執筆する。そのための個別指導などを行なう。授業内容は、次のことに留意しつつすすめる。○中間発表に向けての指導(レジュメ、発表原稿等) ゼミ生各自が事前に発表を行い、全員での討論を経て指導などを行う。○中間発表後は具体的な執筆要領や注意事項など細部について指導する ○個々の問題についての個別指導 なお、中間発表に備えて、9月の休暇期間に集中ゼミを行なう。なお、期間中、歴史学に関する講演会を1回行うことがある。

内 容

- 第1回 中間発表に向けての論文タイトル決定、レジュメの作成
 - 第2回 レジュメのチェック
 - 第3回 卒業論文中間発表
 - 第4回 卒業論文の執筆要領についての解説
 - 第5回 卒業論文執筆に向けて個別指導①
 - 第6回 卒業論文執筆に向けて個別指導②
 - 第7回 卒業論文執筆に向けて個別指導③
 - 第8回 卒業論文執筆に向けて個別指導④
 - 第9回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑤
 - 第10回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑥
 - 第11回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑦
 - 第12回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑧
 - 第13回 卒業論文執筆に向けて個別指導⑨
 - 第14回 卒業論文総括
 - 第15回 卒業後に向けて懇談
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 京都の歴史と文化遺産

担当者 増淵 徹

テーマ

京都市内に所在する文化遺産を学ぶ

獲得目標

京都市内に残る遺跡・建造物・庭園・美術工芸品・民俗文化財などの多様な文化遺産に対する知識を深め、それらの遺産の保護について問題意識をもつ。

授業の内容

京都市文化市民局文化財保護課の技師の方々に講師に、市内の各種の文化遺産とその特徴、及び調査や保護上の課題を解説する形式で進める(集中講義)。講義中に二条城を含め2～3回の見学を行う(見学料等が必要になる場合がある)。なお、各回の内容・順番は見学との関係で変更する場合があります、その際にはあらためて予定を掲示する。

内 容

- 第1回 京都の歴史と文化遺産の特徴(総説)
- 第2回 京都市内の文化遺産と保護の体系
- 第3回 京都市の埋蔵文化財
- 第4回 京都市の庭園 ー以上、第1日ー
- 第5回 京都市の歴史的建造物
- 第6回 京都市の美術工芸品
- 第7回 文化遺産見学(1)ー①
- 第8回 文化遺産見学(1)ー② ー以上、第2日ー
- 第9回 京都市の民俗文化財
- 第10回 京都市の文化的景観
- 第11回 文化遺産見学(2)ー①
- 第12回 文化遺産見学(3)ー② ー以上、第3日ー
- 第13回 京都市の天然記念物
- 第14回 京都市の無形文化財
- 第15回 まとめー文化遺産の保護とその課題ー ー以上、第4日ー

授業以外での学習方法

日常的にたくさんの文化遺産を訪れ、自身で問題意識をもってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a10304d180

「授業中課題」として、毎日の小レポートと、全体をまとめるレポートを課す。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **研究入門ゼミⅡ(財)〈ZA〉**

担当者 小林 裕子・巽 淳一郎

テーマ

興味・関心を昇華し研究心を育む。(巽淳一郎) 美術工芸史研究に対する興味を誘起する。(小林 裕子)

獲得目標

考古学の研究方法を学ぶ。討論の場で他人の説明を良く聞き、疑問点を質し、自分の意見をのべる。(巽淳一郎) 自らの目でテーマを選び、研究成果をグループでプレゼンする力をつける。なお、必要に応じて学外授業を実施する。(小林 裕子)

授業の内容

内 容

- 第1回 (巽淳一郎)自己紹介。授業の進め方に関するガイダンス。
- 第2回 (巽淳一郎)討論会「考古学とはいかなる学問か」
- 第3回 (巽淳一郎)考古学の研究方法。考古学と歴史学。
- 第4回 (巽淳一郎)学外授業。
- 第5回 (巽淳一郎)考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。
- 第6回 (巽淳一郎)考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。
- 第7回 (巽淳一郎)考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。
- 第8回 (巽淳一郎)考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。まとめ。
- 第9回 (小林 裕子)ガイダンス 美術史研究の歴史
- 第10回 (小林 裕子)テーマ討論① 美術とは何か
- 第11回 (小林 裕子)テーマ討論② 美術史研究の意義と目的
- 第12回 (小林 裕子)グループ発表のテーマ設定
- 第13回 (小林 裕子)グループ発表と討議①
- 第14回 (小林 裕子)グループ発表と討議①
- 第15回 (小林 裕子)グループ発表と討議③

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(財)〈ZB〉

担当者 小林 裕子・登谷 伸宏

テーマ

歴史学とは何か(登谷 伸宏) 美術工芸史研究に対する興味を誘起する。(小林 裕子)

獲得目標

歴史学は、何を対象としてどのように研究を進める学問なのか、について理解を深める(登谷 伸宏)。自らの目でテーマを選び、研究成果をグループでプレゼンする力をつける。なお、必要に応じて学外授業を実施する。(小林 裕子)

授業の内容

テキストを精読することにより、歴史学とはどのような学問なのか、という問いに対する自分なりの考えを見つける。その内容をレジュメにまとめて口頭発表を行う。発表にもとづき議論することを通して、歴史学の基礎を学ぶ。なお、必要に応じて学外授業を行うこともある(登谷)。

内 容

- 第1回 (小林 裕子)ガイダンス 美術史研究の歴史
 - 第2回 (小林 裕子)テーマ討論① 美術とは何か
 - 第3回 (小林 裕子)テーマ討論① 美術とは何か
 - 第4回 (小林 裕子)グループ発表のテーマ設定
 - 第5回 (小林 裕子)グループ発表と討議①
 - 第6回 (小林 裕子)グループ発表と討議②
 - 第7回 (小林 裕子)グループ発表と討議③
 - 第8回 (小林 裕子)総括
 - 第9回 (登谷 伸宏)ガイダンス
 - 第10回 (登谷 伸宏)ゼミ発表①
 - 第11回 (登谷 伸宏)ゼミ発表②
 - 第12回 (登谷 伸宏)ゼミ発表③
 - 第13回 (登谷 伸宏)ゼミ発表④
 - 第14回 (登谷 伸宏)ゼミ発表⑤
 - 第15回 (登谷 伸宏)ゼミ発表⑥
-

授業以外での学習方法

歴史に興味を持ち、歴史に関する書籍を多く読むとともに、博物館や美術館で実際に史料を見学して欲しい(登谷)。

教科書

歴史学入門

著者： 福井憲彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2006年

ISBN： 4-00-028041-4

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(財) <ZC>

担当者 有坂 道子・登谷 伸宏

テーマ

歴史学とは何か(登谷) 文字史料に親しむ(有坂)

獲得目標

自分でテーマを設定し、研究成果を発表するとはどういうことかを学ぶ。(有坂) 歴史学は、何を対象としてどのように研究を進める学問なのか、について理解を深める(登谷)。

授業の内容

テキストを精読することにより、歴史学とはどのような学問なのか、という問いに対する自分なりの考えを見つける。その内容をレジュメにまとめて口頭発表を行う。発表にもとづき議論することを通して、歴史学の基礎を学ぶ。なお、必要に応じて学外授業を行うこともある(登谷)。研究テーマとして文字史料を取り上げ、「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」ことの基本を学ぶ。(有坂)

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 ゼミ発表①
 - 第3回 ゼミ発表②
 - 第4回 ゼミ発表③
 - 第5回 ゼミ発表④
 - 第6回 ゼミ発表⑤
 - 第7回 ゼミ発表⑥
 - 第8回 ゼミ発表⑦
 - 第9回 授業の進め方についてのガイダンス
 - 第10回 ゼミ発表①
 - 第11回 ゼミ発表②
 - 第12回 ゼミ発表③
 - 第13回 ゼミ発表④
 - 第14回 ゼミ発表⑤
 - 第15回 ゼミ発表⑥
 - 第16回 総括
-

授業以外での学習方法

歴史に興味を持ち、歴史に関する書籍を多く読むとともに、博物館や美術館で実際に史料を見学して欲しい(登谷)。できるだけ身の回りのさまざまなことに興味を持ち、本や新聞などをよく読むこと。(有坂)

教科書

歴史学入門

著者： 福井憲彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2006年

ISBN： 4-00-028041-4

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (40)

a104010253

参加度（60）

上記評価は登谷先生担当分。有坂先生は下記参照、授業中発表等50%（有坂）、参加度50%（有坂）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 美術工芸史概説〈Z〉

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

《有坂 道子》文字と古文書から見る美術工芸史《小林 裕子》現存作例から見る美術工芸史

獲得目標

《有坂 道子》文字資料や古文書に関する基礎的な知識を身につける。《小林 裕子》現存作例についての多様な研究手法から美術工芸史研究の世界を知る。

授業の内容

《有坂 道子》美術工芸の研究に欠かせない文字資料に関する基礎知識を身につけるため、古文書・古記録を中心に、文字に関わる歴史資料について幅広く学ぶ。古文書とは何か。古文書にはどのようなものがあるのか。時代によって変化する古文書のかたちや種類など様式について、また古文書特有の用語や読み方など古文書をあつかう上で必要となる基本的な知識について学ぶ。《小林 裕子》美術工芸史の現存作例についての研究のうち、とくに素材や制作過程の面から、永きにわたって醸成されてきた日本美術の流れを把握する一助とする。

内 容

- 第1回 古文書とは
- 第2回 古文書の価値
- 第3回 古文書の伝来
- 第4回 古文書の材料
- 第5回 古文書の用語
- 第6回 紙のかたち
- 第7回 古文書の様式
- 第8回 まとめ・総括
- 第9回 現代における文化財調査
- 第10回 仏像の樹種
- 第11回 官営工房における造像
- 第12回 素材と造像の関係性
- 第13回 支持体と表現
- 第14回 画題と構図
- 第15回 金箔と金泥
- 第16回 まとめ

授業以外での学習方法

《有坂 道子》授業の復習をすること。博物館や美術館などの展示を積極的に見学すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財基礎ゼミⅡ <Za>

担当者 一瀬 和夫

テーマ

考古学事象の観察、記録、解釈の流れをつかむ。

獲得目標

I hear and I forget. I see and I remember. I do and I understand. をもとに、自己の研究課題の設定方法を修得する。

授業の内容

野外や教室での発表、ワークショップを行う。

内 容

- 第4回 「状況」コンテキストと発掘調査報告の整理方法
- 第5回 オブジェクト・ワークショップ(はさみ、のり・テープ・ホッチキス使用)
- 第6回 オブジェクト・レポート発表(複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ)①
- 第7回 オブジェクト・レポート発表(複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ)②
- 第8回 「もの」がもつ観念構成的な領域と機能
- 第9回 「もの」からくるライフサイクルを考えるためのテーマの設定
- 第10回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論①
- 第11回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論②
- 第12回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論③
- 第13回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論④
- 第14回 考古学的コンテキストを検討する
- 第15回 さらにレポートの課題の報告と研究の見直し
- 第1回 『選択する』考古学、パラダイムの転換、データと理論
- 第2回 史跡の見学発表の検討
- 第3回 史跡での見学発表(学外授業)

授業以外での学習方法

気に入ったものをつねに探す。博物館・ショッピング街などにあるものと展示を意識的に見学する。

教科書

参考書

古墳の研究 調べ学習日本の歴史2

著者: 一瀬和夫監修

出版社: ポプラ社

出版年: 2000

ISBN: 9.78459E+12

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財基礎ゼミⅡ <Zb>

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の文献史料を読む

獲得目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の内容

文献史料(翻刻史料)を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 近世の文献史料を読む(1)
 - 第3回 近世の文献史料を読む(2)
 - 第4回 近世の文献史料を読む(3)
 - 第5回 近世の文献史料を読む(4)
 - 第6回 近世の文献史料を読む(5)
 - 第7回 近世の文献史料を読む(6)
 - 第8回 近世の文献史料を読む(7)
 - 第9回 学外授業
 - 第10回 くずし字を読む(1)
 - 第11回 くずし字を読む(2)
 - 第12回 くずし字を読む(3)
 - 第13回 くずし字を読む(4)
 - 第14回 くずし字を読む(5)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

博物館・美術館の展示を積極的に見学すること

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年:

ISBN: 9.78449E+12

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財基礎ゼミⅡ <Zc>

担当者 小林 裕子

テーマ

美術工芸史研究の入門編として、その方法論を把握する。

獲得目標

本講義では観察と研究史の検討により、関連作例や時代背景を織り込みつつ対象を客観的に分析する視点を養うことを目標とする。なお、必要に応じて学外見学を実施する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 美術工芸史概説 宗教美術とは何か
 - 第3回 作品観察と討論①
 - 第4回 作品観察と討論②
 - 第5回 作品観察と討論③
 - 第6回 学外見学
 - 第7回 テーマ論文講読と討論①
 - 第8回 テーマ論文講読と討論②
 - 第9回 テーマ論文講読と討論③
 - 第10回 論点の探し方・問題の調べ方・レポート執筆準備の方法について
 - 第11回 各自レポート題目発表①
 - 第12回 各自レポート題目発表②
 - 第13回 テーマ論文講読と討論④
 - 第14回 テーマ論文講読と討論⑤
 - 第15回 テーマ論文講読と討論⑥・レポート提出
-

授業以外での学習方法

京都、奈良の寺院、博物館や美術館で積極的に実物に接することをのぞむ。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 考古学研究Ⅲ(中世Ⅰ)〈Z〉

担当者 巽 淳一郎

テーマ

陶磁史から社会の変動を読む。

獲得目標

陶磁器の様式(焼物種別・器形・器種構成)は、社会(政治経済、対外交流)と密接な関係にあり、社会構造の変化とともに焼物の様式も変容することを理解させる。

授業の内容

やきものを通して背景にある社会を読む。

内 容

- 第1回 陶磁器概説。焼物の分類と各焼物の特質。
 - 第2回 土器の出現とその意義。縄文土器と縄文時代の社会。
 - 第3回 稲作農耕文化期の焼物の特質。
 - 第4回 古墳時代の焼物の特質と炆器(須恵器)技術の伝来。
 - 第5回 土器部門の分極 埴輪製作集団の成立。部民制手工業生産の始まり。
 - 第6回 大陸文化の受容に伴う焼物の様式の変化。
 - 第7回 律令国家の成立と焼物生産方式の確立、焼物様式の変化。
 - 第8回 陶器(施釉陶器)の生産と展開。7世紀の緑釉陶器と奈良三彩。
 - 第9回 9世紀前半に継起する施釉陶器の日常什器化とその背景。
 - 第10回 高火度焼成陶器(灰釉陶器)の成立と展開。
 - 第11回 古代律令国家体制の弛緩に伴う焼物様式の変化。
 - 第12回 中世窯業の特質。
 - 第13回 中近世瀬戸・美濃焼の展開。茶陶の成立。
 - 第14回 近世焼物生産の特質。
 - 第15回 磁器の出現とその意義。
 - 第16回 テスト
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財特講Ⅲ(建築) <Z>

担当者 登谷 伸宏

テーマ

日本建築・都市史を読み解く

獲得目標

自分たちの身の回りに存在する歴史的建造物や歴史都市は、どのように成立・展開してきたのだろうか。その答えを、建築・都市遺構や文字・絵画史料を解説することにより見つけられるようになって欲しい。そのための基礎的な力を身につけることを目標とする。

授業の内容

日本列島においてどのような建造物・都市がつくられ、時代とともに如何なる空間的・機能的展開を遂げたのかを辿っていく。それとともに、その背景となる各時代の社会・文化や建築技術のあり方についても考えていきたい。なお、各回の内容は変更する可能性がある。

内 容

- 第1回 日本建築入門①
 - 第2回 日本建築入門②(学外授業)
 - 第3回 飛鳥時代の寺院建築
 - 第4回 奈良時代の寺院建築
 - 第5回 古代都市の空間
 - 第6回 真言・天台宗の建築
 - 第7回 平安京の空間と社会
 - 第8回 顕密仏教の展開と寺院建築(学外授業)
 - 第9回 古代における貴族住宅の成立
 - 第10回 神社本殿の成立
 - 第11回 大仏様の建築
 - 第12回 禅宗様の建築
 - 第13回 中世仏堂の成立とその空間・機能
 - 第14回 新和様・折衷様の建築
 - 第15回 中世の神社建築(学外授業)
-

授業以外での学習方法

歴史的建造物・歴史都市の見学を積極的に行い、自分自身でそれらを評価する力を養って欲しい。

教科書

日本建築史図集 新訂第三版

著者： 日本建築学会編

出版社： 彰国社

出版年： 2011年

ISBN: 9.7844E+12

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財調査実習 I <Z>

担当者 一瀬 和夫・瀬口 眞司

テーマ

考古学の基本となる測量調査、発掘調査の一連の手続きにふれる

獲得目標

いろいろな役割を測量や発掘調査が含むことを体で感じ、その中でまず自身が進んで行動できるものを見つけ、そこから発掘技術の修得へと向かう。

授業の内容

本学などで8月を中心にして実施する測量調査、発掘調査の中で6日以上を選択して参加する。さらに事前に測量学習と調査の打ち合わせを行うとともに調査参加後に報告会を行う。京都府、大阪府、滋賀県内などの遺跡で調査する予定である。

内 容

- 第1回 平板測量などの学習
 - 第2回 平板測量などの学習
 - 第3回 遺跡発掘の見学
 - 第4回 遺跡発掘の見学
 - 第5回 ガイダンス
 - 第6回 打合せ
 - 第7回 打合せ
 - 第8回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第9回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第10回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第11回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第12回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第13回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第14回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第15回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第16回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第17回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第18回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第19回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第20回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第21回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第22回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第23回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第24回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第25回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第26回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第27回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第28回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第29回 調査報告会
 - 第30回 調査報告会
-

授業以外での学習方法

発掘調査や遺跡調査の現地説明会などに参加してみる。

教科書

参考書

よくわかる測量実習(増補)

著者: 細川吉晴他

出版社: コロナ社

出版年: 2009

ISBN: 9.78434E+12

埋蔵文化財発掘調査の手引き

著者: 文化庁文化財保護部

出版社: 国土地理協会

出版年: 1966

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財調査実習Ⅱ〈Z〉

担当者 登谷 伸宏

テーマ

歴史的建造物・伝統的町並みの調査方法を学ぶ

獲得目標

建築・都市遺産学の基礎となる歴史的建造物・伝統的町並みの調査方法について実習を行うことにより、歴史的建造物・伝統的町並みの分析・評価に必要な技術を身につけることを目標とする。なお、あわせ建築遺産学研究ⅠⅡを履修していることが望ましい。

授業の内容

最初に歴史的建造物の実測調査について基本的な知識を学ぶ。その後、歴史的建造物・伝統的町並みの調査を実際に行ってみる。実習の詳細はガイダンスで説明する。なお、夏期には近畿やその周辺の地域で実習旅行を実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンス 歴史的建造物の調査方法を学ぶ
 - 第2回 歴史的建造物の製図方法を学ぶ
 - 第3回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習①
 - 第4回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習②
 - 第5回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習③
 - 第6回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習④
 - 第7回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑤
 - 第8回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑥
 - 第9回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑦
 - 第10回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑧
 - 第11回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑨
 - 第12回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑩
 - 第13回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑪
 - 第14回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑫
 - 第15回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑬
 - 第16回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑭
 - 第17回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑮
 - 第18回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑯
 - 第19回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑰
 - 第20回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑱
 - 第21回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑲
 - 第22回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑳
 - 第23回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(21)
 - 第24回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(22)
 - 第25回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(23)
 - 第26回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(24)
 - 第27回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(25)
 - 第28回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(26)
 - 第29回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(27)
 - 第30回 まとめ 成果報告
-

授業以外での学習方法

歴史的建造物・伝統的町並みの見学を積極的に行って欲しい。

a104024880

教科書

日本古建築細部語彙 社寺篇

著者： 綜芸舎編集部

出版社： 綜芸舎

出版年： 1970年

ISBN： 9.78479E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅱ〈a〉

担当者 巽 淳一郎

テーマ

卒業論文作成に向け研究テーマを設定し、計画的に準備を進める。

獲得目標

各自の研究テーマに関する先行研究を収集し、読み解き研究の現状と課題を見出す。

授業の内容

内 容

- 第1回 後期ゼミ運営方針の策定。
 - 第2回 学外授業。
 - 第3回 研究発表会議。
 - 第4回 研究発表会議。
 - 第5回 研究発表会議。
 - 第6回 研究発表会議。
 - 第7回 研究発表会議。
 - 第8回 研究発表会議。
 - 第9回 研究発表会議。
 - 第10回 学外授業。
 - 第11回 研究発表会議。
 - 第12回 研究発表会議。
 - 第13回 研究発表会議。
 - 第14回 研究発表会議。
 - 第15回 研究発表会議。課題設定。
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅱ

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

論文作成に向けた各自テーマ研究の深化

獲得目標

目指す研究視角を明確にさせ、今後の研究計画が立てられるまでに研究を深化させる。

授業の内容

資料を集め、観察、分析、検討、自己の研究発表と質疑応答、その後にさらに研究計画を組み立てる。

内 容

- 第4回 研究発表・討議
 - 第5回 研究発表・討議
 - 第6回 研究発表・討議
 - 第7回 研究発表・討議
 - 第8回 研究発表・討議
 - 第9回 研究発表・討議
 - 第10回 研究発表・討議
 - 第11回 研究発表・討議
 - 第12回 講演会等の参加とその評価
 - 第13回 研究発表の総評
 - 第14回 研究発表の総評
 - 第15回 総括 研究主旨と計画の立案 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
 - 第1回 独創性のある自己研究を目指すため、考えたことを研究発表するための計画
 - 第2回 資料等の観察や収集のための遺跡や研究機関の見学
 - 第3回 研究発表・討議
-

授業以外での学習方法

研究テーマに則した資料を調査する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅱ <c>

担当者 小林 裕子

テーマ

嘉承元年(1106)頃における奈良の諸大寺の様相を綴った日本美術史研究に欠かせない基本文献たる大江親通『七大寺日記』の輪読と研究発表を通じて、美術史の研究手法を体得する。

獲得目標

前期の演習Ⅰに引き続き『七大寺日記』の輪読及び研究発表をおこなう。発表は、各自の疑問や好奇心を先行研究や現存作例の詳細などによって分析、解決するものとし、これにより美術史研究の多角的な方法を知り、論文執筆の能力を養うことを目的とする。なお、必要に応じて現地見学を実施する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス(外部講師による講義の可能性あり)
- 第2回 唐招提寺条
- 第3回 唐招提寺条
- 第4回 唐招提寺条
- 第5回 薬師寺条
- 第6回 薬師寺条
- 第7回 薬師寺条
- 第8回 薬師寺条
- 第9回 薬師寺条
- 第10回 法隆寺条
- 第11回 法隆寺条
- 第12回 法隆寺条
- 第13回 法隆寺条
- 第14回 法隆寺条
- 第15回 講評

授業以外での学習方法

『七大寺日記』に記載される寺院についての文献を読んだり、実際に訪れることにより、現存作例に対するイメージを明確にしてほしい。

教科書

七大寺日記・七大寺巡礼私記

著者： 藤田経世

出版社： 中央公論美術出版

出版年： 1972年

ISBN:

参考書

奈良六大寺大観(全14巻)

著者： 奈良六大寺大観刊行会

出版社： 岩波書店

出版年： 1999~2001年

ISBN:

日本の古寺美術シリーズ

著者:

出版社: 保育社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅱ <d>

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の古文書を読む(初級)

獲得目標

古文書の読解力、および古文書に関する基礎的な知識を身につける。

授業の内容

古文書の現物を用いてくずし字を読む力をつけるとともに、古文書を扱うテーマでの演習発表を行う。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 演習(1)
 - 第3回 演習(2)
 - 第4回 演習(3)
 - 第5回 演習(4)
 - 第6回 学外授業
 - 第7回 演習(5)
 - 第8回 演習(6)
 - 第9回 演習(7)
 - 第10回 演習(8)
 - 第11回 学外授業
 - 第12回 演習(9)
 - 第13回 演習(10)
 - 第14回 演習(11)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

必ず復習を行い、自宅学習用の教材を自習すること。日頃から古文書を読む練習を習慣づけること

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年: 平成22年

ISBN: 4-490-10333-6

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

a104030254

出席を重視する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 考古学実習Ⅳ〈a〉

担当者 巽 淳一郎

テーマ

報告書作成の手順と作業を学ぶ

獲得目標

報告書作成において最も重要な遺物実測図版・遺物写真図版の作成法を学び、自分の考えで割り付け図面を作成しトレースする。

授業の内容

内 容

- 第1回 報告書作成の手順とテクニック①。
- 第2回 報告書作成の手順とテクニック②。
- 第3回 実測図の割り付け。
- 第4回 実測図の割り付け。
- 第5回 実測図の割り付け。
- 第6回 割り付け図版のトレース。
- 第7回 割り付け図版のトレース。
- 第8回 割り付け図版のトレース。
- 第9回 割り付け図版のトレース。
- 第10回 図録写真の割り付け。
- 第11回 図録写真の割り付け。
- 第12回 図録写真の割り付け。
- 第13回 図録写真の割り付け。
- 第14回 成果品の講評。
- 第15回 成果品の講評。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (70)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

a104030450

参加度と成果品を検討して評価。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 考古学実習Ⅳ

担当者 一瀬 和夫

テーマ

発掘調査成果を記録、報告するという考古学研究の基礎の中で自己研究をまとめる操作方法をつかむ

獲得目標

I do and I understand. I work and I utilize.をもとに、主に統計、写真、絵画、デザイン、印刷、展示、プレゼンテーション、教育、ボランティア的要素などを備える発掘調査報告書の作成技術の修得をめざす。

授業の内容

主にPC教室で、報告書作成作業を行う。実際の印刷や活用資料製作の見学をする。

内 容

- 第1回 報告書作成の概要
- 第2回 遺物のデジタル写真撮影
- 第3回 遺物のデジタル写真撮影とPhotoshopによる画像修正
- 第4回 Illustratorによる遺構のレイアウト
- 第5回 Illustratorによる遺構のレイアウトとスケール・方位等の作成
- 第6回 Illustratorによる遺物のレイアウト
- 第7回 Illustratorによる遺物のレイアウトとスケール・ナンバリング等の作成
- 第8回 InDesignによる編集①
- 第9回 InDesignによる編集②
- 第10回 コロタイプ印刷過程の見学(学外授業)
- 第11回 原稿作成①
- 第12回 原稿作成②
- 第13回 自己の実習報告書の製本
- 第14回 展示実習、模型、ハンズ・オン装置の製作工程の見学(学外授業)
- 第15回 報告書とそれに伴うプレゼンテーションの総評

授業以外での学習方法

デジタルカメラ、Photoshop(画像)、Illustrator(製図)、InDesign(印刷編集)のコンピュータ・ソフトに触れる。

教科書

PCによる教材提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

埋蔵文化財発掘調査の手びき

著者: 文化庁文化財保護部

出版社: 国土地理協会

出版年: 1966

ISBN:

成績評価

a104030452

試験 (0)
授業中課題 (80)
参加度 (20)

小テスト (0)
授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 美術工芸史実習Ⅳ <a>

担当者 小林 裕子

テーマ

仏像の調書作成方法や取扱を身につけるとともに、拓本の取り方、和綴じの方法など、実習を通じてより深く美術工芸史を理解する。

獲得目標

学芸員や研究者は実物資史料に触れる仕事であるが、その対象はかけがえのない作品であるため、決して過失があってはならない。実習では、作品を取り扱うための特殊な技術と専門的な知識を正しく身につけるとともに、美術工芸史に対する理解を深めることを目的とする。なお、必要に応じて外部講師を招聘する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 仏像の種類と取扱説明
 - 第3回 取扱実習(仏像①)
 - 第4回 取扱実習(仏像②)
 - 第5回 取扱実習(仏像③)
 - 第6回 文化財修復と材料学①
 - 第7回 文化財修復と材料学②
 - 第8回 拓本
 - 第9回 拓本
 - 第10回 拓本
 - 第11回 裏打ち
 - 第12回 裏打ち
 - 第13回 和綴じ
 - 第14回 和綴じ
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

奈良や京都の寺院、博物館や美術館に足を運び、実物から学びとる機会をつくること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **美術工芸史実習Ⅳ **

担当者 有坂 道子

テーマ

古文書の整理と扱い方

獲得目標

古文書整理の実際を体験しながら、作業の内容についての理解を深める。

授業の内容

古文書の現物を用いて、古文書の扱い方、整理・保存の仕方の実際を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 実習(1)
 - 第3回 実習(2)
 - 第4回 実習(3)
 - 第5回 実習(4)
 - 第6回 学外授業
 - 第7回 実習(5)
 - 第8回 実習(6)
 - 第9回 実習(7)
 - 第10回 実習(8)
 - 第11回 学外授業
 - 第12回 実習(9)
 - 第13回 実習(10)
 - 第14回 実習(11)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

博物館・史料館などで古文書を見る機会を作り、現物を積極的に見学すること。

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者： 児玉幸多

出版社： 東京堂出版

出版年： 平成22年

ISBN: 9.78449E+12

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (70)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a104030652

出席を重視する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古都学Ⅱ

担当者 前田 義明

テーマ

地下に埋もれた遺構・遺物から京都の歴史と文化の特性を探る

獲得目標

京都の歴史と文化が歴史・文化遺産として現代に影響を与え、生き続けていることを理解する。

授業の内容

平安京以前の京都、平安京の構造、民衆の生活、中世の京都、近世の京都など各時代の遺跡について、発掘調査の成果から具体的に考古学的な遺構・遺物の検討や実見することで古都の知見を掘り下げる。

内 容

- 第1回 平安京遷都 長岡京から平安京へ遷都された意味を探る
- 第2回 平安京の条坊制と条里制 京都の町並みと平安京の条坊制・条里制の関連を学ぶ
- 第3回 平安宮の構造 平安宮の構造について実態と変遷を探る
- 第4回 平安京の邸宅 京都の市街地に埋もれた平安時代の邸宅跡を探る
- 第5回 平安京の寺院 平安京とその周辺に造営された寺院についてその特性を理解する
- 第6回 平安京の出土遺物(1) 平安宮や寺院造営に伴い多量に作られた平安時代の瓦の特性を探る
- 第7回 平安京の出土遺物(2) 土器・祭祀遺物・銭貨・石製帯飾具についてその特質や変遷を学ぶ
- 第8回 山科の遺跡(1) 山科盆地にある縄文時代から中世の遺跡を学ぶ
- 第9回 山科の遺跡(2) 実地見学
- 第10回 院政期(1) 白河上皇と鳥羽上皇によって造営された鳥羽離宮跡について学ぶ
- 第11回 院政期(2) 六勝寺・法金剛院・法住寺殿など院政期の遺跡を学ぶ
- 第12回 中世の遺跡 市街地遺跡の調査から中世の遺跡の実態を探る
- 第13回 織豊期(1) 聚楽第・御土居・天正地割・方広寺など豊臣秀吉が行なった土木事業を探る
- 第14回 織豊期(2) 江戸時代に壊されたといわれる伏見城の実態を探る
- 第15回 近世の遺跡 二条城・淀城や公家町遺跡など近世の遺跡を学ぶ

授業以外での学習方法

京都市内の博物館や資料館を見学し実見する

教科書

参考書

平安京提要

著者:

出版社: 角川書店

出版年: 1994

ISBN: 4-04-821044-0

つちの中の京都1

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2009

ISBN: 978-4-89704-267

つちの中の京都2

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2001

ISBN: 4-89704-163-5

つちの中の京都3

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2006

ISBN: 4-89704-224-0

つちの中の京都4

著者:

出版社: ユニプラン

出版年: 2010

ISBN: 978-4-89704-278

成績評価

試験 (0)

小テスト (20)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地域文化論

担当者 柴田 陽一

テーマ

先人の著作を通して、地域文化についての多面的・総合的な見方を学ぶ。

獲得目標

地域性があり、一定の地域にしか存在しない文化を地域文化という。それがなぜそこにあり、なぜ地域によって異なるのかといった問いは、学際的に解明される性格のものである。本講義では、地域文化に関する先人の著作を読み、その内容を理解するとともに、著作に現れる地域文化が、その後どのように変化したかについて検討する。これを通じて、地域文化に対する多面的・総合的な見方を身に付けることが、本講義の目的である。

授業の内容

配布プリントによって、「授業の計画」に記す著作の内容等を解説する。また各トピックの最終回には、著作の内容について討論する機会を設ける。そのため下記の著作は、授業前に読んでおくことが望ましい。また1～2回の学外授業(博物館等の見学、フィールドワーク)を行う予定である。

内 容

- 第1回 「地域文化」とは 本講義の視点、進め方
- 第2回 柳田国男・山口弥一郎と東北① 柳田『雪国の春』(1928)
- 第3回 柳田国男・山口弥一郎と東北② 山口『津浪と村』(1943)
- 第4回 柳田国男・山口弥一郎と東北③ まとめ、討論
- 第5回 梅棹忠夫・宮本常一と京都① 宮本『私の日本地図 京都』(1975)
- 第6回 梅棹忠夫・宮本常一と京都② 梅棹『京都の精神』『梅棹忠夫の京都案内』(1987)
- 第7回 梅棹忠夫・宮本常一と京都③ まとめ、討論
- 第8回 学外授業(京都を予定)
- 第9回 白洲正子・司馬遼太郎と滋賀① 『かくれ里』(1971)
- 第10回 白洲正子・司馬遼太郎と滋賀② 「湖西のみち」「近江散歩」(1970～)
- 第11回 白洲正子・司馬遼太郎と滋賀③ まとめ、討論
- 第12回 学外授業(大津を予定)
- 第13回 柳田国男と沖縄① 『海南小記』(1925)
- 第14回 柳田国男と沖縄② 『海上の道』(1961)、まとめ、討論
- 第15回 再び「地域文化」とは？ 講義の総括

授業以外での学習方法

授業の内容に記した著作を読む。

教科書

参考書

柳田国男著作集3・24

著者： 柳田国男

出版社： 筑摩書房

出版年：

ISBN：

津浪と村(復刊版)

著者： 山口弥一郎

出版社： 三弥井書房

出版年：

ISBN：

私の日本地図 14京都

著者: 宮本常一

出版社: 未来社

出版年:

ISBN:

京都の精神

著者: 梅棹忠夫

出版社: 角川書店

出版年:

ISBN:

梅棹忠夫の京都案内

著者: 梅棹忠夫

出版社: 角川書店

出版年:

ISBN:

白洲正子著作集5

著者: 白洲正子

出版社: 新潮社

出版年:

ISBN:

街道をゆく1・24

著者: 司馬遼太郎

出版社: 朝日新聞出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

講義担当者の資料公開ページ

<http://researchmap.jp/yoichi.shibata/materials/>

各回終了後、配布プリントをアップロードするほか、受講生への連絡に使用する。

2013 Syllabus

科目名 木簡・金石文学

担当者 渡辺 晃宏

テーマ

木簡を中心とする出土文字資料の特質とそれらが語る新しい歴史像

獲得目標

歴史を考える上で欠くことのできない位置を占めるようになった木簡をはじめとする出土文字資料の特質を理解した上で、実際に木簡を読みながら、資料としての木簡の役割について理解を深め、新しい日本史像を探求する。

授業の内容

具体的な木簡に即して、日本の木簡の概論、各論を講義する。

内 容

- 第1回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について、主として平城宮跡出土木簡を具体的な素材としながら概観する。
- 第2回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について、主として平城宮跡出土木簡を具体的な素材としながら概観する。
- 第3回 木簡とは何か、使用年代、史料としての特徴、主な出土遺跡、出土遺構、素材、形状、木簡の内容分類、木簡を使用する理由、日本の木簡と中国の木簡の比較、木簡の製作と廃棄、木簡の発掘・整理・解読・保存までなど、木簡をめぐるさまざまな問題について、主として平城宮跡出土木簡を具体的な素材としながら概観する。
- 第4回 代表的な木簡群として、長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第5回 代表的な木簡群として、長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第6回 代表的な木簡群として、長屋王家木簡(長屋王という貴族の家政に関わる木簡群)の特質を考える。
- 第7回 代表的な木簡群として、735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第8回 代表的な木簡群として、735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第9回 代表的な木簡群として、735、6年頃を中心とする二条大路木簡(光明皇后宮に関わる公的な色彩の強い木簡群)の特質を考える。
- 第10回 平城宮跡(奈文研)での実地授業(日程は変更もあり得る)。
- 第11回 平城宮跡(奈文研)での実地授業(日程は変更もあり得る)。
- 第12回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第13回 国府・郡家・城柵などの地方官衙遺跡出土の木簡を具体的に取り上げて検討し、木簡の空間的な広がりについて理解を深める。
- 第14回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。
- 第15回 中世や近世の木簡について検討し、木簡の時間的な広がりについて理解を深める。最後に授業全体のまとめを行う。

授業以外での学習方法

木簡を初めとする出土文字資料や最新の発掘調査の情報に注目し、現地説明会などへの積極的な参加を期待する。なお、木簡研究の最先端にふれてもらうため、最新の木簡を初めとする出土文字資料や発掘調査の情報などを適宜取り上げながら授業を進めていきたいと考えているので、取り上げる木簡やその順序に変更が生じる場合がある。

教科書

特に使用しない。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:
適宜プリントなどを配布する。

著者:
出版社:
出版年: ISBN:

参考書

木簡から古代がみえる(岩波新書)新赤版1256
著者: 木簡学会
出版社: 岩波書店
出版年: 2010 ISBN: 978-4004312567

木簡が語る日本の古代(岩波新書)黄版231
著者: 東野治之
出版社: 岩波書店
出版年: 1983 ISBN: 978-4004202318

平城京と木簡の世紀(講談社学術文庫)
著者: 渡辺晃宏
出版社: 講談社
出版年: 2009 ISBN: 978-4062919043

平城京1300年全検証—奈良の都を木簡から読み解く
著者: 渡辺晃宏
出版社: 柏書房
出版年: 2010 ISBN: 978-4760137404

日本古代木簡選
著者: 木簡学会
出版社: 岩波書店
出版年: 1990 ISBN: 978-4000016803

日本古代木簡集成
著者: 木簡学会
出版社: 東京大学出版会
出版年: 2003 ISBN: 978-4130201360

成績評価

試験 (80) 小テスト ()
授業中課題 () 授業中発表等 ()
参加度 (20)
試験はレポートによる場合もある。

参考URL

奈良文化財研究所

<http://mikasa.nabunken.go.jp/>

木簡データベース

<http://www.nabunken.go.jp/Open/mokkan/mokkan.html>

木簡に関する日本唯一最大の総合的データベース

木簡字典

<http://jiten.nabunken.go.jp/index.html>

木簡の画像を文字単位で検索できる画像データベース

2013 Syllabus

科目名 **保存科学 I**

担当者 中川 正人

テーマ

文化財の科学的調査と保存処理

獲得目標

文化財を対象とした科学的調査の目的を学び、調査法の基礎を習得する。

授業の内容

文化財を材質ごとに分類し、その製作技法や劣化状態、保存処理法を学ぶ。授業のなかで分析機器などを用いながら実習形式で進める。

内 容

- 第1回 木材の科学(組成と構造)
 - 第2回 木材の利用
 - 第3回 木材の劣化と保存処理
 - 第4回 プレパレート作成法(新材と古材)
 - 第5回 鉄の保存科学(サビの科学)
 - 第6回 X線ラジオグラフィ(撮影・現像)
 - 第7回 青銅の保存科学(材料と製作技法)
 - 第8回 青銅の保存科学(ブロンズ病対策)
 - 第9回 科学分析(蛍光X線分析法)
 - 第10回 赤色顔料(朱とベンガラ)
 - 第11回 壁画の保存と活用(環境対策)
 - 第12回 壁画の模写(材料と技術)
 - 第13回 木簡の赤外線観察
 - 第14回 木簡の保存(真空凍結乾燥法)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

文化財資料を、材質や製作技法、さらに劣化状態から観察できる力を養いたい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **保存科学Ⅱ**

担当者 中川 正人

テーマ

文化財の活用と保存環境

獲得目標

文化財のおかれた現状を把握し、広く活用していくための保存環境を考える

授業の内容

近年における文化財保存のコンセプトは、資料が劣化したならば保存修復するといった考え方から、劣化を予防する総合的な環境づくりをめざしている。授業のなかに博物館における文化財の環境対策やミュージアム・ワークショップを実習形式として取り入れる。

内 容

- 第1回 色彩の科学(色彩の原理)
 - 第2回 色彩の科学(古代色名)
 - 第3回 和紙の保存科学(材料と製法)
 - 第4回 和紙の保存科学(酸性紙問題)
 - 第5回 繊維の保存科学(材料と製法)
 - 第6回 繊維の保存科学(劣化対策)
 - 第7回 博物館の環境学－1(温度・湿度・照明)
 - 第8回 博物館の環境学－2(虫害対策)
 - 第9回 博物館の環境学－3(展示・活用)
 - 第10回 博物館活動(ミュージアム・ワークショップ)
 - 第11回 文化財の保存修復－1(事前調査)
 - 第12回 文化財の保存修復－2(修復技術)
 - 第13回 文化財の保存修復－3(修復材料)
 - 第14回 文化財の保存修復－4(修復倫理)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

博物館や美術館をはじめ寺院や神社を数多く見学し、文化財の環境対策の面から考えたい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅳ〈a〉

担当者 巽 淳一郎

テーマ

卒業論文の作成。

獲得目標

研究史を踏まえ、課題を明確にする。自分の言葉で自分の考えを客観的に表現した論文に仕上げる。

授業の内容

内 容

- 第1回 卒論中間発表原稿の作成。
 - 第2回 卒論中間発表原稿の作成。
 - 第3回 卒論中間発表会
 - 第4回 中間発表の講評と対応検討。
 - 第5回 個別・グループ指導。
 - 第6回 個別・グループ指導。
 - 第7回 個別・グループ指導。
 - 第8回 個別・グループ指導。
 - 第9回 個別指導・相互点検。
 - 第10回 個別指導・相互点検。
 - 第11回 個別指導・相互点検。
 - 第12回 卒論提出。
 - 第13回 反省会。
 - 第14回 学外授業。
 - 第15回 振替休講。
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅳ

担当者 一瀬 和夫・登谷 伸宏

テーマ

卒業論文の作成

獲得目標

研究史を踏まえ、研究発表し、他者に意見を求め、それを吟味、検討し、自己のオリジナリティーを客観的に表現する論文に仕上げる。

授業の内容

中間発表と論文をまとめる

内 容

- 第1回 卒論中間発表原稿作成
 - 第2回 卒論中間発表原稿作成
 - 第3回 卒論中間発表会
 - 第4回 中間発表の講評と対応検討
 - 第5回 個別・グループ指導
 - 第6回 個別・グループ指導
 - 第7回 個別・グループ指導
 - 第8回 個別・グループ指導
 - 第9回 個別指導・相互点検
 - 第10回 個別指導・相互点検
 - 第11回 個別指導・相互点検
 - 第12回 卒論提出
 - 第13回 提出事後点検
 - 第14回 卒論補遺作成
 - 第15回 卒論補遺作成
-

授業以外での学習方法

校正、見直しを確実に行う。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅳ〈c〉

担当者 小林 裕子

テーマ

卒業論文執筆指導

獲得目標

先行研究を整理し、問題点を解決すべく自らの見解をまとめて論理を構築する論文執筆を目指す。

授業の内容

すでに作成した論文構成に沿って執筆の中間報告をおこなったうえで論文を仕上げていく。

内 容

- 第1回 卒論中間報告
 - 第2回 卒論中間報告
 - 第3回 卒論中間報告
 - 第4回 卒論中間報告
 - 第5回 卒論中間報告
 - 第6回 学外授業
 - 第7回 個別指導
 - 第8回 個別指導
 - 第9回 個別指導
 - 第10回 個別指導
 - 第11回 個別指導
 - 第12回 個別指導
 - 第13回 卒論提出
 - 第14回 結果報告と反省・中間講評
 - 第15回 結果報告と反省・中間講評
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財学演習Ⅳ <d>

担当者 有坂 道子

テーマ

卒業論文作成にむけて

獲得目標

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。○
テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○順次各
自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について
指導する。○論文作成にむけての個別指導

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 文化財学演習(1)
 - 第3回 文化財学演習(2)
 - 第4回 文化財学演習(3)
 - 第5回 文化財学演習(4)
 - 第6回 学外授業
 - 第7回 文化財学演習(5)
 - 第8回 文化財学演習(6)
 - 第9回 文化財学演習(7)
 - 第10回 文化財学演習(8)
 - 第11回 学外授業
 - 第12回 文化財学演習(9)
 - 第13回 文化財学演習(10)
 - 第14回 文化財学演習(11)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (100)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(遺)〈A〉

担当者 小林 裕子・巽 淳一郎

テーマ

興味・関心を昇華し研究心を育む。(巽淳一郎) 美術工芸史研究に対する興味を誘起する。(小林 裕子)

獲得目標

考古学の研究方法を学ぶ。討論の場で他人の説明を良く聞き、疑問点を質し、自分の意見をのべる。(巽淳一郎) 自らの目でテーマを選び、研究成果をグループでプレゼンする力をつける。なお、必要に応じて学外授業を実施する。(小林 裕子)

授業の内容

内 容

- 第1回 (巽淳一郎)自己紹介。授業の進め方に関するガイダンス。
- 第2回 (巽淳一郎)討論会「考古学とはいかなる学問か」
- 第3回 (巽淳一郎)考古学の研究方法。考古学と歴史学。
- 第4回 (巽淳一郎)学外授業。
- 第5回 (巽淳一郎)考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。
- 第6回 (巽淳一郎)考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。
- 第7回 (巽淳一郎)考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。
- 第8回 (巽淳一郎)考古資料(遺跡・遺構・遺物)に関する発表。まとめ。
- 第9回 (小林 裕子)ガイダンス 美術史研究の歴史
- 第10回 (小林 裕子)テーマ討論① 美術とは何か
- 第11回 (小林 裕子)テーマ討論② 美術史研究の意義と目的
- 第12回 (小林 裕子)グループ発表のテーマ設定
- 第13回 (小林 裕子)グループ発表と討議①
- 第14回 (小林 裕子)グループ発表と討議①
- 第15回 (小林 裕子)グループ発表と討議③

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **研究入門ゼミⅡ(遺)〈B〉**

担当者 小林 裕子・登谷 伸宏

テーマ

歴史学とは何か(登谷 伸宏) 美術工芸史研究に対する興味を誘起する。(小林 裕子)

獲得目標

歴史学は、何を対象としてどのように研究を進める学問なのか、について理解を深める(登谷 伸宏)。自らの目でテーマを選び、研究成果をグループでプレゼンする力をつける。なお、必要に応じて学外授業を実施する。(小林 裕子)

授業の内容

テキストを精読することにより、歴史学とはどのような学問なのか、という問いに対する自分なりの考えを見つける。その内容をレジュメにまとめて口頭発表を行う。発表にもとづき議論することを通して、歴史学の基礎を学ぶ。なお、必要に応じて学外授業を行うこともある(登谷)。

内 容

- 第1回 (小林 裕子)ガイダンス 美術史研究の歴史
- 第2回 (小林 裕子)テーマ討論① 美術とは何か
- 第3回 (小林 裕子)テーマ討論① 美術とは何か
- 第4回 (小林 裕子)グループ発表のテーマ設定
- 第5回 (小林 裕子)グループ発表と討議①
- 第6回 (小林 裕子)グループ発表と討議②
- 第7回 (小林 裕子)グループ発表と討議③
- 第8回 (小林 裕子)総括
- 第9回 (登谷 伸宏)ガイダンス
- 第10回 (登谷 伸宏)ゼミ発表①
- 第11回 (登谷 伸宏)ゼミ発表②
- 第12回 (登谷 伸宏)ゼミ発表③
- 第13回 (登谷 伸宏)ゼミ発表④
- 第14回 (登谷 伸宏)ゼミ発表⑤
- 第15回 (登谷 伸宏)ゼミ発表⑥

授業以外での学習方法

歴史に興味を持ち、歴史に関する書籍を多く読むとともに、博物館や美術館で実際に史料を見学して欲しい(登谷)。

教科書

歴史学入門

著者： 福井憲彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2006年

ISBN： 4-00-028041-4

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(遺) <C>

担当者 有坂 道子・登谷 伸宏

テーマ

歴史学とは何か(登谷) 文字史料に親しむ(有坂)

獲得目標

自分でテーマを設定し、研究成果を発表するとはどういうことかを学ぶ。(有坂) 歴史学は、何を対象としてどのように研究を進める学問なのか、について理解を深める(登谷)。

授業の内容

テキストを精読することにより、歴史学とはどのような学問なのか、という問いに対する自分なりの考えを見つける。その内容をレジュメにまとめて口頭発表を行う。発表にもとづき議論することを通して、歴史学の基礎を学ぶ。なお、必要に応じて学外授業を行うこともある(登谷)。研究テーマとして文字史料を取り上げ、「調べる、確認する」「分析する、考察する」「発表する、討論する」ことの基本を学ぶ。(有坂)

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 ゼミ発表①
 - 第3回 ゼミ発表②
 - 第4回 ゼミ発表③
 - 第5回 ゼミ発表④
 - 第6回 ゼミ発表⑤
 - 第7回 ゼミ発表⑥
 - 第8回 ゼミ発表⑦
 - 第9回 授業の進め方についてのガイダンス
 - 第10回 ゼミ発表①
 - 第11回 ゼミ発表②
 - 第12回 ゼミ発表③
 - 第13回 ゼミ発表④
 - 第14回 ゼミ発表⑤
 - 第15回 ゼミ発表⑥
 - 第16回 総括
-

授業以外での学習方法

歴史に興味を持ち、歴史に関する書籍を多く読むとともに、博物館や美術館で実際に史料を見学して欲しい(登谷)。できるだけ身の回りのさまざまなことに興味を持ち、本や新聞などをよく読むこと。(有坂)

教科書

歴史学入門

著者： 福井憲彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2006年

ISBN： 4-00-028041-4

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (40)

a10411a253

参加度（60）

上記評価は登谷先生担当分。有坂先生は下記参照、授業中発表等50%（有坂）、参加度50%（有坂）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **歴史遺産学概説Ⅱ**

担当者 有坂 道子・小林 裕子

テーマ

《有坂 道子》文字と古文書から見る美術工芸史《小林 裕子》現存作例から見る美術工芸史

獲得目標

《有坂 道子》文字資料や古文書に関する基礎的な知識を身につける。《小林 裕子》現存作例についての多様な研究手法から美術工芸史研究の世界を知る。

授業の内容

《有坂 道子》美術工芸の研究に欠かせない文字資料に関する基礎知識を身につけるため、古文書・古記録を中心に、文字に関わる歴史資料について幅広く学ぶ。古文書とは何か。古文書にはどのようなものがあるのか。時代によって変化する古文書のかたちや種類など様式について、また古文書特有の用語や読み方など古文書をあつかう上で必要となる基本的な知識について学ぶ。《小林 裕子》美術工芸史の現存作例についての研究のうち、とくに素材や制作過程の面から、永きにわたって醸成されてきた日本美術の流れを把握する一助とする。

内 容

- 第1回 古文書とは
- 第2回 古文書の価値
- 第3回 古文書の伝来
- 第4回 古文書の材料
- 第5回 古文書の用語
- 第6回 紙のかたち
- 第7回 古文書の様式
- 第8回 まとめ・総括
- 第9回 現代における文化財調査
- 第10回 仏像の樹種
- 第11回 官営工房における造像
- 第12回 素材と造像の関係性
- 第13回 支持体と表現
- 第14回 画題と構図
- 第15回 金箔と金泥
- 第16回 まとめ

授業以外での学習方法

《有坂 道子》授業の復習をすること。博物館や美術館などの展示を積極的に見学すること。

教科書

参考書

成績評価

| | |
|-----------|------------|
| 試験 (0) | 小テスト (50) |
| 授業中課題 (0) | 授業中発表等 (0) |
| 参加度 (50) | |

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本美術史Ⅱ

担当者 村田 隆志

テーマ

日本美術の諸分野の制作技術等の基礎的理解と、特徴的な分野、芸術運動への理解

獲得目標

前期開講の「日本美術史Ⅰ」では日本美術史の通史を学ぶのに対して、本科目では理解の前提となる制度や制作技術、各時代の特徴的な分野や芸術運動について学ぶ。最終的には、それぞれの分野について理解し、その特徴を説明し得る能力を身につけることを目的とする。

授業の内容

本講義においては、各1回ごとにそれぞれ異なる主題について紹介し、理解を深める。また、学外授業として博物館・美術館への見学を実施する場合がある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 国宝・重要文化財の制度
 - 第3回 絵画の技法
 - 第4回 書と美術
 - 第5回 渡来人による美術への影響
 - 第6回 彫刻
 - 第7回 金工と武器
 - 第8回 南蛮美術
 - 第9回 学外見学
 - 第10回 学外見学
 - 第11回 浮世絵
 - 第12回 洋画と日本画
 - 第13回 民芸
 - 第14回 マンガとアニメ
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

関西では、本講義で紹介する各種の作品に博物館・美術館・寺社などで実際に接することが比較的容易である。積極的な鑑賞機会を持つこと。学外授業として、関西の館の見学を実施するので参加のこと。

教科書

参考書

講義中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 西洋美術史Ⅱ

担当者 安藤 邦洋

テーマ

美術(主に絵画、彫刻)作品から、作者のメッセージを読む。

獲得目標

美術作品は何も知らなくても、表面的な美しさは分かる。しかし、すぐれた作品はただ感覚的な美しさだけでなく、もっと深いメッセージを伝えようとしていることを知ってほしい。そのメッセージを読み解くための「知識・技術」と「絵画の文法」の獲得をめざす。

授業の内容

内 容

- 第1回 絵画の題名について
 - 第2回 「記録する絵画」①歴史
 - 第3回 「記録する絵画」②人間
 - 第4回 「記録する絵画」③自然
 - 第5回 「誇示する絵画」①画術の栄光
 - 第6回 「誇示する絵画」②知識
 - 第7回 「誇示する絵画」③ダブル・イメージ
 - 第8回 「誇示する絵画」④裸体の系譜
 - 第9回 「絵画の文法」①空間 ～遠近法～
 - 第10回 「絵画の文法」②明暗 ～陰影法～
 - 第11回 「絵画の文法」③時間
 - 第12回 「絵画の文法」④身振り
 - 第13回 「絵画の文法」⑤構図
 - 第14回 「交差する東西のまなざし」
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

テレビの美術番組を視聴する。インターネットの美術関連サイトを見る。いずれも講義の中で紹介します。

教科書

絵画の探偵術

著者： 島本 淳・岸文和 編

出版社： 昭和堂

出版年： 1995年(初版)

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 (20)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 民俗学Ⅱ

担当者 橋本 章彦

テーマ

宗教民俗学入門

獲得目標

現代を生きる我々の問題として「民俗」を考えてみたい。その為に講義では、我々にとってできる限り身近な民俗的事象を取り上げる。中には、一見して民俗と何の関わりもないような話題についても考察を加えることになるであろう。皆さんは、それらの検討を通じて、現代生活と民俗の深い関わりを認識し、自分自身を民俗の視点から、今一度見つめ直す機会として欲しい。

授業の内容

以下の予定にしたがって講義を展開する。

内 容

- 第1回 江戸・民衆のあの世観—熊野観心十界図—
- 第2回 日本のお正月行事—正月はなぜあるのか(1)—
- 第3回 日本のお正月行事—正月はなぜあるのか(2)—
- 第4回 日本のお正月行事—正月はなぜあるのか(3)—
- 第5回 京都市域の民俗(1)—町屋の暮らし、年中行事と食べ物—
- 第6回 京都市域の民俗(2)—怪異伝承をバーチャルに歩く—
- 第7回 京都市域の民俗(3)—洛中・洛外図を読む(中世の京都へ)—
- 第8回 祓いの構造—「鬼で鬼を払う」(1)—
- 第9回 祓いの構造—「鬼で鬼を払う」(2)—
- 第10回 20年に一度のお祭り—姫路・三ツ山大祭(調査記録から)—
- 第11回 都市祭礼の現代—大阪・天神祭—
- 第12回 裸祭りの諸相—人はなぜ裸になるのか—
- 第13回 日本人の一生と宗教民俗—誕生から死そしてあの世まで—
- 第14回 社寺へバーチャル参詣—「参詣曼荼羅」の世界へ・清水寺、六道珍皇寺など—
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

民俗学の入門書を一冊くらいは読むのが望ましい。また宗教学の講義を受けたり、もしくは概説書を読んで宗教について理解を深めておくことも重要である。

教科書

プリント配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

民俗学概論

著者: 福田アジオ・宮田登編

出版社: 吉川弘文館

出版年:

ISBN:

現代民俗学入門

著者： 佐野賢治編

出版社： 吉川弘文館

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（50）

参加度とは出席率を意味する。3分の2以上の出席者を採点対象として点数化する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化財行政論

担当者 登谷 伸宏

テーマ

文化財保護行政と社会 行政用語からきた文化財という言葉を考えてみる

獲得目標

永く国家行政主導でつづいてきた文化財行政は平成11年の保護法改正をうけて文化庁長官から都道府県・指定都市教育委員会に一部の権限が委譲されている。社会情勢に敏感な文化財行政の変化を基礎におき、文化財学の枠組みを理解する。

授業の内容

各回とも配布したプリントにしたがい講義を進める。なお、各回の内容を変更することもある。また、授業の一環として、講師を招いて講演会を実施する。

内 容

- 第1回 文化財とは
 - 第2回 文化財保護と文化遺産
 - 第3回 日本における文化財保護制度の萌芽
 - 第4回 美術工芸品・建造物の保護と公開・活用
 - 第5回 記念物・史跡の保護と整備・活用
 - 第6回 文化財保護法の制定
 - 第7回 指定主義と台帳主義、原因者負担
 - 第8回 歴史的風土の保存 古都保存法と明日香村特別措置法
 - 第9回 重要文化的景観の選定
 - 第10回 重要文化的景観と近代化遺産の保存活用の実際(学外授業)
 - 第11回 無形文化財・民俗文化財及び文化財の保存技術の保護と活用
 - 第12回 国立劇場、博物館および文化財研究所
 - 第13回 文化財の展示とその評価
 - 第14回 近代化遺産の現状とその未来
 - 第15回 文化財について価値判断の歴史を考える
-

授業以外での学習方法

身の回りの指定・登録・選定文化財にふれて、その価値を考えてみる。

教科書

文化財保護関係法令集 第3次改訂版

著者： 文化財保護法研究会

出版社： ぎょうせい

出版年： 2009年

ISBN: 9.78432E+12

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅡ〈a〉

担当者 一瀬 和夫

テーマ

考古学事象の観察、記録、解釈の流れをつかむ。

獲得目標

I hear and I forget. I see and I remember. I do and I understand. をもとに、自己の研究課題の設定方法を修得する。

授業の内容

野外や教室での発表、ワークショップを行う。

内 容

- 第1回 『選択する』考古学、パラダイムの転換、データと理論
- 第2回 史跡の見学発表の検討
- 第3回 史跡での見学発表(学外授業)
- 第4回 「状況」コンテキストと発掘調査報告の整理方法
- 第5回 オブジェクト・ワークショップ(はさみ、のり・テープ・ホッチキス使用)
- 第6回 オブジェクト・レポート発表(複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ)①
- 第7回 オブジェクト・レポート発表(複数目的の想定から種類認識のための分類、機能仮説と意味仮説へ)②
- 第8回 「もの」がもつ観念構成的な領域と機能
- 第9回 「もの」からくるライフサイクルを考えるためのテーマの設定
- 第10回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論①
- 第11回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論②
- 第12回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論③
- 第13回 「もの」からくるライフサイクルのレポート発表と議論④
- 第14回 考古学的コンテキストを検討する
- 第15回 さらなるレポートの課題の報告と研究の見通し

授業以外での学習方法

気に入ったものをつねに探す。博物館・ショッピング街などにあるものと展示を意識的に見学する。

教科書

参考書

古墳の研究 調べ学習日本の歴史2

著者: 一瀬和夫監修

出版社: ポプラ社

出版年: 2000

ISBN: 9.78459E+12

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅡ

担当者 有坂 道子

テーマ

近世の文献史料を読む

獲得目標

江戸時代の文献史料の読み方や解釈を学ぶとともに、くずし字の基礎的知識を身につける。

授業の内容

文献史料(翻刻史料)を用いた読解練習と、くずし字の読み方を学ぶ。古文書に関する展示を見学する学外授業を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 近世の文献史料を読む(1)
 - 第3回 近世の文献史料を読む(2)
 - 第4回 近世の文献史料を読む(3)
 - 第5回 近世の文献史料を読む(4)
 - 第6回 近世の文献史料を読む(5)
 - 第7回 近世の文献史料を読む(6)
 - 第8回 近世の文献史料を読む(7)
 - 第9回 学外授業
 - 第10回 くずし字を読む(1)
 - 第11回 くずし字を読む(2)
 - 第12回 くずし字を読む(3)
 - 第13回 くずし字を読む(4)
 - 第14回 くずし字を読む(5)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

博物館・美術館の展示を積極的に見学すること

教科書

参考書

くずし字用例辞典

著者: 児玉幸多

出版社: 東京堂出版

出版年:

ISBN: 9.78449E+12

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 歴史遺産学基礎ゼミⅡ <c>

担当者 小林 裕子

テーマ

美術工芸史研究の入門編として、その方法論を把握する。

獲得目標

本講義では観察と研究史の検討により、関連作例や時代背景を織り込みつつ対象を客観的に分析する視点を養うことを目標とする。なお、必要に応じて学外見学を実施する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 美術工芸史概説 宗教美術とは何か
 - 第3回 作品観察と討論①
 - 第4回 作品観察と討論②
 - 第5回 作品観察と討論③
 - 第6回 学外見学
 - 第7回 テーマ論文講読と討論①
 - 第8回 テーマ論文講読と討論②
 - 第9回 テーマ論文講読と討論③
 - 第10回 論点の探し方・問題の調べ方・レポート執筆準備の方法について
 - 第11回 各自レポート題目発表①
 - 第12回 各自レポート題目発表②
 - 第13回 テーマ論文講読と討論④
 - 第14回 テーマ論文講読と討論⑤
 - 第15回 テーマ論文講読と討論⑥・レポート提出
-

授業以外での学習方法

京都、奈良の寺院、博物館や美術館で積極的に実物に接することをのぞむ。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 考古学研究 I (古代 I)

担当者 一瀬 和夫

テーマ

土中にパックされた過去の状況を見たのは誰か？それは誰のものか？

獲得目標

社会と考古学との関わりあいの中で根本的な考古学の方法論を探り、その一般法則性と概念的変化を理解し、考古学を自己の創造へと応用するために備える。

授業の内容

考古学のもつ多様性をまず理解し、多角的な方法論と理論展開を知る。そして、具体例をゲストをまじえ検討しつつ、フィールドに出向き今後の考古学のあり方を考える。

内 容

- 第1回 考古学の多様性(文献伝承、美術史、技術史、民族誌、唯物史観、ジェンダー、フェミニズム、パブリック)
 - 第2回 考古学の目的と方法
 - 第3回 状況—遺跡の認知と発掘調査
 - 第4回 層位と共存、文化面と層位学
 - 第5回 型式学と編年研究
 - 第6回 型式のセリエーション
 - 第7回 相対年代と絶対年代の間
 - 第8回 考古学の文化解釈
 - 第9回 集落形態と遺跡・遺構分布
 - 第10回 遺物の形態と機能の分析
 - 第11回 行動パターンと共存のコンテキスト
 - 第12回 アッセンブリッジと集団行動パターン
 - 第13回 考古学の歴史解釈法・観念と実践、そして歴史
 - 第14回 『達成された』から『選択する』考古学に向けて
 - 第15回 パブリック・アーケオロジーと現代社会
-

授業以外での学習方法

発掘調査記事の新聞切抜きと発掘調査(現地説明会等)・史跡整備地の見学

教科書

参考書

考古学研究入門

著者: H・J・エガース著、田中琢・佐原真訳

出版社: 岩波書店

出版年: 1981

ISBN:

考古学への招待

著者: ジェイムズ・ディーツ著、関俊彦訳

出版社: 雄山閣出版

出版年: 1988

ISBN: 4639007124

過去を読む

著者： イアン・ホッダー著、深澤百合子訳

出版社： フジインターナショナルプレス

出版年： 1997

ISBN:

考古学—理論・方法・実践—

著者： コリン・レンフルー、ポール・バーン

出版社： 東洋書林

出版年： 2007

ISBN: 9.78489E+12

成績評価

試験 (0)

小テスト (10)

授業中課題 (45)

授業中発表等 (10)

参加度 (35)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 歴史遺産学実習 I <a>

担当者 有坂 道子・小林 裕子・巽 淳一郎・登谷 伸宏

テーマ

歴史的建造物を知る(登谷) 古文書に親しむ(有坂)

獲得目標

歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷)。さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する。(有坂)

授業の内容

歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。(有坂)

内 容

- 第1回 ガイダンス(登谷)
- 第2回 実測調査①(登谷)
- 第3回 実測調査②(登谷)
- 第4回 実測調査③(登谷)
- 第5回 図面の清書①(登谷)
- 第6回 図面の清書②(登谷)
- 第7回 図面の清書③、まとめ(登谷)
- 第8回 ガイダンス 考古学研究の基礎となる遺物調査法を学ぶ。(巽淳一郎)
- 第9回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第10回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第11回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第12回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第13回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第14回 拓本実習。(巽淳一郎)
- 第15回 拓本実習。まとめ。(巽淳一郎)
- 第16回 ガイダンス(小林 裕子)
- 第17回 法量計測実習(小林 裕子)
- 第18回 デッサン実習①(小林 裕子)
- 第19回 デッサン実習②(小林 裕子)
- 第20回 デッサン実習③(小林 裕子)
- 第21回 ディスクリプション実習①(小林 裕子)
- 第22回 ディスクリプション実習②(小林 裕子)
- 第23回 授業の進め方についてのガイダンス(有坂)
- 第24回 古文書を扱う①(有坂)
- 第25回 古文書を扱う②(有坂)
- 第26回 くずし字を読む①(有坂)
- 第27回 くずし字を読む②(有坂)
- 第28回 くずし字を読む③(有坂)
- 第29回 くずし字を読む④(有坂)
- 第30回 くずし字を読む⑤(有坂)

授業以外での学習方法

出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見る。(有坂)

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **歴史遺産学実習 I **

担当者 有坂 道子・小林 裕子・巽 淳一郎・登谷 伸宏

テーマ

考古学の調査技術を体験する。(巽淳一郎) 歴史的建造物を知る(登谷 伸宏) 美術工芸史研究の第一歩である観察と記録の方法を学ぶ。(小林 裕子) 古文書に親しむ(有坂)

獲得目標

考古学資料に対する観察力を高め、図面に表す。(巽淳一郎) 歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷 伸宏)。計測・デッサン・ディスクリプション(作品記述)によって、対象となる作例を深く知る方法を会得する。なお、必要に応じて学外授業を実施する。(小林 裕子) さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する。(有坂)

授業の内容

歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。(有坂)

内 容

- 第1回 ガイダンス(小林 裕子)
- 第2回 (小林 裕子)法量計測実習
- 第3回 (小林 裕子)デッサン実習①
- 第4回 (小林 裕子)デッサン実習②
- 第5回 (小林 裕子)デッサン実習③
- 第6回 (小林 裕子)ディスクリプション実習①
- 第7回 (小林 裕子)ディスクリプション実習②
- 第8回 授業の進め方についてのガイダンス(有坂)
- 第9回 古文書を扱う①(有坂)
- 第10回 古文書を扱う②(有坂)
- 第11回 くずし字を読む①(有坂)
- 第12回 くずし字を読む②(有坂)
- 第13回 くずし字を読む③(有坂)
- 第14回 くずし字を読む④、まとめ(有坂)
- 第15回 ガイダンス(登谷 伸宏)
- 第16回 実測調査①(登谷 伸宏)
- 第17回 実測調査②(登谷 伸宏)
- 第18回 実測調査③(登谷 伸宏)
- 第19回 図面の清書①(登谷 伸宏)
- 第20回 図面の清書②(登谷 伸宏)
- 第21回 図面の清書③(登谷 伸宏)
- 第22回 まとめ(登谷 伸宏)
- 第23回 ガイダンス 考古学研究の基礎となる遺物調査法を学ぶ。(巽淳一郎)
- 第24回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第25回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第26回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第27回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第28回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第29回 拓本実習。(巽淳一郎)
- 第30回 拓本実習。まとめ。(巽淳一郎)

授業以外での学習方法

出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見る。(有坂)

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (40)

実習参加度と実習成果品から成績を評価。

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **歴史遺産学実習 I <c>**

担当者 有坂 道子・小林 裕子・巽 淳一郎・登谷 伸宏

テーマ

歴史的建造物を知る(登谷) 古文書に親しむ(有坂)

獲得目標

歴史的建造物についての理解を深めるためには、実際に建造物を観察することが必要となる。本講義では、歴史的建造物の実測調査を体験することにより、調査技術を身に付けるとともに、建造物に関する基本的な知識を獲得することを目指す(登谷)。さまざまな古文書の姿を知り、古文書の扱いに慣れることを目指すとともに、くずし字の解読に挑戦する。(有坂)

授業の内容

歴史的建造物の実測を通して調査の方法を学ぶとともに、実測図面をCADを用いて清書することにより、製図に関する技術を身に付ける(登谷)。古文書に関する基本的な知識や扱い方を学び、古文書のテキストを用いて初歩的なくずし字の解読を練習する。(有坂)

内 容

- 第1回 考古学研究の基礎となる遺物調査法を学ぶ。(巽淳一郎)
- 第2回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第3回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第4回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第5回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第6回 土器実測実習。(巽淳一郎)
- 第7回 拓本実習。(巽淳一郎)
- 第8回 拓本実習。まとめ。(巽淳一郎)
- 第9回 ガイダンス(小林 裕子)
- 第10回 法量計測実習(小林 裕子)
- 第11回 デッサン実習①(小林 裕子)
- 第12回 デッサン実習②(小林 裕子)
- 第13回 デッサン実習③(小林 裕子)
- 第14回 ディスクリプション実習①(小林 裕子)
- 第15回 ディスクリプション実習②(小林 裕子)
- 第16回 授業の進め方についてのガイダンス(有坂)
- 第17回 古文書を扱う①(有坂)
- 第18回 古文書を扱う②(有坂)
- 第19回 くずし字を読む①(有坂)
- 第20回 くずし字を読む②(有坂)
- 第21回 くずし字を読む③(有坂)
- 第22回 くずし字を読む④(有坂)
- 第23回 くずし字を読む④、まとめ(有坂)
- 第24回 ガイダンス(登谷)
- 第25回 実測調査①(登谷)
- 第26回 実測調査②(登谷)
- 第27回 実測調査③(登谷)
- 第28回 図面の清書①(登谷)
- 第29回 図面の清書②(登谷)
- 第30回 図面の清書③、まとめ(登谷)

授業以外での学習方法

出来るだけ博物館や美術館で実際の古文書を見る。(有坂)

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **歴史遺産学実習Ⅱ**

担当者 登谷 伸宏

テーマ

歴史的建造物・伝統的町並みの調査方法を学ぶ

獲得目標

建築・都市遺産学の基礎となる歴史的建造物・伝統的町並みの調査方法について実習を行うことにより、歴史的建造物・伝統的町並みの分析・評価に必要な技術を身につけることを目標とする。なお、あわせ建築遺産学研究ⅠⅡを履修していることが望ましい。

授業の内容

最初に歴史的建造物の実測調査について基本的な知識を学ぶ。その後、歴史的建造物・伝統的町並みの調査を実際に行ってみる。実習の詳細はガイダンスで説明する。なお、夏期には近畿やその周辺の地域で実習旅行を実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンス 歴史的建造物の調査方法を学ぶ
 - 第2回 歴史的建造物の製図方法を学ぶ
 - 第3回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習①
 - 第4回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習②
 - 第5回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習③
 - 第6回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習④
 - 第7回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑤
 - 第8回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑥
 - 第9回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑦
 - 第10回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑧
 - 第11回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑨
 - 第12回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑩
 - 第13回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑪
 - 第14回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑫
 - 第15回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑬
 - 第16回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑭
 - 第17回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑮
 - 第18回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑯
 - 第19回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑰
 - 第20回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑱
 - 第21回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑲
 - 第22回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習⑳
 - 第23回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(21)
 - 第24回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(22)
 - 第25回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(23)
 - 第26回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(24)
 - 第27回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(25)
 - 第28回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(26)
 - 第29回 歴史的建造物・伝統的町並みの調査実習(27)
 - 第30回 まとめ 成果報告
-

授業以外での学習方法

歴史的建造物・伝統的町並みの見学を積極的に行って欲しい。

教科書

日本古建築細部語彙 社寺篇

著者： 綜芸舎編集部

出版社： 綜芸舎

出版年： 1970年

ISBN: 9.78479E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **歴史遺産調査実習**

担当者 一瀬 和夫・瀬口 眞司

テーマ

考古学の基本となる測量調査、発掘調査の一連の手続きにふれる

獲得目標

いろいろな役割を測量や発掘調査が含むことを体で感じ、その中でまず自身が進んで行動できるものを見つけ、そこから発掘技術の修得へと向かう。

授業の内容

本学などで8月を中心にして実施する測量調査、発掘調査の中で6日以上を選択して参加する。さらに事前に測量学習と調査の打ち合わせを行うとともに調査参加後に報告会を行う。京都府、大阪府、滋賀県内などの遺跡で調査する予定である。

内 容

- 第1回 平板測量などの学習
 - 第2回 平板測量などの学習
 - 第3回 遺跡発掘の見学
 - 第4回 遺跡発掘の見学
 - 第5回 ガイダンス
 - 第6回 打合せ
 - 第7回 打合せ
 - 第8回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第9回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第10回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第11回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第12回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第13回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第14回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第15回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第16回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第17回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第18回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第19回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第20回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第21回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第22回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第23回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第24回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第25回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第26回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第27回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第28回 調査(測量・伐採・掘削・清掃・写真撮影・実測など)
 - 第29回 調査報告会
 - 第30回 調査報告会
-

授業以外での学習方法

発掘調査や遺跡調査の現地説明会などに参加してみる。

教科書

参考書

よくわかる測量実習(増補)

著者: 細川吉晴他

出版社: コロナ社

出版年: 2009

ISBN: 9.78434E+12

埋蔵文化財発掘調査の手引き

著者: 文化庁文化財保護部

出版社: 国土地理協会

出版年: 1966

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築遺産研究Ⅱ**

担当者 登谷 伸宏

テーマ

日本建築・都市史を読み解く

獲得目標

自分たちの身の回りに存在する歴史的建造物や歴史都市は、どのように成立・展開してきたのだろうか。その答えを、建築・都市遺構や文字・絵画史料を解説することにより見つけられるようになって欲しい。そのための基礎的な力を身につけることを目標とする。

授業の内容

日本列島においてどのような建造物・都市がつくられ、時代とともに如何なる空間的・機能的展開を遂げたのかを辿っていく。それとともに、その背景となる各時代の社会・文化や建築技術のあり方についても考えていきたい。なお、各回の内容は変更する可能性がある。また、必要に応じて学外授業をおこなう。

内 容

- 第1回 中世都市の種類と空間
 - 第2回 中世の住宅建築
 - 第3回 戦国期京都の空間と社会
 - 第4回 近世の寺社建築① 統一政権と寺社
 - 第5回 近世の寺社建築② 庶民信仰と寺社
 - 第6回 近世城郭の成立
 - 第7回 近世城下町の成立と展開
 - 第8回 近世書院造の空間と儀礼
 - 第9回 近世都市住宅の種類と空間
 - 第10回 近世民家の種類と地方的特色
 - 第11回 近世都市の空間と社会 三都を中心として
 - 第12回 建築技術の変遷 設計技術と大工道具
 - 第13回 近代化と建築 擬洋風建築とお雇い外国人
 - 第14回 近世都市から近代都市へ
 - 第15回 近代建築の展開
-

授業以外での学習方法

歴史的建造物・歴史都市の見学を積極的に行い、自分自身でそれらを評価する力を養って欲しい。

教科書

日本建築史図集 新訂第三版

著者： 日本建築学会編

出版社： 彰国社

出版年： 2011年

ISBN: 9.7844E+12

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育実践発展研究a(特別支援教育論) <Z>**

担当者 森下 勇

テーマ

障害のある子ども、発達に課題がある子どもに関する基礎的知識とその教育のあり方

獲得目標

1. 子ども理解の基本的視点がわかる。 2. 障害児のライフサイクルとそれぞれの時期の課題がわかる。 3. 日本の障害児教育の歴史と今日的課題がわかる。 4. 障害児、発達に課題のある子どもに関わる教師のあり方、役割についての考察を深める。

授業の内容

今日、障害児と発達的に課題を有する子どもの教育は特別支援教育としてとりくまれ、指導内容、方法などが議論にされることが多い。本講義においては、そうした具体的な論点を検討する上での前提として、子ども理解のあり方や、その形成の歴史的経過など、基本的な課題を理解すること、加えて、総合科学としての「障害児問題」についての入門的理解を図ることなどを通して、障害児教育、特別支援教育のあり方を学んでいきたい。必要な資料を用いながら、主として講義形式でおこなう。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:①障害児教育をめぐる動向、特別支援教育とは ②科目の目標、すすめ方、留意事項の確認
- 第2回 特別支援教育の現状と課題①:実践現場の状況
- 第3回 特別支援教育の現状と課題②:子ども理解と指導
- 第4回 特別支援教育の現状と課題③:考えるべき課題
- 第5回 特別支援教育の制度:特別支援学校、特別支援学級、通級指導、通常学級
- 第6回 障害児教育の歴史①:戦後～1960年代(特殊教育論)
- 第7回 障害児教育の歴史②:1960年代～養護学校義務制実施前
- 第8回 障害児教育の歴史③:養護学校義務制移行～特別支援教育
- 第9回 ライフステージと障害児教育①:乳幼児期(障害の発見と受容)
- 第10回 ライフステージと障害児教育②:学童期(就修学、地域生活)
- 第11回 ライフステージと障害児教育③:思春期・青年期(「第2の誕生」から社会へ)
- 第12回 子ども理解の基本的視点①(障害)
- 第13回 子ども理解の基本的視点②(発達)
- 第14回 子ども理解の基本的視点③(生活)
- 第15回 ①発達障害(主に自閉症)の理解と教育 ②講義全体のまとめ

授業以外での学習方法

参考文献などを積極的に読み、障害児教育についての知識と理解を深めること、障害児・者問題について関心をもつことを日常的に心がけること。

教科書

参考書

障害児と教育

著者: 茂木俊彦

出版社: 岩波新書

出版年: 1990

ISBN: 400431319

障害児教育を考える

著者: 茂木俊彦

出版社: 岩波新書

出版年: 2007

ISBN: 9.784E+12

キーワードブック障害児教育[改訂増補版]

著者： 清水貞夫・藤本文朗編

出版社： クリエイツかもがわ

出版年： 2005

ISBN： 9.78486E+12

障害児教育学の現状・課題・未来[改訂版]

著者： 藤本文朗・小川克正編

出版社： 培風館

出版年： 2006

ISBN： 4563057711

障害児教育の歴史

著者： 中村満紀男・荒川智

出版社： 明石書店

出版年： 2003

ISBN： 4750318019

発達保障ってなに？

著者： 丸山啓史・河合隆平・品川文雄

出版社： 全障研出版部

出版年： 2012

ISBN： 9.78488E+12

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

「授業中課題」: 期末レポート(提出必須)の内容(講義全般についての理解度と論理展開)、および、数回の小レポートの提出状況と内容。参加度: 出席回数および受講態度全般。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 歌舞伎・浄瑠璃研究Ⅱ〈Z〉

担当者 林 久美子

テーマ

文楽(人形浄瑠璃)入門

獲得目標

歌舞伎と並ぶ上方発祥の世界遺産「文楽」(人形浄瑠璃)について知る

授業の内容

テキストにある演目の中から、みなさんの希望をもとに映像を鑑賞し、解説します。また、文楽の作品や芸の特質について、感想を出し合いながら、理解を深めます。

内 容

- 第1回 文楽についての概説
 - 第2回 浄瑠璃の起源と歴史
 - 第3回 近松門左衛門について
 - 第4回 三大名作①「菅原伝授手習鑑」
 - 第5回 三大名作②「義経千本桜」
 - 第6回 三大名作③「仮名手本忠臣蔵」
 - 第7回 世話物①
 - 第8回 世話物②
 - 第9回 時代物・男の巻
 - 第10回 時代物・女の巻①
 - 第11回 時代物・女の巻②
 - 第12回 鑑賞してみたい作品を選び、内容を学ぶ
 - 第13回 選んだ作品についての感想を話し合う①
 - 第14回 選んだ作品についての感想を話し合う②
 - 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。
-

授業以外での学習方法

できれば文楽公演を鑑賞し、興味を持った作品を読んでください。

教科書

あらずじで読む文楽名作50

著者： 高木秀樹

出版社： 世界文化社

出版年： 2005

ISBN: 441805215

参考書

あやつられ文楽鑑賞

著者： 三浦しをん

出版社： 双葉社

出版年： 2011

ISBN: 978-4575713831

仏果を得ず

著者： 三浦しをん

出版社： 双葉社

出版年： 2011

ISBN： 4575514446

新編日本古典文学全集『浄瑠璃集

著者： 鳥越文蔵ほか

出版社： 小学館

出版年： 2002

ISBN： 4-09-658077-5

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

冬休みに自分で選んだ作品を読み、レポートを作成する。

参考URL

日本芸術文化振興会

<http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/bunraku/jp/index>.

財団法人文楽協会

<http://www.bunraku.or.jp/jbunraku/index.html>

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(児)〈A〉

担当者 池田 修

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

獲得目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／自分たちの読みたい文献を決めよう
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践①「小学校・保育園の運動会」のプレゼンテーションへの準備
- 第3回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション①「小学校・保育園の運動会」とフィールドワークの準備
- 第4回 映像を見る①／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第5回 映像を見る②／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第6回 映像内容を要約し、論評する①:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第7回 映像内容を要約し、論評する②:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第8回 映像内容を要約し、論評する③:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを小論に書き、発表し合い深める
- 第9回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション②フィールドワークでの子どもとのかかわりを通して自分の姿勢を振り返る
- 第10回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ①／フォロアーシップについて学ぶ①;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第11回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ②／フォロアーシップについて学ぶ②;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第12回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ③／フォロアーシップについて学ぶ③;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第13回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ④／フォロアーシップについて学ぶ④;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第14回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ⑤／フォロアーシップについて学ぶ⑤;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって

授業以外での学習方法

授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

教科書

参考書

a30101ab51

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(児)〈B〉

担当者 倉持 祐二

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

獲得目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／自分たちの読みたい文献を決めよう
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践①「小学校・保育園の運動会」のプレゼンテーションへの準備
- 第3回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション①「小学校・保育園の運動会」とフィールドワークの準備
- 第4回 映像を見る①／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第5回 映像を見る②／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第6回 映像内容を要約し、論評する①:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第7回 映像内容を要約し、論評する②:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第8回 映像内容を要約し、論評する③:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを小論に書き、発表し合い深める
- 第9回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション②フィールドワークでの子どもとのかかわりを通して自分の姿勢を振り返る
- 第10回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ①／フォロアーシップについて学ぶ①;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第11回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ②／フォロアーシップについて学ぶ②;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第12回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ③／フォロアーシップについて学ぶ③;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第13回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ④／フォロアーシップについて学ぶ④;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第14回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ⑤／フォロアーシップについて学ぶ⑤;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって

授業以外での学習方法

授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(児) <C>

担当者 神谷 栄司

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

獲得目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／自分たちの読みたい文献を決めよう
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践①「小学校・保育園の運動会」のプレゼンテーションへの準備
- 第3回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション①「小学校・保育園の運動会」とフィールドワークの準備
- 第4回 映像を見る①／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第5回 映像を見る②／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第6回 映像内容を要約し、論評する①:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第7回 映像内容を要約し、論評する②:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第8回 映像内容を要約し、論評する③:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを小論に書き、発表し合い深める
- 第9回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション②フィールドワークでの子どもとのかかわりを通して自分の姿勢を振り返る
- 第10回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ①／フォロアーシップについて学ぶ①;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第11回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ②／フォロアーシップについて学ぶ②;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第12回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ③／フォロアーシップについて学ぶ③;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第13回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ④／フォロアーシップについて学ぶ④;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第14回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ⑤／フォロアーシップについて学ぶ⑤;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって

授業以外での学習方法

授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

教科書

参考書

a30101ab53

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(児)〈D〉

担当者 三上 周治

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

獲得目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／自分たちの読みたい文献を決めよう
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践①「小学校・保育園の運動会」のプレゼンテーションへの準備
- 第3回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション①「小学校・保育園の運動会」とフィールドワークの準備
- 第4回 映像を見る①／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第5回 映像を見る②／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第6回 映像内容を要約し、論評する①:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第7回 映像内容を要約し、論評する②:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第8回 映像内容を要約し、論評する③:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを小論に書き、発表し合い深める
- 第9回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション②フィールドワークでの子どもとのかかわりを通して自分の姿勢を振り返る
- 第10回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ①／フォロアーシップについて学ぶ①;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第11回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ②／フォロアーシップについて学ぶ②;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第12回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ③／フォロアーシップについて学ぶ③;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第13回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ④／フォロアーシップについて学ぶ④;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第14回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ⑤／フォロアーシップについて学ぶ⑤;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって

授業以外での学習方法

授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

教科書

参考書

a30101ab54

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(児)〈E〉

担当者 三山 岳

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

獲得目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもなおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／自分たちの読みたい文献を決めよう
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践①「小学校・保育園の運動会」のプレゼンテーションへの準備
- 第3回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション①「小学校・保育園の運動会」とフィールドワークの準備
- 第4回 映像を見る①／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第5回 映像を見る②／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第6回 映像内容を要約し、論評する①:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第7回 映像内容を要約し、論評する②:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第8回 映像内容を要約し、論評する③:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを小論に書き、発表し合い深める
- 第9回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション②フィールドワークでの子どもとのかかわりを通して自分の姿勢を振り返る
- 第10回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ①／フォロアーシップについて学ぶ①;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第11回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ②／フォロアーシップについて学ぶ②;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第12回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ③／フォロアーシップについて学ぶ③;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第13回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ④／フォロアーシップについて学ぶ④;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第14回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ⑤／フォロアーシップについて学ぶ⑤;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって

授業以外での学習方法

授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

教科書

参考書

a30101ab55

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(児) <F>

担当者 梅本 裕

テーマ

大学での「学び」の内容と方法について価値を問うー学びの質を高めるためにー

獲得目標

大学での学びの目的・目標や方法について教員と学生集団でよりよいものに替えていく。それはとりもおさず、何をどう学ぶことこそが値打ちのあることなのかという価値を問い続けることでもある。映像から学ぶ、本から学ぶ、子どもから学ぶ、世の中から学ぶ姿勢を身につけることを通して「学び」の質的転換を確実なものとする。すなわち、自ら調べ、読み、書き、考え、発表し合う、意見を交換し合うといった学習の能動的な姿勢をゼミの中でより一層形成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 クラス自治組織を考える／自分たちの読みたい文献を決めよう
- 第2回 専門教育への導入ー教育・保育学習発表の企画と実践①「小学校・保育園の運動会」のプレゼンテーションへの準備
- 第3回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション①「小学校・保育園の運動会」とフィールドワークの準備
- 第4回 映像を見る①／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第5回 映像を見る②／メモを取る・考え合う・歴史や世の中と関わらせる
- 第6回 映像内容を要約し、論評する①:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第7回 映像内容を要約し、論評する②:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを発表し合い深める
- 第8回 映像内容を要約し、論評する③:教育・保育に関する論点をめぐって映像の内容をもとに自分の考えを小論に書き、発表し合い深める
- 第9回 ◆合同ゼミ(コース別):プレゼンテーション②フィールドワークでの子どもとのかかわりを通して自分の姿勢を振り返る
- 第10回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ①／フォロアーシップについて学ぶ①;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第11回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ②／フォロアーシップについて学ぶ②;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第12回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ③／フォロアーシップについて学ぶ③;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第13回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ④／フォロアーシップについて学ぶ④;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第14回 文献内容を要約し、論評する:チュータの役割を学ぶ⑤／フォロアーシップについて学ぶ⑤;教育・保育に関する論点をめぐって
- 第15回 この一年の学びについて振り返る:学びの価値をめぐって

授業以外での学習方法

授業外での学習:現代の保育・教育の諸問題に関心を持ち、新聞や保育・教育関係の本を読む。

教科書

参考書

a30101ab56

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育原論(初)

担当者 八木 英二

テーマ

教育の基本問題と教育改革

獲得目標

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。

授業の内容

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討する。

内 容

- 第4回 学習指導要領について
 - 第5回 様々な教育方法
 - 第6回 教科指導の意義
 - 第7回 生活指導実践の意義
 - 第8回 教育の公共性
 - 第9回 進路指導
 - 第10回 高等学校の進路指導
 - 第11回 教育専門職論
 - 第12回 日本の教育制度
 - 第13回 教育改革動向
 - 第14回 教育基本法と学校教育
 - 第15回 教育の国際的合意形成
 - 第1回 教育の素朴概念
 - 第2回 発達と教育
 - 第3回 教育課程の基本問題
-

授業以外での学習方法

教科書

新・教育学

著者： 南新ほか

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育心理学(初)

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

子どもの発達と教育

獲得目標

教育心理学の基礎概念の習得を通じて、子どもの発達と教育のかかわりについての理解を深める。具体的には、「発達理論」、「学習理論」、「人格理論」、「教育評価理論」等の柱を立てて、そこでの基礎概念の習得を通じて、子どもに対する指導や援助の基本的な視点を獲得することができるようにすること。

授業の内容

教育現場の様々な問題を取り上げ、その背後にある課題を心理学的に考察する

内 容

- 第1回 教育心理学とは、本講義が目指すもの
 - 第2回 系統発生と個体発生、子どもの発達にとって必要な基本条件
 - 第3回 発達の原理と発達段階
 - 第4回 ピアジェの発生的認識論とヴィゴツキーの社会文化的発達論
 - 第5回 学習の原理と学習理論、行動主義とゲシュタルト学説
 - 第6回 忘却の原理と忘却理論
 - 第7回 学習動機とその発達(障がいのある児童の学習課程を含む)
 - 第8回 人格の構造と人格理論(障がいのある児童の発達を含む)
 - 第9回 欲求の階層構造と人格発達
 - 第10回 子どもの行動と防衛機制
 - 第11回 教育評価とは、指導と評価
 - 第12回 絶対評価、相対評価、到達度評価
 - 第13回 関心・意欲・態度と教育評価
 - 第14回 試験
 - 第15回 試験問題の解説と授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

15回の講義で3～4回のレポートを課す。これについては配布資料のほか、他の文献などを参照してまとめること。

教科書

適宜資料を配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

発達と教育の心理学

著者: 宮嶋邦明

出版社: 法制出版

出版年: 1998年

ISBN: 4-938554-26-7

絶対役立つ教育心理学

著者： 藤田哲也編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007年

ISBN: 9.78462E+11

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **数学概論**

担当者 小寺 隆幸

テーマ

算数教育の数学的基礎を学ぶ

獲得目標

幼児や小学生に算数を教える上で基本となる数・量・関数・図形・統計などの基本的な知識と考え方を学ぶ。教科教育法(算数)の前段として位置づける。

授業の内容

内 容

- 第1回 数とは何か 十進位取り記数法の考え方
 - 第2回 加法減法
 - 第3回 乗法除法
 - 第4回 九九表の分析
 - 第5回 分離量と連続量(小数・分数)
 - 第6回 外延量(長さ、重さ、面積など)
 - 第7回 内包量(密度、濃度、速度など)
 - 第8回 正負の数 数の拡張
 - 第9回 基本図形(角 三角形 四角形 円)
 - 第10回 対称性としきつめ
 - 第11回 求積
 - 第12回 関数とは何か
 - 第13回 座標と変換
 - 第14回 確率の考え方
 - 第15回 統計
-

授業以外での学習方法

* 宿題を出すのでしっかり取り組むこと。* 授業中に小テストを随時行う。

教科書

入門算数学 第2版

著者: 黒木哲徳

出版社: 日本評論社

出版年: 2009

ISBN: 9.78454E+12

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **体育概論**

担当者 口野 隆史

テーマ

文化としての体育・スポーツを理解し、その文化の継承・発展を考える

獲得目標

現代の体育・スポーツに関する文化的、社会的、歴史的、科学的などの多方面の基礎知識を身に付ける。そして体育・スポーツについて、仲間と共に考えることができる力、体育・スポーツを正しく理解する力を身に付ける。

授業の内容

現代の体育・スポーツに関する文化的、社会的、歴史的、科学的な多方面の基礎知識を学ぶ。疑問の提起(クイズ)、資料、映像、簡単な実技などを通して基礎知識を学ぶ。また、自分たちで体育・スポーツに関するテーマを見付け、グループで共に考え、発表し理解を深める。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 「投げる」遊び・動作の習得と運動発達
 - 第2回 人間の運動発達と現代の子どもの運動能力
 - 第3回 筋肉の構造と筋力の発達や特性
 - 第4回 人間の汗と体温調節のしくみ
 - 第5回 人間の運動学習(わかる・できるようになる)
 - 第6回 眼の仕組みとスポーツにおける眼の役割(スポーツビジョン)
 - 第7回 相撲の歴史と文化(日本のスポーツ・運動文化)
 - 第8回 陸上競技の歴史と文化(世界のスポーツの歴史)
 - 第9回 スポーツの科学、カーブはなぜカーブするのか
 - 第10回 体育とは何か、スポーツとはどうちがうのか
 - 第11回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表①
 - 第12回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表②
 - 第13回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表③
 - 第14回 体育・スポーツに関するグループ別研究発表④
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

1. 体育・スポーツとは何か、自分で受けてきた(あるいは受けている)体育・スポーツの授業を振り返り、またクラブやサークルで行っているスポーツ・身体活動を振り返り考えてみましょう。2. 新聞やテレビのスポーツ関係の記事や番組を見る時、ひいきのチームや選手の試合結果ばかりではなく、試合の作戦、選手の技術、ファンへのサービス、地域・社会への貢献など、社会的、文化的、歴史的な背景等々、多くの視点で見てください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 (30)

しっかり授業に出席し、教員の話、学生の発表をよく聞き理解すること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **音楽演習 I <幼a>**

担当者 佐野 仁美

テーマ

ピアノ基礎技能と子どもの歌のコード伴奏弾き歌い

獲得目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の弾き歌いができるようになる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の内容

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と視唱および子どもの歌のコード弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

内 容

- 第1回 コードネームの復習、視唱、バイエルNo.82、85
- 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.85、88
- 第3回 ハ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.88、89
- 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
- 第5回 ヘ長調のコード進行(F、B \flat 、C、C7)、視唱、バイエルNo.91、93
- 第6回 ヘ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.93、94
- 第7回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、視唱、バイエルNo.94、95
- 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、視唱、バイエルNo.95、96
- 第9回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、視唱、バイエルNo.96、97
- 第10回 ト長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.97、98
- 第11回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、視唱、バイエルNo.98、99
- 第12回 二長調のコード進行(D、G、A、A7)、視唱、バイエルNo.99、100
- 第13回 二長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.100
- 第14回 子どもの歌の弾き歌い(二長調)、ピアノ実技試験曲
- 第15回 ピアノ実技試験、子どもの歌の弾き歌い発表

授業以外での学習方法

授業中の課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

全訳バイエル教則本

著者:

出版社: 全音楽譜出版社

出版年:

ISBN:

コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー

著者: 坂井康子他編著

出版社: ヤマハ・ミュージックメディア

出版年:

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **音楽演習 I <幼b>**

担当者 佐野 仁美 阿部 真子

テーマ

ピアノ基礎技能と子どもの歌のコード伴奏弾き歌い

獲得目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の弾き歌いができるようになる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の内容

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と視唱および子どもの歌のコード弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

内 容

- 第1回 コードネームの復習、視唱、バイエルNo.82、85
- 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.85、88
- 第3回 ハ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.88、89
- 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
- 第5回 ヘ長調のコード進行(F、B \flat 、C、C7)、視唱、バイエルNo.91、93
- 第6回 ヘ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.93、94
- 第7回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、視唱、バイエルNo.94、95
- 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、視唱、バイエルNo.95、96
- 第9回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、視唱、バイエルNo.96、97
- 第10回 ト長調のコード伴奏付け、論文作成に向けての個別指導、視唱、バイエルNo.97、98
- 第11回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、視唱、バイエルNo.98、99
- 第12回 二長調のコード進行(D、G、A、A7)、視唱、バイエルNo.99、100
- 第13回 二長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.100
- 第14回 子どもの歌の弾き歌い(二長調)、ピアノ実技試験曲
- 第15回 ピアノ実技試験、子どもの歌の弾き歌い発表

授業以外での学習方法

授業中の課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

全訳バイエル教則本

著者:

出版社: 全音楽譜出版社

出版年:

ISBN:

コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー

著者: 坂井康子他編著

出版社: ヤマハ・ミュージックメディア

出版年:

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **音楽演習 I <児>**

担当者 佐野 仁美 阿部 真子

テーマ

ピアノ基礎技能と子どもの歌のコード伴奏弾き歌い

獲得目標

1)コードネームを理解し、子どもの歌の弾き歌いができるようになる。2)ピアノの基本的な奏法を習得する。

授業の内容

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と視唱および共通教材を中心とする子どもの歌のコード弾き歌いを並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

内 容

- 第1回 コードネームの復習、視唱、バイエルNo.82、85
- 第2回 ハ長調のコード進行(C、F、G、G7)、視唱、バイエルNo.85、88
- 第3回 ハ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.88、89
- 第4回 子どもの歌の弾き歌い(ハ長調)、視唱、バイエルNo.89、91
- 第5回 ヘ長調のコード進行(F、B \flat 、C、C7)、視唱、バイエルNo.91、93
- 第6回 ヘ長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.93、94
- 第7回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、視唱、バイエルNo.94、95
- 第8回 子どもの歌の弾き歌い(ヘ長調)、視唱、バイエルNo.95、96
- 第9回 ト長調のコード進行(G、C、D、D7)、視唱、バイエルNo.96、97
- 第10回 ト長調のコード伴奏付け、論文作成に向けての個別指導、視唱、バイエルNo.97、98
- 第11回 子どもの歌の弾き歌い(ト長調)、視唱、バイエルNo.98、99
- 第12回 二長調のコード進行(D、G、A、A7)、視唱、バイエルNo.99、100
- 第13回 二長調のコード伴奏付け、視唱、バイエルNo.100
- 第14回 子どもの歌の弾き歌い(二長調)、ピアノ実技試験曲
- 第15回 ピアノ実技試験、子どもの歌の弾き歌い発表

授業以外での学習方法

授業中の課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

全訳バイエル教則本

著者:

出版社: 全音楽譜出版社

出版年:

ISBN:

コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー

著者: 坂井康子他編著

出版社: ヤマハ・ミュージックメディア

出版年:

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **絵画・工芸演習〈幼A〉**

担当者 上中 良子

テーマ

乳幼児期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

獲得目標

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

授業の内容

紙・土などの身近で原初的な素材を活用した制作や活動を重ねていく。アレンジする力を豊かにする。グループ等での仲間と協力する力を実践を通して掴み取っていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画) 紙で作る①(くるくるプロペラ・トンこり)
- 第2回 紙で作る②(ニコマアニメ、紙万華鏡)
- 第3回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①:牛乳パックでびっくりヘビ・紙コップ & ビニール傘袋でムクムク君
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②:飛び出しカード作り(計画⇒制作前半)
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ③:飛び出しカード作り(制作後半⇒鑑賞)
- 第6回 基礎的な描材と描法実践(フィンガーペインティング・スタンピング・マーブリング等)
- 第7回 自然素材を生かした造形活動『土』①:土粘土作り(ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第8回 自然素材を生かした造形活動『土』②:作陶(ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第9回 壁面掲示①:グループ作り→計画・構成
- 第10回 壁面掲示②:完成→鑑賞
- 第11回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる①:グループ作り→計画・構成
- 第12回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる②:作成
- 第13回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる③:演じる・鑑賞
- 第14回 指導・展開法:指導案の書き方
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。(美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加) ○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

教科書

資料については、授業の際に担当者よりハンドアウトします。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a30101d950

全回出席が前提です。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **絵画・工芸演習〈幼B〉**

担当者 上中 良子

テーマ

乳幼児期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

獲得目標

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

授業の内容

紙・土などの身近で原初的な素材を活用した制作や活動を重ねていく。アレンジする力を豊かにする。グループ等での仲間と協力する力を実践を通して掴み取っていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画) 紙で作る①(くるくるプロペラ・トンこり)
- 第2回 紙で作る②(ニコマアニメ、紙万華鏡)
- 第3回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①: 牛乳パックでびっくりヘビ・紙コップ & ビニール傘袋でムクムク君
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②: 飛び出しカード作り(計画⇒制作前半)
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ③: 飛び出しカード作り(制作後半⇒鑑賞)
- 第6回 基礎的な描材と描法実践(フィンガーペインティング・スタンピング・マーブリング等)
- 第7回 自然素材を生かした造形活動『土』①: 土粘土作り(ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第8回 自然素材を生かした造形活動『土』②: 作陶(ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第9回 壁面掲示①: グループ作り→計画・構成
- 第10回 壁面掲示②: 完成→鑑賞
- 第11回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる①: グループ作り→計画・構成
- 第12回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる②: 作成
- 第13回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる③: 演じる・鑑賞
- 第14回 指導・展開法: 指導案の書き方
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。(美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加) ○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

教科書

資料については、授業の際に担当者よりハンドアウトします。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a30101d952

全回出席が前提です。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 絵画・工芸演習〈幼C〉

担当者 上中 良子

テーマ

乳幼児期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

獲得目標

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

授業の内容

紙・土などの身近で原初的な素材を活用した制作や活動を重ねていく。アレンジする力を豊かにする。グループ等での仲間と協力する力を実践を通して掴み取っていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画) 紙で作る①(くるくるプロペラ・トンこり)
- 第2回 紙で作る②(ニコマアニメ、紙万華鏡)
- 第3回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①: 牛乳パックでびっくりヘビ・紙コップ & ビニール傘袋でムクムク君
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②: 飛び出しカード作り(計画⇒制作前半)
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ③: 飛び出しカード作り(制作後半⇒鑑賞)
- 第6回 基礎的な描材と描法実践(フィンガーペインティング・スタンピング・マーブリング等)
- 第7回 自然素材を生かした造形活動『土』①: 土粘土作り(ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第8回 自然素材を生かした造形活動『土』②: 作陶(ゲストティーチャーに学ぶ)
- 第9回 壁面掲示①: グループ作り→計画・構成
- 第10回 壁面掲示②: 完成→鑑賞
- 第11回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる①: グループ作り→計画・構成
- 第12回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる②: 作成
- 第13回 行事等と造形活動=『大型紙芝居』等を作り演じる③: 演じる・鑑賞
- 第14回 指導・展開法: 指導案の書き方
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。(美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加) ○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

教科書

資料については、授業の際に担当者よりハンドアウトします。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a30101d953

全回出席が前提です。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **絵画・工芸演習〈児a〉**

担当者 上中 良子

テーマ

児童期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

獲得目標

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

授業の内容

紙・土・竹などの身近で原初的な素材・自然素材を活用した一からの制作や活動を重ねる。アレンジする力を豊かにする。仲間と協力する力を実践を通して掴み取っていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画) 紙で作る①(くるくるプロペラ)
- 第2回 紙で作る②(ニコマアニメ、紙万華鏡)
- 第3回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①: 板返
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②: ポップアップカード作り(計画⇒制作前半)
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②: ポップアップカード作り(制作後半⇒鑑賞)
- 第6回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』①: ゲストティーチャーに学ぶ(土粘土作り)
- 第7回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』②: ゲストティーチャーに学ぶ(作陶)
- 第8回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』③: ゲストティーチャーに学ぶ(作陶完成⇒鑑賞)
- 第9回 基礎的な技法実践(木版画)①表現構想⇒彫り
- 第10回 基礎的な技法実践(木版画)②刷り⇒鑑賞
- 第11回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』①: 「竹ぶんぶんゴマ」のための竹切り・割き
- 第12回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』②: 「竹ぶんぶんゴマ」のための竹削り
- 第13回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』③: 「竹ぶんぶんゴマ」完成⇒回し遊び発表
- 第14回 感動を描画に(竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現)①: 計画・構成
- 第15回 感動を描画に(竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現)②: 彩色⇒鑑賞

授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。(美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加) ○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

教科書

資料については、授業の際に担当者よりハンドアウトします。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **絵画・工芸演習〈児b〉**

担当者 上中 良子

テーマ

児童期の図画工作における表現、主に絵画・工作などの基礎的技法や指導法を学ぶ

獲得目標

○身近な素材や道具を生かしての造形の楽しさを実技を通して学び、実習と関連づけて実践への結び付け方なども学習する。○子どもの発達段階と造形活動の関連や、材料の種類・特性、用具の正しい使い方についての指導法を獲得する。

授業の内容

紙・土・竹などの身近で原初的な素材・自然素材を活用した一からの制作や活動を重ねる。アレンジする力を豊かにする。仲間と協力する力を実践を通して掴み取っていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業のねらいと進め方の解説及び計画) 紙で作る①(くるくるプロペラ)
- 第2回 紙で作る②(ニコマアニメ、紙万華鏡)
- 第3回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ①: 板返
- 第4回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ②: ポップアップカード作り(計画⇒制作前半)
- 第5回 多様な材料で工夫して作り・遊ぶ③: ポップアップカード作り(制作後半⇒鑑賞)
- 第6回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』①: ゲストティーチャーに学ぶ(土粘土作り)
- 第7回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』②: ゲストティーチャーに学ぶ(作陶)
- 第8回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『土』③: ゲストティーチャーに学ぶ(作陶完成⇒鑑賞)
- 第9回 基礎的な技法実践(木版画)①表現構想⇒彫り
- 第10回 基礎的な技法実践(木版画)②刷り⇒鑑賞
- 第11回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』①: 「竹ぶんぶんゴマ」のための竹切り・割き
- 第12回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』②: 「竹ぶんぶんゴマ」のための竹削り
- 第13回 学級・学年作りと自然素材を生かした造形活動『竹』③: 「竹ぶんぶんゴマ」完成⇒回し遊び発表
- 第14回 感動を描画に(竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現)①: 計画・構成
- 第15回 感動を描画に(竹ぶんぶんゴマに関わる平面表現)②: 彩色⇒鑑賞

授業以外での学習方法

学外授業等を、適宜行うことがあります。(美術館見学・現場実践見学・教育研究会参加) ○身近にある素材・自然素材に常に気を配り、造形に活用できるものを収集する。○日常的に、造ったもので遊ぶ楽しさを自ら体験する。

教科書

資料については、授業の際に担当者よりハンドアウトします。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **こども理解Ⅱ（児童）**

担当者 西條 昭男

テーマ

テーマ 子ども理解を深めよう。現代の子どもはどんな生活を送っているか。子どもの心の内に秘めているものは何か。子どもが表現した詩や作文や日記(生活ノート)を通して、子どもの生活や思いを知ることからはじめよう。

獲得目標

授業の目的は、子ども理解を深めることである。学生が今まで自分自身の成育歴や経験体験してきたことから形成している子ども観を深く、幅広いものにし、「子ども発見！」を繰り返しながら、現代を生きる子どもたちをリアルに理解できるようにする。

授業の内容

学校現場における子どもの行動や詩や作文、生活ノートなどの作品から子どもの心の声を聞く。子どもの作品を読みあい、意見や感想を交流しあう場面を多く取り入れながら、授業を進めていく。また、時々の子どもに関連する諸問題についても問題提起をする。

内 容

- 第1回 オリエンテーリング 授業の進め方・講義に期待することなど。
 - 第2回 テキスト全体を読んで感想を交流し、子ども理解の視点をつかむ。
 - 第3回 テキストをもとに、感想と意見を出し合いながら、子どもと作品を語りあう。
 - 第4回 いじめ・体罰と子ども理解
 - 第5回 (プチレポート)今も鮮明に覚えている子どもの頃の思い出パート1
 - 第6回 テキストをもとに、感想と意見を出し合いながら、子どもと作品を語りあう。
 - 第7回 テキストをもとに、感想と意見を出し合いながら、子どもと作品を語りあう。
 - 第8回 テキストをもとに、感想と意見を出し合いながら、子どもと作品を語りあう。
 - 第9回 (プチレポート)今も鮮明に覚えている子どもの頃の思い出パート2
 - 第10回 (プチレポート)今も鮮明に覚えている子どもの頃の思い出パート3
 - 第11回 テキストをもとに、感想と意見を出し合いながら、子どもと作品を語りあう。
 - 第12回 テキストをもとに、感想と意見を出し合いながら、子どもと作品を語りあう。
 - 第13回 テキストをもとに、感想と意見を出し合いながら、子どもと作品を語りあう。
 - 第14回 子ども理解がどのように深まったか。
 - 第15回 講義のまとめ 子ども理解と教師
-

授業以外での学習方法

テキストを事前に読む。子どもと教育に関する新聞記事などを日ごろから読んでおく。子どもとふれあう活動に積極的に参加する。

教科書

心ってこんなに動くんだ

著者： 西條 昭男

出版社： 新日本出版社

出版年： 2006

ISBN： 4-406-03263-0

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会福祉**

担当者 幸重 忠孝

テーマ

現代の身近な社会課題を切り口に社会福祉の理念と制度を理解する

獲得目標

子どもを取り巻く家族や社会の様々な課題に社会福祉がどう関わっているのか、社会福祉の理念をベースにしながら現在の社会福祉の制度や仕組みを理解する。社会福祉の理念とは何かを講義を通して常に考えることを目的とする。

授業の内容

各回に関連した身近な福祉テーマをあつかった視聴覚教材(映画・ドラマ・アニメ・ドキュメンタリーなど)や地域の福祉活動を題材にし、社会福祉の現状と課題を講義する。ミニレポートを通して社会福祉の理念を考察する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション「現代社会における社会福祉の意義」
 - 第2回 現代社会における社会福祉の意義「社会福祉とは何か？」
 - 第3回 社会福祉と児童家庭福祉①「少子高齢化社会に突入した現代社会」
 - 第4回 社会福祉と児童家庭福祉②「在宅福祉の推進」
 - 第5回 社会福祉と子どもの人権「生活困窮と子どもの貧困」
 - 第6回 社会福祉の制度と実施体系①「社会福祉の法律と制度」
 - 第7回 社会福祉の制度と実施体系②「社会福祉の行政機関と社会福祉施設」
 - 第8回 社会福祉の専門職「ソーシャルワーカーとケアワーカー」
 - 第9回 社会福祉の歴史の変遷「社会福祉の先駆者たち」
 - 第10回 ソーシャルワーク①「ケースワーク・相談援助」
 - 第11回 ソーシャルワーク②「グループワーク・コミュニティーワーク」
 - 第12回 社会福祉の動向と課題①「多様な家族形態と福祉支援」
 - 第13回 社会福祉の動向と課題②「市民による福祉・NPO活動」
 - 第14回 利用者の保護「守秘義務と第三者評価」
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業で紹介された参考文献(福祉コミック)を読み学びを深める 課題レポートによるフィールドワーク

教科書

子どもたちとつくる貧困とひとりぼっちのないまち

著者： 山科醍醐こどものひろば

出版社： かがわ出版

出版年： 2013

ISBN： 9.78478E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

のほほん研究室

<http://www.nohohonse.com/>

教員ホームページ

2013 Syllabus

科目名 **保育原理**

担当者 神谷 栄司

テーマ

幼児保育の年間の流れ——保育実践の事実のなかから理論を取り出す

獲得目標

1. 幼児保育実践の年間の流れのイメージをもつ。2. 保育の主題について理解する。3. 保育の諸段階(積み上げ)について理解する。4. 保育実践の事実のなかに含まれる理論問題に関心を持つ。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(幼児とその保育について先入観なく事実を捉えることについて)
- 第2回 4～6月の幼児保育① 園庭の自然(小さな自然の世界)と保育
- 第3回 4～6月の幼児保育② 園庭の自然(小さな自然の世界)と保育の主題
- 第4回 4～6月の幼児保育③ 中ぐりの自然の世界と保育
- 第5回 4～6月の幼児保育④ この時期の絵本の位置づけ
- 第6回 自然に対する幼児の見方・感じ方
- 第7回 物語に対する幼児の理解と共感
- 第8回 9～12月の幼児保育① 運動会とそれ以降の保育のあり方
- 第9回 9～12月の幼児保育② ドングリを主題にした保育(中ぐりの自然の世界)
- 第10回 9～12月の幼児保育③ ドングリを主題にした保育(絵本の役割)
- 第11回 9～12月の幼児保育④ ドングリを主題にした保育(大きな自然の世界)
- 第12回 9～12月の幼児保育⑤ 木の葉を主題にした保育
- 第13回 9～12月の幼児保育⑥ 長編の物語とこの時期の保育
- 第14回 1～3月の幼児保育① 劇遊びについて
- 第15回 1～3月の幼児保育② 年間の保育と劇づくり

授業以外での学習方法

授業の折に紹介する文献にあたること。

教科書

幼児の考え方・感じ方と遊び-「子ども自身のドラマ」の展開

著者: 神谷栄司

出版社: 三学出版

出版年: 2011年

ISBN: 9.7849E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **発達心理学**

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

大人になるということ

獲得目標

成人期にいたるまでの人間の発達について概観する。成長するとはどういうことか、大人になるとはどういうことかについての理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 発達心理学とは、本講義がめざすもの
 - 第2回 人格の構造
 - 第3回 無条件反射と条件反射
 - 第4回 第2信号系としての「ことば」
 - 第5回 「カベ」と「シマ」の仮説
 - 第6回 乳幼児期① 「循環反応」、「模倣」、「遊び」
 - 第7回 乳幼児期② 「アニミズム」、「直感的思考」、「自己中心的思考」
 - 第8回 児童期① 「保存性」、「経験的思考」、「具体的思考」
 - 第9回 児童期② 「生活的概念」、「科学的概念」
 - 第10回 思春期① ケース検討① 「もうひとりの自分」の誕生、「自分との対話」
 - 第11回 思春期② ケース検討② 「おとな感覚」の芽生え、「自立と依存」
 - 第12回 思春期③ ケース検討③ 「同性の友人関係」の意義
 - 第13回 青年・成人期① ケース検討④ 「問題行動」をどうみるか
 - 第14回 青年・成人期② ケース検討⑤ ある大学生の「成育史」
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **こどもの保健 I - 1**

担当者 安藤 忠 齋藤 洋子

テーマ

子どもの健やかな成長発達を支援するために必要な基礎的保健知識を学ぶ。

獲得目標

1. 乳幼児の成長発達の特徴を理解する。2. 乳幼児の疾病の特徴や異常を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 子どもの健康と保健の意義
 - 第2回 地域における保健活動と児童虐待
 - 第3回 母子保健対策と保育
 - 第4回 子どもの健康状態の把握
 - 第5回 子どもの発育・発達と保健 I
 - 第6回 子どもの発育・発達と保健 II
 - 第7回 子どもの発育・発達と保健 III
 - 第8回 子どもの発育・発達と保健 IV
 - 第9回 先天異常
 - 第10回 感染症 I
 - 第11回 感染症 II
 - 第12回 免疫とアレルギー疾患
 - 第13回 慢性疾患
 - 第14回 小児期からの生活習慣病予防の重要性
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

図表で学ぶ子どもの保健 I

著者： 加藤忠明・岩田力 編著

出版社： 建帛社

出版年：

ISBN：

参考書

よくわかる小児保健

著者： 竹内義博・大矢紀昭編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年：

ISBN：

子どもの思いにこころをよせて

著者： 西川由紀子

出版社： かもがわ出版

出版年：

ISBN：

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（80）

授業中課題（）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育・心理統計学

担当者 石田 正浩

テーマ

教育学・心理学の論文で用いられる統計数値の意味を学ぶことを通じて、統計的に考えることの理解を深める。

獲得目標

教育学・心理学領域では調査や実験を行い、理論・仮説の検証を行います。得られたデータには統計的な処理を行い、その結果をもとに論理を展開します。そのため論文を理解したり、自分で調査・実験を行う場合には、そうした統計数値の意味を理解することが欠かせません。本講義では実際に統計量を計算することを通じて、統計数値を読み取る能力を養い、統計的な考え方の基本を修得することを目指します。

授業の内容

統計数値を用いたさまざまな事例の理解を通じて、統計的な数値の読みとり方を学びます。また、代表的な統計処理の手順を実際に計算することで、元になるデータと統計量の関係、そこから何が言えるのかを学びます。

内 容

- 第1回 統計的な考え方とは イメージと誤解
 - 第2回 心理測定の基本
 - 第3回 記述統計と推測統計
 - 第4回 データの表現
 - 第5回 検定とは カイ2乗検定1
 - 第6回 カイ2乗検定2
 - 第7回 t検定1
 - 第8回 t検定2
 - 第9回 相関係数1
 - 第10回 相関係数2
 - 第11回 分散分析1
 - 第12回 分散分析2
 - 第13回 多変量解析1 重回帰分析
 - 第14回 多変量解析2 因子分析
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

マスコミ等で用いられる統計的な表現が何を意味するのか、おかしい点はないかを考える習慣をつけましょう。

教科書

参考書

心理学・社会科学研究のための調査系論文の読み方

著者： 浦上昌則・脇田貴文

出版社： 東京図書

出版年： 2008

ISBN： 978-4489020384

ファーストブック 統計学がわかる

著者： 向後千春・富永敦子

出版社： 技術評論社

出版年： 2007

ISBN： 978-4774131900

成績評価

試験（0%）

授業中課題（60%）

参加度（40%）

小テスト（0%）

授業中発表等（0%）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 児童文学研究

担当者 野村 幸一郎

テーマ

宮沢賢治の文学

獲得目標

代表作品の読解を通じて宮沢賢治の文明観、人間観、宗教観を理解する

授業の内容

講義形式で代表的な賢治童話の読解を行うことになるが、毎回、グループに分かれ与えられたテーマについて討論を行う予定である。児童文学作家、角野栄子氏による特別講義も予定している

内 容

- 第1回 宮沢賢治の生涯と思想
 - 第2回 デクノボーの思想—『グスコブドリの伝記』読解
 - 第3回 『オツベルと象』読解(1)
 - 第4回 『オツベルと象』読解(2)
 - 第5回 『オツベルと象』読解(3)
 - 第6回 『なめとこ山の熊』読解(1)
 - 第7回 『なめとこ山の熊』読解(2)
 - 第8回 『なめとこ山の熊』読解(3)
 - 第9回 『銀河鉄道の夜』読解(1)
 - 第10回 『銀河鉄道の夜』読解(2)
 - 第11回 『銀河鉄道の夜』読解(3)
 - 第12回 『銀河鉄道の夜』読解(4)
 - 第13回 角野栄子氏による特別講義(1)(日程変更の可能性あり)
 - 第14回 角野栄子氏による特別講義(2)(日程変更の可能性あり)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業で取り扱う作品は必ず読んでくること。課題は必ず提出すること。

教科書

作品で読む宮沢賢治

著者： 宮沢賢治

出版社： 白地社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 養護原理 <Z>

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護の現状及び課題の理解

獲得目標

社会的養護の現代的意義と歴史の変遷について学び、児童家庭福祉との関連性について理解する。また、社会的養護の制度および実施体形等を学び、子どもの権利擁護及び自立支援についての理解を深める。

授業の内容

社会的養護のもとにある子どもとその家族の課題・背景を理解し、彼らを支援する姿勢、援助計画、援助の進め方、活用資源などを学ぶ。

内 容

- 第1回 児童養護とは何か
 - 第2回 現代社会に暮らす子どもと家庭
 - 第3回 子どもの権利
 - 第4回 子どもの養護の歴史
 - 第5回 児童養護の体系
 - 第6回 児童養護の制度
 - 第7回 施設養護の特質
 - 第8回 施設養護の基本原則
 - 第9回 日常生活及び自立支援
 - 第10回 治療的・支援的援助
 - 第11回 親子、地域との関係調整
 - 第12回 児童養護とソーシャルワーク
 - 第13回 児童福祉施設の運営管理
 - 第14回 児童養護のあるべき姿
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

講義中に紹介された参考文献を読み進める。

教科書

社会的養護

著者： 小池由佳/山縣文治

出版社： ミネルバ書房

出版年： 2010

ISBN： 978-4-623-05669

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (60)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 小児保健 I <Z>

担当者 安藤 忠 齋藤 洋子

テーマ

子どもの健やかな成長発達を支援するために必要な基礎的保健知識を学ぶ。

獲得目標

1. 乳幼児の成長発達の特徴を理解する。2. 乳幼児の疾病の特徴や異常を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 子どもの健康と保健の意義
 - 第2回 地域における保健活動と児童虐待
 - 第3回 母子保健対策と保育
 - 第4回 子どもの健康状態の把握
 - 第5回 子どもの発育・発達と保健 I
 - 第6回 子どもの発育・発達と保健 II
 - 第7回 子どもの発育・発達と保健 III
 - 第8回 子どもの発育・発達と保健 IV
 - 第9回 先天異常
 - 第10回 感染症 I
 - 第11回 感染症 II
 - 第12回 免疫とアレルギー疾患
 - 第13回 慢性疾患
 - 第14回 小児期からの生活習慣病予防の重要性
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

図表で学ぶ子どもの保健 I

著者： 加藤忠明・岩田力 編著

出版社： 建帛社

出版年：

ISBN：

参考書

よくわかる小児保健

著者： 竹内義博・大矢紀昭編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年：

ISBN：

子どもの思いにこころをよせて

著者： 西川由紀子

出版社： かがわ出版

出版年：

ISBN：

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（80）

授業中課題（）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 小児保健実習 <Za>

担当者 齋藤 洋子

テーマ

子どもが健全に成長・発達するために必要な知識と技術を深める。

獲得目標

1. 乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を習得する。2. 乳幼児の健康管理の知識と技術を習得する。3. 乳幼児の病気時の看護の知識と技術を習得する。4. 乳幼児の事故防止、安全な保育環境の知識と技術を習得する。

授業の内容

乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気時の看護、事故防止、安全な保育環境について実習等を通して身につける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、保育に必要な保健演習 子どもの保健と保育者の保健(手洗い)
- 第2回 乳幼児の養護(抱き方、おんぶの仕方)
- 第3回 乳幼児の養護(衣類の着脱、おむつ交換)
- 第4回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)
- 第5回 子供の健康と健康観察 DVD「赤ちゃんの健康」
- 第6回 乳幼児の身体計測 DVD「身体計測」
- 第7回 乳幼児の生理機能の測定 DVD「バイタルサインの測定」
- 第8回 乳幼児の精神・運動機能の発達 DVD「赤ちゃんの発育」
- 第9回 乳幼児の異常症状と手当(下痢、嘔吐の処理)
- 第10回 乳幼児の異常症状と手当(霍乱) 乳幼児の歯の健康(歯ブラシ持参)
- 第11回 ワークショップ「健康教育」
- 第12回 乳幼児の事故と応急手当 DVD「応急手当」
- 第13回 心肺蘇生法 DVD「救命処置」
- 第14回 ワークショップ「保健だより」
- 第15回 保育における環境衛生 集団保育と保健
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

教科書

子どもの保健演習ガイド

著者： 高内正子 編著

出版社： 建帛社

出版年：

ISBN：

産婦人科の窓口から

著者： 河野美代子

出版社： 十月舎

出版年：

ISBN：

参考書

保育保健の基礎知識

著者： 日本保育園保健協議会

出版社： 日本小児医事出版社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

授業中課題（15）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（15）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 小児保健実習 <Zb>

担当者 森岡 順子

テーマ

子どもが健全に成長・発達するために必要な知識と技術を深める。

獲得目標

1、乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を習得する。2、乳幼児の健康管理の知識と技術を習得する。3、乳幼児の病気時の看護の知識と技術を習得する。4、乳幼児の事故防止・安全な保育環境の知識と技術を習得する。

授業の内容

乳幼児の日常生活の養護・健康管理・病気時の看護・事故防止・安全な保育環境について実習等を通して身につける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、保育に必要な保健演習 子どもの保健と保育者の保健(手洗い)
- 第2回 乳幼児の養護(抱き方、おんぶの仕方)
- 第3回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)
- 第4回 乳幼児の養護(衣服の着脱、おむつ交換)
- 第5回 子どもの健康と健康観察DVD「赤ちゃんの健康」 乳幼児の歯の健康(歯ブラシ持参)
- 第6回 乳幼児の身体計測 DVD「身体計測」
- 第7回 乳幼児の生理機能の測定 DVD「バイタルサイン測定」
- 第8回 乳幼児の精神・運動機能の発達 DVD「赤ちゃんの発育」
- 第9回 乳幼児の異常症状と手当て(下痢・嘔吐の処理)
- 第10回 乳幼児の異常症状と手当て(審法)
- 第11回 乳幼児の事故と応急手当て DVD「応急手当」
- 第12回 心肺蘇生法実習 DVD「救命処置」
- 第13回 ワークショップ(健康教育)
- 第14回 ワークショップ(保健だより)
- 第15回 保育における環境衛生 集団保育と保健
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

※授業の最後に課題を課す。課題は「産婦人科の窓口から」河野美代子著(十月舎)の感想文を第10回目までに提出すること。(用紙はA4、字の大きさは10.5ポイント、1枚以上)

教科書

子どもの保健演習ガイド

著者： 高内正子

出版社： ケンパク社

出版年：

ISBN：

産婦人科の窓口から

著者： 河野美代子

出版社： 十月舎

出版年：

ISBN：

参考書

最新保育保健の基礎知識

著者： 日本保育園保健協議会

出版社： 日本小児医事出版社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

授業中課題（15）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（15）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 小児保健実習 <Zc>

担当者 森岡 順子

テーマ

子どもが健全に成長・発達するために必要な知識と技術を深める。

獲得目標

1、乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を習得する。2、乳幼児の健康管理の知識と技術を習得する。3、乳幼児の病気時の看護の知識と技術を習得する。4、乳幼児の事故防止・安全な保育環境の知識と技術を習得する。

授業の内容

乳幼児の日常生活の養護・健康管理・病気時の看護・事故防止・安全な保育環境について実習等を通して身につける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、保育に必要な保健演習 子どもの保健と保育者の保健(手洗い)
- 第2回 乳幼児の養護(抱き方、おんぶの仕方)
- 第3回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)
- 第4回 乳幼児の養護(衣服の着脱、おむつ交換)
- 第5回 子どもの健康と健康観察DVD「赤ちゃんの健康」 乳幼児の歯の健康(歯ブラシ持参)
- 第6回 乳幼児の身体計測 DVD「身体計測」
- 第7回 乳幼児の生理機能の測定 DVD「バイタルサイン測定」
- 第8回 乳幼児の精神・運動機能の発達 DVD「赤ちゃんの発育」
- 第9回 乳幼児の異常症状と手当て(下痢・嘔吐の処理)
- 第10回 乳幼児の異常症状と手当て(審法)
- 第11回 乳幼児の事故と応急手当て DVD「応急手当」
- 第12回 心肺蘇生法実習 DVD「救命処置」
- 第13回 ワークショップ(健康教育)
- 第14回 ワークショップ(保健だより)
- 第15回 保育における環境衛生 集団保育と保健
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

※授業の最後に課題を課す。課題は「産婦人科の窓口から」河野美代子著(十月舎)の感想文を第10回目までに提出すること。(用紙はA4、字の大きさは10.5ポイント、1枚以上)

教科書

子どもの保健演習ガイド

著者： 高内正子

出版社： ケンパク社

出版年：

ISBN：

産婦人科の窓口から

著者： 河野美代子

出版社： 十月舎

出版年：

ISBN：

参考書

最新保育保健の基礎知識

著者： 日本保育園保健協議会

出版社： 日本小児医事出版社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

授業中課題（15）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（15）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 家族援助論 <Z>

担当者 古橋 紗人子

テーマ

保育所・子育て支援活動の現状を中心に、子どもや親・家庭への支援を考える。

獲得目標

1. 家庭の意義とその機能について理解する。2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。3. 子育て家庭の支援体制について理解する。4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

授業の内容

保育所や子育て支援事業等における、利用者の主体性や自助をより尊重した「家庭支援論」の理解について、テキストを中心に参考書(絵本・小説・保育月刊誌)や、事例を紹介しながら授業をすすめます。講義の他に家庭支援の視点から「連絡帳」や「指導計画」の書き方の実際についても学ぶ授業を目指します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 自己紹介 授業の進め方 「援助」と「支援」という言葉について
- 第2回 1. 家庭支援の意義と役割 (1)家庭の意義と機能 子どもの成長・発達と家庭
- 第3回 1. 家庭支援の意義と役割 (2)家庭支援の必要性 子どもの成長と親の成長 個別指導計画—保護者支援
- 第4回 1. 家庭支援の意義と役割 (3)保育士等が行う家庭支援の原理 小テスト
- 第5回 2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (1)現代の家庭における人間関係 連絡帳の書き方
- 第6回 2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (2)地域社会の変容と家庭支援
- 第7回 2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (3)男女共同参画社会とワークライフバランス 小テスト
- 第8回 3. 子育て家庭の支援体制 (1)子育て家庭の福祉を図るための社会資源
- 第9回 3. 子育て家庭の支援体制 (2)子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 小テスト
- 第10回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (1)子育て支援サービスの概要
- 第11回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (2)保育所入所児童の家庭への支援 リーフレット作成
- 第12回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (3)地域の子育て家庭への支援
- 第13回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (4)養保護児童及びその家庭に対する支援
- 第14回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (5)子育て支援における関係機関との連携
- 第15回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (6)子育て支援サービスの課題 小テスト

授業以外での学習方法

- ①参考書を読む。 ②保育所・子育て支援事業・児童館などで自主実習させていただき実践力をつける。

教科書

家族援助論

著者： 野澤正子・森本美絵

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2008

ISBN:

参考書

愛着崩壊—子どもを愛せない大人たち

著者： 岡田尊司

出版社： 角川選書

出版年： 2012

ISBN:

こどもへのまなざし 完

著者: 佐々木正美

出版社: 福音館書店

出版年: 2010

ISBN:

赤ちゃんから学ぶ「乳児保育の実践力」—保育所・家庭で役立つ

著者: 川原佐公・古橋紗人子

出版社: 保育出版社

出版年: 2010

ISBN:

子どもの脳を守る—小児脳神経外科医の報告

著者: 山崎麻美

出版社: 集英社新書

出版年: 2007

ISBN:

わたし

著者: たにがわ俊太郎・文 長新太・絵

出版社: 福音館書店

出版年: 1981

ISBN:

まいごになったぞう

著者: 寺村輝夫・文 上村勉・絵

出版社: 偕成社

出版年: 1989

ISBN:

ねんねん ねこねこ

著者: ながのひでこ

出版社: アリス館

出版年: 1996

ISBN:

国銅

著者: 篤木蓬生

出版社: 新潮文庫

出版年: 2006

ISBN:

月刊 保育とカリキュラム

著者:

出版社: ひかりのくに株式会社

出版年: 2013

ISBN:

成績評価

試験 (なし)

小テスト (40)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

試験

参考URL

2013 Syllabus

科目名 養護内容 <Za>

担当者 春田 真樹

テーマ

様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。

獲得目標

児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。

授業の内容

基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設でリアルタイムで働いている強みを活かし、実例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。

内 容

- 第1回 子どもの養護と保育士① オリエンテーション
 - 第2回 子どもの養護と保育士②
 - 第3回 施設養護のプロセスの理解
 - 第4回 施設養護のプロセスの展開(児童養護施設のDVD鑑賞)
 - 第5回 保育士の基本的な社会的養護援助・支援
 - 第6回 こころの援助①
 - 第7回 こころの援助②
 - 第8回 中間の振り返り(児童養護施設のDVD鑑賞)
 - 第9回 親子関係の援助
 - 第10回 地域・学校との関係づくり
 - 第11回 自己表現・自立への支援・援助① 自立の考え方
 - 第12回 自己表現・自立への支援・援助② 自立に向けた支援・援助
 - 第13回 児童福祉施設の運営管理
 - 第14回 児童福祉施設における保育士の資質と倫理
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること(たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等)により、授業の内容がより実感として理解できると思います。

教科書

保育士をめざす人の社会的養護内容

著者： 辰巳隆・岡本真幸 編

出版社： 株式会社 みらい

出版年： 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **養護内容 <Zb>**

担当者 春田 真樹

テーマ

様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。

獲得目標

児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。

授業の内容

基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設でリアルタイムで働いている強みを活かし、実例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。

内 容

- 第1回 子どもの養護と保育士① オリエンテーション
- 第2回 子どもの養護と保育士②
- 第3回 施設養護のプロセスの理解
- 第4回 施設養護のプロセスの展開(児童養護施設のDVD鑑賞)
- 第5回 保育士の基本的な社会的養護援助・支援
- 第6回 こころの援助①
- 第7回 こころの援助②
- 第8回 中間の振り返り(児童養護施設のDVD鑑賞)
- 第9回 親子関係の援助
- 第10回 地域・学校との関係づくり
- 第11回 自己表現・自立への支援・援助① 自立の考え方
- 第12回 自己表現・自立への支援・援助② 自立に向けた支援・援助
- 第13回 児童福祉施設の運営管理
- 第14回 児童福祉施設における保育士の資質と倫理
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること(たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等)により、授業の内容がより実感として理解できると思います。

教科書

保育士をめざす人の社会的養護内容

著者： 辰巳隆・岡本真幸 編

出版社： 株式会社 みらい

出版年： 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育実習 I <Z>

担当者 口野 隆史・加用 美代子

テーマ

獲得目標

保育所での保育活動に参加して乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。また、それらを通じて、今後の各自の学習・研究課題を認識する。

授業の内容

保育所でのおおむね10日間の実習の中で、以下の内容に取り組む ①保育課程・各クラスの指導計画の実際に触れ、保育における意義を学ぶ。②乳児から就学前までの子どもの遊びと生活・発達を知るとともに、援助・指導の技術を学ぶため、おおよそ各年齢クラスでの保育を経験する。実習期間の後半は、一定のクラスでの保育に継続参加する。③後半の期間で、部分実習(「朝の会」あるいは午前中の「主活動」程度を想定)とその指導計画の立案を試みる。ここにいたるまでに、「絵本の読み聞かせ(語り)」「歌遊びや手遊び」など短時間の部分実習を経験しながら段階を追っていけることが望ましい。④保育所と家庭との連絡ノートやお便り、保育士と保護者のかかわりなどの実際に触れ、家庭との連携・コミュニケーションのとり方を学ぶ。⑤その他、安全や疾病予防への配慮、職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理などについて、具体的な姿を学ぶ。また、保育士と子どものかかわりや保育所全体の取り組みを通して、子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。

内 容

第1回 実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。

授業以外での学習方法

事前事後指導に必ず参加すると共に、今までの授業で学んだことを振り返って確認し、さらに必要な知識・技能の習得を自主的に進める。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

実習施設による評価を踏まえて、実習記録・実習訪問指導や面談時の状況・実習後の提出課題等から総合的に判断する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 児童教育総合演習〈a〉

担当者 倉持 祐二

テーマ

現代社会の中での子どもたちの学びの状況をさぐり、学ぶことの意味をさまざまな視点から追究してみよう。

獲得目標

現代社会の中での子どもたちの学びの状況をつかみ、「学ぶ」とはどういうことなのかを考える視点を学ぶ。また、ゼミでの集団討議を通して、テーマや問いの設定、議論の進め方、まとめ方についても学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 「子どもが楽しめる企画と技術」細案の検討
- 第2回 夏のフィールドワークのまとめと後期の取り組みについて
- 第3回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論①
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組み
- 第5回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論②
- 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の総括
- 第7回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論③
- 第8回 フィールドワークのまとめ①
- 第9回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論④
- 第10回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑤
- 第11回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑥
- 第12回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑦
- 第13回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑧
- 第14回 フィールドワークのまとめ②
- 第15回 児童教育総合演習の総括

授業以外での学習方法

教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。

教科書

「学ぶ」ということの意味』

著者： 佐伯胖

出版社： 岩波書店

出版年： 1995年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 児童教育総合演習

担当者 池田 修

テーマ

現代社会の中で子どもたちの学びの状況をさぐり、学ぶことの意味をさまざまな視点から追究してみよう。

獲得目標

現代社会の中で子どもたちの学びの状況をつかみ、「学ぶ」とはどういうことなのかを考える視点を学ぶ。また、ゼミでの集団討議を通して、テーマや問いの設定、議論の進め方、まとめ方についても学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 「子どもが楽しめる企画と技術」細案の検討
- 第2回 夏のフィールドワークのまとめと後期の取り組みについて
- 第3回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論①
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組み
- 第5回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論②
- 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の総括
- 第7回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論③
- 第8回 フィールドワークのまとめ①
- 第9回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論④
- 第10回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑤
- 第11回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑥
- 第12回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑦
- 第13回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑧
- 第14回 フィールドワークのまとめ②
- 第15回 児童教育総合演習の総括

授業以外での学習方法

教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。

教科書

「学ぶ」ということの意味』

著者： 佐伯胖

出版社： 岩波書店

出版年： 1995年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 児童教育総合演習 <c>

担当者 三上 周治

テーマ

現代社会の中で子どもたちの学びの状況をさぐり、学ぶことの意味をさまざまな視点から追究してみよう。

獲得目標

現代社会の中で子どもたちの学びの状況をつかみ、「学ぶ」とはどういうことなのかを考える視点を学ぶ。また、ゼミでの集団討議を通して、テーマや問いの設定、議論の進め方、まとめ方についても学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 「子どもが楽しめる企画と技術」細案の検討
- 第2回 夏のフィールドワークのまとめと後期の取り組みについて
- 第3回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論①
- 第4回 「子どもが楽しめる企画と技術」の取り組み
- 第5回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論②
- 第6回 「子どもが楽しめる企画と技術」の総括
- 第7回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論③
- 第8回 フィールドワークのまとめ①
- 第9回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論④
- 第10回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑤
- 第11回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑥
- 第12回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑦
- 第13回 『「学ぶ」ということの意味』をめぐる議論⑧
- 第14回 フィールドワークのまとめ②
- 第15回 児童教育総合演習の総括

授業以外での学習方法

教育現場のフィールドワークを行い、定期的にレポートを提出する。新聞やニュースを通して、社会における教育や子どもの状況をつかみ、問題意識を持つ。教育・子育てに関わる書物を読む。

教科書

『学ぶ』ということの意味』

著者： 佐伯胖

出版社： 岩波書店

出版年： 1995年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 特別活動論(初)

担当者 土作 彰

テーマ

集団で学び合う意義

獲得目標

①特別活動の基本的な概念を理解すること。②全教育活動の中で特別活動の視点を活かした学級経営、授業展開をいかに工夫するかを考察し理解すること。

授業の内容

講義は極力減らし、模擬授業を主に進める。その後、グループで授業づくり演習、検討会を行う。「教育現場では何が必要故、何をどのようにすべきなのか」という視点を常に持ち続けながら進めていく。

内 容

- 第1回 授業ガイダンスと特別活動の内容・意義
- 第2回 集団教育の意義
- 第3回 学級づくりと授業づくり(国語編)
- 第4回 学級づくりと授業づくり(算数・理科編)
- 第5回 学級崩壊を考える
- 第6回 授業づくり演習と検討(1～3班)
- 第7回 児童会活動・クラブ活動・学校行事(異学級、異学年の指導)
- 第8回 学級づくりと授業づくり(理科・社会編)
- 第9回 授業づくり演習と検討(4～6班)
- 第10回 学級づくりと授業づくり(道徳・学活編)
- 第11回 学級づくりと授業づくり(体育・図工編)
- 第12回 授業づくり演習と検討(7～9班)
- 第13回 ワークショップ型ステーション授業と日々の授業
- 第14回 まとめ①
- 第15回 まとめ②

授業以外での学習方法

様々な集団(教育集団は勿論のことバイト先やサークルなど)で、「自分一人だけでは決して身に付かない力は何か?」という視点を持ちながら毎日を大切に過ごして欲しい。また、特別活動に関する実践記録をたくさん読んで欲しい。

教科書

教室に笑顔があふれる 学級づくりミニネタ&コツ101

著者: 土作 彰

出版社: 学事出版

出版年: 2008年

ISBN: 9.78476E+12

参考書

教室のふんい気を変える ミニネタ活用の授業づくり

著者: 土作 彰

出版社: 学事出版

出版年:

ISBN:

やる気・集中力を持続させる 算数の授業ミニネタ&コツ101

著者:

出版社: 学事出版

出版年:

ISBN:

集中力を持続させる 理科の授業ミニネタ&コツ101

著者:

出版社: 学事出版

出版年:

ISBN:

やる気・集中力を持続させる 国語の授業ミニネタ&コツ101

著者:

出版社: 学事出版

出版年:

ISBN:

やる気・集中力を持続させる 社会科の指導ミニネタ&コツ101

著者:

出版社: 学事出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教科教育法(算数) <a>

担当者 小寺 隆幸

テーマ

小学校算数の指導法を理解する

獲得目標

算数の教科書を検討し、わかりやすい教え方を考え、実践できる力をつける

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説をもとに受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

内 容

- 第1回 小学校1年生の数概念指導
 - 第2回 1位数の加法・減法
 - 第3回 2位数の加法・減法
 - 第4回 整数の乗法
 - 第5回 整数の除法
 - 第6回 小数とその加減
 - 第7回 小数の乗除
 - 第8回 分数とその加減
 - 第9回 分数の乗除
 - 第10回 外延量と測定
 - 第11回 内包量
 - 第12回 小学校の先生の講義
 - 第13回 比例
 - 第14回 図形
 - 第15回 統計
-

授業以外での学習方法

算数が日常生活の中でどう使われているか普段から関心を持つ。基本的な考え方や意味を自分で説明できるようにする。

教科書

入門算数学第二版

著者： 黒木哲徳

出版社： 日本評論社

出版年： 2009年

ISBN： 4-535-78540-3

小学校学習指導要領解説 算数編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： 2009年

ISBN： 4-491-02373-1

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教科教育法(算数)

担当者 小寺 隆幸

テーマ

小学校算数の指導法を理解する

獲得目標

算数の教科書を検討し、わかりやすい教え方を考え、実践できる力をつける

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説をもとに受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

内 容

- 第1回 小学校1年生の数概念指導
 - 第2回 1位数の加法・減法
 - 第3回 2位数の加法・減法
 - 第4回 整数の乗法
 - 第5回 整数の除法
 - 第6回 小数とその加減
 - 第7回 小数の乗除
 - 第8回 分数とその加減
 - 第9回 分数の乗除
 - 第10回 外延量と測定
 - 第11回 内包量
 - 第12回 小学校の先生の講義
 - 第13回 比例
 - 第14回 図形
 - 第15回 統計
-

授業以外での学習方法

算数が日常生活の中でどう使われているか普段から関心を持つ。基本的な考え方や意味を自分で説明できるようにする。

教科書

入門算数学第二版

著者： 黒木哲徳

出版社： 日本評論社

出版年： 2009年

ISBN： 4-535-78540-3

小学校学習指導要領解説 算数編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： 2009年

ISBN： 4-491-02373-1

参考書

成績評価

試験（40）

授業中課題（20）

参加度（）

小テスト（20）

授業中発表等（20）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教科教育法(理科) <a>

担当者 三上 周治

テーマ

子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける

獲得目標

小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。

授業の内容

学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。

内 容

- 第1回 理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
- 第2回 「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進。光の反射。
- 第3回 「くうき」(ものの場所性・不可入性)
- 第4回 熱と温度／熱の伝導と熱の移動(対流・輻射)熱によるものの変化(Ⅰ):膨張
- 第5回 熱によるものの変化(Ⅱ):三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
- 第6回 種の実りと種の拡散
- 第7回 気体と燃焼＝気体
- 第8回 気体と燃焼＝燃焼
- 第9回 豆電球のつなぎ方＝回路／金属の3つの性質／光電池
- 第10回 磁石の性質とはたらき(小3&小6)／磁石ごまの製作
- 第11回 電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
- 第12回 「やじろべえ」を教材化する
- 第13回 「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
- 第14回 水溶液の性質とはたらき(1)＝酸性の水溶液
- 第15回 水溶液の性質とはたらき(2)＝アルカリ性の水溶液

授業以外での学習方法

(1)小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

小学校学習指導要領(理科編)

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

新しい理科の教科書 小学3年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学4年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学5年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学6年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

参考書

その都度紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト ()

授業中課題 (40)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教科教育法(理科) **

担当者 三上 周治

テーマ

子どもがわかって楽しい理科の授業が出来る教師になるための力をつける

獲得目標

小学校の理科は3年、4年、5年、6年の4学年であるが、この4年で子どもたちの認識発達は大きく変化する。各学年の子どもたちの発達に応じて、またその内容と方法に即して、子どもたちが集団の力で課題に向き合い自然を認識して行けるように組織して行く力量をつける。

授業の内容

学習指導要領の理科の目標、内容及び指導法について述べる。理科の内容は、物質・エネルギー、生命・地球の2領域である。この内容を児童の発達段階に応じて、観察や実験を通して究明する。また、指導計画・学習指導案・観察実験中の事故防止等についても扱う。

内 容

- 第1回 理科教育法と生活科教育法のねがい、学び方。学習指導要領と学年配列・年間計画「ふえ」づくり／厚紙のうぐいす笛／ストロー笛／「こま」づくり／紙テープのコマ
- 第2回 「音と光」音は振動。音の伝わり方。光の直進。光の反射。
- 第3回 「くうき」(ものの場所性・不可入性)
- 第4回 熱と温度／熱の伝導と熱の移動(対流・輻射)熱によるものの変化(Ⅰ):膨張
- 第5回 熱によるものの変化(Ⅱ):三態変化／300度の水蒸気。食塩の溶融。鉛・鉄と銅の溶融
- 第6回 種の実りと種の拡散
- 第7回 気体と燃焼＝気体
- 第8回 気体と燃焼＝燃焼
- 第9回 豆電球のつなぎ方＝回路／金属の3つの性質／光電池
- 第10回 磁石の性質とはたらき(小3&小6)／磁石ごまの製作
- 第11回 電磁石の性質とはたらき／電磁石づくり
- 第12回 「やじろべえ」を教材化する
- 第13回 「ものの溶け方」と「太陽・月の満ち欠け・星のうごき」
- 第14回 水溶液の性質とはたらき(1)＝酸性の水溶液
- 第15回 水溶液の性質とはたらき(2)＝アルカリ性の水溶液

授業以外での学習方法

(1)小学校現場での理科の授業を参観し授業の進め方について学ぶ。(2)学んだことをA4、1頁の教科通信風に仕立てて交流する。

教科書

小学校学習指導要領(理科編)

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

新しい理科の教科書 小学3年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学4年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学5年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

同・小学6年

著者:

出版社: 文一総合出版

出版年:

ISBN:

参考書

その都度紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教科教育法(音楽) <a>

担当者 佐野 仁美

テーマ

音楽授業をつくる

獲得目標

(1)小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。(2)授業を進めるための実践的な方法を理解する。(3)特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる。

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

内 容

- 第1回 オリエンテーションー音楽科教育の目的
- 第2回 表現・歌唱ー共通教材
- 第3回 表現・歌唱ー教科書歌唱教材
- 第4回 表現・歌唱ー合唱曲、世界の歌
- 第5回 表現・歌唱と器楽ーリズム
- 第6回 表現・器楽ーリコーダー、鍵盤ハーモニカ
- 第7回 表現・器楽ー合奏
- 第8回 表現・創作ー音楽づくりと手作り楽器
- 第9回 鑑賞ー鑑賞教材による授業づくり
- 第10回 国際理解／異文化理解に挑戦する授業
- 第11回 授業行為と音楽授業
- 第12回 実践事例から学ぶ
- 第13回 指導案の作成と準備
- 第14回 模擬授業ー器楽・創作
- 第15回 模擬授業ー歌唱

授業以外での学習方法

音楽および音楽教育に関する本や雑誌を読む。

教科書

初等科音楽教育法(改訂版)

著者： 初等科音楽教育研究会編

出版社： 音楽之友社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教科教育法(音楽) **

担当者 佐野 仁美

テーマ

音楽授業をつくる

獲得目標

(1)小学校の音楽授業を構成することのできる能力を育てる。(2)授業を進めるための実践的な方法を理解する。(3)特色のある音楽授業を参考に、複数の観点から授業を計画し、適切な方法を提案することができる。

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。積極的な発言、活動を期待する。

内 容

- 第1回 オリエンテーションー音楽科教育の目的
- 第2回 表現・歌唱ー共通教材
- 第3回 表現・歌唱ー教科書歌唱教材
- 第4回 表現・歌唱ー合唱曲、世界の歌
- 第5回 表現・歌唱と器楽ーリズム
- 第6回 表現・器楽ーリコーダー、鍵盤ハーモニカ
- 第7回 表現・器楽ー合奏
- 第8回 表現・創作ー音楽づくりと手作り楽器
- 第9回 鑑賞ー鑑賞教材による授業づくり
- 第10回 国際理解／異文化理解に挑戦する授業
- 第11回 授業行為と音楽授業
- 第12回 実践事例から学ぶ
- 第13回 指導案の作成と準備
- 第14回 模擬授業ー器楽・創作
- 第15回 模擬授業ー歌唱

授業以外での学習方法

音楽および音楽教育に関する本や雑誌を読む。

教科書

初等科音楽教育法(改訂版)

著者： 初等科音楽教育研究会編

出版社： 音楽之友社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教科教育法(家庭) <a>

担当者 大塚 真理子

テーマ

初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。

獲得目標

家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。

授業の内容

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

内 容

- 第1回 学習指導要領改訂のいきさつ
- 第2回 家庭科の内容構成
- 第3回 家庭科の目標・内容
- 第4回 指導計画作成上の留意点
- 第5回 家庭科学習指導案の書き方(1)(教材と教具)
- 第6回 家庭科学習指導案の書き方(2)(児童と生活実態)
- 第7回 年間指導計画、題材計画について
- 第8回 指導形態及び指導方法
- 第9回 視聴覚教材とその取り扱いについて
- 第10回 授業をする技術
- 第11回 評価の目的・評価の観点について
- 第12回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する①(日常の食事と調理)
- 第13回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する②(衣服と住まい)
- 第14回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する③(消費生活と環境)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

家庭や生活、特に子どもの生活課題に関する記事やニュースに関心を持ってください。家庭科の指導や、授業の題材につながるものが多いことに気付くでしょう。

教科書

教科書「新しい家庭5・6」

著者:

出版社: 東京書籍

出版年:

ISBN:

初等家庭科教育法

著者: 加地芳子・大塚真理子

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011

ISBN:

参考書

小学校学習指導要領解説 家庭編

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

授業中課題は指導案や実習レポート、製作品などである。参加度は班活動や授業の感想などから評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教科教育法(家庭) **

担当者 大塚 真理子

テーマ

初等教育における家庭科の指導者としての資質を備えることを目指す。

獲得目標

家庭科教育の内容について具体的に題材を教材として取り上げ、その教材の意義や指導方法について探求する。

授業の内容

各自、指導案を作成、模擬授業を行う。

内 容

- 第1回 学習指導要領改訂のいきさつ
- 第2回 家庭科の内容構成
- 第3回 家庭科の目標・内容
- 第4回 指導計画作成上の留意点
- 第5回 家庭科学習指導案の書き方(1)(教材と教具)
- 第6回 家庭科学習指導案の書き方(2)(児童と生活実態)
- 第7回 年間指導計画、題材計画について
- 第8回 指導形態及び指導方法
- 第9回 視聴覚教材とその取り扱いについて
- 第10回 授業をする技術
- 第11回 評価の目的・評価の観点について
- 第12回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する①(日常の食事と調理)
- 第13回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する②(衣服と住まい)
- 第14回 模擬授業を行い教材研究や指導方法を検討する③(消費生活と環境)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

家庭や生活、特に子どもの生活課題に関する記事やニュースに関心を持ってください。家庭科の指導や、授業の題材につながるものが多いことに気付くでしょう。

教科書

教科書「新しい家庭5・6」

著者:

出版社: 東京書籍

出版年:

ISBN:

初等家庭科教育法

著者: 加地芳子・大塚真理子

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011

ISBN:

参考書

小学校学習指導要領解説 家庭編

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

授業中課題は指導案や実習レポート、製作品などである。参加度は班活動や授業の感想などから評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(健康) I <幼a>

担当者 口野 隆史

テーマ

獲得目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の内容

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

内 容

- 第1回 本学科のカリキュラムになぜ「保育内容(健康)」という科目があるのか?
- 第2回 健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
- 第3回 就学前の子どもたちの理解(発達段階の概要の把握)
- 第4回 人間の身体と健康についての理解(個体発生と系統発生)
- 第5回 子どもの健康をとりまく環境の理解
- 第6回 子どもの食事と偏食(「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら?)
- 第7回 『幼稚園教育要領』の内容(特に健康領域)の理解
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

1. 保育園・幼稚園で子どもたちと運動遊びなどをする機会があれば、子どもたちの様子をよく見て下さい。また、保育者がどのように子どもたちに指導しているかも見、自分ならどうするかも考えてみて下さい。2. テレビや新聞の子どもの遊び、体育、教育に関する問題にも注意を払って見てみて下さい。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

a30102e950

しっかり出席して下さい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(健康) I <幼b>

担当者 口野 隆史

テーマ

獲得目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の内容

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

内 容

- 第1回 本学科のカリキュラムになぜ「保育内容(健康)」という科目があるのか?
- 第2回 健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
- 第3回 就学前の子どもたちの理解(発達段階の概要の把握)
- 第4回 人間の身体と健康についての理解(個体発生と系統発生)
- 第5回 子ども健康をとりまく環境の理解
- 第6回 子どもの食事と偏食(「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら?)
- 第7回 『幼稚園教育要領』の内容(特に健康領域)の理解
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

1. 保育園・幼稚園で子どもたちと運動遊びなどをする機会があれば、子どもたちの様子をよく見て下さい。また、保育者がどのように子どもたちに指導しているかも見、自分ならどうするかも考えてみて下さい。2. テレビや新聞の子どもの遊び、体育、教育に関する問題にも注意を払って見てみて下さい。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

しっかり出席して下さい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **保育内容演習(健康) I <児>**

担当者 田中 真紀

テーマ

獲得目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の内容

乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解を深める。同時に現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境も理解し、子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を身に付ける。

内 容

- 第1回 本学科のカリキュラムになぜ「保育内容(健康)」という科目があるのか?
- 第2回 健康とは何か。健康の概念、健康観の変遷
- 第3回 就学前の子どもたちの理解(発達段階の概要の把握)
- 第4回 人間の身体と健康についての理解(個体発生と系統発生)
- 第5回 子どもの健康をとりまく環境の理解
- 第6回 子どもの食事と偏食(「ライオンはお肉しか食べない」と子どもに言われたら?)
- 第7回 『幼稚園教育要領』の内容(特に健康領域)の理解
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(健康)Ⅱ <幼a>

担当者 口野 隆史

テーマ

獲得目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の内容

Iで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。

内 容

- 第1回 人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
- 第2回 幼児の体育(健康)の指導計画の作成について
- 第3回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)①(鬼ごっこ的な内容のもの)
- 第4回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)②(球技的な内容のもの)
- 第5回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)③(器械運動的な内容のもの)
- 第6回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)④(かけっこ・陸上競技的な内容のもの)
- 第7回 模擬保育の振り返り
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

1. 保育園・幼稚園で子どもたちと運動遊びなどをする機会があれば、子どもたちの様子をよく見て下さい。また、保育者がどのように子どもたちに指導しているかも見、自分ならどうするかも考えてみて下さい。2. テレビや新聞の子どもの遊び、体育、教育に関する問題にも注意を払って見てみて下さい。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

a30102f050

しっかり出席して下さい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(健康)Ⅱ〈幼b〉

担当者 口野 隆史

テーマ

獲得目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の内容

Iで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。

内 容

- 第1回 人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
- 第2回 幼児の体育(健康)の指導計画の作成について
- 第3回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)①(鬼ごっこ的な内容のもの)
- 第4回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)②(球技的な内容のもの)
- 第5回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)③(器械運動的な内容のもの)
- 第6回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)④(かけっこ・陸上競技的な内容のもの)
- 第7回 模擬保育の振り返り
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

1. 保育園・幼稚園で子どもたちと運動遊びなどをする機会があれば、子どもたちの様子をよく見て下さい。また、保育者がどのように子どもたちに指導しているかも見、自分ならどうするかも考えてみて下さい。2. テレビや新聞の子どもの遊び、体育、教育に関する問題にも注意を払って見てみて下さい。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

a30102f052

しっかり出席して下さい

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(健康)Ⅱ〈児〉

担当者 田中 真紀

テーマ

獲得目標

乳幼児の運動発達、保育所・幼稚園における健康・体育領域の指導について理解する

授業の内容

Iで学んだ、乳幼児の運動発達、運動遊びの指導について理解、現代の子どもたちが置かれている状況(生活習慣や生活リズム)・環境に対する理解をもとに、実際に子どもたちの全面的な発達を促すために必要な指導・援助の技術・技能を、模擬保育の演習を通じて身に付ける。

内 容

- 第1回 人間の運動発達と子どもの運動遊びについての理解
- 第2回 幼児の体育(健康)の指導計画の作成について
- 第3回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)①(鬼ごっこ的な内容のもの)
- 第4回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)②(球技的な内容のもの)
- 第5回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)③(器械運動的な内容のもの)
- 第6回 グループ別研究発表(運動遊びの模擬保育)④(かけっこ・陸上競技的な内容のもの)
- 第7回 模擬保育の振り返り
- 第8回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係) I <幼A>

担当者 加用 美代子

テーマ

獲得目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の内容

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
 - 第3回 社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況 現代の家庭と地域社会
 - 第4回 人との関わりが育つ道すじ① 発達初期の人との関わり形成
 - 第5回 人との関わりが育つ道すじ② おとなへの依存と自立
 - 第6回 人との関わりが育つ道すじ③ 子ども同士の関係のなかで
 - 第7回 多文化社会のなかでの保育
 - 第8回 保護者との関係づくり
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

授業中に指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

a30102f150

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係) I <幼B>

担当者 加用 美代子

テーマ

獲得目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の内容

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
 - 第3回 社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況 現代の家庭と地域社会
 - 第4回 人との関わりが育つ道すじ① 発達初期の人との関わり形成
 - 第5回 人との関わりが育つ道すじ② おとなへの依存と自立
 - 第6回 人との関わりが育つ道すじ③ 子ども同士の関係のなかで
 - 第7回 多文化社会のなかでの保育
 - 第8回 保護者との関係づくり
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

授業中に指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

a30102f152

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係) I <幼C>

担当者 加用 美代子

テーマ

獲得目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の内容

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
 - 第3回 社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況 現代の家庭と地域社会
 - 第4回 人との関わりが育つ道すじ① 発達初期の人との関わり形成
 - 第5回 人との関わりが育つ道すじ② おとなへの依存と自立
 - 第6回 人との関わりが育つ道すじ③ 子ども同士の関係のなかで
 - 第7回 多文化社会のなかでの保育
 - 第8回 保護者との関係づくり
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

授業中に指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

a30102f153

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係) I <児>

担当者 谷口 敦子

テーマ

獲得目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の内容

人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を現場での観察や多様な保育実践からの学びを通して具体的に理解していく。

内 容

- 第1回 授業の進め方について
 - 第2回 保育所保育指針、幼稚園教育要領にみる保育内容・人間関係
 - 第3回 社会の変化と子どもを取り巻く人間関係の状況 現代の家庭と地域社会
 - 第4回 人との関わりが育つ道すじ① 発達初期の人との関わり形成
 - 第5回 人との関わりが育つ道すじ② おとなへの依存と自立
 - 第6回 人との関わりが育つ道すじ③ 子ども同士の関係のなかで
 - 第7回 多文化社会のなかでの保育
 - 第8回 保護者との関係づくり
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

授業中指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (50)

授業中発表等 (10)

a30102f154

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係)Ⅱ〈幼A〉

担当者 加用 美代子

テーマ

獲得目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の内容

Iで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

内 容

- 第1回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討
 - 第2回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討のまとめ
 - 第3回 子ども同士の関係と保育者—面白さや楽しさを広げる 事例検討
 - 第4回 子ども同士の関係と保育者—ぶつかり合い・対立 事例検討
 - 第5回 子ども同士の関係と保育者—協力して生活を作り出す 事例検討
 - 第6回 子ども同士との関係と保育者—異年齢の子ども同士の関わり 事例検討
 - 第7回 子ども同士の関係と保育者 事例検討のまとめ
 - 第8回 全体と通してのまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

授業中に指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

a30102f250

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係)Ⅱ〈幼B〉

担当者 加用 美代子

テーマ

獲得目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の内容

Iで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

内 容

- 第5回 子ども同士の関係と保育者—協力して生活を作り出す 事例検討
 - 第6回 子ども同士との関係と保育者—異年齢の子ども同士の関わり 事例検討
 - 第7回 子ども同士の関係と保育者 事例検討のまとめ
 - 第8回 全体と通してのまとめ
 - 第1回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討
 - 第2回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討のまとめ
 - 第3回 子ども同士の関係と保育者—面白さや楽しさを広げる 事例検討
 - 第4回 子ども同士の関係と保育者—ぶつかり合い・対立 事例検討
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

授業中に指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

a30102f252

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係)Ⅱ〈幼C〉

担当者 加用 美代子

テーマ

獲得目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の内容

Iで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

内 容

- 第1回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討
 - 第2回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討のまとめ
 - 第3回 子ども同士の関係と保育者—面白さや楽しさを広げる 事例検討
 - 第4回 子ども同士の関係と保育者—ぶつかり合い・対立 事例検討
 - 第5回 子ども同士の関係と保育者—協力して生活を作り出す 事例検討
 - 第6回 子ども同士との関係と保育者—異年齢の子ども同士の関わり 事例検討
 - 第7回 子ども同士の関係と保育者 事例検討のまとめ
 - 第8回 全体と通してのまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育内容演習(人間関係)Ⅱ〈児〉

担当者 谷口 敦子

テーマ

獲得目標

人と関わる力の基盤を育てる保育。現代社会において乳幼児を取り巻く人間関係がどのような状況にあるのかを把握し、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を学ぶ。

授業の内容

Iで学んだ理論をもとに、人と関わる力を豊かに育てる保育の内容と保育者の役割を、現場での様々な事例を検討する中で具体的に理解していく。

内 容

- 第1回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討
 - 第2回 保育者と子どもの直接的関係 事例検討のまとめ
 - 第3回 子ども同士の関係と保育者—面白さや楽しさを広げる 事例検討
 - 第4回 子ども同士の関係と保育者—ぶつかり合い・対立 事例検討
 - 第5回 子ども同士の関係と保育者—協力して生活を作り出す 事例検討
 - 第6回 子ども同士との関係と保育者—異年齢の子ども同士の関わり 事例検討
 - 第7回 子ども同士の関係と保育者 事例検討のまとめ
 - 第8回 全体と通してのまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

授業中指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (50)

授業中発表等 (10)

a30102f254

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **音楽演習Ⅲ**

担当者 佐野 仁美

テーマ

弾き歌い曲のレパートリーを広げる。

獲得目標

1)ピアノ演奏技術の向上を図る。2)即興的コード伴奏法についての理解を深める。

授業の内容

受講生を2班に分け、ピアノ実技指導と子どもの歌のコード弾き歌いおよび音楽物語創作を並行して行う。ピアノ実技については、グレード別の4～5人のグループにおいて個人指導と互いのレッスン聴講を組み合わせることにより、教育・保育に役立つ技術が短期間で身に付くよう、効率よく進める。

内 容

- 第14回 音楽物語発表③、ピアノ実技試験曲
- 第15回 ピアノ実技試験、弾き歌い発表
- 第1回 コード進行の復習、バイエルNo.99、100
- 第2回 変ロ長調のコード進行(B♭、E♭、F、F7)、バイエルNo.99、100
- 第3回 変ロ長調のコード伴奏付け、バイエルNo.100、104
- 第4回 子どもの歌の弾き歌い(変ロ長調)、バイエルNo.104、人形の踊り
- 第5回 イ短調のコード進行(Am、Dm、E、E7)、人形の踊り、ツェルニー30番No.1
- 第6回 子どもの歌の弾き歌い(日本音階)、メヌエット、ツェルニー30番No.1
- 第7回 子どもの歌の弾き歌い、メヌエット、ツェルニー30番No.1
- 第8回 様々な種類の伴奏型、ツェルニー30番No.1
- 第9回 旋律の変奏、ソナチネアルバム第1巻No.1
- 第10回 効果音、即興的伴奏、ソナチネアルバム第1巻No.1
- 第11回 物語に音楽を付ける、ソナチネアルバム第1巻No.1
- 第12回 音楽物語発表①、ソナチネアルバム第1巻No.1
- 第13回 音楽物語発表②、ソナチネアルバム第1巻No.1

授業以外での学習方法

授業中の課題を各自で必ず予習・復習する。

教科書

全訳バイエル教則本

著者:

出版社: 全音楽譜出版社

出版年:

ISBN:

コードでかんたん! 子どものうたマイ・レパートリー

著者: 坂井康子他編著

出版社: ヤマハ・ミュージックメディア

出版年:

ISBN:

参考書

プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 学級担任論

担当者 池田 修

テーマ

学級担任とは何かを考える。

獲得目標

学級担任の仕事を理解する。やがて教師として学級担任を持つ時に必要な「引き出し」をできるだけ多く理解し、さらに身につけることを目指す。

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として学級担任の仕事を模擬的に行ってみる。学生諸君の積極的な発言、活動を期待する。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。

内 容

- 第1回 学級とは何か・授業ガイダンス。学級開きを通して、学級を考えてみる。先生と児童との距離感、黄金の三日間、3・7・30の法則。
- 第2回 学級担任の仕事。学級担任の仕事の種類や範囲を考えてみる。また、学級担任が「学級作り」で考えることを考える。担任窓口論、学級経営年間指導案、学級担任意務、学級通信、学級指導の記録などを手掛かりとする。
- 第3回 学級レクリエーション。子どもは遊びの中から学んでいく。その遊びを学級の中で最初に組織するのは担任である。学級レクリエーションの例を見ながら、いくつかの具体的な方法を実際にやってみる。
- 第4回 学級集団内のグループ。公的集団と私的集団。班作り(生活班と学習班)、実行委員会、専門委員会、生徒会、プロジェクトチーム、学習係、お助け組、会社、遊び仲間、女子集団、ソシオメトリなどを考える。
- 第5回 学級の環境作り。子どもは生活リズムと環境を土台にして学習を行う。そのために重要な「座席・掲示物・給食・掃除・教室美化」について指導方法を考える。
- 第6回 体験作文の指導。学級担任の仕事の大きな一つに、子どもたちに作文を書かせるというものがある。運動会、遠足、新学期など様々な場面で子どもたちに作文を書かせる。その指導方法に付いて学ぶ。
- 第7回 担任の一日の仕事を考える1。出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。
- 第8回 担任の一日の仕事を考える2。出勤から退勤までの流れの中で、担任の仕事を考えてみる。
- 第9回 場面別指導1。忘れ物、遅刻の指導を中心に扱う。
- 第10回 場面別指導2。私語、学習遅進児への対応を中心に扱う。
- 第11回 場面別指導3。喧嘩、いじめ、からかいなどのトラブルへの対応を中心に扱う。
- 第12回 保護者との関係作り。保護者との協力関係を作ることが、子どもの成長に繋がる。保護者会、家庭訪問、三者面談、電話対応などを中心に扱う。
- 第13回 学級担任としての写真講座。学級経営に生かす写真の在り方について考える。撮影、分析、提示などの観点から考える。
- 第14回 通知表の書き方。架空の児童の通知表を実際に書いてみる。通知表の相互評価。実際に書いてみた、架空の児童の通知表の相互評価を行う。
- 第15回 まとめ。「書き込み回覧作文」による学級担任論の授業評価。

授業以外での学習方法

学級担任は、子どもや保護者から見れば学校の窓口である。学校のすべての仕事が広く関わってくる。それぞれの仕事を理解し、有機的に関連づけて子どもの成長に活かすことが期待される。学習集団であり生活集団でもある学級を束ね、より高いところに導こうとする担任の仕事は多岐に渡り、豊かで複雑である。新聞記事などに出る教育の話題、問題、課題について、もし自分が学級担任ならどのように取り組むのかと日常的に考え、文章にまとめることを勧める。それは、教員採用試験の学習にも直結するであろう。また、可能であれば教育実習予定校、ボラ

教科書

こんな時どう言い返す

著者： 池田修

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

子どもと歩む 教師の12ヶ月

著者： 家本芳郎

出版社： 高文研

出版年：

ISBN：

シリーズ 明日の教室 第2巻 学級をつくる

著者： 「明日の教室」研究会

出版社： ぎょうせい

出版年：

ISBN：

新版 教師になるということ

著者： 池田修

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

新版 掃除サボリの教育学

著者： 家本芳郎

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

参考書

新採教師はなぜ追いつめられたのか

著者： 久富善之・佐藤博

出版社： 高文研

出版年：

ISBN：

先生！ 親ってそんなに怖いんですか？

著者： 星 幸宏

出版社： 立花書房

出版年：

ISBN：

必ずクラスがまとまる教師の成功術！

著者： 野中信行 横藤雅人

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

〈学級〉の歴史学

著者： 柳 治男

出版社： 講談社選書メチエ

出版年：

ISBN：

学級経営10の原理100の原則

著者： 堀 裕嗣

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

教師のための叱る作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

〈教育力〉をみがく

著者： 家本芳郎

出版社： 寺子屋新書

出版年：

ISBN：

いじめで子どもが壊れる前に

著者： 藤川大祐

出版社： 角川ONEテーマ新書

出版年：

ISBN：

クラスづくりの極意

著者： 岩瀬直樹

出版社： 農文協

出版年：

ISBN：

手軽に発行 学級通信のアイデア40

著者： 佐藤正寿

出版社： ひまわり社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（25）

授業中発表等（25）

参加度（50）

今までにご指導を頂いた先生などを中心として、尊敬する先生の履歴書を書くことを課題の一つとする。帰省した時等に、内諾を得ておくことが望ましい。学級経営案、学校経営案、学校の通知表などが手に入る場合は、手に入れておくが良い。

参考URL

風に吹かれて

<http://nonobu.way-nifty.com/blog/>

野中信行先生のブログ

学校から新しい風を！

<http://susumu.exblog.jp/>

糸井登先生のブログ

いわせんの仕事部屋

<http://d.hatena.ne.jp/iwasen/>

岩瀬直樹先生のブログ

2013 Syllabus

科目名 **社会的養護**

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護の現状及び課題の理解

獲得目標

社会的養護の現代的意義と歴史の変遷について学び、児童家庭福祉との関連性について理解する。また、社会的養護の制度および実施体形等を学び、子どもの権利擁護及び自立支援についての理解を深める。

授業の内容

社会的養護のもとにある子どもとその家族の課題・背景を理解し、彼らを支援する姿勢、援助計画、援助の進め方、活用資源などを学ぶ。

内 容

- 第1回 児童養護とは何か
 - 第2回 現代社会に暮らす子どもと家庭
 - 第3回 子どもの権利
 - 第4回 子どもの養護の歴史
 - 第5回 児童養護の体系
 - 第6回 児童養護の制度
 - 第7回 施設養護の特質
 - 第8回 施設養護の基本原理
 - 第9回 日常生活及び自立支援
 - 第10回 治療的・支援的援助
 - 第11回 親子、地域との関係調整
 - 第12回 児童養護とソーシャルワーク
 - 第13回 児童福祉施設の運営管理
 - 第14回 児童養護のあるべき姿
 - 第15回 まとめと理解度調査
-

授業以外での学習方法

講義中に紹介された参考文献を読み進める。

教科書

社会的養護

著者： 小池由佳/山縣文治

出版社： ミネルバ書房

出版年： 2010

ISBN： 978-4-623-05669

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (60)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **こどもの保健Ⅱ〈幼A〉**

担当者 齋藤 洋子

テーマ

子どもが健全に成長・発達するために必要な知識と技術を深める。

獲得目標

1. 乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を習得する。2. 乳幼児の健康管理の知識と技術を習得する。3. 乳幼児の病気時の看護の知識と技術を習得する。4. 乳幼児の事故防止、安全な保育環境の知識と技術を習得する。

授業の内容

乳幼児の日常生活の養護、健康管理、病気時の看護、事故防止、安全な保育環境について実習等を通して身につける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、保育に必要な保健演習 子どもの保健と保育者の保健(手洗い)
 - 第2回 乳幼児の養護(抱き方、おんぶの仕方)
 - 第3回 乳幼児の養護(衣類の着脱、おむつ交換)
 - 第4回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)
 - 第5回 子供の健康と健康観察 DVD「赤ちゃんの健康」
 - 第6回 乳幼児の身体計測 DVD「身体計測」
 - 第7回 乳幼児の生理機能の測定 DVD「バイタルサインの測定」
 - 第8回 乳幼児の精神・運動機能の発達 DVD「赤ちゃんの発育」
 - 第9回 乳幼児の異常症状と手当(下痢、嘔吐の処理)
 - 第10回 乳幼児の異常症状と手当(霍乱) 乳幼児の歯の健康(歯ブラシ持参)
 - 第11回 ワークショップ「健康教育」
 - 第12回 乳幼児の事故と応急手当 DVD「応急手当」
 - 第13回 心肺蘇生法 DVD「救命処置」
 - 第14回 ワークショップ「保健だより」
 - 第15回 保育における環境衛生 集団保育と保健
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

教科書

子どもの保健演習ガイド

著者： 高内正子 編著

出版社： 建帛社

出版年：

ISBN：

産婦人科の窓口から

著者： 河野美代子

出版社： 十月舎

出版年：

ISBN：

参考書

保育保健の基礎知識

著者： 日本保育園保健協議会

出版社： 日本小児医事出版社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

授業中課題（15）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（15）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **こどもの保健Ⅱ〈幼B〉**

担当者 森岡 順子

テーマ

子どもが健全に成長・発達するために必要な知識と技術を深める。

獲得目標

1、乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を習得する。2、乳幼児の健康管理の知識と技術を習得する。3、乳幼児の病気時の看護の知識と技術を習得する。4、乳幼児の事故防止・安全な保育環境の知識と技術を習得する。

授業の内容

乳幼児の日常生活の養護・健康管理・病気時の看護・事故防止・安全な保育環境について実習等を通して身につける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、保育に必要な保健演習 子どもの保健と保育者の保健(手洗い)
- 第2回 乳幼児の養護(抱き方、おんぶの仕方)
- 第3回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)
- 第4回 乳幼児の養護(衣服の着脱、おむつ交換)
- 第5回 子どもの健康と健康観察DVD「赤ちゃんの健康」 乳幼児の歯の健康(歯ブラシ持参)
- 第6回 乳幼児の身体計測 DVD「身体計測」
- 第7回 乳幼児の生理機能の測定 DVD「バイタルサイン測定」
- 第8回 乳幼児の精神・運動機能の発達 DVD「赤ちゃんの発育」
- 第9回 乳幼児の異常症状と手当て(下痢・嘔吐の処理)
- 第10回 乳幼児の異常症状と手当て(審法)
- 第11回 乳幼児の事故と応急手当て DVD「応急手当」
- 第12回 心肺蘇生法実習 DVD「救命処置」
- 第13回 ワークショップ(健康教育)
- 第14回 ワークショップ(保健だより)
- 第15回 保育における環境衛生 集団保育と保健
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

※授業の最後に課題を課す。課題は「産婦人科の窓口から」河野美代子著(十月舎)の感想文を第10回目までに提出すること。(用紙はA4、字の大きさは10.5ポイント、1枚以上)

教科書

子どもの保健演習ガイド

著者： 高内正子

出版社： ケンパク社

出版年：

ISBN：

産婦人科の窓口から

著者： 河野美代子

出版社： 十月舎

出版年：

ISBN：

参考書

最新保育保健の基礎知識

著者： 日本保育園保健協議会

出版社： 日本小児医事出版社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

授業中課題（15）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（15）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **こどもの保健Ⅱ〈幼C〉**

担当者 森岡 順子

テーマ

子どもが健全に成長・発達するために必要な知識と技術を深める。

獲得目標

1、乳幼児の日常生活の養護の知識と技術を習得する。2、乳幼児の健康管理の知識と技術を習得する。3、乳幼児の病気時の看護の知識と技術を習得する。4、乳幼児の事故防止・安全な保育環境の知識と技術を習得する。

授業の内容

乳幼児の日常生活の養護・健康管理・病気時の看護・事故防止・安全な保育環境について実習等を通して身につける。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、保育に必要な保健演習 子どもの保健と保育者の保健(手洗い)
- 第2回 乳幼児の養護(抱き方、おんぶの仕方)
- 第3回 乳幼児の身体の清潔(沐浴)
- 第4回 乳幼児の養護(衣服の着脱、おむつ交換)
- 第5回 子どもの健康と健康観察DVD「赤ちゃんの健康」 乳幼児の歯の健康(歯ブラシ持参)
- 第6回 乳幼児の身体計測 DVD「身体計測」
- 第7回 乳幼児の生理機能の測定 DVD「バイタルサイン測定」
- 第8回 乳幼児の精神・運動機能の発達 DVD「赤ちゃんの発育」
- 第9回 乳幼児の異常症状と手当て(下痢・嘔吐の処理)
- 第10回 乳幼児の異常症状と手当て(審法)
- 第11回 乳幼児の事故と応急手当て DVD「応急手当」
- 第12回 心肺蘇生法実習 DVD「救命処置」
- 第13回 ワークショップ(健康教育)
- 第14回 ワークショップ(保健だより)
- 第15回 保育における環境衛生 集団保育と保健
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

※授業の最後に課題を課す。課題は「産婦人科の窓口から」河野美代子著(十月舎)の感想文を第10回目までに提出すること。(用紙はA4、字の大きさは10.5ポイント、1枚以上)

教科書

子どもの保健演習ガイド

著者: 高内正子

出版社: ケンパク社

出版年:

ISBN:

産婦人科の窓口から

著者: 河野美代子

出版社: 十月舎

出版年:

ISBN:

参考書

最新保育保健の基礎知識

著者： 日本保育園保健協議会

出版社： 日本小児医事出版社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

授業中課題（15）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（15）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 障害児保育〈幼a〉

担当者 三山 岳

テーマ

障害に関する基礎的知識と障害児保育の意義を学ぶ

獲得目標

障害児の保育を行っていくために必要な障害の基礎的な知識を学ぶとともに、実際の具体的な保育実践と支援の事例を読みながら障害児保育の意義を学びます。また障害児保育を行うために活用できる社会的資源や、その利用の仕方についても学びます。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス(“障がい”とは何か?)
- 第2回 障害児保育のあゆみと発達の権利
- 第3回 知的障害とダウン症の基礎知識
- 第4回 てんかん・脳性まひ・重度重複障害の基礎知識
- 第5回 ADHD・LDの基礎知識
- 第6回 自閉スペクトラム障害の基礎知識
- 第7回 自閉スペクトラム障害の基礎知識
- 第8回 グループ発表の学習とグループ交流
- 第9回 事例検討(グループ学習と発表)①
- 第10回 事例検討(グループ学習と発表)②
- 第11回 事例検討(グループ学習と発表)③
- 第12回 事例検討(グループ学習と発表)④
- 第13回 事例検討(グループ学習と発表)⑤
- 第14回 事例検討(グループ学習と発表)⑥
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

障害児保育の実践記録が書いてある本を探し、読んでみるようにしてください

教科書

発達障害児・気になる子の巡回相談—すべての子どもが「参加」する保育へ

著者： 浜谷直人

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2009

ISBN： 9.78462E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

グループ発表に積極的に参加しなかった人には追加課題が出されます

参考URL

2013 Syllabus

科目名 障害児保育〈幼b〉

担当者 三山 岳

テーマ

障害に関する基礎的知識と障害児保育の意義を学ぶ

獲得目標

障害児の保育を行っていくために必要な障害の基礎的な知識を学ぶとともに、実際の具体的な保育実践と支援の事例を読みながら障害児保育の意義を学びます。また障害児保育を行うために活用できる社会的資源や、その利用の仕方についても学びます。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス(“障がい”とは何か?)
 - 第2回 障害児保育のあゆみと発達の権利
 - 第3回 知的障害とダウン症の基礎知識
 - 第4回 広汎性発達障害(自閉症・アスペルガー)の基礎知識
 - 第5回 ADHDの基礎知識
 - 第6回 LDの基礎知識と発達障害への対応
 - 第7回 肢体不自由とてんかんの基礎知識
 - 第8回 社会的資源と発達保障
 - 第9回 事例検討(グループ学習と発表)①
 - 第10回 事例検討(グループ学習と発表)②
 - 第11回 事例検討(グループ学習と発表)③
 - 第12回 事例検討(グループ学習と発表)④
 - 第13回 事例検討(グループ学習と発表)⑤
 - 第14回 事例検討(グループ学習と発表)⑥
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

障害児保育の実践記録が書いてある本を探し、読んでみるようにしてください

教科書

発達障害児・気になる子の巡回相談—すべての子どもが「参加」する保育へ

著者： 浜谷直人

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2009

ISBN： 9.78462E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

a30102h852

グループ発表に積極的に参加しなかった人には追加課題が出されます

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会的養護内容〈幼a〉**

担当者 春田 真樹

テーマ

様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。

獲得目標

児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。

授業の内容

基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設でリアルタイムで働いている強みを活かし、実例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。

内 容

- 第1回 子どもの養護と保育士① オリエンテーション
- 第2回 子どもの養護と保育士②
- 第3回 施設養護のプロセスの理解
- 第4回 施設養護のプロセスの展開(児童養護施設のDVD鑑賞)
- 第5回 保育士の基本的な社会的養護援助・支援
- 第6回 こころの援助①
- 第7回 こころの援助②
- 第8回 中間の振り返り(児童養護施設のDVD鑑賞)
- 第9回 親子関係の援助
- 第10回 地域・学校との関係づくり
- 第11回 自己表現・自立への支援・援助① 自立の考え方
- 第12回 自己表現・自立への支援・援助② 自立に向けた支援・援助
- 第13回 児童福祉施設の運営管理
- 第14回 児童福祉施設における保育士の資質と倫理
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること(たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等)により、授業の内容がより実感として理解できると思います。

教科書

保育士をめざす人の社会的養護内容

著者： 辰巳隆・岡本真幸 編

出版社： 株式会社 みらい

出版年： 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会的養護内容〈幼b〉**

担当者 春田 真樹

テーマ

様々な理由から家庭では養育されない児童に対して、家庭に替わる児童福祉施設の養育の意義と実際を理解する。

獲得目標

児童福祉施設で生活している児童の日常生活や職員の支援の実際を理解し、保育士として現場で活躍するための基礎知識を習得する。また、適宜グループ発表を行ったり、レポートを書いたりする中で、自ら考え表現する力を習得する。

授業の内容

基本的に教科書の項目に沿って授業を進めますが、児童養護施設でリアルタイムで働いている強みを活かし、実例を織り交ぜながら内容理解を深めていきます。また、施設のDVDを見たり、小グループを作り架空事例の検討やコミュニケーションスキルの模擬演習などを行い、次年度の施設実習に繋がるような授業となっています。

内 容

- 第1回 子どもの養護と保育士① オリエンテーション
- 第2回 子どもの養護と保育士②
- 第3回 施設養護のプロセスの理解
- 第4回 施設養護のプロセスの展開(児童養護施設のDVD鑑賞)
- 第5回 保育士の基本的な社会的養護援助・支援
- 第6回 こころの援助①
- 第7回 こころの援助②
- 第8回 中間の振り返り(児童養護施設のDVD鑑賞)
- 第9回 親子関係の援助
- 第10回 地域・学校との関係づくり
- 第11回 自己表現・自立への支援・援助① 自立の考え方
- 第12回 自己表現・自立への支援・援助② 自立に向けた支援・援助
- 第13回 児童福祉施設の運営管理
- 第14回 児童福祉施設における保育士の資質と倫理
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

実際に児童福祉施設を訪問してみましょう。まずは施設の職員から生活の実態について話を聞いてみましょう。そこから展開していき、子どもたちの生活場面に触れること(たとえば学習ボランティア、休日の遊び相手等)により、授業の内容がより実感として理解できると思います。

教科書

保育士をめざす人の社会的養護内容

著者： 辰巳隆・岡本真幸 編

出版社： 株式会社 みらい

出版年： 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育実習 I - 1

担当者 口野 隆史 加用 美代子

テーマ

獲得目標

保育所での保育活動に参加して乳幼児への理解を深めるとともに、保育所の機能とそこでの保育士の職務を学ぶ。また、それらを通じて、今後の各自の学習・研究課題を認識する。

授業の内容

保育所でのおおむね10日間の実習の中で、以下の内容に取り組む ①保育課程・各クラスの指導計画の実際に触れ、保育における意義を学ぶ。②乳児から就学前までの子どもの遊びと生活・発達を知るとともに、援助・指導の技術を学ぶため、おおよそ各年齢クラスでの保育を経験する。実習期間の後半は、一定のクラスでの保育に継続参加する。③後半の期間で、部分実習(「朝の会」あるいは午前中の「主活動」程度を想定)とその指導計画の立案を試みる。ここにいたるまでに、「絵本の読み聞かせ(語り)」「歌遊びや手遊び」など短時間の部分実習を経験しながら段階を追っていけることが望ましい。④保育所と家庭との連絡ノートやお便り、保育士と保護者のかかわりなどの実際に触れ、家庭との連携・コミュニケーションのとり方を学ぶ。⑤その他、安全や疾病予防への配慮、職員間の役割分担とチームワーク、保育士としての倫理などについて、具体的な姿を学ぶ。また、保育士と子どもとのかかわりや保育所全体の取り組みを通して、子どもの最善の利益を具体化する方法を学ぶ。

内 容

第1回 実習施設と相談の上、上記内容を計画的にすすめる。

第2回 事前事後指導に必ず参加すると共に、今までの授業で学んだことを振り返って確認し、さらに必要な知識・技能の習得を自主的に進める。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 体育実技〈幼a〉

担当者 新野 守

テーマ

いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技能の習熟

獲得目標

①スポーツのルールを理解し、基礎技能の習熟を図る。②お互いに教えあい、指導のポイントに迫る。

授業の内容

陸上運動、器械運動、球技運動を中心に各運動の実践、指導ポイントの整理及び各運動の運動遊びを行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 体づくり運動①器械運動テスト
 - 第3回 体づくり運動②体カテスト
 - 第4回 体づくり運動③
 - 第5回 鉄棒運動
 - 第6回 跳び箱運動
 - 第7回 マット運動
 - 第8回 体操の連続技
 - 第9回 陸上運動①歩行・短距離・リレー
 - 第10回 陸上運動②走り幅跳び、走り高跳び
 - 第11回 陸上運動③ハードル、持久走
 - 第12回 球技運動①ボール運動
 - 第13回 球技運動②ポートボール
 - 第14回 球技運動③サッカー
 - 第15回 球技運動④フラッグフットボール
-

授業以外での学習方法

A4ノートに毎回の授業記録(テーマ、活動内容、自分・班の問題点、アドバイス、教材研究、感想)を整理し、提出。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 体育実技〈幼b〉

担当者 新野 守

テーマ

いくつかのスポーツ種目の体験とその基礎技術の習得

獲得目標

①スポーツのルールを理解し、基礎技術の習得を図る ②お互いに教えあい、指導のポイントを学ぶ。

授業の内容

陸上運動、器械運動、球技運動を中心に各運動の実践、指導ポイントの獲得、各運動遊びの指導を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 体づくり運動①器械運動テスト
 - 第3回 体づくり運動②体カテスト
 - 第4回 体づくり運動③
 - 第5回 鉄棒運動
 - 第6回 跳び箱運動
 - 第7回 マット運動
 - 第8回 体操の連続技
 - 第9回 陸上運動① 歩行・短距離走・リレー走
 - 第10回 陸上運動②走り幅跳び、走り高跳び
 - 第11回 陸上運動③ハードル走、持久走
 - 第12回 球技運動①ボール運動
 - 第13回 球技運動② ポートボール
 - 第14回 球技運動③サッカー
 - 第15回 球技運動④フラッグフットボール
-

授業以外での学習方法

A4ノートに毎回の授業記録(テーマ、活動内容、自分・班の問題点、アドバイス、教材研究、感想)を整理し、提出。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育演習Ⅱ〈a〉**

担当者 倉持 祐二

テーマ

小学生の学びと授業をテーマにした研究と実践に学ぶ

獲得目標

“小学生の学びと授業”をテーマにした研究論文や実践書を幅広く収集し、その中から関心のあるテーマにそって内容を理解してまとめ、順番に発表を行う。質疑・応答・討議では、各自の発表の到達点と課題を明らかにしていく。

授業の内容

内 容

- 第1回 教材づくりから授業づくりへ
 - 第2回 小学生の学びと教材づくりの実際①
 - 第3回 小学生の学びと教材づくりの実際②
 - 第4回 小学生の学びと教材づくりの実際③
 - 第5回 小学生の学びと教材づくりの実際④
 - 第6回 授業記録のとり方と解釈
 - 第7回 授業研究の方法
 - 第8回 奈良教育大学附属小学校の授業見学
 - 第9回 奈良教育大学附属小学校の授業見学
 - 第10回 奈良教育大学附属小学校の授業を検討する①
 - 第11回 奈良教育大学附属小学校の授業を検討する②
 - 第12回 教育実習の授業を検討する①
 - 第13回 教育実習の授業を検討する②
 - 第14回 教育実習の授業を検討する③
 - 第15回 卒業論文のテーマを考える
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

歴史地理教育

著者:

出版社: 歴史教育者協議会

出版年:

ISBN:

社会科教育

著者:

出版社: 明治図書

出版年:

ISBN:

教育

著者:

出版社: 国土社

出版年:

ISBN:

生活教育

著者:

出版社: 日本生活教育連盟

出版年:

ISBN:

どの子も伸びる

著者:

出版社: 部落問題研究所

出版年:

ISBN:

授業づくりネットワーク

著者:

出版社: 学事出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育演習Ⅱ **

担当者 口野 隆史

テーマ

子どもの運動発達、スポーツ・運動文化及び体育指導の理論と実践について学ぶ

獲得目標

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みその内容を理解する。その上で、テーマに沿って調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題についての理解を深める

授業の内容

「教育演習Ⅰ」の中で深めようとしたテーマにそって、新しい文献や論文ならびに教育実践記録などを幅広く収集する。そして、それらの内容を理解し、整理し、順番に発表を行う。質疑・応答・討議では、各自の発表の到達点と課題を明らかにしていく。

内 容

- 第1回 夏期休暇の研究成果の交流。後期個別発表の計画づくり。
- 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議(実習での課題を明確にする)⑤
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議(実習での課題を明確にする)⑥
- 第8回 中間まとめ(各自及び全体の進捗状況の確認と今後課題)
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議(実習での経験・成果を交流する)⑦
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議(実習での経験・成果を交流する)⑧
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
- 第15回 後期の振り返りと最終学年への課題・まとめ(学外授業やゼミ合宿を、適宜、行うことがある)

授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけ出すために、本学や他大学、その他の図書館を利用して、子どもの運動発達、運動遊び、運動文化、体育指導に関する論文や実践(『たのしい体育・スポーツ』『体育科教育』『教育』『保育問題研究』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載)を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

a301030252

授業中、他の学生の話、教員の話をよく聞くこと。毎回必ず、自分の意見を述べること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <c>

担当者 小寺 隆幸

テーマ

算数教育、平和教育、総合学習等を中心に幅広く教育のあり方について考える。

獲得目標

各自が関心のあるテーマにそって、文献を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 夏休みの研究成果の交流、個別発表の計画づくり
 - 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
 - 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
 - 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
 - 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
 - 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
 - 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
 - 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
 - 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
 - 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
 - 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
 - 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
 - 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
 - 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬
 - 第15回 半年間のまとめ
-

授業以外での学習方法

学外授業を適宜、行うことがある。自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <d>

担当者 三上 周治

テーマ

子どもと音楽の関わりについて考察を深める。

獲得目標

1)文献講読や発表を通して、文献を理解し、読み解く力の向上を図る。2)学術論文を読み解き、まとめることにより、研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション:夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
- 第2回 研究テーマの絞り込み、研究デザインについての助言
- 第3回 論文を読み解き、まとめる作業①
- 第4回 論文を読み解き、まとめる作業②
- 第5回 実習における学びの報告①
- 第6回 実習における学びの報告②
- 第7回 実習における学びの報告③
- 第8回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論①
- 第9回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論②
- 第10回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論③
- 第11回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論④
- 第12回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑤
- 第13回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑥
- 第14回 研究テーマに関連する文献をまとめて発表、討論⑦
- 第15回 まとめ:1年間の学習の総括と4年生に向けての抱負

授業以外での学習方法

各自のテーマに関連する書籍、論文、雑誌記事などを検索し、読んでおく。

教科書

授業時に指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301030254

試験 ()
授業中課題 (30%)
参加度 (20%)

小テスト ()
授業中発表等 (50%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <e>

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

子どもの発達と教育をめぐる諸問題

獲得目標

卒業論文に向けての、テーマ設定と構想の骨格を準備すること

授業の内容

内 容

- 第1回 夏季課題についての発表
 - 第2回 夏季課題についての発表
 - 第3回 リストアップした文献等に関する、要約レジュメの作成と発表
 - 第4回 リストアップした文献等に関する、要約レジュメの作成と発表
 - 第5回 リストアップした文献等に関する、要約レジュメの作成と発表
 - 第6回 リストアップした文献等に関する、要約レジュメの作成と発表
 - 第7回 リストアップした文献等に関する、要約レジュメの作成と発表
 - 第8回 テーマを絞り込んだ問題意識の整理と発表
 - 第9回 テーマを絞り込んだ問題意識の整理と発表
 - 第10回 テーマを絞り込んだ問題意識の整理と発表
 - 第11回 テーマを絞り込んだ問題意識の整理と発表
 - 第12回 テーマを絞り込んだ問題意識の整理と発表
 - 第13回 卒業論文作成に向けての作業計画
 - 第14回 卒業論文作成に向けての作業計画
 - 第15回 まとめと春季課題
-

授業以外での学習方法

文献等は計画的に収集しておくこと。新聞等をよく読み、必要な記事はスクラップしておくことが望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ〈f〉

担当者 池田 修

テーマ

国語科の授業づくりと学級づくりに関する理論と実践に学ぶ。

獲得目標

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。卒業論文のテーマを決める。

授業の内容

各自が関心のあるテーマにそって、文献や実践記録を読みすすめる。その上で、テーマにそって調査・研究したことをまとめて報告し、質疑・応答・討議を重ねながら、研究課題を深める。卒業論文のテーマを決める。

内 容

- 第1回 夏休みの研究成果の交流、個別発表の計画づくり。
- 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
- 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
- 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
- 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
- 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
- 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
- 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
- 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
- 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
- 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
- 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
- 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
- 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬
- 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑭

授業以外での学習方法

自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、国語科の授業づくりと学級づくりに関する論文や実践(『生活指導』『現代教育科学』『月刊国語教育』『教育』『生活教育』『授業づくりネットワーク』などの雑誌に掲載)を読む。教育研究会に積極的に参加する。

教科書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301030256

試験 ()
授業中課題 (25)
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 (25)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ〈g〉

担当者 森本 美絵

テーマ

社会的養護のもとにある児童に関わる諸課題を基本文献から学ぶ。

獲得目標

基本となる文献を読み、各自が関心のあるテーマを探す。

授業の内容

内 容

- 第1回 各自の課題の検討
 - 第2回 基本文献1の講読の分担報告-1
 - 第3回 基本文献1の講読の分担報告-2
 - 第4回 基本文献1の講読の分担報告-3
 - 第5回 基本文献1の講読の分担報告-4
 - 第6回 質疑・応答・討議
 - 第7回 基本文献2の講読の分担報告-1
 - 第8回 基本文献2の講読の分担報告-2
 - 第9回 基本文献2の講読の分担報告-3
 - 第10回 基本文献2の講読の分担報告-4
 - 第11回 質疑・応答・討議
 - 第12回 基本文献3の講読の分担報告-1
 - 第13回 基本文献3の講読の分担報告-2
 - 第14回 基本文献3の講読の分担報告-3
 - 第15回 基本文献3の講読の分担報告-4
-

授業以外での学習方法

基本文献のほかに、各自の関心あるテーマに関して、大学図書館等を活用して、できるだけ多くの文献を読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <h>

担当者 三山 岳

テーマ

“気になる子ども”の保育と教育の課題に関する理論と実践を学ぶ

獲得目標

「教育演習Ⅰ」の中で深めようとしたテーマにそって、新たな文献や論文、実践記録・実践報告などを幅広く収集する。集めた資料の内容を理解して整理し、各自が発表を行う。全体での討議では、各自の発表の到達点と課題を明確にしていく。

授業の内容

前期と同じ発表形式ですが、4回生での卒業論文のテーマを探っていくような内容での発表を目指します。

内 容

- 第1回 夏季休暇中の研究成果の交流、個別発表の計画づくり
 - 第2回 個別発表と全体での討議①
 - 第3回 個別発表と全体での討議②
 - 第4回 個別発表と全体での討議③
 - 第5回 個別発表と全体での討議④
 - 第6回 個別発表と全体での討議⑤
 - 第7回 個別発表と全体での討議⑥
 - 第8回 個別発表と全体での討議⑦
 - 第9回 個別発表と全体での討議⑧
 - 第10回 個別発表と全体での討議⑨
 - 第11回 個別発表と全体での討議⑩
 - 第12回 個別発表と全体での討議⑪
 - 第13回 個別発表と全体での討議⑫
 - 第14回 個別発表と全体での討議⑬
 - 第15回 後期のまとめと最終学年に向けた課題整理
-

授業以外での学習方法

各自関心のあるテーマに沿った文献を集め、読むこと

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <i>

担当者 神谷 栄司

テーマ

卒業論文の課題意識を確立する。

獲得目標

(1)卒業論文の課題意識をまとめる。(2)企業就職希望の学生の就職活動の状況を共有する。(3)教育実習から学んだことについて報告する。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 課題意識を確立するための助言(1)
 - 第3回 課題意識を確立するための助言(2)
 - 第4回 課題意識を確立するための助言(3)
 - 第5回 課題意識を確立するための助言(4)
 - 第6回 課題意識を確立するための助言(5)
 - 第7回 課題意識を確立するための助言(6)
 - 第8回 幼稚園・小学校での実習から学んだこと(1)
 - 第9回 幼稚園・小学校での実習から学んだこと(2)
 - 第10回 卒業論文の第一次報告(1)
 - 第11回 卒業論文の第一次報告(2)
 - 第12回 卒業論文の第一次報告(3)
 - 第13回 卒業論文の第一次報告(4)
 - 第14回 卒業論文の第一次報告(5)
 - 第15回 卒業論文の第一次報告(6)
-

授業以外での学習方法

報告の準備を行う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅱ <j>

担当者 八木 英二

テーマ

獲得目標

「教育演習Ⅱ」では前期の「教育演習1」をふまえ、前期発表のレジュメを更新させた発表を行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 文献の引用方法その他レジュメの書き方の更新
 - 第2回 各自の発表と討論1
 - 第3回 各自の発表と討論2
 - 第4回 各自の発表と討論3
 - 第5回 各自の発表と討論4
 - 第6回 各自の発表と討論5
 - 第7回 各自の発表と討論6
 - 第8回 各自の発表と討論7
 - 第9回 各自の発表と討論8
 - 第10回 各自の発表と討論9
 - 第11回 各自の発表と討論10
 - 第12回 各自の発表と討論11
 - 第13回 各自の発表と討論12
 - 第14回 各自の発表と討論13
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育実習指導(幼稚園)**

担当者 神谷 栄司・三山 岳

テーマ

幼稚園の実情、子どもの実態、家庭との関係などを理解する。

獲得目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。同時に、社会人としての心構え、仕事の意義を理解する。

授業の内容

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」、「全日保育」までの流れを追って理解できるよう講義とディスカッションを中心に進める。

内 容

- 第1回 教育実習事前指導① 1. 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの) 2. 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの) 3. 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など) 4. 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第2回 教育実習事前指導② 5. 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携 6. 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求 7. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 8. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第3回 教育実習事前指導③ 9. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 10. 部分指導実習②(指導案を作成し実践する) 11. 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する) 12. 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第4回 教育実習事前指導④ 13. 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う) 14. 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 15. 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第5回 教育実習事前指導⑤ 16. 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う) 17. 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う) 18. 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)
- 第6回 【事後指導】教育実習事後指導① ◎教育実習のふりかえり
- 第7回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):実習終了者の発表
- 第8回 教育実習事後指導② ◎教育実習反省会(幼児教育コース2回生と合同):質疑応答

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (100)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a301033180

真にやむを得ない欠席(忌引き、病欠など)以外は補講の対象としないので、必ず出席すること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育実習指導(小学校)**

担当者 倉持 祐二

テーマ

実りのある教育実習(教育実習 事前事後指導)

獲得目標

小学校実習の事前・本実習・事後の過程がイメージできるように、小学校教育の全体像への理解や指導者としての心得を身につける。そして、現場での実習を行い、教師への志を確かなものにする。

授業の内容

【事前指導】教職課程に関わる総論的なガイダンス、教育実習の意義と心得、準備の仕方、実習校の服務規律などについて講義する。外部講師を招くこともある。授業スケジュールについては、教務課の掲示板に掲示するので、見落としがないように注意すること。【事後指導】教育実習の終了後に、実習簿・実習校評価票・実習レポートをもとに個別指導を行う。さらに、次年度実習生の2回生との合同の教育実習反省会を実施し、実習生の教育実習報告及び質疑応答を行う。なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

内 容

- 第1回 教育実習で何を学ぶのか
- 第2回 教師の仕事
- 第3回 学校の役割
- 第4回 授業実習の基礎・基本
- 第5回 現代子ども理解の基礎・基本
- 第6回 教育実習 直前ガイダンス
- 第7回 教育実習のふりかえり
- 第8回 育実習反省会(児童教育コース2回生と合同)

授業以外での学習方法

教科書

プリント

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時に紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **特別支援教育論**

担当者 森下 勇

テーマ

障害のある子ども、発達に課題がある子どもに関する基礎的知識とその教育のあり方

獲得目標

1. 子ども理解の基本的視点がわかる。 2. 障害児のライフサイクルとそれぞれの時期の課題がわかる。 3. 日本の障害児教育の歴史と今日的課題がわかる。 4. 障害児、発達に課題のある子どもに関わる教師のあり方、役割についての考察を深める。

授業の内容

今日、障害児と発達的に課題を有する子どもの教育は特別支援教育としてとりくまれ、指導内容、方法などが議論にされることが多い。本講義においては、そうした具体的な論点を検討する上での前提として、子ども理解のあり方や、その形成の歴史的経過など、基本的な課題を理解すること、加えて、総合科学としての「障害児問題」についての入門的理解を図ることなどを通して、障害児教育、特別支援教育のあり方を学んでいきたい。必要な資料を用いながら、主として講義形式でおこなう。

内 容

- 第9回 ライフステージと障害児教育①:乳幼児期(障害の発見と受容)
 第10回 ライフステージと障害児教育②:学童期(就修学、地域生活)
 第11回 ライフステージと障害児教育③:思春期・青年期(「第2の誕生」から社会へ)
 第12回 子ども理解の基本的視点①(障害)
 第13回 子ども理解の基本的視点②(発達)
 第14回 子ども理解の基本的視点③(生活)
 第15回 ①発達障害(主に自閉症)の理解と教育 ②講義全体のまとめ
 第1回 オリエンテーション:①障害児教育をめぐる動向、特別支援教育とは ②科目の目標、すすめ方、留意事項の確認
 第2回 特別支援教育の現状と課題①:実践現場の状況
 第3回 特別支援教育の現状と課題②:子ども理解と指導
 第4回 特別支援教育の現状と課題③:考えるべき課題
 第5回 特別支援教育の制度:特別支援学校、特別支援学級、通級指導、通常学級
 第6回 障害児教育の歴史①:戦後～1960年代(特殊教育論)
 第7回 障害児教育の歴史②:1960年代～養護学校義務制実施前
 第8回 障害児教育の歴史③:養護学校義務制移行～特別支援教育

授業以外での学習方法

参考文献などを積極的に読み、障害児教育についての知識と理解を深めること、障害児・者問題について関心をもつことを日常的に心がけること。

教科書

参考書

障害児と教育

著者: 茂木俊彦

出版社: 岩波新書

出版年: 1990

ISBN: 400431319

障害児教育を考える

著者: 茂木俊彦

出版社: 岩波新書

出版年: 2007

ISBN: 9.784E+12

キーワードブック障害児教育[改訂増補版]

著者： 清水貞夫・藤本文朗編

出版社： クリエイツかもがわ

出版年： 2005

ISBN： 9.78486E+12

障害児教育学の現状・課題・未来[改訂版]

著者： 藤本文朗・小川克正編

出版社： 培風館

出版年： 2006

ISBN： 4563057711

障害児教育の歴史

著者： 中村満紀男・荒川智

出版社： 明石書店

出版年： 2003

ISBN： 4750318019

発達保障ってなに？

著者： 丸山啓史・河合隆平・品川文雄

出版社： 全障研出版部

出版年： 2012

ISBN： 9.78488E+12

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（ ）

参加度（50）

「授業中課題」：期末レポート(提出必須)の内容(講義全般についての理解度と論理展開)、および、数回の小レポートの提出状況と内容。参加度：出席回数および受講態度全般。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **表現教育論 **

担当者 久堀 久美子

テーマ

幼児期における自己表現の基盤となる表現活動について、具体的・実践的学びを深める

獲得目標

幼児の内面理解を深め、幼児が自己を表現する意味や具体的な方法・内容、保育者の援助について学ぶことを目的とする

授業の内容

幼児の表現を理解するために、身体表現・言語表現・造形表現、総合的表現活動としての劇遊び等の視点から学びを進めていく

内 容

- 第1回 表現教育を通して幼児に何を育てるのか(幼稚園教育要領 領域『表現』から理解を深める)
- 第2回 身体表現(1) 身体を動かすことから心が育つ(リズムステップの基本)
- 第3回 身体表現(2) 感動体験から身体表現へ(身近な自然との触れ合いから)
- 第4回 身体表現(3) お話(絵本)から身体表現へ(お話の気持ちを表現する)
- 第5回 造形表現(1) 思いを育てる造形教育(秋の自然を通して)
- 第6回 造形表現(2) 思いを育てる造形教育(お話を聞いて創造する)
- 第7回 造形表現(3) 思いを育てる造形教育(お話を聞いて創造する)
- 第8回 総合的表現教育としての『劇遊び』(1) (『劇遊び』の意義と教育的役割・幼稚園における『劇遊び』の園児の姿をビデオで見る)
- 第9回 総合的表現教育としての『劇遊び』(2) (絵本のお話から『劇』のシナリオづくり①)
- 第10回 総合的表現教育としての『劇遊び』(3) (絵本のお話から『劇』のシナリオづくり②)
- 第11回 総合的表現教育としての『劇遊び』(4) (『劇』の流れ・構成を把握し、自主的に表現を練習)
- 第12回 総合的表現教育としての『劇遊び』(5) (『劇』の大道具や小道具づくり)
- 第13回 総合的表現教育としての『劇遊び』(6) (『劇』に必要なセリフ・音楽・歌等の練習)
- 第14回 総合的表現教育としての『劇遊び』(7) (『劇』の作品発表①)
- 第15回 総合的表現教育としての『劇遊び』(8) (『劇』の作品発表②)

授業以外での学習方法

身近な環境(自然・社会・人等)を通しての体験から感動を感じる心が、自己表現の基盤。日頃から意識して自分の生活に取り入れるよう心掛けて欲しい。授業に関する資料は随時配布する

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育実習(幼稚園)**

担当者 神谷 栄司・三山 岳

テーマ

これまで蓄積してきた自らの力を十分に発揮し、実践に取り組み、実践力を身に付ける。

獲得目標

担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成し、指導を行い、子どもの反応を見、指導教諭からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日指導まで行える実践力を身に付ける。

授業の内容

「観察・参加実習」及び「部分指導実習」から「全日保育」までを行う。

内 容

- 第1回 (教育実習Ⅰにおいては、「観察・参加実習」及び「部分指導実習」を行う。学内の授業のように15回に分けての表記は困難である。表記すれば以下のような内容となる) 子どもの観察①子どもの身体発達・健康状態など(外面的なもの)
- 第2回 子どもの観察②子どもの興味・関心・欲求など(内面的なもの)
- 第3回 幼稚園の実情の観察①幼稚園教諭(その仕事、役割、指導の仕方など)
- 第4回 幼稚園の実情の観察②環境(園児の数、園務分掌・組織、施設・設備、園と地域等)
- 第5回 家庭との関係の観察①幼稚園と家庭との連携
- 第6回 家庭との関係の観察②保護者の子どもや園への要求
- 第7回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第8回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第9回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第10回 部分指導実習②(指導案を作成し実践する)
- 第11回 参加実習①(幼稚園の指導教諭の指導と助言を受けその範囲で参加する)
- 第12回 参加実習②(指導教諭の指導のもと、教育・保育活動、事務的な仕事、及びその他の仕事に積極的に従事する)
- 第13回 部分指導実習①(朝の会、昼の会、お帰りの会など短時間の指導を行う)
- 第14回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う)
- 第15回 部分指導実習③(指導案を作成し設定保育を行う)
- 第16回 責任実習①(指導案を作成し、午前中の指導を行う)
- 第17回 責任実習②(指導案を作成し、全日保育を行う)
- 第18回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当教員の他、主任、園長らに保育を見てもらい指導・助言を受ける)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

a301033780

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

事前事後指導の状況、実習簿、実習先での評価を含め、総合的に判断する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育実習(小学校)

担当者 倉持 祐二

テーマ

実りのある教育実習

獲得目標

小学校現場での実習を通して、小学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の内容

教育実習生として期待することは3つある。(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③児童の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

内 容

- 第1回 ○第1週・学級担任の児童に対する願いをつかむ。・児童の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。
- 第2回 ○第2週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・児童相互の関係に目をむける。
- 第3回 ○第3週・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。・児童の新しい面を見いだすように努める。・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。
- 第4回 ○第4週・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

授業以外での学習方法

公開授業や現場教師の研究会、子どもを対象とした催しやボランティアに参加することを勧める。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業時に紹介

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **保育実習Ⅱ**

担当者 口野 隆史 加用 美代子

テーマ

これまでの学内・学外での学びの全てを応用・駆使した実習の実施 ー実習でのつまずきや失敗を今後の保育の糧にー

獲得目標

子どもの様子や保育士の仕事を観察し理解する。実習保育園における担当クラスの実態を踏まえ指導案を作成する。それをもとに担当クラスで実際に子どもの指導を行い、子どもの反応を得、指導保育士からの指導・助言を得、実践力を身に付ける。部分実習から全日保育までを行える実践力を身に付ける。

授業の内容

この実習では、受け入れ保育園の状況も踏まえながら「部分指導実習」から「全日保育実習」まで行いたいと考えている。

内 容

- 第1回 (学内の授業のように15回に分けての表記は困難であるが、あえて表記すればおよそ以下のような内容となる) 第1回 参加実習①(保育所の指導保育士の指導と助言を受けその範囲で参加する) 第2回 参加実習②(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第3回 参加実習③(指導保育士の指導のもと、保育・教育活動及びその他の仕事を積極的に行う) 第4回 参加実習の振り返りと部分実習の課題の発見(配属クラスの担任から指導、助言を受ける) 第5回 部分指導実習①(朝の会、昼食指導、お帰りの会など短時間の指導を行う) 第6回 部分指導実習②(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第7回 部分指導実習③(指導案を作成し短時間の指導を行う) 第8回 部分指導実習④(指導案を作成し設定保育を行う) 第9回 部分指導実習の振り返り(担任、主任から指導、助言を受ける) 第10回 責任実習①(指導案を作成し、午前の指導を行う) 第11回 責任実習②(指導案を作成し、午後の指導を行う) 第12回 責任実習③(指導案を作成し、全日保育を行う) 第13回 責任実習④(指導案を作成し、全日保育を行う) 第14回 責任実習⑤(指導案を作成し、全日保育を行う。実習担当保育士の他、主任、園長らに保育を見てもらう) 第15回 責任実習及び全実習の振り返り(担任、主任、園長らから指導、助言を受ける)
- 第2回 1. 様々な領域(体育的、音楽的、図画工作的、自然環境的、社会的)の題材に関心を持ち、それをを用いて子どもたちと一緒に遊ぶには、子どもたちに指導するには、さらにそれを指導案ではどう書くか、などを常に考えておく。2. 実習は健康第一。日頃から生活リズムを整え、体調管理に気を付けておく。
- 第3回 平成20年告示 幼稚園教育要領・保育所保育指針<原本>
- 第4回 文部科学省、厚生労働省
- 第5回 チルド社
- 第6回 2008年

授業以外での学習方法

教科書

参考書

70

著者: 学外実習科目であるので、まず実習園において欠勤・遅刻・早退することなく実習を行うことが重要である。また、実習の直前指導、実習の事後指導への出席、課題の提出などを確実に進行。

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

a301034680

授業中課題 ()
参加度 ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **保育実習Ⅲ**

担当者 森本 美絵・春田 真樹

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

獲得目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の内容

保育実習I-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

内 容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。実習期間10日間(80時間)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育実習Ⅳ〈Z〉

担当者 森本 美絵

テーマ

保育実習Ⅰ-1(保育所)、保育実習Ⅰ-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

獲得目標

施設保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。すなわち、子ども及び子どもの源家族・家庭・地域の生活実態を理解し、子どもの社会的自立支援や家族関係の再構築に必要とされる知識・技術・態度を学ぶ。

授業の内容

保育実習Ⅰ-2の学びを踏まえて、より子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等について学び、より一層社会的養護の実際の理解を深める。

内 容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。 実習期間10日間(80時間)

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設からの実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 学校調査IV(海外)

担当者 倉持 祐二

テーマ

タイの小学校・中学校・高校を訪問し、授業を参観する

獲得目標

タイの学校を見学する。授業のようす、子どもたちの生活、教師の仕事ぶりについて見聞を広め、日本の学校教育や教育実践と対比し、それぞれの学校教育の特徴、相違点や共通点について理解を深める。

授業の内容

2014年2月上旬に、タイのチェンマイ周辺の小学校・中学校・高校を訪ねる。おおよそ10日間の間に学校を訪問し、授業を参観するとともに、先生や子どもたちとも交流する予定である。また、チェンマイ・ラチャバット大学人文社会科学部日本語学科の学生と交流し、タイの教育事情について見聞を広める。受講(参加)にあたっては、①事前ガイダンスに出席すること、②出発前の課題にきちんと取り組むこと、③調査の目的を明確にすることを求める。詳細なスケジュールは受講者に別に提示する。

内 容

- 第1回 末廣昭『タイー中進国の模索』の輪読①
- 第2回 末廣昭『タイー中進国の模索』の輪読②
- 第3回 末廣昭『タイー中進国の模索』の輪読③
- 第4回 タイの現状について調べたことを交流①
- 第5回 タイの現状について調べたことを交流②
- 第6回 タイの現状について調べたことを交流③
- 第7回 タイの学校への訪問と授業参観①
- 第8回 タイの学校への訪問と授業参観②
- 第9回 タイの学校への訪問と授業参観③
- 第10回 タイの学校への訪問と授業参観④
- 第11回 タイの学校への訪問と授業参観⑤
- 第12回 タイの学校への訪問と授業参観⑥
- 第13回 調査報告集の作成①
- 第14回 調査報告集の作成②
- 第15回 タイ学校調査の発表

授業以外での学習方法

教科書

タイー中進国の模索

著者： 末廣昭

出版社： 岩波新書

出版年： 2009年

ISBN:

参考書

花の都・チェンマイ

著者： 河崎かよ子

出版社： 喜楽研

出版年： 2007年

ISBN:

成績評価

a301039480

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **保育実習 I -2**

担当者 森本 美絵、一柳 敦子、太田 みつ枝、大山 弘美、杉江 由紀子、谷口 敦子、中崎 あつ子、春田 真樹、山口 陽子、幸重 忠孝、吉田 裕子

テーマ

現代社会における児童福祉施設の意義と役割について、体験的に学ぶ

獲得目標

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学び、今後の学習課題を明確にする。

授業の内容

居住型児童福祉施設等の実習を通して、児童への理解を深めるとともに、施設の設備・機能と保育士の職務について学ぶ。また、職員間のチームワーク、施設内外の専門職との連携について学び、社会的養護の実際について理解する。

内 容

第1回 ① 実習施設について理解する。② 養護の一日の流れを理解し、参加する。③ 乳幼児の観察・関わりを通して、その発達を理解する。④ 援助計画を理解する。⑤ 生活に参加し、援助の一部担当から、養護技術を習得する。⑥ 職員間の役割とチームワークについて理解する。⑦ 家庭・地域社会を理解する。⑧ 子どもの最善の利益についての配慮を学ぶ。⑨ 保育士としての職業倫理を学ぶ。⑩ 安全及び疾病予防への配慮について理解する。施設実習期間 10日間(80時間)

授業以外での学習方法

実習先の施設について調べる。児童福祉、養護原理、養護内容等のテキストを読みなおす。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

施設実習評価70%、実習後の提出物・レポート等30%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **家庭支援論**

担当者 古橋 紗人子

テーマ

保育所・子育て支援活動の現状を中心に、子どもや親・家庭への支援を考える。

獲得目標

1. 家庭の意義とその機能について理解する。2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解する。3. 子育て家庭の支援体制について理解する。4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する。

授業の内容

保育所や子育て支援事業等における、利用者の主体性や自助をより尊重した「家庭支援論」の理解について、テキストを中心に参考書(絵本・小説・保育月刊誌)や、事例を紹介しながら授業をすすめます。講義の他に家庭支援の視点から「連絡帳」や「指導計画」の書き方の実際についても学ぶ授業を目指します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 自己紹介 授業の進め方 「援助」と「支援」という言葉について
- 第2回 1. 家庭支援の意義と役割 (1)家庭の意義と機能 子どもの成長・発達と家庭
- 第3回 1. 家庭支援の意義と役割 (2)家庭支援の必要性 子どもの成長と親の成長 個別指導計画—保護者支援
- 第4回 1. 家庭支援の意義と役割 (3)保育士等が行う家庭支援の原理 小テスト
- 第5回 2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (1)現代の家庭における人間関係 連絡帳の書き方
- 第6回 2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (2)地域社会の変容と家庭支援
- 第7回 2. 家庭生活を取り巻く社会的状況 (3)男女共同参画社会とワークライフバランス 小テスト
- 第8回 3. 子育て家庭の支援体制 (1)子育て家庭の福祉を図るための社会資源
- 第9回 3. 子育て家庭の支援体制 (2)子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 小テスト
- 第10回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (1)子育て支援サービスの概要
- 第11回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (2)保育所入所児童の家庭への支援 リーフレット作成
- 第12回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (3)地域の子育て家庭への支援
- 第13回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (4)養保護児童及びその家庭に対する支援
- 第14回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (5)子育て支援における関係機関との連携
- 第15回 4. 多様な支援の展開と関係機関との連携 (6)子育て支援サービスの課題 小テスト

授業以外での学習方法

- ①参考書を読む。 ②保育所・子育て支援事業・児童館などで自主実習させていただき実践力をつける。

教科書

家族援助論

著者: 野澤正子・森本美絵

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2008

ISBN:

参考書

愛着崩壊—子どもを愛せない大人たち

著者: 岡田尊司

出版社: 角川選書

出版年: 2012

ISBN:

こどもへのまなざし 完

著者: 佐々木正美

出版社: 福音館書店

出版年: 2010

ISBN:

赤ちゃんから学ぶ「乳児保育の実践力」—保育所・家庭で役立つ

著者: 川原佐公・古橋紗人子

出版社: 保育出版社

出版年: 2010

ISBN:

子どもの脳を守る—小児脳神経外科医の報告

著者: 山崎麻美

出版社: 集英社新書

出版年: 2007

ISBN:

わたし

著者: たにがわ俊太郎・文 長新太・絵

出版社: 福音館書店

出版年: 1981

ISBN:

まいごになったぞう

著者: 寺村輝夫・文 上村勉・絵

出版社: 偕成社

出版年: 1989

ISBN:

ねんねん ねこねこ

著者: ながのひでこ

出版社: アリス館

出版年: 1996

ISBN:

国銅

著者: 篤木蓬生

出版社: 新潮文庫

出版年: 2006

ISBN:

月刊 保育とカリキュラム

著者:

出版社: ひかりのくに株式会社

出版年: 2013

ISBN:

成績評価

試験 (なし)

小テスト (40)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

試験

参考URL

2013 Syllabus

科目名 保育実習指導Ⅲ

担当者 森本 美絵

テーマ

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、保育士として、発展的な知識・技術・態度の体験的な修得を目指す。

獲得目標

保育実習I-1(保育所)、保育実習I-2(入所施設)の履修をふまえて、実習の意義・目的と内容について再確認し、子どもの理解、施設・職員の役割への理解を深める。また、児童自立支援計画に基づく養育等についての基本を学ぶ。

授業の内容

保育実習I-2(入所施設)における自らの課題を再確認し、実習目標・目的を設定する。その上で、施設保育士として必要な資質・能力・技術の基本および、子どもの家庭と地域の生活実態への理解を深め、家族関係の再構築と社会的自立について学ぶ。

内 容

第1回 ① 養護全般に参加し、養護に必要な知識・技術を習得する。② 発達の遅れ等、児童一人ひとりの違いやニーズについて理解し、その対応方法を習得する。③ 援助計画を立案し、実践する。④ 親・家族との対応を通して、コミュニケーションの方法を学ぶ。⑤ 地域社会との連携について具体的に学ぶ。⑥ 児童の最善の利益への配慮を学ぶ。⑦ 施設保育士としての職業倫理を理解する。⑧ 児童福祉施設等の保育士に求められる資質・能力・技術を省察し、自己の課題を明確にする。⑨ 以上の共通目標に加えて、各自の目標を設定し追及する。⑩ 実習体験の振り返りをする。⑪ 他の学生と実習体験を共有し、社会的養護の実際の理解を深める。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 (0)

施設からの実習評価70%、事後指導における提出物・レポート等30%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 生徒・進路指導(初)

担当者 大平 勲

テーマ

進路・生徒指導の理論と実践

獲得目標

学校現場における進路・生徒指導の理論と実践を具体的な事例を通して学ぶことを目的とする。

授業の内容

講義とグループ討議・交流を原則とする。1回～3回までは進路・生徒指導の理論・歴史講義。具体的な事例からは「課題・問題」についてグループ討議、発表交流・まとめをする。(授業はじめに前時まとめと教育関係ニュース紹介)

内 容

- 第1回 こどもの現状・課題と進路・生徒指導 授業計画と授業の進め方
- 第2回 進路指導の理論とその歴史・課題
- 第3回 生徒指導の理論とその歴史・課題
- 第4回 集団に入れない子ども・登校しぶりの対応どうするか
- 第5回 不登校の子どもの理解とその指導
- 第6回 幼い子どもの「いじめ」その理解と対応
- 第7回 「いじめ」問題子どもの心・本音と指導
- 第8回 子どもの「けんか」「暴力」とその指導
- 第9回 子どもの「問題行動」「万引き」の指導と対応
- 第10回 「問題行動」「非行」問題とその指導
- 第11回 子どもの「荒れ」「学級崩壊」とその対応
- 第12回 学級の規律・問題と集団作り
- 第13回 課題を持つ子どもと学級行事・取り組み
- 第14回 子どもの問題と進路指導の課題
- 第15回 「進路・生徒指導」まとめと試験・評価について

授業以外での学習方法

『講座通信』を読み、受講生の意見への共感や反論を考察する。教育に関する情報を新聞やネットで知る。

教科書

プリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

風雨強けれど光り輝く

著者: 大平勲他

出版社: つむぎ出版

出版年: 2011年

ISBN: 9.78488E+12

成績評価

a30103d150

試験 (70)

授業中課題 (20)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈a〉

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文を全員が書き上げることを目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(全体概要)
 - 第2回 卒論進捗報告(全体概要)
 - 第3回 卒論進捗報告(全体概要)
 - 第4回 卒論進捗報告(全体概要)
 - 第5回 卒論中間報告会
 - 第6回 卒論最終報告(個別)
 - 第7回 卒論最終報告(個別)
 - 第8回 卒論最終報告(個別)
 - 第9回 卒論最終報告(個別)
 - 第10回 卒論ドラフト相互チェック
 - 第11回 卒論ドラフト相互チェック
 - 第12回 卒論ドラフト相互チェック
 - 第13回 卒論発表の準備
 - 第14回 卒論発表の準備
 - 第15回 まとめと「卒論集」の作成準備
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育演習IV **

担当者 加用 美代子

テーマ

卒業研究を進め、論文完成をめざす

獲得目標

課題に見合った研究方法と論文の書き方を身につけ、卒業論文を完成させる。

授業の内容

内 容

- 第1回 ゼミ活動の計画と確認
 - 第2回 研究進行と論文執筆上の諸注意
 - 第3回 卒論進捗状況の報告と討論①
 - 第4回 卒論進捗状況の報告と討論②
 - 第5回 卒論進捗状況の報告と討論③
 - 第6回 卒論進捗状況の報告と討論④
 - 第7回 卒論進捗状況の報告と討論⑤
 - 第8回 卒論進捗状況の報告と討論⑥
 - 第9回 卒論進捗状況の報告と討論⑦
 - 第10回 卒論進捗状況の報告と討論⑧
 - 第11回 研究結果の検討①
 - 第12回 研究結果の検討②
 - 第13回 研究結果の検討③
 - 第14回 研究結果の検討④
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ <c>

担当者 小寺 隆幸

テーマ

算数教育、平和教育、総合学習等を中心に幅広く教育のあり方について考える。

獲得目標

各自のテーマにそって調査・研究したことをまとめ、質疑・応答・討議を重ねながら論文に仕上げる。

授業の内容

内 容

- 第1回 個別発表の計画づくり
 - 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
 - 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
 - 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
 - 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
 - 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
 - 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
 - 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
 - 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
 - 第10回 論文中間発表会
 - 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
 - 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
 - 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
 - 第14回 ゼミ内論文発表会
 - 第15回 まとめと今後の課題の確認
-

授業以外での学習方法

学外授業を適宜、行うことがある 自分の研究テーマを見つけ出すために、大学図書館を利用して、論文や雑誌などを読む。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ <d>

担当者 佐野 仁美

テーマ

卒業論文の作成

獲得目標

1)研究目的や研究方法の提示、結果と考察との関連など、論文構成法を学ぶ。2)これまで学んだことの集大成として卒業論文を作成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション:夏休みの課題についての報告、後期のゼミ運営についての説明
 - 第2回 卒論進捗報告①
 - 第3回 卒論進捗報告②
 - 第4回 卒論進捗報告③
 - 第5回 中間発表会①
 - 第6回 中間発表会②
 - 第7回 論文作成に向けての個別指導①
 - 第8回 論文作成に向けての個別指導②
 - 第9回 論文作成に向けての個別指導③
 - 第10回 論文作成に向けての個別指導④
 - 第11回 論文作成に向けての個別指導⑤
 - 第12回 論文作成に向けての個別指導⑥
 - 第13回 卒論発表の準備①
 - 第14回 卒論発表の準備②
 - 第15回 まとめ:1年間の学習の総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

必要に応じて紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈e〉

担当者 八木 英二

テーマ

獲得目標

卒論を完成させる

授業の内容

内 容

- 第1回 卒論の作成1
 - 第2回 卒論の作成2
 - 第3回 卒論の作成3
 - 第4回 卒論の作成4
 - 第5回 卒論の作成5
 - 第6回 卒論の作成6
 - 第7回 卒論の作成7
 - 第8回 卒論の作成8
 - 第9回 卒論の作成9
 - 第10回 卒論の作成10
 - 第11回 ゼミでの発表1
 - 第12回 ゼミでの発表2
 - 第13回 まとめ1
 - 第14回 まとめ2
 - 第15回 まとめ3
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ〈f〉

担当者 池田 修

テーマ

卒業論文を完成させる。

獲得目標

卒業研究にむけての一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導を受け、卒業論文を完成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(結論)
 - 第2回 卒論進捗報告(結論)
 - 第3回 卒論進捗報告(結論)
 - 第4回 卒論進捗報告(結論)
 - 第5回 卒論中間報告会
 - 第6回 卒論中間報告会
 - 第7回 卒論ドラフト相互チェック
 - 第8回 卒論ドラフト相互チェック
 - 第9回 卒論ドラフト相互チェック
 - 第10回 卒論最終報告(全体)
 - 第11回 卒論最終報告(全体)
 - 第12回 卒論最終報告(全体)
 - 第13回 口頭試問の準備
 - 第14回 口頭試問の準備 和綴じ本づくり
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

卒業研究のテーマについての調査研究。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (25)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習IV <g>

担当者 森本 美絵

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

研究テーマを明確にし、多くの文献を読み、卒業論文を完成する。

授業の内容

①テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。②文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導③順次、各自の研究テーマについて発表させる。④執筆要領、留意事項など細部について指導する。⑤論文作成にむけての個別指導

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(結論)
 - 第2回 卒論進捗報告(結論)
 - 第3回 卒論進捗報告(結論)
 - 第4回 卒論進捗報告(結論)
 - 第5回 卒論進捗報告(結論)
 - 第6回 卒論進捗報告(結論)
 - 第7回 卒論最終報告(全体)
 - 第8回 卒論最終報告(全体)
 - 第9回 卒論最終報告(全体)
 - 第10回 卒論最終報告(全体)
 - 第11回 卒論最終報告(全体)
 - 第12回 卒論最終報告(全体)
 - 第13回 卒論原稿相互チェック
 - 第14回 卒論原稿相互チェック
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ <h>

担当者 三山 岳

テーマ

卒業論文の作成

獲得目標

各自が自分の関心に沿って理解を深めてきた研究テーマについて、分析と討論を進め、卒業論文としてまとめる。

授業の内容

実際に卒業論文を書き進めます。調査や研究を進め、それに沿った章立てを考え、考察を深めて各章を完成させていきます。

内 容

- 第1回 夏休みの成果発表(資料集めと論文進行の状況を発表)①
 - 第2回 夏休みの成果発表(資料集めと論文進行の状況を発表)②
 - 第3回 最終的に絞り込んだ論文テーマの発表と討論①
 - 第4回 最終的に絞り込んだ論文テーマの発表と討論②
 - 第5回 最終的に絞り込んだ論文テーマの発表と討論③
 - 第6回 最終的に絞り込んだ論文テーマの発表と討論④
 - 第7回 3回生を交えた卒論中間発表会①
 - 第8回 3回生を交えた卒論中間発表会②
 - 第9回 卒論作成状況の確認と個別指導
 - 第10回 卒論作成状況の確認と個別指導
 - 第11回 卒論作成状況の確認と個別指導
 - 第12回 卒論作成状況の確認と個別指導
 - 第13回 卒論作成状況の確認と個別指導
 - 第14回 卒業論文のゼミ内発表会
 - 第15回 卒業論文報告会の原稿作り
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ <i>

担当者 上中 良子

テーマ

自らの問題意識に基づいて研究し、論文にまとめる。

獲得目標

自らのテーマに沿って研究視点を深め、内容を主張のあるものにまとめて[オリジナルな視点]で発表を行う。討議を重ねる中で各自の研究の到達点と課題を明らかにし、研究活動第三段階に入る。○テーマの絞り方、その他につき討議・講評し、最終テーマを決定させる。○文献や資料等の検索・収集についての具体的な指導 ○順次、各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導 ○中間発表後、執筆要領、留意事項など細部について指導する。○論文作成にむけての個別指導

授業の内容

集団討議による学び合いを通して、深い論文作成をする。

内 容

- 第1回 「教育演習Ⅲ」の研究成果の交流 & 各自の研究計画発表
 - 第2回 個別発表と質疑・応答・討議①
 - 第3回 個別発表と質疑・応答・討議②
 - 第4回 個別発表と質疑・応答・討議③
 - 第5回 個別発表と質疑・応答・討議④
 - 第6回 個別発表と質疑・応答・討議⑤
 - 第7回 個別発表と質疑・応答・討議⑥
 - 第8回 個別発表と質疑・応答・討議⑦
 - 第9回 個別発表と質疑・応答・討議⑧
 - 第10回 個別発表と質疑・応答・討議⑨
 - 第11回 個別発表と質疑・応答・討議⑩
 - 第12回 個別発表と質疑・応答・討議⑪
 - 第13回 個別発表と質疑・応答・討議⑫
 - 第14回 個別発表と質疑・応答・討議⑬
 - 第15回 個別発表と質疑・応答・討議⑭
-

授業以外での学習方法

(学外授業・教育研究会参加など…やゼミ合宿を、適宜、行うことがある) ○自分の研究テーマを見つけ出すために、本学及び他大学図書館等を利用して、ものごとの本質に関する論文(実績のある大学のそれらに関わる論文集)や実践(教育研究会での報告集など)を読む。○恒常的に学びを追究するべく意識する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育演習Ⅳ <J>

担当者 神谷 栄司

テーマ

卒業論文の執筆

獲得目標

(1)卒業論文の執筆に即して助言する。(2)就職活動について相談する。(3)学生としての交流を深める。

授業の内容

「自分自身で考える」という自主的・批判的思考の成果として執筆するという構えて、卒論論文の執筆への助言を行う。個別的な助言とゼミとしての交流を組み合わせる授業を運営する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 卒業論文の中間発表(1)
 - 第3回 卒業論文の中間発表(2)
 - 第4回 卒業論文の中間発表(3)
 - 第5回 就職についての交流
 - 第6回 卒業論文の個別的助言(1)
 - 第7回 卒業論文の個別的助言(2)
 - 第8回 卒業論文の個別的助言(3)
 - 第9回 卒業論文の個別的助言(4)
 - 第10回 卒業論文の個別的助言(5)
 - 第11回 卒業論文の内容の交流
 - 第12回 卒業論文発表会の準備(1)
 - 第13回 卒業論文発表会の準備(2)
 - 第14回 卒業論文発表会の準備(3)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

論文について構想し、執筆する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職実践演習(中等) <a>

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

獲得目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の内容

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。

1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各教科の指導、3. 実践的な知識と技能(①学級経営、②生徒指導、)、4. コミュニケーション(①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係)、5. 教育的愛情。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

内 容

- 第1回 オリエンテーションー本演習の目的と計画
- 第2回 子ども理解ー中学生・高校生を取り巻く社会の現状(グループ討論、発表)
- 第3回 学校現場からの報告ー生徒指導の現状(外部講師による講演、グループ討議)
- 第4回 学級経営ー学級活動・ホームルーム活動の組織作りと指導(グループ討議、クラス討議)
- 第5回 学校行事・生徒会活動の指導(学校現場の調査、グループ討議、クラス討議)
- 第6回 事例研究(生徒指導):いじめ問題への教師の対応(グループ討議と発表、クラス討議)
- 第7回 事例研究(教育相談):不登校傾向の生徒への担任の関わり方(グループ討議と発表、クラス討議)
- 第8回 学校現場での進路指導・キャリア教育の在り方(グループ討議、クラス討議)
- 第9回 各教科の指導:国語(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第10回 各教科の指導:英語(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第11回 各教科の指導:社会科・地歴科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第12回 各教科の指導:社会科・公民科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第13回 道徳・総合的な学習の時間の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第14回 教職員との連携ならびに地域、保護者との連携(グループ討論、クラス討論)
- 第15回 教師の社会的役割について考える(グループ討論と発表、クラス討論)

授業以外での学習方法

学外での教育研究大会、公開授業などに参加

教科書

授業内で配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301043150

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職実践演習(中等)

担当者 宮嶋 邦明

テーマ

獲得目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の内容

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。

1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各教科の指導、3. 実践的な知識と技能(①学級経営、②生徒指導、)、4. コミュニケーション(①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係)、5. 教育的愛情。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

内 容

- 第1回 オリエンテーションー本演習の目的と計画
- 第2回 子ども理解ー中学生・高校生を取り巻く社会の現状(グループ討論、発表)
- 第3回 学校現場からの報告ー生徒指導の現状(外部講師による講演、グループ討議)
- 第4回 学級経営ー学級活動・ホームルーム活動の組織作りと指導(グループ討議、クラス討議)
- 第5回 学校行事・生徒会活動の指導(学校現場の調査、グループ討議、クラス討議)
- 第6回 事例研究(生徒指導):いじめ問題への教師の対応(グループ討議と発表、クラス討議)
- 第7回 事例研究(教育相談):不登校傾向の生徒への担任の関わり方(グループ討議と発表、クラス討議)
- 第8回 学校現場での進路指導・キャリア教育の在り方(グループ討議、クラス討議)
- 第9回 各教科の指導:国語(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第10回 各教科の指導:英語(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第11回 各教科の指導:社会科・地歴科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第12回 各教科の指導:社会科・公民科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第13回 道徳・総合的な学習の時間の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第14回 教職員との連携ならびに地域、保護者との連携(グループ討論、クラス討論)
- 第15回 教師の社会的役割について考える(グループ討論と発表、クラス討論)

授業以外での学習方法

教科書

授業内で配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301043152

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職実践演習(養護)

担当者 牧野 節子

テーマ

獲得目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、学校保健に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の内容

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と養護実習を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の4点である。1. 児童生徒の理解(①児童生徒の発達と健康、②児童生徒を取り巻く社会と環境)、2. 健康問題支援、3. コミュニケーション(①学校における養護教諭の役割、②地域・保護者との関係)、4. 教育的愛情。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なのかを明確にする。

内 容

- 第12回 「保健室だより」の検討と作成(グループ討議、クラス討論)
- 第13回 教職員と養護教諭の連携
- 第14回 地域・保護者と教護教諭の連携
- 第15回 養護教諭の役割—養護教諭の資質の吟味と確認
- 第1回 4年間の学習を振り返る
- 第2回 児童生徒の理解—児童生徒の発達と健康、児童生徒を取り巻く社会の実態と変化(グループ討議、クラス討論)
- 第3回 健康問題を知る—健康観察(グループ討議、クラス討論)
- 第4回 健康問題を知る—学校健康診断(グループ討議、クラス討論)
- 第5回 健康問題支援—急性疾患や事故への対応(グループ討議、クラス討論)
- 第6回 健康問題支援—事故への対応と救急処置(グループ討議、クラス討論)
- 第7回 健康問題支援—慢性疾患・障害を持つ児童生徒への関わり(グループ討議、クラス討論)
- 第8回 健康問題支援—メンタルヘルス(グループ討議、クラス討論)
- 第9回 健康問題支援—健康相談の活動(グループ討議、クラス討論)
- 第10回 学校衛生における養護教諭の役割(グループ討議、クラス討論)
- 第11回 保健教育の実際(グループ討議、クラス討論)

授業以外での学習方法

教科書

授業内で配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301043153

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職実践演習(初等)〈初a〉

担当者 小寺 隆幸

テーマ

獲得目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の内容

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。

1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各教科の指導、3. 実践的な知識と技能(①学級経営、②生徒指導、)、4. コミュニケーション(①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係)、5. 教育的愛情。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

内 容

- 第1回 4年間の学習を振り返る(グループ討論、発表)
- 第2回 子ども理解—子どもの発達、子どもを取り巻く社会と環境(グループ討論、発表)
- 第3回 各教科の指導1:算数科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第4回 各教科の指導2:理科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第5回 各教科の指導3:国語科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第6回 各教科の指導4:社会科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第7回 各教科の指導5:音楽(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第8回 各教科の指導6:体育(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第9回 各教科の指導7:図工(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第10回 各教科の指導8:家庭科・生活科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第11回 道徳・総合的な学習の時間の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第12回 特別活動の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第13回 実践的な知識と技能—学級経営、生徒指導(グループ討論・クラス討論)
- 第14回 教職員との連携ならびに地域、保護者との連携(グループ討論、クラス討論)
- 第15回 教職の意義、教師の役割—小学校・幼稚園教諭の資質の吟味と確認(グループ討論と発表、クラス討論)

授業以外での学習方法

教科書

授業内で配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301043155

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職実践演習(初等)〈初b〉

担当者 池田 修

テーマ

獲得目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の内容

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。

1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各教科の指導、3. 実践的な知識と技能(①学級経営、②生徒指導、)、4. コミュニケーション(①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係)、5. 教育的愛情。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

内 容

- 第1回 4年間の学習を振り返る(グループ討論、発表)
- 第2回 子ども理解—子どもの発達、子どもを取り巻く社会と環境(グループ討論、発表)
- 第3回 各教科の指導1:算数科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第4回 各教科の指導2:理科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第5回 各教科の指導3:国語科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第6回 各教科の指導4:社会科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第7回 各教科の指導5:音楽(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第8回 各教科の指導6:体育(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第9回 各教科の指導7:図工(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第10回 各教科の指導8:家庭科・生活科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第11回 道徳・総合的な学習の時間の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第12回 特別活動の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第13回 実践的な知識と技能—学級経営、生徒指導(グループ討論・クラス討論)
- 第14回 教職員との連携ならびに地域、保護者との連携(グループ討論、クラス討論)
- 第15回 教職の意義、教師の役割—小学校・幼稚園教諭の資質の吟味と確認(グループ討論と発表、クラス討論)

授業以外での学習方法

教科書

授業内で配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301043156

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職実践演習(初等)〈初c〉

担当者 倉持 祐二

テーマ

獲得目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の内容

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。

1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各教科の指導、3. 実践的な知識と技能(①学級経営、②生徒指導、)、4. コミュニケーション(①学校における個人の役割、②地域・保護者との関係)、5. 教育的愛情。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

内 容

- 第1回 4年間の学習を振り返る(グループ討論、発表)
- 第2回 子ども理解—子どもの発達、子どもを取り巻く社会と環境(グループ討論、発表)
- 第3回 各教科の指導1:算数科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第4回 各教科の指導2:理科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第5回 各教科の指導3:国語科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第6回 各教科の指導4:社会科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第7回 各教科の指導5:音楽(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第8回 各教科の指導6:体育(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第9回 各教科の指導7:図工(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第10回 各教科の指導8:家庭科・生活科(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第11回 道徳・総合的な学習の時間の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第12回 特別活動の指導(授業分析・グループ討論・クラス討論)
- 第13回 実践的な知識と技能—学級経営、生徒指導(グループ討論・クラス討論)
- 第14回 教職員との連携ならびに地域、保護者との連携(グループ討論、クラス討論)
- 第15回 教職の意義、教師の役割—小学校・幼稚園教諭の資質の吟味と確認(グループ討論と発表、クラス討論)

授業以外での学習方法

教科書

授業内で配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301043157

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職実践演習(初等)〈幼a〉

担当者 加用 美代子

テーマ

獲得目標

大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、幼稚園教育に携わるためにはどのような資質能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。

授業の内容

学生は、4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を振り返る。具体的な振り返りの視点は、次の5点である。
1. 子ども理解(①子どもの発達、②子どもを取り巻く社会と環境)、2. 各領域の指導、3. コミュニケーション(①幼稚園における個人の役割、②地域・保護者との関係)、4. 教育的愛情、5. 学級経営。以上の視点に基づいて、4年間の学びを振り返り、到達状況を確認し、そのうえで、必要な知識と技能について補完する。そして、今後、どのような知識と技能を習得することが必要なかを明確にする。

内 容

- 第1回 4年間の学習を振り返る
- 第2回 子ども理解—幼児の発達、幼児を取り巻く社会の実態と変化
- 第3回 各領域の教育・保育—健康①日常の生活リズム・健康に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第4回 各領域の教育・保育—健康②運動遊びに関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第5回 各領域の教育・保育—人間関係①グループでの活動に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第6回 各領域の教育・保育—人間関係②異年齢交流に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第7回 各領域の教育・保育—環境①生き物、自然環境に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第8回 各領域の教育・保育—環境②数や量に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第9回 各領域の教育・保育—言葉①絵本や紙芝居の読み聞かせに関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第10回 各領域の教育・保育—言葉②劇の発表に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第11回 各領域の教育・保育—表現①音楽やリズムに関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第12回 各領域の教育・保育—表現②図画・工作に関わる取り組み(グループ討議、クラス討論)
- 第13回 幼稚園における職員間の連携(グループ討議、クラス討論)
- 第14回 地域・保護者との連携(グループ討議、クラス討論)
- 第15回 幼稚園教諭の役割—幼稚園教諭の資質の吟味と確認

授業以外での学習方法

教科書

授業内で配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a301043158

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 SAP—Prep I <Z>

担当者 北林 利治

テーマ

充実した留学生活のために

獲得目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の内容

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨンー留学とは、多文化理解プログラムの目標
- 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
- 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
- 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
- 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
- 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
- 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
- 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ
- 第9回 ディスカッション①ー気候や環境についてー
- 第10回 ディスカッション②ー食べ物や食生活についてー
- 第11回 ディスカッション③ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー
- 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定)
- 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定)
- 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

それぞれの事業所について事前に調べておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(英) <a>

担当者 浅井 雅志

テーマ

大学の学習スタイルを身につける

獲得目標

自分を取り巻く状況から「問題」を発見し、それについて調べて考え、その内容を発表し、議論する能力の伸長

授業の内容

前期に習得した「問題」の発見の仕方、資料の調べ方、論の展開の仕方、発表の仕方、等々の力を生かして、今度は自分で「問題」を見つけ、それについて調べ、レジュメにまとめて発表してもらおう。発表は一人ないし二人で行い、その後、前期と同じ要領でディスカッションを行いたい。ペーパーの書き方、参考文献の使い方や引用の方法についても指導する。5回以上欠席すると、単位が認められない。

内 容

- 第1回 発表①
 - 第2回 発表②
 - 第3回 発表③
 - 第4回 発表④
 - 第5回 発表⑤
 - 第6回 発表⑥
 - 第7回 発表⑦
 - 第8回 発表⑧
 - 第9回 発表⑨
 - 第10回 発表⑩
 - 第11回 発表⑪
 - 第12回 発表⑫
 - 第13回 発表⑬
 - 第14回 発表⑭
 - 第15回 発表⑮、総括、ペーパー提出
-

授業以外での学習方法

国際関係や異文化理解に関する本や新聞記事を読み、テレビ番組を見る。自分を取り巻いている大きな環境に敏感になる工夫をする。また、授業で配布する読書リストから好きな本を選び、前・後期各3回ずつ感想文を提出する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 研究入門ゼミⅡ(英)

担当者 西村 友美

テーマ

アカデミック・スキルの深化

獲得目標

「研究入門ゼミⅠ」で習得したアカデミック・スキルをより発展させ、自ら問題を発見し、表現する力を深化させる。

授業の内容

課題図書は「研究入門ゼミⅠ」で読んだものより専門性が高くなる。また、Critical な読みができるよう、自ら参考文献に当たって、読みを深めていく。発表では、異文化コミュニケーションに関する問題をグループで討議して、その成果をクラスでプレゼンする。レポート執筆では、ピア・リーディングを導入し、よりよい書き方を学ぶ。

内 容

- 第1回 受講生の発表と全員での討論(1回目)、レポート提出
- 第2回 受講生の発表と全員での討論(1回目)
- 第3回 受講生の発表と全員での討論(1回目)、レポート返却とコメント
- 第4回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第5回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第6回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第7回 受講生の発表と全員での討論(2回目)
- 第8回 中間のまとめとレポート第1ドラフト提出
- 第9回 レポート第1ドラフト返却とコメント
- 第10回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第2ドラフトのピア・リーディング
- 第11回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第2ドラフト提出
- 第12回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第2ドラフト返却
- 第13回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第3ドラフトのピア・リーディング
- 第14回 受講生の発表と全員での討論(3回目)、レポート第3ドラフト提出
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

英語コミュニケーション学科で学ぶ専門領域の文献を読む。その他日頃からコミュニケーションに関する本や新聞を読み、TV などを見て、発表のテーマを自ら探す。Graded readers を読む。自主勉強会に参加する。

教科書

未定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 Reading & Vocabulary Building II <a>

担当者 山崎 清水

テーマ

リーディング演習

獲得目標

読解力と語彙力の向上を目指す。

授業の内容

数多くの英文を読むことで、更なる読解力と語彙力アップを図る。

内 容

- 第1回 Facial Communication and Eye Contact
 - 第2回 Gestures and Body Movement
 - 第3回 Space and Distance
 - 第4回 Time in Communication
 - 第5回 Gender and Communication Style
 - 第6回 Culture and Communication Style
 - 第7回 Self-disclosure
 - 第8回 Self-assertiveness
 - 第9回 Active Listening
 - 第10回 Conflict Management
 - 第11回 Cultural Values
 - 第12回 Ethnocentrism
 - 第13回 Barriers to Communication: Stereotypes
 - 第14回 Barriers to Communication: Prejudice
 - 第15回 Barriers to Communication: Discrimination
-

授業以外での学習方法

予習すること。詳細は授業で説明する。

教科書

Beyond Boundaries

著者: Cecilia Ikeguchi/Kyoko Yashiro

出版社: ピアソン・ロングマン 桐原書店

出版年: 2008

ISBN: 9.78434E+12

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Reading & Vocabulary Building II **

担当者 石塚 浩之

テーマ

An intermediate Reading and Vocabulary Course on Contemporary Topics

獲得目標

(1) To introduce students to a variety of contemporary topics and their English vocabulary (2) To ensure complete confidence with a basic 2,000 word vocabulary (3) To develop intermediate reading and vocabulary skills and knowledge This class will be taught in English.

授業の内容

In the second semester we will look at a number of short texts with very different content. This is to equip students with the English vocabulary necessary to communicate in contemporary situations, and to reinforce grammatical structures learned in high school.

内 容

- 第1回 Textbook: Unit 11
 - 第2回 Textbook: Unit 12 Vocabulary: 1001~1200
 - 第3回 Graded Readers
 - 第4回 Textbook: Unit 13
 - 第5回 Textbook: Unit 14 Vocabulary: 1201~1400
 - 第6回 Graded Readers
 - 第7回 Textbook: Unit 15
 - 第8回 Textbook: Unit 16 Vocabulary: 1401~1600
 - 第9回 Graded Readers
 - 第10回 Textbook: Unit 17
 - 第11回 Textbook: Unit 18 Vocabulary: 1601~1800
 - 第12回 Graded Readers
 - 第13回 Textbook: Unit 19
 - 第14回 Textbook: Unit 20 Vocabulary: 1~2000
 - 第15回 Final discussion and evaluation
-

授業以外での学習方法

Students will be encouraged to keep up their self-study programme using the graded readers kept in the English Department Common Room and Language Centre.

教科書

Reading Pass 2

著者: Andrew E. Bennett

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a30201a452

Students will have regular reading homework with questions on the text. These will be handed in and go towards the final grade. There will also be regular vocabulary quizzes; and a final quiz on the basic 2,000 word list.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Listening III <a>**

担当者 西村 友美

テーマ

直聴直解技術の体得

獲得目標

(1) 英語を直聴直解できるようになること。(2) 英語のリスニングにはどんな戦略が必要なのか、自分がどんなリスニングの弱点を持っているのか、また、その克服の為にどんなトレーニング法を実行していけばよいか、などの問題に自ら答えを出せるようになること。

授業の内容

シチュエーションに応じた語彙や表現をさらに増やし、聞いたものを直解するトレーニングをおこなう。授業も英語でおこなう。教科書はホームステイを題材にしたものなので、留学時に役立つ知識も吸収できるであろう。中間・終了テスト以外に、小テストをする。最後に、授業で提供されるマテリアルや情報を通じて、英語のリスニングにはどんな戦略が必要なのか自分がどんなリスニングの弱点を持っているのか、また、その克服の為にどんなトレーニング法を実行していけばよいか、などの問いに自ら答えを出せるようにする。

内 容

- 第1回 unit 1
 - 第2回 unit 2
 - 第3回 unit 3
 - 第4回 unit 4
 - 第5回 unit 5
 - 第6回 unit 6
 - 第7回 unit 7
 - 第8回 unit 8
 - 第9回 unit 9
 - 第10回 unit 10
 - 第11回 unit 11
 - 第12回 unit 12
 - 第13回 unit 13
 - 第14回 unit 14
 - 第15回 unit 15
-

授業以外での学習方法

教科書を使ったアウトプット(授業で説明するシャドーイングなど)を日課的に行う。自分の気に入ったマテリアル(映画や音楽)を選んでどんどん聞く。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Listening III **

担当者 山崎 清水

テーマ

リスニング能力の向上

獲得目標

英語を直聴直解できるようになることを目指す。

授業の内容

ビデオ教材を使用しリスニング能力の向上を目指す。

内 容

- 第1回 American Buddhists
 - 第2回 Coral Reefs
 - 第3回 Drummers
 - 第4回 Food Stylist
 - 第5回 Musical Instruments
 - 第6回 Faberge
 - 第7回 Bees
 - 第8回 Musician Michelle Branch
 - 第9回 Ocean Plastic
 - 第10回 Pinball
 - 第11回 Quiz Show
 - 第12回 Rainforest
 - 第13回 PRS Guitars
 - 第14回 Women's Football
 - 第15回 Video Gamers
-

授業以外での学習方法

日頃から積極的に英語を聴くように心がけること。

教科書

English Mosaic -- Special English from VOA Video

著者: John S. Lander

出版社: 朝日出版社

出版年: 2013

ISBN: 9.78426E+12

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Listening IV <a>**

担当者 野口 博代

テーマ

情報を的確に捉えるためのリスニング

獲得目標

英語を自然なスピードで聞くことに慣れ、必要な情報を的確に聞きとる事が出来る力を養う事を目標とします。

授業の内容

身近な親しみやすいトピックを題材にした様々な形態の英語を聞いて、数多くのリスニングの演習を行います。練習問題を数多くこなすことにより、英語の自然なスピードに慣れリスニングの力の定着をはかります。

内 容

- 第1回 Introductions At the airport
 - 第2回 At the airport Dating
 - 第3回 Family events
 - 第4回 School Subjects
 - 第5回 Geography
 - 第6回 Housing
 - 第7回 Buying and selling
 - 第8回 Job preferences
 - 第9回 Office work
 - 第10回 Tours
 - 第11回 Ordering food
 - 第12回 Stress and relaxation
 - 第13回 News
 - 第14回 Famous personalities
 - 第15回 Health, REVIEW
-

授業以外での学習方法

テキスト付録のCDを繰り返し聞くこと。

教科書

STEP-BY-STEP Listening

著者: David Nunan / Noriko Tomioka

出版社: CENGAGE Learning

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Listening IV **

担当者 日高 周平

テーマ

リスニング能力の向上。

獲得目標

英語圏で生活する際に必須となる単語／文法事項の確認を行ないつつ、総合的なリスニング能力の向上を目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義概要／成績評価についての説明など
 - 第2回 Unit 1 旅行 1
 - 第3回 Unit 2 オフィス 1
 - 第4回 Unit 3 レストラン
 - 第5回 Unit 4 新聞・雑誌
 - 第6回 Unit 5 広告
 - 第7回 Unit 6 就職活動
 - 第8回 Unit 7 休暇
 - 第9回 Unit 8 オフィス 2
 - 第10回 Unit 9 ショッピング
 - 第11回 Unit 10 旅行2
 - 第12回 Unit 11 娯楽
 - 第13回 Unit 12 マーケティング
 - 第14回 Unit 13 オフィス 3
 - 第15回 Unit 14 金融、総合復習、理解度確認テスト
-

授業以外での学習方法

配布する単語リストを完全に覚えること。

教科書

Achieve Your Best on the TOEIC Test

著者： 鶴岡公幸, Matthew Wilson

出版社： 松柏社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation II <a>**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Develop confidence in writing and presenting in English

獲得目標

This course will aim to develop basic academic presentation and writing skills. Students will learn how to present a topic using effective physical, visual and verbal communication, and how to write academic paragraphs and short essays.

授業の内容

The second-semester course will focus on writing skills, and presentations will be developed from written assignments. The final assignment will be an 800-word essay. Students will be expected to attend regularly, participate actively and submit regular writing and presentation assignments. This class will be conducted in a computer lab. This class will be taught in English.

内 容

- 第1回 Pre-Writing
 - 第2回 Paragraph Structure
 - 第3回 Developing a Paragraph
 - 第4回 Descriptive and Process Paragraphs
 - 第5回 Opinion Paragraphs
 - 第6回 Comparison/Contrast Paragraphs
 - 第7回 Problem/Solution Paragraphs
 - 第8回 Essay Structure
 - 第9回 Outlining
 - 第10回 Introduction & Conclusion
 - 第11回 Unity & Coherence
 - 第12回 Peer-Review, Revision & Editing
 - 第13回 Presentation preparation
 - 第14回 Final Presentations (1)
 - 第15回 Final Presentations (2)
-

授業以外での学習方法

教科書

Writing Essays

著者: Dorothy Zemach & Lisa A. Ghulldu

出版社: Macmillan

出版年: 2011

ISBN: 9.78023E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation II **

担当者 栗田 梨津子

テーマ

アカデミック・ライティングおよびプレゼンテーション入門

獲得目標

英語でのライティングおよびプレゼンテーションの基本技能を習得し、自分の考えを論理的に英語で表現できるようになること。

授業の内容

プレゼンテーションのための英文を作成する中で、レポートまたは論文作成の基本となるパラグラフの書き方や形式上のルール、読み手または聞き手を意識した効果的な伝え方について学んでいきます。

内 容

- 第1回 授業概要の説明 プレゼンテーション①(Dream Vacation)の説明
 - 第2回 英文原稿の作り方について (Brainstorming/Organizing)
 - 第3回 英文原稿の作成
 - 第4回 プレゼンテーションの仕方について (Presentation tips)
 - 第5回 プレゼンテーション①個人発表
 - 第6回 プレゼンテーション②(How the world works)の説明 英文原稿の作り方について(Brainstorming/Organizing)
 - 第7回 英文原稿の作成
 - 第8回 プレゼンテーションの仕方について (Presentation tips)
 - 第9回 プレゼンテーション②グループ発表
 - 第10回 プレゼンテーション②グループ発表
 - 第11回 プレゼンテーション③(In my opinion/In the news)の説明 英文原稿の作り方について(Brainstorming/Organizing)
 - 第12回 英文原稿の作成
 - 第13回 プレゼンテーションの仕方について (Presentation tips)
 - 第14回 プレゼンテーション③グループ発表
 - 第15回 プレゼンテーション③グループ発表 全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

Present Yourself 2 (Viewpoints)

著者: Steven Gershon

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

a30201b052

授業中課題として、英文エッセイ(800 words)を提出してもらいます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Writing & Academic Presentation II <c>**

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Developing intermediate level writing and presentation skills

獲得目標

(1) To reinforce English writing skills learned at high school (2) To develop basic presentation skills on a variety of topics (3) To produce a final, formally-typed essay of over 800 words This class will be taught in English.

授業の内容

The written work and presentations that the students will make, one being a PowerPoint presentation, will build into a portfolio that will be of use during their SAP, GFP or GIP programme.

内 容

- 第1回 Unit One: Writing Preparation; A motto for life (i)
 - 第2回 Unit One: Writing Preparation; A motto for life (ii)
 - 第3回 Unit One: Student Presentations
 - 第4回 Unit Two: Writing Preparation; Young people today (i)
 - 第5回 Unit Two: Writing Preparation; Young people today (ii)
 - 第6回 Unit Two: Student Presentations
 - 第7回 Unit Three: Writing Preparation; Dream vacation (i)
 - 第8回 Unit Three: Writing Preparation; Dream vacation (ii)
 - 第9回 Unit Three: Student Presentations
 - 第10回 Unit Four: Writing Preparation; How the world works (i)
 - 第11回 Unit Four: Writing Preparation; How the world works (ii)
 - 第12回 Unit Four: Student Presentations
 - 第13回 Unit Five: Writing Preparation; In my opinion (i)
 - 第14回 Unit Five: Writing Preparation; In my opinion (ii)
 - 第15回 Unit Five: Student PowerPoint Presentations
-

授業以外での学習方法

Practice using the extensive DVD and CD materials for the textbook Recording and listening to your own speeches
Reading famous speeches in collected anthologies Listening to English speeches on TV

教科書

Present Yourself 2: Viewpoints

著者: Steven Gershon

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a30201b053

All students are required to produce a final essay of over 800 words, and make three class presentations.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座 I

担当者 北林 利治

テーマ

獲得目標

①海外留学・国際インターンシップなど、「多文化理解プログラム」のgoalを明確にする。②「多文化理解プログラム」参加にあたっての十分な英語力を養成する。

授業の内容

2回生時に行われる「多文化理解プログラム」を成功させるためには、各人がプログラムの目的や目標をよく考え、明確にすることが大切です。この授業では、多文化理解プログラム履修の明確な目標をもつこととあわせ、いずれにしても、十分な英語力が要求されるので、英語力強化もこの授業の目的とします。

内 容

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 多文化理解プログラムの内容と今後の学習計画
 - 第3回 多文化理解プログラムのgoalを考える
 - 第4回 日本在住の外国人(教科書第1章)
 - 第5回 帰国外国人(教科書第2章)
 - 第6回 共文化コミュニケーション(教科書第3章)
 - 第7回 海外留学(教科書第4章)
 - 第8回 海外赴任(教科書第5章)
 - 第9回 海外旅行(教科書第6章)
 - 第10回 国際交渉(教科書第7章)
 - 第11回 国際協力(教科書第8章)
 - 第12回 マスメディアとパーセプション・ギャップ(教科書第9章)
 - 第13回 留学におけるホームステイと異文化理解
 - 第14回 インターンシップと異文化理解
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

参考文献をクラスで指示するので、指定されたものは必ず読むこと。また、グループディスカッションのための教材は事前に読むこと。

教科書

ケースで学ぶ異文化コミュニケーション

著者： 久米昭元・長谷川典子

出版社： 有斐閣選書

出版年： 2007年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (10)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

a30201b150

遅刻は欠席0.5とし、3分の1以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はできません。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 多文化理解プログラム講座Ⅱ <d>

担当者 北林 利治

テーマ

充実した留学生活のために

獲得目標

多文化理解プログラムを成功させるための諸能力の獲得

授業の内容

・多文化理解プログラムの学習・生活面を充実したものにするため必要な諸能力を養成する。・まず、留学に関するものを多く読むことによって情報を収集し、同時に読む力を養う。リスニング力養成や、ペーパーを書くための準備などもおこなう。さらに、読んだ内容を授業で順に発表していくことによって、プレゼンやディスカッションの訓練も積んでいく。・授業外のキャンパスライフやホームステイも留学中の重要な側面を形成している。異文化環境で生活するために必要なことを知り、異文化への理解や問題解決力を養成する。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨンー留学とは、多文化理解プログラムの目標
- 第2回 留学希望国の概要を調べる／ホームステイ準備①
- 第3回 留学希望国の自然環境、生活環境などを調べる／ホームステイ準備②
- 第4回 留学希望国の民族性、民族問題などを調べる／ホームステイ準備③
- 第5回 留学希望国の文化：多文化理解などを深める／ホームステイ準備④
- 第6回 留学希望国の政治、経済状況を調べる／安全対策、リスク管理①
- 第7回 留学希望国の教育制度などを調べる／安全対策、リスク管理②
- 第8回 これまでの調査と学習の中間まとめ
- 第9回 ディスカッション①ー気候や環境について
- 第10回 ディスカッション②ー食べ物や食生活について
- 第11回 ディスカッション③ーオーストラリア、カナダ、アメリカの英語ー
- 第12回 留学経験者の話を聞く①ーアメリカまたはカナダ留学生ー(予定)
- 第13回 留学経験者の話を聞く②ーオーストラリア留学生ー(予定)
- 第14回 これまで行った、学習や討論の振り返り
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

それぞれの事業所について事前に調べておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地域文化研究Ⅱ

担当者 日高 周平

テーマ

英語圏の文化について、理解を深める。

獲得目標

英語圏のマイノリティーに焦点をあて、彼らの生活様式、言語、教育など様々な角度から理解を深めていく。

授業の内容

国際化が進んでいる中、英語圏への理解は学生にとって必用不可欠なものになってきている。英語圏に住むマイノリティーを知る事により、さらに英語圏の人々への理解を深めたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス (授業の進め方、成績評価方法についての説明など)、マイノリティー／マジョリティーについてのディスカッション
- 第2回 Maori 1: 歴史、生活様式、アート(Ta moko)、Haka、国歌
- 第3回 Maori 2: バイリンガル教育、社会福祉問題
- 第4回 Amish: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
- 第5回 Jewish: 歴史、生活様式、言語、教育、宗教
- 第6回 Native Americans: 歴史、居住区域、アート、言語、音楽
- 第7回 African Americans: 歴史、言語(発音/イディオム)、文学、音楽、人種差別
- 第8回 Chinese Americans: 大陸横断鉄道、中国人街、移民、言語教育
- 第9回 Japanese Americans: 戦前戦中戦後、ハワイへの移住者の生活など
- 第10回 Mexican Americans: 不正入国問題、職業、Mexicanの中でのHip-hop文化
- 第11回 Indian American: Gujarat出身のインド系アメリカ人、言語、専門知識、職業など
- 第12回 Canadaのバイリンガル教育
- 第13回 Hong Kongのバイリンガル教育
- 第14回 個人研究
- 第15回 まとめ、個人研究発表

授業以外での学習方法

教科書

プリント等によって対応

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英米文学論Ⅱ

担当者 浅井 雅志

テーマ

近代英文学を読む

獲得目標

D・H・ロレンスの作品を読むことを通して、文学のおもしろさと「すごさ」を感じると同時に、背景となっている英語圏文化についての理解を深める。

授業の内容

20世紀英文学にひととき高くそびえるD・H・ロレンス(1885-1930)。彼は長編小説の書き手として有名だが、中・短編小説にも優れたものが多い。このクラスでは、彼の短編集“The Woman Who Rode Away”の作品を読みながら、文学というものは、日々の人間の平凡な意識とどのように異なる「現実」の捉え方をするのか、それをいかに印象深く読者に提示するかを感じ取ってみたい。それと同時に、これらの作品の背景となっている近代英国について知ることとおして、英語圏文化の諸側面にも理解を広げることを目指したい。具体的には、章ごとに担当を決め、レジュメを作って発表してもらう。その後授業担当が必要な説明を加え、それからクラス全体で内容について議論してみたい。また、期末にはペーパーを提出してもらおう。書き方については授業で指導する。読む英文の分量が多く、積極的な参加が求められるので、相当の覚悟のある人の受講を期待している。欠席は4回まで認めるが、5回以上になると単位は認められない。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 The Lovely Lady 1
- 第3回 The Lovely Lady 2
- 第4回 Sun
- 第5回 The Border-Line
- 第6回 Jimmy and the Desperate Woman
- 第7回 The Last Laugh
- 第8回 In Love
- 第9回 Glad Ghosts
- 第10回 None of That!
- 第11回 The Rocking-Horse Winner
- 第12回 The Woman Who Rode Away 1
- 第13回 The Woman Who Rode Away 2
- 第14回 The Man Who Loved Islands 1
- 第15回 The Man Who Loved Islands 2 総括。ペーパー提出

授業以外での学習方法

授業で指示する。

教科書

The Woman Who Rode Away

著者: D.H.Lawrence

出版社: Penguin

出版年: 1996

ISBN: 0-14-018806-1

参考書

成績評価

a30202a850

試験 (60)
授業中課題 ()
参加度 (10)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus**科目名 English Communication I**

担当者 西村 友美

テーマグローバル時代におけるリスニング

獲得目標グローバル時代における時事、国際問題のTVニュースなどを題材にした素材を聞き、理解することを目指す。

授業の内容CALL教室で、紙媒体だけでなくネットでアクセスできる素材などを活用し、幅広いリスニング活動を行なう。また、聞くだけでなく、シャドーイングなどで教材とともに自分の声を録音するトレーニングを取り入れ、自然な発音やスピードを身につけるようにする。

内 容

- 第1回 リスニングに必要なこと
 - 第2回 Unit 1
 - 第3回 Unit 2
 - 第4回 Unit 3
 - 第5回 Unit 4
 - 第6回 Unit 5
 - 第7回 Unit 6
 - 第8回 中間まとめ
 - 第9回 Unit 7
 - 第10回 Unit 8
 - 第11回 Unit 9
 - 第12回 Unit 10
 - 第13回 Unit 11
 - 第14回 Unit 12
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法新聞を読む。テキストの予習。シャドーイングの練習。

教科書

English for the Global Age with CNN Vol. 13

著者： Kansai University ELT Research Group

出版社： Asahi Press

出版年： 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 English Communication II

担当者 西村 友美

テーマ

グローバル時代を生き抜くためのリーディング力

獲得目標

(1) 社会が大学生に求める英語リーディング力を養成する (2) 関西ゆかりの企業12社が辿ってきた軌跡、知られざる開発秘話を知り、社会について関心を喚起する

授業の内容

毎回600語程度の英文を読み、社会が求めるリーディング力を養成する。付属する exercise で語い力、理解力を強化する。Excercise のなかには、学生が自ら興味を抱く企業についてリサーチする課題も含まれているので、プロジェクト形式で能動的に取り組んでもらう。

内 容

- 第1回 unit 1
 - 第2回 unit 2
 - 第3回 unit 3
 - 第4回 unit 4
 - 第5回 unit 5
 - 第6回 unit 6
 - 第7回 unit 7
 - 第8回 unit 8
 - 第9回 unit 9
 - 第10回 unit 10
 - 第11回 unit 11
 - 第12回 unit 12
 - 第13回 unit 13
 - 第14回 unit 14
 - 第15回 unit 15
-

授業以外での学習方法

予習・復習。リサーチしたい企業について下調べをする。

教科書

A Visit to Amazing Kansai-based Companies

著者： 井上その他

出版社： 松柏社

出版年： 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus**科目名 English Communication III**

担当者 金山 敬

テーマ

知識を提供するプレゼンテーション 説得的プレゼンテーション

獲得目標

自分の英語で情報を発信できる能力を養成する。

授業の内容

身近なトピックについての語彙や表現に関する基礎演習からスタートして、チャート的に英語のプレゼンテーションをイメージしながらばらぐらふ・ライティングを行うことにより、原稿作成とプレゼンテーションの準備を並行して進める。

内 容

- 第1回 Chapter 1: Section 1-1
 - 第2回 Section 1-2
 - 第3回 Section 2-1
 - 第4回 Section 2-2
 - 第5回 Section 3-1
 - 第6回 Section 3-2
 - 第7回 Section 4-1
 - 第8回 Section 4-2
 - 第9回 Section 5-1
 - 第10回 Section 5-2
 - 第11回 Section 6-1
 - 第12回 Section 6-2
 - 第13回 Chapter 3: Section 1-1
 - 第14回 Section 1-2
 - 第15回 Summary
-

授業以外での学習方法

教科書

Writing for Presentation in English

著者: 杉田由仁

出版社: 南雲堂

出版年: 2012年

ISBN: 978-4-523-17731

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **English CommunicationIV**

担当者 金山 敬

テーマ

Writing

獲得目標

トピック別エッセイの書き方を習得する。

授業の内容

短文の和文英訳からある程度まとまったエッセイが書けるように段階を踏んで学習する。学生に身近な興味あるトピックを扱いながら、話題を展開する方法を身につける。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 Lesson 1
 - 第3回 Lesson 2
 - 第4回 Lesson 3
 - 第5回 Lesson 4
 - 第6回 Lesson 5
 - 第7回 Lesson 6
 - 第8回 Lesson 7
 - 第9回 Lesson 8
 - 第10回 Lesson 9
 - 第11回 Lesson 10
 - 第12回 Lesson 11
 - 第13回 Lesson 12
 - 第14回 Lesson 13
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

予習をしっかりとしておくこと。

教科書

Point by Point

著者： 石谷 由美子

出版社： 南雲堂

出版年： 2010年

ISBN: 978-4-523-17652

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地域文化研究 I

担当者 浅井 雅志

テーマ

英語圏の文化についての理解を深める

獲得目標

英国とアメリカを中心にした「英語圏文化」についての理解を深めるとともに、これらの国々と日本、そしてその中の個人であるあなたが、どのような関係をもっているか、もつべきかについて考える。

授業の内容

現在進行しているグローバリゼーションは、世界のあちこちで大きな力ともなりまた脅威ともなっているが、その「基準」となっているのが、アメリカであり、またその文化的母胎である英国である。それゆえ、現在に生きる私たちは、否が応でもこの「アングロ・アメリカ文化」と直面せざるを得ない。事実、この文化はまず大衆文化としてわれわれの周りにはびこっている。この得体的に知れないものと、私たちはどう付き合えばよいのか。単なる「好」にも「親」にも、はたまた「嫌」にも走らずに、日本が長い関係を持つこの文化圏をじっくり見つめてみよう。この両国以外の英語文化圏にも触れる予定。授業では、なるべくビデオなどの視聴覚に訴えるものを使いながら、講義を進めていく。受講生は、講義の内容についての感想、疑問、意見などを最低3回、関心を持ったテーマについて短いペーパーを1回提出すること。これらを授業にフィードバックしたい。毎回出席を取ります。

内 容

- 第1回 イントロダクション——日本と英語圏との接触の歴史
- 第2回 アイルランド
- 第3回 英国①
- 第4回 英国②
- 第5回 英国③
- 第6回 アメリカ①
- 第7回 アメリカ②
- 第8回 アメリカ③
- 第9回 アメリカ④
- 第10回 アメリカ⑤
- 第11回 アメリカ⑥
- 第12回 アメリカ⑦
- 第13回 アメリカ⑧;カナダ
- 第14回 オーストラリア;ニュージーランド
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

自分の周りに起こることに敏感になり、そうした出来事を「文化」と結びつけて考える習慣をつけてみよう。そのために、新聞の国際欄を読み、外国事情や文化を扱ったテレビの特集番組を見、参考文献をせっせと読もう。英語圏で作られた映画を観たりや音楽を聴いたりするときも、その文化的背景を考えてみよう。

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考文献一覧を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **音声学**

担当者 久保田 美佳

テーマ

Introduction to English Phonetics

獲得目標

(1)To learn the basics of phonetics, while studying and practicing English pronunciation. (2)To become able to distinguish and properly pronounce English sounds.

授業の内容

When a language is considered as a tool for oral communication, its sounds are understandably very important. The purpose of phonetics, as a discipline, is to study how exactly we humans use and control our digestive and respiratory organs such as lips, mouth, tongue, trachea, and lungs, to create the sounds of a language. We will study the characteristics of English sounds by comparing them with the sounds of Japanese. The class will be mostly conducted in English.

内 容

- 第1回 What is phonetics?
- 第2回 English Vowels①
- 第3回 English Vowels②
- 第4回 English Vowels③
- 第5回 English Consonants①
- 第6回 English Consonants②
- 第7回 English Consonants③
- 第8回 Syllable & Word Stress, Sentence Stress
- 第9回 Pause, Pitch, and Intonation
- 第10回 Elision
- 第11回 Assimilation
- 第12回 Intonation (series, alternative question, etc.)
- 第13回 Intonation (tag question, etc.) Strong and Weak Form of Function Words
- 第14回 Stress with Speaker's Intention Word Stress Shift and Others
- 第15回 Review

授業以外での学習方法

Students are expected to practice pronunciation outside the class, as well as in class. Students will be introduced to many useful websites to help them with their practice at home.

教科書

Sounds Make Perfect 英語音声学への扉—発音とリスニングを中心に—

著者： 今井由美子・井上球美子・井上聖子・大塚朝美・高谷華・上田洋子・米田信子

出版社： 英宝社

出版年： 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (80)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (20)

参加度 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ <a>

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Seminar in Translation Studies

獲得目標

1. To expand the range and sophistication of translation strategies that students can use 2. To further develop advanced English language skills and vocabulary 3. To introduce students to more advanced kinds of text translation and help them to be able to solve complex translation problems 4. To introduce students to different types, or modes, of translation; and some translation theory 4. To give students further opportunity to make academic presentations 5. To prepare students for writing a graduation thesis This class will be taught in English.

授業の内容

This seminar is a continuation for the Seminar in Translation Studies class in the previous semester. In the first set of classes we will concentrate on texts that require advanced translation techniques, or involved highly problematic issues, by closely analysing a number of complex or problematic texts. Students will be given translation assignments, as in the first semester, which they will present to the rest of the class for discussion. We will then look towards their graduation theses, which will be a piece of translation of their own choice, and they will produce a translation of part of their chosen text for final evaluation.

内 容

- 第1回 Prioritization
- 第2回 Vocabulary choice
- 第3回 Advanced translation strategies
- 第4回 Consistency
- 第5回 Introduction to theories of translation 1
- 第6回 Introduction to theories of translation 2
- 第7回 Complex problem solving 1: cultural issues
- 第8回 Complex problem solving 2: linguistic issues
- 第9回 Special kinds of translation
- 第10回 Academic translation
- 第11回 Student presentations 1 & discussion
- 第12回 Student presentations 2 & discussion
- 第13回 Student presentations 3 & discussion
- 第14回 Preparation for the graduation thesis
- 第15回 Preparation for the graduation thesis

授業以外での学習方法

Reading general English materials on translation and translation studies. Careful checking of any translated material, from signs and short texts to film and TV subtitles. Looking carefully at more sustained translations: for instance, a novel, or piece o

教科書

参考書

Same as Spring Semester

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (30)

授業中課題 ()

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ

担当者 浅井 雅志

テーマ

近代日本人の「自画像」を探る

獲得目標

外国人が描いた日本人像を通して、近代化によって日本人が何を、何を失ったかを考える。またそれを通して、日本文化への理解、および自己理解を深める。

授業の内容

幕末から明治初期にかけて多くの外国人が来日し、かなりの量の日本印象記・滞在記を残した。そこには、今の日本からは想像もできないような世界が広がっている。そうした、近くて遠い過去を知ることで、現在の日本とそこに生きるあなた自身をより深く理解してみたい。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 『逝きし世の面影』第2章
- 第3回 『逝きし世の面影』第3章①
- 第4回 『逝きし世の面影』第3章②
- 第5回 『逝きし世の面影』第4章①
- 第6回 『逝きし世の面影』第4章②
- 第7回 『逝きし世の面影』第5章
- 第8回 『逝きし世の面影』第7章
- 第9回 『逝きし世の面影』第8章①
- 第10回 『逝きし世の面影』第8章②
- 第11回 『逝きし世の面影』第9章
- 第12回 『逝きし世の面影』第1章①
- 第13回 『逝きし世の面影』第1章②
- 第14回 『逝きし世の面影』第1章③
- 第15回 『逝きし世の面影』第14章; 総括、ペーパー提出

授業以外での学習方法

教科書

逝きし世の面影

著者: 渡辺京二

出版社: 平凡社

出版年: 2005

ISBN:

参考書

授業中に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a302030252

試験 (60)
授業中課題 ()
参加度 (10)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ〈c〉

担当者 西村 友美

テーマ

通訳に関わる諸側面の考察と通訳スキルの向上

獲得目標

(1) 通訳学関連論文を読み、自分の卒研テーマを探す。(2) 通訳する素材を自ら見つけ、通訳訓練する。

授業の内容

この授業は、受講者が通訳に関わる諸側面を観察し、自らテーマを見つけ、その問題の解明と表現をすることができるようになることをめざす。同時に、考察する対象として選んだ素材を通訳するトレーニングを行う。グループに分かれて英語の報道番組ビデオを時差通訳した作品を作り、授業で発表する。これらの作業を通じ、自分の卒研テーマを探す。春休みから具体的に卒研の作品制作第1段階に着手してもらう予定である。

内 容

- 第1回 プレゼン1回目
- 第2回 プレゼン1回目
- 第3回 プレゼン1回目
- 第4回 報道番組時差通訳(事例研究)
- 第5回 報道番組時差通訳(リスニング)
- 第6回 報道番組時差通訳(時差通訳)
- 第7回 報道番組時差通訳(時差通訳)
- 第8回 プロジェクト発表
- 第9回 プロジェクト発表
- 第10回 プロジェクト発表
- 第11回 プロジェクト発表
- 第12回 プレゼン2回目
- 第13回 プレゼン2回目
- 第14回 プレゼン2回目
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

プレゼンの準備。グループ・プロジェクトの作品制作および発表の準備。

教科書

参考書

授業で指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ <d>

担当者 北林 利治

テーマ

現代英語教育の諸問題

獲得目標

(1)前期に引き続いて、現代日本の英語教育について理解を深める。(2)上記のテーマで英語で発表したり、レポートにまとめる。

授業の内容

基本的には、前期の「英語コミュニケーション演習I」の内容を発展させていく。前期と同様に、クラスでのプレゼンテーション、そして、後期は書くこと(レポートの作成)にも力を入れたい。明晰な英語を書くことを通して、論理的な思考方法とは何かという問題も考えていきたい。卒業論文を意識して、テーマの設定、論の進め方、レポートの形式などを扱っていく。なお、後期は、プレゼンテーションは原則として英語で行ってもらおう。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 プレゼンテーションについて
- 第3回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第4回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第5回 受講生による発表(1回目)、クラスでの討論
- 第6回 アカデミックライティングの基礎①
- 第7回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第8回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第9回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第10回 受講生による発表(2回目)、クラスでの討論
- 第11回 アカデミックライティングの基礎②
- 第12回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第13回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第14回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論
- 第15回 受講生による発表(3回目)、クラスでの討論

授業以外での学習方法

参考文献の一覧をクラスでわたすので、クラス外で読むこと。

教科書

使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a302030254

3分の1以上の欠席がある場合は、いかなる理由があっても単位の認定はできません。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅱ〈e〉

担当者 金山 敬

テーマ

児童英語教育—小学校英語活動と中学校英語の連携 言語習得と英語教育

獲得目標

日本の英語教育、特に児童期の英語教育の果たすべき役割の研究

授業の内容

小学生、中学生の発達段階に応じた英語教育のありかたを考察する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 日本の小学校における英語活動の概要
 - 第3回 諸外国の英語教育について
 - 第4回 諸外国の英語教育についての発表と討議 ①
 - 第5回 諸外国の英語教育についての発表と討議 ②
 - 第6回 諸外国の英語教育についての発表と討議 ③
 - 第7回 小学校低学年に適した英語活動について
 - 第8回 討議と考察
 - 第9回 小学校中学年に適した英語活動について
 - 第10回 討議と考察
 - 第11回 小学校高学年に適した英語活動について
 - 第12回 討議と考察
 - 第13回 中学英語におけるコミュニケーション活動
 - 第14回 討議と考察
 - 第15回 振り返りとまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a302030255

積極的かつ意欲的な授業態度を高く評価します。

参考URL

2013 Syllabus**科目名 Critical Reading II <a>**

担当者 芝原 妙子

テーマ

This class is designed to increase students' English reading skills and develop their insights to the topics of reading materials.

獲得目標

This class is designed to further help students develop reading skills, critical-thinking, and critical-reading. It also encourages students to form their own opinions and thoughts to relate to the ideas in the text and other materials.

授業の内容

Students are responsible for completing the readings for the day they are assigned. To enhance vocabularies and writing skills, students will have vocabulary quizzes (based on the Kilgarriff word list, no. 2001-2860). Students are required to make three oral presentations and turn in three typed papers (two short essays (350 words for each) and the final essay (1200 words). This class will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction and course description
 - 第2回 Chapter 7
 - 第3回 Chapter 7
 - 第4回 Chapter 8 & Vocabulary Quiz-1
 - 第5回 Chapter 8
 - 第6回 News article report day-1
 - 第7回 Chapter 9 & Vocabulary Quiz-2
 - 第8回 Chapter 9
 - 第9回 Chapter 10 & Vocabulary Quiz-3
 - 第10回 Chapter 10
 - 第11回 Chapter 11 & Vocabulary Quiz-4
 - 第12回 Chapter 11
 - 第13回 Chapter 12 & Vocabulary Quiz-5
 - 第14回 Chapter 12
 - 第15回 & Vocabulary Quiz-6 and News article report day-2
-

授業以外での学習方法

Read newspapers, magazines, and journals.

教科書

Reading Choice

著者: Miwako Yamashina

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト (30)

授業中発表等 (20)

Since the readings and the class sessions in this course complement rather than repeat each other, it is extremely important that you be in class, on time and prepared, each day. Please do the day's reading before coming to class, and be prepared to discuss and ask questions about the reading assignments. You are expected to participate in discussion and turn in the papers on the scheduled days. Unexpected late papers are penalized. For example, a B paper would be recorded as a C. Without prior arrangements, there will be no make-ups for the presentations or the quizzes and exams.

参考URL

VOA

<http://www.voanews.com/>

English news from the Voice of America

BBC

<http://www.bbc.co.uk/news/>

BBC provides World and UK news.

Time for Kids

<http://www.timeforkids.com/>

TFK is a news magazine which offers simpler news stories

2013 Syllabus

科目名 **Critical Reading II **

担当者 日高 周平

テーマ

Developing critical reading skills.

獲得目標

This course is designed to improve students' reading skills through varieties of reading tasks and discussion activities.

授業の内容

内 容

- 第1回 Introduction and breaking the ice
 - 第2回 Unit 1 A woodland to call not my own
 - 第3回 Unit 2 Down but not out
 - 第4回 Unit 3 Bear facts about honey traps
 - 第5回 Unit 4 Nature healing
 - 第6回 Unit 5 Forest fun and fools
 - 第7回 Unit 6 Achoo Alert
 - 第8回 Unit 7 Breakfast with rodents
 - 第9回 Unit 8 To kurohime via karate
 - 第10回 Unit 9 With Ainu friends in Hokkaido
 - 第11回 Unit 10 Wintertime and the livin' ain't easy
 - 第12回 Unit 11 Talking sense about deer
 - 第13回 Unit 12 To cage or not to cage
 - 第14回 Unit 13 The proudest day of my life
 - 第15回 Unit 14 Our woodland trust just keeps growing, Final examination
-

授業以外での学習方法

Students are expected to read the assigned chapter prior to coming to class.

教科書

Old Nic's Notebook『C.W.ニコルと行くアファンの森 - ジャパンタイムズのコラムを読む』

著者: C.W.Nicol/Jonathan Lynch/委文光太郎

出版社: 三修社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (60)

小テスト (40)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **通訳研究**

担当者 西村 友美

テーマ

通訳の理論と集中訓練

獲得目標

(1) 実践を通して通訳術の基本を習得することを目指す。(2) 通訳を通じて異文化コミュニケーションについて考察する力を養う。

授業の内容

「通訳基礎論」で習得した基礎的理論と技術をもとに、より高度な通訳を集中的に訓練する。毎回の授業で、段階的なトレーニングを重ね、最終的には簡単な通訳(逐次・同時)ができるようにしたい。学期末近くにゲストスピーカーを招き、実際により即した通訳を体験してもらう予定である。また、通訳を異文化コミュニケーション学や言語学の視点からとらえ考察する。教科書の理論編を分担して授業でプレゼンをし、全体でディスカッションをする。最後に自分の意見をエッセイにまとめて提出してもらう。自ら通訳者を目指さない受講者も、通訳者はことばの壁をどう乗り越えているのか、また異文化間のコミュニケーションを円滑に進めるためにどんな工夫をしているのかを知ることは、自分の英語の運用にも役立つはずである。授業はそのような観点から進めていきたい。なお、英語コミュニケーション演習Ⅰの受講者にはこの科目を同時履修することを勧める。

内 容

- 第1回 通訳とは(歴史、仕事)、通訳技法(理解)
- 第2回 通訳とは(資質と能力、通訳と翻訳)、通訳技法(クイック・レスポンス)
- 第3回 異文化コミュニケーションとは、通訳技法(シャドーイング)
- 第4回 異文化コミュニケーターとしての通訳者、通訳技法(パラフレーズ)
- 第5回 通訳と言語学との接点(比喻)、通訳技法(要約)
- 第6回 通訳と言語学との接点(推意)、通訳技法(要約)
- 第7回 通訳と言語学との接点(意味の一致)、通訳技法(メモ取り)
- 第8回 通訳と言語学との接点(通訳プロセス)、通訳技法(メモ取り)
- 第9回 中間まとめ
- 第10回 通訳と言語学との接点(会話のルール・礼のルール)、通訳技法(サイト・トランスレーション)
- 第11回 通訳と言語学との接点(意味の復元)、通訳技法(サイト・トランスレーション)
- 第12回 通訳と言語学との接点(推意の認知プロセス)、通訳技法(同時通訳)
- 第13回 通訳と言語学との接点(通訳に必要な三つの知識)、通訳技法(同時通訳)
- 第14回 ゲスト・スピーカー
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書の理論編を理解するための文献を読む。各種通訳練習。本格的通訳トレーニングは、TOEIC800点程度取得、あるいは英検準1級を取得してから始めるというのが通説になっている。この授業では、受講者ができるだけ早くそのレベルに到達することができるよう指導するので、授業外での自習をしっかりすることが必須条件となる。

教科書

グローバル時代の通訳

著者: 水野真木子ほか著

出版社: 三修社

出版年: 2002

ISBN:

参考書

授業で指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **地域文化研究Ⅳ**

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

Area Studies (The United Kingdom)

獲得目標

The aim of this course is to give the students a general picture of the history, life, culture and people of The United Kingdom. This class will be taught in English.

授業の内容

Each session will pick up one aspect of the country then, after a short lecture, we will view some visual materials, review what is said in the text, or complete a set of questions on the content of the class.

内 容

- 第1回 Geography
 - 第2回 History
 - 第3回 The Monarchy
 - 第4回 Parliament and the EC
 - 第5回 Holidays and Festivals
 - 第6回 Education
 - 第7回 The Welfare State
 - 第8回 Sport
 - 第9回 Northern Ireland
 - 第10回 Wales
 - 第11回 Scotland
 - 第12回 London
 - 第13回 Food
 - 第14回 A Multi-racial Society
 - 第15回 Final discussion and evaluation
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

In Britain

著者: M. Vaughan-Rees

出版社: MACMILLAN LANGUAGEHOUSE

出版年: 2006

ISBN: 00140-3-112177

Spotlight in Britain

著者: S. Sheerin

出版社: Oxford

出版年: 1995

ISBN: 0-19-432788-4

a302033850

Britain

著者: J. O'Driscoll

出版社: Oxford

出版年:

ISBN: 978019-4306478

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **Essay & Presentation II**

担当者 日高 周平

テーマ

Essay and presentation

獲得目標

Learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of emails.

授業の内容

内 容

- 第1回 Introduction & Course Description
 - 第2回 Unit 14 Congratulations!
 - 第3回 Unit 15 It would be appreciated if...
 - 第4回 Unit 16 Can I make an offer?
 - 第5回 Unit 17 Thank you!
 - 第6回 Unit 18 You know what?
 - 第7回 Unit 19 Get well soon!
 - 第8回 Unit 20 Anybody interested?
 - 第9回 Unit 21 Season's Greetings!
 - 第10回 Unit 22 I would like to apply for a position
 - 第11回 Unit 23 Inquiry about scholarship
 - 第12回 Unit 24 Sorry for your loss
 - 第13回 Academic writing 1
 - 第14回 Academic writing 2
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

Students will be required to write emails and letters, both inside and outside the class. Students are welcome to contact me via email.

教科書

Write Me Back Soon! Communicating through Email

著者: 成岡恵子/早野 薫/Sean M. Hackett 著

出版社: 金星堂

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 International Business English II

担当者 弓場 俊也

テーマ

国際ビジネスの現場で即戦力として使える実践的な英語力及び貿易知識を習得する。

獲得目標

地球規模で経済活動が普通に行われるグローバル化の時代に入り、民族、国籍、文化など異なる人々が国境を越えてビジネスをする機会が増えてきました。国際ビジネスの現場で使用する共通言語は英語です。例えば貿易実務で使用される書類は英語で書かれていることが基本です。また英国語、米国語だけが英語ではなく、インドやシンガポールのように国・地域で独自の発達した公用英語、また第二外国語として使用される英語があります。従って誰にでも意図が的確に理解できる、シンプルで平易な英語でなければなりません。学問としてではなくコミュニケーションの道具として使うための実践英語はブレインイングリッシュが主流です。そしてビジネスで使用する英語はコンテキスト(事柄の背景・状況)が共有されていないと誤解を生じたり、意図が正しく伝わらない認識ギャップが生まれます。これを避けるためには貿易知識とそこに含まれる専門用語、取引先の風土、文化、習慣、法律などを理解しておくことが必須です。現在は日々の情報交換はEメールが中心です。しかし取引相手はビジネスパートナーなので、国内メールのように時候の挨拶などは不要であるが、丁寧表現、謙譲表現、尊敬表現は必要です。そこで本講義ではブレインイングリッシュの基礎を学び、基本となる貿易実務、異文化理解の学習を通して国際コミュニケーション力を養成します。

授業の内容

将来国際ビジネスに携わるうえで必要な英語によるコミュニケーション能力向上および貿易実務を概説します。

内 容

- 第1回 ビジネスコミュニケーション
- 第2回 効果的なビジネスメールの基礎知識
- 第3回 取引開始のステージ
- 第4回 問合せと返事
- 第5回 発注と受注
- 第6回 売買取引と決済
- 第7回 出荷・船積手配
- 第8回 クレーム対応と処理
- 第9回 英文契約書の考え方
- 第10回 国際取引ルール
- 第11回 国際物流の仕組み
- 第12回 貿易実務の専門用語
- 第13回 輸出入通関手続き
- 第14回 グローバル時代の異文化理解
- 第15回 総括と確認

授業以外での学習方法

教科書

「英文ビジネスメール/ オフィスメール入門」

著者： 亀田尚己・青柳由紀江著

出版社： 丸善出版株式会社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

a302034050

試験 (34)

小テスト (33)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (33)

毎講義時に実施するミニテストと学期末試験および出席日数により評価します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **国際ビジネス実務演習Ⅱ**

担当者 岡田 有叶

テーマ

基本貿易実務と貿易英語の学習を中心に国際ビジネスを実務的に学ぶ

獲得目標

国際ビジネス、特に貿易分野に進むことを希望する皆さんにとって必須知識となる貿易実務と貿易英語の基本を中心にして体系的に学習し、併せて貿易実務検定C級(できればそれ以上)の合格を目指します。(同学習と資格の取得によって、これらの分野での就職や入社後の業務活動が円滑に行なわれることを期待します。)

授業の内容

貿易実務検定C級オフィシャルテキストに沿って下記項目を学習し、適宜、テキストで(十分に)触れられていないが、現在国際ビジネス界で話題になっている事柄を時事問題として取り上げて補足します。これら学習案件について皆さんに調べてもらい、簡単なレポートを書いてもらうことも考えています。

内 容

- 第1回 貿易取引の全体像の理解
 - 第2回 市場調査から契約の成立まで
 - 第3回 信用状の基礎知識
 - 第4回 品質条件・数量条件等
 - 第5回 インコタームズの基礎知識
 - 第6回 貿易運送
 - 第7回 貨物海上保険、貿易取引に関するその他の保険
 - 第8回 代金決済、船積みから輸出代金の回収
 - 第9回 船積通知の受領から貨物の引取りまで
 - 第10回 外国為替相場と為替変動リスクの回避
 - 第11回 国際貿易体制の基礎知識
 - 第12回 貿易書類の基礎知識(インボイス、売買契約書、取消不能信用状、為替手形)
 - 第13回 貿易書類の基礎知識(船荷証券、航空運送状、保険証券)
 - 第14回 貿易実務英語(英語ビジネスレターの基礎表現、貿易実務用語)
 - 第15回 貿易実務英語(英語ビジネスレターの基礎表現、貿易実務用語)
 - 第16回 まとめと期末テスト
-

授業以外での学習方法

世界の政治、経済等がどのように動くかによって国際ビジネスは大きく影響を受けます。新聞、テレビその他の報道等からこれらの動向を把握し、ビジネスと関連付けて考える習慣をつけましょう。国際ビジネス分野を目指す大学生として、就活生として大切なことであり、貿易実務検定C級以上の受験対策としても役立ちます。

教科書

最新貿易実務ベーシックマニュアル(2版第4刷)

著者: 日本貿易実務検定協会

出版社: MHJ出版

出版年: 2012(2版第4刷)

ISBN: 9.7849E+12

(上記1注:開講時点までに改訂版(改訂刷)が発行されることも考えられ、その場合は、同時点での最新版(最新刷)を使用します。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

実践貿易実務第11版

著者: ジェトロ

出版社: ジェトロ

出版年: 2012

ISBN: 9.78482E+12

ジェトロ貿易ハンドブック2013

著者: ジェトロ

出版社: ジェトロ

出版年: 2013

ISBN:

図解貿易実務ハンドブックベーシック版(第5版)

著者: 日本貿易実務検定協会

出版社: 日本能率協会マネジメントセンター

出版年: 2012

ISBN: 9.78482E+12

めざせ! 貿易実務検定(改訂第8版)

著者: 日本貿易実務検定協会

出版社: 日本能率協会マネジメントセンター

出版年: 2012(第3刷)

ISBN: 9.78482E+12

(上記参考書注:この他、詳しくは授業中に説明します。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 児童英語教材研究

担当者 金山 敬

テーマ

幼児や児童の英語教育について

獲得目標

小学校への外国語活動導入が必修化された今、なぜ英語教育が児童に必要なのか、また、どのように教えたらいのか、その目的と指導法について学ぶ。

授業の内容

実際に幼児や小学生に教える場合にすぐに役立つチャンツ、ゲームを始めとして、言語習得理論に基づいた指導法などを紹介し、学習した後、発表する。期末の課題としてオリジナル絵本を製作する。

内 容

- 第1回 ガイダンス(EFL学習の目的と指導)
 - 第2回 チャンツの指導法
 - 第3回 チャンツの指導発表 I
 - 第4回 チャンツの指導発表 II
 - 第5回 TPRの指導法
 - 第6回 TPRの指導発表 I
 - 第7回 TPRの指導発表 II
 - 第8回 折々の行事について
 - 第9回 Halloween Party
 - 第10回 ストーリーテリングの指導法
 - 第11回 オリジナル絵本製作のガイダンス
 - 第12回 絵本のあらすじと構成
 - 第13回 絵本のストーリーを英文にまとめる
 - 第14回 絵本製作
 - 第15回 絵本発表
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

a302034350

授業への積極的な取り組みと意欲的な態度を高く評価します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 児童英語指導演習Ⅱ

担当者 金山 敬

テーマ

児童英語教育の実践のための演習

獲得目標

児童英語教育のあるべき教育内容の考察とその実践のための実習

授業の内容

実際に小学校や幼稚園において英語活動を行うのに必要なカリキュラムの考察および作成、そして近隣の公立小学校における観察実習と短期実習

内 容

- 第1回 ガイダンス(英語によるコミュニケーションとその指導法)
 - 第2回 小学校英語活動カリキュラム考察－英語教育の狙いとそのあり方－
 - 第3回 小学校英語活動カリキュラム発表－英語教育の狙いとそのあり方－
 - 第4回 小学校英語カリキュラム考察 授業案
 - 第5回 小学校英語カリキュラム発表 授業案
 - 第6回 模擬授業①
 - 第7回 模擬授業②
 - 第8回 模擬授業③
 - 第9回 小学校における教育実習①
 - 第10回 小学校における教育実習②
 - 第11回 幼稚園英語授業年間カリキュラム・授業案考察
 - 第12回 幼稚園英語授業カリキュラム・授業案発表
 - 第13回 模擬授業
 - 第14回 幼稚園における教育実習
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

公立小学校の英語活動および私立幼稚園の課外英語授業の観察実習

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト (30)

授業中発表等 ()

a302034550

授業への積極的な取り組みを評価します

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語科教育法Ⅱ**

担当者 中井 弘一

テーマ

「実践的指導力」の育成: 授業実践力、指導案作成、模擬授業

獲得目標

・中学校・高等学校の英語科担当教員に必要とされる基本的な知識を得る・教育現場での実践的な英語指導法を身につける

授業の内容

学習者の語彙力、文法力を踏まえ、コミュニケーション能力育成のための4領域の指導はどうあるべきかなど実践的な知識と指導技術を模擬授業を行ったりして体得させるようにする。また、ティームティーチング、評価、授業案作成など実践的な課題を取り上げる。

内 容

- 第1回 第1章 英語科授業構成の基礎知識: 学習指導要領、シラバス、英語教員の役割
- 第2回 第2章 教材を見る視点(教材研究): 語彙・文構造の面からの分析、学習者の要因、学習心理
- 第3回 第3章 教材を使う視点: 学習者に応じた教材の選択、教材を見る視点
- 第4回 第4章 英語科授業構成の考え方: 中・長期的な目標設定の重要性、求められる統合型の英語科授業構成
- 第5回 第5章 英語科授業の展開: 指導案と授業の進め方・学習指導案の書き方、授業で行うアクティビティ
- 第6回 中学校の模擬授業(1) 授業研究
- 第7回 中学校の模擬授業(2) 授業研究
- 第8回 中学校の模擬授業(3) 授業研究
- 第9回 中学校の模擬授業(4) 授業研究
- 第10回 高等学校の模擬授業(1) 授業研究
- 第11回 高等学校の模擬授業(2) 授業研究
- 第12回 高等学校の模擬授業(3) 授業研究
- 第13回 第6章 英語科評価の新動向: さまざまな評価の種類
- 第14回 第7章 開発する視点とその方法: 教材の開発
- 第15回 第8章 これからの英語教育と英語教師に求められる力: これからの英語教師に求められる資質と能力

授業以外での学習方法

教科書

新しい学びを拓く英語科授業の理論と実践

著者: 三浦省吾・深沢清治

出版社: ミネルバ書房

出版年: 2009

ISBN: 9.78462E+12

参考書

中学校学習指導要領解説 外国語編

著者: 文部科学省

出版社: 開隆堂出版社

出版年: 2008

ISBN:

高等学校学習指導要領解説 外国語編

著者： 文部科学省

出版社： 開隆堂出版社

出版年： 2009

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 40 ）

授業中発表等（ 30 ）

参加度（ 30 ）

授業中課題：各章(一つ選択)に関するレポート、例「第2章 教材を見る視点(教材研究)において大切なこと」授業中発表等：各章を事前に調べて、pptにまとめ発表・2校種における模擬授業の展開 参加度：授業中における質問や回答による貢献

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語科教育法Ⅲ

担当者 梅本 裕

テーマ

授業業作りのABC

獲得目標

授業とは・授業づくりとはどういうものかを、体験を通じて理解する。また、英語教師として最低限必要な英語力をつける。

授業の内容

国内・国外における英語教育の現状を紹介し、個々の授業に置いてどのように活かしていけるかを考察し、実現できるよう工夫していく。

内 容

- 第1回 これからの英語教育
- 第2回 異文化コミュニケーションとは？
- 第3回 異文化理解のための教育とは？（日本における異文化理解の歴史から学ぶ）
- 第4回 異文化理解のための教育とは？（諸外国の事例に学ぶ）
- 第5回 リーディングの指導における異文化理解の指導
- 第6回 実践・模擬授業（リーディングを中心としたコミュニケーション）
- 第7回 ライティングの指導における異文化理解の指導
- 第8回 実践・模擬授業（ライティングを中心としたコミュニケーション）
- 第9回 スピーキングとリスニングの指導における異文化理解の指導
- 第10回 実践・模擬授業（スピーキングを中心としたコミュニケーション）
- 第11回 海外におけるESL教育における文化理解指導（アメリカ合衆国、カナダの事例）
- 第12回 海外におけるESL教育における文化理解指導（オーストラリア、ニュージーランドの事例）
- 第13回 異文化への態度変容と外国語学習
- 第14回 実践・模擬授業（第11回目、12回で学んだ海外の事例をもとにして）
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

数多くでている英語教育・教授法の本に目を通し、自分なりの考えを持って、授業づくりにのぞむこと。指定された文献を読む。

教科書

Sunshine English Course1-3

著者： 松畑 熙一

出版社： 開隆堂

出版年： 2012

ISBN:

上記以外は英語科教育法Ⅱと同じテキストを用いる。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

参考書

絵で見る英語 Book1-3

著者： Richards & Gibson

成績評価

試験（ ）

授業中課題（30）

参加度（20）

小テスト（20）

授業中発表等（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ <a>

担当者 アンガス ノーマン

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文・卒業研究を完成させる Translation Seminar

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
 ○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。 ○文献・資料検索についての具体的指導。 ○
 順次各自の研究テーマについて発表させる。 ○中間発表にむけての指導。 ○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部
 について指導する。 ○論文作成にむけての個別指導 This course is taught in English

内 容

- 第1回 中間発表の準備
- 第2回 中間発表の準備
- 第3回 中間発表の準備
- 第4回 中間発表の準備
- 第5回 中間発表
- 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
- 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
- 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
- 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

Translation – An advanced resource book

著者： B. Hatim and J. Munday

出版社： Routledge

出版年： 2004

ISBN： 9780415-28306-9

In Other Words – A coursebook on translation

著者： Mona Baker

出版社： Routledge

出版年： 2011

ISBN： 9780415-46754-4

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ

担当者 浅井 雅志

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文・卒業研究を完成させる

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○
順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部
について指導する。○論文作成にむけての個別指導

内 容

- 第1回 中間発表の準備
 - 第2回 中間発表の準備
 - 第3回 中間発表の準備
 - 第4回 中間発表の準備
 - 第5回 中間発表
 - 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
 - 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
 - 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
 - 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
 - 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ <c>

担当者 西村 友美

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文・卒業研究を完成させる

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○
順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部
について指導する。○論文作成にむけての個別指導

内 容

- 第1回 中間発表の準備
 - 第2回 中間発表の準備
 - 第3回 中間発表の準備
 - 第4回 中間発表の準備
 - 第5回 中間発表
 - 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
 - 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
 - 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
 - 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
 - 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語コミュニケーション演習Ⅳ <d>

担当者 北林 利治

テーマ

卒業論文作成に向けて

獲得目標

卒業論文・卒業研究を完成させる

授業の内容

内容は、卒業論文作成にむけて一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。授業の進め方の概要は以下のとおり。
○テーマの絞り方、その他につき討論・講評し、最終テーマを決定させる。○文献・資料検索についての具体的指導。○
順次各自の研究テーマについて発表させる。○中間発表にむけての指導。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部
について指導する。○論文作成にむけての個別指導

内 容

- 第1回 中間発表の準備
 - 第2回 中間発表の準備
 - 第3回 中間発表の準備
 - 第4回 中間発表の準備
 - 第5回 中間発表
 - 第6回 執筆要領、注意事項などの指導
 - 第7回 執筆要領、注意事項などの指導
 - 第8回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第9回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第10回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第11回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第12回 卒業研究作成にむけての報告と指導
 - 第13回 卒業研究提出後報告とまとめ
 - 第14回 卒業研究提出後報告とまとめ
 - 第15回 卒業研究提出後報告とまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本企業論 <Z>

担当者 李 在鎬

テーマ

獲得目標

企業の本質・役割・存在価値を学習する。

授業の内容

企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。

内 容

- 第1回 講義概要、及び現代企業を見る観点
 - 第2回 企業の目的と存在価値
 - 第3回 財・サービスの提供機関としての企業
 - 第4回 企業の形態論
 - 第5回 株式会社制度の出現と展開
 - 第6回 株式会社の本質と特徴
 - 第7回 株式会社の組織
 - 第8回 企業論の基本的概念の総括と理解度チェック
 - 第9回 コーポレート・ガバナンスの国際比較
 - 第10回 企業の境界
 - 第11回 企業間関係の構造と行動
 - 第12回 企業統合の形態論とM&A
 - 第13回 公企業論
 - 第14回 協同組合
 - 第15回 企業に関わる主要理論の総括と理解度チェック
-

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお薦めします。

教科書

企業論

著者： 三戸浩・池内秀己・勝部伸夫

出版社： 有斐閣

出版年： 2007

ISBN:

参考書

会社法入門

著者： 神田秀樹

出版社： 岩波新書

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

a501013150

試験 (80)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

2/3以上の出席率が、単位認定の前提条件となっております。テスト以外の「みなし評価」は原則的に認めておりません。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(マ)〈A〉**

担当者 岡本 哲弥

テーマ

マーケティング論に親しむ

獲得目標

マーケティング論のテキストの輪読、講演会への参加等を通じて、ゼミ形式での発表や討論に慣れる。報告者は、内容を要約したレジュメを作成し、疑問点や論点を提示する。全員で意見や感想を述べ合いながら理解を深めていく。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表方法について
 - 第3回 学生による報告(1)
 - 第4回 学生による報告(2)
 - 第5回 学生による報告(3)
 - 第6回 学生による報告(4)
 - 第7回 学生による報告(5)
 - 第8回 学生による報告(6)
 - 第9回 学生による報告(7)
 - 第10回 文章の要約
 - 第11回 論理的思考
 - 第12回 論理的思考
 - 第13回 グループワーク
 - 第14回 グループワーク
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

テキストをよく読み、十分に準備した上で、授業に参加する。日頃、新聞やテレビなどの企業経営やマーケティングの報道に関心を持っておく。スケジュールについては、受講生の人数、理解度などに配慮して入れ替え・変更を行う可能性がある。また、講演会への参加等の学外授業を実施する場合もある。

教科書

売れる仕掛けはこうしてつくる－成功企業のマーケティング－

著者:

出版社: 日本経済新聞社

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト (20)

授業中発表等 (35)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(マ)〈B〉**

担当者 今久保 幸生

テーマ

現代の経営を学ぶ

獲得目標

現代経営に関するテキストの輪読と発表等を通じて、経済のグローバル化を主とする企業環境の大きな変化に、現代企業がどのように対応しようとしているかを学ぶ。同時に、ゼミ形式の発表、討論、司会の作法を学ばせることにより、大学での自学自習のスキルを身につけさせる。

授業の内容

当初、演習の進め方を説明する。その上で、大学で学ぶとはどういうことかを理解させ、本や資料や新聞の読み方、レジュメの作り方、引用の仕方、発表や討論や司会の仕方、レポートの書き方、などのアカデミック・スキルズを示す。この出発点についての共通理解を形成した後、テキストの輪読・発表・討論を進めてゆく。日程等については、受講者数、理解度、進捗度などを勘案して入れ替えなどの変更を行う場合もある。

内 容

- 第1回 ガイダンス: 演習の進め方、発表者の分担決定、大学で学ぶとはどういうことか、レジュメの作り方、論点の出し方、発表・討論・司会の仕方、レポートの書き方、などの説明。
- 第2回 テキストの輪読・討論1
- 第3回 テキストの輪読・討論2
- 第4回 テキストの輪読・討論3
- 第5回 テキストの輪読・討論4
- 第6回 テキストの輪読・討論5
- 第7回 テキストの輪読・討論6
- 第8回 テキストの輪読・討論7
- 第9回 テキストの輪読・討論8
- 第10回 テキストの輪読・討論9
- 第11回 テキストの輪読・討論10
- 第12回 テキストの輪読・討論11
- 第13回 テキストの輪読・討論12
- 第14回 テキストの輪読・討論13
- 第15回 テキストの輪読・討論14、まとめ

授業以外での学習方法

報告担当者は担当部分についてのレジュメ作成・論点提示などの準備をして臨むことは当然であるが、参加者全員が当該部分を予習して臨むことも不可欠である。また、テキストの当該章に係る参考書や新聞・雑誌記事、インターネット情報等を検索して学び、課題に関する興味や視野を広げることが重要である。

教科書

よくわかる現代経営 第2版

著者: 「よくわかる現代経営」編集委員会編

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2009年

ISBN:

参考書

論文の教室 レポートから卒論まで

著者: 戸田山和久

出版社: NHK Books

出版年: 2009年

ISBN:

アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門

著者： 佐藤望他編著

出版社： 慶應義塾大学出版会

出版年： 2009年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(マ)〈C〉**

担当者 高原 正興

テーマ

大学のゼミ形式の学習方法を修得する

獲得目標

新書版のテキストを読んで、発表者はレジユメを作り、みんなが討論に参加して、レポートを作成する能力を身につける。

授業の内容

テキストの講読・発表・討論

内 容

- 第1回 ゼミの運営方法についてのガイダンスとゼミ生の自己紹介
 - 第2回 学生による発表・討論(1)
 - 第3回 学生による発表・討論(2)
 - 第4回 学生による発表・討論(3)
 - 第5回 学生による発表・討論(4)
 - 第6回 学生による発表・討論(5)
 - 第7回 学生による発表・討論(6)
 - 第8回 学生による発表・討論(7)
 - 第9回 学生による発表・討論(8)
 - 第10回 学生による発表・討論(9)
 - 第11回 学生による発表・討論(10)
 - 第12回 学生による発表・討論(11)
 - 第13回 学生による発表・討論(12)
 - 第14回 学生による発表・討論(13)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

テキストをよく読んで、十分に準備した上でゼミに参加すること

教科書

教室内カースト

著者： 鈴木翔

出版社： 光文社新書

出版年： 2012

ISBN: 9.78433E+12

反貧困

著者： 湯浅誠

出版社： 岩波新書

出版年： 2008

ISBN: 9.784E+12

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（20）

授業中発表等（40）

参加度（40）

授業中課題は、2冊のテキストを済ませての感想等のレポートである。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(マ)〈D〉**

担当者 李 在鎬

テーマ

経営者の役割(2)

獲得目標

組織を成功に導く経営者の哲学、リーダーシップ、行動原理について考察し、現代ビジネス学習の楽しさを覚えるとともに、文献の読解能力、レジュメとして纏める能力、発表能力など、大学教育の基礎を身に付けることを獲得目標とする。

授業の内容

名経営者の伝記や文献を輪読・発表・議論する。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第8回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第9回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、各15分報告、質疑応答、議論)
- 第14回 マネジメント現場の見学、又は理解度チェック
- 第15回 全体の総括、マネジメント現場の見学、又は理解度チェック

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

幸之助論

著者: ジョン・P・コッター

出版社: ダイヤモンド社

出版年: 2008

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 (50)

a50101a254

2/3以上の出席率が単位認定の前提条件となります。基本的に2回以上の報告と討論への積極的な参加が求められます。1回はテストに置き換えられることがあります。理解度テストは筆記試験か、口頭試問によって行われます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(マ)〈E〉**

担当者 高山 一夫

テーマ

大学における学習スキルの習得並びに学習習慣の確立

獲得目標

この演習では、受講生が大学で勉強をすすめるために必要な各種のスキルを学ぶとともに、受講生が自ら勉強する習慣の確立を図ることを、目標とする。

授業の内容

①大学での基本的学習スキルについての確認、②映像教材を通じたマネジメント分野への学習意欲の喚起、③テキストを用いた発表と討論を通じたコミュニケーションスキルの獲得

内 容

- 第1回 大学での学び(1) プレゼンテーションの技術(1)
 - 第2回 大学での学び(2) プレゼンテーションの技術(2)
 - 第3回 大学での学び(3) 討論の技術
 - 第4回 大学での学び(4) 文章の読み方(1)
 - 第5回 大学での学び(5) 文章の読み方(2)
 - 第6回 学習技法に関するまとめと確認テスト
 - 第7回 映像教材を用いた学習(1)
 - 第8回 映像教材を用いた学習(2)
 - 第9回 映像教材を用いた学習(3)
 - 第10回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(1)
 - 第11回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(2)
 - 第12回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(3)
 - 第13回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(4)
 - 第14回 テキストを用いたグループ・ワークと討論(5)
 - 第15回 演習全体のまとめと確認テスト
-

授業以外での学習方法

予習復習をしっかりと行い、演習に積極的に参加すること。各自で学習ポートフォリオを作成し、学習記録と配布物等を保存すること。

教科書

社会人の生き方

著者： 暉峻淑子

出版社： 岩波新書

出版年： 2012

ISBN: 9.784E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (50)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(救)〈A〉**

担当者 土井 一弘

テーマ

経済の常識①

獲得目標

卒業後救急救命職(公務員)に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の内容

第1回の授業から、数学と経済の授業を隔週で実施し、最終回には数学&政治・経済の総合テストを実施する。経済の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回(2週間後)の授業でかならず提出すること。

内 容

- 第1回 場合の数
 - 第2回 経済:経済体制
 - 第3回 順列・組み合わせ
 - 第4回 経済:経済理論①
 - 第5回 確率
 - 第6回 経済:経済理論②
 - 第7回 平面図形の基礎
 - 第8回 経済:経済理論③
 - 第9回 相似
 - 第10回 経済:戦後の日本経済
 - 第11回 図形の計量
 - 第12回 経済:その分野別問題
 - 第13回 空間図形
 - 第14回 政治:まとめ
 - 第15回 合同:まとめのテスト
-

授業以外での学習方法

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

授業中課題 ()

参加度 (20%)

小テスト (30%)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(救) **

担当者 志賀 亮一

テーマ

現代市民・公務員に求められる知識と教養――現代の政治

獲得目標

救急救命士養成コースでは、卒業後の進路を確実なものとするため、市民・公務員として基本的な知識と教養が不可欠である。この授業では、現代政治の基礎知識を身につける。

授業の内容

毎回プリントを配布し、それをもとに現代政治の基礎知識を講義したのち、授業終了時に、受講生数名を指名して次回のための小テスト問題作成を課す。次回は、授業開始時にその小テストを受け、自己採点して前回の知識を確実なものとする。

内 容

- 第1回 近代政治思想――王権神授説と社会契約論
 - 第2回 近代国家の諸原則
 - 第3回 人権の原理と歴史
 - 第4回 世界の政治制度――イギリス、アメリカ、社会主義国
 - 第5回 日本国憲法
 - 第6回 日本国憲法と人権①
 - 第7回 日本国憲法と人権②
 - 第8回 中間のテスト&日本国憲法と平和主義
 - 第9回 日本国憲法と政治制度①
 - 第10回 日本国憲法と政治制度②
 - 第11回 現代政治①
 - 第12回 現代政治②
 - 第13回 国際政治①
 - 第14回 国際政治②
 - 第15回 まとめテストと自己採点
-

授業以外での学習方法

各授業後毎回プリント復習のこと。小テスト問題の作成を課されたものは、期限までにならず提出のこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

a50101a257

出席不良者、小テスト問題未提出者は単位を認定しない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **病理学**

担当者 川上 ゆかり

テーマ

身体的変化、組織学的変化から病気の原因、発症のメカニズムを知る。

獲得目標

病気を知る上で必要な基礎的知識、疾患の概念、分類の定義などを学び、病気の原因、発症のメカニズム、形態的变化を学ぶ

授業の内容

内 容

- 第1回 概論
 - 第2回 先天異常と遺伝子異常
 - 第3回 代謝障害
 - 第4回 循環障害
 - 第5回 炎症・発熱
 - 第6回 腫瘍
 - 第7回 感染症
 - 第8回 免疫
 - 第9回 循環器系
 - 第10回 呼吸器系
 - 第11回 消化器系
 - 第12回 内分泌系、血液・造血器系
 - 第13回 泌尿器系・生殖器系
 - 第14回 脳神経系 筋肉系
 - 第15回 骨・関節、感覚器系
-

授業以外での学習方法

最近、新聞、雑誌などにも病気に関する専門医による解説記事が多数見られます。それらの記事に注目することも病気の原因を知る上で役立つと思います。

教科書

系統看護学講座「病理学」

著者：

出版社：医学書院

出版年：

ISBN：

救急救命士標準テキスト

著者：

出版社：へるす出版

出版年：

ISBN：

参考書

病理学

著者：堤 寛

出版社：医学芸術社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（100%）

小テスト（0%）

授業中課題（0%）

授業中発表等（0%）

参加度（0%）

適時行う小テスト・出席状況は、最終判定時考慮する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 生化学・微生物学

担当者 奥村 忠芳

テーマ

生命現象を分子から解明する。

獲得目標

生命現象を分子から解明する生化学では、健康を分子レベルで捉え、その維持と増進を図り栄養の役割を理解する上で必須の知識を習得する。タンパク質、糖質、脂質などの生体構成成分の構造と機能を説明し、生体内で起こる化学変化とエネルギー変換である代謝について理解を深める。また微生物学分野では、通常肉眼では見えない微小かつ単純な生物である微生物の性質や機能を概説した後、感染症の発生機構とその予防、治療に関する基本的な知識を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 生化学序論 1)生体の構成物質と細胞小器官について 2)異化と同化→(物質の代謝)
- 第2回 生体のエネルギー代謝 1)解糖系 →(エネルギー通貨ATPとミトコンドリア) 2)クエン酸(TCA)回路と電子伝達系
- 第3回 糖質 1)糖質の種類と構造 2)糖質代謝(解糖系と糖新生、グリコーゲン合成、ペントースリン酸回路)
- 第4回 脂質 1)脂質の種類と構造 2)脂質代謝(脂肪酸の合成とβ酸化) 3)コレステロール・ケトン体の形成
- 第5回 タンパク質とアミノ酸 1)種類と構造 2)アミノ酸の合成と分解→(アミノ酸代謝と尿素合成)
- 第6回 酵素・ホルモン・ビタミン 1)酵素の性質と種類 2)ホルモンと代謝調節 3)ビタミンと欠乏症
- 第7回 微生物序論 1)微生物とは 2)微生物の大きさの特徴 3)細菌の構造と機能
- 第8回 細菌の分類について 1)細菌の増殖と遺伝 2)グラム陽性菌と陰性菌 3)好気性菌と嫌気性菌
- 第9回 主なウイルスについて 1)ウイルスとは 2)ウイルス感染の仕組み 3)主なウイルス
- 第10回 感染症について 1)感染症の種類 2)ワクチンと抗菌薬
- 第11回 免疫学(その1) 1)免疫学序論 2)非特異的生体防御と特異的生体防御 3)抗原と抗体
- 第12回 免疫学(その2) 1)免疫の特性 2)抗原抗体反応 3)抗体産生 4)サイトカイン
- 第13回 免疫学(その3) 1)細胞性免疫 2)アレルギー反応
- 第14回 生化学・微生物学・免疫学 各領域における最近のトピックスについて説明する
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (100%)
授業中課題 (0%)
参加度 (0%)

小テスト (0%)
授業中発表等 (0%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急医学総論Ⅱ

担当者 夏目 美樹

テーマ

プレホスピタルケアと救急救命

獲得目標

救急医療においては、医療機関での受診を待たず、少しでも発症時にさかのぼって医療が開始されなければならない。また救急現場での観察・応急処置と病院内での診断治療が、一貫して傷病者に提供される救急医療体制をつくる必要がある。このようなプレホスピタルケアの中心的な担い手である消防隊員としての救急救命士の役割と責務について学習する。さらに病院前救護の質を管理する事後検証についても理解を深める。また通常の救急医療体制での対応が困難となる災害発生時の、組織的な救命救急医療についても学習する。

授業の内容

内 容

- 第1回 救急医療体制とは
 - 第2回 人工呼吸と気道確保資機材
 - 第3回 外傷処置
 - 第4回 特定行為とは
 - 第5回 大規模災害とは・トリアージとは
 - 第6回 現場救護所の運営方法について
 - 第7回 NBC災害とは・NBC災害対応要領について
 - 第8回 国内の災害事例について
 - 第9回 国外の災害事例について
 - 第10回 ストレスマネジメント
 - 第11回 救急活動事例と医事紛争
 - 第12回 法医学総論・死体現象について
 - 第13回 まとめ
 - 第14回 まとめ
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第1巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第3巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第4巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第5巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験（100）

小テスト（ ）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

規定回数の講義参加度に達している者のみ試験評価を実施する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急救命実習 I

担当者 関根 和弘 北小屋 裕 深澤 雄二

テーマ

救急活動の基礎を学ぶ

獲得目標

尊い人命を救助するための知識や技術を日常生活において実践して、自他の生命を尊重し、安全で健康な生活を営めるようにする。また、事故を防止し、災害時などにお互い助け合えるようなボランティアの精神を育てるとともに、医療人である救急救命士としての自覚を養う。一次救急処置の理論と基本的実技および、観察用資機材を用いた救急救命処置等の理論・技術について具体的な実習を通じて習得する。また、救急医療を担う医療施設および消防施設等の実地見学により救急救命の最前線の活動をイメージする。

授業の内容

通年講義実習の他、夏期および春期学休期等に学外実習を実施する。

※この単位履修については、履修態度・頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、一次救命処置(成人)
- 第2回 一次救命処置(成人)
- 第3回 一次救命処置(成人)1・2人法、AED取り扱い
- 第4回 一次救命処置(成人・小児)、AED取り扱い
- 第5回 一次救命処置(成人・小児二人法)、AED取り扱い
- 第6回 一次救命処置(乳児)1・2人法、一次救命処置まとめ
- 第7回 一次救命処置(実技効果測定)・器具を使用した人工呼吸
- 第8回 器具を使用した人工呼吸、酸素投与
- 第9回 三角巾法・止血法・固定
- 第10回 三角巾法・止血法・固定
- 第11回 三角巾法・徒手搬送法
- 第12回 外傷処置
- 第13回 外傷処置
- 第14回 外傷処置
- 第15回 前期まとめ
- 第16回 外傷処置
- 第17回 外傷処置
- 第18回 外傷処置
- 第19回 搬送器具を使用した搬送法
- 第20回 傷病者観察器具(血圧計・聴診器・検眼灯)
- 第21回 傷病者観察器具(血圧計・聴診器・検眼灯)
- 第22回 傷病者観察器具(血圧測定実技効果測定)
- 第23回 傷病者観察器具(心電計・パルスオキシメーター)
- 第24回 傷病者観察器具(心電計・パルスオキシメーター)
- 第25回 傷病者観察器具(器具を使用した気道確保・酸素投与)
- 第26回 傷病者観察器具(喉頭鏡)
- 第27回 傷病者観察器具(喉頭鏡)
- 第28回 傷病者観察器具(喉頭鏡・マギール鉗子)
- 第29回 傷病者観察器具(喉頭展開実技効果測定)
- 第30回 後期まとめ・総括

授業以外での学習方法

教科書

救急隊員標準テキスト 改訂第3版

著者： 救急隊員用教本作成委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2007

ISBN： 9.78489E+12

JPTECガイドブック

著者： 一般社団法人JPTEC協議会

出版社： へるす出版

出版年： 2010

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第1巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第3巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第4巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第5巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

規定回数¹の講義参加度に達している者のみ試験評価を実施する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急救命実習Ⅱ

担当者 夏目 美樹・関根 和弘・田中 秀治・千田 いずみ・深澤 雄二

テーマ

救急資器材の取り扱いを学ぶ

獲得目標

観察用医療資器材を用いた救急救命処置等の理論及び、具体的な救急処置技術について実習を通じて理解を深める。実習では、聴診器、血圧計・パルスオキシメータ、心電図モニター、呼吸管理用資器材などの取り扱い要領や測定法を習得する。

授業の内容

※この単位履修については、頭髮・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、外傷処置
 - 第2回 外傷処置
 - 第3回 外傷処置
 - 第4回 外傷処置
 - 第5回 傷病者観察器具(血圧計・聴診器・検眼灯)
 - 第6回 傷病者観察器具(血圧計・聴診器・検眼灯)
 - 第7回 傷病者観察器具(血圧計・聴診器・検眼灯)
 - 第8回 傷病者観察器具(心電計・パルスオキシメーター)
 - 第9回 傷病者観察器具(心電計・パルスオキシメーター)
 - 第10回 傷病者観察器具(器具を使用した気道確保・酸素投与)
 - 第11回 傷病者観察器具(器具を使用した気道確保・酸素投与)
 - 第12回 傷病者観察器具(喉頭鏡)
 - 第13回 傷病者観察器具(喉頭鏡)
 - 第14回 傷病者観察器具(喉頭鏡・マギール鉗子)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

救急隊員標準テキスト 改訂第3版

著者： 救急隊員用教本作成委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2007

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第7版 上巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2007

ISBN： 9.78498E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第7版 下巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2007

ISBN： 9.78489E+12

JPTECガイドブック

著者： 一般社団法人JPTEC協議会

出版社： へるす出版

出版年： 2010

ISBN： 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験（100）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

規定回数の講義参加度に達している者のみ試験評価を実施する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **現代企業論**

担当者 李 在鎬

テーマ

獲得目標

企業の本質・役割・存在価値を学習する。

授業の内容

企業関連諸理論、制度を熟知し、実践に応用できるような学習を目指している。

内 容

- 第1回 講義概要、及び現代企業を見る観点
 - 第2回 企業の目的と存在価値
 - 第3回 財・サービスの提供機関としての企業
 - 第4回 企業の形態論
 - 第5回 株式会社制度の出現と展開
 - 第6回 株式会社の本質と特徴
 - 第7回 株式会社の組織
 - 第8回 企業論の基本的概念の総括と理解度チェック
 - 第9回 コーポレート・ガバナンスの国際比較
 - 第10回 企業の境界
 - 第11回 企業間関係の構造と行動
 - 第12回 企業統合の形態論とM&A
 - 第13回 公企業論
 - 第14回 協同組合
 - 第15回 企業に関わる主要理論の総括と理解度チェック
-

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお薦めします。

教科書

企業論

著者： 三戸浩・池内秀己・勝部伸夫

出版社： 有斐閣

出版年： 2007

ISBN：

参考書

会社法入門

著者： 神田秀樹

出版社： 岩波新書

出版年： 2006

ISBN：

成績評価

a50101d150

試験 (80)

小テスト (0)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (20)

2/3以上の出席率が、単位認定の前提条件となっております。テスト以外の「みなし評価」は原則的に認めておりません。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 会計学入門

担当者 河野 充央

テーマ

会計の基礎的思考の修得

獲得目標

会計学(企業会計)という社会科学は、経済情報を収集し、処理し、伝達する、非常に精密に組み立てられたコミュニケーションのための道具である。このことを理解するのが、本講義の目的である。本講義では、初心者にも理解しやすいように、平易に書かれたテキストを使用するが、講義のレベルを下げないように、多くのサブ教材を使用するので、しっかりと勉強してもらいたい。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス 企業経営の仕組みと会計の役割
 - 第2回 会計と経理 財務諸表と決算
 - 第3回 企業会計原則と会計法規
 - 第4回 貸借対照表の構造 資金の調達と運用
 - 第5回 損益計算書の構造 経営努力と経営成果
 - 第6回 経営活動の中身と利益の区分表示の意味
 - 第7回 安全性の分析
 - 第8回 収益力の分析
 - 第9回 成長性の分析
 - 第10回 コストマネジメントの意義(1)
 - 第11回 コストマネジメントの意義(2)
 - 第12回 在庫管理の方法
 - 第13回 利益計画の方法
 - 第14回 財務リバレッジ理論
 - 第15回 まとめ
 - 第16回 *なお、この講義では、スケジュール等の調整が可能な場合には、実務家による特別講義を実施する場合もある。
-

授業以外での学習方法

日経新聞や日経ビジネス等に掲載される経済記事を適宜紹介する(プリントで配布等)ので、学んだ知識を活用して、経営の実務にも興味を持ってもらいたい。

教科書

会社を読む技法

著者: 田中弘

出版社: 白桃書房

出版年:

ISBN:

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

新版財務諸表論

著者： 武田隆二

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（30）

授業中課題（10）

参加度（50）

小テスト（10）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会調査方法論**

担当者 野村 佳絵子

テーマ

獲得目標

社会調査の設計と実施に必要な基礎的知識、技法、それから心構えを学ぶ。すなわち、自らが関心あるテーマを設定し、それに応じて、現実世界から第一次資料(直接自らが利用できる資料)を収集し、分析できる形にまで整理していく能力を養う。そういった意味で、本講義は理論と実践をつなぐ橋渡しの役割を担う。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 調査の目的と方法
 - 第3回 調査のプロセス
 - 第4回 調査の企画設計
 - 第5回 サンプルング(1)
 - 第6回 サンプルング(2)
 - 第7回 前半の統括と理解度チェック
 - 第8回 調査票作成(1)
 - 第9回 調査票作成(2)
 - 第10回 インタビュー調査
 - 第11回 調査の実施
 - 第12回 コーディング・データのクリーニング、データの集計と分析
 - 第13回 ささまざまな社会調査
 - 第14回 調査の倫理、社会への還元
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

毎日の新聞に目を通し、テレビのニュースを見ることを習慣としてほしい。

教科書

入門・社会調査法——2ステップで基礎から学ぶ

著者： 轟亮・杉野勇編

出版社： 法律文化社

出版年： 2010

ISBN:

参考書

「社会調査」のウソ——リサーチ・リテラシーのすすめ

著者： 谷岡一郎

出版社： 文藝春秋

出版年： 2000

ISBN:

社会調査演習[第2版]

著者： 原純輔・海野道郎

出版社： 東京大学出版会

出版年： 2004

ISBN：

質的調査の方法——都市・文化・メディアの感じ方

著者： 工藤保則ほか編

出版社： 法律文化社

出版年： 2010

ISBN：

数学嫌いの社会統計学

著者： 津島昌寛ほか編

出版社： 法律文化社

出版年： 2010

ISBN：

成績評価

試験（60）

授業中課題（20）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 マクロ経済学

担当者 阪本 崇

テーマ

獲得目標

・マクロ経済学の基本的な知識を身につける ・新聞等で報道される経済政策に関して、社説やテレビのコメンテーターの話を鵜呑みにするのではなく、自分自身の意見が持てるようになる。 ・マクロ経済学の基礎を学び、経済安定化政策にそれがどのように活かされているかを知る

授業の内容

2008年のリーマンショックをきっかけに、世界中で景気の後退がおこり、その影響は現在も続いている。日本も例外ではなく、身近なところでは大学生の就職難という形で現れている。こうした景気の後退はどうして起こるのか、そして政府は景気をよくするためにどのような政策をとるべきか。このような問題について、マクロ経済学の視点から学んでいく。

内 容

- 第12回 総需要曲線と総需要曲線:なぜインフレ/デフレは望ましくないのか?
- 第13回 為替レートの決定メカニズム:円高はなぜ起こるのか?
- 第14回 開放経済のマクロ経済モデル:輸出が増えると景気がよくなるのはどうしてか?
- 第15回 開放経済下の経済安定化政策:どうして金融政策に効果がないのか?
- 第1回 イントロダクション:大恐慌とマクロ経済学の誕生
- 第2回 新しい労働市場分析:どうして失業が発生するのか?
- 第3回 国民所得の諸概念:経済の「大きさ」のはかり方
- 第4回 国民所得の決定原理:景気に対する2つの考え方
- 第5回 乗数効果:公共事業で景気はよくなるのか?
- 第6回 租税とマクロ経済:景気が悪いときに減税が主張されるのはなぜか?
- 第7回 公債のはなし:国の借金は悪いことか?
- 第8回 投資の決定メカニズム:企業はどんなときに元気になるのか?
- 第9回 貨幣市場の需要と供給:民間金融機関はお金を増やすことができる
- 第10回 金融政策と経済安定化:なぜゼロ金利政策が続くのか?
- 第11回 生産要素市場のモデル:労働者は合理的か?

授業以外での学習方法

授業の中で課題を出すことがありますので、次の授業までにこなしてきておいて下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (60)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **医療事務研究 I**

担当者 森本 育子

テーマ

医療事務研究

獲得目標

医療事務技能審査(医科)＝メディカルクラーク(医科)の資格取得を目標とする

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 医療保険制度
 - 第3回 窓口業務
 - 第4回 初診料
 - 第5回 再診料・医学管理1
 - 第6回 医学管理2
 - 第7回 在宅・投薬2
 - 第8回 投薬2
 - 第9回 注射1
 - 第10回 注射2
 - 第11回 処置1
 - 第12回 処置2
 - 第13回 手術1
 - 第14回 手術2・輸血
 - 第15回 麻酔・修了試験1
-

授業以外での学習方法

・医療事務技能審査試験(医科)の受験対策として医療事務研究 I・IIをすべて履修すること・この授業では、授業時間以外に復習・宿題のための時間を必要とする

教科書

第1回目の授業にて販売 9500円(予定)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 医療事務研究Ⅱ

担当者 森本 育子

テーマ

医療事務研究

獲得目標

医療事務技能審査(医科)＝メディカルクラーク(医科)の資格取得を目標とする

授業の内容

内 容

- 第1回 検査1
 - 第2回 検査2
 - 第3回 検査3
 - 第4回 検査4
 - 第5回 画像診断1
 - 第6回 画像診断2
 - 第7回 入院料
 - 第8回 リハビリテーション・接遇
 - 第9回 試験対策(学科)
 - 第10回 試験対策(点検)
 - 第11回 レセプト点検1
 - 第12回 レセプト点検2
 - 第13回 レセプト点検3
 - 第14回 レセプト点検4
 - 第15回 まとめ・修了試験2
-

授業以外での学習方法

・医療事務技能審査試験(医科)の受験対策として医療事務研究Ⅰ・Ⅱをすべて履修すること・この授業では、授業時間以外に復習・宿題のための時間を必要とする

教科書

第1回目の授業にて販売 9500円(予定)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **会計学**

担当者 河野 充央

テーマ

財務諸表の分析方法を理解する

獲得目標

会計学入門で修得した基礎知識・基礎理論をもとに、財務諸表の分析方法、および、その高度な活用方法を学ぶ。日経新聞等の経済記事をとおして、ビジネスの現場を会計の知識で分析する方法を修得する。

授業の内容

「会計学入門」を修得済みであること

内 容

第1回 ガイダンス 会計学の体系(「会計学入門」で学んだ内容の復習)

第2回 収益性の分析(1)

第3回 収益性の分析(2)

第4回 収益性の分析(3)

第5回 生産性の分析(1)

第6回 生産性の分析(2)

第7回 生産性の分析(3)

第8回 流動性の分析(1)

第9回 流動性の分析(2)

第10回 流動性の分析(3)

第11回 成長性の分析(1)

第12回 成長性の分析(2)

第13回 損益分岐点分析(1)

第14回 損益分岐点分析(2)

第15回 まとめ

第16回 *なお、この講義では、スケジュール等の調整が可能な場合には、実務家 による特別講義を実施する場合もある。

授業以外での学習方法

日経新聞や日経ビジネス等に掲載される経済記事を適宜紹介する(プリントで配布等)ので、学んだ知識を活用して、経営の実務にも興味を持ってもらいたい。

教科書

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

新版財務諸表論

著者： 武田隆二

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（30）

授業中課題（10）

参加度（50）

小テスト（10）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 マスメディア実践〈Z〉

担当者 岡本 哲弥

テーマ

メディア制作の現場——広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネット——

獲得目標

グローバル化とポストモダンの交錯する今日、広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどのメディアが社会や文化や人間に及ぼす影響はきわめておおきい。本講は、メディアの解読の仕方や生成の条件・プロセスを知り(メディア・リテラシー)、メディアを能動的に使いこなす自ら作り出しうる能力(メディア・プラクティス)の基礎を与える。こうして、メディアの実態とその可能性を理解する。本講は、将来、広告を中心としてマス・メディアのさまざまな領域で活躍しようとする学生に対する第一線の現場からのメッセージでもある。

授業の内容

講師の都合により、下記の講義の順番が入れ替わったり、内容が一部変更になる場合がある。

内 容

- 第1回 本講義の趣旨 岡本哲弥
- 第2回 広告とは—〈広告産業論〉 (株)大広関西
- 第3回 広告マーケティング (株)大広
- 第4回 クリエイティブ (株)大広
- 第5回 メディア環境論Ⅰ(メディア環境変化と広告) (株)博報堂DYメディアパートナーズ
- 第6回 メディア環境論Ⅱ(デジタルメディアの伸展) (株)博報堂DYメディアパートナーズ
- 第7回 テレビ業界 KBS京都 アナウンス部
- 第8回 新聞業界 朝日新聞社
- 第9回 出版業界
- 第10回 テレビ番組制作の現場
- 第11回 ラジオ業界
- 第12回 映画ビジネス
- 第13回 エンターテインメントビジネス
- 第14回 マスメディアの学説と広告効果 岡本哲弥
- 第15回 おわりに 岡本哲弥

授業以外での学習方法

メディア関係の図書や資料や電子情報等に適宜、目を通しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a501025410

参加度は、授業への出席および授業後の小レポートによる。授業中課題は、期末レポートによる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **空間メディア論〈Z〉**

担当者 木下 達文

テーマ

展示メディアの理解と創造

獲得目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する(1月予定)。

授業の内容

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

内 容

- 第1回 展示メディアとは(展示の概念) 展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的・時間的特性について考える。
- 第2回 展示の種類(形態) 展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。
- 第3回 展示および展示論の歴史 展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。
- 第4回 展示の政治性と社会性 展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。
- 第5回 展示のプロセス(企画・設計・製作等) 展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。
- 第6回 展示の手法(展示技術) 展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。
- 第7回 展示と研究 展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する。
- 第8回 展示と運営 展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。
- 第9回 展示と解説 展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。
- 第10回 展示とその記録(図録、解説、資料等) とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。
- 第11回 特別講義 実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。
- 第12回 展示の企画実践 これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。
- 第13回 展示の製作実践 企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。
- 第14回 展示の運営実践 つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもと、展示評価の素材としていく。
- 第15回 展示の評価と改善・更新 展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック(評価)をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

授業以外での学習方法

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

教科書

授業内容に応じて適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年: 1996

ISBN:

イベント講座

著者: 日本イベント産業振興協会

出版社:

出版年: 2004

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習IV(マ) <a>**

担当者 今久保 幸生

テーマ

現代日本企業のグローバルな再検討

獲得目標

現代日本の企業と企業体制が国際的にみてどのような意義や課題をもつかに関する諸見解を検討し、試練の時にある現代日本企業とその進路を考える。

授業の内容

テキストの輪読・討論を軸にする。その際、とくに、現代日本の企業や企業体制に関する様々な見方に対する参加者の考えを表明させることにより、課題の理解を深めさせる。

内 容

- 第1回 演習のガイダンス、報告分担決定など
 - 第2回 テキストの輪読・討論
 - 第3回 テキストの輪読・討論
 - 第4回 テキストの輪読・討論
 - 第5回 テキストの輪読・討論
 - 第6回 テキストの輪読・討論
 - 第7回 テキストの輪読・討論
 - 第8回 テキストの輪読・討論
 - 第9回 テキストの輪読・討論
 - 第10回 テキストの輪読・討論
 - 第11回 テキストの輪読・討論
 - 第12回 テキストの輪読・討論
 - 第13回 テキストの輪読・討論
 - 第14回 テキストの輪読・討論
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

毎回の授業で論じるテーマを、テキストのみならず参考書や雑誌や新聞、インターネットなどの情報に基づき収集し予習しておく。

教科書

現代日本企業 グローバル・レビュー

著者： 工藤章・橘川武郎・グレン・D.フック編

出版社： 有斐閣

出版年： 2006年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅳ(マ) **

担当者 河野 充央

テーマ

管理会計の学習を通して、マネジメントの本質を理解する。

獲得目標

企業経営における会計の役割を理解する。同時に、日経新聞や日経ビジネスなどの経済記事を理解できるようにする。

授業の内容

以下の示す各回の内容に加え、必要に応じて、日経新聞や日経ビジネス等の経済紙誌から、経済・経営・会計等に係るタイムリーな話題を取り上げて議論をする。

内 容

- 第1回 ①プレゼミで学ぶ内容の概要説明 ②コスト・マネジメントの理解－戦略的側面(1)－
- 第2回 ①コスト・マネジメントの理解－戦略的側面(2)－ ②コスト・マネジメントの理解－管理的側面－
- 第3回 製造活動と原価計算(1)
- 第4回 製造活動と原価計算(2)
- 第5回 製造活動と原価計算(3)
- 第6回 製造活動と原価計算(4)
- 第7回 製造活動と原価計算(5)
- 第8回 製造活動と原価計算(6)
- 第9回 製造活動と原価計算(7)
- 第10回 製造活動と原価計算(8)
- 第11回 営業活動と原価計算(1)
- 第12回 営業活動と原価計算(2)
- 第13回 製造業のコスト・マネジメント(1)
- 第14回 ①製造業のコスト・マネジメント(2) ②サービス業のコスト・マネジメント(1)
- 第15回 ①サービス業のコスト・マネジメント(2) ②ゼミで学んだ内容の要点整理

授業以外での学習方法

応用レベルのプリントを配布するので、これらを使って、積極的に学習すること。分からない点については、積極的に質問すること。

教科書

完全合格のための日商簿記2級テキスト－工業簿記－

著者： 大原簿記学校編

出版社： 大原出版

出版年：

ISBN：

参考書

経営管理会計

著者： 西澤脩

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN：

管理会計

著者： 岡本清 他

出版社： 白桃書房

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ 20 ）

参加度（ 60 ）

小テスト（ ）

授業中発表等（ 20 ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅳ(マ) <c>**

担当者 岡本 哲弥

テーマ

グループワークを通じて、マーケティング戦略を立案する。

獲得目標

マーケティング論の基本的なフレームに沿って、マーケティング戦略(ビジネスプラン)を立案する。

授業の内容

本授業は、前期末のゼミ選考の上でクラスが決まるため、ゼミ生の相談の上、内容を変更する場合がある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 商品カテゴリーの選定
 - 第3回 市場分析(PLC)
 - 第4回 競合分析/市場地位の種類
 - 第5回 顧客分析/市場細分化/STP
 - 第6回 自社分析/SWOT分析
 - 第7回 商品コンセプト(プロダクトコーン理論)
 - 第8回 マーケティング・ミックス戦略(1)
 - 第9回 マーケティング・ミックス戦略(2)
 - 第10回 全体の整理
 - 第11回 プレゼンテーション資料の作成(1)
 - 第12回 プレゼンテーション資料の作成(2)
 - 第13回 グループ・プロジェクト発表会(1)
 - 第14回 グループ・プロジェクト発表会(2)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

次回の授業に必要な情報をインターネット、雑誌、新聞やテレビなどを用いて収集しておく。フィールドワークや講演会の参加など学外授業を実施する可能性がある。

教科書

資料を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (10)

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (45)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅳ(マ) <d>**

担当者 高山 一夫

テーマ

医療マネジメントに関する基礎的理解

獲得目標

医療マネジメントに関する基礎的な知識を学習するとともに、学外授業の企画と実施を通じて、受講生の自主的な勉学を促進する。具体的な内容は、受講生との相談の上で決定する(テキストの候補としては参考書をみること)。

授業の内容

テキストを用いた演習またはグループワークを基本としつつ、学外授業も行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(1)
 - 第3回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(2)
 - 第4回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(3)
 - 第5回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(4)
 - 第6回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(5)
 - 第7回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(6)
 - 第8回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(7)
 - 第9回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(8)
 - 第10回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(9)
 - 第11回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(10)
 - 第12回 テキストを用いた演習又はグループ・ワーク(11)
 - 第13回 学外授業の準備
 - 第14回 学外授業
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

学生相互の自主的な勉強を期待します。勉強以外でも相互に積極的に交流して下さい。

教科書

参考書

医療問題

著者： 池上直己

出版社： 日本経済新聞社

出版年： 2010

ISBN： 9.78453E+12

社会人の生き方

著者： 暉峻淑子

出版社： 岩波新書

出版年： 2012

ISBN： 9.784E+12

論文の書き方

著者： 澤田昭夫

出版社： 講談社学術文庫

出版年： 1977

ISBN: 9.78406E+12

日本の医療

著者： 島崎謙治

出版社： 東京大学出版会

出版年： 2011

ISBN: 9.78413E+12

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅳ(マ) <e>**

担当者 高原 正興

テーマ

社会学系ゼミで学習する

獲得目標

テキストを読んで、発表者はレジュメを作り、みんなが討論に参加して、社会的な見方・分析のしかたを身につける。

授業の内容

テキストの講読・発表・討論

内 容

- 第1回 ゼミの運営方法についてのガイダンスとゼミ生の自己紹介
 - 第2回 学生による発表・討論(1)
 - 第3回 学生による発表・討論(2)
 - 第4回 学生による発表・討論(3)
 - 第5回 学生による発表・討論(4)
 - 第6回 学生による発表・討論(5)
 - 第7回 学生による発表・討論(6)
 - 第8回 学生による発表・討論(7)
 - 第9回 学生による発表・討論(8)
 - 第10回 学生による発表・討論(9)
 - 第11回 学生による発表・討論(10)
 - 第12回 学生による発表・討論(11)
 - 第13回 学生による発表・討論(12)
 - 第14回 学生による発表・討論(13)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

テキストをよく読んで、十分に準備した上でゼミに参加すること

教科書

新版社会学のエッセンス

著者： 友枝敏雄他

出版社： 有斐閣

出版年： 2007

ISBN: 9.78464E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅳ(マ) <f>**

担当者 阪本 崇

テーマ

現代の産業と産業政策～コンテンツ産業を中心に

獲得目標

・卒業論文の作成に必要な文献調査や文章作成の技術を身につける・経済学的な視点から社会現象を考えることができるようになる。

授業の内容

現代日本の産業と、産業政策について分析する。手始めに、近年発展がめざましく、多くの学生諸君が興味を持つであろう映画や音楽、広告、ゲームなどのコンテンツ産業に関する文献を読み通す。その上で、産業組織論、産業政策論についての学習と、各人がひとつずつ興味のある産業を決めて、文献調査を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス:テキストおよび分担の決定
 - 第2回 情報検索演習(1)
 - 第3回 情報検索演習(2)
 - 第4回 プレゼンテーションの技術(1)
 - 第5回 プレゼンテーションの技術(2)
 - 第6回 プレゼンテーションの技術(3)
 - 第7回 テキストの輪読(1)
 - 第8回 テキストの輪読(2)
 - 第9回 テキストの輪読(3)
 - 第10回 テキストの輪読(4)
 - 第11回 テキストの輪読(5)
 - 第12回 テキストの輪読(6)
 - 第13回 テキストの輪読(7)
 - 第14回 テキストの輪読(8)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業に参加するための準備を各自があらかじめ行っておく必要がある。具体的に言えば、指示された課題等は、指定日までに必ずこなしておかなければならない。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅳ(マ) <g>**

担当者 李 在鎬

テーマ

経営者のリーダーシップ

獲得目標

経営リーダーシップの基礎概念を熟知し、経営戦略の立案と遂行におけるトップの経営リーダーシップを理解することが本教科の獲得目標である。

授業の内容

経営者のリーダーシップについて、研究者の理論と実務家の持論を包括的にとらえる。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第8回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第9回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第14回 マネジメント現場の見学、又は理解度チェック
- 第15回 全体の総括、マネジメント現場の見学、又は理解度チェック

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお薦めします。

教科書

リーダーシップ入門

著者： 金井壽宏

出版社： 日本経済新聞出版社

出版年： 2007年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 (50)

a50102a257

2/3以上の出席率が単位認定の前提条件となります。2回以上の発表、積極的な議論への参加が求められます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習IV(救) <a>**

担当者 土井 一弘

テーマ

経済の常識①

獲得目標

卒業後救急救命職(公務員)に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の内容

第1回の授業から、数学と経済の授業を隔週で実施し、最終回には数学&政治・経済の総合テストを実施する。経済の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回(2週間後)の授業でかならず提出すること。

内 容

- 第1回 場合の数
 - 第2回 経済:経済体制
 - 第3回 順列・組み合わせ
 - 第4回 経済:経済理論①
 - 第5回 確率
 - 第6回 経済:経済理論②
 - 第7回 平面図形の基礎
 - 第8回 経済:経済理論③
 - 第9回 相似
 - 第10回 経済:戦後の日本経済
 - 第11回 図形の計量
 - 第12回 経済:その分野別問題
 - 第13回 空間図形
 - 第14回 政治:まとめ
 - 第15回 合同:まとめのテスト
-

授業以外での学習方法

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

授業中課題 ()

参加度 (20%)

小テスト (30%)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅳ(救) **

担当者 志賀 亮一

テーマ

政治経済基礎知識の簡潔

獲得目標

基礎演習Ⅰ & Ⅱの続きとして、現代社会の政治・経済の基礎知識を身につけ、キャリア形成の基盤を形成する。

授業の内容

レジュメをもととした講義に政治経済の基礎知識を学んだのち、毎回受講生数名を指名して小テスト問題の作成を課す。つぎの回にはその小テストによって前回の学びを確実なものとする。

内 容

- 第1回 日本の政治制度1(司法と地方自治)
 - 第2回 日本の政治制度2(選挙と政党)
 - 第3回 行政の課題
 - 第4回 国際政治1(国際社会と国連)
 - 第5回 国際政治2(冷戦)
 - 第6回 国際政治3(軍縮と国際紛争)
 - 第7回 戦後の日本外交+中間テスト
 - 第8回 戦後日本経済の歴史
 - 第9回 戦後日本経済の問題点1(農業・中小企業・消費者)
 - 第10回 戦後日本経済の問題点2(公害と環境)
 - 第11回 戦後日本経済の問題点3(労働・社会保障)
 - 第12回 国際経済1(国際収支)
 - 第13回 国際経済2(国際通貨体制)
 - 第14回 国際経済3(諸問題と日本)
 - 第15回 まとめとテスト
-

授業以外での学習方法

新聞の政治欄、経済欄を毎日読むこと

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

出席不良者、小テスト作問改題未提出者は単位を認定しない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 公衆衛生

担当者 島原 政司

テーマ

環境と公衆衛生、保健・医療・福祉のヘルスケアシステムやその基盤となる保健医療福祉の関連法規および財政の理解、施策等行政組織の基礎的理解

獲得目標

1. 地域で生活する人びとの健康の保持・増進、疾病予防のための活動を説明できる。 2. 地域の保健医療福祉政策について理解し、保健、医療、福祉の連携やその中で専門職が担う活動や役割を説明できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 保健医療制度①我が国の保健医療福祉の変遷
 - 第2回 保健医療制度②公衆衛生
 - 第3回 保健医療制度③保健統計
 - 第4回 保健医療制度④環境保健
 - 第5回 保健医療制度⑤労働衛生
 - 第6回 保健医療制度⑥学校保健
 - 第7回 保健医療制度⑦母子保健
 - 第8回 保健医療制度⑧地域保健
 - 第9回 保健医療制度⑨精神保健福祉
 - 第10回 社会保障制度①理念・体系、医療保障、所得保障
 - 第11回 社会保障制度②母子および寡婦福祉法
 - 第12回 社会保障制度③障害児・者
 - 第13回 社会保障制度④高齢者福祉
 - 第14回 社会保障制度⑤医療保険制度
 - 第15回 社会保障制度⑥介護保険制度
 - 第16回 総括と理解度チェック
-

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト(上巻).

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (0)

小テスト (100)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **救急疾病Ⅱ**

担当者 富士原 彰・大石 泰男・筈井 寛

テーマ

循環器系・呼吸器系・消化器系の疾病の理解

獲得目標

循環器系・呼吸器系の救急疾病について主な疾患を取り上げてその特徴と応急処置などを詳しく学ぶ。循環器系は心不全、虚血性疾患、不整脈、先天性心疾患、心筋疾患など、呼吸器は呼吸不全、呼吸器感染症、気管支喘息、肺炎、肺血管疾患その他の疾患の病態、診断、処置などを習得する。また消化器系の疾患の病態についても理解を深める。

授業の内容

内 容

- | | | |
|------|-----------|--------------------------------|
| 第1回 | 循環器系疾患各論① | 【筈井 寛】基本的な病態及び診断・検査方法、治療に用いる薬剤 |
| 第2回 | 循環器系疾患各論② | 【筈井 寛】心不全、虚血性心疾患 |
| 第3回 | 循環器系疾患各論③ | 【筈井 寛】虚血性心疾患の救急医療 高血圧 |
| 第4回 | 循環器系疾患各論④ | 【筈井 寛】不整脈 |
| 第5回 | 循環器系疾患各論⑤ | 【筈井 寛】先天性心疾患、心臓弁膜症 |
| 第6回 | 循環器系疾患各論⑥ | 【筈井 寛】心筋疾患、血管系疾患(動脈、静脈) |
| 第7回 | 呼吸器系疾患各論① | 【大石 泰男】呼吸器感染症 |
| 第8回 | 呼吸器系疾患各論② | 【大石 泰男】気管支喘息とCOPD、肺腫瘍 |
| 第9回 | 呼吸器系疾患各論③ | 【大石 泰男】間質性肺炎と周辺疾患、呼吸不全 |
| 第10回 | 呼吸器系疾患各論④ | 【大石 泰男】肺血管疾患、胸膜・横隔疾患、その他の呼吸器疾患 |
| 第11回 | 消化器系疾患各論① | 【富士原 彰】胃・十二指腸疾患 |
| 第12回 | 消化器系疾患各論② | 【富士原 彰】大腸・小腸疾患 |
| 第13回 | 消化器系疾患各論③ | 【富士原 彰】肝炎・肝硬変、肝腫瘍、胆石症 |
| 第14回 | 消化器系疾患各論④ | 【富士原 彰】腫瘍、腹痛、吐血・下血など |
| 第15回 | まとめ | 【富士原 彰】 |

授業以外での学習方法

授業・実習を充実したものにするため、日常汎用医学用語および略語を知る。解剖・生理を理解する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (20%)

授業中課題 (20%)

参加度 (0%)

小テスト (30%)

授業中発表等 (30%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **救急の検査**

担当者 竹下 仁・山口 桂司

テーマ

救急疾患と臨床検査の関係を理解する。

獲得目標

頻度の高い救急疾患と臨床検査の関連を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 検査総論 【竹下 仁】
 - 第2回 胃機能検査、一般検査 【竹下 仁】
 - 第3回 肝機能検査 【竹下 仁】
 - 第4回 血液検査 【竹下 仁】
 - 第5回 生理検査 【山口 桂司】
 - 第6回 胸痛と臨床検査 【山口 桂司】
 - 第7回 感染症検査 【竹下 仁】
 - 第8回 中毒と臨床検査 【竹下 仁】
 - 第9回 代謝異常、意識障害 【山口 桂司】
 - 第10回 腹痛と臨床検査 【山口 桂司】
 - 第11回 輸血検査 【山口 桂司】
 - 第12回 POCT(簡易迅速検査) 【山口 桂司】
 - 第13回 血液ガス、呼吸機能検査 【竹下 仁】
 - 第14回 凝固 染液あ【竹下 仁】
 - 第15回 凝固・せん液検査【富士原 彰】
 - 第16回 まとめ・11月18日 試験 【富士原 彰】
 - 第17回 終了試験
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

授業中課題 (0%)

参加度 (20%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急医学総論Ⅳ

担当者 関根 和弘

テーマ

救急現場活動

獲得目標

救急現場活動を行うために必要なコミュニケーションスキル、救急隊の編成、救急自動車装備、通信体制、搬送方法や救急活動に関連する法律について理解することを目的とします。

授業の内容

講義及び実習

内 容

- 第1回 救急活動の基本・外傷総論
- 第2回 救急現場活動
- 第3回 救急現場活動
- 第4回 救急現場活動
- 第5回 救急現場コミュニケーション
- 第6回 救急現場コミュニケーション
- 第7回 救急現場コミュニケーション
- 第8回 救急現場コミュニケーション
- 第9回 救急行政と救急関係法規
- 第10回 救急活動と法的問題
- 第11回 救急活動と法的問題
- 第12回 惨事ストレスマネジメント
- 第13回 惨事ストレスマネジメント
- 第14回 海外の病院前救護体制
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

学外研修及び講演会聴講等集中講義を行うこともある

教科書

参考書

救急活動の法律相談

著者： 救急活動法務研究会

出版社： 新日本法規出版

出版年： 2010

ISBN：

プレホスピタルMOOK10

著者： 安田康晴

出版社： 永井書店

出版年： 2010

ISBN： 9.78482E+12

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 環境障害

担当者 小尾口 邦彦

テーマ

中毒・環境傷害、放射線傷害について理解する。

獲得目標

中毒、熱傷、低体温、圧力などによる損傷など環境により人体に影響を与える救急の病態について理解する。また、放射線についての基礎知識を学習し、放射線事故による放射線被曝と障害と、その対応について習得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 中毒総論① 中毒経路・病態生理
 - 第2回 中毒総論② 観察と判断、応急処置と搬送
 - 第3回 中毒各論 医療品・農薬・工業薬品・ガス中毒 アルコール・自然毒・家庭用品・覚醒剤中毒
 - 第4回 溺水、熱中症、低体温、凍傷
 - 第5回 減圧症、酸素欠乏症、高山病
 - 第6回 紫外線と放射線 放射線事故と傷害
 - 第7回 まとめ
 - 第8回 試験とまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (50)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 データ分析基礎論

担当者 阪本 崇

テーマ

獲得目標

社会調査の過程では、アンケート調査などを通じて様々な数値データを得ることができる。こうしたデータは一見しただけでは何の意味もない数字の集まりであるかのようにしか見えないかもしれない。しかし、統計的な手法を用いて分析すれば、こうしたデータの中に様々な意味を見いだすことができるようになる。この授業の目的は、第一に、社会調査において必要となる統計学、とりわけ推測統計の基礎を理解することである。第2に、授業の中で得た統計学の知識を実際にデータ(現実のデータの場合もあれば、仮説的なデータの場合もある)に適用して、自分の力でデータの中に隠された意味を抽出することができるようになることである。

授業の内容

内 容

- 第6回 連続確率の考え方と連続確率分布:正規分布と中心極限定理を中心に
- 第7回 母集団の平均がありそうな範囲を求める(平均の推定)
- 第8回 平均についての仮説が正しいかを調べる(平均と平均差の検定)
- 第9回 統計を支持率調査やリスク評価に応用する:比率と分散の推定・検定
- 第10回 練習問題と解答・解説
- 第11回 2つのデータに関係はあるか?(オッズ比と相関係数)
- 第12回 2つのデータの関係にはどのような意味があるのか?(回帰分析)
- 第13回 見せかけの関係と真の関係(偏相関分析)
- 第14回 関係は本当にあるのか?(相関関係と回帰式の検定)
- 第15回 練習問題と解答・解説、まとめ
- 第1回 イントロダクション:記述統計と推測統計、データの種類
- 第2回 記述統計の復習(1):中心の特性値(なぜ平均値だけではいけないのか)
- 第3回 記述統計の復習(2):バラツキの特性値(散らばっている異の表し方)
- 第4回 母集団と標本:母集団と標本の基本的な考え方、無作為抽出、記述統計と推測統計
- 第5回 確率論の基礎と離散確率分布:ベルヌーイ分布と二項分布を中心に

授業以外での学習方法

練習問題を課題として課しますので、期日までに仕上げてくるようにしてください。

教科書

参考書

成績評価

| | |
|--------------|-------------|
| 試験 () | 小テスト (60) |
| 授業中課題 (40) | 授業中発表等 () |
| 参加度 () | |

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **経営戦略論Ⅱ**

担当者 今久保 幸生

テーマ

主に関西の企業や経済団体から招いた経験豊富なゲストスピーカーの講義を聴き、これを通じて企業等の各レベルにおける多様な経営戦略、組織文化、人材確保・育成などを学ぶ。

獲得目標

様々な分野の企業経営等のトップや第一線で活躍中の各講師から、経営戦略等についての現場の体験を伺うことで、経営戦略を具体的に理解し、かつ、己が将来どのような業種の企業や団体等のどのような仕事や経営戦略に関わってゆくことができるかについての見通しを持てるようにすることが、目的である。

授業の内容

レジュメなどの資料に即した講義がなされる。これに対して毎回、学生のリアクション・ペーパーの提出が必要である。内容は各自の感想を述べたものでもよい。また、学生が授業中あるいは授業後に、自分が抱いた疑問や尋ねたいことなどがあれば、積極的に発言することが、おおいに薦められる。

内 容

- 第1回 今久保教授 講義の狙いと授業計画
- 第2回 杉村泰宏氏 シンク・アンド・アクト(株) マネージング・ディレクター(プロジェクト・プロデュース他)
- 第3回 落亨氏 (有)星加 取締役・経営コンサルタント(食品衛生・生産性向上)
- 第4回 西坂好隆氏 (株)日本旅行・西日本営業本部企画部 マネージャー(旅行)
- 第5回 土屋佳幸氏 (株)博報堂関西支社ソリューション局 インタラクティブディレクター(広告)
- 第6回 井原俊則氏 (株)シーフォース 大阪営業所長(クリーニング材)
- 第7回 取締役河内誠氏 ロマンライフ 代表取締役社長(洋菓子製造販売)
- 第8回 合六直吉氏 共栄製鋼株式会社 常務取締役(電炉)
- 第9回 松下直弘氏 株式会社ケーケーシー情報システム 取締役(情報システム)
- 第10回 古庄健氏 社会福祉法人つむぎ福祉会 青年の自立支援センターゆう 支援員(福祉)
- 第11回 橋本恭典氏 橋本恭典税理士事務所 所長(税務)
- 第12回 田中洋氏 株式会社外為ドットコム 常勤監査役(金融)
- 第13回 光武寔敬氏 住友生命保険相互会社 元本社法人営業部渉外部長(保険)
- 第14回 井上宏氏 株式会社Jプロデュース(JTBグループ)第2営業局局長(旅行)
- 第15回 今久保教授 授業のまとめ

授業以外での学習方法

授業以外での学習方法 当日の企業・団体の経営状況や関係する業界について、専門書、有価証券報告書、会社案内、会社四季報、ダイヤモンド、東洋経済などの業界紙、日本経済新聞、日本産業新聞、ホームページなどを手がかりに、予め調べておくことが有益である。

教科書

とくに定めない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講師により講義中に指示される場合がある。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a50102d450

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

リアクション・ペーパー50% 授業での質問20% 参加度30%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **マーケティング論Ⅱ**

担当者 岡本 哲弥

テーマ

獲得目標

マーケティング論における重要なトピック(各論)について理解する。

授業の内容

マーケティングに関する現象について実際のケースを取り上げながら、理論的に把握するための重要な概念を学んでいく。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 ブランド論(1)
 - 第3回 ブランド論(2)
 - 第4回 ブランド論(3)
 - 第5回 消費者行動論(1)
 - 第6回 消費者行動論(2)
 - 第7回 顧客満足度(1)
 - 第8回 顧客満足度(2)
 - 第9回 価格(1)
 - 第10回 価格(2)
 - 第11回 マーケティング・チャネル論(1)
 - 第12回 マーケティング・チャネル論(2)
 - 第13回 ロジスティクス(1)
 - 第14回 ロジスティクス(2)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

日頃、新聞やテレビなどの企業経営やマーケティングの報道に注意を向け、授業で学んだマーケティング論の視点から解釈するように心がける。

教科書

資料を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (70)

授業中発表等 ()

a50102d950

講義の内容は、状況に応じて変更する場合があります。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **企業と社会的責任**

担当者 織田 直文

テーマ

地域の中、世界の中で生き抜くためのこれからの企業経営

獲得目標

近年、企業が果たすべき広い意味での社会的責任(CSR;)が強く求められるようになってきた。本講義では、その背景を探り、企業のあり方や経営を、社会との関係性から考え、今後のあり方を見出す。

授業の内容

当該テーマおよび目的追及のために、基礎的なキーワード概念や事例を述べるとともに、外部講師による特別講義の他、学生による事例調査やNPO、ソーシャルビジネスの起業企画作業を行ってもらい、理解を深めるものとする。

内 容

- 第1回 講義の進め方、社会、経済、環境、経営
 - 第2回 法人、セクター、ステークホルダー
 - 第3回 CSR、社会貢献
 - 第4回 協働型まちづくり
 - 第5回 NPOと社会・経済、NPO経営
 - 第6回 中小企業と地域社会
 - 第7回 CSR、社会貢献事例研究
 - 第8回 事例レポート報告①
 - 第9回 事例レポート報告②
 - 第10回 コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネス
 - 第11回 ソーシャル・ビジネス起業企画の方法
 - 第12回 歴史の中の事例研究
 - 第13回 ソーシャル・ビジネス企画報告①
 - 第14回 ソーシャル・ビジネス企画報告②
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

日常的にCSRや協働型まちづくりなどに関する情報を、新聞や雑誌、報道番組などからチェックし、スクラップする。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **産業論 I (コンテンツ産業)**

担当者 吉田 秀和

テーマ

産業構造と日常生活・文化との関連性について各種コンテンツを参考に読み解く

獲得目標

産業構造の在り方は、わたしたちの日常生活環境に深くかかわっています。言い換えると、年齢・性別・職業などによる生活時間の使い方や生活の質および量はその社会の産業構造の影響を大いに受けているということです。そこで、この授業では、産業構造と私たちの生活構造について、その時代の各種のコンテンツを読み解きながら理解していくとともに、その手法を修得してもらおうと思います。

授業の内容

この授業では、戦後から今日までの我が国の産業構造の変遷を提示しながら、その時代を代表する放送番組、映画、音楽、書籍などのコンテンツを紹介していきます。そして、当時のコンテンツが人々の日常生活を通じてどのように大衆意識として浸透していったかを見ていきます。さらに、これらを踏まえて、高度化していく情報ネットワーク社会を背景として、ますますグローバル化していく今日の社会に潜む諸課題をみなさんといっしょに考えていきたいと思ひます。授業では、その日の授業内容、質疑などを簡潔に記してもらおう用紙(コミュニケーション・ペーパーを配ります)を毎回配布しますので、授業終了時には提出して終わるという形態になります。なお、質疑に関する回答は次回の授業冒頭に行います。

内 容

- 第1回 産業構造と生活構造、そしてコンテンツ産業とのかかわり
- 第2回 私企業に見られた戦前の恩情主義と戦後の産業復興
- 第3回 産業復興とアメリカニゼーション
- 第4回 フォードシステムと日本の高度経済成長
- 第5回 アメリカニゼーションの浸透を狙ったアメリカ版放送コンテンツ
- 第6回 産業社会の進展と日本版放送コンテンツ
- 第7回 労使協調主義(三種の神器とは)と世界経済の趨勢—ウーマンリブ運動と男女雇用機会均等法—
- 第8回 産業社会の成熟と消費社会の到来
- 第9回 性別役割分業から男女共同参画推進社会へ
- 第10回 バブル経済と消費社会(不夜城社会の経験)
- 第11回 書籍・映画コンテンツにみるモノ社会からイメージの社会への移行
- 第12回 新日本的経営と非正規雇用者の増大
- 第13回 バブル崩壊とグローバル化
- 第14回 福祉産業の必要性和映像コンテンツが支持する男性・女性のイメージ
- 第15回 失われた20年とコンテンツ産業の課題を考える

授業以外での学習方法

授業後は、講義で紹介したコンテンツに接してください。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト (10)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 応用簿記演習Ⅱ

担当者 山本 耕二

テーマ

複式簿記の応用分野を学習し本質的な部分を理解して行く

獲得目標

より高度な複式簿記のスキルを身につける 簿記を通じて商取引の内容や経理システムを学習する

授業の内容

本講義は、応用簿記演習Ⅰの単位取得を前提とする 日商簿記2級における商業簿記の内容を学習する

内 容

- 第1回 固定資産
 - 第2回 債務保証 手形
 - 第3回 引当金
 - 第4回 株式会社会計(1)
 - 第5回 株式会社会計(2)
 - 第6回 株式会社会計(3)
 - 第7回 剰余金の配当 税金
 - 第8回 精算表の作成 帳簿の締切法
 - 第9回 財務諸表
 - 第10回 本支店会計(1)
 - 第11回 本支店会計(2)
 - 第12回 本支店会計(3) 伝票会計
 - 第13回 帳簿組織(1)
 - 第14回 帳簿組織(2)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

簿記を理解するには予習及び復習が必要です。毎回宿題を出しますからしっかり自宅学習することが大切です。

教科書

完全合格のための日商簿記2級商業簿記テキスト

著者： 大原簿記学校編

出版社： 大原出版

出版年：

ISBN：

参考書

完全合格のための日商簿記2級商業簿記問題集

著者： 大原簿記学校編

出版社： 大原出版

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（40）
授業中課題（10）
参加度（30）

小テスト（10）
授業中発表等（10）

参考URL

山本耕二税理士事務所

<http://homepage3.nifty.com/tax-yamamoto>

追加的な連絡事項を掲示する

2013 Syllabus

科目名 **ビジネスコミュニケーション演習**

担当者 松田 いりあ

テーマ

ビジネスシーンにおけるプレゼンテーションおよび企画書作成能力の向上

獲得目標

この授業では、PowerPointやKeynoteといったソフトを活用し、商品企画やプレゼンテーションの基本的な能力を身につけることを目指す。

授業の内容

受講生はプレゼンテーション(スライドショー)作成ソフトによるプレゼンおよび質疑応答を行う。担当者はPowerPoint(Keynote)の利用法を説明、プレゼンにおけるコミュニケーション全般について適宜アドバイスし、プレゼンの進行を支える。

内 容

- 第1回 はじめに:ビジネスにおけるプレゼンテーションおよびソフトウェアについての説明
 - 第2回 グループワーク(1):大学をプレゼンする
 - 第3回 グループワーク(2):大学をプレゼンする
 - 第4回 受講生によるプレゼンテーション(1)
 - 第5回 受講生によるプレゼンテーション(2)
 - 第6回 受講生によるプレゼンテーション(3)
 - 第7回 受講生によるプレゼンテーション(4)
 - 第8回 受講生によるプレゼンテーション(5)
 - 第9回 受講生によるプレゼンテーション(6)
 - 第10回 受講生によるプレゼンテーション(7)
 - 第11回 受講生によるプレゼンテーション(8)
 - 第12回 受講生によるプレゼンテーション(9)
 - 第13回 受講生によるプレゼンテーション(10)
 - 第14回 受講生によるプレゼンテーション(11)
 - 第15回 まとめ:プレゼンテーション能力をさらに向上させるには
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (70)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 広告とマスメディア

担当者 岡本 哲弥・加賀田 茂敏

テーマ

メディア制作の現場——広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネット——

獲得目標

グローバル化とポストモダンの交錯する今日、広告・新聞・雑誌・テレビ・インターネットなどのメディアが社会や文化や人間に及ぼす影響はきわめておおきい。本講は、メディアの解読の仕方や生成の条件・プロセスを知り(メディア・リテラシー)、メディアを能動的に使いこなす自ら作り出しうる能力(メディア・プラクティス)の基礎を与える。こうして、メディアの実態とその可能性を理解する。本講は、将来、広告を中心としてマス・メディアのさまざまな領域で活躍しようとする学生に対する第一線の現場からのメッセージでもある。

授業の内容

講師の都合により、下記の講義の順番が入れ替わったり、内容が一部変更になる場合がある。

内 容

- 第1回 本講義の趣旨 岡本哲弥
 - 第2回 広告とは—<広告産業論> (株)大広関西
 - 第3回 広告マーケティング (株)大広
 - 第4回 クリエイティブ (株)大広
 - 第5回 メディア環境論Ⅰ(メディア環境変化と広告) (株)博報堂DYメディアパートナーズ
 - 第6回 メディア環境論Ⅱ(デジタルメディアの伸展) (株)博報堂DYメディアパートナーズ
 - 第7回 テレビ業界 KBS京都 アナウンス部
 - 第8回 新聞業界 朝日新聞社
 - 第9回 出版業界
 - 第10回 テレビ番組制作の現場
 - 第11回 ラジオ業界
 - 第12回 映画ビジネス
 - 第13回 エンターテインメントビジネス
 - 第14回 マスメディアの学説と広告効果 岡本哲弥
 - 第15回 おわりに 岡本哲弥
-

授業以外での学習方法

メディア関係の図書や資料や電子情報等に適宜、目を通しておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a50102e850

参加度は、授業への出席および授業後の小レポートによる。授業中課題は、期末レポートによる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 医療経済論

担当者 高山 一夫

テーマ

医療経済学入門

獲得目標

医療経済学の基本的な考え方を学習します。医療制度や経済学に関する知識を必ずしも前提とはしませんが、「医療マネジメント入門」「医療政策論」なども併せて履修すると、理解が深まると思います。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 医療経済思想の展開(1)－健康の価値試算
 - 第3回 医療経済思想の展開(2)－公衆衛生と保健投資論
 - 第4回 医療経済思想の展開(3)－社会保険の制度設計
 - 第5回 医療経済思想の展開(4)－CCMCと医療経済調査
 - 第6回 医療経済思想の展開(5)－福祉国家の成立と展開
 - 第7回 医療経済学の基礎(1)－医療費とその増加要因分析
 - 第8回 中間まとめと確認テスト
 - 第9回 医療経済学の基礎(2)－医療需要の分析、SID仮説
 - 第10回 医療経済学の基礎(3)－市場の失敗、マネジドケア、医療制度
 - 第11回 医療の経済評価(1)－医療の経済評価の基礎
 - 第12回 医療の経済評価(2)－便益と効用の測定
 - 第13回 医療の経済評価(3)－経済効率と公平、健康格差
 - 第14回 医療経済学の課題(4)－医療関連産業の経済分析
 - 第15回 講義全体のまとめと確認テスト
-

授業以外での学習方法

授業中配布する資料や参考文献を用いてしっかり復習すること。

教科書

参考書

健康と医療の公平に挑む

著者： 松田亮三編

出版社： 勁草書房

出版年： 2009

ISBN： 9.78433E+12

医療の政治力学

著者： 野村拓編

出版社： 桐書房

出版年： 2011

ISBN： 9.78488E+12

「健康格差社会」を生き抜く

著者： 近藤克則

出版社： 朝日新書

出版年： 2010

ISBN： 9.78402E+12

国際的視点から学ぶ医療経済学入門

著者： マックペイク他

出版社： 東京大学出版会

出版年： 2004

ISBN： 9.78413E+12

成績評価

試験（0）

小テスト（50）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（50）

理解度を確認する目的で確認テストを2回実施します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 産業論Ⅱ(ヘルスケア産業)

担当者 高山 一夫

テーマ

ヘルスケア産業の動向を学ぶ

獲得目標

わが国を含めて先進各国では、人口高齢化に対応し、また内需主導型の経済成長並びに雇用の受け皿として、広い意味でのヘルスケア産業への注目が高まっている。本講義では、こうしたヘルスケア産業をめぐる制度と現状、直面する課題、またヘルスケア産業と経済社会とのかかわりについて、基本的な知識を獲得し、受講生の進路選択に資することを目標とする。

授業の内容

ヘルスケア産業の現状と将来性について、業界研究を意識した授業を展開する。

内 容

- 第1回 ガイダンスと話題提供
 - 第2回 ヘルスケア産業とは
 - 第3回 ヘルスケア分野の労働市場
 - 第4回 医療制度と介護保険(1)
 - 第5回 医療制度と介護保険(2)
 - 第6回 医療・介護経営の動向(1)
 - 第7回 医療・介護経営の動向(2)
 - 第8回 中間まとめと確認テスト
 - 第9回 医薬品産業(1)
 - 第10回 医薬品産業(2)
 - 第11回 医療機器産業
 - 第12回 医療関連サービス業(1)
 - 第13回 医療関連サービス業(2)
 - 第14回 ヘルスケア産業の新たな展開—経済連携、医療ツーリズム
 - 第15回 全体のまとめと確認テスト
-

授業以外での学習方法

授業中に指示する参考文献、また新聞・雑誌記事などに目を通して下さい。

教科書

参考書

よくわかる医療業界

著者： 川越満、布施泰男

出版社： 日本実業出版社

出版年： 2010

ISBN： 9.78453E+12

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (50)

授業中発表等 (0)

a50102f250

講義の理解度を確認するために確認テストを実施します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 サプライ・チェーン・マネジメント

担当者 李 在鎬

テーマ

人、もの、かねの「流れ」最適化の観点から、経営資源調達の理論と実践を学ぶ。

獲得目標

生産システム、ロジスティクスの基礎を理解した上で、部品や原材料などの物流(ものの流れ)と商流(取引の流れ)について修得する。

授業の内容

授業の前半においては、生産システム論とロジスティクスの基礎理論やモデルについて学習した上で、後半において、輸送計画モデルと在庫管理モデルについて、パソコンによる実習を交えながら、学んでいく。

内 容

- 第1回 科目概説、生産システム論の中のサプライヤーチェーンマネジメント
 - 第2回 工程管理
 - 第3回 生産能力とその最適活用
 - 第4回 立地と配置
 - 第5回 需要予測
 - 第6回 品質管理 I
 - 第7回 品質管理 II
 - 第8回 理解度テスト
 - 第9回 ロジスティクスとサプライチェーンマネジメント
 - 第10回 輸送計画モデル I
 - 第11回 輸送計画モデル II
 - 第12回 基本的な在庫管理モデル
 - 第13回 在庫管理モデルの応用
 - 第14回 コンビニエンスストアの物流に関する映像資料鑑賞
 - 第15回 総括と理解度テスト
-

授業以外での学習方法

工場見学などをおすすめします。

教科書

ロジスティクス管理

著者: 李在鎬

出版社: 中央経済社

出版年: 2005

ISBN: 4-502-65550-3

参考書

藤本隆宏

著者: 生産マネジメント入門 I

出版社: 日本経済新聞社

出版年: 2005年

ISBN: 4-532-13205-3

藤本隆宏

著者： 生産マネジメント入門 I

出版社： 日本経済新聞社

出版年： 2005年

ISBN: 4-532-13206-1

成績評価

試験 (80)

授業中課題 (0)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **組織とメンタルヘルス**

担当者 香坂 千佳子

テーマ

ストレス社会と言われる現代社会では、企業にとってメンタルヘルスの問題は無視することはできない。メンタルヘルスを学ぶことがどうして組織にとって重要なのかを理解する。

獲得目標

個人が集団の中で自分らしく生きていくための健康マネジメントのうち、組織におけるメンタルヘルスの問題をとりあげる。会社や職場等の組織の中で、私たちは様々なメンタルヘルス上の問題と出会う。どのような問題があるかを概観し、早期発見や回復の手立てを考える。メンタルヘルス、特に「セルフケア」を理解し修得する。

授業の内容

職場におけるメンタルヘルスの重要性とセルフケア、ストレス対処法などを学ぶ。毎回簡単な小テストを授業前に行う。(履修人数により、授業方法を変更する場合もある)

内 容

- 第1回 はじめに: 授業方針(受講上の注意、評価の方法) メンタルヘルスケアの意義
- 第2回 企業とメンタルヘルスとは
- 第3回 ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ①
- 第4回 ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識 ②
- 第5回 セルフケアの重要性 ①
- 第6回 ストレスへの気づき
- 第7回 ストレスへの対処・軽減法
- 第8回 まとめ テスト

授業以外での学習方法

常に、新聞、ニュースなどでメンタルヘルス、健康に関係する情報収集をするようにすること。

教科書

メンタルヘルスマネジメントⅢ種 セルフケアコース

著者: 大阪商工会議所編

出版社: 中央経済社

出版年: 2012

ISBN: 9.7845E+12

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (30)

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (40)

授業前に小テスト+宿題+課題=60% 出席回数+授業中=40%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化経済論

担当者 金武 創

テーマ

獲得目標

・文化的な活動が経済によって支えられていることを理解する・現在の経済活動が文化的な活動無しに成立し得ないことを理解する・経済学的な視点からものを見ることができるようになる 文化と経済の関係を理解し、文化経済学の基礎を身につける

授業の内容

生活の豊かさと個人の自立について考える。(「文化政策論」と連続講義)

内 容

- 第1回 イントロダクション:なぜ文化経済学を勉強するのか?
- 第2回 文化と経済との関係:経済学とはどんな学問か?
- 第3回 芸術と経済のジレンマ:実演芸術は商売にならない。
- 第4回 「コスト病」の考え方:実演芸術と共通の性質を持つ産業をさがしてみよう。
- 第5回 芸術作品の価格とオークション:芸術作品の値段はどのように決まるのか?
- 第6回 芸術作品の価格と価値:「高い」芸術作品は「よい」芸術作品か?
- 第7回 資産としての芸術作品:将来値上がりする芸術作品とは?
- 第8回 芸術文化の消費行動:蓼食う虫も好き好き?
- 第9回 スローライフの経済学:時間をフルに活用するということ。
- 第10回 創造的生産者としての芸術家:金儲けだけが仕事ではない。
- 第11回 文化と非営利組織の役割:文化施設は誰が運営すべきか
- 第12回 文化と情報の経済学:情報は誰のものか?
- 第13回 著作権の経済学:追求権は芸術家の味方になるか?
- 第14回 芸術文化の公的支援:経済的支援と表現の自由のジレンマ。
- 第15回 アームズ・レングスの原則:芸術の支援に適した環境とは?

授業以外での学習方法

教科書

文化経済論

著者: 金武創・阪本崇

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2005 年

ISBN:

参考書

必要に応じて紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a50102f910

試験 ()
授業中課題 (100)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **専門演習Ⅱ(マ) **

担当者 河野 充央

テーマ

企業経営と管理会計

獲得目標

企業経営における管理会計の意義と役割を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 企業の利害関係者とその経済的情報要求
 - 第2回 企業経営と企業目標
 - 第3回 経営管理者の職能
 - 第4回 管理会計の目的とその変遷(1)
 - 第5回 管理会計の目的とその変遷(2)
 - 第6回 管理会計の目的とその変遷(3)
 - 第7回 企業経営と管理会計担当部門
 - 第8回 コスト・マネジメントの体系
 - 第9回 戦略的プランニングとコスト・マネジメント(1)
 - 第10回 戦略的プランニングとコスト・マネジメント(2)
 - 第11回 戦略的コントロールとコスト・マネジメント(1)
 - 第12回 戦略的コントロールとコスト・マネジメント(2)
 - 第13回 管理的プランニングとコスト・マネジメント
 - 第14回 管理的コントロールとコスト・マネジメント
 - 第15回 まとめ 卒業論文作成へ向けての指導
-

授業以外での学習方法

配布するプリントや紹介する参考書を積極的に活用し、管理会計の理解を深める。

教科書

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

管理会計

著者: 岡本清 他

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

a501030250

ケースブック コスト・マネジメント

著者: 加登豊 他

出版社: 新世社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (15)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(マ)〈c〉

担当者 岡本 哲弥

テーマ

マーケティング論に関わる問題意識を涵養する。

獲得目標

マーケティング論のテキストの輪読を通じて、マーケティング論における重要な概念や理論について学ぶ。さらに、各自に問題関心に応じて、卒業研究ではどのようなテーマに取り組むのか、研究計画を作成し発表する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 図書館ガイダンス
 - 第3回 テキストの輪読(1)
 - 第4回 テキストの輪読(2)
 - 第5回 テキストの輪読(3)
 - 第6回 テキストの輪読(4)
 - 第7回 テキストの輪読(5)
 - 第8回 テキストの輪読(6)
 - 第9回 研究計画の書き方
 - 第10回 研究計画の発表(1)
 - 第11回 研究計画の発表(2)
 - 第12回 研究計画の発表(3)
 - 第13回 研究計画の発表(4)
 - 第14回 研究計画の発表(5)
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

テキストをよく読み、十分に準備した上で、授業に参加する。日頃、新聞やテレビなどの企業経営やマーケティングの報道に関心を持っておく。スケジュールについては、理解度などに配慮して入れ替え・変更を行う可能性がある。また、講演会への参加等の学外授業を実施する場合もある。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (25)

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(マ) <d>

担当者 李 在鎬

テーマ

経営戦略の代表的な古典的論文を輪読し、理論と事例について理解を深める。

獲得目標

卒業研究において、しっかり先行研究を吟味し、理論的な脈絡の中で、自分の経営学研究を位置づけるため、必読の代表的な論文を読み、読解力、発表力を鍛えるのが本教科の目的である。

授業の内容

1957年～93年までのハーバード学派経営戦略理論の流れを網羅的に考察する。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジュメ作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第3回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第4回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第5回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第6回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第7回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第8回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第9回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第10回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第11回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第12回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第13回 学生よる報告2-3件(各A4サイズ4枚分のレジュメ配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第14回 全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック ※尚、この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。
- 第15回 全体の総括、経営現場の見学または理解度チェック ※尚、この授業では、必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

戦略論1957-1993

著者: DIAMOND編集部

出版社: ダイヤモンド社

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

2/3以上の出席率が単位認定の前提条件となります。基本的に2回以上の発表、積極的な議論への参加が求められます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(マ)〈e〉

担当者 高山 一夫

テーマ

医療マネジメントについて考える。

獲得目標

医療マネジメントに関する知見を深めるとともに、受講生相互の交流を通じて、各自の研究テーマや将来の進路について考える。演習の具体的な内容は受講生と相談の上で最終的に決定する。

授業の内容

11月に実施予定の他大学生とのインターゼミナールにむけた準備を行うとともに、卒業研究の準備を本格的に開始する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 インターゼミナールの準備(1)
 - 第3回 インターゼミナールの準備(2)
 - 第4回 インターゼミナールの準備(3)
 - 第5回 インターゼミナールの準備(4)
 - 第6回 卒業研究中間報告会(予定)
 - 第7回 卒業研究中間報告会(予定)
 - 第8回 インターゼミナールの準備(5)
 - 第9回 インターゼミナール(予定)
 - 第10回 卒業研究作成技法のレクチャー(1)
 - 第11回 卒業研究作成技法のレクチャー(2)
 - 第12回 卒業研究構想報告(1)
 - 第13回 卒業研究構想報告(2)
 - 第14回 卒業研究構想報告(3)
 - 第15回 演習全体のまとめ(4年生との合同キャリア学習会の予定)
-

授業以外での学習方法

論文作成の指南書をテキストに指定するので、卒論の準備に際しては、それらをしっかり活用して下さい。

教科書

理科系の作文技術

著者： 木下是雄

出版社： 中公新書

出版年： 1981

ISBN: 9.78412E+12

論文の書き方

著者： 澤田昭夫

出版社： 講談社学術文庫

出版年： 1977

ISBN: 9.78406E+12

参考書

成績評価

試験（0）

授業中課題（20）

参加度（30）

小テスト（0）

授業中発表等（50）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(マ)〈f〉

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文作成に向けた研究とその報告

獲得目標

卒業論文作成の構想を立てる

授業の内容

専門演習Ⅰに引き続き、卒業論文作成にむけた準備を行う。各自が自分自身で決めたテーマのもとで調査研究を行い、進捗状況をそれぞれ2回程度報告する。また、就職活動に向けた準備も平行して行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 テクニカル・ライティング実践(1)
 - 第3回 テクニカル・ライティング実践(2)
 - 第4回 プレゼンテーションの技術
 - 第5回 卒業論文計画発表Ⅰ(1)
 - 第6回 卒業論文計画発表Ⅰ(2)
 - 第7回 卒業論文計画発表Ⅰ(3)
 - 第8回 中間のまとめ
 - 第9回 卒業論文計画発表Ⅱ(1)
 - 第10回 卒業論文計画発表Ⅱ(2)
 - 第11回 卒業論文計画発表Ⅱ(3)
 - 第12回 卒業論文計画発表Ⅱ(4)
 - 第13回 卒業論文計画発表Ⅱ(5)
 - 第14回 卒業論文計画発表Ⅱ(6)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業の役割は、情報交換の場、あるいは研究のペースメーカーであって、あくまでも個人個人の自主的な研究活動が中心であることを肝に銘じて取り組んでほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(マ)〈g〉

担当者 高原 正興

テーマ

研究課題の深化と関連文献の講読

獲得目標

ゼミ生の社会的な関心をより深化させるとともに、関連する文献を講読して社会的な素養を高める。

授業の内容

テキストの講読・発表・討論など

内 容

- 第1回 後期ガイダンス
 - 第2回 夏季課題の報告(1)
 - 第3回 夏季課題の報告(2)
 - 第4回 夏季課題の報告(3)
 - 第5回 関連文献の講読(1)
 - 第6回 関連文献の講読(2)
 - 第7回 関連文献の講読(3)
 - 第8回 関連文献の講読(4)
 - 第9回 関連文献の講読(5)
 - 第10回 関連文献の講読(6)
 - 第11回 関連文献の講読(7)
 - 第12回 関連文献の講読(8)
 - 第13回 関連文献の講読(9)
 - 第14回 関連文献の講読(10)
 - 第15回 まとめと展望
-

授業以外での学習方法

講読文献の予習は必須である。

教科書

上記の関連文献

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a501030256

試験 ()
授業中課題 (20)
参加度 (50)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(マ)〈h〉

担当者 今久保 幸生

テーマ

ものづくり戦略の動態を学ぶ

獲得目標

世界の工場から世界の製品開発拠点へと成長しつつある東アジアの最近の動向を、日本との比較において検討することを通じて、ものづくり戦略の展開についての理解を深めさせる。

授業の内容

世界の工場から世界の製品開発拠点への展開を論じた書物を輪読する。毎回報告担当者が担当部分を報告して論点を提示し、これを皮切りに様々な論点を提示しあって、これらに関する討論を行う。

内 容

- 第1回 演習のガイダンス、報告分担の決定など
- 第2回 テキストの輪読・討論1
- 第3回 テキストの輪読・討論2
- 第4回 テキストの輪読・討論3
- 第5回 テキストの輪読・討論4
- 第6回 テキストの輪読・討論5
- 第7回 テキストの輪読・討論6
- 第8回 テキストの輪読・討論7
- 第9回 テキストの輪読・討論8
- 第10回 テキストの輪読・討論9
- 第11回 テキストの輪読・討論10
- 第12回 テキストの輪読・討論11
- 第13回 テキストの輪読・討論12
- 第14回 テキストの輪読・討論13
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

毎回の授業で論じるテーマを、テキストのみならず参考書や雑誌や新聞、インターネットなどの情報に基づき収集し予習しておく。

教科書

世界の工場から世界の開発拠点へ

著者： 都留康・守島基博

出版社： 東洋経済新報社

出版年： 2012年

ISBN:

参考書

演習のなかで指示する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

a501030257

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ(救)

担当者 夏目 美樹,北小屋 裕,関根 和弘,千田 いずみ,深澤 雄二

テーマ

公務員試験対策

獲得目標

救急救命士の最大の就職先である地方公務員の採用試験突破を目標に一般教養から社会・人文科学及び時事問題等の理解を目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 公務員試験対策
 - 第3回 公務員試験対策
 - 第4回 公務員試験対策
 - 第5回 公務員試験対策
 - 第6回 公務員試験対策
 - 第7回 公務員試験対策
 - 第8回 公務員試験対策
 - 第9回 公務員試験対策
 - 第10回 公務員試験対策
 - 第11回 公務員試験対策
 - 第12回 公務員試験対策
 - 第13回 公務員試験対策
 - 第14回 公務員試験対策
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a501030260

この科目は参加度を重視します

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急処置各論Ⅱ

担当者 甲斐 達朗・関根 和弘・藤原 大輔・加藤 之紀

テーマ

応急処置各論と重傷度・緊急度判断

獲得目標

救急救命士の行う処置の実践を学ぶ。呼吸、循環、外傷に関する処置の他、体位管理や体温管理、災害時に必要となる処置についても学習する。重傷度・緊急度の判断方法についても説明し、重症外傷患者の救命に重要な現場活動の基礎、そして評価と観察、重症度・緊急度の判断と車内での活動、必要な処置を習得する。この他、処置のうち、除細動・胸骨圧迫・自動式心マッサージ器による胸骨圧迫についても学ぶ。処置の際に必要な救急隊員の安全管理についても理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 除細動について
 - 第2回 静脈路確保について
 - 第3回 静脈路確保について
 - 第4回 止血法について
 - 第5回 副子・固定について
 - 第6回 体位について
 - 第7回 在宅療法傷病者の対応について
 - 第8回 搬送法について
 - 第9回 各種プロトコールについて
 - 第10回 各種プロトコールについて
 - 第11回 各種プロトコールについて
 - 第12回 事例研究
 - 第13回 ビデオ・まとめ
 - 第14回 まとめ
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **精神医学(救)**

担当者 竹村 隆太

テーマ

救急救命の視点からみた精神障害と精神科医療

獲得目標

精神科臨床のいろいろな場面を想定し、病態や関わり方について学ぶ

授業の内容

内 容

- 第1回 精神医学総論(関連する社会制度、その歴史、対象となる状態像:興奮・混迷・自殺企図ほか)
 - 第2回 いろいろな病態 ①統合失調症圏
 - 第3回 いろいろな病態 ②躁うつ病圏
 - 第4回 いろいろな病態 ③神経症圏、児童・青年期精神障害、人格障害
 - 第5回 いろいろな病態 ④薬物依存、老年期精神障害
 - 第6回 いろいろな病態 ⑤摂食障害、児童青年期精神障害
 - 第7回 いろいろな病態 ⑥器質性精神障害など
 - 第8回 テスト
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

日本精神科救急学会

<http://www.jaep.jp/>

2013 Syllabus

科目名 救急症候学V

担当者 藤野 和典

テーマ

顔面・頸部の外傷

獲得目標

顔面・頸部には気道、頸髄あるいは脳神経など、生命維持にかかわる器官や組織だけではなく、視覚・聴覚・嗅覚・味覚などの感覚器、咀嚼や嚥下機能、唾液分泌、表情筋による表現など機能予後に関わる器官臓器も豊富に存在する。また口腔、舌、歯などは構音、咀嚼、嚥下運動を司り、上気道を司る。鼻腔、副鼻腔、耳下腺など耳鼻科もこの領域に含まれる。頸部には気管、食道、頸動脈など重要臓器が集約している。これらの臓器は、鈍的および鋭的な損傷により、重篤な損傷を起こす可能性が高い。臓器損傷の種類と症状について学習し、観察と判断、応急処置などを習得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 顔面・頸部の組織と機能
 - 第2回 顔面の外傷
 - 第3回 顔面軟部組織損傷
 - 第4回 顔面骨骨折
 - 第5回 眼外傷
 - 第6回 耳損傷
 - 第7回 鼻損傷、鼻出血
 - 第8回 口唇・口腔・舌損傷
 - 第9回 歯痛、頸部外傷
 - 第10回 症状と観察1
 - 第11回 症状と観察2
 - 第12回 判断と応急処置1
 - 第13回 判断と応急処置2
 - 第14回 まとめ
 - 第15回 試験とまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (0)

参加度 (10)

小テスト (30)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 小児科学(救)

担当者 吉田 匡人

テーマ

小児救急医療の特性

獲得目標

救急医療における小児の特性を理解し、実践的な救急救命士を育成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 小児の特徴
第2回 観察と判断 応急処置と搬送法
第3回 おもな疾患 1熱性痙攣 4髄膜炎 5脳症、脳炎
第4回 おもな疾患 2クループ、急性喉頭蓋炎 3喘息
第5回 おもな疾患 6腸重積 7溶血性尿毒症症候群 8乳幼児突然死症候群
第6回 おもな疾患 9川崎病 10発疹性感染症 11流行性耳下腺炎 12伝染性膿か疹 13ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群
第7回 おもな疾患 14被虐待児症候群 まとめ
第8回 試験
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (50%)

小テスト (0%)

授業中課題 (0%)

授業中発表等 (25%)

参加度 (25%)

情熱を持って救急救命士を志す人は、高く評価します。授業中の積極的な質問や議論でアピールして下さい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **産婦人科学**

担当者 常田 裕子

テーマ

臨床産科学

獲得目標

救急救命士に必要な産科・周産期救急医療を学ぶと共に、臨床産科学・婦人科学を学ぶ。具体的には、講義を通して、妊娠期・分娩期・産褥期の女性と胎児・新生児の正常な状態と病態を学ぶ。演習を通して、救急搬送時に必要となる病歴の聴取方法、観察項目・方法、対処方法について、理解を深める。そして医療機関の選定や搬送時に注意すべき事項などについて理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 わが国の産科(周産期)救急医療の実態
- 第2回 生殖器の解剖・生理
- 第3回 妊娠時の母体と胎児の変化(1)生理的経過
- 第4回 妊娠時の母体と胎児の変化(2)合併症、胎児の異常
- 第5回 分娩の経過
- 第6回 産褥の変化
- 第7回 周産期医療に関わる搬送とその対応(1) 1)病歴聴取 2)観察 3)処置 車内分娩の母子
- 第8回 周産期医療に関わる搬送とその対応(2) 1)病歴聴取 2)観察 3)処置 車内分娩の母子
- 第9回 婦人科疾患 と まとめ

授業以外での学習方法

授業内で課題の提出 締めきり 9月20日(金) 提出先は後日指定します。事前レポート※わが国の周産期救急に関するメディア、新聞などの記事を1つ以上あつめてレポートして下さい(A4レポート用紙2枚以内)

教科書

改訂第8版 救急救命士標準テキスト4

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN:

改訂第8版救急救命士標準テキスト5

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN:

参考書

授業の中で紹介します

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急救命実習Ⅷ

担当者 田中 秀治・夏目 美樹・関根 和弘・千田 いずみ・深澤 雄二

テーマ

救急隊における救急活動の修得

獲得目標

救急救命士の活動に必要な知識・技術をシミュレーションし、各事例における基本活動プロトコールの修得とともに隊活動を通して総合的な実践力を養うことを目標とする。

授業の内容

※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、CPA対応活動 基本活動
 - 第2回 CPA対応活動 基本活動
 - 第3回 静脈路確保
 - 第4回 静脈路確保
 - 第5回 静脈路確保
 - 第6回 静脈路確保・薬剤投与
 - 第7回 CPA対応活動 薬剤投与
 - 第8回 CPA対応活動 薬剤投与
 - 第9回 気管挿管
 - 第10回 気管挿管
 - 第11回 気管挿管・静脈路確保/薬剤投与
 - 第12回 CPA対応活動 気管挿管
 - 第13回 CPA対応活動 気管挿管
 - 第14回 CPA対応活動 気管挿管・薬剤投与
 - 第15回 CPA対応活動まとめ
 - 第16回 胸・腹・腰背部痛対応活動
 - 第17回 胸・腹・腰背部痛対応活動
 - 第18回 胸・腹・腰背部痛対応活動
 - 第19回 胸・腹・腰背部痛対応活動
 - 第20回 呼吸困難・気道閉塞対応活動
 - 第21回 呼吸困難・気道閉塞対応活動
 - 第22回 呼吸困難・気道閉塞対応活動
 - 第23回 神経系感覚系対応活動
 - 第24回 神経系感覚系対応活動
 - 第25回 意識障害・頭痛対応活動
 - 第26回 意識障害・頭痛対応活動
 - 第27回 病院内における心肺停止対応活動
 - 第28回 病院内における心肺停止対応活動
 - 第29回 病院内における心肺停止対応活動
 - 第30回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第1巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第2巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第3巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第4巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士標準テキスト 改訂第8版 第5巻

著者： 救急救命士標準テキスト編集委員会

出版社： へるす出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78489E+12

救急救命士のための二次救命処置テキスト

著者：

出版社：

出版年：

ISBN： 9.78489E+12

参考書

日本救急医学会 ICLSコースガイドブック

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

規定回数の講義参加度に達している者のみ試験評価を実施する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **救急救命実習Ⅱ**

担当者 関根 和弘・北小屋 裕・千田 いずみ・夏目 美樹・深澤 雄二

テーマ

救急車同乗実習

獲得目標

救急車同乗実習により、実際の救急活動を見学することによって、出動から現場活動、搬送、医療機関引継、救急活動記録記載や救急訓練などの救急業務について習得することを目的とする。

授業の内容

※この単位履修については、頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。

内 容

- 第1回 事前学習及びガイダンス
 - 第2回 救急車同乗実習
 - 第3回 救急車同乗実習
 - 第4回 救急車同乗実習
 - 第5回 救急車同乗実習
 - 第6回 救急車同乗実習
 - 第7回 救急車同乗実習
 - 第8回 救急車同乗実習
-

授業以外での学習方法

集中講義を行うこともある

教科書

参考書

救急救命士標準テキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

a501033980

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(マ)

担当者 河野 充央

テーマ

卒業論文の完成

獲得目標

質の高い論文を作成し学士号を取得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 下書きの提出 レジюмеとして目次を全員に配布 概要報告と意見交換 必要に応じて口頭にて指導
- 第2回 報告とチェック(1) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第3回 報告とチェック(2) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第4回 報告とチェック(3) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第5回 報告とチェック(4) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第6回 報告とチェック(5) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第7回 報告とチェック(6) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第8回 報告とチェック(7) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第9回 報告とチェック(8) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第10回 報告とチェック(9) 報告内容に対する質疑応答 テーマと目次の最終確認 必要に応じた変更指示(個別指導を含む)
- 第11回 最終チェック(1) (個別指導を含む)
- 第12回 最終チェック(2) (個別指導を含む)
- 第13回 口頭試問準備(1) (個別指導を含む)
- 第14回 口頭試問準備(2) (個別指導を含む)
- 第15回 総括 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を実施することがある。

授業以外での学習方法

好奇心を持って、各自の研究テーマを掘り下げる努力をする。

教科書

参考書

a501040250

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(マ) <c>

担当者 岡本 哲弥

テーマ

卒業論文を完成する。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(結論)
 - 第2回 卒論進捗報告(結論)
 - 第3回 卒論進捗報告(結論)
 - 第4回 卒論進捗報告(結論)
 - 第5回 卒論中間報告会
 - 第6回 卒論最終報告(全体)
 - 第7回 卒論最終報告(全体)
 - 第8回 卒論最終報告(全体)
 - 第9回 卒論最終報告(全体)
 - 第10回 卒論ドラフト相互チェック
 - 第11回 卒論ドラフト相互チェック
 - 第12回 口頭試問の準備
 - 第13回 口頭試問の準備
 - 第14回 口頭試問の準備
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (45)

小テスト (0)

授業中発表等 (55)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(マ) <d>

担当者 李 在鎬

テーマ

卒業論文を完成する。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の内容

個人的な興味だけではなく、学術的、社会的な問題意識から研究課題を見直し、これまで専門演習で習ってきた理論を土台にし、卒業研究を完成し、卒業論文を執筆する。

内 容

- 第1回 授業概要、報告とレジюме作成要領、報告者・質疑担当者及び報告日程の決定
- 第2回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジюме配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第3回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジюме配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第4回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジюме配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第5回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジюме配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第6回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジюме配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第7回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジюме配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第8回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジюме配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第9回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジюме配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第10回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジюме配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第11回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジюме配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第12回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジюме配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第13回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジюме配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第14回 学生による報告2-3件(各A4サイズ2枚分のレジюме配布、15分報告、質疑応答、議論)
- 第15回 全体の総括、マネジメント現場の見学、又は理解度チェック

授業以外での学習方法

経済新聞の精読をお勧めします。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (45)

小テスト (0)

授業中発表等 (55)

a501040253

基本的に2回以上の報告と討論への積極的な参加が求められますが、それに加え、卒業論文の完成まで、数次にわたり、個人指導が必要な場合があります。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(マ) <e>

担当者 高山 一夫

テーマ

卒業論文を作成する。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を作成する。

授業の内容

卒業研究を完成するために、受講生各人の進捗状況に応じて指導するとともに、論文作成技法の紹介を行う。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 卒業研究報告(1)
 - 第3回 卒業研究報告(2)
 - 第4回 卒業研究報告(3)
 - 第5回 卒業研究報告(4)
 - 第6回 卒業研究報告(5)
 - 第7回 卒論研究中間報告会(予定)
 - 第8回 卒論研究中間報告会(予定)
 - 第9回 卒業研究報告(6)
 - 第10回 卒業研究報告(7)
 - 第11回 卒業研究報告(8)
 - 第12回 卒業研究報告(9)
 - 第13回 口頭試問の準備
 - 第14回 口頭試問の準備
 - 第15回 演習全体のまとめ(3年生との合同キャリア学習会となる予定)
-

授業以外での学習方法

卒業研究の完成のために、必要に応じて個別に指導する。また、自主ゼミ等も活用して受講生相互で卒論の内容を議論することが望ましい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(マ)〈f〉

担当者 阪本 崇

テーマ

卒業論文を完成する。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(結論)
 - 第2回 卒論進捗報告(結論)
 - 第3回 卒論進捗報告(結論)
 - 第4回 卒論進捗報告(結論)
 - 第5回 卒論中間報告会
 - 第6回 卒論最終報告(全体)
 - 第7回 卒論最終報告(全体)
 - 第8回 卒論最終報告(全体)
 - 第9回 卒論最終報告(全体)
 - 第10回 卒論ドラフト相互チェック
 - 第11回 卒論ドラフト相互チェック
 - 第12回 口頭試問の準備
 - 第13回 口頭試問の準備
 - 第14回 口頭試問の準備
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (45)

小テスト (0)

授業中発表等 (55)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(マ) <g>

担当者 高原 正興

テーマ

卒業論文の作成にむけて

獲得目標

12月の卒業論文の提出にむけて、よりよい卒業論文が作成できるように、ゼミ生の研究発表を続け、教員がアドバイスを加える。

授業の内容

ゼミ生による卒業論文の研究発表と教員のアドバイス

内 容

- 第1回 後期ガイダンス
 - 第2回 卒業論文の研究発表(1)
 - 第3回 卒業論文の研究発表(2)
 - 第4回 卒業論文の研究発表(3)
 - 第5回 卒業論文の研究発表(4)
 - 第6回 卒業論文の研究発表(5)
 - 第7回 卒業論文の研究発表(6)
 - 第8回 卒業論文の研究発表(7)
 - 第9回 卒業論文の研究発表(8)
 - 第10回 卒業論文の研究発表(9)
 - 第11回 卒業論文の研究発表(10)
 - 第12回 卒業論文の研究発表(11)
 - 第13回 卒業論文の研究発表(12)
 - 第14回 卒業論文の研究発表(13)
 - 第15回 まとめと展望
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(救)

担当者 夏目 美樹,北小屋 裕,関根 和弘,千田 いずみ,深澤 雄二

テーマ

国家試験対策

獲得目標

救急救命士国家試験に合格できる知識を習得することを目的とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 救急救命士国家試験対策
- 第3回 救急救命士国家試験対策
- 第4回 救急救命士国家試験対策
- 第5回 救急救命士国家試験対策
- 第6回 救急救命士国家試験対策
- 第7回 救急救命士国家試験対策
- 第8回 救急救命士国家試験対策
- 第9回 救急救命士国家試験対策
- 第10回 救急救命士国家試験対策
- 第11回 救急救命士国家試験対策
- 第12回 救急救命士国家試験対策
- 第13回 救急救命士国家試験対策
- 第14回 救急救命士国家試験対策
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (60)

小テスト (20)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急救命実習Ⅹ

担当者 夏目 美樹・北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・深澤 雄二

テーマ

医療機関の現場にて展開される救急医療の現状の把握、及びそれらに必要な知識及び技術の修得。

獲得目標

救急医療に関連した知識の応用と、救急救命処置に係る技能の修得を主体とすること。さらに、既習の知識及び技術を駆使し介助等を通じて、診療の補助に対する理解を深め観察・判断能力を高めることを目的とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 1 学内にてオリエンテーション、成人看護座学
第2回 2 学内にて成人看護演習
第3回 3 夏期病院実習
第4回 4 春期病院実習
第5回 5 各期実習後報告検討会 ※この単位履修については、履修態度・頭髪・身だしなみが実習に不適切と担当教員が判断した場合は、実習に参加できない。
-

授業以外での学習方法

教科書

これまでの講義、実習で使用したテキスト

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 (50)

参加度 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **都市環境デザイン論Ⅱ〈Z〉**

担当者 上原 恵美

テーマ

まちづくり、地域振興と文化芸術のかかわりについて理解を深め、文化をプロデュースすることの意味をまなぶ。

獲得目標

まちづくり、地域振興の事例を見ることによって、地域振興とは何か、芸術や文化がどのようにかかわるのか、さらに文化プロデュースとは何か、どのような役割を果たしているかということを考察する。

授業の内容

様々な事例を見て、それに対する感想をまとめながら、授業の目的に掲げた獲得目標を達成する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション この授業で使う「文化」「芸術」の定義
- 第2回 まちと文化一事例1 滋賀県高島市川端のある暮らし
- 第3回 まちと文化一事例2 滋賀県長浜市高月町の暮らし
- 第4回 まちづくりと文化一事例3 熊本県宇城市歴史ある街並みをよみがえらせる
- 第5回 まちづくりと文化一事例4 鹿児島県鹿屋市「やねだん」のむらおこし
- 第6回 サントリー地域文化賞について ゲストスピーカーによるレクチャー
- 第7回 サントリー地域文化賞受賞団体の事例を学ぶ
- 第8回 企業とまちづくり一事例5 石見銀山生活文化研究所の取り組み
- 第9回 アートと地域再生一事例6 中山間地域の再生 越後妻有大地の芸術祭
- 第10回 アートと地域再生一事例7 離島の再生 直島・犬島のアートプロジェクト
- 第11回 アートと地域再生一事例8 瀬戸内国際芸術祭
- 第12回 アートと都市の再生一事例9 あいちトリエンナーレ
- 第13回 創造都市について
- 第14回 教育と芸術の関係
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

身近な街づくりの事例に関心を払い、できれば活動に参加してみる。

教科書

参考書

地域再生 行政に頼らないむらおこし

著者： 豊重哲郎

出版社： 出版企画あさんてーな

出版年： 2004

ISBN：

起業は山間から

著者： 森まゆみ

出版社： バジリコ株式会社

出版年： 2009

ISBN：

群言堂の根のある暮らし

著者： 松場登美

出版社： 家の光協会

出版年： 2009

ISBN：

持続可能なまちは小さく、美しい・上勝町の挑戦

著者： 笠松和市・佐藤由美

出版社： 学芸出版社

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（50）

参加度（50）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 測量実習

担当者 五十川 伸矢

テーマ

測量の基礎技術

獲得目標

土地の形状や大きさを計測するため、トラバースング、レベリング、平板測量などの実習を行い、測量の基礎を習得する。

授業の内容

測量の基礎理論と測量機器の取り扱い方を習得する。

内 容

- 第1回 ガイダンス(班分け方法、実習上の諸注意、レポートの書き方)
- 第2回 距離測量1(目測・歩測)
- 第3回 距離測量2(巻尺による測量、数値の取り扱い、有効数字)
- 第4回 レベル基本操作、スタジア測量(レベル、標尺(スタッフ)、スタジア、スタジア定数)
- 第5回 水準測量1(レベル、標尺(スタッフ)、閉合水準測量)
- 第6回 水準測量2(レベル、標尺(スタッフ)、往復水準測量)
- 第7回 平板測量1(平板、アリダード、骨組測量、標定、放射法、道線法)
- 第8回 平板測量2(平板、アリダード、細部測量)
- 第9回 セオドライト基本操作、測角(セオドライト、水平角、鉛直角)
- 第10回 トラバース測量(多角測量)1(単測法、倍角法)
- 第11回 トラバース測量(多角測量)2(トラバース、緯距・経距、閉合誤差)
- 第12回 地形測量1(平板測量法による)
- 第13回 地形測量2(地形図を描く)
- 第14回 写真測量
- 第15回 測量実習の総括

授業以外での学習方法

地図を作るという作業には、地形を見抜く目をもつことが必要です。地形を見て、どんな図ができるか、いつも考える癖をつけること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 都市デザイン論〈Z〉

担当者 織田 直文

テーマ

文化にこだわったまちづくりをデザインする

獲得目標

成熟した社会に達し、より文化的で個性的な地域空間、社会、経済創出の必要性が高まっている。この講義では、デザインをハード面、ソフト面の両面でもとらえる広い意味で用い、もっぱら文化政策とまちづくりの接点における課題と対策を見出すことができる力を養う。

授業の内容

下記に示すテキストと関連資料を用い、文化政策とまちづくりの接点領域における今日的な課題を解決していく手法を解説していく。また、それらのテーマ毎に学生自身の考えをまとめてもらいながら、課題発見、解決能力を高めていく。テーマによっては、外部講師による特別講義を考えている。

内 容

- 第1回 講義の進め方。「文化政策」と「臨地まちづくり」について。
- 第2回 空間単位、建築、都市計画について。
- 第3回 都市の中心市街地活性化策①。民間活力による市街地再生。
- 第4回 都市の中心市街地活性化策②。歴史的商店街の価値の創造。
- 第5回 まちづくりの溜まり場の意義と展望。
- 第6回 地域資源を活かした地域経済活性化策。
- 第7回 キャラクター活用によるまちづくり
- 第8回 コミュニティ・ビジネスのデザイン。コミュニティ・ビジネス企画案作成課題の提示
- 第9回 伝統産業と生産地の再生。
- 第10回 伝統的な祭り地域コミュニティ。
- 第11回 まちづくり型図書館・博物館等、文化施設。
- 第12回 協働型まちづくりとしての「産公民学際連携」まちづくり。
- 第13回 コミュニティ・ビジネス企画案の学生発表①。
- 第14回 コミュニティ・ビジネス企画案の学生発表②。
- 第15回 まとめ。

授業以外での学習方法

身近な地域でのまちづくりに関心を持つ。図書館や博物館等の文化施設をよく活用する。地域の祭りやイベントを体験してみる。

教科書

文化政策と臨地まちづくり

著者： 織田直文

出版社： 水曜社

出版年： 2009

ISBN： 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験（ ）

授業中課題（30）

参加度（50）

小テスト（10）

授業中発表等（10）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(都)〈A〉**

担当者 織田 直文

テーマ

プレゼンテーション力とフィールドワーク力を生かしてデザインする力を身につけよう。

獲得目標

基礎演習Ⅰでの学びを活かし、より魅力的で実効性ある事業の企画ができるデザイン力を高める。それらの基本となる知識獲得に通じる「私のお奨め専門書1冊」や京都のまちづくりの歴史学習を行い、討論を行うほか、まちづくりの先進事例調査(フィールドワーク)を実施し、臨床の知を深める。

授業の内容

事業企画の実践を学ぶため、事例研究や地域イベントにスタッフとして参加する。私のお奨め一冊で、順番に報告、討論する。京都のまちづくりの歴史学習を行い、討論を行うほか

内 容

- 第1回 授業の進め方および、地域イベントについての講義
 - 第2回 先進事例調査(フィールドワーク)
 - 第3回 先進事例調査(フィールドワーク)
 - 第4回 地域イベント企画への参加
 - 第5回 地域イベントへのスタッフ参加
 - 第6回 地域イベントへのスタッフ参加
 - 第7回 地域イベントへのスタッフ参加
 - 第8回 地域イベントの反省
 - 第9回 夏休みレポートの発表①
 - 第10回 夏休みレポートの発表②
 - 第11回 「私のお奨め専門書1冊」① + 京都のまちづくり史①
 - 第12回 「私のお奨め専門書1冊」② + 京都のまちづくり史②
 - 第13回 「私のお奨め専門書1冊」③ + 京都のまちづくり史③
 - 第14回 「私のお奨め専門書1冊」④ + 京都のまちづくり史④
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

自分が関心を抱くテーマに関する新聞、雑誌記事などのスクラップをする癖をつける。

教科書

京都千二年(下)

著者: 西川幸治・高橋徹

出版社: 草思社

出版年: 1997

ISBN: 4794208685

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(都)〈B〉**

担当者 金武 創

テーマ

アカデミックスキルとベーシックスキルの取得

獲得目標

研究テーマを絞る方法を身につける 自らの経験を通して、観察する／理解する／伝えるための言語力を伸ばす

授業の内容

内 容

- 第1回 夏休みレポートの再作業① 作業の反省
 - 第2回 夏休みレポートの再作業② 図書館でのさらなる文献探索
 - 第3回 夏休みレポートの再作業③ 5分間スピーチに向けて
 - 第4回 夏休みレポートの再作業④ レジユメの作成
 - 第5回 自分なりの研究テーマを考える1 視点を持つこと
 - 第6回 自分なりの研究テーマを考える2 視点を変える
 - 第7回 自分なりの研究テーマを考える3 逆演算
 - 第8回 自分なりの研究テーマを考える4 条件を変えてみる
 - 第9回 自分なりの研究テーマを考える5 要素と構造
 - 第10回 自分なりの研究テーマを考える6 自分の尺度を持つ
 - 第11回 自分なりの研究テーマを考える7 アナロジーを使う
 - 第12回 自分なりの研究テーマを考える8 伝える場合、伝えない場合
 - 第13回 自分なりの研究テーマを考える9 個で考えて集団で共有する
 - 第14回 もう一度レジユメを作ってみる
 - 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (100)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a50201ab52

学外授業を実施する場合も授業中課題を課します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(都)〈C〉**

担当者 杉山 泰

テーマ

小論文の作成と発表

獲得目標

・自分の意見の根拠となる証拠を集めることができるようになる。(図書館の利用)・自分の意見を論理建てて説明できるようになる。(「レジュメ」の書き方)・他人を説得するためのプレゼンテーションの基礎的技能を身につける(腹式呼吸の重要性、英語の発声と日本語の発声の違い、factとfeelingの違い)

授業の内容

「夏休みレポート」を元にした小論文を完成させることが「基礎演習Ⅱ」を通じた目標である。夏休みにレポートできるテーマを探し、それを「論文」にしていくことで、大学の4回生で完成させる「卒業論文」のミニ版を作ってもらおう。それを元にして、12月半ばの「インターゼミ」で発表を行なう。前期2冊のテキストの読了を義務付ける。

内 容

- 第1回 夏休みを振り返る。(夏休みの思い出を語り、夏休みレポートを提出)
- 第2回 各自のテーマを10分で発表してもらおう。(「レジュメ」の作成)
- 第3回 前期に学んだ「スローライフ」の生き方と「脱原発社会」の生き方を討論する。
- 第4回 大学の文化政策ともいえるべき「橘祭」をどうしたら、活性化できるのか。ゼミとしてユニークな「店」を出す。(店舗の設計、看板、前売り券のデザイン)
- 第5回 「橘祭」の計画と実践。(いかにマネージメントをしっかりとするか)
- 第6回 発表。(「発表のチェックリスト」の提出)
- 第7回 発表。(「発表のチェックリスト」の提出)
- 第8回 発表。(「発表のチェックリスト」の提出)
- 第9回 プレゼンテーションのテクニック。(パワーポイントの利用、英語的発声)
- 第10回 各自10分間の「レジュメ」の作成。
- 第11回 各自40部ほどの「レジュメA4」を2枚でまとめ完成させる。
- 第12回 インターゼミナルの反省。
- 第13回 「夏休みレポート」の「論文」完成。
- 第14回 「夏休みレポート」の「論文」の「文献一覧」作成。
- 第15回 1年間のまとめ。

授業以外での学習方法

「夏休みレポート」が最重要課題となる。地元に戻ったとき、「わがまちにある近代建築、古建築、文化財」、さらには「博物館」「美術館」などに興味をもってほしい。また、観光地として成功しているのであれば、その「事実」「観光客の数」「外国人の数」「経済効果」などを調べておきたい。寺社仏閣を訪れたときも、「外国語のパンフレット」をください、たとえば、「パンフレット」の比較もできる。10月の「山科駅前陶灯路」(清水焼団地の陶器とロウソクの灯とのコラボ)への参加、秋の「時代祭」(10月22日)への積極的参加を期待する。

教科書

前期の教科書

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

湯布院の小さな奇跡

著者: 木谷文弘

出版社: 新潮社新書

出版年: 2004年

ISBN:

世界が賞賛した日本の町の秘密

著者： チェスター・リーブス

出版社： 洋泉社新書

出版年： 2011年

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(都)〈D〉**

担当者 五十川 伸矢

テーマ

テーマを設定して小論文を作成し、発表する力を身につける

獲得目標

①基礎レポートをもとにして、短い小論文を作成するための技術を獲得する。②各種の新書を読んで、研究課題に対する様々な考え方を学ぶ能力を修得する。③パワーポイントなどのプレゼンテーション能力を獲得する。

授業の内容

基礎レポート(夏休みレポート)をもとにして、発展させた小論文を作成し、発表をおこなう。

内 容

- 第1回 夏休みに学んだことを話し合う
 - 第2回 基礎レポートの発表①
 - 第3回 基礎レポートの発表②
 - 第4回 基礎レポートの発表③
 - 第5回 基礎レポートの発表④
 - 第6回 基礎レポートの発表⑤
 - 第7回 プレゼンテーションの方法の説明
 - 第8回 パワーポイントの作成練習
 - 第9回 プレゼンテーションの練習①
 - 第10回 プレゼンテーションの練習②
 - 第11回 プレゼンテーションの練習③
 - 第12回 プレゼンテーションの練習④
 - 第13回 インターゼミ発表直前対策
 - 第14回 インターゼミの反省
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

毎日、新聞を読み、テレビニュースを見るという習慣をつけ、時事的で社会的な問題に関心をもって接すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(都)〈E〉**

担当者 木下 達文

テーマ

現代マネジメントを総合的に考える ～大学における研究と実践(プロジェクト)の実際を学ぶ～

獲得目標

本演習では、今後の専門演習に向け大学における研究と実践の基礎としての 課題設定、情報(文献)収集、レポート・原稿の書き方、調査(フィールドワーク)の方法など、基礎的な方法論と同時に、クラスで一つの事業実践を企画し、その事業テーマについて、理論と事例をまなびつつ、実践を行いながら、身をもって現代ビジネスのあり方を応用的に身につけるとともに、全体的には、企画力、表現力、行動力、コミュニケーション力の基礎を高めることを目的とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標・自他理解)
 - 第2回 夏休みレポートの報告1
 - 第3回 夏休みレポートの報告2
 - 第4回 夏休みレポートの報告3
 - 第5回 プロジェクト企画に関する基礎研究の検討
 - 第6回 プロジェクト企画に関する理論研究の発表1
 - 第7回 プロジェクト企画に関する理論研究の発表2
 - 第8回 プロジェクト企画に関する事例研究の発表1
 - 第9回 プロジェクト企画に関する事例研究の発表2
 - 第10回 プロジェクト企画に関する事業計画
 - 第11回 プロジェクト企画に関する事業設計
 - 第12回 プロジェクト企画に関する事業準備
 - 第13回 プロジェクト企画に関する事業実践1
 - 第14回 プロジェクト企画に関する事業実践2
 - 第15回 プロジェクト企画に関する事業評価(エヴァリエーション活動) ※演習の内容によって多少変更をする場合もある。
-

授業以外での学習方法

メールグループやメーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導も合わせて行う予定である。また、ゼミ会も行います。現代マネジメントでは、身の回りの出来事を観察することが大切です。研究と実践に繋がる事象をこまめに観察したり、可能な範囲で体験できることはしてみましょう。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a50201ab55

特に出席を重視する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(都)〈F〉**

担当者 上原 恵美

テーマ

テーマを設定して、小論文を作成し、発表する能力を身につける

獲得目標

①夏休みレポートを基礎にして小論文を作成し、レジュメを作り、発表する。②社会的問題に関心を持ち、課題設定する力を養う。

授業の内容

夏休みレポートをもとにして、小論文を作成し、発表する。前期に引き続き、ゼミ冒頭で前の週のニュースについて全員が発表する。学外授業を行うこともあり、その場合には下記の日程を調整する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(獲得目標、ゼミの進め方) 夏休みレポートの提出とテーマ報告、
 - 第2回 レジュメの作成とプレゼンテーションの技法
 - 第3回 夏休みレポートのレジュメによる発表①
 - 第4回 夏休みレポートのレジュメによる発表②
 - 第5回 夏休みレポートのレジュメによる発表③
 - 第6回 夏休みレポートのレジュメによる発表④
 - 第7回 図書館でさらに文献を探索する
 - 第8回 論理的な文章の構成を学ぶ
 - 第9回 プレゼンテーションの実践①
 - 第10回 プレゼンテーションの実践②
 - 第11回 プレゼンテーションの実践③
 - 第12回 プレゼンテーションの実践④
 - 第13回 インターゼミナルの反省
 - 第14回 小論文の作成と発表
 - 第15回 小論文の作成と発表
-

授業以外での学習方法

毎日、新聞を読み、テレビのニュースを見るという習慣をつける。ゼミでの発表のため新聞記事をスクラップしたり、メモを取る。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅱ(都)〈G〉**

担当者 小森 治夫

テーマ

小論文とレジюмеを作成し、プレゼンテーションをする

獲得目標

自分の意見を論理だてて展開した小論文とそのレジюмеを作成するとともに、人を説得するためのプレゼンテーションの技法を身につける

授業の内容

インターゼミナールを目指して、以下の内容について実践する

内 容

- 第1回 夏休みレポートの提出とテーマ報告
 - 第2回 レジюмеの作成とプレゼンテーションの技法
 - 第3回 夏休みレポートの発表(1)
 - 第4回 夏休みレポートの発表(2)
 - 第5回 夏休みレポートの発表(3)
 - 第6回 夏休みレポートの発表(4)
 - 第7回 夏休みレポートの発表(5)
 - 第8回 プレゼンテーションの実践(1)
 - 第9回 プレゼンテーションの実践(2)
 - 第10回 プレゼンテーションの実践(3)
 - 第11回 プレゼンテーションの実践(4)
 - 第12回 プレゼンテーションの実践(5)
 - 第13回 プレゼンテーションの実践(6)
 - 第14回 インターゼミナールの反省
 - 第15回 1年を振り返って
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など)

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅱ <a>**

担当者 西山 紀子

テーマ

建築・インテリアの基礎を習得する。

獲得目標

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中で段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス(1)
- 第2回 ガイダンス(2)
- 第3回 インテリア・パースの練習1、一点透視図(1)
- 第4回 インテリア・パースの練習1、一点透視図(2)
- 第5回 インテリア・パースの練習2、二点透視図1(1)
- 第6回 インテリア・パースの練習2、二点透視図1(2)
- 第7回 インテリア・パースの練習3、二点透視図2(1)
- 第8回 インテリア・パースの練習3、二点透視図2(2)
- 第9回 アクソメトリック図の作成1(1)
- 第10回 アクソメトリック図の作成1(2)
- 第11回 アクソメトリック図の作成2(1)
- 第12回 アクソメトリック図の作成2(2)
- 第13回 講評(1)
- 第14回 講評(2)
- 第15回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(1)
- 第16回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(2)
- 第17回 戸建て住宅の設計2、エスキース(1)
- 第18回 戸建て住宅の設計2、エスキース(2)
- 第19回 戸建て住宅の設計3、平面図の作成(1)
- 第20回 戸建て住宅の設計3、平面図の作成(2)
- 第21回 戸建て住宅の設計4、立面図の作成(1)
- 第22回 戸建て住宅の設計4、立面図の作成(2)
- 第23回 戸建て住宅の設計5、断面図の作成(1)
- 第24回 戸建て住宅の設計5、断面図の作成(2)
- 第25回 戸建て住宅の設計6、模型(1)
- 第26回 戸建て住宅の設計6、模型(2)
- 第27回 戸建て住宅の設計7、模型(1)
- 第28回 戸建て住宅の設計7、模型(2)
- 第29回 講評とまとめ(1)
- 第30回 講評とまとめ(2)

授業以外での学習方法

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

a50201d350

教科書

初学者の建築講座 建築製図第3版

著者： 瀬川康秀

出版社： 市ヶ谷出版社

出版年： 2008

ISBN: 9.78487E+11

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅱ **

担当者 富澤 実

テーマ

建築・インテリアの基礎を習得する。

獲得目標

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中で段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス(1)
- 第2回 ガイダンス(2)
- 第3回 インテリア・パースの練習1、一点透視図(1)
- 第4回 インテリア・パースの練習1、一点透視図(2)
- 第5回 インテリア・パースの練習2、二点透視図1(1)
- 第6回 インテリア・パースの練習2、二点透視図1(2)
- 第7回 インテリア・パースの練習3、二点透視図2(1)
- 第8回 インテリア・パースの練習3、二点透視図2(2)
- 第9回 アクソメトリック図の作成1(1)
- 第10回 アクソメトリック図の作成1(2)
- 第11回 アクソメトリック図の作成2(1)
- 第12回 アクソメトリック図の作成2(2)
- 第13回 講評(1)
- 第14回 講評(2)
- 第15回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(1)
- 第16回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(2)
- 第17回 戸建て住宅の設計2、エスキース(1)
- 第18回 戸建て住宅の設計2、エスキース(2)
- 第19回 戸建て住宅の設計3、平面図の作成(1)
- 第20回 戸建て住宅の設計3、平面図の作成(2)
- 第21回 戸建て住宅の設計4、立面図の作成(1)
- 第22回 戸建て住宅の設計4、立面図の作成(2)
- 第23回 戸建て住宅の設計5、断面図の作成(1)
- 第24回 戸建て住宅の設計5、断面図の作成(2)
- 第25回 戸建て住宅の設計6、模型(1)
- 第26回 戸建て住宅の設計6、模型(2)
- 第27回 戸建て住宅の設計7、模型(1)
- 第28回 戸建て住宅の設計7、模型(2)
- 第29回 講評とまとめ(1)
- 第30回 講評とまとめ(2)

授業以外での学習方法

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

教科書

初学者の建築講座 建築製図第3版

著者： 瀬川康秀

出版社： 市ヶ谷出版社

出版年： 2008

ISBN: 9.78487E+11

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅱ <c>**

担当者 福田 浩明

テーマ

建築・インテリアの基礎を習得する。

獲得目標

建築・インテリアの基礎を習得するため、図面と模型の制作を行う。前半にインテリアの基礎として、一点透視図、二点透視図、アクソメトリック図や家具図などの描き方を練習する。後半には一般的な戸建て住宅の設計を行い、講評を実施する。設計の途中で段階で模型を制作し、空間と機能についてさまざまな角度から検討する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス(1)
 - 第2回 ガイダンス(2)
 - 第3回 インテリア・パースの練習1、一点透視図(1)
 - 第4回 インテリア・パースの練習1、一点透視図(2)
 - 第5回 インテリア・パースの練習2、二点透視図1(1)
 - 第6回 インテリア・パースの練習2、二点透視図1(2)
 - 第7回 インテリア・パースの練習3、二点透視図2(1)
 - 第8回 インテリア・パースの練習3、二点透視図2(2)
 - 第9回 アクソメトリック図の作成1(1)
 - 第10回 アクソメトリック図の作成1(2)
 - 第11回 アクソメトリック図の作成2(1)
 - 第12回 アクソメトリック図の作成2(2)
 - 第13回 講評(1)
 - 第14回 講評(2)
 - 第15回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(1)
 - 第16回 戸建て住宅の設計1、課題趣旨説明、エスキース(2)
 - 第17回 戸建て住宅の設計2、エスキース(1)
 - 第18回 戸建て住宅の設計2、エスキース(2)
 - 第19回 戸建て住宅の設計3、平面図の作成(1)
 - 第20回 戸建て住宅の設計3、平面図の作成(2)
 - 第21回 戸建て住宅の設計4、立面図の作成(1)
 - 第22回 戸建て住宅の設計4、立面図の作成(2)
 - 第23回 戸建て住宅の設計5、断面図の作成(1)
 - 第24回 戸建て住宅の設計5、断面図の作成(2)
 - 第25回 戸建て住宅の設計6、模型(1)
 - 第26回 戸建て住宅の設計6、模型(2)
 - 第27回 戸建て住宅の設計7、模型(1)
 - 第28回 戸建て住宅の設計7、模型(2)
 - 第29回 講評とまとめ(1)
 - 第30回 講評とまとめ(2)
-

授業以外での学習方法

日常生活においても空間に対する関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

教科書

初学者の建築講座 建築製図第3版

著者： 瀬川康秀

出版社： 市ヶ谷出版社

出版年： 2008

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 CAD演習 I

担当者 杉本 雅子

テーマ

JW-CADによる建築製図

獲得目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CAD の基本的な操作方法について学ぶ。

授業の内容

建築業界で最も代表的なCADソフトの一つであるJW-CADを習得する。基本操作を学習後、実際の建築図面を一通り作成することにより、CADにより建築製図の基礎をマスターする。

内 容

- 第1回 CAD ソフトについて
 - 第2回 CAD 製図の基礎とオブジェクトの操作
 - 第3回 平面図の作図
 - 第4回 "
 - 第5回 "
 - 第6回 "
 - 第7回 家具、窓等の作図
 - 第8回 課題の作図、提出
 - 第9回 立面図の作図
 - 第10回 "
 - 第11回 "
 - 第12回 断面図の作図
 - 第13回 "
 - 第14回 敷地図の作図、レイアウト
 - 第15回 図面の設定、印刷、総括
-

授業以外での学習方法

建築、インテリアの専門書に目を通し、建築作品展に足を運ぶことにより、図面の表現技法を自身の目で学ぶこと

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **構造力学 I**

担当者 山本 康彦

テーマ

構造物に働く力について、基本的な知識を習得する。

獲得目標

力に関する基本的な知識を学び、構造物について詳しく理解する。力学で使われる用語の解説から、構造物に生じる反力と応力の求め方、構造物の判別、静定構造物の弾性解析、断面の性質などについて練習問題を通して具体的に理解を深める。

授業の内容

テキストに沿って講義を進めながら、プリント類を使って理解度を確認する。

内 容

- 第1回 構造力学について
 - 第2回 力のつり合い
 - 第3回 外力と内力のつりあい
 - 第4回 構造物の分類とモデル化
 - 第5回 構造部材に生じる応力と応力図
 - 第6回 静定骨組みの応力計算1 片持ちはり
 - 第7回 静定骨組みの応力計算2 単純はり
 - 第8回 断面の性質1
 - 第9回 断面の性質2
 - 第10回 静定ラーメンの応力計算1 片持はり型ラーメン
 - 第11回 静定ラーメンの応力計算2、単純はり型ラーメン
 - 第12回 静定ラーメンの応力計算3、3ヒンジラーメン
 - 第13回 静定トラスの解析1、節点法
 - 第14回 静定トラスの解析2、切断法
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

構造物について、どのような力が作用しているかを、常にイメージする。

教科書

図説 やさしい構造力学

著者： 浅野清昭

出版社：(株)学芸出版社

出版年：2011年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 インテリアエレメント

担当者 西山 紀子

テーマ

インテリア空間を構成する要素についての基礎的知識を身に付ける。

獲得目標

インテリアにおいて、構造から仕上げに至るまでの基本的な知識を修得する。規格や性質等を含め、さまざまなインテリアエレメントについて学ぶ。構成要素・素材の総合的な知識を身に付け、材料・空間・生活の相互関連メカニズムを論じる。また、ユニバーサルデザイン、サステイナブルデザインにも言及する。

授業の内容

内 容

- 第1回 インテリアエレメント・マテリアル概論
- 第2回 文化としての生活・建築・環境づくり: インテリア空間の基本的構成エレメント 1
- 第3回 文化としての生活・建築・環境づくり: インテリア空間の基本的構成エレメント 2
- 第4回 要素と構成: 要素から室内空間へ1……(エレメント-1)
- 第5回 要素と構成: 要素から室内空間へ2……(エレメント-2)
- 第6回 重要要素の種類と性格……(エレメント-3)
- 第7回 内外環境計画の現場を知る【学外研修】: エレメントとマテリアルへの注目
- 第8回 空間構成と計画……(エレメントとマテリアル-1)
- 第9回 空間構成と表現……(エレメントとマテリアル-2)
- 第10回 要素と構築-1: 石と壁組から……(マテリアル-1)
- 第11回 要素と構築-2: 木と軸組から……(マテリアル-2)
- 第12回 重要材の種類と性質……(マテリアル-3)
- 第13回 エレメントとマテリアルによる統合-1: ユニバーサルデザイン
- 第14回 エレメントとマテリアルによる統合-2: サステイナブルデザイン
- 第15回 総括

授業以外での学習方法

日常生活においても家具やカーテン、カーペット、照明器具等身の回りにあるエレメントに関心を持ち、広く情報を得るように心掛けること。

教科書

図解テキスト インテリアデザイン

著者: 小宮容一、加藤力、片山勢津子、塚口真佐子、ペリー史子、西山紀子

出版社: 井上書院

出版年: 2009

ISBN: 9.78475E+12

参考書

必要に応じて指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a50201d850

試験 (70)
授業中課題 ()
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **観光資源論Ⅱ**

担当者 谷口 知司

テーマ

海外観光地理を学ぶ。

獲得目標

海外の観光地理を学び、それぞれの地域の観光資源(自然、人文、複合)についての知識を得ることを目的とする。

授業の内容

テキストを中心に授業を進めるが、毎回小テストを課す。

内 容

- 第1回 導入およびアジア①
 - 第2回 アジア②
 - 第3回 アジア③
 - 第4回 ヨーロッパ①
 - 第5回 ヨーロッパ②
 - 第6回 ヨーロッパ③
 - 第7回 南北アメリカ①
 - 第8回 南北アメリカ②
 - 第9回 南北アメリカ③
 - 第10回 オセアニア、太平洋の島々①
 - 第11回 オセアニア、太平洋の島々②
 - 第12回 オセアニア、太平洋の島々②
 - 第13回 中東、アフリカ①
 - 第14回 中東、アフリカ②
 - 第15回 中東、アフリカ③およびまとめ
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを課し、その成績評価でのウエイトが高いため、自宅学習は必ず必要です。

教科書

すぐに役立つ 海外旅行地理ベーシック 400

著者: JTB能力開発

出版社:

出版年: 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (0)

参加度 (10)

小テスト (60)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **観光文化論**

担当者 金武 創

テーマ

観光学の基本的理解(主として観光文化の視点から)

獲得目標

観光学の基礎を学び理解すること 観光現象における文化と経済の緊張関係を考えること 地域の主体的自立を自分の問題として考えること

授業の内容

グループワークと文献購読あるいはツーリズム・コンテンツを組み合わせたPBL型授業を行う。

内 容

- 第1回 観光学の基礎1
 - 第2回 観光学の基礎2
 - 第3回 観光学の基礎3
 - 第4回 国内事例と観光文化1 新潟
 - 第5回 国内事例と観光文化2 高崎
 - 第6回 国内事例と観光文化3 能登
 - 第7回 国内事例と観光文化4 佐渡
 - 第8回 国内事例と観光文化5 尾鷲
 - 第9回 国内事例と観光文化6 那須高原
 - 第10回 国内事例と観光文化7 白川郷
 - 第11回 文化遺産観光
 - 第12回 アニメ・マンガ・ゲーム観光
 - 第13回 ボランティア観光
 - 第14回 エコツーリズム
 - 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。
-

授業以外での学習方法

毎回提出物あり

教科書

参考書

観光経験の人類学

著者: 橋本和也

出版社: 世界思想社

出版年: 2011

ISBN:

観光文化学

著者: 山下晋司

出版社: 新陽社

出版年: 2007

ISBN:

ふるさと資源化と民俗学

著者： 岩本通弥編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2007

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化プロデュース入門Ⅱ

担当者 上原 恵美

テーマ

まちづくり、地域振興と文化芸術のかかわりについて理解を深め、文化をプロデュースすることの意味をまなぶ。

獲得目標

まちづくり、地域振興の事例を見ることによって、地域振興とは何か、芸術や文化がどのようにかかわるのか、さらに文化プロデュースとは何か、どのような役割を果たしているかということを考察する。

授業の内容

様々な事例を見て、それに対する感想をまとめながら、授業の目的に掲げた獲得目標を達成する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション この授業で使う「文化」「芸術」の定義
 - 第2回 まちと文化一事例1 滋賀県高島市川端のある暮らし
 - 第3回 まちと文化一事例2 滋賀県長浜市高月町の暮らし
 - 第4回 まちづくりと文化一事例3 熊本県宇城市歴史ある街並みをよみがえらせる
 - 第5回 まちづくりと文化一事例4 鹿児島県鹿屋市「やねだん」のむらおこし
 - 第6回 サントリー地域文化賞について ゲストスピーカーによるレクチャー
 - 第7回 サントリー地域文化賞受賞団体の事例を学ぶ
 - 第8回 企業とまちづくり一事例5 石見銀山生活文化研究所の取り組み
 - 第9回 アートと地域再生一事例6 中山間地域の再生 越後妻有大地の芸術祭
 - 第10回 アートと地域再生一事例7 離島の再生 直島・犬島のアートプロジェクト
 - 第11回 アートと地域再生一事例8 瀬戸内国際芸術祭
 - 第12回 アートと都市の再生一事例9 あいちトリエンナーレ
 - 第13回 創造都市について
 - 第14回 教育と芸術の関係
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

身近な街づくりの事例に関心を払い、できれば活動に参加してみる。

教科書

参考書

地域再生 行政に頼らないむらおこし

著者： 豊重哲郎

出版社： 出版企画あさんてーな

出版年： 2004

ISBN：

起業は山間から

著者： 森まゆみ

出版社： バジリコ株式会社

出版年： 2009

ISBN：

群言堂の根のある暮らし

著者： 松場登美

出版社： 家の光協会

出版年： 2009

ISBN：

持続可能なまちは小さく、美しい・上勝町の挑戦

著者： 笠松和市・佐藤由美

出版社： 学芸出版社

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（50）

参加度（50）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築材料**

担当者 河野 良平

テーマ

獲得目標

建築に用いられる主な材料の基本的な性質について理解する。木材、コンクリート、鉄といった構造材と木質系材料、石、ガラス、金属、プラスチック、各種ボード類、左官材、塗料などの仕上材について材料ごとに特徴、施工法や注意点などサンプルや事例を示しながら具体的に説明していく。また、コンクリート製造工場にて供試体の作成や圧縮試験の見学を行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 木(1)種類と性質
 - 第3回 木(2)木の使われ方
 - 第4回 木(3)木質系材料
 - 第5回 鉄筋コンクリート(1)材料、製法と性質など
 - 第6回 鉄筋コンクリート(2)調合と試験、セメントの種類など
 - 第7回 鉄筋コンクリート(3)施工と維持管理など
 - 第8回 鉄筋コンクリート(4)様々なコンクリート(PC、ALC、SRC とCB など)
 - 第9回 金属材料(1)鉄の性質、鉄骨造など
 - 第10回 金属材料(2)ステンレス・アルミ・銅など
 - 第11回 仕上材(1)石材・タイル
 - 第12回 仕上材(2)ガラス・プラスチック・ボード類
 - 第13回 仕上材(3)ビニール系材料・左官材・塗料・断熱・防水材など
 - 第14回 コンクリート材料実験 供試体の作成、空気量の測定など
 - 第15回 コンクリート材料実験 圧縮試験、施設見学など
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅱ <Za>

担当者 中山 大介

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

獲得目標

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 2次元CADの基本操作 復習
 - 第2回 3次元CADの基本操作(1)
 - 第3回 3次元CADの基本操作(2)
 - 第4回 3次元CADの基本操作(3)
 - 第5回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする
 - 第6回 //
 - 第7回 //
 - 第8回 講評
 - 第9回 3次元CADの応用
 - 第10回 演習2:いのりの空間をデザインする
 - 第11回 //
 - 第12回 演習2-2:いのりの空間内を移動する
 - 第13回 //
 - 第14回 //
 - 第15回 講評
-

授業以外での学習方法

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック

出版年: 2010

ISBN: 9.78488E+12

参考書

初学者の建築講座

著者: 瀬川康秀

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2011

ISBN: 9.78487E+12

成績評価

a502023950

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅱ <Zb>

担当者 松本 正富

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

獲得目標

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 2次元CADの基本操作 復習
 - 第2回 3次元CADの基本操作(1)
 - 第3回 3次元CADの基本操作(2)
 - 第4回 3次元CADの基本操作(3)
 - 第5回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする
 - 第6回 //
 - 第7回 //
 - 第8回 講評
 - 第9回 3次元CADの応用
 - 第10回 演習2:いのりの空間をデザインする
 - 第11回 //
 - 第12回 演習2-2:いのりの空間内を移動する
 - 第13回 //
 - 第14回 //
 - 第15回 講評
-

授業以外での学習方法

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック

出版年: 2010

ISBN: 9.78488E+12

参考書

初学者の建築講座

著者: 瀬川康秀

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2011

ISBN: 9.78487E+12

成績評価

a502023952

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化産業論 <Z>

担当者 谷口 知司

テーマ

観光ビジネスの全体像を知る。

獲得目標

さまざまな観光ビジネスの現況と、それらが社会の情報化の中でどのように変容してきたかについて理解する。

授業の内容

観光学総論で概観した観光ビジネスについて、学生自らが問題意識を持ち、調査分析を行う。授業タイトルは「論」であるが、教師が一方向的に論じる形の授業は行わない。演習のつもりで受講してほしい。

内 容

- 第1回 観光ビジネスとは(観光学総論の復習)①
 - 第2回 観光ビジネスとは(観光学総論の復習)②
 - 第3回 旅行業の観光ビジネス①
 - 第4回 旅行業の観光ビジネス②
 - 第5回 鉄道会社と観光ビジネス①
 - 第6回 鉄道会社と観光ビジネス②
 - 第7回 航空産業と観光ビジネス①
 - 第8回 航空産業と観光ビジネス②
 - 第9回 ホテル・旅館業と観光ビジネス①
 - 第10回 ホテル・旅館業と観光ビジネス②
 - 第11回 土産品と観光ビジネス①
 - 第12回 土産品と観光ビジネス②
 - 第13回 ニューツーリズムと観光ビジネス①
 - 第14回 ニューツーリズムと観光ビジネス②
 - 第15回 その他の観光ビジネス
-

授業以外での学習方法

さまざまな調査・文献研究を授業外で要求する。それらは基本的にレポートとして提出する。

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN： 9.78462E+12

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 イベントプランニング研究 <Z>

担当者 杉山 準

テーマ

劇場および舞台芸術の社会的意義を考える

獲得目標

劇場や舞台芸術を題材に、それに関わるフタッフの仕事や事業の目的、使命などを理解することで、劇場や舞台芸術の社会的意義を考えるとともに、舞台芸術だけでなく、広く文化や芸術の社会の中でのありようを考える。

授業の内容

講義に加えて学外で現場を実際に見たり、体験する。自分で考えることを大切にする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(評価方法、授業のねらいについての説明)および、事業を企画することについて考える。
- 第2回 事業(イベント)を企画する、意図や目的について考える
- 第3回 事業目的からの視点で、事業(イベント)を考察する1
- 第4回 事業目的からの視点で、事業(イベント)を考察する2
- 第5回 文化・芸術による地域のまちづくりの事例紹介と、その可能性について考える
- 第6回 文化・芸術による地域のまちづくりが行なわれている、現場を見て考察する(学外授業) *催しの開催時期に合わせるため、日程が異なる場合があります。
- 第7回 劇場の機構と劇場で働くスタッフの仕事について
- 第8回 創作の現場で働くスタッフの仕事について
- 第9回 プロデューサー、制作スタッフの仕事について
- 第10回 劇場の使命と役割について
- 第11回 上演作品を見て考察する(学外授業) *催しの開催時期に合わせるため、日程が異なる場合があります。
- 第12回 地域における文化政策や文化振興の現状について
- 第13回 文化行政と劇場(文化イベント)との関わりについて
- 第14回 地域における文化振興の課題と展望について
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

非営利で行なわれているイベント現場へ足を運んだり、スタッフやメンバーとして関与し、その事業の社会的意義を考えてみることを期待する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a502025850

授業中の課題や学外授業の出席、およびそれに関わるレポートを評価の上で重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **アーツ演習Ⅱ〈Z〉**

担当者 岡村 宏懇

テーマ

お芝居をやってみよう～劇の発表～

獲得目標

演劇は人と人とのふれあいの中でしか創ることのできないアナログな表現芸術です。みんなでひとつの劇を創る協働作業の中で、自分を表現し、相手の表現を受け止めるコミュニケーション・スキルの向上をめざします。(伝わらない…)と嘆くのではなく、どうすれば相手に伝えることができるのかを考えるのが『演劇』です。表現は、人前で「発表」して初めて完成されることを皆で体験しましょう。(※履修にあたって演劇経験の有無は関係ありません)

授業の内容

声優の魅力的な「声」の演技も、実は舞台俳優の演技術が基礎になっています。劇づくりの実習をとおして「ライブな表現」について体験的に考察し、舞台芸術である『演劇』についての基礎的な理解を深めたい。声優の演技についても解説する。(※履修人数によっては、他の舞台芸術である朗読公演や紙芝居、落語などに変更されることがあります。)

内 容

- 第1回 ガイダンス。(舞台用語など、演劇についての基礎知識を学ぶ。)
- 第2回 演技ワークショップ①(ライブな表現の特性について、理解を深める。)
- 第3回 演技ワークショップ②(発声、滑舌の練習)
- 第4回 演劇鑑賞 (演劇作品を視聴して、お芝居の具体的なイメージを持つ)
- 第5回 台本を読む①(戯曲の読み方について)
- 第6回 台本を読む②(いろいろな戯曲を読んでみる)
- 第7回 発表台本の選定。
- 第8回 テーブル稽古①(キャスト、スタッフの決定。発表台本の読み稽古)
- 第9回 テーブル稽古②(台本を読みながら、ストーリー全体や自分の「役」についての具体的なイメージを深める)
- 第10回 立ち稽古①(せりふを覚え、実際に演じてみる)
- 第11回 立ち稽古②(「役づくり」を具体化する)
- 第12回 立ち稽古③(相手役との“対話”がドラマをつくってゆくことを学ぶ)
- 第13回 立ち稽古④(「役」を演じ、役になりきることを通して、自分でも知らなかったまだ見ぬ(新しい自分)に出会いたい)
- 第14回 ゲネプロ。(本番衣装、メイクをしてのリハーサル)
- 第15回 発表。(本番)

授業以外での学習方法

セリフを覚えてくること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (10)

参加度 (70)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化施設総論 <Z>

担当者 上原 恵美

テーマ

総合芸術オペラについて理解を深め、オペラのプロデュースについて学ぶ

獲得目標

総合芸術と呼ばれるオペラは、声楽、オーケストラ、演劇、ダンス・バレエ、舞台美術、衣裳デザインなど多くの要素を有している。オペラの制作を学ぶことは同時にこれらの要素についての理解を深めることにつながる。この授業では、オペラについて理解を深めたうえで、「劇場の建築様式」「制作過程」「舞台制作」「制作スタッフの仕事」などについて学び、舞台プロデュースについて理解を深める。

授業の内容

2014年2月9日、11日にびわ湖ホールで制作上演されるオペラ「ホフマン物語」を鑑賞することに照準を合わせ、様々な側面からオペラ、オペラ制作について学ぶ。子のびわ湖ホールでのオペラ鑑賞は必須であり、この授業を取る条件となる。なお、ゲストの都合で日程が変更になることもある。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 オペラの歴史(1)
- 第3回 オペラの歴史(2)
- 第4回 オペラ劇場の建築的構造
- 第5回 オペラの音楽的構造
- 第6回 歌手とオペラ
- 第7回 オペラと演出
- 第8回 代表的なオペラ作品について(1)
- 第9回 代表的なオペラ作品について(2)
- 第10回 オペラのタイトルロールの変遷
- 第11回 びわ湖ホールから制作担当者をゲストに迎えて
- 第12回 びわ湖ホールから舞台制作担当者をゲストに迎えて
- 第13回 授業内で学んだことについてまとめる
- 第14回 オペラ鑑賞の事前学習
- 第15回 びわ湖ホールでオペラ「ホフマン物語」を鑑賞する

授業以外での学習方法

劇場、DVD、テレビなどでできるだけ多くのオペラ作品に接すること。

教科書

びわ湖ホールオペラをつくる 創造し発信する劇場

著者： 上原恵美ほか

出版社： 新評論

出版年： 2007

ISBN:

参考書

オペラと音響デザイナー

著者： 小野隆浩

出版社： 新評論

出版年： 2010

ISBN:

劇場空間への誘い

著者： 日本建築学会編

出版社： 鹿島出版社

出版年： 2010

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 展示学〈Z〉

担当者 木下 達文

テーマ

展示メディアの理解と創造

獲得目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する(1月予定)。

授業の内容

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

内 容

- 第1回 展示メディアとは(展示の概念) 展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的・時間的特性について考える。
- 第2回 展示の種類(形態) 展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。
- 第3回 展示および展示論の歴史 展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。
- 第4回 展示の政治性と社会性 展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。
- 第5回 展示のプロセス(企画・設計・製作等) 展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。
- 第6回 展示の手法(展示技術) 展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。
- 第7回 展示と研究 展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する。
- 第8回 展示と運営 展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。
- 第9回 展示と解説 展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。
- 第10回 展示とその記録(図録、解説、資料等) とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。
- 第11回 特別講義 実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。
- 第12回 展示の企画実践 これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。
- 第13回 展示の製作実践 企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。
- 第14回 展示の運営実践 つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもと、展示評価の素材としていく。
- 第15回 展示の評価と改善・更新 展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック(評価)をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

授業以外での学習方法

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

教科書

授業内容に応じて適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年: 1996

ISBN:

イベント講座

著者: 日本イベント産業振興協会

出版社:

出版年: 2004

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習IV(都) <a>**

担当者 河野 良平

テーマ

建築やインテリアの見学

獲得目標

各班で見に行きたい建物を探す。班のメンバーでしっかりと打合せを行い、合理的でスムーズな見学計画をまとめ、見学を実施する。

授業の内容

3、4人1班で5班とし、各班一回ずつ見学計画を立てる。各班とも見学の予定表を作成し事前にゼミで報告する。日程・時間・場所・予算・見学する建物についての説明等について全員で確認する。見学後のゼミでは問題点や改善点について全員が意見を述べること。

内 容

- 第1回 ガイダンス、班決め
 - 第2回 1班計画発表、各班打合せ
 - 第3回 1班計画修正、2班計画発表
 - 第4回 見学1
 - 第5回 見学1
 - 第6回 2班計画修正、3班計画発表
 - 第7回 見学2
 - 第8回 見学2
 - 第9回 3班見学修正、4班計画発表
 - 第10回 見学3
 - 第11回 見学3
 - 第12回 4班計画修正、5班計画発表
 - 第13回 見学4
 - 第14回 5班計画修正、後期のまとめ
 - 第15回 見学5
-

授業以外での学習方法

普段から雑誌、専門書、建築の見学や展覧会などを通して、興味のある作家について積極的に情報や資料を収集すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅳ(都) **

担当者 谷口 知司

テーマ

観光文化、観光ビジネス、観光情報、文化資源の情報化

獲得目標

世界中で年間10億人近くの人々が観光目的で移動していると言われています。こうした現状から観光は、それを担う21世紀最大の産業と言われています。ゼミでは、「ビジネスとしての観光」と「文化現象としての観光」という2つの視点から観光を眺めることによって、観光を総合的に理解する力を身につけることを目標とします。特に基礎演習Ⅳ(後期)では、「文化現象としての観光」を中心に扱います。

授業の内容

課題発表は随時行う。

内 容

- 第1回 文化と何か？
 - 第2回 文化資源、文化財、文化遺産等と観光資源について1
 - 第3回 文化資源、文化財、文化遺産等と観光資源について2
 - 第4回 ニューツーリズムについて1 文化観光、グリーンツーリズム、エコツーリズム等
 - 第5回 ニューツーリズムについて2
 - 第6回 ニューツーリズムについて3
 - 第7回 京都まちなかアーカイブ事前研究1
 - 第8回 京都まちなかアーカイブ事前研究2
 - 第9回 京都まちなかアーカイブを行う。
 - 第10回 デジタル・アーカイブと観光資源の情報化1
 - 第11回 デジタル・アーカイブと観光資源の情報化2
 - 第12回 世界遺産現地調査事前研究1
 - 第13回 世界遺産現地調査事前研究2
 - 第14回 世界遺産現地調査事前研究3
 - 第15回 課題発表
-

授業以外での学習方法

海外の世界遺産の現地調査を行う。そのためのさまざまな準備等を授業外で行う。

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司編著

出版社：ミネルヴァ書房

出版年：2010年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習IV(都) <c>**

担当者 竹山 清明

テーマ

木造戸建て住宅の計画とデザイン

獲得目標

木造戸建て住宅の計画とデザインの基礎を学ぶ

授業の内容

設計の演習

内 容

- 第1回 設計課題の内容・意義について
 - 第2回 平面計画1
 - 第3回 平面計画2
 - 第4回 平面計画3
 - 第5回 平面計画4
 - 第6回 外部デザイン計画1
 - 第7回 外部デザイン計画2
 - 第8回 外部デザイン計画3
 - 第9回 外部デザイン計画4
 - 第10回 内部デザイン計画1
 - 第11回 内部デザイン計画2
 - 第12回 内部デザイン計画3
 - 第13回 サイトプランニング
 - 第14回 模型作成
 - 第15回 課題提出・講評
-

授業以外での学習方法

様々な住宅作品集の学習

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅳ(都) <d>**

担当者 上原 恵美

テーマ

文化芸術や文化施設の意義について学ぶ

獲得目標

①前期に引き続き、文化施設の意義とマネジメントの現状と課題をテーマに教科書や新聞記事などから問題点や解決策を把握する。②施設見学ののちにレポートを作成し発表することによって、レポート作成の方法や発表の仕方を学ぶ。③新聞記事を読む習慣をつける。

授業の内容

教科書や資料を読んで発表する。発表者以外は必ず質問や意見を述べる。新聞記事のスクラップ目次を毎月一回、提出し発表する。見学先については、相手先の都合によって日程が決まってくるので下記の日程を調整する場合がある。

内 容

- 第1回 夏休みの課題の提出と発表
- 第2回 同上
- 第3回 教科書(前川恒雄・石井敦「新版 図書館の発見」)第1章を読む
- 第4回 教科書 第2章を読む
- 第5回 教科書 第3章を読む
- 第6回 教科書 第4章を読む
- 第7回 教科書 第5章を読む
- 第8回 教科書 第6章第5節、6節を読む
- 第9回 教科書 第7章を読む
- 第10回 滋賀県立図書館を見学する
- 第11回 図書館見学についてのレポートを作成し、発表する
- 第12回 教科書(木下直之編「芸術の生まれる場」)第2章を読む
- 第13回 同上
- 第14回 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールを見学する
- 第15回 びわ湖ホール見学についてのレポートを提出し発表する。まとめ

授業以外での学習方法

新聞スクラップ目次を作る。図書館、音楽会や演劇、美術展覧会に足を運ぶ際、その運営について考察する。

教科書

新版 図書館の発見

著者: 前川恒雄・石井敦

出版社: NHKブックス

出版年: 2006

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅳ(都) <e>**

担当者 西山 紀子

テーマ

モダンデザインとインテリアコーディネートについて

獲得目標

インテリアコーディネートを通してインテリアデザインに対する理解を深め、客観的に分析・考察を行う力や、文章・図表にまとめる、言葉で話すなどの表現力を身につける。

授業の内容

基礎演習Ⅲで学んだことをもとに、モダンデザインを活用して各部位のデザイン、カラーコーディネーション、家具や照明器具などエレメントの選択を行い、インテリアコーディネートを考える。

内 容

- 第1回 インテリアスタイルについて
- 第2回 写真からインテリアスタイルを分析する。各自関心を持ったインテリアの写真を1枚持参し、それぞれについて討論を行い、インテリアスタイルを読み取り、要素を分析する。(感心したことや疑問に思ったこと、気付いたことなどその根拠を明らかにしたうえで発表し、意見交換を行う。)
- 第3回 写真からインテリアスタイルを分析する。各自関心を持ったインテリアの写真を1枚持参し、それぞれについて討論を行い、インテリアスタイルを読み取り、要素を分析する。(感心したことや疑問に思ったこと、気付いたことなどその根拠を明らかにしたうえで発表し、意見交換を行う。)
- 第4回 写真からインテリアスタイルを分析する。各自関心を持ったインテリアの写真を1枚持参し、それぞれについて討論を行い、インテリアスタイルを読み取り、要素を分析する。(感心したことや疑問に思ったこと、気付いたことなどその根拠を明らかにしたうえで発表し、意見交換を行う。)
- 第5回 各自が好むインテリアスタイルをもとにコンセプトを決め、シミュレーションソフトなどを用いてインテリアコーディネートを考える。
- 第6回 各自が好むインテリアスタイルをもとにコンセプトを決め、シミュレーションソフトなどを用いてインテリアコーディネートを考える。
- 第7回 各自が好むインテリアスタイルをもとにコンセプトを決め、シミュレーションソフトなどを用いてインテリアコーディネートを考える。
- 第8回 各自が好むインテリアスタイルをもとにコンセプトを決め、シミュレーションソフトなどを用いてインテリアコーディネートを考える。
- 第9回 各自が好むインテリアスタイルをもとにコンセプトを決め、シミュレーションソフトなどを用いてインテリアコーディネートを考える。
- 第10回 各自が好むインテリアスタイルをもとにコンセプトを決め、シミュレーションソフトなどを用いてインテリアコーディネートを考える。
- 第11回 各自が好むインテリアスタイルをもとにコンセプトを決め、シミュレーションソフトなどを用いてインテリアコーディネートを考える。
- 第12回 発表。発表では図面、スケッチ、写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫する。
- 第13回 発表。発表では図面、スケッチ、写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫する。
- 第14回 ショールーム等の見学
- 第15回 ショールーム等の見学

授業以外での学習方法

日常より身の回りのインテリアについて関心を持ち、感心したことや疑問に思ったこと、気付いたことなどをデータとして活用できるように記録、整理しておくこと。また建築・インテリア関連の図書や雑誌だけでなく、新聞を読む、テレビや映画を観る、講演会に参加するなど、広い視野を持って情報を得るように心がける。

教科書

必要に応じて指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅳ(都) <f>**

担当者 小森 治夫

テーマ

京都の観光について学ぶ

獲得目標

(1)わが国を代表する観光文化都市・京都の観光資源について学ぶとともに、今後の京都観光のあり方について考える (2)観光関連業界の仕事について学ぶ (3)全国の観光・まちづくりの優れた事例について学び、ふるさとの観光・まちづくりに貢献できる人材となることをめざす

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 京料理・京野菜(1)
 - 第3回 京料理・京野菜(2)
 - 第4回 時代祭・鞍馬の火祭
 - 第5回 錦市場
 - 第6回 京和菓子
 - 第7回 花街と舞妓・芸妓(1)
 - 第8回 花街と舞妓・芸妓(2)
 - 第9回 伝統産業(1)西陣織、友禅染
 - 第10回 伝統産業(2)京焼・清水焼
 - 第11回 旅行業界(1)
 - 第12回 旅行業界(2)
 - 第13回 ホテル業界
 - 第14回 航空業界
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

京都の寺社仏閣をはじめとする観光地を自らフィールドワークして、その現状と問題点を発見するとともに、その改善策について提案する

教科書

参考書

京都の「まち」の社会学

著者： 鯉坂学・小松秀雄編

出版社： 世界思想社

出版年： 2008年

ISBN:

観光京都研究叙説

著者： 杉野国明

出版社： 文理閣

出版年： 2007年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **基礎演習Ⅳ(都) <g>**

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメント入門(2)

獲得目標

アーツシーンを出来るだけ具体的に調査できるようになる。アーツの現場で仕事が少しでも出来き、参加した活動を自分の言葉で発表できる。文献をきちんと読み、レジュメづくりができる。

授業の内容

夏休みの体験が決め手になるので、授業開始前から準備すること。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 夏休みの体験報告1
 - 第3回 夏休みの体験報告2
 - 第4回 夏休みの体験報告3
 - 第5回 視覚芸術の特質
 - 第6回 美術を知ろう～ワークショップ体験～ 学外授業予定
 - 第7回 工芸を知ろう
 - 第8回 デザインを知ろう
 - 第9回 映画とは・・・非ハリウッド映画、ドキュメント映画
 - 第10回 文献レジュメづくりワーク1
 - 第11回 文献レジュメづくりワーク2
 - 第12回 レジュメによる発表の心得と発表1
 - 第13回 レジュメによる発表2
 - 第14回 レジュメによる発表3
 - 第15回 まとめ～アーツマネジメントと私たち
-

授業以外での学習方法

授業中、学外授業のほか、自主的活動、アーツ鑑賞などにおいても、ノートをつけること。なお、アーツ体験のさい、授業時間外の課題としてアーツマネージャーへのインタビューを行ってもらう予定にしているので、そういうアーツのプロの言葉が教科書ということになるかも知れない。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

夏休みにアート体験をしてもらい、その発表を行い、継続的にアートシーンに関わってもらおう。学外授業については、他の授業などとの調整のため学内鑑賞に変える可能性あり。可能性としてだが、アーティストとの交流、アート・ワークショップ体験もあるかも知れない。この内容の授業順序はアーティストなどの事情で自由に入れ替わる。

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄メインブログ

小暮宣雄フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

2013 Syllabus

科目名 まちづくり論

担当者 小森 治夫

テーマ

まちづくりの理論と実践を学ぶ

獲得目標

優れたまちづくりの実践例とまちづくりの理論について学ぶ

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 医療・保健・福祉とまちづくり(1)
 - 第3回 医療・保健・福祉とまちづくり(2)
 - 第4回 コミュニティとまちづくり(1)
 - 第5回 コミュニティとまちづくり(2)
 - 第6回 交通政策とまちづくり
 - 第7回 情報公開とまちづくり
 - 第8回 内なる国際化とまちづくり
 - 第9回 まちづくりの事例(1)宮崎県綾町
 - 第10回 まちづくりの事例(2)山形県長井市
 - 第11回 まちづくりの事例(3)愛媛県内子町
 - 第12回 まちづくりの事例(4)大分県由布院温泉
 - 第13回 まちづくりの事例(5)熊本県黒川温泉
 - 第14回 まちづくりの事例(6)徳島県上勝町
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など) 地方自治や地方財政を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

概説日本の地方自治(第2版)

著者: 新藤宗幸・阿部齊

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2009年

ISBN:

まちづくりを学ぶ

著者: 石原武政・西村幸夫

出版社: 有斐閣

出版年: 2010年

ISBN:

命を守り心をつなぐ

著者： 白垣詔男

出版社： 自治体研究社

出版年： 2000年

ISBN:

由布院の小さな奇跡

著者： 木谷文弘

出版社： 新潮社

出版年： 2004年

ISBN:

黒川温泉

著者： 熊本日日新聞情報文化センター

出版社： 熊本日日新聞社

出版年： 2000年

ISBN:

黒川温泉 観光経営講座

著者： 後藤哲也・松田忠徳

出版社： 光文社

出版年： 2005年

ISBN:

そうだ、葉っぱを売ろう！

著者： 横石知二

出版社： ソフトバンク クリエイティブ

出版年： 2007年

ISBN:

終わりをければすべてよし

著者： 羽田澄子

出版社： 岩波書店

出版年： 2009年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅳ <a>**

担当者 松本 正富

テーマ

店舗併用住宅の設計

獲得目標

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみだし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

授業の内容

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみだし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

内 容

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント(1)
 - 第2回 課題主旨説明、設計のポイント(2)
 - 第3回 配置計画案の作成(1)
 - 第4回 配置計画案の作成(2)
 - 第5回 平面計画案の作成(1)
 - 第6回 平面計画案の作成(2)
 - 第7回 立面・断面計画案の作成(1)
 - 第8回 立面・断面計画案の作成(2)
 - 第9回 構造計画案の作成1(1)
 - 第10回 構造計画案の作成1(2)
 - 第11回 構造計画案の作成2(1)
 - 第12回 構造計画案の作成2(2)
 - 第13回 建築基準法の確認(1)
 - 第14回 建築基準法の確認(2)
 - 第15回 中間発表(1)
 - 第16回 中間発表(2)
 - 第17回 配置図・平面図の作成1(1)
 - 第18回 配置図・平面図の作成1(2)
 - 第19回 平面図の作成2(1)
 - 第20回 平面図の作成2(2)
 - 第21回 立面図の作成(1)
 - 第22回 立面図の作成(2)
 - 第23回 断面図の作成(1)
 - 第24回 断面図の作成(2)
 - 第25回 模型1(1)
 - 第26回 模型1(2)
 - 第27回 模型2(1)
 - 第28回 模型2(2)
 - 第29回 講評とまとめ(1)
 - 第30回 講評とまとめ(2)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習Ⅳ **

担当者 今井 裕夫

テーマ

獲得目標

店舗などの付属した鉄筋コンクリート造併用住宅の設計を行う。敷地は商業地域などの高密度な都市を設定する。建築基準法をみたし適切な構造計画を踏まえた上で、快適な居住空間を実現するよう検討を重ねる。店舗等の付属部分と居住部分の関係について、時間をかけて計画をすすめる。しかし、平面だけでなく、上下階の繋がりなど立体的な構成についても配慮しつつ検討を重ねる。最終講評に向けて自分の提案を整理し、図面と模型を制作する。

授業の内容

内 容

- 第1回 課題主旨説明、設計のポイント(1)
 - 第2回 課題主旨説明、設計のポイント(2)
 - 第3回 配置計画案の作成(1)
 - 第4回 配置計画案の作成(2)
 - 第5回 平面計画案の作成(1)
 - 第6回 平面計画案の作成(2)
 - 第7回 立面・断面計画案の作成(1)
 - 第8回 立面・断面計画案の作成(2)
 - 第9回 構造計画案の作成1(1)
 - 第10回 構造計画案の作成1(2)
 - 第11回 構造計画案の作成2(1)
 - 第12回 構造計画案の作成2(2)
 - 第13回 建築基準法の確認(1)
 - 第14回 建築基準法の確認(2)
 - 第15回 中間発表(1)
 - 第16回 中間発表(2)
 - 第17回 配置図・平面図の作成1(1)
 - 第18回 配置図・平面図の作成1(2)
 - 第19回 平面図の作成2(1)
 - 第20回 平面図の作成2(2)
 - 第21回 立面図の作成(1)
 - 第22回 立面図の作成(2)
 - 第23回 断面図の作成(1)
 - 第24回 断面図の作成(2)
 - 第25回 模型1(1)
 - 第26回 模型1(2)
 - 第27回 模型2(1)
 - 第28回 模型2(2)
 - 第29回 講評とまとめ(1)
 - 第30回 講評とまとめ(2)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築計画Ⅱ**

担当者 竹山 清明

テーマ

建築計画の論理について学ぶ

獲得目標

居住施設以外のビルディングタイプの計画について基本的な知識を習得する。学校教育施設、社会教育施設、医療・福祉施設、商業施設や劇場等について、具体的な事例を挙げながら検証し、簡単な基本計画を行うことで各施設の機能、動線や配置計画についての理解を深める。

授業の内容

教科書を参考に写真などを用いて具体的に学ぶ

内 容

- 第1回 ガイダンス、建築計画における共通事項
 - 第2回 学校建築の歴史、学校における教育システムと各室計画
 - 第3回 小学校の計画、計画事例
 - 第4回 図書館の歴史、規模類型、全体計画、各室計画
 - 第5回 図書館の計画、計画事例
 - 第6回 美術館の歴史、全体計画、各室計画
 - 第7回 美術館の計画、計画事例
 - 第8回 医療福祉施設の役割、部門構成、各室計画
 - 第9回 医療福祉施設の計画、計画事例
 - 第10回 劇場の歴史、劇場空間の機能的特性、全体計画
 - 第11回 演劇・音楽の場、舞台と客席の設計計画と寸法
 - 第12回 劇場、音楽ホールの計画、計画事例
 - 第13回 事務所の全体計画、平面計画、モジュール計画
 - 第14回 事務所の計画、計画事例
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

建築に興味を持ち自主的に様々な作品集や文献に当たる

教科書

サステイナブルな住宅・建築デザイン

著者： 竹山清明

出版社： 日本経済評論社

出版年： 2009

ISBN： 9.78482E+12

参考書

成績評価

試験（50）

授業中課題（）

参加度（50）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **都市計画論**

担当者 佐々木 厚司

テーマ

都市計画に関する知識について多岐にわたる各種政策を中心に体系的に学ぶ。さらに、都市計画の動向について都市デザイン事例まで及んで実践的に論考し、現代都市のかかえる課題および将来への計画方針、手法について理解を深める。加えて、都市の成り立ちや現状について国内外の事例を紹介し、都市計画を総合的に把握する。

獲得目標

都市計画に関する知識について都市計画法を中心に体系的に学ぶ。都市計画の政策、動向について理解し、また都市計画による実践例を学び、現代都市のかかえる課題および将来への計画方針、手法について理解を深める。加えて、都市の成り立ちや現状について国内外の事例を紹介し、都市計画を総合的に把握する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス 都市計画について
 - 第2回 都市の歴史
 - 第3回 土地利用計画
 - 第4回 都市の交通
 - 第5回 都市の公園緑地
 - 第6回 都市の上下水道
 - 第7回 都市の防災
 - 第8回 都市の景観
 - 第9回 都市計画の事例1 近代以前 都城
 - 第10回 都市計画の事例2 自治都市 京都
 - 第11回 都市計画の事例3 日本の商工都市その1.京都
 - 第12回 都市計画の事例4 日本の商工都市その2.長浜
 - 第13回 都市計画の事例5 西欧の世界都市その1.ベルリン、ウィーン
 - 第14回 都市計画の事例6 西欧の世界都市その2.ロンドンほか
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

講義の流れで実施する「臨地研修」などを通じて、実践例も各種紹介するので十分に参照すること

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a50202d750

出席状況(30%)及び中間時点での演習レポート(30%)を勘案の上、期末テスト(40%)による評価とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築と環境**

担当者 今井 裕夫

テーマ

獲得目標

身の回りの生活、民俗学や美術といった文化と建築を取り巻く環境との関係について考える。あるいは、環境のもつ文化的・空間的側面について生活、農業、民俗学、現代美術、茶室、旅などの事例を通して見つめ直し、それらと建築との関わりについて考える。このような視点を踏まえ、建築と環境に関わる小課題に取り組む。

授業の内容

内 容

- 第1回 生活における建築と環境(1) 里山ー山辺の住環境
 - 第2回 生活における建築と環境(2) 里山ー水辺の住環境
 - 第3回 農業における建築と環境 哲学者／福岡正信の視角
 - 第4回 民俗学における建築と環境 宮本常一の視点
 - 第5回 現代美術における建築と環境 ランドスケープアート
 - 第6回 記憶のデザイン ー地図の作成(空間の記憶／場所の記憶)
 - 第7回 美にまつわる建築と環境 ー美の背景としての環境
 - 第8回 庭と建築と環境 桂離宮の構成と分析
 - 第9回 環境建築 建築家・藤森照信の作品
 - 第10回 茶室と環境 極小空間と茶庭
 - 第11回 旅における建築と環境 原風景の求め方
 - 第12回 美術と建築: イサムノグチ(1)(原爆ドーム/無言館など)
 - 第13回 美術と建築: イサムノグチ(2)(モエレ沼公園など)
 - 第14回 ポケットパークと付属施設の設計1
 - 第15回 ポケットパークと付属施設の設計2
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅲ <a>

担当者 中山 大介

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

獲得目標

建築製図用のCAD ソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 2次元CADの基本操作 復習
 - 第2回 3次元CADの基本操作(1)
 - 第3回 3次元CADの基本操作(2)
 - 第4回 3次元CADの基本操作(3)
 - 第5回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする
 - 第6回 //
 - 第7回 //
 - 第8回 講評
 - 第9回 3次元CADの応用
 - 第10回 演習2:いのりの空間をデザインする
 - 第11回 //
 - 第12回 演習2-2:いのりの空間内を移動する
 - 第13回 //
 - 第14回 //
 - 第15回 講評
-

授業以外での学習方法

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック

出版年: 2010

ISBN: 9.78488E+12

参考書

初学者の建築講座

著者: 瀬川康秀

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2011

ISBN: 9.78487E+12

成績評価

a50202e350

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 CAD演習Ⅲ

担当者 松本 正富

テーマ

3次元CAD入力とデジタルプレゼンテーション

獲得目標

建築製図用のCADソフトを使用した3次元CADをまなぶ。モデリングの基本操作の習得から始め、照明の効果などについても学ぶことを通じて、空間デザインのスタディをさまざまに行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 2次元CADの基本操作 復習
 - 第2回 3次元CADの基本操作(1)
 - 第3回 3次元CADの基本操作(2)
 - 第4回 3次元CADの基本操作(3)
 - 第5回 演習1:空間のかたちと光のかたちをデザインする
 - 第6回 //
 - 第7回 //
 - 第8回 講評
 - 第9回 3次元CADの応用
 - 第10回 演習2:いのりの空間をデザインする
 - 第11回 //
 - 第12回 演習2-2:いのりの空間内を移動する
 - 第13回 //
 - 第14回 //
 - 第15回 講評
-

授業以外での学習方法

教科書

VectorworksではじめるCAD 2010/2009/2008

著者: 五十嵐進

出版社: ソーテック

出版年: 2010

ISBN: 9.78488E+12

参考書

初学者の建築講座

著者: 瀬川康秀

出版社: 市ヶ谷出版社

出版年: 2011

ISBN: 9.78487E+12

成績評価

a50202e352

試験 ()
授業中課題 (70)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 都市建築文化史 I

担当者 河野 良平

テーマ

獲得目標

主に西洋の建築が都市や人々の生活の中でどのような役割を果たしてきたかについて事例を挙げながら詳しく検証していく。建築物だけでなく、小説、絵画などの芸術や映画の舞台など、それらにまつわる様々な事象から幅広く都市・建築と文化の関係を概観する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 教会建築
 - 第3回 「ローマの休日」とローマ
 - 第4回 新古典主義と建築家
 - 第5回 近代建築
 - 第6回 摩天楼
 - 第7回 パリと芸術
 - 第8回 移動する建築
 - 第9回 近代へのアンチテーゼ
 - 第10回 村上春樹の小説空間
 - 第11回 アートと都市・建築
 - 第12回 都市と郊外
 - 第13回 アメリカの西海岸
 - 第14回 未来都市
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **観光政策論**

担当者 金武 創

テーマ

観光政策の基礎を理解する

獲得目標

観光振興の利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となりうる」ことを理解する

授業の内容

内 容

- 第1回 観光の基本構造
 - 第2回 観光とレクリエーション
 - 第3回 観光商品
 - 第4回 事例研究 文化遺産と観光
 - 第5回 旅行に対する需要
 - 第6回 パック旅行の長所と短所
 - 第7回 旅行代理店の長所と短所
 - 第8回 観光産業の競争
 - 第9回 観光行動
 - 第10回 観光交通
 - 第11回 国際観光
 - 第12回 観光の経済効果
 - 第13回 観光による受益と負担
 - 第14回 持続可能な観光 自然環境保全と市場規制
 - 第15回 観光振興を推進する主体 ※なお、講師を招いて講演会を実施することがある。
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

a50202e650

受講人数によるが、毎回の課題提出を日常点評価(授業中課題)とするので、単に教室にいるだけでは評価の対象とならない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **観光施設論**

担当者 谷口 知司

テーマ

観光施設全般について理解を深める。

獲得目標

本論で取り扱う観光施設は宿泊業・ブライダル業・外食業・テーマパークなどで、観光産業において重要な機能を担っている。これらの観光施設について、様々な事例からその現状と課題について学ぶことを目的としている。

授業の内容

内 容

- 第1回 観光施設と何か
 - 第2回 ホスピタリティの概念
 - 第3回 ホスピタリティ産業
 - 第4回 観光施設の基本構造と特性
 - 第5回 宿泊産業①
 - 第6回 宿泊産業②
 - 第7回 宿泊産業③
 - 第8回 ブライダル産業
 - 第9回 外食産業
 - 第10回 テーマパーク
 - 第11回 空港および航空関連施設
 - 第12回 海浜リゾート
 - 第13回 動物園
 - 第14回 観光施設におけるバリアフリー
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (40)

参加度 (10)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **観光ビジネス論**

担当者 谷口 知司

テーマ

観光ビジネスの全体像を知る。

獲得目標

さまざまな観光ビジネスの現況と、それらが社会の情報化の中でどのように変容してきたかについて理解する。

授業の内容

観光学総論で概観した観光ビジネスについて、学生自らが問題意識を持ち、調査分析を行う。授業タイトルは「論」であるが、教師が一方向的に論じる形の授業は行わない。演習のつもりで受講してほしい。

内 容

- 第1回 観光ビジネスとは(観光学総論の復習)①
 - 第2回 観光ビジネスとは(観光学総論の復習)②
 - 第3回 旅行業の観光ビジネス①
 - 第4回 旅行業の観光ビジネス②
 - 第5回 鉄道会社と観光ビジネス①
 - 第6回 鉄道会社と観光ビジネス②
 - 第7回 航空産業と観光ビジネス①
 - 第8回 航空産業と観光ビジネス②
 - 第9回 ホテル・旅館業と観光ビジネス①
 - 第10回 ホテル・旅館業と観光ビジネス②
 - 第11回 土産品と観光ビジネス①
 - 第12回 土産品と観光ビジネス②
 - 第13回 ニューツーリズムと観光ビジネス①
 - 第14回 ニューツーリズムと観光ビジネス②
 - 第15回 その他の観光ビジネス
-

授業以外での学習方法

さまざまな調査・文献研究を授業外で要求する。それらは基本的にレポートとして提出する。

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN： 9.78462E+12

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **観光メディア論**

担当者 谷口 知司

テーマ

観光にかかわるさまざまな情報媒体について学ぶ。

獲得目標

観光という巨大産業では、観光素材や観光商品の流通・販売のためにさまざまなメディアがかかわっている。これらを総合的に理解することを目的とする。

授業の内容

講義と受講者による発表で構成される。授業タイトルは「論」であるが演習のつもりで受講してほしい。

内 容

- 第1回 観光メディアとは
 - 第2回 観光情報とメディア
 - 第3回 観光ビジネスとメディアについて①
 - 第4回 観光ビジネスとメディアについて②
 - 第5回 観光ビジネスとメディアについて③
 - 第6回 観光ビジネスとメディアについて④
 - 第7回 観光メディアについて分析する(発表を含む)①
 - 第8回 観光メディアについて分析する(発表を含む)②
 - 第9回 観光メディアについて分析する(発表を含む)③
 - 第10回 観光メディアについて分析する(発表を含む)④
 - 第11回 観光メディアについて分析する(発表を含む)⑤
 - 第12回 観光メディアについて分析する(発表を含む)⑥
 - 第13回 観光メディアについて分析する(発表を含む)⑦
 - 第14回 観光メディアについて分析する(発表を含む)⑧
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

グループを編成し、指定された課題について調査、研究すること、またその成果を発表することを要求するので、調査、研究やプレゼンテーション資料等の作成は授業時間外で行う必要がある。

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司他

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 まちづくりデザイン論

担当者 織田 直文

テーマ

文化にこだわったまちづくりをデザインする

獲得目標

成熟した社会に達し、より文化的で個性的な地域空間、社会、経済創出の必要性が高まっている。この講義では、デザインをハード面、ソフト面の両面でとらえる広い意味で用い、もっぱら文化政策とまちづくりの接点における課題と対策を見出すことができる力を養う。

授業の内容

下記に示すテキストと関連資料を用い、文化政策とまちづくりの接点領域における今日的な課題を解決していく手法を解説していく。また、それらのテーマ毎に学生自身の考えをまとめてもらいながら、課題発見、解決能力を高めていく。テーマによっては、外部講師による特別講義を考えている。

内 容

- 第1回 講義の進め方。「文化政策」と「臨地まちづくり」について。
- 第2回 空間単位、建築、都市計画について。
- 第3回 都市の中心市街地活性化策①。民間活力による市街地再生。
- 第4回 都市の中心市街地活性化策②。歴史的商店街の価値の創造。
- 第5回 まちづくりの溜まり場の意義と展望。
- 第6回 地域資源を活かした地域経済活性化策。
- 第7回 キャラクター活用によるまちづくり
- 第8回 コミュニティ・ビジネスのデザイン。コミュニティ・ビジネス企画案作成課題の提示
- 第9回 伝統産業と生産地の再生。
- 第10回 伝統的な祭り地域コミュニティ。
- 第11回 まちづくり型図書館・博物館等、文化施設。
- 第12回 協働型まちづくりとしての「産公民学際連携」まちづくり。
- 第13回 コミュニティ・ビジネス企画案の学生発表①。
- 第14回 コミュニティ・ビジネス企画案の学生発表②。
- 第15回 まとめ。

授業以外での学習方法

身近な地域でのまちづくりに関心を持つ。図書館や博物館等の文化施設をよく活用する。地域の祭りやイベントを体験してみる。

教科書

文化政策と臨地まちづくり

著者： 織田直文

出版社： 水曜社

出版年： 2009

ISBN： 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (50)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 ニューツーリズム研究

担当者 金武 創

テーマ

獲得目標

ニューツーリズムの利点と問題点を学習することを通して、「観光は地域振興の万能薬ではなく、時には地域社会を混乱させる原因となりうる」ことを理解する。(目標達成のため、1,2回のアクティブ・ラーニングを水曜午後の学外授業として計画している)

授業の内容

国土交通省や観光庁が提唱する「ニューツーリズム」は古い概念に過ぎない。最新のニュース映像や新聞資料を活用しながら、ニューツーリズムのあり方を考える。

内 容

- 第1回 観光の基本構造 マスツーリズムと古いニューツーリズム
 - 第2回 京都観光1
 - 第3回 京都観光2
 - 第4回 自由時間政策1
 - 第5回 自由時間政策2
 - 第6回 観光生産1
 - 第7回 観光生産2
 - 第8回 観光消費1
 - 第9回 観光消費2
 - 第10回 観光情報
 - 第11回 観光交通
 - 第12回 エコ・ツーリズムの問題
 - 第13回 ボランティア・ツーリズム
 - 第14回 コンテンツ・ツーリズム
 - 第15回 観光まちづくりとまちづくり観光
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

授業中の課題をまじめに取り組み、期限内に提出しないと出席が認められない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **観光ビジネス実務演習 I**

担当者 北沢 達成

テーマ

旅行業を中心とした観光産業の現状と課題を踏まえつつ、観光ビジネスに関わる人材として、望まれる実務的な能力を養う

獲得目標

旅行業を中心として、観光ビジネスの現場で必要とされる実務を学ぶ。これからの時代の観光産業に求められる人材像を踏まえ、必要とされる資質を涵養する。

授業の内容

近畿日本ツーリスト株式会社の現役社員による講義と実習。旅行会社訪問や添乗業務実習など学外実習を含みます。

内 容

- 第1回 4/20(土)1講時:オリエンテーション(講座の概要と進め方、受講に際する心構えを伝える。観光業界の見取り図)
- 第2回 4/20(土)2講時:旅行業の実務について(旅行業の現場における実務とはどのようなものか(解説とケーススタディ))
- 第3回 5/11(土)2講時:フィールドワーク①旅行業現場研究 I (旅行業の現場を学ぶ(旅行会社の現場訪問と解説))※学外実習
- 第4回 5/11(土)3講時:フィールドワーク②旅行業現場研究 II (旅行業の現場を学ぶ(旅行会社の現場訪問と解説))※学外実習
- 第5回 5/11(土)4講時:フィールドワーク③旅行業現場研究 III (旅行業の現場を学ぶ(旅行会社の現場訪問と解説))※学外実習
- 第6回 5/25(土)1講時:旅行業実務演習①(添乗業務実務演習(ツアーコンダクターの解説とケーススタディ))※学外実習
- 第7回 5/25(土)2講時:フィールドワーク④添乗業務演習 I (京都市内にて添乗業務のフィールドワークとロールプレイング)※学外実習
- 第8回 5/25(土)3講時:フィールドワーク⑤添乗業務実習 II (京都市内にて添乗業務のフィールドワークとロールプレイング)※学外実習
- 第9回 5/25(土)4講時:フィールドワーク⑥添乗業務演習 III (京都市内にて添乗業務のフィールドワークとロールプレイング)※学外実習
- 第10回 6/8(土)1講時:旅行業実務演習②(個人旅行販売実務演習(店頭接客業務や電話応対業務の解説とロールプレイング))
- 第11回 6/8(土)2講時:旅行業実務演習③(団体旅行販売実務演習(法人・組織団体営業や教育旅行営業の解説とロールプレイング))
- 第12回 6/8(土)3講時:旅行企画作成①(与えられた課題を元に、旅行企画を作成。)
- 第13回 6/8(土)4講時:旅行企画作成②(与えられた課題を元に、旅行企画を作成。)
- 第14回 6/22(土)3講時:旅行企画プレゼンテーション①(作成した旅行企画をプレゼンテーション。)
- 第15回 6/22(土)4講時:旅行企画プレゼンテーション②(作成した旅行企画をプレゼンテーション。講義のまとめ。)

授業以外での学習方法

旅行広告(店頭、メディア、WEB等)の調査、観光地でのフィールドワーク

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

集中講義形式のため、欠席日があると成績への影響が大きくなりますので注意して下さい。学外講義では交通費等の実費が必要となります。

参考URL

近畿日本ツーリスト

<http://www.knt.co.jp/>

総合旅行サイト。担当講師の勤務先。

ツーリストエキスパート

<http://www.tex.co.jp/>

近畿日本ツーリストグループの添乗員派遣部門。

日本旅行業協会(JATA)

<http://www.jata-net.or.jp/>

旅行業の業界団体サイト。

2013 Syllabus

科目名 **観光ビジネス実務演習Ⅱ**

担当者 北沢 達成

テーマ

観光産業を支えるサプライヤーの現状と課題を踏まえつつ、観光ビジネスに関わる人材として、望まれる実務的な能力を養う

獲得目標

旅行素材を提供するサプライヤーを中心として、観光ビジネスの現場で必要とされる実務を学ぶ。これからの時代の観光産業に求められる人材像を踏まえ、必要とされる資質を涵養する。

授業の内容

近畿日本ツーリスト株式会社の現役社員による講義と実習。京都のホテル・旅館・観光施設訪問などの学外実習を含みます。

内 容

- 第1回 9/28(土)2講時:オリエンテーション(講座の概要と進め方、受講に際する心構えを伝える。旅行業を支えるサプライヤー業界の見取り図)
- 第2回 10/12(土)1講時:フィールドワーク③現場研究(京都の観光施設を訪問、実務ロールプレイングまたはケーススタディ)※学外実習
- 第3回 10/12(土)2講時:フィールドワーク④現場研究(京都の観光施設を訪問、実務ロールプレイングまたはケーススタディ)※学外実習
- 第4回 10/12(土)3講時:フィールドワーク⑤現場研究(京都の観光施設を訪問、実務ロールプレイングまたはケーススタディ)※学外実習
- 第5回 10/12(土)4講時:フィールドワーク⑥現場研究(京都の観光施設を訪問、実務ロールプレイングまたはケーススタディ)※学外実習
- 第6回 11/2(土)1講時:観光ビジネス研究①(ホテル・旅館業界の現状と課題、実務ロールプレイングまたはケーススタディ)※学外実習
- 第7回 11/2(土)2講時:フィールドワーク①現場研究(京都のホテル・旅館を訪問、実務ロールプレイングまたはケーススタディ)※学外実習
- 第8回 11/2(土)3講時:フィールドワーク②現場研究(京都のホテル・旅館を訪問、実務ロールプレイングまたはケーススタディ)※学外実習
- 第9回 11/2(土)4講時:観光ビジネス研究②(テーマパーク業界の現状と課題、実務ロールプレイングまたはケーススタディ)※学外実習
- 第10回 11/9(土)1講時:観光ビジネス研究③(海外手配(ランドオペレーター)の現状と課題、実務ロールプレイングまたはケーススタディ)
- 第11回 11/9(土)2講時:観光ビジネス研究④(訪日旅行(インバウンド)の現状と課題、実務ロールプレイングまたはケーススタディ)
- 第12回 11/9(土)3講時:集客企画作成①(サプライヤーの立場からの企画作成実務演習(集客につながる企画の解説とケーススタディ))
- 第13回 11/9(土)4講時:集客企画作成②(与えられた課題を元に、企画を作成。)
- 第14回 11/30(土)3講時:企画プレゼンテーション①(作成した企画をプレゼンテーション。)
- 第15回 11/30(土)4講時:企画プレゼンテーション②(作成した企画をプレゼンテーション。講義のまとめ。)

授業以外での学習方法

旅行広告(店頭、メディア、WEB等)の調査、観光地でのフィールドワーク

教科書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

集中講義形式のため、欠席日があると成績への影響が大きくなりますので注意して下さい。学外講義では交通費等の実費が必要となります。

参考URL

近畿日本ツーリスト(KNT)

<http://www.knt.co.jp/>

総合旅行サイト。担当講師の勤務先。

日本ホテル協会

<http://www.j-hotel.or.jp/>

ホテル業の業界団体サイト。

旅の発見

<http://tabihatsu.jp/>

KNTと角川グループのコロナによるニューツーリズムサイト。

2013 Syllabus

科目名 **観光法規・経営論**

担当者 伊藤 晴夫

テーマ

旅行業に関する法規を通して、旅行事業のあり方を理解する。

獲得目標

事業経営は法規によって多かれ少なかれ規制されるが、特にサービスという目に見えない商品を扱う観光業に関する法規は消費者保護の観点から規制的な性格が強く、観光事業のあり方はそのような法規によって規定されてきた。本授業では、主として旅行業を取り上げ、旅行業に関する法規の実態と法規の規制を受ける旅行事業のあり方について理解する。

授業の内容

講義を中心とする。授業の内容に関するレポート提出を求める。

内 容

- 第1回 旅行業の経営概況と旅行業に関する法規
 - 第2回 旅行業法の特徴、変遷
 - 第3回 旅行業法の概要①(登録制度、業界団体、苦情処理、弁済処理等)
 - 第4回 旅行業法の概要②(旅行業務取扱管理者と旅程管理者、取引準則、罰則規定等)
 - 第5回 旅行業約款の概要①(契約の種類、募集型企画旅行等)
 - 第6回 旅行業約款の概要②(旅程保証制度、旅程管理等)
 - 第7回 旅行業約款の概要③(特別補償制度等)
 - 第8回 関係法規と旅行業のあり方①(パンフレット・広告表示等)
 - 第9回 関係法規と旅行業のあり方②(クレーム・事故対応等)
 - 第10回 関係法規と旅行業のあり方③(ツアーバス問題等)
 - 第11回 関係法規と旅行業のあり方④(販売契約の問題等)
 - 第12回 旅行業の経営課題と旅行業法のあり方
 - 第13回 旅行業以外における法規と経営の関係①(運輸交通業界)
 - 第14回 旅行業以外における法規と経営の関係②(旅館・ホテル業界)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業終了後のレポート作成を通して、授業内容の理解を深めること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **舞台プロデュース論**

担当者 上原 恵美

テーマ

総合芸術オペラについて理解を深め、オペラのプロデュースについて学ぶ

獲得目標

総合芸術と呼ばれるオペラは、声楽、オーケストラ、演劇、ダンス・バレエ、舞台美術、衣裳デザインなど多くの要素を有している。オペラの制作を学ぶことは同時にこれらの要素についての理解を深めることにつながる。この授業では、オペラについて理解を深めたうえで、「劇場の建築様式」「制作過程」「舞台制作」「制作スタッフの仕事」などについて学び、舞台プロデュースについて理解を深める。

授業の内容

2014年2月9日、11日にびわ湖ホールで制作上演されるオペラ「ホフマン物語」を鑑賞することに照準を合わせ、様々な側面からオペラ、オペラ制作について学ぶ。子のびわ湖ホールでのオペラ鑑賞は必須であり、この授業を取る条件となる。なお、ゲストの都合で日程が変更になることもある。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 オペラの歴史(1)
- 第3回 オペラの歴史(2)
- 第4回 オペラ劇場の建築的構造
- 第5回 オペラの音楽的構造
- 第6回 歌手とオペラ
- 第7回 オペラと演出
- 第8回 代表的なオペラ作品について(1)
- 第9回 代表的なオペラ作品について(2)
- 第10回 オペラのタイトルロールの変遷
- 第11回 びわ湖ホールから制作担当者をゲストに迎えて
- 第12回 びわ湖ホールから舞台制作担当者をゲストに迎えて
- 第13回 授業内で学んだことについてまとめる
- 第14回 オペラ鑑賞の事前学習
- 第15回 びわ湖ホールでオペラ「ホフマン物語」を鑑賞する

授業以外での学習方法

劇場、DVD、テレビなどでできるだけ多くのオペラ作品に接すること。

教科書

びわ湖ホールオペラをつくる 創造し発信する劇場

著者： 上原恵美ほか

出版社： 新評論

出版年： 2007

ISBN:

参考書

オペラと音響デザイナー

著者： 小野隆浩

出版社： 新評論

出版年： 2010

ISBN:

劇場空間への誘い

著者： 日本建築学会編

出版社： 鹿島出版社

出版年： 2010

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **イベントデザイン論**

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメントの各論と冠婚葬祭などイベント論

獲得目標

アーツマネジメントの現場へ接近して理論を活用するための手法を学ぶ。自分で、文化資源を探しイベント活用することに挑戦する。アーツカンパニーとアーツプレースの出会いを企画する。

授業の内容

アーツマネジメント論を前期に学修していることが望ましい。同時にアーツ演習Ⅱも併用すると理解が高まる。ゲスト講師をできれば呼びたい。

内 容

- 第1回 はじめに～アーツマネジメントの基本理解の確認
- 第2回 イベントの要件・目的・手段
- 第3回 限界芸術としての冠婚葬祭、そのイベントとの関係
- 第4回 音楽という文化は都市にどのように関わるのか・ライブハウス、音楽ホール以外に音楽はどこで鳴っている？
- 第5回 音楽イベントとしての野外音楽フェスティバル
- 第6回 劇団・ダンスカンパニーの歴史と現状
- 第7回 演劇ダンスプロデュース公演のあり方
- 第8回 イベントとしての公演と非イベントとしてのワークショップ
- 第9回 学外授業1 京都の学生美術展を鑑賞・マネジメントする企画に参加(予定)
- 第10回 イベントを冠婚葬祭として考えるなおす
- 第11回 学外授業2 音楽かダンスのイベントを鑑賞する 場所は未定(適当なものがない場合は、映像鑑賞に変える)
- 第12回 演劇ダンスと冠婚葬祭との比較論
- 第13回 限界芸術論を現代化する
- 第14回 イベントプロデュースの事例を自分なりに応用する
- 第15回 まとめ— 企画書づくりへ挑戦

授業以外での学習方法

京都における文化活動を紹介するのでできるだけ、時間外において参加し記録すること。京都ベンチャーコンペティションに応募するために自分で調査すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

現場活動を紹介するので、できるだけ参加すること。

参考URL

京都文化ベンチャーコンペティション

<http://kyotobunka-v.net/index.html>

京都府のサイト

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄のメインサイト

2013 Syllabus

科目名 展示デザイン論

担当者 木下 達文

テーマ

展示メディアの理解と創造

獲得目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する(1月予定)。

授業の内容

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

内 容

- 第1回 展示メディアとは(展示の概念) 展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的・時間的特性について考える。
- 第2回 展示の種類(形態) 展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。
- 第3回 展示および展示論の歴史 展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。
- 第4回 展示の政治性と社会性 展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。
- 第5回 展示のプロセス(企画・設計・製作等) 展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。
- 第6回 展示の手法(展示技術) 展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。
- 第7回 展示と研究 展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する。
- 第8回 展示と運営 展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。
- 第9回 展示と解説 展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。
- 第10回 展示とその記録(図録、解説、資料等) とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。
- 第11回 特別講義 実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。
- 第12回 展示の企画実践 これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。
- 第13回 展示の製作実践 企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。
- 第14回 展示の運営実践 つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもと、展示評価の素材としていく。
- 第15回 展示の評価と改善・更新 展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック(評価)をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

授業以外での学習方法

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

教科書

授業内容に応じて適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年: 1996

ISBN:

イベント講座

著者: 日本イベント産業振興協会

出版社:

出版年: 2004

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **舞台イベント研究**

担当者 杉山 準

テーマ

劇場および舞台芸術の社会的意義を考える

獲得目標

劇場や舞台芸術を題材に、それに関わるフタツフの仕事や事業の目的、使命などを理解することで、劇場や舞台芸術の社会的意義を考えるとともに、舞台芸術だけでなく、広く文化や芸術の社会の中でのありようを考える。

授業の内容

講義に加えて学外で現場を実際に見たり、体験する。自分で考えることを大切にする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(評価方法、授業のねらいについての説明)および、事業を企画することについて考える。
- 第2回 事業(イベント)を企画する、意図や目的について考える
- 第3回 事業目的からの視点で、事業(イベント)を考察する1
- 第4回 事業目的からの視点で、事業(イベント)を考察する2
- 第5回 文化・芸術による地域のまちづくりの事例紹介と、その可能性について考える
- 第6回 文化・芸術による地域のまちづくりが行なわれている、現場を見て考察する(学外授業) *催しの開催時期に合わせるため、日程が異なる場合があります。
- 第7回 劇場の機構と劇場で働くスタッフの仕事について
- 第8回 創作の現場で働くスタッフの仕事について
- 第9回 プロデューサー、制作スタッフの仕事について
- 第10回 劇場の使命と役割について
- 第11回 上演作品を見て考察する(学外授業) *催しの開催時期に合わせるため、日程が異なる場合があります。
- 第12回 地域における文化政策や文化振興の現状について
- 第13回 文化行政と劇場(文化イベント)との関わりについて
- 第14回 地域における文化振興の課題と展望について
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

非営利で行なわれているイベント現場へ足を運んだり、スタッフやメンバーとして関与し、その事業の社会的意義を考えてみることが期待する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a50202g150

授業中の課題や学外授業の出席、およびそれに関わるレポートを評価の上で重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地域文化財論

担当者 五十川 伸矢

テーマ

各地の文化財を紹介し、観光開発による近代的文化財の成立過程を解説する。

獲得目標

文化財の宝庫である京都の歴史と、そこで生み出された代表的な文化財をはじめ、文化財観光の発展と、その現代における到達点である世界遺産を理解する。

授業の内容

地域を代表する文化財の紹介と文化財観光の発展過程を解説してゆく。

内 容

- 第1回 日本の文化財には、どんなものがあるか
 - 第2回 古代都市平安京と文化財
 - 第3回 中世都市京都と文化財
 - 第4回 近世都市京都と文化財
 - 第5回 近代都市京都と文化財
 - 第6回 学外授業 博物館・美術館または周辺の文化財見学
 - 第7回 文化財観光開発の歴史① 京都叢書の世界(1)
 - 第8回 文化財観光開発の歴史② 京都叢書の世界(2)
 - 第9回 文化財観光開発の歴史③ 奥の細道の世界
 - 第10回 文化財観光開発の歴史④ 北京古籍叢書の世界
 - 第11回 学外授業 博物館・美術館または周辺の文化財見学
 - 第12回 講演会 地域文化財論
 - 第13回 世界遺産① 日本と中国
 - 第14回 世界遺産② ヨーロッパ
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

京都近辺の博物館・美術館・資料館や多様な文化財を見学して、その歴史を学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈a〉

担当者 今井 裕夫

テーマ

「フォルム・マテリアル(建築素材)」の研究

獲得目標

素材、材料として建築や工作物の美しさや時間、物質的な滅びや腐食を読み取り、空間と人間の関係性についてイメージすることにより、建築やインテリアの設計、環境を構想する人のデザイナーとしての視線・眼差しを獲得する。同時に作家研究もしくは設計課題を行う。

授業の内容

日常的な環境からの建築の素材や材料の多様な魅力を素材と言葉を交わし獲得すること。撮影すること。建築素材の〔質〕を読み取り、人間の感性とイメージを重ねることを行う。・写真によるチェックを行う。・写生または写真からのドローイングにより記憶素としての確認を行う。・眼差しによる言葉をつづること。(箇条書でよいがキーワードやキャプションが必要)・適宜、報告と情報交換をゼミ形式で行う。発表者はメモを用意する。・2-3名のグループ行動がよいと思われる。・提出物は感性ノートⅡ A4版(20P)クリアファイル(A4用紙に写真またはコピーを添付(コメント付き)20枚以上/ドローイング2枚・カメラ(できればマニュアルカメラ)を所有すること。・その他指示による。

内 容

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 講義
- 第3回 取材①
- 第4回 取材①
- 第5回 取材①
- 第6回 講義
- 第7回 課題(設計 ドローイング)
- 第8回 課題(設計 ドローイング)
- 第9回 課題(設計 ドローイング)
- 第10回 取材②
- 第11回 取材②
- 第12回 取材②
- 第13回 発表・講評
- 第14回 発表・講評
- 第15回 ノート作成(提出)

授業以外での学習方法

つね日頃、カメラを持参すること。環境のすみずみに息づく空間に興味を持つこと。空間の〔質〕を問うこと。撮影すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ

担当者 河野 良平

テーマ

テーマに沿った空間のデザインと就職活動について

獲得目標

与えられたテーマから浮かんだアイデアを図面や模型で表現する。また、就職活動に関して理解を深める。

授業の内容

あるテーマに沿って空間をデザインする。例えば、「渦巻き型の家」とか「不安定な空間」等。テーマから思いついたアイデアを生かすにはどうすれば良いか、図面や模型を使って考える。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表1
 - 第3回 発表1
 - 第4回 発表1
 - 第5回 発表1
 - 第6回 発表2
 - 第7回 発表2
 - 第8回 発表2
 - 第9回 発表2
 - 第10回 発表3
 - 第11回 発表3
 - 第12回 発表3
 - 第13回 発表3
 - 第14回 ショールーム見学、まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <c>

担当者 竹山 清明

テーマ

3Dキャドであるアーキキャドでの建築設計に習熟する

獲得目標

卒業制作や卒業後の実地での設計に対応できる3Dキャドの建築設計力の基礎を獲得する

授業の内容

フリーハンドで建築計画を作成した後、3Dキャドでパソコンの中に仮想の建築物を作成する

内 容

- 第1回 フリーハンドによる建築計画の作成1
 - 第2回 フリーハンドによる建築計画の作成2
 - 第3回 フリーハンドによる建築計画の作成3
 - 第4回 フリーハンドによる建築計画の作成4
 - 第5回 フリーハンドによる建築計画の作成5
 - 第6回 キャドによる仮想建築の作成1
 - 第7回 キャドによる仮想建築の作成2
 - 第8回 キャドによる仮想建築の作成3
 - 第9回 キャドによる仮想建築の作成4
 - 第10回 キャドによる仮想建築の作成5
 - 第11回 キャドによる仮想建築の作成6
 - 第12回 キャドによる仮想建築の作成7
 - 第13回 キャドによる仮想建築の作成8
 - 第14回 キャドによる仮想建築の作成9
 - 第15回 プレゼンテーションボードの作成
-

授業以外での学習方法

キャドを用いての自己学習

教科書

ArchiCad StarterBook

著者： 新 貴美子

出版社： GRAPHISOFT

出版年： 2010

ISBN： 9.78491E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <d>

担当者 松本 正富

テーマ

卒業制作・論文に向けたテーマとコンセプトの模索

獲得目標

生活環境やデザインを扱う分野において自分の興味対象を絞り込み、魅力とやりがいのある卒業制作・論文の題材を見つけ出す

授業の内容

1) 各自の興味を抱いた内容について調査分析し、ビジュアル的に配慮したプレゼンテーションに纏める。これに対するディスカッションを繰り返すなかで、テーマの絞り込みとコンセプトの構想につなげる。2) 数回の建築見学会を開催する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 課題の設定
 - 第3回 プレゼンテーション-1
 - 第4回 プレゼンテーション-2
 - 第5回 プレゼンテーション-3
 - 第6回 プレゼンテーション-4
 - 第7回 プレゼンテーション-5
 - 第8回 建築見学会-1
 - 第9回 卒業制作・論文のテーマ設定-1
 - 第10回 卒業制作・論文のテーマ設定-2
 - 第11回 卒業制作・論文のテーマ設定-3
 - 第12回 卒業制作・論文のテーマ設定-4
 - 第13回 卒業制作・論文のテーマ設定-5
 - 第14回 建築見学会-2
 - 第15回 まとめと講評 ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。
-

授業以外での学習方法

建築・美術関係の展覧会や講演会への参加、見学旅行等、デザインを学ぶ者としての積極的な活動を望む。その中で、モノを創造する際の自分なりの“こだわり”を見つけ出してくれることを期待する。

教科書

建築系学生のための卒業設計の進め方

著者： 日本建築学会 編

出版社： 井上書院

出版年： 2009

ISBN： 9.78475E+12

参考書

コンパクト設計資料集成

著者： 日本建築学会編

出版社： 丸善株式会社

出版年： 2005

ISBN： 9.78462E+12

成績評価

a502030254

試験 ()
授業中課題 (30)
参加度 (40)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈e〉

担当者 西山 紀子

テーマ

空間の構成要素(エレメント)のデザインについて

獲得目標

自らが最も高い関心を持つ空間の構成要素(以下エレメントと称する。)について調査・報告を行い、明らかになった問題点を課題にして取り組むことで、建築・インテリアについての独自の視点を養う。専門演習Ⅰに引き続き、客観的に分析・考察を行う力や文章や図表にまとめる、言葉で話すなどの表現力を身につける。

授業の内容

エレメントについて、社会の情勢や将来の状況を見極め、自分が取り組むべき問題もしくは最も取り組みたいと思う問題は何かを考え、そのテーマが持つ意義を確認し、新たな提案を試みる。

内 容

- 第1回 テーマの策定(エレメントについての発表、討論を行うなどして、問題意識を掘り起こす。)
- 第2回 各自のテーマに基づいた調査の結果および分析・考察→発表、討論(全員対象、レジュメを作成の上、写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫すること。)→レポートの作成・提出
- 第3回 各自のテーマに基づいた調査の結果および分析・考察→発表、討論(全員対象、レジュメを作成の上、写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫すること。)→レポートの作成・提出
- 第4回 各自のテーマに基づいた調査の結果および分析・考察→発表、討論(全員対象、レジュメを作成の上、写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫すること。)→レポートの作成・提出
- 第5回 各自のテーマに基づいた調査の結果および分析・考察→発表、討論(全員対象、レジュメを作成の上、写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫すること。)→レポートの作成・提出
- 第6回 各自のテーマに基づいた調査の結果および分析・考察→発表、討論(全員対象、レジュメを作成の上、写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫すること。)→レポートの作成・提出
- 第7回 各自のテーマに基づいた調査の結果および分析・考察→発表、討論(全員対象、レジュメを作成の上、写真、動画の提示などテーマの特性を考慮した発表形式を工夫すること。)→レポートの作成・提出
- 第8回 各自がテーマに選んだエレメントを活かしたもしくは店舗もしくは事務所併用住宅の設計
- 第9回 各自がテーマに選んだエレメントを活かしたもしくは店舗もしくは事務所併用住宅の設計
- 第10回 各自がテーマに選んだエレメントを活かしたもしくは店舗もしくは事務所併用住宅の設計
- 第11回 各自がテーマに選んだエレメントを活かしたもしくは店舗もしくは事務所併用住宅の設計
- 第12回 各自がテーマに選んだエレメントを活かしたもしくは店舗もしくは事務所併用住宅の設計
- 第13回 設計課題プレゼンテーション
- 第14回 見学会(住宅、社寺など)
- 第15回 見学会(住宅、社寺など)

授業以外での学習方法

日常よりいろいろなエレメントについて関心を持ち、データとして活用できるように記録、整理しておくこと。また建築・インテリア関連の図書や雑誌だけでなく、新聞を読む、テレビや映画を観る、講演会に参加するなど、広い視野を持って情報を得るよう心がける。

教科書

必要に応じて指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

a502030255

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈f〉

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アートを伝える、文化を創る(その2) —アーツマネジメント経験の伝達と理論化

獲得目標

1)自分のアーツマネジメント活動を発表できるようになる 2)卒業後の自分の仕事イメージを形成できるようにする 3)実演芸術、視覚芸術、言語芸術のほか、冠婚葬祭イベントなど自分のテーマをみつけ、将来の自分の仕事との関係を考える

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 4回生の卒業研究中間報告に参加①
- 第3回 4回生の卒業研究中間報告に参加②
- 第4回 京都学生芸術作品展アーツバーの企画・運営①
- 第5回 京都学生芸術作品展アーツバーの企画・運営②
- 第6回 京都学生芸術作品展アーツバーの企画・運営③
- 第7回 秋の文化イベントの参加(アーツ鑑賞になる可能性あり)
- 第8回 卒業研究に関わるレジュメを作って発表する①
- 第9回 卒業研究に関わるレジュメを作って発表する②
- 第10回 卒業研究に関わるレジュメを作って発表する③
- 第11回 文化プロデュースの実践の仕方・・・めくるめく紙芝居など、現地でのワークショップ
- 第12回 キャリア研究① 自分のキャリアとアーツマネジメント
- 第13回 キャリア研究② 生活と文化プロデュース分野を探る
- 第14回 キャリア研究③ 限界芸術と冠婚葬祭
- 第15回 まとめ 卒業研究をこれから深めるために

授業以外での学習方法

就職活動との連動に配慮する 卒業研究について、制作の場合は、この秋からスタートにする て、自分が購読すべき文献リストとスケジュールを作る課題を出すので、それに従って努力すること。また、学外で研究成果を発表する機会を作る(紹介する)ので、積極的に参加すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a502030256

日ごろの実践活動をノートやブログ、ツイッターなどにして見えるようにすること。その自分の行動のプロセスを客体化している様子を評価に加えたい。

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄のメインサイト

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <g>

担当者 木下 達文

テーマ

プロジェクトマネジメント & 空間プロデュース(2) ～専門研究の展開と仕事研究の準備～

獲得目標

本演習では、まず夏休みに実施した各自のアパレンティスシップの報告を通じて、各々の経験を共有し、自分たちの将来について考えるを行う。また、後半では各自のテーマ内容をより深め、基礎知識から専門知識へと高めていく。卒業論文と同時に就職の準備サポートも可能な限り行う。あわせて、サブプログラムの継続実施をし、応用実践の一連のプログラムを学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション(授業目標)
 - 第2回 アパレンティスシップ報告(1)
 - 第3回 アパレンティスシップ報告(2)
 - 第4回 前期に確立した研究・活動スケジュールの修正
 - 第5回 文献研究の整理(1)
 - 第6回 文献研究の整理(2)
 - 第7回 文献研究の整理(3)
 - 第8回 中間発表(1)
 - 第9回 中間発表(1)
 - 第10回 個別研究課題の設定
 - 第11回 個別研究課題の調査(1)
 - 第12回 個別研究課題の調査(2)
 - 第13回 期末発表(1)
 - 第14回 期末発表(2)
 - 第15回 評価とまとめ
-

授業以外での学習方法

個別研究課題を設定するのに時間がかかる人が多いため、なるべく早くからさまざまな社会的関心をもち、候補をいくつか考えるようにしてほしい。また、文献も収集するのに時間がかかるため、日頃から情報アンテナを広げる癖をつけるようにしてほしい。また、前期に引き続き、メーリングリストなどインターネット環境使ったコミュニケーションと指導を行うのと、全体で行うサブプログラムを継続実施する。なお、必要に応じてゼミ会も行う。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

a502030257

特に出席を重視する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <h>

担当者 織田 直文

テーマ

まちの元気づくりプロデュース＋卒論テーマ探しの旅。

獲得目標

活性化が求められているまちの元気づくりプロデュース力の獲得とあわせ、各自が卒業研究計画書を作成する。

授業の内容

具体的なイベント企画・実施をする。また、卒論研究活動に向け、各自がテーマを検討する。テーマは例えば祭・イベント、歴史を活かしたまちづくり、自然・環境を活かしたまちづくり、伝統産業・観光等の振興、町家・町並み、中心市街地や歴史的商店街の活性化等である。

内 容

- 第1回 後期の進め方、まちづくり事業企画についての講義
 - 第2回 地域イベント企画への参加
 - 第3回 地域イベント企画への参加
 - 第4回 地域イベントへのスタッフ参加
 - 第5回 地域イベントへのスタッフ参加
 - 第6回 地域イベントの反省
 - 第7回 卒業研究に向けての発表①
 - 第8回 卒業研究に向けての発表②
 - 第9回 卒業研究に向けての発表③
 - 第10回 卒業研究に向けての発表④
 - 第11回 卒業研究に向けての発表⑤
 - 第12回 政策系大学・大学院研究交流大会への参加。
 - 第13回 卒業研究に向けての発表⑥
 - 第14回 卒業研究に向けての発表⑦
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

卒業研究を念頭に、日頃から情報収集を行いスクラップする。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ <i>

担当者 谷口 知司

テーマ

観光ビジネス、観光文化、観光情報と観光資源・文化資源の情報化に関する研究

獲得目標

観光メディア、観光情報、観光ビジネス、観光文化についての総合的な知識を身につけるとともに、観光資源や文化資源等の情報化のための基礎的な理論や技術と、その周辺の知識・技術を習得する。また、卒業研究への発展性を考慮し、早い時点から興味のあるテーマを見つけ出すことを、あわせて要求する。なお、教科書の輪読を併せて行う。

授業の内容

内 容

- 第1回 京都まちなかアーカイブ事前学習 前期で学習したデジタル・アーカイブの知識や技術を活用し、京都まちなかアーカイブを行う。また、新たにGPSによる位置情報や撮影方向などの記録を同時に取得する方法について学ぶ。
- 第2回 京都まちなかアーカイブ事前学習
- 第3回 京都まちなかアーカイブ事前学習
- 第4回 京都まちなかアーカイブ事前学習
- 第5回 京都まちなかアーカイブを行う。
- 第6回 ツーリズムの形態について学ぶ。1班3名のグループを構成し、グループによる課題研究方式で、ツーリズムの形態(エコ、グリーン、産業、都市etc)や、その意味・意義・課題等について研究する。また、特定の地域におけるそれぞれの形態での旅の計画を行う。なお、研究成果は指定された日に発表することを要求する。課題解決の方法ならびに発表内容については適宜指導する。
- 第7回 ツーリズムの形態について学ぶ。
- 第8回 ツーリズムの形態について学ぶ。
- 第9回 ツーリズムの形態について学ぶ。
- 第10回 ツーリズムの形態について学ぶ。
- 第11回 課題発表
- 第12回 卒業論文のテーマについて考える。
- 第13回 卒業論文のテーマについて考える。
- 第14回 卒業論文のテーマについて考える。
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

観光ビジネス論

著者： 谷口知司編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010年

ISBN:

成績評価

a502030259

試験 (0)
授業中課題 (30)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅱ〈J〉

担当者 金武 創

テーマ

観光/文化とビジネスマインド

獲得目標

ビジネス・マインドを基礎にした文化プロデュースを学ぶ姿勢を確立する

授業の内容

①基本文献講読、②討論による企画立案、③卒論準備のための文章力訓練(専門演習Ⅰ、Ⅱ共通)・読む、書く、話す、考える、伝える等、様々な学習方法を通して、専門領域の学習はいうまでもなく、オリジナルな卒論執筆に向けた準備を進める。苦手分野を平均レベルにあげることを念頭に、授業外で就職活動についての相互サポートを積極的に実施し、学生生活の充実を共通目標に定めて、4回生春の内定獲得を副次的目標とする。

内 容

- 第1回 「場のマネジメント」を読む①
- 第2回 「場のマネジメント」を読む②
- 第3回 「観光文化学」を読む①
- 第4回 「観光文化学」を読む②
- 第5回 「人を助けるとはどういうことか」を読む①
- 第6回 「人を助けるとはどういうことか」を読む②
- 第7回 卒論準備書誌情報作成①
- 第8回 卒論準備書誌情報作成②
- 第9回 卒論準備書誌情報作成③
- 第10回 旅行企画①
- 第11回 旅行企画②
- 第12回 旅行企画③
- 第13回 「アートに関わるエキスパート」『実践知』を読む①
- 第14回 「アートに関わるエキスパート」『実践知』を読む②
- 第15回 「アートに関わるエキスパート」『実践知』を読む③ ※なお、この授業では必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

実践知

著者： 金井壽宏/楠見孝

出版社： 有斐閣

出版年： 2012

ISBN：

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (60)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a502030260

授業出席と授業中課題は成績評価の最低条件です。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築・インテリア設計演習VI**

担当者 竹山 清明

テーマ

集合住宅の計画・デザイン

獲得目標

公共施設(コミュニティーセンター・図書館・学校)の設計を行う。地域に密着した小規模の公共施設を想定し、他の事例を参考にしながら新しい公共空間を提案する。主要室は美しく快適で機能的な空間となるよう配慮する。建築計画に関して、公共部分と管理・事務部門を明確に区分けし、動線について十分検討する。建築基準法に関して、容積率・建蔽率に加え二方向避難を確認する。構造はRC造または鉄骨造とする。

授業の内容

集合住宅の配置計画・住棟計画・住戸計画・構造計画・設備計画・全体デザイン・詳細デザインなどについて、具体的に学ぶ

内 容

- 第1回 課題趣旨説明、事例紹介、設計のポイント
 - 第2回 コミュニティーセンターの事例調査発表
 - 第3回 配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
 - 第4回 平面・立面・断面図の作成
 - 第5回 講評
 - 第6回 図書館の事例調査発表
 - 第7回 配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
 - 第8回 平面計画図の作成
 - 第9回 立面・断面図の作成
 - 第10回 講評
 - 第11回 学校の事例調査発表
 - 第12回 配置計画、全体計画、構造・設備計画案の作成
 - 第13回 平面計画図の作成
 - 第14回 立面・断面図の作成
 - 第15回 講評
-

授業以外での学習方法

自分の気に入ったデザインの集合住宅デザインのあり方を探る

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **観光・都市デザイン事例研究**

担当者 織田 直文

テーマ

観光まちづくりプランを作ろう

獲得目標

観光振興を通して地域(都市)を活性化する「観光まちづくり」の手法を学び、さらにフィールドワークやグループ別ワークショップを通して実効性ある活性化プランを作成することで、観光振興や地域振興に関する知識・技法を学ぶ。またプラン作成を通し、調査力や企画力を習得する。

授業の内容

当初は、観光を通じて地域を活性化する「観光まちづくり」の手法について講義をする。次いで、山科地域をフィールドワーク地として現地調査や資料収集にあたり、グループ別ワークショップにより、活性化プランを作成してもらう。

内 容

- 第1回 講義の進め方、「観光まちづくり」に関する講義①。受講学生自己紹介とグループ分け作業。
 - 第2回 「観光まちづくり」に関する講義②。グループ分け作業。
 - 第3回 グループ別の現地調査方針、計画討議。
 - 第4回 全員での山科地域現地調査①。レポート出題。
 - 第5回 全員での山科地域現地調査②。レポート出題。
 - 第6回 現地調査結果のグループ別まとめ(ワークショップ)。
 - 第7回 グループ別計画案作成ワークショップ①。
 - 第8回 グループ別計画案作成ワークショップ②。
 - 第9回 中間報告会①。
 - 第10回 中間報告会②。
 - 第11回 中間レポート修正ワークショップ。
 - 第12回 最終報告会①。
 - 第13回 最終報告会②。
 - 第14回 最終報告案の修正、完成ワークショップ。
 - 第15回 最終報告書提出と講評。授業の総括。
-

授業以外での学習方法

山科地域でのケーススタディを行うので、身近な所にある観光資源を調べておく。また、グループ別研究では、授業以外にかなりの活動時間を要することを承知しておいてください。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

グループ研究成果評価と個人評価を総合化して成績評価をします。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **京都ツーリズム論**

担当者 織田 直文

テーマ

京都を舞台に地域資源ネットワークの新機軸を創ろう

獲得目標

1,200年の歴史を有する京都の都をはじめとし、多くの観光資源に恵まれている「京都府」地域を対象に、そこにある観光資源を新たに評価し直し、資源ネットワークによる魅力創出を意識しながら新しい「観光ツアー」のあり方を考える。ツアー企画を行うことで、観光への理解を深めるとともに、企画力を身につける。

授業の内容

当初は講義方式で京都(京都市+京都府下)観光について学ぶが、その後はグループに分かれ、自主的に調査・研究活動を行いながら、新しい「京都観光ツアー」の企画を行う。成果は中間報告と最終報告を経て、とりまとめてもらう。なお、フィールドワーク(現地調査)の実施、また観光ツアー関係者による特別講義を行う予定である。

内 容

- 第1回 講義の進め方と観光・ツーリズムの概説。受講生自己紹介とグループ分け。
- 第2回 京都観光の現状と課題、観光資源に関する学習①。
- 第3回 観光資源に関する学習②。
- 第4回 グループ分け確定と現地調査企画ワークショップ。
- 第5回 現地調査①。
- 第6回 現地調査②。
- 第7回 京都観光ツアー関係者による特別講義。
- 第8回 京都観光ツアー新企画研究①。
- 第9回 京都観光ツアー新企画研究②。
- 第10回 企画案中間報告①。
- 第11回 企画案中間報告②。
- 第12回 企画案修正ワークショップ。
- 第13回 最終案報告①。
- 第14回 最終案報告②。
- 第15回 最終案提出と講評。講義の総括。

授業以外での学習方法

京都(京都市+京都府下)観光に関する情報をいろいろと集めてください。グループ研究では、授業外活動をかなりしてもらう必要があります。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

a502033910

この授業では、グループ別研究をしてもらいます。フィールドワークやワークショップ型ですので、人数の上限があります。成果はグループ研究成果の評価と個人評価を総合的にみて判断します。なお、フィールドワークに伴い、交通費、入館料、資料購入費等が発生しますが、それらは学生負担となりますので、了解しておいてください。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **空間デザイン演習**

担当者 井上 信太

テーマ

空間デザインとワークショップ

獲得目標

1、五感で感じる空間を体験する 2、即興的にオリジナルの発想力を養う 3、ワークショップを通してコミュニケーション能力を養う
上記三点の課題を軸に据え、空間から「感じる力」を習得する。

授業の内容

テーマに基づいた課題を通し、デザイン、ダンス、音楽、美術の表現方法を約90分のワークショップでディスカッションしながら学びます。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 空間ワークショップ1(絵を描く)
 - 第3回 空間ワークショップ2(音を奏でる)
 - 第4回 空間ワークショップ3(コンテンポラリーダンスを見る、体験する)
 - 第5回 空間ワークショップ4(立体制作)
 - 第6回 空間ワークショップ5(映像)
 - 第7回 空間ワークショップ6(絵を描く:コラージュ)
 - 第8回 空間ワークショップ7(即興で演奏する)
 - 第9回 ピクニック演習
 - 第10回 空間ワークショップ8(紙芝居作り)
 - 第11回 空間ワークショップ9(物語作り)
 - 第12回 空間ワークショップ10(音作り)
 - 第13回 空間ワークショップ11(即興で遊ぶ)
 - 第14回 空間ワークショップ12(リハーサル)
 - 第15回 空間ワークショップ13(発表会)
-

授業以外での学習方法

いつでも、どこでも、どんなときでも、自己の空間をたのしむ。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (100)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

ひつじかいの放牧日和

<http://grandsheep.exblog.jp/>

井上信太のブログ

羊飼プロジェクト

<http://www.grandsheep.com/>

井上信太のホームページ

facebook/井上信太

<http://www.facebook.com/shinta.inoue>

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) <a>

担当者 河野 良平・松本 正富

テーマ

卒業研究について考える

獲得目標

論文のテーマを探し、資料を集める。研究対象を分析し、新しい知見を得る。

授業の内容

各自進捗状況を報告する。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表1
 - 第3回 発表1
 - 第4回 発表1
 - 第5回 中間発表
 - 第6回 発表2
 - 第7回 発表2
 - 第8回 発表2
 - 第9回 発表3
 - 第10回 発表3
 - 第11回 発表3
 - 第12回 発表4
 - 第13回 発表4
 - 第14回 発表4
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

普段から新聞、建築関係の雑誌・専門誌、建築・インテリア関連の図書、テレビ、インターネット、講演会、建築の見学や展覧会などを通して、興味のあるものについて積極的に情報や資料を収集する。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都)

担当者 今井 裕夫

テーマ

卒業論文を完成させる(2)調査の整理と論文の完成

獲得目標

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の内容

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○進捗状況を相互に確認する。○10月中を目途に中間発表を実施する。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○卒業研究を進めるための個別指導を行う。・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検 ○口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表1
 - 第3回 発表1
 - 第4回 発表1
 - 第5回 発表2
 - 第6回 発表2
 - 第7回 発表2
 - 第8回 発表3
 - 第9回 発表3
 - 第10回 発表3
 - 第11回 発表4
 - 第12回 発表4
 - 第13回 発表4
 - 第14回 発表または見学
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (30)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) <c>

担当者 上原 恵美

テーマ

卒業論文を完成させる(2)調査の整理と論文の完成

獲得目標

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の内容

卒業研究を進めるための一般的指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○進捗状況を確認する ○10月初旬に中間発表を実施する。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○卒業研究を進めるための個別指導を行う。・理論構成および文章のチェック ・資料の再点検 ○口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表1
 - 第3回 発表1
 - 第4回 発表1
 - 第5回 発表2
 - 第6回 発表2
 - 第7回 発表2
 - 第8回 発表3
 - 第9回 発表3
 - 第10回 発表3
 - 第11回 発表4
 - 第12回 発表4
 - 第13回 発表4
 - 第14回 要約について
 - 第15回 口頭試問に向けて
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (30)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) <d>

担当者 織田 直文

テーマ

研究テーマに沿った論文を完成させる

獲得目標

各自が卒業研究テーマに沿って調査、作業を進めた成果をもとに論文にまとめることで、課題発見力、調査研究能力、論理的思考、ゼミ発表・論文文章化による表現力などを向上させる。

授業の内容

各自のテーマに沿って、卒業論文を仕上げる。また、政策系大学・大学院研究交流大会での発表をめざす。

内 容

- 第1回 後期の進め方。論文の書き方について。
 - 第2回 卒論成果発表と討論。
 - 第3回 卒論成果発表と討論。
 - 第4回 卒論成果発表と討論。
 - 第5回 卒業研究中間報告会。
 - 第6回 卒業研究中間報告会。
 - 第7回 教員による卒論に対する全体講評と修正指導。
 - 第8回 卒論成果発表と討論。
 - 第9回 卒論成果発表と討論。
 - 第10回 卒論成果発表と討論。
 - 第11回 政策系大学・大学院研究交流大会への参加。
 - 第12回 政策系大学・大学院研究交流大会への参加。
 - 第13回 卒論への取り組み反省会。
 - 第14回 卒論への取り組み反省会。
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

卒論の書き方を十分習得したうえで、執筆する。過去の優秀論文を参考にする。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (10)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) <e>

担当者 木下 達文

テーマ

卒業論文を完成する。

獲得目標

課題に見合った研究方法を身につけ、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成する。

授業の内容

内 容

- 第1回 卒論進捗報告(結論)
 - 第2回 卒論進捗報告(結論)
 - 第3回 卒論進捗報告(結論)
 - 第4回 卒論進捗報告(結論)
 - 第5回 卒論中間報告会
 - 第6回 卒論最終報告(全体)
 - 第7回 卒論最終報告(全体)
 - 第8回 卒論最終報告(全体)
 - 第9回 卒論最終報告(全体)
 - 第10回 卒論ドラフト相互チェック
 - 第11回 卒論ドラフト相互チェック
 - 第12回 口頭試問の準備
 - 第13回 口頭試問の準備
 - 第14回 口頭試問の準備
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (45)

小テスト (0)

授業中発表等 (55)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) <f>

担当者 小暮 宣雄

テーマ

アーツマネジメント研究の完成

獲得目標

アーツマネジメント研究として卒業研究(論文・制作)の作業を続け完成させること 卒業研究(論文・制作)を要約して対外的に提示できるようにすること

授業の内容

内 容

- 第1回 はじめに
 - 第2回 夏休みの作業の報告とこれからのスケジュールづくり
 - 第3回 卒業論文の進捗状況の把握と疑問点の解消
 - 第4回 卒業制作の準備・手伝い
 - 第5回 卒業制作の本番における参加(本人は作業)
 - 第6回 卒業論文の部分的発表と点検(1)
 - 第7回 卒業論文の部分的発表と点検(2)
 - 第8回 卒業論文の部分的発表と点検(3)
 - 第9回 卒業論文の部分的発表と点検(4)
 - 第10回 これからのアーツマネジメントと私たち(総括的に)
 - 第11回 卒業論文の完成と添削(1)
 - 第12回 卒業論文の完成と添削(2)
 - 第13回 卒業論文の完成と添削(3)
 - 第14回 卒業研究を要約し対外的に伝えるために
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

卒業制作の場合は、現場の作業。卒業論文は現地調査などのあと、自分自身の論稿をまとめる作業を各自行うこと。研究室で個別添削。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宜雄のブログ

フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) <g>

担当者 杉山 泰

テーマ

英国から学ぶ都市環境デザインと卒業論文執筆(論文の書き方研究)

獲得目標

後期は論文作成指導中心になる。factとopinionとの違いを具体的に学んでいく。大学としての祭り「橘祭」をいかに盛り上げ、ゼミとして何ができるのかを考えてもらう。英国の文化政策の比較という観点を入れた卒論のテーマか、あるいは、東日本大震災と原発事故を経験して発生した新たなエネルギー・シフトという観点からの卒論テーマを確定する。自然エネルギー問題、食のマクドナルド化、太陽光(エコファームなど)を利用したエコ建築、スローライフと原発、自然繊維の和服、オーガニック的食やマクロビオティックの食など、衣食住という文化を新しい角度から眺めるような卒論を完成させていく。

授業の内容

内 容

- 第1回 通った(落とされた)企業の報告。その企業研究。
- 第2回 卒論テーマと論文のユニークな点を発表。(1人10分)
- 第3回 卒論テーマと論文のユニークな点を発表。(中間発表用レジュメ)
- 第4回 卒論中間発表用のレジュメ作成。
- 第5回 今年度最大の問題(原発事故からの復興、福島除染問題、エネルギーシフト、アベノミクスの効果、電気代値上げ問題、憲法九条改正問題、領土問題などを新聞記事を切り抜いて発表する)
- 第6回 今年度最大の問題を取り上げる。
- 第7回 卒論テーマに現代日本の問題をどう取り込めるのか?
- 第8回 卒論の「結論」を考える。
- 第9回 卒論全体をタイプで打ち、完成させる。
- 第10回 「卒業論文集」を作成する。
- 第11回 就活のまとめ(持続中の学生はその報告)
- 第12回 再度「ブラック企業」の研究。労働法や労働組合についての議論。
- 第13回 思い出づくりをゼミとしてどうするか、計画する。
- 第14回 「卒業論文集」の完成。
- 第15回 全員で思い出を形として残すことを考える。

授業以外での学習方法

京都の古本市(11月初旬)見学、フリーマーケット(天神さん、弘法さん、知恩寺)、山科駅前陶灯路への積極的参加。

教科書

授業中にプリント配布。ただ、さまざまな本を紹介するので、各自自宅で卒業論文に必要な本は購入して読んでもらう。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) <h>

担当者 竹山 清明

テーマ

アーキヤドを用いた卒業制作(建築・インテリアの計画・デザイン)

獲得目標

アーキヤドを用いた質の高い卒業制作

授業の内容

フリーハンドとアーキヤドを組み合わせた卒業制作づくり

内 容

- 第1回 フリーハンドとアーキヤドによる作図1
 - 第2回 フリーハンドとアーキヤドによる作図2
 - 第3回 フリーハンドとアーキヤドによる作図3
 - 第4回 フリーハンドとアーキヤドによる作図4
 - 第5回 フリーハンドとアーキヤドによる作図5
 - 第6回 フリーハンドとアーキヤドによる作図6
 - 第7回 7フリーハンドとアーキヤドによる作図7
 - 第8回 フリーハンドとアーキヤドによる作図8
 - 第9回 フリーハンドとアーキヤドによる作図9
 - 第10回 フリーハンドとアーキヤドによる作図10
 - 第11回 フリーハンドとアーキヤドによる作図11
 - 第12回 フリーハンドとアーキヤドによる作図12
 - 第13回 フリーハンドとアーキヤドによる作図13
 - 第14回 フリーハンドとアーキヤドによる作図14
 - 第15回 フリーハンドとアーキヤドによる作図15
-

授業以外での学習方法

授業時間以外も自主学習を行う

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) <i>

担当者 谷口 知司

テーマ

卒業論文を完成させる(2)調査の整理と論文の完成

獲得目標

卒業論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。

授業の内容

卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導となる。各受講生の進捗状況によって各回の内容は異なるが、第1回から第15回にわたり、以下の内容で指導を進める。○進捗状況を相互に確認する。○10月中を目途に中間発表を実施する。○中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。○卒業研究を進めるための個別指導を行う。・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検 ○口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 発表1
 - 第3回 発表1
 - 第4回 発表1
 - 第5回 発表2
 - 第6回 発表2
 - 第7回 発表2
 - 第8回 発表3
 - 第9回 発表3
 - 第10回 発表3
 - 第11回 発表4
 - 第12回 発表4
 - 第13回 発表4
 - 第14回 発表または見学
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)
授業中課題 (30)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 専門演習Ⅳ(都) <j>

担当者 西山 紀子

テーマ

卒業論文を完成させる。(2)－調査の整理と論文の完成

獲得目標

卒業論文作成者は、論文の書き方をマスターし、卒業論文を完成させる。卒業研究作成者は、課題に見合った研究方法を身につけ、卒業研究を完成させる。

授業の内容

内 容

- 第1回 卒業研究を進めるための一般指導と、各自のテーマに応じた個別指導をする。進捗状況を相互に確認する。
- 第2回 中間発表
- 第3回 中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。
- 第4回 中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。
- 第5回 中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。
- 第6回 中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。
- 第7回 中間発表後、執筆要領、注意事項など細部について指導する。
- 第8回 卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検
- 第9回 卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検
- 第10回 卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検
- 第11回 卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検
- 第12回 卒業研究を進めるための個別指導を行う。 ・論理構成および文章のチェック ・資料の再点検
- 第13回 口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方
- 第14回 口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方
- 第15回 口頭試問に向けてのプレゼンテーションと質疑応答の方法を指導する。 ・レジュメの作成方法 ・質疑応答の仕方
なお、必要に応じて学外授業を行うことがある。

授業以外での学習方法

日常生活においても各自のテーマに係る関心を忘れずに、広く情報を得るように心掛けること。

教科書

必要に応じて指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

必要に応じて指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **災害看護学 I**

担当者 河原 宣子・磯見 智恵・奥野 信行・小野塚 元子・川口 淳・竹下 夏美・夏目 美樹・堀 妙子

テーマ

災害看護に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期のさまざまな看護の場における看護活動についてライフサイクルを踏まえて理解する。また、救命救急活動における基本的技術を習得する。

獲得目標

1.災害看護に関する基本的知識と援助技術を理解する。 2.ライフサイクル各期の災害看護活動を理解する。 3.国内諸地域および国際協力における健康危機管理とその対策、災害看護活動を理解する。 4.救命救急活動に必要なBLS、応急手当等を習得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 災害看護とは 災害に関する基礎知識、災害サイクル各期における災害看護活動、健康危機発生時の緊急対応、心的外傷後ストレス障害
- 第2回 地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システムと看護の役割
- 第3回 ライフサイクル各期における災害看護活動①
- 第4回 ライフサイクル各期における災害看護活動②
- 第5回 災害看護活動における国際協力
- 第6回 救命救急処置技術の基本
- 第7回 救命救急処置技術の演習(BLS、応急手当等)
- 第8回 救命救急処置技術の演習(BLS、応急手当等)

授業以外での学習方法

教科書

災害看護学習テキストー概論編ー

著者： 南裕子・山本あい子編集

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 最新刊

ISBN:

災害看護学習テキストー実践編ー

著者： 南裕子・山本あい子編集

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 最新刊

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 ヘルスプロモーション演習

担当者 北村 隆子・磯見 智恵・伊藤 恵美子・植村 由美子・河原 宣子・竹下 夏美・富永 真己・中橋 苗代・堀 妙子・家根 明子

テーマ

ヘルスプロモーションの学びを踏まえ、地域に暮らす健康レベルの高い人々を対象に、地域特性と人々のニーズを理解した上で、適切な健康増進活動を計画実施し、評価する

獲得目標

1. 健康教育の理論を理解する 2. 看護技術の一つとして、人々の健康生活を支援する方法を理解する 3. 人々の生活および健康に対するニーズを理解した上で、人々のセルフケア能力 育成のための健康教育プロセスを理解する 4. 地域および人々の特性に応じた健康教育の企画・立案・実施・評価の方法がわかる

授業の内容

健康教育の理論に基づき、健康保持増進のための支援方法を企画・実施し、評価する

内 容

- 第1回 健康教育企画・実施・評価についての講義
- 第2回 全体オリエンテーション 各グループのオリエンテーション
- 第3回 グループワーク① 健康に対するニーズの理解
- 第4回 グループワーク② 健康に対するニーズの理解
- 第5回 グループワーク③ 健康教育の企画書作成
- 第6回 グループワーク④ 健康教育の企画書作成
- 第7回 グループワーク⑤ 健康教育の指導案作成
- 第8回 グループワーク⑥ 健康教育の指導案作成
- 第9回 グループワーク⑦ 健康教育のシナリオ及び教材作成
- 第10回 グループワーク⑧ 健康教育のシナリオ及び教材作成
- 第11回 グループワーク⑨ 健康教育の活動準備
- 第12回 グループワーク⑩ 健康教育の実施および評価
- 第13回 グループワーク⑪ 健康教育の実施および評価
- 第14回 活動の報告・評価(全体発表会)①
- 第15回 活動の報告・評価(全体発表会)② 総括

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 プライマリケア論

担当者 河原 宣子・北村 隆子・竹下 夏美・富永 真己・堀 妙子・松本 賢哉・家根 明子

テーマ

プライマリケアの基本概念である。人々を取り巻く環境とあらゆる健康や疾病に対する総合的・継続的、全人的に対応する地域の政策と機能について学ぶ。ライフサイクル論やヘルスプロモーションを踏まえ、ライフサイクル各期における様々な健康レベルにある人と政策や施策等との関連および看護活動を理解する。

獲得目標

1.プライマリケアとプライマリヘルスケアの概念を理解する。2.保健・医療・福祉における看護の機能と看護活動のあり方の基礎を理解する。3.ライフサイクル各期の保健医療福祉対策と看護活動を理解できる。4.保健・医療・福祉における協働と連携の意義を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 プライマリケアの理念－プライマリケアとは、プライマリヘルスケアとは－人々の尊厳と権利を擁護する社会の仕組み－社会・文化と健康
- 第2回 プライマリヘルスケアと看護職の役割－国際看護の視点から－プライマリヘルスケア－社会・文化と健康
- 第3回 地域の特性と健康課題のアセスメントと看護介入－コミュニティ・アズ・パートナーモデル－健康に影響する環境と社会的要因の理解
- 第4回 保健医療福祉における看護機能－保健医療福祉制度と法律(概論)、看護の機能 保健医療福祉における協働と連携 地域ケアの構築と看護機能①－地域ケアに関わる医療政策－地域ケアの体制づくり－地域組織活動－ケアネットワークづくり－支援システムの構築
- 第5回 地域ケアの構築と看護機能② 地域組織活動とその育成の実際－健康課題に対する地域の組織的取り組み－集団の形成・発達－自立・自律支援－個人・グループ・機関との調整
- 第6回 在宅看護の理念・目的・歴史と看護の実際－個人と家族の生活アセスメントと看護援助
- 第7回 産業看護活動①
- 第8回 産業看護活動②
- 第9回 メンタルヘルスと保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動－個人・家族・地域のメンタルヘルスの促進
- 第10回 母子における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動
- 第11回 地域保健と学校保健①
- 第12回 地域保健と学校保健②
- 第13回 成人における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動－医療の仕組み、医療保険制度、診療報酬制度
- 第14回 高齢者における保健医療福祉対策の現状と課題、看護活動
- 第15回 まとめ－2回生「プライマリケア実習Ⅰ」に向けて－地域特性や社会資源に関する資料を活用して地域の健康課題を把握する意義－学校や職場などの健康課題を把握する意義
- 第16回 試験

授業以外での学習方法

受講に関する留意事項 1.参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。2.1回生前期までに使用した教科書はすべて本授業に関連するものである。各自で学習を深めること。3.1回生前期より作成している自己学習ノートを必ず継続すること。

教科書

看護師教育のための地域看護概説－公衆衛生看護を含む地域の看護に取り組むために

著者： 眞船拓子他編集

出版社： 新ヴェルヒロカワ

出版年： 最新刊

ISBN：

看護職のための社会福祉・社会保障

著者： 眞船拓子他編集

出版社： ヌーヴェルヒロカワ

出版年： 最新刊

ISBN:

参考書

成績評価

試験（70）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（30）

成績評価について(ア)試験(70%)→ただし、再試験は実施しない、(イ)参加度(30%)→出席は大前提。授業中に提示する山科区の地区視診課題で評価する。課題は1冊のノートにまとめていくこと。ノートは2回目の講義までに各自で準備し、持参すること。また、その後も必ず授業に持参してくること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ライフサイクル論実習**

担当者 堀 妙子・小野塚 元子・北村 隆子

テーマ

地域で生活するさまざまな発達段階の人と関わり、人の成長発達・健康・生活・環境の視点から対象を理解し、その健康課題を査定するために必要な基礎的能力を養う。

獲得目標

1. 地域で暮らす乳幼児や高齢者の成長発達に応じた身体的変化、認知や感情、心理社会的変化を理解し、説明できる。2. 地域で暮らす乳幼児や高齢者の日常生活の様子、環境について理解し説明できる。3. 地域で暮らす乳幼児や高齢者の成長発達・生活・環境と健康課題の関係について説明できる。4. 地域で暮らす乳幼児や高齢者との関わりにおいて、適切なコミュニケーションをとることができる。5. 地域で暮らす乳幼児や高齢者との関わりにおいて、相手を尊重する行動をとり、また守秘義務を遵守できる。

授業の内容

臨地実習及び学内演習・まとめを合わせて1週間の実習を行う。実習内容は、老人クラブの活動参加、保育園での実習、京あんしんこども館での見学実習などを予定している。詳細は実習要項をもとに、7月末～8月初め頃にオリエンテーションを行う。

内 容

- 第4回 保育園実習
- 第5回 京あんしんこども館見学実習
- 第6回 ライフサイクル論実習まとめ
- 第1回 学内オリエンテーション
- 第2回 学内演習
- 第3回 老人クラブの活動参加

授業以外での学習方法

ライフサイクル論での学びをもとに実習する

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

授業中課題は、実習に関連した提出物とする

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメントⅡ**

担当者 天野 博夫・梶谷 佳子・川上 ゆかり・林正 健二

テーマ

看護に必要な生理学、薬理学、病理学、栄養学等を系統的に学び、身体健康状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。

獲得目標

1.看護に必要な人体の構造と機能を関連付けて説明できる。2.薬物療法の種類と効果について説明できる。3.組織や器官の正常な状態との比較から異常な状態を説明できる。4.看護に必要な栄養と代謝について説明できる。5.主要な疾患の症状、病因、病態、治療、予後について説明できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(1):咀嚼、嚥下
- 第2回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(2):消化
- 第3回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(3):吸収
- 第4回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(4):排泄
- 第5回 栄養と代謝(1):臨床栄養学の基礎知識
- 第6回 栄養と代謝(2):運動と栄養
- 第7回 栄養と代謝(3):人生各期における栄養
- 第8回 栄養と代謝(4):検査と回復促進のための食事
- 第9回 栄養と代謝(5):疾患治療のための食事
- 第10回 栄養と代謝(6):食事指導
- 第11回 子孫を残す仕組み(1):女性性器
- 第12回 子孫を残す仕組み(2):男性性器
- 第13回 体内の環境を整える仕組み(1):内分泌ホルモン
- 第14回 体内の環境を整える仕組み(2):内分泌器官
- 第15回 異物を認識し、記憶して排除する仕組み:免疫系 *1~15回 林正先生
- 第16回 生体機能の変調 ~病理学の基礎:病理学とは, 病因論
- 第17回 生体機能の変調 ~病理学の基礎:病理学とは, 病因論
- 第18回 先天異常と遺伝子異常
- 第19回 代謝障害
- 第20回 循環障害
- 第21回 炎症と修復
- 第22回 腫瘍 *16~22回 川上先生
- 第23回 生体機能を補う ~薬学の基礎
- 第24回 薬物療法と看護
- 第25回 薬物の作用と作用機序
- 第26回 薬物動態
- 第27回 薬物相互作用
- 第28回 薬物療法に影響を与える因子
- 第29回 薬物の有害作用
- 第30回 医薬品の管理 *23~30回 天野先生

授業以外での学習方法

教科書

ナーシンググラフィカ 解剖生理学

著者:

出版社: メディカ出版

出版年:

ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 病理学

著者:

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学

著者:

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

ナーシング・グラフィカ④臨床栄養学第

著者: 關戸啓子

出版社: メディカ出版

出版年:

ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂19版(上・下)

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年:

ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論、運動器系)

著者: 坂井建雄他監訳

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

ギャノン生理学原書23版

著者: 岡田泰信監訳

出版社: 丸善

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント演習Ⅱ**

担当者 中橋 苗代・植村 由美子・梶谷 佳子・片山 由加里・松本 賢哉

テーマ

フィジカルアセスメントⅠⅡで学んだ身体の機能と構造の知識に基づいて、身体の状態を理解し、健康状態を把握するための基本的技術を獲得する。

獲得目標

1.看護に必要な人体の構造と機能の知識を活用できる。2.成長発達の視点に基づき、身体についての情報収集ができる。3.情報収集に必要な診察技法(問診、視診、聴診、打診、触診)が活用できる。4.身体の状態の正常が理解できる。5.身体の状態の代表的な異常が理解できる。6.対象との援助的なコミュニケーションを展開できる。7.アセスメント過程での援助的關係を形成できる。

授業の内容

対象の身体状態を正確に判断するための基本的技術を学習します。学生同士がペアとなり、演習を実施します。

内 容

- 第1回 消化器系のアセスメント
- 第2回 栄養のアセスメント
- 第3回 脳神経系のアセスメント
- 第4回 筋・骨格系のアセスメント
- 第5回 排泄のアセスメント
- 第6回 感覚器系のアセスメント
- 第7回 お助け隊へのバイタルサイン測定
- 第8回 試験

授業以外での学習方法

・フィジカルアセスメントⅠⅡの知識を活用できるように、ビジュアル等の視聴覚教材を利用し知識を深めてください。・技術の修得は演習内では困難です。主体的に練習を行ってください。

教科書

ナーシンググラフィカ ヘルスアセスメント

著者： 川村佐知子他

出版社：メディカ出版

出版年：2010

ISBN：

参考書

フィジカルアセスメント完全ガイド

著者： 藤崎郁

出版社：Gakken

出版年：2001

ISBN：

フィジカルアセスメントガイド

著者： 山内豊明

出版社：医学書院

出版年：2000

ISBN：

フィジカルアセスメント

著者： 日野原重明

出版社： 医学書院

出版年： 1978

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト (70)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **家族看護学**

担当者 河原 宣子・小野塚 元子・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

家族看護に関する理論的知識体系を学び、ライフサイクルに沿って個人と家族の生活とその関連を把握し、家族の持つ健康課題に取り組む看護の役割を考える。

獲得目標

1.家族とは何か、また個人とどのように関連しているかを考える 2.家族理解のための諸理論を知る 3.家族看護に関する代表的な諸理論を知る 4.ライフサイクル各期における家族の生活と健康障害との関連、疾病・傷害が家族生活に及ぼす影響について理解する 5.ライフサイクル各期における家族への看護の役割を理解する

授業の内容

内 容

- 第1回 家族とは、家族機能とは、家族看護学の軌跡と対象
 - 第2回 家族アセスメントモデル・介入モデル、家族看護過程
 - 第3回 ライフサイクル各期における家族看護(家族形成期の援助)
 - 第4回 ライフサイクル各期における家族看護(病児を持つ家族の援助)
 - 第5回 ライフサイクル各期における家族看護(慢性的健康課題を有する療養者を抱える家族の援助)
 - 第6回 ライフサイクル各期における家族看護(精神障害者を抱える家族の援助)
 - 第7回 ライフサイクル各期における家族看護(在宅で高齢者を介護する家族の援助)
 - 第8回 家族理解のための諸理論、まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報科学Ⅱ〈A〉

担当者 井上 薫

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 保健統計学の基礎を理解する(人口統計の基礎: 主な健康指標)
- 第10回 保健統計学の基礎を理解する(人口静態統計: 日本の人口、年少人口、老年人口、世界の人口)
- 第11回 保健統計学の基礎を理解する(人口動態統計: 死亡と生命表、出生と人口再生産、死産、婚姻と離婚)
- 第12回 保健統計学の基礎を理解する(保健統計調査: 業務統計、調査統計)
- 第13回 保健統計学の基礎を理解する(指定統計: 国勢調査、国民生活基礎調査、患者調査医療施設調査、学校保健統計)
- 第14回 保健統計学の基礎を理解する(その他の統計調査: 感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査、身体障害者(児)実態調査) 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

a70101b550

試験 (40%)
授業中課題 (20%)
参加度 (20%)

小テスト ()
授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報科学Ⅱ〈B〉

担当者 井上 薫

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 保健統計学の基礎を理解する(人口統計の基礎: 主な健康指標)
- 第10回 保健統計学の基礎を理解する(人口静態統計: 日本の人口、年少人口、老年人口、世界の人口)
- 第11回 保健統計学の基礎を理解する(人口動態統計: 死亡と生命表、出生と人口再生産、死産、婚姻と離婚)
- 第12回 保健統計学の基礎を理解する(保健統計調査: 業務統計、調査統計)
- 第13回 保健統計学の基礎を理解する(指定統計: 国勢調査、国民生活基礎調査、患者調査医療施設調査、学校保健統計)
- 第14回 保健統計学の基礎を理解する(その他の統計調査: 感染症発生動向調査、食中毒統計、国民健康・栄養調査、身体障害者(児)実態調査) 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

a70101b552

試験 (40%)
授業中課題 (20%)
参加度 (20%)

小テスト ()
授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)〈A〉**

担当者 竹下 夏美・富永 真己

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第9回 演習(9) 4回生の看護研究演習Ⅱ発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 演習(10) 看護研究演習Ⅱ発表についての情報・意見交換
- 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b910

2/3以上の出席が必要である。後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)**

担当者 富永 真己 松本 賢哉

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b912

2/3以上の出席が必要である。後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<C>**

担当者 松本 賢哉・中橋 苗代

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b913

2/3以上の出席が必要である。後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<D>**

担当者 中橋 苗代・植村 由美子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b914

2/3以上の出席が必要である。後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<E>**

担当者 植村 由美子・奥野 信行

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b915

2/3以上の出席が必要である。後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<F>**

担当者 奥野 信行・小野塚 元子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b916

2/3以上の出席が必要である。後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<G>**

担当者 小野塚 元子・常田 裕子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b917

2/3以上の出席が必要である。後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<H>**

担当者 常田 裕子・中島 登美子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる 授業の内容

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b918

2/3以上の出席が必要である。後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<I>**

担当者 中島 登美子 梶谷 佳子

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b919

2/3以上の出席が必要である。後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ(看護)<J>**

担当者 梶谷 佳子・竹下 夏美

テーマ

大学で学ぶ姿勢、社会人としての姿勢を学ぶ

獲得目標

1. 主体的に学ぶ姿勢を身につける 1)スタディ・スキル (1)文章を読み、理解する(大学の講義の教科書レベル) (2)文章の書き方(一般的なレポート) (3)文献の探し方(基礎的な図書の探し方、図書館の利用方法) (4)コンピューターリテラシー(文書作成、Web情報等の活用、倫理的配慮) (5)ディスカッションの方法(論理的に発言、他者の意見を理解) 2)スチューデント・スキル (1)主体的な学習姿勢 (2)社会ルールやマナーを遵守する姿勢 (3)社会人としての自立 2. 知的好奇心をもつ 3. キャリアデザインが描ける 1)医療や保健、福祉の時事に問題意識をもつ 2)看護学に関心をもつ 4. 自らの健康と生活について文献を活用し、考察することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 演習(1) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第2回 演習(2) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第3回 演習(3) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第4回 演習(4) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第5回 演習(5) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第6回 演習(6) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第7回 演習(7) 前半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第8回 演習(8) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第9回 演習(9) 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 演習(10) 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 演習(11) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第12回 演習(12) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第13回 演習(13) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第14回 演習(14) 後半担当教員の指導のもと、グループディスカッション、文献講読、発表など
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (45)

小テスト ()

授業中発表等 (55)

a70101b920

2/3以上の出席が必要である。後期前半の教員が後半の教員の評価を取りまとめ総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **国際看護学 I**

担当者 竹下 夏美 河原 宣子 常田 裕子

テーマ

国際看護の概念を理解し、多文化共生社会における看護の役割について考える

獲得目標

1. 国際看護・異文化看護について理解するとともに、基礎的な知識を習得する 2. 医療(主として看護)における国際協力の実際を知る 3. 多文化共生社会における看護活動の考え方を理解することができる

授業の内容

内 容

- 第1回 授業ガイダンス、国際保健・国際看護とは何か (9/26)
- 第2回 国際看護の主要概念(10/3)
- 第3回 国際看護と異文化看護(10/10)
- 第4回 国際協力機関と協力の仕組み(10/17)
- 第5回 NGOの役割と動向(10/24)
- 第6回 在日外国人の医療と看護(多文化共生センター高嶋先生)(竹下)(10/31)
- 第7回 国際協力の実際④ ジェンダー、リプロダクティブヘルス(1)(11/7)(常田)
- 第8回 国際協力の実際① 保健医療システムと看護職の役割(11/14)
- 第9回 国際協力の実際② プライマリ・ヘルス・ケアの理念、プライマリヘルスケアにおける看護職の役割(竹下)(11/21)
- 第10回 国際協力の実際③ 日本の看護職による国際協力の実際(京都第一赤十字病院 近藤先生)(竹下)(11/28)
- 第11回 世界の健康問題の現状と諸要因(12/5)
- 第12回 国際協力の実際⑤ ジェンダー、リプロダクティブヘルス(2) (12/12)
- 第13回 国際協力の実際⑥ 社会的・文化的背景の異なる看護職との協働(12/19)
- 第14回 国際協力の実際⑦ 国際看護と看護教育(河原)(1/9)
- 第15回 多文化共生社会における看護について考える(まとめ)(1/16)

授業以外での学習方法

授業の内容と日程は、外部講師との関連で変更する場合があります。授業に関連した事前学習について、授業中提示したいと思っています。また、学生の皆さん自身も様々なメディアを通じて、世界の動向について、日常的に考える習慣を身につけましょう。また、国内外を問わず、医療や看護に関連した内容について興味・関心をもって考えてみましょう。

教科書

国際看護学入門

著者： 国際看護研究会編

出版社： 医学書院

出版年： 2010

ISBN:

世界の出産

著者： 松岡悦子・小浜正子編

出版社： 勉誠出版

出版年： 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験（60）

小テスト（）

授業中課題（20）

授業中発表等（10）

参加度（10）

ブックレポートを提出していただく予定です。但し、テキストの書籍2は変更になる場合があります。その折は早急にお知らせします。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 実践看護学Ⅱ

担当者 奥野 信行・天野 博夫・磯見 智恵・植村 由美子・梶谷 佳子・片山 由加里・河原 宣子・小淵 岳恒・中橋 苗代・堀 妙子・松浦 基博・松本 賢哉

テーマ

実践看護学Ⅰを踏まえ、さまざまな看護の対象と家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた看護過程を病態・治療の理解を含めて学ぶ。

獲得目標

1.急性期・回復期・リハビリテーション期・慢性期の健康レベルの考え方を理解する。2.健康レベルとライフサイクルを踏まえ、根拠に基づいた計画的な看護実践の基礎を理解する。3.特定の健康課題に対応する実践能力を養う。

授業の内容

内 容

第1回 1.科目ガイダンス、事例の説明、健康レベルの概念、健康レベルと看護過程 2.急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助-急性期の看護①:看護の特徴 3.急激な健康破綻と回復過程にある人々への援助-急性期の看護②:看護の実際 4.救急時の看護①:救急看護の特徴 5.救急時の看護②:救急看護の実際 6.救急時の看護③:受傷・発症からER入室まで、患肢の固定・包帯法 7.入院時の看護①:病歴聴取・全身状態の観察*, 実施する看護についての説明と同意(1) 8.入院時の看護②:病歴聴取・全身状態の観察*, 実施する看護についての説明と同意(2) 9.疼痛ケアと精神的ケア、家族へのケア 10.対人関係プロセス①:コミュニケーション、援助的関係の形成 11.対人関係プロセス②:精神状態のアセスメント 12.対人関係プロセス③:精神状態のアセスメント・介入 13.罂法 14.感染予防①:無菌操作、ガウンテクニック、医療廃棄物の取り扱い、スタンダードプリコーション(1) 15.感染予防②:無菌操作、ガウンテクニック、医療廃棄物の取り扱い、スタンダードプリコーション(2) 16.感染予防:感染症トピック 17.検査を受ける患者の看護①:生体検査 18.検査を受ける患者の看護②:画像診断、心電図等(1) 19.検査を受ける患者の看護③:画像診断、心電図等(2) 20.検査を受ける患者の看護④:画像診断、心電図等(3) 21.検査を受ける患者の看護⑤:放射線と放射線を使用する検査の理解 22.検査を受ける患者の看護⑥:放射線と放射線を使用する検査の理解-演習 23.検査を受ける患者の看護⑦:検体検査(1) 24.検査を受ける患者の看護⑧:検体検査(2) 25.検査を受ける患者の看護⑨:採血 26.与薬の看護①:与薬の基本(1) 27.与薬の看護②:与薬の基本(2) 28.与薬の看護③:特に小児看護における注射 29.与薬の看護④:注射(1) 30.与薬の看護⑤:注射(2) 31.与薬の看護⑥:特に小児看護における注射 32.与薬の看護⑦:輸液療法(1) 33.与薬の看護⑧:輸液療法(2) 34.与薬の看護⑨:特に小児看護における輸液療法 35.周手術期の看護の特徴①:危機理論(1) 36.周手術期の看護の特徴②:危機理論(2) 37.術前の看護-身体・精神面の評価と準備、観察・アセスメント項目① 38.術前の看護-身体・精神面の評価と準備、観察・アセスメント項目② 39.術前の看護-身体・精神面の評価と準備、観察・アセスメント項目③ 40.導尿 41.術中の看護① 42.術中の看護② 43.術後の看護-術後合併症に対する看護等-① 44.術後の看護-術後合併症に対する看護等-② 45.術後の看護-術後合併症に対する看護等-③ 46.術後の看護-術後合併症に対する看護等-④ 47.術後の看護-術後合併症に対する看護等-⑤ 48.慢性期看護① 49.慢性期看護② 50.慢性期看護③ 51.周手術期の看護過程の展開① 52.周手術期の看護過程の展開② 53.周手術期の看護過程の展開③ 54.周手術期の看護過程の展開④ 55.周手術期の看護過程の展開⑤ 56.周手術期の看護過程の展開⑥ 57.周手術期の看護過程の展開⑦ 58.周手術期の看護過程の展開⑧ 59.回復過程にある人々への援助-回復期・リハビリテーション期の看護の特徴① 60.回復過程にある人々への援助-回復期・リハビリテーション期の看護の特徴②

第2回 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学[2] 精神看護の展開

第3回 武井麻子

第4回 医学書院

第5回 最新刊

第6回 系統看護学講座別巻、臨床外科看護総論

第7回 矢永勝彦&小路美喜子編

第8回 医学書院

第9回 最新刊

第10回 系統看護学講座別巻、臨床外科看護各論

第11回 北島政樹&江川幸二編

第12回 医学書院

第13回 最新刊

第14回 系統看護学講座専門分野Ⅱ、成人看護学[3]、循環器、

第15回 上塚芳郎他著

第16回 医学書院

第17回 最新刊

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 実践看護学演習Ⅱ

担当者 梶谷 佳子・磯見 智恵・植村 由美子・奥野 信行・小野塚 元子・片山 由加里・河原 宣子・神崎 光子・中橋 苗
代・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

実践看護学Ⅱと対応しながら、さまざまな看護の対象とその家族、多様な看護の場における健康レベルに応じた必要な看護技術とその適用方法についてライフサイクルを踏まえて学ぶ。

獲得目標

- 1.健康レベルの各期(急性期・回復期・リハビリテーション期・慢性期)における看護援助技術を適切に実施する能力を修得する。
- 2.安全なケア環境を提供するための基礎的能力を修得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 情動・認知・行動への働きかけー病歴聴取・観察・モニタリング・コミュニケーション①
 第2回 情動・認知・行動への働きかけー病歴聴取・観察・モニタリング・コミュニケーション②
 第3回 情動・認知・行動への働きかけー病歴聴取・観察・モニタリング・コミュニケーション③
 第4回 救命救急処置技術・診療に伴う援助技術ー患肢の固定・包帯法
 第5回 安楽促進・苦痛の緩和ー罨法
 第6回 感染予防, 安全・事故防止の技術ー無菌操作, ガウンテクニック, 滅菌手袋の装着脱①
 第7回 感染予防, 安全・事故防止の技術ー無菌操作, ガウンテクニック, 滅菌手袋の装着脱②
 第8回 感染予防, 安全・事故防止の技術ー無菌操作, ガウンテクニック, 滅菌手袋の装着脱③
 第9回 感染予防, 安全・事故防止の技術ー無菌操作, ガウンテクニック, 滅菌手袋の装着脱④
 第10回 感染予防, 安全・事故防止の技術ー無菌操作, ガウンテクニック, 滅菌手袋の装着脱⑤
 第11回 感染予防, 安全・事故防止の技術ー手洗い・手指の培養検査
 第12回 医療処置の実施・管理ー採血①
 第13回 医療処置の実施・管理ー採血②
 第14回 医療処置の実施・管理ー採血③
 第15回 医療処置の実施・管理ー注射①
 第16回 医療処置の実施・管理ー注射②
 第17回 医療処置の実施・管理ー注射③
 第18回 医療処置の実施・管理ー輸液①
 第19回 医療処置の実施・管理ー輸液②
 第20回 医療処置の実施・管理ー輸液③
 第21回 医療処置の実施・管理ー導尿①
 第22回 医療処置の実施・管理ー導尿②
 第23回 医療処置の実施・管理ー導尿③
 第24回 医療処置の実施・管理ー酸素療法の管理, 吸入①
 第25回 医療処置の実施・管理ー酸素療法の管理, 吸入②
 第26回 医療処置の実施・管理ー酸素療法の管理, 吸入③
 第27回 医療処置の実施・管理ー洗腸, 消毒薬の準備①
 第28回 医療処置の実施・管理ー洗腸, 消毒薬の準備②
 第29回 医療処置の実施・管理ー洗腸, 消毒薬の準備③
 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

適宜指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護学実習Ⅱ**

担当者 梶谷 佳子・磯見 智恵・伊藤 恵美子・奥野 信行・小野塚 元子・片山 由加里・神崎 光子・竹 明美・中橋 苗代・松本 賢哉・家根 明子

テーマ

看護過程の理論を活用し、対象者が自らの健康問題を解決するために根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を培う。

獲得目標

1. 入院中の対象者を多面的に理解することができる。 2. 対象者の健康上の問題を解決するために既習の知識を活用し看護を展開することができる。 3. 対象者との人間関係を構築することができる。 4. 医療チームメンバーの一員として適切な人間関係を形成できる。 5. 実習体験を振り返り、看護観を自らの言葉で表現できる。

授業の内容

2回生後期に実施

内 容

第1回 実習要項参照

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (80)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

実習目標の達成度、実習中の態度、記録物、カンファレンスにおける参加等から総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **プライマリケア実習 I**

担当者 家根 明子・伊藤 恵美子・植村 由美子・小野塚 元子・梶谷 佳子・片山 由加里・河原 宣子・北村 隆子・富永 真己・中橋 苗代・堀 妙子

テーマ

看護の対象となる人が生活している家庭・産業・学校の場とおし、それぞれおかれている環境を理解したうえで、健康課題を査定し、根拠に基づいた看護援助を実践する基礎的な能力を養う。

獲得目標

1. 家庭・産業・学校の場の特徴を理解するための方法が説明できる 2. 家庭・産業・学校の場で生活する人々の健康課題を査定する方法が説明できる 3. 家庭・産業・学校の場で生活する人々の健康課題の特徴を説明できる 4. 保健医療福祉における看護の役割について説明できる 5. 保健医療福祉における様々な職種との協働と連携の必要性を説明できる 6. 様々な価値観・信条や生活背景をもつ人と接し、その人々を尊重する行動をとる、また守秘義務を遵守することができる 7. 自己の実践を振り返り、今後の課題を見出す事ができる

授業の内容

プライマリファミリー(山科区)1週間 産業・学校

1週間 学内演習も含めて2週間行う * 詳細は実習要項参照

内 容

第1回 ガイダンス(ガイダンス以降の内容は、実習要項にて示す) なお、外部講師による講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

事前学習の内容は、実習ガイダンスにて提示する。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

1回生で使用した教科書。その他、適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

実習参加度(出席も含めて)50%, 提出物(50%)とし、産業・学校での実習、プライマリファミリー実習、それぞれの評価を合わせたものを最終評価とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 ヘルスケアシステムⅡ

担当者 河原 宣子・遠藤 俊子・富永 真己・家根 明子

テーマ

ヘルスケアシステムⅠを踏まえ、人々を取り巻くヘルスケアシステムとその基盤となる社会保障制度の体系と保健医療福祉の関連法規および財政の理解、施策等行政組織について、看護の視点からライフサイクル各期の特徴を踏まえて理解する。

獲得目標

1. 地域における健康危機管理およびその対策に関わる看護職の役割について理解できる。 2. 社会保障制度の体系と保健医療福祉の関連法規を説明できる。 3. 保健医療福祉における看護の機能と役割を理解できる。 4. 健康管理と公衆衛生看護活動に必要な支援技術を説明できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 地域保健と健康危機管理①—地域における日常的な健康危機管理
- 第2回 地域保健と健康危機管理②—災害と保健師活動
- 第3回 社会保障制度①理念・体系
- 第4回 社会保障制度②医療保障制度
- 第5回 社会保障制度③所得保障・年金制度
- 第6回 社会保障制度④高齢者福祉・介護保険制度a
- 第7回 社会保障制度⑤高齢者福祉・介護保険制度b
- 第8回 社会保障制度⑥障害児・者
- 第9回 社会保障制度⑦児童
- 第10回 母子における保健医療福祉対策の現状と課題
- 第11回 地区活動の展開
- 第12回 地区診断
- 第13回 地区活動計画①
- 第14回 地区活動計画②
- 第15回 発表、まとめ
- 第16回 試験 なお、外部講師を招いて、講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

教科書

看護職のための社会福祉・社会保障

著者： 眞船拓子

出版社： 新ヴェルヒロカワ

出版年： 最新刊

ISBN:

参考書

成績評価

試験（70）

授業中課題（30）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参加度 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈A〉**

担当者 梶谷 佳子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1.専門分野における文献検索の方法について学ぶ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksなど)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読及びディスカッション
- 第9回 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈B〉**

担当者 竹下 夏美

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1.専門分野における文献検索の方法について学ぶ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksなど)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
 - 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
 - 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
 - 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
 - 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
 - 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
 - 第8回 文献講読及びディスカッション
 - 第9回 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
 - 第10回 卒業演習発表についての情報・意見交換
 - 第11回 文献講読及びディスカッション
 - 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
 - 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
 - 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
授業中課題 (40)
参加度 (30)

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈C〉**

担当者 富永 真己

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1.専門分野における文献検索の方法について学ぶ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksなど)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読及びディスカッション
- 第9回 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈D〉**

担当者 松本 賢哉

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1.専門分野における文献検索の方法について学ぶ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksなど)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読及びディスカッション
- 第9回 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (40)
 参加度 (30)

小テスト ()
 授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈E〉**

担当者 中橋 苗代

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1.専門分野における文献検索の方法について学ぶ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksなど)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読及びディスカッション
- 第9回 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (40)
 参加度 (30)

小テスト ()
 授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈F〉**

担当者 植村 由美子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1.専門分野における文献検索の方法について学ぶ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksなど)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読及びディスカッション
- 第9回 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (40)
 参加度 (30)

小テスト ()
 授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈G〉**

担当者 奥野 信行

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1.専門分野における文献検索の方法について学ぶ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksなど)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読及びディスカッション
- 第9回 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (40)
 参加度 (30)

小テスト ()
 授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈H〉**

担当者 小野塚 元子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1.専門分野における文献検索の方法について学ぶ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksなど)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読及びディスカッション
- 第9回 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (40)
 参加度 (30)

小テスト ()
 授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護) <I>**

担当者 常田 裕子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1.専門分野における文献検索の方法について学ぶ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksなど)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読及びディスカッション
- 第9回 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (40)
 参加度 (30)

小テスト ()
 授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ(看護)〈J〉**

担当者 中島 登美子

テーマ

文献活用能力、論理的思考、論理的文章作成能力、プレゼンテーション能力を身につける

獲得目標

1.看護学分野において関心のあるテーマを設定し、関連する文献を検索することができる 2.文献を講読し、自らの関心や疑問に照らして理解を深めることができる 3.テーマに沿い、理解した内容を論理的に表現、伝達することができる

授業の内容

1.専門分野における文献検索の方法について学ぶ・学内で使用できるオンラインデータベースを実際に活用する(医中誌Web、CiNii) 2.専門分野における文献講読の方法について学ぶ・各自で文献ノートを作成する(RefWorksなど)。文献目録や要約のみでなく、文献を読み自分が理解したことや疑問に思ったこと、関心を深めたことなどを整理する。3.論理的にプレゼンテーションを行う方法について学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(1)
- 第3回 看護学分野において関心のあるテーマを設定する(2)
- 第4回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第5回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第6回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第7回 テーマに基づき文献検索を行う
- 第8回 文献講読及びディスカッション
- 第9回 4回生の卒業演習発表会への参加(1、2回生合同)
- 第10回 卒業演習発表についての情報・意見交換
- 第11回 文献講読及びディスカッション
- 第12回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第13回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第14回 自己のテーマに基づき文献をまとめプレゼンテーションを行う
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()
 授業中課題 (40)
 参加度 (30)

小テスト ()
 授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **生命・医療倫理**

担当者 荒木 正見

テーマ

医療人としての生命観、倫理観を養い、自らの人格発達を遂げることによってより充実した医療人を目指す。

獲得目標

1.医療人としての生命観、倫理観を、存在論の根底や倫理の根拠などから本質的に理解するとともに、現実の医療現場の生命、倫理に関する諸問題を具体的に理解し、解決策を探求することによって、より発展的に磨く。2.ナイチンゲール誓詞、ヘルシンキ宣言などの歴史的資料の意義を理解し、昔話などにおける伝統的価値観を理解して、社会的理解を深める。3.理論として知るとともに、自らの人格発達によって患者とみずからのQOLを高めることをも目指す。

授業の内容

医療人としての生命観、倫理観を、存在論の根底や倫理の根拠などから厳密に展開するとともに、現実の医療現場の生命、倫理に関する諸問題を具体的に理解し、解決策を探求することによって、より発展的に磨く。なお、随時ナイチンゲール誓詞、ヘルシンキ宣言などの資料や、昔話などにおける価値観を挿入して、社会的理解を深める。さらに、人格発達論を理解し、みずからの成長発達を通して優れた医療人を目指すことを喚起する。(教育効果を考慮して何回かに分けて授業を行うので、それ以前の内容の確認を交えて理解度を確認しつつ講義を行い随時小レポートを作成していただく。)

内 容

- 第1回 哲学とバイオエシックスに関する総論的概説
- 第2回 医療を取り巻く現実的諸問題と倫理学との関係
- 第3回 人格発達論と自己理解の目安
- 第4回 生命誕生の科学的、存在論的、倫理学的意味
- 第5回 生命の終末とホスピス、ターミナルケアの問題と倫理的、人間学的意味
- 第6回 医療倫理をめぐる諸問題とその根本的解決
- 第7回 優生学と遺伝子診断をめぐる諸問題とその人類学的意味
- 第8回 真の健康とスポーツをめぐる倫理的諸問題
- 第9回 人間の尊厳と安楽死、クローン生殖などの諸問題
- 第10回 医療倫理の教育と理解をめぐる諸問題
- 第11回 医療倫理理解のための訓練と技法
- 第12回 チーム医療における医療専門職者としての根拠と自覚
- 第13回 患者、家族、関係者とのかわりの社会的意味と在り方
- 第14回 倫理的諸規定、宣言、法的根拠
- 第15回 医療従事者としてのQOL 評価用レポート作成

授業以外での学習方法

テキストを読み、深く考えるとともに、文学、芸術、映画などに親しみ、美術館、博物館、寺社、旧跡などを訪れて見識を深め、自らの癒しを得、同時に人格発達を遂げることを期待する。

教科書

医療倫理学

著者： 丸山マサ美編著

出版社： 中央法規

出版年： 第2版2009年

ISBN： 978-4-8058-3163

参考書

人格発達と癒し 昔話解釈・夢解釈

著者： 荒木正見

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2002年

ISBN： 4-88848-679-4

場所論と癒し

著者： 荒木正見編

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2003年

ISBN: 4-88848-752-9

成績評価

試験（30）

小テスト（10）

授業中課題（30）

授業中発表等（10）

参加度（20）

上記の割合で評価したのち、授業中の態度など考慮し、総合的に再評価して最終評価を行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **精神保健**

担当者 國松 典子

テーマ

心理学的視点を活かした、学校における精神保健への対しかた

獲得目標

・特に学童期や思春期にみられる精神保健的諸問題についての知識を得る。・養護教育に関わる心理学的視点を持ち、カウンセリングの心得を身につける。

授業の内容

エリクソンの発達理論を中心に、人間の心理社会的発達について学ぶ。発達途上、特に学童期・思春期において生じやすい問題を知り、その基軸を発達と環境の観点から理解し、そして心理学的な意味について考える。養護教諭として児童・生徒に関わる心構えを意識し、「自分」としてのありかた、「養護教諭」としてのアイデンティティについて考える機会としたい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション : 養護教諭とは／「学校」という場について
- 第2回 心の発達1 : 周産期～乳幼児期
- 第3回 心の発達2 : 学童(児童)期
- 第4回 心の発達3 : 思春期・青年期
- 第5回 心の発達4 : 成人期～老年期
- 第6回 学童期・思春期にみられる問題1 : 夜尿、抜毛、チック、緘黙
- 第7回 学童期・思春期にみられる問題2 : 発達障害
- 第8回 学童期・思春期にみられる問題3 : 不登校
- 第9回 学童期・思春期にみられる問題4 : 神経症、摂食障害、うつ病、統合失調症
- 第10回 学童期・思春期にみられる問題5 : いじめ、PTSD
- 第11回 学童期・思春期にみられる問題6 : 虐待、DV
- 第12回 カウンセリングの心得1 : 心理療法の概観(精神分析、認知行動療法、来談者中心療法)
- 第13回 カウンセリングの心得2 : 「聴く」ということ／自分を知ること
- 第14回 カウンセリングの心得3 : 事例を考える
- 第15回 総括 : これまでの補足とまとめ

授業以外での学習方法

授業内で紹介した資料や参考書を積極的に読み、内容について関心を深めること。

教科書

参考書

養護教諭の相談的対応[3版]

著者: 養護教諭の相談を学ぶ会

出版社: 学事出版

出版年: 1997

ISBN:

少年期の心

著者: 山中 康裕

出版社: 中公新書

出版年: 1978

ISBN:

発達障害の豊かな世界

著者： 杉山 登志郎

出版社： 日本評論社

出版年： 2000

ISBN：

看護のための精神医学[2版]

著者： 中井久夫・山口直彦

出版社： 医学書院

出版年： 2004

ISBN：

カウンセリングを語る(上)(下)

著者： 河合 隼雄

出版社： 講談社プラスアルファ文庫

出版年： 1999

ISBN：

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 実践看護学Ⅲ-2

担当者 松本 賢哉・磯見 智恵・伊藤 恵美子・遠藤 俊子・奥野 信行・小野塚 元子・河原 宣子・神崎 光子・北村 隆子・
常田 裕子・判澤 恵・堀 妙子

テーマ

実践看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ-1を踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族、多様な看護の場における、人によりそう看護を理解する。同時に、看護活動の場の多様性を認識し、看護の専門性を考察する。

獲得目標

・ライフサイクルを踏まえ、さまざまな健康課題と健康レベルに応じた看護を理解する。 ・がん看護、精神看護、地域看護、老年看護、小児看護、母性看護、急激な健康破綻と回復過程にある人々への看護、慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々への看護、終末期にある人々への看護、感染症看護、家族支援看護等のさまざまな看護の場における看護活動と専門性を理解する。

授業の内容

内 容

第1回 第1回 糖代謝障害をもつ人への看護 第2回 小児を対象とした看護の特徴 第3回 小児と家族が疾病から受ける影響 第4回 外来受診・入院する小児とその家族への看護 第5回 妊娠経過のアセスメントと看護① 第6回 妊娠経過のアセスメントと看護② 第7回 神経症性障害をもつ人の理解と看護 第8回 人格障害をもつ人の理解と看護 第9回 糖尿病の食事療法・フットケア 第10回 内分泌疾患をもつ子どもの看護 第11回 慢性の循環機能障害をもつ人への看護① 第12回 慢性の循環機能障害をもつ人への看護② 第13回 循環器・骨・筋疾患をもつ子どもの看護 第14回 分娩期のアセスメントと看護① 第15回 分娩期のアセスメントと看護② 第16回 急性の循環機能障害をもつ人への看護① 第17回 手術を受ける患者の看護(循環器) 第18回 高齢者に特有な症候の看護①脱水と浮腫 第19回 産褥経過と褥婦のアセスメントと看護① 第20回 産褥経過と褥婦のアセスメントと看護② 第21回 摂食障害をもつ人の理解と看護 第22回 発達障害をもつ人の理解と看護 第23回 ハイリスク妊婦のアセスメント① 第24回 ハイリスク妊婦のアセスメント② 第25回 慢性の呼吸機能障害をもつ人への看護①COPD 第26回 慢性の呼吸機能障害をもつ人への看護②HOT 第27回 ハイリスク産婦のアセスメントと看護③ 第28回 ハイリスク産婦のアセスメントと看護④ 第29回 手術を受ける患者の看護(呼吸器) 第30回 脳神経系の障害をもつ人への看護① 脳卒中 第31回 物質関連障害をもつ人の看護 第32回 手術を受ける患者の看護(脳) 第33回 脳神経系の障害をもつ人への看護② 神経難病 第34回 新生児期のアセスメントと看護① 第35回 低出生体重児の看護 第36回 幻覚妄想状態にある人の理解と看護 第37回 無為・自閉状態にある人の理解と看護 第38回 高齢者に特有な症候の看護 ②痛み 第39回 高齢者に特有な症候の看護 ③転倒と骨折 第40回 高齢者に特有な症候の看護 ④感覚器の障害 第41回 高齢者に特有な症候の看護 ⑤高齢者のスキンケア 第42回 認知症の人とその家族の看護 第43回 慢性の排泄機能障害をもつ人の看護① 第44回 慢性の排泄機能障害をもつ人の看護②HD 第45回 呼吸器・腎疾患をもつ子どもの看護 第46回 高齢者に特有な症候の看護 ⑥排尿障害 第47回 高齢者に特有な症候の看護 ⑦排便障害 第48回 抑うつ状態・躁状態にある人の看護 第49回 先天奇形をもつ小児の看護技術 第50回 障がいのある小児とその家族への看護 第51回 診断・治療期のがん看護① 第52回 悪性腫瘍をもつ子どもの看護 第53回 診断・治療期のがん看護② 第54回 診断・治療期のがん看護③ 第55回 がんの緩和ケア 第56回 手術を受ける患者の看護(消化器) 第57回 消化器疾患をもつ小児の看護 第58回 慢性の消化・吸収障害をもつ人への看護① 第59回 慢性の消化・吸収障害をもつ人への看護② 第60回 高齢者に特有な症候の看護 ⑧摂食・嚥下障害 なお、外部講師による講演会を開催することがある。

第2回 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2]小児臨床看護各論 第12版

第3回 奈良間美保

第4回 医学書院

第5回 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護学 第8版

第6回 北島政樹

第7回 医学書院

第8回 成人看護学 慢性期看護

第9回 鈴木久美

第10回 南江堂

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護学実習Ⅲ－1**

担当者 奥野 信行 磯見 智恵 河原 宣子 北村 隆子

テーマ

「実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、さまざまな健康課題をもつ対象とその家族への、人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。」

獲得目標

1. 急激な健康破綻と回復過程にある対象とその家族に対する看護の理解を深め、問題解決能力を培う。2. 急激な健康破綻と回復過程にある対象とその家族への看護実践場面の体験を通して、看護の専門性を考察し、多職種との協働の重要性を学ぶ

授業の内容

内 容

- 第1回 急激な健康破綻と回復過程にある対象を多面的に捉え、疾病や治療によって受ける影響について説明できる。・急激な健康破綻と回復過程にある対象の身体的特徴について説明できる。・急激な健康破綻と回復過程にある対象の心理・社会的特徴について説明できる。・急激な健康破綻と回復過程にある対象の症状と疾病や治療との関係について説明できる。・急激な健康破綻と回復過程にある対象の生活習慣と疾病や治療の関係について説明できる。・対象の観察、医療者からの情報収集、記録を通して、必要な情報を系統的に収集できる。・急激な健康破綻と回復過程にある対象やその家族と、援助的人間関係を発展させることができる。
- 第2回 急激な健康破綻と回復過程にある対象の全身状態を査定し、生命維持や回復に向けた看護援助方法について説明できる。・対象の生命の維持や回復に必要な看護について説明できる。・対象が可能な限り早期にセルフケア能力を獲得するために必要な看護について説明できる。・回復過程を踏まえて、健康問題・課題ごとに達成および評価が可能な目標をあげることができる。・対象の安全・安楽・自立・自律を考慮しながら、計画に基づいた援助が実施できる。・実施した結果を目標と照らし合わせ客観的に評価し、計画修正ができる。
- 第3回 急激な健康破綻と回復過程にある対象とその家族への看護実践場面を通して、家族に必要な援助について考察できる。・家族の心理状態について考察できる。・家族機能の変化について考察できる。・家族のサポートシステムについて考察できる。
- 第4回 チーム医療における看護および他職種の役割を理解し、急激な健康破綻と回復過程にある対象とその家族を中心とした協働と連携のあり方について説明できる。・看護実践を通して、チーム医療・他職種との連携における看護の役割について説明できる。・継続看護、退院支援・退院調整などに必要な協働と連携を含めた看護援助方法について説明できる。
- 第5回 実践した看護を振り返り、看護専門職の専門性を発展させていく重要性について説明できる。・自己の実践した看護を振り返ることができる。・自らの看護観について説明できる。・看護の専門性について自分なりの意見を持つことができる。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a701030850

実習目標の達成度、実習態度、レポートから総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護学実習Ⅲ－2**

担当者 磯見 智恵・奥野 信行・河原 宣子・北村 隆子

テーマ

獲得目標

1) 既習の知識を活用し、慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象とその家族への看護を実践するための基礎的能力を培う。2) 慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象とその家族への看護の実践を通して、看護専門職の専門性について考察する能力を培う。

授業の内容

内 容

- 第1回 1) 援助的関係を構築しながら、慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象とその家族を総合的に捉えて説明することができる。(1)対象とその家族をライフサイクルや発達課題の観点から説明できる。(2)対象とその家族の生活スタイルや生活習慣、多様な価値観・信条や生活背景について説明できる。(3)対象とその家族が自分の感情を自由に表現できるような態度でかかわり、対象の言葉を傾聴できる。(4)援助を通して、人間関係を築く。
- 第2回 2) 慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象とその家族が疾病や治療によってどのような影響を受けているか査定できる。(1)対象とその家族が自分の状況をどのように感じているのかを主観的・客観的情報から説明できる。(2)対象と家族がどのように病気と付き合ってきたか、その付き合い方の変化と心情の変化を説明できる。(3)対象とその家族の多様な価値観・信条や生活背景と疾病や治療の関係を説明できる。(4)疾病および治療が対象とその家族の身体的、心理・社会的状況に与える影響について説明できる。(5)終末期にある対象の死の受容過程と抱える痛みについて説明できる。(6)家族の悲嘆過程について説明できる。
- 第3回 3) 慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象と家族を理解し、療養生活の看護援助方法について説明できる。(1)対象が慢性的な健康障害をもちつつ生活してきた過程をふまえ、現在の治療・生活の状況を長期的展望にたって多面的に査定し、健康上の問題を明確にできる。(2)多様な価値観・信条や生活背景をふまえ、対象とその家族がその人らしく生活できるための計画を立案できる。(3)対象とその家族がセルフケア能力を最大限発揮できる計画が立案できる。(4)立案した計画を対象の反応を確認しながら、安全・安楽を考慮して実施
- 第4回 4) 慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象とその家族が活用できる社会資源および教育資源について説明できる。(1)対象とその家族ができるだけ健康に生活していくために必要な援助について説明できる。(2)対象とその家族のクオリティ・オブ・ライフを維持・向上するために必要な社会資源や教育資源を説明できる。
- 第5回 5) チーム医療における看護および他職種の役割を理解し、慢性的な健康課題を有する/終末期にある対象とその家族を中心とした協働と連携のあり方について説明できる。(1)実践した看護を通して、チーム医療・他職種との連携における看護の役割について説明できる。(2)継続看護、退院支援・退院調整などに必要な協働と連携を含めた看護援助方法について説明できる。(3)終末期におけるチーム医療のあり方について説明できる。
- 第6回 6) 実践した看護を振り返り、看護専門職の専門性を発展させていく重要性について説明できる。(1)対象の人権および主体性を尊重することができる。(2)様々な場面で倫理的な立場で考える姿勢をもつことができる。(3)自己の実践した看護を振り返り、自らの看護観について説明できる。(4)看護の専門性について自分なりの意見を持つことができる。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

a701030950

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

出席20%、実習態度60%、記録物20%

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護学実習Ⅲ－3**

担当者 堀 妙子

テーマ

実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、様々な健康問題をもつ対象とその家族への人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。

獲得目標

1. 小児に特有な疾患の病態生理を説明できる 2. 小児の発達段階に応じた日常生活援助の方法を説明できる 3. 小児の発達段階に応じた処置やケアの方法を説明できる 4. 小児及び家族を理解するために必要な情報収集の方法を説明できる 5. 小児及び家族を理解するために必要な情報が収集できる 6. 収集した情報をもとに健康課題を査定する方法を説明できる 7. 収集した情報をもとに健康課題を査定できる 8. 査定した結果から個別性に応じた看護援助を考える方法を説明できる 9. 査定した結果から個別性に応じた看護援助を考えられる 10. 安全に配慮しながら個別性に応じた看護援助を実施する方法を説明できる 11. 安全に配慮しながら個別性に応じた看護援助を実施できる 12. 実施した自己の看護実践を評価する方法を説明できる 13. 実施した自己の看護実践を評価できる 14. 対象となる小児及びその家族を尊重した行動をとることができる

授業の内容

目的:健康上の課題をもつ小児とその家族に対し、発達段階や健康課題が及ぼす影響を考えながら、個別性に応じた看護が実践できる能力を養う事。実習概要 1. 医療施設で患児を1名(状況により複数)受け持ち、看護過程を展開する 2. 小児専門病院及び重症心身障がい児施設の見学実習 詳細は、実習要項をもとに、オリエンテーションを行う

内 容

第1回 第1週月曜日 学内オリエンテーション
第2回 第1週目火曜日～第2週目水曜日 医療施設での病棟実習
第3回 第2週目木曜日・金曜日 学内実習(実習のまとめ)
第4回 重症心身障がい児施設 1日見学実習
第5回 小児専門病院 1日見学実習

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

実習中課題は提出された記録物及び学びのレポートとする 授業中発表等は、実習態度とする

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護学実習Ⅲ-4**

担当者 松本 賢哉・伊藤 恵美子

テーマ

実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅱを踏まえ、様々な健康問題をもつ対象とその家族への人によりそう看護の理解を深める。チームの一員として看護実践活動を行い、看護の専門性を考察し、他職種との協働の重要性を学ぶ。

獲得目標

精神に障害をもつ対象者とのかかわりを通して、個人及びその家族への理解を深める。さらに、生活や対人関係に困難を抱えていることを理解し、自らをケアの道具として最大限に活かし、対象者とかかわるための基礎的実践能力を養う。1. 対象者を身体的、心理的、社会的な存在として理解する 2. 援助的な対人関係の基本的能力を修得する 3. 対象者のセルフケア能力のアセスメントに焦点をあてて看護過程を展開する 4. 精神保健医療福祉における看護職の役割と地域生活支援のあり方を学ぶ

授業の内容

内 容

第1回 ・主として医療施設で2週間行う・患者を一人受け持ち、セルフケアへの援助を中心として看護過程を展開する・受け持ち患者とのかかわりについてプロセスレコードを作成し、分析を行う・リハビリテーションや地域生活支援を理解するために、デイケアなどにおいても実習を行う・学びを深めるために、適宜カンファレンスを行う ※詳細については、実習要項を参照すること

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 実践看護学実習Ⅲ-5

担当者 竹 明美・神崎 光子・田邊 美智子・常田 裕子

テーマ

ライフサイクルにおける周産期(妊娠、分娩、産褥(新生児)各期)にある母児の看護実践を通じて、生涯発達の視点から母児とその家族の健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助について学び、対象の個別的ニーズに応じた看護を実践する基礎的な能力を養う。

獲得目標

1. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の身体的・心理的・社会的な健康状態をアセスメントできる。2. 家族の身体的・心理的・社会的な健康状態をアセスメントできる。3. 妊婦・産婦・褥婦および新生児を取り巻く環境をアセスメントし、健康状態との関係を説明できる。4. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の生活の特性とその家族の生活の変化を把握し、健康状態との関連をアセスメントできる。5. 新生児の誕生に伴う家族機能の変化を説明できる。6. 周産期(妊娠・出産・育児)に必要な看護援助方法(保健指導含む)の説明と指導のもとで実践ができる。7. 新生児の成長、発達に必要なケアを説明できる。8. 妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康増進に関連する政策と保健活動(社会資源等)を説明できる。9. 対象の個別性にあわせ、計画的に看護を展開できる(詳細:実習要項の行動目標参照) 10. 看護者としての社会的責任と責務を自覚した行動をとることができる。

授業の内容

1 実習場所 産科病棟(産褥室、新生児室、分娩室)および産科外来 2 実習内容 1)病院実習では、産褥(新生児)期にある母子あるいは入院中の妊婦を 1例以上受け持ち、看護を実践する。受け持ち事例の選定基準 ①原則として正常経過をたどる経膈分娩もしくは帝王切開分娩の母子 ②感染症事例は除く ③状態の安定している妊婦 ※いずれも臨床指導者、教員の合議により選定し、承諾の得られた妊産婦を 受け持ち事例とする。2)産科外来 妊婦健診、保健指導や産褥1ヵ月健康診査の実際を学ぶ。3)カンファレンス ①デイリーカンファレンス:日々の実習を振り返り学びを深め、共有する。②中間カンファレンス:事例検討や1週間の学びの総括を行い、次週への実習の課題を見出す。③実習終了カンファレンス:実習の学びをまとめ共有する。④最終(学内)カンファレンス:他のグループと学びを共有し、理解を深める。

内 容

- 第1回 学内オリエンテーション、周産期看護技術の演習等
- 第2回 病棟オリエンテーション、受け持ちの決定等
- 第3回 病棟または外来実習等
- 第4回 病棟または外来実習等
- 第5回 病棟または外来実習等
- 第6回 病棟または外来実習等
- 第7回 病棟または外来実習等
- 第8回 病棟または外来実習等
- 第9回 病棟または外来実習等
- 第10回 最終カンファレンス、記録のまとめ等

授業以外での学習方法

妊娠期から産褥期までの看護展開に必要な知識や技術の復習を行い実習に臨む。なお、テキスト、参考書については実践看護学Ⅲ-5等に提示したものの他に周産期関連の書籍を参考にする。

教科書

参考書

成績評価

試験 () 小テスト ()
 授業中課題 (10) 授業中発表等 (10)
 参加度 (80)

全日程出席が原則。補習は実施しない。レポートおよび指定した記録物ならびに学習態度等を加味して、実習評価表により評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 プライマリケア実習Ⅱ

担当者 家根 明子・伊藤 恵美子・植村 由美子・小野塚 元子・梶谷 佳子・片山 由加里・河原 宣子・北村 隆子・富永 真己・中橋 苗代

テーマ

生活の営みの中で人々の健康生活を支えるための看護活動(プライマリーファミリーの訪問活動、保健所、保健センター、訪問看護ステーション、地域包括支援センターにおける看護活動)を体験することにより、地域の健康政策機関の機能・役割について理解するとともに、看護職の役割と関係職種との役割・連携について学ぶ。

獲得目標

1.プライマリーファミリーの訪問活動を通して、地域で暮らす人々の健康課題に対する援助方法と看護職の役割について理解する。 1)プライマリーファミリーの生活をより深く知り、健康の維持・増進のために必要な看護を考えることができる。 2)プライマリーファミリーとの援助的な対人関係を築くためのコミュニケーションについて考えることができる。 2.地域の健康政策機関の保険福祉事業の成り立ちと、機能と役割を説明できる。 3.個人および家族の生活を把握し、健康状態との関連を査定するとともに、対象の生活の営みに即した地域での看護活動の展開方法を説明できる。 4.地域の健康政策機関における活動の現状、地域の特性や社会資源に関する資料・健康指標から健康課題を把握し、課題解決に必要な看護援助方法を説明できる。 5.地域の健康政策機関における看護職、関係機関および関係職種との機能・役割について説明できる。 6.保健・医療・福祉などの専門職および地域の人々との協働活動の意義が理解できる。

授業の内容

実習期間および場所は、プライマリーファミリー(1週間)および、保健所・保健センター・訪問看護ステーション・地域包括支援センター(2週間)とする。 * 詳細は、実習要項参照のこと

内 容

第1回 ガイダンス(ガイダンス以降の内容は、実習要項にて示す)

授業以外での学習方法

プライマリーファミリー、保健所、保健センター、訪問看護ステーション、地域包括支援センターの概要と関連法規について事前に学習しておくこと。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

プライマリーファミリー実習20%、プライマリーファミリー実習以外(保健所・保健センター・訪問看護ステーション・地域包括支援センター)80%の割合で評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)〈a〉**

担当者 梶谷 佳子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) **

担当者 片山 由加里

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <c>**

担当者 植村 由美子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)<d>**

担当者 中橋 苗代

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)〈e〉**

担当者 河原 宣子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)〈f〉**

担当者 磯見 智恵

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)〈g〉**

担当者 奥野 信行

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <h>**

担当者 阿部 祝子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <i>**

担当者 竹下 夏美

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)〈J〉**

担当者 北村 隆子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <k>**

担当者 小野塚 元子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <n>**

担当者 中島 登美子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <ο>**

担当者 堀 妙子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
 - 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
 - 第3回 WOC模擬講義への参加
 - 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
 - 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
 - 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
 - 第7回 学習計画を実施する(1)
 - 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
 - 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
 - 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
 - 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
 - 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
 - 第13回 音楽療法の基礎と応用
 - 第14回 学習計画を実施する(2)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <p>**

担当者 田邊 美智子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <q>**

担当者 神崎 光子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護) <r>**

担当者 常田 裕子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅵ(看護)<t>**

担当者 家根 明子

テーマ

これまでの看護基礎教育での学びを振り返り、自らの課題を明確化する。その上で、再度自己のキャリアをデザインし、卒業までのマスタープランを作成・実行する。

獲得目標

1. 看護専門職の価値と専門性を発展させていく重要性が認識できる。2. 看護専門職として自己のキャリアを積み重ねていくための方向性を見出すことができる。3. 4回生前期までの学習を振り返り、看護専門職としての自己の課題を明確にできる。4. 自己の課題に取り組むための計画を立案し、実行できる。

授業の内容

・総合実習、卒業演習と同様のクラスで、全教員が担当する。・学習内容は、国家試験対策としてクラスで主体的に学習することを促進する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション(一斉)
- 第2回 看護専門職の専門分野とキャリアについて
- 第3回 WOC模擬講義への参加
- 第4回 4回生前期までの学習を振り返り、自己の課題を明確にする
- 第5回 課題に取り組むための学習計画を立案する
- 第6回 ホリスティック医療と看護ケア
- 第7回 学習計画を実施する(1)
- 第8回 保健統計と疫学(1)(一斉)
- 第9回 「薬害被害に関する講演会」(一斉)
- 第10回 保健統計と疫学(2)(一斉)
- 第11回 アロマオイルを用いた芳香療法・マッサージの基礎
- 第12回 「卒業2年目の報告と国家試験に向けた私の経験」(卒業生)(一斉)
- 第13回 音楽療法の基礎と応用
- 第14回 学習計画を実施する(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

・4回生の看護研究演習Ⅱの教員が担当する。・詳細については担当教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護学原論Ⅱ**

担当者 大島 弓子

テーマ

看護の本質の視点から、看護学全体の学びを再考し、自らの今後の専門的な活動の指針に役立てる。

獲得目標

1. 看護の学びを振り返り、看護の本質の視点から、対象にとって個別的で適切なケアが提供されているか看護過程の課題と共に再考する。また、その専門性、役割機能、活動についても、看護の意味と必要性課題を考察する。2. 社会の変化に対応した看護のあり方、保健医療の他職種との連携・協働、国際的なグローバル化等からもたらされる看護への期待と対応について考える。3. 看護で取り組まれている研究、教育、理論の発展性を基盤に、今後、自らが進みたい看護の専門的な活動とそれに伴うコンピテンシーを多様な見地から考察する。

授業の内容

看護学として講義・演習・実習で学んできたことを振り返り、看護の本質の視点から、対象にとって個別的で適切なケアが提供され成果が得られているか、十分に吟味し、その専門性、役割機能、活動について再検討する。また、社会の変化に対応した看護へのニーズと課題、他職種との連携・協働についても再考する。さらに、研究、理論の発展性、エビデンスの重要性を視野に入れ、今後、自らが進みたい看護の専門的な活動とそれに伴うコンピテンシーを多様な見地から検討する。

内 容

- 第1回 Introduction, 看護の本質の再確認、学んできた看護の内容についての整理と課題発見
- 第2回 対象にとって個別的で適切なケアが提供されているか、意味ある看護過程が展開されているか課題の整理
- 第3回 対象にとって個別的で適切なケアが提供するために必要な具体的実践的な看護過程の展開
- 第4回 社会の変化と看護の専門性、役割機能、活動の課題と解決に向けてのコンピテンシー
- 第5回 保健医療の他職種との連携・協働における課題と看護職に必要なコンピテンシー
- 第6回 グローバル社会における看護職の現状と広がり、必要なコンピテンシー
- 第7回 看護の研究、看護理論を再考、エビデンスの重要性の最確認
- 第8回 看護の研究、理論の発展性をふまえた今後の看護の方向性、まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

ザ・ロイ適応看護モデル第版、

著者： C.Roy,H.Andrews(松木光子監訳)

出版社：医学書院

出版年：2010

ISBN:

NANDA-I看護診断 定義と分類

著者： NANDAインターナショナル, 日本看護診断学会監訳

出版社：医学書院

出版年：2012

ISBN:

ライフサポート

著者： スザンヌ・ゴードン(勝原裕美子・和泉成子訳)

出版社：日本看護協会出版会

出版年：1998

ISBN:

a701040210

成績評価

試験（50）

授業中課題（20）

参加度（15）

小テスト（）

授業中発表等（15）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <a>**

担当者 梶谷 佳子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 **

担当者 片山 由加里

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <c>**

担当者 植村 由美子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <d>**

担当者 中橋 苗代

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <e>**

担当者 河原 宣子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <f>**

担当者 磯見 智恵

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <g>**

担当者 奥野 信行

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <h>**

担当者 阿部 祝子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <i>**

担当者 竹下 夏美

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <j>**

担当者 北村 隆子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <k>**

担当者 小野塚 元子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <n>**

担当者 中島 登美子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <0>**

担当者 堀 妙子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <p>**

担当者 田邊 美智子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <q>**

担当者 神崎 光子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <r>**

担当者 常田 裕子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **総合看護学実習 <t>**

担当者 家根 明子

テーマ

保健医療福祉チームの一員として、様々な健康課題をもつ人々に対して、根拠に基づくヒューマンケアを実践し、看護専門職者としての専門能力を向上させるために必要な、基礎的な能力を養う。

獲得目標

1.3回生までの自己の看護を振り返り、専門性的能力を向上させるために必要な自己の課題を明らかにできる。2.自らの課題を明らかにするための実習計画を立案できる。3.対象者の意思を尊重しながら、根拠に基づいた看護を実施できる。4.保健医療福祉のチームの一員として、協働・連携する事ができる。5.看護の対象となる人々を尊重し、畏敬の念を持ちながら、援助的関係を形成できる。6.自己を客観視でき、妥当な自己評価ができる。7.総合看護学実習を振り返り、今後の自己の課題を明らかにできる。

授業の内容

・総合看護学実習の希望領域を学生が提出し、希望結果から、担当教員を決定する。・実習内容および方法は、担当教員の指示に従う。

内 容

第1回 担当教員の指示に従う。

授業以外での学習方法

担当教員の指示に従う。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (100)

・実習態度・実習記録により評価する。・各担当教員より説明あり。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈a〉

担当者 梶谷 佳子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
 - 第2回 各領域におけるガイダンス
 - 第3回 研究課題に関する文献検討
 - 第4回 研究課題に関する文献検討
 - 第5回 研究課題に関する文献検討
 - 第6回 研究目的の明確化
 - 第7回 研究目的の明確化
 - 第8回 研究計画書作成
 - 第9回 研究計画書作成
 - 第10回 研究計画書作成
 - 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第22回 論文作成
 - 第23回 論文作成
 - 第24回 論文作成
 - 第25回 論文作成
 - 第26回 発表準備
 - 第27回 研究発表
 - 第28回 研究発表
 - 第29回 研究発表
 - 第30回 研究発表、まとめ
-

授業以外での学習方法

a701040410

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ

担当者 片山 由加里

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展させることができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究目的の明確化
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 研究計画書作成
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 研究発表、まとめ

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <C>

担当者 植村 由美子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
 - 第2回 各領域におけるガイダンス
 - 第3回 研究課題に関する文献検討
 - 第4回 研究課題に関する文献検討
 - 第5回 研究課題に関する文献検討
 - 第6回 研究目的の明確化
 - 第7回 研究目的の明確化
 - 第8回 研究計画書作成
 - 第9回 研究計画書作成
 - 第10回 研究計画書作成
 - 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第22回 論文作成
 - 第23回 論文作成
 - 第24回 論文作成
 - 第25回 論文作成
 - 第26回 発表準備
 - 第27回 研究発表
 - 第28回 研究発表
 - 第29回 研究発表
 - 第30回 研究発表、まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <d>

担当者 中橋 苗代

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
第22回 論文作成
第23回 論文作成
第24回 論文作成
第25回 論文作成
第26回 発表準備
第27回 研究発表
第28回 研究発表
第29回 研究発表
第30回 研究発表、まとめ
第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回 各領域におけるガイダンス
第3回 研究課題に関する文献検討
第4回 研究課題に関する文献検討
第5回 研究課題に関する文献検討
第6回 研究目的の明確化
第7回 研究目的の明確化
第8回 研究計画書作成
第9回 研究計画書作成
第10回 研究計画書作成
第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
第18回 計画に沿ってデータ収集・分析

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ〈e〉

担当者 河原 宣子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究目的の明確化
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 研究計画書作成
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 研究発表、まとめ

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <f>

担当者 磯見 智恵

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究目的の明確化
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 研究計画書作成
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 研究発表、まとめ

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <g>

担当者 奥野 信行

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究目的の明確化
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 研究計画書作成
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 研究発表、まとめ

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <h>

担当者 阿部 祝子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
 - 第2回 各領域におけるガイダンス
 - 第3回 研究課題に関する文献検討
 - 第4回 研究課題に関する文献検討
 - 第5回 研究課題に関する文献検討
 - 第6回 研究目的の明確化
 - 第7回 研究目的の明確化
 - 第8回 研究計画書作成
 - 第9回 研究計画書作成
 - 第10回 研究計画書作成
 - 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第22回 論文作成
 - 第23回 論文作成
 - 第24回 論文作成
 - 第25回 論文作成
 - 第26回 発表準備
 - 第27回 研究発表
 - 第28回 研究発表
 - 第29回 研究発表
 - 第30回 研究発表、まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <i>

担当者 竹下 夏美

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
 第22回 論文作成
 第23回 論文作成
 第24回 論文作成
 第25回 論文作成
 第26回 発表準備
 第27回 研究発表
 第28回 研究発表
 第29回 研究発表
 第30回 研究発表, まとめ
 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
 第2回 各領域におけるガイダンス
 第3回 研究課題に関する文献検討
 第4回 研究課題に関する文献検討
 第5回 研究課題に関する文献検討
 第6回 研究目的の明確化
 第7回 研究目的の明確化
 第8回 研究計画書作成
 第9回 研究計画書作成
 第10回 研究計画書作成

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 50 ）

授業中発表等（ 20 ）

参加度（ 30 ）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <j>

担当者 北村 隆子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究目的の明確化
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 研究計画書作成
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 研究発表、まとめ

授業以外での学習方法

a701040420

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <k>

担当者 小野塚 元子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究目的の明確化
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 研究計画書作成
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 研究発表、まとめ

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <n>

担当者 中島 登美子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究目的の明確化
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 研究計画書作成
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 研究発表、まとめ

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <○>

担当者 堀 妙子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
 - 第2回 各領域におけるガイダンス
 - 第3回 研究課題に関する文献検討
 - 第4回 研究課題に関する文献検討
 - 第5回 研究課題に関する文献検討
 - 第6回 研究目的の明確化
 - 第7回 研究目的の明確化
 - 第8回 研究計画書作成
 - 第9回 研究計画書作成
 - 第10回 研究計画書作成
 - 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第22回 論文作成
 - 第23回 論文作成
 - 第24回 論文作成
 - 第25回 論文作成
 - 第26回 発表準備
 - 第27回 研究発表
 - 第28回 研究発表
 - 第29回 研究発表
 - 第30回 研究発表、まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <p>

担当者 田邊 美智子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
第22回 論文作成
第23回 論文作成
第24回 論文作成
第25回 論文作成
第26回 発表準備
第27回 研究発表
第28回 研究発表
第29回 研究発表
第30回 研究発表、まとめ
第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
第2回 各領域におけるガイダンス
第3回 研究課題に関する文献検討
第4回 研究課題に関する文献検討
第5回 研究課題に関する文献検討
第6回 研究目的の明確化
第7回 研究目的の明確化
第8回 研究計画書作成
第9回 研究計画書作成
第10回 研究計画書作成
第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
第16回 計画に沿ってデータ収集・分析

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <q>

担当者 神崎 光子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
 - 第2回 各領域におけるガイダンス
 - 第3回 研究課題に関する文献検討
 - 第4回 研究課題に関する文献検討
 - 第5回 研究課題に関する文献検討
 - 第6回 研究目的の明確化
 - 第7回 研究目的の明確化
 - 第8回 研究計画書作成
 - 第9回 研究計画書作成
 - 第10回 研究計画書作成
 - 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第22回 論文作成
 - 第23回 論文作成
 - 第24回 論文作成
 - 第25回 論文作成
 - 第26回 発表準備
 - 第27回 研究発表
 - 第28回 研究発表
 - 第29回 研究発表
 - 第30回 研究発表、まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

参加態度, 論文, 発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <r>

担当者 常田 裕子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
 - 第2回 各領域におけるガイダンス
 - 第3回 研究課題に関する文献検討
 - 第4回 研究課題に関する文献検討
 - 第5回 研究課題に関する文献検討
 - 第6回 研究目的の明確化
 - 第7回 研究目的の明確化
 - 第8回 研究計画書作成
 - 第9回 研究計画書作成
 - 第10回 研究計画書作成
 - 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
 - 第22回 論文作成
 - 第23回 論文作成
 - 第24回 論文作成
 - 第25回 論文作成
 - 第26回 発表準備
 - 第27回 研究発表
 - 第28回 研究発表
 - 第29回 研究発表
 - 第30回 研究発表、まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 50 ）

授業中発表等（ 20 ）

参加度（ 30 ）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究演習Ⅱ <t>

担当者 家根 明子

テーマ

これまでの学びを通して、自分自身が興味を持ったテーマにおいて看護研究を実施し、看護研究の方法を学ぶ。

獲得目標

1.看護に関する自己の問題意識を研究課題へと発展させ、研究目的を明確に示すことができる。2.文献を批判的に読解し、課題に関連づけて説明できる。3.研究目的に沿った研究方法を計画することができる。4.研究方法に沿って適切な方法でデータ収集・分析ができる。5.研究結果を、先行文献などを用いて考察し、看護の質の向上に向けた自らの意見を述べるができる。6.論文を作成することができる。7.研究を発表することができる。8.発表内容を共有し、学生個々の看護観を発展することができる。9.研究の全過程において、倫理的な配慮を行うことができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 講義:卒業研究演習Ⅱガイダンス
- 第2回 各領域におけるガイダンス
- 第3回 研究課題に関する文献検討
- 第4回 研究課題に関する文献検討
- 第5回 研究課題に関する文献検討
- 第6回 研究目的の明確化
- 第7回 研究目的の明確化
- 第8回 研究計画書作成
- 第9回 研究計画書作成
- 第10回 研究計画書作成
- 第11回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第12回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第13回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第14回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第15回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第16回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第17回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第18回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第19回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第20回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第21回 計画に沿ってデータ収集・分析
- 第22回 論文作成
- 第23回 論文作成
- 第24回 論文作成
- 第25回 論文作成
- 第26回 発表準備
- 第27回 研究発表
- 第28回 研究発表
- 第29回 研究発表
- 第30回 研究発表、まとめ

授業以外での学習方法

a701040430

教科書

看護における研究

著者： 南 裕子

出版社： 日本看護協会出版会

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 50 ）

授業中発表等（ 20 ）

参加度（ 30 ）

参加態度，論文，発表内容から総合的に行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 プライマリケア実習Ⅲ

担当者 小野塚 元子・伊藤 恵美子・河原 宣子・北村 隆子・富永 真己・家根 明子

テーマ

人々を取り巻く環境とあらゆる健康や疾病に対して総合的・継続的・全人的に対応する地域の政策と機能について理解し、健康に関する社会問題を解決するための政策形成過程を学ぶ。

獲得目標

1.プライマリファミリーの訪問活動を通して、地域で暮らす人々の健康課題に対する援助(実践)への評価を行い、地域に共通する健康課題を明らかにするとともに、解決するための方法を検討し実施できる。2.地域に暮らす人々の尊厳ある生活を継続するために、その営みに即した必要な支援を構築する方法を説明できる。3.地域の保健・医療・福祉サービスや地域のインフォーマルサービスなど多様な社会資源を用いて、個人や地域の特性に対応した看護援助や健康環境づくりについて説明できる。4.地域に暮らす人々の健康に関する社会問題を明らかにするとともに、解決するために、既存サービスに加え新たなサービスが形成される過程を理解できる。

授業の内容

1)訪問看護ステーション・地域包括支援センター・ディケア・ディサービスいずれかでの実習(3日間) 2)山科区老人クラブの高齢者の体力測定の間を活用しての健康教育の企画・実施 前後に演習・まとめを行う *詳細は、実習要項参照のこと

内 容

第1回 前後に演習・まとめを行う *詳細は、実習要項参照のこと なお、外部講師を招いて講演会を開催することがある。

授業以外での学習方法

プライマリファミリー、地域包括支援センター、訪問看護ステーション、ディケア・ディサービスの概要と関連法規について事前に学習しておくこと。事前学習の内容は、実習ガイダンスで説明を行う。

教科書

参考書

成績評価

試験 () 小テスト ()
 授業中課題 () 授業中発表等 ()
 参加度 ()

健康教育50%、訪問看護ステーション・地域包括支援センター・ディケア・ディサービスいずれかでの実習50%の割合で評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 国際看護学Ⅱ

担当者 竹下 夏美・常田 裕子

テーマ

1) 研修をととして国際看護・国際保健および国際協力の実際を知り、その重要性について理解することができる。2) 国際看護Ⅱの講義・研修全体をふまえて、多文化共生社会における看護師の役割について自分の意見を述べるすることができる。

獲得目標

1) 多文化共生社会における看護活動の展開方法について理解することができる。2) 海外研修をととして国際看護・国際保健および国際協力の実際を知り、その重要性について理解することができる。3) 多文化共生社会における看護職の役割について自分なりの意見を述べるすることができる。

授業の内容

授業計画を参照してください。

内 容

- 第1回 講義日程 1) 学内集中授業①、事前学習 学生各自、国内研修あるいは海外研修で何を学びたいかテーマを決め、それについて、先行文献を用いてまとめ、プレゼンを行う。2) 海外研修 (1) 研修先および滞在方法 ① 海外研修先: 研修先は、下記が予定としてあげているが、希望人数によって変更があるため未定である。 A案: オーストラリアカトリック大学 (ACU: プリスベン校) B案: インドネシア C案: 国内研修 ② ホームステイ、但し国内研修はホームステイに関して未定。(2) 研修内容(予定) ① 対象国の文化や看護に関する理解 ② 母子保健の現状 ③ 老人保健・看護・介護の現状 ④ 地域保健・看護の現状 ⑤ 医療機関・医療福祉施設の見学・研修 ⑥ その他 3) 学内集中授業②、(帰国後、各自テーマに基づき、学内で報告会およびディスカッションとまとめ、報告書作成) 海外研修には別途費用が必要となります。2010年度: 36万程度、2011年度28万程度 2010年度はオーストラリア、2011年度はインドネシア。 ※費用は参加人数や為替レートの変動などにより、変動することがあります。 詳細は後日連絡します。
- 第2回 履修条件: 国際看護学Ⅰ(必修科目、2回生後期)を履修し単位を取得していること。
- 第3回 国際看護学入門
- 第4回 国際看護研究会編
- 第5回 医学書院
- 第6回 2010

授業以外での学習方法

教科書

参考書

20

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **高度実践看護論**

担当者 田邊 美智子・荒井 知子・遠藤 俊子・高山 裕喜枝・得居 みのり・西谷 葉子・判澤 恵・安田 美緒

テーマ

実践看護学Ⅰ～Ⅲ-1・2、実践看護学演習Ⅰ～Ⅲ、実践看護学実習Ⅰ～Ⅲ-1～5を踏まえ、現在臨地で行われている最新の看護について学ぶ。

獲得目標

- 1 高度実践看護とはなにか、日本と米国の状況をとらえながらわが国の現状を知る
- 2 高度実践看護師の役割と成果を考える
- 3 専門看護師の活動の実際を知る
- 4 認定看護師の活動の実際を知る
- 5 自らの看護キャリアを考える

授業の内容

内 容

- 第1回 高度実践看護とはなにか、医療や看護における位置づけを知る
- 第2回 日本における高度看護実践看護師と専門看護師の教育制度・役割と機能
- 第3回 専門看護師の活動の実際を知る（老年看護CNS）
- 第4回 専門看護師の活動の実際を知る（老年看護CNS）
- 第5回 専門看護師の活動の実際を知る（クリティカル看護CNS）
- 第6回 専門看護師の活動の実際を知る（クリティカル看護CNS）
- 第7回 専門看護師の活動の実際を知る（母性看護CNS）
- 第8回 専門看護師の活動の実際を知る（母性看護CNS）
- 第9回 医療に他様な看護師の活動を知る（移植コーディネーター）
- 第10回 医療に他様な看護師の活動を知る（移植コーディネーター）
- 第11回 専門看護師の活動の実際を知る（がん看護CNS）
- 第12回 専門看護師の活動の実際を知る（がん看護CNS）
- 第13回 認定看護師制度と活動の実際を知る（WOC看護）
- 第14回 認定看護師制度と活動の実際を知る（WOC看護）
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

看護学基礎教育テキスト3巻、社会の中の看護

著者： 田村やよい

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2011

ISBN：

参考書

講義中に適宜提示

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

a701043410

試験 ()

授業中課題 (80)

参加度 (20)

出席 2/3以上の参加がない場合、単位認定をしない

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **助産学実習**

担当者 神崎 光子・遠藤 俊子・常田 裕子

テーマ

テーマ: 母子看護活動における助産師の役割ならびに社会的責任を理解し、周産期にある母子ならびにその家族の尊厳と権利を擁護しながら、健康レベルに応じた助産活動を実践できる能力を養う。

獲得目標

1 周産期にある母子ならびにその家族の健康レベルを経過にそって査定し、健康の増進、疾病予防に必要な看護援助について理解を深める事ができる。①妊婦と胎児の健康診査ならびに保健指導等の看護援助が実践できる。②産婦と胎児の健康診査の実施ならびに分娩経過を査定し、助産過程を展開できる。③分娩経過中の異常兆候を早期に発見し、その対処方法を実践する。④褥婦と新生児の健康診査ならびに保健指導等の看護援助が実践できる。⑤家庭訪問(新生児訪問)を通じて褥婦と新生児の保健指導等の看護援助が実践できる。2 産科救急の特徴と救急処置ならびに産科手術の特徴と介助方法を理解できる。3 母子看護活動における医療・社会資源、チーム医療のあり方について理解し、保健医療福祉サービスの継続性(連携)について実践できる。4 周産期における助産管理の実践について学ぶ。5 助産師としての姿勢を身につける。

授業の内容

1 実習体制 1)実習時期 5月:分娩見学 6月~7月:受持ち事例の展開 (但し、分娩介助10例に到達しない場合は期間延長) 2)総合実習(2単位)を含む 2 実習内容 1)学生2~4名で病院単位に配置 2)病院にてローテーションによって分娩介助を実施する ①分娩直接介助は10例とする。基本的には入院から、分娩後2時間まで受け持ち、翌日に振り返りを行う ②間接介助は可能な限り実施する ③新生児介助は3例以上を担当する ④妊娠35週から産褥1ヵ月(新生児訪問)までの継続受け持ち事例1例を担当する ⑤産褥期の受け持ちは3例以上を担当する(内、1例以上1ヵ月健診含む) ⑥異常への移行事例は、指導助産師・教員と相談により受け持ちの継続を決定する ⑦帝王切開事例は間接あるいは新生児介助により実施する 3)カンファレンスを適時実施する 全体では中間・最終カンファレンス(事例検討等)を学内で実施する *教員が必要と認めた場合は全員を招集して補習講義、カンファレンスを行うことがある。

内 容

第1回 5月:分娩見学

第2回 6月~7月:受持ち事例の展開

授業以外での学習方法

* 実践看護学Ⅲ-5、助産診断学、助産技術学、看護管理学Ⅱ等で指定したテキストや参考書の他、周産期関連の書籍を用いて知識をまとめる。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (70)

授業中発表等 (10)

参加度 (20)

指定された記録物、実習評価表、カンファレンス、学習・実習態度等により総合的に評価する。補習は実施しない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 助産診断学

担当者 神崎 光子・常田 裕子

テーマ

マタニティケアを根拠に基づいて計画的に実践するための基礎的な助産診断力を養う

獲得目標

1. 周産期の健康の保持増進および異常の予防のために必要な助産を理解し、経過に沿って診断できる 2. 家族形成期にある母児および家族の発達課題について理解し、必要な助産を診断できる 3. 妊娠・分娩・育児期の母児と家族の健康状態と課題を身体的、心理的、社会的側面から理解し、必要な助産を診断できる 4. 個人の特性および地域の特性に対応した健康のための環境づくりの支援ニーズを診断できる

授業の内容

周産期における母児と家族の健康の保持増進と異常の予防・早期発見を目指して、妊娠・分娩・産褥の経過に沿った母児の健康問題と家族の課題に関する視点と方法を学ぶ。

内 容

- 第1回 実践看護学Ⅲ(周産期看護)基礎テスト・オリエンテーション
- 第2回 助産師の定義と業務・役割
- 第3回 助産診断と助産過程
- 第4回 妊婦の健康診査と助産診断の方法
- 第5回 胎児の発育と助産診断
- 第6回 ハイリスク妊娠の診断(1):妊婦の異常
- 第7回 ハイリスク妊娠の診断(2):胎児の異常
- 第8回 ハイリスク妊婦の看護
- 第9回 妊娠期の異常の早期発見と保健指導
- 第10回 分娩経過と助産診断
- 第11回 分娩経過と助産診断の方法
- 第12回 分娩期の助産診断の実際
- 第13回 胎児の健康状態の診断
- 第14回 出生直後の新生児のアセスメントと看護
- 第15回 新生児の健康診査と子宮外適応の診断
- 第16回 分娩期の異常のアセスメント(1):胎児機能不全の診断
- 第17回 分娩期の異常のアセスメント(2):産婦の出血、ショック、産科救急処置
- 第18回 分娩期の異常のアセスメント(3):事例検討
- 第19回 産褥経過の診断
- 第20回 産褥期の異常のアセスメントと看護
- 第21回 産褥期の健康診査と助産診断
- 第22回 産褥期の異常のアセスメントと看護
- 第23回 新生児の異常のアセスメントと看護
- 第24回 産褥・新生児期の家族の課題のアセスメント
- 第25回 産褥・新生児期の家族のニーズへの援助
- 第26回 妊娠・産褥期の精神的変化のアセスメントと看護
- 第27回 妊娠・産褥期の精神異常のアセスメントと看護
- 第28回 帝王切開術を受けた産婦のアセスメントと看護
- 第29回 不妊治療を受けている人／子どもを失った人と家族のアセスメントと看護
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

既修得の周産期看護学関連の復習や実習で使用した知識ミニノートなどの再整理をする

教科書

助産師基礎教育テキスト1, 4～7

著者:

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 2012

ISBN:

最新産科学 正常編

著者: 荒木 勤

出版社: 文光堂

出版年: 2008

ISBN:

最新産科学 異常編

著者: 荒木 勤

出版社: 文光堂

出版年: 2008

ISBN:

参考書

胎児心拍数モニタリング講座 — 大事なサインを見逃さない!

著者: 藤森敬也

出版社: メディカ出版

出版年: 2005

ISBN:

新生児蘇生法テキスト

著者: 田村正徳監修

出版社: メジカルビュー

出版年: 2010

ISBN:

今日の助産 マタニティサイクルの助産診断・実践課程

著者: 北川真理子

出版社: 南江堂

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

1. 全回出席を原則とする 2. 助産診断学単位取得者のみ助産技術学受講可とする

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本人の宗教と福祉 <Z>

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本人はの宗教観の原理的性格を考える

獲得目標

日本人は、無宗教だとよく言われる。確かに西欧のキリスト教的な意味での「宗教」は存在しなかったかもしれない。だが仏教は確かに日本に定着したし、また様々な事象に対する「信仰」というものがなかったわけではない。日本人もやはり信心深い性格を強烈に有していたのである。その意味では「宗教」は確かにあったと言えるだろう。だが、今日では科学的な合理性を重んじるが故に本来的に不合理な面を持つ「宗教」や「信仰」が社会全体で急激に希薄になっている。だが人間はすぐれて宗教的な性格を持った存在でもある。結局は日常において宗教もしくは宗教的なものに触れざるを得ないといっても過言ではない。一方で宗教を否定しつつも他方ではそれを無視し得ないのである。そうした矛盾が今日起きている問題の背景のひとつにあるといってよい。本講義では、日本人の宗教観を支える原理的な側面を探り出し、人は宗教とどのように関わらなければならないのかについて考えてみたい。したがって諸君の到達目標は、一つには日本人の宗教観の原理的側面を知ることであり、二つには自分たちが宗教とどのように関係を取り結ぶべきかについて一定の考えを持つ、ということになる。

授業の内容

生活の中にあるさまざまな宗教現象を材料として上記の目標に近づきたい。

内 容

- 第1回 宗教をどのように枠づけるか
- 第2回 日本人の宗教観の原理的側面をさぐる(1)—タマ・盆に学ぶ—
- 第3回 日本人の宗教観の原理的側面をさぐる(2)—カミ・仏教公伝に学ぶ—
- 第4回 観音と地蔵(1) 観音の誘惑—庶民にとっての観音信仰
- 第5回 観音と地蔵(2) 野の石仏が「地蔵」と呼ばれる理由
- 第6回 水神の制御と仏教的神(1)—寺院創建伝説に探る—
- 第7回 水神の制御と仏教的神(2)—寺院創建伝説に探る—
- 第8回 福の神と日本人(1)—総論・京洛の福神信仰—
- 第9回 福の神と日本人(2)—毘沙門天信仰・起源と歴史的展開—
- 第10回 福の神と日本人(3)—毘沙門天信仰・仏教守護神から福の神へ—
- 第11回 福の神と日本人(4)—夷信仰の序論的考察—
- 第12回 眼の霊力について考える—一つ目の鬼、節分・放相氏、そして写楽包介へ 付・仏教の天眼通と明恵上人
- 第13回 盗む空海—神話的空海の仏教伝承
- 第14回 日本人のあの世—日本人の他界観はどのように変わったか
- 第15回 復習とまとめ

授業以外での学習方法

宗教学の基礎的な知識を得てほしい。また日常のなかで折に触れて宗教と自身の関係について考えてほしい。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

宗教学

著者: 岸本英夫

出版社: 大明堂

出版年: 1991

ISBN:

宗教学入門

著者： 棚次正和・山中弘 編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2005

ISBN：

日本人の一生〈上〉—初心者のための宗教民俗学入門

著者： 吉田清

出版社： 清文堂出版

出版年： 2009

ISBN：

日本人の一生〈下〉—初心者のための宗教民俗学入門

著者： 吉田清

出版社： 清文堂出版

出版年： 2009

ISBN：

その他は授業内で指示。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **医療リスクマネジメント**

担当者 山野 薫

テーマ

医療における安全とその管理を講義し、医療の質を高めることとリスクマネジメントの関係性について教授する。具体的には、医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因について講義し、理解を深める。また、理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について解説する。

獲得目標

1. 医療における安全とその管理の概要を理解する。2. 医療の質を向上させることとリスクマネジメントの関係性について理解する。3. 各種治療におけるリスクおよび事故防止方法について理解する。4. 理学療法士の業務に関わる感染症とその対策について理解する。

授業の内容

理学療法士が業務として携わる医療全般における安全とその管理について教授する。医療職種全体の目標である「医療の質の向上」について講義し、リスクマネジメントの関係性について理解を深める。加えて、その具体的方法について解説する。また、理学療法士の各種治療におけるリスク、および理学療法機器の使用にあたっての事故防止の方法について解説する。理学療法士の業務に関わる感染症については、理学療法士自身が感染媒体にならないようにすることの理解を深め、その対策について教授する。

内 容

- 第1回 医療における安全とその管理の概要
- 第2回 医療の質とリスクマネジメント
- 第3回 診療記録の共有(公開)とリスクマネジメント
- 第4回 医療安全における患者側の要因と病院施設側の要因
- 第5回 チーム医療におけるリスクマネジメントのあり方
- 第6回 理学療法士の業務における感染症の概要
- 第7回 理学療法士の業務における感染症の対策
- 第8回 病院施設の管理体制(医療安全・感染症)

授業以外での学習方法

理学療法におけるリスクマネジメントに関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題等の学習

教科書

理学療法リスク管理・ビューポイント

著者： 丸山仁司(編集)

出版社： 文光堂

出版年： 2007

ISBN： 9.78483E+12

参考書

実践MOOK・理学療法プラクティス『リスク管理 その解釈と統合～積極的な理学療法を目指して』

著者： 嶋田智明・他(常任編集)

出版社： 文光堂

出版年： 2010

ISBN： 9.78483E+12

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

欠席・遅刻・私語などの授業態度は成績評価に反映されます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 人体の構造と機能演習Ⅱ(呼吸・循環系、消化系など)

担当者 林正 健二

テーマ

理学療法の実践に必要な、人体の構造(解剖学)と機能(生理学)の基礎知識を修得する。

獲得目標

1. 構造(解剖学)に関する知識を機能(生理学)に関連させる習慣を養う。2. 細胞、組織、器官に関する知識を統合して、生体特有の目的性および恒常性を理解する。

授業の内容

予習用プリントを用いて予習した内容を、授業で発表する。

内 容

- 第1回 血液の成分(血球、血漿、造血)
- 第2回 血液の機能(凝固、線溶、血液型)
- 第3回 循環器系(心臓の構造と機能)
- 第4回 循環器系(血管とリンパ系)
- 第5回 呼吸器系(鼻、咽頭、喉頭、肺)
- 第6回 呼吸器系(換気とガスの運搬、内呼吸と外呼吸、呼吸の調節)
- 第7回 消化器系(食欲と咀嚼・嚥下、口腔、歯、咽頭、食道)
- 第8回 消化器系(胃・小腸・肝臓・膵臓の構造と機能)
- 第9回 消化器系(消化と吸収、大腸の構造と機能)
- 第10回 泌尿器系(腎臓の機能と働き、尿管・膀胱・尿道と排尿の生理)
- 第11回 生殖器系(女性生殖器の構造と機能、性周期)
- 第12回 生殖器系(妊娠・出産、乳腺の構造と機能、男性生殖器の構造と機能)
- 第13回 内分泌系(視床下部、下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体)
- 第14回 内分泌系(副腎、性腺、消化管、腎臓、胸腺、その他)
- 第15回 免疫系

授業以外での学習方法

解剖生理学問題集による自学自習

教科書

ナーシング・グラフィカ①解剖生理学(第3版)

著者: 林正健二編著

出版社: メディカ出版

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂第19版

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年: 2000年

ISBN:

ギャング生理学原書23版

著者: ギャング

出版社: 丸善

出版年: 2011年

ISBN:

成績評価

試験 (90)

授業中課題 ()

参加度 ()

3分の1以上の欠席を認めない

小テスト (10)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **運動学**

担当者 甲斐 義浩

テーマ

四肢・体幹における関節の解剖学的構造と運動について理解を促進する。

獲得目標

1.身体運動に関する骨格筋の解剖学的作用および運動学的作用について理解できる。2.身体の動作における各筋の相互作用について理解できる。3.運動学で得た知識に基づき、運動障害分析の基礎を理解できる。4.運動学に関する過去の国家試験問題を解き、解説することができる。

授業の内容

解剖生理学で学んだ知識をベースに、運動器を主とする障害学の基礎となる身体運動のメカニズムについて解説する。

内 容

- 第1回 運動学および生体力学の基礎
 - 第2回 運動器の構造と機能(総論)
 - 第3回 肩関節の運動学 I
 - 第4回 肩関節の運動学 II
 - 第5回 肘関節の運動学 I
 - 第6回 手関節および手指の運動学
 - 第7回 脊柱の運動学 I
 - 第8回 脊柱の運動学 II
 - 第9回 股関節の運動学 I
 - 第10回 股関節の運動学 II
 - 第11回 膝関節の運動学 I
 - 第12回 膝関節の運動学 II
 - 第13回 足関節の運動学 I
 - 第14回 足関節の運動学 II
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

運動学の参考書の購読

教科書

エッセンシャルキネシオロジー

著者: Mansfield PJ・他(著)

出版社: 南江堂

出版年: 2010

ISBN:

基礎運動学第6版

著者: 中村隆一

出版社: 医歯薬出版株式会社

出版年: 2003

ISBN:

参考書

プロメテウス解剖学アトラス

著者: 坂井建雄(監訳)

出版社：医学書院

出版年：2011

ISBN:

関節・運動器の機能解剖学(上肢・下肢)

著者： J Castaing・他(著)井原秀俊(訳)

出版社：協同医書出版社

出版年：1995

ISBN:

成績評価

試験 (90)

小テスト (10)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **病理学**

担当者 吉川 隆一

テーマ

疾病の成り立ち、徴候、予後について

獲得目標

疾病の本質を探究する学問である「病理学」に関する正しい知識を身に付ける。

授業の内容

病理学の概要、疾病の総論的解説、更に諸臓器の障害を引き起こす様々な疾病につき解説する。

内 容

- 第1回 総論1:概要、病因、退行性変性
 - 第2回 総論2:代謝異常、進行性病変、循環障害
 - 第3回 総論3:免疫、炎症
 - 第4回 総論4:腫瘍
 - 第5回 総論5:放射線障害
 - 第6回 総論5:老化、先天異常、奇形
 - 第7回 各論1:循環器
 - 第8回 各論2:呼吸器
 - 第9回 各論3:消化器
 - 第10回 各論4:神経系
 - 第11回 各論5:運動器
 - 第12回 各論6:泌尿器・生殖器
 - 第13回 各論7:代謝・内分泌系
 - 第14回 各論8:造血器
 - 第15回 各論9:皮膚・感覚器
-

授業以外での学習方法

教科書

標準理学療法学・作業療法学「病理学」第3版

著者: 梶原博毅・横井豊治編

出版社: 医学書院

出版年: 2010

ISBN:

参考書

カラーで学べる病理学

著者: 渡辺照男

出版社: ヌーベルヒロカワ

出版年: 平成21年

ISBN:

成績評価

a90101a550

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (20)

3分の1以上の欠席を認めない

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 リハビリテーション概論

担当者 児玉 隆之畑 正樹

テーマ

“リハビリテーション”とは何か、その本質と仕組みの理解

獲得目標

リハビリテーション医学が、歴史的にどのように発展したかを考察することにより、リハビリテーションが医師や作業療法士などの異業種を包括したチームとして活動するチームアプローチであることを理解する。その中で、理学療法士がどのようにチーム活動に寄与できるかを考えながら、これから学んでいく理学療法についてその道しるべとなるよう全体像を形成する。

授業の内容

(畑正樹／8回) リハビリテーション医学の定義と歴史を講義した上で、脳・脊髄・神経・運動器・外傷・内部障害・小児疾患などの障害に関する診断・検査・評価および治療プロセスについて教授する。(児玉隆之／7回) リハビリテーションの定義・理念・目的・歴史、障害の概念と分類、障害の心理・社会的側面、リハビリテーションのプロセス・段階・職種、リハビリテーションとチーム医療の関わりなど、リハビリテーションの現状を教授する。

内 容

- 第1回 リハビリテーション医学の歴史
- 第2回 リハビリテーション医学の定義・概念
- 第3回 運動器系疾患に対するリハビリテーション医学(上肢)
- 第4回 運動器系疾患に対するリハビリテーション医学(体幹)
- 第5回 運動器系疾患に対するリハビリテーション医学(下肢)
- 第6回 小児整形疾患に対するリハビリテーション医学
- 第7回 内部障害に対するリハビリテーション医学
- 第8回 脳・脊髄障害に対するリハビリテーション医学
- 第9回 リハビリテーションの概念・理念・定義
- 第10回 「健康と障害」の概念と分類
- 第11回 障害の心理、心理的・社会的問題と受容
- 第12回 リハビリテーション過程
- 第13回 リハビリテーションの諸段階
- 第14回 リハビリテーション専門職種とチームアプローチ
- 第15回 ADL, QOLの概念

授業以外での学習方法

教科書

医学生・コメディカルのための手引き書 リハビリテーション概論

著者： 上好昭孝 土肥信之

出版社： 永井書店

出版年： 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 (0)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

a90101a650

3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **保健医療福祉論**

担当者 並河 孝窓場 勝之

テーマ

日本における保健医療福祉に関連する政策・制度・法律についての基礎的理解

獲得目標

1. 地域で生活する人びとの健康の保持・増進、疾病予防のための活動を説明できる。 2. 地域の保健医療福祉政策について理解し、保健、医療、福祉の連携やその中で専門職が担う活動や役割を説明できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 障害者・高齢者における社会生活上の問題点
 - 第2回 地域の保健・福祉制度とサービス
 - 第3回 グループワーク「今、地域で何が出来ますか？」
 - 第4回 地域での理学療法士の役割と連携
 - 第5回 我が国の社会保険制度について
 - 第6回 リハビリテーションにおける医療制度Ⅰ
 - 第7回 リハビリテーションにおける医療制度Ⅱ
 - 第8回 今後の医療保険制度について
-

授業以外での学習方法

教科書

参考となる書籍や文献等は授業中に適宜、紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

国民衛生の動向

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

国民福祉の動向

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（80）

小テスト（）

a90101a750

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 理学療法技術学入門演習 I (骨・関節の触察)

担当者 宮崎 純弥・松尾 奈々

テーマ

骨関節疾患の評価・治療ができるようになるために、機能解剖学と体表からの触察を演習形式で学習する。

獲得目標

1. 学習者が演習を理解するために、解剖学的構造の名称および形を知る。2. 学習者が視診・触察を行うために、人体での体表の解剖学的構造の形を認識する。3. 学習者が評価、治療の実施ができるために、解剖学的構造を実際の身体で視診・触診する技術を修得する。

授業の内容

理学療法士は、関節を操作することで身体運動の改善を促す専門家である。そのためには、その原点である関節を構成する組織について、解剖学・運動学・生体力学などの観点から理解していることが望ましい。この講義では、骨・関節を中心にそれらの解剖学的知識を学び、それらを触り部位を確認できる能力を習得することを目的とする。また、実際の治療では対象者の身体を扱うため、触られたときの感覚を知っておくことも重要である。そのため、触られている感覚を言語化してフィードバックすることで相互の学習効果が期待できる。演習への姿勢、受講態度を通じて医療人としての意識を芽生えさせることもねらいとする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 総論(運動方向、運動の軸と面、骨の名称、骨・関節の形、触察法)
- 第3回 骨の視診・触察(指骨、手根骨)
- 第4回 手関節の触察
- 第5回 骨の視診・触察(橈骨、尺骨、上腕骨)
- 第6回 肘関節の触察
- 第7回 骨の視診・触察(肩甲骨、鎖骨)
- 第8回 上肢帯と肩関節の触察
- 第9回 骨の視診・触察(脛骨、腓骨、足根骨)
- 第10回 足関節の触察
- 第11回 骨の視診・触察(大腿骨、膝蓋骨)
- 第12回 膝関節の触察
- 第13回 骨の視診・触察(寛骨)
- 第14回 股関節の触察
- 第15回 骨の視診・触察

授業以外での学習方法

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

教科書

筋骨格系の触診マニュアル

著者： ジョセフ・F・マスコリーノ

出版社： 産調出版

出版年： 2012

ISBN： 9.78488E+12

プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論／運動器系

著者： 坂井建雄

出版社： 医学書院

出版年： 2011

ISBN： 9.78426E+12

参考書

触診機能解剖カラーアトラス 上 総論・身体の面と軸・骨/関節・靭帯

著者: 竹内仁

出版社: 文光堂

出版年: 2008

ISBN: 9.78483E+12

成績評価

試験 (60)

小テスト (30)

授業中課題 (5)

授業中発表等 (0)

参加度 (5)

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **臨床基礎実習**

担当者 村田 伸・安彦 鉄平・小田桐 匡・甲斐 義浩・兒玉 隆之・崎田 正博・白岩 加代子・堀江 淳・松尾 奈々・宮崎 純弥・横山 茂樹

テーマ

獲得目標

1)社会人・専門職としての基本的態度を身につける。2)対象者とのコミュニケーションをとることができる。3)医療従事者として責任および節度のある態度と行動を身につける。4)対象者に対して、基本的な評価項目を正しく実施できる。5)基本的な評価結果を記録し、報告することができる。6)学内での講義・実習の意義を理解し学習意欲を高める。

授業の内容

基礎医学および疾病と障害に関する知識と「臨床基礎実習」の経験をふまえて、実習指導者の指導・教育のもと、理学療法士の評価・治療場面の見学のほか、初歩的な検査・測定の手順についても体験し、統合と解釈の重要性を理解する。本実習を通して、理学療法の対象者の障害の多様性を認識すると共に、疾病や障害に応じた評価および障害像の捉え方を学び、専門知識と技術の重要性について認識する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。
- 第2回 現場実習
- 第3回 現場実習
- 第4回 現場実習
- 第5回 現場実習
- 第6回 現場実習
- 第7回 現場実習
- 第8回 現場実習
- 第9回 現場実習
- 第10回 現場実習
- 第11回 現場実習
- 第12回 現場実習
- 第13回 現場実習
- 第14回 現場実習
- 第15回 現場実習
- 第16回 現場実習
- 第17回 現場実習
- 第18回 現場実習
- 第19回 現場実習
- 第20回 現場実習
- 第21回 現場実習
- 第22回 現場実習
- 第23回 現場実習
- 第24回 現場実習
- 第25回 現場実習
- 第26回 現場実習
- 第27回 現場実習
- 第28回 現場実習
- 第29回 現場実習
- 第30回 実習終了後セミナー:実習経験報告、集団討議、事例検討・報告などから成る。学生は、実習課題を中心に、実習施設の特徴や実習した内容および経験について要点をまとめて簡潔に発表する。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（ ）

授業中課題（50）

参加度（20）

実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

小テスト（ ）

授業中発表等（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 人体の構造と機能実習Ⅱ(機能系)

担当者 林正 健二

テーマ

理学療法の実践に必要な呼吸器、循環器、神経系の生理学的検査法の基礎を実習で修得する。

獲得目標

1. 血圧測定や脈拍測定などの基本的身体検査ができる。2. データを解釈し、異常と正常の区別ができる。

授業の内容

バイタルサインなどの基本的な理学的検査を実習する。

内 容

- 第1回 脈拍の測定
 - 第2回 血圧の測定
 - 第3回 心音聴取
 - 第4回 心電図検査
 - 第5回 呼吸の観察と血液ガスの解釈
 - 第6回 呼吸音の聴取
 - 第7回 呼吸機能検査1
 - 第8回 呼吸機能検査2
 - 第9回 筋力検査1
 - 第10回 筋力検査2
 - 第11回 筋電図検査
 - 第12回 神経系の系統的診察1
 - 第13回 神経系の系統的診察2
 - 第14回 神経系の系統的診察3
 - 第15回 体成分分析
-

授業以外での学習方法

国家試験既出問題の自学自習

教科書

ナーシング・グラフィカ①解剖生理学(第2版)

著者: 林正健二編著

出版社: メディカ出版

出版年: 2011年

ISBN:

参考書

フィジカルアセスメントガイドブック

著者: 山内豊明

出版社: 医学書院

出版年: 2005年

ISBN:

成績評価

a90102a350

試験 (90)

授業中課題 ()

参加度 ()

3分の1以上の欠席を認めない

小テスト (10)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 臨床運動学演習

担当者 甲斐 義浩 永井 宏達

テーマ

生体力学の基礎を学び、重力環境下における姿勢や歩行のメカニズムを理解する。

獲得目標

1. 身体運動に関与する力学的要素(力, 加速度, 重心, モーメントなど)を理解できる
2. 姿勢や歩行の力学的メカニズムについて理解できる。
3. 運動学習の理論について理解できる。

授業の内容

人間の動作や運動にかかわる人体の解剖学的構造と生理学的機能、および生体力学的変数と臨床上の問題との関係について解説する。

内 容

- 第1回 生体力学の基礎(1)－力の合成と分解, 生体におけるてこについて
- 第2回 生体力学の基礎(2)－運動法則(加速度, 力など)について
- 第3回 生体力学の基礎(3)－重心について(重心の求め方, 重心の速度・加速度)
- 第4回 生体力学の基礎(4)－床反力について
- 第5回 生体力学の基礎(5)－関節モーメントについて
- 第6回 歩行の基礎(1)－歩行周期および相, 基本的な機能について
- 第7回 歩行の基礎(2)－歩き始めの歩行力学
- 第8回 歩行の基礎(3)－足関節および足部における歩行力学
- 第9回 歩行の基礎(4)－膝関節における歩行力学
- 第10回 歩行の基礎(5)－股関節における歩行力学
- 第11回 仕事と力学的エネルギーの定義について
- 第12回 姿勢の基礎(1)－姿勢と安定性について
- 第13回 姿勢の基礎(2)－姿勢制御について
- 第14回 運動学習(1)－学習と記憶, 運動技能について
- 第15回 運動学習(2)－運動学習の理論など

授業以外での学習方法

当該科目における国家試験の過去問においてどのような問題が出題されているか確認しておくこと

教科書

歩行分析－正常歩行と異常歩行

著者: Perry J

出版社: 医歯薬出版株式会社

出版年:

ISBN:

基礎運動学第6版

著者: 中村隆一

出版社: 医歯薬出版株式会社

出版年:

ISBN:

参考書

基礎バイオメカニクス

著者: 山本澄子

出版社：医歯薬出版株式会社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（90）

小テスト（10）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

3分の1以上の欠席を認めない。期末試験の受験は甲斐担当範囲、永井担当範囲のそれぞれの講義の3分の2以上の出席を必要とする

参考URL

2013 Syllabus

科目名 小児科学(理)

担当者 安藤 忠

テーマ

人の「発達」上の諸現象を、主として感覚運動の発達の総和という観点からとらえ、脳・神経系の発達、骨・関節系の発達および相動運動系の発達の重要性を理解する。

獲得目標

1.原始反射や立ち直り反応や平衡反応の種類とその役割や消褪について理解する 2.粗大運動や巧緻運動の発達について理解する 3.視覚や聴覚など他の感覚器官の発達について理解する 4.認知活動や社会性の発達について理解する 5.代表的な小児疾患の特徴と対応について理解する

授業の内容

内 容

- 第1回 運動とは何か
 - 第2回 運動の三要素
 - 第3回 反射の発達
 - 第4回 ボイタ博士の姿勢反射と運動発達
 - 第5回 乳幼児の発達の見方
 - 第6回 ボイタ博士の発達診断法
 - 第7回 粗大運動の発達
 - 第8回 巧緻運動の発達
 - 第9回 認知活動の発達および社会性の発達
 - 第10回 視覚・聴覚機能の発達
 - 第11回 子供の神経系の疾患と理学療法
 - 第12回 子供の骨・関節系の疾患と理学療法
 - 第13回 子供の筋肉系の疾患と理学療法
 - 第14回 知的障害の理解と理学療法
 - 第15回 発達障害の理解と理学療法
-

授業以外での学習方法

実習やボランティア活動を通じて子供と接する機会を増やす様に心がけ、子供の発達を分析的にみるように心がけること

教科書

随時資料を配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

正常発達

著者: JUNG SUN HONG

出版社: 三輪書店

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

a90102a950

試験 (50)

小テスト (20)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (5)

参加度 (5)

小テストは2回 授業中課題は2回 授業中発表はグループ活動で1回 参加度は無欠席者に加点 3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **理学療法評価学各論演習**

担当者 安彦 鉄平・小田桐 匡・松尾 奈々

テーマ

本講義は、理学療法の対象となる代表的な疾患の検査方法の意義と方法論を学び、各疾患の評価結果を踏まえた理学療法の流れについて学ぶ。

獲得目標

1. 各種検査を実施するにあたり解剖学、生理学、神経内科学などの基礎知識を整理することができる。
 2. 疾患・部位別の代表的な理学療法評価を理解することができる。
 3. 各種検査・評価の意義および目的や注意点を説明することができる。
 4. 各種検査における種類と方法を正しく理解することができる。
 5. 疾患・部位別に適した検査法が具体的に実施することができる。
 6. 各種検査・評価の結果が記録できる。
 7. 適切なオリエンテーションができる。
 8. 医療人としての基本的態度を身に
- つけ、患者様に実践できる準備をする。

授業の内容

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。また、理学療法評価でも基本的な評価項目である筋の評価をはじめとする運動器系疾患および中枢神経系疾患の対する理学療法評価の実習を行い、各種理学療法評価技術の習得を目指す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、痛みの評価
- 第2回 神経学的検査：反射検査
- 第3回 神経学的検査：反射検査
- 第4回 神経学的検査：反射検査
- 第5回 神経学的検査：筋緊張検査
- 第6回 神経学的検査：筋緊張検査
- 第7回 神経学的検査：筋緊張検査
- 第8回 神経障害系疾患の評価：片麻痺機能検査
- 第9回 神経障害系疾患の評価：片麻痺機能検査
- 第10回 神経障害系疾患の評価：片麻痺機能検査
- 第11回 神経障害系疾患の評価：片麻痺機能検査
- 第12回 協調性検査
- 第13回 平衡機能検査
- 第14回 平衡機能検査
- 第15回 平衡機能検査
- 第16回 平衡機能検査
- 第17回 神経障害系疾患の評価：脳神経検査
- 第18回 神経障害系疾患の評価：脳神経検査
- 第19回 神経障害系疾患の評価：脳神経検査
- 第20回 神経障害系疾患の評価：高次脳機能検査
- 第21回 神経障害系疾患の評価：高次脳機能検査
- 第22回 神経障害系疾患の評価：高次脳機能検査
- 第23回 神経障害系疾患の評価：高次脳機能検査
- 第24回 運動器疾患の評価：整形外科的検査（頸部・体幹疾患）
- 第25回 運動器疾患の評価：整形外科的検査（上肢疾患）
- 第26回 運動器疾患の評価：整形外科的検査（下肢疾患）
- 第27回 内部障害疾患の評価：呼吸・循環・代謝機能検査
- 第28回 日常生活活動評価、環境評価
- 第29回 日常生活活動評価、環境評価
- 第30回 日常生活活動評価、環境評価

授業以外での学習方法

テキストや参考文献を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

教科書

理学療法評価学 改訂第4版

著者： 松澤正

出版社： 金原出版株式会社

出版年： 2012

ISBN： 9.78431E+12

神経診察クローズアップ

著者： 鈴木則宏

出版社： メジカルビュー社

出版年： 2011

ISBN： 9.78476E+12

参考書

ベッドサイドの神経の診かた

著者： 田崎義昭

出版社： 南山堂

出版年： 2010

ISBN： 9.78453E+12

理学療法ハンドブック改訂第4版

著者： 細田多穂

出版社： 協同医書出版社

出版年： 2010

ISBN： 9.78476E+12

成績評価

試験（60）

小テスト（30）

授業中課題（5）

授業中発表等（0）

参加度（5）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 理学療法評価学各論実習

担当者 安彦 鉄平・小田桐 匡・松尾 奈々

テーマ

本講義は、理学療法評価学各論演習で学んだ各種理学療法評価について、疾患および障害に適した検査・測定を選択できるようにする。また、評価方法について実習し、技術の習得や結果の解釈について学ぶ。また、学生同士で練習することで、対象者への配慮やリスク管理などについても理解する。

獲得目標

1. 各種疾患の障害メカニズムを説明することができる。
2. 各種疾患の代表的評価項目を述べることができる。
3. 各種疾患の評価手順に沿って実施することができる。
4. 各種疾患とICFにもとづく障害の整理ができる。
5. 対象者への配慮やリスク管理に留意して検査・測定を遂行することができる。

授業の内容

理学療法評価とは、対象者にとってその障害がどういう意味をなすかを解釈し判断する過程である。理学療法はその過程を通して、適宜必要と判断された治療行為に結び付けていく。この授業では、評価の意義、またその目的を理解し、治療行為に結び付けていく考え方について判断できるようになることを目標とする。また、障害別評価法の実習を行い、各種理学療法評価技術の習得を目指す。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、運動器疾患(大腿骨頸部骨折)の障害像の理解と理学療法評価
- 第2回 運動器疾患(大腿骨頸部骨折)の障害像の理解と理学療法評価
- 第3回 運動器疾患(大腿骨頸部骨折)の障害像の理解と理学療法評価
- 第4回 運動器疾患(関節リウマチ)の障害像の理解と理学療法評価
- 第5回 運動器疾患(関節リウマチ)の障害像の理解と理学療法評価
- 第6回 運動器疾患(関節リウマチ)の障害像の理解と理学療法評価
- 第7回 神経障害系疾患(脳血管障害)の障害像の理解と理学療法評価
- 第8回 神経障害系疾患(脳血管障害)の障害像の理解と理学療法評価
- 第9回 神経障害系疾患(脳血管障害)の障害像の理解と理学療法評価
- 第10回 神経障害系疾患(脳血管障害)の障害像の理解と理学療法評価
- 第11回 神経障害系疾患(脊髄損傷)の障害像の理解と理学療法評価
- 第12回 神経障害系疾患(脊髄損傷)の障害像の理解と理学療法評価
- 第13回 神経障害系疾患(脊髄損傷)の障害像の理解と理学療法評価
- 第14回 神経・筋疾患(パーキンソン病)の障害像の理解と理学療法評価
- 第15回 神経・筋疾患(パーキンソン病)の障害像の理解と理学療法評価
- 第16回 神経・筋疾患(パーキンソン病)の障害像の理解と理学療法評価
- 第17回 神経・筋疾患(パーキンソン病)の障害像の理解と理学療法評価
- 第18回 神経障害系疾患(小脳疾患)の障害像の理解と理学療法評価
- 第19回 神経障害系疾患(小脳疾患)の障害像の理解と理学療法評価
- 第20回 運動器疾患(変形性関節症)の障害像の理解と理学療法評価
- 第21回 運動器疾患(変形性関節症)の障害像の理解と理学療法評価
- 第22回 運動器疾患(変形性関節症)の障害像の理解と理学療法評価
- 第23回 内部障害系疾患(呼吸器疾患)の障害像の理解と理学療法評価

授業以外での学習方法

テキストや参考文献を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

教科書

理学療法評価学 改訂第4版

著者： 松澤正

出版社： 金原出版株式会社

出版年： 2012

ISBN: 9.78431E+12

神経診察クローズアップ

著者： 鈴木則宏

出版社： メジカルビュー社

出版年： 2011

ISBN： 9.78476E+12

参考書

ベッドサイドの神経の診かた

著者： 田崎義昭

出版社： 南山堂

出版年： 2010

ISBN： 9.78453E+12

理学療法ハンドブック改訂第4版

著者： 細田多穂

出版社： 協同医書出版社

出版年： 2010

ISBN： 9.78476E+12

成績評価

試験（60）

小テスト（30）

授業中課題（5）

授業中発表等（0）

参加度（5）

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **運動療法学**

担当者 横山 茂樹

テーマ

運動療法の基本的事項に関する知識と技術・方法について理解する。

獲得目標

本講義では、運動療法の構成要素について、生理学および機能解剖学的知識を踏まえた上で学習します。理学療法の基盤となる運動療法に関する幅広い基礎知識を身につけることが目標となる。

授業の内容

本講義の行動目標は、運動療法に関する基礎知識と運動療法の方法について説明できることである。運動が身体の組織・臓器に与える影響を理解した上で、運動療法の方法とその効果について解説する。さらに関節や筋を対象とした運動療法についても体験を通して学習する。

内 容

- 第1回 運動療法の基本的概念(1); 運動療法の歴史, 定義, 意義
 - 第2回 運動療法の基本的概念(2); 運動療法の分類, 適用, 効果
 - 第3回 基本的運動療法(1); 運動メカニズムに関する基礎的知識
 - 第4回 基本的運動療法(2); 運動療法の手順
 - 第5回 関節可動域運動(1); 他動的
 - 第6回 関節可動域運動(2); ストレッチング(伸張練習)
 - 第7回 関節可動域運動(3); モビライゼーション
 - 第8回 筋力増強練習(1); 自動介助～自動運動
 - 第9回 筋力増強練習(2); 抵抗運動
 - 第10回 筋持久力運動
 - 第11回 有酸素運動(全身持久力運動)
 - 第12回 協調性運動
 - 第13回 全身調整運動
 - 第14回 水中運動
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

事前に予習・復習を行うこと。講義ノートを作製し、予習および復習した内容はノートに書き留めておくこと。

教科書

運動療法学テキスト

著者: 植松光俊・他

出版社: 南江堂

出版年: 2010

ISBN:

参考書

運動療法大全

著者: キャロリン・キスナー, 他

出版社: ガイアブックス

出版年: 2008

ISBN:

成績評価

a90102b850

試験 (60)

小テスト (20)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (0)

試験の受験資格は、出席が3分の2以上の者とする。3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **物理療法学**

担当者 濱出 茂治

テーマ

物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌等の知識を理解する。さらに骨・関節、神経・筋疾患に対する臨床適用技術法を修得する。

獲得目標

1. 物理療法における評価方法および治療量の適切な決定基準を理解する。2. 疼痛症状、創傷、骨・関節障害、神経・筋障害等の病態を理解する。3. 治療リスクおよび事故防止方法を理解する。4. 基本的治療技術方法を理解する。

授業の内容

物理療法における治療技術、治療特性、適応と禁忌等を教授する。特に筋・骨格系、神経系障害に起因する筋萎縮、疼痛、関節拘縮、創傷などの病態について最新の基礎研究に基づく知見を講義する。さらにこれらの病態に対する物理療法の治療効果機序について言及し、特に物理療法における人工的物理エネルギー(レーザー光、超音波、磁気・電気刺激)がどのような影響を生体に及ぼすかを細胞生物学レベルで研究された知見に基づき授業を行う。

内 容

- 第1回 物理療法の歴史、定義、体系
- 第2回 物理療法における評価法
- 第3回 表在温熱療法Ⅰ：伝導熱、輻射熱、対流熱
- 第4回 表在温熱療法Ⅱ：パラフィン浴、赤外線療法
- 第5回 深部温熱療法Ⅰ：エネルギー変換熱(超短波、極超短波)
- 第6回 深部温熱療法Ⅱ：エネルギー変換熱(超音波療法、低出力超音波療法)
- 第7回 寒冷療法：冷却法、痙性抑制法、神経・筋促進法
- 第8回 極低温療法：局部冷却、全身冷却
- 第9回 水治療法：ハバードタンク、過流浴、圧注法、交代浴、灌注法
- 第10回 光線療法：紫外線、ソフトレーザー療法
- 第11回 電気刺激療法Ⅰ：経皮的末梢神経電気刺激、高電圧刺激、干渉電流刺激
- 第12回 電気刺激療法Ⅱ：神経・筋電気刺激、機能的電気刺激法
- 第13回 牽引療法：四肢牽引、頸椎牽引、腰椎牽引
- 第14回 電気診断：時間一強さ曲線作図法、誘発筋電図(M波、H波、F波、運動誘発電位)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

物理療法学に関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

教科書

物理療法マニュアル

著者： 嶋田智明、濱出茂治

出版社： 医歯薬出版

出版年： 1996

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90102b950

3分の1以上の欠席を認めない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 生活技術学

担当者 村田 伸安彦 鉄平

テーマ

獲得目標

1. 基本的ADLと手段的ADLを説明できる。2. ADLの代表的な評価方法を実践できる。3. ADLの自立に向けた基本的なアプローチ方法を説明できる。4. 疾患特有のADL障害を理解し、そのアプローチ方法を説明できる。

授業の内容

理学療法の大きな目標の一つである日常生活活動の自立を目指すための理学療法の一連の流れを学習する。

内 容

- 第1回 日常生活活動(ADL)の概念
 - 第2回 ADLの評価の実際(BI)
 - 第3回 ADLの評価の実際(FIM)
 - 第4回 ADLの評価の実際(FIM)
 - 第5回 手段的日常生活活動(IADL)の評価
 - 第6回 補装具(杖と車いす)
 - 第7回 起居・移動動作
 - 第8回 身の回り動作
 - 第9回 ADLを支援する機器
 - 第10回 疾患別ADL(脳卒中)
 - 第11回 疾患別ADL(脊髄損傷)
 - 第12回 疾患別ADL(関節リウマチ)
 - 第13回 疾患別ADL(大腿骨頸部骨折)
 - 第14回 疾患別ADL(変形性関節症)
 - 第15回 疾患別ADL(下肢切断)
-

授業以外での学習方法

教科書

日常生活活動テキスト

著者： 河元岩男・他偏

出版社： 南江堂

出版年： 2011

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90102c050

3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **運動器障害系理学療法学基礎演習**

担当者 宮崎 純弥

テーマ

運動器障害系理学療法の基礎的な知識と技術の習得を促進

獲得目標

基本的な運動器障害系の理学療法について理解し、また基本的な技術を習得することを目標とする。

授業の内容

本講義を通して、運動器障害に関する理学療法士に必要な基本的な知識、技術について学ぶ。前半は主に運動器障害に対する理学療法の流れについて解説するとともに、疾患に対する知識を教授する。後半は、具体的な疾患として大腿骨頸部骨折、変形性関節症、腰痛、肩関節疾患等について解説および実技指導を演習形式で行う。第1回 オリエンテーション 第2回 運動器理学療法基礎知識 第3回 運動器理学療法の流れ 第4回 骨折 第4回 大腿骨頸部骨折 第5回 変形性股関節症(1) 第6回 変形性股関節症(2) 第7回 変形性膝関節症(1) 第8回 変形性膝関節症(2) 第9回 高齢者の骨折 第10回 肩関節周囲炎 第11回 関節リウマチ 第12回 脊椎疾患 第13回 腰痛 第14回 靭帯損傷 第15回 総括

内 容

- 第1回 理学療法プロセスとは
- 第2回 理学療法プロセス(障害の階層性)
- 第3回 理学療法プロセス(情報収集～検査測定の意味)
- 第4回 理学療法プロセス(統合解釈～治療計画立案)
- 第5回 骨折に関する基礎知識
- 第6回 大腿骨頸部骨折の理学療法
- 第7回 大腿骨頸部骨折の理学療法実技
- 第8回 変形性股関節症の理学療法
- 第9回 変形性股関節症の理学療法実技
- 第10回 変形性膝関節症の理学療法
- 第11回 変形性膝関節症の理学療法実技
- 第12回 腰痛症の理学療法1
- 第13回 腰痛症の理学療法2
- 第14回 腰痛症の理学療法実技
- 第15回 腰部疾患の理学療法
- 第16回 腰部疾患の理学療法実技
- 第17回 肩関節疾患の理学療法1
- 第18回 肩関節疾患の理学療法2
- 第19回 肩関節疾患の理学療法実技
- 第20回 関節リウマチの理学療法
- 第21回 関節リウマチの理学療法実技
- 第22回 下肢骨折の理学療法
- 第23回 下肢骨折の理学療法実技
- 第24回 上肢骨折の理学療法
- 第25回 上肢骨折の理学療法実技
- 第26回 脊椎疾患の理学療法
- 第27回 脊椎疾患の理学療法実技
- 第28回 靭帯損傷の理学療法
- 第29回 靭帯損傷の理学療法実技
- 第30回 総括

授業以外での学習方法

テキストや参考書を基に、各自の理解度に応じて学生間で予習・復習を行う。

教科書

ここがポイント！整形外科疾患の理学療法(改訂第2版)

著者： 監修)富士武史

出版社： 金原出版

出版年： 2006

ISBN： 9.78431E+12

骨・関節系理学療法クイックリファレンス(第2版)

著者： 岡西哲夫・岡田誠・板場英行

出版社： 文光堂

出版年： 2010

ISBN： 9.78483E+12

参考書

成績評価

試験 (80)

小テスト ()

授業中課題 (10)

授業中発表等 (5)

参加度 (5)

授業日程の3分の2以上出席した者を成績評価の対象とします。3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **神経障害系理学療法学基礎演習**

担当者 濱出 茂治・小田桐 匡・兒玉 隆之

テーマ

中枢性・末梢性神経障害に対する理学療法学を学ぶ。

獲得目標

解剖学、生理学、臨床医学などで学んだ神経系の知識を基礎に、それらの損傷がもたらす中枢性疾患や末梢性疾患の病態を理解し、その障害に対する理学療法(評価方法や治療トレーニング)の知識を演習形式にて学習する。

授業の内容

内 容

- 第1回 末梢神経障害の病態
 - 第2回 末梢神経障害に対する評価(電気診断法)
 - 第3回 末梢神経障害に対する理学療法
 - 第4回 模擬末梢神経障害症例に対するグループ演習Ⅰ
 - 第5回 模擬末梢神経障害症例に対するグループ演習Ⅱ
 - 第6回 大脳の解剖生理と機能について
 - 第7回 大脳における運動神経系および感覚神経系について
 - 第8回 大脳の内因性疾患(脳卒中など)に対する理学療法
 - 第9回 大脳の外因性疾患(頭部外傷など)に対する理学療法
 - 第10回 グループ演習①
 - 第11回 大脳基底核の解剖と生理および代表的な障害について
 - 第12回 小脳の解剖と生理および代表的な障害について
 - 第13回 脊髄の解剖と生理および代表的な障害について
 - 第14回 グループ演習②
 - 第15回 グループ演習③
-

授業以外での学習方法

神経障害学に関する参考書、文献等の自己学習、レポート課題の学習

教科書

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 検査・測定実習

担当者 村田 伸・安彦 鉄平・小田桐 匡・甲斐 義浩・兒玉 隆之・崎田 正博・白岩 加代子・堀江 淳・松尾 奈々・宮崎 純弥・横山 茂樹

テーマ

獲得目標

1)社会人・専門職としての基本的態度を身につける。2)医療従事者として責任および節度のある態度と行動を学ぶ。3)理学療法士が勤務する施設の機能・概要を把握する。4)理学療法部門およびその関連職種部門の見学により臨床場面において理学療法士が果たすべき役割を学ぶ。5)検査・測定・治療の実際を見学する。6)理学療法士の具体的なイメージを形づくり、以降の学習への動機づけとする。7)臨床実習に必要な積極的な学習態度を身につける。

授業の内容

第一段階の「入門的」な実習であり、実習指導者の指導・教育のもと見学を中心とした実習を行う。本実習を通して、理学療法士が勤務する病院や施設が果たす社会的役割とその病院、施設における理学療法士の役割や機能の概要を把握する。また、医療従事者間の関係や医療従事者と患者・利用者との関係を見学し、コミュニケーションの重要性についても体験する。自分が目指すべき理学療法士のイメージを形づくり、以降の学習への動機づけとする。さらに理学療法士の業務内容と義務および責任について学び、社会人・保健医療専門職としてのあり方、資質についての理解を深。

内 容

- 第1回 オリエンテーション:実習概要を理解し、実習に取り組む際の注意事項などについて確認する。
- 第2回 現場実習
- 第3回 現場実習
- 第4回 現場実習
- 第5回 現場実習
- 第6回 現場実習
- 第7回 現場実習
- 第8回 現場実習
- 第9回 現場実習
- 第10回 現場実習
- 第11回 現場実習
- 第12回 現場実習
- 第13回 現場実習
- 第14回 現場実習
- 第15回 実習終了後セミナー:実習経験報告、集団討議などから成る。学生は、実習課題を中心に、実習施設の概要や実習した内容および経験について要点をまとめて簡潔に発表する。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

a90102c350

実習の出席は80%以上で単位認定の資格を得る。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 公衆衛生学

担当者 伊藤 健一

テーマ

理学療法士に必要な公衆衛生の基礎的な知識を身につける。

獲得目標

公衆衛生の前提となる集団・社会の健康の意義、社会医学の考え方、公衆衛生学の発展過程を理解した上で、公衆衛生活動の人口・疾病統計と健康指標、疫学、健康管理の基礎を身につける。地域保健、成人保健、母子保健、老人保健、産業保健、学校保健の各分野における保健活動について理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 集団の健康の定義と社会医学の考え方
 - 第2回 公衆衛生学の発展過程
 - 第3回 人口統計の健康指標
 - 第4回 疫学の定義、疫学の調査方法
 - 第5回 環境保健・健康管理
 - 第6回 地域保健・母子保健
 - 第7回 成人保健・老人保健福祉
 - 第8回 学校保健・産業保健
-

授業以外での学習方法

授業中に小テストを実施するので、必ず復習しておくこと。参考文献にも必ず目を通しておくこと。

教科書

参考書

『国民衛生の動向

著者:

出版社: 厚生統計協会

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (10)

参加度 ()

小テスト (30)

授業中発表等 ()

a90102d150

参考URL

2013 Syllabus

科目名 老年医学

担当者 吉川 隆一

テーマ

超高齢化社会を迎えつつある我が国では、病気を持つ高齢者が増加している。高齢者は「老化した成人」と同一ではない、高齢者固有の身体的・精神的特徴を有している。そうした高齢者の特徴について学んでいきたい。

獲得目標

病に悩む高齢者の臨床現場で、高齢者の身体的・精神的特徴に配慮した診療実践ができるよう基礎的知識を獲得してほしい。

授業の内容

益々増加する高齢者の様々な疾患の病像、治療について教授する。

内 容

- 第1回 加齢と老化
 - 第2回 高齢者へのアプローチ
 - 第3回 老年症候群
 - 第4回 循環器疾患
 - 第5回 呼吸器疾患
 - 第6回 消化器疾患
 - 第7回 骨・運動器疾患
 - 第8回 神経疾患
 - 第9回 精神疾患
 - 第10回 内分泌代謝疾患
 - 第11回 血液・免疫疾患
 - 第12回 腎・泌尿器・皮膚・口腔疾患
 - 第13回 感染症・耳鼻咽喉・眼疾患
 - 第14回 高齢者の環境
 - 第15回 高齢者のリハビリテーション
-

授業以外での学習方法

教科書

標準理学療法学・作業療法学「老年学」第3版

著者： 大内尉義編集

出版社： 医学書院

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

a90102d250

3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **画像診断学**

担当者 小田 絳弘・久保山 哲彦・田村 慶朗・西川 仁史

テーマ

基本的な画像診断学の知識を習得する。

獲得目標

・放射線診断の歴史および画像診断学の基本を理解する。・画像診断のための各種検査法の原理と診断方法を理解する。・治療への応用であるIVR(インターベンショナル・ラジオロジー)について理解する。・整形外科領域における医用診断画像の読影法を学び、理学療法評価や治療プログラム遂行上の病態把握、リスク管理に欠かせない情報であることを理解する。

授業の内容

授業による座学を中心とする。

内 容

- 第1回 放射線診断の歴史および画像診断学の概要を学ぶ。
- 第2回 ①各種検査法(X線検査)の原理と画像診断学について学ぶ。
- 第3回 ②各種検査法(造影検査・IVR)の原理と画像診断および治療について学ぶ。
- 第4回 ③各種検査法(X線CT)の原理と画像診断学について学ぶ。
- 第5回 ④各種検査法(MRI)の原理と画像診断学について学ぶ。
- 第6回 ⑤各種撮影検査法(超音波検査)の原理と画像診断学について学ぶ。
- 第7回 まとめ(1回～6回)
- 第8回 整形外科領域の画像の見方:代表的な外傷性疾患について学ぶ
- 第9回 整形外科領域の画像の見方:高齢者の4大骨折について学ぶ
- 第10回 整形外科領域の画像の見方:変形性関節症(OA)と関節リウマチ(RA)について学ぶ
- 第11回 整形外科領域の画像の見方:若年者とスポーツ障害について学ぶ
- 第12回 内臓器疾患の画像の見方1
- 第13回 内臓器疾患の画像の見方2
- 第14回 脳外科疾患の画像の見方1
- 第15回 脳外科疾患の画像の見方2

授業以外での学習方法

当該科目における国家試験の過去問においてどのような問題が出題されているか確認しておくこと。第8～11回授業では、授業の理解度を確認するために小テストを実施します。小テスト結果は、成績判定に反映します。なお、遅刻10分で欠席扱いにしますので注意してください。

教科書

メディカルノート画像診断

著者: 小川敏英

出版社: 西村書店

出版年: 2007年

ISBN:

参考書

運動療法に役立つ単純X線像の読み方

著者: 青木隆明

出版社: MEDICAL VIEW社

出版年: 2011年

ISBN:

成績評価

a90102d450

試験 (80)

授業中課題 (0)

参加度 (20)

3分の1以上の欠席を認めない

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **スポーツ医学**

担当者 辻原 隆是 吉田 昌平

テーマ

獲得目標

本講義では、運動器系のスポーツ外傷・障害の診断、治療、予防および内科系のスポーツ障害の理解を目的としている。さらには女性や中高年特有の障害に対する理解も深め、その予防のひとつであるメディカルチェックにも言及する。また、これらスポーツ傷害の理解を通して、筋・骨格系、呼吸循環系の機能解剖や運動生理学に対する基礎知識をさらに深めることも重要な目的である。

授業の内容

内 容

- 第1回 スポーツ医学概論(辻原)
 - 第2回 スポーツ外傷・障害総論(救急処置も含む)(辻原)
 - 第3回 スポーツ外傷・障害各論、体幹(辻原)
 - 第4回 スポーツ外傷・障害各論、上肢(辻原)
 - 第5回 スポーツ外傷・障害各論、下肢(辻原)
 - 第6回 スポーツ外傷・障害各論、その他(頭部、顔面等)(辻原)
 - 第7回 メディカルリハビリテーションの考え方とその手法(吉田)
 - 第8回 内科系のスポーツ障害(辻原)
 - 第9回 特殊環境下でのスポーツ障害(辻原)
 - 第10回 アスレティックリハビリテーションの考え方とその手法(吉田)
 - 第11回 女性や中高年におけるスポーツ障害(辻原)
 - 第12回 障害者におけるスポーツ障害(辻原)
 - 第13回 メディカルチェックとドーピング(辻原)
 - 第14回 競技復帰時期のフィジカルチェックとその手法(吉田)
 - 第15回 まとめ(辻原)
-

授業以外での学習方法

事前に参考図書等、講義内容に関するものに目を通しておくことが望ましい。

教科書

※無し予定

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト ワークブック 運動器の解剖とスポーツ外傷・障害の基礎知識

著者: 財団法人日本体育協会指導者育成専門委員会アスレティックトレーナー部会/福林 徹(早稲田大学)

出版社: 文光堂

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

試験で100%。但し受験資格の要件として3分の2以上の出席とする 3分の1以上の欠席を認めない

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **薬理学**

担当者 天野 博夫

テーマ

看護に必要な生理学, 薬理学, 病理学, 栄養学等を系統的に学び, 身体健康状態をアセスメントするための基礎的知識を修得する。

獲得目標

1.看護に必要な人体の構造と機能を関連付けて説明できる。2.薬物療法の種類と効果について説明できる。3.組織や器官の正常な状態との比較から異常な状態を説明できる。4.看護に必要な栄養と代謝について説明できる。5.主要な疾患の症状, 病因, 病態, 治療, 予後について説明できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(1):咀嚼、嚥下
- 第2回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(2):消化
- 第3回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(3):吸収
- 第4回 食物を摂取して、消化・吸収し排泄する仕組み(4):排泄
- 第5回 栄養と代謝(1):臨床栄養学の基礎知識
- 第6回 栄養と代謝(2):運動と栄養
- 第7回 栄養と代謝(3):人生各期における栄養
- 第8回 栄養と代謝(4):検査と回復促進のための食事
- 第9回 栄養と代謝(5):疾患治療のための食事
- 第10回 栄養と代謝(6):食事指導
- 第11回 子孫を残す仕組み(1):女性性器
- 第12回 子孫を残す仕組み(2):男性性器
- 第13回 体内の環境を整える仕組み(1):内分泌ホルモン
- 第14回 体内の環境を整える仕組み(2):内分泌器官
- 第15回 異物を認識し、記憶して排除する仕組み:免疫系 *1~15回 林正先生
- 第16回 生体機能の変調 ~病理学の基礎:病理学とは, 病因論
- 第17回 生体機能の変調 ~病理学の基礎:病理学とは, 病因論
- 第18回 先天異常と遺伝子異常
- 第19回 代謝障害
- 第20回 循環障害
- 第21回 炎症と修復
- 第22回 腫瘍 *16~22回 川上先生
- 第23回 生体機能を補う ~薬学の基礎
- 第24回 薬物療法と看護
- 第25回 薬物の作用と作用機序
- 第26回 薬物動態
- 第27回 薬物相互作用
- 第28回 薬物療法に影響を与える因子
- 第29回 薬物の有害作用
- 第30回 医薬品の管理 *23~30回 天野先生

授業以外での学習方法

3分の1以上の欠席を認めない

教科書

ナーシンググラフィカ 解剖生理学

著者:

出版社: メディカ出版

出版年:

ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 病理学

著者:

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学

著者:

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

ナーシング・グラフィカ④臨床栄養学第

著者: 關戸啓子

出版社: メディカ出版

出版年:

ISBN:

参考書

日本人体解剖学改訂19版(上・下)

著者: 金子丑之助

出版社: 南山堂

出版年:

ISBN:

プロメテウス解剖学アトラス(解剖学総論、運動器系)

著者: 坂井建雄他監訳

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

ギャノン生理学原書23版

著者: 岡田泰信監訳

出版社: 丸善

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **English Communication II (Ⅱ) <a>**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Practical Oral Communication in English

獲得目標

This course will aim to improve students' self-expression in and understanding of real-life English while fostering critical thinking.

授業の内容

Students will be expected to attend regularly, participate actively and interact with classmates. We will practice listening and speaking skills, and do exercises to build vocabulary and grammar skills. This course will be taught in English.

内 容

第13回 Fear (I)
第14回 Fear (II)
第15回 Assessment 5
第1回 Comedy (I)
第2回 Comedy (II)
第3回 Assessment 1
第4回 Music (I)
第5回 Music (II)
第6回 Assessment 2
第7回 Honesty (I)
第8回 Honesty (II)
第9回 Assessment 3
第10回 Change (I)
第11回 Change (II)
第12回 Assessment 4

授業以外での学習方法

Classwork will be augmented with online homework exercises.

教科書

Q: Skills for Success 1 Listening & Speaking Student Book with Student Access Code Card

著者: Jaimie Scanlon

出版社: Oxford University Press

出版年: 2010

ISBN: 194756106

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **English Communication II (Ⅱ) **

担当者 ビショップ マイケル

テーマ

Reading as an effective means of acquiring fluency in English.

獲得目標

This course follows the pattern of the previous semester. It aims to improve all essential language-learning skills: reading, vocabulary building, listening comprehension, and grammar. Through extensive reading students are prepared for standardized tests such as TOEIC and TOEFL.

授業の内容

Each unit contains a five-hundred word article followed by comprehension and analysis questions. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Review of units one to seven
 - 第2回 Spending a Fortune
 - 第3回 Spending a Fortune
 - 第4回 Wonders of the Deep
 - 第5回 Wonders of the Deep
 - 第6回 Product Placement
 - 第7回 Product Placement
 - 第8回 White-collar Crime
 - 第9回 White-collar Crime
 - 第10回 Working Disabled
 - 第11回 Working Disabled
 - 第12回 Pet Therapy
 - 第13回 Pet Therapy
 - 第14回 Quantum Computers
 - 第15回 Breaking the Poverty Cycle
-

授業以外での学習方法

Students are required to attend regularly and bring a good dictionary to each class. They should also read widely in both Japanese and English.

教科書

Reading Fusion 1

著者: Andrew E. Bennett

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2012/3/14

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験 (35)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (5)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 English Communication II (心) <R>

担当者 杉山 泰

テーマ

コミュニケーションのための基礎英文法

獲得目標

「おれのおごりだよ」をThis is on me.とか「割り勘で行こう」をLet's go Dutch.ととっさには言えない。中学英語であるのに、よく使う英語表現がなかなか口をついて出てこない。こうした日常の英語が口から出てくるように工夫されたテキストを用いて、基礎英文法を学びたい。

授業の内容

毎回教科書をUnit 1ずつやっていく。辞書を持参して、作業をしてもらう。英語で何とか日本文化を伝えたい、という気持ちがあれば、実は中学英語で十分役に立つ。中学・高校の復習だが、ひと味違う授業を展開してみたい。

内 容

- 第1回 自己紹介。Unit 1 会話の英語(1) (出会いの英語＝挨拶の英語、質問文、命令文)
- 第2回 Unit 2 会話の英語(2) (シンプルで一語表現、控えめな表現、会話独特の表現＝Thank youとsorry)
- 第3回 Unit 3 語句や文をつなぐ＝接続詞 (andとbutの論理、文と文とをいかに論理的につなぐのか)
- 第4回 Unit 4 過去を語る英語＝時制 (過去形と現在完了形の違い)
- 第5回 Unit 5 これからのことを語る＝未来形 (助動詞の使い方と現在進行形)
- 第6回 Unit 6 自分を語る英語 (喜怒哀楽を示し、自己を主張する英語)
- 第7回 Unit 7 人を動かす英語 (命令文、使役動詞、助動詞)
- 第8回 Unit 8 人の言葉を伝える英語 (伝達動詞＝sayと語法)
- 第9回 Unit 9 数量を表す英語 (数える名詞、数えない名詞、数学に使われる英語)
- 第10回 Unit 10 位置・移動を表す英語 (前置詞の役割)
- 第11回 Unit 11 気持ち・形状を表す英語 (比較表現、最上級表現)
- 第12回 Unit 12 動きのある英語 (現在進行形、動詞の使い方)
- 第13回 Unit 13 英語の「は」と「が」 (a＝未知とthe＝既知の使い方)
- 第14回 Unit 14 話の流れと語順 (語順が大事な英語、受身表現)
- 第15回 Unit 15 情報を詰め込む (名詞中心構文、後から修飾できる英語)

授業以外での学習方法

NHKラジオの「基礎英語」の利用を勧める。また、日常的に車や煙草、商品に書いてある英語の収集をしてもらい、正しい英語かどうかチェックしてもらう。

教科書

伝えるための英文法・英作文

著者： 鳥飼慎一郎

出版社： 朝日出版社

出版年： 2012年

ISBN:

参考書

日本語を「外」から見る

著者： 佐々木瑞枝

出版社： 小学館新書

出版年： 2009年

ISBN:

(続)日本人の英語

著者: マーク・ピーターセン

出版社: 岩波新書

出版年: 1990年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

病気などで出席できなかった学生は、自宅学習をして必ずその時のプリントを提出する。提出すれば、遅れの出席として、評価の対象とするので、15回の提出物だけは必ず提出すること。上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 English Literacy II <a>

担当者 弥永 啓子

テーマ

心理学に関連する一般的な説明文の読解力養成

獲得目標

・300語程度の説明文を一定のスピードで読むことができる。・説明文やアカデミックな文書で頻繁に使用される語彙力を受容レベルで獲得する。・読解に必要な、中級以上の文法項目を理解し、複雑な文構造をもつ文を理解できるようになる。

授業の内容

毎回、心理学の様々な話題に関する短い文章を読んでゆきます。

内 容

- 第1回 Do Good Luck Charms Really Work?
 - 第2回 Are People Born Shy?
 - 第3回 Do Too Many Choices Make Us Unhappy?
 - 第4回 Can Positive Thinking Lead to Longer, Happier Lives?
 - 第5回 Why Are Music and Singing So Important to Us?
 - 第6回 How Much TV is Too Much?
 - 第7回 Is Love Really Such a Mystery?
 - 第8回 Why Are People So Weird Online?
 - 第9回 How Much Anger is Too Much?
 - 第10回 Can Loss of Memory Be prevented?
 - 第11回 Is the Pain of Hypochondriacs Real?
 - 第12回 Is It Really Possible to Tell If Someone Is Lying?
 - 第13回 Can Prejudice Make You Stupid?
 - 第14回 Why Do Some Geniuses Fail?
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

オンラインで行う予習・復習を必須とします。

教科書

Everyday Psychology

著者: Jim Knudsen 他

出版社: Nan'un-do

出版年: 2005

ISBN: 4523174695C0082

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 English Literacy II

担当者 栗田 梨津子

テーマ

アカデミック英語入門

獲得目標

様々な学問分野の英語を読んで理解できるようになるための基礎力を養うこと。まとまった英文を読む際に必要となる基礎的な語彙力、文法力を身につけること。

授業の内容

アカデミック英語の基礎となる様々なトピックの説明文を読み、パラグラフごとの要点をつかむ練習をします。補足的に、各ユニットのテーマに関連するリスニングの練習を通して、聴解力を養います。

内 容

- 第1回 授業概要の説明 英語の学習経験や英語能力に関するアンケート
- 第2回 Unit 6: Who makes you laugh? (Reading 1: What is Laughter?)
- 第3回 Unit 6: Who makes you laugh? (Reading 2: The Best Medicine is Laughter)
- 第4回 Unit 6のまとめとリスニング練習
- 第5回 Unit 7: How does music make you feel? (Reading 1: Music and Shopping)
- 第6回 Unit 7: How does music make you feel? (Reading 2: Music and the Movies)
- 第7回 Unit 7のまとめとリスニング練習
- 第8回 Unit 8: Is it ever OK to lie? (Reading 1: The Lies People Tell)
- 第9回 Unit 8: Is it ever OK to lie? (Reading 2: Honesty and Parenting)
- 第10回 Unit 8のまとめとリスニング練習
- 第11回 Unit 9: How are children and adults different? (Reading 1: What is an Adult?)
- 第12回 Unit 9: How are children and adults different? (Reading 2: Becoming an Adult)
- 第13回 Unit 9のまとめとリスニング練習
- 第14回 リスニング練習
- 第15回 リスニング練習

授業以外での学習方法

各ユニットの終わりに、語彙と内容をどれだけ理解できているかを確認する小テストを行いますので、毎回授業の復習をしっかりしておいてください。

教科書

Q: Skills for Success (Reading and Writing) 1

著者: Sarah Lynn

出版社: Oxford University Press

出版年: 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ〈a〉

担当者 日比野 英子・ジェームス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下のような15のテーマについての講義・体験学習を行い、それに基づいて、体験を振り返り、概念化し、グループで発表・討論を行う。

内 容

- 第1回 社会的相互作用の循環過程(日比野)
- 第2回 ジョハリの窓(日比野)
- 第3回 成長のためのフィードバック(日比野)
- 第4回 グループの発達(中西)
- 第5回 コミュニケーションのプロセスと留意点①(中西)
- 第6回 コミュニケーションのプロセスと留意点②(中西)
- 第7回 援助的なコミュニケーション(中島)
- 第8回 効果的コミュニケーションのための5つの要素(中島)
- 第9回 対話の中での聞き手の留意点(中島)
- 第10回 感情とのつきあい方(松下)
- 第11回 ことばによるコミュニケーション(松下)
- 第12回 非言語コミュニケーション(松下)
- 第13回 からだとことば(ジェームス)
- 第14回 自己概念・経験・成長(ジェームス)
- 第15回 私たちの主観的世界(ジェームス) なお、外部講師を招いて、講演を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ

担当者 日比野 英子・ジェイムス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス) なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ〈C〉

担当者 日比野 英子・ジェイムス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス) なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **自己表現研究Ⅱ <d>**

担当者 日比野 英子・ジェイムス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス) なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **自己表現研究Ⅱ〈e〉**

担当者 日比野 英子・ジェイムス 朋子・中島 暢美・中西 龍一・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

心理学素材を用いた講義・体験学習による気づき・学びについて、振り返り・言語化し、クラスでの発表や討論を行うことにより、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、クラスメンバーとの交流を体験する。また、大学で求められる自主的積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

以下の15のテーマについての講義や体験学習を行い、それを基に体験の振り返り、理論と関連づけての概念化、グループでの発表や討論を行う。

内 容

- 第1回 体験学習から学ぶことの意味(日比野)
- 第2回 「自分で試みる場」としてのラボラトリーメソッド(日比野)
- 第3回 Tグループについて(日比野)
- 第4回 「成長するための枠」としてのラボラトリーメソッド(中西)
- 第5回 自己理解を深めるための「学習ジャーナル」(中西)
- 第6回 体験学習と引き裂く学習(中西)
- 第7回 プロセスとコンテンツ(中島)
- 第8回 グループプロセス①(中島)
- 第9回 グループプロセス②(中島)
- 第10回 組織と個人の活性化をめざす組織内研究としての体験学習(松下)
- 第11回 体験プログラム①(松下)
- 第12回 体験プログラム②(松下)
- 第13回 集団規範(ジェームス)
- 第14回 集団における意志決定(ジェームス)
- 第15回 リーダーシップ(ジェームス) なお、外部講師を招いて、体験学習や講義を実施することがある。

授業以外での学習方法

各担当者の紹介する文献や、各受講生が図書館等を利用してテーマに即した文献を読み、要約して発表の準備をする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学研究法 I (概論)**

担当者 永野 光朗・田中 芳幸・中川 明仁

テーマ

獲得目標

心理学が目標とする「実証(データ)に基づく客観的な行動理解」を実現するための方法論について理解を深める。

授業の内容

心理学の方法論である、実験法、調査法、観察法などを理解するとともに、心理学における研究計画を身につける。またそれぞれの研究法において用いられる統計的方法(量的データへの分析方法の適用と解釈)についても理解を深める。

内 容

- 第1回 心理学における実証的方法とは？
 - 第2回 実験法①(概要の説明)
 - 第3回 実験法②(実験計画の立案)
 - 第4回 実験法③(実験における従属測度)
 - 第5回 実験法④(操作チェック)
 - 第6回 実験法⑤(実験データの統計解析)
 - 第7回 調査法①(概要の説明)
 - 第8回 調査法②(調査計画の立案)
 - 第9回 調査法③(サンプリング)
 - 第10回 調査法④(訪問面接調査の方法)
 - 第11回 調査法⑤(調査データの統計解析)
 - 第12回 観察法①(観察データの意義)
 - 第13回 観察法②(観察法における測度)
 - 第14回 観察法③(観察データの統計解析)
 - 第15回 論文作成の方法
-

授業以外での学習方法

教科書や参考文献に示すものなど心理学研究法関連図書による自学自習、および、心理学関連の研究論文で実際に用いられている研究方法や統計学的解析方法への考察

教科書

心理学研究法入門

著者: アン サール 著・宮本 聡介・渡辺 真由美 訳

出版社: 新曜社

出版年:

ISBN:

参考書

パソコンによるデータ分析

著者: 大西 正和・権藤 元・永野 光朗・小野 能文・朽尾 真一・平川 理絵子

出版社: 建帛社

出版年:

ISBN:

心理学マニュアル 要因計画法

著者： 後藤 宗理・中沢 潤・大野木 裕明

出版社： 北大路書房

出版年：

ISBN：

心理学マニュアル 質問紙法

著者： 鎌原 雅彦・大野木 裕明・宮下 一博・中沢 潤

出版社： 北大路書房

出版年：

ISBN：

心理学マニュアル 観察法

著者： 中沢 潤・南 博文・大野木 裕明

出版社： 北大路書房

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習 I <a>**

担当者 坂本 敏郎・田中 芳幸・前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれての演習授業である。実験の概要・目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
 - 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
 - 第3回 錯視実験(1)
 - 第4回 錯視実験(2)
 - 第5回 データ解析とレポートの説明
 - 第6回 記憶課題テスト、概要説明
 - 第7回 記憶実験(1)
 - 第8回 記憶実験(2)
 - 第9回 記憶実験(3)
 - 第10回 データ解析とレポートの説明
 - 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
 - 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
 - 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
 - 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
 - 第15回 レポートの説明、授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90201a950

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習 I **

担当者 田中 芳幸 坂本 久美 前田 洋光

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれての演習授業である。実験の概要・目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
 - 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
 - 第3回 錯視実験(1)
 - 第4回 錯視実験(2)
 - 第5回 データ解析とレポートの説明
 - 第6回 記憶課題テスト、概要説明
 - 第7回 記憶実験(1)
 - 第8回 記憶実験(2)
 - 第9回 記憶実験(3)
 - 第10回 データ解析とレポートの説明
 - 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
 - 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
 - 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
 - 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
 - 第15回 レポートの説明、授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90201a952

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習 I <c>**

担当者 前田 洋光・坂本 久美・中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれての演習授業である。実験の概要・目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
 - 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
 - 第3回 錯視実験(1)
 - 第4回 錯視実験(2)
 - 第5回 データ解析とレポートの説明
 - 第6回 記憶課題テスト、概要説明
 - 第7回 記憶実験(1)
 - 第8回 記憶実験(2)
 - 第9回 記憶実験(3)
 - 第10回 データ解析とレポートの説明
 - 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
 - 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
 - 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
 - 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
 - 第15回 レポートの説明、授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90201a953

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習 I <d>**

担当者 坂本 久美・佐藤 鮎美・中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれての演習授業である。実験の概要・目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
 - 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
 - 第3回 錯視実験(1)
 - 第4回 錯視実験(2)
 - 第5回 データ解析とレポートの説明
 - 第6回 記憶課題テスト、概要説明
 - 第7回 記憶実験(1)
 - 第8回 記憶実験(2)
 - 第9回 記憶実験(3)
 - 第10回 データ解析とレポートの説明
 - 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
 - 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
 - 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
 - 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
 - 第15回 レポートの説明、授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90201a954

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習 I <e>**

担当者 中川 明仁・坂本 敏郎・佐藤 鮎美

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれての演習授業である。実験の概要・目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
 - 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
 - 第3回 錯視実験(1)
 - 第4回 錯視実験(2)
 - 第5回 データ解析とレポートの説明
 - 第6回 記憶課題テスト、概要説明
 - 第7回 記憶実験(1)
 - 第8回 記憶実験(2)
 - 第9回 記憶実験(3)
 - 第10回 データ解析とレポートの説明
 - 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
 - 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
 - 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
 - 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
 - 第15回 レポートの説明、授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90201a955

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習 I** <f>

担当者 佐藤 鮎美 坂本 敏郎 田中 芳幸

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

グループに分かれての演習授業である。実験の概要・目的を理解し、実験を実施し、レポートを作成する。

内 容

- 第1回 実験演習のオリエンテーション
 - 第2回 ミラー・リヤー錯視実験、概要説明
 - 第3回 錯視実験(1)
 - 第4回 錯視実験(2)
 - 第5回 データ解析とレポートの説明
 - 第6回 記憶課題テスト、概要説明
 - 第7回 記憶実験(1)
 - 第8回 記憶実験(2)
 - 第9回 記憶実験(3)
 - 第10回 データ解析とレポートの説明
 - 第11回 認知的コンフリクト実験、概要説明
 - 第12回 ストループカラーワードテスト(1)
 - 第13回 ストループカラーワードテスト(2)
 - 第14回 ストループカラーワードテスト(3)
 - 第15回 レポートの説明、授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

特になし。とにかく授業に出席し、実験を行ってほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90201a956

実験の実施(出席)とレポート作成を重視します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学Ⅱ**

担当者 永野 光朗

テーマ

獲得目標

「社会的過程」や「社会への応用」をテーマとする心理学

授業の内容

過去の心理学研究における研究の流れを概観した上で、実証に基づき人間の心と行動の仕組みを理解するという心理学の学問的目標が、人間の社会生活や産業場面においてどのように役立つのかを理解する。また、以上を達成するための心理学的方法論の有用性についても理解をする。

内 容

- 第1回 心理学の目標
 - 第2回 人間理解と心理学
 - 第3回 心理学と社会生活とのつながり
 - 第4回 これまでの心理学の取り組み(1) 実証科学としての心理学の確立
 - 第5回 これまでの心理学の取り組み(2) 学習理論
 - 第6回 これまでの心理学の取り組み(3) 認知理論
 - 第7回 社会を理解するための心理学(1) 社会的相互作用としての人間行動
 - 第8回 社会を理解するための心理学(2) 対人認知と印象形成
 - 第9回 社会を理解するための心理学(3) 対人行動
 - 第10回 社会を理解するための心理学(4) 集合行動
 - 第11回 社会を理解するための心理学(5) 社会的認知理論
 - 第12回 心理学の応用(1) 社会生活への応用
 - 第13回 心理学の応用(2) 企業活動への応用(組織行動)
 - 第14回 心理学の応用(3) 企業活動への応用(消費者行動)
 - 第15回 心理学の応用(4) 環境配慮行動の促進
-

授業以外での学習方法

社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。

教科書

心理学概論

著者： 山内弘継・橋本 宰 監修

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2006

ISBN： 7795-0050-8

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 心理統計学 I

担当者 前田 洋光・中川 明仁

テーマ

基礎的な統計学の理解

獲得目標

基礎的な統計手法や概念について理解し、心理統計学Ⅱ以降で前提となる知識の基盤をつくる。また、統計の必要性について理解を深める。

授業の内容

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン:統計学の必要性について
 - 第2回 尺度水準 (Stevensの4つの尺度水準)
 - 第3回 度数分布
 - 第4回 さまざまな代表値
 - 第5回 散布度
 - 第6回 変数変換 (標準得点と偏差値)
 - 第7回 前半部分のまとめと確認
 - 第8回 共分散とピアソンの相関係数(1)
 - 第9回 共分散とピアソンの相関係数(2)
 - 第10回 順位相関係数
 - 第11回 カイ2乗検定(1)
 - 第12回 カイ2乗検定(2)
 - 第13回 マン・ホイットニーのU検定
 - 第14回 後半部分のまとめと確認
 - 第15回 授業全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (50)

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 臨床心理学Ⅱ

担当者 中西 龍一・濱田 智崇

テーマ

:S.Freud による心理学的理論 (Psychosexual theory) 及びE.H.Erikson による心理社会的理論 (Psychosocial theory) について、その基礎を理解する。

獲得目標

臨床心理学の対象は、乳幼児から老人までその年齢を問わない。本講座では、臨床心理学の基礎的視座とも呼べるS.Freudによる心理学的理論 (Psychosexual theory) 及びE.H.Eriksonによる心理社会的理論 (Psychosocial theory) について講義していく。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション/精神分析学
 - 第2回 精神分析学 防衛機制
 - 第3回 心理学的理論 口唇期 肛門期
 - 第4回 心理学的理論 幼児性器期 潜在期
 - 第5回 心理学的理論 成熟性器期 / まとめ
 - 第6回 ケースから学ぶ精神分析
 - 第7回 心理学的理論の視点からの自分史
 - 第8回 心理社会的理論 第一の危機
 - 第9回 心理社会的理論 第二の危機 第三の危機
 - 第10回 心理社会的理論 第四の危機 第五の危機
 - 第11回 心理社会的理論 第六の危機 第七の危機
 - 第12回 心理社会的理論 第八の危機 / まとめ
 - 第13回 ケースから学ぶ心理社会的理論
 - 第14回 心理社会的理論の視点からの自分史
 - 第15回 心理学的理論 心理社会的理論 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **こころとからだの臨床学Ⅱ**

担当者 羽下 大信 坂本 敏郎 ジェイムス 朋子 田中 芳幸 中西 龍一 永野 光朗

テーマ

こころとからだ／健康であること／身体観のちがいで文化と時代

獲得目標

こころとからだのあり方を総合的にとらえ、理解する

授業の内容

講義とワーク

内 容

- 第1回 からだをとらえる: 構造・機能・働き、そしてそれ以上【羽下大信】
- 第2回 こころにはさわれない: それをキャッチするには【羽下大信】
- 第3回 ト라우マとレジリエンス(自己回復力)【羽下大信】
- 第4回 こころの絆の神経内分泌機構【坂本 敏郎】
- 第5回 男と女の情動科学【坂本 敏郎】
- 第6回 心身のストレスに関する基礎理論【田中 芳幸】
- 第7回 ストレスへの対処【田中 芳幸】
- 第8回 ストレスと身体(からだ)【中西 龍一】
- 第9回 ゲシュタルト療法と身体【中西 龍一】
- 第10回 こころとからだ【中西 龍一】
- 第11回 精神分析学における性愛性と攻撃性の発達力学【ジェイムス 朋子】
- 第12回 心理療法における受益者と受益性【ジェイムス 朋子】
- 第13回 精神分析的な心理療法事例から学ぶ【ジェイムス 朋子】
- 第14回 社会行動からみた身体① 身体(外見)が対人認知と対人魅力に及ぼす効果【永野 光朗】
- 第15回 社会行動からみた身体② 身体(外見)が対人行動に及ぼす効果【永野 光朗】

授業以外での学習方法

講義の中で紹介された本、ビデオ、DVDなどはできるだけ見てください

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

a90201b650

出席とレポートはセットです。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 女性とイメージ <eL>

担当者 志賀 亮一

テーマ

私たち自身のジェンダーへの気づき ●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。●成績評価は期末試験で評価します(予定)。期末試験は教室で実施します。試験日時は別途、掲出します。

獲得目標

ヨーロッパでは古来、家父長制社会が営まれてきた。絵画・彫刻など芸術をはじめとして、近現代のポスターやテレビCMまで、この社会の女性イメージは、上記家父長制の影響を色濃く示し、男性優位のジェンダー像を呈している。授業では、このイメージを母・妻・妖婦の3要素に集約したうえ、さまざまな視覚イメージをもとに個々の要素を詳説しつつ、各要素間の関係を明らかにし、その全体像を再構築する。あわせて、近現代の女性たちの業績をつうじて、このイメージに対する女性たちの反抗の足取りを跡づける。以上の学修を通じて、受講生は自らの課されているジェンダーの枠組みを自覚すること。

授業の内容

[メディア授業／全15回]

内 容

- 第1回 導入: 視覚メディアにおける女性のイメージ
- 第2回 母親像1: 子孫再生産の担い手
- 第3回 母親像2: 究極の母親・聖母マリア——子孫再生産と男系血統の保障
- 第4回 母親像3: 一家の母(マーテル・ファミリアス)と一家の父(パーテル・ファミリアス)——子孫再生産とジェンダー
- 第5回 妻像1: 夫を補佐するもの
- 第6回 妻像2: 男性を補佐するもの
- 第7回 妻像3: 家内を管理するもの
- 第8回 妻像4: 女・家内・私事 vs 男・社会・公事——社会的役割とジェンダー
- 第9回 妖婦像1: 近代以前の妖婦像——伝説の妖婦たち
- 第10回 妖婦像2: 近代の妖婦たち
- 第11回 妖婦像3: 妖婦像の二重構造——魅惑するものと墮落させるもの
- 第12回 妖婦像4: ジェンダーの要としての妖婦像
- 第13回 女性たちの反抗1: 男性に伍した女性たち
- 第14回 女性たちの反抗2: 解放運動のイメージあれこれ
- 第15回 まとめ: 解放の歴史

授業以外での学習方法

身近なジェンダー像の表出に日常注意を払うこと

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

女のイメージ

著者: G・デュビィ 編

出版社: (藤原書店)

出版年:

ISBN:

聖母マリアの美術

著者： 諸川春樹・利倉隆 著

出版社：（美術出版社）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（100）

授業中課題（）

参加度（）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 ヨーロッパの歴史 <eL>

担当者 南 直人

テーマ

ヨーロッパの歴史の基礎的理解をはかる ●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。●成績評価は期末試験で評価します(予定)。期末試験は教室で実施します。試験日時は別途、掲出します。

獲得目標

16世紀以降のヨーロッパの歴史についての基礎的理解をはかると同時に、新しい歴史学の視点を紹介し、西洋世界をより深く理解することにつなげる。

授業の内容

近代世界システム論の視角から近現代のヨーロッパ史(西洋史)を考察する。最初に近代世界システム論を紹介し、その後16世紀から20世紀にいたるヨーロッパ史(西洋史)の流れをたどっていく。

内 容

- 第1回 世界史の新しい見方ー世界システム
- 第2回 近代世界システムの形成
- 第3回 16世紀ポルトガルのアジア進出
- 第4回 16世紀スペインの新大陸支配
- 第5回 16世紀ハプスブルク家の繁栄
- 第6回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー(1)
- 第7回 17世紀の危機とオランダのヘゲモニー(2)
- 第8回 17・18世紀イギリスの商業革命と大西洋貿易
- 第9回 18世紀英仏のヘゲモニー争いと植民地戦争
- 第10回 産業革命とフランス革命の新解釈
- 第11回 19世紀大英帝国のヘゲモニー
- 第12回 19世紀ヨーロッパ社会
- 第13回 20世紀のヨーロッパ(1)
- 第14回 20世紀のヨーロッパ(2)
- 第15回 20世紀のヨーロッパ(3)

授業以外での学習方法

近現代ヨーロッパ史のさまざまな文献を読むこと

教科書

参考書

ヨーロッパと近代世界

著者: 川北稔

出版社: 放送大学教育振興会

出版年: 2001

ISBN:

大学で学ぶ西洋史[近現代]

著者: 小山哲、他

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2011

ISBN:

インディアスの破壊についての簡潔な考察

著者: ラス・カサス

出版社: 岩波文庫

出版年: 1976

ISBN:

成績評価

試験 (100)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文学にみる京都

担当者 林 久美子

テーマ

京都の寺社や各地にまつわる説話や伝説を学ぶ

獲得目標

京都の文化に対する理解と関心を深める

授業の内容

京都の寺社やその祭りがどのような由来をもち、どのような説話に彩られてきたのかを講義します。なお、取り上げる順序は変更することがあります。

内 容

- 第1回 朱雀門と羅生門にまつわる説話
 - 第2回 上御霊神社、下御霊神社について
 - 第3回 白峯神宮と鞠精大明神について
 - 第4回 阿倍晴明の伝説
 - 第5回 葵祭と文学
 - 第6回 祇園祭とその縁起
 - 第7回 三十三間堂の由来、小テスト①(予定)
 - 第8回 清水観音にまつわる伝説
 - 第9回 南禅寺と石川五右衛門
 - 第10回 六道珍皇寺と矢田寺について
 - 第11回 鞍馬と貴船の伝説
 - 第12回 老ノ(大枝)坂の鬼の話
 - 第13回 蟬丸神社と芸能について
 - 第14回 宇治と文学
 - 第15回 山科と文学、小テスト②(予定)
-

授業以外での学習方法

ガイドマップを片手に、自分で京都を歩いてください。

教科書

京都魔界案内

著者： 小松和彦

出版社： 光文社

出版年： 2002

ISBN： 4-334-78143-8

参考書

京都大事典

著者：

出版社： 淡交社

出版年：

ISBN：

京都市の地名

著者:

出版社: 平凡社

出版年:

ISBN:

角川日本地名大辞典 上・下

著者:

出版社: 角川書店

出版年:

ISBN:

京都の魔界をゆく

著者: か舎+菊池昌治

出版社: 小学館

出版年: 1999

ISBN: 4-09-626212-9

京の歴史・文学を歩く

著者: 知恵の会

出版社: 勉誠出版

出版年: 2008

ISBN: 978-4-585-05160

新編日本古典文学全集(各作品)

著者:

出版社: 小学館

出版年:

ISBN:

新潮日本古典集成(各作品)

著者:

出版社: 新潮社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

授業中に小テスト2回(実施時期は事前に予告しますが、上記とずれる場合があります)を行うほか、お正月休みに小レポートを課します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化 <eL>

担当者 田端 泰子・脇田 修・脇田 晴子

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々 ●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●講義の配信スケジュールは5月中旬から9月上旬を予定しています。詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。●成績評価はレポートで評価します(予定)。詳細は別途、掲出します。

獲得目標

”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

内 容

- 第1回 都城の変遷[田端]
- 第2回 平安京の成立[田端]
- 第3回 平安京に暮らす人々[田端]
- 第4回 院政期の京都[田端]
- 第5回 京―鎌倉をつなぐ人々[田端]
- 第6回 「このごろ都にはやるもの」―南北朝期の京都[田端]
- 第7回 室町幕府の成立と京の都[田端]
- 第8回 土一揆の時代[田端]
- 第9回 京の商工業者[田端]
- 第10回 『洛中洛外図』に描かれた京都[田端]
- 第11回 祇園祭と京の町[脇田晴子]
- 第12回 中世京都の芸能[脇田晴子]
- 第13回 織田信長と京都[脇田修]
- 第14回 豊臣政権と京の町[脇田修]
- 第15回 元禄時代の京都[脇田修]

授業以外での学習方法

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

物語 京都の歴史

著者: 脇田修・晴子

出版社: 中央公論新社

出版年: 2008

ISBN:

女性芸能の源流

著者： 脇田晴子

出版社： 角川書店

出版年： 2001

ISBN：

中世京都と祇園祭

著者： 脇田晴子

出版社： 中央公論新社

出版年： 1999

ISBN：

秀吉の経済感覚

著者： 脇田修

出版社： 中央公論社

出版年： 1991

ISBN：

北政所おね

著者： 田端泰子

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN：

足利義政と日野富子

著者： 田端泰子

出版社： 山川出版社

出版年： 2011

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は、第15回の後にレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **国際マーケティング論**

担当者 近藤 文男

テーマ

日本企業のグローバル・マーケティング戦略

獲得目標

国際マーケティング固有の概念であるグローバル・ブランド、移転価格、並行輸入、グローバル・サプライチェーン、輸出マーケティング、マルチドメスティック・マーケティング、グローバル・マーケティングなどについて理解し、説明できる能力を身につけると同時に、その戦略立案能力を養う。

授業の内容

現代の企業経営は国際競争を抜きには考えることができない。生産が深層レベルの競争力であるとするならば、マーケティングは表層レベルの競争力である。本講義では表層レベルのマーケティング、国際マーケティングに焦点を当てて考える。国際市場は国内市場と異なり、国によって生活習慣や文化の違いが大きく、そのマーケティングは国内マーケティングとは異なった特異な形態をとる。講義では国際マーケティングの基本原則を踏まえ、日本の代表的な企業であるパナソニック、ソニーなどの電機企業を中心に、トヨタ自動車、ユニクロ、花王、KUMONなどの国際マーケティングの特徴を明らかにする。

内 容

- 第1回 国際マーケティングとは何か。
 - 第2回 国際マーケティングにおける製品戦略
 - 第3回 グローバル・ブランドとグローバル広告戦略
 - 第4回 国際価格戦略
 - 第5回 国際チャネル戦略
 - 第6回 三洋電機の輸出マーケティング戦略
 - 第7回 パナソニック(旧松下電器)の輸出マーケティング戦略
 - 第8回 ソニーの輸出マーケティング戦略
 - 第9回 ソニーのマルチナショナル・マーケティング戦略
 - 第10回 パナソニックのグローバル・マーケティング戦略
 - 第11回 トヨタ自動車のグローバル・マーケティング戦略
 - 第12回 ユニクロのグローバル・マーケティング戦略
 - 第13回 KUMONのグローバル・マーケティング戦略
 - 第14回 サムスン電子のグローバル・マーケティング戦略
 - 第15回 パナソニックとソニーの新興国市場を対象としたグローバル・マーケティング戦略
-

授業以外での学習方法

新聞や雑誌に掲載されているマーケティングや国際マーケティングに関する記事に目を通し、国際マーケティングに関する知識をしっかりと身につけていること。

教科書

日本企業のグローバルマーケティング

著者： 大石芳裕編著

出版社： 白桃書房

出版年： 2012年7月

ISBN： 9.78456E+12

参考書

日本企業の国際マーケティング

著者： 近藤文男

出版社： 有斐閣

出版年： 2004年6月

ISBN： 4-641-16199-2

グローバル・マーケティング入門

著者: 相原修他

出版社: 日本経済新聞出版

出版年: 2012年7月

ISBN: 9.78453E+12

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 パーソナリティ心理学 I

担当者 中島 暢美 松下 孝江

テーマ

パーソナリティ心理学の基礎理論を学ぶ

獲得目標

パーソナリティ心理学の諸側面について基礎的知見を習得する。

授業の内容

まず、パーソナリティの定義に関連する理論を検討する。次に、パーソナリティの形成要因について議論するためにパーソナリティの発達について詳解する。さらに、パーソナリティの測定方法や病理について概説する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション&イントロダクション ～パーソナリティ心理学で何を学ぶのか～
 - 第2回 パーソナリティの理論(1)
 - 第3回 パーソナリティの理論(2)
 - 第4回 パーソナリティの理論(3)
 - 第5回 パーソナリティの理論(4)
 - 第6回 パーソナリティ形成要因(1)
 - 第7回 パーソナリティ形成要因(2)
 - 第8回 パーソナリティ形成要因(3)
 - 第9回 パーソナリティ形成要因(4)
 - 第10回 パーソナリティ形成要因(5)
 - 第11回 パーソナリティの測定方法(1)
 - 第12回 パーソナリティの測定方法(2)
 - 第13回 パーソナリティの測定方法(3)
 - 第14回 パーソナリティの病理(1)
 - 第15回 パーソナリティの病理(2)
-

授業以外での学習方法

心理学辞典等を用いた専門用語の意味の確認(予習、復習)、および関連図書の購読。

教科書

参考書

はじめて学ぶパーソナリティ心理学

著者: 小塩真司

出版社: ミネルヴァ書房

出版年:

ISBN:

パーソナリティ心理学

著者: 二宮克美他編

出版社: 新曜社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験（終講試験）

小テスト（）

授業中課題（）

授業中発表等（）

参加度（）

60点以上／100 が合格。(出席3分の2以上で受験資格有、遅刻3回で欠席1回。開始30分以降入室、終了30分以前の退室は欠席扱い。)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **家族の心理・社会学**

担当者 滝野 功久

テーマ

家族に関わるさまざまな事象についての心理的かつ社会的な探求

獲得目標

今日、家族のあり方が多様になってきていること、多くの家族が抱える問題・課題も複雑になってきていることをできるだけ具体的に理解し、それらについて言葉や図像で説明できるようになる。一方では、自分の家族の歴史に関心を持ち、また他方では、自分の家族とは違った家族のあり様をできるだけ多く具体的に知ることで、家族を通して自らのなかに内化されている世界観・価値観を見直す糸口をつかむ。

授業の内容

「授業」という名称にはなっていますが、これは、周りのさまざまな人々の暮らしや・家族の有り様に積極的に関心を持ち、できるだけ具体的な問いをもって取り組むことで、初めて展開できる学びであり、その中身と成果が「内容」ということになります。そうしたことを含めて、下に記載されるスケジュールは、きっちりその通りに順次行われるプログラムではありません。家族問題が実際に扱われる時は、必ず非直線的な展開になりますが、ここでもそれと同じ動きがでて来ると思います。

内 容

- 第1回 全体のオリエンテーション1 なぜ家族か？ 家族とはなにか？ 家・イエ・家庭・family
- 第2回 オリエンテーション2 家族を心理学するとは？ 社会学するとは？
- 第3回 家族をめぐる諸問題と家族のイメージ 「家族」の歴史と多様性
- 第4回 名前と呼び方 名称・氏名 家族の名前 夫婦別姓という問題
- 第5回 家族心理学の課題と方法
- 第6回 家族の心理的プロセスと家族内コミュニケーション
- 第7回 男と女の関係1 近年の革命的变化と変わらぬこと
- 第8回 男と女の関係2 セクシュアリティとジェンダーに関わること
- 第9回 親子関係の心理と病理 母子密着と児童虐待
- 第10回 兄弟関係と一人っ子の課題
- 第11回 男と女の関係3 夫婦関係の変化と課題
- 第12回 老いと家族の課題
- 第13回 家族のなかの喪失と死
- 第14回 家族と宗教
- 第15回 全体の振り返り 家族にとって先祖と子孫

授業以外での学習方法

自らの家族、特に親について関心をもって、無理のない程度に調べてみるということは、学習にとっての大きな資源を見つけることとなります。

教科書

家族心理学入門(補訂版)

著者： 岡堂哲也 編

出版社：(培風館)

出版年：

ISBN：

家族を超える社会学—新たな生の基盤を求めて

著者： 牟田和恵 編

出版社：(新曜社)

出版年：

ISBN：

参考書

文献のみならず映像などを含めたものを、適宜お伝えしたいと考えています。

著者：

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (20)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (30)

参加度 (60)

評価は基本的に加点法。積極的に自らなにかに取り組むという姿勢が最も重要で、その場に皆と一緒にいるだけが重要という考えでは何も学べない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理検査法 I**

担当者 田中 芳幸・青木 剛

テーマ

心理検査法に関する基礎理論の理解、および心理検査施行における基本姿勢の検討

獲得目標

心理検査 (Psychological test) とは、心理査定 (Psychological assessment) を行うための方法の一つであり、「ひと」(client) を「全人的に理解しようとする活動」の一部である。そこで本講義では、(1)各種心理検査の信頼性と妥当性を含めた特徴、(2)心理検査の選び方や検査施行時の環境の整え方、(3)心理検査結果の報告やフィードバックの仕方などを学ぶとともに、(4)心理検査施行時の検査者の姿勢・態度について考えることも目的とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 心理検査とはー心理検査と心理査定ー
 - 第2回 心理検査開発の歴史的背景
 - 第3回 心理検査の信頼性と妥当性
 - 第4回 検査者の基本的姿勢・態度
 - 第5回 「性格」理解のための諸理論
 - 第6回 性格検査(1)質問紙法
 - 第7回 性格検査(2)投影法
 - 第8回 性格検査(3)作業検査法
 - 第9回 知能検査(1)知能とは
 - 第10回 知能検査(2)知能検査の種類
 - 第11回 発達に関する諸検査
 - 第12回 行動・社会性に関する諸検査
 - 第13回 心理的な症状に関する諸検査
 - 第14回 その他の心理検査
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

・心理検査・心理査定・心理測定関連図書の講読・レポートの執筆

教科書

図表で学ぶ心理テスト

著者： 長尾 博

出版社： ナカニシヤ出版

出版年：

ISBN：

参考書

心理臨床アセスメント入門ー心の治療のための臨床判断学ー

著者： 赤塚大樹・森谷寛之・豊田洋子・鈴木国文

出版社： 培風館

出版年：

ISBN：

心理測定への招待ー測定からみた心理学入門ー

著者： 市川伸一

出版社： サイエンス社

出版年：

ISBN：

各種心理検査の手引書

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（40）

授業中課題（30）

参加度（30）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **English Communication III (心) **

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Practical Oral Communication in English

獲得目標

This course will aim to improve students' self-expression in and understanding of real-life English while fostering critical thinking.

授業の内容

Students will be expected to attend regularly, participate actively and interact with classmates. We will practice listening and speaking skills, and do exercises to build vocabulary and grammar skills. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction
 - 第2回 Things in common
 - 第3回 Starting a conversation
 - 第4回 Leisure time
 - 第5回 Music
 - 第6回 Health
 - 第7回 Encouraging people to talk
 - 第8回 Review 1
 - 第9回 Celebrations
 - 第10回 Traditions
 - 第11回 Childhood
 - 第12回 School
 - 第13回 Locations
 - 第14回 Giving directions
 - 第15回 Review 2
-

授業以外での学習方法

Classwork will be augmented with online homework exercises.

教科書

Touchstone Blended Online Level 2 Student's Book A w/Audio CD/CD-ROM & Online Workbook A

著者:

出版社:

出版年:

ISBN: 9.78111E+12

参考書

成績評価

試験 (12)

授業中課題 (24)

参加度 (32)

小テスト (12)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **English Literacy III <a>**

担当者 久保田 美佳

テーマ

Academic Readingの実践

獲得目標

一般的な英語で書かれた文献を読んで自力である程度理解できるようになる。専門分野の基礎語彙を習得する。英語の音とリズムに慣れる。

授業の内容

「ストレス」というテーマに特化したテキストを使って、正しく読み取る練習をします。また、同テキスト付属の音源を聞き英語の音やリズムを体得して行きます。

内 容

- 第1回 授業オリエンテーション Unit 1 What is Stress?
 - 第2回 Unit 2 What Causes Stress? Unit 3 What Is the Stress Response?
 - 第3回 Unit 4 How Did We First Learn about the Bad Effects of Stress?
 - 第4回 Unit 5 How are Bodily Systems Affected by Stress?
 - 第5回 Unit 6 Unhealthy Stress: How Can We Resist It?
 - 第6回 Unit 7 Laugh Unit 8 Get Rid of Anger
 - 第7回 Review Unit 1-8
 - 第8回 Unit 9 Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Live by Lists
 - 第9回 Unit 10 Adapt Your Environment
 - 第10回 Unit 11 Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfection
 - 第11回 Unit 12 Take Time Out for Meals
 - 第12回 Unit 13 Try Aerobic Exercise and Take a Walk Unit 14 Learn Good Posture and Be Conscious of Your Jaw
 - 第13回 Unit 15 Reaching the True Relaxation State
 - 第14回 Review Unit 9-15
 - 第15回 Listening and Vocabulary
-

授業以外での学習方法

毎週授業で扱う箇所を事前に読んで来ること。また、単語テストを随時行うのでその準備も忘れないようにして下さい。

教科書

Beating Stress ストレスフリー・ライフを目指す

著者： 田部井世志子、井上径子

出版社： 朝日出版

出版年： 2006

ISBN: 4255154228C1082

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (80)

授業中発表等 ()

a90202d250

習熟度を測るため、定期的にテストを行います。上記に、統一期末英語テスト20%が加算されます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理応用演習Ⅱ

担当者 松永 順子

テーマ

Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。

獲得目標

Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』資格の取得をめざす。

授業の内容

現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは／基本的な文書編集
- 第2回 ビジネス文書の基本・・・種類、作成上の留意点
- 第3回 ビジネス文書(社内文書)・・・特徴、社内連絡文書・報告書・議事録・提案書の書き方
- 第4回 ビジネス文書(社外文書)・・・特徴、社外連絡文書の書き方
- 第5回 知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書の基本 知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア
- 第6回 ビジネス文書のライティング技術(日本語の基本)・・・文法、用字・用語、漢字と平仮名の使い分け、数字の書き方
- 第7回 ビジネス文書のライティング技術(文章表現の基本)・・・わかりやすい文章表現、誤解を招かない文章表現、正しい日本語 知識科目対策(共通分野)・・・ソフトウェア
- 第8回 ビジネス文書のライティング技術・・・文章表現の応用、文章構成、敬語 知識科目対策(共通分野)・・・データベース
- 第9回 電子メールのライティング技術・・・電子メールの基本、文例とポイント 知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書のライティング技術 知識科目対策(共通分野)・・・ネットワーク
- 第10回 知識科目対策(文書作成分野)・・・電子メールのライティング技術 知識科目対策(共通分野)・・・インターネット
- 第11回 ビジネス図解の基本・・・種類と特長、基本パターン、作成方法、グラフの利用
- 第12回 ビジネス文書の管理・・・文書管理の基本、文書のライフサイクルと各プロセスの役割 知識科目対策(共通分野)・・・トラブル対応、ネット社会、法律、コンプライアンス
- 第13回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-1
- 第14回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-2
- 第15回 課題

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

教科書

日商PC検定試験 文書作成 3級 完全マスター Word2010対応

著者： 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社： FOM出版

出版年：

ISBN： 9.78489E+12

日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト

著者： 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社： FOM出版

出版年：

ISBN： 4-89311-637-1

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実験計画法**

担当者 上北 朋子・山崎 真理子

テーマ

実験計画の基礎と実践

獲得目標

この講義では、受講生が実験計画法の基礎を理解し、実際に遂行できるようになることを目標とする。

授業の内容

心理学の実験や調査についての実験計画、データ収集、処理までを実践的に学ぶ。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 実験計画法の基礎
 - 第3回 実験計画法の実際(1)
 - 第4回 実験計画法の実際(2)
 - 第5回 実験計画の立案:1要因(1元配置)
 - 第6回 資料収集
 - 第7回 資料収集
 - 第8回 解析
 - 第9回 ディスカッション
 - 第10回 実験計画の立案:2要因以上
 - 第11回 資料収集
 - 第12回 資料収集
 - 第13回 解析
 - 第14回 ディスカッション
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

各自の選択テーマによって必要な場合は資料収集を授業時間以外に行う。

教科書

心理学マニュアル 要因計画法

著者: 後藤 宗理, 中沢 潤, 大野木 裕明

出版社: 北大路書房

出版年: 2000

ISBN: 9.78476E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学データ解析**

担当者 前田 洋光・佐藤 鮎美

テーマ

SPSSを用いた統計解析の基礎

獲得目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、解析ソフト「SPSSを用いて、得られたデータを解析していく手順について学んでいく。加えて、得られた結果を適切に読み取り、論文やレポートにまとめる力を身につけていく。

授業の内容

本講では、心理統計学Ⅱまでで習得した分析手法(t検定、分散分析等)について、統計ソフト「SPSS」を用いたデータ解析手法を学んでいく。単なるソフトの使用方法のみならず、得られた結果から情報を適切に読み取る力、および、それらを論文やレポートにまとめる力を身につけることに力点を置き、次年度以降の専門科目につなげていく。

内 容

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 記述統計:度数分布、平均、標準偏差
 - 第3回 相関係数
 - 第4回 t検定
 - 第5回 一要因の分散分析
 - 第6回 二要因被験者間の分散分析
 - 第7回 交互作用と多重比較
 - 第8回 二要因被験者内の分散分析と混合計画
 - 第9回 χ^2 乗検定
 - 第10回 データ分析演習(1)
 - 第11回 データ分析演習(2)
 - 第12回 データ分析演習(3)
 - 第13回 データ分析演習(4)
 - 第14回 データ分析演習(5)
 - 第15回 授業全体のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

教科書は特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

SPSSのススメ(1)2要因の分散分析をすべてカバー

著者: 竹原 卓真

出版社: 北大路書房

出版年:

ISBN:

成績評価

a90202d850

試験 ()
授業中課題 (50)
参加度 (10)

小テスト ()
授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 知覚・認知心理学

担当者 坂本 敏郎

テーマ

獲得目標

実験心理学、生理学の研究によって明らかにされてきた感覚、知覚、認知領域の心理学理論について理解する。ヒトや動物は環境内の刺激をどのように知覚し、認知するのかについて理解を深める。

授業の内容

ヒトを含む動物は、環境内の刺激(視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚)をどのように知覚し、認知しているのだろうか。動物の行動は、環境刺激を知覚、認知し、意志決定することにより表出される。講義の前半では、ヒトや動物が持つ感覚、知覚の特性を理解する。講義の後半では、感覚、知覚情報を動物がどのように理解、認知するかという情報処理システムについて解説する。動物による道具の使用、ヒトの言語、推論や意志決定など高次の認知機能についても解説する。

内 容

- 第1回 感覚、知覚とは？
 - 第2回 錯視と恒常性
 - 第3回 色覚と明るさの知覚
 - 第4回 運動視と立体視
 - 第5回 聴覚
 - 第6回 嗅覚と味覚
 - 第7回 知覚運動学習
 - 第8回 時間と注意知覚
 - 第9回 意識とは？ ワーキングメモリー
 - 第10回 会話、発話
 - 第11回 言語の理解(読み書きリテラシー)
 - 第12回 思考と問題解決
 - 第13回 意志決定
 - 第14回 デザインの認知
 - 第15回 メタ認知とこころの制御
-

授業以外での学習方法

知覚心理学、認知心理学の関連図書による自学自習

教科書

知覚心理学

著者： 北岡明佳 編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2011年

ISBN:

参考書

認知心理学

著者： 仲真紀子 編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010年

ISBN:

成績評価

a90202d950

試験 ()
授業中課題 (60)
参加度 ()

小テスト (40)
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 行動分析学

担当者 上北 朋子

テーマ

こころを理解するための行動分析学:基礎から応用まで

獲得目標

こころを自然科学的にとらえる手法を提示した行動分析学の思想を理解する。そのうえで、この理論が教育、医療、福祉、および子育ての場面でいかに活用されてきたのかを学ぶ。

授業の内容

自分を理解し、他者を理解するには、まず人間はどのようなものであるかについての知識が必須である。これまでの心理学研究で得られた実験的事実やそれに基づく理論を解説し、それらが我々にとってどのような意味をもち、社会において機能しているかについて考える。

内 容

- 第1回 行動分析学とは
 - 第2回 行動心理学が生まれるまで「こころ」と「行動」
 - 第3回 行動の法則:観察、記述、予測
 - 第4回 行動と学習(1):レスポデント条件付け
 - 第5回 行動と学習(2):オペラント条件付け
 - 第6回 シェイピング:行動をつくる
 - 第7回 強化スケジュール:行動を操作する
 - 第8回 消去と回復
 - 第9回 弁別と般化:違いが分かる、同じと分かる
 - 第10回 模倣
 - 第11回 言語行動
 - 第12回 応用行動分析(1):医療、福祉の現場で
 - 第13回 応用行動分析(2):発達障害をもつ子どものために
 - 第14回 応用行動分析(3):親、教師のために
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

関連図書による自学自習

教科書

行動の基礎

著者: 小野浩一

出版社: 倍風館

出版年: 2005

ISBN: 9.78456E+12

参考書

行動分析学入門

著者: 杉山尚子、島宗理、佐藤方哉、マロット

出版社: 産業図書株式会社

出版年: 1998

ISBN: 978-4782890301

パフォーマンス・マネジメント—問題解決のための行動分析学

著者： 島宗 理

出版社： 米田出版

出版年： 2000

ISBN： 978-4946553073

成績評価

試験（80）

授業中課題（10）

参加度（10）

小テスト（0）

授業中発表等（0）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **対人援助論B**

担当者 松下 幸治・坂本 敏郎・滝野 功久・中西 龍一・羽下 大信・日比野 英子

テーマ

心理・福祉・教育・医療等の種々の領域で展開されている「対人援助行為」について広く概観する。

獲得目標

「臨床の知」のみならず「科学」の視点も盛り込み、広く「人が人を援助するとはどういうことか」について考える。具体的には脳科学の視点からの貢献、母子臨床からの視点、コミュニティ・サポートの視点、心理療法からのアプローチについて、それぞれの観点から「人の役に立つ」営みについて考察を深めることができる。

授業の内容

松下を全15回のコーディネーターとし、5名の教員（坂本、日比野、羽下、滝野、中西）との対話形式で対人援助についての議論を展開する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション①～対人援助行為とは～
- 第2回 オリエンテーション②～対人援助の「光」と「影」～
- 第3回 心理学への興味とその後の展開
- 第4回 「臨床の知」と「科学の知」
- 第5回 治療的面接学と脳科学の出会い
- 第6回 乳幼児の発達～愛着を中心として～
- 第7回 母と子のユニット
- 第8回 「臨床乳児」と「被観察乳児」
- 第9回 コミュニティ・サポート
- 第10回 対人援助論
- 第11回 Perls.F.S.の背景
- 第12回 ゲシュタルト療法の実際
- 第13回 広く心理療法に通底するもの
- 第14回 まとめ①～「精神科心理臨床」と「日常的心理臨床」～
- 第15回 まとめ②～「良識」に基づいた「当たり前の行為」としての対人援助～

授業以外での学習方法

教科書

参考書

現実に介入しつつ心に関わる

著者： 田嶋誠一

出版社： 金剛出版

出版年： 2009年

ISBN： 978-7724-1103-5

嘘を生きる人妄想を生きる人—個人神話の創造と病—

著者： 武野俊弥

出版社： 新曜社

出版年： 2005年

ISBN： 4-7885-0960-1

ゲシュタルト療法入門

著者： 倉戸ヨシヤ(編)

出版社： 金剛出版

出版年： 2012年

ISBN: 978-7724-1281-0

愛着の発達

著者： 繁多進

出版社： 大日本図書

出版年： 1987年

ISBN: 4-477-12155-5

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

毎回の講義の感想を自由に書いてもらう。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワークⅢ**

担当者 中西 龍一・ジェイムス 朋子・滝野 功久・羽下 大信・松下 幸治

テーマ

集団内における、自身の「心の安全保障感」の重要性を体感し、心の声に耳を傾ける。

獲得目標

グループの風土によって各自確保されてきつつある「安全保障感」を味わう中で、自身の身体感覚に耳を傾け、緊張が徐々に弛緩されていくプロセスを体験してもらう。その際、グループの安全な風土とともに、その非日常空間における「聖域性」を体験し、その雰囲気こそが自己援助的内省を活性化させるのに大変重要であることを理解してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 他者に必要とされること、我に返ること(社会的居場所、人間的居場所について)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 グループという「安全な場所」(一時的居場所、永続的居場所について)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループという「特別な場所」(非日常空間の聖域性を自覚する体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 身体の声に耳を傾ける(自己援助的内省を活性化させる体験)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 身体声を表現する(内省体験の自己開示)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 社会的居場所、人間的居場所について
- 第12回 心身相関
- 第13回 日常の中の非日常
- 第14回 自己援助的内省を活性化させる体験
- 第15回 「安全空間における身体感覚の賦活」についての概念化

授業以外での学習方法

日常場面における自らの安全な居場所探しを試してみる。

教科書

参考書

現代人の居場所(現代のエスプリ別冊)

著者: 藤竹暁編集

出版社: 至文堂

出版年: 2000

ISBN:

ロジャース学派の現在(現代のエスプリ別冊)

著者: 村山正治編集

出版社: 至文堂

出版年: 2003

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワークⅣ**

担当者 中西 龍一・ジェイムス 朋子・滝野 功久・羽下 大信・松下 幸治

テーマ

有機体としてのグループが、その営み自体に「自然快復力」ないし「自己治癒力」を含んでいることを実感する。

獲得目標

グループワークⅠ、Ⅱ、Ⅲに流れの中で変容—transformationしてきた各自の体験を互いに披露しあう中で、改めて自身の声に対する他のメンバーから返された応答の手応え感が自己評価を高め、グループのもつ潜在力—potentialや知恵—wisdomによって自身が癒される体験、さらには真の「自己受容」を体得していく体験を実感してもらうことを、本科目のねらいとする。

授業の内容

内 容

- 第1回 グループ・メンバーに助けられたこと(有機体としてのグループ)
- 第2回 振り返り(気づき)
- 第3回 改めて自分を物語ること(自分史紡ぎの体験)
- 第4回 振り返り(気づき)
- 第5回 グループの中の「ありのままの私」(グループ体験を通じて自己受容できる体験)
- 第6回 振り返り(気づき)
- 第7回 グループの中で「癒された私」(グループの治癒力)
- 第8回 振り返り(気づき)
- 第9回 まとめ(グループ体験の「とりあえずの」完結)
- 第10回 振り返り(気づき)
- 第11回 有機体としてのグループ
- 第12回 人生を物語ること
- 第13回 グループの治癒力
- 第14回 自己受容
- 第15回 「グループの潜在力—potential」あるいは「グループの知恵—wisdom」の考察

授業以外での学習方法

Kirschenbaum, H. and Henderson, V. L.(著)、伊東博・村山正治(訳)『ロジャーズ撰集—カウンセラ—なら—度は読んでおきたい33論文』<上><下>誠信書房を読む。

教科書

参考書

現代人の居場所(現代のエスプリ別冊)

著者: 藤竹暁編集

出版社: 至文堂

出版年:

ISBN:

ロジャース学派の現在(現代のエスプリ別冊)

著者: 村山正治編集

出版社: 至文堂

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (60)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 コミュニケーションとアート

担当者 羽下 大信・松下 孝江

テーマ

アートとコミュニケーションの関係とその可能性について探求する

獲得目標

グループワークを通して、アートとこれまでの鑑賞法とは違う、アートとコミュニケーションの新たな可能性について学ぶ。

授業の内容

何かを見た時に「何でこれがアートなの？」という素朴な疑問がわいたところから、既に私たちと「アート作品」との豊かな交流が始まっている。その人の中に生じる連想・気分・身体感覚そのものが「アート」になりうる。これはアメリア・アレナスの考えを基にしたものである。授業ではテキストを読み進めながら、グループディスカッションを通して、アートとコミュニケーションの関係とその可能性について体験的に深めてゆく。

内 容

- 第1回 アートとは何か①
- 第2回 アートとは何か②
- 第3回 旧来型の鑑賞に欠落したもの
- 第4回 コミュニケーションワークとしてのアートの可能性
- 第5回 グループワークの実際①(グループ別)
- 第6回 グループワークの実際①のふりかえり
- 第7回 グループワークの実際②
- 第8回 グループワークの実際②のふりかえり
- 第9回 グループワークの実際③
- 第10回 グループワークの実際③のふりかえり
- 第11回 グループワークの実際④
- 第12回 グループワークの実際④のふりかえり
- 第13回 ワークに適した素材を探す①
- 第14回 ワークに適した素材を探す②
- 第15回 まとめディスカッション

授業以外での学習方法

教科書

なぜこれがアートなの？

著者： アメリア・アレナス

出版社： 淡交社

出版年： 1998

ISBN:

参考書

授業中に適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

a90202f250

試験 ()
授業中課題 (100)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会心理学Ⅱ**

担当者 前田 洋光

テーマ

獲得目標

理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考える。

授業の内容

本講では、社会心理学Ⅰの内容を踏まえた上で、特に対人関係・集団行動を中心に論考していく。

内 容

- 第10回 リーダーシップ
 - 第11回 群集行動
 - 第12回 流言・デマ
 - 第13回 流行
 - 第14回 マスメディアの影響
 - 第15回 まとめと確認
 - 第1回 イントロダクション
 - 第2回 援助行動
 - 第3回 攻撃行動
 - 第4回 対人関係の諸相
 - 第5回 恋愛
 - 第6回 対人葛藤、社会的ジレンマ
 - 第7回 孤独とソーシャルサポート
 - 第8回 集団と個人
 - 第9回 集団行動
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（70）

授業中課題（20）

参加度（10）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **産業心理学Ⅱ（消費者行動論）**

担当者 永野 光朗

テーマ

消費と広告の心理学

獲得目標

心理学研究に基づいて消費者の心理・行動についての客観的理解を深める。このような理解は自身の消費生活の向上に寄与し、同時に企業人としての能力を高めるであろう。

授業の内容

企業が実施している広告戦略や販売促進活動の実例をあげながら、企業が消費者の心理・行動をどのように理解しているのかを心理学理論をベースにしながらか察する。

内 容

- 第1回 消費者行動研究の目的と意義
- 第2回 消費者行動とマーケティング
- 第3回 消費者の購買意思決定過程①(EBMモデルの紹介)
- 第4回 消費者の購買意思決定過程②(ブランド選択過程を中心にして)
- 第5回 価格の心理学①(価格の心理的機能)
- 第6回 価格の心理学②(心理的財布理論)
- 第7回 広告の社会心理学①(広告効果モデル・広告の種類)
- 第8回 広告の社会心理学②(タレント・専門家起用広告)
- 第9回 広告の社会心理学③(恐怖喚起広告)
- 第10回 広告の社会心理学④(弱点開示広告・比較広告)
- 第11回 販売場面における説得のテクニック①(foot in the door techniqueなど)
- 第12回 販売場面における説得のテクニック②(Cialdiniの影響力の武器)
- 第13回 店舗内の消費者行動①(店舗内における行動のコントロール)
- 第14回 店舗内の消費者行動②(店舗内における販売促進の方法)
- 第15回 ブランドと消費者行動

授業以外での学習方法

消費者としての自分自身のあり方を振り返り、その心理や行動についての素朴な疑問(なぜ消費者はこんな商品に惹かれるのか?なぜ消費者はこんなときにこんな行動をとってしまうのか?)をつねに持ちながら授業に臨んで欲しい。このような疑問を思いつく限りメモ書きにしておくこと。

教科書

新・消費者理解のための心理学

著者: 杉本徹雄編著

出版社: 福村出版

出版年: 2012

ISBN: 4571250401

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

a90202f650

毎回の授業において小テストを実施する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **発達心理学Ⅱ**

担当者 中村 和夫

テーマ

獲得目標

エリ・エス・ヴィゴツキーにより基本的枠組みが提唱された「高次心理機能の発達の文化-歴史的理論」について学び、人間の発達理解にとって、その理論の意義を理解できる。

授業の内容

最初に、ヴィゴツキーの生涯とその心理学理論の概略について説明をする。続いて、ヴィゴツキー理論を構成するよく知られた2つの重要な概念である「最近接発達の領域」と「内言」の概念を取り上げ、ヴィゴツキー理論の体系の中でこれらの概念が真に意味するところは何かについて解説をおこなう。

内 容

- 第1回 ヴィゴツキーの生涯とその研究について
 - 第2回 発達の文化-歴史的理論の概要
 - 第3回 「最近接発達の領域」の概念をめぐって
 - 第4回 (1)問題の設定
 - 第5回 (2)教授と最近接発達の領域と科学的概念の発達
 - 第6回 (3)科学的概念の発達とは何が発達することか
 - 第7回 (4)書き言葉の発達
 - 第8回 (5)結論
 - 第9回 「内言」の概念をめぐって
 - 第10回 (1)問題の設定
 - 第11回 (2)内言の意味の分析
 - 第12回 (3)意味の作用とイメージの運動法則
 - 第13回 (4)想像の発達
 - 第14回 (5)まとめ
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

ヴィゴツキー心理学 完全読本「最近接発達の領域」と「内言」の概念を読み解く

著者： 中村和夫

出版社： 新読書社

出版年： 2004

ISBN： 4-7880-4117-0

参考書

ヴィゴツキーに学ぶ 子どもの想像と人格の発達

著者： 中村和夫

出版社： 福村出版

出版年： 2010

ISBN：

成績評価

a90202f750

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (50)

試験に代えてレポートを課す場合もある。参加度は出席を含めた授業態度。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育心理学(心)**

担当者 中村 和夫・佐藤 鮎美

テーマ

学校教育における子どもの発達と教育との関係の理解

獲得目標

教育心理学についての基礎的知識を理解すること。および子どもの発達にとって学校教育の持つ重要な意味を、学校での基本的教育活動との関係において理解できるようになること。

授業の内容

教育心理学の基本領域のうち、「発達」と「学習」と「教育評価」について講義をする。

内 容

- 第1回 教育心理学の基本領域—教育とは何か、発達とは何か—
- 第2回 発達の規定要因
- 第3回 発達と文化・教育との関わり
- 第4回 発達のプロセス—ピアジェの知能の発達段階論—
- 第5回 発達のプロセス—エリクソンの心理・社会的発達段階論—
- 第6回 学習の基礎過程—連合説—
- 第7回 学習の基礎過程—認知説—
- 第8回 教科学習の前提
- 第9回 学習の動機づけ
- 第10回 授業づくり—発見学習の系譜—
- 第11回 授業づくり—有意義受容学習の系譜—
- 第12回 教育評価の目的と方法—集団準拠評価—
- 第13回 教育評価の目的と方法—目標準拠評価—
- 第14回 到達度評価と授業改善
- 第15回 指導要録の実際と問題

授業以外での学習方法

教育心理学関連の参考書の自習。

教科書

とくに指定はしない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

a90202f950

試験 (70)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

試験に代えてレポートを課すことがある。参加度は出席を含めた授業態度。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **死生学**

担当者 上鹿渡 和宏 松下 幸治 滝野 功久

テーマ

人間の「死」を見つめ、それと向き合うことを通して、「生きること」ないし「いま、生きていること」についての体験的実感を得ること。

獲得目標

すべての人間が平等に経験する「死」を眺め、向き合い、そしてそれについてより豊かに思い巡らせることを通して、「生きる」ないし「生きている」という営みを考える。「生」と「死」という二項対立的発想を越えて、その二項が包含する領域にこそ真に生きた人間関係が存在し、真に生きた宗教性が存在することを複数の教員がそれぞれの観点から論じ、ともに考え、たましいのあり様に接近する。

授業の内容

1～6回目講義(担当:松下)7～12回目講義(担当:滝野)13～15回目集中講義(担当:上鹿渡)

内 容

- 第1回 思春期・青年期の心と心の迷い
- 第2回 「象徴的な死」について
- 第3回 心理臨床家からみた「死」と「生」
- 第4回 「死」と「生」の二項対立的発想の落とし穴
- 第5回 「たましい」について
- 第6回 いきいきと生きるために死と向き合うということ
- 第7回 「死ぬ」ということ そのイメージ それと直面すること(キューブラー＝ロスの貢献)
- 第8回 緩慢な死と突然死そして「過労死」
- 第9回 自殺 個人的決断と社会的現象としての自殺 その実態と予防
- 第10回 尊厳死と安楽死 緩和ケアとホスピス
- 第11回 臨死体験 彼岸はあるのか? スピリチュアリティとはなにか?
- 第12回 悲嘆の作業 喪の営み 内観法 葬儀・法事 日本人と宗教
- 第13回 子どもの生について
- 第14回 子どもの死について
- 第15回 子どもの死に対する権利について～コルチャック先生の言葉を通して考える

授業以外での学習方法

教科書

参考書

コルチャック先生のいのちの言葉

著者: ヤヌシュ・コルチャック著 サンドラ・ジョウゼフ編著 津崎哲雄訳

出版社: 明石出版

出版年: 2001年

ISBN:

対話する生と死

著者: 河合隼雄

出版社: 潮出版社

出版年: 1992年

ISBN: 4-267-01320-9

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

1～6回:毎回の授業後各自の感想をまとめること。7～12回随時課題 集中講義:子どもが生きること、死ぬことについて、講義内容をまとめてください。その上で、あなたの考えを自由に述べてください。(1600字から2000字程度)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **医療と生命の倫理**

担当者 鶴田 尚美

テーマ

現代の生命倫理・医療倫理の基礎を理解する

獲得目標

この授業の目的は二点である。(1)現代の医療とそこから生まれた倫理的問題について基本的な知識を身につける。(2)授業内容をふまえて、自分自身で問題を考える態度を身につける。

授業の内容

20世紀後半より医療は飛躍的に進歩し、それまで治せなかった病気を治すことができたり、生命を救うことのできなかつた人を救うことができるようになった。しかし、その反面「技術的に可能なことはどこまでもやってよいのだろうか」といった新しい倫理的問題が生まれている。この授業では、基本的な倫理的問題をとりあげ考察する。

内 容

- 第1回 授業の概要説明と受講上の注意
 - 第2回 インフォームド・コンセント(1)
 - 第3回 インフォームド・コンセント(2)
 - 第4回 医師と患者の関係
 - 第5回 人工妊娠中絶(1)
 - 第6回 人工妊娠中絶(2)
 - 第7回 生殖補助医療(1)
 - 第8回 生殖補助医療(2)
 - 第9回 終末期医療(1)
 - 第10回 終末期医療(2)
 - 第11回 先端医療技術(1)
 - 第12回 先端医療技術(2)
 - 第13回 先端医療技術(3)
 - 第14回 医療情報
 - 第15回 医療と社会
-

授業以外での学習方法

授業中で紹介した参考文献を読む。ウェブサイトなどから新しい情報を得る。

教科書

生命倫理と医療倫理[改訂2版]

著者： 伏木信次、樫則章、霜田求(編)

出版社： 金芳堂

出版年： 2008

ISBN: 9.78477E+12

参考書

生命倫理学を学ぶ人のために

著者： 加藤尚武・加茂直樹(編)

出版社： 世界思想社

出版年： 1998

ISBN: 978-4790706908

生命倫理学入門[第2版]

著者： 今井道夫

出版社： 産業図書

出版年： 2008

ISBN: 9.78478E+12

はじめて学ぶ生命倫理——「いのち」は誰が決めるのか

著者： 小林亜津子

出版社： 筑摩書房

出版年： 2011

ISBN: 9.78448E+12

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語VI <Za>

担当者 弥永 啓子

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

12月のTOEIC試験で750点以上を目指します。

授業の内容

主にリーディングセクションの大量の模擬試験問題をこなしながら、語彙・読解力を養うと共に、定着度の低い文法項目を解説します。リスニングは主に宿題とします。【注意事項】1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC650点以上の学生が対象となります。650点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。

内 容

- 第1回 受講に際しての留意点、TOEIC試験対策のための英語学習に関する全般的な指導
- 第2回 語彙・文法実践問題演習
- 第3回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第4回 語彙・文法実践問題演習
- 第5回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第6回 語彙・文法実践問題演習
- 第7回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第8回 語彙・文法実践問題演習
- 第9回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第10回 語彙・文法実践問題演習
- 第11回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第12回 語彙・文法実践問題演習
- 第13回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第14回 語彙・文法実践問題演習
- 第15回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第16回 語彙・文法実践問題演習
- 第17回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第18回 語彙・文法実践問題演習
- 第19回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第20回 語彙・文法実践問題演習
- 第21回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第22回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第23回 模擬試験1、解説
- 第24回 模擬試験解説と弱点補強
- 第25回 Part 2 実践演習、文法実践演習、長文実践演習
- 第26回 Part 3 実践演習、文法実践演習、長文実践演習
- 第27回 Part 4 実践演習、文法実践演習、長文実践演習
- 第28回 模擬試験2、解説
- 第29回 模擬試験解答解説
- 第30回 文法最終実践演習による弱点強化

授業以外での学習方法

毎回語彙テストを実施します。又、毎週リスニングを中心とする宿題を課します。これらをしっかりとこなすようにしてください。

教科書

TOEICテスト本番攻略リーディング10回模試(英語Vaから継続使用)

著者: カン・ジンオー、カン・ウォンジー

出版社: 学研

出版年: 2010

ISBN: 9.78405E+12

Taking the TOEIC 2

著者: Nancie McKinnon

出版社: Compass Publishing

出版年: 2012

ISBN: 9.7816E+12

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (60)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

上記試験成績は12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです(後期中の公開テストでも可)。受講者は全員、IPないしは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語VI <Zb>**

担当者 弥永 啓子

テーマ

TOEIC試験形式の問題演習を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

12月のTOEIC試験で650点以上を目指します。

授業の内容

主にリーディングセクションの大量の模擬試験問題をこなしながら、語彙・読解力を養うと共に、定着度の低い文法項目を解説します。リスニングは主に宿題とします。【注意事項】1. 英語コミュニケーション学科3回生はクラス指定となります。その他の学生の場合、受講開始時点でTOEIC550点以上の学生が対象となります。550点未満で履修を希望する場合には、必ず初回授業で担当教員に申し出て、相談した上で履修登録を行って下さい。2. 英語コミュニケーション学科新3回生は、受講登録時に指定されているクラスが変更になる可能性があります(aからb、bからa)ので注意してください。

内 容

- 第1回 受講に際しての留意点、TOEIC試験対策のための英語学習に関する全般的な指導
- 第2回 語彙・文法実践問題演習
- 第3回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第4回 語彙・文法実践問題演習
- 第5回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第6回 語彙・文法実践問題演習
- 第7回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第8回 語彙・文法実践問題演習
- 第9回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第10回 語彙・文法実践問題演習
- 第11回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第12回 語彙・文法実践問題演習
- 第13回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第14回 語彙・文法実践問題演習
- 第15回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第16回 語彙・文法実践問題演習
- 第17回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第18回 語彙・文法実践問題演習
- 第19回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第20回 語彙・文法実践問題演習
- 第21回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第22回 文法弱点補強、長文実践問題演習
- 第23回 模擬試験1、解説
- 第24回 模擬試験解説と弱点補強
- 第25回 Part 2 実践演習、文法実践演習、長文実践演習
- 第26回 Part 3 実践演習、文法実践演習、長文実践演習
- 第27回 Part 4 実践演習、文法実践演習、長文実践演習
- 第28回 模擬試験2、解説
- 第29回 模擬試験解答解説
- 第30回 文法最終実践演習による弱点強化

授業以外での学習方法

毎回語彙テストを実施します。又、毎週リスニングを中心とする宿題を課します。これらをしっかりとこなすようにしてください。

教科書

Listening and Vocabulary Training for the TOEIC Test

著者: Satoru Furuya 他

出版社: 三修社

出版年: 2013

ISBN: 9.78438E+12

Longman Preparation Series for the New TOEIC Test, More Practice Tests

著者: Lin Lougheed

出版社: Pearson Longman

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

小テスト (60)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (0)

参加度 (0)

上記試験成績は12月の土曜日に実施予定のTOEIC-IP試験に基づくものです(後期中の公開テストでも可)。受講者は全員、IPないしは公開テストを受験しなければなりません。IP受験料は別途徴収されることとなりますので注意して下さい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習 X <Z>

担当者 三輪 幸一

テーマ

プレゼンテーションとマルチメディア素材の作成

獲得目標

PwerPointによるプレゼンテーション作成及びFlashによるアニメーションの作成やSkechUpによる3D作成ができることを目指す

授業の内容

授業では先ずPowerPointを活用したプレゼンテーションの作成を行います。更にコンピュータ上での静止画像のマルチメディア表現の技術としてフォトタッチ(画像の編集・合成)、アニメーション動画素材の作成技術としてFlashアニメーション、三次元マルチメディア素材の作成技術として3Dグラフィックス作成の基礎技術を修得します。ホームページ上で動きを与えるアニメーションとしてFlashアニメーションがよく使われています。Flashアニメーションにより、映画のタイトルロゴのような迫力ある演出や迫力あるリアルなアニメーションを作成できます。FlashアニメーションはWebデザイナーの基礎技術にもなっています。授業ではホームページ上のアニメーションとして人気のあるFlashアニメーションの作成のしかたを修得します。授業では「FlashアニメーションやFlashロゴデザインと表現の可能性」と「楽しさ、面白さ」を追求しながら授業をすすめていきます。また三次元マルチメディア素材の作成技術としてSkechUpという3Dグラフィックス作成ソフトウェアにより建物などの三次元物体の作成の基礎技術を修得します。

内 容

- 第1回 ・PowerPointにより世界遺産や歴史的建造物などのプレゼンテーションを作成してみる
- 第2回 ・PowerPointにより世界遺産や歴史的建造物などのプレゼンテーションを作成してみる(第1回の続き)
- 第3回 ・PowerPointにより商品のプレゼンテーションを作成してみる
- 第4回 ・画像編集ソフトPixelによる画像のフォトタッチ(画像の編集・合成)
- 第5回 ・Flashの図形描画の基本
- 第6回 ・球の移動と長方形が転がるモーショントゥーンによるアニメーションの基本 ・トトロと風船がふんわりと上昇するアニメーション ・ロゴが集結するアニメーション
- 第7回 ・パスに沿って鳥と風船が移動するアニメーション ・階段を回転しながら転がり落ちるアニメーション ・シヨパンのレリーフが分解・統合するアニメーション
- 第8回 ・ロゴが1文字ずつ色を変えながら落下するロゴアニメーション ・トランポリンズームと落下するロゴを組み合わせたアニメーション
- 第9回 ・水面に落下したロゴの周囲に波紋の広がるアニメーション
- 第10回 ・マウスクリックによりランプが点灯するアニメーション ・シェーブトゥイーンによる立方体が転がるアニメーション
- 第11回 ・画像がフェードイン・フェードアウトし移動するアニメーション ・画像の遷移効果と移動を組み合わせたアニメーション
- 第12回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの基礎
- 第13回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの作成(椅子, 建築物の作成 I)
- 第14回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの作成(BurgやSchrossなどの建築物の作成 II)
- 第15回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの作成(BurgやSchrossなどの建築物の作成 III)

授業以外での学習方法

授業形態は、積み上げ型による演習形式であり、授業時間も限られているので、授業に欠席した場合は、受講者はパソコン教室などを利用し、授業時間以外の学習によって、次の時間までに自習し追いつくようにして下さい。

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介します。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（50）

参加度（50）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 フランス語Ⅳ

担当者 志賀 亮一

テーマ

フランス語基礎の完成(2)

獲得目標

フランス語Ⅲで身につけた力をもとに、より高度な規則を学び、フランス語の基礎的な知識を完成するとともに、やや複雑な文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

授業の内容

規則の説明に続いて、音声と筆記によってできるだけ多くの例文を反復練習する。

内 容

- 第10回 直説法大過去(1)
 - 第11回 直説法大過去(2)
 - 第12回 直説法過去まとめの小テスト
 - 第13回 現在分詞とジェロンディフ(1)
 - 第14回 現在分詞とジェロンディフ(1)
 - 第15回 中世代名詞(1)
 - 第16回 中世代名詞(2)
 - 第17回 中世代名詞(3)
 - 第18回 第10課のリーダー
 - 第19回 直説法単純未来(1)
 - 第20回 直説法単純未来(2)
 - 第21回 直説法単純未来(小テスト)
 - 第22回 直説法前未来(1)
 - 第23回 直説法前未来(2)
 - 第24回 第11課のリーダー
 - 第25回 条件法現在(1)
 - 第26回 条件法現在(2)
 - 第27回 条件法現在(小テスト)
 - 第28回 条件法過去(1)
 - 第29回 条件法過去(2)
 - 第30回 条件法過去(小テスト)
 - 第1回 直説法半過去(1)
 - 第2回 直説法半過去(2)
 - 第3回 直説法半過去(3)
 - 第4回 直説法半過去(小テスト)
 - 第5回 過去分詞の一致(1)
 - 第6回 過去分詞の一致(1)
 - 第7回 関係代名詞 dont, ou(1)
 - 第8回 関係代名詞 dont, ou(2)
 - 第9回 第9課のリーダー
-

授業以外での学習方法

フランス語Ⅲにつづいて、練習問題を中心に節目の小テストにむけた復習に力を入れること。

abs4041450

教科書

オルセー美術館にて

著者： 中山真彦

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (100)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ドイツ語Ⅳ**

担当者 久下 泰弘

テーマ

ドイツ語応用その2

獲得目標

ドイツ語中級への橋渡しとなる読解、及び自己表現ができるようになること。ドイツ語検定4級から3級を指標として

授業の内容

日常会話主体のテキストで実用的な口語表現を学び、また聞き取り、書き取りや反意語・同義語問題等、多様な練習問題を用いて、総合的な学力を身につけることができるようになるでしょう。秋学期には、テキストの後半部分を扱います。

内 容

- 第1回 第5課 「天気予報と新聞記事」読解練習、読み合わせプリント配布(以下同様)
- 第2回 第5課 「天気予報と新聞記事」文法の復習 3種類の過去
- 第3回 第5課 「天気予報と新聞記事」3種類の過去
- 第4回 第5課 「天気予報と新聞記事」形容詞の格変化
- 第5回 第5課 「天気予報と新聞記事」ドイツの天気について
- 第6回 第6課 「大学で」読解練習、読み合わせプリント配布(以下同様)
- 第7回 第6課 「大学で」文法の復習 間接疑問文
- 第8回 第6課 「大学で」テキストについての質問
- 第9回 第6課 「大学で」文法練習問題、書き取り問題
- 第10回 第6課 「大学で」2人称表現について
- 第11回 第7課 「研修旅行」読解練習、読み合わせプリント配布(以下同様)
- 第12回 第7課 「研修旅行」文法の復習 機能動詞構造
- 第13回 第7課 「研修旅行」テキストについての質問
- 第14回 第7課 「研修旅行」聞き取り練習、
- 第15回 第7課 「研修旅行」ゲーテとワイマールについて
- 第16回 第8課 「病院で」読解練習、読み合わせプリント配布(以下同様)
- 第17回 第8課 「病院で」文法の復習 不定詞句
- 第18回 第8課 「病院で」テキストについての質問
- 第19回 第8課 「病院で」聞き取り練習
- 第20回 第8課 「病院で」保険衛生制度について
- 第21回 第9課 「ドイツにおける外国人」読解練習、読み合わせプリント配布(以下同様)
- 第22回 第9課 「ドイツにおける外国人」文法の復習 間接話法
- 第23回 第9課 「ドイツにおける外国人」不定関係代名詞
- 第24回 第9課 「ドイツにおける外国人」テキストについての質問
- 第25回 第9課 「ドイツにおける外国人」外国人労働者について
- 第26回 ドイツ語検定3級用の練習問題
- 第27回 ドイツ語検定3級用の練習問題
- 第28回 ドイツ語検定3級用の練習問題
- 第29回 まとめと今後のドイツ語学習のための資料プリント配布
- 第30回 まとめと今後のドイツ語学習のための資料プリント配布

授業以外での学習方法

添付のCDを活用すること。発音、聞き取りを怠らないこと。

教科書

体験するドイツ語

著者： 須澤通、E. シュミット、浜泰子

出版社： 郁文堂

出版年： 2005

ISBN: 9.78426E+11

参考書

アポロン独和辞典

著者： 根本道也ほか

出版社： 同学社

出版年： 2010年

ISBN: 9.78481E+12

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

出席重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅲ〈Z〉

担当者 小寺 隆幸

テーマ

小学校教員になるための数学演習

獲得目標

小学校の教員採用試験に出題される数学の問題が解ける力をつける。主に数Ⅰ・数A程度だが、数Ⅱ・数Bの範囲も含む。

授業の内容

教員採用試験の過去問題を解く中で数学の復習を行う。

内 容

- 第1回 滋賀県の問題から 1
 - 第2回 滋賀県の問題から 2
 - 第3回 京都市の問題から 1
 - 第4回 京都市の問題から 2
 - 第5回 京都府の問題から 1
 - 第6回 京都府の問題から 2
 - 第7回 大阪府の問題から
 - 第8回 兵庫県の問題から
 - 第9回 愛知県の問題から
 - 第10回 三角比・三角関数
 - 第11回 微積分
 - 第12回 確率
 - 第13回 指数・対数
 - 第14回 図形
 - 第15回 総合問題
-

授業以外での学習方法

毎回出す課題を次回までにやる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (0)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 簿記演習Ⅱ〈Z〉

担当者 山本 耕二

テーマ

簿記システムの応用的理解

獲得目標

当座預金や手形といった経理システムを理解する 複式簿記の本質を理解して決算書まで作成できるようにする

授業の内容

簿記の詳しい内容と経理の仕組みを解説していく

内 容

- 第1回 ガイダンス 商品有高帳
 - 第2回 売掛金・買掛金(1)
 - 第3回 売掛金・買掛金(2)、その他の債権と債務(1)
 - 第4回 その他の債権と債務(2)
 - 第5回 その他の債権と債務(3)、手形(1)
 - 第6回 手形(2)
 - 第7回 手形(3)、有価証券
 - 第8回 固定資産、資本金と引出金
 - 第9回 収益と費用(1)
 - 第10回 収益と費用(2)、税金、帳簿と伝票
 - 第11回 試算表の作成
 - 第12回 決算整理手続
 - 第13回 精算表の作成
 - 第14回 決算振替手続と元帳の締め切り 財務諸表の作成
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

内容を理解して授業についてくるには予習及び復習が欠かせません。毎回宿題を出します。繰返し練習問題を解いて理解するように。

教科書

平成25年度版 新検定簿記講義3級／商業簿記

著者：

出版社：中央経済社

出版年：

ISBN：

新検定簿記ワークブック3級／商業簿記

著者：

出版社：中央経済社

出版年：

ISBN：

参考書

合格トレーニング日商簿記3級 TAC簿記検定講座

著者：

出版社：TAC出版

出版年：

ISBN：

合格するための過去問題集 日商簿記3級

著者：

出版社：TAC出版

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（40）

小テスト（10）

授業中課題（10）

授業中発表等（10）

参加度（30）

参考URL

山本耕二税理士事務所

<http://homepage3.nifty.com/tax-yamamoto>

追加的な連絡事項を掲示する

2013 Syllabus

科目名 日本文化演習Ⅱ

担当者 五十川 伸矢

テーマ

日本の伝統文化を体験する

獲得目標

京都の歴史遺産・行事や祭り・美術館・博物館を見学し、日本の伝統文化や風俗習慣を知る。

授業の内容

見学先の説明をおこなった次の授業で現地を見学し、レポートを書いてもらい、さらに次の授業でレポートの発表会をおこなう。これをくり返して、日本語表現能力を磨くとともに、京都の歴史と文化を理解してもらう。

内 容

- 第1回 ガイダンス・自己紹介文を書く
 - 第2回 自己紹介文の発表＋次の見学先の説明
 - 第3回 神社・寺院の見学
 - 第4回 レポートの発表会＋次の見学先の説明
 - 第5回 美術館・博物館の見学
 - 第6回 レポートの発表会＋次の見学先の説明
 - 第7回 神社・寺院の見学
 - 第8回 レポートの発表会＋次の見学先の説明
 - 第9回 神社・寺院の見学
 - 第10回 レポートの発表会＋次の見学先の説明
 - 第11回 神社・寺院の見学
 - 第12回 レポートの発表会
 - 第13回 日本の年末とお正月の説明
 - 第14回 日本のお正月の体験記の発表
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

見学地に関する資料を、よく読んでおくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教員採用試験特別対策講座 I (中等) <Z>

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

学校教育実践論 I

獲得目標

これからの教職を志す者は、今日の学校教育における、具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を身につける必要があります。そのために、現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、多角的・複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、実践的な課題克服の方途を主体的に考える力を身につけることを目標とします。

授業の内容

今日の学校教育をめぐる基本的課題を多角的・複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、自らの実践を主体的に考え、発表する。

内 容

- 第1回 授業の説明等(教職を志す資質・能力及び教員採用試験)イントロダクション
 - 第2回 教師の求められる資質・能力
 - 第3回 ワークショップ
 - 第4回 教育観について
 - 第5回 ワークショップ
 - 第6回 今日の教育課題
 - 第7回 ワークショップ
 - 第8回 学習指導の在り方
 - 第9回 ワークショップ
 - 第10回 児童生徒の問題行動について
 - 第11回 ワークショップ
 - 第12回 これからの人権教育
 - 第13回 ワークショップ
 - 第14回 都道府県政令指定都市の教育方針や教育目標などに関する内容
 - 第15回 ワークショップのまとめ
-

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを日頃から見ておくこと。一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌など読んでおくこと

教科書

中学校学習指導要領本体

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説道徳編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説特別活動編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 70 ）

授業中発表等（ 15 ）

参加度（ 15 ）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教員採用試験特別対策講座Ⅱ(中等)〈Z〉

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

学校教育実践論Ⅱ

獲得目標

今回の学習指導要領改訂において、「生きる力」という概念は、知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから、これを継承し、「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。これからの教職を志望する者は、教員採用試験のために、学習指導要領の改善点を単に暗記するだけではなく、改訂の趣旨及び背景(例えば、教育基本法の改正、学校教育法の改正など)も含めて理解し、教師としての実践力として身につけることが大切である。また、将来教師として採用された後も、学習指導要領をはじめ、国レベルで出される答申や通知、報告等を歴史的視点で継続的に理解し、時代の変化に対応できる資質・能力を身につけることなどを目標とする。

授業の内容

学習指導要領の法令上の位置づけや教育課程を編成する際の基準性等を理解する。

内 容

- 第1回 授業の説明等, イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領の改善点
- 第3回 教育課程の編成, 教育課程の意義, 教育課程の概念など
- 第4回 教育課程とその基準, 教育課程に関する法制など
- 第5回 教育課程編成の一般方針
- 第6回 内容等の取扱いに関する共通的事項
- 第7回 授業時数に関する知識1
- 第8回 授業時数に関する知識2
- 第9回 指導計画の作成
- 第10回 教育課程実施上の配慮事項1
- 第11回 教育課程実施上の配慮事項2
- 第12回 教育課程実施上の配慮事項3
- 第13回 道徳, 外国語
- 第14回 総合的な学習の時間, 特別活動
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

教科書

中学校学習指導要領本体

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:

ISBN:

中学校学習指導要領解説総則編

著者: 文部科学省

出版社: 東洋館出版社

出版年:

ISBN:

中学校学習指導要領解説道徳編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説特別活動編中学校学習指導要領解説特別活動編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 70 ）

授業中発表等（ 15 ）

参加度（ 15 ）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **経済学Ⅱ〈Z〉**

担当者 阪本 崇

テーマ

獲得目標

・マクロ経済学の基本的な知識を身につける ・新聞等で報道される経済政策に関して、社説やテレビのコメンテーターの話を鵜呑みにするのではなく、自分自身の意見が持てるようになる。 ・マクロ経済学の基礎を学び、経済安定化政策にそれがどのように活かされているかを知る

授業の内容

2008年のリーマンショックをきっかけに、世界中で景気の後退がおこり、その影響は現在も続いている。日本も例外ではなく、身近なところでは大学生の就職難という形で現れている。こうした景気の後退はどのようにして起こるのか、そして政府は景気をよくするためにどのような政策をとるべきか。このような問題について、マクロ経済学の視点から学んでいく。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン:大恐慌とマクロ経済学の誕生
- 第2回 新しい労働市場分析:どうして失業が発生するのか?
- 第3回 国民所得の諸概念:経済の「大きさ」のはかり方
- 第4回 国民所得の決定原理:景気に対する2つの考え方
- 第5回 乗数効果:公共事業で景気はよくなるのか?
- 第6回 租税とマクロ経済:景気が悪いときに減税が主張されるのはなぜか?
- 第7回 公債のはなし:国の借金は悪いことか?
- 第8回 投資の決定メカニズム:企業はどんなときに元気になるのか?
- 第9回 貨幣市場の需要と供給:民間金融機関はお金を増やすことができる
- 第10回 金融政策と経済安定化:なぜゼロ金利政策が続くのか?
- 第11回 生産要素市場のモデル:労働者は合理的か?
- 第12回 総需要曲線と総需要曲線:なぜインフレ/デフレは望ましくないのか?
- 第13回 為替レートの決定メカニズム:円高はなぜ起こるのか?
- 第14回 開放経済のマクロ経済モデル:輸出が増えると景気がよくなるのはどうしてか?
- 第15回 開放経済下の経済安定化政策:どうして金融政策に効果がないのか?

授業以外での学習方法

授業の中で課題を出すことがありますので、次の授業までにこなしてきておいて下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (60)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職教養講義 I (初等)

担当者 島田 尚夫

テーマ

自ら、教職につくための確かな見通しを持ち、教育の意義と目的を明らかにするための理論の構築を目指す

獲得目標

学習指導要領の改訂において、「生きる力」という概念は、これからも続く激変の社会において、益々重要度をますことから、「生きる力を」形成する「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。これからの教職を志願するものは、単に学習指導要領の改善点の知識の獲得だけでなく、改定の趣旨や背景、法制の改正なども踏まえて認識し、教師としての力量を高めることが大事である。教師として採用された後も、学習指導要領を始め、国レベルの答申や通知、報告などを継続的に理解し、時代の社会の変化に対応する資質と能力を身に付けることを目標とする。

授業の内容

学習指導要領の法制上の位置づけや教育課程を編成する際の基準等を理解する

内 容

- 第1回 教育の意義と目的
 - 第2回 教育課程の意義
 - 第3回 教育課程の編成と評価
 - 第4回 現行学習指導要領の特色その①
 - 第5回 特色その②
 - 第6回 道徳教育
 - 第7回 総合的な学習の時間と特別活動
 - 第8回 特別支援と生徒指導
 - 第9回 学習指導要領・その変遷①
 - 第10回 その変遷②
 - 第11回 学習指導
 - 第12回 学級経営
 - 第13回 全学年の指導内容・全教科その概要
 - 第14回 教員採用の現状と課題
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを見ることや、新聞等の教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読むようにする

教科書

小学校学習指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍株式会社

出版年：

ISBN：

小学校学習指導要領解説 総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

小学校学習指導要領解説 道徳編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

小学校学習指導要領解説 特別活動編

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

生徒指導提要

著者： 文部科学省

出版社： 教育図書株式会社

出版年：

ISBN：

参考書

授業中指示します

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（なし）

小テスト（なし）

授業中課題（70）

授業中発表等（15）

参加度（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教職教養講義 I (中等)**

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

学校教育実践論 I

獲得目標

これからの教職を志す者は、今日の学校教育における、具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を身につける必要があります。そのために、現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、多角的・複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、実践的な課題克服の方途を主体的に考える力を身につけることを目標とします。

授業の内容

今日の学校教育をめぐる基本的課題を多角的・複眼的に考察し、学校教育の現状についての認識・理解を深め、自らの実践を主体的に考え、発表する。

内 容

- 第2回 教師の求められる資質・能力
- 第3回 ワークショップ
- 第4回 教育観について
- 第5回 ワークショップ
- 第6回 今日的な教育課題
- 第7回 ワークショップ
- 第8回 学習指導の在り方
- 第9回 ワークショップ
- 第10回 児童生徒の問題行動について
- 第11回 ワークショップ
- 第12回 これからの人権教育
- 第13回 ワークショップ
- 第14回 都道府県政令指定都市の教育方針や教育目標などに関する内容
- 第15回 ワークショップのまとめ
- 第1回 授業の説明等(教職を志す資質・能力及び教員採用試験)イントロダクション

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを日頃から見ておくこと。一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌など読んでおくこと

教科書

中学校学習指導要領本体

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説道徳編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説特別活動編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 70 ）

授業中発表等（ 15 ）

参加度（ 15 ）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職教養講義Ⅱ(初等)

担当者 島田 尚夫

テーマ

自ら教職につくための確かな見通しを持ち、教育実践の力量を培う

獲得目標

これからの教職を志すものは、今日の学校教育における具体的な課題を主体的に考察し、認識を深める資質・能力を深める必要がある。そのために、現在の学校教育をめぐる基本的課題を取り上げ、その課題解決に向けて考察し、学校教育の現状認識を深め実践的な課題克服を主体的に考える力を培うようにする。

授業の内容

今日の学校教育をめぐる状況とその課題を考察し、学校教育の現状について理解と認識を深め、自らの実践を主体的に考え表出しようとする

内 容

- 第1回 オリエンテーション 教育(学校)の役割
- 第2回 教師の求められる資質と能力
- 第3回 教員の役割・主な仕事 学習指導①
- 第4回 教員の役割・主な仕事 学習指導②
- 第5回 教員の役割・主な仕事 学習指導③
- 第6回 教員の役割・主な仕事 生徒指導に関する④
- 第7回 教員の役割・主な仕事 生徒指導に関する⑤
- 第8回 現在の教育課題
- 第9回 学級と学校の運営①
- 第10回 学級と学校の運営②
- 第11回 授業作り①
- 第12回 授業作り(模擬授業)②
- 第13回 事例研究(場面指導)
- 第14回 自己の目指す教師像
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを見ること。新聞などにおける教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読むようにする。

教科書

小学校学習指導要領

著者： 文部科学省

出版社： 東京書籍

出版年：

ISBN：

小学校指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

生徒指導提要

著者： 文部科学省

出版社： 教育図書

出版年：

ISBN：

参考書

授業中指示する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（なし）

小テスト（なし）

授業中課題（70）

授業中発表等（15）

参加度（15）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総合的な成績評定を行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教職教養講義Ⅱ(中等)

担当者 廣瀬 忠愛

テーマ

学校教育実践論Ⅱ

獲得目標

今回の学習指導要領改訂において、「生きる力」という概念は、知識基盤社会の時代においてますます重要となっていることから、これを継承し、「生きる力」を支える「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の調和のとれた育成が重視されている。これからの教職を志望する者は、教員採用試験のために、学習指導要領の改善点を単に暗記するだけではなく、改訂の趣旨及び背景(例えば、教育基本法の改正、学校教育法の改正など)も含めて理解し、教師としての実践力として身につけることが大切である。また、将来教師として採用された後も、学習指導要領をはじめ、国レベルで出される答申や通知、報告等を歴史的視点で継続的に理解し、時代の変化に対応できる資質・能力を身につけることなどを目標とする。

授業の内容

学習指導要領の法令上の位置づけや教育課程を編成する際の基準性等を理解する。

内 容

- 第12回 教育課程実施上の配慮事項3
- 第13回 道徳、外国語
- 第14回 総合的な学習の時間、特別活動
- 第15回 まとめ
- 第1回 授業の説明等、イントロダクション
- 第2回 新学習指導要領の改善点
- 第3回 教育課程の編成、教育課程の意義、教育課程の概念など
- 第4回 教育課程とその基準、教育課程に関する法制など
- 第5回 教育課程編成の一般方針
- 第6回 内容等の取扱いに関する共通的事項
- 第7回 授業時数に関する知識1
- 第8回 授業時数に関する知識2
- 第9回 指導計画の作成
- 第10回 教育課程実施上の配慮事項1
- 第11回 教育課程実施上の配慮事項2

授業以外での学習方法

文部科学省のホームページを日頃から見ておくことや、一般の新聞等における教育関係の記事、教育専門誌、教育専門月刊誌などを読んでおくこと。

教科書

中学校学習指導要領本体

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説総則編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年：

ISBN：

中学校学習指導要領解説道徳編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN：

中学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN：

中学校学習指導要領解説特別活動編中学校学習指導要領解説特別活動編

著者： 文部科学省

出版社： 東洋館出版社

出版年： ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 70 ）

授業中発表等（ 15 ）

参加度（ 15 ）

授業における課題のレポート、授業中のプレゼンテーション及び出席状況の総括的な成績評定を行う。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急救命基礎講義 I

担当者 夏目 美樹・北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・深澤 雄二

テーマ

政治の常識①

獲得目標

卒業後救急救命職(公務員)に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の内容

第1回の授業は、a・bクラス合同でオリエンテーションともに公務員試験を模擬体験し、第2回以降は、数学と政治の授業を隔週で実施する。政治の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回(2週間後)の授業でかならず提出すること。

内 容

- 第1回 合同:オリエンテーション&公務員試験問題の体験
- 第2回 数の世界の不思議から文字へ
- 第3回 政治:国家とはなにか?—その思想と原則
- 第4回 文字式の計算を図で考えよう~展開、因数分解、平方完成、解の公式
- 第5回 政治:人権—原理と歴史
- 第6回 数の世界の拡張~有理数、無理数、正負の数
- 第7回 政治:いろいろな政治制度
- 第8回 量の世界の探求~密度、濃度、速度
- 第9回 政治:日本国憲法
- 第10回 方程式の活用~一次・連立・二次方程式
- 第11回 政治:憲法と人権①
- 第12回 不等式とその活用
- 第13回 政治:憲法と人権②
- 第14回 比・比例・割合
- 第15回 政治:まとめ

授業以外での学習方法

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

教科書

授業毎にプリント配付

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (80)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 救急救命基礎講義Ⅱ

担当者 夏目 美樹・北小屋 裕・関根 和弘・千田 いずみ・深澤 雄二

テーマ

経済の常識①

獲得目標

卒業後救急救命職(公務員)に就くことを前提に、救命士に相応しい数学および政治・経済の知識を身につける。

授業の内容

第1回の授業から、数学と経済の授業を隔週で実施し、最終回には数学&政治・経済の総合テストを実施する。経済の授業では、各回ともノート作成用のシートを配布し、テーマにそってできるだけ詳しく講義する。受講生は、講義にもとづいてシートの空欄に必要事項を記入し、講義ノートを完成する。なお毎回宿題の小テストを配布するので、次回(2週間後)の授業でかならず提出すること。

内 容

- 第1回 場合の数
- 第2回 経済:経済体制
- 第3回 順列・組み合わせ
- 第4回 経済:経済理論①
- 第5回 確率
- 第6回 経済:経済理論②
- 第7回 平面図形の基礎
- 第8回 経済:経済理論③
- 第9回 相似
- 第10回 経済:戦後の日本経済
- 第11回 図形の計量
- 第12回 経済:その分野別問題
- 第13回 空間図形
- 第14回 政治:まとめ
- 第15回 合同:まとめのテスト

授業以外での学習方法

各回とも終了時に小テストを配布するので、ノートをもとにしっかり復習し、小テストの解答を記入する。

教科書

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地域芸術文化振興論 <Z>

担当者 上原 恵美

テーマ

まちづくり、地域振興と文化芸術のかかわりについて理解を深め、文化をプロデュースすることの意味をまなぶ。

獲得目標

まちづくり、地域振興の事例を見ることによって、地域振興とは何か、芸術や文化がどのようにかかわるのか、さらに文化プロデュースとは何か、どのような役割を果たしているかということを考察する。

授業の内容

様々な事例を見て、それに対する感想をまとめながら、授業の目的に掲げた獲得目標を達成する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション この授業で使う「文化」「芸術」の定義
- 第2回 まちと文化一事例1 滋賀県高島市川端のある暮らし
- 第3回 まちと文化一事例2 滋賀県長浜市高月町の暮らし
- 第4回 まちづくりと文化一事例3 熊本県宇城市歴史ある街並みをよみがえらせる
- 第5回 まちづくりと文化一事例4 鹿児島県鹿屋市「やねだん」のむらおこし
- 第6回 サントリー地域文化賞について ゲストスピーカーによるレクチャー
- 第7回 サントリー地域文化賞受賞団体の事例を学ぶ
- 第8回 企業とまちづくり一事例5 石見銀山生活文化研究所の取り組み
- 第9回 アートと地域再生一事例6 中山間地域の再生 越後妻有大地の芸術祭
- 第10回 アートと地域再生一事例7 離島の再生 直島・犬島のアートプロジェクト
- 第11回 アートと地域再生一事例8 瀬戸内国際芸術祭
- 第12回 アートと都市の再生一事例9 あいちトリエンナーレ
- 第13回 創造都市について
- 第14回 教育と芸術の関係
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

身近な街づくりの事例に関心を払い、できれば活動に参加してみる。

教科書

参考書

地域再生 行政に頼らないむらおこし

著者： 豊重哲郎

出版社： 出版企画あさんてーな

出版年： 2004

ISBN：

起業は山間から

著者： 森まゆみ

出版社： バジリコ株式会社

出版年： 2009

ISBN：

群言堂の根のある暮らし

著者： 松場登美

出版社： 家の光協会

出版年： 2009

ISBN：

持続可能なまちは小さく、美しい・上勝町の挑戦

著者： 笠松和市・佐藤由美

出版社： 学芸出版社

出版年： 2008

ISBN：

成績評価

試験（0）

授業中課題（50）

参加度（50）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 京都の歴史と文化財Ⅱ <eL>

担当者 田端 泰子・脇田 修・脇田 晴子

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々 ●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●講義の配信スケジュールは5月中旬から9月上旬を予定しています。詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。●成績評価はレポートで評価します(予定)。詳細は別途、掲出します。

獲得目標

”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

内 容

- 第1回 都城の変遷[田端]
- 第2回 平安京の成立[田端]
- 第3回 平安京に暮らす人々[田端]
- 第4回 院政期の京都[田端]
- 第5回 京―鎌倉をつなぐ人々[田端]
- 第6回 「このごろ都にはやるもの」―南北朝期の京都[田端]
- 第7回 室町幕府の成立と京の都[田端]
- 第8回 土一揆の時代[田端]
- 第9回 京の商工業者[田端]
- 第10回 『洛中洛外図』に描かれた京都[田端]
- 第11回 祇園祭と京の町[脇田晴子]
- 第12回 中世京都の芸能[脇田晴子]
- 第13回 織田信長と京都[脇田修]
- 第14回 豊臣政権と京の町[脇田修]
- 第15回 元禄時代の京都[脇田修]

授業以外での学習方法

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

物語 京都の歴史

著者: 脇田修・晴子

出版社: 中央公論新社

出版年: 2008

ISBN:

女性芸能の源流

著者： 脇田晴子

出版社： 角川書店

出版年： 2001

ISBN：

中世京都と祇園祭

著者： 脇田晴子

出版社： 中央公論新社

出版年： 1999

ISBN：

秀吉の経済感覚

著者： 脇田修

出版社： 中央公論社

出版年： 1991

ISBN：

北政所おね

著者： 田端泰子

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN：

足利義政と日野富子

著者： 田端泰子

出版社： 山川出版社

出版年： 2011

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は、第15回の後にレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本語表現Ⅱ <Aa>**

担当者 米澤 洋子

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Ab〉

担当者 古澤 夕起子

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ac>

担当者 禧美 智章

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Ad〉

担当者 権藤 愛順

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ae>

担当者 名和 久仁子

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Af〉

担当者 松井 治子

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Ag〉

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Ah〉

担当者 三重野 由加

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Ai>

担当者 渡邊 浩史

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Aj〉

担当者 橋本 章彦

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Ak〉

担当者 伊藤 典文

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈AI〉

担当者 鳥谷 善史

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Am>

担当者 重松 恵美

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈An〉

担当者 檜垣 泰代

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Ba〉

担当者 米澤 洋子

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本語表現Ⅱ <Bb>**

担当者 古澤 夕起子

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Bc〉

担当者 禧美 智章

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本語表現Ⅱ <Bd>**

担当者 権藤 愛順

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Be〉

担当者 名和 久仁子

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bf>

担当者 松井 治子

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bg>

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bh>

担当者 三重野 由加

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
 - 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bi>

担当者 渡邊 浩史

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bj>

担当者 橋本 章彦

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈Bk〉

担当者 伊藤 典文

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ〈BI〉

担当者 鳥谷 善史

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bm>

担当者 重松 恵美

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年：

ISBN：

キャリアアップ国語表現法

著者： 丸山顕徳

出版社： 嵯峨野書院

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語表現Ⅱ <Bn>

担当者 檜垣 泰代

テーマ

大学での学修活動に参加するに当たって必要とされる日本語運用能力の習得

獲得目標

ゼミ形式の授業への参加やレポート提出に際して求められる「読む力」「書く力」の習得を目指す

授業の内容

内 容

- 第1回 文章を書く(1)文のしくみ
 - 第2回 文章を書く(2)文章構成
 - 第3回 文章を書く(3)手紙と葉書
 - 第4回 文章を書く(4)レポート・小論文
 - 第5回 文章を書く(5)論説文と解説文
 - 第6回 文章を表現する技術を手に入れよう(1)文章の型を知る
 - 第7回 文章を表現する技術を手に入れよう(2)パラグラフを活用する
 - 第8回 文章を表現する技術を手に入れよう(3)資料を使って説明する
 - 第9回 文章を表現する技術を手に入れよう(4)要約、引用して批判する
 - 第10回 文章を表現する技術を手に入れよう(5)批判を先回りして反論する
 - 第11回 読解力を養おう(1) 文脈を読む
 - 第12回 読解力を養おう(2)論理構造を把握する
 - 第13回 読解力を養おう(3)文章を要約する
 - 第14回 読解力を養おう(4)文章を要約する
 - 第15回 読解力を養おう(5)文章を要約する
-

授業以外での学習方法

教科書

スタート 京都橘の日本語表現テキスト

著者: 京都橘大学

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

キャリアアップ国語表現法

著者: 丸山顕徳

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ〈a〉**

担当者 小林 亮子

テーマ

社会人基礎力(コミュニケーション能力)を体得し、社会人としての準備を行う。

獲得目標

・適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキルを習得する。・社会が求めるヒューマンスキルを身につけた、問題発見解決型人材を目指す。・活動の意味づけをすることで、大学生生活の価値が大きく変わることを目的とする。

授業の内容

講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得します。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力(コミュニケーション力・自己アピール力)などのヒューマンスキルを身につけることを目指します。

内 容

- 第1回 社会が求める人材とは、自己アピール①(自己紹介)
- 第2回 コミュニケーションの大切さ、ビジネスマナー①(身だしなみ)
- 第3回 ビジネスマナー②(お辞儀/挨拶/立ち居振る舞い)
- 第4回 ビジネスマナー③(敬語)
- 第5回 良好なコミュニケーションの取り方(1対1のコミュニケーション・傾聴)
- 第6回 ビジネスマナー④(接遇用語)
- 第7回 ビジネスマナー⑤(電話対応)
- 第8回 ビジネスマナー⑥(")
- 第9回 ビジネスマナー⑦(ビジネス文書/電子メール/キャンパスマナー)
- 第10回 自己アピール②(基本的な話し方) 自己分析(他者評価をもとにした自己評価の再考)
- 第11回 自己アピール③(就職活動時の効果的なアピール)
- 第12回 自己アピール④(自己紹介の工夫)
- 第13回 自己アピール⑤(プレゼンテーション技術)
- 第14回 課題作成(自己アピール・現状分析と今後の取り組み)
- 第15回 自己アピール⑥(プレゼンテーションの実施)・まとめ

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。

教科書

自信がつくビジネスマナー<改訂2版>

著者:

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN: 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ **

担当者 小林 亮子

テーマ

社会人基礎力(コミュニケーション能力)を体得し、社会人としての準備を行う。

獲得目標

・適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキルを習得する。・社会が求めるヒューマンスキルを身につけた、問題発見解決型人材を目指す。・活動の意味づけをすることで、大学生活の価値が大きく変わることを目的とする。

授業の内容

講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得します。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力(コミュニケーション力・自己アピール力)などのヒューマンスキルを身につけることを目指します。

内 容

- 第1回 社会が求める人材とは、自己アピール①(自己紹介)
- 第2回 コミュニケーションの大切さ、ビジネスマナー①(身だしなみ)
- 第3回 ビジネスマナー②(お辞儀/挨拶/立ち居振る舞い)
- 第4回 ビジネスマナー③(敬語)
- 第5回 良好なコミュニケーションの取り方(1対1のコミュニケーション・傾聴)
- 第6回 ビジネスマナー④(接遇用語)
- 第7回 ビジネスマナー⑤(電話対応)
- 第8回 ビジネスマナー⑥(")
- 第9回 ビジネスマナー⑦(ビジネス文書/電子メール/キャンパスマナー)
- 第10回 自己アピール②(基本的な話し方) 自己分析(他者評価をもとにした自己評価の再考)
- 第11回 自己アピール③(就職活動時の効果的なアピール)
- 第12回 自己アピール④(自己紹介の工夫)
- 第13回 自己アピール⑤(プレゼンテーション技術)
- 第14回 課題作成(自己アピール・現状分析と今後の取り組み)
- 第15回 自己アピール⑥(プレゼンテーションの実施)・まとめ

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。

教科書

自信がつくビジネスマナー<改訂2版>

著者:

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN: 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ <c>**

担当者 小林 亮子

テーマ

社会人基礎力(コミュニケーション能力)を体得し、社会人としての準備を行う。

獲得目標

・適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキルを習得する。・社会が求めるヒューマンスキルを身につけた、問題発見解決型人材を目指す。・活動の意味づけをすることで、大学生活の価値が大きく変わることを目的とする。

授業の内容

講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得します。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力(コミュニケーション力・自己アピール力)などのヒューマンスキルを身につけることを目指します。

内 容

- 第1回 社会が求める人材とは、自己アピール①(自己紹介)
- 第2回 コミュニケーションの大切さ、ビジネスマナー①(身だしなみ)
- 第3回 ビジネスマナー②(お辞儀/挨拶/立ち居振る舞い)
- 第4回 ビジネスマナー③(敬語)
- 第5回 良好なコミュニケーションの取り方(1対1のコミュニケーション・傾聴)
- 第6回 ビジネスマナー④(接遇用語)
- 第7回 ビジネスマナー⑤(電話対応)
- 第8回 ビジネスマナー⑥(")
- 第9回 ビジネスマナー⑦(ビジネス文書/電子メール/キャンパスマナー)
- 第10回 自己アピール②(基本的な話し方) 自己分析(他者評価をもとにした自己評価の再考)
- 第11回 自己アピール③(就職活動時の効果的なアピール)
- 第12回 自己アピール④(自己紹介の工夫)
- 第13回 自己アピール⑤(プレゼンテーション技術)
- 第14回 課題作成(自己アピール・現状分析と今後の取り組み)
- 第15回 自己アピール⑥(プレゼンテーションの実施)・まとめ

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。

教科書

自信がつくビジネスマナー<改訂2版>

著者:

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN: 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ <d>**

担当者 小林 亮子

テーマ

社会人基礎力(コミュニケーション能力)を体得し、社会人としての準備を行う。

獲得目標

・適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキルを習得する。・社会が求めるヒューマンスキルを身につけた、問題発見解決型人材を目指す。・活動の意味づけをすることで、大学生活の価値が大きく変わることを目的とする。

授業の内容

講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得します。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力(コミュニケーション力・自己アピール力)などのヒューマンスキルを身につけることを目指します。

内 容

- 第1回 社会が求める人材とは、自己アピール①(自己紹介)
- 第2回 コミュニケーションの大切さ、ビジネスマナー①(身だしなみ)
- 第3回 ビジネスマナー②(お辞儀/挨拶/立ち居振る舞い)
- 第4回 ビジネスマナー③(敬語)
- 第5回 良好なコミュニケーションの取り方(1対1のコミュニケーション・傾聴)
- 第6回 ビジネスマナー④(接遇用語)
- 第7回 ビジネスマナー⑤(電話対応)
- 第8回 ビジネスマナー⑥(")
- 第9回 ビジネスマナー⑦(ビジネス文書/電子メール/キャンパスマナー)
- 第10回 自己アピール②(基本的な話し方) 自己分析(他者評価をもとにした自己評価の再考)
- 第11回 自己アピール③(就職活動時の効果的なアピール)
- 第12回 自己アピール④(自己紹介の工夫)
- 第13回 自己アピール⑤(プレゼンテーション技術)
- 第14回 課題作成(自己アピール・現状分析と今後の取り組み)
- 第15回 自己アピール⑥(プレゼンテーションの実施)・まとめ

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。

教科書

自信がつくビジネスマナー<改訂2版>

著者:

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN: 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ <e>**

担当者 梅村 みずほ

テーマ

社会人基礎力(コミュニケーション能力)を体得し、社会人としての準備を行う。

獲得目標

・適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキルを習得する。・社会が求めるヒューマンスキルを身につけた、問題発見解決型人材を目指す。・活動の意味づけをすることで、大学生活の価値が大きく変わることを目的とする。

授業の内容

講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得します。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力(コミュニケーション力・自己アピール力)などのヒューマンスキルを身につけることを目指します。

内 容

- 第1回 社会が求める人材とは、自己アピール①(自己紹介)
- 第2回 コミュニケーションの大切さ、ビジネスマナー①(身だしなみ)
- 第3回 ビジネスマナー②(お辞儀/挨拶/立ち居振る舞い)
- 第4回 ビジネスマナー③(敬語)
- 第5回 良好なコミュニケーションの取り方(1対1のコミュニケーション・傾聴)
- 第6回 ビジネスマナー④(接遇用語)
- 第7回 ビジネスマナー⑤(電話対応)
- 第8回 ビジネスマナー⑥(")
- 第9回 ビジネスマナー⑦(ビジネス文書/電子メール/キャンパスマナー)
- 第10回 自己アピール②(基本的な話し方) 自己分析(他者評価をもとにした自己評価の再考)
- 第11回 自己アピール③(就職活動時の効果的なアピール)
- 第12回 自己アピール④(自己紹介の工夫)
- 第13回 自己アピール⑤(プレゼンテーション技術)
- 第14回 課題作成(自己アピール・現状分析と今後の取り組み)
- 第15回 自己アピール⑥(プレゼンテーションの実施)・まとめ

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。

教科書

自信がつくビジネスマナー<改訂2版>

著者:

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN: 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリアコミュニケーションⅡ** <f>

担当者 梅村 みずほ

テーマ

社会人基礎力(コミュニケーション能力)を体得し、社会人としての準備を行う。

獲得目標

・適切なマナーをもとに、自信を持って自己アピールできるスキルを習得する。・社会が求めるヒューマンスキルを身につけた、問題発見解決型人材を目指す。・活動の意味づけをすることで、大学生活の価値が大きく変わることを目的とする。

授業の内容

講座では、円滑なコミュニケーションからより有益な結果が生み出されることを理解し、効果的な自己アピールの習得や基本的なビジネスマナーのスキルをベースにしたコミュニケーション能力を高めるスキルを習得します。講座形式は、座学で得た知識をもとに実習・ワークショップ・発表を中心とした構成とし、体験を通して考え抜く力、前へ踏み出す力、チームワーク力(コミュニケーション力・自己アピール力)などのヒューマンスキルを身につけることを目指します。

内 容

- 第1回 社会が求める人材とは、自己アピール①(自己紹介)
- 第2回 コミュニケーションの大切さ、ビジネスマナー①(身だしなみ)
- 第3回 ビジネスマナー②(お辞儀/挨拶/立ち居振る舞い)
- 第4回 ビジネスマナー③(敬語)
- 第5回 良好なコミュニケーションの取り方(1対1のコミュニケーション・傾聴)
- 第6回 ビジネスマナー④(接遇用語)
- 第7回 ビジネスマナー⑤(電話対応)
- 第8回 ビジネスマナー⑥(")
- 第9回 ビジネスマナー⑦(ビジネス文書/電子メール/キャンパスマナー)
- 第10回 自己アピール②(基本的な話し方) 自己分析(他者評価をもとにした自己評価の再考)
- 第11回 自己アピール③(就職活動時の効果的なアピール)
- 第12回 自己アピール④(自己紹介の工夫)
- 第13回 自己アピール⑤(プレゼンテーション技術)
- 第14回 課題作成(自己アピール・現状分析と今後の取り組み)
- 第15回 自己アピール⑥(プレゼンテーションの実施)・まとめ

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。

教科書

自信がつくビジネスマナー<改訂2版>

著者:

出版社: FOM出版

出版年:

ISBN: 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus**科目名 英語ⅡA ****担当者 中井 翔**

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 Unit 1 Eating Part 1 写真描写問題攻略法
- 第2回 Unit 2 Leisure Part 2 応答問題攻略法
- 第3回 Unit 3 Sports Part 3 会話問題攻略法
- 第4回 Unit 4 Shopping Part 4 説明文問題攻略法
- 第5回 Unit 5 Campus Life 自分で描写してみる
- 第6回 Unit 6 Travel 質問を作ってみる
- 第7回 Mid-term achievement test Part 1.2 攻略法まとめ
- 第8回 Mid-term achievement test Part 3.4 攻略法まとめ
- 第9回 Unit 7 Health 会話をしてみる
- 第10回 Unit 8 Work 説明をしてみる
- 第11回 Unit 9 Weather キーワードの捉え方
- 第12回 Unit 10 Cooking シャドーイングの練習
- 第13回 Unit 11 Parties リピーティングの練習
- 第14回 Unit 12 Movies サマライゼーションの練習
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Starting on the TOEIC TEST

著者： 安浪誠祐

出版社： 朝日出版

出版年： 2011年

ISBN: 9.78426E+12

Masrery Drills for the TOEIC TEST Vocabulary TARGET 400

著者： 武藤克彦

出版社： 桐原書店

出版年： 2011年

ISBN: 9.78434E+12

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN： 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <c>

担当者 久保田 美佳

テーマ

英語の基礎固め:基礎文法の再確認と英語音の体得。

獲得目標

英文法や基本語彙をしっかり復習すると同時に、音としての英語に触れる機会を増やす。

授業の内容

コミュニケーションのための英文法と語句を教科書とプリント等で学習し、実際に口頭練習をし定着させます。また、CDを聞いて英語の音を識別する練習をします。単語や語句のテストを随時実施します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 場所と移動を表す前置詞 Unit 13
 - 第2回 Wh-疑問文 Unit 14
 - 第3回 a, an, the/ one, ones Unit 15
 - 第4回 他動詞と自動詞 Unit 16
 - 第5回 能動態と受動態 Unit 17
 - 第6回 形容詞 Unit 18
 - 第7回 動名詞と不定詞 Unit 19
 - 第8回 Review
 - 第9回 比較級と最上級 Unit 20
 - 第10回 副詞 Unit 21
 - 第11回 従位接続詞 Unit 22
 - 第12回 関係詞 Unit 23
 - 第13回 So do I. Neither do I.などの表現 Unit 24
 - 第14回 Review
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

語彙や文法の復習とCDを聞くという習慣を定着させ、毎日少しでも英語に触れるようにすること。

教科書

English Upload

著者: Robert Hickling, Satsuki Osaki

出版社: 金星堂

出版年: 2013

ISBN: 9.78476E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (80)

授業中発表等 ()

習熟度を測るため、定期的にテストを行います。上記に、統一後期末英語テスト20%が加算されます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <d>

担当者 溝部 芳子

テーマ

Be an Active Reader!

獲得目標

前期に引き続き、様々なジャンルの興味深い英文を読みながら、主題、段落の構成などをつかむリーディングスキルの修得と更なる語彙力の向上を目的とする。

授業の内容

工夫されたタスクを手助けに、興味深い内容の英文を読んでいきます。読む前の準備、読みながら取り組むこと、読後に考えることの3つのステップを着実に踏むことにより、英文を読めた！と実感していきましょう。ペアワークではクラスメートと協力して、セルフワークでは集中力を高めて課題に取り組んでください。

内 容

- 第1回 Warm up. Review of the first semester.
 - 第2回 Unit 7: Great Structure
 - 第3回 Unit 7: Great Structure
 - 第4回 Unit 8: Language and Communication
 - 第5回 Unit 8: Language and Communication
 - 第6回 Unit 9: Festivals and Celebrations
 - 第7回 Unit 9: Festivals and Celebrations
 - 第8回 Review (3)
 - 第9回 Unit 10: Growing Up
 - 第10回 Unit 10: Growing Up
 - 第11回 Unit 11: Look into the Future
 - 第12回 Unit 11: Look into the Future
 - 第13回 Unit 12: The Power of Stories
 - 第14回 Unit 12: The Power of Stories
 - 第15回 Review (4)
-

授業以外での学習方法

授業中に指示します。

教科書

ACTIVE Skills For Reading1

著者: Neil Anderson

出版社: Cengage Learning

出版年: 3rd edition

ISBN: 9.78113E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <e>

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 映画や音楽などの娯楽 前期既習事項の復習
 - 第2回 求人広告や社内人事 Part 1 写真描写問題攻略法
 - 第3回 オフィス業務や備品など Part 2 応答問題攻略法
 - 第4回 電話やEメールなどのオフィスメッセージ Part 3 会話問題攻略法
 - 第5回 ランチやパーティなどの外食 Part 4 説明文問題攻略法
 - 第6回 コンピューターなどの科学技術 自分で描写してみる
 - 第7回 調査研究や商品開発 質問を作ってみる
 - 第8回 銀行業務や経理などの財務 会話してみる
 - 第9回 ショッピングや注文・出荷など 説明を試みる
 - 第10回 工場管理や生産ラインなどの製造 キーワードの捉え方
 - 第11回 マーケティングや販売 シャドーイングの練習
 - 第12回 交通機関や旅行関連 リピーティングの練習
 - 第13回 契約や交渉など サマライゼーションの練習
 - 第14回 住宅やビルなどの不動産 消える音
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Successful Steps for the TOEIC Test Revised Edition

著者: 塚野壽一

出版社: 成美堂

出版年: 2007年

ISBN: 9.78479E+12

A Shorter Course in TOEIC TEST IDIOMS and VOCABULARY

著者: 小池 直己

出版社: 南雲堂

出版年: 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN： 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡA** <f>

担当者 田中 美和子

テーマ

英語で自分の意見を発信できるようになる

獲得目標

総合的な英語力の養成

授業の内容

後期は前期に学習したことをふまえて、自律的に学びながら、自分の意見を発信できるようになることを目標に勉強します。目標を立てて、語彙力を身につけて、コミュニケーションに役立つ英語表現を勉強していきましょう。後期のボイのは、ボキャブラリーの強化、また英語で自分の意見を述べられるようになることです。なお、下記の授業予定は、受講生の学習状況を考慮して、調整することがあります。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 時制②(過去形・過去進行形)
- 第3回 Chapter 8 Staying in Touch
- 第4回 時制③(未来形・未来進行形)
- 第5回 Chapter 9 Pet Passports
- 第6回 時制④(現在完了形・過去完了形・未来完了形)
- 第7回 Chapter 10 Tying the knot at MacDonald
- 第8回 助動詞
- 第9回 Chapter 11 The Oscars
- 第10回 不定詞
- 第11回 Chapter 12 Unique Names
- 第12回 Chapter 13 Rackets for Champions
- 第13回 Chapter 14 Tasty Music
- 第14回 Chapter 15 Sea Rescue
- 第15回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

教科書の本文を、何度も音読しましょう。単語を覚えて、ボキャブラリーを増強しましょう。映画や音楽で、英語に触れましょう。

教科書

PRISM Book 1: Red, Second Edition

著者: Timothy Kiggel 武藤克彦

出版社: マクミランランゲージハウス

出版年: 2012

ISBN: 9.78478E+12

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 ()

参加度 (35)

小テスト (35)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <g>**

担当者 野口 博代

テーマ

英文を読む楽しさを実感しよう！

獲得目標

リーディングスキルの向上を目指すだけでなく、語彙を増やし運用できる力をつける事を目標とする。

授業の内容

様々なトピックの英文を読み、リーディングスキルを養うだけでなく、語彙を増やし強化するためのタスクを数多く行います。

内 容

第1回 Unit 7: Chapter 1
第2回 Unit 7: Chapter 2
第3回 Unit 8: Chapter 1
第4回 Unit 8: Chapter 2
第5回 Unit 9: Chapter 1
第6回 Unit 9: Chapter 2
第7回 Review Unit 3
第8回 Unit 10: Chapter 1
第9回 Unit 10: Chapter 2
第10回 Unit 11: Chapter 1
第11回 Unit 11: Chapter 2
第12回 Unit 12: Chapter 1
第13回 Unit 12: Chapter 2
第14回 Review Unit 4
第15回 Review

授業以外での学習方法

教科書

Active Skills For Reading 2

著者: Neil J Anderson

出版社: CENGAGE Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <h>

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 人物の動作・状態
 - 第2回 問題の冒頭部分と時制
 - 第3回 アナウンスのトピックと場所
 - 第4回 複数の人物の動作
 - 第5回 YES/NO疑問文に対する答え方
 - 第6回 話し手や聞き手の次の行動
 - 第7回 周辺の状態や複数の人物の動作
 - 第8回 パラフレーズに注意
 - 第9回 風景写真の細部
 - 第10回 依頼文に対する答え
 - 第11回 誘いの文に対する答え
 - 第12回 演習問題 Part 1.2
 - 第13回 演習問題 Part 3
 - 第14回 演習問題 Part 4
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Practical Tips for the TOEIC Test

著者： 杉田麻哉

出版社： 成美堂

出版年： 2010年

ISBN: 9.78479E+12

Mastery Drills for the TOEIC TEST Vocabulary TARGET 400

著者： 武藤克彦

出版社： 桐原書店

出版年： 2011年

ISBN: 9.78434E+12

新TOEIC Testレベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡA** <i>

担当者 原 俊樹

テーマ

ワン・ステップ上の英語運用能力の拡充を目指す。

獲得目標

語彙・語法・統語的かつ文法的把握力の習熟にも注意して、基本的な英文の読解・表現の演習を通して、日英双方の表現方法の違いを考えて、「感性」でなく「論理的に考え」て、実用的に使える英語・productiveな英語力を確実に会得し、英語運用能力としての4技能を充実・発展させる。グローバル化時代の英語(Englishes)を体験・体感し、英語を用いて、様々なことを的確に受信や発信をする能力を身に付ける。

授業の内容

基本的には、英語ⅠAの発展的応用をテキストに沿って行なう。英語ⅠA同様に今までの英語の知識の確認・充実に関する小テストを毎回課す予定。只単に、「単位さえ貰えば良いのだ」という姿勢ではなく、現在の自分の英語力を更に高めて、英語を通して様々な知識・世界の情勢を的確に把握し、異なる言葉、異なる意見を持つ人と対等に渡り合える実践的な英語力を身につけてください。少なくとも、大学生としての英語運用能力を確実に自分のものにするを目指してください。

内 容

- 第1回 (一応の目安ですが、各回の「重要ポイント」として考えてください) 受講生への留意事項・前期の文法・語法事項の確認テスト
- 第2回 フォニクス(単語と発音)・Top Down Readingの説明
- 第3回 動名詞と用法
- 第4回 名詞と冠詞
- 第5回 代名詞
- 第6回 形容詞・副詞
- 第7回 前置詞
- 第8回 接続詞・重文・複文
- 第9回 疑問詞・疑問語句
- 第10回 関係詞; 関係代名詞と関係副詞
- 第11回 比較; 構文と形式
- 第12回 否定表現
- 第13回 省略・同格
- 第14回 後期／一年間の文法・語法の総整理
- 第15回 個々の英語学習法の確認と確立
- 第16回 期末試験

授業以外での学習方法

テキストや基本的な課題に対する予習・復習をこなすだけでなく、様々な機会を通して、英語に接する時間を多く持つこと。第2言語として英語を駆使する気構えを持って、授業に臨めるような学習方法を確立してください。書かれたものをしっかり読むことも大切です。

教科書

“SNOOPY'S World of English(スヌーピーと覚える日常表現)”(英語ⅠA／ⅡAで使用)

著者: Hidehiko Konaka(小中秀彦)編著

出版社: Asahi Press(朝日出版社)

出版年: 2007 ¥1700E

ISBN:

参考書

高校時代に使用した文法参考書・問題集・教科書等を利用して基礎力の強化をする。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

中辞典以上の英和・和英・英々辞典(電子辞書は不可)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (35)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

上記に加えて後期末英語テスト20%

小テスト (15)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <j>

担当者 弥永 啓子

テーマ

社会に出て必要となる最低限の英語力を身につける。

獲得目標

・典型的なビジネス・シーンの会話を理解することができる。・典型的なビジネス・シーンで必要となる語彙・表現を身につける。・カジュアルなメールのやり取りを和訳することなく理解することができる。・英語らしい音声で、英語を声に出して読むことができるようになる。・発信に必要な基礎的文法項目を完璧に理解する。

授業の内容

英語力が必須の企業で働くタカシの日常生活で生じた会話のリスニングやメールの読解を通して、受容レベルでの英語力向上を目指します。同時に、基礎文法の総復習、就職後役に立つ語彙・表現の学習、音読練習を通して、発信力の基礎を固めます。

内 容

- 第1回 会議の準備(指示と確認)
 - 第2回 会議準備に関するメール、現在完了形
 - 第3回 オフィス案内(説明・感謝)
 - 第4回 オフィス案内に関するメール、受動態
 - 第5回 会議(比較、詳細の質問)
 - 第6回 会議に関するメール、比較
 - 第7回 ホテルへのチェックイン(依頼、希望)
 - 第8回 ホテル宿泊に関するメール、助動詞
 - 第9回 同僚との会話(勧誘、質問)
 - 第10回 勧誘のメール、動名詞
 - 第11回 世間話(経験、予定)
 - 第12回 旅行前のメール、to 不定詞
 - 第13回 将来の夢(計画、理由)
 - 第14回 将来に関するメール、接続詞
 - 第15回 総復習とまとめ
-

授業以外での学習方法

オンラインで行う予習・復習を必須とします。

教科書

Let's Read Aloud & Learn English (前期から継続使用)

著者: Teruhiko Kadoyama, Simon Capper

出版社: Seibido

出版年: 2012

ISBN: 9.78479E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <k>**

担当者 小川 享子

テーマ

TOEICテスト準備を介して実用的な英語力を養う。

獲得目標

TOEICテストにおけるリスニング力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

TOEICテストのリスニングは、短文写真描写、会話、ニュース、お知らせ、宣伝などの英語から構成されている。それら英語が使われている状況も、日常的なものからビジネス、旅行など様々である。したがって、この授業では、英語を聞く前に、まずシチュエーションごとの単語の学習をしてからリスニングに取り組む。リスニングはTOEICテストの形式で組まれた演習を行い、聞いた後は、スクリプトに目を通し、語彙の確認を行う。

内 容

- 第1回 Unit 1 Departure / Arrival の演習、確認 Unit 2 Homestay, pre-listening word study
- 第2回 Unit 2 単語テスト/リスニング Unit 3 Telephone, pre-listening word study
- 第3回 Unit 3 単語テスト/リスニング Unit 4 Shopping, pre-listening word study
- 第4回 Unit 4 単語テスト/リスニング Unit 5 Getting around, pre-listening word study
- 第5回 Unit 5 単語テスト/リスニング Unit 6 Eating out, pre-listening word study
- 第6回 Unit 6 単語テスト/リスニング Unit 7 Parties and Celebrations, pre-listening word study
- 第7回 Unit 7 単語テスト/リスニング Unit 8 Hotel, pre-listening word study
- 第8回 Unit 8 単語テスト/リスニング Unit 9 Sightseeing, pre-listening word study
- 第9回 Unit 9 単語テスト/リスニング Unit 10 Staying Healthy, pre-listening word study
- 第10回 Unit 10 単語テスト/リスニング Unit 11 Housing, pre-listening word study
- 第11回 Unit 11 単語テスト/リスニング Unit 12 Studying abroad, pre-listening word study
- 第12回 unit 12の単語テスト/リスニング 模擬テスト演習
- 第13回 模擬テスト演習
- 第14回 映画のシナリオに学ぶ英語
- 第15回 映画のシナリオに学ぶ英語

授業以外での学習方法

語彙の学習、リスニングを家で行う

教科書

Journey to Success: Departing for a Higher Score on the TOEIC Test

著者： 倉田誠、Todd Thorpe、三村仁彦

出版社： Pearson Longman

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (15)

小テスト (45)

授業中発表等 ()

aks201a321

上記に加えて後期末英語テスト(TOEIC) 20% 小テストは各章の単語テスト、授業中課題には各章のリスニングの成績が入る

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <I>

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第11回 誘いの文に対する答え
 - 第12回 演習問題 Part 1.2
 - 第13回 演習問題 Part 3
 - 第14回 演習問題 Part 4
 - 第15回 総復習
 - 第1回 人物の動作・状態
 - 第2回 問題の冒頭部分と時制
 - 第3回 アナウンスのトピックと場所
 - 第4回 複数の人物の動作
 - 第5回 YES/NO疑問文に対する答え方
 - 第6回 話し手や聞き手の次の行動
 - 第7回 周辺の状態や複数の人物の動作
 - 第8回 パラフレーズに注意
 - 第9回 風景写真の細部
 - 第10回 依頼文に対する答え
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Practical Tips for the TOEIC Test

著者： 杉田麻哉

出版社： 成美堂

出版年： 2010年

ISBN: 9.78479E+12

Mastery Drills for the TOEIC TEST Vocabulary TARGET 400

著者： 武藤克彦

出版社： 桐原書店

出版年： 2011年

ISBN: 9.78434E+12

新TOEIC Testレベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN： 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験（30）

小テスト（20）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <m>**

担当者 **ビショップ マイケル**

テーマ

This English course teaches clear expression of thoughts.

獲得目標

This course follows the format of the previous semester, students are guided through the process of writing clear paragraphs. They learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of paragraphs. At the end of the course students will be able to see how paragraphs work together to make short essays.

授業の内容

This course will be taught in English. Students will need to do pair and group work in order to express themselves in English. They will also be required to produce paragraph writing during class time and for homework.

内 容

- 第1回 Reviw of previous semister topics
 - 第2回 Examples
 - 第3回 Examples
 - 第4回 Definitions
 - 第5回 Definitions
 - 第6回 Information gap activity and grammar review
 - 第7回 Classification
 - 第8回 Classification
 - 第9回 Comparison and Contrast
 - 第10回 Comparison and Contrast
 - 第11回 Review of units 1 to 10
 - 第12回 Information gap activity and grammar review
 - 第13回 From a Paragraph to a Short Essay
 - 第14回 From a Paragraph to a Short Essay
 - 第15回 Short class essay: The Relevance of Paragraph Writing.
-

授業以外での学習方法

Students will need to attend regularly, be on time, and to submit homework on time. Students should bring a good dictionary to each class. Students are expected to read widely in both Japanese and English as a part of their university education. Self-stud

教科書

Get Your Message Across: Writing Cummunicative Paragraphs

著者: Hisataka Jimbo et al

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2012/3/14

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験 (35)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (5)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <n>

担当者 溝部 芳子

テーマ

Be an Active Reader!

獲得目標

前期に引き続き、様々なジャンルの興味深い英文を読みながら、主題、段落の構成などをつかむリーディングスキルの修得と更なる語彙力の向上を目的とする。

授業の内容

工夫されたタスクを手助けに、興味深い内容の英文を読んでいきます。読む前の準備、読みながら取り組むこと、読後に考えることの3つのステップを着実に踏むことにより、英文を読めた！と実感していきましょう。ペアワークではクラスメートと協力して、セルフワークでは集中力を高めて課題に取り組んでください。

内 容

- 第1回 Warm up. Review of the first semester.
 - 第2回 Unit 7: Great Structure
 - 第3回 Unit 7: Great Structure
 - 第4回 Unit 8: Language and Communication
 - 第5回 Unit 8: Language and Communication
 - 第6回 Unit 9: Festivals and Celebrations
 - 第7回 Unit 9: Festivals and Celebrations
 - 第8回 Review (3)
 - 第9回 Unit 10: Growing Up
 - 第10回 Unit 10: Growing Up
 - 第11回 Unit 11: Look into the Future
 - 第12回 Unit 11: Look into the Future
 - 第13回 Unit 12: The Power of Stories
 - 第14回 Unit 12: The Power of Stories
 - 第15回 Review (4)
-

授業以外での学習方法

授業中に指示します。

教科書

ACTIVE Skills For Reading1

著者: Neil Anderson

出版社: Cengage Learning

出版年: 3rd edition

ISBN: 9.78113E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <○>

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 人物の動作・状態
 - 第2回 問題の冒頭部分と時制
 - 第3回 アナウンスのトピックと場所
 - 第4回 複数の人物の動作
 - 第5回 YES/NO疑問文に対する答え方
 - 第6回 話し手や聞き手の次の行動
 - 第7回 周辺状況や複数の人物の動作
 - 第8回 パラフレーズに注意
 - 第9回 風景写真の細部
 - 第10回 依頼文に対する答え
 - 第11回 誘いの文に対する答え
 - 第12回 演習問題 Part 1.2
 - 第13回 演習問題 Part 3
 - 第14回 演習問題 Part 4
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Practical Tips for the TOEIC Test

著者： 杉田麻哉

出版社： 成美堂

出版年： 2010年

ISBN: 9.78479E+12

Mastery Drills for the TOEIC TEST Vocabulary TARGET 400

著者： 武藤克彦

出版社： 桐原書店

出版年： 2011年

ISBN: 9.78434E+12

新TOEIC Testレベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN： 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験（30）

小テスト（20）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <q>

担当者 久保田 美佳

テーマ

英語の基礎固め:基礎文法の再確認と英語音の体得。

獲得目標

英文法や基本語彙をしっかり復習すると同時に、音としての英語に触れる機会を増やす。

授業の内容

コミュニケーションのための英文法と語句を教科書とプリント等で学習し、実際に口頭練習をし定着させます。また、CDを聞いて英語の音を識別する練習をします。単語や語句のテストを随時実施します。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 場所と移動を表す前置詞 Unit 13
 - 第2回 Wh-疑問文 Unit 14
 - 第3回 a, an, the/ one, ones Unit 15
 - 第4回 他動詞と自動詞 Unit 16
 - 第5回 能動態と受動態 Unit 17
 - 第6回 形容詞 Unit 18
 - 第7回 動名詞と不定詞 Unit 19
 - 第8回 Review
 - 第9回 比較級と最上級 Unit 20
 - 第10回 副詞 Unit 21
 - 第11回 従位接続詞 Unit 22
 - 第12回 関係詞 Unit 23
 - 第13回 So do I. Neither do I.などの表現 Unit 24
 - 第14回 Review
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

語彙や文法の復習とCDを聞くという習慣を定着させ、毎日少しでも英語に触れるようにすること。

教科書

English Upload

著者: Robert Hickling, Satsuki Osaki

出版社: 金星堂

出版年: 2013

ISBN: 9.78476E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (80)

授業中発表等 ()

習熟度を測るため、定期的にテストを行います。上記に、統一後期末英語テスト20%が加算されます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <r>

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 映画や音楽などの娯楽 前期既習事項の復習
 - 第2回 求人広告や社内人事 Part 1 写真描写問題攻略法
 - 第3回 オフィス業務や備品など Part 2 応答問題攻略法
 - 第4回 電話やEメールなどのオフィスメッセージ Part 3 会話問題攻略法
 - 第5回 ランチやパーティなどの外食 Part 4 説明文問題攻略法
 - 第6回 コンピューターなどの科学技術 自分で描写してみる
 - 第7回 調査研究や商品開発 質問を作ってみる
 - 第8回 銀行業務や経理などの財務 会話してみる
 - 第9回 ショッピングや注文・出荷など 説明をしてみる
 - 第10回 工場管理や生産ラインなどの製造 キーワードの捉え方
 - 第11回 マーケティングや販売 シャドーイングの練習
 - 第12回 交通機関や旅行関連 リピーティングの練習
 - 第13回 契約や交渉など サマライゼーションの練習
 - 第14回 住宅やビルなどの不動産 消える音
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Successful Steps for the TOEIC Test Revised Edition

著者: 塚野壽一

出版社: 成美堂

出版年: 2007年

ISBN: 9.78479E+12

A Shorter Course in TOEIC TEST IDIOMS and VOCABULARY

著者: 小池 直己

出版社: 南雲堂

出版年: 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡA<s>**

担当者 野口 博代

テーマ

英文を読む楽しさを実感しよう！

獲得目標

リーディングスキルの向上を目指すだけでなく、語彙を増やし運用できる力をつける事を目標とする。

授業の内容

様々なトピックの英文を読み、リーディングスキルを養うだけでなく、語彙を増やし強化するためのタスクを数多く行います。

内 容

- 第1回 Unit 7: Chapter 1
 - 第2回 Unit 7: Chapter 2
 - 第3回 Unit 8: Chapter 1
 - 第4回 Unit 8: Chapter 2
 - 第5回 Unit 9: Chapter 1
 - 第6回 Unit 9: Chapter 2
 - 第7回 Review Unit 3
 - 第8回 Unit 10: Chapter 1
 - 第9回 Unit 10: Chapter 2
 - 第10回 Unit 11: Chapter 1
 - 第11回 Unit 11: Chapter 2
 - 第12回 Unit 12: Chapter 1
 - 第13回 Unit 12: Chapter 2
 - 第14回 Review Unit 4
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

教科書

Active Skills For Reading 2

著者: Neil J Anderson

出版社: CENGAGE Learning

出版年: 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <t>

担当者 田中 美和子

テーマ

英語で自分の意見を発信できるようになる

獲得目標

総合的な英語力の養成

授業の内容

後期は前期に学習したことをふまえて、自律的に学びながら、自分の意見を発信できるようになることを目標に勉強します。目標を立てて、語彙力を身につけて、コミュニケーションに役立つ英語表現を勉強していきましょう。後期のボイのは、ボキャブラリーの強化、また英語で自分の意見を述べられるようになることです。なお、下記の授業予定は、受講生の学習状況を考慮して、調整することがあります。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 時制②(過去形・過去進行形)
- 第3回 Chapter 8 Stayint in Touch
- 第4回 時制③(未来形・未来進行形)
- 第5回 Chapter 9 Pet Passports
- 第6回 時制④(現在完了・過去完了・未来完了)
- 第7回 Chapter 10 Tying the Knot at McDonald
- 第8回 助動詞
- 第9回 Chapter 11 The Oscars
- 第10回 不定詞
- 第11回 Chapter 12 Unique Names
- 第12回 Chapter 13 Rackets for Champmpions
- 第13回 Chapter 14 Tasty Music
- 第14回 Chapter 15 Sear Rescue
- 第15回 まとめと理解度調査

授業以外での学習方法

教科書

PRIZM Book1: Red, Second Edition

著者: Timothy Kiggell、武藤克彦

出版社: マクミランランゲージハウス

出版年: 2012

ISBN: 9.78478E+12

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 ()

参加度 (35)

小テスト (35)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <u>**

担当者 原 俊樹

テーマ

ワン・ステップ上の英語運用能力の拡充を目指す。

獲得目標

語彙・語法・統語的かつ文法的把握力の習熟にも注意して、基本的な英文の読解・表現の演習を通して、日英双方の表現方法の違いを考えて、「感性」でなく「論理的に考え」て、実用的に使える英語・productiveな英語力を確実に会得し、英語運用能力としての4技能を充実・発展させる。グローバル化時代の英語(Englishes)を体験・体感し、英語を用いて、様々なことを的確に受信や発信をする能力を身に付ける。

授業の内容

基本的には、英語ⅠAの発展的応用をテキストに沿って行なう。英語ⅠA同様に今までの英語の知識の確認・充実に関する小テストを毎回課す予定。只単に、「単位さえ貰えれば良いのだ」という姿勢ではなく、現在の自分の英語力を更に高めて、英語を通して様々な知識・世界の情勢を的確に把握し、異なる言葉、異なる意見を持つ人と対等に渡り合える実践的な英語力を身につけてください。少なくとも、大学生としての英語運用能力を確実に自分のものにすることを目指してください。

内 容

- 第1回 (一応の目安ですが、各回の「重要ポイント」として考えてください) 受講生への留意事項・前期の文法・語法事項の確認テスト
- 第2回 フォニクス(単語と発音)・Top Down Readingの説明
- 第3回 動名詞と用法
- 第4回 名詞と冠詞
- 第5回 代名詞
- 第6回 形容詞・副詞
- 第7回 前置詞
- 第8回 接続詞・重文・複文
- 第9回 疑問詞・疑問語句
- 第10回 関係詞; 関係代名詞と関係副詞
- 第11回 比較; 構文と形式
- 第12回 否定表現
- 第13回 省略・同格
- 第14回 後期／一年間の文法・語法の総整理
- 第15回 個々の英語学習法の確認と確立
- 第16回 期末試験

授業以外での学習方法

テキストや基本的な課題に対する予習・復習をこなすだけでなく、様々な機会を通して、英語に接する時間を多く持つこと。第2言語として英語を駆使する気構えを持って、授業に臨めるような学習方法を確立してください。書かれたものをしっかり読むことも大切です。

教科書

“SNOOPY'S World of English(スヌーピーと覚える日常表現)”(英語ⅠA／ⅡAで使用)

著者: Hidehiko Konaka(小中秀彦)編著

出版社: Asahi Press(朝日出版社)

出版年: 2007 ¥1700E

ISBN:

参考書

高校時代に使用した文法参考書・問題集・教科書等を利用して基礎力の強化をする。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

中辞典以上の英和・和英・英々辞典(電子辞書は不可)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (35)

授業中課題 (10)

参加度 (10)

上記に加えて後期末英語テスト20%

小テスト (15)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <v>

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進捗等を調整することがある。

内 容

- 第1回 Unit 1 Eating Part 1 写真描写問題攻略法
 - 第2回 Unit 2 Leisure Part 2 応答問題攻略法
 - 第3回 Unit 3 Sports Part 3 会話問題攻略法
 - 第4回 Unit 4 Shopping Part 4 説明文問題攻略法
 - 第5回 Unit 5 Campus Life 自分で描写してみる
 - 第6回 Unit 6 Travel 質問を作ってみる
 - 第7回 Mid-term achievement test Part 1.2 攻略法まとめ
 - 第8回 Mid-term achievement test Part 3.4 攻略法まとめ
 - 第9回 Unit 7 Health 会話をしてみる
 - 第10回 Unit 8 Work 説明をしてみる
 - 第11回 Unit 9 Weather キーワードの捉え方
 - 第12回 Unit 10 Cooking シャドーイングの練習
 - 第13回 Unit 11 Parties リピーティングの練習
 - 第14回 Unit 12 Movies サマライゼーションの練習
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Starting on the TOEIC TEST

著者： 安浪誠祐

出版社： 朝日出版

出版年： 2011年

ISBN: 9.78426E+12

Masrery Drills for the TOEIC TEST Vocabulary TARGET 400

著者： 武藤克彦

出版社： 桐原書店

出版年： 2011年

ISBN: 9.78434E+12

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN： 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <w>

担当者 ビショップ マイケル

テーマ

This English course teaches clear expression of thoughts.

獲得目標

This course follows the format of the previous semester, students are guided through the process of writing clear paragraphs. They learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of paragraphs. At the end of the course students will be able to see how paragraphs work together to make short essays.

授業の内容

This course will be taught in English. Students will need to do pair and group work in order to express themselves in English. They will also be required to produce paragraph writing during class time and for homework.

内 容

- 第1回 Reviw of previous semister topics
 - 第2回 Examples
 - 第3回 Examples
 - 第4回 Definitions
 - 第5回 Definitions
 - 第6回 Information gap activity and grammar review
 - 第7回 Classification
 - 第8回 Classification
 - 第9回 Comparison and Contrast
 - 第10回 Comparison and Contrast
 - 第11回 Review of units 1 to 10
 - 第12回 Information gap activity and grammar review
 - 第13回 From a Paragraph to a Short Essay
 - 第14回 From a Paragraph to a Short Essay
 - 第15回 Short class essay: The Relevance of Paragraph Writing.
-

授業以外での学習方法

Students will need to attend regularly, be on time, and to submit homework on time. Students should bring a good dictionary to each class. Students are expected to read widely in both Japanese and English as a part of their university education. Self-stud

教科書

Get Your Message Across: Writing Cummunicative Paragraphs

著者: Hisataka Jimbo et al

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2012/3/14

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験 (35)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (5)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <x>

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語適用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 各パート攻略法の確認 前期での既習事項の復習
 - 第2回 日常生活 Part 1 写真描写問題 攻略法
 - 第3回 場所の描写 Part 2 応答問題攻略法
 - 第4回 人々の描写 Part 3 会話問題攻略法
 - 第5回 旅行で使う表現 Part 4 説明文問題攻略法
 - 第6回 ビジネスで使う表現 自分で描写してみる
 - 第7回 オフィスにて 質問を作ってみる
 - 第8回 テクノロジー関連表現 会話をしてみる
 - 第9回 人事・管理の表現 説明をしてみる
 - 第10回 物資購入 キーワードの捉え方
 - 第11回 財務関連表現 シャドーイングの練習
 - 第12回 メディア関連用語 リピーティングの練習
 - 第13回 娯楽関連表現 サマライゼーションの練習
 - 第14回 健康関連表現 消える音
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Successful Keys to the TOEIC TEST 3 Second Edition

著者: 水本篤

出版社: 桐原書店

出版年: 2010年

ISBN: 9.78434E+12

A Shorter Course in TOEIC TEST IDIOMS and VOCABULARY

著者: 小池 直己

出版社: 南雲堂

出版年: 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20% 上記に加えTOEIC20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <y>

担当者 山崎 清水

テーマ

総合的な英語運用能力を習得

獲得目標

平易な文章で書かれた英文を読んで英語力の向上を目指す。

授業の内容

身近なトピックの英文を読んで、四技能向上の演習を行う。

内 容

- 第1回 Are Japanese Sweets Healthier?
 - 第2回 What Are Those Annoying Boxes on Japanese TV?
 - 第3回 Why Don't Japanese Men Give Presents on St. Valentine's Day?
 - 第4回 Why Are There Holes in Japanese Coins?
 - 第5回 Why Do Japanese Schoolchildren Take Trips to Parks?
 - 第6回 Why Are Japan's Manholes so Pretty?
 - 第7回 Why Do Japanese Put Sticks in Their Ears?
 - 第8回 Why Do Japanese Students Still Read Aloud?
 - 第9回 Why Do Japanese Put Money in Envelopes?
 - 第10回 Why Do Japanese Bridges Have Names?
 - 第11回 Why Don't Japanese Parents Praise Their Children?
 - 第12回 How Are Those Stones Walls Built?
 - 第13回 Why Do Japanese Bang Sticks at Night?
 - 第14回 Why Are Good Students Bullied?
 - 第15回 Why Do Women Get Better Prices?
-

授業以外での学習方法

教科書

Surprising Japan!

著者: Alice Gordenker / John Rucynski

出版社: 松柏社

出版年: 2013

ISBN: 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡA <z>**

担当者 小川 享子

テーマ

TOEICテスト準備を介して実用的な英語力を養う。

獲得目標

TOEICテストにおけるリスニング力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

TOEICテストのリスニングは、短文写真描写、会話、ニュース、お知らせ、宣伝などの英語から構成されている。それら英語が使われている状況も、日常的なものからビジネス、旅行など様々である。したがって、この授業では、英語を聞く前に、まずシチュエーションごとの単語の学習をしてからリスニングに取り組む。リスニングはTOEICテストの形式で組まれた演習を行い、聞いた後は、スクリプトに目を通し、語彙の確認を行う

内 容

- 第1回 Unit 1 Departure / Arrival の単語テスト・リスニング Unit 2 Homestay, pre-listening word study
- 第2回 Unit 2の単語テスト・リスニング Unit 3 Telephone, pre-listening word study
- 第3回 Unit 3の単語テスト・リスニング Unit 4 Shopping, pre-listening word study
- 第4回 Unit 4の単語テスト・リスニング Unit 5 Getting around, pre-listening word study
- 第5回 Unit 5の単語テスト・リスニング Unit 6 Eating out, pre-listening word study
- 第6回 Unit 6の単語テスト・リスニング Unit 7 Parties and Celebrations, pre-listening word study
- 第7回 Unit 7の単語テスト・リスニング Unit 8 Hotel, pre-listening word study
- 第8回 Unit 8の単語テスト・リスニング Unit 9 Sightseeing, pre-listening word study
- 第9回 Unit 9の単語テスト・リスニング Unit 10 Staying healthy, pre-listening word study
- 第10回 Unit 10の単語テスト・リスニング Unit 11 Housing, pre-listening word study
- 第11回 Unit 11の単語テスト・リスニング Unit 12 Studying abroad, pre-listening word study
- 第12回 unit 12の単語テスト・リスニング 模擬テスト演習
- 第13回 模擬テスト演習
- 第14回 映画のシナリオで学ぶ英語
- 第15回 映画のシナリオで学ぶ英語

授業以外での学習方法

家で語彙復習、リスニングを行う

教科書

Journey to Success: Departing for a higher score on the TOEIC Test

著者： 倉田誠、Todd Thorpe, 三村仁彦

出版社： Pearson Longman

出版年： 2009

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (15)

小テスト (45)

授業中発表等 ()

aks201a336

上記に加えて後期末英語テスト(TOEIC) 20% 小テストには各章の単語テスト、授業中課題には各章のリスニングの成績が含まれる

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡA〈Pa〉**

担当者 田中 美和子

テーマ

総合的な読解スキルの体系的な学習

獲得目標

本授業の目的は、簡潔にまとめられた平明な英文を読み、よく理解することのできる能力の開発と思考力を養うことです。さらに、コミュニケーション能力を高めることも目標とします。

授業の内容

1. 主題別にディスカッションをして、英語リーディングを行う 2. 基礎英文法の応用 3. 様々な読解スキルを習得して、パラグラフ・リーディングをする 4. 語彙力の向上

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 分詞構文
- 第3回 Chapter8 Chocolate Wall of China
- 第4回 関係代名詞と関係副詞
- 第5回 Chapter9 Deadly Diseases
- 第6回 複合関係詞
- 第7回 Chapter10 Culture Vulture
- 第8回 同格
- 第9回 Chapter11 Spicy Recipes
- 第10回 背景知識から単語の意味を推測する
- 第11回 Chapter12 Scary Story
- 第12回 Chapter13 Blue Sky Thinking
- 第13回 Chapter14 Brain Workout
- 第14回 Chapter15 Fast or Fuel-efficient?
- 第15回 理解度調査とまとめ

授業以外での学習方法

授業以外でも、いろんな英文にふれ、読んでみましょう。

教科書

PRIZM Book4: Indigo, Second Edition

著者: Timothy Kiggell, 武藤克彦

出版社: マクミランランゲージハウス

出版年: 2012

ISBN: 9.78478E+12

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 ()

参加度 (35)

小テスト (35)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA <Pb>

担当者 山崎 清水

テーマ

総合的な英語運用能力を習得

獲得目標

平易な文章で書かれた英文を読んで英語力の向上を目指す。

授業の内容

身近なトピックの英文を読んで、四技能向上の演習を行う。

内 容

- 第1回 Are Japanese Sweets Healthier?
 - 第2回 What Are Those Annoying Boxes on Japanese TV?
 - 第3回 Why Don't Japanese Men Give Presents on St. Valentine's Day?
 - 第4回 Why Are There Holes in Japanese Coins?
 - 第5回 Why Do Japanese Schoolchildren Take Trips to Parks?
 - 第6回 Why Are Japan's Manholes so Pretty?
 - 第7回 Why Do Japanese Put Sticks in Their Ears?
 - 第8回 Why Do Japanese Students Still Read Aloud?
 - 第9回 Why Do Japanese Put Money in Envelopes?
 - 第10回 Why Do Japanese Bridges Have Names?
 - 第11回 Why Don't Japanese Parents Praise Their Children?
 - 第12回 How Are Those Stones Walls Built?
 - 第13回 Why Do Japanese Bang Sticks at Night?
 - 第14回 Why Are Good Students Bullied?
 - 第15回 Why Do Women Get Better Prices?
-

授業以外での学習方法

教科書

Surprising Japan!

著者: Alice Gordenker / John Rucynski

出版社: 松柏社

出版年: 2013

ISBN: 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡA〈R〉

担当者 杉山 泰

テーマ

コミュニケーションのための基礎英文法

獲得目標

「おれのおごりだよ」をThis is on me.とか「割り勘で行こう」をLet's go Dutch.ととっさには言えない。中学英語であるのに、よく使う英語表現がなかなか口をついて出てこない。こうした日常の英語が口から出てくるように工夫されたテキストを用いて、基礎英文法を学びたい。

授業の内容

毎回教科書をUnit 1ずつやっていく。辞書を持参して、作業してもらおう。英語で何とか日本文化を伝えたい、という気持ちがあれば、実は中学英語で十分役に立つ。中学・高校の復習だが、ひと味違う授業を展開してみたい。

内 容

- 第1回 自己紹介。Unit 1 会話の英語(1) (出会いの英語＝挨拶の英語、質問文、命令文)
- 第2回 Unit 2 会話の英語(2) (シンプルで一語表現、控えめな表現、会話独特の表現＝Thank youとsorry)
- 第3回 Unit 3 語句や文をつなぐ＝接続詞 (andとbutの論理、文と文とをいかに論理的につなぐのか)
- 第4回 Unit 4 過去を語る英語＝時制 (過去形と現在完了形の違い)
- 第5回 Unit 5 これからのことを語る＝未来形 (助動詞の使い方と現在進行形)
- 第6回 Unit 6 自分を語る英語 (喜怒哀楽を示し、自己を主張する英語)
- 第7回 Unit 7 人を動かす英語 (命令文、使役動詞、助動詞)
- 第8回 Unit 8 人の言葉を伝える英語 (伝達動詞＝sayと語法)
- 第9回 Unit 9 数量を表す英語 (数える名詞、数えない名詞、数学に使われる英語)
- 第10回 Unit 10 位置・移動を表す英語 (前置詞の役割)
- 第11回 Unit 11 気持ち・形状を表す英語 (比較表現、最上級表現)
- 第12回 Unit 12 動きのある英語 (現在進行形、動詞の使い方)
- 第13回 Unit 13 英語の「は」と「が」 (a＝未知とthe＝既知の使い方)
- 第14回 Unit 14 話の流れと語順 (語順が大事な英語、受身表現)
- 第15回 Unit 15 情報を詰め込む (名詞中心構文、後から修飾できる英語)

授業以外での学習方法

NHKラジオの「基礎英語」の利用を勧める。また、日常的に車や煙草、商品に書いてある英語の収集をしてもらい、正しい英語かどうかチェックしてもらう。

教科書

伝えるための英文法・英作文

著者： 鳥飼慎一郎

出版社： 朝日出版社

出版年： 2012年

ISBN:

参考書

日本語を「外」から見る

著者： 佐々木瑞枝

出版社： 小学館新書

出版年： 2009年

ISBN:

(続)日本人の英語

著者: マーク・ピーターセン

出版社: 岩波新書

出版年: 1990年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

病気などで出席できなかった学生は、自宅学習をして必ずその時のプリントを提出する。提出すれば、遅れの出席として、評価の対象とするので、15回の提出物だけは必ず提出すること。上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <a>

担当者 松村 優子

テーマ

英文読解、語彙・表現の修得

獲得目標

Readingを中心に据えて、本文の内容理解力、トピック関連語彙・表現力を高めることを目指す。

授業の内容

毎回、英文記事の読解・リスニングを通して、内容を確認し、構文・表現を学習する。発表形式も採り入れる。下記の計画は予定であり、授業の進捗状況や受講生の希望により順序など変更することもある。

内 容

- 第1回 Introduction
 - 第2回 Unit 7 A World of Music
 - 第3回 Unit 7 A World of Music
 - 第4回 Unit 8 Career Paths
 - 第5回 Unit 8 Career Paths
 - 第6回 Unit 9 The Story of Chocolate
 - 第7回 Unit 9 The Story of Chocolate
 - 第8回 Unit 10 The Secrets of Advertising
 - 第9回 Unit 10 The Secrets of Advertising
 - 第10回 Unit 11 Food and the Environment
 - 第11回 Unit 11 Food and the Environment
 - 第12回 Unit 12 Living for the Future
 - 第13回 Unit 12 Living for the Future
 - 第14回 まとめ・復習テスト
 - 第15回 まとめ・復習テスト
-

授業以外での学習方法

指定箇所の予習・復習

教科書

Active Skills for Reading 2 Third Edition

著者: Anderson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (5)

参加度 (10)

小テスト (50)

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 Unit 1 Eating Part 5 短文穴埋め問題攻略法
 - 第2回 Unit 2 Leisure Part 6 長文穴埋め問題攻略法
 - 第3回 Unit 3 Sports Part 7 読解問題(1つの文書)攻略法
 - 第4回 Unit 4 Shopping Part 7 読解問題(2つの文書)攻略法
 - 第5回 Unit 5 Campus Life Part 5 文法・読解問題
 - 第6回 Unit 6 Travel Part 6 論理の展開
 - 第7回 Mid-term achievement test Part 5.6 攻略法まとめ
 - 第8回 Mid-term achievement test Part 7 攻略法まとめ
 - 第9回 Unit 7 Health スキミングの方法
 - 第10回 Unit 8 Work スキャニングの方法
 - 第11回 Unit 9 Weather 設問の先読み
 - 第12回 Unit 10 Cooking リテリングの練習
 - 第13回 Unit 11 Parties 単語の覚え方
 - 第14回 Unit 12 Movies 速読の練習
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Starting on the TOEIC TEST

著者: 安浪 誠祐

出版社: 朝日出版

出版年: 2011年

ISBN: 9.78426E+12

Masrery Drills for the TOEIC TEST Vocabulary TARGET 400

著者: 武藤克彦

出版社: 桐原書店

出版年: 2011年

ISBN: 9.78434E+12

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡB<c>**

担当者 スミス ジョン

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

獲得目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の内容

This course will be taught in English. There are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

内 容

- 第1回 Summer vacation news
 - 第2回 Occupations
 - 第3回 Skills and abilities
 - 第4回 Halloween and superstitions
 - 第5回 Entertainment
 - 第6回 Invitations
 - 第7回 Future plans and activities
 - 第8回 Clothing and personal items
 - 第9回 Shopping experiences and preferences
 - 第10回 Food and cooking lifestyles
 - 第11回 Imperatives
 - 第12回 Music
 - 第13回 Christmas around the world
 - 第14回 New Year world culture
 - 第15回 Future plans and course review
-

授業以外での学習方法

教科書

English Firsthand 1

著者: Marc Helgesen, Steven Brown

出版社: Pearson Longman

出版年: 2010

ISBN: 978-988-00-3059

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

aks201a453

上記に加えて前期末英語テスト20% The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <d>**

担当者 ビショップ マイケル

テーマ

This English course teaches clear expression of thoughts.

獲得目標

This course follows the format of the previous semester, students are guided through the process of writing clear paragraphs. They learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of paragraphs. At the end of the course students will be able to see how paragraphs work together to make short essays.

授業の内容

This course will be taught in English. Students will need to do pair and group work in order to express themselves in English. They will also be required to produce paragraph writing during class time and for homework.

内 容

- 第2回 Examples
 - 第3回 Examples
 - 第4回 Definitions
 - 第5回 Definitions
 - 第6回 Information gap activity and grammar review
 - 第7回 Classification
 - 第8回 Classification
 - 第9回 Comparison and Contrast
 - 第10回 Comparison and Contrast
 - 第11回 Review of units 1 to 10
 - 第12回 Information gap activity and grammar review
 - 第13回 From a Paragraph to a Short Essay
 - 第14回 From a Paragraph to a Short Essay
 - 第15回 Short class essay: The Relevance of Paragraph Writing.
 - 第1回 Review of previous semester topics
-

授業以外での学習方法

Students will need to attend regularly, be on time, and to submit homework on time. Students should bring a good dictionary to each class. Students are expected to read widely in both Japanese and English as a part of their university education. Self-stud

教科書

Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraphs

著者: Hisataka Jimbo et al

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2012/3/14

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験 (35)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (5)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <e>

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 映画や音楽などの娯楽 文型 名詞
 - 第2回 求人広告や社内人事 現在形 代名詞
 - 第3回 オフィス業務や備品など 過去形 形容詞
 - 第4回 電話やEメールなどのオフィスメッセージ 未来を表す表現 冠詞
 - 第5回 ランチやパーティなどの外食 進行系 副詞
 - 第6回 コンピューターなどの科学技術 完了形 比較
 - 第7回 調査研究や商品開発 質問を作ってみる 助動詞 動詞
 - 第8回 銀行業務や経理などの財務 態 不定詞
 - 第9回 ショッピングや注文・出荷など 時制の一致 分詞
 - 第10回 工場管理や生産ラインなどの製造 呼応 動名詞
 - 第11回 マーケティングや販売 仮定法
 - 第12回 交通機関や旅行関連 平叙文 関係詞
 - 第13回 契約や交渉など 等位接続詞
 - 第14回 住宅やビルなどの不動産 疑問文 従位接続詞
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Successful Steps for the TOEIC Test Revised Edition

著者： 塚野壽一

出版社： 成美堂

出版年： 2007年

ISBN: 9.78479E+12

A Shorter Course in TOEIC TEST IDIOMS and VOCABULARY

著者： 小池 直己

出版社： 南雲堂

出版年： 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <f>

担当者 クーラン コーリ

テーマ

Basic to early intermediate English conversation.

獲得目標

Further student improvement on all four macro skills of basic English conversation

授業の内容

****This course will be taught in English**** Using the textbook and various forms of multimedia, this class will focus around everyday use of the English language in a realistic context.

内 容

- 第1回 Welcome back and fall semester preview
 - 第2回 Begin Unit 6 "Neighborhoods"
 - 第3回 Continue Unit 6
 - 第4回 Finish Unit 6
 - 第5回 Begin Unit 7 "Out and about"
 - 第6回 Continue Unit 7
 - 第7回 Finshi Unit 7
 - 第8回 Review and reflection of Units 6 and 7
 - 第9回 Begin Unit 8 "Shopping"
 - 第10回 Continue Unit 8
 - 第11回 Finish Unit 8
 - 第12回 Begin Unit 9 "A wide world"
 - 第13回 Continue Unit 9
 - 第14回 Finish Unit 9
 - 第15回 Semester review and recap
-

授業以外での学習方法

****There are many free and fun ESL websites online that cater to all levels. ****Watching your favorite DVDs WITHOUT subtitles is also a fun way to learn!

教科書

Touchstone 1

著者: Michael McCarthy, etal

出版社: Cambridge

出版年: 2005

ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

aks201a456

In this semester, more emphasis will be put on in class performance than in the spring semester. 上記に加えて後期末英語
テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <g>**

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Acting English Drama

獲得目標

This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.

授業の内容

Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocabulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Summer Holiday Questions
 - 第2回 Journal week 1 Into the woods.
 - 第3回 The Convention
 - 第4回 Journals week 3 Practice Questions
 - 第5回 Blind Date Acting a Drunk Scene.
 - 第6回 Journals week 5 Describing a drunk scene.
 - 第7回 Independence Day Shooting Scene.
 - 第8回 Journals week 7 Crazy – Mental Illness.
 - 第9回 The New Girl scene – Character review.
 - 第10回 Iess, Lies and Video
 - 第11回 Final Journal Homework 10 x 100%
 - 第12回 Four Square – Final Destiny
 - 第13回 Max to the Max
 - 第14回 Final Reports – Presentations
 - 第15回 Roswell Final Episode and Story
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト (15)

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <h>

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 可算名詞と不可算名詞
 - 第2回 よく出る設問文の理解
 - 第3回 動詞の形
 - 第4回 書き手と読み手の推測
 - 第5回 接頭辞に注意
 - 第6回 読み手の次の行動を推測
 - 第7回 名詞を作る接尾辞
 - 第8回 パラフレーズに注意
 - 第9回 動名詞と不定詞
 - 第10回 分詞の理解
 - 第11回 仮定法の理解
 - 第12回 演習問題 Part 5.6
 - 第13回 演習問題 Part 7(1つの文書)
 - 第14回 演習問題 Part 7(2つの文書)
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Practical Tips for the TOEIC Test

著者： 杉田麻哉

出版社： 成美堂

出版年： 2010年

ISBN: 9.78479E+12

Mastery Drills for the TOEIC TEST Vocabulary TARGET 400

著者： 武藤克彦

出版社： 桐原書店

出版年： 2011年

ISBN: 9.78434E+12

新TOEIC Testレベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN： 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験（30）

小テスト（20）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（30）

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <i>

担当者 プライアンバスカウエル

テーマ

Expressing Your Ideas in English

獲得目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

授業の内容

内 容

- 第1回 introductions
 - 第2回 classroom English
 - 第3回 talking about other countries-A
 - 第4回 talking about other countries-B
 - 第5回 talking about experiences
 - 第6回 talking about places
 - 第7回 travel english: traveling to Hawaii-A
 - 第8回 travel English: traveling to Hawaii-B
 - 第9回 talking about Japanese things-A
 - 第10回 talking about Japanese things-B
 - 第11回 talking about future events
 - 第12回 talking about school
 - 第13回 travel English: traveling to Thailand
 - 第14回 talking about sickness and health
 - 第15回 review of topics
-

授業以外での学習方法

教科書

Talk a Lot: Book One – Second Edition

著者: David Martin

出版社: EFL Press

出版年:

ISBN: 4.58024E+12

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <j>

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Using English for Communication

獲得目標

Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context

授業の内容

This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Reorientation and summer vacation
 - 第2回 Telling Time
 - 第3回 Time Zones
 - 第4回 Current activities and present continuous
 - 第5回 Family and relatives
 - 第6回 Transportation and commuting
 - 第7回 Routines and schedules
 - 第8回 Review
 - 第9回 Apartments and Houses
 - 第10回 Furniture and furnishings
 - 第11回 Dream Home
 - 第12回 Jobs and workplaces
 - 第13回 What people do
 - 第14回 Giving opinions about jobs and workplaces
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

教科書

Interchange 4th Ed Intro Student's Book A

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

Interchange 4th Ed Intro Workbook A

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（35）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（45）

「英語テスト20% ※クラスによりTOEIC-IPまたはCASECを受験します。」 Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities. 上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20% ※クラスによりTOEIC-IPまたはCASECを受験します。上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB〈k〉

担当者 小川 享子

テーマ

TOEICテスト準備を介して実用的な英語力を養う。

獲得目標

TOEICテストにおけるリーディング力、文法力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

前期に扱わなかった様々なシチュエーションごとに、TOEICテスト形式に沿った問題演習を行う。その中で必要な語彙を整理していく。文法も前期に扱わなかった基本的な文法項目別を整理しながら、演習を行う。最後に各省ごとの単語リストを使っての語彙・文法の復習する。

内 容

- 第1回 Unit 9 Services
 - 第2回 Unit 9 Services Unit 10 Housing
 - 第3回 Unit 10 Housing Unit 11 Environment
 - 第4回 Unit 11 Environment Unit 12 Vacation
 - 第5回 Unit 12 Vacation Review
 - 第6回 Review Test
 - 第7回 模擬テスト演習
 - 第8回 模擬テスト演習
 - 第9回 模擬テスト演習
 - 第10回 模擬テスト演習
 - 第11回 模擬テスト演習
 - 第12回 模擬テスト演習
 - 第13回 映画のシナリオに学ぶ英語
 - 第14回 映画のシナリオに学ぶ英語
-

授業以外での学習方法

各章ごとの語彙・文法リストの書き込み、復習

教科書

Aim high for the TOIEC Test

著者： 塩見佳代子, Richard Silver, 滝田尚広

出版社： 成美堂

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (35)

参加度 (15)

小テスト (30)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <I>

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進捗等を調整することがある。

内 容

- 第1回 可算名詞と不可算名詞
 - 第2回 よく出る設問文の理解
 - 第3回 動詞の形
 - 第4回 書き手と読み手の推測
 - 第5回 接頭辞に注意
 - 第6回 読み手の次の行動を推測
 - 第7回 名詞を作る接尾辞
 - 第8回 パラフレーズに注意
 - 第9回 動名詞と不定詞
 - 第10回 分詞の理解
 - 第11回 仮定法の理解
 - 第12回 演習問題 Part 5.6
 - 第13回 演習問題 Part 7(1つの文書)
 - 第14回 演習問題 Part 7(2つの文書)
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Practical Tips for the TOEIC Test

著者： 杉田麻哉

出版社： 成美堂

出版年： 2010年

ISBN: 9.78479E+12

Mastery Drills for the TOEIC TEST Vocabulary TARGET 400

著者： 武藤克彦

出版社： 桐原書店

出版年： 2011年

ISBN: 9.78434E+12

新TOEIC Testレベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <m>

担当者 溝部 芳子

テーマ

英語で知る日本の企業像

獲得目標

関西に基盤を置く企業を紹介した英文を読み、語彙力と読解力の向上をめざす。

授業の内容

関西に基盤を置く12の企業を紹介した平易な英文を読み、様々なタスクを行います。英文を通じて企業への関心や理解を深めます。コースの終盤では企業を紹介するプレゼンテーションに挑戦します。

内 容

- 第1回 Chapter 8: From DIY Store to "Home Center for Everyone's Daily Needs"
 - 第2回 Chapter 8: From DIY Store to "Home Center for Everyone's Daily Needs"
 - 第3回 Chapter 9: Function is Beauty
 - 第4回 Chapter 9: Function is Beauty
 - 第5回 Chapter11: The World Leader in Pouch-Making Machinery
 - 第6回 Chapter11: The World Leader in Pouch-Making Machinery
 - 第7回 Chapter12: Strive to Help People Achieve Better Health
 - 第8回 Chapter12: Strive to Help People Achieve Better Health
 - 第9回 Chapter13: Leading Innovation in Medicine
 - 第10回 Chapter13: Leading Innovation in Medicine
 - 第11回 Chapter14: A Wholesome Life in the Best of Taste
 - 第12回 Chapter14: A Wholesome Life in the Best of Taste
 - 第13回 Presentation Preparation
 - 第14回 Presentation
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

授業内で指示します。

教科書

A visit to Amazing Kansai-based Companies

著者: 井上 治・吉野成美 他

出版社: 松柏社

出版年:

ISBN: 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <n>

担当者 ビショップ マイケル

テーマ

This English course teaches clear expression of thoughts.

獲得目標

This course follows the format of the previous semester, students are guided through the process of writing clear paragraphs. They learn both the language and the discourse structures needed to create a variety of types of paragraphs. At the end of the course students will be able to see how paragraphs work together to make short essays.

授業の内容

This course will be taught in English. Students will need to do pair and group work in order to express themselves in English. They will also be required to produce paragraph writing during class time and for homework.

内 容

- 第1回 Reviw of previous semister topics
 - 第2回 Examples
 - 第3回 Examples
 - 第4回 Definitions
 - 第5回 Definitions
 - 第6回 Information gap activity and grammar review
 - 第7回 Classification
 - 第8回 Classification
 - 第9回 Comparison and Contrast
 - 第10回 Comparison and Contrast
 - 第11回 Review of units 1 to 10
 - 第12回 Information gap activity and grammar review
 - 第13回 From a Paragraph to a Short Essay
 - 第14回 From a Paragraph to a Short Essay
 - 第15回 Short class essay: The Relevance of Paragraph Writing.
-

授業以外での学習方法

Students will need to attend regularly, be on time, and to submit homework on time. Students should bring a good dictionary to each class. Students are expected to read widely in both Japanese and English as a part of their university education. Self-stud

教科書

Get Your Message Across: Writing Cummunicative Paragraphs

著者: Hisataka Jimbo et al

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2012/3/14

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験 (35)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (5)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <○>

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 可算名詞と不可算名詞
 - 第2回 よく出る設問文の理解
 - 第3回 動詞の形
 - 第4回 書き手と読み手の推測
 - 第5回 接頭辞に注意
 - 第6回 読み手の次の行動を推測
 - 第7回 名詞を作る接尾辞
 - 第8回 パラフレーズに注意
 - 第9回 動名詞と不定詞
 - 第10回 分詞の理解
 - 第11回 仮定法の理解
 - 第12回 演習問題 Part 5.6
 - 第13回 演習問題 Part 7(1つの文書)
 - 第14回 演習問題 Part 7(2つの文書)
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Practical Tips for the TOEIC Test

著者： 杉田麻哉

出版社： 成美堂

出版年： 2010年

ISBN: 9.78479E+12

Mastery Drills for the TOEIC TEST Vocabulary TARGET 400

著者： 武藤克彦

出版社： 桐原書店

出版年： 2011年

ISBN: 9.78434E+12

新TOEIC Testレベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <p>

担当者 松村 優子

テーマ

英文読解、語彙・表現の修得

獲得目標

Readingを中心に据えて、本文の内容理解力、トピック関連語彙・表現力を高めることを目指す。

授業の内容

毎回、英文記事の読解・リスニングを通して、内容を確認し、構文・表現を学習する。発表形式も採り入れる。下記の計画は予定であり、授業の進捗状況や受講生の希望により順序など変更することもある。

内 容

- 第1回 Introduction
 - 第2回 Unit 7 A World of Music
 - 第3回 Unit 7 A World of Music
 - 第4回 Unit 8 Career Paths
 - 第5回 Unit 8 Career Paths
 - 第6回 Unit 9 The Story of Chocolate
 - 第7回 Unit 9 The Story of Chocolate
 - 第8回 Unit 10 The Secrets of Advertising
 - 第9回 Unit 10 The Secrets of Advertising
 - 第10回 Unit 11 Food and the Environment
 - 第11回 Unit 11 Food and the Environment
 - 第12回 Unit 12 Living for the Future
 - 第13回 Unit 12 Living for the Future
 - 第14回 まとめ・復習テスト
 - 第15回 まとめ・復習テスト
-

授業以外での学習方法

指定箇所の予習・復習

教科書

Active Skills for Reading 2 Third Edition

著者: Anderson

出版社: Cengage Learning

出版年: 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (5)

参加度 (10)

小テスト (50)

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <q>**

担当者 スミス ジョン

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

獲得目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の内容

This course will be taught in English. There are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

内 容

- 第1回 Summer vacation news
 - 第2回 Occupations
 - 第3回 Skills and abilities
 - 第4回 Halloween and superstitions
 - 第5回 Entertainment
 - 第6回 Invitations
 - 第7回 Future plans and activities
 - 第8回 Clothing and personal items
 - 第9回 Shopping experiences and preferences
 - 第10回 Food and cooking lifestyles
 - 第11回 Imperatives
 - 第12回 Music
 - 第13回 Christmas around the world
 - 第14回 New Year world culture
 - 第15回 Future plans and course review
-

授業以外での学習方法

教科書

English Firsthand 1

著者: Marc Helgesen, Steven Brown

出版社: Pearson Longman

出版年: 2010

ISBN: 978-988-00-3059

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

aks201a467

上記に加えて前期末英語テスト20% The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <r>

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 映画や音楽などの娯楽 文型 名詞
 - 第2回 求人広告や社内人事 現在形 代名詞
 - 第3回 オフィス業務や備品など 過去形 形容詞
 - 第4回 電話やEメールなどのオフィスメッセージ 未来を表す表現 冠詞
 - 第5回 ランチやパーティなどの外食 進行系 副詞
 - 第6回 コンピューターなどの科学技術 完了形 比較
 - 第7回 調査研究や商品開発 質問を作ってみる 助動詞 動詞
 - 第8回 銀行業務や経理などの財務 態 不定詞
 - 第9回 ショッピングや注文・出荷など 時制の一致 分詞
 - 第10回 工場管理や生産ラインなどの製造 呼応 動名詞
 - 第11回 マーケティングや販売 仮定法
 - 第12回 交通機関や旅行関連 平叙文 関係詞
 - 第13回 契約や交渉など 等位接続詞
 - 第14回 住宅やビルなどの不動産 疑問文 従位接続詞
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Successful Steps for the TOEIC Test Revised Edition

著者： 塚野壽一

出版社： 成美堂

出版年： 2007年

ISBN: 9.78479E+12

A Shorter Course in TOEIC TEST IDIOMS and VOCABULARY

著者： 小池 直己

出版社： 南雲堂

出版年： 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡB<s>**

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Acting English Drama

獲得目標

This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.

授業の内容

This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Summer Holiday Questions
 - 第2回 Journals week 1 - Blind Date.
 - 第3回 Drunk Scene, Describe Experience.
 - 第4回 Journal week 3 - Independence Day.
 - 第5回 Shooting Scene, Acting.
 - 第6回 Journal week 5 - Crazy
 - 第7回 Mental Illness - New Girl Scene
 - 第8回 Tess, Lies and Video.
 - 第9回 Journal week 8 - Four Square
 - 第10回 Destiny - Nasedo
 - 第11回 Final Journal Homework # 10.
 - 第12回 Max to the Max
 - 第13回 Final Story Reports
 - 第14回 The White room - Final Scenes.
 - 第15回 Destiny - Final Episode
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト (15)

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <t>**

担当者 クーラン コーリ

テーマ

Basic to early intermediate English conversation.

獲得目標

Student improvement on all four macro skills of basic English conversation.

授業の内容

****This course will be taught in English**** Using the textbook and various forms of multimedia, this class will focus around everyday use of the English language in a realistic context.

内 容

- 第1回 Welcome back and fall semester preview
 - 第2回 Begin Unit 6 "Neighborhoods"
 - 第3回 Continue Unit 6
 - 第4回 Finish Unit 6
 - 第5回 Begin Unit 7 "Out and about"
 - 第6回 Continue Unit 7
 - 第7回 Finish Unit 7
 - 第8回 Review and reflection of Units 6 and 7
 - 第9回 Begin Unit 8 "Shopping"
 - 第10回 Continue Unit 8
 - 第11回 Finish Unit 8
 - 第12回 Begin Unit 9 "A wide world"
 - 第13回 Continue Unit 9
 - 第14回 Finish Unit 9
 - 第15回 Review and recap of semester
-

授業以外での学習方法

****There are many free and fun ESL websites online that cater to all levels. ****Watching your favorite DVDs WITHOUT subtitles is also a fun way to learn!

教科書

Touchstone 1

著者: Michael McCarthy, etal

出版社: Cambridge

出版年: 2005

ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

aks201a470

For this semester, more attention will be focused on hard work in class. 上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡB** <u>

担当者 プライアンバスカウエル

テーマ

Expressing Your Ideas in English

獲得目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

授業の内容

内 容

- 第1回 introductions
 - 第2回 classroom English
 - 第3回 talking about other countries-A
 - 第4回 talking about other countries-B
 - 第5回 talking about experiences
 - 第6回 talking about places
 - 第7回 travel English: traveling to Hawaii-A
 - 第8回 travel English: traveling to Hawaii-B
 - 第9回 talking about Japanese things-A
 - 第10回 talking about Japanese things-B
 - 第11回 talking about future events
 - 第12回 talking about school
 - 第13回 travel English: traveling to Thailand
 - 第14回 talking about sickness and health
 - 第15回 review of topics
-

授業以外での学習方法

教科書

Talk a Lot: Book One – Second Edition

著者: David Martin

出版社: EFL Press

出版年:

ISBN: 4.58024E+12

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <v>

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 Unit 1 Eating Part 5 短文穴埋め問題攻略法
 - 第2回 Unit 2 Leisure Part 6 長文穴埋め問題攻略法
 - 第3回 Unit 3 Sports Part 7 読解問題(1つの文書)攻略法
 - 第4回 Unit 4 Shopping Part 7 読解問題(2つの文書)攻略法
 - 第5回 Unit 5 Campus Life Part 5 文法・読解問題
 - 第6回 Unit 6 Travel Part 6 論理の展開
 - 第7回 Mid-term achievement test Part 5.6 攻略法まとめ
 - 第8回 Mid-term achievement test Part 7 攻略法まとめ
 - 第9回 Unit 7 Health スキミングの方法
 - 第10回 Unit 8 Work スキャニングの方法
 - 第11回 Unit 9 Weather 設問の先読み
 - 第12回 Unit 10 Cooking リテリングの練習
 - 第13回 Unit 11 Parties 単語の覚え方
 - 第14回 Unit 12 Movies 速読の練習
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Starting on the TOEIC TEST

著者: 安浪 誠祐

出版社: 朝日出版

出版年: 2011年

ISBN: 9.78426E+12

Masrery Drills for the TOEIC TEST Vocabulary TARGET 400

著者: 武藤克彦

出版社: 桐原書店

出版年: 2011年

ISBN: 9.78434E+12

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <w>**

担当者 溝部 芳子

テーマ

英語で知る日本の企業像

獲得目標

関西に基盤を置く企業を紹介した英文を読み、語彙力と読解力の向上をめざす。

授業の内容

関西に基盤をおく12の企業を紹介した平易な英文を読み、さまざまなタスクを行います。英文を通じて企業への関心や理解を深めます。コースの終盤では企業を紹介するプレゼンテーションに挑戦します。

内 容

- 第1回 Chapter 8: From DIY Store to "Home Center for Everyone's Daily Needs"
 - 第2回 Chapter 8: From DIY Store to "Home Center for Everyone's Daily Needs"
 - 第3回 Chapter 9: Function is Beauty
 - 第4回 Chapter 9: Function is Beauty
 - 第5回 Chapter11: The World Leader in Pouch-Making Machinery
 - 第6回 Chapter11: The World Leader in Pouch-Making Machinery
 - 第7回 Chapter12: Strive to Help People Achieve Better Health
 - 第8回 Chapter12: Strive to Help People Achieve Better Health
 - 第9回 Chapter13: Leading Innovation in Medicine
 - 第10回 Chapter13: Leading Innovation in Medicine
 - 第11回 Chapter14: A Wholesome Life in the Best Taste
 - 第12回 Chapter14: A Wholesome Life in the Best Taste
 - 第13回 My Favorite Company (Preparation)
 - 第14回 My Favorite Company (Presentation)
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

授業内で指示します

教科書

A visit to Amazing Kansai-based Companies

著者: 井上 治・吉野成美 他

出版社: 松柏社

出版年:

ISBN: 9.78488E+12

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <x>

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。

内 容

- 第1回 各パート攻略法の確認 前期での既習事項の復習
 - 第2回 日常生活 語彙問題 攻略法
 - 第3回 場所の描写 ポキャビルの方法
 - 第4回 人々の描写 文法問題攻略法
 - 第5回 旅行で使う表現 基本文法をおさえる
 - 第6回 ビジネスで使う表現 長文穴埋め問題攻略法
 - 第7回 オフィスにて 音読の練習
 - 第8回 テクノロジー関連表現 読解問題攻略法(1つの文書)
 - 第9回 人事・管理の表現 スキミングの方法
 - 第10回 物資購入 読解問題攻略法(2つの文書)
 - 第11回 財務関連表現 スキャニングの方法
 - 第12回 メディア関連用語 よく出る設定を知る
 - 第13回 娯楽関連表現 効果的な時間の使い方
 - 第14回 健康関連表現 語彙
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Successful Keys to the TOEIC TEST 3 Second Edition

著者: 水本篤

出版社: 桐原書店

出版年: 2010年

ISBN: 9.78434E+12

A Shorter Course in TOEIC TEST IDIOMS and VOCABULARY

著者: 小池 直己

出版社: 南雲堂

出版年: 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試

著者： 小山克明

出版社： Z会

出版年： 2007年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB <y>

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Using English for Communication

獲得目標

Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context

授業の内容

This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Reorientation and summer vacation
 - 第2回 Telling Time
 - 第3回 Time Zones
 - 第4回 Current activities and present continuous
 - 第5回 Family and relatives
 - 第6回 Transportation and commuting
 - 第7回 Routines and schedules
 - 第8回 Review
 - 第9回 Apartments and Houses
 - 第10回 Furniture and furnishings
 - 第11回 Dream Home
 - 第12回 Jobs and workplaces
 - 第13回 What people do
 - 第14回 Giving opinions about jobs and workplaces
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

教科書

Interchange 4th Ed Intro Student's Book A

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

Interchange 4th Ed Intro Workbook A

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（35）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（45）

「英語テスト20% ※クラスによりTOEIC-IPまたはCASECを受験します。」 Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities. 上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20% ※クラスによりTOEIC-IPまたはCASECを受験します。上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡB** <z>

担当者 小川 享子

テーマ

TOEICテスト準備を介して実用的な英語力を養う。

獲得目標

TOEICテストにおけるリーディング力、文法力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

前期に扱わなかった様々なシチュエーションごとに、TOEICテスト形式に沿った問題演習を行う。その中で必要な語彙を整理していく。文法も前期に扱わなかった基本的な文法項目別を整理しながら、演習を行う。最後に各省ごとの単語リストを使っての語彙・文法の復習する。

内 容

- 第1回 Unit 9 Services
- 第2回 Unit 9 Services Unit 10 Housing
- 第3回 Unit 10 Housing Unit 11 Environment
- 第4回 Unit 11 Environment Unit 12 Vacation
- 第5回 Unit 12 Vacation Review
- 第6回 模擬テスト演習
- 第7回 模擬テスト演習
- 第8回 模擬テスト演習
- 第9回 模擬テスト演習
- 第10回 模擬テスト演習
- 第11回 模擬テスト演習
- 第12回 模擬テスト演習
- 第13回 模擬テスト演習
- 第14回 映画のシナリオに学ぶ英語
- 第15回 映画のシナリオに学ぶ英語

授業以外での学習方法

各章の語彙・文法リストへの書き込み、復習

教科書

Aim high for the TOEIC Test

著者： 塩見佳代子、Richard Silver, 滝田尚広

出版社： 成美堂

出版年： 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (15)

小テスト (45)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡB〈Pa〉**

担当者 クーラン コーリ

テーマ

Basic to early intermediate English conversation.

獲得目標

Student improvement on all four macro skills of basic English conversation.

授業の内容

****This course will be taught in English**** Using the textbook and various forms of multimedia, this class will focus around everyday use of the English language in a realistic context.

内 容

- 第1回 Welcome back and fall semester preview
 - 第2回 Begin Unit 6 "Neighborhoods"
 - 第3回 Continue Unit 6
 - 第4回 Finish Unit 6
 - 第5回 Begin Unit 7 "Out and about"
 - 第6回 Continue Unit 7
 - 第7回 Finish Unit 7
 - 第8回 Review and reflection of Units 6 and 7
 - 第9回 Begin Unit 8 "Shopping"
 - 第10回 Continue Unit 8
 - 第11回 Finish Unit 8
 - 第12回 Begin Unit 9 "A wide world"
 - 第13回 Continue Unit 9
 - 第14回 Finish Unit 9
 - 第15回 Review and recap of semester
-

授業以外での学習方法

****There are many free and fun ESL websites online that cater to all levels. ****Watching your favorite DVDs WITHOUT subtitles is also a fun way to learn!

教科書

Touchstone 1

著者: Michael McCarthy, et al

出版社: Cambridge

出版年: 2005

ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

aks201a477

In the fall semester, there will be more of a focus on IN CLASS performance. 上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅡB <Pb>**

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Acting English Drama

獲得目標

This class is designed to improve vocabulary, listening comprehension and pronunciation by studying and acting natural speaking situations in a video drama.

授業の内容

Using video from a popular drama and supported by interesting exercises concerning new vocabulary, pronunciation, idiomatic expression and usage, the class will inspire student learning. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Summer Holiday Questions
 - 第2回 Journal # 1
 - 第3回 Convention
 - 第4回 Journal week 3
 - 第5回 Story Vocabulary
 - 第6回 Blind Date
 - 第7回 Scene Review
 - 第8回 Acting Scene
 - 第9回 Journal week 8
 - 第10回 Episode Crazy
 - 第11回 Final Journal 10
 - 第12回 Max to Max
 - 第13回 Final Reports
 - 第14回 Presentations small Group
 - 第15回 Final Story Episode
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト (15)

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅡB〈R〉

担当者 杉山 泰

テーマ

質の高い日本文化論を読みながら、発信型英語表現を学んでいく

獲得目標

なぜ日本人は英語を勉強するのか、名詞に英語で名前を書くときは「姓名」なのか「名姓」なのか、「醜い日本人」とはどんな人か、と考えさせられるエッセイを読みながら、日本文化を考えてみたい。そして、その文化を英語でどう表現するのかを学んでいきたい。

授業の内容

毎回テキストを読んで、課題に答えてもらうので、必ず辞書を持参のこと。やさしい英語だが、中身は質が高いため、じっくりと授業の中で読んでもらう。

内 容

- 第1回 自己紹介と「杉山英語氏名カード」の作成
- 第2回 Lesson 1 なぜ、英語を学ぶのか（小学校から英語をなぜ学ぶのか）英文講読
- 第3回 Lesson 2 なぜ、英語を学ぶのか、についての英語の質問に英語で答える。英作文
- 第4回 Lesson 3 日本人だけが、なぜ「名姓」で新聞に載るのか（日本人は自分たちの文化を守りたいのか）英文講読
- 第5回 Lesson 4 Yasushi Sugiyamaの語順であれば、紫式部だとか清少納言はどう英語表記してあるのか。英作文
- 第6回 Lesson 5 醜い日本人、醜いアメリカ人（文化の違いは何処で起きるのか）英文講読
- 第7回 Lesson 6 それぞれの国の文化の違いに英語でどう答えるのか。英作文
- 第8回 Lesson 7 家族とのつながり（キリスト教文化と儒教文化はどう違うのか）英文講読
- 第9回 Lesson 8 家族の問題に英語でどう答えるのか 英作文
- 第10回 Lesson 9 車のアイドリングは止めるべきか（原発は止めるべきか、太陽光発電は必要か）英文講読
- 第11回 Lesson 10 エコとは何か。英作文
- 第12回 Lesson 11 自殺は許されるのか（ネット自殺をどう考えるのか）英文講読
- 第13回 Lesson 12 3万5000人者自殺者を出している日本、自殺や人工中絶を許さないキリスト教 英作文
- 第14回 Lesson 13 仏教とキリスト教で文化が異なることとは何か。各自、Why...?という質問に、Becauseで答えてもらう。
- 第15回 最終回 これまで学んだ、文化の違いを整理し、その回答を英語でまとめる。

授業以外での学習方法

教科書

Ready to Start コースブック基礎編

著者： 静哲人

出版社： 松柏社

出版年： 2004年

ISBN:

参考書

イギリス英語の密かな楽しみ

著者： 大村じゅん

出版社： ワニブックス

出版年： 2011年

ISBN:

英国式人生のススメ

著者： 入江敦彦

出版社： 洋泉社

出版年： 2001年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

毎回提出させるプリントの提出と、英作文の提出物がないと出席にならない。欠席した学生は必ず前回のプリントをもらい、自宅学習をやって提出することが必要。上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <a>

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進捗等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 At an Airport Part 1 写真描写問題攻略法
 - 第2回 At a Hotel Part 2 応答問題攻略法
 - 第3回 On the Street Part 3 会話問題攻略法
 - 第4回 At a Restaurant Part 4 説明文問題攻略法
 - 第5回 Shopping 自分で描写してみる
 - 第6回 At a bank 質問を作ってみる
 - 第7回 Taking a Trip Part 1.2 攻略法まとめ
 - 第8回 Seeing the Doctor Part 3.4 攻略法まとめ
 - 第9回 Renting an Apartment 会話をする
 - 第10回 Sports 説明をする
 - 第11回 Job Hunting キーワードの捉え方
 - 第12回 Talking on the Phone シャドーイングの練習
 - 第13回 Appointments リピーティングの練習
 - 第14回 Giving a Presentation サマライゼーションの練習
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Kick off for the TOEIC TEST

著者： 松岡 昇

出版社： 金星堂

出版年： 2006年

ISBN: 9.78476E+12

A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar

著者： 小池 直己

出版社： 南雲堂

出版年： 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者: 小山克明

出版社: Z会

出版年: 2008年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅣA **

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research a topic and express your findings in English

獲得目標

This course will aim to improve basic English speaking and writing skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing an individual research topic.

授業の内容

The course will be conducted in English, in a computer lab. Continuing students will continue to explore their topic from the first semester. Students will prepare weekly short talks and blog entries about their topic. We will also focus on various tools for autonomously improving your English speaking and writing skills.

内 容

- 第1回 Introduction + allotment of topics
 - 第2回 Keeping a research log
 - 第3回 Recording monologues
 - 第4回 Writing blog entries
 - 第5回 Pronunciation: tools & tactics
 - 第6回 Peer practice & Feedback
 - 第7回 Logging vocabulary
 - 第8回 Effective use of Internet translation
 - 第9回 Using writing feedback symbols
 - 第10回 Internet grammar reference tools
 - 第11回 Using Internet searches for language feedback
 - 第12回 Creating a class wiki
 - 第13回 Preparing your presentation
 - 第14回 Final Presentations (I)
 - 第15回 Final Presentations (II)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (28)

参加度 (24)

小テスト ()

授業中発表等 (28)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語ⅣA <c>**

担当者 **ビショップ マイケル**

テーマ

This course will enable students to more fully benefit from their private English language reading.

獲得目標

The purpose of this course is to refine English language skills developed in previous years. It is hoped that by improving their understanding of written passages students will be more confident in speaking. This outcome is expected since students are asked to actively examine the structure of written texts which simultaneously augment the range of topics about which they have something to say.

授業の内容

This continuation of the first semester course follows the same format. The main component of this well-rounded course, which is taught in English, is a reading passage upon which a series of exercises is based. These exercises develop reading comprehension, vocabulary building, phrase building, grammar accuracy, listening comprehension, and discussion skills. Students need to actively participate in pair and group tasks if they desire a high grade. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Information-gap activity following class orientation.
 - 第2回 11 Giving Away Billions
 - 第3回 12 Computer Actors
 - 第4回 13 New York City
 - 第5回 Review of lessons 11 to 13
 - 第6回 14 Fresh Water: A Growing Crisis
 - 第7回 15 Exporting Culture
 - 第8回 16 Aging Populations
 - 第9回 Review of lessons 14 to 16
 - 第10回 17 The Power of YouTube
 - 第11回 18 Credit-Card Slaves
 - 第12回 Review of lessons 17 to 18
 - 第13回 19 Yoga
 - 第14回 Crime-Fighting Scientists
 - 第15回 Review of Lessons 1 to 10
-

授業以外での学習方法

Students are expected to read widely in both English and Japanese in their own time. Punctuality, regular attendance, and active participation in activities are mandatory.

教科書

Reading Pass 2

著者: Andrew E. Bennett

出版社: NAN'UN-DO

出版年: 2012/3/14

ISBN: 9.78452E+12

参考書

成績評価

試験 (35)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (5)

授業中発表等 (10)

aks202a353

上記に加えて前期末英語テスト20% Punctuality, regular attendance, and active participation in class are essential for those wishing a high grade. Students should have a good dictionary.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <d>

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第2回 問題文に注意 (Part 2 対策)
 - 第3回 必要な情報を聞き取る (Part 3 対策)
 - 第4回 トークの概要をつかむ (Part 4 対策)
 - 第5回 問題と解決策についての会話 (Part 3 対策)
 - 第6回 人物の行動 (Part 3 対策)
 - 第7回 アナウンスメント (Part 4 対策)
 - 第8回 人が小さく風景が大きい写真 (Part 1 対策)
 - 第9回 否定疑問文 (Part 2 対策)
 - 第10回 会話のテーマを聞き取る (Part 3 対策)
 - 第11回 提案に答える (Part 2 対策)
 - 第12回 提案を含んだ会話 (Part 3 対策)
 - 第13回 指示内容を聞き取る (Part 4 対策)
 - 第14回 Details (Part 4 対策)
 - 第15回 総復習
 - 第1回 2人の人物 (Part 1 対策)
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire

著者: ECC

出版社: ECC

出版年: 2012年

ISBN:

A shorter Course in TOEIC Test Grammar

著者: 小池 直己

出版社: 南雲堂

出版年: 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者: 小山克明

出版社: Z会

出版年: 2008年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <e>

担当者 田中 美和子

テーマ

英語で自分の意見を発信できるようになる

獲得目標

総合的な英語力の養成

授業の内容

後期は、前期に学習したことを踏まえて、自律的に学びながら、自分の意見を発信することを目標に勉強します。新しく目標を立て、英語のリスニング、および英語表現を勉強していきましょう、後期において、特に重要なポイントは、リスニング力をつけること、そして意見をまとめかたを練習することです。どうすれば相手に伝わるように意見を述べるができるでしょうか。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 Listening:L, r
 - 第3回 Chapter8 Fact or Fiction
 - 第4回 Listening:What,who, when, where, why, how
 - 第5回 Chapter9 Green Cell Phones
 - 第6回 Listening:Prepositions
 - 第7回 Chapter10 Pet Talk
 - 第8回 Listening:Conjunctions
 - 第9回 Chapter11 Stop Snoring
 - 第10回 Listening:Liaison
 - 第11回 Chapter12 Spare Time
 - 第12回 Chapter13 Street Art
 - 第13回 Chapter14 Hurricane Warning
 - 第14回 Chapter15 Yummy Chocolate
 - 第15回 理解度テストとまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書だけではなく、映画や音楽を通して、英語に触れましょう。

教科書

PRISM Listening Book 1 red

著者： 藤澤慶巳, Timothy Kiggell

出版社： マクミランランゲージハウス

出版年： 2009

ISBN： 9.78478E+12

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 ()

参加度 (35)

小テスト ()

授業中発表等 (35)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <f>

担当者 小川 享子

テーマ

TOEICテスト受験準備を介して実用的な英語力を養う。

獲得目標

TOEICテストにおけるリスニング力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

各章は1つのシチュエーションを想定し、必要な語彙の確認したのち、TOEIC testの各セクションの問題を解くようにできている。単語は小テスト形式で毎回の授業で確認。リスニング問題を解いたあと、スクリプトで表現の確認を行う。

内 容

- 第1回 授業方法、評価方法の説明。Unit 1
 - 第2回 Unit 2
 - 第3回 Unit 3
 - 第4回 Unit 4
 - 第5回 Unit 5
 - 第6回 Unit 6
 - 第7回 Unit 7
 - 第8回 Unit 8
 - 第9回 Unit 9
 - 第10回 Unit 10
 - 第11回 Unit 11
 - 第12回 Unit 12
 - 第13回 Review
 - 第14回 映画のシナリオに学ぶ英語
 - 第15回 映画のシナリオに学ぶ英語
-

授業以外での学習方法

語彙の復習、リスニングの復習

教科書

Listening and Vocabulary Training for the TOEIC Test

著者： 古谷総、藤岡美香子、ジェフリー・トーマー

出版社： 三修社

出版年： 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (15)

小テスト (45)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <g>

担当者 山崎 清水

テーマ

総合的な英語運用能力を習得

獲得目標

世界15ヶ国の文化や歴史を学びながら、英語力の向上を図る。

授業の内容

DVDを観ながら総合的英語力の養成をする。

内 容

- 第1回 India
 - 第2回 Philippines
 - 第3回 Thailand
 - 第4回 Vietnam
 - 第5回 Korea
 - 第6回 France
 - 第7回 Italy
 - 第8回 Denmark
 - 第9回 Portugal
 - 第10回 Turkey
 - 第11回 Egypt
 - 第12回 South Africa
 - 第13回 Brazil
 - 第14回 Peru
 - 第15回 Guatemala
-

授業以外での学習方法

詳細は授業で説明する。

教科書

World Adventures

著者: Scott Berlin / 小林 めぐみ

出版社: 金星堂

出版年: 2011

ISBN: 9.78476E+12

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <h>

担当者 久保田 美佳

テーマ

時事英語への発展。

獲得目標

比較的平易な英語で書かれた英文記事を読めるようになる。時事英語に関連した基本語彙を学習する。授業で検討したそれぞれの社会的問題についての意識を高める。英語の音とリズムに慣れる。

授業の内容

英文テキストの内容を正確に読み取る練習を続けます。テキスト付属の音源その他で英語の音とリズムに慣れる練習をします。

内 容

- 第1回 Chapter 7 Hikikomori
 - 第2回 Chapter 7 Hikikomori
 - 第3回 Chapter 8 Cults
 - 第4回 Chapter 8 Cults
 - 第5回 Chapter 9 Baby Boomers Retire
 - 第6回 Chapter 9 Baby Boomers Retire
 - 第7回 Review
 - 第8回 Chapter 10 Immigration
 - 第9回 Chapter 11 Telecommuting
 - 第10回 Chapter 11 Telecommuting, Chapter 12 Buying Organs
 - 第11回 Chapter 12 Buying Organs, Chapter 13 Surrogate Mother
 - 第12回 Chapter 13 Surrogate Mother, Chapter 14 Baby Hatch
 - 第13回 Chapter 14 Baby Hatch, Chapter 15 Eating Disorder
 - 第14回 Chapter 15 Eating Disorder, Summary
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

語彙の復習は欠かさず行い定着させ、授業外でも音読をするなどして毎日英語に触れる習慣を付けて下さい。

教科書

Keywords for Japan Today

著者: Paul Stapleton

出版社: Cengage Learning

出版年: 2008

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (80)

授業中発表等 ()

小テストを定期的に行い習熟度をチェックします。上記に、後期末統一英語テスト20%が加算されます。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <i>

担当者 溝部 芳子

テーマ

やさしい英語で情報発信しよう！

獲得目標

海外旅行、e-mail、アルバイト先などの実践的な場面で役立つ基礎的な英語のライティングスキルの獲得をめざす。

授業の内容

サンプル英文を読み、必須の文法事項を確認したうえで、毎回ライティングタスクに取り組みます。コース終盤では書き溜めたタスクをもとに個人プレゼンテーションに挑戦します。

内 容

- 第1回 Warm-up. Unit 11: Job-Hunting
 - 第2回 Unit 12: Writing a Letter
 - 第3回 Unit 13: Giving Advice
 - 第4回 Review Practice (1)
 - 第5回 Unit14:Invitation
 - 第6回 Unit15:Notice
 - 第7回 Unit 16: My History
 - 第8回 Review Practice (2)
 - 第9回 Unit17:Introducing Japanese Culture
 - 第10回 Unit18:If I were...
 - 第11回 Review Practice (3)
 - 第12回 Unit 19 Expressing Your Opinion
 - 第13回 Unit 20: Direction
 - 第14回 Review Practice (4)
 - 第15回 Presentation
-

授業以外での学習方法

授業内で指示します。

教科書

New English Composition Workbook

著者： Kazuyo Murata & Mami Otani

出版社： マクミランランゲージハウス

出版年： 2012.1.20

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <j>

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 Part 1 写真描写問題攻略法
 - 第2回 Part 2 応答問題攻略法
 - 第3回 Part 3 会話問題攻略法
 - 第4回 Part 4 説明文問題攻略法
 - 第5回 キーワードの捉え方
 - 第6回 シヤドーイングの練習
 - 第7回 音の連結
 - 第8回 設問の先読み
 - 第9回 リピーティングの練習
 - 第10回 会話の流れをつかむ
 - 第11回 音の脱落
 - 第12回 リテリングの練習
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 1.2
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 3.4
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

An Intensive Approach to the TOEIC Test

著者： 松岡 昇

出版社： 金星堂

出版年： 2008年

ISBN: 9.78476E+12

A shorter Course in TOEIC Test Grammar

著者： 小池 直己

出版社： 南雲堂

出版年： 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者: 小山克明

出版社: Z会

出版年: 2008年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <k>

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 2人の人物(Part 1 対策)
- 第2回 問題文に注意(Part 2 対策)
- 第3回 必要な情報を聞き取る(Part 3 対策)
- 第4回 トークの概要をつかむ(Part 4 対策)
- 第5回 問題と解決策についての会話(Part 3 対策)
- 第6回 人物の行動(Part 3 対策)
- 第7回 アナウンスメント(Part 4 対策)
- 第8回 人が小さく風景が大きい写真(Part 1 対策)
- 第9回 否定疑問文(Part 2 対策)
- 第10回 会話のテーマを聞き取る(Part 3 対策)
- 第11回 提案に答える(Part 2 対策)
- 第12回 提案を含んだ会話(Part 3 対策)
- 第13回 指示内容を聞き取る(Part 4 対策)
- 第14回 Details(Part 4 対策)
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire

著者: ECC

出版社: ECC

出版年: 2012年

ISBN:

A shorter Course in TOEIC Test Grammar

著者: 小池 直己

出版社: 南雲堂

出版年: 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者: 小山克明

出版社: Z会

出版年: 2008年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <I>

担当者 野口 博代

テーマ

英語で時事問題について考えてみよう！

獲得目標

新聞英語特有の語彙や文体に慣れる事を目標とします。

授業の内容

世界規模で関心が集まっている時事問題を英語で読み、新聞英語で使用される語彙や文体に慣れるための演習を行います。

内 容

- 第1回 Unit 1 Oil Dependency
 - 第2回 Unit 1, Unit 2 Introduction
 - 第3回 Unit 2 Peace or War
 - 第4回 Unit 3 Sports Idols
 - 第5回 Unit 3, Unit 4 introduction
 - 第6回 Unit 4 Deadly Influenza
 - 第7回 Unit 5 What's It Say?
 - 第8回 Unit 1 - Unit 5 Review
 - 第9回 Unit 6 Animal Extinction
 - 第10回 Unit 7 Driving and The Cell
 - 第11回 Unit 7, Unit 8 Introduction
 - 第12回 Unit 8 Online-Gaming Addiction
 - 第13回 Unit 9 Genocide
 - 第14回 Unit 10 Overpopulation
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

英字新聞を読む。

教科書

Reading the World

著者: Norma Reveler / Hiromi Nema

出版社: 南雲堂

出版年: 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <m>

担当者 原 俊樹

テーマ

－英語運用能力・理解力の総仕上げ－

獲得目標

ニュースを用いての英文の解釈・表現の演習を通して、日英双方の表現方法の違いを考えた上で、いつでもどこでも、国際的に通用する基本的な英語の理解力・表現力を確実に身に付ける。実践的に使えるproductiveな英語力を確実に体得し、英語能力の4技能を充実・発展させる。Englishesの理解やグローバル化時代を生き抜くための必要最低限の英語力を確立すること。

授業の内容

基本的には、英語ⅢAの発展的応用をテキストに沿って行なう。基礎知識確認のための小テストも毎回課す予定。積極的に授業に参加し、様々な分野の情報・世界の情勢を的確に把握する力を確実に身に付ける気概を持ってください。只単に「出席さえしていれば良い」と言う態度で受講しないようにしなさい。

内 容

- 第1回 (一応の目安 - 各回の重点的テーマとして考えてください) 受講生への留意事項伝達。前期の理解度の確認テスト
- 第2回 単文の構造分析 ; 文の要素と修飾語句; 文型
- 第3回 単文の構造分析 ; 文の要素と修飾語句; 文型 -1
- 第4回 単文の構造分析 ; 文の要素と修飾語句; 文型 -2
- 第5回 重文の構造分析; 等位接続詞と省略・語句の接続と並列構造/節の範囲
- 第6回 複文の構造分析 ; 従属接続詞とその用法
- 第7回 複文の構造分析 ; 関係詞とその用法 関係代名詞
- 第8回 複文の構造分析 ; 関係詞とその用法 関係副詞
- 第9回 句の構造分析 ; 句の種類と修飾/句の範囲
- 第10回 句の構造分析 ; 準動詞の句とその用法 分詞・分詞構文・動名詞
- 第11回 句の構造分析 ; 準動詞の句とその用法 動名詞・不定詞
- 第12回 英作文の要領と発話
- 第13回 英作文の要領と発話
- 第14回 各自の英語学習法の確立 基本知識・文法の総整理を踏まえ、日本語と英語の相違を考えた上で、独自の「英語解釈法・表現法」を身に付ける。
- 第15回 各自の英語学習法の確立 基本知識・文法の総整理を踏まえ、日本語と英語の相違を考えた上で、独自の「英語解釈法・表現法」を身に付ける。
- 第16回 期末試験

授業以外での学習方法

基本的な課題に対する予習・復習をこなすだけでなく、様々な機会を通して、英語に接する時間を多く持つこと。第2言語として英語を駆使する気構えを持って、授業に臨めるような学習方法を確立してください。テレビやラヂオ、その他の語学関係番組を通してなるべく英語に接する機会を持ってください。自分の努力が報われるような学習方法を身に付けましょう。

教科書

“English through the News Media 2013 Edition(ニュースメディアの英語-演習と解説2013年度版-)”(英語 ⅢA/ⅣAで使用)

著者: Masami Takahashi, Noriko Itoh, Richard Powell

出版社: Asahi Press(朝日出版社)

出版年: 2013 ¥1600E

ISBN: 9.78426E+12

参考書

高校時代に使用した文法参考書・問題集・教科書等

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

1年次のテキスト・ノート

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

中辞典以上の英和・和英・英々辞典(電子辞書は、確認のためだけに使うこと)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (35)

小テスト (15)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <n>

担当者 野口 博代

テーマ

コミュニケーションのための看護英語

獲得目標

看護の現場において、英語でスムーズに患者とコミュニケーションを図れるようになるために、基本的な語彙、表現の習得を目指す。

授業の内容

患者とコミュニケーションを図る際に必要な語彙、表現を様々なタスクを通じて学習します。

内 容

- 第1回 Chapter 6 医師と看護師の関係 1) Nurses work closely with doctors
第2回 2) That's important information
第3回 3) Let's talk: The nurse seeks advice from the doctor
第4回 Chapter 7 関連のある職種の人達 1) Nurses work with related professionals
第5回 2) We work as part of the health care team
第6回 3) Let's talk: Consulting a specialist
第7回 Chapter 8 看護師と病院 1) The work nurses do depends on the type of hospital
第8回 2) So busy tonight
第9回 3) Let's talk: Working in the hospital
第10回 Chapter 9 地域における看護師 1) Nurses work outside the hospital
第11回 2) To prevent you from getting injured
第12回 3) Let's talk: The nurses is teaching outside the hospital
第13回 Chapter 10 未来の看護 1) How will nursing change in the future
第14回 2) Nursing on the internet
第15回 3) Let's talk: What type of nurse do you want to be?
-

授業以外での学習方法

教科書

English for Nursing Students

著者: Marilyn W. Edmunds / Paul Price 他

出版社: 南雲堂

出版年: 2011

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <○>

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 写真描写問題攻略法 短文穴埋め問題攻略法
- 第2回 応答問題攻略法 長文穴埋め問題攻略法
- 第3回 会話問題攻略法 読解問題攻略法(1つの文書)
- 第4回 説明文問題攻略法 読解問題攻略法(2つの文書)
- 第5回 人物・動作の描写 語彙問題に取り組む
- 第6回 Wh疑問文に答える 前後関係を知る
- 第7回 会話の流れをつかむ リフレーズに注意
- 第8回 キーワードを捉える 2文書の関連性を知る
- 第9回 シャドーイングの練習 スキミングの練習
- 第10回 リピーティングの練習 スキャニングの練習
- 第11回 音の連結 リテリングの練習
- 第12回 音の脱落 大意をつかむ練習
- 第13回 リスニング各パート攻略法のまとめ
- 第14回 リーディング各パート攻略法のまとめ
- 第15回 総復習

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

An Intensive Approach to the TOEIC Test

著者: 松岡 昇

出版社: 金星堂

出版年: 2008年

ISBN: 9.78476E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (0)

参加度 (30)

小テスト (20)

授業中発表等 (0)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <p>

担当者 原 俊樹

テーマ

看護・医療の英語を通して英語運用能力・理解力を総仕上げする

獲得目標

日英双方の表現方法の違いを考え、英文の解釈・演習や会話表現を通して、いつでもどこでも、第二言語として国際的に通用する基本的な英語の理解力・表現力を確実に身に付ける。実践的に使えるような、productiveな英語力を確実に体得し、英語能力の4技能を充実・発展させる。グローバル化の時代を生き抜くための必要最低限の英語力を確立すること。

授業の内容

基本的には、英語ⅢAの発展的な応用力の拡充をテキストに沿って行なう。基礎知識確認のための小テストも毎回課す予定。積極的に授業に参加し、様々な分野の情報・世界の情勢を的確に把握する力を確実に身に付ける気概を持ってください。

内 容

- 第1回 (一応の目安や各回の重点的テーマとして考えてください) 受講生への留意事項伝達。前期の理解度の確認テスト
- 第2回 単文の構造分析 ; 文の要素と修飾語句・文型
- 第3回 単文の構造分析 ; 文の要素と修飾語句・文型 -1
- 第4回 単文の構造分析 ; 文の要素と修飾語句・文型 -2
- 第5回 重文の構造分析 ; 等位接続詞と並列構造・省略・語句の接続／節の範囲
- 第6回 複文の構造分析 ; 従属接続詞とその用法・分詞構文
- 第7回 複文の構造分析 ; 関係詞とその用法 関係代名詞
- 第8回 複文の構造分析 ; 関係詞とその用法 関係副詞
- 第9回 句の構造分析 ; 句の種類と修飾／句の範囲
- 第10回 句の構造分析 ; 準動詞の句とその用法 ; 分詞・分詞構文・動名詞
- 第11回 句の構造分析 ; 準動詞の句とその用法 ; 動名詞・不定詞
- 第12回 英作文の要領と発話 ; 日本語の発想から英語へ
- 第13回 英作文の要領と発話 ; 英語の発想と会話
- 第14回 各自の英語学習法の確立 英語の基礎知識・文法・語法・統語を確実に理解・総整理を踏まえて、個々独自の「英語解釈法・表現法」を確立する。
- 第15回 各自の英語学習法の確立 英語の基礎知識・文法・語法・統語を確実に理解・総整理を踏まえて、個々独自の「英語解釈法・表現法」を確立する。
- 第16回 後期期末試験

授業以外での学習方法

語学関係番組・専門書など、さまざまな手段を通して、常に英語に接する機会を多く持つこと。第二言語として英語を駆使する気構えを持って、授業に臨めるような学習方法を確立してください。「やればできる」でなく、「やったからできるようになった」というように、自分の努力が報われるような学習方法を身に付けなさい。TOEIC/TOEFLや英検といった英語の実力検定にも対応できる力を身に付けなさい。

教科書

“Understanding Health Care (医療の世界-基本情報と表現演習)”(英語 ⅢA/ⅣAで使用)

著者: Tsukimaro Nishimura 他3名

出版社: Asahi Press(朝日出版社)

出版年: 2011 ¥ 1800E

ISBN: 9.78426E+12

参考書

高校時代に使用した文法参考書・問題集・教科書等

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

1年次のテキスト・ノート

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

中辞典以上の英和・和英・英々辞典(電子辞書は、確認のためだけに使うこと)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (35)

小テスト (15)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語ⅣA <R>

担当者 杉山 泰

テーマ

Cultural Literacy(文化的基礎知識)を生かして学ぶ英語

獲得目標

「パン」や「アルバイト」が大和言葉の日本語ではないことは誰でも知っているが、「フリーター」だとか、「カンニング」を英語だと勘違いしてはいないだろうか。今や日本語は英語の基礎知識なしにはAKB48も正しい発音すらできない。筆記体の書き方から始まり、大学生として当然知っておくべき日英語対照基礎大学英文法を学んでいく。その際に、俵万智などの短歌の英訳課題に挑戦してもらう。

授業の内容

毎日が作業なので、教科書と辞書を持ってきて授業中に教科書の問題を解いてもらう。

内 容

- 第1回 自己紹介。(中学英語による自己アピールをしよう。)
- 第2回 Lesson 1 アルファベットの不思議(パスポートのサインを筆記体で書く。)
- 第3回 Lesson 2 I have no problems in …ing構文による英訳。
- 第4回 Lesson 3 The sooner, the better.の比較構文の英訳。
- 第5回 Lesson 4 時制(現在・過去・未来)のない日本語の英訳。
- 第6回 Lesson 5 不定詞(未来志向のニュアンスを学ぶ)
- 第7回 Lesson 6 受動態(主語が必要な英語)
- 第8回 Lesson 7 関係代名詞(後ろから修飾する英語)
- 第9回 Lesson 8 仮定法(シュミレーションが不得意な日本人)
- 第10回 Lesson 9 現在完了形(日本食の英語)
- 第11回 Lesson 10 It is easy …to …構文(There is 構文)
- 第12回 Lesson 11 現在進行形
- 第13回 Lesson 12 形容詞(英詩を作ってみよう)
- 第14回 Lesson 13 分詞構文(俵万智の短歌の英訳をしてみよう)
- 第15回 Lesson 14 これまで訳してきた短歌の英訳、作ってきた英詩をまとめてみよう。

授業以外での学習方法

文化的基礎知識を学んでいくので、衣食住の文化の違い、縮んでいく文化・広がっていく文化、将棋・チェスの文化など文化の違いをやさしい英語で説明できるように日ごろからチェックしてもらう。

教科書

Do You Know This?

著者: 杉山泰編

出版社: 朝日出版社

出版年: 2006年

ISBN:

参考書

「イギリス社会」入門

著者: コリン・ジョイス

出版社: NHK出版新書

出版年: 2011年

ISBN:

日本語は敬語があって主語がない

著者： 金谷武洋

出版社： 光文社新書

出版年： 2010年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (30)

参加度 (30)

毎回作業をやるので、欠席した学生は自宅で必ず教科書をやり、毎回提出させるプリントを遅れても提出すれば、評価する。
上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語IVB <a>

担当者 高居 佐紀

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 At an Airport Part 5 短文穴埋め問題攻略法
 - 第2回 At a Hotel Part 6 長文穴埋め問題攻略法
 - 第3回 On the Street Part 7 読解問題攻略法(1つの文書)
 - 第4回 At a Restaurant Part 7 読解問題攻略法(2つの文書)
 - 第5回 Shopping 基本文法をおさえる
 - 第6回 At a bank ポキャビルの方法
 - 第7回 Taking a Trip 音読の練習
 - 第8回 Seeing the Doctor スキミングの方法
 - 第9回 Renting an Apartment スキャニングの方法
 - 第10回 Sports よく出る設定を知る
 - 第11回 Job Hunting 効果的な時間の使い方
 - 第12回 Talking on the Phone 名詞と冠詞
 - 第13回 Appointments 注意すべき名詞の数
 - 第14回 Giving a Presentation 強調構文と倒置
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

Kick off for the TOEIC TEST

著者: 松岡 昇

出版社: 金星堂

出版年: 2006年

ISBN: 9.78476E+12

A Shorter Course in TOEIC TEST Grammar

著者: 小池 直己

出版社: 南雲堂

出版年: 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者: 小山克明

出版社: Z会

出版年: 2008年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語IVB **

担当者 溝部 芳子

テーマ

やさしい英語で情報発信しよう！

獲得目標

海外旅行、e-mail、アルバイト先などの実践的な場面で役立つ基礎的な英語のライティングスキルの獲得をめざす。

授業の内容

サンプル英文を読み、必須の文法事項を確認したうえで、毎回ライティングタスクに取り組みます。コースの終盤では書き溜めたタスクをもとに個人プレゼンテーションに挑戦します。

内 容

- 第1回 Warm-up. Unit 11: Job-Hunting
 - 第2回 Unit 12: Writing a Letter
 - 第3回 Unit 13: Giving Advice
 - 第4回 Review Practice (1)
 - 第5回 Unit14:Invitation
 - 第6回 Unit 15: Notice
 - 第7回 Unit 16: My History
 - 第8回 Review Practice (2)
 - 第9回 Unit17:Introducing Japanese Culture
 - 第10回 Unit18:If I were...
 - 第11回 Review Practice (3)
 - 第12回 Unit 19: Expressing Your Opinion
 - 第13回 Unit 20: Direction
 - 第14回 Review Practice (4)
 - 第15回 Presentation
-

授業以外での学習方法

授業内で指示します。

教科書

New English Composition Workbook

著者： Kazuyo Murata & Mami Otani

出版社： マクミランランゲージハウス

出版年： 2012.1.20

ISBN: 9.78478E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語IVB <c>

担当者 松村 優子

テーマ

英字新聞・英語ニュースの修得

獲得目標

英字新聞記事を題材にして、時事問題に関する関心を高め、新聞英語特有の構文、表現に慣れ親しむことを目指す。

授業の内容

毎回、英字新聞記事を読み、内容を確認し、英字新聞に特有な構文、表現を学習する。発表形式も採り入れる。下記の計画は予定であり、授業の進捗状況や受講生の希望により順序など変更することもある。

内 容

- 第1回 Introduction
 - 第2回 Chapter 11 From Both the East and the West
 - 第3回 Chapter 12 The Stronger, the Worse
 - 第4回 Chapter 13 Technology Inspired by Animals and Insects
 - 第5回 Chapter 14 Do You See Products' IDs?
 - 第6回 Chapter 15 Japanese Technology in Paris
 - 第7回 Chapter 16 Foreign Nurses Ready to Go
 - 第8回 Chapter 17 Smartphones Spying You
 - 第9回 Chapter 18 Fortifying against Major Earthquakes
 - 第10回 Chapter 19 Headache for World Natural Heritage
 - 第11回 Chapter 20 Study Harder, Read More!
 - 第12回 まとめ・復習
 - 第13回 まとめ・復習
 - 第14回 まとめ・復習テスト
 - 第15回 まとめ・復習テスト
-

授業以外での学習方法

指定箇所の予習

教科書

Insights 2013

著者： 村尾純子 他

出版社： 金星堂

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (5)

参加度 (10)

小テスト (50)

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語IVB <d>

担当者 川口 玲子

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 接続詞・前置詞(Part 5 対策)
 - 第2回 接続詞・接続副詞(Part 6 対策)
 - 第3回 主旨を素早くつかむ(Part 7 対策)
 - 第4回 2文書を関連させて解く(Part 7 対策)
 - 第5回 不定詞・動名詞(Part 5 対策)
 - 第6回 動詞の語法(Part 6 対策)
 - 第7回 難易度が高い語句を含む問題(Part 7 対策)
 - 第8回 現在分詞・過去分詞(Part 5 対策)
 - 第9回 総合問題(Part 6 対策)
 - 第10回 手紙(Part 7 対策)
 - 第11回 総合問題(Part 5 対策)
 - 第12回 言い換えされた答え(Part 7 対策)
 - 第13回 前置詞・前置詞句(Part 6 対策)
 - 第14回 情報量の多いメール・手紙(Part 7 対策)
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire

著者: ECC

出版社: ECC

出版年: 2012年

ISBN:

A shorter Course in TOEIC Test Grammar

著者: 小池 直己

出版社: 南雲堂

出版年: 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者: 小山克明

出版社: Z会

出版年: 2008年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語IVB <e>**

担当者 ソーソン マーカス

テーマ

Film and Acting Review

獲得目標

To study and research video movies for reading, writing and acting out parts of the film. Students will work on listening and pronunciation from video clips watching and acting out the character parts.

授業の内容

Vocabulary lessons will be developed from video scripts and acted out in class. Reading and writing exercises will also come from different video topics. This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Introduction, Class objectives.
 - 第2回 Journal Notebook #1 Written Into.
 - 第3回 Journal homework week 2 Story Notes.
 - 第4回 Video Story Dialogue
 - 第5回 Character Study
 - 第6回 Journal week 5 - Acting
 - 第7回 Story Review
 - 第8回 Pronunciation Practice
 - 第9回 Journal Week 8
 - 第10回 Summary of Story
 - 第11回 Final Journal 10
 - 第12回 Research Report
 - 第13回 Small Group Presentations
 - 第14回 Final Papers and Film.
 - 第15回 Acting Review
-

授業以外での学習方法

Video Research from internet. B5 Notebook Journal to be presented to class 10 times for a Journal grade.

教科書

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語IVB <f>

担当者 小川 享子

テーマ

TOEICテスト受験準備を介して実用的な英語力を養う。

獲得目標

TOEICテストにおけるリーディング力、文法力の養成、またそれを支える語彙力の養成を目的とする。

授業の内容

各章は1つのシチュエーションを想定し(例:Personnel 人事)、語彙の整理確認を行いながら、TOEIC testのリスニングからリーディングセクションの問題を解くようになっている。授業では問題を解き、要点を確認する。文法は、1つの文法項目での知識を確認し、問題演習を行う。各章ごとに語彙・文法確認リストを用意するので、最後にそれを使って復習を行う。

内 容

- 第1回 Unit 9 Personnel
 - 第2回 Unit 9 Personnel Unit 10 Finance
 - 第3回 Unit 10 Finance Unit 11 Sales Promotion
 - 第4回 Unit 11 Sales Promotion Unit 12 Purchasing
 - 第5回 Unit 12 Purchasing Unit 13 Employment
 - 第6回 Unit 13 Employment Unit 14 Training
 - 第7回 Unit 14 Training Unit 15 Management
 - 第8回 Unit 15 Management Review (Units 1~8)
 - 第9回 Review (Units 1~8)
 - 第10回 模擬テスト
 - 第11回 模擬テスト
 - 第12回 模擬テスト
 - 第13回 模擬テスト
 - 第14回 映画のシナリオに学ぶ英語
 - 第15回 映画のシナリオに学ぶ英語
-

授業以外での学習方法

各章ごとの語彙・文法リストの書き込み、復習

教科書

The Next Stage to the TOEIC Test : Pre-intermediate

著者: 鈴木薫、青谷法子、他

出版社: 金星堂

出版年: 2011(5版)

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 ()

小テスト (45)

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語IVB <g>**

担当者 クーラン コーリ

テーマ

Travel English

獲得目標

Continue to learn and improve on the basics of travel and survival English.

授業の内容

****This course will be taught in English**** We will continue to follow four young Japanese students as they travel abroad and introduce Japan to overseas guests. The course introduces key language needed for speaking English at home or abroad.

内 容

- 第1回 Welcome back, fall semester preview, and begin Unit 7 "Do you want to go to a concert?"
 - 第2回 Finish Unit 7
 - 第3回 Begin Unit 8 "I have to study."
 - 第4回 Finish Unit 8
 - 第5回 Begin Unit 9 "Did you go on the rollercoaster?"
 - 第6回 Finish Unit 9
 - 第7回 Review and reflection of Units 7 to 9
 - 第8回 Begin Unit 10 "I think I'm lost!"
 - 第9回 Finish Unit 10
 - 第10回 Begin Unit 11 "Have you been to Kyoto?"
 - 第11回 Finish Unit 11
 - 第12回 Begin Unit 12 "Are the hotdogs ready yet?"
 - 第13回 Finish Unit 12
 - 第14回 Review and reflection of Units 10 to 12
 - 第15回 Review and recap of semester
-

授業以外での学習方法

The English in this class is useful when traveling abroad or when communicating with foreigners in Japan, so use it whenever you can!

教科書

My First Passport 2

著者: Tanja McCandie

出版社: Oxford

出版年: 2006

ISBN: 9.78019E+12

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (10)

参加度 (20)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

aks202a457

In this semester, more emphasis will be put on in-class performance compared to the spring semester. 上記に加えて後期末
英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語IVB <h>

担当者 プライアンバスカウエル

テーマ

Expressing More of Your Ideas in English

獲得目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills and introduce cultural topics as appropriate.

授業の内容

内 容

- 第1回 classroom English
 - 第2回 introductions
 - 第3回 talking about health-A
 - 第4回 talking about health-B
 - 第5回 suggesting
 - 第6回 inviting
 - 第7回 travel English: restaurants-A
 - 第8回 travel English: restaurants-B
 - 第9回 talking about the past
 - 第10回 travel English: shopping
 - 第11回 giving advice
 - 第12回 talking about unreal situations
 - 第13回 talking about movies
 - 第14回 talking about TV
 - 第15回 review of topics
-

授業以外での学習方法

教科書

Talk a Lot: Book Two – Second Edition

著者: David Martin

出版社: EFL Press

出版年:

ISBN: 4.58024E+12

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語IVB** <i>

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Research a topic and express your findings in English

獲得目標

This course will aim to improve basic English speaking and writing skills and encourage academic curiosity and critical thinking by focusing on and sharing an individual research topic.

授業の内容

The course will be conducted in English, in a computer lab. Continuing students will continue to explore their topic from the first semester. Students will prepare weekly short talks and blog entries about their topic. We will also focus on various tools for autonomously improving your English speaking and writing skills.

内 容

- 第1回 Introduction + allotment of topics
 - 第2回 Keeping a research log
 - 第3回 Recording monologues
 - 第4回 Writing blog entries
 - 第5回 Pronunciation: tools & tactics
 - 第6回 Peer practice & Feedback
 - 第7回 Logging vocabulary
 - 第8回 Effective use of Internet translation
 - 第9回 Using writing feedback symbols
 - 第10回 Internet grammar reference tools
 - 第11回 Using Internet searches for language feedback
 - 第12回 Creating a class wiki
 - 第13回 Preparing your presentation
 - 第14回 Final Presentations (I)
 - 第15回 Final Presentations (II)
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (28)

参加度 (24)

小テスト ()

授業中発表等 (28)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語IVB <j>

担当者 中井 翔

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に 発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進捗等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 Part 5 短文穴埋め問題攻略法
 - 第2回 Part 6 長文穴埋め問題攻略法
 - 第3回 Part 3 読解問題攻略法(1つの文書)
 - 第4回 Part 4 読解問題攻略法(2つの文書)
 - 第5回 キーワードの捉え方
 - 第6回 スキミングの練習
 - 第7回 各パートの時間配分を知る
 - 第8回 設問の先読み
 - 第9回 スキャミングの練習
 - 第10回 頻出単語を知る
 - 第11回 E-mailを書いてみる
 - 第12回 リテリングの練習
 - 第13回 模擬試験 解答・解説 Part 1.2
 - 第14回 模擬試験 解答・解説 Part 3.4
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

An Intensive Approach to the TOEIC Test

著者: 松岡 昇

出版社: 金星堂

出版年: 2008年

ISBN: 9.78476E+12

A shorter Course in TOEIC Test Grammar

著者: 小池 直己

出版社: 南雲堂

出版年: 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者: 小山克明

出版社: Z会

出版年: 2008年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語IVB <k>

担当者 西村 尚人

テーマ

TOEIC対策を通じた英語運用能力の向上

獲得目標

TOEIC試験スコア50点アップを目指す

授業の内容

日常会話や娯楽、様々なビジネスシーンを含むテーマ別の素材を用い、TOEIC形式でのリーディング演習と各種アクティビティにより授業を展開する。同時に発信のための文法項目を総復習する。予定する授業は以下の通りであるが、受講生の学習状況を考慮して進度等を調整することがある。また別途、時事英語を適宜取り扱う。

内 容

- 第1回 接続詞・前置詞(Part 5 対策)
 - 第2回 接続詞・接続副詞(Part 6 対策)
 - 第3回 主旨を素早くつかむ(Part 7 対策)
 - 第4回 2文書を関連させて解く(Part 7 対策)
 - 第5回 不定詞・動名詞(Part 5 対策)
 - 第6回 動詞の語法(Part 6 対策)
 - 第7回 難易度が高い語句を含む問題(Part 7 対策)
 - 第8回 現在分詞・過去分詞(Part 5 対策)
 - 第9回 総合問題(Part 6 対策)
 - 第10回 手紙(Part 7 対策)
 - 第11回 総合問題(Part 5 対策)
 - 第12回 言い換えされた答え(Part 7 対策)
 - 第13回 前置詞・前置詞句(Part 6 対策)
 - 第14回 情報量の多いメール・手紙(Part 7 対策)
 - 第15回 総復習
-

授業以外での学習方法

毎回小テストを実施するとともに、単語等宿題を課す。

教科書

ECC TOEIC TEST CLINIC Sapphire

著者: ECC

出版社: ECC

出版年: 2012年

ISBN:

A shorter Course in TOEIC Test Grammar

著者: 小池 直己

出版社: 南雲堂

出版年: 2007年

ISBN: 9.78452E+12

新TOEIC Test レベル判定模試 3

著者: 小山克明

出版社: Z会

出版年: 2008年

ISBN: 9.78486E+12

参考書

成績評価

試験 (30)

小テスト (20)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語IVB <I>**

担当者 スミス ジョン

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

獲得目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の内容

This course will be taught in English. There are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

内 容

- 第1回 Summer vacation reports
 - 第2回 Describing characteristics and qualities
 - 第3回 Comparing different types of communication styles
 - 第4回 Halloween and superstitions
 - 第5回 Talking about weekend plans
 - 第6回 Making weather predictions
 - 第7回 Making comparisons
 - 第8回 Talking about clothing and shopping styles
 - 第9回 Healthy habits
 - 第10回 Making suggestions
 - 第11回 Evaluating one's lifestyle
 - 第12回 Interviewing for a job
 - 第13回 Christmas around the world
 - 第14回 Making financial choices
 - 第15回 Actions and consequences and course review
-

授業以外での学習方法

教科書

World English 1

著者: Martin Milner

出版社: Heinle Cengage

出版年: 2010

ISBN: 13:978-1-4240

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

aks202a462

上記に加えて前期末英語テスト20% The students need to show a positive desire to communicate in English. Preparation and completion of homework is also required.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語IVB <m>

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Using English for Communication

獲得目標

Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context

授業の内容

This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation and Summer vacation
 - 第2回 Your Family
 - 第3回 Typical families
 - 第4回 Making generalizations
 - 第5回 Sports
 - 第6回 Fitness
 - 第7回 Talking about quantity and frequency
 - 第8回 Review
 - 第9回 Leisure activities
 - 第10回 Weekends
 - 第11回 Vacations
 - 第12回 Your neighborhood
 - 第13回 Places
 - 第14回 Complaints
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

教科書

Interchange I Student's Book A(fourth Edition)

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

Interchange I Workbook A(4th Edition)

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（35）

授業中課題（0）

授業中発表等（0）

参加度（45）

「英語テスト20% ※クラスによりTOEIC-IPまたはCASECを受験します。」 Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities. 上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20% ※クラスによりTOEIC-IPまたはCASECを受験します。上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語IVB <n>**

担当者 フリンハンナマイケル

テーマ

Using English for Communication

獲得目標

Improved speaking, listening and writing skills in a cross cultural communicative context

授業の内容

This course will be taught in English.

内 容

- 第1回 Orientation and Summer vacation
 - 第2回 Your Family
 - 第3回 Typical families
 - 第4回 Making generalizations
 - 第5回 Sports
 - 第6回 Fitness
 - 第7回 Talking about quantity and frequency
 - 第8回 Review
 - 第9回 Leisure activities
 - 第10回 Weekends
 - 第11回 Vacations
 - 第12回 Your neighborhood
 - 第13回 Places
 - 第14回 Complaints
 - 第15回 Review
-

授業以外での学習方法

教科書

Interchange I Student's Book A(fourth Edition)

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

Interchange I Workbook A(4th Edition)

著者: Jack C. Richards

出版社: Cambridge University Press

出版年: ISBN: 9.78052E+12

参考書

成績評価

試験 (0)

小テスト (35)

授業中課題 (0)

授業中発表等 (0)

参加度 (45)

「英語テスト20% ※クラスによりTOEIC-IPまたはCASECを受験します。」 Participation score is a composite score that includes homework and participation in class activities. Quizzes include traditional discrete item grammar and vocabulary tests, in class speaking and listening evaluations, class reports, roleplays and recall activities. 上記に加え、学期末の土曜日に実施予定の英語テスト20% ※クラスによりTOEIC-IPまたはCASECを受験します。上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **英語IVB <o>**

担当者 スミス ジョン

テーマ

This is an English communication course that will focus on speaking and listening skills to improve communication ability.

獲得目標

By the end of the semester, students will have increased their confidence in their ability to communicate in English with the instructor and their classmates.

授業の内容

This course will be taught in English. There are a variety of motivating topics that will be meaningful to the learners in their everyday lives.

内 容

- 第1回 Summer vacation reports
 - 第2回 Describing characteristics and qualities
 - 第3回 Comparing different types of communication styles
 - 第4回 Halloween and superstitions
 - 第5回 Talking about weekend plans
 - 第6回 Making weather predictions
 - 第7回 Making comparisons
 - 第8回 Talking about clothing and shopping styles
 - 第9回 Healthy habits
 - 第10回 Making suggestions
 - 第11回 Evaluating one's lifestyle
 - 第12回 Interviewing for a job
 - 第13回 Christmas around the world
 - 第14回 Making financial choices
 - 第15回 Actions and consequences and course review
-

授業以外での学習方法

教科書

World English 1

著者: Martin Milner

出版社: Heinle Cengage

出版年: 2010

ISBN: 13:978-1-4240

参考書

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

aks202a465

上記に加えて前期末英語テスト(TOEIC) 20% The students need to show a positive desire to communicate in English.
Preparation and completion of homework is also required.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語IVB <p>

担当者 プライアンバスカウエル

テーマ

Expressing More of Your Ideas in English

獲得目標

The goal of this course is to improve students' speaking/listening skills.

授業の内容

内 容

- 第1回 classroom English
 - 第2回 introductions
 - 第3回 talking about health-A
 - 第4回 talking about health-B
 - 第5回 suggesting
 - 第6回 inviting
 - 第7回 travel English: restaurants-A
 - 第8回 travel English: restaurants-B
 - 第9回 talking about the past
 - 第10回 travel English: shopping
 - 第11回 giving advice
 - 第12回 talking about unreal situations
 - 第13回 talking about movies
 - 第14回 talking about TV
 - 第15回 review of topics
-

授業以外での学習方法

教科書

Talk a Lot: Book Two – Second Edition

著者: David Martin

出版社: EFL Press

出版年:

ISBN: 4.58024E+12

参考書

成績評価

試験 (20)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

「英語テスト20% ※クラスによりTOEIC-IPまたはCASECを受験します。」上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 英語IVB <R>

担当者 杉山 泰

テーマ

日本文化を基礎英語で紹介する

獲得目標

日本人が海外に出る場合、まずパスポート取得が必要だ。日本人であることを日本国は保証してくれる。北朝鮮以外にはこのパスポートは有効、と書かれている。次は、日本語だけでは193か国の人々と理解しあうことができないことを学び、そのために英語を第二言語として学ばざるをえないことを学ぶ。なぜ英語が必要か、さえ分かれば、中学英語の復習で十分。Basic Englishを学んでもらう。

授業の内容

内 容

- 第1回 英語で自己紹介、英語で「履歴書」を書く。
- 第2回 Unit 1 Graduation 大学卒業と就職活動(日本・アメリカ・英国)
- 第3回 Unit 2 Smiling Faces 7回転職するアメリカ、日本も3/4が転職
- 第4回 Unit 3 Farewell 学士号、修士号をとって、就職先は？
- 第5回 Unit 4 Japanese 日本語は特殊で難しい？
- 第6回 Unit 5 Southeast Asia 3億人が英語を学んでいる中国の今
- 第7回 Unit 6 Sport Journalism スポーツ情報はほとんどが英語
- 第8回 Unit 7 Homesick 世界で働く若者のホームシック問題
- 第9回 Unit 8 Culture Shock 中国人が世界中に進出
- 第10回 Unit 9 Studying Abroad 米国留学50%減日本人・90%増インド
- 第11回 Unit 10 Denmark 北欧人はなぜ英語が得意？
- 第12回 Unit 11 A Helicopter Pilot 英国では5万ポンドかかるので空軍に
- 第13回 Unit 12 Bicycling 車社会から自転車社会へ
- 第14回 Unit 14 Reporter 世界の事件取材する新聞記者
- 第15回 最終回 各自世界193か国で英語がなぜ必要なのか、英語で書いてもらう。

授業以外での学習方法

各自、自宅でインターネットを使って、観光地のホームページを検索してもらう。

教科書

Let's Talk with Friends Around the World

著者： 行時潔ほか

出版社： 松柏社

出版年： 2012年

ISBN:

参考書

日本語を「外」から見る

著者： 佐々木瑞枝

出版社： 小学館新書

出版年： 2009年

ISBN:

オリンピックと商業主義

著者： 小川勝

出版社： 集英社新書

出版年： 2012年

ISBN:

ルポ貧困大国アメリカ

著者： 堤未果

出版社： 岩波新書

出版年： 2008年

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

自宅学習も重視する。提出物を遅れて出した学生も評価する。上記に加えて後期末英語テスト20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ〈a〉

担当者 森田 周

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅱ **

担当者 福田 雅子

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅱ <C>**

担当者 森田 周

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <d>

担当者 福田 雅子

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ:数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅱ <e>**

担当者 森田 周

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅱ <f>**

担当者 福田 雅子

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅱ <g>**

担当者 森田 周

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅱ <h>**

担当者 井上 薫

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <i>

担当者 森田 周

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ:数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅱ <J>**

担当者 井上 薫

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <k>

担当者 森田 周

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ:数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅱ<I>**

担当者 井上 薫

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ:数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅱ <m>**

担当者 福田 雅子

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <n>

担当者 井上 薫

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅱ <○>**

担当者 福田 雅子

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅱ <p>**

担当者 井上 薫

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <q>

担当者 福田 雅子

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索:検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ):著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ:数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ:数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース:表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理:汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ:メールの活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ:コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現:ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現:図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ:作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅱ <r>**

担当者 井上 薫

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ〈s〉

担当者 森田 周

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ <t>

担当者 井上 薫

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得していく。

内 容

- 第1回 情報活用力とは
- 第2回 情報収集とは、様々な情報収集方法 情報活用力診断テストRasti(1回目)
- 第3回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第4回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第5回 数値分析Ⅰ: 数値データからデータ全体の特性を知り、表計算ソフトを利用してデータを加工する。
- 第6回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第7回 データベース: 表計算ソフトのデータベース機能を用いて、データベースの概要を理解する。
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第13回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第14回 これまでのまとめと課題の実施 情報活用力診断テストRasti(2回目)
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 作成したプレゼンテーション資料による発表と評価

授業以外での学習方法

教科書

考える 伝える 分かちあう 情報活用力(情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む)

著者: noa出版

出版社: noa出版

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

小テスト ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本事情Ⅱ <a>

担当者 辻野 里枝

テーマ

さまざまなデータや映像から日本の社会や文化を知る

獲得目標

日本の社会や文化について理解を深める。自分の意見を日本語で述べることにより日本語表現能力の向上を目指す。

授業の内容

毎回テーマに沿った資料を提示し、現在の日本の姿を理解する。また自国との比較、意見を日本語で表現する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 娯楽
 - 第3回 健康
 - 第4回 観光
 - 第5回 環境
 - 第6回 祝日
 - 第7回 学校行事
 - 第8回 就職活動
 - 第9回 マナー
 - 第10回 贈答
 - 第11回 流行
 - 第12回 ニュース
 - 第13回 縁起
 - 第14回 DVD鑑賞
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

学習方法 日ごろから新聞、ニュースなどに関心を持ち、情報獲得を心がけること

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本事情IV**

担当者 辻野 里枝

テーマ

アンケート調査により日本の大学生の現状を知る

獲得目標

アンケート調査の方法を学び、受講生自ら調査、発表を行うことにより、現在の日本人学生を知るとともに、日本語の運用能力を伸ばすことを目標とする

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 やさしいアンケート実施
 - 第3回 アンケートの注意点、テーマ決定
 - 第4回 アンケートの作成
 - 第5回 アンケートの再校正
 - 第6回 図表の種類、データの表し方
 - 第7回 図表の説明(個人発表)
 - 第8回 アンケートの分析、考察の方法
 - 第9回 アンケートの集計、分析、考察の実施
 - 第10回 スライドの作成
 - 第11回 スライドの原稿を考える
 - 第12回 発表1
 - 第13回 発表2
 - 第14回 発表の反省
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 倫理学概論 <a>

担当者 安部 彰

テーマ

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。

獲得目標

倫理的な考え方を身につけることを目標とする。

授業の内容

近代以降の倫理学の学説を中心として、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考える上で倫理的な思考法の意義と重要性を知る。

内 容

- 第1回 イン트로ダクション——倫理学とは何か
 - 第2回 倫理学の基礎
 - 第3回 近代の倫理学
 - 第4回 功利主義(1)——功利主義とは何か？
 - 第5回 功利主義(2)——功利主義の意義と限界
 - 第6回 義務論(1)——カントの倫理学
 - 第7回 義務論(2)——義務論の意義と限界
 - 第8回 義務論と功利主義の展開
 - 第9回 自由主義
 - 第10回 自由と責任
 - 第11回 現代正義論(1)——その基本的発想
 - 第12回 現代正義論(2)——平等主義と分配
 - 第13回 現代正義論(3)——正義論への批判
 - 第14回 正義論の展開
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

授業時間外における講義の復習および関連文献の読書を推奨する。

教科書

参考書

高校生と大学一年生のための倫理学講義

著者： 藤野 寛

出版社： ナカニシヤ出版

出版年： 2011

ISBN： 9.78478E+12

プレップ倫理学

著者： 柘植尚則

出版社： 弘文堂

出版年： 2010

ISBN： 9.78434E+12

倫理問題101問

著者： M・コーエン

出版社： 筑摩書房

出版年： 2007

ISBN： 9.78448E+12

功利主義入門

著者： 児玉聡

出版社： 筑摩書房

出版年： 2012

ISBN： 9.78448E+12

ここからはじまる倫理

著者： A・ウェストン

出版社： 春秋社

出版年： 2004

ISBN： 4-393-32304-1

成績評価

試験 (100)

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

出席が総授業数の3分の2に満たないものは受験資格をえられない(つまり評価対象外とする)。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **倫理学概論 **

担当者 碓井 敏正

テーマ

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。

獲得目標

倫理的な考え方を身につけることを目標とする。

授業の内容

近代以降の倫理学の学説を中心として、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考える上で倫理的な思考法の意義と重要性を知る。

内 容

- 第1回 イントロダクション——倫理学とは何か
- 第2回 倫理学の基礎
- 第3回 近代の倫理学
- 第4回 功利主義(1)——功利主義とは何か？
- 第5回 功利主義(2)——功利主義の意義と限界
- 第6回 義務論(1)——カントの倫理学
- 第7回 義務論(2)——義務論の意義と限界
- 第8回 義務論と功利主義の展開
- 第9回 自由主義
- 第10回 自由と責任
- 第11回 現代正義論(1)——その基本的発想
- 第12回 現代正義論(2)——平等主義と分配
- 第13回 現代正義論(3)——正義論への批判
- 第14回 正義論の展開
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

『正義 —現代社会の公共哲学を求めて—』

著者: 平井亮輔 編 若松良樹・服部高宏・那須耕介・植木一幹・玉木秀敏・高井裕之・中山竜一 著

出版社: 嵯峨野書院

出版年:

ISBN:

他は授業内で適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト (70)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本人と宗教**

担当者 橋本 章彦

テーマ

日本人はの宗教観の原理的性格を考える

獲得目標

日本人は、無宗教だと言われる。確かに西欧のキリスト教的な意味での「宗教」は存在しなかったかもしれない。だが仏教は確かに日本に定着したし、また様々な事象に対する「信仰」というものがなかったわけではない。日本人もやはり信心深い性格を強烈に有していたのである。その意味では「宗教」は確かにあったと言えるだろう。だが、今日では科学的な合理性を重んじるが故に本来的に不合理な面を持つ「宗教」や「信仰」が社会全体で急激に希薄になっている。だが人間はすぐれて宗教的な性格を持った存在でもある。結局は日常において宗教もしくは宗教的なものに触れざるを得ないといっても過言ではない。一方で宗教を否定しつつも他方ではそれを無視し得ないのである。そうした矛盾が今日起きている問題の背景のひとつにあるといってよい。本講義では、日本人の宗教観を支える原理的な側面を探り出し、人は宗教とどのように関わらなければならないのかについて考えてみたい。したがって諸君の到達目標は、一つには日本人の宗教観の原理的側面を知ることであり、二つには自分たちが宗教とどのように関係を取り結ぶべきかについて一定の考えを持つ、ということになる。

授業の内容

生活の中にあるさまざまな宗教現象を材料として上記の目標に近づきたい。

内 容

- 第1回 宗教をどのように枠づけるか
- 第2回 日本人の宗教観の原理的側面をさぐる(1)—タマ・盆に学ぶ—
- 第3回 日本人の宗教観の原理的側面をさぐる(2)—カミ・仏教公伝に学ぶ—
- 第4回 観音と地蔵(1)観音の誘惑—庶民にとっての観音信仰
- 第5回 観音と地蔵(2)野の石仏が「地蔵」と呼ばれる理由
- 第6回 水神の制御と仏教的神(1)—寺院創建伝説に探る—
- 第7回 水神の制御と仏教的神(2)—寺院創建伝説に探る—
- 第8回 福の神と日本人(1)—総論・京洛の福神信仰—
- 第9回 福の神と日本人(2)—毘沙門天信仰・起源と歴史的展開—
- 第10回 福の神と日本人(3)—毘沙門天信仰・仏教守護神から福の神へ—
- 第11回 福の神と日本人(4)—夷信仰の序論的考察—
- 第12回 眼の霊力について考える—一つ目の鬼、節分・放相氏、そして写楽包介へ 付・仏教の天眼通と明恵上人
- 第13回 盗む空海—神話的空海の仏教伝承
- 第14回 日本人のあの世—日本人の他界観はどのように変わったか
- 第15回 復習とまとめ

授業以外での学習方法

宗教学の基礎的な知識を得てほしい。また日常のなかで折に触れて宗教と自身の関係について考えてほしい。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

宗教学

著者: 岸本英夫

出版社: 大明堂

出版年: 1991

ISBN:

宗教学入門

著者： 棚次正和・山中弘 編著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2005

ISBN：

日本人の一生〈上〉—初心者のための宗教民俗学入門

著者： 吉田清

出版社： 清文堂出版

出版年： 2009

ISBN：

日本人の一生〈下〉—初心者のための宗教民俗学入門

著者： 吉田清

出版社： 清文堂出版

出版年： 2009

ISBN：

その他は授業内で指示。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ジェンダー研究**

担当者 芝原 妙子

テーマ

ジェンダーは人種、民族、階級、社会、文化、宗教とともに、人間の歴史的経験を作り上げる最も基本的な要素である。この授業では社会・文化・政治・宗教・教育において、ジェンダーがどのように作用してきたかを考察する。また、人間の差異によって作りだされる支配関係を明らかにするジェンダーの視点を用いて今日的な課題を考える。

獲得目標

ジェンダーに関する基本的な概念を理解すると共に、ジェンダーの視点を用いて歴史・文化・社会を理解する力を養うことを目的とする。

授業の内容

講義中心の授業である。テキストは用いず講義に必要な資料を適時配布する。その資料に基づいての予習が講義の理解のために不可欠である。また講義の理解を深めるため映像資料を用いることがある。講義中に配布するコメント用紙への記入を求める。コメントの内容は評価の対象となる。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、ジェンダー史・ジェンダー研究の概観
 - 第2回 ジェンダー研究キー・コンセプト
 - 第3回 ジェンダーと家族 (1)
 - 第4回 ジェンダーと家族 (2)
 - 第5回 ジェンダーと法・社会規範
 - 第6回 ジェンダーと宗教
 - 第7回 ジェンダーと戦争
 - 第8回 ジェンダーと戦争
 - 第9回 ジェンダーと政治
 - 第10回 ジェンダーと平和運動
 - 第11回 ジェンダーと平和運動
 - 第12回 ジェンダーと労働・経済
 - 第13回 ジェンダーと労働・経済
 - 第14回 ジェンダーとセクシュアリティ
 - 第15回 まとめ ジェンダー研究の応用
-

授業以外での学習方法

日常から授業内容に関連するメディア(新聞・雑誌・報道番組など)に目を通す。授業中に紹介された参考文献を読み進めること。

教科書

参考書

女性の目からみたアメリカ史

著者: エレン・キャロル・ディチュボイス、リン・ディメニル

出版社: 明石書店

出版年: 2009

ISBN:

ジェンダーで学ぶ社会学

著者: 伊藤公雄、牟田和恵編

出版社: 世界思想社

出版年: 2006

ISBN:

ジェンダーから世界を読むII

著者： 中野知律、越智博美編

出版社： 明石書店

出版年： 2008

ISBN：

知らないと恥ずかしいジェンダー入門

著者： 加藤秀一

出版社： 朝日新聞社

出版年： 2006

ISBN：

近代日本女性論の系譜

著者： 金子幸子

出版社： 不二出版

出版年： 1999

ISBN：

アメリカ・ジェンダー研究入門

著者： 有賀夏紀、小檜山ルイ編

出版社： 青木書店

出版年： 2010

ISBN：

成績評価

試験（50）

小テスト（）

授業中課題（50）

授業中発表等（）

参加度（）

授業中課題50%は、講義時に提出を求めるコメントを意味する。試験50%は中間試験と期末レポート試験を意味する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **宗教学概論**

担当者 橋本 章彦

テーマ

宗教と向き合うより良き方法を考える

獲得目標

宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。

授業の内容

以下の予定で授業を行う

内 容

- 第1回 総論Ⅰ 宗教と宗教学—宗教にどのようにアプローチするか—
- 第2回 総論Ⅱ 宗教をどのように定義するか
- 第3回 総論Ⅲ 宗教の構造と機能
- 第4回 総論Ⅳ 個人において宗教はどのように顕れるか—信仰ということ—
- 第5回 総論Ⅴ 宗教現象の諸相—祈るということ—
- 第6回 総論Ⅵ 宗教の人間観と世界観
- 第7回 各論Ⅰ(1) 仏教—釈迦とその後の展開—
- 第8回 各論Ⅰ(2) 仏教—日本仏教—
- 第9回 各論Ⅰ(3) 仏教教義の基礎
- 第10回 各論Ⅰ ユダヤ教とキリスト教
- 第11回 各論Ⅰ イスラーム
- 第12回 各論Ⅱ 道教と儒教
- 第13回 各論Ⅲ 民俗信仰—神道—
- 第14回 各論Ⅳ 新宗教—天理教と大本教など—
- 第15回 各論Ⅴ まとめ—宗教とどのように向き合うか
- 第16回

授業以外での学習方法

「日本人と宗教」を同時に受講することが望ましい

教科書

なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

宗教学

著者: 岸本英夫

出版社: 原書房

出版年: 2004

ISBN:

宗教学入門

著者： 棚次政和 他編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2005

ISBN:

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

参加度とは出席のこと

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学概論**

担当者 濱田 智崇

テーマ

心理学の諸分野に触れ基礎的な知識を身につける

獲得目標

「こころ」は誰もが毎日働かせているものであり、対人関係や社会生活について考える上でも「こころ」を抜きにすることはできない。こうした身近な存在であるがゆえに、関心を持つ人は多いが、誤解されることが表層的な理解にとどまることも多いと考えられる。そこでこの講義では、自然科学の一種としての心理学の全体像を概観する。そのことで、受講者の持っていた興味や関心が正確な知識とつながり、さらに自らで考えることができるようになるための基礎づくりを目標とする。

授業の内容

生理、知覚、認知、社会、教育、発達、人格、臨床といった心理学の諸分野にわたって広く概説し、心理学の基礎的な知識や、その考え方を身につけられるように進めていく。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 「こころ」とは何か? 「心理学」とは何か?
 - 第2回 こころとからだ～生きている上で実感すること
 - 第3回 「動物」としての人間
 - 第4回 「機械」としての人間～行動主義の心理学
 - 第5回 学習と知能
 - 第6回 認知と記憶
 - 第7回 子どものこころの世界
 - 第8回 こころの成長とは?
 - 第9回 ライフサイクルから人生を考える
 - 第10回 社会や集団を考える心理学
 - 第11回 対人関係を考える心理学
 - 第12回 パーソナリティとは?～自分の性格について考える
 - 第13回 感情とは何か?～自分の感情に気づく
 - 第14回 カウンセリングの基礎
 - 第15回 まとめ
 - 第16回 期末試験
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読んでおくと理解が深まる

教科書

授業中にプリントを配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (0)

参加度 (20)

小テスト (20)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報社会論 **

担当者 三輪 幸一

テーマ

IT社会におけるエンドユーザとしての基礎知識

獲得目標

経営戦略, システム企画, マネジメント, ハードウェア, ネットワーク, 情報セキュリティ, 著作権, 情報分析などの手法に関する基礎知識を修得すること

授業の内容

IT技術の進展した高度情報化社会に対処していく上で、経営戦略、システム企画、マネジメント、ハードウェアやネットワークのしくみに関する基礎的な知識は不可欠となっています。また個人情報の漏洩やコンピュータウイルスなどの脅威にさらされており、情報セキュリティに関する知識も不可欠となっています。これらについて概説するとともに、国家資格である情報処理技術者試験のITパスポート試験レベルを視野に入れた情報技術の基礎知識や情報分析の手法についても概説します。講義内容の理解を深めるため、ほぼ毎回授業の最後に小テスト形式での課題の提出が必要です。

内 容

- 第1回 経営管理と組織論 業務の把握と分析手法
- 第2回 経営戦略の手法
- 第3回 システム戦略とシステム企画
- 第4回 プロジェクトマネジメントとサービスマネジメント
- 第5回 コンピュータシステムⅠ・コンピュータの構成要素(メモリ, CPU, バスシステムなど)
- 第6回 コンピュータシステムⅡ コンピュータの構成要素(補助記憶装置, 入出力インタフェースなど)
- 第7回 コンピュータシステムⅢ・ソフトウェアシステム(OS, ファイルシステムなど)
- 第8回 ネットワークの構成としくみⅠ・IPアドレスとネットワークのしくみ
- 第9回 ネットワークの構成としくみⅡ・ネットワークのプロトコルやネットワーク構成に必要なサーバなど
- 第10回 ホームページやソフトウェアの著作権・コンピュータウイルスの種類と対策
- 第11回 情報セキュリティ・アクセス権, 認証, 暗号化, デジタル署名, メッセージ認証・ネットワークのセキュリティ対策・情報漏えい対策(フィッシング対策, スパイウェア対策など)
- 第12回 情報分析の手法Ⅰ(決定表とDFDによる分析)
- 第13回 情報分析の手法Ⅱ(E-R図による分析)
- 第14回 情報分析の手法Ⅲ(ポートフォリオ図による分析, SWOT分析)
- 第15回 情報分析の手法Ⅳ アローダイアグラムによる日程計画

授業以外での学習方法

ITパスポート試験を受験する場合は、テキストのITパスポート試験の参考書を完全に精読し理解しておく必要があります。また70%は過去問から同様な問題が出題されるので過去問題集により傾向把握し問題練習するのが効果的です。

教科書

授業中にレジュメや小テスト形式の課題のプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ITパスポート スーパー合格本(CBT対応)

著者: 三輪幸市(ペンネーム)

出版社: 秀和システム

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (80)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (20)

授業中の小テスト形式の課題による平常点評価のウエイトが高いので(80%)、やむを得ぬ理由があり授業に欠席した場合は、申し出て小テスト形式の課題を受取り、指定の提出期限までに課題を提出するようにして下さい。

参考URL

ITパスポート試験の過去問解説

http://www.osk.3web.ne.jp/~a0mediac/index_k.htm

ITパスポート試験の過去問を分野別に解説している携帯用サイトの紹介(私のWEBサイトからQRコード)

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Aa〉

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **数学演習Ⅱ〈Ab〉**

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認
- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Ac〉

担当者 中西 隆

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Ad〉

担当者 古田 薫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **数学演習Ⅱ〈Ae〉**

担当者 奥田 久美子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Af>

担当者 木原 雅子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
 - 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
 - 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
 - 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
 - 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
 - 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
 - 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
 - 第8回 平面図形(1)～平行線と角
 - 第9回 平面図形(2)～円とその性質
 - 第10回 平面図形(3)～合同と相似
 - 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
 - 第12回 図形と計量(2)～応用問題
 - 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
 - 第14回 空間図形(2)～応用問題
 - 第15回 まとめと到達度の確認
-

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Ag〉

担当者 関 浩成

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **数学演習Ⅱ <Ba>**

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Bb>

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
 - 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
 - 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
 - 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
 - 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
 - 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
 - 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
 - 第8回 平面図形(1)～平行線と角
 - 第9回 平面図形(2)～円とその性質
 - 第10回 平面図形(3)～合同と相似
 - 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
 - 第12回 図形と計量(2)～応用問題
 - 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
 - 第14回 空間図形(2)～応用問題
 - 第15回 まとめと到達度の確認
-

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Bc〉

担当者 中西 隆

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **数学演習Ⅱ <Bd>**

担当者 古田 薫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
 - 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
 - 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
 - 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
 - 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
 - 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
 - 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
 - 第8回 平面図形(1)～平行線と角
 - 第9回 平面図形(2)～円とその性質
 - 第10回 平面図形(3)～合同と相似
 - 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
 - 第12回 図形と計量(2)～応用問題
 - 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
 - 第14回 空間図形(2)～応用問題
 - 第15回 まとめと到達度の確認
-

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈Be〉

担当者 奥田 久美子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認
- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Bf>

担当者 木原 雅子

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
 - 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
 - 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
 - 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
 - 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
 - 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
 - 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
 - 第8回 平面図形(1)～平行線と角
 - 第9回 平面図形(2)～円とその性質
 - 第10回 平面図形(3)～合同と相似
 - 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
 - 第12回 図形と計量(2)～応用問題
 - 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
 - 第14回 空間図形(2)～応用問題
 - 第15回 まとめと到達度の確認
-

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <Bg>

担当者 関 浩成

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **数学演習Ⅱ <a>**

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <c>

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ <d>

担当者 白井 安夫

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 数学演習Ⅱ〈e〉

担当者 青木 寛史

テーマ

社会に出るために必要な数学力を身につける

獲得目標

数学演習Ⅰに引き続き、就職活動の際に困らないように中学・高校で学んだ数学の基礎知識を再確認するとともに、その知識を自由に活用することができる力を身につけることを目標とします。

授業の内容

授業の内容は数学演習Ⅰの続きとなります。授業スケジュールは、以下に掲げたものを標準としますが、担当する教員によって、順序や詳細が若干異なる場合があります。また、受講生の理解度に応じて内容を変更することもあります。

内 容

- 第1回 比・比例・割合(1)～考え方とその基礎
- 第2回 比・比例・割合(2)～応用問題
- 第3回 論理と集合(1)～補集合・和集合・積集合
- 第4回 論理と集合(2)～命題と論理
- 第5回 場合の数と確率(1)～場合の数
- 第6回 場合の数と確率(2)～順列と組み合わせ
- 第7回 場合の数と確率(3)～確率とその応用
- 第8回 平面図形(1)～平行線と角
- 第9回 平面図形(2)～円とその性質
- 第10回 平面図形(3)～合同と相似
- 第11回 図形と計量(1)～面積・三平方の定理
- 第12回 図形と計量(2)～応用問題
- 第13回 空間図形(1)～球の表面積と体積、角錐・円錐の体積
- 第14回 空間図形(2)～応用問題
- 第15回 まとめと到達度の確認

授業以外での学習方法

毎回、宿題を出しますので、翌週までに必ず解答してくるようにしてください。また、最近では中学校、高校の数学を復習するための教科書や問題集が多数出版されていますので、より力を付けたい人は、これらを利用して自学自習してください。

教科書

スタートⅡ 京都橘のポートフォリオ

著者： 京都橘大学

出版社： 京都橘大学生協

出版年： 2012

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅲ

担当者 松永 順子

テーマ

Excelを使用し、業務データを目的に応じて活用・分析する方法を習得する。

獲得目標

Excelを使用し、効率の良い業務データの処理分析、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT利活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』資格の取得をめざす。

授業の内容

現在、最もシェアの高い表計算ソフト「Microsoft Excel」を使用し、データの集計処理やグラフ化、データベース分析などを行い、効率よく目的に応じた資料を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、取引の仕組みや業務データの流れなどもあわせて学習し、総合的なデータの処理分析能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT利活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(データ活用)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終回のみ1～3講時とする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは／表作成の基本
- 第2回 実務における表作成と編集・・・データ入力、修正、削除、コピー、オートフィル、書式設定
- 第3回 実務における表計算・・・数式、関数 知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア(各装置の役割)
- 第4回 実務における表計算・・・相対参照、絶対参照 知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア(記憶装置、情報の量と単位)
- 第5回 知識科目対策(共通分野)・・・ソフトウェア(OS、アプリケーション)
- 第6回 実技科目対策・・・問題1(行挿入、ピボットテーブル、複合グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ファイルとフォルダ
- 第7回 知識科目対策(共通分野)・・・データベース・XML、ネットワーク基礎、インターネット
- 第8回 実技科目対策・・・問題2(並べ替え、集計、関数、グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ネット社会、法律、コンプライアンス
- 第9回 知識科目対策(共通分野)・・・取引の仕組みと業務データの流れ
- 第10回 実技科目対策・・・問題3(関数、複合グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ビジネスデータの取り扱い(会計・財務)
- 第11回 実技科目対策・・・問題4(列挿入、書式コピー、関数、ピボットテーブル、並べ替え、グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・ビジネスデータの取り扱い(業務分析・業務計画)
- 第12回 実技科目対策・・・問題5(関数、ピボットテーブル、グラフ) 知識科目対策(共通分野)・・・電子商取引、電子政府・電子自治体、データベース管理
- 第13回 検定対策／総合演習・・・模擬試験-1
- 第14回 検定対策／総合演習・・・模擬試験-2
- 第15回 課題

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

教科書

日商PC検定試験 データ活用 3級 完全マスター Excel2010対応

著者： 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社： FOM出版

出版年：

ISBN： 9.78489E+12

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理演習Ⅳ**

担当者 松永 順子

テーマ

Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。

獲得目標

Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』資格の取得をめざす。

授業の内容

現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは／基本的な文書編集
- 第2回 ビジネス文書の基本・・・種類、作成上の留意点
- 第3回 ビジネス文書(社内文書)・・・特徴、社内連絡文書・報告書・議事録・提案書の書き方
- 第4回 ビジネス文書(社外文書)・・・特徴、社外連絡文書の書き方
- 第5回 知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書の基本 知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア
- 第6回 ビジネス文書のライティング技術(日本語の基本)・・・文法、用字・用語、漢字と平仮名の使い分け、数字の書き方
- 第7回 ビジネス文書のライティング技術(文章表現の基本)・・・わかりやすい文章表現、誤解を招かない文章表現、正しい日本語 知識科目対策(共通分野)・・・ソフトウェア
- 第8回 ビジネス文書のライティング技術・・・文章表現の応用、文章構成、敬語 知識科目対策(共通分野)・・・データベース
- 第9回 電子メールのライティング技術・・・電子メールの基本、文例とポイント 知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書のライティング技術 知識科目対策(共通分野)・・・ネットワーク
- 第10回 知識科目対策(文書作成分野)・・・電子メールのライティング技術 知識科目対策(共通分野)・・・インターネット
- 第11回 ビジネス図解の基本・・・種類と特長、基本パターン、作成方法、グラフの利用
- 第12回 ビジネス文書の管理・・・文書管理の基本、文書のライフサイクルと各プロセスの役割 知識科目対策(共通分野)・・・トラブル対応、ネット社会、法律、コンプライアンス
- 第13回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-1
- 第14回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-2
- 第15回 課題

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

教科書

日商PC検定試験 文書作成 3級 完全マスター Word2010対応

著者： 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社： FOM出版

出版年：

ISBN： 9.78489E+12

日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト

著者： 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社： FOM出版

出版年：

ISBN： 4-89311-637-1

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習VI

担当者 三輪 幸一

テーマ

プレゼンテーションとマルチメディア素材の作成

獲得目標

PwerPointによるプレゼンテーション作成及びFlashによるアニメーションの作成やSkechUpによる3D作成ができることを目指す

授業の内容

授業では先ずPowerPointを活用したプレゼンテーションの作成を行います。更にコンピュータ上での静止画像のマルチメディア表現の技術としてフォトレタッチ(画像の編集・合成)、アニメーション動画素材の作成技術としてFlashアニメーション、三次元マルチメディア素材の作成技術として3Dグラフィックス作成の基礎技術を修得します。ホームページ上で動きを与えるアニメーションとしてFlashアニメーションがよく使われています。Flashアニメーションにより、映画のタイトルロゴのような迫力ある演出や迫力あるリアルなアニメーションを作成できます。FlashアニメーションはWebデザイナーの基礎技術にもなっています。授業ではホームページ上のアニメーションとして人気のあるFlashアニメーションの作成のしかたを修得します。授業では「FlashアニメーションやFlashロゴデザインと表現の可能性」と「楽しさ、面白さ」を追求しながら授業をすすめていきます。また三次元マルチメディア素材の作成技術としてSkechUpという3Dグラフィックス作成ソフトウェアにより建物などの三次元物体の作成の基礎技術を修得します。

内 容

- 第1回 ・PowerPointにより世界遺産や歴史的建造物などのプレゼンテーションを作成してみる
- 第2回 ・PowerPointにより世界遺産や歴史的建造物などのプレゼンテーションを作成してみる(第1回の続き)
- 第3回 ・PowerPointにより商品のプレゼンテーションを作成してみる
- 第4回 ・画像編集ソフトPixelによる画像のフォトレタッチ(画像の編集・合成)
- 第5回 ・Flashの図形描画の基本
- 第6回 ・球の移動と長方形が転がるモーショントゥーンによるアニメーションの基本 ・トトロと風船がふんわりと上昇するアニメーション ・ロゴが集結するアニメーション
- 第7回 ・パスに沿って鳥と風船が移動するアニメーション ・階段を回転しながら転がり落ちるアニメーション ・シヨパンのレリーフが分解・統合するアニメーション
- 第8回 ・ロゴが1文字ずつ色を変えながら落下するロゴアニメーション ・トランポリンズームと落下するロゴを組み合わせたアニメーション
- 第9回 ・水面に落下したロゴの周囲に波紋の広がるアニメーション
- 第10回 ・マウスクリックによりランプが点灯するアニメーション ・シェーブトゥイーンによる立方体が転がるアニメーション
- 第11回 ・画像がフェードイン・フェードアウトし移動するアニメーション ・画像の遷移効果と移動を組み合わせたアニメーション
- 第12回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの基礎
- 第13回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの作成(椅子, 建築物の作成 I)
- 第14回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの作成(BurgやSchrossなどの建築物の作成 II)
- 第15回 ・SkechUpによる3Dグラフィックスの作成(BurgやSchrossなどの建築物の作成 III)

授業以外での学習方法

授業形態は、積み上げ型による演習形式であり、授業時間も限られているので、授業に欠席した場合は、受講者はパソコン教室などを利用し、授業時間以外の学習によって、次の時間までに自習し追いつくようにして下さい。

教科書

授業中にプリントを配布します。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に紹介します。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（50）

参加度（50）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 異文化コミュニケーション論

担当者 安達 太郎

テーマ

異なる文化背景を持つ「他者」とのコミュニケーションを模索する

獲得目標

1)コミュニケーションがどのようなしくみを持つものかを理解する。2)異なる文化背景を持つ「他者」の存在を認め、「他者」を理解するために何が必要かを理解する。

授業の内容

異文化コミュニケーションとは、文化を異にする者の間に成り立つコミュニケーションを意味する。外国人との接触場面といったことをイメージしやすいが、この講義ではもっと広い意味での「他者」を積極的に理解しようとすることによって立ち上がる、関係性(つながり)を生みだす行為としてのコミュニケーションについて考えていく。

内 容

- 第1回 導入:異文化コミュニケーションを学ぶことの意義
- 第2回 文化のとらえ方
- 第3回 コミュニケーションとは何か
- 第4回 言語コミュニケーション
- 第5回 非言語コミュニケーション
- 第6回 時間と異文化コミュニケーション
- 第7回 空間と異文化コミュニケーション
- 第8回 異文化との接触(1)
- 第9回 異文化との接触(2)
- 第10回 異空間としてのメディア
- 第11回 メディアと文化
- 第12回 文化のポリティクス(1)
- 第13回 文化のポリティクス(2)
- 第14回 文化のポリティクス(3)
- 第15回 グローバリゼーションの行方

授業以外での学習方法

授業内容に関連するテキストを配布するので、しっかり読んでください。

教科書

参考書

よくわかる異文化コミュニケーション

著者: 池田理知子編

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2010年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト (40)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化人類学

担当者 本林 靖久

テーマ

獲得目標

ブータンの文化を通して、異文化理解と人類の幸福とは何かについて学びながら、人類の幸福について考察する。

授業の内容

私たちは多様な生活習慣のなかで生きている。その生活習慣がさまざまな文化を作り上げている。文化人類学は人間の科学といわれ、個別文化の調査・分析から文化の普遍的な法則を見つけ出し、そこに写しだされる人間行動の諸相を明らかにすることを目的としている。講義では、まず、文化人類学がどのような学問なのかを理解することから始め、その研究史、研究視角、調査方法について、やさしく解説する。そのうえで、アジアのなかでも、ブータンを中心に、そこに住む人々の生活観・価値観を学びながら、異文化に対する理解を深めていきたい。

内 容

- 第1回 文化人類学におけるフィールドワークの意義
 - 第2回 文化人類学における全体理解と比較理解
 - 第3回 異文化理解の心得
 - 第4回 異文化理解から学ぶ幸福
 - 第5回 アジアの国々とブータンの地勢
 - 第6回 ブータンのGNH(国民総幸福)
 - 第7回 民族と言語
 - 第8回 君主制と民主制
 - 第9回 GNHと環境政策
 - 第10回 人の一生と儀礼
 - 第11回 宗教文化と祭礼
 - 第12回 近代化と伝統文化
 - 第13回 難民問題と国際社会
 - 第14回 幸福論の実験国家
 - 第15回 まとめ—人類にとっての幸福とは—
-

授業以外での学習方法

教科書

ブータンと幸福論—宗教文化と儀礼—

著者： 本林靖久

出版社： 法蔵館

出版年： 2006年

ISBN： 4-8318-5680-0

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ <a>

担当者 蒲 豊彦

テーマ

中国語入門

獲得目標

前期の授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の内容

週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。

内 容

- 第1回 前期の復習
 - 第2回 第8課 数量 (本を5冊買います。)
 - 第3回 練習
 - 第4回 練習
 - 第5回 第9課 月日と時刻 (今日は11月2日です。)
 - 第6回 練習
 - 第7回 練習
 - 第8回 第8課～9課の復習
 - 第9回 第10課 完了と経験 (中国へ行ったことがあります。)
 - 第10回 練習
 - 第11回 練習
 - 第12回 第11課 時間の長さ、回数 (2時間勉強します。)
 - 第13回 練習
 - 第14回 練習
 - 第15回 第10課～11課の復習
 - 第16回 第12課 結果補語、可能補語 (書き間違えました。)
 - 第17回 練習
 - 第18回 練習
 - 第19回 第13課 方向補語 (駆け上がっていきます。)
 - 第20回 練習
 - 第21回 練習
 - 第22回 第12課～13課の復習
 - 第23回 第14課 ～から、～と、～まで (いつから冬休みですか。)
 - 第24回 練習
 - 第25回 練習
 - 第26回 第15課 様態補語 (彼は歩くのがはやい。)
 - 第27回 練習
 - 第28回 練習
 - 第29回 第14課～15課の復習
 - 第30回 小テストの再テスト
-

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ

担当者 蒲 豊彦

テーマ

中国語入門

獲得目標

前期の授業を継続し、第十五課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の内容

週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。

内 容

- 第1回 前期の復習
 - 第2回 第8課 数量 (本を5冊買います。)
 - 第3回 練習
 - 第4回 練習
 - 第5回 第9課 月日と時刻 (今日は11月2日です。)
 - 第6回 練習
 - 第7回 練習
 - 第8回 第8課～9課の復習
 - 第9回 第10課 完了と経験 (中国へ行ったことがあります。)
 - 第10回 練習
 - 第11回 練習
 - 第12回 第11課 時間の長さ、回数 (2時間勉強します。)
 - 第13回 練習
 - 第14回 練習
 - 第15回 第10課～11課の復習
 - 第16回 第12課 結果補語、可能補語 (書き間違えました。)
 - 第17回 練習
 - 第18回 練習
 - 第19回 第13課 方向補語 (駆け上がっていきます。)
 - 第20回 練習
 - 第21回 練習
 - 第22回 第12課～13課の復習
 - 第23回 第14課 ～から、～と、～まで (いつから冬休みですか。)
 - 第24回 練習
 - 第25回 練習
 - 第26回 第15課 様態補語 (彼は歩くのがはやい。)
 - 第27回 練習
 - 第28回 練習
 - 第29回 第14課～15課の復習
 - 第30回 小テストの再テスト
-

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ <c>

担当者 トウ カ

テーマ

中国語入門

獲得目標

前期の授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の内容

週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。

内 容

- 第1回 前期の復習
 - 第2回 第8課 数量 (本を5冊買います。)
 - 第3回 練習
 - 第4回 練習
 - 第5回 第9課 月日と時刻 (今日は11月2日です。)
 - 第6回 練習
 - 第7回 練習
 - 第8回 第8課～9課の復習
 - 第9回 第10課 完了と経験 (中国へ行ったことがあります。)
 - 第10回 練習
 - 第11回 練習
 - 第12回 第11課 時間の長さ、回数 (2時間勉強します。)
 - 第13回 練習
 - 第14回 練習
 - 第15回 第10課～11課の復習
 - 第16回 第12課 結果補語、可能補語 (書き間違えました。)
 - 第17回 練習
 - 第18回 練習
 - 第19回 第13課 方向補語 (駆け上がっていきます。)
 - 第20回 練習
 - 第21回 練習
 - 第22回 第12課～13課の復習
 - 第23回 第14課 ～から、～と、～まで (いつから冬休みですか。)
 - 第24回 練習
 - 第25回 練習
 - 第26回 第15課 様態補語 (彼は歩くのがはやい。)
 - 第27回 練習
 - 第28回 練習
 - 第29回 第14課～15課の復習
 - 第30回 小テストの再テスト
-

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 中国語Ⅱ <d>

担当者 トウ カ

テーマ

中国語入門

獲得目標

前期の授業を継続し、第15課までで、基本的な文法事項の習得を終える。

授業の内容

週に2回ずつ授業を行う。教室ではおもに各種の練習を行いながら、文法事項も習得する。3回の授業で1課ずつ進む。

内 容

- 第1回 前期の復習
 - 第2回 第8課 数量 (本を5冊買います。)
 - 第3回 練習
 - 第4回 練習
 - 第5回 第9課 月日と時刻 (今日は11月2日です。)
 - 第6回 練習
 - 第7回 練習
 - 第8回 第8課～9課の復習
 - 第9回 第10課 完了と経験 (中国へ行ったことがあります。)
 - 第10回 練習
 - 第11回 練習
 - 第12回 第11課 時間の長さ、回数 (2時間勉強します。)
 - 第13回 練習
 - 第14回 練習
 - 第15回 第10課～11課の復習
 - 第16回 第12課 結果補語、可能補語 (書き間違えました。)
 - 第17回 練習
 - 第18回 練習
 - 第19回 第13課 方向補語 (駆け上がっていきます。)
 - 第20回 練習
 - 第21回 練習
 - 第22回 第12課～13課の復習
 - 第23回 第14課 ～から、～と、～まで (いつから冬休みですか。)
 - 第24回 練習
 - 第25回 練習
 - 第26回 第15課 様態補語 (彼は歩くのがはやい。)
 - 第27回 練習
 - 第28回 練習
 - 第29回 第14課～15課の復習
 - 第30回 小テストの再テスト
-

授業以外での学習方法

新しい単語は、必ず覚えてください。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

各課が終わるごとに、小テストを行う。成績評価で一番重要なものが、この小テストとなる。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 中国語Ⅳ

担当者 蒲 豊彦

テーマ

中国語中級

獲得目標

中国語Ⅲを継続する。中国語Ⅰ、Ⅱで学んだことを復習しつつ、もう一段階上のレベルを目指す。非常にやさしい例文を使用しながら、日常生活に充分役立つ各種表現を身につけてほしい。

授業の内容

4回の授業で1課ずつ進む。とくに、口頭での受け答えの練習を行いたい。プリントを配布するため、教科書を購入する必要はない。

内 容

- 第28回 第11課～12課の復習
 - 第29回 小テストの再テスト
 - 第30回 全体の復習
 - 第1回 前期の復習
 - 第2回 第7課 大学生生活
 - 第3回 会話(疑問詞等)
 - 第4回 短文
 - 第5回 練習
 - 第6回 第8課 恋愛事情
 - 第7回 会話(～でさえ等)
 - 第8回 短文
 - 第9回 練習
 - 第10回 第7課～8課の復習
 - 第11回 第9課 感謝の表現
 - 第12回 会話(動作の回数等)
 - 第13回 短文
 - 第14回 練習
 - 第15回 第10課 一人っ子
 - 第16回 会話(可能補語等)
 - 第17回 短文
 - 第18回 練習
 - 第19回 第9課～10課の復習
 - 第20回 第11課 若者と職業
 - 第21回 会話(～のために等)
 - 第22回 短文
 - 第23回 練習
 - 第24回 第12課 外国語の学習
 - 第25回 会話(～の他に、使役等)
 - 第26回 短文
 - 第27回 練習
-

授業以外での学習方法

単語はすべて覚えてください。授業中の練習のためにも必要です。

教科書

参考書

成績評価

試験（0）

小テスト（60）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（20）

小テストを行います。この小テストが成績評価の中心となります。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ <a>

担当者 朴 惠貞

テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

獲得目標

①自由自在に自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。

授業の内容

このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているため検定対策もできる。

内 容

- 第1回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①
- 第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
- 第3回 「へヨ体」1
- 第4回 代名詞の縮約形1
- 第5回 「へヨ体」2
- 第6回 代名詞の縮約形2
- 第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ①
- 第8回 「へヨ体」3
- 第9回 実践会話と検定対策 4
- 第10回 「へヨ体」の過去形
- 第11回 接続詞の表現
- 第12回 時刻の表現
- 第13回 一日のスケジュール
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ②
- 第15回 助詞、疑問詞
- 第16回 実践会話と検定対策 5
- 第17回 変則活用1
- 第18回 変則活用1の過去形
- 第19回 変則活用2
- 第20回 変則活用2の過去形、副詞1
- 第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ③
- 第22回 進行形、希望の表現
- 第23回 長文を読んでみよう!
- 第24回 尊敬の表現
- 第25回 特別な尊敬語の表現
- 第26回 副詞2、勧誘・意志の表現
- 第27回 実践会話と検定対策 6
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ④
- 第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聴くこと。3. 韓国のドラマ・映画とK-POPを楽しみながら、韓国社会を理解すること。

教科書

サクサクっと韓国語 * テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者: 金美華

出版社: 白帝社

出版年: 2012

ISBN:

参考書

辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ

担当者 朴 惠貞

テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

獲得目標

①自由自在に自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。

授業の内容

このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているので検定対策もできる。

内 容

- 第1回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①
- 第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
- 第3回 「ヘヨ体」1
- 第4回 代名詞の縮約形1
- 第5回 「ヘヨ体」2
- 第6回 代名詞の縮約形2
- 第7回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ①
- 第8回 「ヘヨ体」3
- 第9回 実践会話と検定対策 4
- 第10回 「ヘヨ体」の過去形
- 第11回 接続詞の表現
- 第12回 時刻の表現
- 第13回 一日のスケジュール
- 第14回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ②
- 第15回 助詞、疑問詞
- 第16回 実践会話と検定対策 5
- 第17回 変則活用1
- 第18回 変則活用1の過去形
- 第19回 変則活用2
- 第20回 変則活用2の過去形、副詞1
- 第21回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ③
- 第22回 進行形、希望の表現
- 第23回 長文を読んでみよう!
- 第24回 尊敬の表現
- 第25回 特別な尊敬語の表現
- 第26回 副詞2、勧誘・意志の表現
- 第27回 実践会話と検定対策 6
- 第28回 DVD鑑賞 韓国(文化・社会)を知ろう ④
- 第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聴くこと。3. 韓国のドラマ・映画とK-POPを楽しみながら、韓国社会を理解すること。

教科書

サクサクと韓国語 * テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者: 金美華

出版社: 白帝社

出版年: 2012

ISBN:

参考書

辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ <C>

担当者 崔 孝先

テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

獲得目標

①自由自在に自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。

授業の内容

このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているので検定対策もできる。

内 容

- 第1回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①
- 第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
- 第3回 「へヨ体」1
- 第4回 代名詞の縮約形1
- 第5回 「へヨ体」2
- 第6回 代名詞の縮約形2
- 第7回 韓国(文化・社会)を知ろう ①
- 第8回 「へヨ体」3
- 第9回 実践会話と検定対策 4
- 第10回 「へヨ体」の過去形
- 第11回 接続詞の表現
- 第12回 時刻の表現
- 第13回 一日のスケジュール
- 第14回 韓国(文化・社会)を知ろう ②
- 第15回 助詞、疑問詞
- 第16回 実践会話と検定対策 5
- 第17回 変則活用1
- 第18回 変則活用1の過去形
- 第19回 変則活用2
- 第20回 変則活用2の過去形、副詞1
- 第21回 韓国(文化・社会)を知ろう ③
- 第22回 進行形、希望の表現
- 第23回 長文を読んでみよう!
- 第24回 尊敬の表現
- 第25回 特別な尊敬語の表現
- 第26回 副詞2、勧誘・意思の表現
- 第27回 実践会話と検定対策 6
- 第28回 韓国(文化・社会)を知ろう ④
- 第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①
- 第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聞くこと。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解すること。

教科書

*テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 韓国語Ⅱ <d>

担当者 崔 孝先

テーマ

韓国語の基礎文法の学習と韓国社会に対する理解を深める。

獲得目標

①自由自在に自己紹介ができ、韓国旅行が楽しめる韓国語レベルの習得を目指す。②ハングル能力検定試験5級レベルの力を付ける。

授業の内容

このクラスでは、「韓国語Ⅰ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを少しずつ積み上げていく。その際にはDVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聴く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。なお、テキストの語彙や文法項目はハングル能力検定試験5級に準拠しているので検定対策もできる。

内 容

- 第1回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習①
 - 第2回 「韓国語Ⅰ」の授業内容の復習②
 - 第3回 「へヨ体」1
 - 第4回 代名詞の縮約形1
 - 第5回 「へヨ体」2
 - 第6回 代名詞の縮約形2
 - 第7回 韓国(文化・社会)を知ろう ①
 - 第8回 「へヨ体」3
 - 第9回 実践会話と検定対策 4
 - 第10回 「へヨ体」の過去形
 - 第11回 接続詞の表現
 - 第12回 時刻の表現
 - 第13回 一日のスケジュール
 - 第14回 韓国(文化・社会)を知ろう ②
 - 第15回 助詞、疑問詞
 - 第16回 実践会話と検定対策 5
 - 第17回 変則活用1
 - 第18回 変則活用1の過去形
 - 第19回 変則活用2
 - 第20回 変則活用2の過去形、副詞1
 - 第21回 韓国(文化・社会)を知ろう ③
 - 第22回 進行形、希望の表現
 - 第23回 長文を読んでみよう!
 - 第24回 尊敬の表現
 - 第25回 特別な尊敬語の表現
 - 第26回 副詞2、勧誘・意思の表現
 - 第27回 実践会話と検定対策 6
 - 第28回 韓国(文化・社会)を知ろう ④
 - 第29回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ①
 - 第30回 「韓国語Ⅱ」の授業のまとめ ②
-

授業以外での学習方法

1. 授業を楽しむためにもテキストのCDを活用し、予習・復習を心かけること。2. NHKテレビ・ラジオ講座を聞くこと。3. 韓国語のドラマ・映画とK-POPなどを楽しみながら、韓国社会を理解すること。

教科書

*テキストは別途指示があるまでに購入しないこと(授業開講後、別途指示)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **韓国語Ⅳ**

担当者 朴 惠貞

テーマ

韓国語の習熟

獲得目標

①韓国語会話能力の一層の向上と共に、長文の読み書きと聞き取りができることを目指す。②ハングル能力検定試験4級レベルの力を付ける。

授業の内容

このクラスでは、「韓国語Ⅲ」クラスで学んだ文法事項を確認しながら新しい文法項目などを体系的に積み上げていく。その際には、DVD等の視聴覚教材も取り入れて楽しく、効率よく学習しながら読む・書く・聞く・話すの4技能をバランスよく身に付けていく。

内 容

- 第1回 夏休みの過ごし方を話してみよう！「韓国語Ⅲ」の授業内容の復習①
- 第2回 「韓国語Ⅲ」の授業内容の復習②
- 第3回 計画・予定・許可・承諾表現
- 第4回 意思表現、形容詞の連体形の表現
- 第5回 作文をしてみよう！①
- 第6回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！①
- 第7回 可能・不可能と能力の有無を表す表現 動作の進行表現
- 第8回 条件・選択表現、用言の変則活用形の表現①
- 第9回 理想のタイプについて話してみよう！ 経験表現
- 第10回 動詞の連体形の表現
- 第11回 読解をしてみよう！①
- 第12回 買い物をしてみよう！用言の変則活用形の表現②
- 第13回 意図・許可表現、色についての表現
- 第14回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！②
- 第15回 道案内をしてみよう！ 授受表現
- 第16回 丁寧な要請・状況の説明・方向表現
- 第17回 作文をしてみよう！②
- 第18回 当為・禁止表現
- 第19回 確認・感嘆表現、用言の変則活用形の表現③
- 第20回 日韓の文化の類似点・相違点について 韓国語で話してみよう！
- 第21回 読解をしてみよう！②
- 第22回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！③
- 第23回 推量・推測・同時動作の表現
- 第24回 作文をしてみよう！③
- 第25回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！①
- 第26回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！②
- 第27回 実際の場面を設定した会話を楽しんでみよう！③
- 第28回 DVD鑑賞 聴解能力を向上させよう！④
- 第29回 「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ①
- 第30回 「韓国語Ⅳ」の授業のまとめ②

授業以外での学習方法

1. NHKテレビ・ラジオ講座を視聴すること。2. 韓国の新聞・雑誌などを積極的に読むこと。3. 辞書を用いて積極的に作文をしてみることに。

教科書

* テキストは授業開講後、別途指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典

著者: 油谷幸利その他編

出版社: 小学館

出版年: 2008

ISBN:

* 他の辞書も可。必ず辞書を持参すること

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (20)

小テスト (40)

授業中課題 (10)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

出席率及び授業への参加態度の積極性重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 フランス語Ⅱ

担当者 志賀 亮一

テーマ

フランス語の基礎(その2)

獲得目標

フランス語Ⅰにつづいて、フランス語の発音と文法の重要な規則のうち、もっとも基本的な項目を学び、それらを用いた短い文を聴き、話し、読み、書く力を身につける。

授業の内容

フランス語Ⅰと同様、「講義による説明 → 音声と筆記による反復練習 → 練習問題＋小テスト」のサイクルで、各事項を直実に身につける。

内 容

- 第1回 不規則動詞 aller の直説法現在と命令法①
- 第2回 不規則動詞 aller の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト
- 第3回 不規則動詞 venir の直説法現在と命令法①
- 第4回 不規則動詞 venir の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト
- 第5回 不規則動詞 faire の直説法現在と命令法①
- 第6回 不規則動詞 faire の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト
- 第7回 非人称表現(etre と avoir)①
- 第8回 非人称表現(etre と avoir)②・練習問題＋小テスト
- 第9回 非人称表現(天候)①
- 第10回 非人称表現(天候)②・練習問題＋小テスト
- 第11回 非人称表現(falloi ほか)①
- 第12回 非人称表現(falloi ほか)②・練習問題＋小テスト
- 第13回 第4章のリーダー
- 第14回 不規則動詞 prendre の直説法現在と命令法①
- 第15回 不規則動詞 prendre の直説法現在と命令法②・練習問題＋小テスト
- 第16回 不規則動詞 devoir の直説法現在と命令法
- 第17回 不規則動詞 voir の直説法現在
- 第18回 不規則動詞 devoir, voir 練習問題＋小テスト
- 第19回 形容詞・副詞の比較級①
- 第20回 形容詞・副詞の比較級②
- 第21回 形容詞・副詞の比較級③・練習問題＋小テスト
- 第22回 形容詞・副詞の最上級①
- 第23回 形容詞・副詞の最上級②
- 第24回 形容詞・副詞の最上級③・練習問題＋小テスト
- 第25回 関係代名詞 qui
- 第26回 関係代名詞 que
- 第27回 第5章リーダー
- 第28回 第二群規則動詞の直説法現在と命令法①
- 第29回 第二群規則動詞の直説法現在と命令法③・練習問題＋小テスト
- 第30回 疑問形容詞

授業以外での学習方法

初習外国語なので、文法の予習はかなり困難。むしろ、フランス語Ⅰと同様、各回終了ごとに10-20分程度復習することが望ましい。ただし、各章の学習項目を学び終えたところで、リーダーの読解に移るので、予告された回にはかならず予習を欠かさないこと

aky401e450

教科書

オルセー美術館にて-初級フランス語総合教本

著者: 中山真彦

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ドイツ語Ⅱ <a>**

担当者 久下 泰弘

テーマ

ドイツ語入門その2

獲得目標

ドイツ語の初級文法、購読、会話の習得 その2ドイツ語検定5級合格を指標として

授業の内容

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

内 容

- 第1回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」話法の助動詞、未来形
- 第2回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」従属接続詞と副文
- 第3回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」分離動詞と非分離動詞
- 第4回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」 チケットをかうとき、 森鷗外とドイツ ドイツ留学の先駆者
- 第5回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、強変化、弱変化
- 第6回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、混合変化
- 第7回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞、副詞の比較
- 第8回 Lektion 7 「レストランで食事」 料理を注文するとき 負のエネルギー 核から各へ
- 第9回 Lektion 8 「週末の外出」動詞の3基本形
- 第10回 Lektion 8 「週末の外出」現在完了形
- 第11回 Lektion 8 「週末の外出」時を表す副詞
- 第12回 Lektion 8 「週末の外出」枠構造 過去を語るとき(現在完了) 天職 思いの強さが生み出すもの
- 第13回 Lektion 9 「ヴァイマルで」過去形
- 第14回 Lektion 9 「ヴァイマルで」再帰代名詞と再帰動詞
- 第15回 Lektion 9 「ヴァイマルで」「お互いに」の意味をもつ再帰代名詞
- 第16回 Lektion 9 「ヴァイマルで」 過去を語るとき(過去形) マイスター 縦と横
- 第17回 Lektion 10 「冬休みに」zu不定詞句
- 第18回 Lektion 10 「冬休みに」関係代名詞
- 第19回 Lektion 10 「冬休みに」お祝いの言葉
- 第20回 Lektion 10 「冬休みに」 予定を言うとき 祭り 西と東
- 第21回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
- 第22回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
- 第23回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
- 第24回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
- 第25回 ステップアップのためのドイツ語、受動形
- 第26回 ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法
- 第27回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第1式
- 第28回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第2式
- 第29回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題
- 第30回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題

授業以外での学習方法

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

教科書

ブーメラン

著者： 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社： 朝日出版社

出版年： 2013

ISBN: 9.78426E+12

参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者： 根本道也ほか

出版社： 同学社

出版年： 2010

ISBN: 9.78481E+12

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

出席重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **ドイツ語Ⅱ **

担当者 久下 泰弘

テーマ

ドイツ語入門その2

獲得目標

ドイツ語の初級文法、購読、会話の習得 その2ドイツ語検定5級合格を指標として

授業の内容

このクラスでは、様々な状況ですぐに応用できる簡単な表現を学習すると同時にドイツの文化や社会についての話題も扱いながら、授業をすすめていく。必要に応じて各自補足記入することを怠らないように。辞書を毎回、持参のこと。

内 容

- 第4回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」 チケットをかうとき、 森鷗外とドイツ ドイツ留学の先駆者
 第5回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、強変化、弱変化
 第6回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞の格変化、混合変化
 第7回 Lektion 7 「レストランで食事」 形容詞、副詞の比較
 第8回 Lektion 7 「レストランで食事」 料理を注文するとき 負のエネルギー 核から各へ
 第9回 Lektion 8 「週末の外出」動詞の3基本形
 第10回 Lektion 8 「週末の外出」現在完了形
 第11回 Lektion 8 「週末の外出」時を表す副詞
 第12回 Lektion 8 「週末の外出」枠構造 過去を語るとき(現在完了) 天職 思いの強さが生み出すもの
 第13回 Lektion9 「ヴァイマルで」過去形
 第14回 Lektion9 「ヴァイマルで」再帰代名詞と再帰動詞
 第15回 Lektion9 「ヴァイマルで」「お互いに」の意味をもつ再帰代名詞
 第16回 Lektion9 「ヴァイマルで」 過去を語るとき(過去形) マイスター 縦と横
 第17回 Lektion10 「冬休みに」zu不定詞句
 第18回 Lektion10 「冬休みに」関係代名詞
 第19回 Lektion10 「冬休みに」お祝いの言葉
 第20回 Lektion10 「冬休みに」 予定を言うとき 祭り 西と東
 第21回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
 第22回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
 第23回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
 第24回 ドイツ語検定試験5級挑戦のための練習問題
 第25回 ステップアップのためのドイツ語、受動形
 第26回 ステップアップのためのドイツ語、分詞の用法
 第27回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第1式
 第28回 ステップアップのためのドイツ語、接続法第2式
 第29回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題
 第30回 まとめとドイツ語Ⅲへの橋渡し 補足練習問題
 第1回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」話法の助動詞、未来形
 第2回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」従属接続詞と副文
 第3回 Lektion 6 「コンサートに行きたい」分離動詞と非分離動詞

授業以外での学習方法

CDを活用して予習、復習を怠らないようにすること。映画、音楽、インターネットなど、様々な機会あるごとに「ドイツ」に関心を向けること。

教科書

ブーメラン

著者： 小野寿美子、中川明博、西巻丈児

出版社： 朝日出版社

出版年： 2013

ISBN: 9.78426E+12

参考書

アポロン独和辞典[第3版]

著者： 根本道也ほか

出版社： 同学社

出版年： 2010

ISBN: 9.78481E+12

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 ()

出席重視

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **歴史学入門**

担当者 松浦 京子・増淵 徹

テーマ

歴史学の手法と分野

獲得目標

史学史概論 ー歴史学の考え方を理解する

授業の内容

前半は日本史分野の教員、後半は西洋史分野の教員が担当し、史料の持つ意味やその扱い方などの研究スキルと、多様な研究ジャンルの視点とメソッドを紹介することを通して、史学史を概説する

内 容

- 第1回 歴史学とは何か
 - 第2回 歴史研究の素材と手順
 - 第3回 真正な史料は真実を伝えるか
 - 第4回 史料を論理的に読む
 - 第5回 伝達されるものと伝達されないもの
 - 第6回 事実の追求と歴史事象の評価
 - 第7回 絵画資料の情報化
 - 第8回 西洋史学史概説 ー歴史学(西洋史学)の誕生～歴史学の再検討
 - 第9回 社会史 ー普通の人々の歴史
 - 第10回 女性史 ー伝統史学への異議申し立て
 - 第11回 家族史 ー「近代家族」論をめぐる
 - 第12回 心性史 ー子供の「誕生」って何
 - 第13回 計量経済史 ー数字は全てを語るか
 - 第14回 世界システム論 ー世界近代史をどう見るか
 - 第15回 総括
-

授業以外での学習方法

参考文献は適宜紹介するので、その精読を期待する

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 京都講座Ⅱ

担当者 林 久美子

テーマ

京都の寺社や各地にまつわる説話や伝説を学ぶ

獲得目標

京都の文化に対する理解と関心を深める

授業の内容

京都の寺社やその祭りがどのような由来をもち、どのような説話に彩られてきたのかを講義します。なお、取り上げる順序は変更することがあります。

内 容

- 第1回 朱雀門と羅生門にまつわる説話
 - 第2回 上御霊神社、下御霊神社について
 - 第3回 白峯神宮と鞠精大明神について
 - 第4回 阿倍晴明の伝説
 - 第5回 葵祭と文学
 - 第6回 祇園祭とその縁起
 - 第7回 三十三間堂の由来、小テスト①(予定)
 - 第8回 清水観音にまつわる伝説
 - 第9回 南禅寺と石川五右衛門
 - 第10回 六道珍皇寺と矢田寺について
 - 第11回 鞍馬と貴船の伝説
 - 第12回 老ノ(大枝)坂の鬼の話
 - 第13回 蟬丸神社と芸能について
 - 第14回 宇治と文学
 - 第15回 山科と文学、小テスト②(予定)
-

授業以外での学習方法

ガイドマップを片手に、自分で京都を歩いてください。

教科書

京都魔界案内

著者： 小松和彦

出版社： 光文社

出版年： 2002

ISBN： 4-334-78143-8

参考書

京都大事典

著者：

出版社： 淡交社

出版年：

ISBN：

京都市の地名

著者:

出版社: 平凡社

出版年:

ISBN:

角川日本地名大辞典 上・下

著者:

出版社: 角川書店

出版年:

ISBN:

京都の魔界をゆく

著者: か舎+菊池昌治

出版社: 小学館

出版年: 1999

ISBN: 4-09-626212-9

京の歴史・文学を歩く

著者: 知恵の会

出版社: 勉誠出版

出版年: 2008

ISBN: 978-4-585-05160

新編日本古典文学全集(各作品)

著者:

出版社: 小学館

出版年:

ISBN:

新潮日本古典集成(各作品)

著者:

出版社: 新潮社

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (40)

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (30)

授業中に小テスト2回(実施時期は事前に予告しますが、上記とずれる場合があります)を行うほか、お正月休みに小レポートを課します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 京都の歴史・文化 I <eL>

担当者 田端 泰子・脇田 修・脇田 晴子

テーマ

京の都の盛衰とそれぞれの時代に生きた人々 ●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●講義の配信スケジュールは5月中旬から9月上旬を予定しています。詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。●成績評価はレポートで評価します(予定)。詳細は別途、掲出します。

獲得目標

”都”と呼ばれる政治・経済の中心の位置に京都がすわることによって、どのような歴史のうねりが生じたのか、またそこに住んだ人々の生活にどのような変化が生まれたのかを学びとってほしい。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 古代以来の都の変遷から説き起こし、京の都がどのような経緯を辿って成立し、発展し、その後の変化を迎えたのかを基軸に、そこに住む人々、京に入った人々に焦点を合わせて歴史の流れを解説する。

内 容

- 第1回 都城の変遷[田端]
- 第2回 平安京の成立[田端]
- 第3回 平安京に暮らす人々[田端]
- 第4回 院政期の京都[田端]
- 第5回 京―鎌倉をつなぐ人々[田端]
- 第6回 「このごろ都にはやるもの」―南北朝期の京都[田端]
- 第7回 室町幕府の成立と京の都[田端]
- 第8回 土一揆の時代[田端]
- 第9回 京の商工業者[田端]
- 第10回 『洛中洛外図』に描かれた京都[田端]
- 第11回 祇園祭と京の町[脇田晴子]
- 第12回 中世京都の芸能[脇田晴子]
- 第13回 織田信長と京都[脇田修]
- 第14回 豊臣政権と京の町[脇田修]
- 第15回 元禄時代の京都[脇田修]

授業以外での学習方法

京都に関する書物を読み、また授業に登場した場所を実際に訪れてみると、理解が深まる。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

物語 京都の歴史

著者: 脇田修・晴子

出版社: 中央公論新社

出版年: 2008

ISBN:

女性芸能の源流

著者： 脇田晴子

出版社： 角川書店

出版年： 2001

ISBN：

中世京都と祇園祭

著者： 脇田晴子

出版社： 中央公論新社

出版年： 1999

ISBN：

秀吉の経済感覚

著者： 脇田修

出版社： 中央公論社

出版年： 1991

ISBN：

北政所おね

著者： 田端泰子

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN：

足利義政と日野富子

著者： 田端泰子

出版社： 山川出版社

出版年： 2011

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は、第15回の後にレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本国憲法 <e>

担当者 上出 浩

テーマ

日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得

獲得目標

日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。

授業の内容

日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。

内 容

- 第1回 日本国憲法の位置づけ
- 第2回 日本国憲法の3大原則
- 第3回 日本国憲法の人権(人権総論:主体、制限、公共の福祉)
- 第4回 日本国憲法の人権(幸福追求権、新しい権利)
- 第5回 日本国憲法の人権(人権の分類、精神的自由:思想/良心の自由)
- 第6回 日本国憲法の人権(信教の自由)
- 第7回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第8回 日本国憲法の人権(表現の自由)
- 第9回 日本国憲法の人権(経済的自由)
- 第10回 日本国憲法の人権(社会権)
- 第11回 日本国憲法の人権(手続き的保証、そのほかの権利)
- 第12回 日本国憲法の統治(三権分立、議会)
- 第13回 日本国憲法の統治(内閣と議会)
- 第14回 日本国憲法の統治(裁判所)
- 第15回 到達度確認試験、復習
- 第16回 総まとめ

授業以外での学習方法

各回の後、教科書の該当箇所を熟読し、理解を深めるとよい。また、講義中に触れられた様々な原理・原則を、実生活の中で再度捉え直すことが望まれる。

教科書

いま日本国憲法は・・・原点からの検証 第5版

著者: 小林武ほか編

出版社: 法律文化社

出版年: 2011

ISBN: 978-4589033529

参考書

憲法 第5版

著者: 芦部信喜著・高橋和之補訂

出版社: 岩波書店

出版年: 2011

ISBN: 978-4000227810

ポケット六法 平成25年版

著者: 西田 典之 他編

出版社: 有斐閣

出版年: 2012

ISBN: 978-4641009134

成績評価

試験 (60)

授業中課題 ()

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 法学概論Ⅱ <a>

担当者 近藤 実千代

テーマ

私法に関する基礎知識の習得

獲得目標

私法全体に共通する基本的な原理・原則、枠組み、法概念を理解する。私生活の様々な場面において、各制度の正確な位置づけを図り、初歩的な応用力を身につける。

授業の内容

授業は講義形式で、指定テキストを使用しながら行う。補足資料として、適宜にレジュメを配布する。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。

内 容

- 第1回 インTRODakション
 - 第2回 私法の基本原理
 - 第3回 法律行為①(意思表示)
 - 第4回 法律行為②(行為能力)
 - 第5回 代理制度
 - 第6回 時効制度
 - 第7回 契約①(債務不履行責任)
 - 第8回 契約②(消費者契約の類型)
 - 第9回 所有権
 - 第10回 不法行為責任
 - 第11回 債務の弁済
 - 第12回 夫婦と親子
 - 第13回 相続と遺言
 - 第14回 民事事件の紛争解決
 - 第15回 総まとめ
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

新聞やテレビのニュース等に注意を払い、私法に関連する重要問題(判決や法改正等)に関して、論理的説明を試みるよう期待する。

教科書

2013年の小型六法

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

民法法入門 第5版増補版

著者: 野村豊弘

出版社: 有斐閣

出版年:

ISBN:

aky601f650

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト (70)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 法学概論Ⅱ

担当者 高橋 正俊

テーマ

私法, 特に民法に関する基礎知識の習得

獲得目標

私法, 特に民法全体に共通する基本的な原理・原則, 法概念を理解する。そのうえでさまざまな生活の場面における初歩的な応用能力を養う。

授業の内容

内 容

- 第1回 私法, 特に民法における法システムの特徴
 - 第2回 民法の基本原理
 - 第3回 法律行為①種類と性質
 - 第4回 法律行為②意思表示
 - 第5回 法律行為③行為能力
 - 第6回 代理制度
 - 第7回 時効制度
 - 第8回 契約①契約自由の原則と公序良俗
 - 第9回 契約②消費者保護法
 - 第10回 代理制度
 - 第11回 時効制度
 - 第12回 物権法定主義と債権
 - 第13回 不動産取引の特徴
 - 第14回 夫婦・親子
 - 第15回 相続と遺言
 - 第16回 総まとめ・試験
-

授業以外での学習方法

授業用のレジュメを授業前週に配布。そこで参考資料などを指示する。授業まえにレジュメは必読とする。

教科書

参考書

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

参加度 (6)

小テスト (10)

授業中発表等 (5)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **政治学概論Ⅱ**

担当者 鶴谷 将彦

テーマ

本講義は、政治学を学ぶ上で、必要な概念や理論について扱う。特に、権力、民主主義、統治機構・地方自治に関する概念について詳しく説明する。

獲得目標

本講義は、受講生に政治学を体系的に理解してもらい、政治学の概念や理論を自分の言葉で説明してもらうことを目指す。

授業の内容

内 容

- 第1回 イン트로ダクション
 - 第2回 民主政治の起源
 - 第3回 民主政治の変容
 - 第4回 福祉と政治
 - 第5回 議院内閣制
 - 第6回 大統領制
 - 第7回 選挙制度①
 - 第8回 選挙制度②
 - 第9回 小テスト
 - 第10回 議会制度と政党
 - 第11回 政策過程と官僚・利益集団
 - 第12回 世論とマスメディア
 - 第13回 地方自治①
 - 第14回 地方自治②
 - 第15回 民主政治のこれから
 - 第16回 定期試験
-

授業以外での学習方法

教科書

政治学

著者： 川出良枝・谷口将紀

出版社： 東京大学出版会

出版年： 2012

ISBN: 9.78413E+12

参考書

成績評価

試験（80）

授業中課題（0）

小テスト（20）

授業中発表等（0）

参加度（0）

小テストについては、授業の進行状況などをみながら実施時期を判断する。この件とあわせて成績評価については、第1回の授業におけるイントロダクションで説明する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 行政法

担当者 高橋 正俊

テーマ

人間の生涯にわたる心身の発達

獲得目標

法律について初めて学ぶ学生に、法律に興味をもつようにする。行政法の入門を学び、公法領域に親しませる。行政法学の基礎を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 支配・統治権と行政法の必要性
 - 第2回 自由主義と法治国家(形式的法治国家と実質的法治国家)
 - 第3回 法律による行政の意味
 - 第4回 雑多・膨大な行政法をどう秩序付けるか
 - 第5回 行政による「法律」の補完(法規命令と行政規則)
 - 第6回 行政活動の形式(1)行政行為1
 - 第7回 行政活動の形式(1)行政行為2
 - 第8回 行政活動の形式(2)行政契約・行政指導・行政計画
 - 第9回 行政による義務の強制方法
 - 第10回 行政手続法
 - 第11回 情報公開と個人情報保護
 - 第12回 「法律による行政」の裏付け
 - 第13回 行政不服審査法を俯瞰する
 - 第14回 国家補償法を俯瞰する
 - 第15回 行政事件訴訟法を俯瞰する
 - 第16回 まとめと試験
-

授業以外での学習方法

授業時に次回の授業内容のレジュメを配布する。必ず読んで授業に臨むこと。

教科書

参考書

行政法のエッセンス

著者： 櫻井敬子

出版社： 学陽書房

出版年： 2009年

ISBN:

成績評価

試験 (80)

授業中課題 ()

小テスト (10)

授業中発表等 (5)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 行政学

担当者 小暮 宣雄

テーマ

国と地域の行政に関する制度と実際の両面を探る

獲得目標

1)身近なところから行政の働きと仕組みに関心をもてるようになる 2)国家の統治機構のなかの行政分野を制度的歴史的に理解できるようにする 3)地方自治体や地方公務員の実際を分析し地域公共政策について考察できるようにする

授業の内容

教科書(真淵勝『行政学案内』)を丁寧に読み、そこから発展的に調べることをメインとするので、毎回教科書を携行すること

内 容

- 第1回 はじめに—行政にまつわるトピックス、あるいは、政治学や法学との関係について—
- 第2回 学修方法の提示—行政学を学ぶための補助教材の紹介。文学や映画、各種メディアの紹介、自主課題について—
- 第3回 行政学の歴史(ここからは教科書必携)
- 第4回 国家公務員と天下りなど
- 第5回 内閣制度と首相の指導力
- 第6回 国の中央省庁はいま
- 第7回 予算制度と編成過程
- 第8回 行政改革はどのようにすすんだか
- 第9回 中央と地方、国と地域の関係・・・このあたりでうまくタイミングがあれば、京都府庁舎(現存日本最古)の見学など、地方行政の現場学外授業を予定。
- 第10回 地方財政論
- 第11回 大都市行政と市町村合併
- 第12回 官僚制とは何か
- 第13回 行政責任の種類とあり方
- 第14回 日本における行政システムの特徴
- 第15回 まとめ—いまの日本の行政、とくに地域公共政策に必要なものとは—

授業以外での学習方法

新聞や総合雑誌のなかの行政に関わる記事(インターネットも活用可)を読むようにすること。行政や公務員に関する文学作品、映画などを紹介するので、それを楽しみながら、かつ、理論と照らして、考えることなど、自主的な課題に挑戦すること。

教科書

行政学案内

著者: 真淵勝

出版社: 滋学社出版

出版年: 2009

ISBN:

参考書

行政学[新板]

著者: 西尾勝

出版社: 有斐閣

出版年: 2001

ISBN:

Next教科書シリーズ 行政学

著者： 外山公美ほか

出版社： 弘文堂

出版年： 2011

ISBN：

行政学

著者： 真淵勝

出版社： 有斐閣

出版年： 2009

ISBN：

公共経済学

著者： 林正義ほか

出版社： 有斐閣

出版年： 2010

ISBN：

身近な公共政策論—ミクロ行政学入門

著者： 安章浩ほか

出版社： 学陽書房

出版年： 2010

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（30）

授業中課題（30）

授業中発表等（10）

参加度（30）

レポート課題は、行政への参加をしてみた結果についてを企画中。たとえば、自分が関心をもつ計画や政策・制度設計へのパブリックコメントを行なってみる実践的なものなど。

参考URL

こぐれ日乗

<http://kogure.exblog.jp/>

小暮宣雄の基本ブログ

小暮宣雄フェイスブックページ

<https://www.facebook.com/kogurenob>

できればフィード購読を

2013 Syllabus

科目名 経営学概論 <eL>

担当者 仲田 正機

テーマ

企業、経営、マネジメントの理論を学び、企業経営の実際を分析する手がかりにする。●この授業はeラーニングシステムを使用したメディア学習です。インターネットを介しての受講となりますので、受講にはPC等の利用が前提となります。●受講方法や講義の配信スケジュールの詳細については別途ポータルサイトにおいて連絡します。●成績評価は期末試験で評価します(予定)。期末試験は教室で実施します。試験日時は別途、掲出します。

獲得目標

「会社(企業)が事業を営む」という基本命題を分析的に理解して、企業経営をめぐる社会の仕組み＝社会システムを理解することが、この科目の目標である。

授業の内容

会社の仕組みを明らかにし、経営のノウハウやスキルについても講義します。

内 容

- 第1回 はじめに—企業とは何か、会社とは何か、「会社(企業)が事業を営む」とは?その仕組みを理解する—
- 第2回 企業における様々な形態について—会社の基本を押さえる—
- 第3回 企業が営む事業の種類と業態に目を向けよう—自社の営む事業やその業態は、会社のどこで決めるのか—
- 第4回 企業における一般的な意思決定の仕組みについて
- 第5回 事業の経営に必要な具体的な仕事(1)—会社の側から見た仕事—
- 第6回 事業の経営に必要な具体的な仕事(2)—業種と業態、個人の入社から退職まで—
- 第7回 経営組織の基本を押さえる—機能部門組織と事業部制組織、ラインとスタッフ—
- 第8回 マネジメントの見方・考え方を知ろう—マネジメント論の源流と主流—
- 第9回 マネジメントへの工学的アプローチ(「科学的管理法」とその後の発展)
- 第10回 マネジメントへの心理・社会学的アプローチ(「人間関係論」とその後の発展)
- 第11回 現代マネジメントの基礎理論—C.I.バーナード『経営者の役割』で示されたこと—
- 第12回 経営における意思決定の理論—H.A.サイモン『経営行動』で示されたこと—
- 第13回 経営における個人と組織の関係—H.A.サイモン「貢献と誘因のシステム」が示すもの—
- 第14回 激変する環境へ適応する戦略的マネジメント、そして競争優位の経営戦略とは?—A.D.チャンドラー、H.I.アンゾフやM.ポーターが示したこと—
- 第15回 経営の国際化、グローバル化とは何か?—経営の今日的な課題とは?—

授業以外での学習方法

授業中に示されたキーワード、概念、理論、事例(ケース)について、講義の前後には参考文献やインターネット等で再確認しよう。

教科書

テキストは定めません。レジュメを配布して、授業を進めます。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

基礎コース 経営学

著者: 小松 章

出版社: 新世社

出版年: 2006

ISBN:

イラスト図解 会社のしくみ

著者: 坂田岳史

出版社: 日本実業出版社

出版年: 2007

ISBN:

現代アメリカ管理論史

著者: 仲田正機

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 1985

ISBN:

成績評価

試験 (100%)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **会計学概論**

担当者 河野 充央

テーマ

獲得目標

企業会計の基本的なシステムを学ぶとともに、営利・非営利を問わず、あらゆる組織への会計の適用可能性を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス 資金の流れからとらえる企業経営の本質
 - 第2回 会計データの処理機構 (1)財務会計と複式簿記システム (2)管理会計と原価計算システム
 - 第3回 会計の利害調整機能 (1)内部利害関係者と会計 (2)外部利害関係者と会計
 - 第4回 複式簿記のと貸借平均の原理
 - 第5回 簿記一巡の手続き(1)
 - 第6回 簿記一巡の手続き(2)
 - 第7回 非営利組織のマネジメントと会計(1)
 - 第8回 非営利組織のマネジメントと会計(2)
 - 第9回 文化と会計(1) 経済発展の制約要因
 - 第10回 文化と会計(2) 文化と会計の関連性
 - 第11回 文化と会計(3) 文化形成要因と文化会計の策定
 - 第12回 経済のグローバル化と会計(1)
 - 第13回 経済のグローバル化と会計(2)
 - 第14回 会計のルールと監査制度
 - 第15回 まとめ
 - 第16回 *なお、この講義では、スケジュール等の調整が可能な場合には、実務家による特別講義を実施する場合もある。
-

授業以外での学習方法

日経新聞や日経ビジネス等に掲載される経済記事を適宜紹介する(プリントで配布等)ので、学んだ知識を活用して、経営の実務にも興味を持ってもらいたい。

教科書

参考書

経営管理会計

著者: 西澤脩

出版社: 中央経済社

出版年:

ISBN:

最新財務諸表論

著者： 武田隆二

出版社： 中央経済社

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（30）

授業中課題（10）

参加度（50）

小テスト（10）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 福祉とボランティア <a>

担当者 高原 正興

テーマ

社会福祉の歴史と住民参加・ボランティアのあり方

獲得目標

社会福祉の歴史を学習してから、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンスと福祉・社会福祉・ボランティアの定義
 - 第2回 社会福祉の歴史(日本の場合1)
 - 第3回 社会福祉の歴史(ビデオ鑑賞)
 - 第4回 社会福祉の歴史(日本の場合2)
 - 第5回 社会福祉の歴史(英国の場合)
 - 第6回 地域福祉の考え方
 - 第7回 ボランティア総論
 - 第8回 ボランティア各論(委嘱ボランティア)
 - 第9回 子ども夜回りボランティア(ビデオ鑑賞)
 - 第10回 住民参加とは何か
 - 第11回 夕張市と住民参加(ビデオ鑑賞)
 - 第12回 社会福祉協議会
 - 第13回 山科区社会福祉協議会
 - 第14回 まとめ1
 - 第15回 まとめ2
-

授業以外での学習方法

ボランティア体験レポートを課すので、ボランティア受け入れ先について学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

aky701d410

授業中課題は、ビデオ鑑賞後のレポートとボランティア体験レポートの2つである。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **福祉とボランティア **

担当者 高原 正興

テーマ

社会福祉の歴史と住民参加・ボランティアのあり方

獲得目標

社会福祉の歴史を学習してから、住民参加やボランティアの諸形態とその意義・限界を理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンスと福祉・社会福祉・ボランティアの定義
 - 第2回 社会福祉の歴史(日本の場合1)
 - 第3回 社会福祉の歴史(ビデオ鑑賞)
 - 第4回 社会福祉の歴史(日本の場合2)
 - 第5回 社会福祉の歴史(英国の場合)
 - 第6回 地域福祉の考え方
 - 第7回 ボランティア総論
 - 第8回 ボランティア各論(委嘱ボランティア)
 - 第9回 子ども夜回りボランティア(ビデオ鑑賞)
 - 第10回 住民参加とは何か
 - 第11回 夕張市と住民参加(ビデオ鑑賞)
 - 第12回 社会福祉協議会
 - 第13回 山科区社会福祉協議会
 - 第14回 まとめ1
 - 第15回 まとめ2
-

授業以外での学習方法

ボランティア体験レポートを課すので、ボランティア受け入れ先について学習すること。

教科書

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

aky701d412

授業中課題は、ビデオ鑑賞後のレポートとボランティア体験レポートの2つである。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会学概論Ⅱ**

担当者 松田 いりあ

テーマ

現代日本社会の諸問題に関する社会学的想像力の習得

獲得目標

現在の日本では高度経済成長期につちかわれた「自明性」がもたらした副作用ともいべき問題に對峙している。この授業では社会の「あたりまえ」という感覚の崩壊や空洞化の前に立ちすくむのではなく、新たな「自明性」の再構築あるいはバージョンアップを社会学的な知識と方法を通じて探究する。

授業の内容

近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着を目指す。企業、行政、コミュニティなどそれぞれの現場でのプロフェッショナルにこそ、日常業務と(社会学的)知識との間を往還が重要であることを授業を通じて実感してもらうことが目標である。

内 容

- 第1回 はじめに:この授業の概要の説明
- 第2回 家族関係の現在
- 第3回 友人関係の現在
- 第4回 学校・教育の現在
- 第5回 親密性の現在
- 第6回 記憶の現在
- 第7回 ポピュラー文化の現在(1):ファン・オーディエンスの変容
- 第8回 ポピュラー文化の現在(2):コンテンツのグローバル化
- 第9回 情報技術の現在(1):インターネットの文化的前提
- 第10回 情報技術の現在(2):SNSの可能性と限界
- 第11回 情報技術の現在(3):アーキテクチャとしての重要性
- 第12回 現代社会と社会学(1):認識をめぐる問題
- 第13回 現代社会と社会学(2):実存をめぐる問題
- 第14回 現代社会と社会学(3):コミュニケーションをめぐる問題
- 第15回 まとめ:この授業の総括

授業以外での学習方法

担当教員の指示する資料(ウェブ上で公開されている各種統計など)を参照してもらうことがある

教科書

よくわかる社会学 第2版

著者: 宇都宮京子編

出版社: ミネルヴァ書房

出版年: 2009

ISBN: 9.78462E+12

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Aa>

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

現代日本が抱える政治的・経済的課題の理解

獲得目標

指定のテキストを用いてワークショップ型で授業を行う。積極的に参加して欲しい。必要に応じて外部講師による特別講義や学外授業を行う。

授業の内容

グループ分けを実施し、各グループは与えられたテーマに関しておのの資料を作成。その資料を基に受講生はワークショップを行い、理解を深めていく。時事問題というテーマの性格上、授業で扱うテーマや順番については、状況によって変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 領土問題
 - 第3回 日中関係
 - 第4回 日米関係
 - 第5回 憲法改正
 - 第6回 EU債務危機・ASEAN・BRICs
 - 第7回 TPP交渉
 - 第8回 景気回復
 - 第9回 財政再建
 - 第10回 社会保障
 - 第11回 格差社会
 - 第12回 原発問題
 - 第13回 地球環境問題
 - 第14回 少子化対策
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタートⅢ

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ab>

担当者 橋本 章彦

テーマ

現代日本が抱える政治的経済的課題の理解

獲得目標

指定のテキストを用いてワークショップ型で授業を行う。積極的に参加して欲しい。必要に応じて外部講師による特別講義や学外授業を行う。

授業の内容

グループ分けを実施し、各グループは与えられたテーマに関しておのの資料を作成。その資料を基に受講生はワークショップを行い、理解を深めていく。時事問題というテーマの性格上、授業で扱うテーマや順番については、状況によって変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 領土問題
 - 第3回 日中関係
 - 第4回 日米関係
 - 第5回 憲法改正
 - 第6回 EU債務危機・ASEAN・BRICs
 - 第7回 TPP交渉
 - 第8回 景気回復
 - 第9回 財政再建
 - 第10回 社会保障
 - 第11回 格差社会
 - 第12回 原発問題
 - 第13回 地球環境問題
 - 第14回 少子化対策
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタートⅢ

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ac>

担当者 重松 恵美

テーマ

現代日本が抱える政治的経済的課題の理解

獲得目標

指定のテキストを用いてワークショップ型で授業を行う。積極的に参加して欲しい。必要に応じて外部講師による特別講義や学外授業を行う。

授業の内容

グループ分けを実施し、各グループは与えられたテーマに関しておのの資料を作成。その資料を基に受講生はワークショップを行い、理解を深めていく。時事問題というテーマの性格上、授業で扱うテーマや順番については、状況によって変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 領土問題
 - 第3回 日中関係
 - 第4回 日米関係
 - 第5回 憲法改正
 - 第6回 EU債務危機・ASEAN・BRICs
 - 第7回 TPP交渉
 - 第8回 景気回復
 - 第9回 財政再建
 - 第10回 社会保障
 - 第11回 格差社会
 - 第12回 原発問題
 - 第13回 地球環境問題
 - 第14回 少子化対策
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタートⅢ

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ad>

担当者 禧美 智章

テーマ

現代日本が抱える政治的経済的課題の理解

獲得目標

指定のテキストを用いてワークショップ型で授業を行う。積極的に参加して欲しい。必要に応じて外部講師による特別講義や学外授業を行う。

授業の内容

グループ分けを実施し、各グループは与えられたテーマに関しておのの資料を作成。その資料を基に受講生はワークショップを行い、理解を深めていく。時事問題というテーマの性格上、授業で扱うテーマや順番については、状況によって変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 領土問題
 - 第3回 日中関係
 - 第4回 日米関係
 - 第5回 憲法改正
 - 第6回 EU債務危機・ASEAN・BRICs
 - 第7回 TPP交渉
 - 第8回 景気回復
 - 第9回 財政再建
 - 第10回 社会保障
 - 第11回 格差社会
 - 第12回 原発問題
 - 第13回 地球環境問題
 - 第14回 少子化対策
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタートⅢ

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ae>

担当者 渡邊 浩史

テーマ

現代日本が抱える政治的経済的課題の理解

獲得目標

指定のテキストを用いてワークショップ型で授業を行う。積極的に参加して欲しい。必要に応じて外部講師による特別講義や学外授業を行う。

授業の内容

グループ分けを実施し、各グループは与えられたテーマに関しておのの資料を作成。その資料を基に受講生はワークショップを行い、理解を深めていく。時事問題というテーマの性格上、授業で扱うテーマや順番については、状況によって変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 領土問題
 - 第3回 日中関係
 - 第4回 日米関係
 - 第5回 憲法改正
 - 第6回 EU債務危機・ASEAN・BRICs
 - 第7回 TPP交渉
 - 第8回 景気回復
 - 第9回 財政再建
 - 第10回 社会保障
 - 第11回 格差社会
 - 第12回 原発問題
 - 第13回 地球環境問題
 - 第14回 少子化対策
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタートⅢ

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ga>

担当者 野村 幸一郎

テーマ

国際社会の中の日本

獲得目標

国際化・グローバル化の中で日本が抱える政治的経済的課題を理解していく

授業の内容

指定のテキストを用いてワークショップ型で授業を行う。積極的に参加して欲しい。必要に応じて外部講師による特別講義や学外授業を行う

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 領土問題—尖閣・竹島・北方領土
- 第3回 日本と中国—チャイナリスクとどう向き合うか
- 第4回 日本とアメリカ—安全保障・基地問題など
- 第5回 憲法改正問題—専守防衛と集団的自衛権
- 第6回 日本とEU・BRICs・ASEAN—ギリシア債務危機など
- 第7回 TPP交渉—開国か亡国か？
- 第8回 景気対策—グローバル資本主義とデフレ・円高
- 第9回 財政再建—赤字国債の功罪
- 第10回 税と社会保障の一体改革—年金破綻・医療保険制度の崩壊をどう防ぐか？
- 第11回 格差社会—雇用対策と生活保護費の増大
- 第12回 3・11以降の原発問題—廃炉か縮小化か、先送りか？
- 第13回 少子化対策—産めよ増やせよが日本の危機を救う？
- 第14回 外国から日本を眺めてみよう—外部講師による講演
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

何新聞でもいいので、新聞を読む習慣をつけること。ニュースや報道番組もかならず見る習慣をつけること

教科書

スタートⅢ

著者：

出版社：京都橘大学生協

出版年：2013・3

ISBN：

参考書

成績評価

試験（70）

授業中課題（15）

参加度（15）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Ba>

担当者 熊谷 昭宏

テーマ

現代日本が抱える政治的経済的課題の理解

獲得目標

指定のテキストを用いてワークショップ型で授業を行う。積極的に参加して欲しい。必要に応じて外部講師による特別講義や学外授業を行う。

授業の内容

グループ分けを実施し、各グループは与えられたテーマに関しておのの資料を作成。その資料を基に受講生はワークショップを行い、理解を深めていく。時事問題というテーマの性格上、授業で扱うテーマや順番については、状況によって変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 領土問題
 - 第3回 日中関係
 - 第4回 日米関係
 - 第5回 憲法改正
 - 第6回 EU債務危機・ASEAN・BRICs
 - 第7回 TPP交渉
 - 第8回 景気回復
 - 第9回 財政再建
 - 第10回 社会保障
 - 第11回 格差社会
 - 第12回 原発問題
 - 第13回 地球環境問題
 - 第14回 少子化対策
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタートⅢ

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **時事問題研究 <Bb>**

担当者 橋本 章彦

テーマ

現代日本が抱える政治的・経済的課題の理解

獲得目標

指定のテキストを用いてワークショップ型で授業を行う。積極的に参加して欲しい。必要に応じて外部講師による特別講義や学外授業を行う。

授業の内容

グループ分けを実施し、各グループは与えられたテーマに関しておのの資料を作成。その資料を基に受講生はワークショップを行い、理解を深めていく。時事問題というテーマの性格上、授業で扱うテーマや順番については、状況によって変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 領土問題
 - 第3回 日中関係
 - 第4回 日米関係
 - 第5回 憲法改正
 - 第6回 EU債務危機・ASEAN・BRICs
 - 第7回 TPP交渉
 - 第8回 景気回復
 - 第9回 財政再建
 - 第10回 社会保障
 - 第11回 格差社会
 - 第12回 原発問題
 - 第13回 地球環境問題
 - 第14回 少子化対策
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタートⅢ

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Bc>

担当者 重松 恵美

テーマ

現代日本が抱える政治的経済的課題の理解

獲得目標

指定のテキストを用いてワークショップ型で授業を行う。積極的に参加して欲しい。必要に応じて外部講師による特別講義や学外授業を行う。

授業の内容

グループ分けを実施し、各グループは与えられたテーマに関しておのの資料を作成。その資料を基に受講生はワークショップを行い、理解を深めていく。時事問題というテーマの性格上、授業で扱うテーマや順番については、状況によって変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 領土問題
 - 第3回 日中関係
 - 第4回 日米関係
 - 第5回 憲法改正
 - 第6回 EU債務危機・ASEAN・BRICs
 - 第7回 TPP交渉
 - 第8回 景気回復
 - 第9回 財政再建
 - 第10回 社会保障
 - 第11回 格差社会
 - 第12回 原発問題
 - 第13回 地球環境問題
 - 第14回 少子化対策
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタートⅢ

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Bd>

担当者 禧美 智章

テーマ

現代日本が抱える政治的経済的課題の理解

獲得目標

指定のテキストを用いてワークショップ型で授業を行う。積極的に参加して欲しい。必要に応じて外部講師による特別講義や学外授業を行う。

授業の内容

グループ分けを実施し、各グループは与えられたテーマに関しておのの資料を作成。その資料を基に受講生はワークショップを行い、理解を深めていく。時事問題というテーマの性格上、授業で扱うテーマや順番については、状況によって変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 領土問題
 - 第3回 日中関係
 - 第4回 日米関係
 - 第5回 憲法改正
 - 第6回 EU債務危機・ASEAN・BRICs
 - 第7回 TPP交渉
 - 第8回 景気回復
 - 第9回 財政再建
 - 第10回 社会保障
 - 第11回 格差社会
 - 第12回 原発問題
 - 第13回 地球環境問題
 - 第14回 少子化対策
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタートⅢ

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Be>

担当者 渡邊 浩史

テーマ

現代日本が抱える政治的・経済的課題の理解

獲得目標

指定のテキストを用いてワークショップ型で授業を行う。積極的に参加して欲しい。必要に応じて外部講師による特別講義や学外授業を行う。

授業の内容

グループ分けを実施し、各グループは与えられたテーマに関しておのの資料を作成。その資料を基に受講生はワークショップを行い、理解を深めていく。時事問題というテーマの性格上、授業で扱うテーマや順番については、状況によって変更することがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 領土問題
 - 第3回 日中関係
 - 第4回 日米関係
 - 第5回 憲法改正
 - 第6回 EU債務危機・ASEAN・BRICs
 - 第7回 TPP交渉
 - 第8回 景気回復
 - 第9回 財政再建
 - 第10回 社会保障
 - 第11回 格差社会
 - 第12回 原発問題
 - 第13回 地球環境問題
 - 第14回 少子化対策
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

スタートⅢ

著者:

出版社: 京都橘大学生協

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 時事問題研究 <Gb>

担当者 野村 幸一郎

テーマ

国際社会の中の日本

獲得目標

国際化・グローバル化の中で日本が抱える政治的経済的課題を理解していく

授業の内容

指定のテキストを用いてワークショップ型で授業を行う。積極的に参加して欲しい。必要に応じて外部講師による特別講義や学外授業を行う

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 領土問題—尖閣・竹島・北方領土
- 第3回 日本と中国—チャイナリスクとどう向き合うか
- 第4回 日本とアメリカ—安全保障・基地問題など
- 第5回 憲法改正問題—専守防衛と集団的自衛権
- 第6回 日本とEU・BRICs・ASEAN—ギリシア債務危機など
- 第7回 TPP交渉—開国か亡国か？
- 第8回 景気対策—グローバル資本主義とデフレ・円高
- 第9回 財政再建—赤字国債の功罪
- 第10回 税と社会保障の一体改革—年金破綻・医療保険制度の崩壊をどう防ぐか？
- 第11回 格差社会—雇用対策と生活保護費の増大
- 第12回 3・11以降の原発問題—廃炉か縮小化か、先送りか？
- 第13回 少子化対策—産めよ増やせよが日本の危機を救う？
- 第14回 外国から日本を眺めてみよう—外部講師による講演
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

何新聞でもいいので、新聞を読む習慣をつけること。ニュースや報道番組もかならず見る習慣をつけること

教科書

スタートⅢ

著者：

出版社：京都橘大学生協

出版年：2013・3

ISBN：

参考書

成績評価

試験（70）

授業中課題（15）

参加度（15）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **経済学概論Ⅱ**

担当者 小森 治夫

テーマ

戦後日本経済の歩みについて学ぶ

獲得目標

敗戦直後から、高度経済成長を経て、低成長経済に移行し、1980年代後半にバブル経済に突入するまでの、戦後日本経済の歩みについて学ぶ

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第15回 まとめ
 - 第1回 戦後日本経済の概観
 - 第2回 特需景気
 - 第3回 もはや戦後ではない
 - 第4回 金の卵
 - 第5回 エネルギー革命
 - 第6回 所得倍増計画
 - 第7回 公害
 - 第8回 列島改造
 - 第9回 ドルショックと石油ショック
 - 第10回 日米経済摩擦
 - 第11回 分割民営
 - 第12回 バブル経済
 - 第13回 プラザ合意
 - 第14回 外国人労働者
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(特に経済面、社会面、政治面など) 経済問題を取り上げたテレビ番組を見る

教科書

参考書

医学者は公害事件で何をしてきたのか

著者: 津田敏秀

出版社: 岩波書店

出版年: 2004年

ISBN:

民営化で誰が得をするのか

著者: 石井陽一

出版社: 平凡社

出版年: 2007年

ISBN:

JR福知山線事故の本質

著者： 山口栄一

出版社： NTT出版

出版年： 2007年

ISBN:

<研修生>という名の奴隷労働

著者： 「外国人労働者問題とこれからの日本」編集委員会

出版社： 花伝社

出版年： 2009年

ISBN:

外国人研修生殺人事件

著者： 安田浩一

出版社： 七つ森書館

出版年： 2007年

ISBN:

集団就職の時代

著者： 加瀬和俊

出版社： 青木書店

出版年： 1997年

ISBN:

戦後50年 そのとき日本は 第4巻、第6巻

著者： NHK取材班

出版社： NHK出版

出版年： 1996年

ISBN:

「移民列島」ニッポン

著者： 藤巻秀樹

出版社： 藤原書店

出版年： 2012年

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **健康に生きるⅢ**

担当者 田中 芳幸

テーマ

精神的な「健康」(メンタルヘルス)の概要とその維持増進に役立つ心理学・行動科学理論の理解

獲得目標

個人の「健康」について精神的側面(メンタルヘルス)を中心に学ぶ。心理学や医療行動科学の分野で研究されている様々なメンタルヘルスの理論や、その歴史的背景を学び、現代人が健康に生活するうえでのメンタルヘルスの重要性を理解する。健康に関する精神的側面を主軸としながら、個人の心理社会生物学的な健康を包括的に理解する。さらに、メンタルヘルスの維持増進や予防に役立つとされる様々な理論・技法についても考察する。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション 「健康」の捉え方
 - 第2回 メンタルヘルスの関連学問領域
 - 第3回 パーソナリティと健康
 - 第4回 パーソナリティやメンタルヘルスの測定方法
 - 第5回 ストレスのメカニズムと健康
 - 第6回 ストレスへの対処
 - 第7回 様々なストレスマネジメント技法
 - 第8回 社会・集団とメンタルヘルス
 - 第9回 様々な健康関連行動
 - 第10回 健康関連行動と生活習慣病
 - 第11回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅰ：人間性心理学の視点から
 - 第12回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅱ：精神分析学の視点から
 - 第13回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅲ：認知・学習心理学の視点から
 - 第14回 メンタルヘルスの維持・増進に役立つ諸理論・技法Ⅳ：学習・行動心理学の視点から
 - 第15回 健康に生きるⅢ(メンタルヘルス)のまとめ
-

授業以外での学習方法

教科書や参考文献に示すものなどといった心理学・医療行動科学関連図書や講義中に配布する資料による自学自習、および、講義内容を踏まえての自分自身の心身の健康への考察

教科書

医療の行動科学Ⅰ 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー

著者： 山田 富美雄(編)

出版社： 北大路書房

出版年：

ISBN：

参考書

健康と暮らしに役立つ心理学

著者： 金政 祐司・大竹 恵子

出版社： 北樹出版

出版年：

ISBN：

新版健康心理学

著者： 野口 京子

出版社： 金子書房

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50）

授業中課題（30）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ <α>

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源・ルール等)
 - 第2回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・サーブ)
 - 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
 - 第4回 応用練習(ミニゲーム)
 - 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)
 - 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
 - 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
 - 第11回 応用練習(ミニゲーム)
 - 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)
-

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (5)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

aky801d650

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である

参考URL

2013 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源・ルール等)
- 第2回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・サーブ)
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (5)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

aky801d652

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である

参考URL

2013 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ <C>

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源・ルール等)
 - 第2回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・サーブ)
 - 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
 - 第4回 応用練習(ミニゲーム)
 - 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)
 - 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
 - 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
 - 第11回 応用練習(ミニゲーム)
 - 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
 - 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)
-

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (5)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

aky801d653

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である

参考URL

2013 Syllabus

科目名 スポーツコースⅡ <d>

担当者 藤田 幸光

テーマ

スポーツの魅力を知り、自己成長を図る。

獲得目標

本授業はバレーボールを教材として基礎体力と技術のスキルアップを図っていく。また、スポーツの必要性を学び、自己の健康管理や怪我なく楽しく運動するために最も必要なルールやマナーを身につけること。同時にグループ(チーム)を通しコミュニケーション・スキルの向上を図る集団マネジメント方法の学習である。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業内容・バレーボールの起源・ルール等)
- 第2回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(パス・サーブ)
- 第3回 基本技術の練習・ソフトバレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第4回 応用練習(ミニゲーム)
- 第5回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第6回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第7回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第8回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)
- 第9回 基本技術の練習・6人制バレーボール(パス・サーブ)
- 第10回 基本技術の練習・6人制バレーボール(スパイク・ブロック・三段攻撃)
- 第11回 応用練習(ミニゲーム)
- 第12回 リーグ戦Ⅰ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第13回 リーグ戦Ⅱ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第14回 リーグ戦Ⅲ(星取表つける)※各グループ毎で練習の組立
- 第15回 リーグ戦Ⅳ(スキルテスト/ゲームを通しての評価)

授業以外での学習方法

メディア等を通じ多くのスポーツに関心を持つ。実際に会場まで足を運んで観戦すればもっと良い。

教科書

参考書

成績評価

試験 (5)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

aky801d654

スポーツに相応しい服装で受講し、ルールを遵守しマナーを大切にすること。最大の評価基準は集団形成への貢献度・取り組む姿勢である

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **スポーツコースⅡ〈ラクト〉**

担当者 佐々木 雅人

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動と筋力アップ

獲得目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、筋力アッププログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション：フィットネスを始める前に（運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック）
- 第2回 マシンジム：オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ。
- 第3回 体力・形態測定：自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデータとの比較前期受講者は1回目との体力と形態比較しましょう
- 第4回 筋力アップの実践：筋持久力、筋力向上の理論と実践。白筋と赤筋とは。
- 第5回 ストレッチ実践：柔軟性の向上と準備・整理体操
- 第6回 無酸素運動：筋肉づくりの栄養・理論を学び筋力をつける
- 第7回 エアロビクス：ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践
- 第8回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動
- 第9回 サーキットトレーニング：部屋でできる運動プログラム
- 第10回 ボールエクササイズ：バランスボールを使ってインナーマッスルを強化する
- 第11回 ピラティス：身体の歪を解消
- 第12回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動
- 第13回 コアトレーニング：腹筋群・背筋群を強化する。体幹のトレーニング
- 第14回 脚部強化運動 脚筋群・臀部を強化する。脚部を引き締める運動
- 第15回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動

授業以外での学習方法

(1) JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。(2)参考書：「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 スポーツコースⅣ〈a〉

担当者 宇部 一

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)

獲得目標

バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の内容

バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

内 容

- 第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。
- 第2回 バドミントンの基礎技術練習(ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど)
- 第3回 バドミントンの基礎技術練習(ドロップ、ドライブ、サービスなど)
- 第4回 シングルのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム
- 第5回 シングルの戦術とリーグ戦形式ゲーム
- 第6回 ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解
- 第7回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術
- 第8回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム(ミックスダブルス、チーム対抗など)
- 第9回 卓球の基礎技術練習(フォアハンドの基本、バックショットなど)
- 第10回 卓球の基礎技術練習(サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解)
- 第11回 シングルのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
- 第12回 ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
- 第13回 ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム
- 第14回 チーム対抗形式でのゲーム
- 第15回 卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

授業以外での学習方法

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

教科書

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **スポーツコースⅣ **

担当者 宇部 一

テーマ

スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化(※2011年度以前入学生は2単位です。)

獲得目標

バドミントンと卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツ活動の継続化による生涯スポーツの必要性を学び、同時にグループ活動などを通してコミュニケーション・スキルの向上をはかる。

授業の内容

バドミントンと卓球について各7時間行う。それぞれの種目の基本的な技術練習とルールの理解から始め、後半はシングルスおよびダブルスでのリーグ戦形式でのゲームを中心に行う。

内 容

- 第1回 授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力・健康状態の確認。
- 第2回 バドミントンの基礎技術練習(ハイクリア、スマッシュ、ヘアピンなど)
- 第3回 バドミントンの基礎技術練習(ドロップ、ドライブ、サービスなど)
- 第4回 シングルのルールの理解、リーグ戦形式ゲーム
- 第5回 シングルの戦術とリーグ戦形式ゲーム
- 第6回 ダブルスのルールの理解と基礎練習、ルールの理解
- 第7回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム、戦術
- 第8回 ダブルスでのリーグ戦形式ゲーム(ミックスダブルス、チーム対抗など)
- 第9回 卓球の基礎技術練習(フォアハンドの基本、バックショートなど)
- 第10回 卓球の基礎技術練習(サービスの打ち分け、ドライブ、カットの理解)
- 第11回 シングルのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
- 第12回 ダブルスのルールの理解とリーグ戦形式でのゲーム
- 第13回 ダブルスの戦術の理解とリーグ戦形式でのゲーム
- 第14回 チーム対抗形式でのゲーム
- 第15回 卓球の基礎的なスキルテスト、授業評価とまとめ

授業以外での学習方法

スポーツや身体運動の継続化の意義を理解し、自己の健康管理の能力向上に努める。授業で実施するスポーツ種目について様々なメディアを通じた情報に目を向け、スポーツの文化としての意義を考える。

教科書

参考書

成績評価

試験 (10)

授業中課題 (5)

参加度 (60)

小テスト (5)

授業中発表等 (20)

授業実施回数の3分の2以上の出席がないと成績評価の対象としない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **スポーツコースⅣ〈ラクト〉**

担当者 佐々木 雅人

テーマ

フィットネスクラブでの基礎体力づくり運動とダイエット

獲得目標

ラクトスポーツプラザを利用し、厚生労働省におけるヘルスプラン「運動」・「栄養」・「休養」の生涯スポーツの一環として楽しく、正しいフィットネス知識を身に付けます。基礎体力づくり、グループエクササイズ、運動ダイエットプログラムを中心にテーマに沿った授業で健康的なフィットネススポーツを学び実践します。

授業の内容

※2011年度以前入学生は2単位です。

内 容

- 第1回 オリエンテーション：フィットネスを始める前に（運動に適切な服装・靴 水分補給 メディカルチェック）
- 第2回 ストレッチ実践：柔軟性の向上と準備・整理体操
- 第3回 体力・形態測定：自分の体力は実質何歳でしょう。厚生労働省のデータとの比較
- 第4回 マシンジム：オリエンテーション。機器の扱いと利用方法を学ぶ。
- 第5回 ストレッチ理論：ストレッチとは。ラジオ体操との違いは。やわらかいしなやかな体づくり
- 第6回 ダイエットの為の栄養と理論：体脂肪とはなんぞや？正しい運動ダイエット。リバウンドについて体脂肪率について
- 第7回 有酸素運動：体脂肪を燃焼させるメカニズムについて。
- 第8回 エアロビクスⅠ：ダンスオリエンテーション。理論、種類、実践
- 第9回 無酸素運動：ウェイトトレーニング、部位ひきしめシェイプアップと「基礎代謝熱量」
- 第10回 自律訓練法：ストレッチと自律訓練法で心身のストレス解消法・眠れない夜に
- 第11回 ダンスエクササイズ：ズンバ(ZUMBA)で敏捷性、巧緻性(器用さ)の向上
- 第12回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動
- 第13回 腹部ひきしめ体操：腹筋群、背筋群、コアトレーニング
- 第14回 脚部ひきしめ体操：脚筋群、臀部を強化、スクワット
- 第15回 マシンジム実践：ジム機器を利用して運動。体脂肪測定

授業以外での学習方法

(1) JR山科駅前のラクトB 5・6階の「ラクトスポーツプラザ」での授業になる為、キャンパスから移動して17:15～18:45までの時間帯授業になります。(2)参考書：「五訂食品成分表」など栄養素や食品カロリーを学んで下さい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (60)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **地球生命論**

担当者 趙 哲済

テーマ

生命の発生から人類が進化・発展して現在に至った地球と生物の歴史の基礎的理解

獲得目標

地球の誕生から現在に至るまでの地球と生物の歴史を学ぶ。中でも特に、人類が進化・発展してきた第四紀と呼ぶ現代社会と密接に関係する時代を、人類の諸特徴とともに、氷河の消長、海水準変動、植生変遷などの古地理に係る変遷、および生物地理と人類の拡散などの事象を通して理解する。これらは地層そのものと地層中に含まれる化石や考古遺物などの証拠に基づくものであるから、層序と対比、地質学・堆積学の諸法則、化石の二面性、堆積と浸食、堆積構造と変形構造、土壌層位、遺構面と遺構埋土の特徴などの地層学の基礎事項の理解を図るとともに、現代生活にも係る火山噴火や地震などの地盤災害の事例と、その原因も合わせて概観する。

授業の内容

人類史を含む地球と生物の歴史の概要について、スライドを用いた講義を主体に行う。それらの証拠となる化石や考古遺物を理解するために必要な地層学の基礎事項も含めて行う。なお、授業の進捗状況により、内容を一部変更する場合がある。

内 容

- 第1回 先カンブリア代(1) 地球の年代区分、地球の成り立ちと生命の発生、原核生物と真核生物(ガイダンスを兼ねて)
- 第2回 先カンブリア代(2) 細菌の光合成による遊離酸素の発生、多細胞生物の出現、全球凍結、地球の構造と大陸の移動
- 第3回 古生代(1) 骨格をもった多細胞生物、脊椎動物の出現
- 第4回 古生代(2) シダ植物の上陸、魚類の繁栄、両生類の上陸、大量絶滅
- 第5回 中生代(1) 超大陸パンゲア、アンモナイト類の進化、恐竜、海と空の爬虫類、鳥類
- 第6回 中生代(2) 裸子植物から被子植物の景観変遷、日本列島の恐竜、恐竜の絶滅
- 第7回 新生代(1) ヒマラヤ山脈とモンスーン気候、南極大陸と環南極海流、日本海と日本列島の成立
- 第8回 新生代(2) 哺乳類の系統と進化
- 第9回 新生代(3) 長鼻類の繁栄、霊長類の進化
- 第10回 第四紀(1) 層序学の基礎、氷期と間氷期の編年
- 第11回 第四紀(2) 氷期と間氷期の景観、大阪層群、黄檗断層
- 第12回 人類の進化(1) 猿人、直立二足歩行の証拠、年代の調べ方
- 第13回 人類の進化(2) 原人・旧人、石器の発達、第1次出アフリカ
- 第14回 人類の進化(3) 分子系統、新人、第2次出アフリカ、言語、芸術、牧畜・農耕
- 第15回 自然改造と地盤災害、地球と人類の未来を考える(まとめにかえて)

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読み進めるとともに、野外で、地層や河原の堆積物のようす、植生のようすを体験的に観察する機会を積極的につくる。

教科書

参考書

地球生物学

著者: 池谷仙之・北里洋

出版社: 東京大学出版会

出版年: 2004

ISBN: 4-13-062711-2

生命と地球の歴史

著者： 丸山茂徳・磯崎行雄

出版社： 岩波新書

出版年： 1998

ISBN： 4-00-430543-8

リズムカルな地球の変動

著者： 増田富士男

出版社： 岩波書店

出版年： 1993

ISBN： 4-00-007903-4

繰り返す大量絶滅

著者： 平野弘道

出版社： 岩波書店

出版年： 1993

ISBN： 4-00-007907-7

人類紀自然学

著者： 人類紀自然学編集委員会

出版社： 共立出版

出版年： 2007

ISBN：

人類進化の700万年

著者： 三井誠

出版社： 講談社現代新書

出版年： 2005

ISBN： 4-06-149805-3

出アフリカ記…人類の起源

著者： クリス ストリンガー

出版社： 岩波書店

出版年： 2001

ISBN： 4-00-023354-8

進化の大爆発…動物のルーツを探る

著者： 大森昌衛

出版社： 新日本出版

出版年： 2000

ISBN：

絶滅した日本の巨獣

著者： 井尻正二・犬塚則久

出版社： 築地書館

出版年： 1989

ISBN： 4-8067-1153-5

層序と年代

著者： 長谷川四郎ほか

出版社： 共立出版

出版年： 2006

ISBN： 4-320-04682-X

成績評価

試験 ()

小テスト (100)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

授業の中で2・3回行う基礎事項に関する小テストで評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地球環境論 <a>

担当者 小森 治夫

テーマ

地球環境問題と水問題

獲得目標

21世紀の最重要化だえである地球環境問題と水問題についての理解を深める

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 地球環境問題と何か
 - 第2回 地球温暖化(1)温暖化危機
 - 第3回 地球温暖化(2)気候大変動
 - 第4回 地球温暖化(3)気候大変動
 - 第5回 地球温暖化(4)北極大変動
 - 第6回 温暖化対策(1)自然エネルギー
 - 第7回 温暖化対策(2)自然エネルギー
 - 第8回 温暖化対策(3)低炭素社会
 - 第9回 水問題(1)水の世紀が始まった
 - 第10回 水問題(2)水の世紀が始まった
 - 第11回 水問題(3)アラル海
 - 第12回 水問題(4)ウォーター・ビジネス
 - 第13回 水問題(5)ウォーター・クライシス
 - 第14回 水問題(6)ウォーター・クライシス
 - 第15回 エピローグ
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など) 環境問題を取り上げたテレビ番組を見ること

教科書

参考書

不都合な真実

著者: アル・ゴア

出版社: ランダムハウス講談社

出版年: 2006

ISBN:

低炭素経済への道

著者: 諸富徹・浅岡美恵

出版社: 岩波書店

出版年: 2010

ISBN:

地球の水が危ない

著者： 高橋裕

出版社： 岩波書店

出版年： 2003

ISBN:

ウォーター・ビジネス

著者： 中村靖彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2004

ISBN:

ロラン島のエコ・チャレンジ

著者： ニールセン北村朋子

出版社： 野草社

出版年： 2012

ISBN:

地下水は語る

著者： 守田優

出版社： 岩波書店

出版年： 2012

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (70)

授業中発表等 (0)

参加度 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **地球環境論 **

担当者 小森 治夫

テーマ

地球環境問題と水問題

獲得目標

21世紀の最重要化だえである地球環境問題と水問題についての理解を深める

授業の内容

以下の内容について、映像資料を活用して、イメージ豊かに学ぶ

内 容

- 第1回 オリエンテーション 地球環境問題と何か
 - 第2回 地球温暖化(1)温暖化危機
 - 第3回 地球温暖化(2)気候大変動
 - 第4回 地球温暖化(3)気候大変動
 - 第5回 地球温暖化(4)北極大変動
 - 第6回 温暖化対策(1)自然エネルギー
 - 第7回 温暖化対策(2)自然エネルギー
 - 第8回 温暖化対策(3)低炭素社会
 - 第9回 水問題(1)水の世紀が始まった
 - 第10回 水問題(2)水の世紀が始まった
 - 第11回 水問題(3)アラル海
 - 第12回 水問題(4)ウォーター・ビジネス
 - 第13回 水問題(5)ウォーター・クライシス
 - 第14回 水問題(6)ウォーター・クライシス
 - 第15回 エピローグ
-

授業以外での学習方法

新聞を毎日読む(とくに経済面、政治面、社会面など) 環境問題を取り上げたテレビ番組を見ること

教科書

参考書

不都合な真実

著者: アル・ゴア

出版社: ランダムハウス講談社

出版年: 2006

ISBN:

低炭素経済への道

著者: 諸富徹・浅岡美恵

出版社: 岩波書店

出版年: 2010

ISBN:

地球の水が危ない

著者： 高橋裕

出版社： 岩波書店

出版年： 2003

ISBN：

ウォーター・ビジネス

著者： 中村靖彦

出版社： 岩波書店

出版年： 2004

ISBN：

ロラン島のエコ・チャレンジ

著者： ニールセン北村朋子

出版社： 野草社

出版年： 2012

ISBN：

地下水は語る

著者： 守田優

出版社： 岩波書店

出版年： 2012

ISBN：

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **地理学概論**

担当者 中西 和子

テーマ

地理学の成立を学び、現在の地理教育に関する諸問題について考える。あわせて、古典的モデル論の有効性と問題点を考える。

獲得目標

「地理学」は他の研究分野とどのように異なり、どのように類似するのか考え、「地理学的発想」および「地理学的手法」を取得する。さらに上記を踏まえたうえで、現代社会に必要な地理知識について検証する力を養う。

授業の内容

教科書は指定せず、配布プリントにて行うものとする。パワーポイントも使用するが、一部、全体でのディスカッション含む。

内 容

- 第1回 イントロダクション: “東日本大震災”—この呼び方、本当に正しいのかな?
- 第2回 地理学と地図1 人は何故、地図を描くのか—“文字”が先か“地図”が先か?
- 第3回 地理学と地図2 日本で最初の地図とそれから—何を何に描いたのか?
- 第4回 地理学と地図3 地理学の必殺技!“地図化する”ということ
- 第5回 地理学の成立と展開1 王子様の必須科目!—ヘカタイオスからアレクサンダーの東方遠征
- 第6回 地理学の成立と展開2 教養人の必須科目—エデンの園と新世界発見
- 第7回 地理学の成立と展開3 近代地理学の成立—「環境決定論」と「環境可能論」の仁義なき戦い
- 第8回 新しい(?)「環境決定論」—『銃・病原菌・鉄』
- 第9回 日本における地理学の成立
- 第10回 農業的土地利用・チューネンモデルと柳田国男の『蝸牛考』
- 第11回 産業立地・ウェーバーモデルと八幡製鉄所
- 第12回 大学生に最低限必要な“地理”について考えよう1 日本の農業の不思議について
- 第13回 大学生に最低限必要な“地理”について考えよう2 大都市の“電力”の不思議について
- 第14回 かつての街道と現代の高速道路—地理条件と社会条件、勝つのはどっち?
- 第15回 「地理教育」の問題点—どうして“地理嫌い”が多いの?

授業以外での学習方法

授業中に紹介する本を読み、事前に次回テーマに関して下調べをしておくこと。

教科書

参考書

現代地理学入門 身近な地域から世界まで

著者: 高橋 伸夫 他編

出版社: 古今書院

出版年: 2005

ISBN: 978477223049-0

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 (10%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

aky901e350

授業中の質疑応答に積極的に答えて下さい。また、試験に関しては、従来説など既往の研究をまとめるだけでなく、自分の意見を明確にして論じて下さい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 生活の中の数学 <a>

担当者 小寺 隆幸

テーマ

実生活の様々な問題を数学的にとらえるとより深く理解できることを知り、数学への興味・関心を高め、市民としての数学的リテラシーを育む。

獲得目標

実生活の様々な問題には数量・図形・変化などが関わっている。この授業では、具体的な場面を取り上げ、数学的に物事を見ることでより適切な判断が出来ることを理解していく。それぞれの数学の内容を掘り下げ習熟することが目的ではなく、数理的に見るとはどういうことかを理解し、数学に対する関心を深め、将来必要になった時に数学を自分で学ぼうとする姿勢を育てることが目的である。

授業の内容

算数から微積分まで、小中高の数学の内容を生活との関わりという視点で見直す。さらにカオスなどの新たな数学にもふれる。今まで数学が苦手な人もわかるようにすすめる。

内 容

- 第1回 携帯料金 どれがお得？ 一次関数から線型計画法へ
- 第2回 スキー場の数学 斜面の運動から二次関数へ
- 第3回 落下運動 微分・積分の考え
- 第4回 ドライバーの数学 制動距離は二次関数
- 第5回 ハイキングの数学 三平方の定理、三角比
- 第6回 身近な形を数理的に見る 図形の性質・対称
- 第7回 オウムガイとアワビの数学 相似・指数関数
- 第8回 サラ金から身を守るために 指数関数
- 第9回 ローンの返済 半対数グラフの活用
- 第10回 放射能に向き合って生きる 対数
- 第11回 リスクと宝くじ 確率・期待値
- 第12回 統計の利用と嘘 代表値・推測統計
- 第13回 成長を考える ロジスティック関数からカオスへ
- 第14回 数理のメガネで見る 角・差分
- 第15回 環境問題を数学で考える 多変数関数・フローとストック

授業以外での学習方法

授業に関連した本を紹介する。興味がある人は読んで深めよう。

教科書

参考書

数学の1, 2, 3

著者： 瀬山士郎

出版社： 講談社

出版年： 2002

ISBN:

検定外高校数学 上

著者： 何森仁、小嶋順

出版社： 日本評論社

出版年： 2007

ISBN:

こんなに役立つ数学入門

著者： 広田照幸、川西琢也

出版社： 筑摩書房

出版年： 2007

ISBN:

なるほどなっとく数学再挑戦

著者： 増島高敬、石井孝子

出版社： 日本評論社

出版年： 2004

ISBN:

数学は世界を解明できるか

著者： 丹羽敏雄

出版社： 中央公論新社

出版年： 1999

ISBN:

微分積分の意味がわかる

著者： 野崎昭弘

出版社： ベレ出版

出版年： 2000

ISBN:

統計確率の意味がわかる

著者： 野崎昭弘

出版社： ベレ出版

出版年： 2001

ISBN:

数学入門 上 下

著者： 遠山啓

出版社： 岩波書店

出版年： 1959

ISBN:

地球を救え！数学探偵団

著者： 小寺隆幸

出版社： 国土社

出版年： 1996

ISBN:

数学で考える環境問題

著者： 小寺隆幸

出版社： 明治図書

出版年： 2004

ISBN:

成績評価

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

参加度は毎回提出する授業感想で評価、試験はレポート試験とする

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育課程研究 <Z>

担当者 木村 裕

テーマ

教育課程の構造と教育実践

獲得目標

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。

授業の内容

1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。

内 容

- 第1回 教育課程の構造と意味
 - 第2回 内申書、通知票について
 - 第3回 観点別評価の意味
 - 第4回 目標と評価のあり方
 - 第5回 教育実践評価と授業公開(中等)
 - 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理(中等)
 - 第7回 教科書の採択システム
 - 第8回 教科書づくり
 - 第9回 教科と教科外の教育方法(中等)
 - 第10回 総合学習について(中等)
 - 第11回 身体と教育課程(中等)
 - 第12回 教育課程と授業づくり(中等)
 - 第13回 思春期の教育階梯
 - 第14回 SNE(特別なニーズ教育)について
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

* 講義で扱った内容をふまえてその後の講義を進めるため、復習をするとともに、不明な点があれば質問すること。* 講義外の時間を使って、講義中に出す課題に取り組むこと。

教科書

講義初日に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

教育学の探究—教師の専門的思索のために

著者: 佐藤博志他

出版社: 川島書店

出版年: 近刊(2013年3月の予定)

ISBN:

よくわかる教育課程

著者： 田中耕治編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2009

ISBN: 4623051447

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

講義中に指示する数回のレポートやワークシート、プレゼンテーションを中心に、授業態度や授業への参加度を加味して、総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育方法の研究〈Z〉

担当者 梅本 裕

テーマ

〈授業をつくる〉ことへのイメージを育む

獲得目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。

授業の内容

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。

内 容

- 第1回 「あの坂の名は？」: 社会科における発信型の授業と学力とは何か？
- 第2回 「見たこと作文」: 子どもが〈動く〉授業の条件とは？
- 第3回 「木の葉の駅で」: 発問の構造
- 第4回 「発電所はどこにあるか？」: 教授行為とは何か？
- 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての〈指示・発問・説明・応答・調整〉
- 第6回 「お化け屋敷で算数を」: こどもたちの理解の構造をさぐる
- 第7回 「絵を描くのは苦手です」: 教育内容と方法の開発論理
- 第8回 「声を育てる音楽の授業」: 〈雰囲気の良い授業〉の構造は？
- 第9回 「世界とつながる、深く調べる」: コンピュータとインターネットでできること
- 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」: 言語技術としての〈分析ツールを教える〉国語の授業
- 第11回 「琵琶湖で学ぶ」: 総合学習とは何か？
- 第12回 授業づくりの記号論的構造: 〈教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価〉
- 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」: 授業の機能とITの活用
- 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」: イメージをそだてる授業の構造
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

(1) 新聞やテレビなどのマスメディアでの教育問題の紹介に注意を払い、理論的説明を試みることを期待する。(2) 小中高時代のノートや教科書があれば、それを手がかりにして、自分がどのような授業を受けたかを振り返ってみよう。「教わったようには教えない」とするならば、どんな教え方が可能か調べてみよう。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

ask1011950

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

試験(レポート)についての詳細は授業の中で説明する。

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 国語科教育法Ⅱ

担当者 池田 修

テーマ

実技教科としての国語科のあり方を探る

獲得目標

教師が「教科書を読んで板書して解説して」という国語科を脱却し、学習者が主体的に学びに参加する国語科の授業を構築するための観点と方法を手に入れることを目的とする。

授業の内容

それぞれの項目について、説明、演習と解説を元に受講生と意見を交わしながら行う。また、学習班を単位として「模擬授業」「教材作り」「学習ゲーム」などの活動を行う。* 受講生の取り組み具合、受講生のリクエストなどによって多少の変更は想定される。外部講師をお招きする可能性もある。

内 容

- 第1回 国語科と教材作り 授業ガイダンス。夏休みの課題の相互評価。ワークシートの実例から、教材とは何かを考える。学習班づくり。発問とは何か？
- 第2回 国語科を実技教科として考える。学習ゲーム、ワークシート、資料集作り、辞書作り、アンソロジーノート、対義語でポン、和綴じ本作りなど。
- 第3回 学習ゲームの実際。辞書しり取り、たほいや、why-becauseゲーム、無関係ゲーム、ディベート、J1百人一首など。人生名言集。
- 第4回 ワークシートの実際。短編問題集、漢字学習、言語事項学習など。実際にゲームを作ってみる スピーチテスト。
- 第5回 指導案の書き方 1。授業のビデオを見て、その授業の指導案を書いてみる。
- 第6回 指導案の書き方 2。指導案の相互評価。
- 第7回 定番教材の指導 韻文。中学校の定番教材として扱われる韻文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。
- 第8回 定番教材の指導 散文。中学校の定番教材として扱われる散文の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。
- 第9回 定番教材の指導 古典。中学校の定番教材として扱われる古典の指導方法を学習指導要領の5観点から検討する。
- 第10回 作成教材の検討 1。定番教材として提出した教材を実際に使って、定期考査を作る。
- 第11回 国語教育の現在 1。メディアリテラシー教育。メディア断食、CMの分析、番組作りなど。
- 第12回 国語教育の現在 2。コンピュータと国語。タッチタイプ、ブログ、デジタルストーリーテリング、読書感想文など。
- 第13回 作成教材の検討 2。第10回の授業で求められた課題としての考査問題を、お互いに解き合い、採点もする。相互評価を下してみる。評価／評定指導。評価とは何か、評価から評定への実際。
- 第14回 模擬授業 1 5分程度の模擬授業を全員が行う。
- 第15回 模擬授業 2 5分程度の模擬授業を全員が行う。国語科教育法2のまとめ。

授業以外での学習方法

「国語が好き」「国語がわかる」では、国語の教師になれたとしても、やっていけない。「国語を教えることができる」でなければならない。そのためには教育雑誌にある授業の記録、学校現場での授業の見学、テレビ番組での授業など国語科に限らず、多くの授業に触れること。その際、学習集団としてのクラスに教師がどのように動きかけているのかに意識を向けること。また、実際に学んだ内容を塾などの指導で活用して使えるようにすること、ワープロや表計算ソフトの習得も勧める。

教科書

まともな日本語教えない勘違いだらけの国語教育

著者： 有元秀文

出版社： 合同出版

出版年：

ISBN：

いちばんやさしい教える技術

著者： 向後千春

出版社： 永岡書店

出版年：

ISBN：

参考書

中学校言語能力がぐーんと身につく学習ゲーム集

著者： 石川晋・平山雅一

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

みんな言葉を持っていた

著者： 柴田保之

出版社： オクムラ書店

出版年：

ISBN：

一斉指導10の原理100の原則

著者： 堀 裕嗣

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

新版 教師になるということ

著者： 池田修

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

読書で遊ぼうアニメーション

著者： モセラット・サルト

出版社： 柏書房

出版年：

ISBN：

プレイフル・ラーニング

著者： 上田信行×中原淳

出版社： 三省堂

出版年：

ISBN：

授業の作法

著者： 野口芳宏

出版社： 学陽書房

出版年：

ISBN：

これだけは身につけたい 超定番！ 授業づくりの基礎・基本

著者： 八木正一・上條晴夫

出版社： 学事出版

出版年：

ISBN：

奇跡の教室

著者： 伊藤氏貴

出版社： 小学館

出版年：

ISBN：

白川静さんに学ぶ 漢字は面白い

著者： 小山鉄郎

出版社： 新潮文庫

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト (10)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (20)

参加度 (30)

グループで行う模擬授業と、個人で行う模擬授業を評価では重点とします。準備、実際、まとめとそれぞれを丁寧に取り組むこと。

ask1012550

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会科教育法Ⅱ**

担当者 木全 清博

テーマ

中等社会科の目標、内容、方法について、教材分析と授業づくりを通じて基本的な理解を深める。

獲得目標

中等社会科の目標、内容、方法に関する基本的な理解を深めるために、中学校・高等学校の社会科の歴史とすぐれた社会科実践の分析を行う中で、教材づくりの視点と方法を学ぶ。さらに、中等社会科の授業案づくりを作成して、実践力を身につける。

授業の内容

中等社会科について戦後社会科の誕生から現在までの学習指導要領の歴史、民間の社会科実践のあゆみ、中学校教科書論、教材論、社会科の授業案を作成する。

内 容

- 第1回 戦後の中等社会科のあゆみ(1)ー公民教育構想と初期社会科の誕生、問題解決学習と初期社会科実践、初期社会科教科書の内容
- 第2回 戦後の中等社会科のあゆみ(2)ー1955年版学習指導要領から1977年版学習指導要領まで、系統学習と歴史・地理学習、民間社会科(歴教協と教科研)の実践、生産労働実践と系統的歴史・地理学習、中等社会科カリキュラムと高校の現代社会
- 第3回 戦後の中等社会科のあゆみ(3)ー1989年版学習指導要領と社会科解体、生活科と高校の地歴科・公民科、1998年版学習指導要領と総合的学習の開始、社会科の総合性と総合学習論
- 第4回 戦後社会科教育史から学ぶー社会科における問題解決学習と系統学習、課題探究型社会科学学習、総合型の人権学習、平和教育と環境教育、
- 第5回 民間社会科実践史から学ぶ(1)中学校平和教育一本多公栄実践「子どもと学ぶ太平洋戦争」、中学校の戦争学習の実践史
- 第6回 民間社会科実践史から学ぶ(2)中学校歴史学習ー安井俊夫「スパルタクスの乱」、『子どもと学ぶ歴史の授業』から『子どもが動く社会科』へ、発言を引き出す授業、安井の授業Vビデオ視聴
- 第7回 民間社会科実践史から学ぶ(3)高校日本史学習ー加藤公明「肖像画の中の義満」『考える日本史』ー討論型日本史学習、加藤の授業ビデオ視聴
- 第8回 民間社会科実践史から学ぶ(4)高校世界史学習ー難波達興のアメリカ史、鳥山孟郎のアジア史
- 第9回 社会科教材づくりの視点と方法(1)教育内容と教材の区分、中学校の教科書分析、安井俊夫の授業づくり論
- 第10回 社会科教材づくりの視点と方法(2)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、授業構想と教材研究
- 第11回 社会科教材づくりの視点と方法(3)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案づくり
- 第12回 社会科教材づくりの視点と方法(4)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
- 第13回 社会科教材づくりの視点と方法(5)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
- 第14回 社会科教材づくりの視点と方法(6)各自の授業テーマに基づく授業案づくり、具体的な授業案の発表と相互批評
- 第15回 中等社会科の歴史と実践のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

新しい中等社会科へのいざない

著者： 臼井嘉一・木全清博他編

出版社： 地歴社

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 ()

小テスト (50)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会科教育法Ⅲ**

担当者 田中 曜次

テーマ

模擬授業の計画と実践を通して、教材研究や教科指導の力を養う。

獲得目標

教育実習での研究授業(公開授業)を念頭において、「学習指導案(細案)」を作成することができる。授業実践の模擬体験を通して、授業技術の基礎を身につける。協力して授業実践を行うことを通して、授業研究や授業改善の方法を知る。

授業の内容

小集団または個人によって教材を開発し、学習指導案を作成する。さらに模擬授業実践を行い、それを検討するまでを行う。

内 容

- 第1回 授業の目標と進め方
 - 第2回 授業作りと教材研究の方法 ① 学習指導要領と教科書
 - 第3回 授業作りと教材研究の方法 ② 教材と教具 発問と指示
 - 第4回 地理的分野の授業分析
 - 第5回 歴史的分野の授業分析
 - 第6回 公民的分野の授業分析
 - 第7回 模擬授業 ①
 - 第8回 模擬授業 ②
 - 第9回 模擬授業 ③
 - 第10回 模擬授業 ④
 - 第11回 模擬授業 ⑤
 - 第12回 模擬授業 ⑥
 - 第13回 模擬授業 ⑦
 - 第14回 模擬授業 ⑧
 - 第15回 模擬授業の総括
-

授業以外での学習方法

教育委員会などでは、地域の優秀な指導案を収集・公開しています。地域によって形式なども異なるので、教育実習を意識し、あらかじめ確認しておきましょう。

教科書

中学校学習指導要領解説 社会編

著者： 文部科学省

出版社： 日本文教出版

出版年： 2008.9

ISBN： 9.78454E+12

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

ask1013050

模擬授業の準備、実践、振り返りを通して、積極的に協力して行ってほしい。模擬授業は「学習指導案」の形で最後に提出する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **書道科教育法Ⅱ**

担当者 尾西 正成

テーマ

模擬授業を通して、高等学校芸術科書道の現状と課題、その指導の実際を考える

獲得目標

高等学校の現状と指導内容を把握し、教科教材の研究開発から、実際に現場でしっかりとした授業が行えるように準備・展開できるようにする。「書道科教育法Ⅱ」にあつては、書道Ⅱ、書道Ⅲ(漢字、かな、漢字仮名交じり他)を主として進める。また、いろいろな教材の可能性についての模索に取り組みたい。積極的な意見交換が行われ、書道教育の新たな展開を図りたい。

授業の内容

内 容

- 第1回 授業における興味づけの大切さについて
- 第2回 漢字かな交じり文の展開について
- 第3回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究①
- 第4回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究②
- 第5回 漢字かな交じり領域での模擬授業と授業研究③
- 第6回 篆書領域での模擬授業と授業研究
- 第7回 隷書領域での模擬授業と授業研究
- 第8回 新しい教材の研究とユニークな授業の展開について また、その吟味と問題点を考える
- 第9回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究①
- 第10回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究②
- 第11回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究③
- 第12回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究④
- 第13回 各自で工夫された教材での模擬授業と授業研究⑤
- 第14回 研究授業のまとめ
- 第15回 書道教育の現状と未来のあるべき姿を考える

授業以外での学習方法

模擬授業での適正な計画や準備などのため、相当量の家庭での学習と取り組みが必要になる。また、教育実習に向けての諸準備も怠らないようにしたい。

教科書

参考書

学習指導要領

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト (0)

授業中発表等 (40)

ask1013350

レポート、模擬授業での意欲的な取り組み、出席率等、総合的に評価することとする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 地歴科教育法Ⅱ

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

地歴科の授業づくりと模擬授業

獲得目標

現職教師の授業づくりの方法を学ぶとともに、教科書をもとに実際に授業を作って、模擬授業と授業研究をする。

授業の内容

教育実習に向けて、教材研究の仕方、地歴科の授業の作り方、指導案の書き方を学び、教材を作成する。

内 容

- 第1回 「日本史A」の導入教材をどう作るか(1):教材研究と教材の開発
 - 第2回 「日本史A」の導入教材をどう作るか(2):実践報告と授業評価
 - 第3回 模擬授業と授業研究(1)
 - 第4回 模擬授業と授業研究(2)
 - 第5回 模擬授業と授業研究(3)
 - 第6回 模擬授業と授業研究(4)
 - 第7回 模擬授業と授業研究(5)
 - 第8回 模擬授業と授業研究(6)
 - 第9回 模擬授業と授業研究(7)
 - 第10回 模擬授業と授業研究(8)
 - 第11回 模擬授業と授業研究(9)
 - 第12回 模擬授業と授業研究(10)
 - 第13回 模擬授業と授業研究(11)
 - 第14回 模擬授業と授業研究(12)
 - 第15回 模擬授業と授業研究(13)
-

授業以外での学習方法

全国の著名な実践家の授業実践報告を読んだり、民間の教育研究団体の研究会に参加して、現場で授業づくりをおこなっている教師の生の声を聞いて欲しい。

教科書

中等社会科ハンドブック ―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―』B5判

著者： 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編

出版社：

出版年： ISBN: 9.78476E+12

参考書

中等社会科の理論と実践

著者： 二谷貞夫・和井田清司

出版社：学文社

出版年：2007年 ISBN：

成績評価

ask1013550

試験 (0)
授業中課題 (60)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 公民科教育法Ⅱ

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

公民科教育の内容理解と授業づくり

獲得目標

模擬授業づくりを通して、教材開発の手法とカリキュラムデザインの実際を学ぶ。

授業の内容

「現代社会」「政治経済」「倫理」の中から個人で模擬授業を行い、授業後、授業研究を行う。また、学生が小グループでカリキュラム開発や教材開発を行い、模擬授業を行って、授業研究会を組織する。

内 容

- 第1回 学習指導案を検討する:食糧問題の授業づくり
- 第2回 生命倫理に関する授業を作る:ディベートの手法を学ぶ
- 第3回 倫理の授業をつくる:尾崎豊を教材に青年期の授業をつくる
- 第4回 模擬授業と授業研究(1):第1グループ
- 第5回 模擬授業と授業研究(2):第2グループ
- 第6回 模擬授業と授業研究(3):第3グループ
- 第7回 模擬授業と授業研究(4):第4グループ
- 第8回 共同研究1:「民主政治の基本原則と日本国憲法」単元の授業案を考える
- 第9回 模擬授業と授業研究(5):第5グループ
- 第10回 模擬授業と授業研究(6):第6グループ
- 第11回 共同研究2:「現代の経済」単元の授業案を考える
- 第12回 共同研究3:「現代の国際政治」単元の授業案を考える
- 第13回 「民主政治の基本原則と日本国憲法」の模擬授業
- 第14回 「現代の経済」単元の模擬授業
- 第15回 「現代の国際政治」の模擬授業

授業以外での学習方法

人間の生き方・あり方及び社会の現実と理想について関心を持ち、そうした分野の読書をする。新聞を読み、時事問題に留意すること。

教科書

中等社会科ハンドブック ―〈社会・地歴・公民〉授業づくりの手引き―』B5判

著者: 二谷貞夫・和井田清司・小林汎・大野一夫・吉田俊弘編

出版社:

出版年: ISBN: 9.78476E+12

参考書

中等社会科の理論と実践

著者: 二谷貞夫・和井田清司

出版社: 学文社

出版年: 2007年 ISBN:

成績評価

ask1013750

試験 (0)
授業中課題 (60)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育実習 I

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

実りのある教育実習

獲得目標

学校現場での実習を通して、学校教育についての正しい理解を深め、教師の役割や指導についての適切な認識と技術を身につけ、教師としての人間性を高めることをめざす。

授業の内容

教育実習生として期待することは3つある。(1)実習校での学校づくりの内容を具体的に知り、そこにこめた願いをつかむこと。(2)大学で学んでいることがらを、教育現場の具体的なとりくみを通して検討し、さらに深めること。(3)教師として、社会人として自らを成長させていくうえでの課題をつかむこと。実習中は、①毎日の教育の記録を書く、②学習指導案を作成し授業を行う、③生徒の様子や自らのとりくみを振り返る、が重点課題となる。

内 容

- 第1回 ○第3週・指導のねらいを明確にして、授業にとりくむ。・児童の新しい面を見いだすように努める。・児童会の組織や実際のとりくみについて知る。
- 第2回 ○第4週・これまでに学んだことを生かして学習指導案を作成し、研究授業にとりくむ。・実習のまとめをし、成果と課題を明らかにする。なお、この授業の無断欠席は原則として認めない。やむを得ず欠席の場合は、あらかじめ理由を記した欠席届を提出すること。届けがない場合は、教員免許状の取得を放棄したものとみなす。

授業以外での学習方法

新聞やテレビで報道される教育問題や時事問題について関心を持って切り抜きなどを行う。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (40)

授業中発表等 (0)

参加度 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育実習Ⅱ(3回生枠)〈3回〉**

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

実りある教育実習(教育実習事前指導)

獲得目標

教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする

授業の内容

教育実習に向けて、教師として必要な資質、教師の社会的役割について講義、教育実習校決定までの手続きについてのガイダンスをする。その上で、3回生には、教育実習を終えた4回生の実習体験及び研究授業の報告会に参加させ、教育実習に向けての準備をさせる。また、各学校で行われる公開研究会に参加させ、現場教師の授業づくりや授業方法をまなばせる。

内 容

- 第1回 教員の適性について・教育職員免許法について・教育実習について・免許取得の心構えについて
- 第2回 教員の資質について・教育実習の実態について―実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて・教育実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて・教育実習受講資格について(内規)
- 第3回 ビデオによる教育実習の観察指導
- 第4回 先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答
- 第5回 教育実習の心得
- 第6回 現場教員による講演
- 第7回 教育実習直前指導
- 第8回 実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う
- 第9回 【実習】第1週・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。
- 第10回 第2週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・生徒相互の関係に目をむける。

授業以外での学習方法

新聞やテレビで報道される教育問題や時事問題について関心を持って切り抜きなどを行う。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **養護実習(3回生枠) <3回>**

担当者 牧野 節子

テーマ

実りある養護実習(養護実習事前指導)

獲得目標

学校保健活動における養護教諭の職務の実態、養護実習体験報告などから、養護実習についてのイメージを膨らませて実習に臨み、養護教諭への志を確たるものにする。

授業の内容

教職課程ガイダンス・教員の適性・資質について・教育職員免許取得の心構えについて

内 容

- 第1回 養護実習事前指導・養護実習内諾依頼について・養護実習の意義と計画について・養護実習の準備と心構えについて
- 第2回 養護実習反省会 実習体験報告から学ぶ。グループ討議・実践交流(4-3回生合同開催)
- 第3回 養護実習事前指導・養護実習の内容について(実習の流れ・プロセスと心得、実習記録など)・実習校への事前訪問、事前打ち合わせについて・養護実習の目標と計画について考え交流する。・養護実習受講資格について(内規)

授業以外での学習方法

公開授業や現場教師の研究会、4回生や児童教育科の学生との情報交流、子ども対象の催しや学校ボランティア活動などに積極的に参加する。

教科書

授業内で配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (50)

授業中発表等 (0)

参加度 (50)

ask1014380

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **生徒指導論**

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

生徒指導の理論と実践を学ぶ

獲得目標

生徒指導の意義と必要性、生徒指導の領域と内容、生徒指導の組織と計画など概念上の理解を深めた上で、生徒指導の今日的課題について具体的に学校現場で一般的に見られる生徒指導のあり方を事例を通して学ぶことを目的とする。

授業の内容

生徒指導上、学校現場で養護教諭に期待される役割、学級担任のクラス経営の事例、生徒会指導についてを学ぶ。

内 容

- 第1回 生徒指導の領域と内容 — いわゆる「教育困難校」の一日
- 第2回 生徒指導の意義 — 校務分掌と組織（生徒指導体制は？）
- 第3回 生徒指導の方法 — ゼロ・トレランス方式を考える
- 第4回 グループ討議：ゼロ・トレランス方式に賛成か反対か？
- 第5回 養護教諭の一日 — 養護教諭が生徒指導に果たす役割を考えてみよう
- 第6回 グループ討議：養護教諭は生徒指導場面でどのような役割を果たせるだろうか？
- 第7回 養護教諭の立場から、学校現場の生徒指導の在り方考える
- 第8回 グループ討議：いじめや不登校に対する指導を手がかりにして養護教諭の役割を考えよう
- 第9回 生活指導(1) — 民主的で自治的なクラスづくり
- 第10回 生活指導(2) — 学級通信と日直新聞の取り組み
- 第11回 生活指導(3) — ホームルームの指導組織を作って動かす取り組み
- 第12回 生活指導(4) — 文化祭の取り組み
- 第13回 生徒の学校参加 — 問題行動(授業妨害や校則違反、いじめや暴力行為)を克服するための試み
- 第14回 グループ討議：生徒を取り巻く社会と現実を考える
- 第15回 ケーススタディ — 摂食障害の生徒とその保護者、学級担任に対し、どのようなアドバイスをすべきか？

授業以外での学習方法

新聞やテレビで報道される国際情勢や時事問題について関心を持って切り抜きなどを行う。また、講義テーマについての関連図書を読み込むこと。

教科書

授業内で採受する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

授業内で紹介する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

ask1014680

試験 (0)
授業中課題 (40)
参加度 (30)

小テスト (0)
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育実習Ⅱ(4回生枠)**

担当者 井ノ口 貴史

テーマ

実りある教育実習(教育実習事前指導)

獲得目標

教職関係学習の総決算として、教育実習体験報告会などに参加して、教師への志を確たるものにする

授業の内容

教育実習直前指導で実習での心構えと授業観察の要点指導、学習指導案の添削等、個別指導を行う。また、実習後の事後指導として教育実習報告会を行い、3回生へのアドバイスや質問に答える交流会を行う。

内 容

- 第1回 教員の適性について・教育職員免許法について・教育実習について・免許取得の心構えについて
- 第2回 教員の資質について・教育実習の実態について―実習生評価票、実習校訪問の結果等に基づいて・教育実習受講の心構えについて・実習校事前訪問の意義と心構えについて・教育実習受講資格について(内規)
- 第3回 ビデオによる教育実習の観察指導
- 第4回 先輩実習生の教育実習報告及び質疑応答
- 第5回 教育実習の心得
- 第6回 現場教員による講演
- 第7回 教育実習直前指導
- 第8回 実習簿記入指導と実習後のとるべき措置について及び教育実習反省会や適宜個別指導を行う
- 第9回 【実習】第1週・学級担任の生徒に対する願いをつかむ。・生徒の名前を覚え、一人ひとりの人格をつかむ努力をする。・学校の一日のくらしの内容をつかむ。
- 第10回 第2週・学習指導案の基本的な内容と様式を知る。・教科教育と教科以外のとりくみのそれぞれの役割と具体的な内容をつかむ。・生徒相互の関係に目をむける。

授業以外での学習方法

新聞やテレビで報道される教育問題や時事問題について関心を持って切り抜きなどを行う。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **養護実習(4回生枠)**

担当者 牧野 節子

テーマ

実りある養護実習(養護実習事前・事後指導)

獲得目標

教育課程の総決算として、教育現場で実習を行い、養護教諭としての専門的知識の習得と技術を磨き、教職に関する実践的研究の能力と態度を養い、養護教諭への志を確たるものにする。

授業の内容

内 容

- 第1回 (事前指導) 養護実習事前ガイダンス・養護実習をはじめるにあたっての準備と関係書類作成・養護実習訪問指導までの流れ
- 第2回 養護実習事前指導・養護実習の意義と実態について・養護実習の心得・心構えについて・実習校事前訪問・事前打ち合わせについて・養護実習内容について(定期健康診断・研究授業・実習日誌の書き方など)
- 第3回 養護実習事前指導 養護実習内容について
- 第4回 養護教諭の職務と実際について
- 第5回 養護実習反省会 養護実習体験報告を受けてのグループ討議・実践交流 養護実習の成果と課題・まとめ (4-3回生合同開催)

授業以外での学習方法

公開授業や現場教師の研究会、児童教育学科の学生との情報交流、子ども対象の催しや学校ボランティア活動などに積極的に参加する。

教科書

授業内で配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅱ <1Ga>**

担当者 豊福 千穂 吉田 斉

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を強化する。

獲得目標

- ・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
 - ・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を問題演習形式で習得することを目指す。
-

授業の内容

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各單元ごとに再確認していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
 - 第2回 基礎国語① 国語力の基礎演習 I
 - 第3回 基礎国語② 国語力の基礎演習 II
 - 第4回 基礎国語③ 文章力育成 I
 - 第5回 基礎国語④ 文章力育成 II
 - 第6回 基礎国語⑤ 文章力育成 III
 - 第7回 基礎数学① 速さに関する問題 I
 - 第8回 基礎数学② 速さに関する問題 II
 - 第9回 基礎数学③ 金銭に関する問題 I
 - 第10回 基礎数学④ 金銭に関する問題 II
 - 第11回 基礎数学⑤ 場合の数・確率
 - 第12回 基礎数学⑥ 資料の整理・集合
 - 第13回 基礎数学⑦ 推論
 - 第14回 基礎数学⑧ 総合演習 I
 - 第15回 基礎数学⑨ 総合演習 II
-

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

就職筆記試験対策 ～入門編～

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

ask101d250

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅱ <1Gb>**

担当者 豊福 千穂 吉田 斉

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を強化する。

獲得目標

- ・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
 - ・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を問題演習形式で習得することを目指す。
-

授業の内容

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各單元ごとに再確認していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
 - 第2回 基礎国語① 国語力の基礎演習 I
 - 第3回 基礎国語② 国語力の基礎演習 II
 - 第4回 基礎国語③ 文章力育成 I
 - 第5回 基礎国語④ 文章力育成 II
 - 第6回 基礎国語⑤ 文章力育成 III
 - 第7回 基礎数学① 速さに関する問題 I
 - 第8回 基礎数学② 速さに関する問題 II
 - 第9回 基礎数学③ 金銭に関する問題 I
 - 第10回 基礎数学④ 金銭に関する問題 II
 - 第11回 基礎数学⑤ 場合の数・確率
 - 第12回 基礎数学⑥ 資料の整理・集合
 - 第13回 基礎数学⑦ 推論
 - 第14回 基礎数学⑧ 総合演習 I
 - 第15回 基礎数学⑨ 総合演習 II
-

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

就職筆記試験対策 ～入門編～

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

ask101d252

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅱ <1a>**

担当者 小谷 安佐子・濱田 剛

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。

獲得目標

- ・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
- ・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。

授業の内容

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各單元ごとに再確認していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 基礎国語① 国語力の基礎演習 I
- 第3回 基礎国語② 国語力の基礎演習 II
- 第4回 基礎国語③ 文章力育成 I
- 第5回 基礎国語④ 文章力育成 II
- 第6回 基礎国語⑤ 文章力育成 III
- 第7回 基礎数学① 四則混合計算からの総復習
- 第8回 基礎数学② 単位変換、速さの計算等の総復習
- 第9回 基礎数学③ 速さに関する問題 I
- 第10回 基礎数学④ 速さに関する問題 II
- 第11回 基礎数学⑤ 金銭に関する問題 I
- 第12回 基礎数学⑥ 金銭に関する問題 II
- 第13回 基礎数学⑦ 場合の数・確率
- 第14回 基礎数学⑧ 資料の整理・集合
- 第15回 基礎数学⑨ 推論

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

就職筆記試験対策 ～入門編～

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

ask101d253

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅱ <1b>**

担当者 小谷 安佐子・濱田 剛

テーマ

大学生活でも就職採用試験でも、そして社会に出てからも必要となる一般社会常識を学ぶ。

獲得目標

- ・コミュニケーション能力の前提となる一般社会常識を学び、就職筆記試験対策だけでなく社会に順応できる力の養成を目指す。
 - ・就職活動でよく実施される筆記試験の基礎内容を丁寧な解説で習得することを目指す。
-

授業の内容

授業計画に沿って、すでに学んできた一般常識問題を各單元ごとに再確認していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
 - 第2回 基礎国語① 国語力の基礎演習 I
 - 第3回 基礎国語② 国語力の基礎演習 II
 - 第4回 基礎国語③ 文章力育成 I
 - 第5回 基礎国語④ 文章力育成 II
 - 第6回 基礎国語⑤ 文章力育成 III
 - 第7回 基礎数学① 四則混合計算からの総復習
 - 第8回 基礎数学② 単位変換、速さの計算等の総復習
 - 第9回 基礎数学③ 速さに関する問題 I
 - 第10回 基礎数学④ 速さに関する問題 II
 - 第11回 基礎数学⑤ 金銭に関する問題 I
 - 第12回 基礎数学⑥ 金銭に関する問題 II
 - 第13回 基礎数学⑦ 場合の数・確率
 - 第14回 基礎数学⑧ 資料の整理・集合
 - 第15回 基礎数学⑨ 推論
-

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

就職筆記試験対策 ～入門編～

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 (10)

小テスト (20)

授業中発表等 ()

ask101d254

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I <2a>**

担当者 小暮 宣雄

テーマ

地域政策—地方公務員

獲得目標

1.地域政策を担う地方公共団体の仕組みと現状を理解する。2.地方公務員が担う地方行政の特質と機能を、自らが働くことを想定しつつ、具体的に知る。3.地方公務員になるための公務員試験の特色を知り、チャレンジするための心構えとスケジュールづくりを行う。

授業の内容

公務員試験を受験することを前提として、受験しようとする地方自治体を選んで、自発的に研究を行う。個人の地道な積み上げが基本だが、刺激を与えるためグループ化が進むような学修方法も検討する予定。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、自己紹介 教科書を前半は使うので事前に用意すること 憲法、民法、行政法、政治学概論 I II、行政学、経済学などの受講(予定)科目を聞き、各人の学習スタンスを確認する
- 第2回 地域政策の概要 志望動機にどう関わるか
- 第3回 地方行政とは何か 志望動機に関係して考える
- 第4回 地方自治制度の理解 地方財政や公務員制度の特質などまず何か一つに詳しくなるようにする
- 第5回 地方公務員のイメージと実際の働くすがた(1) 世間的印象と実体との乖離の理由を考える
- 第6回 地方公務員のイメージと実際の働くすがた(2) 地方公務員というキャリアと民間企業キャリアとの関係
- 第7回 地方公務員試験の研究(1)
- 第8回 地方公務員試験の研究(2)
- 第9回 地方公務員試験の研究(3)
- 第10回 フィールドワーク 自治体訪問(あるいは、ゲストを交えたディスカッション)
- 第11回 地方公務員に必要な法学的知識
- 第12回 地方公務員に必要な政治学的・行政学的知識
- 第13回 研究発表(1)
- 第14回 研究発表(2)
- 第15回 研究発表(3) まとめ

授業以外での学習方法

公務員試験のための授業外学習が不可欠なので、生協などの情報を事前に調べ、そのセミナーなどを活用すること。

教科書

公務員試験のカタログ

著者: 大原 暁

出版社: 光文社

出版年: 2011

ISBN:

参考書

コミュニティ・スタディーズ—災害と復興、無縁化、ポスト成長の中で、新たな共生社会を展望する

著者: 吉原直樹

出版社: 作品社

出版年: 2011

ISBN:

コミュニティ再生のための地域自治のしくみと実践

著者： 中川幾郎編著

出版社： 学芸出版社

出版年： 2011

ISBN:

コミュニティデザイナー人がつながるしくみをつくる

著者： 山崎亮

出版社： 学芸出版社

出版年： 2011

ISBN:

地域主権時代の新しい公共: 希望を拓くNPOと自治・協働改革

著者： 今瀬政司

出版社： 学芸出版社

出版年： 2011

ISBN:

地方自治ことばの基礎知識 キーワードを通して地域主権を考える

著者： 兼子仁

出版社： ぎょうせい

出版年： 2010

ISBN:

教育の職業的意義－若者、学校、社会をつなぐ

著者： 本田由紀

出版社： 筑摩書房

出版年： 2009

ISBN:

大学センターのぶっちゃけ話－知的現場主義の就職活動－

著者： 沢田健太

出版社： ソフトバンククリエイティブ

出版年： 2011

ISBN:

大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法

著者： 松本茂他

出版社： 玉川大学出版部

出版年： 2007

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (40)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習 I <2b>**

担当者 **武野 辰雄**

テーマ

警察官・消防官など公務員に求められる専門知識の獲得

獲得目標

警察官・消防官など公務員に求められる専門知識の獲得と自らの職業観の育成・開発

授業の内容

警察官・消防官など公務員に求められる専門知識の獲得と自らの職業観の育成・開発のために、各職種の仕事内容について講義や講演を通して学ぶ。

内 容

- 第1回 総論「公務員」とその中での「公安職」の特徴
 - 第2回 警察官の仕事内容・試験制度に関する講義
 - 第3回 消防官の仕事内容・試験制度に関する講義
 - 第4回 自衛官・海上保安官の仕事内容・試験制度に関する講義
 - 第5回 警察官人事担当者講演会
 - 第6回 消防官人事担当者講演会
 - 第7回 自衛官人事担当者講演会
 - 第8回 ワークシート記入
 - 第9回 ワークシート発表
 - 第10回 ワークシート指導・質疑応答
 - 第11回 面接対策講義
 - 第12回 面接対策指導
 - 第13回 論文対策講義
 - 第14回 論文対策指導
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介する参考文献を読み、理解を深めること

教科書

講師作成レジュメ

著者： 武野辰雄

出版社：

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (10)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅱ〈2a〉**

担当者 濱田 剛

テーマ

就職筆記試験の非言語分野に対応し得る知識の習得と実践力を、短期集中で養う。

獲得目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重要項目である。とりわけ非言語分野は、筆記試験において点差が開く分野であり、本分野の克服無くして筆記試験の突破は困難である。非言語分野に特化、集中して学ぶことにより、一気に本番の筆記試験に対応し得る能力を養成することを目的とする。

授業の内容

就職筆記試験における非言語分野を、基礎から応用発展まで単元ごとに演習中心に学習。後半5コマは本番レベルの問題を、模試、解答解説を繰り返し実施する。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 基礎数学 四則混合計算から総復習
- 第3回 非言語分野① 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
- 第4回 非言語分野② 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
- 第5回 非言語分野③ 仕事算、年齢算、濃度算
- 第6回 非言語分野④ 場合の数、確率
- 第7回 非言語分野⑤ 集合、ブラックボックス
- 第8回 非言語分野⑥ 資料の整理、長文読み取り
- 第9回 非言語分野⑦ 推論
- 第10回 非言語分野⑧ 領域、物の流れと比率
- 第11回 非言語分野⑨ 徹底答練Ⅰ
- 第12回 非言語分野⑩ 徹底答練Ⅱ
- 第13回 非言語分野⑪ 徹底答練Ⅲ
- 第14回 非言語分野⑫ 徹底答練Ⅳ
- 第15回 非言語分野⑬ 徹底答練Ⅴ

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

就職筆記試験対策

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ <2a>**

担当者 濱田 剛

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

獲得目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重要項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の内容

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 SPI試験とは / 言語分野① 同意語、反意語、四字熟語
- 第3回 就職と言語能力 / 言語分野② ことわざ、慣用句、二語の関係
- 第4回 コミュニケーション能力 / 言語分野③ 敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題
- 第5回 自己分析と能力の磨き方 / 言語分野④ 文の並び替え、文章読解基礎
- 第6回 伝える力を育てる / 言語分野⑤ 文章読解応用
- 第7回 非言語分野① 計算・計数の総復習
- 第8回 非言語分野② 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
- 第9回 非言語分野③ 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
- 第10回 非言語分野④ 仕事算、年齢算、濃度算
- 第11回 非言語分野⑤ 場合の数、確率
- 第12回 非言語分野⑥ 集合、ブラックボックス
- 第13回 非言語分野⑦ 資料の整理、長文読み取り
- 第14回 非言語分野⑧ 推論
- 第15回 非言語分野⑨ 領域、物の流れと比率

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

就職筆記試験対策

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

ask102d113

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発講座Ⅲ <2b>**

担当者 豊福 千穂 吉田 斉

テーマ

多様化する就職筆記試験に対するポイント授業により就職基礎能力を養成する

獲得目標

就職希望者にとって筆記試験突破力の養成は最重要項目である。「SPI試験」を筆頭に、多様化する筆記試験対策授業を実施。言語分野、非言語分野ともに、膨大な範囲の中から頻出単元を抽出し、わかりやすい講義を実施。基礎力から応用まで対応できる学力を養成する。

授業の内容

授業計画に沿って、言語・非言語分野の頻出する単元ごとの解法を学び、問題演習を実践していく。

内 容

- 第1回 ガイダンス・プレテスト
- 第2回 SPI試験とは / 言語分野① 同意語、反意語、四字熟語
- 第3回 就職と言語能力 / 言語分野② ことわざ、慣用句、二語の関係
- 第4回 コミュニケーション能力 / 言語分野③ 敬語、謙譲語、丁寧語、文法、語彙力、国語常識、教養問題
- 第5回 自己分析と能力の磨き方 / 言語分野④ 文の並び替え、文章読解基礎
- 第6回 伝える力を育てる / 言語分野⑤ 文章読解応用
- 第7回 非言語分野① 計算・計数の総復習
- 第8回 非言語分野② 速度算の基礎、速度算、旅人算、通過算、時刻表
- 第9回 非言語分野③ 損益算、料金の割引、分割払い、代金の精算
- 第10回 非言語分野④ 仕事算、年齢算、濃度算
- 第11回 非言語分野⑤ 場合の数、確率
- 第12回 非言語分野⑥ 集合、ブラックボックス
- 第13回 非言語分野⑦ 資料の整理、長文読み取り
- 第14回 非言語分野⑧ 推論
- 第15回 非言語分野⑨ 領域、物の流れと比率

授業以外での学習方法

授業で出した課題の提出

教科書

就職筆記試験対策

著者： 株式会社イング

出版社： 株式会社イング

出版年： 2013年

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト (20)

授業中発表等 ()

ask102d114

授業の中で模擬試験等の受験を指示。模擬試験等の受験により、授業中課題の点数に加味するものとする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <2a>**

担当者 香坂 千佳子

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

獲得目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

企業で、実際に行われている仕事かどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
 - 第2回 社会人とは／企業とは何か①
 - 第3回 社会人とは／企業とは何か②
 - 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
 - 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
 - 第6回 3回生にむけての取り組み(キャリアセンター)①
 - 第7回 企業で働くということ
 - 第8回 ゲストスピーカー①
 - 第9回 ゲストスピーカー②
 - 第10回 将来の仕事を考える
 - 第11回 三回生にむけての取り組み(キャリアセンター)②
 - 第12回 仕事とコミュニケーション①
 - 第13回 仕事とコミュニケーション②
 - 第14回 三回生にむけての取り組み(キャリアセンター)③
 - 第15回 全体まとめ
-

授業以外での学習方法

キャリアセンター内に設置されている新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (65)

参加度 (35)

小テスト ()

授業中発表等 ()

●授業中課題+宿題+発表+最終レポート=65% ●出席率+授業中態度=35%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <2b>**

担当者 堀越 昭夫

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

獲得目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
 - 第2回 社会人とは／企業とは何か①
 - 第3回 社会人とは／企業とは何か②
 - 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
 - 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
 - 第6回 3回生にむけての取り組み(キャリアセンター)①
 - 第7回 企業で働くということ
 - 第8回 ゲストスピーカー①
 - 第9回 ゲストスピーカー②
 - 第10回 将来の仕事を考える
 - 第11回 三回生にむけての取り組み(キャリアセンター)②
 - 第12回 仕事とコミュニケーション①
 - 第13回 仕事とコミュニケーション②
 - 第14回 三回生にむけての取り組み(キャリアセンター)③
 - 第15回 全体まとめ
-

授業以外での学習方法

キャリアセンター内に設置されている新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (65)

参加度 (35)

小テスト ()

授業中発表等 ()

●授業中課題+宿題+発表+最終レポート=65% ●出席率+授業中態度=35%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <2c>**

担当者 香坂 千佳子

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

獲得目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
 - 第2回 社会人とは／企業とは何か①
 - 第3回 社会人とは／企業とは何か②
 - 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
 - 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
 - 第6回 3回生にむけての取り組み(キャリアセンター)①
 - 第7回 企業で働くということ
 - 第8回 ゲストスピーカー①
 - 第9回 ゲストスピーカー②
 - 第10回 将来の仕事を考える
 - 第11回 三回生にむけての取り組み(キャリアセンター)②
 - 第12回 仕事とコミュニケーション①
 - 第13回 仕事とコミュニケーション②
 - 第14回 三回生にむけての取り組み(キャリアセンター)③
 - 第15回 全体まとめ
-

授業以外での学習方法

キャリアセンター内に設置されている新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (65)

参加度 (35)

小テスト ()

授業中発表等 ()

●授業中課題+宿題+発表+最終レポート=65% ●出席率+授業中態度=35%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <2d>**

担当者 堀越 昭夫

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

獲得目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

企業で、実際に行われている仕事かどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
 - 第2回 社会人とは／企業とは何か①
 - 第3回 社会人とは／企業とは何か②
 - 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
 - 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
 - 第6回 3回生にむけての取り組み(キャリアセンター)①
 - 第7回 企業で働くということ
 - 第8回 ゲストスピーカー①
 - 第9回 ゲストスピーカー②
 - 第10回 将来の仕事を考える
 - 第11回 三回生にむけての取り組み(キャリアセンター)②
 - 第12回 仕事とコミュニケーション①
 - 第13回 仕事とコミュニケーション②
 - 第14回 三回生にむけての取り組み(キャリアセンター)③
 - 第15回 全体まとめ
-

授業以外での学習方法

キャリアセンター内に設置されている新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (65)

参加度 (35)

小テスト ()

授業中発表等 ()

●授業中課題+宿題+発表+最終レポート=65% ●出席率+授業中態度=35%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <2e>**

担当者 香坂 千佳子

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

獲得目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものかを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解する。

内 容

- 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
 - 第6回 3回生にむけての取り組み(キャリアセンター)①
 - 第7回 企業で働くということ
 - 第8回 ゲストスピーカー①
 - 第9回 ゲストスピーカー②
 - 第10回 将来の仕事を考える
 - 第11回 三回生にむけての取り組み(キャリアセンター)②
 - 第12回 仕事とコミュニケーション①
 - 第13回 仕事とコミュニケーション②
 - 第14回 三回生にむけての取り組み(キャリアセンター)③
 - 第15回 全体まとめ
 - 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
 - 第2回 社会人とは／企業とは何か①
 - 第3回 社会人とは／企業とは何か②
 - 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
-

授業以外での学習方法

キャリアセンター内に設置されている新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (65)

参加度 (35)

小テスト ()

授業中発表等 ()

●授業中課題+宿題+発表+最終レポート=65% ●出席率+授業中態度=35%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅲ <2f>**

担当者 堀越 昭夫

テーマ

企業や組織についての知識を広めることをテーマとします。

獲得目標

①企業組織についての知識を広めより深く理解する ②働く事に興味関心を持つこと、を最終目標とします。

授業の内容

企業で、実際に行われている仕事がどのようなものを理解しながら、興味を感じる仕事や企業について考える。また、企業が求める人材とはどのような人材かなどを理解する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション 講義の進め方
 - 第2回 社会人とは／企業とは何か①
 - 第3回 社会人とは／企業とは何か②
 - 第4回 日本の産業を考える(業界・企業とは)①
 - 第5回 日本の産業を考える(業界・企業とは)②
 - 第6回 3回生にむけての取り組み(キャリアセンター)①
 - 第7回 企業で働くということ
 - 第8回 ゲストスピーカー①
 - 第9回 ゲストスピーカー②
 - 第10回 将来の仕事を考える
 - 第11回 三回生にむけての取り組み(キャリアセンター)②
 - 第12回 仕事とコミュニケーション①
 - 第13回 仕事とコミュニケーション②
 - 第14回 三回生にむけての取り組み(キャリアセンター)③
 - 第15回 全体まとめ
-

授業以外での学習方法

キャリアセンター内に設置されている新聞(特に日経新聞)、雑誌などから情報収集すること。また、テレビやインターネットの経済ニュースに関心を持つこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (65)

参加度 (35)

小テスト ()

授業中発表等 ()

●授業中課題+宿題+発表+最終レポート=65% ●出席率+授業中態度=35%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **キャリア開発演習Ⅳ〈2G〉**

担当者 今久保 幸生

テーマ

企業のグローバル化に対応するキャリア開発

獲得目標

現代経済の動向を理解させ、かつグローバル企業や東証一部上場企業などの現状をも認識させた上で、グローバル化しつつある企業や経済社会の基本的ニーズに応えられるための、キャリア開発のための基本的要件を身につけさせる。

授業の内容

業種研究でまず産業構造の変化や企業活動のグローバル化などを確かめたあと、時事問題の自主学習を行う。さらにグループ学習、問題解決型授業、面接対策を実施する。授業期間中に1・2回程、本授業テーマに沿ったゲスト講師による講演を実施することがある。

内 容

- 第1回 演習ガイダンス
 - 第2回 業種研究1:日本の経済発展と産業構造の変化
 - 第3回 業種研究2:グローバルビジネスの展開
 - 第4回 業種研究3:主要な業種に関する研究
 - 第5回 業種研究4:グローバル企業の実務家の話を聴く
 - 第6回 時事問題の自主学習1
 - 第7回 時事問題の自主学習2
 - 第8回 グループワーク1
 - 第9回 グループワーク2
 - 第10回 グループディスカッション1
 - 第11回 グループディスカッション2
 - 第12回 問題解決型授業1:自ら課題を設定し解決法を模索する。
 - 第13回 問題解決型授業2:同上
 - 第14回 面接シミュレーション1
 - 第15回 面接シミュレーション2、まとめ
-

授業以外での学習方法

会社四季報等の業界紙、新聞記事、企業のホームページなどを調べて、その日の授業のテーマを広い視野で、またはより深く理解することが望まれる。

教科書

テキストは用いない。レジュメや資料によって演習を進める。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館学総論Ⅱ〈Za〉

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる

授業の内容

図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。

内 容

- 第1回 図書館法(逐条解説) 1950年制定の「図書館法」の内容や特徴と戦前の「図書館令」との比較、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の解説をする。
- 第2回 他館種の図書館に関する法律等(学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法)「公立図書館」以外の図書館に関する法律を解説し、学校図書館・大学図書館・国立国会図書館・専門図書館等の制度や機能を解説する。
- 第3回 図書館サービス関連法規(子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法等) 図書館サービスの提供には法に定められた権利や規制が関わる場合があり、トラブル発生の解決策や未然防止のための関連法規の解説をする。
- 第4回 図書館政策(国、地方公共団体) 国の図書館政策と都道府県レベルの図書館振興政策(1960年代の東京都や1980年代の振興策を中心に)を解説する。
- 第5回 公共機関・施設の経営方法(マーケティング・危機管理を含む) 新しい公共経営(ニュー、パブリック、マネージメント)と図書館マーケティングの歴史とマーケティングの計画・立案について解説する。
- 第6回 図書館の組織・職員(組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携) 図書館の組織の類型の現状と傾向、職員体制、館長の職務、専門的職員の資質の向上や研修、図書館を支える人々について解説する。
- 第7回 図書館の施設・設備(その1) 図書館建築と図書館新設の課程(企画、構想、建築、施工、運営等)を解説する。
- 第8回 図書館の施設・設備(その2) 図書館のスペースの構成、配慮すべき装備、快適な空間の創造等について解説する。
- 第9回 図書館のサービス計画と予算の確保 図書館サービス計画の企画、作成と図書館の予算編成のしくみと実態について解説する。
- 第10回 図書館業務・サービスの調査と評価 調査の方法や評価の目的と対象、評価の方法、評価のための統計と指標等について解説する。
- 第11回 図書館の管理形態の多様化 図書館のアウトソーシング(窓口業務の委託、指定管理者制度、PFI、市場化テスト等)の現状や問題点を解説する。
- 第12回 図書館業務の理論と実際(その1) パブリックサービス(閲覧、奉仕業務)について解説する。
- 第13回 図書館業務の理論と実際(その2) テクニカルサービス(資料整理)と管理業務等について解説する。
- 第14回 図書館協力和ネットワークの形成 図書館協力和ネットワークの意義、種類、運営と評価、相互貸借、相互利用、協力レファレンス、分担収集と保存等を解説する。
- 第15回 図書館経営の課題 図書館運営経費の大幅削減、直営から民営化、正規職員の削減と非正規化の推進等図書館経営の課題を解説する。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

図書館経営論 改訂版

著者： 三村敦美 編

出版社： 教育史料出版会

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館学総論Ⅱ <Zb>

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる

授業の内容

図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。

内 容

- 第1回 図書館法(逐条解説) 1950年制定の「図書館法」の内容や特徴と戦前の「図書館令」との比較、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の解説をする。
- 第2回 他館種の図書館に関する法律等(学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法)「公立図書館」以外の図書館に関する法律を解説し、学校図書館・大学図書館・国立国会図書館・専門図書館等の制度や機能を解説する。
- 第3回 図書館サービス関連法規(子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法等) 図書館サービスの提供には法に定められた権利や規制に関わる場合があり、トラブル発生の解決策や未然防止のための関連法規の解説をする。
- 第4回 図書館政策(国、地方公共団体) 国の図書館政策と都道府県レベルの図書館振興政策(1960年代の東京都や1980年代の振興策を中心に)を解説する。
- 第5回 公共機関・施設の経営方法(マーケティング・危機管理を含む) 新しい公共経営(ニュー、パブリック、マネージメント)と図書館マーケティングの歴史とマーケティングの計画・立案について解説する。
- 第6回 図書館の組織・職員(組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携) 図書館の組織の類型の現状と傾向、職員体制、館長の職務、専門的職員の資質の向上や研修、図書館を支える人々について解説する。
- 第7回 図書館の施設・設備(その1) 図書館建築と図書館新設の課程(企画、構想、建築、施工、運営等)を解説する。
- 第8回 図書館の施設・設備(その2) 図書館のスペースの構成、配慮すべき装備、快適な空間の創造等について解説する。
- 第9回 図書館のサービス計画と予算の確保 図書館サービス計画の企画、作成と図書館の予算編成のしくみと実態について解説する。
- 第10回 図書館業務・サービスの調査と評価 調査の方法や評価の目的と対象、評価の方法、評価のための統計と指標等について解説する。
- 第11回 図書館の管理形態の多様化 図書館のアウトソーシング(窓口業務の委託、指定管理者制度、PFI、市場化テスト等)の現状や問題点を解説する。
- 第12回 図書館業務の理論と実際(その1) パブリックサービス(閲覧、奉仕業務)について解説する。
- 第13回 図書館業務の理論と実際(その2) テクニカルサービス(資料整理)と管理業務等について解説する。
- 第14回 図書館協力和ネットワークの形成 図書館協力和ネットワークの意義、種類、運営と評価、相互貸借、相互利用、協力レファレンス、分担収集と保存等を解説する。
- 第15回 図書館経営の課題 図書館運営経費の大幅削減、直営から民営化、正規職員の削減と非正規化の推進等図書館経営の課題を解説する。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

図書館経営論 改訂版

著者： 三村敦美 編

出版社： 教育史料出版会

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館資料論Ⅱ〈Za〉

担当者 竹島 昭雄

テーマ

専門資料の基礎的構造と各分野の資料特性を知る。

獲得目標

専門資料の生成、流通、保管、利用の一連のプロセスを構造的に把握するとともに、そのコンテキストを踏まえて各主題分野の一次・二次資料の種類や特性を理解する。

授業の内容

テキストを中心に進め、毎回講師から資料を配布する。また、講義中に参考図書を紹介する。

内 容

- 第1回 オリエンテーション、専門資料とは何か①。 専門資料の定義、構造(Unit1~2)。
- 第2回 専門資料とは何か②。学術コミュニケーションの構造① 専門資料の構成と種類、専門資料の特性、学術情報生産の社会的構造、学術コミュニケーションシステム(Unit3~5)
- 第3回 学術コミュニケーションの構造②、電子環境下における学術情報① 学術情報情報のアクセスと利用、専門資料の書誌コントロールと利用、オンラインデータベース(Unit6~8)
- 第4回 電子環境下における学術情報② 電子出版・電子ジャーナル、インターネットと学術情報(Unit9~10)
- 第5回 人文科学分野の情報・資料① 人文科学とは(人文科学と概念の特性・人文科学の領域)、人文科学資料の特性と種類 i (人文科学情報の種類と特性)(Unit11~13)
- 第6回 人文科学分野の情報・資料② 人文科学資料の特性と種類 ii (人文科学情報の生産・流通・利用)、主要な二次資料(Unit14)
- 第7回 まとめ(小テストを含む)
- 第8回 社会科学分野の情報・資料① 社会科学とは(社会科学と概念の特性・社会科学の領域)、社会科学資料の特性と種類 i (社会科学情報の種類と特性)(Unit16~17)
- 第9回 社会科学分野の情報・資料② 社会科学資料の特性と種類 ii (社会科学情報の生産・流通・利用)、主要な二次資料(Unit18~19)
- 第10回 社会科学分野の情報・資料③、人文科学分野の情報・資料③ 社会科学情報・資料のアクセスと利用(Unit20) 人文科学情報・資料のアクセスと利用(Unit15)
- 第11回 自然科学分野の情報・資料① 自然科学とは(自然科学と概念の特性・自然科学の領域)、自然科学資料の特性と種類 i (自然科学情報の種類と特性)(Unit21~22)
- 第12回 自然科学分野の情報・資料② 自然科学資料の特性と種類 ii (自然科学情報の生産・流通・利用)、主要な二次資料(Unit23~24)
- 第13回 自然科学分野の情報・資料③、工学・工業技術分野の情報・資料① 自然科学・技術情報資料のアクセスと利用(Unit25)、工学・工業技術分野の特性、主な一次資料と二次資料
- 第14回 工学・工業技術分野の情報・資料② 主な一次資料と二次資料
- 第15回 工学・工業技術分野の情報・資料③ 工学・工業技術情報の生産・流通・利用
- 第16回 筆記試験

授業以外での学習方法

授業で紹介した参考図書を読む。

教科書

専門資料論 新訂版JLAテキストシリーズⅡ8

著者： 三浦逸雄・野末俊比古

出版社： 日本図書館協会

出版年： 2010年

ISBN： 9.78482E+12

参考書

新訂専門資料論

著者： 中森強編著

出版社： 東京書籍

出版年： 2008年

ISBN: 9.78449E+12

改訂専門資料論

著者： 戸田光昭編集

出版社： 樹村房

出版年： 平成22年

ISBN: 9.78488E+12

成績評価

試験 (40)

小テスト (30)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 (30)

出席状況を考慮する。ただし一定回数以下は考慮しない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育心理学

担当者 中村 和夫

テーマ

中等教育段階の子どもの発達と教育

獲得目標

中等教育段階の子ども(中学生・高校生)における発達と教育の問題について関連する教育心理学の基本領域における知見を理解するとともに、教職への関心・意欲を高めることを目的とする。

授業の内容

「学校、生徒・教師の今」「生徒」「教師」「生徒と教師の関係」という柱建てのもとに、中学生・高校生の発達と教育の問題に焦点を当て、新学習指導要領や学校教育現場での諸問題を踏まえ、教育心理学の基本領域における概念や研究成果について講義をする。

内 容

- 第1回 学校と社会の現状、生徒の生活、教師の生活
 - 第2回 発達とは何か、発達の基礎理論
 - 第3回 発達と教育との関わり
 - 第4回 学習の原理と基礎過程
 - 第5回 学習動機づけと学力形成
 - 第6回 教科の学習
 - 第7回 教えること、授業づくり
 - 第8回 総合学習、道徳
 - 第9回 教育評価、授業における評価
 - 第10回 評価と進路指導、キャリア教育
 - 第11回 生徒指導・生徒理解の原理と方法
 - 第12回 問題行動の理解と指導
 - 第13回 学級づくり
 - 第14回 教師の悩みと成長、教師として生きる
 - 第15回 教師集団と学校づくり
-

授業以外での学習方法

授業中に紹介された参考書などを自学自習すること。

教科書

中学・高校教師になるための教育心理学[第3版]

著者： 心理科学研究会

出版社： 有斐閣

出版年： 2012

ISBN：

参考書

授業中に適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

ask201d252

試験 (100)
授業中課題 ()
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 教育原論 <a>

担当者 八木 英二

テーマ

教育の基本問題と教育改革

獲得目標

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討し、教職科目全体の学習につながるおおよそのイメージがつかめるようにすることを目的とする。

授業の内容

そもそも人間はなぜ学校で学習するのかといった本質論議をふまえながら、子どもの成長発達と教育がいかなる関係にあるのか、教育実践の展開に介在する契機にはどのようなものがあるのか、などについて、問題点の整理と教育実践のあるべき方向を検討する。

内 容

- 第1回 教育の理念
- 第2回 教育の歴史
- 第3回 教育の思想
- 第4回 学習指導要領について
- 第5回 学校制度・施設のあり方
- 第6回 教育の公共性
- 第7回 発達と教育
- 第8回 教育階梯
- 第9回 生活指導実践の意義
- 第10回 様々な教育方法
- 第11回 教科指導の意義
- 第12回 高校の進路指導
- 第13回 教育専門職論
- 第14回 教育改革動向
- 第15回 父母との関係

授業以外での学習方法

教科書

教師の役割変化を問う

著者： 八木英二

出版社： 三学出版

出版年： 2013

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (50)

授業中課題 (25)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育原論 **

担当者 瀧本 知加

テーマ

教育の原理を理解する

獲得目標

教育学の原理や哲学をふまえ、現代社会における学校や教師の教育的役割と教育学との関連を理解し、課題を考える。

授業の内容

以下のテーマにそって進める。

内 容

- 第1回 ガイダンス(授業のすすめ方・予定の説明)
 - 第2回 教育とは何か? 「なぜ教育されないといけないのか?」近代以降の教育の様相と展開
 - 第3回 教育とは何か? 「あなたの教育と私の教育との違い」主観的・体験的な教育と教育の概念
 - 第4回 教育とは何か? 「人間はどのように発達・成長するのか」人間の発達と教育との関係性
 - 第5回 教育とは何か? 「教育の根源的問題とは何か?」教育の特徴と今日的な教育の課題
 - 第6回 学校とは何か? 「なぜ学校に行くのか?」学校の成立とその発展
 - 第7回 学校とは何か? 「学校ではなぜ問題が起こるのか?」学校における教育の特徴と課題
 - 第8回 学校とは何か? 「世界の学校教育を見てみよう。」
 - 第9回 学校とは何か? 「世界の学校教育を見てみよう。」
 - 第10回 学校とは何か? 「学校はどのようなしくみになっているか?」学校教育の制度とその原理
 - 第11回 学校とは何か? 「学校はどのように動いているか?」学校運営の実態とその課題
 - 第12回 教師とは何か? 「教えることを仕事にするとは?」教師の仕事の実態とその特徴
 - 第13回 教師とは何か? 「生徒を指導することとは?」
 - 第14回 教師とは何か? 「生徒を評価することとは?」
 - 第15回 まとめ(小テスト)
-

授業以外での学習方法

授業の最後に小テストを行うので、各自授業で使用するプリントを用いて復習をおこなっておくこと。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (10)

小テスト (50)

授業中発表等 ()

ask201d352

授業の中で提出するプリント類は全て評価の対象になりますので、十分に取り組み、学んだ内容を書くこと。暗記することよりも、理解し、考えることに重点をおいて評価します。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **道徳教育の理論と方法**

担当者 碓井 敏正

テーマ

学校教育における道徳教育の可能性

獲得目標

押し付けであっては、道徳教育の効果はない。学校教育を通して、子どもたちが自然と道徳性をいかに身につけるかを学ぶことを目標とする。

授業の内容

道徳概念の基本的意味を明らかにしながら、現代日本の学校教育においてどのような道徳教育が可能か、色々な角度から実践的に考えることを課題とする。

内 容

- 第1回 道徳とは何か
 - 第2回 中学生期の発達の特徴
 - 第3回 道徳教育の歴史(明治～大正)
 - 第4回 道徳教育の歴史(戦後)
 - 第5回 全面主義と特設主義
 - 第6回 他の教科と道徳教育の関連
 - 第7回 道徳教育と特別活動
 - 第8回 道徳教育と総合学習
 - 第9回 道徳の内容の理解
 - 第10回 道徳教育の要としての道徳の時間
 - 第11回 道徳の時間の展開
 - 第12回 道徳の時間の実践例
 - 第13回 家庭、地域と道徳教育
 - 第14回 道徳教育と評価
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

時事的な話題として取り上げられる、教育問題や現代の青少年の精神状況や行動の特徴などに絶えず、関心を払うこと。

教科書

教科書は指定しないが、中学校指導書・道徳編は必ず購入すること。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

その都度指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

ask201d480

試験 (70)
授業中課題 ()
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育制度論 **

担当者 土屋 基規

テーマ

現代日本の教育制度の基礎をなす原理とその展開について学び、課題を発見する。

獲得目標

現代日本の教育制度の基礎をなす制度原理とその展開について基礎的な理解と、教育改革の現状について考察し、課題を発見して学習研究を行うことを目標とする。

授業の内容

現代日本の教育の基本理念、学校制度、教育行政、教職員法制の原理と展開について概説し、学習研究の課題を提示する。

内 容

| | | |
|------|-------------|--------------|
| 第1回 | オリエンテーション | |
| 第2回 | I 憲法・教育基本法制 | ①憲法の教育条項 |
| 第3回 | 同上 | ②教育基本法の制定と改正 |
| 第4回 | 同上 | ③国際教育法 |
| 第5回 | II 学校制度 | ①初等・中等教育制度 |
| 第6回 | 同上 | ②就学奨励制度 |
| 第7回 | 同上 | ③教科書制度 |
| 第8回 | 同上 | ④学校の組織運営 |
| 第9回 | III 教育行政制度 | ①中央教育行政組織 |
| 第10回 | 同上 | ②教育委員会制度の創設 |
| 第11回 | 同上 | ③教育委員会制度の展開 |
| 第12回 | IV 教職員法制 | ①教員養成・免許制度 |
| 第13回 | 同上 | ②教員採用制度 |
| 第14回 | 同上 | ③教員研修制度 |
| 第15回 | 同上 | ④教員評価制度 |

授業以外での学習方法

教科書

現代教育制度論

著者： 土屋基規編著

出版社： ミネルバ書房

出版年： 2011

ISBN： 978-4-623

参考書

現代教育法概説

著者： 平原・室井・土屋供著

出版社： 学陽書房

出版年： 2004

ISBN： 4-313-61130-4

成績評価

ask202d180

試験 (50)

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 ()

参加度 (20)

出席状況(20%)、中間レポート(30%)、試験(50%)を総合して評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育課程論**

担当者 木村 裕

テーマ

教育課程の構造と教育実践

獲得目標

教育課程の基礎的な用語の理解をふまえ、「なぜ学校における教育課程なのか」を考えながら問題の整理を行い教育課程づくりのイメージがつかめるようにする。

授業の内容

1つには、「なぜ学校なのか」という本質論議をふまえた学校を基礎とする教育課程づくりの意味、2つには、子どもの成長と発達にかかわる教育課程の内容構成におけるスコープとシーケンスの構造論議、3つには、目標・内容・方法・評価など、実践過程の事実によって検証され、再構成される教育課程づくりの意味などをとりあげる。具体的事例として、とくに書き言葉成立後の思春期にかかわる教育課程の実践をとりあげたい。

内 容

- 第1回 教育課程の構造と意味
- 第2回 内申書、通知票について
- 第3回 観点別評価の意味
- 第4回 目標と評価のあり方
- 第5回 教育実践評価と授業公開(中等)
- 第6回 学習指導要領と内容の基準化原理(中等)
- 第7回 教科書の採択システム
- 第8回 教科書づくり
- 第9回 教科と教科外の教育方法(中等)
- 第10回 総合学習について(中等)
- 第11回 身体と教育課程(中等)
- 第12回 教育課程と授業づくり(中等)
- 第13回 思春期の教育階梯
- 第14回 SNE(特別なニーズ教育)について
- 第15回 授業のまとめ

授業以外での学習方法

* 講義で扱った内容をふまえてその後の講義を進めるため、復習をするとともに、不明な点があれば質問すること。* 講義外の時間を使って、講義中に出す課題に取り組むこと。

教科書

講義初日に指示する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

教育学の探究—教師の専門的思索のために

著者: 佐藤博志他

出版社: 川島書店

出版年: 近刊(2013年3月の予定)

ISBN:

よくわかる教育課程

著者： 田中耕治編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2009

ISBN: 4623051447

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（50）

授業中発表等（20）

参加度（30）

講義中に指示する数回のレポートやワークシート、プレゼンテーションを中心に、授業態度や授業への参加度を加味して、総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 特別活動論

担当者 池田 修

テーマ

特別活動の具体的な事例を考察し、ワークショップを通して学ぶ。

獲得目標

特別活動の事例を理解し、指導計画を作成すること、体験することを目的とする。

授業の内容

特別活動が示す領域を理解し、その後、学級活動の指導、行事に関わる指導、安全指導について学ぶ。特に安全指導では、ワークショップを取り入れる。課題が多く出ることを予め告げておく。ワード、エクセル、e-mail はある程度使えることが望ましい。

内 容

- 第1回 特別活動とは 特別活動が扱う領域を学習指導要領で確認する。
- 第2回 学級活動 1 日常生活。当番活動、係り活動、教科係り、プロジェクトチーム。学級開き(ゲーム、why-because-game、流れ)、学級収め、どう言い返すのワーク(データ収集)、掃除指導、席替え、班長会議、連絡カード
- 第3回 学級活動 2 学級行事。転入生を迎える、転校生を送り出す、進路指導、進路宣言、安全指導
- 第4回 その他 学芸行事/体育大会/学年行事/学校行事/儀式など 担任の仕事
- 第5回 課題作成 遠足指導の実踏計画 遠足指導の実踏計画を作成する。
- 第6回 遠足指導の実踏計画を作成する。(アイデア出し)
- 第7回 遠足指導の実踏計画を作成する。(実地調査)
- 第8回 遠足指導の実踏計画を作成する。(まとめ)
- 第9回 課題回収 お礼状の書き方指導
- 第10回 特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。(理論)
- 第11回 特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。(実践)
- 第12回 特別授業 学校教育現場の第一線で活躍されている先生にお越しいただき、特別活動を中心に講義と演習をしていただく。(まとめ)
- 第13回 特別授業まとめ 授業を受けて、自分の課題、学んだことについての文章を書く。今村先生にお礼状を書く。
- 第14回 特別授業まとめ 特別授業の講義を受けての体験作文を書く。
- 第15回 まとめ 特別活動論を振り返りながら評価する。書き込み回覧作文で振り返る。最終課題の提示。

授業以外での学習方法

母校に行く機会を作り、各種行事に関する職員会議資料を見せてもらうと良い。想像以上に綿密に計画が立てられていることが分かるだろう。また、それを参考に自分で計画を立ててみるのも勉強になるだろう。

教科書

『シリーズ 明日の教室2 学級をつくる

著者:

出版社: ぎょうせい

出版年:

ISBN:

探究する力

著者: 市川 力

出版社: 知の探究社

出版年: 2009

ISBN: 4904602005

中学校学習指導要領解説 特別活動編

著者:

出版社: ぎょうせい

出版年: Sep-08

ISBN:

高等学校学習指導要領解説特別活動編

著者:

出版社: 海文堂出版

出版年: Apr-10

ISBN:

参考書

『学級経営10の原則100の原理

著者: 堀 裕嗣

出版社: 学事出版

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

参加度は、出席率ではないことを確認すること。体調を整えて参加のこと。なお、この授業期間のアルバイトは、可能な限りキャンセルすることを薦める。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育方法論**

担当者 梅本 裕

テーマ

<授業をつくる>ことへのイメージを育む

獲得目標

教授＝学習過程としての授業過程を理論的に把握するための基礎概念と基礎技法を習得するとともに学習指導要領に示される内容を正確に理解するための知識を身につけること。具体的には「教育目標」「教育内容」「教材」「教具」「教授行為」「理解構造」等の概念を用いて、ある授業を分析・診断でき、学習指導要領に即した改善のための処方的知見を得ることができるようになること。

授業の内容

80年代以降の日本の教育実践の中から典型的な授業と教材を選び、受講生諸君に可能な限り追体験してもらいながら、教育方法学の蓄積してきたカテゴリーシステムを活用して「生き生き学べる授業」の要件を考察する。

内 容

- 第1回 「あの坂の名は？」: 社会科における発信型の授業と学力とは何か？
- 第2回 「見たこと作文」: 子どもが<動く>授業の条件とは？
- 第3回 「木の葉の駅で」: 発問の構造
- 第4回 「発電所はどこにあるか？」: 教授行為とは何か？
- 第5回 授業づくりのカテゴリーとしての<指示・発問・説明・応答・調整>
- 第6回 「お化け屋敷で算数を」: こどもたちの理解の構造をさぐる
- 第7回 「絵を描くのは苦手です」: 教育内容と方法の開発論理
- 第8回 「声を育てる音楽の授業」: <雰囲気の良い授業>の構造は？
- 第9回 「世界とつながる、深く調べる」: コンピュータとインターネットでできること
- 第10回 「蟹と戯れるのは誰か？」: 言語技術としての<分析ツールを教える>国語の授業
- 第11回 「琵琶湖で学ぶ」: 総合学習とは何か？
- 第12回 授業づくりの記号論的構造: <教育内容・教材・教具・授業行為・理解構造・評価>
- 第13回 「これからの学校・授業と情報機器」: 授業の機能とITの活用
- 第14回 「地球の大きさはどれくらい？」: イメージをそだてる授業の構造
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

(1) 新聞やテレビなどのマスメディアでの教育問題の紹介に注意を払い、理論的説明を試みることを期待する。(2) 小中高時代のノートや教科書があれば、それを手がかりにして、自分がどのような授業を受けたかを振り返ってみよう。「教わったようには教えない」とするならば、どんな教え方が可能か調べてみよう。

教科書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

特になし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

ask202d450

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

試験(レポート)についての詳細は授業の中で説明する。

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報サービス概説 <Za>**

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

インターネットや情報検索という言葉が普通に話される現代において、図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。

授業の内容

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

内 容

- 第1回 情報サービスの概要 情報サービスの意義について述べ、現代社会の情報サービス機関を概観する中で図書館の情報サービスについて考える
- 第2回 情報サービスの基礎 (1) レファレンスサービス、利用案内、レフェラルサービスについて説明
- 第3回 情報サービスの基礎 (2) カレントアウェアネス、オンライン検索、CD-ROM利用のサービスなどについて説明
- 第4回 情報サービスの展開 読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス(館独自の二次資料作成も含めて)、図書館利用教育(情報リテラシーの育成を含む)について説明
- 第5回 情報源の種類と評価 印刷メディアと電子メディア、館内で作成・編成する情報源、情報源の構築および評価について説明
- 第6回 情報ニーズへの対応 (1) 情報ニーズの理解、情報探索行動、レファレンスプロセスについて説明
- 第7回 情報ニーズへの対応 (2) レファレンス質問の意義と分析、レファレンスインタビューについて具体例を示しながら説明
- 第8回 情報の検索と回答 (1) 検索戦略、情報源の選択、検索語の選定、データベースの検索機能VHSなどの映像も見せながら検索式などのわかりやすい説明を試みる
- 第9回 情報の検索と回答 (2) および情報サービスの管理 検索の実行、回答の提供と評価について説明 情報サービスの組織化、外部データベース利用の課題、担当者の資質と能力について説明
- 第10回 事実検索の情報源 (1) 辞書・事典・便覧・図鑑の種類と特質について説明 (データベース等の情報原も含む)
- 第11回 事実検索の情報源 (2) 歴史情報、統計情報の調べ方について具体的例を示しながら説明
- 第12回 事実検索の情報源 (3) 地理・地名情報、人物・団体情報の調べ方について具体例を示しながら説明
- 第13回 文献検索の情報源 書誌・目録・記事索引の種類と特質について具体例を示しながら説明
- 第14回 電子メディアの活用 大学で使えるデータベースやCD-ROMを使って検索の実際を見せる、さらにインターネット利用の功罪にもふれる
- 第15回 発信型情報サービスの意義と方法 パスファインダーの実例など新しいサービスを紹介する

授業以外での学習方法

教科書

情報サービス論

著者: 大串夏身ほか編

出版社: 理想社

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験（60）

授業中課題（20）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報サービス概説 <Zb>**

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

インターネットや情報検索という言葉が普通に話される現代において、図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。

授業の内容

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

内 容

- 第1回 情報サービスの概要 情報サービスの意義について述べ、現代社会の情報サービス機関を概観する中で図書館の情報サービスについて考える
- 第2回 情報サービスの基礎 (1) レファレンスサービス、利用案内、レフェラルサービスについて説明
- 第3回 情報サービスの基礎 (2) カレントアウェアネス、オンライン検索、CD-ROM利用のサービスなどについて説明
- 第4回 情報サービスの展開 読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス(館独自の二次資料作成も含めて)、図書館利用教育(情報リテラシーの育成を含む)について説明
- 第5回 情報源の種類と評価 印刷メディアと電子メディア、館内で作成・編成する情報源、情報源の構築および評価について説明
- 第6回 情報ニーズへの対応 (1) 情報ニーズの理解、情報探索行動、レファレンスプロセスについて説明
- 第7回 情報ニーズへの対応 (2) レファレンス質問の意義と分析、レファレンスインタビューについて具体例を示しながら説明
- 第8回 情報の検索と回答 (1) 検索戦略、情報源の選択、検索語の選定、データベースの検索機能VHSなどの映像も見せながら検索式などのわかりやすい説明を試みる
- 第9回 情報の検索と回答 (2) および情報サービスの管理 検索の実行、回答の提供と評価について説明 情報サービスの組織化、外部データベース利用の課題、担当者の資質と能力について説明
- 第10回 事実検索の情報源 (1) 辞書・事典・便覧・図鑑の種類と特質について説明 (データベース等の情報原も含む)
- 第11回 事実検索の情報源 (2) 歴史情報、統計情報の調べ方について具体的例を示しながら説明
- 第12回 事実検索の情報源 (3) 地理・地名情報、人物・団体情報の調べ方について具体例を示しながら説明
- 第13回 文献検索の情報源 書誌・目録・記事索引の種類と特質について具体例を示しながら説明
- 第14回 電子メディアの活用 大学で使えるデータベースやCD-ROMを使って検索の実際を見せる、さらにインターネット利用の功罪にもふれる
- 第15回 発信型情報サービスの意義と方法 パスファインダーの実例など新しいサービスを紹介する

授業以外での学習方法

教科書

情報サービス論

著者: 大串夏身ほか編

出版社: 理想社

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験（60）

授業中課題（20）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 レファレンスサービス演習 <Za>

担当者 平野 翠

テーマ

情報サービスの中心をなすレファレンスサービスや発信型情報サービスの実践演習

獲得目標

情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダー(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。

授業の内容

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

内 容

- 第1回 情報サービスの設計 1(総論)
- 第2回 情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)
- 第3回 情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)
- 第4回 レファレンスインタビューの技法と実際
- 第5回 各種情報源の選択－質問分析と回答 1 事実調査(言葉・歴史を調べる)
- 第6回 各種情報源の選択－質問分析と回答 2 事実調査(地名・人名を調べる)
- 第7回 各種情報源の選択－質問分析と回答 3 演習(グループ)発表
- 第8回 各種情報源の選択－質問分析と回答 4 事実調査(統計・法令をしらべる)
- 第9回 各種情報源の選択－質問分析と回答 5 事実調査(その他)
- 第10回 各種情報源の選択－質問分析と回答 6 文献調査(図書)
- 第11回 各種情報源の選択－質問分析と回答 7 文献調査(雑誌)
- 第12回 各種情報源の選択－質問分析と回答 8 文献調査(新聞)
- 第13回 各種情報源の選択－質問分析と回答 9 演習(グループ発表)
- 第14回 発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)
- 第15回 情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)

授業以外での学習方法

大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみること。

教科書

テキストは使用しない。プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

情報サービス論及び演習

著者: 中西裕(ほか)著

出版社: 学文社

出版年: 2012

ISBN:

レファレンスサービス演習(改訂版)

著者: 吉田右子著

出版社: 勉誠出版

出版年: 2010

ISBN:

問題解決のためのレファレンスサービス

著者: 長澤雅男(ほか)著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2009

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

授業中にグループ演習を2回行い回答をグループごとに発表、その他「参考図書調査票」「パスファインダー」を作成し提出する。また、授業中に与えられた個人演習課題を最終日に提出する。参加度は、グループ演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

国立国会図書館リサーチナビ

<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

国立国会図書館が提供する「調べ方案内」の総合ポータルサイト

日外アソシエーツレファレンスクラブ

<http://www.reference-net.jp/>

日外アソシエーツのレファレンス支援サイト

2013 Syllabus

科目名 レファレンスサービス演習 <Zb>

担当者 平野 翠

テーマ

情報サービスの中心をなすレファレンスサービスや発信型情報サービスの実践演習

獲得目標

情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダー(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。

授業の内容

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

内 容

- 第1回 情報サービスの設計 1(総論)
 - 第2回 情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)
 - 第3回 情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)
 - 第4回 レファレンスインタビューの技法と実際
 - 第5回 各種情報源の選択－質問分析と回答 1 事実調査(言葉・歴史を調べる)
 - 第6回 各種情報源の選択－質問分析と回答 2 事実調査(地名・人名を調べる)
 - 第7回 各種情報源の選択－質問分析と回答 3 演習(グループ)発表
 - 第8回 各種情報源の選択－質問分析と回答 4 事実調査(統計・法令をしらべる)
 - 第9回 各種情報源の選択－質問分析と回答 5 事実調査(その他)
 - 第10回 各種情報源の選択－質問分析と回答 6 文献調査(図書)
 - 第11回 各種情報源の選択－質問分析と回答 7 文献調査(雑誌)
 - 第12回 各種情報源の選択－質問分析と回答 8 文献調査(新聞)
 - 第13回 各種情報源の選択－質問分析と回答 9 演習(グループ発表)
 - 第14回 発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)
 - 第15回 情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)
-

授業以外での学習方法

大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみること。

教科書

テキストは使用しない。プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

情報サービス論及び演習

著者: 中西裕(ほか)著

出版社: 学文社

出版年: 2012

ISBN:

レファレンスサービス演習(改訂版)

著者: 吉田右子著

出版社: 勉誠出版

出版年: 2010

ISBN:

問題解決のためのレファレンスサービス

著者: 長澤雅男(ほか)著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2009

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

授業中にグループ演習を2回行い回答をグループごとに発表、その他「参考図書調査票」「パスファインダー」を作成し提出する。また、授業中に与えられた個人演習課題を最終日に提出する。参加度は、グループ演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

国立国会図書館リサーチナビ

<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

国立国会図書館が提供する「調べ方案内」の総合ポータルサイト

日外アソシエーツレファレンスクラブ

<http://www.reference-net.jp/>

日外アソシエーツのレファレンス支援サイト

2013 Syllabus

科目名 情報検索演習 <Za>

担当者 米谷 優子

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

獲得目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の内容

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

内 容

- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
 - 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
 - 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
 - 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
 - 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
 - 第6回 図書情報検索演習
 - 第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
 - 第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
 - 第9回 人物情報・団体情報の検索
 - 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
 - 第11回 統計情報・地理的情報の検索
 - 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
 - 第13回 法律情報等の検索
 - 第14回 法律情報等の検索演習
 - 第15回 まとめ(試験を含む)
-

授業以外での学習方法

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

教科書

デジタル情報資源の検索

著者: 高嶽裕樹

出版社: 京都図書館情報研究会

出版年: 2012

ISBN: 9.78482E+12

参考書

情報検索入門ハンドブック

著者: 松本勝久

出版社: 勉誠出版

出版年: 2008

ISBN: 9.78459E+12

インターネット時代のレファレンス

著者： 大串夏身, 田中均

出版社： 日外アソシエーツ

出版年： 2010

ISBN: 9.78482E+12

キーワード検索がわかる

著者： 藤田節子

出版社： 筑摩書房

出版年： 2007

ISBN: 9.78448E+12

成績評価

試験 (45)

小テスト ()

授業中課題 (45)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報検索演習 <Zb>

担当者 米谷 優子

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

獲得目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の内容

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

内 容

- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
 - 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
 - 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
 - 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
 - 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
 - 第6回 図書情報検索演習
 - 第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
 - 第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
 - 第9回 人物情報・団体情報の検索
 - 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
 - 第11回 統計情報・地理的情報の検索
 - 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
 - 第13回 法律情報等の検索
 - 第14回 法律情報等の検索演習
 - 第15回 まとめ(試験を含む)
-

授業以外での学習方法

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

教科書

デジタル情報資源の検索

著者: 高嶽裕樹

出版社: 京都図書館情報研究会

出版年: 2012

ISBN: 9.78482E+12

参考書

情報検索入門ハンドブック

著者: 松本勝久

出版社: 勉誠出版

出版年: 2008

ISBN: 9.78459E+12

インターネット時代のレファレンス

著者： 大串夏身, 田中均

出版社： 日外アソシエーツ

出版年： 2010

ISBN: 9.78482E+12

キーワード検索がわかる

著者： 藤田節子

出版社： 筑摩書房

出版年： 2007

ISBN: 9.78448E+12

成績評価

試験 (45)

小テスト ()

授業中課題 (45)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報検索演習 <Zc>

担当者 米谷 優子

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

獲得目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の内容

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

内 容

- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
 - 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
 - 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
 - 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
 - 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
 - 第6回 図書情報検索演習
 - 第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
 - 第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
 - 第9回 人物情報・団体情報の検索
 - 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
 - 第11回 統計情報・地理的情報の検索
 - 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
 - 第13回 法律情報等の検索
 - 第14回 法律情報等の検索演習
 - 第15回 まとめ(試験を含む)
-

授業以外での学習方法

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

教科書

デジタル情報資源の検索

著者： 高嶽裕樹

出版社： 京都図書館情報研究会

出版年： 2012

ISBN： 9.78482E+12

参考書

情報検索入門ハンドブック

著者： 松本勝久

出版社： 勉誠出版

出版年： 2008

ISBN： 9.78459E+12

インターネット時代のレファレンス

著者： 大串夏身, 田中均

出版社： 日外アソシエーツ

出版年： 2010

ISBN: 9.78482E+12

キーワード検索がわかる

著者： 藤田節子

出版社： 筑摩書房

出版年： 2007

ISBN: 9.78448E+12

成績評価

試験 (45)

小テスト ()

授業中課題 (45)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **資料組織演習 I <Za>**

担当者 平野 翠

テーマ

多様な情報資源に関する書誌データ、メタデータの作成実習。

獲得目標

多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

授業の内容

主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

内 容

- 第1回 書誌データ作成 1 (総則)
 - 第2回 書誌データ作成 2 (タイトル・責任表示)
 - 第3回 書誌データ作成 3 (版表示・出版事項)
 - 第4回 書誌データ作成 4 (形態・シリーズ)
 - 第5回 書誌データ作成 5 (注記)
 - 第6回 書誌データ作成 6 (国際標準図書番号・入手条件)
 - 第7回 書誌データ作成 7 (継続資料)
 - 第8回 書誌データ作成 8 (継続資料)
 - 第9回 書誌データ作成 9 (標目について)
 - 第10回 集中化・共同化による書誌データ作成 1 (所蔵登録)
 - 第11回 集中化・共同化による書誌データ作成 2 (書誌流用)
 - 第12回 集中化・共同化による書誌データ作成 3 (新規登録)
 - 第13回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 1 (概要)
 - 第14回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 2 (作成)
 - 第15回 書誌データ管理・検索システムの構築
-

授業以外での学習方法

自大学図書館のOPAC、CiiNii-Books、NDL-OPACなどで、資料検索しデータをみる。

教科書

テキストは使用しない。授業のつどプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

資料組織演習(JLA図書館情報学シリーズⅡ)

著者: 吉田憲一編

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2007

ISBN:

情報資源組織論及び演習

著者： 那須雅熙著

出版社： 学文社

出版年： 2012

ISBN:

成績評価

試験（50）

小テスト（20）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業中、授業最終日に理解度ををはかるために確認のテストを行う。また、授業中、とくに「集中化・共同化による書誌データ作成」時における成果や、それぞれの演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **資料組織演習 I <Zb>**

担当者 平野 翠

テーマ

多様な情報資源に関する書誌データ、メタデータの作成実習。

獲得目標

多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

授業の内容

主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

内 容

- 第1回 書誌データ作成 1 (総則)
 - 第2回 書誌データ作成 2 (タイトル・責任表示)
 - 第3回 書誌データ作成 3 (版表示・出版事項)
 - 第4回 書誌データ作成 4 (形態・シリーズ)
 - 第5回 書誌データ作成 5 (注記)
 - 第6回 書誌データ作成 6 (国際標準図書番号・入手条件)
 - 第7回 書誌データ作成 7 (継続資料)
 - 第8回 書誌データ作成 8 (継続資料)
 - 第9回 書誌データ作成 9 (標目について)
 - 第10回 集中化・共同化による書誌データ作成 1 (所蔵登録)
 - 第11回 集中化・共同化による書誌データ作成 2 (書誌流用)
 - 第12回 集中化・共同化による書誌データ作成 3 (新規登録)
 - 第13回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 1 (概要)
 - 第14回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 2 (作成)
 - 第15回 書誌データ管理・検索システムの構築
-

授業以外での学習方法

自大学図書館のOPAC、CiiNii-Books、NDL-OPACなどで、資料検索しデータをみる。

教科書

テキストは使用しない。授業のつどプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

資料組織演習(JLA図書館情報学シリーズ II)

著者: 吉田憲一編

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2007

ISBN:

情報資源組織論及び演習

著者： 那須雅熙著

出版社： 学文社

出版年： 2012

ISBN:

成績評価

試験（50）

小テスト（20）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業中、授業最終日に理解度をはかるために確認のテストを行う。また、授業中、とくに「集中化・共同化による書誌データ作成」時における成果や、それぞれの演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 資料組織演習Ⅱ〈Za〉

担当者 澤谷 とし子

テーマ

日本十進分類法(NDC9版)、基本件名標目表(BSH4版)を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。

獲得目標

NDC9版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。

授業の内容

多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。

内 容

- 第1回 主題分析とその表示 情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主题について説明
- 第2回 基本件名標目表の概略 基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明
- 第3回 基本件名標目表による件名作業 細目の用い方、件名規程の説明
- 第4回 演習とまとめ ここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る
- 第5回 日本十進分類法(NDC)の概略 NDCの構成を説明
- 第6回 日本十進分類法による分類作業 一般補助表(形式区分等)・固有補助表の用い方を説明
- 第7回 分類記号付与の実際 分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる
- 第8回 演習とまとめ
- 第9回 分類記号付与の実際／人文科学(2類、1類) これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明
- 第10回 分類記号付与の実際／人文科学(7類、8類、9類)
- 第11回 演習とまとめ
- 第12回 分類記号付与の実際／社会科学(3類)
- 第13回 分類記号付与の実際／自然科学(4類)、技術(5類)
- 第14回 分類記号付与の実際／産業(6類)、総記(0類)
- 第15回 図書記号・別置記号の付与; 演習とまとめ

授業以外での学習方法

図書館利用に際し、書架に排架されている本の背ラベルの数字を意識的に見ること。

教科書

資料組織演習

著者: 吉田憲一編著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 最新刊

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (80)

授業中発表等 ()

ask2112250

教室に備え付けのNDCやBSHを使って演習するので、出席は2/3以上すること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 資料組織演習Ⅱ〈Zb〉

担当者 澤谷 とし子

テーマ

日本十進分類法(NDC9版)、基本件名標目表(BSH4版)を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。

獲得目標

NDC9版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。

授業の内容

多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。

内 容

- 第1回 主題分析とその表示 情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主题について説明
- 第2回 基本件名標目表の概略 基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明
- 第3回 基本件名標目表による件名作業 細目の用い方、件名規程の説明
- 第4回 演習とまとめ ここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る
- 第5回 日本十進分類法(NDC)の概略 NDCの構成を説明
- 第6回 日本十進分類法による分類作業 一般補助表(形式区分等)・固有補助表の用い方を説明
- 第7回 分類記号付与の実際 分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる
- 第8回 演習とまとめ
- 第9回 分類記号付与の実際／人文科学(2類、1類) これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明
- 第10回 分類記号付与の実際／人文科学(7類、8類、9類)
- 第11回 演習とまとめ
- 第12回 分類記号付与の実際／社会科学(3類)
- 第13回 分類記号付与の実際／自然科学(4類)、技術(5類)
- 第14回 分類記号付与の実際／産業(6類)、総記(0類)
- 第15回 図書記号・別置記号の付与; 演習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

資料組織演習

著者: 吉田憲一編著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 最新刊

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (80)

授業中発表等 ()

ask2112280

教室に備え付けのNDCやBSHを使って演習するため、出席は2／3以上すること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 視聴覚メディア論〈Z〉

担当者 木下 達文

テーマ

メディアの意味を理解しつつ、視聴覚メディアの活用能力を磨く

獲得目標

博物館などの文化施設における視聴覚メディアの利用は、単なる視聴覚機器の時代から、デジタルテクノロジーを活用したマルチメディア時代へと大きく転換してきている。それに伴い、運営に携わるスタッフにもそれらを抵抗なく使いこなしていく能力が求められてきている。視聴覚メディアに関する歴史や意義を今一度振り返るとともに、文化施設等で実際に使用されている映像等を通じて、基礎的なメディア活用の能力を磨いていく。

授業の内容

博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。

内 容

- 第1回 メディアの意義 今日、我々にとって様々なメディアは生活に不可欠となっており、文化施設等でも日常的に使用している。基本的なメディアの意義を説明する。
- 第2回 メディアの歴史と発展 これまで人類が創造してきた広い意味でのメディアの歴史を紐解きながら、それが博物館等でどのように利用されてきたかを説明する。
- 第3回 メディアの未来とICT 社会 メディアは日々進化しており、ここでは最新のメディア機器とそれに関わる博物関連でのICT社会について説明する。
- 第4回 メディアと認知心理学 情報を発信すれば良いのではなく、最も重要なのがどう認知するかである。認知心理学の理論から、主に記憶と認知の構造を説明する。
- 第5回 メディアの利用とその影響 博物館にかぎらず、メディアの利用には気をつけなくてはならない点がある。過去の活用例をもとに、その影響力について説明する。
- 第6回 博物館におけるメディアの利用 博物館において、利用者や職員が使う様々なメディアについて、その全体像について説明する。
- 第7回 視聴覚情報メディア機器の活用(静止画) おもに従来から使用されてきたスライドやOHPなど静止画を中心とする具体的な機器について博物館での事例を交えて説明を行う。
- 第8回 視聴覚情報メディア機器の活用(動画) ここでは教育用に利用されてきたフィルムやビデオテープなどの動画を中心とする機器について博物館での事例を交えて説明を行う。
- 第9回 デジタル型視聴覚情報メディアについて 今日では、パソコンを含むデジタル型視聴覚情報メディアが利用されている。ここでは一般的な機器やインターネット等についての説明を行う。
- 第10回 デジタル機器とデータベース 情報コンテンツのデジタル化が一般化する中で、デジタルデータベース(=デジタルアーカイブ)をどのように構築し、利用するかを説明する。
- 第11回 ドキュメンテーションとシソーラス デジタル環境におけるドキュメンテーションづくりについて、とくに既製分類のない博物館におけるシソーラスのあり方について説明する。
- 第12回 博物館と著作権 博物館における知的財産権との関係の中で、とくに著作権を中心に日常業務に必要な事柄(著作権処理等を含む)について説明を行う。
- 第13回 情報管理と情報公開 おもにホームページ等への公開と管理を中心として、情報の管理形式とその公開について、ネットワークシステム論と併せて説明を行う。
- 第14回 学生によるプレゼンテーション(1) 学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。
- 第15回 学生によるプレゼンテーション(2) 学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。

授業以外での学習方法

文化施設で開催される講演会やシンポジウム・映画鑑賞会などに出席したり、テーマパーク等のメディア技術の観察などを行うこと。

教科書

山科ガイド

著者： 木下達文著

出版社： つむぎ出版

出版年： 2010

ISBN:

参考書

視聴覚メディアと教育方法

著者： 井上知義編

出版社： 北大路書房

出版年： 1999

ISBN:

成績評価

試験（0）

授業中課題（30）

参加度（40）

特に出席を重視する。

小テスト（0）

授業中発表等（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **図書館制度・経営論〈a〉**

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる

授業の内容

図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。

内 容

- 第1回 図書館法(逐条解説) 1950年制定の「図書館法」の内容や特徴と戦前の「図書館令」との比較、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の解説をする。
- 第2回 他館種の図書館に関する法律等(学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法)「公立図書館」以外の図書館に関する法律を解説し、学校図書館・大学図書館・国立国会図書館・専門図書館等の制度や機能を解説する。
- 第3回 図書館サービス関連法規(子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法等) 図書館サービスの提供には法に定められた権利や規制が関わる場合があり、トラブル発生の解決策や未然防止のための関連法規の解説をする。
- 第4回 図書館政策(国、地方公共団体) 国の図書館政策と都道府県レベルの図書館振興政策(1960年代の東京都や1980年代の振興策を中心に)を解説する。
- 第5回 公共機関・施設の経営方法(マーケティング・危機管理を含む) 新しい公共経営(ニュー、パブリック、マネージメント)と図書館マーケティングの歴史とマーケティングの計画・立案について解説する。
- 第6回 図書館の組織・職員(組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携) 図書館の組織の類型の現状と傾向、職員体制、館長の職務、専門的職員の資質の向上や研修、図書館を支える人々について解説する。
- 第7回 図書館の施設・設備(その1) 図書館建築と図書館新設の課程(企画、構想、建築、施工、運営等)を解説する。
- 第8回 図書館の施設・設備(その2) 図書館のスペースの構成、配慮すべき装備、快適な空間の創造等について解説する。
- 第9回 図書館のサービス計画と予算の確保 図書館サービス計画の企画、作成と図書館の予算編成のしくみと実態について解説する。
- 第10回 図書館業務・サービスの調査と評価 調査の方法や評価の目的と対象、評価の方法、評価のための統計と指標等について解説する。
- 第11回 図書館の管理形態の多様化 図書館のアウトソーシング(窓口業務の委託、指定管理者制度、PFI、市場化テスト等)の現状や問題点を解説する。
- 第12回 図書館業務の理論と実際(その1) パブリックサービス(閲覧、奉仕業務)について解説する。
- 第13回 図書館業務の理論と実際(その2) テクニカルサービス(資料整理)と管理業務等について解説する。
- 第14回 図書館協力とネットワークの形成 図書館協力とネットワークの意義、種類、運営と評価、相互貸借、相互利用、協力レファレンス、分担収集と保存等を解説する。
- 第15回 図書館経営の課題 図書館運営経費の大幅削減、直営から民営化、正規職員の削減と非正規化の推進等図書館経営の課題を解説する。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

図書館経営論 改訂版

著者： 三村敦美 編

出版社： 教育史料出版会

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **図書館制度・経営論 **

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

図書館の制度と図書館経営の意義と課題併せて最近の動向を理解させる

授業の内容

図書館に関する法律、関連する領域の法律、図書館政策について解説するとともに、図書館経営の考え方、職員や施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。

内 容

- 第1回 図書館法(逐条解説) 1950年制定の「図書館法」の内容や特徴と戦前の「図書館令」との比較、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」等の解説をする。
- 第2回 他館種の図書館に関する法律等(学校図書館法、国立国会図書館法、大学設置基準、身体障害者福祉法)「公立図書館」以外の図書館に関する法律を解説し、学校図書館・大学図書館・国立国会図書館・専門図書館等の制度や機能を解説する。
- 第3回 図書館サービス関連法規(子どもの読書活動推進法、文字・活字文化振興法、著作権法、個人情報保護法、労働関係法規、民法等) 図書館サービスの提供には法に定められた権利や規制が関わる場合があり、トラブル発生の解決策や未然防止のための関連法規の解説をする。
- 第4回 図書館政策(国、地方公共団体) 国の図書館政策と都道府県レベルの図書館振興政策(1960年代の東京都や1980年代の振興策を中心に)を解説する。
- 第5回 公共機関・施設の経営方法(マーケティング・危機管理を含む) 新しい公共経営(ニュー、パブリック、マネージメント)と図書館マーケティングの歴史とマーケティングの計画・立案について解説する。
- 第6回 図書館の組織・職員(組織構成、館長の役割、人事管理、図書館協議会、ボランティアとの連携) 図書館の組織の類型の現状と傾向、職員体制、館長の職務、専門的職員の資質の向上や研修、図書館を支える人々について解説する。
- 第7回 図書館の施設・設備(その1) 図書館建築と図書館新設の課程(企画、構想、建築、施工、運営等)を解説する。
- 第8回 図書館の施設・設備(その2) 図書館のスペースの構成、配慮すべき装備、快適な空間の創造等について解説する。
- 第9回 図書館のサービス計画と予算の確保 図書館サービス計画の企画、作成と図書館の予算編成のしくみと実態について解説する。
- 第10回 図書館業務・サービスの調査と評価 調査の方法や評価の目的と対象、評価の方法、評価のための統計と指標等について解説する。
- 第11回 図書館の管理形態の多様化 図書館のアウトソーシング(窓口業務の委託、指定管理者制度、PFI、市場化テスト等)の現状や問題点を解説する。
- 第12回 図書館業務の理論と実際(その1) パブリックサービス(閲覧、奉仕業務)について解説する。
- 第13回 図書館業務の理論と実際(その2) テクニカルサービス(資料整理)と管理業務等について解説する。
- 第14回 図書館協力和ネットワークの形成 図書館協力和ネットワークの意義、種類、運営と評価、相互貸借、相互利用、協力レファレンス、分担収集と保存等を解説する。
- 第15回 図書館経営の課題 図書館運営経費の大幅削減、直営から民営化、正規職員の削減と非正規化の推進等図書館経営の課題を解説する。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

図書館経営論 改訂版

著者： 三村敦美 編

出版社： 教育史料出版会

出版年： 2009

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館情報技術論 <a>

担当者 米谷 優子

テーマ

現代の図書館サービスの実施や図書館での諸業務の遂行に必要な基礎的情報技術について、理解を深め、知識と実践力を身につける

獲得目標

情報化の進展に伴い、図書館における各種の業務や図書館サービスのさまざまな側面で、情報技術が活用されるようになっていく。さらに、電子情報の普及・拡大によって、図書館情報資源そのものに大きな変化がもたらされており、その収集・管理の在り方もまた大きく変わろうとしている。この授業では情報社会における図書館の業務遂行及びサービス実施に必要な基礎的情報技術について、理解を深めることをねらいとして、図書館現場に即した実践的な知識・技術を身につけることを目標とする。

授業の内容

情報技術と図書館サービスをテーマに、図書館業務における情報機器・情報技術の機能や利用、電子資料・デジタル情報源等について解説する。図書館業務に必要な基礎的な情報技術への理解を深め、情報の流通・管理等に関する知識の修得を図る。必要に応じて演習を取り入れる。

内 容

- 第1回 授業の概要と授業計画 情報技術と社会
- 第2回 図書館における情報技術の活用
- 第3回 図書館業務システム
- 第4回 コンピュータに関する基礎知識
- 第5回 コンピュータに関する基礎知識2
- 第6回 コンピュータネットワークに関する基礎知識
- 第7回 データベースとその仕組み
- 第8回 検索エンジンとその仕組み
- 第9回 電子資料の管理と活用
- 第10回 インターネット上の情報発信
- 第11回 情報社会と情報管理・セキュリティ
- 第12回 情報社会と情報管理・セキュリティ2
- 第13回 デジタル情報の保存とアクセスをめぐる諸問題
- 第14回 情報化をめぐる問題と今後の図書館サービス
- 第15回 まとめ(試験を含む)

授業以外での学習方法

普段から、新たな情報技術について積極的に触れる機会を持つとともに、図書館の現場をよく観察しておくこと

教科書

図書館情報技術論

著者： 斎藤ひとみ、二村健

出版社： 学文社

出版年： 2012

ISBN： 9.78476E+12

参考書

情報検索の基礎知識新2版

著者： 原田智子ほか

出版社： 情報科学技術協会

出版年： 2011

ISBN： 9.78489E+12

新訂情報検索の知識と技術

著者： 時実象一ほか

出版社： 情報科学技術協会

出版年： 2010

ISBN: 9.78489E+12

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館情報技術論

担当者 米谷 優子

テーマ

現代の図書館サービスの実施や図書館での諸業務の遂行に必要な基礎的情報技術について、理解を深め、知識と実践力を身につける

獲得目標

情報化の進展に伴い、図書館における各種の業務や図書館サービスのさまざまな側面で、情報技術が活用されるようになっていく。さらに、電子情報の普及・拡大によって、図書館情報資源そのものに大きな変化がもたらされており、その収集・管理の在り方もまた大きく変わろうとしている。この授業では情報社会における図書館の業務遂行及びサービス実施に必要な基礎的情報技術について、理解を深めることをねらいとして、図書館現場に即した実践的な知識・技術を身につけることを目標とする。

授業の内容

情報技術と図書館サービスをテーマに、図書館業務における情報機器・情報技術の機能や利用、電子資料・デジタル情報源等について解説する。図書館業務に必要な基礎的な情報技術への理解を深め、情報の流通・管理等に関する知識の修得を図る。必要に応じて演習を取り入れる。

内 容

- 第1回 授業の概要と授業計画 情報技術と社会
- 第2回 図書館における情報技術の活用
- 第3回 図書館業務システム
- 第4回 コンピュータに関する基礎知識
- 第5回 コンピュータに関する基礎知識2
- 第6回 コンピュータネットワークに関する基礎知識
- 第7回 データベースとその仕組み
- 第8回 検索エンジンとその仕組み
- 第9回 電子資料の管理と活用
- 第10回 インターネット上の情報発信
- 第11回 情報社会と情報管理・セキュリティ
- 第12回 情報社会と情報管理・セキュリティ2
- 第13回 デジタル情報の保存とアクセスをめぐる諸問題
- 第14回 情報化をめぐる問題と今後の図書館サービス
- 第15回 まとめ(試験を含む)

授業以外での学習方法

普段から、新たな情報技術について積極的に触れる機会を持つとともに、図書館の現場をよく観察しておくこと

教科書

図書館情報技術論

著者： 斎藤ひとみ、二村健

出版社：学文社

出版年：2012

ISBN： 9.78476E+12

参考書

情報検索の基礎知識新2版

著者： 原田智子ほか

出版社：情報科学技術協会

出版年：2011

ISBN： 9.78489E+12

新訂情報検索の知識と技術

著者： 時実象一ほか

出版社： 情報科学技術協会

出版年： 2010

ISBN: 9.78489E+12

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (20)

参加度 (10)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館情報資源特論

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

児童サービス論で詳しく紹介できなかった様々な分野の児童資料について学習することで、児童資料の評価力をつける。

授業の内容

児童サービス論の概要を学んだ者に、一人ひとりの発達の違いや好奇心に対応した様々な内容や分野が児童資料にあることを知らせるとともに、実際に数多くの資料を紹介し、受講生にも読むことを課題とします。

内 容

- 第1回 児童資料のひろがり 物語や絵本から実用書、ゲームの攻略本まで、子どもを対象にした児童資料は多様化し続けている。同時に「子ども向け」と「大人向け」のボーダレス化も進んでいる。児童資料のひろがりを紹介する
- 第2回 絵本1―挿絵から絵本へ 絵本の歴史をたどることで、挿絵から絵本への転換を解説する。読み継がれてきた絵本が「絵」と「文」の相乗効果による魅力を持ち得ていることを解説する。
- 第3回 絵本2―表現としてのひろがり 絵本は子どものものだけではない。作者や出版社が想定している読者は乳幼児から大人まで幅広い。そのひろがりメディアとしての絵本の「子ども離れ」の側面について紹介する。
- 第4回 児童文学1―童話から創作へ 児童文学の歴史を解説し、大正期に発刊された「赤い鳥」などの童話の時代から、昭和期までの代表的な作品をその時代背景とともに解説する。
- 第5回 児童文学2―児童文学批評 清水真砂子『子どもの本の現在』が日本の児童文学に問いかけたことを中心に、日本の児童文学を考えるとともに、90年代から現在につながるアダルトチルドレンと児童文学との関係、外国の児童文学についてもふれる。
- 第6回 科学読み物1―歴史 日本の科学読み物の歴史は、明治時代の数年前から始まり、大正デモクラシーの時期に数多く出版される。その背景について解説し、第二次世界大戦とそれ以降の科学読み物についても紹介する。また、教育との関わりのなかでの科学読み物についても考える。
- 第7回 科学読み物2―科学読み物とは 科学読み物は、科学的に考えることの楽しさやすばらしさを伝えるものであるが、「科学読み物」のなかには「自然は美しい」「自然と親しくなろう」「自然界の不思議」といった類のものもある。その違いを解説する。
- 第8回 知識の絵本・資料集・事典「知識の絵本」の出版は月刊誌が発行されていることもあり、また「調べ学習」がひろがったことで、出版点数は多い。それらのなかから高い評価を受けている絵本を紹介する。児童向け資料集においても、統計をグラフにして説明をすることがあるが、グラフを比べることにより、よりよいグラフについて考える。事典についても紹介する。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

ふしぎなふしぎな子どもの物語

著者： ひこ田中

出版社： 光文社

出版年： 2011

ISBN:

はじめて学ぶ児童文学史

著者： 鳥越信 編

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2001

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館施設論

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

市民が自由に資料(情報)を利用し、有意義な時間を過ごす快適空間としての役割も求められている図書館施設のあり方について考察し、施設の面から図書館活動を理解する。あわせて、建築における機能、動線、配置、構造や設備といった基本的な知識にも触れる。

授業の内容

必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深める観点から、図書館活動・サービスが展開される場としての図書館施設について、地域計画、建築計画、その構成要素等を解説する。代表的かつ具体的な事例を複数取り上げ、実地でも施設を確認することで様々な角度から図書館建築に関する知識を修得する。

内 容

- 第1回 図書館活動を支える施設とは これまでの図書館が果たしてきた役割を考え、市民が求める図書館像の変遷とともに図書館施設がどのように変わりつつあるのかを説明
- 第2回 図書館運営方針と図書館建築計画
- 第3回 図書館建築の設計について 図書館建築に必要な機能について解説し、デザイン、全体計画、動線計画や各部計画について詳しく解説する。
- 第4回 図書館建築の設計事例 近年の代表的な図書館を中心に様々な図書館建築の事例に触れる。
- 第5回 館内環境の計画(家具、環境要素、サイン計画など)
- 第6回 図書館の設備と維持、防火対策や避難計画について 図書館に用いられる一般的な設備形式、防火対策や二方向避難について建築基準法などを参照しながら確認していく。
- 第7回 実際の図書館を見学し、館長の話聞く 実際に使われている図書館を見学し、館長の話聞くことによって図書館が市民にどのように使われているのか、また改善したいことなども率直に聞く。
- 第8回 見学後の評価とまとめ 授業では学生達が見学前と見学後の印象や意見が変わったかどうか、互いに議論を進める中で、「図書館とは何か」について深く考える場とする。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 (30)

図書館見学(指定)は必須である。

小テスト ()

授業中発表等 ()

2013 Syllabus

科目名 **情報サービス論 <a>**

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

インターネットや情報検索という言葉が普通に話される現代において、図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。

授業の内容

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

内 容

- 第1回 情報サービスの概要 情報サービスの意義について述べ、現代社会の情報サービス機関を概観する中で図書館の情報サービスについて考える
- 第2回 情報サービスの基礎 (1) レファレンスサービス、利用案内、レフェラルサービスについて説明
- 第3回 情報サービスの基礎 (2) カレントアウェアネス、オンライン検索、CD-ROM利用のサービスなどについて説明
- 第4回 情報サービスの展開 読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス(館独自の二次資料作成も含めて)、図書館利用教育(情報リテラシーの育成を含む)について説明
- 第5回 情報源の種類と評価 印刷メディアと電子メディア、館内で作成・編成する情報源、情報源の構築および評価について説明
- 第6回 情報ニーズへの対応 (1) 情報ニーズの理解、情報探索行動、レファレンスプロセスについて説明
- 第7回 情報ニーズへの対応 (2) レファレンス質問の意義と分析、レファレンスインタビューについて具体例を示しながら説明
- 第8回 情報の検索と回答 (1) 検索戦略、情報源の選択、検索語の選定、データベースの検索機能VHSなどの映像も見せながら検索式などのわかりやすい説明を試みる
- 第9回 情報の検索と回答 (2) および情報サービスの管理 検索の実行、回答の提供と評価について説明 情報サービスの組織化、外部データベース利用の課題、担当者の資質と能力について説明
- 第10回 事実検索の情報源 (1) 辞書・事典・便覧・図鑑の種類と特質について説明 (データベース等の情報原も含む)
- 第11回 事実検索の情報源 (2) 歴史情報、統計情報の調べ方について具体的例を示しながら説明
- 第12回 事実検索の情報源 (3) 地理・地名情報、人物・団体情報の調べ方について具体例を示しながら説明
- 第13回 文献検索の情報源 書誌・目録・記事索引の種類と特質について具体例を示しながら説明
- 第14回 電子メディアの活用 大学で使えるデータベースやCD-ROMを使って検索の実際を見せる、さらにインターネット利用の功罪にもふれる
- 第15回 発信型情報サービスの意義と方法 パスファインダーの実例など新しいサービスを紹介する

授業以外での学習方法

教科書

情報サービス論

著者: 大串夏身ほか編

出版社: 理想社

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (20)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報サービス論 **

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

インターネットや情報検索という言葉が普通に話される現代において、図書館における「情報サービス」とは何か、その意義や利用者のニーズへの理解、情報サービスを支える情報原の種類や評価などについて理解する。

授業の内容

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

内 容

- 第1回 情報サービスの概要 情報サービスの意義について述べ、現代社会の情報サービス機関を概観する中で図書館の情報サービスについて考える
- 第2回 情報サービスの基礎 (1) レファレンスサービス、利用案内、レフェラルサービスについて説明
- 第3回 情報サービスの基礎 (2) カレントアウェアネス、オンライン検索、CD-ROM利用のサービスなどについて説明
- 第4回 情報サービスの展開 読書相談、学習情報提供、地域における情報サービス(館独自の二次資料作成も含めて)、図書館利用教育(情報リテラシーの育成を含む)について説明
- 第5回 情報源の種類と評価 印刷メディアと電子メディア、館内で作成・編成する情報源、情報源の構築および評価について説明
- 第6回 情報ニーズへの対応 (1) 情報ニーズの理解、情報探索行動、レファレンスプロセスについて説明
- 第7回 情報ニーズへの対応 (2) レファレンス質問の意義と分析、レファレンスインタビューについて具体例を示しながら説明
- 第8回 情報の検索と回答 (1) 検索戦略、情報源の選択、検索語の選定、データベースの検索機能VHSなどの映像も見せながら検索式などのわかりやすい説明を試みる
- 第9回 情報の検索と回答 (2) および情報サービスの管理 検索の実行、回答の提供と評価について説明 情報サービスの組織化、外部データベース利用の課題、担当者の資質と能力について説明
- 第10回 事実検索の情報源 (1) 辞書・事典・便覧・図鑑の種類と特質について説明 (データベース等の情報原も含む)
- 第11回 事実検索の情報源 (2) 歴史情報、統計情報の調べ方について具体的例を示しながら説明
- 第12回 事実検索の情報源 (3) 地理・地名情報、人物・団体情報の調べ方について具体例を示しながら説明
- 第13回 文献検索の情報源 書誌・目録・記事索引の種類と特質について具体例を示しながら説明
- 第14回 電子メディアの活用 大学で使えるデータベースやCD-ROMを使って検索の実際を見せる、さらにインターネット利用の功罪にもふれる
- 第15回 発信型情報サービスの意義と方法 パスファインダーの実例など新しいサービスを紹介する

授業以外での学習方法

教科書

情報サービス論

著者: 大串夏身ほか編

出版社: 理想社

出版年: 2010

ISBN:

参考書

成績評価

試験（60）

授業中課題（20）

参加度（20）

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報サービス演習 I <a>

担当者 平野 翠

テーマ

情報サービスの中心をなすレファレンスサービスや発信型情報サービスの実践演習

獲得目標

情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダー(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。

授業の内容

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

内 容

- 第1回 情報サービスの設計 1(総論)
- 第2回 情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)
- 第3回 情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)
- 第4回 レファレンスインタビューの技法と実際
- 第5回 各種情報源の選択－質問分析と回答 1 事実調査(言葉・歴史を調べる)
- 第6回 各種情報源の選択－質問分析と回答 2 事実調査(地名・人名を調べる)
- 第7回 各種情報源の選択－質問分析と回答 3 演習(グループ)発表
- 第8回 各種情報源の選択－質問分析と回答 4 事実調査(統計・法令をしらべる)
- 第9回 各種情報源の選択－質問分析と回答 5 事実調査(その他)
- 第10回 各種情報源の選択－質問分析と回答 6 文献調査(図書)
- 第11回 各種情報源の選択－質問分析と回答 7 文献調査(雑誌)
- 第12回 各種情報源の選択－質問分析と回答 8 文献調査(新聞)
- 第13回 各種情報源の選択－質問分析と回答 9 演習(グループ発表)
- 第14回 発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)
- 第15回 情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)

授業以外での学習方法

大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみること。

教科書

テキストは使用しない。プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

情報サービス論及び演習

著者: 中西裕(ほか)著

出版社: 学文社

出版年: 2012

ISBN:

レファレンスサービス演習(改訂版)

著者: 吉田右子著

出版社: 勉誠出版

出版年: 2010

ISBN:

問題解決のためのレファレンスサービス

著者: 長澤雅男(ほか)著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2009

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

授業中にグループ演習を2回行い回答をグループごとに発表、その他「参考図書調査票」「パスファインダー」を作成し提出する。また、授業中に与えられた個人演習課題を最終日に提出する。参加度は、グループ演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

国立国会図書館リサーチナビ

<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

国立国会図書館が提供する「調べ方案内」の総合ポータルサイト

日外アソシエーツレファレンスクラブ

<http://www.reference-net.jp/>

日外アソシエーツのレファレンス支援サイト

2013 Syllabus

科目名 **情報サービス演習 I **

担当者 平野 翠

テーマ

情報サービスの中心をなすレファレンスサービスや発信型情報サービスの実践演習

獲得目標

情報サービスの設計をはじめ、利用者の質問に対するレファレンスサービスやパスファインダー(調べ方案内)を作成することによって、より発展した情報サービス(情報発信型サービス)を含めた様々な図書館における情報サービスを実践できる能力を身につける。

授業の内容

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、特にレファレンスサービスにおける情報資源の選択を中心に、積極的な発信型情報サービス(パスファインダーの作成)などの演習を行い、情報サービスを実践できる能力を養成する。

内 容

- 第1回 情報サービスの設計 1(総論)
- 第2回 情報サービスの設計 2(レファレンスサービスの設計)
- 第3回 情報サービスの設計 3(レファレンスコレクションの整備)
- 第4回 レファレンスインタビューの技法と実際
- 第5回 各種情報源の選択－質問分析と回答 1 事実調査(言葉・歴史を調べる)
- 第6回 各種情報源の選択－質問分析と回答 2 事実調査(地名・人名を調べる)
- 第7回 各種情報源の選択－質問分析と回答 3 演習(グループ)発表
- 第8回 各種情報源の選択－質問分析と回答 4 事実調査(統計・法令をしらべる)
- 第9回 各種情報源の選択－質問分析と回答 5 事実調査(その他)
- 第10回 各種情報源の選択－質問分析と回答 6 文献調査(図書)
- 第11回 各種情報源の選択－質問分析と回答 7 文献調査(雑誌)
- 第12回 各種情報源の選択－質問分析と回答 8 文献調査(新聞)
- 第13回 各種情報源の選択－質問分析と回答 9 演習(グループ発表)
- 第14回 発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成)
- 第15回 情報サービスの評価(レファレンス事例の作成)

授業以外での学習方法

大学図書館の参考図書コーナーにある辞典・事典・書誌(目録)を眺め、手にとってみること。

教科書

テキストは使用しない。プリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

情報サービス論及び演習

著者: 中西裕(ほか)著

出版社: 学文社

出版年: 2012

ISBN:

レファレンスサービス演習(改訂版)

著者: 吉田右子著

出版社: 勉誠出版

出版年: 2010

ISBN:

問題解決のためのレファレンスサービス

著者: 長澤雅男(ほか)著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2009

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (30)

参加度 (20)

授業中にグループ演習を2回行い回答をグループごとに発表、その他「参考図書調査票」「パスファインダー」を作成し提出する。また、授業中に与えられた個人演習課題を最終日に提出する。参加度は、グループ演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

国立国会図書館リサーチナビ

<http://rnavi.ndl.go.jp/rnavi/>

国立国会図書館が提供する「調べ方案内」の総合ポータルサイト

日外アソシエーツレファレンスクラブ

<http://www.reference-net.jp/>

日外アソシエーツのレファレンス支援サイト

2013 Syllabus

科目名 情報サービス演習Ⅱ <a>

担当者 米谷 優子

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

獲得目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の内容

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

内 容

- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
- 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
- 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
- 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
- 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
- 第6回 図書情報検索演習
- 第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
- 第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
- 第9回 人物情報・団体情報の検索
- 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
- 第11回 統計情報・地理的情報の検索
- 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
- 第13回 法律情報等の検索
- 第14回 法律情報等の検索演習
- 第15回 まとめ(試験を含む)

授業以外での学習方法

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

教科書

デジタル情報資源の検索

著者: 高嶽裕樹

出版社: 京都図書館情報研究会

出版年: 2012

ISBN: 9.78482E+12

参考書

情報検索入門ハンドブック

著者: 松本勝久

出版社: 勉誠出版

出版年: 2008

ISBN: 9.78459E+12

インターネット時代のレファレンス

著者： 大串夏身, 田中均

出版社： 日外アソシエーツ

出版年： 2010

ISBN: 9.78482E+12

キーワード検索がわかる

著者： 藤田節子

出版社： 筑摩書房

出版年： 2007

ISBN: 9.78448E+12

成績評価

試験 (45)

小テスト ()

授業中課題 (45)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報サービス演習Ⅱ

担当者 米谷 優子

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

獲得目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の内容

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

内 容

- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
- 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
- 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
- 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
- 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
- 第6回 図書情報検索演習
- 第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
- 第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
- 第9回 人物情報・団体情報の検索
- 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
- 第11回 統計情報・地理的情報の検索
- 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
- 第13回 法律情報等の検索
- 第14回 法律情報等の検索演習
- 第15回 まとめ(試験を含む)

授業以外での学習方法

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

教科書

デジタル情報資源の検索

著者： 高嶽裕樹

出版社： 京都図書館情報研究会

出版年： 2012

ISBN： 9.78482E+12

参考書

情報検索入門ハンドブック

著者： 松本勝久

出版社： 勉誠出版

出版年： 2008

ISBN： 9.78459E+12

インターネット時代のレファレンス

著者： 大串夏身, 田中均

出版社： 日外アソシエーツ

出版年： 2010

ISBN: 9.78482E+12

キーワード検索がわかる

著者： 藤田節子

出版社： 筑摩書房

出版年： 2007

ISBN: 9.78448E+12

成績評価

試験 (45)

小テスト ()

授業中課題 (45)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報サービス演習Ⅱ <c>

担当者 米谷 優子

テーマ

情報サービスのうち、データベース等の電子情報を検索して利用者からの質問に対応する、情報検索サービスについて学習する

獲得目標

情報サービスの概念・手順の基礎を確認したうえで、利用者の質問に対するレファレンスサービス・情報検索サービスの演習を通して、実践的な質問回答能力を養成する。

授業の内容

メディアの多様化、情報通信手段の発展により情報探索法も多様化している。大量・多様な情報の中から要求に応じた情報を探し出すには、情報検索の基礎的な知識を基盤に、情報要求を正確に把握して、適切な情報源を選択し的確な検索戦略を立て実行する実践力が必要とされる。この科目では、情報検索の基礎的理論についての理解を深めるとともに、実際の質問例に対する回答処理を演習して、主としてデジタル情報源を用いた情報探索の技術・実践的能力を育成する。

内 容

- 第1回 情報検索の概念、情報検索の手順、検索結果の評価
 - 第2回 情報検索の理論(論理演算、トランケーション、検索式等)、データベース
 - 第3回 検索エンジンのしくみ・全文検索
 - 第4回 検索エンジンによる情報検索演習
 - 第5回 図書情報(書誌情報、所蔵情報)の検索
 - 第6回 図書情報検索演習
 - 第7回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事の検索
 - 第8回 雑誌・新聞/雑誌記事・新聞記事検索演習
 - 第9回 人物情報・団体情報の検索
 - 第10回 人物情報・団体情報の検索演習
 - 第11回 統計情報・地理的情報の検索
 - 第12回 統計情報・地理的情報の検索演習
 - 第13回 法律情報等の検索
 - 第14回 法律情報等の検索演習
 - 第15回 まとめ(試験を含む)
-

授業以外での学習方法

積極的にさまざまなデータベースにアクセスし、いろいろな検索の実習経験を重ねてほしい。インターネット情報源はその作成者を確認して、信頼性の高いもののみを用いることが肝要である。

教科書

デジタル情報資源の検索

著者: 高嶽裕樹

出版社: 京都図書館情報研究会

出版年: 2012

ISBN: 9.78482E+12

参考書

情報検索入門ハンドブック

著者: 松本勝久

出版社: 勉誠出版

出版年: 2008

ISBN: 9.78459E+12

インターネット時代のレファレンス

著者： 大串夏身, 田中均

出版社： 日外アソシエーツ

出版年： 2010

ISBN: 9.78482E+12

キーワード検索がわかる

著者： 藤田節子

出版社： 筑摩書房

出版年： 2007

ISBN: 9.78448E+12

成績評価

試験 (45)

小テスト ()

授業中課題 (45)

授業中発表等 ()

参加度 (10)

演習時に課す授業課題は必ず提出すること。課題提出が授業参加の必須条件である。また、3分の1以上欠席の場合は、失格とする。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報資源組織演習 I <a>

担当者 平野 翠

テーマ

多様な情報資源に関する書誌データ、メタデータの作成実習。

獲得目標

多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

授業の内容

主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

内 容

- 第1回 書誌データ作成 1 (総則)
 - 第2回 書誌データ作成 2 (タイトル・責任表示)
 - 第3回 書誌データ作成 3 (版表示・出版事項)
 - 第4回 書誌データ作成 4 (形態・シリーズ)
 - 第5回 書誌データ作成 5 (注記)
 - 第6回 書誌データ作成 6 (国際標準図書番号・入手条件)
 - 第7回 書誌データ作成 7 (継続資料)
 - 第8回 書誌データ作成 8 (継続資料)
 - 第9回 書誌データ作成 9 (標目について)
 - 第10回 集中化・共同化による書誌データ作成 1 (所蔵登録)
 - 第11回 集中化・共同化による書誌データ作成 2 (書誌流用)
 - 第12回 集中化・共同化による書誌データ作成 3 (新規登録)
 - 第13回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 1 (概要)
 - 第14回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 2 (作成)
 - 第15回 書誌データ管理・検索システムの構築
-

授業以外での学習方法

自大学図書館のOPAC、CiiNii-Books、NDL-OPACなどで、資料検索しデータをみる。

教科書

テキストは使用しない。授業のつどプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

資料組織演習(JLA図書館情報学シリーズ II

著者: 吉田憲一編

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2007

ISBN:

情報資源組織論及び演習

著者： 那須雅熙著

出版社： 学文社

出版年： 2012

ISBN:

成績評価

試験（50）

小テスト（20）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業中、授業最終日に理解度ををはかるために確認のテストを行う。また、授業中、とくに「集中化・共同化による書誌データ作成」時における成果や、それぞれの演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報資源組織演習 I **

担当者 平野 翠

テーマ

多様な情報資源に関する書誌データ、メタデータの作成実習。

獲得目標

多様な情報資源に関する書誌データの作成、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。

授業の内容

主に単行資料書誌データを作成することにより、継続資料や電子資料等多様な情報資源の書誌データを作成する能力を養い、集中化・共同化による書誌データの作成や、ネットワーク情報資源のメタデータの作成も実践する。

内 容

- 第1回 書誌データ作成 1 (総則)
 - 第2回 書誌データ作成 2 (タイトル・責任表示)
 - 第3回 書誌データ作成 3 (版表示・出版事項)
 - 第4回 書誌データ作成 4 (形態・シリーズ)
 - 第5回 書誌データ作成 5 (注記)
 - 第6回 書誌データ作成 6 (国際標準図書番号・入手条件)
 - 第7回 書誌データ作成 7 (継続資料)
 - 第8回 書誌データ作成 8 (継続資料)
 - 第9回 書誌データ作成 9 (標目について)
 - 第10回 集中化・共同化による書誌データ作成 1 (所蔵登録)
 - 第11回 集中化・共同化による書誌データ作成 2 (書誌流用)
 - 第12回 集中化・共同化による書誌データ作成 3 (新規登録)
 - 第13回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 1 (概要)
 - 第14回 ネットワーク情報資源のメタデータ作成 2 (作成)
 - 第15回 書誌データ管理・検索システムの構築
-

授業以外での学習方法

自大学図書館のOPAC、CiiNii-Books、NDL-OPACなどで、資料検索しデータをみる。

教科書

テキストは使用しない。授業のつどプリントを配布する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

資料組織演習(JLA図書館情報学シリーズ II

著者: 吉田憲一編

出版社: 日本図書館協会

出版年: 2007

ISBN:

情報資源組織論及び演習

著者： 那須雅熙著

出版社： 学文社

出版年： 2012

ISBN:

成績評価

試験（50）

小テスト（20）

授業中課題（10）

授業中発表等（ ）

参加度（20）

授業中、授業最終日に理解度ををはかるために確認のテストを行う。また、授業中、とくに「集中化・共同化による書誌データ作成」時における成果や、それぞれの演習に取り組む態度を評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報資源組織演習Ⅱ <a>

担当者 澤谷 とし子

テーマ

日本十進分類法(NDC9版)、基本件名標目表(BSH4版)を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。

獲得目標

NDC9版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。

授業の内容

多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。

内 容

- 第1回 主題分析とその表示 情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主题について説明
- 第2回 基本件名標目表の概略 基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明
- 第3回 基本件名標目表による件名作業 細目の用い方、件名規程の説明
- 第4回 演習とまとめ ここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る
- 第5回 日本十進分類法(NDC)の概略 NDCの構成を説明
- 第6回 日本十進分類法による分類作業 一般補助表(形式区分等)・固有補助表の用い方を説明
- 第7回 分類記号付与の実際 分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる
- 第8回 演習とまとめ
- 第9回 分類記号付与の実際／人文科学(2類、1類) これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明
- 第10回 分類記号付与の実際／人文科学(7類、8類、9類)
- 第11回 演習とまとめ
- 第12回 分類記号付与の実際／社会科学(3類)
- 第13回 分類記号付与の実際／自然科学(4類)、技術(5類)
- 第14回 分類記号付与の実際／産業(6類)、総記(0類)
- 第15回 図書記号・別置記号の付与; 演習とまとめ

授業以外での学習方法

図書館利用に際し、書架に排架されている本の背ラベルの数字を意識的に見ること。

教科書

資料組織演習

著者: 吉田憲一編著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 最新刊

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (80)

授業中発表等 ()

ask302e310

教室に備え付けのNDCやBSHを使って演習するので、出席は2/3以上すること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報資源組織演習Ⅱ **

担当者 澤谷 とし子

テーマ

日本十進分類法(NDC9版)、基本件名標目表(BSH4版)を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。

獲得目標

NDC9版、BSH4版を使って、情報資源の主題を記号およびことば(統制語)で表現できるようにする。

授業の内容

多様な情報資源に関する書誌データの作成、主題分析、分類作業、統制語彙の適用、メタデータの作成等の演習を通して、情報資源組織業務について実践的な能力を養成する。この科目では、上記の内、主題分析、分類作業、統制語彙の適用の演習を行う。

内 容

- 第1回 主題分析とその表示 情報原の主題を分析し、要約主題と網羅的主题について説明
- 第2回 基本件名標目表の概略 基本件名標目表の概略、階層構造の詳細について説明
- 第3回 基本件名標目表による件名作業 細目の用い方、件名規程の説明
- 第4回 演習とまとめ ここまで学習したことを、演習を通してどこまで理解しているかを見る
- 第5回 日本十進分類法(NDC)の概略 NDCの構成を説明
- 第6回 日本十進分類法による分類作業 一般補助表(形式区分等)・固有補助表の用い方を説明
- 第7回 分類記号付与の実際 分類規程の説明、教科書の問題も交えながら理解をさせる
- 第8回 演習とまとめ
- 第9回 分類記号付与の実際／人文科学(2類、1類) これら各類の特徴的な分類の展開と適用について説明
- 第10回 分類記号付与の実際／人文科学(7類、8類、9類)
- 第11回 演習とまとめ
- 第12回 分類記号付与の実際／社会科学(3類)
- 第13回 分類記号付与の実際／自然科学(4類)、技術(5類)
- 第14回 分類記号付与の実際／産業(6類)、総記(0類)
- 第15回 図書記号・別置記号の付与; 演習とまとめ

授業以外での学習方法

教科書

資料組織演習

著者: 吉田憲一編著

出版社: 日本図書館協会

出版年: 最新刊

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (20)

小テスト (80)

授業中発表等 ()

ask302e312

教室に備え付けのNDCやBSHを使って演習するため、出席は2／3以上すること。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 図書館実習

担当者 明定 義人

テーマ

獲得目標

それまでの図書館学で学んだことを図書館現場で実習することを通じて、仕事をより深く理解し、今日の図書館が抱える課題についても問題意識を深めることが期待される。

授業の内容

図書館に関する科目で得た知識・技術を元にして、事前・事後学習の指導を受けつつ公立図書館業務を経験させる。実習は公立図書館で5日間(40時間)を基礎とする。実習の内容は下記の内容を中心にすえつつ順序等については実習館の都合にあわせる。

内 容

- 第1回 事前ガイダンス
 - 第2回 実習先による図書館施設見学と概略説明
 - 第3回 貸出・返却業務および配架作業
 - 第4回 レファレンス業務およびリクエスト処理等
 - 第5回 選書・発注作業および資料整理技術の実際を学ぶ
 - 第6回 図書館行事(お話会や講演会等)補助作業および館長の話(まとめ)
 - 第7回 学生からの報告と評価①
 - 第8回 学生からの報告と評価②
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (70)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 学校図書館メディアの構成

担当者 村岡 益子

テーマ

学校図書館メディアの構成に必要な実務的知識を得る。

獲得目標

学校図書館メディアの構成に関する理解および実務能力の育成と、学校図書館メディアの専門職である司書教諭としての基本的な知識を獲得する。

授業の内容

まず初めに、高度情報社会における学習環境の変化に伴うメディアの教育的意義と役割について論じ、同時に各種メディアの種類と特性について説明し、理解を図る。次に、より優れたメディアの構築について、さらにメディアの組織化の意義と展開について講義し、必要に応じて演習や実習を行う。

内 容

- 第1回 高度情報社会における学校図書館メディア
 - 第2回 学校図書館におけるメディアの種類と特性
 - 第3回 学校図書館メディア構築のための基本
 - 第4回 学校図書館メディアの選択と収集方針(評価方法を含む)
 - 第5回 学校図書館メディアの選択のための情報源と発注
 - 第6回 情報ファイル資料の構築
 - 第7回 学校図書館メディアの維持と発展(更新・廃棄を含む)
 - 第8回 学校図書館メディアの組織化の意義とプロセス
 - 第9回 学校図書館メディアの配架
 - 第10回 学校図書館メディアの組織化の新しい展開
 - 第11回 学校図書館メディアの目録
 - 第12回 学校図書館メディアの目録法
 - 第13回 学校図書館メディアの主題索引法
 - 第14回 特別な支援のための学校図書館メディア
 - 第15回 学校図書館メディアの充実と提供
-

授業以外での学習方法

小・中・高の図書館見学の機会を積極的につくること。また、必要な事前学習については、適宜指示する。

教科書

学校図書館メディアの構成

著者： 小田光宏 著

出版社： 樹村房

出版年： 2010

ISBN： 4-88367-091-8

参考書

授業にいかす情報ファイル

著者： 藤田敏江 著

出版社： 全国学校図書館協議会

出版年： 2012

ISBN： 4-7933-2283-9

学校図書館・司書教諭講習資料

著者： 全国学校図書館協議会 編

出版社： 全国学校図書館協議会

出版年： 2012

ISBN： 4-7933-0087-5

成績評価

試験（50）

小テスト（0）

授業中課題（20）

授業中発表等（0）

参加度（30）

出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **学習指導と学校図書館**

担当者 村岡 益子

テーマ

学習センター機能としての学校図書館は、教科学習や読書などと関連付けて活用されることが重要である。司書教諭は教師として、また多様なメディアの専門家として、その役割を果たすことが求められている。学校教育の目標と結びついた学習指導において学校図書館の活用を考えていく。

獲得目標

学習指導の基盤となる教育の理論を理解した上で、学校図書館メディアの活用方法を実践例を見ながら考察する。教科学習における担当教諭と司書教諭のコラボレーション、学習情報センターとしての学校図書館利用指導などについて事例を研究し、実際に自分で指導計画を作成する。情報リテラシー育成の一端を担う学校図書館活用の理論と実践のつながりを理解する。

授業の内容

講義中心であるが、課題をこなし、それに基づいた討論を行う。学習指導計画を実際に作成し、学校図書館を活用した授業を考える。最後に筆記試験を行う。

内 容

- 第1回 オリエンテーションとビデオ視聴『司書教諭の役割』
 - 第2回 学校教育と学校図書館
 - 第3回 主体的な学習を支える学校図書館
 - 第4回 メディア活用能力育成とその方法
 - 第5回 メディア活用能力育成の計画と評価
 - 第6回 レファレンスサービスと情報サービス
 - 第7回 学校図書館メディアの活用—レファレンスブックの利用
 - 第8回 情報サービスの新しい展開
 - 第9回 インターネット情報源の利用
 - 第10回 情報の利用とまとめ方
 - 第11回 ビデオ視聴『図書館を生かす学校は変わる』
 - 第12回 調べ学習の事例(1)
 - 第13回 調べ学習の事例(2)
 - 第14回 学校図書館活用を組み込んだ学習指導計画の作成
 - 第15回 学習指導計画の発表と討議 まとめと筆記試験
-

授業以外での学習方法

教育学、教科教育法の授業を履修した人は、復習をしておくこと。また、必要な事前学習については、適宜指示する。

教科書

学習指導・調べ学習と学校図書館

著者： 大串夏見 編著

出版社： 青弓社

出版年： 2009

ISBN： 4-7872-0044-0

学びかた指導のワークシート

著者： 全国学校図書館協議会 編

出版社： 全国学校図書館協議会

出版年： 2007

ISBN： 4-7933-0079

参考書

成績評価

試験（40）

小テスト（0）

授業中課題（30）

授業中発表等（0）

参加度（30）

出席・授業参加が大前提。25%以上の欠席は履修不可能。試験及び授業中の課題ペーパー、そして授業参加点を加味し、総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報メディアの活用**

担当者 戸田 久美子

テーマ

存在するさまざまなメディアの特色を理解した上で、学校教育への活用を論じる。そして、児童生徒の情報リテラシーの育成について学ぶ。

獲得目標

司書教諭資格取得希望者、もしくは教職希望者が、情報メディアを授業で活用することを目標において行う講義である。実践に役立つ知識とスキルを身につけ、情報メディアの活用を目的とした教材の制作も行う。また、グループワークを取り入れ、コミュニケーションスキルの向上も図る。

授業の内容

現代社会におけるさまざまなメディアの特色を理解し、実際に学校教育に活用することができるような知識の習得をめざす。また著作権の問題やメディアに潜む「負」の要素を認識すると共に、併せて児童生徒への指導方法についても考える。

内 容

- 第5回 電子メディアの活用・事例の紹介
- 第6回 学校図書館におけるコンピュータの利用
- 第7回 情報活用能力、メディアリテラシー
- 第8回 教育用ソフトウェアの活用
- 第9回 情報検索の仕組みと実際：データベースを用いて
- 第10回 情報検索の仕組みと実際：インターネットを用いて
- 第11回 インターネットの利用：ネチケット、フィルタリング
- 第12回 インターネット：情報の発信
- 第13回 プレゼンテーションと情報の評価
- 第14回 情報メディアと著作権およびテスト
- 第15回 テストの確認と自己評価
- 第1回 情報メディアの発達と変化：情報社会と人間
- 第2回 学校教育における情報メディア、高度情報社会における図書館の役割
- 第3回 情報メディアの特性と選択
- 第4回 視聴覚メディアの活用・事例の紹介

授業以外での学習方法

授業で紹介する資料およびURLへは各自で閲覧やアクセスを行っておいください。

教科書

情報メディアの活用

著者： 井口磯夫

出版社： 樹村房

出版年： 2009

ISBN：

参考書

授業でその都度紹介する

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 (35)

小テスト (10)

授業中課題 (35)

授業中発表等 (10)

参加度 (10)

学内IDを用いてのEメールの操作やパワーポイント、パブリッシャーなどのPCソフトの基本操作ができることを前提に課題を行います。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 博物館機能論Ⅱ〈Z〉

担当者 木下 達文

テーマ

社会に役立つ博物館とは

獲得目標

現代の博物館は非常に多様化しており、また経営方法も変わってきた。一方で、財政的にも厳しくなっているため、従来の経営方法では立ちゆかなくなってきた。したがって、これからの学芸員は経営感覚が必須といわれるようになってきた。そこで、本講座を通じて経営的視点をもつ人材の養成を行う。

授業の内容

博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営(ミュージアムマネジメント)に関する基礎的能力を養う。

内 容

- 第1回 ミュージアムマネージメントの概念と必要性 ここでは、ミュージアムマネジメントとは何かということから、なぜ博物館において「経営」的視点が必要になってきたのかということについて解説する。
- 第2回 博物館の行財政(経営とその種類) 近年、独立行政法人や指定管理者制度の導入によりその経営のあり方は大きく変化した。ここでは、そうした行財政制度の基本を説明する。
- 第3回 博物館の設置(主体) 国や自治体のみならず、多様な市立博物館が今日たくさん設置されている。ここでは、設置主体毎の特徴をおおまかに説明していく。
- 第4回 博物館の施設・設備(ユニバーサル化を含む) そもそも博物館がどのように計画・設置されるのかというプロセスと同時に、博物館に必要な施設設備について解説する。
- 第5回 博物館の組織と職員 博物館にとっての組織のあり方と同時に、学芸員を含む様々な職務スタッフについての概要を海外と比較しながら説明を行う。
- 第6回 博物館の使命と計画と評価 博物館は「何のために存在するのか」を常に自身および他者に問わなければならない。その使命と実施評価の方法について説明する。
- 第7回 博物館倫理(行動規範) 博物館は公益活動を行うところであり、コレクションを持つという特色がある。業務の特色がふまえた行動規範について解説する。
- 第8回 博物館の危機管理 東日本大震災の調査記録等を素材としながら、博物館の様々な事故とそれに対応する管理体制およびリカバリー等について解説する。
- 第9回 ミュージアムマーケティング 社会には様々な娯楽があり、年々利用者獲得が難しくなっている。ここでは、博物館の市場および利用者獲得のためのマネジメントを考える。
- 第10回 博物館と市民参画(友の会、ボランティア等) 博物館をとりまく支援組織のあり方が変化している。おもに友の会とボランティア活動についての概要を説明する。
- 第11回 博物館とサービス(ミュージアムショップ・レストラン等) 博物館は法の定義にもあるように、レクリエーションの場でもある。ここでは、博物館サービスとしてのショップとレストラン等のあり方を考える。
- 第12回 博物館と地域連携 博物館はもはや単独経営では成り立たなくなってきた。地域連携や博学連携などを例にあげながら、博物館の新たな役割について説明する。
- 第13回 博物館の財務(資金調達) これまでの博物館は一定の予算枠で活動を行うことが多かった。寄付に関する法律が変わっていくことで、今後の資金調達のあり方を考える。
- 第14回 特別講義 これまで博物館経営を行ってきた人、あるいは学芸員としての実績がある人をお招きし、その経験的視点からのケーススタディを考える。
- 第15回 博物館の見学 実際に博物館の現場を訪れ、展示だけでなく経営的な視点から博物館の運営状況、スタッフ、ショップ・レストランに至るまで観察を行う。

授業以外での学習方法

できるだけ機会をつかっていろいろな博物館を見学したり活動に参加してほしい。また、広報誌やガイドブックを参考にそれぞれの博物館の特徴や社会サービスの内容を知ること。

教科書

ひろがる日本のミュージアム

著者： 千地万造・木下達文編

出版社： 晃洋書房

出版年： 2007

ISBN:

参考書

新しい博物館学

著者： 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社： 芙蓉書房出版

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験（50）

授業中課題（20）

参加度（30）

小テスト（0）

授業中発表等（0）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 博物館教育論

担当者 一瀬 和夫

テーマ

資料重視型から利用者重視型へ向かう博物館での教育カリキュラムの構築

獲得目標

これまで日本の博物館では、収集資料重視の偏重があったため、館の使命の中に教育という側面がおろそかにされてきた。ところが、近年、利用者を重視する博物館運営にウエイトが増しており、普及部門の活動の中でも教育が必要不可欠な存在となってきた。本論では、博物館における教育展開の多方面にわたる手法と利用者の多様性を提示することで、よりよいカリキュラムの構築について考えてみたい。

授業の内容

博物館における教育活動の基盤となる理論や実践的な諸事例や方法を知り、それを展開する博物館がいかなる社会的存在となり得るかを探り、博物館機能の中に教育が参画できる基礎的な方策を立てることの能力を養う。

内 容

- 第1回 学びの意義(博物館の社会的存在感)
 - 第2回 【博物館教育の意義と理念】①コミュニケーションの場として博物館教育
 - 第3回 ②博物館機能の1つとしての教育的意義
 - 第4回 ③展示開発の中での教育担当者として役割
 - 第5回 ④博物館教育の意義(生涯学習の場としての博物館、人材養成の場としての博物館、地域における博物館の教育機能、博物館リテラシーの涵養等)
 - 第6回 ⑤博物館教育の方針と評価
 - 第7回 【博物館の利用と学び】①博物館の利用実態と利用者の博物館体験
 - 第8回 ②校外学習の場、アウトリーチの場としての博物館活動と利用方法
 - 第9回 ③博物館における有効な学びの特性－ハンズ・オン、ワークショップの展開
 - 第10回 【博物館教育の実際】①国立民族学博物館の見学
 - 第11回 ②キッズプラザ大阪の見学
 - 第12回 ③学校教育に生かす活動(展示ストーリー、収蔵資料と学習指導要領の関係)
 - 第13回 ④博物館教育活動の企画案の作成
 - 第14回 ⑤博物館教育活動の実施案の作成
 - 第15回 ⑥博物館展示教育のカリキュラム案の作成
-

授業以外での学習方法

各地の博物館が行う教育プログラムに参加してみる。博物館のハンズ・オン展示に触れてみる。

教科書

造形ワークショップの広がり

著者： 高橋陽一編

出版社： 武蔵野美術大学出版局

出版年： 2011

ISBN： 9.7849E+12

参考書

博物館学ハンドブック

著者： 高橋隆博他

出版社： 関西大学出版部

出版年： 2005

ISBN： 9.78487E+12

成績評価

試験（10）

授業中課題（20）

参加度（40）

小テスト（20）

授業中発表等（10）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 博物館情報・メディア論

担当者 木下 達文

テーマ

メディアの意味を理解しつつ、視聴覚メディアの活用能力を磨く

獲得目標

博物館などの文化施設における視聴覚メディアの利用は、単なる視聴覚機器の時代から、デジタルテクノロジーを活用したマルチメディア時代へと大きく転換してきている。それに伴い、運営に携わるスタッフにもそれらを抵抗なく使いこなしていく能力が求められてきている。視聴覚メディアに関する歴史や意義を今一度振り返るとともに、文化施設等で実際に使用されている映像等を通じて、基礎的なメディア活用の能力を磨いていく。

授業の内容

博物館における情報の意義と活用方法及び情報発信の課題等について理解し、博物館の情報の提供と活用等に関する基礎的能力を養う。

内 容

- 第1回 メディアの意義 今日、我々にとって様々なメディアは生活に不可欠となっており、文化施設等でも日常的に使用している。基本的なメディアの意義を説明する。
- 第2回 メディアの歴史と発展 これまで人類が創造してきた広い意味でのメディアの歴史を紐解きながら、それが博物館等でどのように利用されてきたかを説明する。
- 第3回 メディアの未来とICT 社会 メディアは日々進化しており、ここでは最新のメディア機器とそれに関わる博物関連でのICT社会について説明する。
- 第4回 メディアと認知心理学 情報を発信すれば良いのではなく、最も重要なのがどう認知するかである。認知心理学の理論から、主に記憶と認知の構造を説明する。
- 第5回 メディアの利用とその影響 博物館にかぎらず、メディアの利用には気をつけなくてはならない点がある。過去の活用例をもとに、その影響力について説明する。
- 第6回 博物館におけるメディアの利用 博物館において、利用者や職員が使う様々なメディアについて、その全体像について説明する。
- 第7回 視聴覚情報メディア機器の活用(静止画) おもに従来から使用されてきたスライドやOHPなど静止画を中心とする具体的な機器について博物館での事例を交えて説明を行う。
- 第8回 視聴覚情報メディア機器の活用(動画) ここでは教育用に利用されてきたフィルムやビデオテープなどの動画を中心とする機器について博物館での事例を交えて説明を行う。
- 第9回 デジタル型視聴覚情報メディアについて 今日では、パソコンを含むデジタル型視聴覚情報メディアが利用されている。ここでは一般的な機器やインターネット等についての説明を行う。
- 第10回 デジタル機器とデータベース 情報コンテンツのデジタル化が一般化する中で、デジタルデータベース(=デジタルアーカイブ)をどのように構築し、利用するかを説明する。
- 第11回 ドキュメンテーションとシソーラス デジタル環境におけるドキュメンテーションづくりについて、とくに既製分類のない博物館におけるシソーラスのあり方について説明する。
- 第12回 博物館と著作権 博物館における知的財産権との関係の中で、とくに著作権を中心に日常業務に必要な事柄(著作権処理等を含む)について説明を行う。
- 第13回 情報管理と情報公開 おもにホームページ等への公開と管理を中心として、情報の管理形式とその公開について、ネットワークシステム論と併せて説明を行う。
- 第14回 学生によるプレゼンテーション(1) 学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。
- 第15回 学生によるプレゼンテーション(2) 学生自身が施設からコンテンツを発信するという前提で、必要な視聴覚情報メディアを活用してプレゼンテーションを行い、それを評価する。

授業以外での学習方法

文化施設で開催される講演会やシンポジウム・映画鑑賞会などに出席したり、テーマパーク等のメディア技術の観察などを行うこと。

教科書

山科ガイド

著者： 木下達文著

出版社： つむぎ出版

出版年： 2010

ISBN:

参考書

視聴覚メディアと教育方法

著者： 井上知義編

出版社： 北大路書房

出版年： 1999

ISBN:

成績評価

試験（0）

授業中課題（30）

参加度（40）

特に出席を重視する。

小テスト（0）

授業中発表等（30）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **博物館経営論**

担当者 木下 達文

テーマ

社会に役立つ博物館とは

獲得目標

現代の博物館は非常に多様化しており、また経営方法も変わってきた。一方で、財政的にも厳しくなっているため、従来の経営方法では立ちゆかなくなってきた。したがって、これからの学芸員は経営感覚が必須といわれるようになってきた。そこで、本講座を通じて経営的視点をもつ人材の養成を行う。

授業の内容

博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営(ミュージアムマネジメント)に関する基礎的能力を養う。

内 容

- 第1回 ミュージアムマネージメントの概念と必要性 ここでは、ミュージアムマネジメントとは何かということから、なぜ博物館において「経営」的視点が必要になってきたのかということについて解説する。
- 第2回 博物館の行財政(経営とその種類) 近年、独立行政法人や指定管理者制度の導入によりその経営のあり方は大きく変化した。ここでは、そうした行財政制度の基本を説明する。
- 第3回 博物館の設置(主体) 国や自治体のみならず、多様な市立博物館が今日たくさん設置されている。ここでは、設置主体毎の特徴をおおまかに説明していく。
- 第4回 博物館の施設・設備(ユニバーサル化を含む) そもそも博物館がどのように計画・設置されるのかというプロセスと同時に、博物館に必要な施設設備について解説する。
- 第5回 博物館の組織と職員 博物館にとっての組織のあり方と同時に、学芸員を含む様々な職務スタッフについての概要を海外と比較しながら説明を行う。
- 第6回 博物館の使命と計画と評価 博物館は「何のために存在するのか」を常に自身および他者に問わなければならない。その使命と実施評価の方法について説明する。
- 第7回 博物館倫理(行動規範) 博物館は公益活動を行うところであり、コレクションを持つという特色がある。業務の特色がふまえた行動規範について解説する。
- 第8回 博物館の危機管理 東日本大震災の調査記録等を素材としながら、博物館の様々な事故とそれに対応する管理体制およびリカバリー等について解説する。
- 第9回 ミュージアムマーケティング 社会には様々な娯楽があり、年々利用者獲得が難しくなっている。ここでは、博物館の市場および利用者獲得のためのマネジメントを考える。
- 第10回 博物館と市民参画(友の会、ボランティア等) 博物館をとりまく支援組織のあり方が変化している。おもに友の会とボランティア活動についての概要を説明する。
- 第11回 博物館とサービス(ミュージアムショップ・レストラン等) 博物館は法の定義にもあるように、レクリエーションの場でもある。ここでは、博物館サービスとしてのショップとレストラン等のあり方を考える。
- 第12回 博物館と地域連携 博物館はもはや単独経営では成り立たなくなっている。地域連携や博学連携などを例にあげながら、博物館の新たな役割について説明する。
- 第13回 博物館の財務(資金調達) これまでの博物館は一定の予算枠で活動を行うことが多かった。寄付に関する法律が変わっていくことで、今後の資金調達のあり方を考える。
- 第14回 特別講義 これまで博物館経営を行ってきた人、あるいは学芸員としての実績がある人をお招きし、その経験的視点からのケーススタディを考える。
- 第15回 博物館の見学 実際に博物館の現場を訪れ、展示だけでなく経営的な視点から博物館の運営状況、スタッフ、ショップ・レストランに至るまで観察を行う。

授業以外での学習方法

できるだけ機会をつくっていろいろな博物館を見学したり活動に参加してほしい。また、広報誌やガイドブックを参考にそれぞれの博物館の特徴や社会サービスの内容を知ること。

教科書

ひろがる日本のミュージアム

著者： 千地万造・木下達文編

出版社： 晃洋書房

出版年： 2007

ISBN:

参考書

新しい博物館学

著者： 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編

出版社： 芙蓉書房出版

出版年： 2008

ISBN:

成績評価

試験（50）

授業中課題（20）

参加度（30）

小テスト（0）

授業中発表等（0）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 博物館資料保存論

担当者 一瀬 和夫

テーマ

獲得目標

博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う

授業の内容

博物館等に所蔵の文化財資料について、その保存に関する科学的手法を学ぶとともに、実際の博物館における実態を学ぶことで文化財保存とその環境、博物館の役割について学ぶ

内 容

- 第1回 資料保存の意義
 - 第2回 文化財保存における国内外の状況①
 - 第3回 文化財保存における国内外の状況②
 - 第4回 資料の状態調査・現状把握
 - 第5回 資料の修復・修理
 - 第6回 資料の梱包と輸送1
 - 第7回 資料の梱包と輸送2
 - 第8回 博物館資料の保存環境事例1
 - 第9回 博物館資料の保存環境事例2
 - 第10回 学外授業① 博物館資料の保存環境事例3
 - 第11回 地域文化資源の保存と活用事例1
 - 第12回 地域文化資源の保存と活用事例2
 - 第13回 学外授業② 地域文化資源の保存と活用事例3
 - 第14回 環境保全と博物館
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

博物館資料保存論

著者： 佐野千絵 他3名

出版社： 医学評論社

出版年：

ISBN：

文化財の保存環境

著者： 東京文化財研究所

出版社： 中央公論美術

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 博物館展示論

担当者 木下 達文

テーマ

展示メディアの理解と創造

獲得目標

展示という空間メディアには様々なものがあるが、中でも文化空間としての展示会やイベントなどを中心とし、それら空間を伴うメディアがどのようにして企画され作られているのかを基礎理論・歴史ならび手法等を含めて学ぶ。と同時に、可能な範囲で独自の展示企画を具体的に提案し実践する(1月予定)。

授業の内容

展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論および方法に関する知識・技術を習得し、展示機能に関する基礎的能力を養うとともに、簡単な展示実践を行う。

内 容

- 第1回 展示メディアとは(展示の概念) 展示を一つのコミュニケーションメディアとしてとらえ、その空間的・時間的特性について考える。
- 第2回 展示の種類(形態) 展示には閉ざされた空間における小さいものから、インスタレーションのような環境展示というものもある。大まかな展示の種類を説明する。
- 第3回 展示および展示論の歴史 展示の世界は日本では1970年の大阪万博から開花していく、その後の展示の歴史と、展示学の流れについての概略を説明する。
- 第4回 展示の政治性と社会性 展示はその規模が大きくなればなるほど政治的特色が強くなる。とくに大型展示などを例にあげながら政治性・社会性について説明する。
- 第5回 展示のプロセス(企画・設計・製作等) 展示をつくるプロセスは映画制作とよく似ている。基本調査構想から製作までの一連の流れについて概説する。
- 第6回 展示の手法(展示技術) 展示は実物を使うケース展示から、1分の1実大再構成展示に至るまで様々である。そうした基本的な展示手法について説明する。
- 第7回 展示と研究 展示は固定的なものであり、嘘ができない。そのため時代考証など緻密な研究の裏付けが必要であり、また研究成果の場でもあることを説明する。
- 第8回 展示と運営 展示は完成すれば終わりではない。そこから様々な運営サービス・管理が行われる。ここでは基本的な展示場での活動について説明する。
- 第9回 展示と解説 展示はコミュニケーションメディアであるから、その伝え方も多様である。パネルによる解説から機械・人による解説までの手法を説明する。
- 第10回 展示とその記録(図録、解説、資料等) とくに仮設的な展示は、そのイベントが終了すると何も残らない。そこで、展示記録としての図録や解説などの資料について説明する。
- 第11回 特別講義 実際に展示を企画・設計・製作している人から、ある例を題材としながら具体的な展開とその問題点などについて考える。
- 第12回 展示の企画実践 これまでの学習をもとに自分たちでオリジナルな展示企画を考える。考えてものを企画資料としてまとめてみる。
- 第13回 展示の製作実践 企画で考えた展示について実際に簡単な製作を行う。自分たちなりにできる素材を集め、展示そのものをつくりあげてみる。
- 第14回 展示の運営実践 つくりあげた展示を利用者に提供する。運営管理を学びながら、教育プログラムやアンケートなどもと、展示評価の素材としていく。
- 第15回 展示の評価と改善・更新 展示は実施して終わりではなく、いろんな場面でチェック(評価)をしていくことがつぎの改善に繋がる。実践例をもとに評価について考える。

授業以外での学習方法

身の回りにはさまざまな空間があり、何らかの意図をもって作られている。美術館や博物館などの文化的空間から、イベント・ショールームなどの商業的空間に至るまでの展示メディア表現に関心をもち社会を見つめてみる。

教科書

授業内容に応じて適宜指示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

展示学事典

著者: 日本展示学会編

出版社: ぎょうせい

出版年: 1996

ISBN:

イベント講座

著者: 日本イベント産業振興協会

出版社:

出版年: 2004

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (30)

参加度 (40)

グループワークを組み合わせた授業方法にて進めるのと、展示創造に必要な責任感の向上を図るため、出席点をかなり厳しくしている。また、後半の展示創造プログラムでは授業外での連絡調整や制作作業などがある。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 博物館実習Ⅱ〈a〉

担当者 水口 千里 戸花 亜利州

テーマ

獲得目標

実習Ⅱでは、資料台帳カード作成と展示・体験学習のプランニングを行う。さらに、これらの作業を通して博物館業務の多様性を理解する。既存の博物館の資料台帳カード、要覧、図録、ホームページなどを参考に作業を進める。また、博物館における美術工芸品の取り扱い方法と調査方法を中心に講義を進め、学芸員に求められる知識と技術の修得を目指す。

授業の内容

講義形式で進めながら適宜資料を用いる。また、撮影の基礎(中判カメラの使用方法やライティング等)についても講義する。

内 容

- 第1回 【事前指導1】実習に係る事前指導、取り扱い資料に関する概説(民俗資料・美術工芸資料)
- 第2回 民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、写真撮影)
- 第3回 民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、画像処理)
- 第4回 見学実習① 学外授業 博物館参観
- 第5回 民俗資料展示・体験学習の原案検討
- 第6回 民俗資料展示企画書作成、展示場平面図作成
- 第7回 体験学習企画書作成
- 第8回 【事後指導1】実習総括
- 第9回 【事前指導2】実習に係る事前指導、展示環境の基礎
- 第10回 美術工芸資料(軸装、卷子・折本・冊子)の取り扱い
- 第11回 美術工芸資料(彫刻)の取り扱い
- 第12回 見学実習② 学外授業 博物館参観
- 第13回 撮影の基礎、中判カメラを用いた撮影
- 第14回 美術品の梱包、展示・図録編集作業
- 第15回 【事後指導2】実習総括

授業以外での学習方法

《水口先生》博物館見学《戸花先生》講義の理解をより深めるために、自主的に各地の博物館・美術館を見学して欲しい。

教科書

参考書

授業中に紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask403d250

必ず出席すること。出席不良者(1/2以上)は履修放棄とみなす。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 博物館実習Ⅱ

担当者 水口 千里 戸花 亜利州

テーマ

獲得目標

実習Ⅱでは、資料台帳カード作成と展示・体験学習のプランニングを行う。さらに、これらの作業を通して博物館業務の多様性を理解する。既存の博物館の資料台帳カード、要覧、図録、ホームページなどを参考に作業を進める。また、博物館における美術工芸品の取り扱い方法と調査方法を中心に講義を進め、学芸員に求められる知識と技術の修得を目指す。

授業の内容

講義形式で進めながら適宜資料を用いる。また、撮影の基礎(中判カメラの使用方法やライティング等)についても講義する。

内 容

- 第1回 【事前指導1】実習に係る事前指導、取り扱い資料に関する概説(民俗資料・美術工芸資料)
- 第2回 民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、写真撮影)
- 第3回 民俗資料台帳カード作成(資料情報記入、画像処理)
- 第4回 見学実習① 学外授業 博物館参観
- 第5回 民俗資料展示・体験学習の原案検討
- 第6回 民俗資料展示企画書作成、展示場平面図作成
- 第7回 体験学習企画書作成
- 第8回 【事後指導1】実習総括
- 第9回 【事前指導2】実習に係る事前指導、展示環境の基礎
- 第10回 美術工芸資料(軸装、卷子・折本・冊子)の取り扱い
- 第11回 美術工芸資料(彫刻)の取り扱い
- 第12回 見学実習② 学外授業 博物館参観
- 第13回 撮影の基礎、中判カメラを用いた撮影
- 第14回 美術品の梱包、展示・図録編集作業
- 第15回 【事後指導2】実習総括

授業以外での学習方法

《水口先生》博物館見学 《戸花先生》講義の理解をより深めるために、自主的に各地の博物館・美術館を見学して欲しい。

教科書

参考書

授業中に紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

ask403d252

必ず出席すること。出席不良者(1/2以上)は履修放棄とみなす。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本語教授法Ⅳ**

担当者 佐野 裕子

テーマ

初級後期・初中級レベルの授業を想定し、実際に指導するための基礎的な技術を学ぶ。

獲得目標

これまで学んだ日本語教育の基礎技術を応用し、初級後期・初中級レベルの授業が行えるようになることを目標とする。具体的には、模擬授業を通して、受講生同士コメントを加え、初級後期の文型の導入方法を学ぶ。あわせて中級指導の概説も簡単に行う。

授業の内容

授業は講義形式ではなく、毎回2～3名の学生が自分の担当する課の学習項目についての授業を行い、その内容についてクラスで討議を行う形です。場合によっては留学生とペアになって授業を行ってもらうこともある。※教授法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを履修済みまたは今年度履修登録している学生、日本語教員養成に関する科目(日本語学概説など)をいくつか履修済みまたは登録している学生を対象としている。基本的に教授法Ⅳ以外日本語教員養成に関する科目を履修しない学生に対しては、事前相談なしに履修を認めないので、登録前に担当教員と相談すること。

内 容

- 第1回 ガイダンス・授業方針・評価方法説明・模擬授業の担当課を決める
- 第2回 初級前期の指導方法の復習と前期の反省
- 第3回 模擬授業1(みんなの日本語初級Ⅱ 26課と27課前半)
- 第4回 模擬授業2(みんなの日本語初級Ⅱ 27課後半と28課)
- 第5回 模擬授業3(みんなの日本語初級Ⅱ 29課と30課前半)
- 第6回 模擬授業4(みんなの日本語初級Ⅱ 30課後半と31課)
- 第7回 模擬授業5(みんなの日本語初級Ⅱ 32課と33課前半)
- 第8回 模擬授業6(みんなの日本語初級Ⅱ 33課後半と34課)
- 第9回 模擬授業7(みんなの日本語初級Ⅱ 35課と36課前半)
- 第10回 模擬授業8(みんなの日本語初級Ⅱ 36課後半と37課)
- 第11回 模擬授業9(みんなの日本語初級Ⅱ 138課と39課前半)
- 第12回 模擬授業10(みんなの日本語初級Ⅱ 39課後半と40課)
- 第13回 模擬授業11(みんなの日本語初級Ⅱ 41課と42課前半)
- 第14回 中級指導に向けて(中級の学習目標と指導のポイント)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

自分が担当しない課でも、必ず教材研究を行うこと、教案についても作成することが望ましい。日頃から留学生と接し、なるべく多くの時間を外国人と共有することを心掛けるように。また日本語学校、地域の日本語教室などへの見学や参加などを自主的に行うこと

教科書

みんなの日本語—初級Ⅱ 本冊

著者:

出版社: スリーエーネットワーク

出版年: 1998

ISBN:

参考書

参考文献は授業中適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

ask6011450

試験 (0)

小テスト (10)

授業中課題 (20)

授業中発表等 (40)

参加度 (30)

出席回数が全授業数の3分の2に満たない場合は評価の対象としない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **日本語教育実習**

担当者 佐野 裕子

テーマ

日本語教育の授業見学、教案作成、教壇実習

獲得目標

実際に日本語の授業の計画(教案作成、教材開発など)、実践、批判を行うことができる。

授業の内容

この授業においては教員はあくまでアドバイザーであり、学生に主体的に教案作成、教材開発を行ってもらおう。

内 容

- 第1回 第1回ガイダンス 海外実習、国内実習の概要説明・実習先希望調査(5月中旬～下旬に行う)
 - 第2回 第2回ガイダンス 実習担当クラス(指導教師)の決定(6月中旬に行う予定)
 - 第3回 第3回ガイダンス 実習の授業計画(7月上旬予定)
 - 第4回 教案・教材作成(夏休み期間中)
 - 第5回 事前授業 教案・教材の最終確認・教員との個別指導の日程を決める(10月上旬予定)
 - 第6回 海外実習 (10月下旬予定)
 - 第7回 国内実習(11月上旬から中旬予定)
 - 第8回 事後授業 実習報告会[実習の感想や反省などを発表]、実習報告書などの課題提出(12月中旬予定)
 - 第9回 実習報告書作成(1月下旬から2月上旬予定)
-

授業以外での学習方法

円滑に実習が行えるよう、教材の選定や教案の作成を計画的に行うことが重要である。少なくとも前期中に教案の草案を完成させておくように。教案の作成について相談がある場合は、必ずオフィスアワーなどを利用し指導を求めること。その際、必ず事前にアポイントメントをとること。教員からの連絡に常に注意を払うこと。不定期に行われるガイダンスなどの授業を最優先とし、授業に参加すること。

教科書

テキストはプリントを作成し配布する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

参考文献は授業中適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (0)

小テスト (0)

授業中課題 (30)

授業中発表等 (60)

参加度 (10)

ガイダンス(4回)、事前・事後授業にすべて出席することが単位認定の要件である。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 生涯学習概論Ⅱ

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

日本と世界の生涯学習

獲得目標

生涯学習を世界史的視野からとらえ、共通する現代的課題の国際的動向を把握する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ハンブルク宣言の意味するもの
 - 第2回 イギリスにおける大学拡張
 - 第3回 成人教育の成立と現在
 - 第4回 ドイツにおける民衆大学
 - 第5回 市民大学の現在
 - 第6回 有給教育休暇の理念と制度
 - 第7回 職業資格と生涯学習
 - 第8回 社会的教育学の成立と青少年教育
 - 第9回 高齢社会と生涯学習
 - 第10回 多文化共生と生涯学習
 - 第11回 世界と日本の環境・まちづくり学習
 - 第12回 エコミュージアムと市民の学習
 - 第13回 アジアの生涯学習 中国
 - 第14回 アジアの生涯学習 韓国
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

高校の世界史教科書の近代以降を自習しておくこと。授業中紹介した文献を読み世界の動向や教育改革の動きについて敏感になる

教科書

指定なし

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

世界の大学危機

著者: 潮木守一

出版社: 中央公論新社

出版年: 2004

ISBN: 4-12-101764-1

現代世界の生涯学習

著者： 新海英行／牧野篤

出版社： 大学教育出版

出版年： 2002

ISBN: 4-88730-477-3

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会教育計画Ⅱ**

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

地域・学校と社会教育計画

獲得目標

地域社会における学校教育と社会教育の協力を考える。また学級・講座の企画力を養う。

授業の内容

講義が主であるが、意見交換や発表も適宜行う

内 容

- 第1回 オリエンテーション 社会教育の場としての学校
 - 第2回 小学校における施設開放
 - 第3回 学社連携の実際
 - 第4回 開かれた小学校とは？
 - 第5回 校区社会教育の可能性
 - 第6回 学校開放における安心と安全を考える
 - 第7回 総合型地域スポーツクラブと部活動
 - 第8回 高等学校と地域社会
 - 第9回 青年・成人の学習と新しい高等学校
 - 第10回 大学開放の歴史と現在
 - 第11回 社会教育施設としての大学
 - 第12回 社会教育としての職業教育・訓練
 - 第13回 権利としての職業教育・訓練
 - 第14回 企画ないしはテーマ研究の発表・交流
 - 第15回 企画ないしはテーマ研究の発表・交流
-

授業以外での学習方法

地域社会と学校の関係について、自分の体験にもとづいて考えること 授業中提示した参考文献を読むこと

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会教育課題研究**

担当者 吉岡 いずみ

テーマ

施設調査と企画の提案

獲得目標

身近な近辺の市町村の社会教育関連施設について調べ、グループに分かれて調査もしくは実際にそこで行う企画を立案し、提案する。小集団による学習に習熟し、コミュニケーション能力を高め、プレゼンテーションの経験を積む。

授業の内容

内 容

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 京都市および周辺市町村の社会教育の特徴
 - 第3回 成人の学習の場所について
 - 第4回 青少年教育施設について
 - 第5回 児童館の現在
 - 第6回 高齢者等福祉関連施設における学習について
 - 第7回 地域の文化施設における学習について
 - 第8回 調査のグルーピング
 - 第9回 調査のグルーピング
 - 第10回 グループに分かれてフィールドワーク
 - 第11回 グループに分かれてフィールドワーク
 - 第12回 企画立案ないしは調査の設計
 - 第13回 企画立案ないしは調査の実施
 - 第14回 企画の交流・調査結果の分析の発表
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

日頃から地域の学習・文化施設について関心を持つ

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語教授法Ⅱ

担当者 中川 裕子

テーマ

日本語教授法概論

獲得目標

日本語教育の現場で必要となる基礎知識を身につける

授業の内容

コースデザイン、ニーズ分析、シラバスデザイン、教材選択の基礎知識(種類、特徴)、日本語指導の方法、指導内容、評価法、異文化理解と日本事情などを主に扱う。授業は、基本的に講義形式だが、内容によっては、課題を与え、発表(もしくは提出)を課す。

内 容

- 第1回 コースデザイン、ニーズ分析、シラバスデザイン
 - 第2回 教材論①(教材の種類と特徴-初級、中級、上級)
 - 第3回 教材論②(教材の種類と特徴-技能別、学習者別)
 - 第4回 教材論③(視聴覚教材、絵教材作成練習、教具の使用法)
 - 第5回 日本語指導の内容①(初級の指導の内容)
 - 第6回 日本語指導の内容②(指導のプロセスと指導案)
 - 第7回 日本語指導の内容③(練習方法の種類とその具体的方法)
 - 第8回 日本語指導の内容④(初級後半の指導内容の分析と具体的指導方法)
 - 第9回 日本語指導の内容⑤(初級後半の指導内容の分析と具体的指導方法)
 - 第10回 日本語指導の内容⑥(中級の会話指導)
 - 第11回 日本語指導の内容⑦(中級の文型指導)
 - 第12回 日本語指導の内容⑧(中級～上級の読解指導、作文指導)
 - 第13回 日本語指導の内容⑨(中級～上級の教材作成練習)
 - 第14回 評価法
 - 第15回 異文化理解と日本事情
 - 第16回 試験
-

授業以外での学習方法

日本語教育関係の文献を数多く読む。基本的な用語を理解する。外国語教授法に関する文献を数多く読む。日本語学習者との交流の機会に積極的に参加する。提出物の一つである課題ノート(日本語指導の方法に関する)に取り組む。

教科書

参考書

新・はじめての日本語教育 基本用語事典

著者: 高見澤孟監修

出版社: アスク

出版年: 2004

ISBN:

日本語の教え方ABC

著者： 寺田和子他

出版社： アルク

出版年： 2001

ISBN:

成績評価

試験 (30)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (10)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 デジタルデザイン演習 I <Zb>

担当者 杉本 雅子

テーマ

JW-CADによる建築製図

獲得目標

コンピューターの基本的な操作を習得する。データの保存方法や保存形式の違い、印刷設定や印刷方法、データの切り取りや貼付け、フォント名称やサイズの変更など、コンピューター操作全般に関わる基本的な知識を身に付ける。さらに、CAD の基本的な操作方法について学ぶ。

授業の内容

建築業界で最も代表的なCADソフトの一つであるJW-CADを習得する。基本操作を学習後、実際の建築図面を一通り作成することにより、CADにより建築製図の基礎をマスターする。

内 容

- 第1回 CAD ソフトについて
 - 第2回 CAD 製図の基礎とオブジェクトの操作
 - 第3回 平面図の作図
 - 第4回 "
 - 第5回 "
 - 第6回 "
 - 第7回 家具、窓等の作図
 - 第8回 課題の作図、提出
 - 第9回 立面図の作図
 - 第10回 "
 - 第11回 "
 - 第12回 断面図の作図
 - 第13回 "
 - 第14回 敷地図の作図、レイアウト
 - 第15回 図面の設定、印刷、総括
-

授業以外での学習方法

建築、インテリアの専門書に目を通し、建築作品展に足を運ぶことにより、図面の表現技法を自身の目で学ぶこと

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (80)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築環境Ⅱ <Z>**

担当者 今井 裕夫

テーマ

獲得目標

身の回りの生活、民俗学や美術といった文化と建築を取り巻く環境との関係について考える。あるいは、環境のもつ文化的・空間的側面について生活、農業、民俗学、現代美術、茶室、旅などの事例を通して見つめ直し、それらと建築との関わりについて考える。このような視点を踏まえ、建築と環境に関わる小課題に取り組む。

授業の内容

内 容

- 第1回 生活における建築と環境(1) 里山ー山辺の住環境
 - 第2回 生活における建築と環境(2) 里山ー水辺の住環境
 - 第3回 農業における建築と環境 哲学者／福岡正信の視角
 - 第4回 民俗学における建築と環境 宮本常一の視点
 - 第5回 現代美術における建築と環境 ランドスケープアート
 - 第6回 記憶のデザイン ー地図の作成(空間の記憶／場所の記憶)
 - 第7回 美にまつわる建築と環境 ー美の背景としての環境
 - 第8回 庭と建築と環境 桂離宮の構成と分析
 - 第9回 環境建築 建築家・藤森照信の作品
 - 第10回 茶室と環境 極小空間と茶庭
 - 第11回 旅における建築と環境 原風景の求め方
 - 第12回 美術と建築: イサムノグチ(1)(原爆ドーム/無言館など)
 - 第13回 美術と建築: イサムノグチ(2)(モエレ沼公園など)
 - 第14回 ポケットパークと付属施設の設計1
 - 第15回 ポケットパークと付属施設の設計2
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **データ分析Ⅱ**

担当者 竹中 祐二

テーマ

獲得目標

質的データの収集・分析、量的分析との関係、歴史的資料や民俗・伝承的資料や新聞・雑誌・図書・映像メディア関係資料の収集、フィールドワークの実際など、質的調査の基本事項についてわかりやすく解説する。

授業の内容

内 容

- 第1回 質的調査とはなにか
 - 第2回 質的データの収集
 - 第3回 聞き取り調査
 - 第4回 参与観察
 - 第5回 非参与観察
 - 第6回 歴史・伝承・活字・音声・映像資料の収集
 - 第7回 ラポール
 - 第8回 解釈と説明
 - 第9回 記号(シンボル)と意味とイメージ
 - 第10回 ドキュメント分析
 - 第11回 ライフヒストリー分析
 - 第12回 質的内容分析
 - 第13回 フィールドワークの企画
 - 第14回 フィールドワークの実施
 - 第15回 質的調査における主観性と客観性
-

授業以外での学習方法

教科書

(特に指定しない。適宜プリント類を配付する。)

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

質的データ分析法—原理・方法・実践

著者: 佐藤 郁哉

出版社: 新曜社

出版年: 2008

ISBN: 978-4788510951

“社会”を読み解く技法—質的調査法への招待

著者： 北澤毅・古賀正義

出版社： 福村出版

出版年： 2012

ISBN： 978-4571410482

成績評価

試験（60）

小テスト（）

授業中課題（30）

授業中発表等（）

参加度（10）

・質的データ分析に即したレポート課題を試験に代えて、最終的な提出を求める予定である。(60%) ・上記課題達成に向けた小課題を随時課す予定である。(30%) ・コミュニケーションペーパー、コメントシートを適宜やり取りする。(10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会調査 I**

担当者 村上 雅俊

テーマ

獲得目標

本科目は、社会調査の課題の選択、企画・計画、調査の実施、結果の分析・考察から報告書の作成、プレゼンテーションにいたるプロセスの“すべて”を実習を通して体験的に身につけることを目的としている。授業では、「量的な調査」を中心に、課題の選択、調査の企画・計画(含、類似調査のサーベイ)、仮説の構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者の選定、サンプリング、調査の実施などのフィールドワーク、エディティング、調査結果の統計的な集計・分析、仮説の検証、考察、報告書の作成、プレゼンテーションを行う。

授業の内容

「実習」は、4～6名のグループ単位で進め、グループごとに調査する課題を検討・選択し、その課題に対して、情報収集・文献調査、仮説の設定、調査の立案、調査票の作成を行い、受講生が調査員として調査を実施する。収集されたデータをデータ分析し、最終的に、分析結果を報告書として取りまとめ、プレゼンテーションを実施する。

内 容

- 第1回 社会調査とは
- 第2回 調査する課題の検討(含、情報収集、文献調査)
- 第3回 仮説の検討・構成
- 第4回 調査計画の検討・立案
- 第5回 調査票の作成(含、予備調査)
- 第6回 標本抽出の方法
- 第7回 調査の実施
- 第8回 データの入力・クリーニング
- 第9回 データ分析(単純集計、クロス集計)
- 第10回 データ分析(相関分析、仮説検定)
- 第11回 データ分析(多変量解析による分析)
- 第12回 分析結果の考察
- 第13回 報告書の作成
- 第14回 グループ発表(1)
- 第15回 グループ発表(2)

授業以外での学習方法

教科書

教科書は使用しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (25)

小テスト ()

授業中発表等 (25)

ask802d350

遅刻・早退2回を欠席1回とみなし、5回を超えて欠席すると単位を取得できない。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会調査Ⅱ**

担当者 岡本 朝也

テーマ

獲得目標

社会調査の企画・設計から報告書作成まで、全過程を実習形式で学習する授業で、本授業では主に量的調査とデータの分析について学ぶ。

授業の内容

※1人1台ずつのPCを使って実習を行う。調査票の作成、実査、データ分析、結果報告書の作成とプレゼンテーションについては数名のグループ単位で行う予定である。

内 容

- 第1回 インTRODクシヨン、概説
 - 第2回 量的社会調査の企画、設計
 - 第3回 量的社会調査のテーマ設定、仮説構成
 - 第4回 量的社会調査の質問項目設計
 - 第5回 対象者・地域の選定、サンプリング
 - 第6回 調査票作成、プリテスト、実査時の注意事項
 - 第7回 調査データの入力、整理(エディティング、コーディング、データクリーニング)
 - 第8回 SPSS(PASW Statistic)を用いた調査データの記述的分析
 - 第9回 SPSS(PASW Statistic)を用いた調査データのサンプル選択、カテゴリの統合
 - 第10回 SPSS(PASW Statistic)を用いたクロス集計表の作成・分析
 - 第11回 SPSS(PASW Statistic)を用いた相関係数の分析
 - 第12回 SPSS(PASW Statistic)を用いた単回帰・重回帰分析
 - 第13回 分析結果報告の記述方法
 - 第14回 分析結果報告書の作成
 - 第15回 研究成果の報告と討論
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **English Communication II (通信)**

担当者 フォスター ヘンリー

テーマ

Developing Listening, Speaking and Other communicative Skills through DVD Materials

獲得目標

In this course, building on the English Communication I course, we will cover some more basic daily English communicative items. The aim is to provide practical and useful material that will enable students to become comfortable with listening to, understanding, and speaking in a broader number of frequently occurring English situations. It is also hoped that, as psychology majors, they will be able to pick up the feelings and thoughts of the various speakers in the DVD materials, and understand some basic differences between Japanese and English ways of expression.

授業の内容

[テキスト授業／14回＋メディア授業／1回]

内 容

- 第1回 Introductory Video: introduction of the teachers and of the 15 session course and its aims; how to use the DVD text with an explanation of the text's format and types of practice required; course requirements and evaluation; what students should do if they have questions; recommendations about other forms of study and other study materials relevant to this course. 【メディア授業】
- 第2回 Textbook Unit 1: What a Great Party! — introducing yourself, hometowns and occupations 【テキスト授業】
- 第3回 Textbook Unit 2: A Lumni Island Barbeque — introducing someone else, food prices, socializing 【テキスト授業】
- 第4回 Textbook Unit 3: Got any Advice? — asking and giving advice, talking about past events 【テキスト授業】
- 第5回 Textbook Unit 4: Family Memories — describing family, past events, explaining how to do something 【テキスト授業】
- 第6回 Textbook Unit 5: Making a Good Impression — personal questions, discussing character, talking about your country 【テキスト授業】
- 第7回 Textbook Unit 6: Looking for work — Jobs ads, calling for an interview, interviews and first day at work 【テキスト授業】
- 第8回 Review of Units 1 ~ 6 and mid-semester evaluation 【テキスト授業】
- 第9回 Textbook Unit 7: What's Spaghetti al Pomodoro Fresco? — Ordering and describing food, talking about your day 【テキスト授業】
- 第10回 Textbook Unit 8: It's One of a Kind — shopping, discussing prices and bargaining 【テキスト授業】
- 第11回 Textbook Unit 9: An American-Style Festival — leisure suggestions, talking about fairs and festivals 【テキスト授業】
- 第12回 Textbook Unit 10: Surprise! — discussing dates and times, planning a party, invitations, telling a story 【テキスト授業】
- 第13回 Textbook Unit 11: The Right Place to Live — Understanding ads, calling about an apartment, describing a house 【テキスト授業】
- 第14回 Textbook Unit 12: The Best of Seattle — Describing places, asking for directions, talking about a trip 【テキスト授業】
- 第15回 Review of Units 7 ~ 12 and evaluation 【テキスト授業】

授業以外での学習方法

KTU's 'Moodle' e-learning programs, NHK radio programs; TOEIC practice; Kilgarriff vocabulary list; graded readers

教科書

America Live! — English and Culture in Action

著者: Dale Fuller

出版社: (MACMILLAN LANGUAGEHOUSE)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50%)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テストは、第8回・第15回の授業後に行う

小テスト (50%)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 English Literacy II (通信)

担当者 弥永 啓子

テーマ

基本的なリーディング能力の育成、ライティングの基礎となる中・高文法の総復習

獲得目標

Literacy I に引き続き、アカデミック・リーディング、ライティングの基礎としての、1) 基本的な文法・語彙知識 2) 平易な文章を一定速度で読み内容を把握できる読解能力

授業の内容

【テキスト授業／14回＋メディア授業／1回】各回テキストにそって、語彙学習、リーディング、文法理解と演習、語彙学習(発展)、語彙復習の順に学習を進めます。又、余裕のある受講生がやや難しいリーディング素材にふれることができるように、各回に応用のリーディング演習も準備してあります。

内 容

- 第1回 授業オリエンテーション (コンテンツの構成と効果的な学習方法、成績評価、オンライン辞書の活用方法等) 【メディア授業】
- 第2回 テキスト:Unit 12 (Who Needs Real Money? 可算名詞・不可算名詞) 【テキスト授業】
- 第3回 テキスト:Unit 13 (Smart Houses, 代名詞) 【テキスト授業】
- 第4回 テキスト:Unit 14 (For the Love of Sports, 形容詞) 【テキスト授業】
- 第5回 テキスト:Unit 15 (Amusement Parks, 比較級・最上級) 【テキスト授業】
- 第6回 Unit 12～15 復習 【テキスト授業】
- 第7回 テキスト:Unit 16 (It's All About Location, 場所・移動の前置詞) 【テキスト授業】
- 第8回 テキスト:Unit 17 (Barack Obama, 時の前置詞) 【テキスト授業】
- 第9回 テキスト:Unit 18 (Motivation, 副詞) 【テキスト授業】
- 第10回 テキスト:Unit 19 (Pets, 不定詞と動名詞) 【テキスト授業】
- 第11回 Unit 16～19 復習 【テキスト授業】
- 第12回 テキスト:Unit 20 (Teleworking, 等位接続詞) 【テキスト授業】
- 第13回 テキスト:Unit 21 (Our Precious Earth, 従位接続詞) 【テキスト授業】
- 第14回 テキスト:Unit 22 (Marriage, 関係節) 【テキスト授業】
- 第15回 Unit 20～22 復習 【テキスト授業】

授業以外での学習方法

「音声を聴きながら、繰り返し読む」、さらに「音読する」に勝る方法はありません。

教科書

Reading Sense

著者: Robert Hickling & Yasuhiro Ichikawa

出版社: (Kinseido)

出版年:

ISBN:

参考書

無料で使用できるオンライン辞書など、授業内で紹介する

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

復習テスト1 33% 復習テスト2 33% 復習テスト3 34%

小テスト (100%)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **自己表現研究Ⅱ(11月30日)(通信)**

担当者 日比野 英子・ジェイムス 朋子・中西 龍一・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的・積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

【テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回】

内 容

- 第1回 対人関係の心理(テキスト58～60ページ) 対人関係の心理とはどんなことか、対人認知、印象形成、対人魅力についてテキストを読み、ノートにまとめましょう。【テキスト授業】
- 第2回 対人関係をふりかえる(テキスト61～67ページ)「やってみよう!」の説明に従って対人地図を描いてみましょう。つぎに、この章の前文と、現代の対人関係、対人感の距離、対人関係のレベルについて理解し、対人地図の結果を整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第3回 対人態度を知る(テキスト68～75ページ)はじめに基本的対人態度測定インベントリーに答えましょう。つぎに、基本的不安と神経症的欲求、神経症的欲求の分類を理解し、インベントリーの結果を整理し、解説を参考に、自分自身について考え、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第4回 人へのとまどい(テキスト76～81ページ)まず、シャイネス尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と、対人不安、対人恐怖症、対人恐怖症の心性、対人恐怖症の治療について理解し、シャイネス尺度の結果を整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第5回 人とかかわり方(テキスト82～89ページ)まず、社会的スキル尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と、社会的スキル、社会的スキル訓練、自己主張のスキルについて理解し、社会的スキル尺度の結果を整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第6回 感情と感情表出(テキスト90～96ページ)はじめに表情チェックをしてみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識を読んで、感情と感情表出について理解し、表情チェックを整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第7回 心とからだの健康(テキスト97～105ページ)まず、ライフイベント・スケールとストレス性格チェックリストに答えましょう。つぎに、この章の前文と、ストレスの定義、ストレスの種類、ストレスと身体反応、ストレスの特徴、ストレスコーピングの方法について理解し、2つの心理尺度の結果を整理し、解説の設問にしたがって自己理解を深め、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第8回 「対人恐怖症」(テキスト106ページ)メンタルヘルスのページの対人恐怖症の説明を読み、また対人恐怖について他の文献でもしらべて理解を深めましょう。【テキスト授業】
- 第9回 わたしのドラマ(テキスト121～126ページ)まず、脚本分析の問いに答えましょう。つぎに、この章の前文と、交流分析の脚本の種類① 破壊的脚本、② 平凡な脚本、③ 成功者の脚本について理解し、脚本分析の結果を整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第10回 わたしの歴史と未来(テキスト127～134ページ)はじめに「私の感情曲線」のグラフに記入しましょう。つぎに、この章の前文と、エリクソンの発達理論、発達課題について理解し、感情曲線の結果の整理のための設問に答えて自分の歴史を見つめる作業をおこない、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第11回 「摂食障害」(テキスト135ページ)メンタルヘルスのページの摂食障害の説明を読み、また摂食障害について他の文献でも調べて理解を深めましょう。【テキスト授業】
- 第12回 自己表現のワーク⑤【スクーリング授業】
- 第13回 自己表現のワーク⑥【スクーリング授業】
- 第14回 自己表現のワーク⑦【スクーリング授業】
- 第15回 自己表現のワーク⑧【スクーリング授業】

授業以外での学習方法

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

教科書

新 自分さがしの心理学

著者： 川瀬正裕・松本真理子 著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年： ISBN：

参考書

「心理学Ⅰ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「心理学Ⅱ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「臨床心理学Ⅰ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「臨床心理学Ⅱ」教科書など

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）・自己表現のワークへの参加と提出物40%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 自己表現研究Ⅱ(12月1日)(通信)

担当者 日比野 英子・中島 暢美・中西 龍一

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的・積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

【テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回】

内 容

- 第1回 対人関係の心理(テキスト58～60ページ) 対人関係の心理とはどんなことか、対人認知、印象形成、対人魅力についてテキストを読み、ノートにまとめましょう。【テキスト授業】
- 第2回 対人関係をふりかえる(テキスト61～67ページ)「やってみよう!」の説明に従って対人地図を描いてみましょう。つぎに、この章の前文と、現代の対人関係、対人感の距離、対人関係のレベルについて理解し、対人地図の結果を整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第3回 対人態度を知る(テキスト68～75ページ)はじめに基本的対人態度測定インベントリーに答えましょう。つぎに、基本的不安と神経症的欲求、神経症的欲求の分類を理解し、インベントリーの結果を整理し、解説を参考に、自分自身について考え、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第4回 人へのとまどい(テキスト76～81ページ)まず、シャイネス尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と、対人不安、対人恐怖症、対人恐怖症の心性、対人恐怖症の治療について理解し、シャイネス尺度の結果を整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第5回 人とかかわり方(テキスト82～89ページ)まず、社会的スキル尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と、社会的スキル、社会的スキル訓練、自己主張のスキルについて理解し、社会的スキル尺度の結果を整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第6回 感情と感情表出(テキスト90～96ページ)はじめに表情チェックをしてみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識を読んで、感情と感情表出について理解し、表情チェックを整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第7回 心とからだの健康(テキスト97～105ページ)まず、ライフイベント・スケールとストレス性格チェックリストに答えましょう。つぎに、この章の前文と、ストレスの定義、ストレスの種類、ストレスと身体反応、ストレスの特徴、ストレスコーピングの方法について理解し、2つの心理尺度の結果を整理し、解説の設問にしたがって自己理解を深め、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第8回 「対人恐怖症」(テキスト106ページ)メンタルヘルスのページの対人恐怖症の説明を読み、また対人恐怖について他の文献でもしらべて理解を深めましょう。【テキスト授業】
- 第9回 わたしのドラマ(テキスト121～126ページ)まず、脚本分析の問いに答えましょう。つぎに、この章の前文と、交流分析の脚本の種類① 破壊的脚本、② 平凡な脚本、③ 成功者の脚本について理解し、脚本分析の結果を整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第10回 わたしの歴史と未来(テキスト127～134ページ)はじめに「私の感情曲線」のグラフに記入しましょう。つぎに、この章の前文と、エリクソンの発達理論、発達課題について理解し、感情曲線の結果の整理のための設問に答えて自分の歴史を見つめる作業をおこない、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第11回 「摂食障害」(テキスト135ページ)メンタルヘルスのページの摂食障害の説明を読み、また摂食障害について他の文献でも調べて理解を深めましょう。【テキスト授業】
- 第12回 自己表現のワーク⑤【スクーリング授業】
- 第13回 自己表現のワーク⑥【スクーリング授業】
- 第14回 自己表現のワーク⑦【スクーリング授業】
- 第15回 自己表現のワーク⑧【スクーリング授業】

授業以外での学習方法

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

教科書

新 自分さがしの心理学

著者： 川瀬正裕・松本真理子 著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年： ISBN：

参考書

「心理学Ⅰ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「心理学Ⅱ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「臨床心理学Ⅰ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「臨床心理学Ⅱ」教科書など

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）・自己表現のワークへの参加と提出物40%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **自己表現研究Ⅱ(12月21日)(通信)**

担当者 ジェイムス 朋子・中島 暢美・松下 幸治

テーマ

自己理解と他者理解、および人間関係のトレーニング

獲得目標

テキスト学習によって、心理学の知識を修得すると同時に自己理解・他者理解を深め、スクーリングでの演習により人間関係についても体験的に学ぶ。また、大学で求められる自主的・積極的に学ぶ姿勢を身につける。

授業の内容

【テキスト授業／11回＋スクーリング授業／4回】

内 容

- 第1回 対人関係の心理(テキスト58～60ページ) 対人関係の心理とはどんなことか、対人認知、印象形成、対人魅力についてテキストを読み、ノートにまとめましょう。【テキスト授業】
- 第2回 対人関係をふりかえる(テキスト61～67ページ)「やってみよう!」の説明に従って対人地図を描いてみましょう。つぎに、この章の前文と、現代の対人関係、対人感の距離、対人関係のレベルについて理解し、対人地図の結果を整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第3回 対人態度を知る(テキスト68～75ページ)はじめに基本的対人態度測定インベントリーに答えましょう。つぎに、基本的不安と神経症的欲求、神経症的欲求の分類を理解し、インベントリーの結果を整理し、解説を参考に、自分自身について考え、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第4回 人へのとまどい(テキスト76～81ページ)まず、シャイネス尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と、対人不安、対人恐怖症、対人恐怖症の心性、対人恐怖症の治療について理解し、シャイネス尺度の結果を整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第5回 人とのかかわり方(テキスト82～89ページ)まず、社会的スキル尺度に答えましょう。つぎに、この章の前文と、社会的スキル、社会的スキル訓練、自己主張のスキルについて理解し、社会的スキル尺度の結果を整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第6回 感情と感情表出(テキスト90～96ページ)はじめに表情チェックをしてみましょう。つぎに、この章の前文と、基礎知識を読んで、感情と感情表出について理解し、表情チェックを整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第7回 心とからだの健康(テキスト97～105ページ)まず、ライフイベント・スケールとストレス性格チェックリストに答えましょう。つぎに、この章の前文と、ストレスの定義、ストレスの種類、ストレスと身体反応、ストレスの特徴、ストレスコーピングの方法について理解し、2つの心理尺度の結果を整理し、解説の設問にしたがって自己理解を深め、ふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第8回 「対人恐怖症」(テキスト106ページ)メンタルヘルスのページの対人恐怖症の説明を読み、また対人恐怖について他の文献でもしらべて理解を深めましょう。【テキスト授業】
- 第9回 わたしのドラマ(テキスト121～126ページ)まず、脚本分析の問いに答えましょう。つぎに、この章の前文と、交流分析の脚本の種類① 破壊的脚本、② 平凡な脚本、③ 成功者の脚本について理解し、脚本分析の結果を整理し、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第10回 わたしの歴史と未来(テキスト127～134ページ)はじめに「私の感情曲線」のグラフに記入しましょう。つぎに、この章の前文と、エリクソンの発達理論、発達課題について理解し、感情曲線の結果の整理のための設問に答えて自分の歴史を見つめる作業をおこない、解説を参考にふりかえりの設問に答えましょう。【テキスト授業】
- 第11回 「摂食障害」(テキスト135ページ)メンタルヘルスのページの摂食障害の説明を読み、また摂食障害について他の文献でも調べて理解を深めましょう。【テキスト授業】
- 第12回 自己表現のワーク⑤【スクーリング授業】
- 第13回 自己表現のワーク⑥【スクーリング授業】
- 第14回 自己表現のワーク⑦【スクーリング授業】
- 第15回 自己表現のワーク⑧【スクーリング授業】

授業以外での学習方法

各回で学んだテーマや専門用語について、図書館等を利用して、より詳しく書かれた心理学書を読むことに挑戦してみましょう。

教科書

新 自分さがしの心理学

著者： 川瀬正裕・松本真理子 著

出版社：（ナカニシヤ出版）

出版年： ISBN：

参考書

「心理学Ⅰ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「心理学Ⅱ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「臨床心理学Ⅰ」教科書

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

「臨床心理学Ⅱ」教科書など

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

レポート60%（第5回・第11回授業後に課す）・自己表現のワークへの参加と提出物40%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学研究法 I (概論) (通信)**

担当者 永野 光朗・田中 芳幸・中川 明仁

テーマ

心理学研究の方法論の概要、および量的データの心理統計学的解析の理解

獲得目標

心理学研究における方法論の概要を学習し、特に実験法、調査法、観察法について学びながらこれらを用いた研究計画の基礎を身につける。また、それぞれの研究法において用いられることの多い心理統計学的解析方法(量的データへの解析方法の適用と解析結果の解釈)についても理解を深める。

授業の内容

[メディア授業／7回＋テキスト授業／8回]

内 容

- 第1回 オリエンテーションと実験法の概略[田中]【メディア授業】
- 第2回 実験計画と研究デザイン[田中] (テキスト53～59ページ)【テキスト授業】
- 第3回 実験結果を歪める要因[田中] (テキスト75～82ページ、91～96ページ)【テキスト授業】
- 第4回 実験法に基づく心理学研究で用いられることが多い心理統計学的解析[田中] (テキスト149～168ページ、194～196ページ)【テキスト授業】
- 第5回 実験法のまとめ[田中]【メディア授業】
- 第6回 調査法の概略[永野]【メディア授業】
- 第7回 調査対象者の選択と研究倫理[永野] (テキスト65～73ページ、97～104ページ)【テキスト授業】
- 第8回 調査結果の整理方法[永野] (テキスト105～148ページ)【テキスト授業】
- 第9回 調査法に基づく心理学研究で用いられることが多い心理統計学的解析[永野] (テキスト169～212ページ)【テキスト授業】
- 第10回 調査法のまとめ[永野]【メディア授業】
- 第11回 観察法の概略[中川]【メディア授業】
- 第12回 観察法における量的データの扱い方[中川]【メディア授業】
- 第13回 観察法等における質的データの扱い方[中川] (テキスト213～224ページ)【テキスト授業】
- 第14回 研究レポートの書き方[中川] (テキスト225～230ページ)【テキスト授業】
- 第15回 心理学研究法 I のまとめ[中川]【メディア授業】

授業以外での学習方法

教科書や参考文献に示すものなど心理学研究法関連図書による自学自習、および、心理学関連の研究論文で実際に用いられている研究方法や統計学的解析方法への考察

教科書

心理学研究法入門

著者： アン・サール 著 宮本 聡介・渡辺 真由美 訳

出版社： (新曜社)

出版年：

ISBN：

参考書

パソコンによるデータ分析

著者： 大西 正和 編著

出版社： (建帛社)

出版年：

ISBN：

心理学マニュアル 要因計画法

著者： 後藤 宗理・中沢 潤・大野木 裕明 著

出版社：（北大路書房）

出版年： ISBN：

心理学マニュアル 質問紙法

著者： 鎌原 雅彦・大野木 裕明・宮下 一博・中沢 潤 著

出版社：（北大路書房）

出版年： ISBN：

心理学マニュアル 観察法

著者： 中沢 潤・南 博文・大野木 裕明 著

出版社：（北大路書房）

出版年： ISBN：

成績評価

試験（40%）

授業中課題（ ）

参加度（ ）

小テスト（60%）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習 I (11月2-3-9日)(通信)**

担当者 坂本 敏郎.上北 朋子.佐藤 鮎美.田中 芳幸.中川 明仁

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

[スクーリング授業／全15回]

内 容

- 第1回 心理学実験演習 I のオリエンテーション 錯視実験の説明
 - 第2回 錯視実験の実施
 - 第3回 錯視実験のまとめとレポート作成の説明
 - 第4回 コミュニケーション実験の説明
 - 第5回 コミュニケーション実験の実施
 - 第6回 コミュニケーション実験のまとめとレポート作成の説明
 - 第7回 記憶実験の説明
 - 第8回 記憶実験の実施
 - 第9回 記憶実験のまとめとレポート作成の説明
 - 第10回 性格検査の説明
 - 第11回 性格検査の実施
 - 第12回 性格検査のまとめとレポート作成の説明
 - 第13回 ストループ実験の説明
 - 第14回 ストループ実験の実施
 - 第15回 ストループ実験のまとめとレポート作成の説明 心理学実験演習 I のまとめ
-

授業以外での学習方法

心理学の実験に関する書物(参考文献)等を読む。

教科書

参考書

実験とテスト＝心理学の基礎：実習編

著者： 心理学実験指導研究 編

出版社：(培風館)

出版年：

ISBN：

実験とテスト＝心理学の基礎：解説編

著者： 心理学実験指導研究 編

出版社：(培風館)

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60%)

参加度 (40%)

授業中課題はレポートを課す 出席40%

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学実験演習 I (1月11-13日)(通信)**

担当者 永野 光朗, 佐藤 鮎美, 田中 芳幸, 前田 洋光, 山崎 真理子

テーマ

心理学の基礎的な実験の習得とレポートの作成

獲得目標

心理学の基本的な実験手法を身につけることを目標とする。実験計画から、実験の実施、データの解析、レポート作成までを行うことにより、科学論文作成への基礎を習得する。

授業の内容

[スクーリング授業／全15回]

内 容

- 第14回 ストループ実験の実施
 - 第15回 ストループ実験のまとめとレポート作成の説明 心理学実験演習 I のまとめ
 - 第1回 心理学実験演習 I のオリエンテーション 錯視実験の説明
 - 第2回 錯視実験の実施
 - 第3回 錯視実験のまとめとレポート作成の説明
 - 第4回 コミュニケーション実験の説明
 - 第5回 コミュニケーション実験の実施
 - 第6回 コミュニケーション実験のまとめとレポート作成の説明
 - 第7回 記憶実験の説明
 - 第8回 記憶実験の実施
 - 第9回 記憶実験のまとめとレポート作成の説明
 - 第10回 性格検査の説明
 - 第11回 性格検査の実施
 - 第12回 性格検査のまとめとレポート作成の説明
 - 第13回 ストループ実験の説明
-

授業以外での学習方法

心理学の実験に関する書物(参考文献)等を読む。

教科書

参考書

実験とテスト＝心理学の基礎：実習編

著者： 心理学実験指導研究 編

出版社：(培風館)

出版年：

ISBN：

実験とテスト＝心理学の基礎：解説編

著者： 心理学実験指導研究 編

出版社：(培風館)

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60%)

参加度 (40%)

授業中課題はレポートを課す 出席40%

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学Ⅱ(通信)**

担当者 永野 光朗

テーマ

「社会的過程」や「社会への応用」をテーマとする心理学

獲得目標

心理学は実証的方法論に基づいて人間の心と行動の仕組みについて客観的・中立的に理解するための「科学」である。この授業では心理学の各分野のなかで、特に「社会的過程」に関するものや「社会への応用」に関連する内容を取り扱う。社会的場面や、産業場面に関連する具体的なテーマを取り上げながら、心理学と社会のつながりについて理解をしたい。また、心理学の各分野で使用される研究法(実験, 調査, 行動観察など)についても実例を通して理解を深めたい。

授業の内容

[メディア授業/全15回] 過去の心理学研究における研究の流れを概観した上で、実証に基づき人間の心と行動の仕組みを理解するという心理学の学問的目標が、人間の社会生活や産業場面においてどのように役立つのかを理解する。また、以上を達成するための心理学的方法論の有用性についても理解をする。

内 容

- 第1回 心理学の目標
- 第2回 心理学と社会生活・職業とのつながり
- 第3回 人間を理解するための視点(1)発達という概念
- 第4回 人間を理解するための視点(2)パーソナリティという概念
- 第5回 人間を理解するための視点(3)パーソナリティの諸理論
- 第6回 人間を理解するための視点(4)知能とは何か?ジェンダーとは何か?
- 第7回 社会を理解するための心理学(1)個人と他者, 社会的相互作用
- 第8回 社会を理解するための心理学(2)対人認知・対人魅力
- 第9回 社会を理解するための心理学(3)対人行動
- 第10回 社会を理解するための心理学(4)集合行動
- 第11回 社会を理解するための心理学(5)社会的認知の仕組み
- 第12回 心理学の応用(1)企業活動への応用(組織行動)
- 第13回 心理学の応用(2)企業活動への応用(消費者行動)
- 第14回 心理学の応用(3)環境配慮行動
- 第15回 心理学の応用(4)交通行動

授業以外での学習方法

社会や企業活動のなかで生じる問題を常に注視した上で、心理学の立場からその問題を解決する方策を立案してほしい。

教科書

心理学概論

著者: 山内弘継・橋本宰 監修

出版社: (ナカニシヤ出版)

出版年:

ISBN:

参考書

心理学・入門 心理学はこんなにももしろい

著者: サトウタツヤ・渡邊芳之 著

出版社: (有斐閣)

出版年:

ISBN:

成績評価

e90201b150

試験 (40%)

小テスト ()

授業中課題 (60%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は第5回、第10回、第15回の後それぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 心理統計学 I (通信)

担当者 前田 洋光・中川 明仁

テーマ

基礎的な統計学の理解

獲得目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。この授業では、統計の初歩を具体的な問題を解きながら概観し、理解を深めていく。授業全体を通して、基礎的な統計に関する概念を理解し、心理統計学Ⅱや心理学データ解析、心理統計学Ⅲで前提となる知識の基盤をつくる。また、統計の必要性について理解を深める。与えられたデータ分析し、結論を導くことができることを目標とする。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 講義によって、基礎的な統計に関する概念の理解を図る。また、電卓を用いて具体的なデータを分析する演習を通して、より一層の深い理解を図る。

内 容

- 第1回 イントロダクション:統計学の必要性について[前田]
- 第2回 尺度水準 (Stevensの4つの尺度水準)[前田]
- 第3回 度数分布[前田]
- 第4回 さまざまな代表値[前田]
- 第5回 散布度(1)[前田]
- 第6回 散布度(2)[前田]
- 第7回 変数変換(標準得点と偏差値)[前田]
- 第8回 共分散とピアソンの相関係数(1)[前田]
- 第9回 共分散とピアソンの相関係数(2)[前田]
- 第10回 順位相関係数[前田]
- 第11回 データ分析演習(1)[中川]
- 第12回 データ分析演習(2)[中川]
- 第13回 データ分析演習(3)[中川]
- 第14回 データ分析演習(4)[中川]
- 第15回 授業全体のまとめ[中川]

授業以外での学習方法

下記参考書をはじめとする統計学関連の書籍の講読

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

本当にわかりやすいすぐく大切なことが書いてあるすぐ初歩の統計の本

著者: 吉田 寿夫 著

出版社: (北大路書房)

出版年:

ISBN:

よくわかる心理統計

著者： 山田 剛史・村井 潤一郎 著

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（50%）

授業中課題（ ）

参加度（ ）

小テストは第6回、第10回の授業後に行う

小テスト（50%）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 臨床心理学Ⅱ(通信)

担当者 中西 龍一・濱田 智崇

テーマ

S.Freudによる心理学的理論(Psychosexual theory)及びE.H.Eriksonによる心理社会的理論(Psychosocial theory)について、その基礎を理解する。

獲得目標

臨床心理学の対象は、乳幼児から老人までその年齢を問わない。本講座では、臨床心理学の基礎的視座とも呼べるS.Freudによる心理学的理論(Psychosexual theory)及びE.H.Eriksonによる心理社会的理論(Psychosocial theory)について講義していく。

授業の内容

[メディア授業／全15回]

内 容

- 第1回 オリエンテーション/精神分析学[中西]
- 第2回 精神分析学 防衛機制[中西]
- 第3回 心理学的理論 口唇期 肛門期[中西]
- 第4回 心理学的理論 幼児性器期 潜在期[中西]
- 第5回 心理学的理論 成熟性器期／まとめ[中西]
- 第6回 ケースから学ぶ精神分析[濱田]
- 第7回 心理学的理論の視点からの自分史[濱田]
- 第8回 心理社会的理論 第一の危機[中西]
- 第9回 心理社会的理論 第二の危機 第三の危機[中西]
- 第10回 心理社会的理論 第四の危機 第五の危機[中西]
- 第11回 心理社会的理論 第六の危機 第七の危機[中西]
- 第12回 心理社会的理論 第八の危機／まとめ[中西]
- 第13回 ケースから学ぶ心理社会的理論[濱田]
- 第14回 心理社会的理論の視点からの自分史[濱田]
- 第15回 心理学的理論 心理社会的理論／まとめ[濱田]

授業以外での学習方法

教科書

受講に必要なテキストはPDFにて配布

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

自我同一性 — アイデンティティとライフ・サイクル

著者: エリク・H・エリクソン 著・小此木啓吾訳編

出版社: (誠信書房)

出版年:

ISBN:

成績評価

e90201b450

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テストは第7回、第15回の授業後に行う

小テスト (100%)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **こころとからだの臨床学Ⅱ(通信)**

担当者 中西 龍一・坂本 敏郎・ジェイムス 朋子・田中 芳幸・永野 光朗・羽下 大信

テーマ

こころとからだ／健康であること／身体観のちがいで文化と時代

獲得目標

こころとからだのあり方を総合的にとらえ、理解する

授業の内容

[メディア授業／12回＋テキスト授業／3回]

内 容

- 第1回 脳の成長と心の発達[羽下] (テキスト第一章-第三章、25～85ページ)【テキスト授業】
- 第2回 ト라우マ;心とからだ[羽下] (テキスト第四章-第六章、87～157ページ)【テキスト授業】
- 第3回 「発達障害」と対人援助の可能性[羽下] (テキスト第七章-終章、159～252ページ)【テキスト授業】
- 第4回 こころの絆の神経内分泌機構[坂本]【メディア授業】
- 第5回 男と女の情動科学[坂本]【メディア授業】
- 第6回 心身のストレスに関する基礎理論[田中]【メディア授業】
- 第7回 ストレスへの対処[田中]【メディア授業】
- 第8回 ストレスと身体(からだ)[中西]【メディア授業】
- 第9回 ゲシュタルト療法と身体[中西]【メディア授業】
- 第10回 こころとからだ[中西]【メディア授業】
- 第11回 精神分析学における性愛性と攻撃性の発達力学[ジェイムス]【メディア授業】
- 第12回 心理療法における受益者と受益性[ジェイムス]【メディア授業】
- 第13回 精神分析的な心理療法事例から学ぶ[ジェイムス]【メディア授業】
- 第14回 社会行動からみた身体① 身体(外見)が対人認知と対人魅力に及ぼす効果[永野]【メディア授業】
- 第15回 社会行動からみた身体② 身体(外見)が対人行動に及ぼす効果[永野]【メディア授業】

授業以外での学習方法

講義の中で紹介された本、ビデオ、DVDなどはできるだけ見てください。

教科書

発達障害のいま(羽下指定)

著者: 杉山登志郎 著

出版社: (講談社)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

各担当教員ごとにレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文学にみる京都(通信)

担当者 林 久美子

テーマ

京都の歴史・文学を学ぶ

獲得目標

千年の古都である京都は、日本文化の源と言ってよい。しかし、学生がその魅力の源泉にふれる機会は少なく、観光企画や宣伝によって脚光を浴びた表面的な知識しか得られないのが一般である。そこで、この科目では、京都をより深く知り、文化の伝統と現代のあり方について考える機会をもつために、京都を舞台にした文学やそれを成立させた歴史的背景を学ぶ。種々の文学作品を通して、例えば葵祭の特質や往古の人々の祭りに対する心情を想像し、六道の辻がなぜ魔界とされているのかを知ることができる。そこから、観光のあり方や伝統の継承といった、現代的な問題意識も育みたい。

授業の内容

[テキスト授業／全15回]

内 容

- 第1回 桓武天皇と秦氏(テキスト10～25・7ページ) 桓武天皇の平安京遷都と、新都造営に協力した秦氏について学ぶ。
- 第2回 小野篁の説話(テキスト26～47ページ) 三大葬送地である鳥辺野、蓮台野、化野。その地に伝わる小野篁の伝説を学ぶ。
- 第3回 清少納言の随筆世界と生活空間(テキスト62～77ページ) 『枕草子』の記述から、清少納言が身を置いた場所、所縁の場所を知る。自分で出かけて、現代の町並みに往時を偲ぶ文学散歩の手引きとする。
- 第4回 『源氏物語』ゆかりの地・洛中編(テキスト78～94ページ) 光源氏が生活し、女性たちを住ませた二条院、六条院、二条東院、さらに夕顔の宿や「なにがしの院」の場所やイメージをたどる。
- 第5回 紫式部と『源氏物語』に関する様々な知見を得る(テキスト95～103ページ) 明石の君と大堰川、『源氏物語』の成立と受容、紫式部の住居と墓などについて学ぶ。
- 第6回 『源氏物語』宇治十帖を歩く(テキスト104～120ページ) 『源氏物語』の最後を飾る十帖は、宇治を主な舞台とする。その必然性と、古蹟についての知識を得る。
- 第7回 『源氏物語』の楽しみ方(テキスト121～129・146～147ページ) 『源氏物語』絵巻、源氏・ミュージアム、明石の君と嵯峨・桂、絵画や工芸品などについての案内を読み、『源氏物語』の文化的価値を知る。
- 第8回 王朝仮名日記の舞台案内(テキスト130～145ページ) 『土佐日記』『蜻蛉日記』などの日記文学に登場する、内裏や貴族たちの邸宅があった場所、作者たちが詣でた寺社の位置を学ぶ。
- 第9回 五条(現・松原)という空間(テキスト148～163ページ) 『源氏物語』「夕顔」の宿があった旧五条(現在の松原通あたり)とはどんな空間であったのかを、他の文芸のイメージも重ねながら想像する。
- 第10回 『方丈記』ゆかりの地―日野の里山(テキスト168～183ページ) 『あだしの』という風景―歌枕「化野」の生成と『徒然草』(テキスト188～206ページ) 鴨長明が大原の後で庵を結んだ日野での暮らしぶりを知る。／吉田兼好が「あだし野」と記した空間はどのように生成された風景であったかを考える。
- 第11回 『平家物語』の京を歩く(テキスト212～228・186～187ページ) 平家の本拠地六波羅・西八条と源氏の拠点六条堀川を中心に、史跡を巡る。
- 第12回 『太平記』ゆかりの寺(テキスト236～254・234～235ページ) 南北朝動乱期に後醍醐天皇が移った笠置寺、その追善のために建てられた天龍寺の案内を読み、『太平記』について学ぶ。
- 第13回 「歌枕」という創造性(テキスト260～277ページ) 「歌枕」という地名の持つ創造性を通して、百人一首という秀歌撰の魅力を再認識する。
- 第14回 伏見の歴史と地名(テキスト284～302ページ) 別荘地であった平安時代から秀吉の築城、幕府の大地への変遷と、観月の地としての「指月」について学ぶ。
- 第15回 京の天神巡り(テキスト48～60ページ) 京の名水・井戸紀行(テキスト164～165・184～185・210ページ)、京都と出版(テキスト166～167・211・280～281ページ) 菅原道真の降誕地、各地にある天満宮などから、天神信仰の厚さを知り、菅原道真が天神として祀られた理由を考える。／京都を語る際に欠かせない、水と出版文化に関する知識を得る。

授業以外での学習方法

テキストを読んだら、興味を持った場所を自分の足で歩いてみてください。また、気になる作品はネットからでも読んでみてください。さらに調べたくなったら、図書館へ足を運んでください。

教科書

京の歴史・文学を歩く

著者： 知恵の会編

出版社：（勉誠出版）

出版年：

ISBN：

参考書

新編日本古典文学全集

著者：

出版社：（小学館）

出版年：

ISBN：

新日本古典文学大系

著者：

出版社：（岩波書店）

出版年：

ISBN：

京都大事典

著者： 佐和隆研

出版社：（淡交社）

出版年：

ISBN：

京都大事典〈府域編〉

著者：

出版社：（淡交社）

出版年：

ISBN：

日本歴史地名大系〈第26巻〉京都府の地名

著者：

出版社：（平凡社）

出版年：

ISBN：

日本歴史地名大系〈第27巻〉京都市の地名

著者：

出版社：（平凡社）

出版年：

ISBN：

角川日本地名大辞典〈26〔1〕〉京都府 上巻 総説・地名編

著者：「角川日本地名大辞典」編纂委員会

出版社：（角川書店）

出版年：

ISBN：

角川日本地名大辞典〈26〔2〕〉京都府 下巻 地誌編・資料編

著者：「角川日本地名大辞典」編纂委員会

出版社：（角川書店）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（60%）

小テスト（40%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

小テストは第7回、第12回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **国際マーケティング論(通信)**

担当者 近藤 文男

テーマ

日本企業のグローバル・マーケティング戦略

獲得目標

国際マーケティング固有の概念であるグローバル・ブランド、移転価格、並行輸入、グローバル・サプライチェーン、輸出マーケティング、マルチドメスティック・マーケティング、グローバル・マーケティングなどについて理解し、説明できる能力を身につけると同時に、その戦略立案能力を養う。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 現代の企業経営は国際競争を抜きには考えることができない。生産が深層レベルの競争力であるとするならば、マーケティングは表層レベルの競争力である。本講義では表層レベルのマーケティング、国際マーケティングに焦点を当てて考える。国際市場は国内市場と異なり、国によって生活習慣や文化の違いが大きく、そのマーケティングは国内マーケティングとは異なった特異な形態をとる。講義では国際マーケティングの基本原則を踏まえ、日本の代表的な企業であるパナソニック、ソニーなどの電機企業を中心に、トヨタ自動車、ユニクロ、花王、KUMONなどの国際マーケティングの特徴を明らかにする。

内 容

- 第11回 トヨタ自動車のグローバル・マーケティング戦略
- 第12回 KUMONのグローバル・マーケティング戦略
- 第13回 ユニクロのグローバル・マーケティング戦略
- 第14回 サムスン電子のグローバル・マーケティング戦略
- 第15回 パナソニックの新興国市場を対象としたグローバル・マーケティング戦略
- 第1回 国際マーケティングとは何か。
- 第2回 国際マーケティングにおける製品戦略
- 第3回 グローバル・ブランドとグローバル広告戦略
- 第4回 国際価格戦略
- 第5回 国際チャネル戦略
- 第6回 三洋電機の輸出マーケティング戦略
- 第7回 パナソニック(旧松下電器)の輸出マーケティング戦略
- 第8回 ソニーの輸出マーケティング戦略
- 第9回 ソニーのマルチナショナル・マーケティング戦略
- 第10回 パナソニックのグローバル・マーケティング戦略

授業以外での学習方法

新聞や雑誌に掲載されているマーケティングや国際マーケティングに関する記事に目を通し、国際マーケティングに関する知識をしっかりと身につけていること。

教科書

日本企業のグローバル・マーケティング

著者： 大石芳裕 編著

出版社：(白桃書房)

出版年：

ISBN：

参考書

日本企業の国際マーケティング

著者： 近藤文男 著

出版社：(有斐閣)

出版年：

ISBN：

グローバル・マーケティング入門

著者： 相原修ほか 著

出版社：（日本経済新聞出版社）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（）

授業中課題（100%）

参加度（）

「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

小テスト（）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護倫理(通信)**

担当者 高田 早苗

テーマ

看護倫理、看護実践、ケアリング、患者の権利

獲得目標

1. 看護倫理の基盤となるケアリングの倫理について、概念的かつ実践的に理解する。2. 医療現場で生じる倫理的な問題について、その背景的要因と関連付けて検討し、解決策を述べる。3. 患者の権利擁護がなぜ必要か、看護師が権利擁護者として役割を担う意義、必要性について、自分の考えを述べる。4. 自身の現場で倫理的問題に気づき、患者の権利や看護師・医療者の責務等の観点から分析し、解決策を提案する。

授業の内容

[テキスト授業／8回＋メディア授業／7回] 看護実践には倫理的側面が不可欠である。本講義では、患者との関わりを重視するケアリングを中心とする看護倫理の基礎的知識を教授する。これを踏まえ、実践において看護師(学生)が遭遇する倫理的問題を含むべきことを教材として、倫理的問題解決の道筋を探るプロセスを学習する。ここで重視するのは、将来患者のアドボケートを務めるための基礎的能力、すなわち、当事者として考え行動する責任感や主体性、現実のさまざまな制約のなかでもあきらめずに解決をめざす粘り強さや知恵を開発することである。

内 容

- 第1回 患者の自律性を尊重する(テキスト第一章 18～38ページ)【テキスト授業】
- 第2回 自律性と危険回避のための干渉(テキスト第二章 39～63ページ)【テキスト授業】
- 第3回 真実を告げる(テキスト第三章 64～85ページ)【テキスト授業】
- 第4回 アドボカシーとインテグリティ(テキスト第四章 86～108ページ)【テキスト授業】
- 第5回 患者の秘密を守る(テキスト第五章 109～130ページ)【テキスト授業】
- 第6回 秘密保持のプロセス(テキスト第六章 131～143ページ)【テキスト授業】
- 第7回 看護と医療のインフォームド・コンセント(テキスト第七章 144～173ページ)【テキスト授業】
- 第8回 研究・調査におけるインフォームド・コンセント(テキスト第八章 174～193ページ)【テキスト授業】
- 第9回 看護倫理とは(1)【メディア授業】
- 第10回 看護倫理とは(2)【メディア授業】
- 第11回 看護倫理とは(3)【メディア授業】
- 第12回 看護倫理とは(4)【メディア授業】
- 第13回 看護倫理とは(5)【メディア授業】
- 第14回 看護倫理とは(6)【メディア授業】
- 第15回 看護倫理とは(7)【メディア授業】

授業以外での学習方法

教科書

看護倫理 1

著者: ドローレス・ドゥーリー、ジョーン・マッカーシー 著

出版社: (みすず書房)

出版年:

ISBN:

参考書

看護倫理 2

著者: ドローレス・ドゥーリー、ジョーン・マッカーシー 著

出版社: (みすず書房)

出版年:

ISBN:

看護倫理 3

著者: ドローレス・ドゥーリー、ジョーン・マッカーシー 著

出版社: (みすず書房)

出版年: ISBN:

ケアリング 看護婦・女性・倫理

著者: ヘルガ・クーゼ 著

出版社: (メディカ出版)

出版年: ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は第15回の後にレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 国際看護学(通信)

担当者 戸塚 規子

テーマ

国際看護の基礎概念と多文化共生社会における看護の役割

獲得目標

1. 国際看護学にかかわる諸概念について理解する 2. 保健医療における国際社会の現状と課題を理解する 3. 国際協力活動のしくみと看護活動の実際を理解する 4. 多文化共生社会における看護活動の考え方を理解する

授業の内容

[メディア授業／全15回] 自立と共存の視点から多文化共生社会をみざる時代になり、看護職者は文化背景の異なる人々への看護のアプローチが求められている。本講義では、国際看護・国際保健の主要概念や理論、国際協力の理念・目標について学び、国際的視野で保健医療にかかわる諸要因と人々の健康について概説する。また、看護職者による国際協力の実績と国内における看護の国際化の現状理解を踏まえ、異文化看護の視点から人々の生活へのより深い理解に立ち、看護の方法や看護師の役割、必要とされる看護実践能力について考察する。

内 容

- 第1回 国際看護概論
- 第2回 国際看護と異文化看護(文化の違いを考慮した看護)
- 第3回 国際社会の現状と課題
- 第4回 自立・共生に向けた国際協力
- 第5回 国際看護活動を必要とする世界の現状
- 第6回 国際協力活動を推進する機関
- 第7回 国際協力活動を推進する看護職
- 第8回 国際看護活動① 海外における看護活動(1)
- 第9回 国際看護活動② 海外における看護活動(2)
- 第10回 国際看護活動③ 日本における外国人と看護活動
- 第11回 国際看護活動④ 技術協力(1)
- 第12回 国際看護活動⑤ 技術協力(2)
- 第13回 国際看護活動⑥ 緊急援助
- 第14回 国際看護活動に必要なとされる能力・手法
- 第15回 異文化理解と国際看護学

授業以外での学習方法

教科書

国際看護学入門

著者: 国際看護研究会 編

出版社: (医学書院)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (60%)

小テスト (40%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストは第7回、第13回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護管理学(通信)**

担当者 戸塚 規子

テーマ

看護管理の基礎概念と患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメント

獲得目標

1. マネジメントおよび看護におけるマネジメントの主要概念を理解する 2. 看護におけるマネジメントに必要な理論的知識体系を理解する 3. 医療施設の看護におけるマネジメントの実際を理解する 4. 患者中心志向の医療における看護職、看護管理者の役割を理解する

授業の内容

[メディア授業／全15回] 本講は、看護管理の基礎的知識および21世紀に期待される患者中心志向の医療における看護サービスのマネジメントについて理解することを意図している。授業内容は、近代看護における看護管理の発想はF.ナイチンゲールの看護の概念・方法論にあることを認識した上で、「看護管理」についての基礎知識を概説する。これらを論拠として、医療施設におけるケアのマネジメントと看護サービスのマネジメントの実際、患者中心志向の医療サービス提供体制や運営にかかわる看護職・看護管理者のあり方を、学習する。

内 容

- 第1回 看護管理学とは何か、なぜ看護管理学を学ぶのか 1. なぜ看護管理学を学ぶのか 2. 看護管理学とは何か 3. 看護管理の2つ視点 4. 医療現場の動向
- 第2回 看護におけるマネジメント1(看護におけるマネジメントとその変遷) 1. 看護の分野に応用される管理の原理 2. 看護におけるマネジメントの変遷
- 第3回 看護におけるマネジメント2(マネジメントが行われる場) 3. マネジメントの考え方の変遷と看護管理への導入 4. 看護のマネジメントが行われる場
- 第4回 ケアのマネジメント(看護職の機能、患者の権利) 1. ケアのマネジメントと看護職の機能 2. 看護基準と看護手順 3. 患者の権利の尊重
- 第5回 看護サービスのマネジメント1(看護管理の定義と看護実践の組織化) 1. 近代看護管理の定義と目的 2. 組織目的達成のマネジメント 3. 看護の組織化
- 第6回 看護サービスのマネジメント2(組織の有効な維持、運営、変革) 4. サービス業としての医療 5. サービスの評価
- 第7回 協働のためのマネジメント1(ヘルスケア専門職との協働) 1. ヘルスケア専門職との協働 2. ヘルスケア専門職との連携
- 第8回 協働のためのマネジメント2(人材の活用と看護職の協働) 1. 人材フローのマネジメント 2. 看護職の協働
- 第9回 看護サービスのマネジメント3(安全管理、リスクマネジメント、情報管理) 1. 安全管理 2. 医療におけるリスクマネジメント 3. 情報の管理と医療情報システムの活用
- 第10回 看護をとりまく諸制度1(看護職と法制度) 1. 看護と看護職の定義 2. 看護職と法制度 3. 看護職の法的責任と職業倫理
- 第11回 看護をとりまく諸制度2(看護実践の領域、医療制度 看護職の教育制度) 1. 看護実践の領域と場 2. 医療制度 3. 看護職の教育制度 4. 看護政策と制度
- 第12回 マネジメントに必要な知識と技術1(組織と個人、組織の調整 研究) 1. 組織と個人 2. 組織の調整
- 第13回 マネジメントに必要な知識と技術2(リーダーシップとマネジメント) 3. リーダーシップとマネジメント
- 第14回 医療サービスと看護職の役割(医療施設における環境と建築設備) 1. 看護の生産性を高めるシステム 2. 病院建築・設計と環境(患者の視点を重視した病院づくり)
- 第15回 医療における看護サービスマネジメントの展望 1. 看護職の役割拡大 2. 看護管理の意味するもの

授業以外での学習方法

教科書

系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践〔1〕看護管理

著者： 上泉和子 著

出版社：(医学書院)

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（60%）

授業中課題（）

参加度（）

小テストは第7回、第12回の授業後に行う

小テスト（40%）

授業中発表等（）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護と死生観(通信)**

担当者 鈴木 要子

テーマ

臨床死生学とはなにか

獲得目標

日本における「死」の実態をふまえ、自分が生きること、ひとの生を支えること、そしてひとの死や自分の死について考察する。文化、宗教、病体験、死別体験などが死生観に及ぼす影響について学び、ケアするうえで直面するであろう生と死にかかわる課題に向き合い考察する。

授業の内容

[テキスト授業/全15回]「ケア従事者のための死生学」清水哲郎・島藺進(編)ヌーベルヒロカワ. の精読を通して、日本の「死」の実態を理解し、臨床死生学を学ぶ。

内 容

- 第1回 死生学とは何か(テキスト1~34ページ) 死生学の歴史、ホスピス運動、キューブラー=ロスの『死ぬ瞬間』、日本の武士道と死生観、「死」とはどうか、について
- 第2回 臨床死生学とは何か(テキスト35~63ページ) 臨床倫理学と死生学、意思決定プロセスとは、ケアが目指す「生」と「死」、スピリチュアルケア、尊厳死について学ぶ
- 第3回 臨床死生学におけるケアするものとケアされるものとの関係について(テキスト64~84ページ) 医療者モデルとは、終末期ケアにおけるケアするものとケアされるものとの関係性
- 第4回 緩和ケアについて(テキスト85~106ページ) 「がん」という病、緩和医療学のはじまり、緩和ケアとQOL
- 第5回 救急医療現場における「他者の死」について・子どもの生と死(テキスト107~133ページ) 「他者の死」がもつ意味
- 第6回 生活習慣病を抱えて生きるということ(テキスト134~144ページ) 透析医療現場の実情、透析患者が直面している生と死
- 第7回 出生前診断と生と死・在宅死と病院死(テキスト145~171ページ)
- 第8回 障害における生と死・ALS-生と死(テキスト173~202ページ) 障害とともに生きるということ、障害とQOL、難病とは、難病とQOL
- 第9回 看取り(テキスト203~226ページ) 緩和ケアと看取り、在宅緩和ケア
- 第10回 現代人の死生観と宗教(テキスト227~256ページ) 仏教・キリスト教・イスラム教における死の意味、スピリチュアリティ
- 第11回 死の意味(テキスト257~283ページ) 生と死の関係、現代における死の諸相、デスエデュケーション、「別れ」としての死、「死者」の存在
- 第12回 死を迎える心理(テキスト285~299、317~334ページ) 死を受けとめる、キューブラー=ロス、成長の最終段階としての「死」
- 第13回 死を受け容れるとは(テキスト300~316、335~348ページ) 死にゆく過程、キューブラー=ロスの考え方への指摘、悲嘆
- 第14回 スピリチュアルケアとは(テキスト349~376ページ) スピリチュアルケアと宗教的ケアの違い、日本的なスピリチュアルケア
- 第15回 生と死をめぐる倫理と法(テキスト377~413ページ) 自律中心主義、自己決定と治療中止、臓器移植、脳死判定

授業以外での学習方法

必要に応じて、その都度お知らせ予定

教科書

ケア従事者のための死生学

著者: 清水哲郎・島藺進 編

出版社: (ヌーヴェルヒロカワ)

出版年:

ISBN:

参考書

新版 死とどう向き合うか

著者: A.Deeken

出版社: (NHK出版)

出版年:

ISBN:

アイデンティティとライフサイクル

著者: E.H.エリクソン(著)西平直他(訳)

出版社: (誠信書房)

出版年:

ISBN:

死ぬ瞬間—死とその過程について

著者: E.K.Ross(著)鈴木晶(訳)

出版社: (中央公論新社)

出版年:

ISBN:

死を前にした人間

著者: P.Aries(著)成瀬駒男(訳)

出版社: (みすず書房)

出版年:

ISBN:

死生観—史的諸相と武士道の立場

著者: 加藤咄堂

出版社: (書肆心水)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50%)

小テスト (50%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストは第7回、第11回の授業後に行う

参考URL

厚生労働統計

http://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/toukei/

日本ホスピス緩和ケア協会

<http://www.hpcj.org/>

日本透析医学会HP—慢性透析患者に関する基礎集計

<http://docs.jsdt.or.jp/overview/index.html>

2013 Syllabus

科目名 **災害看護学(通信)**

担当者 河原 宣子・奥野 信行・小野塚 元子・川口 淳・堀 妙子・松本 賢哉

テーマ

災害看護に関する基本的知識を学び、災害サイクル各期のさまざまな看護の場における看護活動について理解する。

獲得目標

1.災害看護に関する基本的知識と援助技術を理解する。2.ライフサイクル各期の災害看護活動を理解する。3.国内諸地域および国際協力における健康危機管理とその対策、災害看護活動を理解する。

授業の内容

[メディア授業／全15回]

内 容

- 第1回 災害とは[河原]
- 第2回 地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システム①[川口]
- 第3回 地域ケアの体制づくりー災害への備えと減災に向けた地域連携システム②[川口]
- 第4回 災害看護とは[河原]
- 第5回 災害サイクル各期における災害看護活動の実際①[奥野]
- 第6回 災害サイクル各期における災害看護活動の実際②[河原]
- 第7回 災害サイクル各期における災害看護活動の実際③[河原・ゲストスピーカー4名]
- 第8回 災害サイクル各期における災害看護活動の実際④[河原・ゲストスピーカー3名]
- 第9回 災害サイクル各期における災害看護活動の実際⑤[河原・ゲストスピーカー黒田 裕子氏]
- 第10回 ライフサイクル各期における災害看護活動の実際①[堀]
- 第11回 ライフサイクル各期における災害看護活動の実際②[小野塚]
- 第12回 災害看護とメンタルヘルス①[松本]
- 第13回 災害看護とメンタルヘルス②[松本]
- 第14回 災害看護活動における国際協力[河原・ゲストスピーカー中井 隆陽氏]
- 第15回 まとめ[河原]

授業以外での学習方法

教科書

参考書

災害看護学習テキストー概論編ー

著者： 南裕子・山本あい子 編

出版社：（日本看護協会出版会）

出版年：

ISBN：

災害看護学習テキストー実践編ー

著者： 南裕子・山本あい子 編

出版社：（日本看護協会出版会）

出版年：

ISBN：

いのちとこころを救う災害看護

著者： 小原真理子 監修

出版社：（学習研究社）

出版年：

ISBN：

演習で学ぶ災害看護

著者： 小原真理子 監修

出版社：（南山堂）

出版年：

ISBN：

災害現場でのトリアージと応急処置

著者： 山崎達枝 著

出版社：（日本看護協会出版会）

出版年：

ISBN：

新版 災害看護 第2版—人間の生命と生活を守る

著者： 黒田裕子・酒井明子 監修

出版社：（メディカ出版）

出版年：

ISBN：

新体系看護学全書38 看護の統合と実践② 災害看護学

著者： 辺見弘 監修

出版社：（メヂカルフレンド社）

出版年：

ISBN：

災害看護—看護の専門知識を統合して実践につなげる

著者： 酒井明子・菊池志津子 編

出版社：（南江堂）

出版年：

ISBN：

実践！災害看護—看護者はどう対応するのか

著者： 野中廣志 著

出版社：（照林社）

出版年：

ISBN：

ナーシング・グラフィカEX 災害看護

著者： 黒田裕子・酒井明子 編

出版社：（メディカ出版）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

「授業中課題」は第15回の後レポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **家族看護学(通信)**

担当者 鈴木 和子

テーマ

豊かな看護を実現するために、現代社会における家族に対する看護は、どうあるべきかを理解し今後の実践に活かす

獲得目標

家族看護学における家族の捉え方や家族看護の背景となる理論を学修する。さらに、家族看護の目的と家族を単位とした家族看護過程の展開方法を学ぶ。また、育児期、教育期、成人期、老年期など、それぞれの家族の発達段階別の家族看護の課題と援助方法の特徴を学ぶ。

授業の内容

【テキスト授業／13回＋メディア授業／2回】次の点を目標として授業を展開する。1. 家族の健康の概念と家族看護の定義を学ぶ 2. 家族看護アセスメントとそれに基づく家族援助方法を学ぶ 3. 家族の発達段階別の家族看護の特徴について学ぶ 4. 家族看護実践における倫理的配慮と家族看護の可能性について学ぶ

内 容

- 第1回 家族看護とは何か(テキスト4～28ページ)(家族看護学の発展過程、家族看護の定義、家族のセルフケア機能)【メディア授業】
- 第2回 家族と「家族の健康」の概念と定義、家族の形態と機能(テキスト30～44ページ)(家族と「家族の健康」について家族看護での概念の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
- 第3回 わが国の家族(テキスト45～47ページ)(わが国の家族の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
- 第4回 家族を理解する諸理論(テキスト48～64ページ)(家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス対処理論を理解する)【テキスト授業】
- 第5回 家族看護研究の展開(テキスト66～78ページ)(家族看護研究の特徴と展開方法を学ぶ)【テキスト授業】
- 第6回 家族看護アセスメントと診断(テキスト80～134ページ)(家族看護でのアセスメントの特徴を学ぶ)【テキスト授業】
- 第7回 家族援助方法(テキスト135～158ページ)(家族看護での家族援助方法の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
- 第8回 家族看護における看護者の役割と援助姿勢(テキスト160～172ページ)(家族看護における看護者の役割と援助姿勢の特徴について学ぶ)【テキスト授業】
- 第9回 乳児を持つ家族への援助(テキスト176～192ページ)(子どもの誕生・育児が家族に及ぼす影響と育児期の家族への看護の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
- 第10回 救急医療・集中治療の場における家族看護(テキスト194～218ページ)(急性疾患における家族看護の特徴について学ぶ)【テキスト授業】
- 第11回 精神障害者を持つ家族への看護(テキスト220～255ページ)(精神障害者を持つ家族の抱える問題と家族援助の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
- 第12回 高齢者介護に関する家族援助(テキスト258～271ページ)(高齢者介護に関する家族援助の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
- 第13回 終末期患者の家族援助(テキスト274～295ページ)(終末期を迎える患者の家族に対する家族援助の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
- 第14回 入院治療を受ける病児を持つ家族への看護(テキスト298～336ページ)(入院治療を受ける病児を持つ家族への看護の特徴を学ぶ)【テキスト授業】
- 第15回 家族看護の専門性についてのまとめ(家族支援専門看護師の活動と家族看護の今後の発展)【メディア授業】

授業以外での学習方法

教科書の各章に掲載されている文献リストと参考文献を読む

教科書

家族看護学—理論と実践、第4版

著者： 鈴木和子、渡辺裕子

出版社：(日本看護協会出版会)

出版年：

ISBN：

参考書

家族看護選書

著者： 野嶋佐由美、渡辺裕子編

出版社：（日本看護協会出版会）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（40%）

参加度（ ）

「授業中課題」はレポートを課す 小テストは3回行う

小テスト（60%）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 パーソナリティ心理学 I (通信)

担当者 中島 暢美 松下 孝江

テーマ

パーソナリティ心理学の基礎理論を学ぶ

獲得目標

パーソナリティ心理学の諸側面について基礎的知見を習得する。まず、パーソナリティの定義について関連する理論を検討する。次に、パーソナリティの形成要因について議論するためにパーソナリティの発達について詳解する。さらに、パーソナリティの測定方法や病理について概説する。

授業の内容

[テキスト授業/全15回]

内 容

- 第1回 オリエンテーション&イントロダクション ～パーソナリティ心理学で何を学ぶのか～ (テキスト1～7ページ)
- 第2回 パーソナリティの理論(1)はじめに (テキスト7～14ページ)
- 第3回 パーソナリティの理論(2)個人差をどう考えるか (テキスト15～31ページ)
- 第4回 パーソナリティの理論(3)見えないものをどう見るか (テキスト32～44ページ)
- 第5回 パーソナリティの理論(4)人をどのように分けるのか (テキスト68～81ページ)
- 第6回 パーソナリティの形成要因(1)どのような物差しを当てるか (テキスト82～102ページ)
- 第7回 パーソナリティの形成要因(2)知性を測ることはできるのか (テキスト114～140ページ)
- 第8回 パーソナリティの形成要因(3)遺伝と環境はパーソナリティにどのようにかわるのか (テキスト190～214ページ)
- 第9回 パーソナリティの形成要因(4)赤ちゃんに個人差はあるのか (テキスト215～226ページ)
- 第10回 パーソナリティの形成要因(5)あとがき (テキスト227～232ページ)
- 第11回 パーソナリティの測定方法(1)パーソナリティをどうやって測るのか (テキスト45～56ページ)
- 第12回 パーソナリティの測定方法(2)測定できているかどうかをどう判断するのか (テキスト57～67ページ)
- 第13回 パーソナリティの測定方法(3)分けることと測ることは違うのか (テキスト103-113ページ)
- 第14回 パーソナリティの病理(1)あなたは人を分類しているのか(1) (テキスト141～158ページ)
- 第15回 パーソナリティの病理(2)あなたは人を分類しているのか(2) (テキスト159～189ページ)

授業以外での学習方法

教科書

はじめて学ぶパーソナリティ心理学

著者: 小塩真司 著

出版社: (ミネルヴァ書房)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (70%)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (30%)

授業中発表等 ()

小テストは第5回、第10回、第15回の授業後に行う 期末試験は教科書の持ち込みは不可

参考URL

2013 Syllabus

科目名 家族の心理・社会学(通信)

担当者 滝野 功久

テーマ

家族に関わるさまざまな事象についての心理的かつ社会的な探求

獲得目標

今日、家族のあり方が多様になってきていること、多くの家族が抱える問題・課題も複雑になってきていることをできるだけ具体的に理解し、それらについて言葉や図像で説明できるようになる。一方では、自分の家族の歴史に関心を持ち、また他方では、自分の家族とは違った家族のあり様をできるだけ多く具体的に知ることで、家族を通して自らのなかに内化されている世界観・価値観を見直す糸口をつかむ。

授業の内容

[テキスト授業/14回+メディア授業/1回]「授業」という名称にはなっていますが、これは、周りのさまざまな人々の暮らしや・家族の有り様に積極的に関心を持ち、できるだけ具体的な問いをもって取り組むことで、初めて展開できる学びであり、その中身と成果が「内容」ということになります。そうしたことを含めて、下に記載されるスケジュールは、きっちりその通りに順次行われるプログラムではありません。家族問題が実際に扱われる時は、必ず非直線的な展開になりますが、ここでもそれと同じ動きがでて来ると思っています。それを、通信制のなかでは、どのように活かせるか、これが重要な課題と考えています。

内 容

- 第1回 全体のオリエンテーション1 なぜ家族か？ 家族とはなにか？ 家・イエ・家庭・family (『家族を超える社会学』序 i ~ vi ページ、『家族心理学入門』序 i ~ ii ページ)【テキスト授業】
- 第2回 オリエンテーション2 家族を心理学するとは？社会学するとは？ (『家族を超える社会学』第1章1~32ページ、『家族心理学入門』序 i ~ ii ページ)【テキスト授業】
- 第3回 家族をめぐる諸問題と家族のイメージ「家族」の歴史と多様性 (『家族を超える社会学』第2章33~66ページ、『家族心理学入門』序 i ~ ii ページ・第2章25~33ページ)【テキスト授業】
- 第4回 家族心理・社会学の課題と方法 (『家族を超える社会学』第3章67~102ページ、『家族心理学入門』序論1~11ページ)【テキスト授業】
- 第5回 家族の心理的プロセスと家族内コミュニケーション (『家族心理学入門』第1章13~23ページ、第2章25~33ページ)【テキスト授業】
- 第6回 名前と呼び方 名称・氏名 家族の名前 夫婦別姓という問題 (オリジナルテキスト)【テキスト授業】
- 第7回 男と女の関係1 近年の革命的变化と変わらぬこと (『家族心理学入門』第3章35~44ページ、『家族を超える社会学』第3章67~104ページ)【テキスト授業】
- 第8回 男と女の関係2 セクシュアリティとジェンダーに関わること (『家族心理学入門』第8章99~109ページ、『家族を超える社会学』第5章148~174ページ)【テキスト授業】
- 第9回 親子関係の心理と病理 母子密着と児童虐待 (『家族心理学入門』第4章45~56ページ、第10章121~138ページ)【テキスト授業】
- 第10回 兄弟関係と一人っ子の課題 (『家族心理学入門』第5章57~68ページ)【テキスト授業】
- 第11回 男と女の関係3 夫婦関係の変化と課題 (『家族心理学入門』第16章201~214ページ)【テキスト授業】
- 第12回 老いと家族の課題 (『家族心理学入門』第17章215~223ページ、『家族を超える社会学』コラム「高齢者虐待」27~32ページ)【テキスト授業】
- 第13回 家族のなかの喪失と死 (『家族心理学入門』第17章223~226ページ)【テキスト授業】
- 第14回 家族と宗教 (オリジナルテキスト)【テキスト授業】
- 第15回 全体の振り返り【メディア授業】

授業以外での学習方法

自らの家族、特に親について、関心をもって、無理のない程度に調べてみるということは、学習にとっての大きな資源を見つけることになります。

教科書

家族心理学入門(補訂版)

著者： 岡堂哲也 編

出版社：(培風館)

出版年：

ISBN：

家族を超える社会学—新たな生の基盤を求めて

著者： 牟田和恵 編

出版社：（新曜社）

出版年： ISBN：

参考書

文献のみならず映像などを含めたものを、適宜お伝えしたいと考えています。

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

レポートは3回、中間の第1回、第10回（各25%）の後と最終1回（50%）で評価する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理検査法 I (通信)**

担当者 田中 芳幸・青木 剛

テーマ

心理検査法に関する基礎理論の理解、および心理検査施行における基本姿勢の検討

獲得目標

心理検査 (Psychological test) とは、心理査定 (Psychological assessment) を行うための方法の一つであり、「ひと」(client) を「全人的に理解しようとする活動」の一部である。そこで本講義では、(1) 各種心理検査の信頼性と妥当性を含めた特徴、(2) 心理検査の選び方や検査施行時の環境の整え方、(3) 心理検査結果の報告やフィードバックの仕方などを学ぶとともに、(4) 心理検査施行時の検査者の姿勢・態度について考えることも目的とする。

授業の内容

[メディア授業/8回+テキスト授業/7回] 心理専門職が用いることの多い心理検査の基礎を学ぶ。各種心理検査の歴史や特徴に加えて、さまざまな現場での利用方法についても学習する。また、実際に心理検査を体験する。

内 容

- 第1回 心理検査とは－心理検査と心理査定－[田中]【メディア授業】
- 第2回 心理検査開発の歴史的背景[青木]【メディア授業】
- 第3回 心理検査の信頼性と妥当性[青木]【メディア授業】
- 第4回 検査者の基本的姿勢・態度[青木]【メディア授業】
- 第5回 「性格」理解のための諸理論[田中]【メディア授業】
- 第6回 性格検査(1)質問紙法[田中] (テキスト8・109～117ページ/心理検査の体験として61～67ページ) 性格検査を中心に質問紙法による代表的な検査の概要を知る。質問紙法による心理検査の一例を体験し、自己理解を促すとともに被検査者の負担や検査者の姿勢について考える。【テキスト授業】
- 第7回 性格検査(2)投影法[田中] (テキスト8・109～117ページ/心理検査の体験として78～84ページ) 性格検査を中心に投影法による代表的な検査の概要を知る。投影法による心理検査の一例を体験し、自己理解を促すとともに被検査者の負担や検査者の姿勢について考える。【テキスト授業】
- 第8回 性格検査(3)作業検査法[田中] (テキスト8・109～117ページ) 性格検査を中心に作業検査法による代表的な検査の概要を知る。質問紙法・投影法・作業検査法の違いについてあらためて考え整理する。【テキスト授業】
- 第9回 知能検査(1)知能とは[青木]【メディア授業】
- 第10回 知能検査(2)知能検査の種類[青木]【メディア授業】
- 第11回 発達に関する諸検査[田中] (テキスト21～30ページ/心理検査の体験として67～71ページ) 乳幼児に適用される発達検査とともに、発達障害児や心身障害児に用いられることが多い代表的な検査を知る。付随して各種障害の特徴についても学ぶ。【テキスト授業】
- 第12回 行動・社会性に関する諸検査[田中] (テキスト31～44ページ/心理検査の体験として67～78・85～88ページ) 検査の内容としては第12回に該当するが、分量が多いため第11回や14回にも分けて実施することを勧めます) 児童期以降に用いられる行動や社会性に関する諸検査を中心に学ぶ。対人関係や学校・地域との関係性、行動や感情に関する検査を発達段階ごとを知る。【テキスト授業】
- 第13回 心理的な症状に関する諸検査[田中] (テキスト45～56ページ/心理検査の体験として88～95ページ) 様々な心理的症状に関する検査について、医療現場で用いられることが多い検査と教育現場で用いられることが多い検査に整理して把握する。【テキスト授業】
- 第14回 その他の心理検査[田中] (テキスト56～59ページ/心理検査の体験として85～88ページ) ・産業場面と矯正場面で用いられることが多い検査を整理して把握する。【テキスト授業】
- 第15回 授業のまとめ[田中]【メディア授業】

授業以外での学習方法

・心理検査・心理査定・心理測定関連図書の講読・レポートの執筆

教科書

図表で学ぶ心理テスト

著者： 長尾博 著

出版社： (ナカニシヤ出版)

出版年: ISBN:

参考書

心理臨床アセスメント入門ー心の治療のための臨床判断学ー

著者: 赤塚大樹・森谷寛之・豊田洋子・鈴木国文 共著

出版社: (培風館)

出版年: ISBN:

心理測定への招待ー測定からみた心理学入門ー

著者: 市川伸一 著

出版社: (サイエンス社)

出版年: ISBN:

各種心理検査の手引書

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

そのほか、授業中に適宜紹介する

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (60%)

授業中課題 (40%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストは第4回、第10回の授業後に行う「授業中の課題」は第15回の後にレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **English Literacy Ⅲ (通信)**

担当者 久保田 美佳

テーマ

Academic Readingの実践

獲得目標

「ストレス」というテーマに特化したテキストを使って、正しく読み取る練習をします。特に、様々な構文を読み解くことで、将来に繋がる英語力の基礎を固めます。また、同テキスト付属の音源を聞き英語の音やリズムを体得して行きます。

授業の内容

[テキスト授業/14回+メディア授業/1回] 独自で学習できるよう、各ユニットに和訳や練習問題の答えを含んだプリント(コンテンツ)を用意しました。指示に従って効率よく読解とリスニングの練習をして下さい。皆さんの興味を持てる内容だと思いますので、読み物としても楽しんで下さい。

内 容

- 第1回 オリエンテーション Unit 1 What Is Stress? 【メディア授業】
- 第2回 Unit 2 What Causes Stress? 【テキスト授業】
- 第3回 Unit 3 What Is the Stress Response? (Chapter 1~3 Review Test) 【テキスト授業】
- 第4回 Unit 4 How Did We First Learn about the Bad Effects of Stress? 【テキスト授業】
- 第5回 Unit 5 How Are Bodily Systems Affected by Stress? 【テキスト授業】
- 第6回 Unit 6 Unhealthy Stress: How Can We Resist it? 【テキスト授業】
- 第7回 Unit 7 Laugh (Chapter 4~7 Review Test) 【テキスト授業】
- 第8回 Unit 8 Get Rid of Anger 【テキスト授業】
- 第9回 Unit 9 Break the Stress-Sleeplessness Cycle and Live by Lists 【テキスト授業】
- 第10回 Unit 10 Adapt Your Environment 【テキスト授業】
- 第11回 Unit 11 Pen Pent-up Emotions and Frown on Perfection (Chapter 8~11 Review Test) 【テキスト授業】
- 第12回 Unit 12 Take Time Out for Meals 【テキスト授業】
- 第13回 Unit 13 Try Aerobic Exercise to Take a Walk 【テキスト授業】
- 第14回 Unit 14 Learn Good Posture and Be Conscious of Your Jaw 【テキスト授業】
- 第15回 Unit 15 Reaching the True Relaxation (Chapter 12~15 Review Test) 【テキスト授業】

授業以外での学習方法

ダウンロードしたプリントを参考に自力で読む練習を重ねて下さい。また、音源を聞くことを怠らないよう、毎日の生活リズムの中にリスニングの時間を組み込むよう努力して下さい。どうしても時間がないときは、掛け流しだけでも構いません。毎日、聞くことができれば、半年後には必ず違いが感じられるはずです。

教科書

Beating Stress ストレスフリー・ライフを目指す

著者: 田部井世志子、井上径子

出版社: (朝日出版)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト (100%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストは第3回、第7回、第11回、第15回の授業後に行う。4回の小テストで評価を行います。プリントとテキストを通常どおり学習していれば、決して難しいテストではありませんので、積極的に受けるようにして下さい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **情報処理応用演習Ⅱ(11月9・16日・12月7・14日)(通信)**

担当者 松永 順子

テーマ

Wordを使用し、質の高いビジネス文書を効率よく作成する方法を習得する。

獲得目標

Wordを使用し、簡潔で説得力のある質の高いビジネス文書の作成、業務目的に応じた適切な資料作成の技術を習得し、企業実務で通用する実践的な能力を身につける。また、ネットワークを使用した事務処理、情報収集・発信などIT活用のための実践的な知識を習得し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』資格の取得をめざす。

授業の内容

[スクーリング授業／全15回]※通学制と共通開講 現在、最もシェアの高いワープロソフト「Microsoft Word」を使用し、効率よく適切なビジネス文書を作成する方法を習得する。操作方法だけでなく、ビジネス文書の形式や、文書作成の上で必要となる文法や文章表現などもあわせて学習し、総合的な文書作成能力の向上を図る。ハードウェア・ソフトウェア・ネットワークなどIT活用のための基本的な知識も学習し、『日商PC検定試験3級(文書作成)』受験レベルのスキルを身につける。授業は実習形式で、基本的操作の振り返りからスタートし、段階的に操作技術を向上させる。授業日程は、各日1～4講時とし、最終日のみ1～3講時とする。

内 容

- 第1回 オリエンテーション／日商PC検定とは／基本的な文書編集
- 第2回 ビジネス文書の基本・・・種類、作成上の留意点
- 第3回 ビジネス文書(社内文書)・・・特徴、社内連絡文書・報告書・議事録・提案書の書き方
- 第4回 ビジネス文書(社外文書)・・・特徴、社外連絡文書の書き方
- 第5回 知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書の基本 知識科目対策(共通分野)・・・ハードウェア
- 第6回 ビジネス文書のライティング技術(日本語の基本)・・・文法、用字・用語、漢字と平仮名の使い分け、数字の書き方
- 第7回 ビジネス文書のライティング技術(文章表現の基本)・・・わかりやすい文章表現、誤解を招かない文章表現、正しい日本語 知識科目対策(共通分野)・・・ソフトウェア
- 第8回 ビジネス文書のライティング技術・・・文章表現の応用、文章構成、敬語 知識科目対策(共通分野)・・・データベース
- 第9回 電子メールのライティング技術・・・電子メールの基本、文例とポイント 知識科目対策(文書作成分野)・・・ビジネス文書のライティング技術 知識科目対策(共通分野)・・・ネットワーク
- 第10回 知識科目対策(文書作成分野)・・・電子メールのライティング技術 知識科目対策(共通分野)・・・インターネット
- 第11回 ビジネス図解の基本・・・種類と特長、基本パターン、作成方法、グラフの利用
- 第12回 ビジネス文書の管理・・・文書管理の基本、文書のライフサイクルと各プロセスの役割 知識科目対策(共通分野)・・・トラブル対応、ネット社会、法律、コンプライアンス
- 第13回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-1
- 第14回 検定対策/総合演習・・・模擬試験-2
- 第15回 課題

授業以外での学習方法

授業は実習を中心として、継続的に進行していきます。毎回必ず出席してください。やむを得ない理由で欠席した場合は、欠席した授業の範囲を学内/パソコン教室・自宅などで学習しておいてください。

教科書

日商PC検定試験 文書作成 3級 完全マスター Word2010対応

著者: 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社: FOM出版

出版年: ISBN: 9.78489E+12

日商PC検定試験 文書作成 3級 公式テキスト

著者: 富士通エフ・オー・エム(株)

出版社: FOM出版

出版年: ISBN: 4-89311-637-1

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 実験計画法(通信)

担当者 上北 朋子・山崎 真理子

テーマ

実験計画の基礎と実践

獲得目標

この講義では、受講生が実験計画法の基礎を理解し、実際に遂行できるようになることを目標とする。

授業の内容

[テキスト授業/全15回]

内 容

- 第1回 オリエンテーション[上北] (テキスト1～6ページ) 実験計画とはどのようなものか、テキストを読んでイメージをつかもう。専門用語に捉われる必要はありません。
- 第2回 実験計画法の基礎[上北] (テキスト8～17ページ) 研究仮説とはどのようなものか、ノートにまとめよう。独立変数と従属変数、実験群と統制群について理解しよう。重要な用語なので、ノートにまとめて、いつでも振り返ることができるようにしよう。
- 第3回 実験計画法の実際(1)[上北] (テキスト18～21、142～143ページ) p.142～143の実験の具体例を「実験計画」まで読み、この実験の独立変数と従属変数、実験群と統制群はそれぞれ何かをノートにまとめよう。
- 第4回 実験計画法の実際(2)[上北] (テキスト21～23、142～143ページ) 結果の統計的分析において最初に立てられる帰無仮説を理解しよう。p.22の帰無仮説の最初のセンテンスを何度も読み返そう。すっきり憶えてから、読み進めよう。p.142～143の実験の具体例において帰無仮説は何かをノートに書きだそう。
- 第5回 実験計画の立案:1要因(1元配置)[山崎] (テキスト30～38ページ) 基本例題と演習問題を読み、要因と水準の意味(p.31)を理解しよう。ここでは、数式の理解に捉われる必要はありません。
- 第6回 資料収集[山崎] (参考 テキスト30～38、142～143ページ) 自分の興味のある事柄について、1要因の実験計画をたてよう。まず実験の目的を書き、p.143の実験計画の記述を参考に、自分の実験計画をノートに書こう。独立変数と従属変数は何か。どのような水準を設けるかなどを具体的に記すこと。
- 第7回 資料収集[山崎] (参考 テキスト30～38、142～143ページ) 第6回で計画した実験のデータ集計表を作成し(表3-1(p.30)を参照)、各水準に10名分のデータを記入しよう。データは実際に収集が難しければ、仮想のものでよい。
- 第8回 解析[山崎] (テキスト33・34ページ) 第7回で得られたデータに関するグラフを作成しよう。そして、統計検定量を算出しよう。p.33の計算過程をたどりながら、順番に計算をし、分散分析表(表3-3(p.33))を完成させよう。
- 第9回 ディスカッション[山崎] (テキスト32～34ページ) 第8回で作成したグラフから読み取れることを記述しよう。第8回で求めたF値が有意水準より大きいのか、巻末の附表2-B(5%水準)、附表2-C(1%水準)で調べよう。群間の自由度(横)と群内の自由度(縦)の交差した値が有意水準となります。グラフから読み取った結果は統計的に支持されたかどうか検討しよう。
- 第10回 実験計画の立案:2要因[上北] (テキスト54・55ページ) 基本例題1を読み、2つの要因が何であるか、それぞれの水準が何かをノートに記述しよう。そして、主効果と交互作用について理解しよう。
- 第11回 資料収集[上北] (参考 テキスト54・55、146・147ページ) 自分の興味のある事柄について、2要因の実験計画をたてよう。まず実験の目的を書き、p.147の実験計画の記述を参考に、自分の実験計画をノートに書こう。独立変数と従属変数は何か。どのような水準を設けるかなどを具体的に記すこと。
- 第12回 資料収集[上北] (参考 テキスト54・55、146・147ページ) 第11回で計画した実験のデータ集計表を作成し(表5-1(p.54)を参照)、各水準に3名分のデータを記入しよう。データは実際に収集が難しければ、仮想のものでよい。
- 第13回 解析[上北] (参考 テキスト55ページ) 第12回で得られたデータに関するグラフを作成しよう。ここでは、実際の統計検定は省略する。図から読みとれることを記述しよう。
- 第14回 ディスカッション[上北] (テキスト61～70ページ) 第13回で図から読みとった結果が、「もし統計的にも有意である」とみなされた場合、どのような解釈ができるのか、ノートにまとめよう。特に、p.61の交互作用を理解して、記述すること。
- 第15回 まとめ[上北] 教科書にはたくさんの数式が出てきましたが、大切なことは計算をすることではありません。14回の復習として、文章だけを抜き出しながら、全体を読みなおしてみよう。実験計画にどのようなパターンがあるかを知ることが、実際に実験を行う時にとても役立ちます。

授業以外での学習方法

教科書

心理学マニュアル 要因計画法

著者： 後藤 宗理・中沢潤,・大野木裕明 著

出版社：(北大路書房)

出版年：

ISBN：

参考書

よくわかる心理統計

著者： 山田剛史・村井潤一郎 著

出版社：(ミネルヴァ書房)

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は第9回、第14回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **心理学データ解析(12月21-23日)(通信)**

担当者 前田 洋光・佐藤 鮎美

テーマ

SPSSを用いた統計解析の基礎

獲得目標

心理学の研究では、さまざまな方法によって測定されたデータを分析し、結論を導くことが求められる。そのため、研究を実施するにあたり、統計は必須のツールである。本講義では、主として解析ソフト「SPSS」を用いて、得られたデータを解析していく手順について学んでいく。加えて、得られた結果を適切に読み取り、論文やレポートにまとめる力を身につけていく。

授業の内容

[スクーリング授業／全15回] 本講では、心理統計学Ⅱまでで習得した分析手法(t検定、分散分析等)について、統計ソフト「SPSS」を用いたデータ解析手法を学んでいく。単なるソフトの使用のみならず、得られた結果から情報を適切に読み取る力、および、それらを論文やレポートにまとめる力を身につけることに力を置き、次年度以降の専門科目につなげていく。なお、受講者の進捗状況に応じて、内容を一部変更する場合がある。

内 容

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 記述統計:度数分布、平均、標準偏差
- 第3回 相関係数
- 第4回 t検定
- 第5回 一要因の分散分析
- 第6回 二要因被験者間の分散分析
- 第7回 交互作用と多重比較
- 第8回 二要因被験者内の分散分析と混合計画
- 第9回 χ^2 乗検定
- 第10回 データ分析演習(1)
- 第11回 データ分析演習(2)
- 第12回 データ分析演習(3)
- 第13回 データ分析演習(4)
- 第14回 データ分析演習(5)
- 第15回 授業全体のまとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

SPSSのススメ(1)2要因の分散分析をすべてカバー

著者: 竹原 卓真

出版社: (北大路書房)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (80%)

参加度 (20%)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 知覚・認知心理学(通信)

担当者 坂本 敏郎

テーマ

知覚、認知心理学諸理論の理解

獲得目標

ヒトや動物が持つ感覚、知覚の特性を理解する。感覚、知覚情報を動物がどうよう、認知するかという情報処理システムについて理解する。動物による道具の使用、ヒトの言語、推論や意志決定など高次の認知機能について考える。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 授業の目的を達成するよう、テキストに沿って講義を行う。

内 容

- 第1回 知覚の恒常性
 - 第2回 錯視
 - 第3回 色覚と明るさの知覚
 - 第4回 運動視、立体視
 - 第5回 聴覚、嗅覚
 - 第6回 時間と注意の知覚
 - 第7回 顔の知覚
 - 第8回 あかちゃんの知覚
 - 第9回 意識と記憶1 ワーキングメモリー
 - 第10回 意識と記憶2 長期記憶
 - 第11回 言語とコミュニケーション
 - 第12回 思考と問題解決
 - 第13回 美の知覚とデザイン
 - 第14回 メタ認知(自己のこころの認知)
 - 第15回 授業のまとめ
-

授業以外での学習方法

知覚心理学、認知心理学関連図書による自学自習

教科書

知覚心理学

著者: 北岡明佳 編

出版社: (ミネルヴァ書房)

出版年:

ISBN:

参考書

認知心理学

著者: 仲真紀子 編

出版社: (ミネルヴァ書房)

出版年:

ISBN:

成績評価

e90202d950

試験 (40%)

小テスト ()

授業中課題 (60%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は第5回、第10回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 行動分析学(通信)

担当者 上北 朋子

テーマ

こころを理解するための行動分析学:基礎から応用まで

獲得目標

こころを自然科学的にとらえる手法を提示した行動分析学の思想を理解する。そのうえで、この理論が教育、医療、福祉、および子育ての場面でいかに活用されるかを学ぶ。

授業の内容

[テキスト授業/全15回]

内 容

- 第1回 行動分析学とは(テキスト1~22ページ)まず、行動分析学のイメージをつくりましょう。特に、p.10やp.19~21の具体的な事例を読んで、行動分析学がどのような事を扱うのか概観しよう。分からない専門用語にとらわれる必要はありません。
- 第2回 行動心理学が生まれるまで「こころ」と「行動」(テキスト25~33ページ)テキストを読んで、「行動」とは何を指しているか理解しよう。また、日常会話(家族や友人)の中の「行動」をノートに記述しよう。
- 第3回 行動の法則:観察、記述、予測(テキスト52~67ページ)テキストを読んで、どのような事に注意して行動を観察するのかを理解しよう。p.60~61の例に従って、①先週の自分の調子をノートに書こう。②朝、昼、夕、夜に分けて、実際の活動の内容とその時の感情や満足度についてノートに表を作成しよう。①と②はどのくらい一致しているか、振り返ってみよう。
- 第4回 行動と学習(1):理論(テキスト97~101・124~126ページ)レスポナント条件付けとオペラント条件付けの違いについて理解しよう。特に、行動と環境の変化の関係について注目しよう。
- 第5回 行動と学習(2):具体例と応用(テキスト101~104・126~129ページ)レスポナント条件付けについて、p.103の具体例をグラフ(参照:p.98,図表4-1)を用いて記述しよう。もうひとつ日常生活における具体例を自分で考えて同様にグラフを用いて記述しよう。オペラント条件付けについては、p.126の行動に影響を与える4つのパターンについて、それぞれ日常生活の具体例を考えよう。
- 第6回 行動をつくる(テキスト129~137ページ)行動をつくる過程で、教えられる側と教える側でそれぞれどのような変化が起こっているだろうか。テキストの最もシンプルな例、犬にお座り(「すわるという行動」)の学習についてA(状況)B(行動)C(結果)の順にノートにまとめよう。さらに、1次強化子と条件性強化子についても理解しよう。
- 第7回 行動を操作する(テキスト70~75ページ)臨床的介入を行う時、どのような実施デザインがあるのか、ノートにまとめよう。またそのようなデザインを用いることの意義についても考えよう。
- 第8回 消去と回復(テキスト110~111・143~146ページ)レスポナント条件付けとオペラント条件付けにおいて、消去とはどのような現象なのか、また行動を消し去ることは可能か、についてノートにまとめよう。
- 第9回 同じと分かる、違いが分かる(テキスト159~163ページ)般化と弁別概念について理解し、日常生活の例をノートに書きだしてみよう。
- 第10回 模倣(テキスト164~168ページ)模倣による学習とルール支配行動どのようなものか、具体例を含めてノートにまとめよう。
- 第11回 言語行動(テキスト169~183ページ)テキストを読んで、言語のもつ力の新たな側面を発見しよう。p.174,p.175,p.179の太字の箇所を音読して、実際に試してみよう。
- 第12回 応用行動分析(1)(テキスト202~214ページ)テキストのミルザの事例を読んで、まず、自分なりにABCをノートに記述しよう。その後、テキストを読んで足りない部分等を補いましょう。
- 第13回 応用行動分析(2)(テキスト214~222ページ)テキストのレナードの体験を読んで、ABCをノートに記述し、ミルザとレナードの反応の傾向がどのように違うかについて考えよう。
- 第14回 応用行動分析(3)(テキスト232~258ページ)行動を理解しようとする時、セラピストはどのような点に気をつけるのか、テキストを読んで理解したことをノートに書きだそう。
- 第15回 授業のまとめ 行動分析学の基礎と応用についてテキスト学習を行ってきました。これまでの14回の学習をふりかえり、実際の生活(家庭や職場)で生じた問題について行動分析学の視点から分析してみましよう。これまでと異なる捉え方ができるはずですよ!

授業以外での学習方法

教科書

臨床行動分析のABC

著者: ユーナス・ランメロ、ニコラス・トールネケ

出版社: (日本評論社)

出版年: ISBN:

参考書

行動の基礎

著者: 小野浩一

出版社: (倍風館)

出版年: ISBN:

パフォーマンス・マネジメント—問題解決のための行動分析学

著者: 島宗理

出版社: (米田出版)

出版年: ISBN:

成績評価

試験 (50%)

小テスト (50%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

小テストは第5回、第11回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 対人援助論B(通信)

担当者 松下 幸治 松下 孝江

テーマ

心理・福祉・教育・医療等の種々の領域で展開されている「対人援助行為」について広く概観する。

獲得目標

「現場は学問のはるか先をいっている」という著者の実感を理解するとともに、「内面探求型アプローチ」「ネットワーク活用型アプローチ」「システム形成型アプローチ」の違いが理解できる。実際の心理臨床事例に触れることを通して「人のところが楽になる」という臨床的事実が実感できる。ただし、具体事例の中には、俄かに信じがたく、かつ読む者の心すらしばしば辛くさせる可能性のある記述もみられるが、それもまた事実であることを理解する。

授業の内容

[テキスト授業／全15回]

内 容

- 第1回 3種のアプローチについて考えてみよう(テキスト11～44ページ)
- 第2回 「節度ある押しつけがましさ」「健全なあきらめ」「体験様式、つきあい方、悩み方」といったキーワードを理解しよう(テキスト54～58ページ)
- 第3回 田嶋誠一という心理臨床家の人間性を味わってみよう(テキスト64～87ページ)
- 第4回 「密室カウンセリング」の効用と限界について考えてみよう(テキスト88～97ページ)
- 第5回 アセスメント(査定)を幅広く考えてみよう(テキスト98～121ページ)
- 第6回 ネットワークとコミュニティという視点から広く対人援助の在り方を考えよう(テキスト122～134ページ)
- 第7回 勉強すればするほどダメになる？(コラム①)、そこにいられるようになるだけで(コラム②)(テキスト135～141ページ)
- 第8回 田嶋誠一という心理臨床家の人間性を味わってみよう(その2)(テキスト144～156ページ)
- 第9回 強迫パーソナリティとの「つきあい方」の一例(テキスト157～177ページ)
- 第10回 青年期境界例との「つきあい方」(テキスト178～197ページ)
- 第11回 スクールカウンセラーの視点(テキスト198～210ページ)
- 第12回 ひきこもりへの援助の基本的視点(テキスト211～216ページ)
- 第13回 不登校の心理臨床の基本的視点(テキスト217～238ページ)
- 第14回 相談意欲のない不登校・ひきこもりとの「つきあい方」(テキスト239～257ページ)
- 第15回 不登校・ひきこもり生徒への家庭訪問の実際と留意点(テキスト258～279ページ)

授業以外での学習方法

教科書

現実に介入しつつ心に関わる

著者： 田嶋誠一 著

出版社：(金剛出版)

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

e90202e650

授業中課題（100%）

授業中発表等（）

参加度（）

「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワークⅢ(11月2・3日)(通信)**

担当者 羽下 大信・青木 剛・滝野 功久・中西 龍一・濱田 智崇・松下 孝江

テーマ

自分のことを感じることに、それを相手に伝えることがテーマである。

獲得目標

コトやグループに対してどのように関わられるか、「今・ここで」の自発性を発揮できるためには何が必要かを考え、試み実際に動いてみる。他方ではグループの展開と自己内部で動くことに対しての細かな観察と振り返りができるようになるために、言葉と言葉以外の手段で、吟味検討ができる力を育てる。このグループワークは、作業期と位置づけ、集団内での個人の相互作用の様子を観察することを中心に行う。

授業の内容

[テキスト授業/5回+スクーリング授業/10回]

内 容

- 第1回 Tグループについて学んで下さい。(テキスト12～16ページ)「枠」について学んで下さい。(テキスト17～20ページ)【テキスト授業】
- 第2回 体験学習について学んで下さい。(テキスト24～27ページ)組織内研修について学んで下さい。(テキスト28～31ページ)【テキスト授業】
- 第3回 グループの発達について学んで下さい。(テキスト69～74ページ)グループ、組織について学んで下さい。(テキスト75～79ページ)【テキスト授業】
- 第4回 個と集団について考えてみましょう。(テキスト120～123ページ)言葉に少しこだわってみましょう。(テキスト124～130ページ)【テキスト授業】
- 第5回 グループが生まれた土壌であるキリスト教的人間観と学びについて学んで下さい。(テキスト36～39ページ)グループが生まれた土壌であるキリスト教的人間観とTグループについて学んで下さい。(テキスト40～41ページ)外の世界をどの様に見ているか(観察、想像、解釈)について学んで下さい。(テキスト116～119ページ)【テキスト授業】
- 第6回 対人関係トレーニングのためのグループワークG①【スクーリング授業】
- 第7回 対人関係トレーニングのためのグループワークG②【スクーリング授業】
- 第8回 対人関係トレーニングのためのグループワークG③【スクーリング授業】
- 第9回 対人関係トレーニングのためのグループワークH①【スクーリング授業】
- 第10回 対人関係トレーニングのためのグループワークH②【スクーリング授業】
- 第11回 対人関係トレーニングのためのグループワークH③【スクーリング授業】
- 第12回 対人関係トレーニングのためのグループワークI①【スクーリング授業】
- 第13回 対人関係トレーニングのためのグループワークI②【スクーリング授業】
- 第14回 対人関係トレーニングのためのグループワークI③【スクーリング授業】
- 第15回 対人関係トレーニングのためのグループワークまとめ【スクーリング授業】

授業以外での学習方法

教科書

人間関係トレーニング(第2版)

著者: 津村俊充・山口真人 編

出版社: (ナカニシヤ出版)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

「授業中課題」はテキスト授業のレポート1回25%、スクーリング授業のグループワークのふりかえり25%で評価する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **グループワークⅣ(11月30日・12月1日)(通信)**

担当者 羽下 大信・青木 剛・滝野 功久・中西 龍一・濱田 智崇・松下 孝江

テーマ

自分のことを感じることに、それを相手に伝えることがテーマである。

獲得目標

コトやグループに対してどのように関わられるか、「今・ここで」の自発性を発揮できるためには何が必要かを考え、試み実際に動いてみる。他方ではグループの展開と自己内部で動くことに対しての細かな観察と振り返りができるようになるために、言葉と言葉以外の手段で、吟味検討ができる力を育てる。このグループワークは、終結・移行期と位置づけ、援助活動の意義、学んだことを明らかにして、援助後の個人のアフターケアを計画する。

授業の内容

[テキスト授業／5回＋スクーリング授業／10回]

内 容

- 第1回 地域社会における支援活動・ボランティアについて考えてみましょう。(テキスト131～135ページ) グループアプローチから、学校教育における予防的・開発的アプローチについて考えてみましょう。(テキスト136～139ページ)【テキスト授業】
- 第2回 やる気のない参加者につきあうことで、自分の中に見えてくること。(テキスト140～143ページ)「援助」することについて考えてみましょう。(テキスト144～146ページ)【テキスト授業】
- 第3回 体験を語ること(ナラティブ・アプローチ)の重要性について学んで下さい。(テキスト147～151ページ) 自己に問う「自分とは、人間とは、誰か」(テキスト152～154ページ)【テキスト授業】
- 第4回 収容所での体験を綴った著書「夜と霧」で有名なフランクルの「態度価値」と「責任性存在」について学んで下さい。(テキスト155～158ページ)【テキスト授業】
- 第5回 我と汝。対話の中にこそ、気づきが生まれ変化が生じます。(テキスト159～162ページ) 41以降は、実際にグループを実施する際の心得や、覚え書きとなっています。興味のある方は是非お読み下さい。(テキスト162～189ページ)【テキスト授業】
- 第6回 対人関係トレーニングのためのグループワークJ①【スクーリング授業】
- 第7回 対人関係トレーニングのためのグループワークJ②【スクーリング授業】
- 第8回 対人関係トレーニングのためのグループワークJ③【スクーリング授業】
- 第9回 対人関係トレーニングのためのグループワークK①【スクーリング授業】
- 第10回 対人関係トレーニングのためのグループワークK②【スクーリング授業】
- 第11回 対人関係トレーニングのためのグループワークK③【スクーリング授業】
- 第12回 対人関係トレーニングのためのグループワークL①【スクーリング授業】
- 第13回 対人関係トレーニングのためのグループワークL②【スクーリング授業】
- 第14回 対人関係トレーニングのためのグループワークL③【スクーリング授業】
- 第15回 対人関係トレーニングのためのグループワークまとめ【スクーリング授業】

授業以外での学習方法

教科書

人間関係トレーニング(第2版)

著者: 津村俊充・山口真人 編

出版社: (ナカニシヤ出版)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50%)

授業中発表等 ()

参加度 (50%)

「授業中課題」はテキスト授業のレポート1回25%、スクーリング授業のグループワークのふりかえり25%で評価する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **コミュニケーションとアート(通信)**

担当者 羽下 大信 松下 孝江

テーマ

アートとコミュニケーションの関係とその可能性について探求する

獲得目標

アートを使って、コミュニケーションの新たな可能性について学ぶ。

授業の内容

【メディア授業／2回＋テキスト授業／13回】何かを見た時に、「何でこれがアートなの？」という素朴な疑問がわいたところから、既に私たちと「アート作品」との豊かな交流が始まっている。その人の中に生じる連想・気分・身体感覚そのものが「アート」になりうる。これはアメリア・アレナスの考えを基にしたものである。授業ではテキストを読み進めながら、アートとコミュニケーションの関係とその可能性について体験的に深めてゆく。

内 容

- 第1回 コミュニケーション・ツールとしてのアート コミュニケーションに正解はない。アートも。(テキスト「はじめに」5～7ページ、「本書に寄せて」194～195ページも合わせて読んでください)【メディア授業】
- 第2回 アートの神話(テキスト26～39ページ)【テキスト授業】
- 第3回 「開かれた作品」の出現(テキスト40～54ページ)【テキスト授業】
- 第4回 やんちゃな抽象(1)(テキスト55～62ページ)【テキスト授業】
- 第5回 やんちゃな抽象(2)(テキスト62～68ページ)【テキスト授業】
- 第6回 きまじめな抽象(1)(テキスト69～79ページ)【テキスト授業】
- 第7回 開かれた応答、閉じられた応答の練習をしよう。【メディア授業】きまじめな抽象(2)(テキスト79～88ページ)【テキスト授業】
- 第8回 そんなに新しくはないーモダンと伝統(1)(テキスト114～123ページ)【テキスト授業】
- 第9回 そんなに新しくはないーモダンと伝統(2)(テキスト124～134ページ)【テキスト授業】
- 第10回 マリリンからマドンナへーメディアとアート(1)(テキスト135～142ページ)【テキスト授業】
- 第11回 マリリンからマドンナへーメディアとアート(2)(テキスト142～149ページ)【テキスト授業】
- 第12回 「物は語る」(1)(テキスト150～161ページ)【テキスト授業】
- 第13回 「物は語る」(2)(テキスト161～170ページ)【テキスト授業】
- 第14回 内なる私／外なる私(テキスト171～188ページ)【テキスト授業】
- 第15回 コミュニケーション:あなたとあなた、あなたと他者 レポートをまとめる際のヒントを提示します。【メディア授業】終章(テキスト189～193ページ)【テキスト授業】

授業以外での学習方法

教科書

なぜ、これがアートなの？

著者: アメリア・アレナス著

出版社: (淡交社)

出版年:

ISBN:

参考書

みる・かんがえる・はなす

著者: アメリア・アレナス 著・木下哲夫 訳

出版社: (淡交社)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は第4回、第9回、第15回の後にレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会心理学Ⅱ(通信)**

担当者 前田 洋光

テーマ

対人関係、対人行動、集団行動

獲得目標

本講では、社会心理学Ⅰの内容を踏まえた上で、特に対人関係・集団行動を中心に論考していく。理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考えることも目的とする。

授業の内容

[メディア授業／全15回]

内 容

- 第1回 イントロダクション
 - 第2回 援助行動
 - 第3回 攻撃行動
 - 第4回 対人関係の諸相
 - 第5回 恋愛
 - 第6回 対人葛藤、社会的ジレンマ
 - 第7回 ソーシャルサポート
 - 第8回 集団と個人
 - 第9回 集団行動
 - 第10回 集団間関係
 - 第11回 リーダーシップ
 - 第12回 群集行動
 - 第13回 流言・デマ
 - 第14回 流行
 - 第15回 まとめと確認
-

授業以外での学習方法

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

新編社会心理学 改訂版

著者: 堀洋道 監修

出版社: (福村出版)

出版年:

ISBN:

グラフィック 社会心理学

著者: 池上知子・遠藤由美 著

出版社: (サイエンス社)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (50%)

授業中課題 ()

参加度 ()

小テストは第7回、第14回の授業後に行う

小テスト (50%)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 産業心理学Ⅱ(消費者行動論)(通信)

担当者 永野 光朗

テーマ

消費と広告の心理学

獲得目標

心理学研究に基づいて消費者の心理・行動についての客観的理解を深める。このような理解は自身の消費生活の向上に寄与し、同時に企業人としての能力を高めるであろう。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 企業が実施している広告戦略や販売促進活動の実例をあげながら、企業が消費者の心理・行動をどのように理解しているのかを心理学理論をベースにしながらか考察する。

内 容

- 第1回 消費者行動研究の目的と意義
- 第2回 消費者行動とマーケティング
- 第3回 消費者の購買意思決定過程①(EBMモデルの紹介)
- 第4回 消費者の購買意思決定過程②(ブランド選択過程を中心にして)
- 第5回 価格の心理学①(価格の心理的機能)
- 第6回 価格の心理学②(心理的財布理論)
- 第7回 広告の社会心理学①(広告効果モデル・広告の種類)
- 第8回 広告の社会心理学②(タレント・専門家起用広告)
- 第9回 広告の社会心理学③(恐怖喚起広告)
- 第10回 広告の社会心理学④(弱点開示広告・比較広告)
- 第11回 販売場面における説得のテクニック①(foot in the door techniqueなど)
- 第12回 販売場面における説得のテクニック②(Cialdiniの影響力の武器)
- 第13回 店舗内の消費者行動①(店舗内における行動のコントロール)
- 第14回 店舗内の消費者行動②(店舗内における販売促進の方法)
- 第15回 ブランドと消費者行動

授業以外での学習方法

消費者としての自分自身のあり方を振り返り、その心理や行動についての素朴な疑問(なぜ消費者はこんな商品に惹かれるのか?なぜ消費者はこんなときにこんな行動をとってしまうのか?)をつねに持ちながら授業に臨んで欲しい。このような疑問を思いつくりメモ書きしておくこと。

教科書

新・消費者理解のための心理学

著者: 杉本徹雄 編著

出版社: (福村出版)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (40%)

授業中課題 (60%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

「授業中課題」は第5回、第10回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **発達心理学Ⅱ(通信)**

担当者 中村 和夫

テーマ

L.S.Vygotskyの「高次心理機能の文化-歴史的理論」の理解

獲得目標

L.S.Vygotskyの「高次心理機能の文化-歴史的理論」を構成する2つの重要な概念である「最近接発達の領域」と「内言」の概念の理解を通して、Vygotskyの心理学理論の本質的内容について理解すること。

授業の内容

[メディア授業／全15回]

内 容

- 第1回 Vygotskyの略歴とその理論の概要
 - 第2回 Vygotsky理論の三つの柱-その1-
 - 第3回 Vygotsky理論の三つの柱-その2-
 - 第4回 Vygotsky理論の三つの柱-その3-
 - 第5回 最近接発達の領域とは何か
 - 第6回 学校教育における教授の役割
 - 第7回 科学的概念の発達と自覚性・随意性の発達
 - 第8回 複合的思考と概念的思考
 - 第9回 書き言葉の発達
 - 第10回 言葉の様相的側面と意味的側面
 - 第11回 言葉の意義(語義)と「意味」
 - 第12回 内言の意味論の特質
 - 第13回 内言の「意味」の実体としてのイメージ
 - 第14回 イメージの運動と「意味」の作用
 - 第15回 概念的思考と感情のシステムとしての想像の発達
-

授業以外での学習方法

Vygotskyの心理学理論の関連図書による自学自習

教科書

ヴィゴツキー心理学 完全読本-「最近接発達の領域」と「内言」の概念を読み解く-

著者: 中村和夫 著

出版社: (新読書社)

出版年:

ISBN:

参考書

ヴィゴツキーに学ぶ 子どもの想像と人格の発達

著者: 中村和夫 著

出版社: (福村出版)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (100%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

「最近接発達の領域」をめぐる講義内容、「内言の意味論」をめぐる講義内容ごとに小テストを実施し、それらの成績を総合して評価をおこなう。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **教育心理学(通信)**

担当者 中村 和夫・佐藤 鮎美

テーマ

学校教育における子どもの発達と教育との関係の理解

獲得目標

教育心理学についての基礎的知識を理解すること。および子どもの発達にとって学校教育の持つ重要な意味を、学校での基本的教育活動との関係において理解できるようになること。

授業の内容

[メディア授業／全15回]

内 容

- 第1回 教育心理学の基本領域—教育とは何か、発達とは何か—
- 第2回 発達の規定要因
- 第3回 発達と文化・教育との関わり
- 第4回 発達のプロセス—ピアジェの知能の発達段階論—
- 第5回 発達のプロセス—エリクソンの心理・社会的発達段階論—
- 第6回 学習の基礎過程—連合説—
- 第7回 学習の基礎過程—認知説—
- 第8回 教科学習の前提
- 第9回 学習の動機づけ
- 第10回 授業づくり—発見学習の系譜—
- 第11回 授業づくり—有意義受容学習の系譜—
- 第12回 教育評価の目的と方法—集団準拠評価—
- 第13回 教育評価の目的と方法—目標準拠評価—
- 第14回 到達度評価と授業改善
- 第15回 指導要録の実際と問題

授業以外での学習方法

教育心理学関連の参考書の自学自習。

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に適宜紹介する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト (100%)

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

「発達」の領域、「学習」の領域、「教育評価」の領域ごとに小テストを実施し、それらの成績を総合して評価をおこなう。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 臨床知と文化の多様性(1月11-13日)(通信)

担当者 滝野 功久

テーマ

臨床の知(臨床知)は本学の教学理念の三本柱の一つでもあります。しかし、それはどういうことなのでしょうか? さまざまな臨床実践に携わっている人には、これを考えることは極めて意味深いことです。それはそれが越えんとする「近代の科学知」についても、改めて考え直すことです。近代の「科学の知」とは、コトを厳密な客観的対象化によって主体が対象を観察し研究し操作できるという考えです。「臨床の知」はそれを越えて、相互関係の中で、頭脳だけではなく身体も関わって、全体的意味として世界を理解しようとする動きのなかで展開することです。そこにおいて最も重要なことは多様性です。それは世界の多様性だけではなく、自分の中にある多様性を発見することなのです。それが実は臨床の実践のなかでも極めて大切なことであることなのです。それをさまざまな具体的な事象のなかで確認したいと思います。

獲得目標

臨床知と近代科学知の対比についての理解を具体的に説明できる。自分と世界をつくっている多様性を、具体的な事例を通じて発見したり確認したりして、それを言葉ないし図像で説明できるようになる。

授業の内容

[スクーリング授業/全15回] ★全員参加型のワークショップ方式で行うので、参加メンバーの構成とその展開によって、大きく変わるので、スケジュールとして下に挙げたことは、ワークショップのなかで、できるだけ取り上げたいテーマであるが、その順序や密度などはグループの展開によって大きく変わって行くことになります。

内 容

- 第1回 全体のオリエンテーション1 臨床の知と学び方 学ぶとはそもそもなにか? 1 自分の学び方を調べる
- 第2回 全体のオリエンテーション2 臨床の知と学び方 学ぶとはそもそもなにか? 2 自分の学び方の長所と弱点
- 第3回 臨床とはなにか? 1 臨床の知と科学の知とはどう違うか? オリエンテーションの修正と修整と
- 第4回 臨床とはなにか? 2 臨床の知と科学の知とはどう違うか? オリエンテーションの修正と修整と
- 第5回 臨床の知(臨床知)の誕生1:1960年後半 河合隼雄1
- 第6回 臨床の知(臨床知)の誕生2:1970年代から1980年代へ 河合隼雄2 中村雄二郎の関心と河合隼雄
- 第7回 多様性に関わる問題1 障害と個性という問題
- 第8回 多様性に関わる問題2 セクシュアリティ 人間の性 性的欲望
- 第9回 多様性に関わる問題3 セクシュアリティとジェンダー
- 第10回 多様性に関わる問題4 食べ物と食事
- 第11回 多様性に関わる問題5 聖なるもの、宗教における多様性
- 第12回 多様性に関わる問題6 民主主義と政治 あるいはPC問題
- 第13回 日本の単一性神話と今日の問題
- 第14回 日本の単一性神話と今日の課題
- 第15回 全体の振り返り 自分には何が出来るかという可能性があるか?

授業以外での学習方法

教科書

臨床の知とは何か

著者: 中村雄二郎

出版社: (岩波書店)

出版年:

ISBN:

臨床とことば

著者: 河合隼雄・鷲田清一

出版社: (TBSブリタニカ)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (100%)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 死生学(通信)

担当者 松下 幸治 上鹿渡 和宏 滝野 功久

テーマ

「死」との向き合い方を通して今「生きていること」あるいは「生きること」に対する、より深くイメージできること、理解できることについて考える。

獲得目標

すべての人間が平等に経験する「死」を眺め、向き合い、そしてそれについてより豊かに思い巡らせることを通して、「生きる」ないし「生きている」という営みを考える。「生」と「死」という二項対立的発想を越えて、その二項が包含する領域にこそ真に生きた人間関係が存在し、真に生きた宗教性が存在することを共に考え、たましいのありように接近する。

授業の内容

[テキスト授業／全15回]

内 容

- 第1回 「私の死」とは何か～「神話の知」について考えてみよう[松下幸] (『対話する生と死』21～24ページ)
- 第2回 死後の生命～「無」の中の「有」、自分の全存在をかけた知としての死[松下幸] (『対話する生と死』25～32ページ)
- 第3回 静寂と死～人が静寂を感じる時[松下幸] (『対話する生と死』33～45ページ)
- 第4回 西洋的自我と東洋的自我～「いかに死ぬか」に答える文化[松下幸] (『対話する生と死』210～224ページ)
- 第5回 宗教を見直してみる～「死」に対する自然科学的知の限界[松下幸] (『対話する生と死』238～250ページ)
- 第6回 新しい死生観～「生」と「死」の接点を「生きる」[松下幸] (『対話する生と死』282～289ページ)
- 第7回 死生学とはなにか？ 死生学と生命倫理[滝野] (『死生学1』1章2章)
- 第8回 死と直面すること(エリザベス・キューブラー=ロスの貢献と彼女自身の死の直面)[滝野] (『死生学1』8章)
- 第9回 死のイメージ 死とどうつきあうか(日本と西洋の比較1)[滝野] (『死生学1』4章9章10章)
- 第10回 自殺 個人的決断と社会的現象としての自殺 その実態と予防[滝野] (オリジナルテキスト)
- 第11回 生と死のなかの時間[滝野] (『死生学1』6章)
- 第12回 喪の営み 内観法 葬儀・法事 日本人と宗教(日本と西洋の比較2)[滝野] (オリジナルテキスト+『死生学1』10章)
- 第13回 コルチャック先生にとっての死の意味について[上鹿渡] コルチャック先生自身が経験した様々な死、父親の死、母親の死、戦時下のたくさんの死、そして自分自身と孤児院の子どもたちに迫る死から、死についてどのような思いを持っていたか考えてください。以下の箇所特に注意しながらテキストを読んでください。(テキスト22～23、88～90、111～114、134～178、180～193ページ参照)
- 第14回 「子どもが生きること、成長すること」に関するコルチャック先生の考えについて[上鹿渡] 子どもが生きることについて、コルチャック先生はどのようなことが重要だと考えていたのでしょうか。特に以下の箇所に注意してテキストを読んでください。(テキスト100～108、209～210ページ参照)
- 第15回 「子どもの死に対する権利」について[上鹿渡] テキスト104ページに「子どもの死への権利」について書かれてあります。これまでに考えてきたことと以下のページの内容も参考にして、これがどのようなことを意味するか考えてみましょう。(テキスト166～171ページ参照)

授業以外での学習方法

教科書

対話する生と死

著者： 河合隼雄 著

出版社： (大和書房(だいわ文庫))

出版年：

ISBN：

死生学1 死生学とは何か

著者： 島藺進・竹内整一 著

出版社：（東京大学出版会）

出版年：

ISBN：

コルチャック先生

著者： 近藤康子 著

出版社：（岩波書店（岩波ジュニア新書））

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

「授業中課題」は、各教員ごとにレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 情報処理演習Ⅱ(通信)

担当者 吉野 衣美

テーマ

社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していく中で、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本講義では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを学習する。

獲得目標

一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身に付ける。

授業の内容

[メディア授業/全15回] 情報処理演習Ⅰで習得したパソコンスキルを活用して、本講義の目的である一連の情報プロセスを実践的に習得する。

内 容

- 第1回 情報活用力とは 情報収集とは、様々な情報収集方法
- 第2回 情報検索: 検索サイトを利用して、効率的に情報収集を行えるようにする。
- 第3回 情報運用(法律・モラル・セキュリティ): 著作権法など、主にインターネットを利用する際に問題となる法律の概要を理解する。不正アクセスや情報漏洩に関する現状を知り、対処方法について理解を深める。
- 第4回 数値分析Ⅰ: 分析のポイント、数値データ、分析の基本テクニック「比べる」、表計算ソフト、数式・セル参照、関数、論理式と条件分岐
- 第5回 数値分析Ⅱ: 数値データの持つ特性をグラフとして表現する。
- 第6回 データベースⅠ: データベースとは、データベースを体験
- 第7回 データベースⅡ: 定型データと非定型データ、リスト形式、データの並べ替え/抽出、データベース作成実習
- 第8回 ファイル・データ管理: 汎用性・利便性を意識してファイル・データ共有を行う(ファイル容量とメディア、ファイル形式)。
- 第9回 インターネットコミュニケーションⅠ: メール活用(cc/bcc・添付ファイル・マナー・トラブル対処等)や掲示板の特性を理解する。
- 第10回 インターネットコミュニケーションⅡ: コミュニケーションツール(ブログやWebサイトなど)の特性を理解する。
- 第11回 文書表現Ⅰ: ロジカルライティングの基本・論理的な文書構成法を学び、文書を作成する。
- 第12回 文書表現Ⅱ: ひと目で「分かる」、ストレートに「分かる」、正確に「分かる」文書、見た目の大切さ、見やすい文書のポイント、レポート、ビジネス文書、その他の文書
- 第13回 ビジュアル表現: 図表を活用して簡潔に表現する。色彩理論を踏まえて、見やすい資料を作成する。
- 第14回 プレゼンテーションⅠ: プレゼンテーションの基本理論を学び、成功するプレゼンテーションのポイントを知る。
- 第15回 プレゼンテーションⅡ: 良いプレゼンテーション資料、プレゼンテーションソフトの活用、資料作成の流れ、分かりやすい話の流れ、アウトラインのテンプレートを使う、スライドのレイアウトを決める、スライドの内容を作成する、スライド全体の流れをチェックする、視覚に訴える、リハーサルを行う。

授業以外での学習方法

教科書

考える伝える分ちあう 情報活用力(Webツール「NEST」セット)

著者:

出版社: (noa出版)

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (100%)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 倫理学概論(通信)

担当者 安部 彰

テーマ

倫理的な考え方を身につけることを目標とする。

獲得目標

倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。とくに現代社会が直面しているさまざまな問題について自ら考えるための基礎になる考え方を幅広く学ぶこと。

授業の内容

[テキスト授業/全15回] 近代以降の倫理学を中心として、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、とくに現代社会の諸問題について広い視野で考えるための基礎となるような考え方について学ぶ。

内 容

- 第1回 第一章 正しいことをする (テキスト13～55ページ) 「正しいことをする」とはどういうことなのかについて、「福祉・自由・美徳」という三つの価値に関する著者の議論を理解し、これらに対立するような状況が本書の主題であるということを確認する。
- 第2回 第二章 功利主義(1) (テキスト56～96ページ(とくに82ページまで)) 功利主義の始祖ベンサムが発想の意義と強さを踏まえつつ、功利主義に対する反論について自らの直観に照らし合わせつつ考える。
- 第3回 第二章 功利主義(2) (テキスト56～96ページ(とくに83ページから)) ミルのなかにある自由擁護の立場と功利主義的な立場の間の矛盾について、ベンサムの功利主義論も念頭に置きながら学ぶ。
- 第4回 第三章 リバタリアニズム (テキスト97～123ページ) 徹底した権利・自由尊重主義としてのリバタリアニズムの魅力(利点)と問題点について、自らの直観に照らして考える。
- 第5回 第四章 市場と倫理(1) (テキスト124～148ページ) 市場で兵士を雇うことを擁護する立場について、その利点と問題点を考え、とくにそれに反対する議論の論拠に説得力があるかどうか、ある(ない)としてそれはなぜそう考えるのか。
- 第6回 第四章 市場と倫理(2) (テキスト148～166ページ) 代理母の事例を通して市場における取引が「公正」と呼べる条件としての「自由」の範囲と幅について考える。完全に自由があるならば著者の言う「美徳」は売買を禁止する理由になるのかどうか。
- 第7回 第五章 イマヌエル・カント(1) (テキスト167～206ページ) カントの倫理学、とくに自由と義務についての彼独自の説明を理解し、それに対する反論を踏まえてその意義と問題点について考える。
- 第8回 第五章 イマヌエル・カント(2) (テキスト207～223ページ) 具体的な事例に即して、カントの議論の意味を学び、自らの直観と照らし合わせて評価する。
- 第9回 第六章 ジョン・ロールズ(1) (テキスト224～263ページ(とくに246ページまで)) 理想的な契約という発想がなぜ重要なのか、ロールズはそこから二つの原理を導き出せると考えたが、その論証は本当にうまく行っているのかどうかを考える。
- 第10回 第六章 ジョン・ロールズ(2) (テキスト224～263ページ(とくに246ページから)) ロールズの平等についての考え方に對する批判論を踏まえて、どちらの立場に説得力があるか、なぜそう思うのかを考える。
- 第11回 第七章 アフターマティバクシオン (テキスト264～289ページ) 差別是正のための優遇策について、擁護論と反論を通して考える。著者の「共通善」や「美徳」に基づく擁護論についても距離を取って考える。(とくにこの章以降、著者自身の主張が強く展開されていくことに留意されたい)
- 第12回 第八章 正義・アリストテレス (テキスト290～327ページ) ロールズやカントよりもアリストテレスの議論を著者は評価しているが、それはどういう理由からなのかについて、それに説得力があるか否かも念頭に置きつつ考える。
- 第13回 第九章 忠誠のジレンマ (テキスト328～381ページ(とくに346ページまで)) 共同体、国家、家族に対する「忠誠」について、リベラルな議論と著者の立場の違いに注目しつつ、自身の直観に照らし合わせて考える。
- 第14回 第九章 忠誠のジレンマ(2) (テキスト328～381ページ(とくに346ページから)) リベラルな立場に対する批判点について学びつつ、その批判の論拠が妥当かどうかについて考える。
- 第15回 第十章 正義と共通善 (テキスト382～419ページ) 正義に関する三つのアプローチのなかで著者が支持する「共通善」アプローチに対して、もし、さらに反論があるとすれば、どのようなものがありうるか。

授業以外での学習方法

古典的な文献で入手しやすいものはできるだけ読んでいただきたい。参考文献は専門的だが、この主題に関心があれば役立つので図書館等で手に取ってみてほしい。

教科書

これからの「正義」の話をしよう

著者： マイケル・サンデル

出版社：（早川書房）

出版年： ISBN：

参考書

正義

著者： 平井亮輔（編）

出版社：（嵯峨野書院）

出版年： ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

「授業中の課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 宗教学概論(通信)

担当者 橋本 章彦

テーマ

宗教学入門

獲得目標

宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるといった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。

授業の内容

[メディア授業/全15回]総論と各論に分けて論ずる。

内 容

- 第1回 総論Ⅰ 宗教と宗教学—宗教にどのようにアプローチするか—
- 第2回 総論Ⅱ 宗教をどのように定義するか
- 第3回 総論Ⅲ 宗教の構造と機能
- 第4回 総論Ⅳ 個人において宗教はどのように顕れるか—信仰ということ—
- 第5回 総論Ⅴ 宗教現象の諸相—祈るということ—
- 第6回 総論Ⅵ 宗教の人間観と世界観
- 第7回 各論Ⅰ(1) 仏教—釈迦とその後の展開—
- 第8回 各論Ⅰ(2) 仏教—日本仏教—
- 第9回 各論Ⅰ(3) 仏教教義の基礎
- 第10回 各論Ⅱ ユダヤ教とキリスト教
- 第11回 各論Ⅲ イスラーム
- 第12回 各論Ⅳ 道教と儒教
- 第13回 各論Ⅴ 民俗信仰—神道—
- 第14回 各論Ⅵ 新宗教—天理教と大本教など—
- 第15回 まとめ—宗教とどのように向き合うか

授業以外での学習方法

「日本人と宗教」を同時に受講することが望ましい

教科書

特に指定しない

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

宗教学

著者: 岸本英夫 著

出版社: (大明堂)

出版年:

ISBN:

宗教学入門

著者： 棚次正和・山中弘 編著

出版社：（ミネルヴァ書房）

出版年： ISBN：

日本人の一生〈上〉—初心者のための宗教民俗学入門

著者： 吉田清 著

出版社：（清文堂出版）

出版年： ISBN：

日本人の一生〈下〉—初心者のための宗教民俗学入門

著者： 吉田清 著

出版社：（清文堂出版）

出版年： ISBN：

その他は授業内で指示。

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験（50%）

小テスト（50%）

授業中課題（ ）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

小テストは第6回、第14回の授業後に行う

参考URL

2013 Syllabus

科目名 異文化コミュニケーション論(通信)

担当者 安達 太郎

テーマ

異なる文化背景を持つ「他者」とのコミュニケーションを模索する

獲得目標

1)コミュニケーションがどのようなしくみを持つものかを理解する。2)異なる文化背景を持つ「他者」の存在を認め、「他者」を理解するために何が必要かを理解する。

授業の内容

[テキスト授業/全15回] 異文化コミュニケーションとは、文化を異にする者の間に成り立つコミュニケーションを意味する。外国人との接触場面といったことをイメージしやすいが、ここではもっと広い意味での「他者」を積極的に理解しようとするこによって立ち上がる、関係性(つながり)を生み出す行為としてのコミュニケーションについて考えていく。

内 容

- 第1回 導入:異文化コミュニケーションを学ぶことの意義(テキスト2~11ページ)グローバル化が進む現代社会において、文化的背景を異にする他者との接触が持つ意味について理解する。
- 第2回 文化(テキスト12~25ページ)異文化コミュニケーションを考える上での前提として「文化」という概念のさまざまな側面について理解を深める。
- 第3回 コミュニケーション(テキスト26~37ページ)異文化コミュニケーションを考える上での前提として「コミュニケーション」という概念のさまざまな側面について理解を深める。
- 第4回 言語(1)(テキスト38~45ページ)ことばが単なるコミュニケーションツールではないことを確認し、ことばが持つ社会性や階級性について考察する。
- 第5回 言語(2)(テキスト46~51ページ)日本語における「国語」という概念や英語帝国主義の考察を通じて、ことばが国家や文化との関係の中で持つ緊張性について理解する。
- 第6回 言語(3)(テキスト52~65ページ)ことばにおける標準性と非標準性を通して、グローバリゼーションの拡大が言語的規範の画一化につながることの危険性を理解する。
- 第7回 非言語(テキスト66~77ページ)身振りや沈黙など、ことば以外のものが伝える意味の持つ重要性や、体の動きといったものさえ文化的な側面を持つことを理解する。
- 第8回 時間(テキスト78~87ページ)時間認識が文化的背景に支配される側面があることを理解するとともに、制度としての時間について考察する。
- 第9回 空間(テキスト88~97ページ)地域区分やその境界で生じる摩擦など空間認識をめぐる話題を手がかりとして、空間もまた認識や文化の所産であることを理解する。
- 第10回 異文化との接触(1)(テキスト98~105ページ)異文化と接触したときに生じる衝撃(カルチャーショック)や陥りがちな陥穽としてのステレオタイプといったものについて理解を深める。
- 第11回 異文化との接触(2)(テキスト106~119ページ)異文化との接触によってもたらされる「対立」と向き合うには、他者の持つ異質性を認め、それを楽しむことが重要であることを理解する。
- 第12回 異空間としてのメディア(テキスト120~139ページ)インターネットや携帯電話といった新しいメディアがコミュニケーションに与えた影響について考え、現代社会におけるメディアの役割や意味について理解を深める。
- 第13回 メディアと文化(テキスト140~155ページ)メディアが、何かを伝える手段という道具としての側面と同時に、個人や集団の日常意識を作り出す主体としての側面を持っていることを理解する。
- 第14回 文化のポリティクス(テキスト156~175ページ)民族、ナショナリズム、ジェンダーなど、さまざまなレベルにおける他者との接触によって直面する現代的課題について理解を深める。
- 第15回 グローバリゼーションの行方(テキスト176~189ページ)グローバリゼーションの進行が、一方では地域のアイデンティティや画一化に対する逆向きのベクトルを生み出していることを理解し、異文化コミュニケーションの可能性を探る。

授業以外での学習方法

教科書

よくわかる異文化コミュニケーション

著者： 池田理知子編

出版社：(ミネルヴァ書房)

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は第7回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化人類学(通信)

担当者 本林 靖久

テーマ

ブータンと幸福論—宗教文化と儀礼—

獲得目標

国民総幸福(GNH)を国是に掲げ、世界一幸福な国と脚光を浴びるブータン。伝統と近代化、難民問題など、苦悩するブータンの現実と、死をふくむ豊かな宗教文化に光をあて、日本人にとっての「幸福のカチ」を探る。

授業の内容

[テキスト授業/全15回] ブータンの宗教文化と儀礼を中心に、文化人類学の視点から、ブータンという仏教王国に暮らすブータン人の生活様式を提示しつつ、国や国民の「幸福のカチ」を描いていきたい。そのなかで、日本人との比較を通して、ブータンから学ぶことを考察する。

内 容

- 第1回 まえがき(テキスト7~10ページ) 現時点で、あなたにとっての幸福とは何か。日本人にとっての幸福とは何かについて考えてみましょう。
- 第2回 序章 ブータンから学ぶ幸福論 1・2(テキスト11~20ページ) 「全体理解と比較理解」、「異文化理解の心得」をしっかりと読み込んで、文化人類学の視点を学びましょう。
- 第3回 序章 ブータンから学ぶ幸福論 3(テキスト20~27ページ) GNP(国民総生産)とは何かをしっかりと理解しよう。そのうえで、ブータンのGNH(国民総幸福)の理念を確認しましょう。
- 第4回 第1章 私の幸福なる体験—仏教文化の出会い— 1・2・3(テキスト28~49ページ) 経文旗・僧院・ゾン(城)・国立図書館・チョルテン(仏塔)などの施設の宗教的背景と特徴を理解しましょう。
- 第5回 第2章 育まれてきた幸福—民族と歴史— 1・2(テキスト50~63ページ) ブータンが日本と同じ照葉樹林文化であること、なぜブータン人が英語を話せるようになったのかを理解しましょう。
- 第6回 第2章 育まれてきた幸福—民族と歴史— 3(テキスト64~68ページ) ブータンの歴史が仏教と深い関係があることを確認しましょう。また、近代の王政の成立過程を理解しましょう。
- 第7回 第3章 「国家の幸福」と「個人の幸福」—国の政策とGNH— 1・2(テキスト69~74ページ) 「鶴と電気、どっちが大事？」と尋ねられたら、あなたはどちらを選びますか？まず、その答えと理由を考えよう。学習しよう。
- 第8回 第3章 「国家の幸福」と「個人の幸福」—国の政策とGNH— 3(テキスト74~93ページ) ブータンの生活文化の基本となる衣食住と生業、人生儀礼(結婚)について学びましょう。
- 第9回 第4章 「踊る幸福」と「見る幸福」—宗教世界観と祭礼— 1・2(テキスト94~104ページ) 宗教世界観とは何か。そして、六道輪廻や宇宙総覧図などが描かれる背景にどのような意味があるのかを理解しましょう。
- 第10回 第4章 「踊る幸福」と「見る幸福」—宗教世界観と祭礼— 3(テキスト104~133ページ) ツェチュ祭が仏教の儀礼であり、祭りの本質には、同時の世界観と円環の世界観があることを学びましょう。
- 第11回 第5章 死を含む幸福—日本との比較から— 1・2・3(テキスト134~142ページ) ブータン人は生まれ変わり(輪廻)を信じ、葬送儀礼においても墓を造らない仏教世界観を持っていることを理解しましょう。
- 第12回 第5章 死を含む幸福—日本との比較から— 4・5(テキスト146~154ページ) 日本人の死生観(死に対するイメージ)とは、どのようなものかを、ブータン人と比較しつつ、読み込んでみましょう。
- 第13回 終章 ゆらぐ幸福と伝統の創造 1・2(テキスト155~162ページ) ブータンの豊かさの経済的基盤を理解しつつ、テレビの普及による影響を考えてみましょう。
- 第14回 終章 ゆらぐ幸福と伝統の創造 3・4(テキスト163~171ページ) ブータンの国内外に抱える諸問題を理解しつつ、実験国家としてのブータンの未来を考えてみましょう。
- 第15回 あとがき—ブータンから学ぶ「幸福のカチ」—(テキスト185~190ページ) あなたの幸福のカチとは何か。幸福の公式を考えよう。あとがきを読んでみましょう。

授業以外での学習方法

テレビ番組や雑誌などで、ブータンについての特集があれば、できるかぎり目を通しておいください。

教科書

ブータンと幸福論—宗教文化と儀礼—

著者： 本林靖久 著

出版社：（法藏館）

出版年：

ISBN：

参考書

ブータン スタイル—仏教文化の国から—

著者： 本林靖久 著

出版社：（京都書院）

出版年：

ISBN：

現代ブータンを知るための60章

著者： 平山修一 著

出版社：（明石書店）

出版年：

ISBN：

ブータンに魅せられて

著者： 今枝由郎 著

出版社：（岩波書店）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **法学概論Ⅱ(通信)**

担当者 近藤 実千代

テーマ

私法に関する基礎知識の習得

獲得目標

私法全体に共通する基本的な原理・原則、枠組み、法概念を理解する。私生活の様々な場面において、各制度の正確な位置づけを図り、初歩的な応用力を身につける。

授業の内容

[テキスト授業/全15回] テキスト学習を行い、適宜に六法で条文を参照していく。計4回の小テストを実施し、基本的な制度に関する理解度を確認する。

内 容

- 第1回 イントロダクション/私法へのアプローチ(テキスト2~30ページ) 私法の基本原理とその修正について学び、私法の特徴・概略をつかむ。
- 第2回 法律行為①(意思表示)(テキスト32~40ページ) 公序良俗違反による無効について学ぶ。意思表示の瑕疵とは、どのような場合をいうのか、表意者と相手方の利益調整は、どのように図られているのかを理解する。
- 第3回 法律行為②(行為能力)(テキスト40~46ページ) 制限行為能力者の種類と内容について整理する。
- 第4回 代理制度(テキスト50~58ページ) 代理の要件と効果について理解する。無権代理と表見代理の関係について学ぶ。
- 第5回 時効制度(テキスト60~71ページ) 時効制度の意義を知った上で、取得時効と消滅時効の要件を学ぶ。時効の援用や放棄について理解する。
- 第6回 契約①(総論)(テキスト74~85ページ) 契約の成立時点がいつかを知った上で、双務契約における債務関係について理解する。
- 第7回 契約②(債務不履行)(テキスト85~93ページ) 債務不履行の3つの類型について理解する。契約の解除によって生ずる効果を学ぶ。
- 第8回 所有権(テキスト96~106ページ) 物権の種類について概観したのち、所有権移転における登記・引渡しの意味について理解する。
- 第9回 不法行為(テキスト108~120ページ) 加害者と被害者の債権債務関係について学ぶ。不法行為の要件と効果について理解する。
- 第10回 事務管理・不当利得(テキスト122~132ページ) 事務管理とは何か、不当利得とは何かを知る。不当利得の返還について理解する。
- 第11回 債務の弁済(テキスト134~145ページ) 物的担保と人的担保の意味を知る。金銭債務の支払い手段として、手形、小切手、クレジットカードによる弁済方法を学ぶ。
- 第12回 家族法①(親族・夫婦)(テキスト148~163ページ) 親族の範囲を知る。夫婦間の財産制度について理解する。近年の離婚請求の可否について概観する。
- 第13回 家族法②(親子・扶養)(テキスト166~177ページ) 実子、養子、人工生殖子について、親子関係の成立を理解する。親権、扶養の意義を学ぶ。
- 第14回 相続と遺言(テキスト180~191ページ) 法定相続のしくみを概観し、遺言の方式について学ぶ。
- 第15回 民事事件の紛争解決(テキスト208~217ページ) 民事訴訟のしくみについて理解した上で、訴訟以外の手段を概観する。

授業以外での学習方法

私法の法改正や判例に関するニュースについて、論理的に説明できるよう試みる。

教科書

民事法入門 第5版増補版

著者: 野村豊弘 著

出版社: (有斐閣)

出版年:

ISBN:

参考書

2013年版の小型六法

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト (100%)

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **社会学概論Ⅱ(通信)**

担当者 松田 いりあ

テーマ

現代社会の諸課題を社会学の考え方とデータを参照しながら理解する

獲得目標

現代社会の諸問題を受講生自身の日常生活の課題として把握することができるようになること

授業の内容

[テキスト授業/全15回] 社会学概論Ⅱでは、社会学の考え方をいながら現代社会の課題にアプローチする。具体的にはメディア、自己とコミュニケーション、ジェンダー、社会運動など。21世紀の社会を考える方法として社会学的視点の定着をはかる。

内 容

- 第1回 インナートリップとしての社会学(1) (テキスト100～103ページ) 他者との関係から社会的に定義される自己/自我について理解する
- 第2回 インナートリップとしての社会学(2) (テキスト104～107ページ) 他者とのコミュニケーションから形成される自我について考察した社会学者の考えを理解する
- 第3回 メディアと情報化をめぐる社会学(1) (テキスト70～73ページ) メディアの歴史およびメディアが近代社会の形成に果たした役割を理解する
- 第4回 メディアと情報化をめぐる社会学(2) (テキスト76～79ページ) 工業社会に続いてあらわれた情報社会の歴史と現在について理解する
- 第5回 メディアと情報化をめぐる社会学(3) (テキスト82～85ページ) 情報技術のもつ可能性と問題についてインターネットを中心に理解する
- 第6回 ジェンダーとセクシュアリティ(1) (テキスト116～121ページ) ジェンダー概念、ジェンダーの社会化、性別役割分業について理解する
- 第7回 ジェンダーとセクシュアリティ(2) (テキスト124～129ページ) セクシュアリティの概念とその多様性について理解する
- 第8回 レポート1の作成に向けこれまでの内容(テキストの該当ページ)を復習する
- 第9回 社会運動・NPO・ボランティア(1) (テキスト144～149ページ) 現代社会における社会運動の意義について理解する
- 第10回 社会運動・NPO・ボランティア(2) (テキスト150・151、154・155ページ) 現代におけるボランティアやセルフヘルプ・グループの役割について理解する
- 第11回 いろいろな社会学(1) (テキスト162～165ページ) 教育を社会学的な視点から理解する
- 第12回 いろいろな社会学(2) (テキスト170～173ページ) 政治を社会学的な視点から理解する
- 第13回 いろいろな社会学(3) (テキスト186～189ページ) 宗教を社会学的な視点から理解する
- 第14回 いろいろな社会学(4) (テキスト190・191ページ) 医療を社会学的な視点から理解する
- 第15回 レポート2の作成に向けこれまでの内容(テキストの該当ページ)の復習をする

授業以外での学習方法

担当教員の指示する資料(ウェブ上で公開されている各種統計など)を参照してもらうことがある

教科書

よくわかる社会学第2版

著者: 宇都宮京子 編

出版社: (ミネルヴァ書房)

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (100%)

授業中発表等 ()

参加度 ()

「授業中課題」は第8回、第15回の後にそれぞれレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 生活の中の数学(通信)

担当者 小寺 隆幸

テーマ

実生活の様々な問題を数学的にとらえるとより深く理解できることを知り、数学への興味・関心を高め、市民としての数学的リテラシーを育む。

獲得目標

実生活の様々な問題には数量・図形・変化などが関わっている。この授業では、具体的な場面を取り上げ、数学的に物事を見ることでより適切な判断が出来ることを理解していく。それぞれの数学の内容を掘り下げ習熟することが目的ではなく、数理的に見るとはどういうことかを理解し、数学に対する関心を深め、将来必要になった時に数学を自分で学ぼうとする姿勢を育てることが目的である。

授業の内容

[メディア授業／全15回] 算数から微積分まで、小中高の数学の内容を生活との関わりという視点で見直す。さらにカオスなどの新たな数学にもふれる。今まで数学が苦手な人もわかるようにすすめる。

内 容

- 第1回 携帯料金 どれがお得? 一次関数から線型計画法へ
- 第2回 スキー場の数学 斜面の運動から二次関数へ
- 第3回 落下運動 積分の考え
- 第4回 ドライバーの数学 制動距離
- 第5回 ハイキングの数学 三角比 三平方の定理
- 第6回 身近な形を数理的に見る 図形の性質・対称
- 第7回 オウムガイとアワビの数学 相似・指数関数
- 第8回 サラ金から身を守るために 指数・対数
- 第9回 指数から対数へ
- 第10回 放射能に向き合って生きる 対数
- 第11回 リスク社会をどう生きるか 確率・期待値
- 第12回 統計の利用と嘘 代表値・推測統計
- 第13回 成長を考える ロジスティック関数からカオスへ
- 第14回 数理のメガネで見る カオス、リスク確率
- 第15回 環境問題を数学で考える 差分でみる フローとストック

授業以外での学習方法

授業に関連した本を紹介する。興味がある人は読んで深めよう。

教科書

参考書

数学の1, 2, 3

著者: 瀬山士郎 著

出版社: (講談社)

出版年:

ISBN:

検定外高校数学 上

著者: 何森仁・小嶋順 編

出版社: (日本評論社)

出版年:

ISBN:

こんなに役立つ数学入門

著者： 広田照幸・川西琢也 編

出版社：（筑摩書房）

出版年：

ISBN：

なるほどなっとく数学再挑戦

著者： 増島高敬・石井孝子 編著

出版社：（日本評論社）

出版年：

ISBN：

数学は世界を解明できるか

著者： 丹羽敏雄 著

出版社：（中央公論新社）

出版年：

ISBN：

微分積分の意味がわかる

著者： 野崎昭弘ほか 著

出版社：（ベレ出版）

出版年：

ISBN：

統計・確率の意味がわかる

著者： 野崎昭弘ほか 著

出版社：（ベレ出版）

出版年：

ISBN：

数学入門 上・下

著者： 遠山啓 著

出版社：（岩波書店）

出版年：

ISBN：

地球を救え！数学探偵団

著者： 小寺隆幸 著

出版社：（国土社）

出版年：

ISBN：

数学で考える環境問題

著者： 小寺隆幸 著

出版社：（明治図書）

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（100%）

授業中発表等（ ）

参加度（ ）

「授業中課題」は第15回後にレポートを課す

参考URL

2013 Syllabus

科目名 応用言語学研究Ⅱ〈M〉

担当者 安達 太郎

テーマ

文章日本語におけるスタイルの形成

獲得目標

1)文章日本語におけるダ体, デアル体の機能の違いについて理解する。2)近代語から現代語への日本語の変遷について理解する。3)言語資料の分析方法を修得する。

授業の内容

文章日本語におけるダ体の機能とその実態について, 現代と近代の対照分析を行う。Ⅱでは, 明治20年代の言文一致運動においてダ体の可能性を追求した山田美妙の作品集『夏木立』の諸作におけるダ体の実態を明らかにする。

内 容

- 第1回 導入:文章日本語におけるスタイル
- 第2回 言文一致運動と山田美妙の位置づけ
- 第3回 「武蔵野」のスタイル分析 その1
- 第4回 「武蔵野」のスタイル分析 その2
- 第5回 「籠の俘囚」のスタイル分析 その1
- 第6回 「籠の俘囚」のスタイル分析 その2
- 第7回 「玉屋の塵」のスタイル分析 その1
- 第8回 「玉屋の塵」のスタイル分析 その2
- 第9回 「花の茨, 茨の花」のスタイル分析 その1
- 第10回 「花の茨, 茨の花」のスタイル分析 その2
- 第11回 「柿山伏」の小説のスタイル分析 その1
- 第12回 「柿山伏」の小説のスタイル分析 その2
- 第13回 「仇を恩」のスタイル分析 その1
- 第14回 「仇を恩」のスタイル分析 その2
- 第15回 山田美妙『夏木立』におけるダ体

授業以外での学習方法

教科書

参考書

いちご姫・胡蝶 他二篇

著者: 山田美妙

出版社: 岩波書店

出版年: 2011

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (50%)

小テスト ()

授業中発表等 (20%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本文学研究Ⅳ〈M〉

担当者 林 久美子

テーマ

文楽(人形浄瑠璃)入門

獲得目標

歌舞伎と並ぶ上方発祥の世界遺産「文楽」(人形浄瑠璃)について知る

授業の内容

テキストにある演目の中から、みなさんの希望をもとに映像を鑑賞し、解説します。また、文楽の作品や芸の特質について、感想を出し合いながら、理解を深めます。

内 容

- 第1回 文楽についての概説
 - 第2回 浄瑠璃の起源と歴史
 - 第3回 近松門左衛門について
 - 第4回 三大名作①「菅原伝授手習鑑」
 - 第5回 三大名作②「義経千本桜」
 - 第6回 三大名作③「仮名手本忠臣蔵」
 - 第7回 世話物①
 - 第8回 世話物②
 - 第9回 時代物・男の巻
 - 第10回 時代物・女の巻①
 - 第11回 時代物・女の巻②
 - 第12回 鑑賞してみたい作品を選び、内容を学ぶ
 - 第13回 選んだ作品についての感想を話し合う①
 - 第14回 選んだ作品についての感想を話し合う②
 - 第15回 まとめ ※なお、この授業では必要に応じて講演会を実施することがある。
-

授業以外での学習方法

できれば文楽公演を鑑賞し、興味を持った作品を読んでください。

教科書

あらずじで読む文楽名作50

著者： 高木秀樹

出版社： 世界文化社

出版年： 2005

ISBN： 441805215

参考書

あやつられ文楽鑑賞

著者： 三浦しをん

出版社： 双葉社

出版年： 2011

ISBN： 978-4575713831

仏果を得ず

著者： 三浦しをん

出版社： 双葉社

出版年： 2011

ISBN： 4575514446

新編日本古典文学全集『浄瑠璃集

著者： 鳥越文蔵ほか

出版社： 小学館

出版年： 2002

ISBN： 4-09-658077-5

成績評価

試験（0）

小テスト（0）

授業中課題（70）

授業中発表等（0）

参加度（30）

冬休みに自分で選んだ作品を読み、レポートを作成する。

参考URL

日本芸術文化振興会

<http://www2.ntj.jac.go.jp/unesco/bunraku/jp/index>.

財団法人文楽協会

<http://www.bunraku.or.jp/jbunraku/index.html>

2013 Syllabus

科目名 日本文学研究Ⅵ〈M〉

担当者 野村 幸一郎

テーマ

宮沢賢治の文学

獲得目標

代表作品の読解を通じて宮沢賢治の文明観、人間観、宗教観を理解する

授業の内容

講義形式で代表的な賢治童話の読解を行うことになるが、毎回、グループに分かれ与えられたテーマについて討論を行う予定である。児童文学作家、角野栄子氏による特別講義も予定している

内 容

- 第1回 宮沢賢治の生涯と思想
- 第2回 デクノボーの思想—『グスコブドリの伝記』読解
- 第3回 『オツベルと象』読解(1)
- 第4回 『オツベルと象』読解(2)
- 第5回 『オツベルと象』読解(3)
- 第6回 『なめとこ山の熊』読解(1)
- 第7回 『なめとこ山の熊』読解(2)
- 第8回 『なめとこ山の熊』読解(3)
- 第9回 『銀河鉄道の夜』読解(1)
- 第10回 『銀河鉄道の夜』読解(2)
- 第11回 『銀河鉄道の夜』読解(3)
- 第12回 『銀河鉄道の夜』読解(4)
- 第13回 角野栄子氏による特別講義(1)(日程変更の可能性あり)
- 第14回 角野栄子氏による特別講義(2)(日程変更の可能性あり)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

授業で取り扱う作品は必ず読んでくること。課題は必ず提出すること。

教科書

作品で読む宮沢賢治

著者： 宮沢賢治

出版社： 白地社

出版年：

ISBN：

参考書

成績評価

試験 (70)

授業中課題 (15)

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本語学研究Ⅱ〈M〉

担当者 安達 太郎

テーマ

日本語文法概説

獲得目標

日本語教育の現場で教えられている日本語文法について理解を深める。

授業の内容

庵功雄他『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』を読み進める。

内 容

- 第1回 国文法と日本語文法と日本語教育文法
 - 第2回 § 27 「は」と「が」(その1)
 - 第3回 § 27 「は」と「が」(その2)
 - 第4回 § 20 名詞修飾
 - 第5回 § 21 複文と接続詞(1)
 - 第6回 § 22 複文と接続詞(2)
 - 第7回 § 23 複文と接続詞(3)
 - 第8回 § 24 複文と接続詞(4)
 - 第9回 § 25 複文と接続詞(5)
 - 第10回 § 13 話し手の気持ちを表す表現(1)
 - 第11回 § 14 話し手の気持ちを表す表現(2)
 - 第12回 § 15 話し手の気持ちを表す表現(3)
 - 第13回 § 16 話し手の気持ちを表す表現(4)
 - 第14回 § 31 話し手の気持ちを表す表現(5)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

初級を教える人のための日本語文法ハンドブック

著者： 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘

出版社：スリーイーネットワーク

出版年：2000

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト ()

授業中発表等 (40%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 漢字文化論Ⅱ〈M〉

担当者 下野 健児

テーマ

書論選読(二)

獲得目標

代表的な書論の中から、書を考える上で今日においても重要な問題であると考えられる部分を取り上げて講読する。漢文、古文になれるとともに、本文内容を理解することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考える力を養うことが目的となる。講義では、受講者の積極的な質問、発言を期待する。最終講義時に、読解が終わった部分から各自がテーマを選び、その内容についてレポートを提出してもらう。

授業の内容

授業は、毎回、代表的な書論の一節をとりあげ、その内容を考察していく。また、そこで取り上げられた問題を今日の書道の在り方と比較することによって、現代の我々にとって「書とはどういう芸術か」を考えていきたい。

内 容

- 第1回 ガイダンス(「書論とは何か」、参考書・工具書の紹介)
 - 第2回 書論選読1
 - 第3回 書論選読2
 - 第4回 書論選読3
 - 第5回 書論選読4
 - 第6回 書論選読5
 - 第7回 書論選読6
 - 第8回 書論選読7
 - 第9回 書論選読8
 - 第10回 書論選読9
 - 第11回 書論選読10
 - 第12回 書論選読11
 - 第13回 書論選読12
 - 第14回 書論選読13
 - 第15回 後期のまとめ。レポート提出。
-

授業以外での学習方法

書に関する書物(できれば他の芸術に関しても)をできるだけ読んでほしい。また、書道史上の名品を図版などで鑑賞し、博物館、美術館に足を運んで真跡を鑑賞する機会をふやしてほしい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (30)

小テスト (0)

授業中発表等 (0)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法演習Ⅱ〈M〉

担当者 新谷 泰一

テーマ

漢字作品の創作研究

獲得目標

さまざまな古典の学習で得た技術などをもとに、自らの作品を創作する表現力を身につけることをめざす。創作活動を通して創る喜びを感得する。

授業の内容

卒業制作の作品制作。各自の持ち寄った作品の互評を中心に展開する。

内 容

- 第1回 卒業制作の準備、内容決定。
- 第2回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第3回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第4回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第5回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第6回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第7回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第8回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第9回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第10回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第11回 屏風、卷子、帖などでの創作研究
- 第12回 卒業制作の完成。
- 第13回 互評、反省会。
- 第14回 自由制作。
- 第15回 自由制作 まとめ

授業以外での学習方法

授業時間外で十分書き込み、持ち寄る作品の質を高める努力をして授業に臨むこと。

教科書

参考書

各自が取り込む古典の法帖、字書など

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

h101013050

作品、授業での取り組み、出席率などを総合的に判断して評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 書法演習Ⅳ〈M〉

担当者 横山 弘平

テーマ

古典に基づく創作

獲得目標

基礎からの展開。自らの創作力の養成。内容 各自の研究テーマに応じて研究対象古典等を定め、多様な表現技法を修得する。さらにこの研究成果を基に多様な作品制作に向かい、高度な表現能力を身につける。

授業の内容

内 容

- 第1回 主体的作品制作と鑑賞 (1) 配字と構成
- 第2回 主体的作品制作と鑑賞 (2) 配字と構成
- 第3回 主体的作品制作と鑑賞 (3) 配字と構成
- 第4回 主体的作品制作と鑑賞 (4) 運筆のリズムと線質
- 第5回 主体的作品制作と鑑賞 (5) 運筆のリズムと線質
- 第6回 主体的作品制作と鑑賞 (6) 運筆のリズムと線質
- 第7回 主体的作品の習熟 (1) 古筆の再確認
- 第8回 主体的作品の習熟 (2) 変化と統一
- 第9回 主体的作品の習熟 (3) 墨法効果
- 第10回 制作作品の相互研究 <<中間発表>>
- 第11回 作品の完成に向けて (1) 全体構成の研究
- 第12回 作品の完成に向けて (2) 線質の確認と墨法効果
- 第13回 作品の完成に向けて (3) 作品の選別
- 第14回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (1)
- 第15回 いろいろな形式の作品づくり(自作の資料を基にして) (2)

授業以外での学習方法

豊かな表現力を養うためには、日常的な徹底研究が必要で自宅での研究が多くなる。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (70)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 特別研究Ⅱ(歴財M1後)〈Mo〉

担当者 巽 淳一郎

テーマ

修士論文を完成さす。

獲得目標

学会誌に投稿できるような論文を作成させる。

授業の内容

発表と討議。

内 容

- 第1回 研究論文の構成と図表・研究資料図版の体裁についての検討。
 - 第2回 研究史に関する発表。先行研究論文の評価。
 - 第3回 研究史に関する発表。先行研究論文の評価。
 - 第4回 研究史に関する発表。先行研究論文の評価。
 - 第5回 研究史に関する発表。先行研究論文の評価。
 - 第6回 研究史に関する発表。先行研究論文の評価。
 - 第7回 研究資料の論述に関する発表と討議。
 - 第8回 研究資料の論述に関する発表と討議。
 - 第9回 研究資料の論述に関する発表と討議。
 - 第10回 研究資料の分析に関する発表と討議。
 - 第11回 研究資料の分析に関する発表と討議。
 - 第12回 研究資料の分析に関する発表と討議。
 - 第13回 研究資料の分析に関する発表と討議。
 - 第14回 考察における論理展開の検討
 - 第15回 考察における論理展開の検討
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 特別研究IV(歴財M2後) <Mc>

担当者 細川 涼一

テーマ

日本中世史の史料・論文を読む

獲得目標

日本中世史の史料・論文の読解力を身につけ、研究の方法論を深める。日本中世史関係の史料・論文を読み、ともに討論していきたい。

授業の内容

内 容

- 第1回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第2回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第3回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第4回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第5回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第6回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第7回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第8回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第9回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第10回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第11回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第12回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第13回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第14回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
 - 第15回 日本中世史関係の資料・論文を読み、討論
-

授業以外での学習方法

事前の予習を行っておくこと。当日は全員に発言を求める。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (0%)

参加度 (30%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (70%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 特別研究IV(歴財M2後)〈Mo〉

担当者 巽 淳一郎

テーマ

修士論文を完成さす。

獲得目標

学会誌に投稿できるような論文を作成させる。

授業の内容

発表と討議。

内 容

- 第1回 研究論文の構成と図表・研究資料図版の体裁についての検討。
 - 第2回 研究史に関する発表。先行研究論文の評価。
 - 第3回 研究史に関する発表。先行研究論文の評価。
 - 第4回 研究史に関する発表。先行研究論文の評価。
 - 第5回 研究史に関する発表。先行研究論文の評価。
 - 第6回 研究史に関する発表。先行研究論文の評価。
 - 第7回 研究資料の論述に関する発表と討議。
 - 第8回 研究資料の論述に関する発表と討議。
 - 第9回 研究資料の論述に関する発表と討議。
 - 第10回 研究資料の分析に関する発表と討議。
 - 第11回 研究資料の分析に関する発表と討議。
 - 第12回 研究資料の分析に関する発表と討議。
 - 第13回 研究資料の分析に関する発表と討議。
 - 第14回 考察における論理展開の検討
 - 第15回 考察における論理展開の検討
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (30)

参加度 (10)

小テスト (0)

授業中発表等 (60)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本中・近世史研究Ⅱ〈M〉

担当者 藤田 恒春

テーマ

豊臣秀吉とその時代

獲得目標

16世紀後期の日本社会を〈天下人〉豊臣秀吉を通して考えていく

授業の内容

16世紀後期の約30年間は、日本史では中世から近世へと転換する移行期にあたる。この時代、天下一統を果たした豊臣秀吉を宣教師史料などを利用して多角的視野から見ていく

内 容

- 第1回 歴史小説について考える
- 第2回 宣教師たちが見た日本、その1
- 第3回 宣教師たちが見た日本、その2
- 第4回 大坂城、聚楽第、伏見城
- 第5回 後陽成天皇聚楽第行幸
- 第6回 天下一統
- 第7回 朝鮮出兵
- 第8回 夢のまた夢
- 第9回 豊臣政権下の〈京〉
- 第10回 豊臣政権の諸政策、その1
- 第11回 豊臣政権の諸政策、その2
- 第12回 戦後歴史学と豊臣政権の歴史的評価
- 第13回 豊臣秀吉書状に見る秀吉
- 第14回 豊臣秀吉の歴史的評価
- 第15回 前後期のまとめ

授業以外での学習方法

豊臣秀吉を取りあげた歴史小説を絶対に読むこと

教科書

参考書

日本近世の歴史1 天下人の時代

著者： 藤井讓治

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011年

ISBN:

成績評価

試験 (60)

授業中課題 (40)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 日本女性史研究Ⅱ〈M〉

担当者 田端 泰子

テーマ

日本女性のあゆみ～原始から現代まで

獲得目標

日本の女性が歩んできた歴史を、人、時代背景、政治形態などの面から会得する。

授業の内容

日本の歴史上のすべての時代を対象とし、特に中世についてはより詳しく、社会と人とのつながりについて考察する。

内 容

- 第1回 戦国～織豊期の女性①北政所おね
 - 第2回 " ②細川ガラシャ
 - 第3回 " ③淀殿
 - 第4回 " ④利家正室まつ
 - 第5回 おあんが語る戦国時代
 - 第6回 江戸幕府の成立と女性
 - 第7回 春日局の一生とその役割
 - 第8回 江戸時代の農村の女性
 - 第9回 江戸時代の商家の女性
 - 第10回 明治維新とは
 - 第11回 大正デモクラシーと女性
 - 第12回 戦時中の生活変化と女性の役割
 - 第13回 戦後終章と女性
 - 第14回 現代社会の女性の地位
 - 第15回 日本女性のあゆみ
-

授業以外での学習方法

女性史の通史や人物研究に目を通しておくのがよい。

教科書

参考書

日本女性史

著者： 脇田・林・永原編

出版社： 吉川弘文館

出版年： 1987

ISBN：

乳母の力

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2005

ISBN：

日本中世女性史論

著者： 田端泰子著

出版社： 塙書房

出版年： 1994

ISBN：

北政所おね

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2007

ISBN：

細川ガラシャ

著者： 田端泰子著

出版社： ミネルヴァ書房

出版年： 2010

ISBN：

日本中世の村落・女性・社会

著者： 田端泰子著

出版社： 吉川弘文館

出版年： 2011

ISBN：

成績評価

試験 (50)

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 古文書研究Ⅱ〈M〉

担当者 尾下 成敏

テーマ

上級・中級の古文書(2)

獲得目標

古文書の読解能力を高める。

授業の内容

本学所蔵文書の原本、ないしは原本の写真などをテキストに授業を進める。難解なくずし字を読むことがあるので、古文書学BⅠ・BⅡ(いずれも近世)の2科目を履修していることが、受講にさいしての必要条件となる。なお、この授業は、将来大学院進学をめざす学生や、くずし字を学ぶことが好きな学生のために開講されている。また春季休暇中に、自由参加という形で、本学所蔵文書の整理や写真撮影を行うことがある。

内 容

- 第1回 ガイダンス・古文書の解読
 - 第2回 古文書の解読
 - 第3回 古文書の解読
 - 第4回 古文書の解読
 - 第5回 古文書の解読
 - 第6回 古文書の解読
 - 第7回 古文書の解読
 - 第8回 古文書の解読
 - 第9回 古文書の解読
 - 第10回 古文書の解読
 - 第11回 古文書の解読
 - 第12回 古文書の解読
 - 第13回 古文書の解読
 - 第14回 古文書の解読
 - 第15回 本学所蔵文書の熟覧
-

授業以外での学習方法

古文書のくずし字や文体に慣れるためには、予習と復習を行うことが大切である、とくに古文書を声を出しながら何度も読むこと、読めなかった字を何度も書くことは大事であろう。

教科書

受講生のほうで用意する必要はない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

h102012150

欠席や遅刻が多いと、授業についていけなくなり、そのことは成績評価にも結びつく。この点をよく心得て欲しい。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **アジア政治社会史研究Ⅱ〈M〉**

担当者 島居 一康

テーマ

東アジア諸民族の国家形成

獲得目標

中国とその周辺諸民族の国家形成の歴史を概観することによって、現代東アジア世界の構造を理解する。

授業の内容

中国古代における「漢民族」の形成から、「中華民族」による近代国家の建設まで。

内 容

- 第1回 東アジアの諸民族と現代東アジア諸国
 - 第2回 中国文明の起源－長江文明と黄河文明－
 - 第3回 春秋戦国時代の社会と国家
 - 第4回 秦漢帝国と「漢民族」の形成
 - 第5回 大分裂時代の中国と東アジア世界
 - 第6回 隋唐世界帝国とトルコ系民族
 - 第7回 チベット系民族の国家形成
 - 第8回 モンゴル系民族の国家形成
 - 第9回 ツングース系民族の国家形成
 - 第10回 近世東アジアの中華帝国
 - 第11回 東アジア諸国の「近代化」
 - 第12回 「中華民族」と中国の国民国家建設
 - 第13回 中華人民共和国と社会主義建設
 - 第14回 「多民族国家」中国の民族問題
 - 第15回 現代東アジア世界の諸問題
-

授業以外での学習方法

授業で用いる基礎的な学術用語・概念について、概説書・事典等の参考文献を提示して予習を指示することがある。

教科書

参考書

成績評価

試験（60）

授業中課題（）

参加度（40）

小テスト（）

授業中発表等（）

筆記試験に際しては、授業中に配付したレジュメ等諸資料の道込みを許可する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 課題研究Ⅱ(リサーチ・プロジェクト)〈Ma〉

担当者 小森 治夫・今久保 幸生・木下 達文・小暮 宣雄・谷口 知司

テーマ

建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する研究(その4)

獲得目標

履修院生が各自で決定した建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関する修士論文研究テーマにそって原稿を執筆し、論文を完成させる。

授業の内容

内 容

第1回 履修院生が各自で決定した建築・都市環境・地域開発・観光・まちづくり・文化政策等に関するテーマについて調査活動を行い、それらの成果をもとに執筆した修士論文原稿を基に順次発表し、討論を行う。● 博士前期課程1回生と合同で行う。● 隔週の土曜日毎に2コマ分を使い、研究会方式で開催する。

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 (0%)

授業中課題 (30%)

参加度 (40%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 課題研究Ⅲ(リサーチ・プロジェクト) <Ma>

担当者 小森 治夫・今久保 幸生・木下 達文・小暮 宣雄・谷口 知司

テーマ

修士論文作成。論文テーマの研究の到達点を確認し、自己研究の位置を確認する。

獲得目標

前期課程1回生の課題研究Iと合同で開催する。2回生は修士論文の作成経過過程について順次報告し、相互に、そして1回生とともに議論する。課題研究は、大学院博士前期課程科目ではあるが、後期課程院生(および修了生)も参加して博士論文完成に向けた個人研究の発表の場でもある。前期・後期課程の院生の交流の場であり、研究交流の場でもある。多人数の議論による共同研究が発展するように心がける。今回は文化経済学が文化産業論として熟成してきた側面に焦点を当て、文化産業とその生産物が他の分野から区別される特徴、現代産業のなかで担う役割などを考える。池上惇『文化と固有価値の経済学』(岩波書店、2003年)を基礎文献とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 個人研究発表: その1
- 第2回 個人研究発表: その2
- 第3回 個人研究発表: その3
- 第4回 個人研究発表: その4
- 第5回 個人研究発表: その5
- 第6回 個人研究発表: その6
- 第7回 個人研究発表: その7
- 第8回 個人研究発表: その8
- 第9回 個人研究発表: その9
- 第10回 個人研究発表: その10
- 第11回 個人研究発表: その11
- 第12回 個人研究発表: その12
- 第13回 個人研究発表: その13
- 第14回 個人研究発表: その14
- 第15回 個人研究発表: その15

授業以外での学習方法

修士論文の作成に向けて精進されたい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 課題研究Ⅳ(リサーチ・プロジェクト) <Ma>

担当者 小森 治夫・今久保 幸生・木下 達文・小暮 宣雄・谷口 知司

テーマ

修士論文を完成させる

獲得目標

前期課程1回生の課題研究Ⅱと合同で開催する。2回生は修士論文の作成を重視する。総括と展望として、文化経済学の今後の発展と、従来の経済学の枠組みについて及ぼす影響を考える。課題研究は、大学院博士前期課程科目ではあるが、後期課程院生(および修了生)も参加して博士論文完成に向けた個人研究の発表の場でもある。前期・後期課程の院生の交流の場であり、研究交流の場でもある。多人数の議論による共同研究が発展するように心がける。

授業の内容

内 容

- 第1回 個人研究発表: その1
 - 第2回 個人研究発表: その2
 - 第3回 個人研究発表: その3
 - 第4回 個人研究発表: その4
 - 第5回 個人研究発表: その5
 - 第6回 個人研究発表: その6
 - 第7回 個人研究発表: その7
 - 第8回 個人研究発表: その8
 - 第9回 個人研究発表: その9
 - 第10回 個人研究発表: その10
 - 第11回 個人研究発表: その11
 - 第12回 個人研究発表: その12
 - 第13回 個人研究発表: その13
 - 第14回 個人研究発表: その14
 - 第15回 個人研究発表: その15
-

授業以外での学習方法

修士論文の完成に向けて精進されたい。

教科書

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (0)

参加度 (50)

小テスト (0)

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 まちづくり政策Ⅱ〈M〉

担当者 織田 直文

テーマ

住まい手にとって安全、快適で文化的な住宅づくりを学ぼう。

獲得目標

住宅を生活と環境の側面からとらえ、既往の建築計画学の成果である寸法計画、規模や形態に関する計画、地域計画などの知見も取り入れながら、住宅の設計の基本と応用を学ぶ。具体的な住宅作品を解説・評価し、住まい手について安全で快適、かつ健康的で文化的な住宅とはどのようなものかを考察する。また、設計や管理計画に関する知見についても学び、将来の実務に役立つ知識を修得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 住宅の定義および生活と住環境
- 第2回 住宅計画学の体系と計画のプロセス
- 第3回 住空間の形態と設計
- 第4回 住宅の見学
- 第5回 人間の寸法と設計の方法
- 第6回 平面計画の方法と設計図の描き方
- 第7回 バリアフリーとユニバーサルデザイン
- 第8回 福祉住宅のデザイン
- 第9回 住宅プラン事例研究
- 第10回 詳細設計緒元の学習
- 第11回 設計課題出題とエスキス作成①
- 第12回 課題エスキス作成②
- 第13回 設計図作成①
- 第14回 設計図作成②
- 第15回 設計図の提出と講評

授業以外での学習方法

教科書

住宅のデザインと製図

著者： 三川 榮吉

出版社： 彰国社

出版年： 1998

ISBN:

参考書

成績評価

試験 (0)

授業中課題 (40)

参加度 (40)

小テスト (10)

授業中発表等 (10)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 観光文化振興策Ⅱ〈M〉

担当者 谷口 知司

テーマ

海外観光地理ならびに観光資源の空間配置について

獲得目標

海外観光地理についての包括的理解と、観光対象としての文化所産の空間配置についての知識を獲得することを目的とする(講演会予定)。

授業の内容

内 容

- 第1回 観光と地理①
 - 第2回 世界の観光都市①(概説)
 - 第3回 世界の観光都市②(フランス)
 - 第4回 世界の観光都市③(フランス)
 - 第5回 世界の観光都市④(フランス)
 - 第6回 世界の観光都市⑤(イギリス)
 - 第7回 世界の観光都市⑥(イギリス)
 - 第8回 世界の観光都市⑦(イギリス)
 - 第9回 世界の観光都市⑧(講演会)
 - 第10回 世界の観光都市⑨(発表)
 - 第11回 世界の観光都市⑩(発表)
 - 第12回 世界の観光都市⑪(発表)
 - 第13回 世界の観光都市⑫(発表)
 - 第14回 世界の観光都市⑬(発表)
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

グループによる発表が必須であるため授業時間外で調査、研究ならびに発表用資料の作成を行う必要がある。

教科書

参考書

成績評価

試験 (10%)

授業中課題 (30%)

参加度 (30%)

小テスト (0%)

授業中発表等 (30%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **アーツ・マネジメントⅡ <M>**

担当者 小暮 宣雄

テーマ

さまざまな芸術(アーツ)を鑑賞し、言葉化する。

獲得目標

アーツのジャンルを知り、触れたことのないアーツへの接近に勇気を持つ。実際にいくらかはアーツにじかに(ライブで)触れる。触れたアーツを言葉にする練習を続ける。

授業の内容

美術工芸デザイン、映画、演劇ダンス、音楽、伝統芸能などアーツは多岐にわたるので、少し受講者の興味によって重点化していくことにする。土曜日に2～3回は学外に出る。

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 鑑賞とは何か・・・音楽を例にして
- 第3回 アーツのジャンル、その創造と鑑賞の関係
- 第4回 美術工芸デザインにおけるそれぞれの特徴、その鑑賞とは
- 第5回 美術館と画廊における展示の実際を知ろう
- 第6回 映画の誕生から今日までの駆け足映画史
- 第7回 映画を鑑賞するコツを知る－映画の中でその演出と役者をクローズアップして考える
- 第8回 演劇のざっとした歴史
- 第9回 劇作家とは、演出家とは
- 第10回 演劇鑑賞・・・学外授業の予定:ここでは一応演劇を想定しているが、受講者および実際の公演の予定を見て適宜ふさわしい実演芸術を決める
- 第11回 アフタートーク・・・学外授業の予定
- 第12回 ダンスをざっと知る+伝統芸能の入門の入門
- 第13回 音楽、ライブとしてのコンサート
- 第14回 オペラとミュージカル、あるいは、映画と記録映像の関係について
- 第15回 まとめ－アーツを言葉化する演習－

授業以外での学習方法

教科書

特に指定しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

『アーツ・マネジメント概論・三訂版』

著者: 伊藤裕夫ほか

出版社: 水曜社

出版年:

ISBN:

その他適宜紹介する。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ 40 ）

参加度（ 60 ）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **会計学Ⅱ〈M〉**

担当者 河野 充央

テーマ

獲得目標

財務諸表の分析能力を身につける

授業の内容

財務諸表に対する比率分析の技法を学ぶ

内 容

- 第1回 ガイダンス: 貸借対照表と損益計算書の構造
- 第2回 利益の区分表示・売上高利益率の意義
- 第3回 売上高総利益率・営業利益率・経常利益率
- 第4回 売上高税引前当期利益率・当期利益率
- 第5回 売上高費用比率
- 第6回 資本回転率の意義・総資本回転率・自己資本回転率・株主資本回転率
- 第7回 経営資本回転率・有形固定資産回転率・棚卸資産回転率・売上債権回転率
- 第8回 固定負債回転率・有利子負債回転率
- 第9回 資本回転期間
- 第10回 総資本総利益率・営業利益率・経常利益率・経営資本利益率
- 第11回 流動比率・当座比率・現金比率
- 第12回 固定比率・固定長期適合率
- 第13回 自己資本比率・手元流動性・損益分岐点分析
- 第14回 成長性の分析手法
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

講義中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

講義中に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

h511015550

試験 ()
授業中課題 (25)
参加度 ()

小テスト ()
授業中発表等 (75)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 都市建築文化Ⅱ〈M〉

担当者 今井 裕夫

テーマ

獲得目標

前期同様、都市や建築と文化の関わりについて考察し、実務設計デザインの質を向上させる。「都市建築文化Ⅱ」では主に国内の事例を中心に検証し、都市や建築の意匠上の特徴を理解しながらデザインの手法を学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 事例1 住宅 その1
 - 第3回 事例1 住宅 その2
 - 第4回 事例2 集合住宅 その1
 - 第5回 事例2 集合住宅 その2
 - 第6回 事例3 都市 その1
 - 第7回 事例3 都市 その2
 - 第8回 事例4 郊外 その1
 - 第9回 事例4 郊外 その2
 - 第10回 事例5 建築の形式と空間 その1
 - 第11回 事例5 建築の形式と空間 その2
 - 第12回 事例6 建築の形式と空間 その3
 - 第13回 事例6 建築の形式と空間 その4、まとめ
 - 第14回 見学
 - 第15回 見学
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築計画学Ⅱ <M>**

担当者 松本 正富

テーマ

獲得目標

「建築計画学Ⅰ」と同様、引き続き建築計画的な視点から各種ビルディングタイプの事例について詳しく検証していく。国内の代表的な事例の配置計画、平面計画、機能と動線、構造や設備計画などを平面図、立面図や断面図を確認しながら、その設計意図について考える。また、実務的視点から建築設計への理解を深めることに留意し、1) 地域的な環境と建築の実例、2) 実例を通じた企画から詳細設計までの思考の過程、について具体的に紹介する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 事例研究1 敷地、周辺環境と与条件
 - 第3回 事例研究1 配置計画
 - 第4回 発表1
 - 第5回 事例研究2 平面計画
 - 第6回 事例研究2 機能と動線
 - 第7回 発表2
 - 第8回 事例研究3 平面計画
 - 第9回 事例研究3 構造と設備
 - 第10回 発表3
 - 第11回 事例研究4 平面計画
 - 第12回 事例研究4 断面と立面
 - 第13回 発表4
 - 第14回 事例研究5 その他
 - 第15回 発表5、まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築設計インターンシップ I <M>**

担当者 竹山 清明

テーマ

獲得目標

一級建築士資格を持ち、それぞれが建築事務所での活動を続ける教員の指導により、実際に進行中の建築計画、または教員所属の事務所で取り扱うプロジェクトの課題を対象として、建築設計の基本的な実務を学ぶ。スタディ模型を使い計画を繰り返し検討しながら図面を完成させる。前期と後期にそれぞれ1課題ずつ消化することで、より多くの知識と設計方法を修得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 ガイダンス
 - 第2回 資料収集1
 - 第3回 資料収集2
 - 第4回 与条件の整理
 - 第5回 配置図の作成1
 - 第6回 配置図の作成2
 - 第7回 平面図の作成1
 - 第8回 平面図の作成2
 - 第9回 平面図の作成3
 - 第10回 スタディ模型の作成1
 - 第11回 スタディ模型の作成2
 - 第12回 立面図の作成1
 - 第13回 立面図の作成2
 - 第14回 断面図の作成1
 - 第15回 断面図の作成2
 - 第16回 ガイダンス
 - 第17回 資料収集3
 - 第18回 資料収集4
 - 第19回 与条件の整理
 - 第20回 配置図の作成3
 - 第21回 配置図の作成4
 - 第22回 平面図の作成4
 - 第23回 平面図の作成5
 - 第24回 平面図の作成6
 - 第25回 スタディ模型の作成3
 - 第26回 スタディ模型の作成4
 - 第27回 立面図の作成3
 - 第28回 立面図の作成4
 - 第29回 断面図の作成3
 - 第30回 断面図の作成4
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **建築設計インターンシップⅡ <M>**

担当者 河野 良平

テーマ

獲得目標

指導者から一級建築士事務所が作成した設計図書の説明を受け、模型制作や資料整理を補助しながら建築計画の全体像を把握し、各図面の役割を知る。図面修正などを行いながら、段階的に必要な図面を制作する能力を養う。

授業の内容

一級建築士資格を持つ教員の統括のもと、建築設計事務所で一級建築士（一級建築士事務所所属）の指導により実務設計を体験し、設計図書のまとめ方を学ぶ。ガイダンス、設計図書の確認、模型制作、資料整理、図面修正、図面作成、現場監理補助などの内容で、120時間（15日間）、4単位の実習が必要。

内 容

- 第1回 3／3事前指導、志望履修書提出(学務第1課)、実習先訪問、実習内容打ち合わせ
 - 第2回 設計図書の確認、模型制作、資料整理など1
 - 第3回 設計図書の確認、模型制作、資料整理など2
 - 第4回 図面修正1
 - 第5回 図面修正2
 - 第6回 図面修正3
 - 第7回 図面修正4
 - 第8回 図面修正5
 - 第9回 図面作成1
 - 第10回 図面作成2
 - 第11回 図面作成3
 - 第12回 図面作成4
 - 第13回 図面作成5
 - 第14回 現場監理補助1
 - 第15回 現場監理補助2
 - 第16回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ ）

参加度（50）

小テスト（ ）

授業中発表等（50）

h511016550

事前指導と、志望理由書の提出、事後指導、事後レポート等の提出により、成績を報告し、2013年度前期単位として認定する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 文化経済Ⅱ〈M〉

担当者 阪本 崇

テーマ

文化政策を経済学的な視点から分析する

獲得目標

文化経済学の基礎的なツールを理解する。文化政策を経済学的な視点から分析するための思考法を修得する。

授業の内容

前期「文化経済Ⅰ」に引き続き、さまざまな文化政策を文化経済学のツールを用いて分析する。

内 容

- 第1回 インTRODakション
 - 第2回 芸術政策(1)
 - 第3回 芸術政策(2)
 - 第4回 文化産業(1)
 - 第5回 文化産業(2)
 - 第6回 文化遺産(1)
 - 第7回 文化遺産(2)
 - 第8回 ツーリズム(1)
 - 第9回 ツーリズム(2)
 - 第10回 文化多様性(1)
 - 第11回 文化多様性(2)
 - 第12回 芸術教育(1)
 - 第13回 芸術教育(2)
 - 第14回 知的所有権(1)
 - 第15回 知的所有権(2)
-

授業以外での学習方法

文献を随時配布するので、精読し理解すること。

教科書

参考書

The Economics of Cultural Policy

著者: David Throsby

出版社: Cambridge University Press

出版年: 2010

ISBN: 521687845

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護理論〈M〉**

担当者 大島 弓子

テーマ

看護理論および周辺諸理論を体系的に理解し看護実践への活用をめざす。この活用に向けて、看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と内容的構造及び特徴を理解する。主要な看護理論家の看護モデルについて、その哲学的基盤、概念及び看護の実践/教育/研究への活用について理解する。広範囲理論であるロイ適応理論により、これら理論の実践への活用をより具体的に理解する。また、自ら関心ある領域において、その看護理論及び諸理論の適用の妥当性を考察したうえで、実践/研究/教育への具体的な活用について検討する。

獲得目標

1 看護理論を体系的に概観し、諸理論の変遷と内容的構造及び特徴を理解する。2 主要な看護理論家の看護モデルについて、その哲学的基盤、概念及び看護の実践/教育/研究への活用について理解する。3 広範囲理論であるロイ適応モデルの理論構築、重要概念及び看護の実践/研究/教育への適用における具体的な活用について理解する。4 自ら関心ある領域において、その看護理論及び諸理論の適用の妥当性を考察して、実践/研究/教育への具体的な活用について検討する。

授業の内容

内 容

- 第1回 学びの希望、講義の進め方、看護理論/諸理論に関する文献の活用の留意点、看護理論の実践における活用上の課題
- 第2回 看護理論の哲学的基盤とその発達、看護理論の構造、看護理論の構成要素
- 第3回 守備範囲、看護理論の分析・評価、看護理論の看護実践/教育/研究への活用、専門的な分野における看護理論の適用とその活用
- 第4回 看護理論/看護モデルと関連する諸理論
- 第5回 看護理論/看護モデルの分類とその概括(1) プレゼンテーション(1)
- 第6回 看護理論/看護モデルの分類とその概括(2) プレゼンテーション(2)
- 第7回 看護理論/看護モデルの分類とその概括(3) プレゼンテーション(3)
- 第8回 看護理論/看護モデルの分類とその概括(3) プレゼンテーション(4)
- 第9回 広範囲理論の成り立ち、ロイ適応モデル概観、理論構築の背景、哲学的基盤
- 第10回 ロイ適応モデル重要概念(人間、環境、健康、看護)
- 第11回 ロイモデル看護過程、看護理論と看護過程との関係および実践への具体的な活用の仕方
- 第12回 ロイモデル(看護の実践/研究への適用、各専門領域における活用、評価)
- 第13回 自らの関心ある領域における看護理論及び諸理論の具体的な活用(1)の検討
- 第14回 自らの関心ある領域における看護理論及び諸理論の具体的な活用(2)の検討
- 第15回 看護理論に対する研究的な課題とアプローチ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

Nursing Theorists and Their Work, fifthed., 看護理論家とその業績, 第3版

著者: Marriner-Tomey, A. (2002): 都留伸子監訳

出版社: 医学書院

出版年: 2009

ISBN:

The Roy Adaptation Model Third Edition, ザ・ロイ適応看護モデル第2版

著者: Sister Callista Roy, 松木光子監訳

出版社: 医学書院

出版年: 2010

ISBN:

Nursing Theories, 看護理論集 増補改訂版

著者: Julia B..George(Editor), 南裕子, 他訳

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 2011

ISBN:

The Nature of Theoretical Thinking in Nursing, 看護学における理論思考の本質

著者: Hesook Suzie Kim, 上鶴重美監訳

出版社: 日本看護協会出版会

出版年: 2003

ISBN:

その他授業中に示す。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (40%)

授業中発表等 (40%)

参加度 (20%)

レポート40%、プレゼンテーション内容ディスカッション状況40%、参加態度と出席20%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護研究〈M〉

担当者 田邊 美智子・遠藤 俊子・中島 登美子

テーマ

看護における研究の意義と役割について理解するとともに、看護研究課題における概念の明確化、概念枠組みの構成、研究プロセス、研究倫理について修得する。看護現象を説明する研究方法としての質的研究および量的研究等について理解し、特に看護実践における研究を展開するうえで必要となる、多様な研究方法を具体的に理解する。

獲得目標

1 看護における研究の意義と役割について理解できる。2 看護研究課題における概念の明確化、概念枠組みの構成、研究方法の活用、論理的問題について理解できる。3 2を通し、実践に結びついた具体的な研究方法の展開について具体的に理解できる。4 看護現象を説明する研究方法としての質的研究および量的研究等について理解できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 看護学の発展と科学的アプローチについて文献検索し、看護研究の外観を学ぶ
- 第2回 看護研究における倫理的配慮について、事例を通して意見交換をする
- 第3回 倫理委員会の目的と役割
- 第4回 文献レビュー
- 第5回 研究の問いと研究デザイン
- 第6回 量的研究の研究デザイン
- 第7回 量的研究の実例 実験研究、質問紙調査研究の計画と分析
- 第8回 量的研究の実例 実験研究、質問紙調査研究の計画と分析
- 第9回 量的研究の実例 実験研究、質問紙調査研究の計画と分析
- 第10回 量的データのまとめ方
- 第11回 質的研究法の研究デザイン
- 第12回 グラウンデッドアプローチ
- 第13回 エスノグラフィーによるデータ収集方法
- 第14回 現象学的解釈法
- 第15回 質的研究のまとめ方

授業以外での学習方法

教科書

看護研究原理と方法2版

著者： D.F.ポーリット&C.T.ベック(近藤潤子監訳)

出版社： 医学書院

出版年： 2010

ISBN:

参考書

その他授業中に示す

著者：

出版社：

出版年：

ISBN:

成績評価

h701010210

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

研究論文を読みながら、研究方法、分析、論文の書き方の理解を深める。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護教育論 <M>**

担当者 阿部 祝子

テーマ

看護学教育全体を概観したうえで、看護ケアの質を高めるために継続的にキャリア開発を進める教育を中心に理解する。教育の基本的な理論のもと、教育目標設定、教育計画の立案、教育活動、評価などの一連の過程を理解し、そのうえで、継続教育に特徴的なOff-JTおよびOJT、生涯学習の方法、学習の環境やシステムづくり等、看護の質を高めるために実践の場実際に活用できるように、教育者側・学習者側の双方からの視点で、継続教育全体の知識・技術を理解する。

獲得目標

1 教育の本質を理解した上で、看護教育の特徴と課題について理解できる。2 看護基礎教育と継続教育の特徴を理解し、その教育課程、方法、評価について理解できる。3 生涯学習としての看護の継続教育の運用に関して、環境やシステムづくり、方法について理解できる。4 看護の質を高めるために看護実践の場における教育計画立案と運営方法について具体的に理解できる。5 看護教育の現状における課題と解決の方策について考察できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 教育の本質、意義、看護学の特徴と教育、看護教育制度の特徴と変遷
- 第2回 看護基礎教育と看護継続教育
- 第3回 看護基礎教育の看護教育課程の構造と意味
- 第4回 看護基礎教育の看護教育方法、教育評価
- 第5回 看護継続教育の看護教育課程の意味と構築の方法
- 第6回 看護継続教育の看護教育方法、教育評価
- 第7回 生涯学習の背景とシステムづくりの意義、方法; Off-JTおよびOJT
- 第8回 質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育企画と運営(1)
- 第9回 質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育企画と運営(2)
- 第10回 質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育企画と運営(3)
- 第11回 質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育方法(1)
- 第12回 質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育方法(2)
- 第13回 質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育方法(3)
- 第14回 質向上を目指す看護実践の場における具体的な継続教育の教育評価
- 第15回 看護教育における現在かかえている課題とその解決の方策

授業以外での学習方法

教科書

参考書

看護教育学

著者: グレグ美鈴, 池西悦子著

出版社: 南江堂

出版年:

ISBN:

看護教育学第4版

著者: 杉森みどり著

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

h701010380

看護の教育学序説

著者： 杉下喜代子著

出版社： ゆみる出版

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

授業中課題（ 50 ）

参加度（ 50 ）

小テスト（ ）

授業中発表等（ ）

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **コンサルテーション論〈M〉**

担当者 遠藤 俊子・新道 幸恵・富岡 小百合・渡壁 晃子

テーマ

高度実践看護職は、ケアの対象者に直接かかわるだけでなく、看護職を含むケア提供者に対しても「相談」機能を果たす。その効果的な方法を体験的に学習するとともに、コンサルテーションの概念、プロセスや実践モデル、コンサルタンの役割等の知識を習得し課題を探究する。また、管理、教育的支援、コミュニケーション、評価等の機能をもって、かかわる人々の主体性や独自性を尊重しつつ、自らの専門性とは他職種との連携について探究する。

獲得目標

CNS等の高度実践看護者にとって重要な役割のひとつである相談（紐去れてーション）は、働く組織を知り、マネジメント力を発揮しながら、高度実践力によってモデルとしての役割を示すことで、効果を上げる。そこで、この授業においてはコンサルテーションについての概念を理解し、その実践を可能にする方法論を学ぶと同時に、組織へのアプローチやマネジメント力等をコンサルテーションにどのように活用するかを理解することを目標とする。

授業の内容

内 容

- 第1回 コンサルテーションとは（ガイダンス、学習の意義と専門看護師の役割）
- 第2回 コンサルテーション概論①（コンサルテーションの概念と歴史的背景）
- 第3回 コンサルテーション概念（スーパービジョンとプロセス/コンサルテーション）
- 第4回 コンサルテーション概論③（コミュニケーション技法と文化のかかわり）
- 第5回 コンサルタンの役割と機能、コンサルタントに必要な教育
- 第6回 コンサルテーションのプロセスとコンサルテーションモデル
- 第7回 コンサルテーション・コンサルタントに関する文献レビュー
- 第8回 医療分野におけるコンサルテーションの実践①（オンコロジー、リエゾン）
- 第9回 "
- 第10回 医療分野におけるコンサルテーションの実践②（クリティカル）
- 第11回 "
- 第12回 医療分野におけるコンサルテーションの実践③（組織変革の推進）
- 第13回 "
- 第14回 マネジメントの活用
- 第15回 CNSのエンパワメント

授業以外での学習方法

関連文献の事前学習と発表準備

教科書

参考書

プロセスコンサルテーション援助関係を築くということ

著者： E.Hシャイン著（稲葉元吉・尾川丈一訳）

出版社： 白桃書房

出版年： 2002

ISBN：

カウンセリングトコンサルテーション

著者： 辻村英夫（編）

出版社： 学文社

出版年： 2002

ISBN：

現代のエスプリ スーパービジョン／コンサルテ一所の実践のすすめ

著者:

出版社: 至文堂

出版年: 2000.6

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

レポート50%, 討論および授業への参加態度50%, から総合的に評価する.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護管理論 <M>

担当者 阿部 祝子・戸塚 規子

テーマ

看護管理に関する諸理論と看護サービス・マネジメントへの適用

獲得目標

看護管理に必要な基本的な諸理論, 管理プロセス, 実践システムについて学習し, 効果的な看護サービス・マネジメントのあり方を探求する。

授業の内容

看護管理の諸理論と関連学問領域の概念や諸理論について多角的に理解した上で, 最近の看護管理の実践に関する研究動向を文献によって把握する。そして, 看護管理の効果的あり方および方向性や課題について探求する。

内 容

- 第1回 看護のマネジメントに関わる主要な用語とその概念
 - 第2回 看護を取り巻く環境の変化
 - 第3回 看護組織論その1
 - 第4回 看護組織論その2
 - 第5回 看護マネジメント論
 - 第6回 看護経営・経済論
 - 第7回 看護制度・政策論
 - 第8回 医療施設における環境と建築設備
 - 第9回 リーダーシップ論
 - 第10回 意思決定論
 - 第11回 専門職論
 - 第12回 看護における人的資源活用論
 - 第13回 医療における情報技術・情報管理論
 - 第14回 医療における安全管理論
 - 第15回 医療サービスにおける看護マネジメントの展望, まとめ 上記に関し, 各自が研究論文・参考資料等を活用し, それぞれの内容について討議を進める。
-

授業以外での学習方法

広く関連図書・専門誌等を読む。討議における発表の準備をする。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

看護管理学習テキスト第1巻～第8巻

著者: 井部俊子/中西睦子監修

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

その他授業内で提示する.

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する.

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護倫理論 <M>**

担当者 大島 弓子

テーマ

看護倫理の意義とその必要性について哲学的、理論的、社会的な見地から考察でき、「倫理」の概念、本質、原則、倫理的なジレンマについて理解する。同時に、生命倫理の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地等についても理解する。また、医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高めると共に、その専門領域に関する具体的な倫理的ジレンマについて、倫理的な調整等、解決策を含めた考察を深める。さらに看護倫理に対する研究的な課題とアプローチおよび看護倫理に関する組織的な取り組みについても理解する。

獲得目標

1 看護倫理の意義とその必要性について理論的、社会的な見地から考察する。2 伝統的倫理学と近代的倫理学の概括から理論的基盤に基づき、倫理の「倫理」の概念、原則、倫理的なジレンマについて理解する。3 生命倫理の考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地から、そのあり様を理解する。4 看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義について理解する。5 看護倫理を実践していく上で必要なコンピテンシー、方法について理解出来る。6 医療および看護場面における倫理的ジレンマについて多様な観点から考察し、看護実践に活用出来るモチベーションを高める。専門看護師をめざすものについては、その領域に関する倫理的なジレンマについて考察を深める。7 看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、看護倫理に関する組織的な取り組みについて理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 学修内容の確認、学修希望、看護倫理に関して体験した問題、感じていること
- 第2回 看護倫理の意義とその必要性、医療倫理に対する社会からの要請
- 第3回 伝統的倫理学と近代的倫理学
- 第4回 「倫理」の概念、倫理の原則、倫理と法律との関係、倫理的なジレンマ
- 第5回 生命倫理に対する考え方の歴史的な背景、変遷と現在の社会的な要請の見地
- 第6回 看護倫理の概念、本質、哲学的な基盤、意義
- 第7回 看護実践における倫理的なコンピテンシー；倫理的な感受性、倫理的判断
- 第8回 看護実践における倫理的なコンピテンシー；倫理的なジレンマへの調整等アプローチ、アサーション能力
- 第9回 医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例の検討(2)
- 第10回 医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例の検討(2)
- 第11回 医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例の検討(3)
- 第12回 医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についての事例のプレゼンテーションと討論(1)
- 第13回 医療および看護場面における倫理的ジレンマとその対応についてについてプレゼンテーションと討論(2)
- 第14回 看護倫理に対する研究的な課題とアプローチ、研究倫理の取り組み、組織上の取り組み
- 第15回 看護倫理の今後の課題と取り組み。まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

看護実践の倫理、第2版

著者： サラT.フライ(片田範子他訳)

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2009

ISBN:

新版看護師の基本的責務

著者： 日本看護協会監修

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2009

ISBN：

Fundamentals of Nursing, The Art and Science of Nursing Care, Unit1, 'Values, Ethics, and Advocacy', 7th Edition

著者： Taylor, C

出版社： Lippincott Williams & Wilks

出版年： 2010

ISBN：

人間の学としての倫理学

著者： 和辻哲郎

出版社： 岩波書店

出版年： 2000

ISBN：

その他授業中に示す。

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験（ ）

小テスト（ ）

授業中課題（ 40%）

授業中発表等（ 30%）

参加度（ 30%）

レポート40%、プレゼンテーションと討論30%、授業中の参加度（出席率を含む）30%

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護基礎学演習 I <M>**

担当者 梶谷 佳子

テーマ

看護におけるケアリングの概念を明らかにし、これまで行ってきた看護実践の振り返りを通して、ケアリングの概念を具現化し、今後の看護実践への課題を明確にする。

獲得目標

1.ケアリングの概念を説明できる。2.ケアリングの概念を自分に実践に照らして説明できる。3.看護におけるケアリングの重要性を説明できる。

授業の内容

文献講読を行い、ケアリング概念を明確にします。人々の健康的な日常生活を維持・向上させるケアリング概念を自分の実践活動の事例を取り上げて分析を行います。看護にケアリングの意義について確認し、今後の課題を明確にします。

内 容

- 第1回 科目の説明, ケアリングについての文献紹介
- 第2回 看護学に関するケアリングの文献検討を行う(1)
- 第3回 看護学に関するケアリングの文献検討を行う(2)
- 第4回 看護学に関するケアリングの文献検討を行う(3)
- 第5回 看護学に関するケアリングの文献検討を行う(4)
- 第6回 看護学に関するケアリングの文献検討を行う(5)
- 第7回 看護学に関するケアリングの文献検討を行う(6)
- 第8回 看護学に関するケアリングの文献検討を行う(7)
- 第9回 文献検討からケアリングの概念を明らかにする
- 第10回 看護実践過程をふり振り返り看護現象を記述・分析する(1)
- 第11回 看護実践過程をふり振り返り看護現象を記述・分析する(2)
- 第12回 看護実践過程をふり振り返り看護現象を記述・分析する(3)
- 第13回 看護実践過程をふり振り返り看護現象を記述・分析する(4)
- 第14回 看護実践過程をふり振り返りから看護におけるケアリングの重要性を論じる。
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献検索を行い、必要な情報にアクセスし、プレゼン資料を作成してください。文献講読・プレゼンテーションを中心に行います。

教科書

Anthology on Caring

著者: Peggy L. Chinn Editor

出版社: National League for Nursing Press

出版年:

ISBN:

参考書

現象学的人間論と看護

著者: ベナー・ルーベル/難波卓志訳

出版社: 医学書院

出版年: 1999

ISBN:

ケアリングのかたち

著者： 石川道夫, 田辺稔編集

出版社： 中央法規

出版年： 1998

ISBN:

ケアリングの理論と実践

著者： キャロル・レッパネン・モンゴメリー

出版社： 医学書院

出版年： 1995

ISBN:

ケアの本質

著者： ミルトン・メイヤロフ／田村真, 向野宣之訳

出版社： ゆみる出版

出版年： 1989

ISBN:

ケア学

著者： 広井良典

出版社： 医学書院

出版年： 2000

ISBN:

あなたが患者を傷つけるとき

著者： ナンシー・L・ディーケルマン編／堀内成子訳

出版社： エンゼルビア・ジャパン

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護基礎学演習Ⅱ <M>**

担当者 梶谷 佳子

テーマ

看護実践における看護技術が安全・安楽に提供できる方法について事例を通して学ぶ。

獲得目標

1.看護技術の安全性・安楽性について説明できる。2.看護技術の有効性を検証する方法を説明できる。3.自分の実践した看護技術を6つとりあげ、有効性の検証ができる。

授業の内容

自分自身の経験から関心のある看護技術を選択し、その有効性を検証していきます。先行研究を活用しながら、技術のエビデンスを明らかにします。必要に応じて演習室に応じて技術の実施をします。

内 容

- 第1回 科目の説明、これまでの自分自身の看護技術の振り返りと課題の明確化
- 第2回 関心のある看護技術を特化し、科学的根拠を明らかにするために国内外の文献検討を行う
- 第3回 文献検討内容を整理し、関心のある看護技術の研究課題を見出す
- 第4回 看護アウトカムの測定(1)
- 第5回 看護アウトカムの測定(2)
- 第6回 関心のある日常生活援助技術の有効性を検証する方法を探究する(1)
- 第7回 関心のある日常生活援助技術の有効性を検証する方法を探究する(2)
- 第8回 関心のある日常生活援助技術の有効性を検証する方法を探究する(3)
- 第9回 関心のある治療援助技術の有効性を検証する方法を探究する(1)
- 第10回 関心のある治療援助技術の有効性を検証する方法を探究する(2)
- 第11回 関心のある治療援助技術の有効性を検証する方法を探究する(3)
- 第12回 関心のある共通基本技術の有効性を検証する方法を探究する(1)
- 第13回 関心のある共通基本技術の有効性を検証する方法を探究する(2)
- 第14回 関心のある共通基本技術の有効性を検証する方法を探究する(3)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献検索を行い、必要な情報にアクセスし、プレゼン資料を作成してください。

教科書

授業時に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

看護アウトカム測定

著者: オーラ・リー・ストリックランド, コリーン・ディローリオ編/井部俊子監訳

出版社: エルゼビア・ジャパン

出版年: 2006

ISBN:

ケア技術のエビデンス

著者： 深井喜代子編

出版社： ヘルス出版

出版年： 2010

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 ()

レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護基礎学演習Ⅲ <M>**

担当者 大島 弓子

テーマ

現在の看護界における課題を整理し、看護専門職者の臨床的知識および技術の獲得過程を明らかにし、看護専門職者としての成長のための要素について考える。

獲得目標

1.看護界における課題を説明できる。2.看護専門職者の臨床的知識および技術の獲得プロセスが説明できる。3.看護専門職者の臨床的知識および技術の獲得プロセスに影響する要因について説明できる。

授業の内容

看護基礎教育・継続教育を視野に置きながら、臨床事例・看護現象を記述しつつ、看護職者としての成長過程について考察を深める。

内 容

- 第1回 科目の説明、看護界における課題についての話題提供
- 第2回 看護職の教育制度の現状(日本)
- 第3回 新人看護師を取り巻く状況(日本)
- 第4回 看護職のキャリア発達の状況(日本)
- 第5回 看護職の教育制度の現状(海外)
- 第6回 新人看護師を取り巻く状況(海外)
- 第7回 看護職のキャリア発達の状況(海外)
- 第8回 経験から学ぶ
- 第9回 暗黙知とは、経験知とは、臨床の知とは、身体知とは(1)
- 第10回 暗黙知とは、経験知とは、臨床の知とは、身体知とは(1)
- 第11回 ナラティブ・アプローチとは(1)
- 第12回 ナラティブ・アプローチとは(2)
- 第13回 正統的周辺参加と十全的参加(1)
- 第14回 正統的周辺参加と十全的参加(2)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

文献検索を行い、必要な情報にアクセスし、プレゼン資料を作成してください。文献講読・プレゼンテーションを中心に行います。

教科書

授業時に指示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

エキスパートナーズとの対話

著者: P・ベナー

出版社: 照林社

出版年: 2004

ISBN:

状況に埋め込まれた学習

著者： ジーン・レイヴ, エティエンヌ・ウエンガー／佐伯胖訳

出版社： 産業図書

出版年： 1993

ISBN:

看護を語ることの意味

著者： 川島みどり

出版社： 看護の科学社

出版年： 2007

ISBN:

看護師の臨床の知

著者： 佐藤紀子

出版社： 医学書院

出版年： 2007

ISBN:

ナレッジマネジメント

著者： 大串正樹

出版社： 医学書院

出版年： 2007

ISBN:

経験からの学習

著者： 松尾睦

出版社： 同文館出版

出版年： 2006

ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 (50)

参加度 ()

レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する

参考URL

2013 Syllabus

科目名 実践看護基礎学特別研究 <M>

担当者 大島 弓子

テーマ

看護の本質と目的、対象論、実践への方法論の観点から、院生がかかえる研究課題について、適切なプロセス、研究倫理に基づき、研究を行い、その成果を修士論文としてまとめる。

獲得目標

看護の本質と目的、対象論、実践への方法論の見地から、院生自身のもつ問題意識を明確にし、文献等の十分な検討の後、研究の意義をふまえたうえで、その事象の課題解決に合った研究計画を立案する。研究計画に基づき、研究を遂行し、十分な考察を加えて修士論文としてまとめる。また、その一連の過程において、研究の倫理の重要性を同時に修得する。さらに、研究課題を明らかににあたり、適切なプロセスをふむ必要性についても十分、修得する。

授業の内容

1、研究課題の明確化 2、文献検討 3、研究テーマの決定 4、研究計画立 5、研究倫理審査申請 6、研究に必要な準備学修、プレテスト 7、研究データの収集 8、データの集計 9、データの分析10、データの考察 11、論文作成 12、論文の発表

内 容

第17回 データの分析
第18回 データの分析
第19回 データの分析
第20回 データの考察
第21回 データの考察
第22回 データの考察
第23回 論文作成
第24回 論文作成
第25回 論文作成
第26回 論文作成
第27回 論文作成
第28回 論文作成
第29回 論文作成
第30回 論文の発表
第1回 研究課題の明確化
第2回 研究課題の明確化
第3回 文献検討
第4回 文献検討
第5回 研究テーマの決定
第6回 研究計画立案
第7回 研究計画立案
第8回 研究計画立案
第9回 研究倫理審査申請
第10回 研究に必要な準備学修、プレテスト
第11回 研究データの収集
第12回 研究データの収集
第13回 研究データの収集
第14回 研究データの収集
第15回 データの集計
第16回 データの集計

授業以外での学習方法

教科書

参考書

授業時に提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 (70)

授業中課題 ()

参加度 (15)

小テスト ()

授業中発表等 (15)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 実践看護応用学特論 I (老年) <M>

担当者 北村 隆子・小野塚 元子・村田 伸

テーマ

高齢者の健康生活とその評価

獲得目標

健康障害を持つ高齢者が自律したその人らしい生活の実現を可能にするための看護実践を提供することを目的に、高齢者の生活機能を身体的・心理社会的側面から包括的に評価する方法について探究する。

授業の内容

内 容

- 第1回 健康障害を持つ高齢者の健康生活を支援するための健康生活評価技術について考察する。
第2回 //
第3回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(1) 日常生活動作、行動機能について(基本的ADL、手段的ADL、FIM、身体バランス・柔軟性など)
第4回 //
第5回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(2) 認知機能、気分、意欲について(MMSE、HDS-R、GDSなど)
第6回 //
第7回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(3) モラール、生活の質について(主観的幸福感、生きがい、生活満足度など)
第8回 //
第9回 高齢者総合機能評価(CGA)の内容と評価の実際について探求する。(4) 生活環境、社会関係、ソーシャルサポート、家族の介護力評価など
第10回 //
第11回 高齢者の生活機能の維持・回復のためのリハビリテーションと社会資源の活用(福祉用具・自助具の活用を含む)について探求する。
第12回 //
第13回 老年専門看護師として高齢者の健康生活を支援するための総合的アセスメントの実際について探求する。
第14回 //
第15回 高齢者の健康生活評価に対する看護研究の動向と今後の課題について考察する。

授業以外での学習方法

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

参考書

ISBN:

h701011580

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護応用学特別研究 <Ma>**

担当者 北村 隆子

テーマ

特論、演習での学びを基盤とし、対象となる高齢者またその家族の健康増進、療養生活支援等に関する研究課題に取り組み、看護研究能力を高める

獲得目標

1.自己の研究課題に関する文献検索を行い、先行研究を検討する 2.最適な研究方法を選択し、研究計画を立てる 3.研究計画書を作成し、京都橘大学研究倫理委員会の承認をうける 4.研究計画に基づき、かつ十分な倫理的配慮をした上でデータ収集を行う 5.収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して老年看護学における専門的知識・技術の向上や開に向けて考察する 6.修士論文を作成する 7.修士論文発表会において発表する

授業の内容

内 容

- 第1回 文献検索・文献検討
 - 第2回 文献検討から研究課題を明確化
 - 第3回 研究計画書の作成
 - 第4回 倫理委員会に研究計画書の提出
 - 第5回 データ収集
 - 第6回 論文作成
 - 第7回 論文発表会
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (40)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 実践看護応用学特別研究 <Mb>

担当者 河原 宣子

テーマ

獲得目標

自らのテーマに関して修士論文の完成に向けた準備を行う。

授業の内容

1. 研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する. 2. 研究の概念枠組みを明確にし, 研究に必要なデータ収集を開始する. 3. 集めたデータを分析し, 考察する. 4. 論文の作成.

内 容

- 第1回 研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する①
 - 第2回 研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する②
 - 第3回 研究テーマの確認と先行研究の文献内容を把握する③
 - 第4回 研究の概念枠組みの明確化①
 - 第5回 研究の概念枠組みの明確化②
 - 第6回 研究の概念枠組みの明確化③
 - 第7回 データ収集①
 - 第8回 データ収集②
 - 第9回 データ収集③
 - 第10回 データ収集④
 - 第11回 データ収集⑤
 - 第12回 データ収集⑥
 - 第13回 データ収集⑦
 - 第14回 データ収集⑧
 - 第15回 データ収集⑨
 - 第16回 データ収集⑩
 - 第17回 データ分析と考察①
 - 第18回 データ分析と考察②
 - 第19回 データ分析と考察③
 - 第20回 データ分析と考察④
 - 第21回 データ分析と考察⑤
 - 第22回 データ分析と考察⑥
 - 第23回 データ分析と考察⑦
 - 第24回 データ分析と考察⑧
 - 第25回 データ分析と考察⑨
 - 第26回 データ分析と考察⑩
 - 第27回 論文作成①
 - 第28回 論文作成②
 - 第29回 論文作成③
 - 第30回 論文作成④
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (70)

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 実践看護応用学課題研究 <M>

担当者 北村 隆子

テーマ

特論及び演習で学んだことを基盤とし実践看護応用学実習(老年)において高齢者およびその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画にもとづき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

獲得目標

1.見出した課題に対して文献検討を加え最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。2.研究計画書を作成し、京都橋大学看護学部倫理委員会の承認をつける。3.計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をした上でデータ収集を行う。4.収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して老年看護学における専門的知識・技術の向上や開に向けて考察する。5.課題研究論文を作成する。6.課題研究論文は、発表会において発表する。

授業の内容

内 容

第1回 研究課題の指導
第2回 研究課題の指導
第3回 研究課題の指導
第4回 研究課題の指導
第5回 研究課題の指導
第6回 研究課題の指導
第7回 研究課題の指導
第8回 研究課題の指導
第9回 研究課題の指導
第10回 研究課題の指導
第11回 研究課題の指導
第12回 研究課題の指導
第13回 研究課題の指導
第14回 研究課題の指導
第15回 研究課題の指導

授業以外での学習方法

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **実践看護応用学実習(老年) <M>**

担当者 北村 隆子

テーマ

講義・演習で学んだ理論、知識、技術を実践に適用・統合し、専門看護師として活動できる看護実践能力の形成・向上を図る。そのために施設で暮らしている健康課題をもつ高齢者(認知症高齢者を含む)とその家族に対し、専門的老年看護の実践、スタッフや他職種への教育、相談、保健医療福祉に関わる人々の調整、倫理的調整などに研究的視点をもって臨み、また老年看護活動を創意工夫・変革するため実践的研究に取り組む。

獲得目標

1) 介護施設を利用し生活する高齢者の生活活動とその調整に関する実践・相談・教育に必要な高度な実践能力を身につける。2) 認知症高齢者の生活活動とその調整に関する実践・相談・教育に必要な高度な実践能力を身につける。3) 高齢者と家族の関係調整に関する実践・相談・教育、コーディネーションなどの能力を身につける。4) 高齢者ケアにおける看護活動・組織の検討と関係調整に必要なコーディネーション、リーダーシップを発揮する能力を身につける。5) 高齢者ケアにおける看護スタッフへの教育・相談の企画・実践・評価およびコンサルテーション、リーダーシップを発揮する能力を身につける。6) 高齢者ケアにおける倫理的課題について関係者間での倫理的調整に必要な能力を身につける。7) 高齢者ケアにおける看護の創意工夫、開発を図る実践的実態的研究課題を見出し研究的能力を育成する。

授業の内容

課題 1) 施設における老年看護の事例、認知症高齢者の看護の事例について、看護実践を行いケースレポートを作成する。(目標1.2、3) 2) 病院・施設における実習において看護管理者と共に看護管理実践を行い、看護組織・機関における高齢者ケアに関する実践的・実態的課題についてレポートを1例作成する。(目標4) 3) 病院・施設における実習において看護管理者と共に看護活動計画、スタッフ教育、相談、調整、コンサルテーションを行い論述するレポートを1例作成する。(目標5) 4) 病院・施設における実習において倫理的な問題・葛藤について倫理的調整、コーディネーションについて論述するレポートを1例作成する。(目標3、6) 5) 1)～5)のレポートのうち一つについては、高齢者ケアにおける看護の創意工夫、開発を図る実践的・実態的研究としてまとめる。(目標7)

内容

第1回 実習の進め方: 1) 実習目標にもとづき個別行動目標を明確にし、実習計画を立てる、さらに教員、指導者を交えて検討する。2) 日々の実習記録を記載する。また、複雑な事例に関する臨床判断、実践的知識、他者との関係性、自己の気持ちや感情などについて、丁寧に記述し、経験の意味を考察する。3) 高齢者や家族に対する倫理的配慮を行うと共に、予測される倫理的課題について指導者やスタッフと調整する。4) 週1回定期的なカンファレンスにおいて、教員、実習指導者の助言をうけ、専門看護実践に関する自己評価を行うと共に、実習計画を修正する。
スーパービジョン: 1) 実習中は、担当教員より週1回のスーパービジョンを受ける。スーパービジョンは、実習施設におけるベットサイドおよび大学での両方を併用する。2) 実習施設では、適宜カンファレンスを行い、実習指導者(専門看護師レベルに相当する看護職)や他の看護職などから、助言・フィードバックを受ける。

授業以外での学習方法

臨床実習、文献学習、学生プレゼンテーション

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

実習計画の作成(個別行動目標)、実習状況、実習目標の到達状況、プレゼンテーション、課題レポート、学習態度などを総合的に評価

h701013000

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学特論 <Ma>

担当者 田邊 美智子・遠藤 俊子・神崎 光子・中込 さと子

テーマ

次世代を育成する女性と家族をライフサイクルに沿って身体的、心理・社会的側面から包括的に理解する。

獲得目標

1 次世代を育成する女性と家族の健康生活および健康問題についてライフサイクルの視点から理解する。2 生殖内分泌学的知識や遺伝学的知識、周産期医学的知識、さらに発達や愛着理論など専門的知識体系を習得する。3 専門知識体系による対象理解を基に、マタニティサイクルにある女性と家族の健康問題や生活、発達課題などを多角的かつ的確に理解する。

授業の内容

内 容

- 第1回 次世代を育成する女性を取り巻く家族・社会・環境の変化および経済についての理解
 第2回 //
 第3回 母性健康科学の考え方、日本における母性概念、リプロダクティブヘルス/ライツ、愛着や親役割理論、発達危機理論などの理解
 第4回 //
 第5回 健康な女性に成長するための思春期への理解
 第6回 //
 第7回 成熟期女性の健康課題への理解
 第8回 //
 第9回 周産期の生殖内分泌学、遺伝学
 第10回 //
 第11回 妊産婦とその子ども、家族の発達と関係への理解
 第12回 //
 第13回 更年期・老年期女性の健康課題への理解
 第14回 //
 第15回 //

授業以外での学習方法

教科書

参考書

Transitions in a Woman's Life

著者: Romona T.Mercer

出版社: springerSeries

出版年:

ISBN:

母性の主体的体験

著者： ルヴァ・ルーヴイン(新道幸恵、後藤桂子訳)

出版社： 医学書院

出版年： 1997

ISBN：

ヘルスプロモーション実践の変革

著者： Lynne E.Young, Virginia Hayes(高野順子、北山秋雄訳)

出版社： 日本看護協会出版会

出版年： 2008

ISBN：

生殖補助医療(生殖・内分泌)新女性医学体系16

著者：

出版社： 中山書店

出版年：

ISBN：

その他授業中に示す

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 周産期看護学〈M〉

担当者 遠藤 俊子

テーマ

マタニティサイクルにある母子とその家族の健康問題をめぐる今日的话题をとりあげ、周産期看護援助に関するあり方を学ぶ。安全で質の高い実践を行うためには、周産期医療に関する最新のガイドラインについて学び、周産期看護援助をエビデンスに基づき実施する方法を習得する。また、FIGO,ICM等グローバルスタンダードを意識しながらのありかたを学ぶ。更に、母子とその家族の援助を組織的に展開することを学ぶ。

獲得目標

1 周産期のプライマリ・ヘルスケアをエビデンスに基づき検討する。2 周産期にある母子とその家族への査定に必要なアセスメント力と必要なケア、緊急時対応能力を獲得する。3 周産期医療における倫理的課題に対応できる基礎力をつける 4 周産期医療チームにおける看護の役割を明確にしながらか多職種協働を推進できる力を獲得する

授業の内容

内 容

- 第1回 周産期のプライマリ・ヘルスケア 国内外の周産期医療提供に関するガイドラインを集積し検討をする
 - 第2回 //
 - 第3回 周産期の母子とその家族の健康問題査定のためのアセスメント 上記のガイドラインをもとにアセスメントツールの検討を行う
 - 第4回 //
 - 第5回 周産期の正常性を維持・促進するためのエビデンスとケア
 - 第6回 //
 - 第7回 //
 - 第8回 //
 - 第9回 救急時における看護の役割
 - 第10回 //
 - 第11回 周産期における倫理的課題 救急搬送事例を用いて、9-12回の検討を深める
 - 第12回 //
 - 第13回 周産期医療チームにおける調整とリスクマネジメント
 - 第14回 //
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

教科書

参考書

助産師の意思決定

著者: Maureen D. Raynor他(堀内成子監修)

出版社: エルゼビア・ジャパン

出版年: 2006

ISBN:

看護アウトカムの測定 患者満足とケアの質指標

著者: OraLeaStricland他(井部俊子監修)

出版社: エルゼビア・ジャパン

出版年: 2006

ISBN:

WHO Department of Reproductive Health and Research:Managing Complication in Pregnancy and Childbirth

著者:

出版社: A guide for Midwives and Doctors

出版年: 2003

ISBN:

望ましい周産期ケアとその根拠

著者: マースデン・ワーグナー(上裕美監訳)

出版社: メディカ出版

出版年: 2002

ISBN:

その他授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 女性健康看護学〈M〉

担当者 田邊 美智子・遠藤 俊子・長谷川 美香

テーマ

思春期・成熟期・更年期・老年期にある女性の健康をめぐる今日的な問題を理解し、女性看護学の方向性を考察する。

獲得目標

1 ライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)にある女性の健康をめぐる今日的话题を取り上げ女性の健康問題を多角的に捉える。2 女性の健康問題を解決する援助に必要な知識を最新のエビデンスに基づいて学び、ケアの在り方を考察する。3 保健政策、男女共同参画社会政策を学び、社会組織的・政策的な側面から女性の健康の保証にむけた女性医療・看護ケアの方向性を考察する。4 母子とその家族の援助を組織的に展開する基礎理論や母子保健行政について学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 日本におけるリプロダクティブヘルス/ライツ、性差医療、ウイメンズヘルスの基礎概念と活用されている理論
 第2回 //
 第3回 //
 第4回 女性の健康と妊孕性、不妊治療の現状と課題および看護援助
 第5回 //
 第6回 //
 第7回 わが国の思春期・成熟期・更年期・老年期女性の健康問題と支援の現状
 第8回 //
 第9回 性差の観点からみた女性のライフサイクルを通じた身体・心理・社会的変化と健康問題
 第10回 //
 第11回 //
 第12回 ドメスティックバイオレンスおよび乳幼児虐待への課題とその対応
 第13回 //
 第14回 女性の健康への保健施策と諸制度、今後の課題
 第15回 //

授業以外での学習方法

教科書

女性生涯看護学

著者： 吉沢豊予子編

出版社： 真興交易出版

出版年： 2004

ISBN:

ウーマンライフ、ジェンダーはいかにして形成されるか

著者： Bernice Lott(西村恕彦監訳)

出版社： 日本評論社

出版年： 1998

ISBN:

産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編2011

著者:

出版社: 日本産婦人科学会/産婦人科医会

出版年:

ISBN:

看護法令要覧平成24年度版

著者:

出版社: 日本看護協会出版会

出版年:

ISBN:

その他 授業中に示す

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (20)

授業中発表等 (50)

参加度 (30)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習 I (小児看護) <M>

担当者 堀 妙子

テーマ

子どもの健全な成長発達について、様々な視点から考察し、子どもに成長発達を支えるために必要な看護支援を考案し実践できる能力を養う

獲得目標

1. 子どもの成長発達を様々な視点からアセスメントする事ができる
2. 子どもの成長発達を支えるために必要な看護援助方法を考案する事ができる

授業の内容

講義・学生によるプレゼンテーション・フィールドワークなどを通して、子どもの成長発達を支えるために必要な看護に関する考察を深める

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもの成長発達の特徴(1)
- 第3回 子どもの成長発達の特徴(2)
- 第4回 子どもの成長発達と社会の関係(1)
- 第5回 子どもの成長発達と社会の関係(2)
- 第6回 子どもの成長発達に関連した理論(1)
- 第7回 子どもの成長発達に関連した理論(2)
- 第8回 子どもの成長発達に関連した理論(3)
- 第9回 子どもの成長発達に関連した理論(4)
- 第10回 子どもの成長発達に関連した理論(5)
- 第11回 子どもの成長発達に関連した文献購読(1)
- 第12回 子どもの成長発達に関連した文献購読(2)
- 第13回 子どもの成長発達に関連した文献購読(3)
- 第14回 子どもの成長発達に関連した文献購読(4)
- 第15回 子どもの成長発達に関連した文献購読(5)
- 第16回 子どもの成長発達に関連した文献購読(6)
- 第17回 子どもの成長発達に関連した文献購読(7)
- 第18回 子どもの成長発達に関連した文献購読(8)
- 第19回 子どもの成長発達に関連した文献購読(9)
- 第20回 子どもの成長発達に関連した文献購読(10)
- 第21回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(1)
- 第22回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(2)
- 第23回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(3)
- 第24回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(4)
- 第25回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(5)
- 第26回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(6)
- 第27回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(7)
- 第28回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(8)
- 第29回 子どもの成長発達に関連したフィールドワーク(9)
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (100)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅱ(小児看護)〈M〉

担当者 堀 妙子

テーマ

健康課題をもつ子どもと家族に対する包括的な看護援助を実践できる能力を養う

獲得目標

1. 健康課題をもつ子どもや家族に対する包括的な看護援助方法が理解できる
包括的な看護援助方法を考案できる
2. 健康課題をもつ子どもや家族に対する

授業の内容

講義・学生によるプレゼンテーション、フィールドワーク等を通して、健康課題をもつ子どもと家族に対する看護に関する考察を深める

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 小児看護における近年の動向(1)
- 第3回 小児看護における近年の動向(2)
- 第4回 小児看護における近年の動向(3)
- 第5回 小児看護における近年の動向(4)
- 第6回 小児看護における近年の動向(5)
- 第7回 小児看護における近年の動向(6)
- 第8回 子どもの権利を尊重した看護(1)
- 第9回 子どもの権利を尊重した看護(2)
- 第10回 子どもの権利を尊重した看護(3)
- 第11回 子どもの権利を尊重した看護(4)
- 第12回 子どもの権利を尊重した看護(5)
- 第13回 子どもの権利を尊重した看護(6)
- 第14回 小児の在宅ケア(1)
- 第15回 小児の在宅ケア(2)
- 第16回 小児の在宅ケア(3)
- 第17回 小児の在宅ケア(4)
- 第18回 小児看護に関するフィールドワーク(1)
- 第19回 小児看護に関するフィールドワーク(2)
- 第20回 小児看護に関するフィールドワーク(3)
- 第21回 小児看護に関するフィールドワーク(4)
- 第22回 小児看護に関するフィールドワーク(5)
- 第23回 小児看護に関するフィールドワーク(6)
- 第24回 小児看護に関するフィールドワーク(7)
- 第25回 小児看護に関するフィールドワーク(8)
- 第26回 小児看護に関するフィールドワーク(9)
- 第27回 小児看護に関するフィールドワーク(10)
- 第28回 小児看護に関するフィールドワーク(11)
- 第29回 小児看護に関するフィールドワーク(12)
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (100)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅲ(小児看護)〈M〉

担当者 堀 妙子

テーマ

健康課題をもつ子どもとその家族を取り巻く社会や社会制度の特徴を理解したうえで、Patient and Family Centered Careの視点に立った看護援助をを実践できる能力を養う

獲得目標

1. 健康課題をもつ子どもや家族を取り巻く社会の特徴を理解する
2. 健康課題をもつ子どもや家族が利用できる社会福祉制度を理解する
3. Patient and Family Centered Careの理念を理解する
4. 健康課題をもつ子どもや家族に対するPatient and Family Centered Careの視点に立った看護援助方法考案できる

授業の内容

講義・学生によるプレゼンテーション、事例検討等を通し、Patient and Family Centerd care に対する理解を深める

内 容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 健康課題をもつ子どもと家族を取り巻く社会の特徴(1)
- 第3回 健康課題をもつ子どもと家族を取り巻く社会の特徴(2)
- 第4回 健康課題をもつ子どもと家族を取り巻く社会の特徴(3)
- 第5回 健康課題をもつ子どもと家族を取り巻く社会の特徴(4)
- 第6回 健康課題をもつ子どもと家族が利用できる社会福祉制度(1)
- 第7回 健康課題をもつ子どもと家族が利用できる社会福祉制度(2)
- 第8回 健康課題をもつ子どもと家族が利用できる社会福祉制度(3)
- 第9回 健康課題をもつ子どもと家族が利用できる社会福祉制度(4)
- 第10回 健康課題をもつ子どもと家族が利用できる社会福祉制度(5)
- 第11回 健康課題をもつ子どもと家族が利用できる社会福祉制度(6)
- 第12回 健康課題をもつ子どもと家族に対するPatient and Family centered care(1)
- 第13回 健康課題をもつ子どもと家族に対するPatient and Family centered care(2)
- 第14回 健康課題をもつ子どもと家族に対するPatient and Family centered care(3)
- 第15回 健康課題をもつ子どもと家族に対するPatient and Family centered care(4)
- 第16回 健康課題をもつ子どもと家族に対するPatient and Family centered care(5)
- 第17回 健康課題をもつ子どもと家族に対するPatient and Family centered care(6)
- 第18回 事例検討(1)
- 第19回 事例検討(2)
- 第20回 事例検討(3)
- 第21回 事例検討(4)
- 第22回 事例検討(5)
- 第23回 事例検討(6)
- 第24回 事例検討(7)
- 第25回 事例検討(8)
- 第26回 事例検討(9)
- 第27回 事例検討(10)
- 第28回 事例検討(11)
- 第29回 事例検討(12)
- 第30回 まとめ

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 (100)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習 I (周産期) <M>

担当者 田邊 美智子・遠藤 俊子

テーマ

周産期における母子と家族のプライマリーケアにかかわる看護介入モデルを活用し、質の高いケアの提供の在り方を理解する。

獲得目標

1 母子とその家族の生活を基盤とした健康支援を行うためのアセスメントとケア計画、評価方法を検討する。2 周産期の母子援助に関する有益な看護理論を活用し、質の高い看護実践のあり方を理解する。3 周産期における複雑かつ困難事例を用いて、妊産婦と家族への相談・助言・教育のスキルを学ぶ。

授業の内容

内 容

- 第1回 妊産婦の健康診査と正常性を維持するためのアセスメントおよび保健指導の検討
- 第2回 //
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 妊産婦とその家族に必要なケアを親役割獲得プロセス、アタッチメント理論、家族看護理論に基づき検討
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 分娩期の妊産婦ケアと家族のアセスメントならびに家族間調整、バースプランの活用、分娩ケアの在り方の検討
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 //
- 第16回 エビデンスに基づく母乳育児支援のための諸活動
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 産褥期の母子とその家族の家族アセスメントとケア
- 第20回 //
- 第21回 地域周産期システムと医師および保健師、ソーシャルワーカーとの協働
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 //
- 第26回 周産期の家族に関わる心理・社会的問題とその援助
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 //
- 第30回 //

授業以外での学習方法

教科書

望ましい周産期ケアとその根拠

著者: Marsden Wagner(井上裕美監訳)

出版社: メディカ出版

出版年: 2002

ISBN:

母と子のアタッチメント:心の安全基地

著者: ポウルビィ(二木武監訳)

出版社: 医歯薬出版

出版年:

ISBN:

家族看護の理論と実践

著者: ファミリーナーシングプラクティス 森山美知子編集

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

Nurses and Families: A Guide to Family Assessment and Intervention, edition5

著者: Lorraine M. Wright and Maureen Leahey

出版社: F.A.DAVIS

出版年:

ISBN:

その他 必要時提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業中に提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (20)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (50)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅱ(周産期)〈M〉

担当者 遠藤 俊子・喜多 伸幸・中井 愛・中島 登美子・堀 妙子・村上 節

テーマ

周産期における妊産婦とその子どもと家族へのプライマリーケアを踏まえ、異常の診断、救急処置への対応について、他職種との協働をも含めたケアの提供方法を学ぶ。

獲得目標

1 周産期医療施設における妊産婦、新生児、家族の状況に応じた質の高いケアを探求する。2 周産期救急時の対応ができる知識、技術を獲得する。3 周産期救急や社会的に複雑な事例に対応する実践、相談、調整、倫理調整能力を獲得する。

授業の内容

内 容

- 第1回 わが国と諸外国の妊産婦ケア、安心・安全な医療提供のための健診のあり方とハイリスク妊産婦・新生児の実態を知り、異常の早期発見や搬送のあり方を再認識する。
- 第2回 //
- 第3回 //
- 第4回 //
- 第5回 事例を通して、妊娠合併症をもつ妊産婦と家族への支援の具体例を検討する。PIH、妊娠糖尿病、心疾患、自己免疫疾患、血液疾患、婦人科疾患、精神・神経疾患、母子感染症、多胎、早期産、切迫早産
- 第6回 //
- 第7回 //
- 第8回 //
- 第9回 //
- 第10回 //
- 第11回 分娩異常の事例から出産時の産婦ケアの在り方を具体的に検討する。娩出力の異常、胎児および付属物の異常、産道の異常・分娩時裂傷 産科DIC、羊水塞栓症、HELLP症候群、産科出血の対応、産科手術の介助
- 第12回 //
- 第13回 //
- 第14回 //
- 第15回 周産期医療におけるME機器の活用 分娩監視装置、超音波診断
- 第16回 //
- 第17回 //
- 第18回 //
- 第19回 新生児蘇生の実際
- 第20回 //
- 第21回 産褥期における母子と家族への支援の実際、倫理調整を含む 産褥うつ病を発生した事例、緊急帝王切開になった事例 子どもを亡くした母子とその家族の事例等
- 第22回 //
- 第23回 //
- 第24回 //
- 第25回 //
- 第26回 NICUにおける家族への援助と連携
- 第27回 //
- 第28回 //
- 第29回 周産期医療システム内でのマネジメントと法や諸制度の活用への理解を深める
- 第30回 //

授業以外での学習方法

教科書

参考書

産婦人科診療ガイドライン産科編

著者： 日本産科婦人科学会編

出版社：

出版年： 2011

ISBN：

ウィリアムス臨床産科マニュアル22版

著者： Williams(大鷹美子監訳)

出版社：

出版年： 2009

ISBN：

新生児蘇生法テキスト

著者： 田村正徳監修

出版社： メディカルビュー

出版年： 2011

ISBN：

その他授業中に示す

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学課題研究 <Ma>

担当者 遠藤 俊子

テーマ

特論及び演習で学んだことを基盤とし次世代看護学実習(周産期)において、妊産婦、子どもとその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画にもとづき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

獲得目標

1.見出した課題に対して文献検討を加え最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。2.研究計画書を作成し、京都橋大学看護学部倫理委員会の承認をつける。3.計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をした上でデータ収集を行う。4.収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して次世代育成看護学における専門的知識・技術の向上や開に向けて考察する。5.課題研究論文を作成する。6.課題研究論文は、発表会において発表する。

授業の内容

内 容

- 第1回 研究課題の指導
 - 第2回 研究課題の指導
 - 第3回 研究課題の指導
 - 第4回 研究課題の指導
 - 第5回 研究課題の指導
 - 第6回 研究課題の指導
 - 第7回 研究課題の指導
 - 第8回 研究課題の指導
 - 第9回 研究課題の指導
 - 第10回 研究課題の指導
 - 第11回 研究課題の指導
 - 第12回 研究課題の指導
 - 第13回 研究課題の指導
 - 第14回 研究課題の指導
 - 第15回 研究課題の指導
-

授業以外での学習方法

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学課題研究 <Mb>

担当者 田邊 美智子

テーマ

特論及び演習で学んだことを基盤とし次世代看護学実習(周産期)において、妊産婦、子どもとその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画にもとづき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

獲得目標

1.見出した課題に対して文献検討を加え最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。2.研究計画書を作成し、京都橋大学看護学部倫理委員会の承認をつける。3.計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をした上でデータ収集を行う。4.収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して次世代育成看護学における専門的知識・技術の向上や開に向けて考察する。5.課題研究論文を作成する。6.課題研究論文は、発表会において発表する。

授業の内容

内 容

第3回 研究課題の指導
 第4回 研究課題の指導
 第5回 研究課題の指導
 第6回 研究課題の指導
 第7回 研究課題の指導
 第8回 研究課題の指導
 第9回 研究課題の指導
 第10回 研究課題の指導
 第11回 研究課題の指導
 第12回 研究課題の指導
 第13回 研究課題の指導
 第14回 研究課題の指導
 第15回 研究課題の指導
 第1回 研究課題の指導
 第2回 研究課題の指導

授業以外での学習方法

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (30)

参加度 (30)

小テスト ()

授業中発表等 (40)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学特別研究 <M>

担当者 堀 妙子

テーマ

特論及び演習で学んだことを基盤とし次世代看護学実習(周産期)において、妊産婦、子どもとその家族に関する課題を見出し、最適な研究計画にもとづき研究成果を課題研究論文としてまとめ、専門看護師としての研究的能力を養う。

獲得目標

1.見出した課題に対して文献検討を加え最適な研究方法と対象を選択し、研究計画を立てる。2.研究計画書を作成し、京都橋大学看護学部倫理委員会の承認をつける。3.計画に基づき、かつ十分に倫理的配慮をした上でデータ収集を行う。4.収集したデータを計画的、系統的、論理的に記述・整理し、分析して次世代育成看護学における専門的知識・技術の向上や開に向けて考察する。5.課題研究論文を作成する。6.課題研究論文は、発表会において発表する。

授業の内容

内 容

- 第1回 研究課題の指導
 - 第2回 研究課題の指導
 - 第3回 研究課題の指導
 - 第4回 研究課題の指導
 - 第5回 研究課題の指導
 - 第6回 研究課題の指導
 - 第7回 研究課題の指導
 - 第8回 研究課題の指導
 - 第9回 研究課題の指導
 - 第10回 研究課題の指導
 - 第11回 研究課題の指導
 - 第12回 研究課題の指導
 - 第13回 研究課題の指導
 - 第14回 研究課題の指導
 - 第15回 研究課題の指導
-

授業以外での学習方法

教科書

専門図書、専門誌、文献等を適宜提示

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 ()

参加度 ()

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **看護教育学特論 <M>**

担当者 阿部 祝子

テーマ

看護職の人材育成における教育のあり方

獲得目標

看護教育論での学びを踏まえ、自らの看護実践を通して捉えた教育的問題の考察を通して、教育の本質を探究する。

授業の内容

看護実践において自身が感じている教育的問題を提示し、文献講読や討議によりその問題の本質を探り、問題の本質とその解決の視点を探る。1. 看護実践における教育的問題の提起 2. 問題の事実関係の再考 3. 文献講読及び討議による問題の本質の探究 4. 問題に対する解決の視点の発見 5. 提起した問題についての総括

内 容

- 第1回 オリエンテーション(学習目標, 授業の進め方)
- 第2回 各自の看護実践における教育的問題の提起
- 第3回 問題の現状, 背景などから問題の事実関係(プレゼンテーション, 討議)
- 第4回 問題の本質の理解(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第5回 問題の本質の理解(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第6回 問題の本質の理解(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第7回 問題の本質の理解(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第8回 問題の本質の見極め
- 第9回 問題解決にむけた視点の理解
- 第10回 問題の解決にむけた方策の立案(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第11回 問題の解決にむけた方策の立案(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第12回 問題の解決にむけた方策の立案(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第13回 問題の解決にむけた方策の立案(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第14回 提起した問題及びその解決方策についての総括(プレゼンテーション, 討議)
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

看護実践において問題意識を持つ。広く関連図書・専門誌等を読む。討議における発表の準備をする。

教科書

特に指定しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

授業内で提示する。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

成績評価

h701014850

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 看護管理学特論〈M〉

担当者 阿部 祝子

テーマ

ヘルスケアシステムにおける看護管理のあり方

獲得目標

看護管理論で学んだ諸理論、管理プロセス、実践システムを踏まえ、看護サービス管理における研究の動向から、医療提供システムや看護への影響要因や課題の認識を深め、ヘルスケアシステムにおける看護管理のあり方について探求する。

授業の内容

看護サービス管理に係る今日的課題から、履修生の関心を参考にいくつかのテーマを決めて進める。具体的な内容や進行については、履修生の関心を考慮し計画する。1. 看護の質保証と顧客満足 2. リスクマネジメント 3. 人的資源管理, 人材育成・キャリア開発 4. 人間の尊厳と権利, 生命倫理 5. 医療・看護情報 6. 経営効率 7. 看護制度

内 容

- 第1回 オリエンテーション(学習目標, 授業の進め方)
- 第2回 各自テーマの設定
- 第3回 テーマについての現状の把握(プレゼンテーション, 討議)
- 第4回 テーマについての現状の分析・考察(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第5回 テーマについての現状の分析・考察(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第6回 テーマについての現状の分析・考察(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第7回 テーマについての現状の分析・考察(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第8回 テーマについての現状のまとめ
- 第9回 テーマについて今後の看護職の役割と活動(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第10回 テーマについて今後の看護職の役割と活動(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第11回 テーマについて今後の看護職の役割と活動(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第12回 テーマについて今後の看護職の役割と活動(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第13回 テーマについて今後の看護職の役割と活動(文献講読, プレゼンテーション, 討議)
- 第14回 テーマについての現状と今後の看護職の役割・活動についての総括
- 第15回 まとめ

授業以外での学習方法

広く関連図書・専門誌等を読み, 自らの関心領域, 課題を明確にする。討議における発表の準備をする。

教科書

使用しない。

著者:

出版社:

出版年:

ISBN:

参考書

看護管理学習テキスト第1巻～第8巻

著者: 井部俊子/中西睦子監修

出版社: 医学書院

出版年:

ISBN:

看護サービス管理第3版

著者： 中西睦子編

出版社： 医学書院

出版年：

ISBN：

その他授業内で提示する.

著者：

出版社：

出版年：

ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

レポートおよび授業への参加態度から総合的に評価する.

参考URL

2013 Syllabus

科目名 広域看護学演習 I (管理) <Md>

担当者 阿部 祝子

テーマ

看護管理における労務管理

獲得目標

質の高い看護サービス提供のための看護管理について、労務管理の観点から実証的に探究する。

授業の内容

「授業計画」の各テーマについて、関連文献や先行研究の文献検討を通して理解を深める。また、各テーマに関する研究の動向や方法について理解する。これらに基づき、自身の看護管理の経験を事例として、ディスカッションにより考察を深める。

内 容

- 第1回 ガイダンス(演習の意義, 授業目標の理解)
 - 第2回 労務管理
 - 第3回 雇用関係①: 文献検討, 事例検討
 - 第4回 雇用関係②: 文献検討, 事例検討
 - 第5回 労働時間管理①: 文献検討, 事例検討
 - 第6回 労働時間管理②: 文献検討, 事例検討
 - 第7回 賃金体系①: 文献検討, 事例検討
 - 第8回 賃金体系②: 文献検討, 事例検討
 - 第9回 健康管理, 労働災害①: 文献検討, 事例検討
 - 第10回 健康管理, 労働災害②: 文献検討, 事例検討
 - 第11回 WLB①: 文献検討, 事例検討
 - 第12回 WLB②: 文献検討, 事例検討
 - 第13回 目標管理, 人事考課①: 文献検討, 事例検討
 - 第14回 目標管理, 人事考課②: 文献検討, 事例検討
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

自施設の労務管理について、根拠となる法規を理解するよう心がける。また、医療・看護分野以外の労務管理について関心を持ち、最新の動向に目を向ける。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 広域看護学演習Ⅱ(管理) <Md>

担当者 阿部 祝子

テーマ

看護管理における看護サービス提供システム

獲得目標

質の高い看護サービス提供のための看護管理について、看護サービス提供システムの観点から実証的に探究する。

授業の内容

「授業計画」の各テーマについて、関連文献や先行研究の文献検討を通して理解を深める。また、各テーマに関する研究の動向や方法について理解する。これらに基づき、自身の看護管理の経験を事例として、ディスカッションにより考察を深める。

内 容

- 第1回 ガイダンス(演習の意義, 授業目標の理解)
 - 第2回 ヘルスケア提供システム
 - 第3回 看護提供システム(組織・ネットワークデザイン)①: 文献検討, 事例検討
 - 第4回 看護提供システム(組織・ネットワークデザイン)②: 文献検討, 事例検討
 - 第5回 クオリティ・マネジメント①: 文献検討, 事例検討
 - 第6回 クオリティ・マネジメント②: 文献検討, 事例検討
 - 第7回 情報システムの活用①: 文献検討, 事例検討
 - 第8回 情報システムの活用②: 文献検討, 事例検討
 - 第9回 ナレッジ・マネジメント①: 文献検討, 事例検討
 - 第10回 ナレッジ・マネジメント②: 文献検討, 事例検討
 - 第11回 組織文化①: 文献検討, 事例検討
 - 第12回 組織文化②: 文献検討, 事例検討
 - 第13回 安全管理①: 文献検討, 事例検討
 - 第14回 安全管理②: 文献検討, 事例検討
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

自施設及び部署について、各テーマの側面から関心を持ち、考察する姿勢を持つ。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 広域看護学演習Ⅲ(管理) <Md>

担当者 阿部 祝子

テーマ

看護管理における医療経済・経営

獲得目標

質の高い看護サービス提供のための看護管理について、医療経済・経営の観点から実証的に探究する。

授業の内容

「授業計画」の各テーマについて、関連文献や先行研究の文献検討を通して理解を深める。また、各テーマに関する研究の動向や方法について理解する。これらに基づき、自身の看護管理の経験を事例として、ディスカッションにより考察を深める。

内 容

- 第1回 ガイダンス(演習の意義, 授業目標の理解)
 - 第2回 医療経済・経営
 - 第3回 医療経済と看護①: 文献検討, 事例検討
 - 第4回 医療経済と看護②: 文献検討, 事例検討
 - 第5回 医療経営と看護①: 文献検討, 事例検討
 - 第6回 医療経営と看護②: 文献検討, 事例検討
 - 第7回 看護における財務・経営分析①: 文献検討, 事例検討
 - 第8回 看護における財務・経営分析②: 文献検討, 事例検討
 - 第9回 看護におけるマーケティング①: 文献検討, 事例検討
 - 第10回 看護におけるマーケティング②: 文献検討, 事例検討
 - 第11回 危機管理①: 文献検討, 事例検討
 - 第12回 危機管理②: 文献検討, 事例検討
 - 第13回 看護ビジネス(起業)①: 文献検討, 事例検討
 - 第14回 看護ビジネス(起業)②: 文献検討, 事例検討
 - 第15回 まとめ
-

授業以外での学習方法

自施設及び部署について、各テーマの側面から関心を持ち、考察する姿勢を持つ。

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

授業中課題 (50)

参加度 (50)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 広域看護学特別研究 <Ma>

担当者 竹下 夏美

テーマ

先行文献を収集し、分析しながら自己の研究課題と研究方法を明らかにし、研究計画を立案する。その際に必ず倫理的配慮を行う。倫理申請書を作成し、倫理審査委員会の審査後に調査を実施し、その結果を分析し修士論文を作成する一連の課程を修得できる。

獲得目標

1. 研究課題に関連した先行文献の収集と選別並びに熟読を行い、研究方法を決定する。2. 倫理申請書を作成し、学内の倫理審査委員会で審査を受ける。3. フィールド調査を行い、結果を分析し、考察する。4. 1～3の一連の研究プロセスを経て研究を実施できる基礎能力を身につける。2 論文作成ができる基礎能力を身につける。3 学術発表ができる基礎能力を身につける。

授業の内容

内 容

- 第1回 (1回生)研究課題別の研究プロセスを学習する。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第2回 (1回生)研究課題別の研究プロセスを学習する。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第3回 (1回生)研究主題を明確にするために、関連の先行研究文献検索、プレゼンテーション(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第4回 (1回生)研究主題を明確にするために、関連の先行研究文献検索、プレゼンテーション(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第5回 (1回生)研究主題を明確にするために、関連の先行研究文献検索、プレゼンテーション(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第6回 (1回生)研究主題を明確にするために、関連の先行研究文献検索、プレゼンテーション(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第7回 (1回生)研究課題に最も適した研究方法の決定を行い、倫理的配慮を行う。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第8回 (1回生)研究課題に最も適した研究方法の決定を行い、倫理的配慮を行う。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第9回 (1回生)研究課題に最も適した研究方法の決定を行い、倫理的配慮を行う。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第10回 (1回生)研究計画立案を作成し、提出する。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第11回 (1回生)研究計画立案を作成し、提出する。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第12回 (1回生)研究計画立案を作成し、提出する。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第13回 (1回生)研究計画立案を作成し、提出する。(2回生)研究計画に基づきデータ収集、分析を行う。
- 第14回 (1回生)研究計画立案を作成し、提出する。(2回生)データの分析結果を考察しまとめる。
- 第15回 (1回生)研究計画立案を作成し、提出する。(2回生)データの分析結果を考察しまとめる。
- 第16回 16回以降(1回生)倫理審査を受ける準備、倫理申請書の作成。研究計画を研究委員会にへ申請し、研究倫理に関する審査を受ける。研究倫理委員会で承認された後、研究対象者へパイロットスタディを実施し、研究計画の修正。研究計画及びデータ収集方法の再検討。中間報告会でプレゼンテーションを行う。16回以降(2回生)先行文献の再検討を行いながら、指導者の助言を受けながら論文を完成させる。論文完成後、投稿論文、学会発表等研究成果の公開に向けて準備する。 ※ 但し、3年コースの場合は上記を3年かけて行う予定。

授業以外での学習方法

積極的に他の学生とも交流しディスカッションを行ってください。また多くの課題に関連した先行文献に目を通し、随時まとめておいてください。

教科書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 ()

授業中発表等 ()

参加度 ()

プレゼンテーション・ディスカッション参加(30%)、論文(60%)、出席(10%)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **フィジカルアセスメント〈M〉**

担当者 梶谷 佳子・安藤 忠・大島 弓子・喜多 伸幸・林正 健二

テーマ

対象(個人/集団)の健康状態/生命・生活過程における生理的な反応について、適切に臨床判断し、医療および看護の必要性を的確・迅速に判断できる、この一連のアセスメントに必要な知識・技術を修得する。このために、系統的な全体的な対象の身体診査についての確かな方法を修得する。また、それらのデータを統合して解釈・判断し、複雑な対象の健康状態について、優先度もふくめ、全体的な見地からアセスメントが適切にできるために、臨床的、統合的な知識およびクリティカルシンキングスキルの活用を修得する。

獲得目標

1 対象の生理的・心理社会的な健康状態/生命・生活過程における生理的な反応について、適切に臨床判断することの意義を看護実践の視点から理解できる。2 対象を生理的な全体としてアセスメントするための系統的な方法が理解できる。3 身体診査(フィジカルイグザミネーション)の方法がわかり、実施できる。4 3で得られたデータを統合し対象の健康状態/生命・生活過程における複雑な状況を、全体的な見地からの確かにアセスメントすることができ、看護実践に活用できる。

授業の内容

内 容

- 第1回 対象にとってフィジカルアセスメントの持つ意義、フィジカルアセスメントに必要な知識、技術、看護におけるフィジカルアセスメント
- 第2回 対象を全体的な見地からアセスメントするための診査方法、スクリーニング、システムレビュー、観察法、測定法、問診、聴診、打診、視診、触診、対象による診査の留意点
- 第3回 身体的系統的診査(イグザミネーション)とは、
- 第4回 頭部、頸部、感覚器系の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第5回 胸部(心臓・血管系)の診査とそのデータの判定;聴診、打診、心電図測定
- 第6回 胸部(呼吸器系)の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第7回 胸部(乳房)の診査とそのデータの判定;打診、視診、触診
- 第8回 腹部の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第9回 腹部・泌尿器系の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第10回 生殖器系の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第11回 骨・筋肉系の診査とそのデータの判定;打診、視診、触診
- 第12回 神経系の診査とそのデータの判定;聴診、打診、視診、触診
- 第13回 フィジカルイグザミネーション得られたデータの統合と看護における臨床判断(1)
- 第14回 フィジカルイグザミネーション得られたデータの統合と看護における臨床判断(2)
- 第15回 看護における臨床判断、全人的な見地からのフィジカルアセスメントとその臨床での活用

授業以外での学習方法

教科書

参考書

ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 第2版

著者: 林正健二編集

出版社: メディカ出版

出版年: 2008

ISBN:

ナーシンググラフィカ ヘルスアセスメント 第2版

著者: 松尾ミヨ子, 志自岐康子, 城生弘美

出版社: メディカ出版

出版年: 2010

ISBN:

Bates' Guide to Physical Examination and History Taking 9th Edition.ベイツ診察法 第9版

著者: Lynn S. Bickley, Peter G. Szilagy/福井次矢, 井部俊子

出版社: メディカル・サイエンス・インターナショナル

出版年: 2007

ISBN:

Health Assessment Nursing Practice Third Edition

著者: Susan F.Wilson, Jean Foret Giddens

出版社: Elsevier Mosby

出版年: 2005

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (20)

小テスト ()

授業中発表等 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **臨床薬理学〈M〉**

担当者 磯見 智恵・天野 博夫・大島 弓子

テーマ

対象の病態の回復への促進に向けた薬物療法について、薬剤の選択、管理等、その過程の臨床判断を含む知識および技術を修得する。薬物が人間におよぼす影響を薬物動態として理解し、病態に対応した薬理作用をエビデンスと共に理解する。そのうえで、救急処置、また、症状の調整や症状の変化に伴う薬物の選択、慢性疾患の管理に必要な薬剤等、対象が会う多面的な薬物との問題に対応して、モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助が適切にできるために必要な知識、技術を修得する。

獲得目標

1 薬物が人間におよぼす影響を、薬物動態(からだと薬の機能、動き、体の反応)として理解できる。2 病態に対応した薬理作用をエビデンスと共に理解できる。3 救急処置、症状の調整や症状の変化に伴う薬物の選択、慢性疾患の管理に必要な薬剤等、対象が会う多面的な薬物との問題がわかる。4 対象が会う多面的な薬物との問題に対応して、モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助が適切にできる

授業の内容

内 容

- 第1回 人間と薬物;薬とは何か, 人間にとって薬の持つ意味, 医療における薬物療法, 薬と毒
- 第2回 からだにおける薬の働き;薬理作用, 容量と反応, 受容体と薬理作用, 薬物作用点
- 第3回 からだにおける薬の動き①;薬物の投与経路と体循環, 薬物の吸収と代謝・組織への分布, 薬物の排泄
- 第4回 からだにおける薬の動き②;薬物送達システム, 治療薬物モニタリング, 薬物動態パラメータ, からだと薬の反応;からだと薬の反応に影響を与える因子, 薬物相互作用とからだ,
- 第5回 病態における薬物療法(1)神経, 精神, 循環, 血液の働きに対応した薬物療法
- 第6回 病態における薬物療法(2)体液・電解質, ホルモン免疫, 炎症, 感染症に対応した薬物療法
- 第7回 病態における薬物療法(3)消化・吸収・代謝, 呼吸の働きに対応した薬物療法
- 第8回 病態における薬物療法(4)悪性腫瘍, 中毒に対応した薬物療法
- 第9回 病態における薬物療法(5)エイジング(妊婦, 高齢者, 小児), 漢方医学に対応した薬物療法
- 第10回 薬物療法を受ける対象のからだ(細胞・分子レベル)と心理社会的な影響をアセスメントの意味, 薬物療法を有効にする人間全体としての反応としての臨床判断の方法と対象が会う多面的な薬物の問題
- 第11回 救急処置、症状の調整や症状の変化に伴う薬物の選択
- 第12回 慢性疾患の管理に必要な薬剤
- 第13回 モニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理等の援助
- 第14回 対象が会う多面的な薬物との問題に対応した適切なモニタリング、生活調整、回復力の促進や患者の服薬管理
- 第15回 対象が有効な薬物療法を受け、回復への促進が継続的に進められる医療体制づくり、医療職者の連携システムの在り方, 医薬品開発時のプロセスと倫理

授業以外での学習方法

教科書

病態生理に基づく臨床薬理学

著者: デービッド・E. ゴーラン他

出版社: メディカルサイエンスインターナショナル

出版年:

ISBN:

シリーズ看護の基礎科学, 薬とのかかわり

著者: 大橋京一他

出版社: 日本科看護協会出版会

出版年:

ISBN:

成績評価

試験 ()

授業中課題 (60)

参加度 (40)

小テスト ()

授業中発表等 ()

参考URL

2013 Syllabus

科目名 **病態生理学 <M>**

担当者 磯見 智恵.安藤 忠.mitei.林正 健二

テーマ

対象の病態を全体的、統合的に的確に理解するために必要な知識を修得する。対象が示している徴候や症候から、その対象に起きている生理・生化学的なからだの仕組みおよび、変調である病態をエビデンスに基づいて適切に判断でき、その過程を通し、対象におきている病態について、今後の見通しも含めて統合的に理解することができる知識と技術を修得する。

獲得目標

1 からだの仕組みにおける生命維持のメカニズムについて、生理・生化学的な見地からエビデンスと共に理解できる。2 からだの仕組みの異常状態である病態について、どのようなメカニズムによりその異常が起こるか、その種類や程度に対する検査法や診断についてエビデンスと共に理解できる。3 その病態における修復、改善のため治療法について理解でき、看護ケアの根拠との関連を考察する。4 対象におきている病態をそのメカニズムと共に、今後の見通しも含めて統合的にとらえることができる。

授業の内容

内 容

- 第1回 からだの仕組み/生命維持のメカニズム(1)細胞の働き, 筋, 神経系, 体温調節, 感覚系のはたらき
 第2回 からだの仕組み/生命維持のメカニズム(2)体液バランスと腎機能, 内分泌の調節
 第3回 からだの仕組み/生命維持のメカニズム(3)呼吸, 循環, 消化吸収, 代謝, 免疫, 血液のはたき
 第4回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(1)糖尿病で腎機能, 視機能, 知覚障害, 血管の変性をきたしている事例
 第5回 //
 第6回 //
 第7回 //
 第8回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(2)慢性呼吸不全, 心不全をきたしている事例
 第9回 //
 第10回 //
 第11回 病態のメカニズム, 検査, 診断, 治療(3)骨粗しょう症から骨折をきたした事例
 第12回 //
 第13回 //
 第14回 対象におきている病態を、今後の見通しも含めて、そのメカニズムと共に統合的にとらえる。急激に発生したクリティカルな病態のメカニズムをもつ事例における検討
 第15回 対象におきている病態を、今後の見通しも含めて、そのメカニズムと共に統合的にとらえる。慢性的複合的な病態のメカニズムをかかえる事例の検討

授業以外での学習方法

教科書

参考書

ナーシング・グラフィカ 解剖生理学 第2版

著者: 林正健二編集

出版社: メディカ出版

出版年: 2008

ISBN:

Advanced Practice Nursing

著者: Ann B. Hamric PhD RN FAAN, Judith A. Spross PhD RN AOCN FAAN

出版社: An Integrative Approach, 4e

出版年: ISBN:

Medical-Surgical Nursing/ Virtual Clinical Excursions

著者: Ignatavicius, Donna D.R.N. Workman, M.Linda, Ph.D., R.N. Cooper

出版社: Patient-Centered Collaborative Care, W B Saunders Co

出版年: ISBN:

即応用可能な日常診療の実際—Up dateな糖尿病診療へのナビゲーション(糖尿病UP-DATE賢島セミナー)

著者: 坂本 信夫・吉川 隆一・豊田 隆謙・赤沼 安夫・中村二郎・清野 裕・堀田 饒, 編集

出版社: 医歯薬出版

出版年: 2008 ISBN:

これだけは知っておきたい 糖尿病で腎不全にならないために—その管理上の問題点と対策

著者: 吉川 隆一・西沢 良記, 編集

出版社: 医薬ジャーナル社

出版年: 2006 ISBN:

その他授業中に示す。

著者:

出版社:

出版年: ISBN:

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (60)

授業中発表等 (20)

参加度 (20)

レポート60%, プレゼンテーション内容ディスカッション状況20%, 参加度と出席20%, から総合的に評価する。

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学演習Ⅳ(周産期)〈M〉

担当者 神崎 光子・中島 暢美

テーマ

周産期の医療施設における家族の心理・社会的問題への援助方法を習得し、看護の質向上に向けたアプローチを学ぶ。

獲得目標

1 周産期の母子と家族をめぐる心理・社会的問題や倫理的問題と家族のメンタルヘルスとの関連を学ぶ。2 周産期のさまざまな問題に対する家族の意思決定が適切に行われるようケア(相談、助言、倫理的調整)の提供方法をカウンセリング理論、危機介入理論に基づいて習得する。3 事例分析を通して、心理社会的問題を抱えた家族への適切なケア(相談、助言、倫理調整)や他職種との連携を行う実践能力を養う。4 母子と家族への心理・社会的援助を適切に実践するための組織内の教育活動やスタッフへのコンサルテーション、連携システムの構築など看護の質向上のためのアプローチを考察する。

授業の内容

内 容

- 第1回 周産期の家族の変容とリプロダクティブヘルスに関連した心理社会的問題
 第2回 //
 第3回 心理社会的問題を抱えた家族のアセスメントと看護援助(相談・助言・倫理的調整)
 第4回 //
 第5回 事例検討①:周産期の社会的ハイリスク家族への看護援助
 第6回 //
 第7回 周産期の倫理的問題における家族の意思決定を支える看護援助
 第8回 //
 第9回 事例検討②:周産期の倫理的問題への看護援助
 第10回 //
 第11回 家族形成期のメンタルヘルスと看護援助
 第12回 //
 第13回 妊産褥婦のメンタルヘルスと心理的援助および心理臨床家との連携
 第14回 //
 第15回 妊産褥婦とその家族への援助(ケア、相談、助言)の実際
 第16回 //
 第17回 事例検討③:精神疾患を持つ妊産婦と家族への援助
 第18回 //
 第19回 周産期看護者のメンタルヘルスとコンサルテーション
 第20回 //
 第21回 心理社会的な問題を抱える困難事例を担当するスタッフへの相談、助言、業務調整の実際
 第22回 //
 第23回 事例検討④:妊産褥婦およびその家族への援助の実際(相談、助言、家族間の調整:実習受持事例への介入の分析)
 第24回 //
 第25回 事例検討⑤:妊産褥婦およびその家族への援助の実際(相談、助言、家族間の調整:実習受持事例への介入の分析)
 第26回 //
 第27回 事例検討⑥:周産期看護者へのカウンセリングとコンサルテーションの実際(相談、助言、スタッフ間の調整、教育:実習での活動の分析)
 第28回 //
 第29回 心理社会的問題を抱えた困難事例における多職種間の協働にむけたCNSの役割と活動(実習受持事例へのコー
 第30回 //

授業以外での学習方法

教科書

参考書

ディブリーフィング・ワークの研究

著者： 中島暢美

出版社： 関西学院大学出版会

出版年： ISBN：

看護とカウンセリングー患者とのコミュニケーションを検討する 改訂版

著者： 吉田哲著

出版社： メディカ出版

出版年： 2000 ISBN：

カウンセリング論：看護師による「カウンセリング事例」集

著者： 北島謙吾編

出版社： 慧文社

出版年： 2005 ISBN：

人間関係を良くするカウンセリング：心理、福祉、教育、看護、保育のために

著者： 武田建著

出版社： 誠信書房

出版年： 2004 ISBN：

その他授業中に示す

著者：

出版社：

出版年： ISBN：

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (30)

授業中発表等 (50)

参加度 (20)

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学実習 I (周産期) <M>

担当者 遠藤 俊子・神崎 光子

テーマ

講義・演習で学んだ理論・知識・技術を実践に応用・統合し、母性看護専門看護師として活動するための能力形成を図る。専門看護師としての役割機能の視点を持ちながら、周産期ケアの質向上のための変革を担う力を育てる。

獲得目標

周産期の高度医療を提供する医療施設において、身体的かつ心理社会的に複雑な状況をもつ妊産婦と子どもとその家族の支援を計画、実践、評価し、高度看護実践能力を高める。また、あわせて事例のもつ倫理的課題について検討を行う。健康問題維持・増進にかかわる高度な看護実践(包括指示による一部の医行為を含む)、調整、倫理的調整、専門領域スタッフからの相談や調整機能を実践から学ぶ。

授業の内容

1 身体的かつ心理・社会的に複雑な状況をもつ妊産婦と子どもとその家族の支援を計画、実践、評価し、高度看護実践能力を高める。また、あわせて事例のもつ倫理的課題について検討を行う。2 救急ならびに緊急対応時のケアやハイリスク妊産婦と家族へのケア事例から、チーム医療、他医療機関・地域との連携の調整ができる能力を高める。3 チーム医療の一員として、包括指示のもとに安全に一部の医行為が実施できる。4 専門領域スタッフからの相談、教育活動を実践する。5 周産期ケア改善のために組織における看護活動をアセスメントし、改善に資する企画立案、実施、評価やその調整プロセスなどを学ぶ。

内 容

第1回 実習時期 1年次 実習施設 滋賀医科大学医学部附属病院(外来・病棟) 実習指導者 上記施設の母性看護CNSならびに卓越した能力をもつ助産師・医師 滋賀医科大学医学部附属病院 中野育子 中井愛(CNS) 滋賀医科大学医学部産科医師(包括指示による一部の医行為) 村上節、喜多伸幸 医療安全管理体制 実習要項参照

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 () 小テスト ()
 授業中課題 (50) 授業中発表等 ()
 参加度 (50)
 実習状況、実践結果の自己評価、他者評価、課題レポートなどで総合的に評価

参考URL

2013 Syllabus

科目名 次世代育成看護学実習Ⅱ(周産期)〈M〉

担当者 遠藤 俊子・神崎 光子

テーマ

講義・演習で学んだ理論・知識・技術を実践に応用・統合し、母性看護専門看護師として活動するための能力形成を図る。専門看護師としての役割機能の視点を持ちながら、周産期ケアの質向上のための変革を担う力を育てる。

獲得目標

高度医療施設におけるプライマリケア提供部門における妊産婦と子どもとその家族の支援を妊娠中から一貫したケア提供システムにおける看護実践をアセスメントする。正常性の維持や予防的ケアが実践できる能力を高める。また、異常への移行事例等を中心に、専門領域スタッフからの相談、スタッフへの教育活動を実践する。多職種との調整や倫理調整の機能を学ぶ。周産期ケア改善のために組織における看護活動をアセスメントし、改善に資する企画立案、実施、評価やその調整プロセス等を学ぶ。さらに、施設で行っている事例検討会やデータの整理・分析を通して、周産期看護の質改善へのアプローチを学ぶ。加えて、政策参加のための取り組みに発展させることを学ぶ。

授業の内容

1 身体的あるいは心理社会的に複雑な状況をもつ妊産婦と子ども、その家族のケアを事例中心に高度実践看護師としての実践を行う。事例のもつ状況により、調整、倫理調整の機能を果たす。2 正常性を維持する予防的ケアの重要性やスキルを獲得する。3 実習指導者である専門看護師とともにスタッフからの相談、教育や周産期医療チームへの調整の機能を果たす。4 実習施設で行っている研究的取り組みや事例検討、課題カンファレンスへの参加を通じて、周産期看護の質の確保への取り組みを学ぶ。5 母子救急、とりわけ新生児の救急搬送に関する実践とその後の母子へのケアについての在り方を学ぶ。6 実習施設で行っている実践評価に関する検討に参画し、アウトカム指標に関する学びを深め、同時に政策参加の取り組みにまで関与する機会をもつ。

内 容

第1回 実習時期 2年次 実習施設 プラマリーヘルスケアを担う周産期医療施設:昭和大学横浜市北部病院(マタニティハウス)と4A病棟、NICU 総合周産期母子医療センターである昭和大学病院(NICU) 実習指導者 上記施設の母性看護CNSならびに卓越した能力をもつ助産師・医師 昭和大学横浜市北部病院 日下富美代 常田裕子 佐藤陽子(CNS) 医療安全管理体制 実習要項参照

授業以外での学習方法

教科書

参考書

成績評価

試験 ()

小テスト ()

授業中課題 (50)

授業中発表等 ()

参加度 (50)

実習状況、実践結果の自己評価、他者評価、課題レポートなどで総合的に評価

参考URL